— 千 葉 市 —

下泉町遺跡群

白池台遺跡
新堤遺跡
明神台遺跡
端山越遺跡
大草台古墳群
上谷津第1遺跡
上谷津第2遺跡
井戸作南遺跡

2007

三菱地所株式会社
財団法人千葉市教育振興財団

例　言

1．本書は、下記の８遺跡で構成される下泉町遺跡群の発掘調査報告書である。

白池台遺跡	千葉市若葉区下泉町1,231他	（遺跡番号：若葉区303）
新堤遺跡	千葉市若葉区上泉町947-5他	（遺跡番号：若葉区309）
明神台遺跡	千葉市若葉区下泉町1,209他	（遺跡番号：若葉区304）
端山越遺跡	千葉市若葉区下泉町1,147他	（遺跡番号：若葉区305）
大草台古墳群	千葉市若葉区上泉町951-1他	（遺跡番号：若葉区306）
上谷津第１遺跡	千葉市若葉区上泉町941-5他	（遺跡番号：若葉区307）
上谷津第２遺跡	千葉市若葉区上泉町936他	（遺跡番号：若葉区308）
井戸作南遺跡	千葉市若葉区上泉町958-29他	（遺跡番号：若葉区310）

2．調査は、三菱地所株式会社によるちばリサーチパーク開発事業に伴い、千葉市教育委員会生涯学習部文化課の指導のもと、財団法人千葉市文化財調査協会が実施した。また、整理作業は文化課の指導のもと、財団法人千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センターが実施した。

3．発掘調査の期間は第２表の通りである。

整理作業の期間、及び担当者は以下の通りである。

整理作業　平成16年11月１日～平成18年１月31日　担 当 者：長原　亘

4．本書の編集及び執筆は、長原が行った。

5．黒耀石の産地同定分析は、東京学芸大学教授二宮修治氏に委託して実施し、分析成果に関しての玉稿を頂戴した。心より感謝致す次第である。

6．鉄製品の保存処理はＪＦＥテクノリサーチ株式会社に委託した。

7．調査時の写真撮影は発掘調査担当者が撮影し、図版作製にあたりフィルムスキャンして使用した。整理時の遺物写真はデジタルカメラで長原が撮影し、適宜補正して使用した。

8．本報告書では、遺構図版の一部と写真図版をデジタルデータ化して入稿した。

9．出土資料及び調査記録などは、千葉市埋蔵文化財調査センターで保管・管理している。

10．遺構番号は、現場で付与した番号を基本とし、一部性格別に分離した遺構に新たに番号を付けなおしている。旧名称の中で、「Ａ」は住居跡、「Ｂ」は掘立柱建物跡、「Ｃ」は土壙・土坑・土壙墓・有天井土壙、「Ｄ」は溝、「Ｆ」は炉穴、「Ｇ」は炭窯を略して使用していた。

11．発掘調査から本書の刊行に至るまで下記の方々から御教示・御協力いただいた。記して謝意にかえさせていただきたい。

千葉県教育庁生涯学習部文化財課、千葉市教育委員会生涯学習部文化課、三菱地所株式会社、JFEテクノリサーチ株式会社、二宮修治（東京学芸大学文化財科学研究室）、白石太一郎（国立歴史民俗博物館〔現奈良大学教授〕）、新免歳晴（総合研究大学院大学）、伊藤聡、佐藤香子、松崎広子（東京学芸大学文化財科学研究室）、白井久美子・栗田則久・加藤修司（財団法人千葉県教育振興財団）、竹内順一（財団法人印旛郡市文化財センター）、高花宏行（白井市教育委員会）、小橋健司（財団法人市原市文化財センター）、菊池健一（加曽利貝塚博物館）、田中英世（当財団）

（順不同・敬称略）

凡　例

1．図中では、以下のような略号を使用している。

「住」：住居跡　「陥」：陥穴　土壙：「土」　古墳：「古」「主」：古墳主体部　「墓」：土壙墓

「有」：有天井土壙　「方」：方形周溝状遺構　「円」円形周溝状遺構　「掘」：掘立柱建物跡

「道」：道状遺構　「炭」：炭窯

2．遺構図中の標高は海抜高、方位は真北を示している。

3．図中の地区方眼は、旧座標系の方眼である。調査時のデータが全て旧座標に拠っているからで、新座標への変換は行っていない。

4．実測図の縮尺は、基本的に以下の通りである。

遺構

1/200：古墳　1/120：方形・円形周溝状遺構　1/60：住居跡・陥穴・土壙・有天井土壙・土壙墓

1/50：旧石器分布図　1/40：炉・カマド　1/30：古墳主体部

遺物

1/1：旧石器　1/2：鉄器、1/3：鉄器・土器片・土製品　1/4：復元土器　2/3：石器

なお、異なる場合もあるので、図中スケールに適宜縮尺を記載している。

5．遺構の番号は、調査段階と合致するように努めたが、土壙として記録したものの中に、陥穴や有天井土壙、土壙墓といった別種の遺構が含まれていたので、それらを欠番扱いとして抽出し、遺構ごとに新たに番号を付与している場合がある。詳細は、各遺跡の遺構一覧表を参照されたい。

6．本書で使用した地形図の出典は、以下のとおりである。

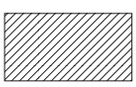
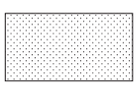
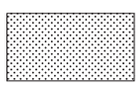
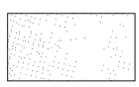
第１図：カシミール３Ｄ

第２・３図：国土地理院発行２万５千分１彩色デジタル地形図（千葉県版）

第４図：千葉市文化財調査協会年報14・P19を改編転載

第５図：事業用地形測量図（昭和63年度作図）

7．図版中で使用したスクリーントーンは以下の通りである。

 ：地山　  ：焼土　  ：山砂　  ：白色粘土

：赤彩

8．遺物の保管は、報告書に掲載したものと掲載しなかったものに分類している。

遺物総量は、中コンテナ換算で333箱となる。

※中コンテナは150×440×600cm（容量32ﾘｯﾄﾙ）である。

深コンテナ（容量64ﾘｯﾄﾙ）は２倍、浅コンテナ（16ﾘｯﾄﾙ）は1/2、小コンテナ（16ﾘｯﾄﾙ）は1/2、小浅コンテナ（８ﾘｯﾄﾙ）は1/4箱に換算している。

目　次

例言・凡例・目次
第 1 章　下泉町遺跡群の概要
第 1 節　調査に至る経緯…… 1
第 2 節　遺跡群の位置と歴史地理的環境…… 4
第 3 節　下泉町遺跡群の概略…… 5
第 4 節　発掘調査・整理作業の留意点…… 12

第 2 章　確認調査の成果
第 1 節　調査の概要…… 14
1 白池台遺跡…… 14
2 新堤遺跡…… 16
3 端山越遺跡…… 18
4 上谷津第 1 遺跡…… 20
5 上谷津第 2 遺跡…… 22
6 井戸作南遺跡…… 24
第 2 節　小結…… 29

第 3 章　明神台遺跡の調査
第 1 節　遺跡の概要…… 30
第 2 節　検出された遺構と遺物…… 32
1 住居跡…… 32
2 陥穴…… 40
3 土壙…… 41
4 方形周溝状遺構…… 44
5 有天井土壙…… 44
6 調査区一括遺物…… 45
第 3 節　小結…… 46

第 4 章　端山越遺跡の調査
第 1 節　遺跡の特徴…… 48
第 2 節　検出された遺構と遺物
1 旧石器集中箇所…… 50
2 住居跡…… 54
3 陥穴…… 60
4 土壙…… 63
5 有天井土壙…… 69
6 土壙墓…… 70
7 方形周溝状遺構…… 71
12号方形周溝状遺構…… 80
8 調査区一括遺物…… 87
第 3 節　小結…… 90

第 5 章　大草台古墳群の調査
第 1 節　調査の概要…… 92
第 2 節　検出された遺構と遺物
1 旧石器集中箇所…… 97
2 住居跡…… 100
3 陥穴…… 104
4 土壙…… 105
5 古墳…… 108
6 土壙墓…… 130
7 有天井土壙…… 130
8 円形周溝状遺構…… 131
9 方形周溝状遺構…… 132
10調査区一括遺物…… 132
第 3 節　小結…… 137

第 6 章　上谷津第 1 遺跡の調査
第 1 節　調査の概要…… 138
第 2 節　検出された遺構と遺物…… 141
1 旧石器集中箇所…… 141
2 炉穴…… 142
3 住居跡…… 143
4 陥穴…… 175
5 土壙…… 177
6 土壙墓…… 181
7 有天井土壙…… 182
8 円形周溝状遺構…… 183
9 方形周溝状遺構…… 183
10 調査区一括遺物…… 189
第 3 節　小結…… 191

第 7 章　上谷津第 2 遺跡の調査
第 1 節　調査の概要…… 194
第 2 節　検出された遺構と遺物
1 炉穴…… 197
2 住居跡…… 198
3 陥穴…… 219
4 土壙…… 219
5 有天井土壙…… 230
6 方形周溝状遺構…… 230
7 調査区一括遺物…… 232
8 掘立柱建物跡…… 241
第 3 節　小結…… 241

第 8 章　井戸作南遺跡の調査
第 1 節　調査の概要…… 244
第 2 節　検出された遺構と遺物
1 住居跡…… 249
2 陥穴…… 266
3 土壙…… 271
4 方形周溝状遺構…… 282
5 調査区一括遺物・…… 283
6 掘立柱建物跡・…… 295
第 3 節　小結…… 296

第 9 章　まとめ
第 1 節　調査成果の総括…… 321
1 旧石器…… 322
2 縄文時代…… 323
3 古墳時代…… 328
4 奈良・平安時代…… 330
5 中世・近世…… 331
第 2 節　考察
1 上谷津第 1 遺跡出土の古墳時代前期遺物について…… 333

附編　千葉市下泉町遺跡群・芳賀輪遺跡・うならすず遺跡出土黒耀石の原産地推定
（二宮修治・伊東聡・佐藤香子・松崎広子・新免歳靖）…… 345

挿図目次

第１図　下泉町遺跡群位置図…… 1
第２図　周辺遺跡分布図（1/25,000） …… 3
第３図　周辺遺跡分布図（1/50,000） …… 3
第４図　ちばリサーチパーク造成事業予定地内
　遺跡位置図…… 8
第５図　ちばリサーチパーク造成事業範囲…… 9
　及び500m方眼グリッド位置図
第６図　白池台遺跡確認遺構配置図…… 15
第７図　新堤遺跡確認遺構配置図…… 17
第８図　端山越遺跡確認調査時出土遺物…… 18
第９図　端山越遺跡確認遺構配置図…… 19
第10図　上谷津第１遺跡確認調査時出土遺物…… 20
第11図　上谷津第１遺跡確認遺構配置図…… 21
第12図　上谷津第２遺跡確認調査時出土遺物…… 22
第13図　上谷津第２遺跡確認遺構配置図…… 23
第14図　井戸作南遺跡確認遺構配置図…… 25
第15図　井戸作南遺跡確認調査時出土遺物①…… 26
第16図　井戸作南遺跡確認調査時出土遺物②…… 27
第17図　井戸作南遺跡確認調査時出土遺物③…… 28
第18図　井戸作南遺跡確認調査時出土遺物④…… 29
第19図　明神台遺跡遺構配置図…… 30
第20図　明神台遺跡遺構配置詳細図（1/600）① … 31
第21図　明神台遺跡遺構配置詳細図（1/600）②･③･④ … 32
第22図　明神台遺跡１号住居跡…… 33
第23図　明神台遺跡２号住居跡…… 34
第24図　明神台遺跡３号住居跡…… 35
第25図　明神台遺跡４号住居跡…… 36
第26図　明神台遺跡４号住居跡出土黒耀石分布図… 37
第27図　明神台遺跡１・２・４号住居跡出土遺物　38
第28図　明神台遺跡３号住居跡出土遺物…… 39
第29図　明神台遺跡陥穴…… 40
第30図　明神台遺跡土壙①…… 42
第31図　明神台遺跡土壙②及び土壙出土遺物…… 43
第32図　明神台遺跡有天井土壙…… 44
第33図　明神台遺跡方形周溝状遺構…… 44
第34図　明神台遺跡調査区出土遺物…… 45
第35図　端山越遺跡遺構配置図…… 48
第36図　端山越遺跡遺構配置詳細図（１／1,000）… 49
第37図　端山越遺跡旧石器遺物分布図…… 50
第38図　端山越遺跡出土旧石器①…… 51
第39図　端山越遺跡出土旧石器②…… 52
第40図　端山越遺跡２号住居跡・出土遺物 …… 54
第41図　端山越遺跡１号住居跡…… 55
第42図　端山越遺跡３号住居跡…… 56
第43図　端山越遺跡１号住居跡出土遺物…… 57
第44図　端山越遺跡３号住居跡出土遺物①…… 58
第45図　端山越遺跡３号住居跡出土遺物②…… 59
第46図　端山越遺跡陥穴①…… 61
第47図　端山越遺跡陥穴②…… 62
第48図　端山越遺跡土壙①…… 65
第49図　端山越遺跡土壙②…… 66
第50図　端山越遺跡土壙③…… 67
第51図　端山越遺跡土壙④…… 68
第52図　端山越遺跡有天井土壙・出土遺物　…… 69
第53図　端山越遺跡土壙墓…… 70
第54図　端山越遺跡２号方形周溝状遺構…… 71
第55図　端山越遺跡４（新）号方形周溝状遺構…… 72
第56図　端山越遺跡４（古）・５号方形周溝状遺構　73
第57図　端山越遺跡１・３号方形周溝状遺構 …… 74
第58図　端山越遺跡６・７・８号方形周溝状遺構 … 75
第59図　端山越遺跡９・10・11号方形周溝状遺構 … 76
第60図　端山越遺跡13・14・15号方形周溝状遺構 … 77
第61図　端山越遺跡16・17・18号方形周溝状遺構 … 78
第62図　端山越遺跡20・21号方形周溝状遺構 …… 79
第63図　端山越遺跡12号方形周溝状遺構…… 81
第64図　端山越遺跡12号方形周溝状遺構主体部…… 83
第65図　端山越遺跡12号方形周溝状遺構…… 84
　主体部断面図・遺物出土状況
第66図　端山越遺跡方形周溝状遺構出土遺物①…… 85
第67図　端山越遺跡方形周溝状遺構出土遺物②…… 86
第68図　端山越遺跡方形周溝状遺構出土遺物③…… 87
第69図　端山越遺跡調査区出土遺物①…… 88
第70図　端山越遺跡調査区出土遺物②…… 89
第71図　大草台古墳群調査区配置図…… 93
第72図　大草台古墳群96-Ⅰ・Ⅱ区遺構配置図 …… 95
第73図　大草台古墳群97・98・99年度調査区
　遺構配置図…… 96
第74図　大草台古墳群旧石器遺物分布図…… 97
第75図　大草台古墳群出土旧石器①…… 98
第76図　大草台古墳群出土旧石器②…… 99
第77図　大草台古墳群２号住居跡…… 100
第78図　大草台古墳群３号住居跡・出土遺物 …… 101
第79図　大草台古墳群１号住居跡…… 102
第80図　大草台古墳群１号住居跡出土遺物…… 103
第81図　大草台古墳群陥穴…… 104
第82図　大草台古墳群土壙①…… 106
第83図　大草台古墳群土壙②…… 107
第84図　大草台古墳群１号古墳…… 109
第85図　大草台古墳群１号古墳１・２・３号主体部… 110
第86図　大草台古墳群２号古墳…… 112

第87図　大草台古墳群２号古墳１・２・３号主体部… 113
第88図　大草台古墳群３号古墳１号主体部…… 114
第89図　大草台古墳群３号古墳…… 115
第90図　大草台古墳群４号古墳…… 117
第91図　大草台古墳群４号古墳１・３・４号主体部… 118
第92図　大草台古墳群４号古墳２・５号主体部　… 119
第93図　大草台古墳群５号古墳…… 121
第94図　大草台古墳群７号古墳１号主体部…… 122
第95図　大草台古墳群７号古墳…… 123
第96図　大草台古墳群１・２・７号古墳出土遺物 … 124
第97図　大草台古墳群３・４号古墳出土遺物　…… 125
第98図　大草台古墳群１号古墳出土鉄器①…… 126
第99図　大草台古墳群１号古墳出土鉄器②…… 127
第100図 大草台古墳群３・４号古墳出土鉄器　…… 128
第101図 大草台古墳群土壙墓・出土遺物　…… 130
第102図 大草台古墳群有天井土壙…… 130
第103図 大草台古墳群１・２号円形周溝状遺構　… 131
　　大草台古墳群１号円形周溝状遺構出土遺物
第104図 大草台古墳群１・２号方形周溝状遺構　… 132
第105図 大草台古墳群調査区出土遺物①…… 133
第106図 大草台古墳群調査区出土遺物②…… 134
第107図 大草台古墳群11号土壙・２号塚出土
　　中近世遺物…… 135
第108図 大草台古墳群15号土壙出土石塔類…… 136
第109図 上谷津第１遺跡遺構配置図…… 139
第110図 上谷津第１遺跡遺構配置詳細図（1/1,000）
　　…… 140
第111図 上谷津第１遺跡旧石器…… 141
第112図 上谷津第１遺跡炉穴・出土遺物　…… 142
第113図 上谷津第１遺跡14号住居跡…… 143
第114図 上谷津第１遺跡14号住居跡出土遺物…… 144
第115図 上谷津第１遺跡１号住居跡…… 146
第116図 上谷津第１遺跡２号住居跡…… 147
第117図 上谷津第１遺跡３号住居跡…… 148
第118図 上谷津第１遺跡４号住居跡…… 149
第119図 上谷津第１遺跡５号住居跡…… 150
第120図 上谷津第１遺跡６号住居跡…… 151
第121図 上谷津第１遺跡７号住居跡…… 152
第122図 上谷津第１遺跡８号住居跡…… 153
第123図 上谷津第１遺跡９号住居跡…… 154
第124図 上谷津第１遺跡10号住居跡…… 155
第125図 上谷津第１遺跡11号住居跡…… 156
第126図 上谷津第１遺跡12号住居跡…… 157
第127図 上谷津第１遺跡13号住居跡…… 158
第128図 上谷津第１遺跡15号住居跡…… 159
第129図 上谷津第１遺跡16号住居跡…… 160
第130図 上谷津第１遺跡17号住居跡…… 161
第131図 上谷津第１遺跡18号住居跡…… 162
第132図 上谷津第１遺跡19号住居跡…… 163
第133図 上谷津第１遺跡20・21号住居跡 …… 165
第134図 上谷津第１遺跡22・23号住居跡 …… 166
第135図 上谷津第１遺跡24号住居跡…… 167
第136図 上谷津第１遺跡１・２号住居跡出土遺物 … 168
第137図 上谷津第１遺跡３～６号住居跡出土遺物… 169
第138図 上谷津第１遺跡６～11号住居跡出土遺物… 170
第139図 上谷津第１遺跡11～13・16号住居跡出土遺物
　　…… 171
第140図 上谷津第１遺跡16～18号住居跡出土遺物… 172
第141図 上谷津第１遺跡19～21号住居跡出土遺物… 173
第142図 上谷津第１遺跡21～24号住居跡出土遺物… 174
第143図 上谷津第１遺跡陥穴①…… 175
第144図 上谷津第１遺跡陥穴②…… 176
第145図 上谷津第１遺跡土壙①…… 178
第146図 上谷津第１遺跡土壙②…… 179
第147図 上谷津第１遺跡土壙③・出土遺物　…… 180
第148図 上谷津第１遺跡土壙墓…… 181
第149図 上谷津第１遺跡有天井土壙…… 182
第150図 上谷津第１遺跡１号円形周溝状遺構…… 183
第151図 上谷津第１遺跡１・２・３号方形周溝状遺構
　　…… 184
第152図 上谷津第１遺跡４・５・６号方形周溝状遺構
　　…… 185
第153図 上谷津第１遺跡７・８・９号方形周溝状遺構
　　…… 186
第154図 上谷津第１遺跡10･11号方形周溝状遺構 … 187
第155図 上谷津第１遺跡円形・方形周溝状
　　遺構出土遺物…… 188
第156図 上谷津第１遺跡調査区出土遺物①…… 189
第157図 上谷津第１遺跡調査区出土遺物②…… 190
第158図 上谷津第１遺跡調査区出土遺物③…… 191
第159図 上谷津第１遺跡撚糸文・条痕文系土器
　　分布範囲…… 193
第160図 上谷津第２遺跡遺構配置図…… 195
第161図 上谷津第２遺跡遺構配置詳細図（1/1,000）
　　…… 196
第162図 上谷津第２遺跡炉穴…… 197
第163図 上谷津第２遺跡１・２号住居跡 …… 199
第164図 上谷津第２遺跡３号住居跡…… 200
第165図 上谷津第２遺跡４号住居跡…… 201
第166図 上谷津第２遺跡５号住居跡・
　　６号住居跡埋甕…… 202
第167図 上谷津第２遺跡６号住居跡…… 203
第168図 上谷津第２遺跡７号住居跡…… 204
第169図 上谷津第２遺跡８号住居跡…… 205
第170図 上谷津第２遺跡９号住居跡…… 206
第171図 上谷津第２遺跡10号住居跡…… 208

第172図 上谷津第２遺跡11号住居跡…… 209
第173図 上谷津第２遺跡12号住居跡…… 210
第174図 上谷津第２遺跡１～３号住居跡出土遺物… 211
第175図 上谷津第２遺跡３・４・６号住居跡出土遺物
…… 212
第176図 上谷津第２遺跡６・７号住居跡出土遺物 … 213
第177図 上谷津第２遺跡７号住居跡出土遺物…… 214
第178図 上谷津第２遺跡８・９号住居跡出土遺物 … 215
第179図 上谷津第２遺跡９号住居跡出土遺物…… 216
第180図 上谷津第２遺跡９･10号住居跡出土遺物 … 217
第181図 上谷津第２遺跡10～12号住居跡出土遺物… 218
第182図 上谷津第２遺跡陥穴…… 219
第183図 上谷津第２遺跡土壙①…… 221
第184図 上谷津第２遺跡土壙②…… 222
第185図 上谷津第２遺跡土壙③…… 223
第186図 上谷津第２遺跡土壙④…… 224
第187図 上谷津第２遺跡土壙⑤…… 225
第188図 上谷津第２遺跡土壙出土遺物①…… 226
第189図 上谷津第２遺跡土壙出土遺物②…… 227
第190図 上谷津第２遺跡土壙出土遺物③…… 228
第191図 上谷津第２遺跡土壙出土遺物④…… 229
第192図 上谷津第２遺跡有天井土壙…… 230
第193図 上谷津第２遺跡１・２・３号方形周溝状遺構 … 231
第194図 上谷津第２遺跡調査区出土遺物①…… 233
第195図 上谷津第２遺跡調査区出土遺物②…… 234
第196図 上谷津第２遺跡調査区出土遺物③…… 235
第197図 上谷津第２遺跡調査区出土遺物④…… 236
第198図 上谷津第２遺跡調査区出土遺物⑤
（土製品・石器） …… 237
第199図 上谷津第２遺跡調査区出遺物⑥（石器）… 238
第200図 上谷津第２遺跡調査区出遺物⑦（石器）… 239
第201図 上谷津第２遺跡調査区出遺物⑧（石器）… 240
第202図 上谷津第２遺跡掘立柱建物跡…… 241
第203図 上谷津第２遺跡撚糸文・条痕文系
土器分布範囲…… 243
第204図 井戸作南遺跡遺構配置図…… 246
第205図 井戸作南遺跡遺構配置詳細図①…… 247
第206図 井戸作南遺跡遺構配置詳細図②…… 248
第207図 井戸作南遺跡１号住居跡…… 250
第208図 井戸作南遺跡２号住居跡…… 251
第209図 井戸作南遺跡２号住居跡（遺物分布図）… 252
第210図 井戸作南遺跡３号住居跡…… 253
第211図 井戸作南遺跡４号住居跡…… 254
第212図 井戸作南遺跡５号住居跡…… 255
第213図 井戸作南遺跡６号住居跡…… 256
第214図 井戸作南遺跡７号住居跡…… 257
第215図 井戸作南遺跡８号住居跡…… 258
第216図 井戸作南遺跡１～３号住居跡出土遺物…… 259
第217図 井戸作南遺跡３～６・８号住居跡出土遺物… 260
第218図 井戸作南遺跡７・８号住居跡出土遺物 …… 261
第219図 井戸作南遺跡９号住居跡・石製品 …… 262
第220図 井戸作南遺跡９号住居跡…… 263
第221図 井戸作南遺跡10号住居跡…… 264
第222図 井戸作南遺跡９・10号住居跡出土遺物 … 265
第223図 井戸作南遺跡陥穴①…… 266
第224図 井戸作南遺跡陥穴②…… 267
第225図 井戸作南遺跡陥穴③…… 268
第226図 井戸作南遺跡陥穴④…… 269
第227図 井戸作南遺跡陥穴⑤…… 270
第228図 井戸作南遺跡土壙①…… 274
第229図 井戸作南遺跡土壙②…… 275
第230図 井戸作南遺跡土壙③…… 276
第231図 井戸作南遺跡土壙④…… 277
第232図 井戸作南遺跡土壙⑤…… 278
第233図 井戸作南遺跡土壙⑥…… 279
第234図 井戸作南遺跡土壙⑦･陥穴･土壙出土遺物… 280
第235図 井戸作南遺跡１・２号方形周溝状遺構 …… 281
第236図 井戸作南遺跡調査区出土遺物①…… 283
第237図 井戸作南遺跡調査区出土遺物②…… 284
第238図 井戸作南遺跡調査区出土遺物③…… 285
第239図 井戸作南遺跡調査区出土遺物④…… 286
第240図 井戸作南遺跡調査区出土遺物⑤…… 287
第241図 井戸作南遺跡調査区出土遺物⑥…… 288
第242図 井戸作南遺跡調査区出土遺物⑦…… 289
第243図 井戸作南遺跡調査区出土遺物⑧…… 290
第244図 井戸作南遺跡調査区出土遺物⑨…… 291
第245図 井戸作南遺跡調査区出土遺物⑩（土偶）… 292
第246図 井戸作南遺跡調査区出土遺物⑪（石器）… 293
第247図 井戸作南遺跡１・２号掘立柱建物跡 …… 294
第248図 下泉町遺跡群旧石器出土地点位置図…… 321
第249図 下泉町遺跡群縄文時代早・前期
の遺構・遺物検出地点位置図 …… 322
第250図 下泉町遺跡群縄文時代中・後期初頭
の遺構検出地点位置図…… 323
第251図 下泉町遺跡群縄文時代後期後半
の遺構検出地点位置図…… 325
第252図 下泉町遺跡群縄文時代晩期
の遺構・遺物検出地点位置図 …… 326
第253図 下泉町遺跡群古墳時代遺構･遺物検出地点位置図… 327
第254図 下泉町遺跡群奈良・平安時代
の遺構検出地点位置図…… 329
第255図 古墳時代前期住居跡時期別配置図…… 339
第256図 古墳時代前期住居跡グループ別変遷過程関係図… 339
第257図 千葉市域における北陸系装飾器台
出土遺跡の供伴資料…… 340
第258図 千葉市域における古墳時代前期遺跡分布図… 342

表 目 次

第１表　下泉町遺跡群周辺遺跡一覧…… 2
第２表　下泉町遺跡群調査成果一覧…… 6
第３表　下泉町遺跡群確認調査成果一覧…… 13
第４表　明神台遺跡遺構一覧…… 31
第５表　明神台遺跡検出の住居跡（縄文時代）…… 32
第６表　明神台遺跡検出の陥穴…… 40
第７表　明神台遺跡検出の土壙…… 41
第８表　明神台遺跡検出の有天井土壙…… 44
第９表　端山越遺跡遺構一覧…… 47
第10表　端山越遺跡出土の旧石器計測値一覧…… 53
第11表　端山越遺跡検出の住居跡（縄文時代）…… 54
第12表　端山越遺跡検出の住居跡（奈良時代）…… 55
第13表　端山越遺跡検出の陥穴…… 60
第14表　端山越遺跡検出の土壙…… 63
第15表　端山越遺跡検出の有天井土壙…… 69
第16表　端山越遺跡検出の土壙墓…… 70
第17表　端山越遺跡方形周溝状遺構…… 71
第18表　大草台古墳群遺構一覧…… 92
第19表　大草台古墳群出土の旧石器計測値一覧…… 99
第20表　大草台古墳群検出の住居跡（縄文時代）… 100
第21表　大草台古墳群検出の住居跡（古墳時代）… 102
第22表　大草台古墳群検出の陥穴…… 104
第23表　大草台古墳群検出の土壙…… 105
第24表　大草台古墳群出土の鉄製品計測値一覧…… 125
第25表　大草台古墳群検出の土壙墓…… 130
第26表　大草台古墳群検出の有天井土壙…… 130
第27表　大草台古墳群検出の円形周溝状遺構…… 131
第28表　大草台古墳群検出の方形周溝状遺構…… 132
第29表　上谷津第１遺跡遺構一覧…… 138
第30表　上谷津第１遺跡出土の旧石器計測値一覧… 141
第31表　上谷津第１遺跡検出の炉穴…… 142
第32表　上谷津第１遺跡検出の住居跡（縄文時代）… 143
第33表　上谷津第１遺跡検出の住居跡（古墳時代）… 145
第34表　上谷津第１遺跡検出の陥穴…… 175
第35表　上谷津第１遺跡検出の土壙…… 177
第36表　上谷津第２遺跡検出の土壙墓…… 181
第37表　上谷津第１遺跡検出の有天井土壙…… 182
第38表　上谷津第１遺跡検出の方形周溝状遺構…… 183
第39表　上谷津第２遺跡遺構一覧…… 194
第40表　上谷津第２遺跡検出の炉穴…… 197
第41表　上谷津第２遺跡検出の住居跡（縄文時代）… 198
第42表　上谷津第２遺跡検出の陥穴…… 219
第43表　上谷津第２遺跡検出の土壙…… 219
第44表　上谷津第２遺跡検出の有天井土壙…… 230
第45表　上谷津第２遺跡検出の方形周溝状遺構…… 231
第46表　井戸作南遺跡遺構一覧…… 244
第47表　井戸作南遺跡検出の住居跡（縄文時代）… 249
第48表　井戸作南遺跡検出の住居跡（古墳時代）… 262
第49表　井戸作南遺跡検出の陥穴…… 266
第50表　井戸作南遺跡検出の土壙…… 271
第51表　井戸作南遺跡検出の方形周溝状遺構…… 282
第52表　遺物観察表（縄文土器・土製品等）
〈明神台遺跡・端山越遺跡・
大草台古墳群・上谷津第１遺跡〉…… 297
〈上谷津第２遺跡〉…… 298
〈上谷津第２遺跡・井戸作南遺跡〉 …… 303
第53表　遺物観察表（須恵器・土師器・土製品・瓦）
〈端山越遺跡〉…… 308
〈端山越遺跡・大草台古墳群〉 …… 310
〈大草台古墳群・上谷津第１遺跡〉 …… 312
〈上谷津第１遺跡・井戸作南遺跡〉 …… 316
〈井戸作南遺跡・確認調査分〉 …… 316
第54表　下泉町遺跡群出土の石器・石製品一覧 … 317
第55表　下泉町遺跡群出土黒耀石計測値一覧…… 318
第56表　上谷津第１遺跡検出住居跡の変遷過程対応表… 339
第57表　千葉市域の古墳時代前期遺跡一覧…… 344

写真目次

図版１　上：下泉町遺跡群全景〈平成８年度撮影〉（東から）　下：下泉町遺跡群全景〈平成12年度撮影〉（東から）

明神台遺跡

図版２　上：明神台遺跡遠景①（北東から）　下：明神台遺跡遠景②（東から）
図版３　上：下泉町遺跡群全景〈平成９年度撮影〉（西から）
１：１号住居跡　２：２号住居跡　３：３号住居跡　４：３号住居跡出土遺物
図版４　１：１号陥穴　２：２号陥穴　３：３号陥穴　４：４号陥穴
５：５号陥穴　６：６号陥穴　７：１号有天井土坑　８：１号方形周溝状遺構

端山越遺跡

図版５　上：端山越遺跡遠景①（東から）　下：端山越遺跡遠景②（南東から）
図版６　１：旧石器遺物分布状況　２：２号住居跡　３：２号住居跡遺物分布状況　４：１号住居跡
５：１号住居跡遺物分布状況　６：３号住居跡
７：３号住居跡轆轤ピット　８：３号住居跡遺物分布状況①
図版７　１：３号住居跡遺物分布状況②　２：３号住居跡遺物分布状況③
３：３号住居跡遺物分布状況④　４：３号住居跡遺物分布状況⑤
５：３号住居跡遺物分布状況⑥　６：３号住居跡遺物分布状況⑦
７：１号陥穴　８：２号陥穴
図版８　１：３号陥穴　２：４号陥穴　３：５号陥穴　４：６号陥穴
５：７号陥穴　６：８号陥穴　７：９号陥穴　８：10号陥穴
図版９　１：１号土壙墓　２：２号土壙墓　３：１号有天井土坑　４：２号有天井土坑①
５：２号有天井土坑②　６：１号方形周溝状遺構　７：２号方形周溝状遺構　８：３号方形周溝状遺構
図版10　１：４号方形周溝状遺構（新）①　２：４号方形周溝状遺構（新）②
３：４号方形周溝状遺構（新）③　４：４号方形周溝状遺構（新）④
５：４号方形周溝状遺構板碑　６：４号方形周溝状遺構遺物
７：４号方形周溝状遺構（旧）①　８：４号方形周溝状遺構（旧）②
図版11　１：４号方形周溝状遺構（旧）③　２：５号方形周溝状遺構①
３：５号方形周溝状遺構②　４：５号方形周溝状遺構③
５：６号方形周溝状遺構　６：７号方形周溝状遺構　７：８号方形周溝状遺構　８：９号方形周溝状遺構①
図版12　１：９号方形周溝状遺構②　２：10号方形周溝状遺構　３：11号方形周溝状遺構　４：13方形周溝状遺構①
５：13方形周溝状遺構②　６：14号方形周溝状遺構　７：15号方形周溝状遺構　８：16号方形周溝状遺構
図版13　１：17号方形周溝状遺構　２：18号方形周溝状遺構　３：20号方形周溝状遺構　４：21号方形周溝状遺構
下：12号方形周溝状遺構①
図版14　１：12号方形周溝状遺構主体部①　２：12号方形周溝状遺構主体部②
３：12号方形周溝状遺構主体部③　４：12号方形周溝状遺構主体部④
左：12号方形周溝状遺構主体部粘土分布状況　右：12号方形周溝状遺構主体部床面
図版15　１：12号方形周溝状遺構土層①　２：12号方形周溝状遺構土層②
３：12号方形周溝状遺構土層③　４：12号方形周溝状遺構土層④
５：12号方形周溝状遺構土層⑤　６：12号方形周溝状遺構土層⑥
７：12号方形周溝状遺構土層⑦　８：12号方形周溝状遺構土層⑧

大草台古墳群

図版16　上：大草台古墳群１号古墳全景（西から）　下：大草台古墳群２号古墳全景（東から）
図版17　上：大草台古墳群４号古墳全景（北から）　下：大草台古墳群５号古墳全景（南から）
図版18　上：大草台古墳群７号古墳全景（北から）　下:大草台古墳群99- Ａ調査区（３号塚）全景（東から）
図版19　１：２号住居跡　２：３号住居跡
３：１号住居跡　４：１号住居跡遺物分布状況①
５：１号住居跡遺物分布状況②　６：１号住居跡遺物分布状況③
７：１号住居跡遺物分布状況④　８：１号有天井土坑
図版20　１：１号陥穴　２：２号陥穴　３：１号土壙墓　４：３号塚出土土器（近世）
５：１号古墳内11号土壙　６：11号土壙出土常滑甕　７：17・27号土壙　８：15号土壙
図版21　１：１号古墳調査前①　２：１号古墳調査前②
３：１号古墳（平成８年度）　４：１号古墳主体部（１～３号）
５：１号古墳（周溝内東ブリッジ）　６：１号古墳（周溝内西ブリッジ）
７：２号古墳調査前　８：２号古墳①

図版22　1：2号古墳②　2：2号古墳③　3：3号古墳　4：4号古墳
5：5号古墳　6：7号古墳　7：2号古墳1号主体部　8：2号古墳2号主体部
図版23　1：2号古墳3号主体部①　2：2号古墳3号主体部②　3：3号古墳主体部①　4：3号古墳主体部②
5：4号古墳2号主体部　6：4号古墳3号主体部　7：4号古墳5号主体部　8：7号古墳主体部
図版24　1：1号古墳1号主体部①　2：1号古墳1号主体部②　3：1号古墳1号主体部③　4：1号古墳2号主体部①
図版25　1：1号古墳2号主体部②　2：1号古墳2号主体部③　3：1号古墳2号主体部④
4：1号古墳3号主体部①　5：1号古墳3号主体部②　6：1号古墳3号主体部③
図版26　1：4号古墳1号主体部①　2：4号古墳1号主体部②　3：1号円形周溝状遺構　4：2号円形周溝状遺構
5：1号方形周溝状遺構　6：2号方形周溝状遺構　7：土坑列①　8：土坑列②

上谷津第1遺跡

図版27　上：上谷津第1遺跡遠景①〈平成10年度撮影〉（南から）　下：上谷津第1遺跡遠景②〈平成12年度撮影〉（南東から）
図版28　1：旧石器遺物分布状況（10Ｊ84ａ）①　2：旧石器遺物分布状況（10Ｊ84ａ）②
3：旧石器遺物分布状況（Ｄ区）①　4：旧石器遺物分布状況（Ｄ区）②
5：2号炉穴　6：3号炉穴　7：4号炉穴　8：5号炉穴
図版29　1：1号住居跡　2：1号住居跡遺物分布状況①
3：1号住居跡遺物分布状況②　4：1号住居跡遺物分布状況③
5：2号住居跡　6：2号住居跡遺物分布状況　7：3号住居跡　8：4号住居跡
図版30　1：4号住居跡遺物分布状況①　2：4号住居跡遺物分布状況②
3：5号住居跡　4：6号住居跡
5：6号住居跡遺物分布状況①　6：6号住居跡遺物分布状況②
7：7号住居跡　8：7号住居跡遺物分布状況
図版31　1：8号住居跡　2：9号住居跡　3：9号住居跡遺物分布状況　4：10号住居跡
5：10号住居跡遺物分布状況①　6：10号住居跡遺物分布状況②
7：11号住居跡　8：11号住居跡遺物分布状況①
図版32　1：11号住居跡遺物分布状況②　2：12号住居跡
3：12号住居跡遺物分布状況①　4：12号住居跡遺物分布状況②
5：13号住居跡　6：14号住居跡　7：15号住居跡　8：15号住居跡遺物分布状況
図版33　1：16号住居跡　2：16号住居跡遺物分布状況
3：16号住居跡遺物出土状況①　4：16号住居跡遺物出土状況②
5：16号住居跡遺物出土状況③　6：16号住居跡遺物出土状況④
7：16号住居跡遺物出土状況⑤　8：16号住居跡遺物出土状況⑥
図版34　1：17号住居跡　2：18号住居跡
3：19号住居跡　4：19号住居跡遺物出土状況①
5：19号住居跡遺物出土状況②　6：20号住居跡
7：21号住居跡　8：21号住居跡遺物出土状況
図版35　1：22号住居跡　2：22号住居跡土層堆積状況①
3：22号住居跡土層堆積状況②　4：22号住居跡遺物出土状況
5：23号住居跡　6：24号住居跡　7：24号住居跡遺物分布状況　8：24号住居跡土層堆積状況
図版36　1：1号陥穴　2：2号陥穴　3：3号陥穴　4：4号陥穴
5：5号陥穴　6：6号陥穴　7：7号陥穴　8：1号土壙墓
図版37　1：1号土壙墓土層堆積状況①　2：1号土壙墓土層堆積状況②
3：1号有天井土坑　4：2号有天井土坑
5：3号有天井土坑　6：4号有天井土坑　7：21号土壙　8：39号土壙
図版38　1：1号円形周溝状遺構　2：1号円形周溝状遺構遺物出土状況①
3：1号円形周溝状遺構遺物出土状況②　4：1号方形周溝状遺構
5：1号方形周溝状遺構遺物出土状況　6：2号方形周溝状遺構
7：3号方形周溝状遺構　8：4号方形周溝状遺構
図版39　1：5号方形周溝状遺構　2：6号方形周溝状遺構　3：7・8号方形周溝状遺構　4：7号方形周溝状遺構
5：8号方形周溝状遺構遺物出土状況　6：9号方形周溝状遺構
7：10号方形周溝状遺構　8：11号方形周溝状遺構

上谷津第2遺跡

図版40　上：上谷津第2遺跡遠景①〈平成10年度撮影〉（東から）　下：上谷津第2遺跡遠景②〈平成10年度撮影〉（北から）
図版41　1：1号住居跡　2：2号住居跡　3：3号住居跡　4：3号住居跡遺物出土状況
5：4号住居跡　6：5号住居跡　7：6号住居跡　8：6号住居跡遺物分布状況

図版42　1：6号住居跡遺物出土状況　2：7号住居跡
3：7号住居跡遺物分布状況　4：7号住居跡遺物出土状況①
5：7号住居跡遺物出土状況②　6：7号住居跡遺物出土状況③
7：7号住居跡遺物出土状況④　8：7号住居跡遺物出土状況⑤
図版43　1：8号住居跡　2：8号住居跡遺物出土状況　3：9号住居跡　4：9号住居跡遺物分布状況
5：9号住居跡遺物出土状況①　6：9号住居跡遺物出土状況②
7：10号住居跡　8：11号住居跡
図版44　1：12号住居跡　2：1号陥穴　3：2号陥穴　4：3号陥穴
5：4号陥穴　6：16号土壙　7：32号土壙　8：35号土壙
図版45　1：1号炉穴　2：2号炉穴　3：3号炉穴　4：4号炉穴
5：5号炉穴　6：1号方形周溝状遺構　7：2号方形周溝状遺構　8：3号方形周溝状遺構

井戸作南遺跡

図版46　上：井戸作南遺跡遠景①〈平成9年度撮影〉（南西から）　下：井戸作南遺跡遠景②〈平成11年度撮影〉（北西から）
図版47　1：1号住居跡　2：2号住居跡　3：3号住居跡　4：4号住居跡
5：5号住居跡　6：6号住居跡
7：7号住居跡　8：7号住居跡遺物分布状況①
図版48　1：7号住居跡遺物出土状況②　2：7号住居跡遺物出土状況③
3：8号住居跡　4：8号住居跡遺物分布状況
5：9号住居跡　6：9号住居跡遺物出土状況①
7：9号住居跡遺物出土状況②　8：10号住居跡
図版49　1：1号陥穴　2：2号陥穴　3：3号陥穴　4：4号陥穴
5：6号陥穴　6：10号陥穴　7：11号陥穴　8：12号陥穴
図版50　1：13号陥穴　2：14号陥穴　3：15号陥穴　4：16号陥穴
5：17号陥穴　6：18号陥穴　7：10号土壙　8：10号土壙遺物出土状況
図版51　1：80号土壙　2：95号土壙　3：111号土壙　4：1号方形周溝状遺構
5：1号方形周溝状遺構内土壙　6：2号方形周溝状遺構
7：土偶（3D97b区）出土状況　8：埋甕（3D99c区）出土状況
図版52　明神台遺跡1・2・3号住居跡出土遺物
図版53　端山越遺跡1・2・3号住居跡出土遺物
図版54　端山越遺跡3号住居跡出土遺物
図版55　端山越遺跡3号住居跡出土遺物
図版56　端山越遺跡方形周溝状遺構出土遺物
図版57　大草台古墳群9・10号住居跡出土遺物
図版58　大草台古墳群古墳・方形周溝状遺構出土遺物
図版59　大草台古墳群古墳出土鉄器①
図版60　大草台古墳群古墳出土鉄器②
図版61　上谷津第1遺跡1・2・3号住居跡出土遺物
図版62　上谷津第1遺跡3・4・6号住居跡出土遺物
図版63　上谷津第1遺跡6・7・8・10号住居跡出土遺物
図版64　上谷津第1遺跡11・12・13・16号住居跡出土遺物
図版65　上谷津第1遺跡16号住居跡出土遺物
図版66　上谷津第1遺跡17・18・19号住居跡出土遺物
図版67　上谷津第1遺跡21・22号住居跡出土遺物
図版68　上谷津第1遺跡23・24号住居跡・14号住居跡（縄文）出土遺物
図版69　上谷津第2遺跡3・6号住居跡出土遺物
図版70　上谷津第2遺跡6・7号住居跡出土遺物
図版71　上谷津第2遺跡7・8・9号住居跡出土遺物
図版72　上谷津第2遺跡9・10・11号住居跡出土遺物
図版73　井戸作南遺跡1・2・7・8号住居跡出土遺物
図版74　井戸作南遺跡8号住居跡・調査区出土遺物
図版75　井戸作南遺跡9・10号住居跡出土遺物
図版76　井戸作南遺跡10号住居跡出土遺物・調査区出土土偶
図版77　明神台遺跡出土石器・端山越遺跡出土石器①
図版78　端山越遺跡出土石器②・大草台古墳群出土石器
図版79　大草台古墳群出土石塔類・上谷津第1遺跡出土石器
図版80　上谷津第2遺跡出土石器①
図版81　上谷津第2遺跡出土石器②
図版82　上谷津第2遺跡出土石器③
図版83　上谷津第2遺跡出土石器④・井戸作南遺跡出土石器①
図版84　井戸作南遺跡出土石器②・上谷津第1遺跡（部分接写補足分）

附編 挿図・表目次

第１図－１　クラスター分析による原産地推定（下泉町遺跡群出土黒耀石）変数
第１図－２　クラスター分析による原産地推定（下泉町遺跡群出土黒耀石続き）変数
第１図－３　クラスター分析による原産地推定（下泉町遺跡群出土黒耀石続き、芳賀輪遺跡出土黒耀石）変数
第１図－４　クラスター分析による原産地推定（芳賀輪遺跡出土黒耀石続き、うならすず遺跡出土黒耀石）変数
第１図－５　クラスター分析による原産地推定（うならすず遺跡出土黒耀石続き、高原山・柏峠・未定資料）変数
第２図　箱ひげ図（SPSS）：下泉町遺跡群・芳賀輪遺跡・うならすず遺跡出土黒耀石
第３図　散布図（SPSS）：下泉町遺跡群・芳賀輪遺跡・うならすず遺跡出土黒耀石

第１表　下泉町遺跡群出土黒耀石の蛍光Ｘ線分析結果と推定原産地一覧表
第２表　芳賀輪遺跡・うならすず遺跡出土黒耀石の蛍光Ｘ線分析結果と推定原産地一覧表
第３表　下泉町遺跡群出土黒耀石の推定原産地
第４表　芳賀輪遺跡・うならすず遺跡出土黒耀石の推定原産地
第５表　下泉町遺跡群・芳賀輪遺跡・うならすず遺跡出土黒耀石の原産地推定の結果

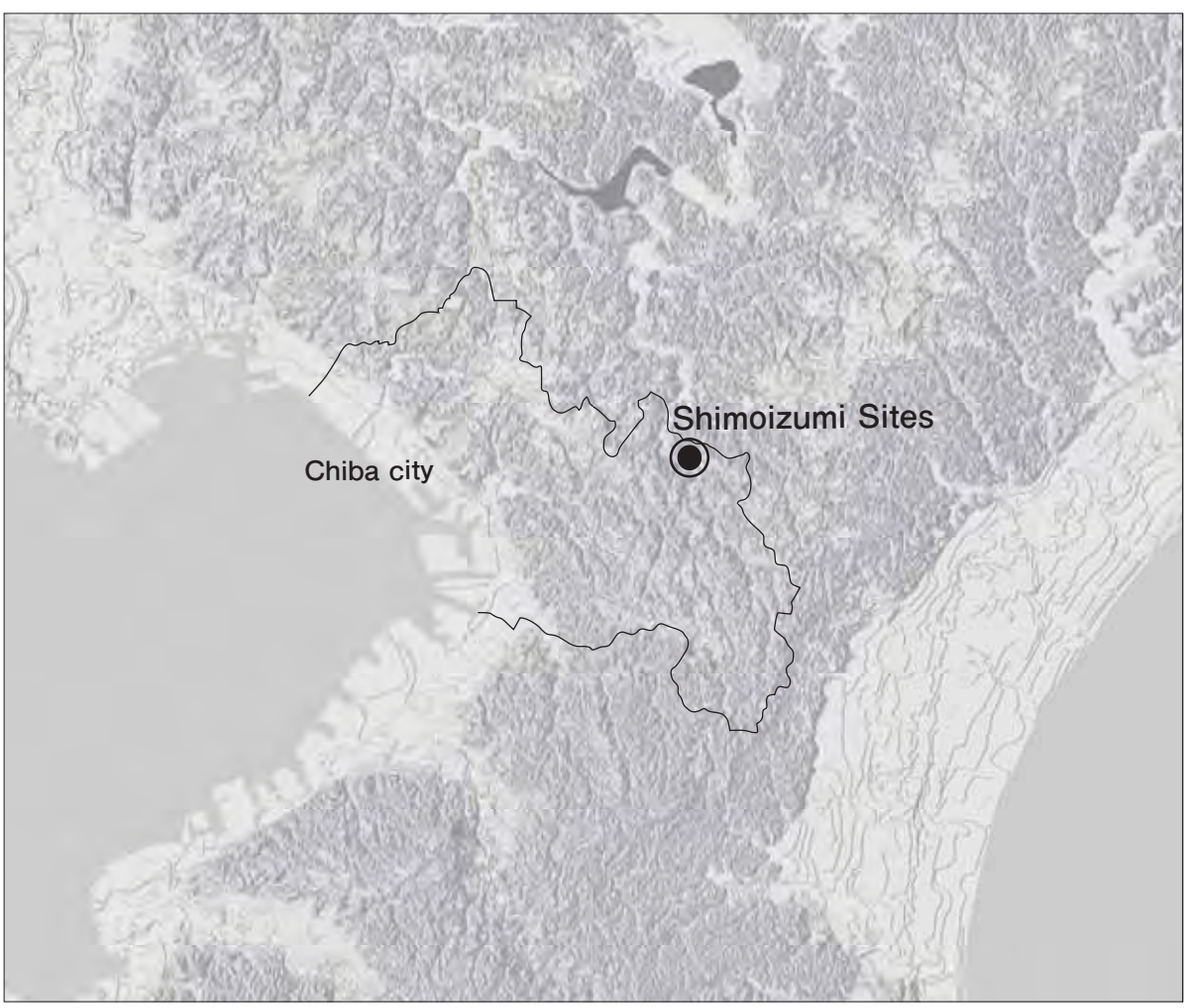
第１章　下泉町遺跡群の概要

第１節　調査に至る経緯

下泉町遺跡群の発掘調査は、三菱地所株式会社による「(仮称) ちばリサーチパーク開発計画」に伴う事前調査として実施された。この開発は、千葉市若葉区上泉町と下泉町地域内の44ヘクタールと佐倉市内田・飯塚・宮内・西御門の146ヘクタール、合計約190ヘクタールに及ぶ広大な地域を、研究・研修施設、ゴルフ場、宅地の複合施設建設を目的としたものである。

昭和62年10月24日付で三菱地所株式会社（以下、事業者と表記）から千葉市若葉区上泉町・下泉町地内の事業予定地内について、千葉県教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて」の照会文書が提出された後に千葉市教育委員会に提示された。

千葉市教育委員会生涯学習部文化課（以下、市文化課と表記）は、照会地内で古墳１基・塚１基・縄文土器（後期）・土師器の散布地を確認し、現状で埋蔵文化財の有無の判定ができない荒蕪地において、さらに試掘調査が必要な旨を昭和63年１月19日付けで千葉県教育委員会教育長宛に副申した。その後、市文化課は昭和63年５月17日から同年６月２日の期間、照会地全域について試掘調査を実施し、その結果を千葉県教育委員会文化課（現：文化財課　以下、県文化課と表記）へ報告した。



第１図　下泉町遺跡群位置図

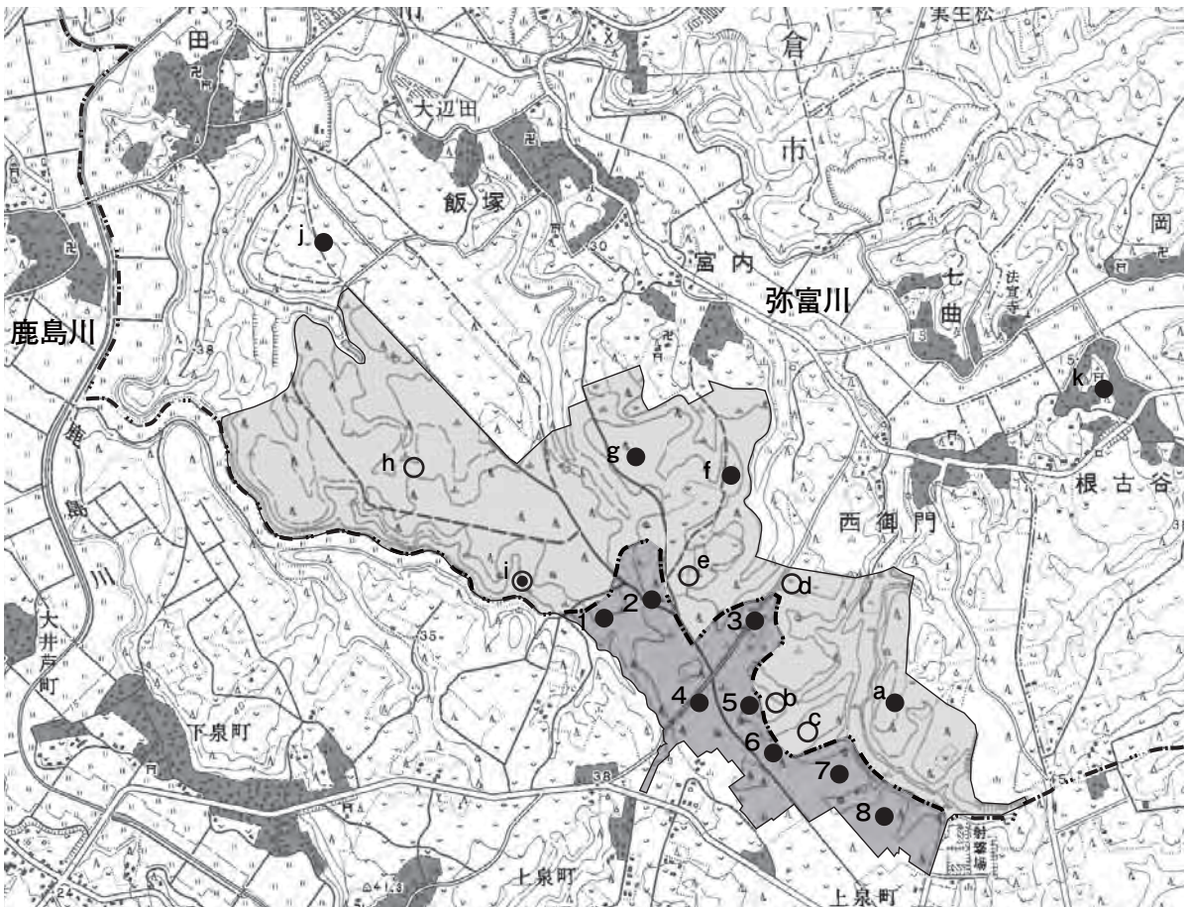
県文化課は、佐倉市の試掘調査の結果も踏まえて、照会に対して平成元年３月17日付けで８箇所（白池台遺跡・新堤遺跡・明神台遺跡・端山越遺跡・大草台古墳群・上谷津第１遺跡・上谷津第２遺跡・井戸作南遺跡）、125,600㎡の埋蔵文化財包蔵地・10基の古墳が所在する旨を事業者に回答した。

これを受けて、県文化課・市文化課・事業者の三者間で遺跡の取り扱いについて協議を重ねた結果、事業対象地約44ヘクタールに関して、最初に確認調査を実施して遺構の有無を確認・把握した上で再協議を実施し、本調査範囲を決定することで合意した。この合意に基づき千葉市文化財調査協会（以下、財団と表記）によって平成元年６月の上谷津第２遺跡の確認調査を皮切りに、同年度に白池台遺跡・新堤遺跡・端山越遺跡・上谷津第１遺跡・井戸作南遺跡の確認調査を順次実施した。

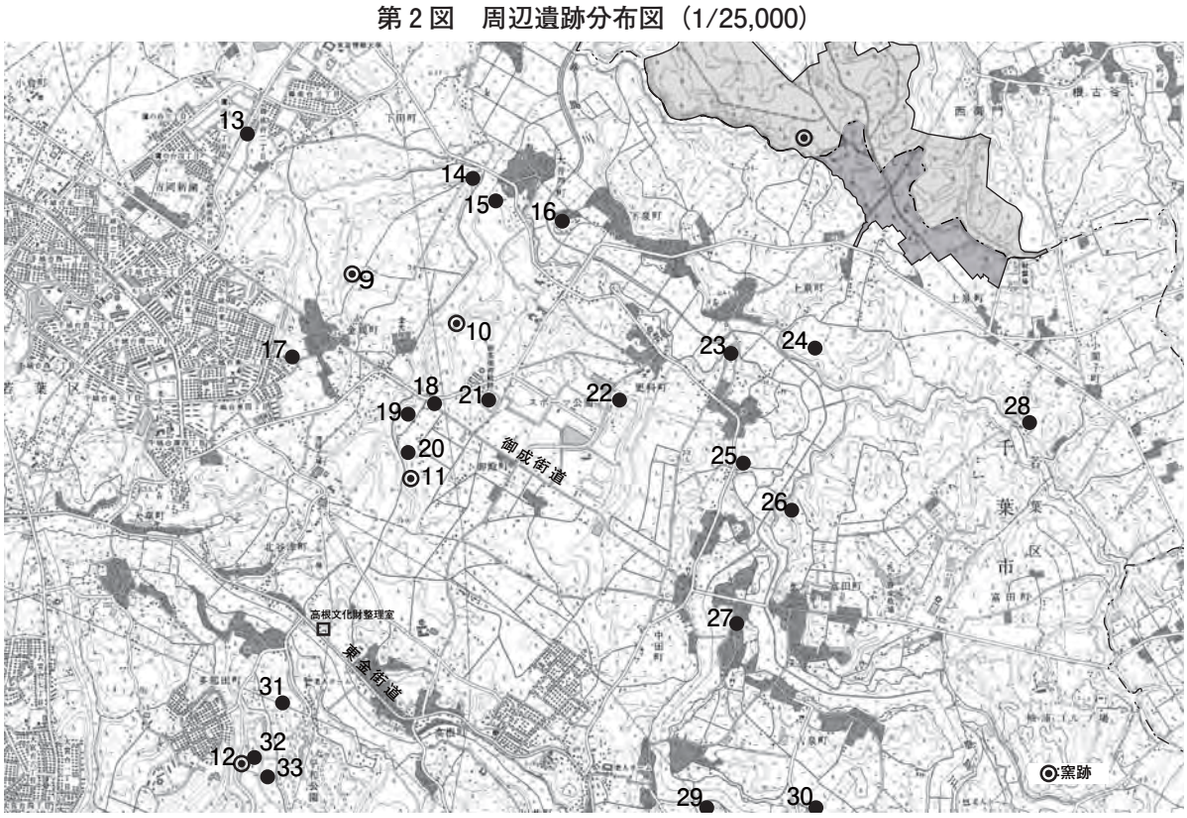
第１表　周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	概　要								台帳登録No.	備考
		時代・時期							遺構・遺物等（主要なもの）		
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世		
1	端山越遺跡	下泉町遺跡群 ※第２表の一覧に詳細は記載								若葉区　305	
2	井戸作南遺跡									若葉区　310	
3	明神台遺跡									若葉区　304	
4	大草台古墳群									若葉区　306	
5	白池台遺跡									若葉区　303	
6	新堤遺跡									若葉区　309	
7	上谷津第１遺跡									若葉区　307	
8	上谷津第２遺跡									若葉区　308	
9	中原窯跡						●			半地下式の須恵器登窯・灰原・須恵器・瓦	若葉区　255	
10	宇津志野窯跡						●			半地下式の須恵器登窯・須恵器・土師器・硯・羽釜等	若葉区　323	
11	宇津志野南窯跡						●			半地下式の須恵器登窯・灰原・須恵器・土師器	若葉区　358	未報告
12	ムグリ遺跡				○	●	●			地下式登窯・炭窯・灰原・製鉄跡・粘土採掘坑・羽口・鉄滓	若葉区　227	
13	木戸先遺跡	○	○				○			住居跡・土坑・溝・旧石器・縄文土器（早・前・中・後期）・石器・須恵器	若葉区　264	
14	下広尾遺跡		○		●	○	●			古墳時代後期～平安時代の集落跡・古墳時代中期の井戸検出	若葉区　286	未報告
15	台遺跡		○			○	○	○		古墳時代後期～平安時代の集落跡・古墳時代中期の井戸検出中世土坑墓	若葉区　288	未報告
16	下泉出戸遺跡		○		○					住居跡・土坑・溝・縄文土器（中期）	若葉区　296	
17	荒立遺跡		○				○			地点貝塚・住居跡・縄文土器（中・後期）・土師器・鉄製品	若葉区　287	
18	宇津志野遺跡		○			○	○			住居跡・土坑・炉穴・溝・縄文土器（早・前・中期）・土師器・須恵器	若葉区　347	
19	宇津志野南第１遺跡		○			○	○			住居跡・土坑・陥穴・炉穴・溝・縄文土器（早・前・中・後期）・土師器・須恵器・布目瓦	若葉区　348	
20	宇津志野南第３遺跡		○			○	○			住居跡・土坑・陥穴・縄文土器（早・前・中・後期）・土師器・須恵器	若葉区　350	
21	御茶屋御殿跡		○			○	○	○	●	徳川将軍家休憩用御殿　縄文土器（中・後期）・土師器・須恵器	若葉区　346	
22	迎山遺跡		○		○					住居跡・土坑・縄文土器（早・中期）・土師器・須恵器	若葉区　365	
23	更級駒込遺跡		○		○		○			円墳２・土坑・縄文土器（中期）・土師器	若葉区　317	
24	出口遺跡		○		○	○	○			縄文土器（中期）・土師器・布目瓦	若葉区　315	
25	恵布南遺跡		○		○	○	○		○	円墳・住居跡・掘立柱建物跡・土坑・溝・縄文土器（中期）・土師器・須恵器	若葉区　334	
26	荒句遺跡		○		○	○	○			奈良平安時代の集落・粘土採掘坑	若葉区　474	
27	遠坪遺跡		○	○	●	○	○	●	○	古墳後期の集落跡・中世以降の居住域（館？・寺院跡？）	若葉区　371	
28	内小間子遺跡		○							縄文早期の遺跡　局部磨製石器（石斧・石鏃）	若葉区　489	
29	野呂山田遺跡		●				○			地点貝塚・縄文土器（中・後・晩期）・石器・土製品・貝製品	若葉区　426	
30	芳賀輪遺跡	○	○		○	●	●			奈良・平安時代の拠点的な集落跡	若葉区　461	
31	うならすず遺跡	○	●	○	○	○	○	○	○	縄文中期後半から後期初頭の集落跡・奈良平安時代の集落・工房跡	若葉区　206	
32	貝殻塚遺跡		○		○	○	○			縄文中期後半から後期初頭の集落跡	若葉区　226	
33	多部田貝塚		●		●	●	●	○		縄文後期から晩期の馬蹄形貝塚	若葉区　227	
a	西御門荒生遺跡		○	○	○	○	○	○	○	※詳細は、財団法人印旛郡市文化財センター「ちばリサーチパーク開発事業予定地内埋蔵文化財調査」シリーズを参照のこと。	佐倉市	
b	西御門新堤遺跡		○		○	○	○				佐倉市	
c	白池台遺跡	○	○			○	○				佐倉市	
d	西御門明神台遺跡	○	○			○	○				佐倉市	
e	宮内井戸作遺跡	○	○		○	○	○	○	○		佐倉市	
f	宮内南台遺跡		○			○	○	○	○		佐倉市	
g	宮内芋戸遺跡							○	○		佐倉市	
h	内田端山越遺跡	○	○		○	○	○				佐倉市	
i	内田端山越窯跡						○				佐倉市	
j	飯塚荒地台遺跡			○	○	○	○				佐倉市	
k	根古谷城							○			佐倉市	

註）・●：主要な遺構が検出された時期　・○:遺構・遺物が出土した時期　・a～jは、ちばリサーチパーク建設事業地内に所在する遺跡



第 2 図　周辺遺跡分布図（1/25,000）



第 3 図　周辺遺跡分布図（1/50,000）

この確認調査の結果に基づき、県教育委員会教育長から事業者に対して端山越遺跡・上谷津第１遺跡・上谷津第２遺跡・井戸作南遺跡の４遺跡について本調査が必要な旨を通知した。協議の結果、本調査を実施して記録保存の措置を講ずることとなった。更に、平成元年度に確認調査が実施されなかった明神台遺跡・端山越遺跡と井戸作南遺跡の一部についての確認・本調査を実施した。

これらの調査は、平成８年12月の端山越遺跡の調査を皮切りに、第２表にあるとおり調査は継続して実施され、平成12年度の上谷津第１遺跡の調査で全ての発掘調査を完了するに至った。

その後、平成15年度に整理作業に関わる協議を市文化課・事業者・財団との三者で行い、平成16年度～同18年度の３ヶ年に継続して整理作業を行うことで合意した。なお、大草台古墳群の内、９･10号墳については現状保存することとし、平成16年10月１日付けで保存協定を締結している。（文化課）

第２節　遺跡群の位置と歴史地理的環境

千葉市は、房総半島の西岸奥部、半島の北半に広がる下総台地の南西部に位置する。市域の大部分が台地で占められており、各時代の多くの遺跡がその台地上に展開している。河川に大規模なものはなく、市内中央部を東西にを流れる都川や市原市との市境にある村田川、現在は印旛沼からの放水路として整備されている花見川が東京湾に流入する。また、土気地区を水源として市内の東部を経て印旛沼へ流入する鹿島川などが代表的な河川である。これらの河川に連なる支流は多く、樹枝状に小規模な支谷を開析している。なお、東京湾側と印旛沼側とに河川の流路が分かれるのは、市北西部の花島町域から南東部の土気町にかけて分水界が存在するためで、分水界を境に文化的様相が異なる場合もあり、一種の生活境界線として具体的に認識することができる重要な地理的要素となっている。

下泉町遺跡群は、市内東部の佐倉市・八街市と境を接する地域に位置し、鹿島川水系に属する遺跡群である。遺跡群の立地する台地は、北西約2.5㎞ の場所に鹿島川とその支流である弥富川の合流地点があり、台地の南西側に鹿島川、北側に弥富川があり、それら河川に挟まれた標高約30～40ｍの台地上の平坦部を中心に遺跡が展開している。完全な平坦部にある大草台古墳群を除き、他の遺跡は独立した小台地または小谷津の奥部に立地しており、それぞれが独立して存在している。大草台古墳群･上谷津第１遺跡・上谷津第２遺跡の遺跡範囲は市内で収まるが、それ以外の遺跡は行政界を越えて佐倉市側へも範囲が展開している。端山越遺跡などは遺跡全体の東の一端をかすめているにすぎない。

第２・３図に掲載している遺跡は、規模の大小はあるものの調査成果が知られる遺跡である。

周知されている遺跡としては、南西に約３㎞程の場所に所在する江戸時代初頭の将軍家休息所跡として知られる御茶屋御殿跡がある。昭和48･49年･平成２～６年に調査が行われている。単郭式の内桝形土塁を伴う堀をめぐらす施設で、掘立柱建物や礎石建物、井戸跡・門跡などの多くの施設跡が発見されている。調査成果を基に史跡整備が実施される計画もあり、今後の展開が注目される遺跡である。この御茶屋御殿跡は御成街道沿いにあり、街道は現在でも生活道路として機能し、周辺での開発行為も少なくなく､結果として調査が実施されている遺跡が御茶屋御殿跡周辺に多く所在する傾向にある。

御殿跡のすぐ西側にある宇津志野遺跡群（11･18～20）では、縄文時代前期～後期にかけての住居跡や土壙・陥穴と奈良時代な集落跡が検出されている。その中の宇津志野南窯跡(11)は、平成９年の遺跡群調査時に新たに発見された遺跡で、同じ谷筋に宇津志野窯跡(10)、一つ北側の谷筋に中原窯跡

（９）がある。この地域は８世紀末から９世紀前半に操業された須恵器の窯跡が集中する場所であり、これらの窯跡と事業地内にある佐倉市内田端山越窯跡（ｉ）とは鹿島川流域という立地関係や遺物の類似性から密接な関係にある窯跡であることが予察されている。本報告で掲載する端山越遺跡の３号住居跡からは土器製作に関わる施設が検出され、遺物も内田端山越窯跡や宇津志野南窯跡などの製品と近似しており、須恵器生産に携わる工人の存在と併せて検討すべき遺構として注目される。

芳賀輪遺跡(30)は、鹿島川流域における奈良・平安時代の拠点的な集落跡である。多くの住居跡・掘立柱建物跡や方形区画の大型施設などが集中して発見され、遺物も墨書土器や鉄器などの特殊な遺物が出土している。鹿島川流域で、窯跡群と同時代の集落であることから、生活必需品の生産施設（供給元）とそれを管理し消費（需要元の一つ）する関係を想定できる重要な遺跡である。

下広尾遺跡(14)は、調査規模が小さかったものの古墳時代後期から奈良時代にかけての集落であることが判明し、鹿島川流域の奈良・平安時代を考察する上で重要な位置に存在している遺跡である。

縄文時代の遺跡は確認数は多いものの、近隣で広く展開する集落は多くない。本遺跡群の井戸作南遺跡は、佐倉市側の宮内井戸作遺跡（e）と同一の遺跡であり、調査内容も近似した傾向が窺えるが、当市域側は大集落の西端をかすめた程度であり、遺跡の全体像は宮内井戸作遺跡の成果が公表されなければ把握することはできない。都川流域の平和公園遺跡群（12･31～33）では、中期～晩期までの集落・貝塚が検出されている。特に中期末葉から後期初頭の集落は広く展開しており、上谷津第２遺跡の同時期集落との関連が注目される。

弥生時代の遺跡は極端に少ない。西御門荒生遺跡（a）で縄文時代晩期末葉～弥生時代初頭の荒海式土器片が最古のもので、上谷津第１遺跡でも小片が出土している。宮内井戸作遺跡（e）で中期末から後期初頭ごろの土壙（住居跡の可能性も指摘）が２基、西御門荒生遺跡で後期の方形周溝墓、うならすず遺跡で弥生時代中期中葉の池上式（新）に属する土壙が１基が発見されている程度である。

古墳時代は後期の遺跡が多く確認されているが、前期・中期の遺跡は少ない。佐倉市側の西御門新堤遺跡（b）で前期～中期、宮内井戸作遺跡（e）で中期の集落跡、下広尾遺跡で中期の井戸跡、うならすず遺跡で前期の集落が検出されている。うならすず遺跡から器形的に北陸地域の影響が窺えるとされる装飾器台が出土しており、上谷津第１遺跡の16号住居跡出土例との関連が注目される。

第３節　下泉町遺跡群の概略

下泉町遺跡群は、白池台遺跡・新堤遺跡・明神台遺跡・端山越遺跡・大草台古墳群・上谷津第１遺跡・上谷津第２遺跡・井戸作南遺跡の８遺跡からなる遺跡群の総称である。

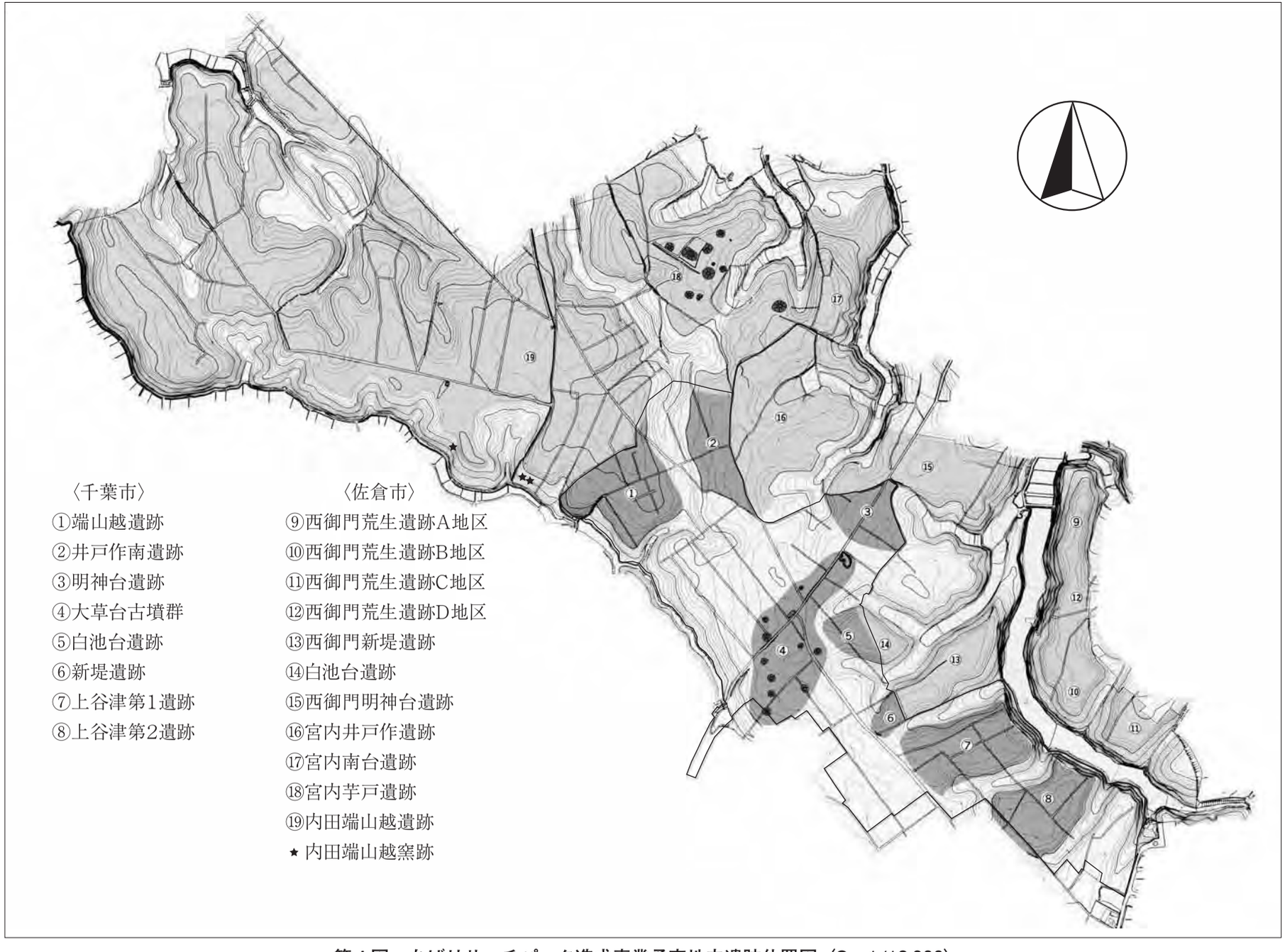
調査は、ちばリサーチパーク造成事業に先立つ形で実施されたもので、市域を越えた事業範囲が設定されていた。遺跡群の内、大草台古墳群・上谷津第１遺跡・上谷津第２遺跡を除く５遺跡は、行政界を越えて佐倉市と千葉市の二市に遺跡が展開している。

遺跡群は、旧石器時代、縄文時代早期（撚糸文・条痕文期）・前期（関山・黒浜・諸磯・浮島式期）・中期（阿玉台・加曽利ＥⅡ～Ⅳ式期）・後期（称名寺・堀之内・加曽利Ｂ・安行式期）・晩期（安行・千網・荒海式期）、古墳時代前期・中期・後期、奈良・平安時代（８世紀末～９世紀）、中近世の遺構と遺物が検出されている。これらの中で集落が形成されたのは、縄文時代の黒浜式期・加曽利ＥⅡ～Ⅳ

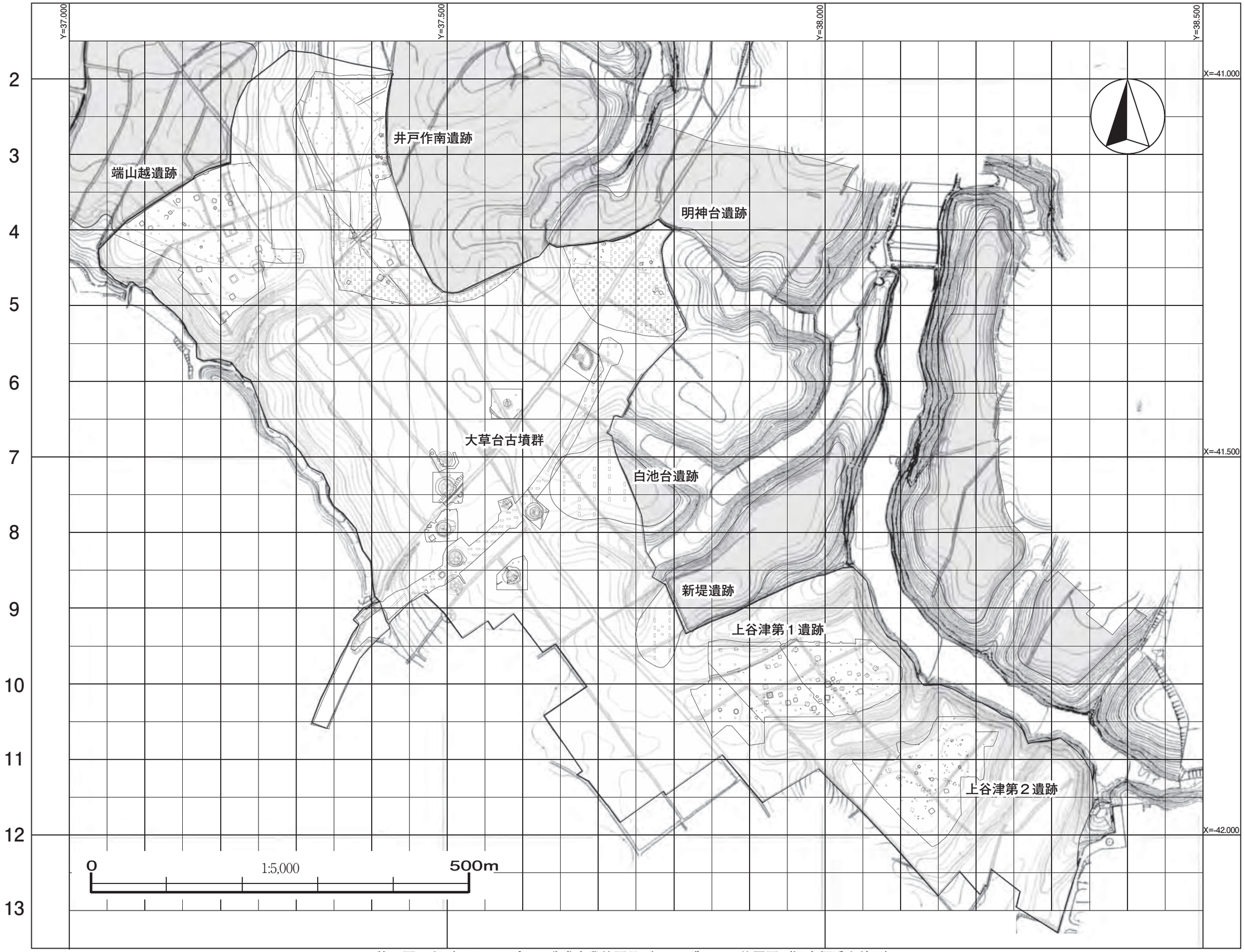
第２表　下泉町遺跡群調査成果一覧

遺跡名（遺跡No.）	所在地	調査年度	調査期間	調査面積（㎡）				調査形態	調査区	旧石器	縄文						古墳		
				確認調査		本調査					早期	前期	中期	後期	陥穴	土壙	古墳	円形周溝状遺構	土壙墓
				確認面積	対象面積	上層	下層			集中箇所	炉穴	住居跡							
白池台遺跡（若葉区303）	若葉区下泉町1,231他	平成元年度	890717-0925	240	5,600			確認調査											
新堤遺跡（若葉区309）	若葉区上泉町947-5他	平成元年度	890710-0908	150	3,000			確認調査											
明神台遺跡（若葉区304）	若葉区下泉町1,209他	平成９年度	971913-1224	1,500	14,962			確認調査											
			下層	152	14,962														
			971013-1224			2,150		本調査					2	2	4	22			
端山越遺跡（若葉区305）	若葉区下泉町1,147他	平成元年度	890807-1030	1,650	28,600			確認調査											
		平成８年度	961216-970314			7,479		本調査							3	7			
	若葉区下泉町1,149他	平成11年度	990401-0831	206	17,500	17,500	24	本調査		1			1		7	31			
大草台古墳群（若葉区306）	若葉区上泉町951-1他	平成８年度	970108-0131	842	8,423			確認調査											
	若葉区上泉町951-1他	平成８年度	970201-0328			3,000	100	本調査	96Ⅰ区	2									1
									96Ⅱ区							4	2	1	
	若葉区下泉町1,221他	平成９年度	980108-980327			2,430		本調査	97A区										
									97B区						1		1		
									97C区										
	若葉区上泉町951-1他	平成10年度	980901-1224			3,200		本調査	98A区							1	1		
									98B区							1	1		
	若葉区上泉町958-20他	平成11年度	990401-0630			3,540		本調査	99A区					1		1	1		
									99B区					1	1	2	1		
									99C区							4			
上谷津第１遺跡（若葉区307）	若葉区上泉町941-5他	平成元年度	890626-0808	1,400	27,900			確認調査											
	若葉区上泉町941-1他	平成９年度	980318-0331			9,370		（表土除去）											
	若葉区上泉町440-1他	平成10年度	980401-1224	88	9,370	9,370		本調査		○	3		1		3	18			
	若葉区上泉町943他	平成11年度	991116-000330	108	10,500	10,500		本調査		○	2				4	10			
	若葉区上泉町943他	平成12年度	000401-0530			3,000		本調査								1			
上谷津第２遺跡（若葉区308）	若葉区上泉町936他	平成元年度	890612-0808	1,510	23,500			確認調査											
	若葉区上泉町935他	平成10年度	980701-990331	172	17,000	17,000		本調査		○	5	4	2	6	2	61			
井戸作南遺跡（若葉区310）	若葉区上泉町958-29他	平成元年度	890724-1017	1,160	20,300			確認調査											
	若葉区下泉町1,170他	平成８年度	970317-0331			5,556		（表土除去）											
		平成９年度	970401-980317	980	9,737			確認調査											
			下層	176	17,618														
			970401-980317			9,001		本調査		○			3	7		74			
	若葉区下泉町1,163他	平成10年度	980501-0630			1,600		本調査		○						1			
	若葉区下泉町1,158他	平成11年度	990701-991130	108	10,400	10,400		本調査								11			
合計			（上層）	9,638	239,372	115,096	124			3	10	4	9	17	25	249	7	1	1
			（下層）	804															

遺構																			遺物													調査担当者
古墳			奈良・平安							中世	中近世						その他			旧石器	縄文						古墳				中・近世	
前期	中期	土坑	円形周溝状遺構	方形周溝状遺構	奈良	平安	土壙墓	有天井土壙	土坑	土坑	塚	土坑	掘立柱建物跡	溝	土坑列	土盛	道状遺構	炭窯		土器					石器	土器		石製品	鉄器		
住居跡					住居跡															早期	前期	中期	後期	晩期		土師器	須恵器				
																						○	○								村田六郎太
																						○	○								村田六郎太
																						○	○		○						山下亮介
				1														4													
																															村田六郎太
				6	1		1	1	3	1				2			1	3		○		○	○			○	○		○	板碑	山下亮介 湖口淳一
				14	1		1	1	3					4			1	3					○		○	○					山下亮介 塚原勇人
																															湖口淳一
														1																	
		1		1				1		1									○	○			○		○	○	○	○	○		湖口淳一
																1															
										2	1			2					○				○			○	○			陶器 常滑大甕 銅銭	塚原勇人
										2	1			1																
			1							2	1			3	1		1						○			○				石塔類	山下亮介 塚原勇人
	1			1																											
											1																				
		1								2				4									○			○				陶器	塚原勇人
											1						1														
																															村田六郎太
																															山下亮介
14				5				3	1	1								5		○	○		○	○		○			○		山下亮介 塚原勇人
8				5			1	1	1	2				2				11	○	○			○		○	○					山下亮介 中山貫正
1			1	1						1																					菊池健一 中山貫正
																															村田六郎太
				3									1					4		○	○	○	○		○						山下亮介 塚原勇人
																															村田六郎太
																						○	○								山下亮介
																						○	○	○	○	○		○			山下亮介 簗瀬裕一
	2			2									2	23																	
																						○	○								塚原勇人
												6		3				6	○			○	○		○	○			陶磁器 銅銭	山下亮介 中山貫正 塚原勇人
23	3	2	2	39	2		3	7	8	14	5	6	3	45	1	1	4	36													



第4図　ちばリサーチパーク造成事業予定地内遺跡位置図（S＝1/12,000）



第５図　ちばリサーチパーク造成事業範囲及び500mグリット位置図（旧座標系を使用）

式期・称名寺式期・堀之内～後期安行式期、古墳時代前期・中期、奈良・平安時代である。墓域を形成したのは古墳時代後期の大草台古墳群と端山越遺跡・上谷津第１遺跡などで奈良・平安時代の方形周溝状遺構などがある。調査対象面積が広大な割に遺構・遺物の量は少なめである。

各遺跡から検出された遺構や遺物の概況は、第２表にまとめてあるので省略するが、本遺跡群の成果の中で注目すべき成果と考える５項目を列記しておく。

１．端山越遺跡検出の方形周溝状遺構群（特に特殊な主体部を有する12号方形周溝状遺構）

２．端山越遺跡検出のロクロピット及び粘土貯留用土坑

３．上谷津第１遺跡検出の古墳時代前期の集落（北陸系器台が出土した16号住居跡）

４．上谷津第２遺跡検出の縄文時代中期末葉から後期初頭の集落（柄鏡型の６号住居跡など）

５．上谷津第１遺跡出土のアメリカ式石鏃

１と２は佐倉市側の内田端山越遺跡・内田端山越窯跡との関係、３は西御門新堤遺跡の古墳時代前期集落との関係が注目される。４は、周辺の市域ではあまり検出されていない遺構や遺物である。５は、市域では初の確認例となる。これらについての詳説・検討は後に行う。

整理作業は、佐倉市側の調査を財団法人印旛郡市文化財センターが担当しており、その成果の一部は報告書･慨報等で刊行されている（下記参考文献参照）。千葉市側は、財団法人千葉市文化財調査協会が調査を実施し、財団改編等の諸事情により整理作業は財団法人千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センターが受託して実施した。成果の一部は、千葉県遺跡調査研究発表会や千葉市遺跡発表会などで報告されているものもあるが、本報告書にて総括するものである。

参考文献
千葉市（千葉市文化財調査協会）
村田六郎太　1991「上谷津第１遺跡」　財団法人千葉市文化財調査協会年報３- 平成元年度-
村田六郎太　1991「上谷津第２遺跡」　財団法人千葉市文化財調査協会年報３- 平成元年度-
村田六郎太　1991「白池台遺跡」　財団法人千葉市文化財調査協会年報３- 平成元年度-
村田六郎太　1991「新堤遺跡」　財団法人千葉市文化財調査協会年報３- 平成元年度-
村田六郎太　1991「井戸作南遺跡」　財団法人千葉市文化財調査協会年報３- 平成元年度-
村田六郎太　1991「端山越遺跡」　財団法人千葉市文化財調査協会年報３- 平成元年度-
湖口淳一　1998「大草台古墳群」　財団法人千葉市文化財調査協会年報10- 平成８年度-
山下亮介　1998「端山越遺跡」　財団法人千葉市文化財調査協会年報10- 平成８年度-
山下亮介　1998「井戸作南遺跡」　財団法人千葉市文化財調査協会年報10- 平成８年度-
山下亮介　1999「井戸作南遺跡」　財団法人千葉市文化財調査協会年報11- 平成９年度-
山下亮介　1999「明神台遺跡」　財団法人千葉市文化財調査協会年報11- 平成９年度-
山下亮介　1999「上谷津第１遺跡」　財団法人千葉市文化財調査協会年報11- 平成９年度-
塚原勇人　1999「大草台古墳群」　財団法人千葉市文化財調査協会年報11- 平成９年度-
山下亮介　2000「上谷津第１遺跡」　財団法人千葉市文化財調査協会年報12- 平成10年度-
山下亮介　2000「上谷津第２遺跡」　財団法人千葉市文化財調査協会年報12- 平成10年度-
塚原勇人　2000「大草台古墳群」　財団法人千葉市文化財調査協会年報12- 平成10年度-
山下亮介　2000「井戸作南遺跡」　財団法人千葉市文化財調査協会年報12- 平成10年度-
塚原勇人　2001「大草台古墳群」　財団法人千葉市文化財調査協会年報13- 平成11年度-
塚原勇人　2001「端山越遺跡」　財団法人千葉市文化財調査協会年報13- 平成11年度-
中山貴正　2001「井戸作南遺跡」　財団法人千葉市文化財調査協会年報13- 平成11年度-
中山貴正　2001「上谷津第１遺跡」　財団法人千葉市文化財調査協会年報13- 平成11年度-
山下亮介　1999「端山越遺跡」　千葉県遺跡調査研究発表会　平成11年度発表要旨
湖口淳一　1997「大草台古墳群」　平成９年度千葉市遺跡発表会要旨
山下亮介　1997「端山越遺跡・井戸作南遺跡」　平成９年度千葉市遺跡発表会要旨
塚原勇人　1998「大草台古墳群」　平成10年度千葉市遺跡発表会要旨
山下亮介　1998「上谷津第１・第２遺跡」　平成10年度千葉市遺跡発表会要旨
塚原勇人　1999「大草台古墳群」　平成11年度千葉市遺跡発表会要旨
山下亮介　1999「端山越遺跡」　平成11年度千葉市遺跡発表会要旨
佐倉市（印旛郡市文化財センター）
高谷英一　1995「白池台遺跡・西御門荒生遺跡Ａ地区・Ｂ地区」　財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第90集
ちばリサーチパーク開発事業予定地内埋蔵文化財調査（1）
高谷英一　1998「宮内井戸作遺跡Ⅰ地区」　財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第136集
喜田圭介　（仮称）ちばリサーチパーク開発事業予定地内埋蔵文化財調査（2）
渋谷健司　2002「内田端山越窯跡」　財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第191集
市内重要遺跡確認調査報告書
小倉和重　2003「宮内井戸作遺跡」（慨報）　財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第200集
ちばリサーチパーク開発事業予定地内埋蔵文化財調査
高谷英一　2005「飯塚荒地台遺跡」　財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第225集
青柳好宏　ちばリサーチパーク開発事業予定地内埋蔵文化財調査（3）
田中大介　（仮称）ちばリサーチパーク事業関連道路整備予定地内埋蔵文化財調査
酒井弘志　2006「西御門荒地台遺跡C･D地区・宮内南台遺跡・宮内芋戸遺跡」　財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第232集
ちばリサーチパーク開発事業予定地内埋蔵文化財調査（4）
1996「佐倉市井戸作遺跡（02-022）」　財団法人印旛郡市文化財センター年報11
1997「佐倉市井戸作遺跡（02-022）」　財団法人印旛郡市文化財センター年報12
1997「佐倉市明神台遺跡（02-021）」　財団法人印旛郡市文化財センター年報12

	1997	「佐倉市飯塚荒地台遺跡（02-050）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報12
	1998	「佐倉市西御門荒生遺跡Ｃ地区（02-018-C）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報13
	1998	「佐倉市新堤遺跡（02-019）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報13
	1998	「佐倉市明神台遺跡（02-021-2）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報13
	1998	「佐倉市井戸作遺跡（02-022）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報13
	1998	「佐倉市井戸作遺跡（02-022）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報13
	1998	「佐倉市宮内南台遺跡（02-023）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報13
	1998	「佐倉市端山越遺跡（02-025）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報13
	1999	「佐倉市西御門荒生遺跡Ｃ地区（02-018-C）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報14
	1999	「佐倉市西御門荒生遺跡Ｄ地区（02-018-D）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報14
	1999	「佐倉市新堤遺跡（02-019）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報14
	1999	「佐倉市明神台遺跡（３次）（02-021-3）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報14
	1999	「佐倉市井戸作遺跡（02-022）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報14
	1999	「佐倉市端山越遺跡（02-025）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報14
	1999	「佐倉市飯塚荒地台遺跡（02-050）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報14
	2000	「佐倉市宮内井戸作遺跡（02-022）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報15
	2000	「佐倉市宮内南台遺跡（02-023）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報15
	2000	「佐倉市内田端山越遺跡（02-025）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報15
	2000	「佐倉市宮内井戸作遺跡（02-022）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報16
	2000	「佐倉市宮内南台遺跡（02-023）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報16
	2000	「佐倉市内田端山越遺跡（02-025）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報16
	2000	「佐倉市飯塚荒地台遺跡（第３次）（02-050）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報16
	2001	「佐倉市宮内南台遺跡（14H-A・15H-A）（02-023）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報17
	2001	「佐倉市宮内芋戸遺跡（14H-B）（02-024）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報17
	2001	「佐倉市内田端山越遺跡（8H・18H）（02-025）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報17
	2001	「佐倉市内田端山越遺跡（14H-C・15H-B・16H）（02-025）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報17
	2001	「佐倉市内田端山越遺跡（窯跡群）（02-099）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報17
	2002	「佐倉市宮内井戸作遺跡（Ⅳ地区）（02-022Ⅳ）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報18
	2002	「佐倉市宮内芋戸遺跡（10H-A・11H・13H-A）（02-024）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報18
	2002	「佐倉市内田端山越遺跡（10H-B・13H-B）（02-099）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報18
	2003	「佐倉市宮内井戸作遺跡（Ⅳ地区）（02-022Ⅳ）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報19
	2003	「佐倉市内田端山越遺跡（7H-A）（02-025）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報19
	2004	「佐倉市内田端山越遺跡（3H・15H-A・5H-B）（02-023）」	財団法人印旛郡市文化財センター年報20
松田富美子	1997	「佐倉市新堤遺跡」	千葉県遺跡調査研究発表会　平成９年度発表要旨
小倉和重	2000	「佐倉市内田端山越遺跡」	千葉県遺跡調査研究発表会　平成12年度発表要旨
小倉和重	2000	「宮内井戸作遺跡」	財団法人印旛郡市文化財センター第４回遺跡発表会発表要旨
飯島伸一	2000	「佐倉市内田端山越遺跡」	財団法人印旛郡市文化財センター第４回遺跡発表会発表要旨
渋谷健司	2001	「佐倉市内田端山越窯跡」	財団法人印旛郡市文化財センター第５回遺跡発表会発表要旨
大澤孝	2004	「佐倉市内田端山越窯跡」	財団法人印旛郡市文化財センター第８回遺跡発表会発表要旨

第４節　発掘調査・整理作業の留意点

調査グリッド設定の方法は、平成元年度の確認調査時と平成８年度以降の本格的な調査に伴うものと２つのグリッドが設定されていた。しかし、本報告書で掲載した遺構・遺物の多くが平成８年度以降の調査において検出・出土したものなので、基本とするグリッドは平成８年度以降に設定されたものを使用した。また、このグリッドは旧座標系に則ったものであり、新座標への数値的な換算は行っていない。なお、今後における情報の保存管理上、確認調査時のグリッド名も不可欠であるので次章の遺構配置図には双方のグリッド名が併記されている。

平成８年度以降の基本としたグリッドは（以下、グリッドと表記）、国土座標系第Ⅸ軸（旧座標）のＸ=-40.800・Ｙ=37.000の点を大グリッドの基点としている。この基点を「1Ａ-1ａ」とし、南へＸ軸ラインを100ｍ毎に計14本（１～14）、東へＹ軸ラインを100ｍ毎に計16本（Ａ～Ｐ）設定した。つまり、計208個の100ｍ方眼のグリッドで事業範囲を網羅したことになる。次に、100ｍ四方のグリッドを大グリッドとし、その大グリッドを10ｍ毎の100個の中グリッドに細分化した。さらに、中グリッドを５ｍ毎に４区分し小グリッドとした（第204図参照）。なお、報告書平面図・一覧表での表示グリット名は各グリッドの北西隅を基点とした。

遺構番号は、発掘調査時に付与されたものを使用するように努めたが、調査段階で若干の混乱がみられたり、別種の形態的要素を持つ遺構が同列の番号を付与されていたりしたため、適宜再設定している。これら変更されたものは、注記段階では旧名称を記したものも多く、報告書の表記と異なることからおこりうる保管上の混乱を避けるために一覧表中に旧名を併記している。特に、土壙と古墳に変更したものが多く、土壙の中から分離したものには新しい番号を付与しているが、土壙として連番化されているものはそのままとし、抜いた番号は欠番としている場合が多い。

基本層序は、Ⅰ層（表土層・黒褐色土層）、Ⅱ層（旧表土＋包含層・褐色土）、Ⅲ層（包含層・暗褐色土層）、Ⅳ層（ソフトローム層）、Ⅴ層（ハードローム層）である。色調・含有物などは、地点によって様々だが、Ⅰ層・Ⅱ層・Ⅲ層が細分化されて別層として表現される場合が多い。下層の確認調査でも基本的にⅢ層・Ⅳ層と把握し、際だった場所がないかぎり細分化はしていない。遺構の多くがⅢ層内から掘り込まれており、Ⅲ層内に複数時期の遺構面が存在していることは間違いない。しかし、その遺構面を認識することは容易ではなく、便宜上ソフトローム層直上かⅢ層下部まで重機によって掘削した後に遺構の検出を行った。中世や近世の遺構は、Ⅱ層か一部はⅠ層から掘り込まれており、検出された遺構の肩は、基本的に遺構の中位を検出しているにすぎない。

第２章　確認調査の成果

確認調査は、平成元年度に白池台遺跡・新堤遺跡・端山越遺跡・上谷津第１遺跡・上谷津第２遺跡・井戸作南遺跡の一部、平成９年度に確認・本調査の形態で明神台遺跡・大草台古墳群・井戸作南遺跡の一部を実施した。明神台遺跡と大草台古墳群は、確認された遺構は随時拡張して完掘した。

白池台遺跡と新堤遺跡は、明確な遺構が検出されなかったことから本調査が実施されなかった。よって本章第１節－１・２で確認調査における成果と傾向について述べるのみとした。その他の遺跡は、本章にて遺跡の概略を述べ、検出された遺構や遺物に関しては本調査で検出された遺構を踏まえて次章以降で詳述する。

最初に地区設定に関しての留意点を記しておく。これは、確認調査が初めて実施された平成元年度の時に設定したグリッドと平成８年度以降に本格化した本調査に伴うグリッドの設定方法が異なるという点についてである。

双方ともに国土座標系第Ⅸ軸（旧座標）の方眼に準じて設定され、Y=37.000ラインをＡラインとしていることは同じである。本調査では大グリッドを100m方眼としているが、平成元年度の確認調査では40m方眼になっている。しかも、事業範囲全域を網羅しているのではなく、確認調査が実施された範囲に準じているのでX軸の１ラインがX＝-41.120と中途半端なラインとなっており、確認調査のX軸

第３表　下泉町遺跡群確認調査成果一覧

遺跡名	遺構											遺物			
	縄文時代		古墳時代～歴史時代						中世	近世	時期不明	縄文時代		古墳～	中近世
	住居跡	土壙	住居跡	土壙	方形周溝状遺構	円形周溝状遺構	古墳	溝	土壙	炭窯	溝状遺構	土器	石器	土師器	陶磁器
白池台遺跡		8									1	1箱	8	15	
新堤遺跡		3										51	3		
明神台遺跡	4	23		2	1				1						
端山越遺跡		20	9	2	3						4	2箱	5	1箱	15
大草台古墳群		6		6		1	3	1				1箱	○	1箱	
上谷津第１遺跡	10	37	12	4	2							2箱	17	43	
上谷津第２遺跡	12	51	1							1		2箱	10	5	
井戸作南遺跡	9	38		2			1					7箱	25	1箱	10
合　計	35	186	22	16	6	1	4	1	1	1	5				

の24・３・８・13・18・23ラインが本調査の２・４・６・８・10・12ラインと同一ラインとなるのである。つまり、本調査のグリッドラインに重なるのは200mおきとなり（当然、Ｙ軸も同様）、双方を統合する場合、複雑化することが否めなかった。また、すでに展示等で抽出されている注記済みの遺物も少なくなく、今後の保存管理上、注記と報告書間に表記の齟齬が生ずることの障害を考慮し、双方のグリッド名を対応させる必要が生じた。よって、本章第１節の各遺跡の配置図の上辺と左辺に平成元年度確認調査時のライン名、下辺と右辺に灰色字で平成８年度以降の調査で使用しているライン名を併記した。なお、基本的に調査グリッドは、長辺５m･短辺２mの長方形グリッドを100㎡（10×10m）中に２つの割合で南北または東西方向に縦列に配し、地形的な制約如何で適宜トレンチ等を増設している

第１節　調査の概要

１　白池台遺跡

白池台遺跡は、弥富川に開析される小支谷から更に分岐する極小谷を北東側に望む標高約42～44mを測る舌状台地上に立地する。弥富川からはやや奥まった位置となり、台地の大きさから大規模な集落が形成されにくい立地環境を呈している。遺跡範囲の東側約1/3の台地先端部は佐倉市、残りの台地基部から大草台古墳群に接するまでの範囲が千葉市に行政区分されている。なお、小支谷と弥富川を挟んだ対岸台地上は佐倉市の西御門荒生遺跡Ｄ地区、台地上の北側に明神台遺跡、南側に新堤遺跡、南西側に大草台古墳群が群在している。

佐倉市側の調査は、財団法人印旛郡市埋蔵文化財センターによって平成元年度に確認調査が実施されている。その結果、遺構が確認された部分を拡張した後に完掘する方法で対応している。この調査の成果は平成７年度に刊行され（第１章第３節の参考文献参照）、旧石器の遺物集中地点（第１ユニット）が１箇所、縄文時代の土壙５基、古墳時代以降の方形周溝状遺構１基・土壙が検出されていることが報告されている。

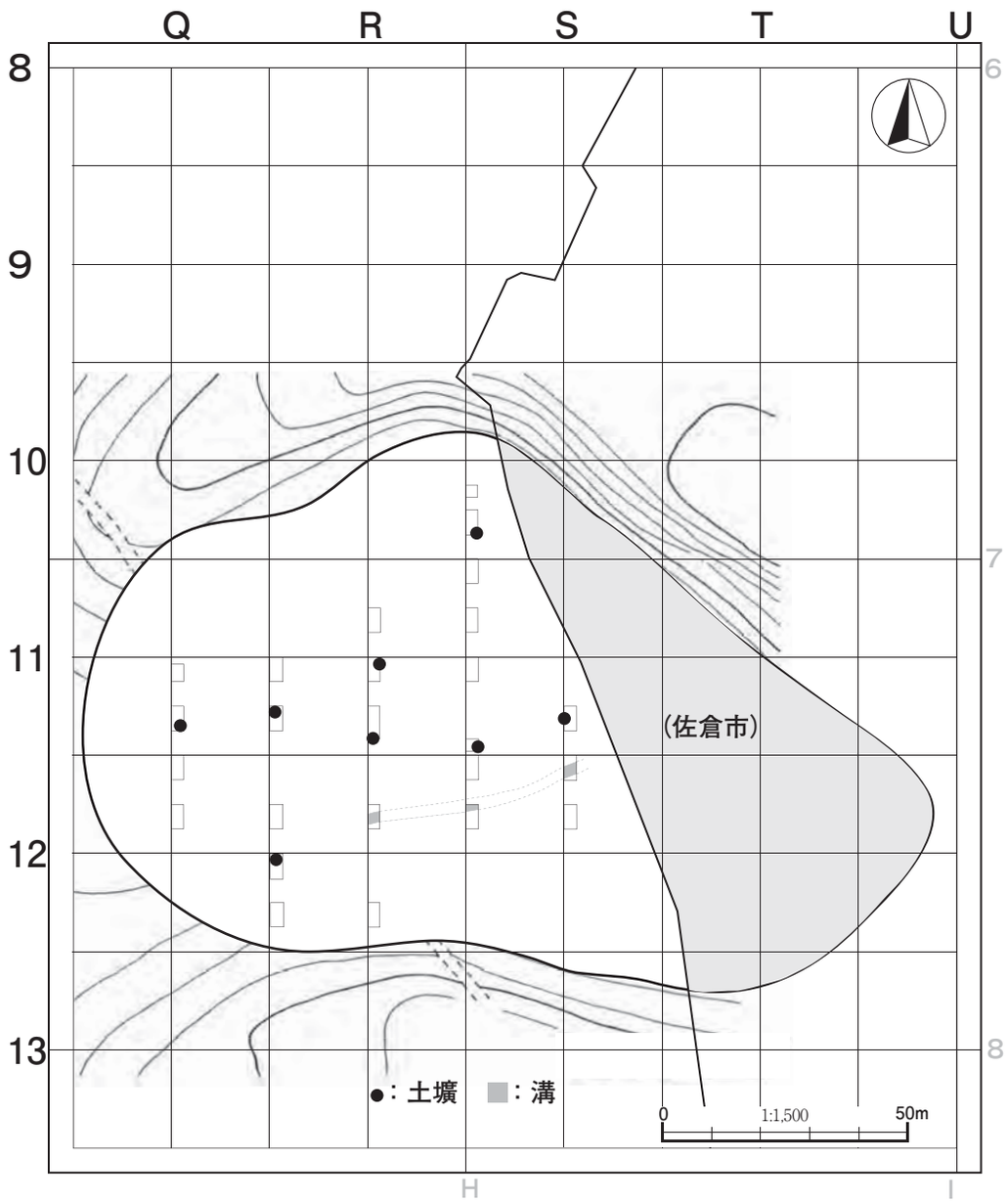
旧石器の石器集中箇所では、黒耀石・安山岩・瑪瑙・チャートなどの石材・石器等が出土している。S-10-54グリッドから出土した石器群（第１ユニット）は、ほぼ２m四方に収まる小型のユニットで、垂直分布的にも比較的しっかりとしたまとまりとして把握でき、全てＡＴ層よりも上層で出土したことが記されている。しかし、殆どが剥片で、掻器・石刃が若干量出土している程度であり、報告者は小規模な「キャンプ・サイト」と推定している。

縄文時代の土壙は、遺物が伴っていないことから縄文時代の所産とは断定しがたいものの、覆土や平面形状的に縄文時代の遺構と判断されている。遺構外出土の縄文時代遺物も、加曽利Ｂ２式の浅鉢形土器を含む土器片や石鏃が少量出土している程度である。

古墳時代以降の遺構は、奈良時代の所産と推測されている方形周溝状遺構が調査区南端の緩斜面で検出されている。東側に開口する主体部が検出されているが、遺物が全く出土していない。この他に検出された３基の土壙は、近現代の獣骨が出土したものと、炭窯の様相を呈するものなので近世以降の遺構のようである。

千葉市域では、８基の土壙と１条の溝が検出されており、土壙は縄文時代中期から後期、溝は中近世と考えられる。遺構外出土の土器は計25点あり、全て縄文土器である。幾片かは後期・加曽利Ｂ式に比定されるものがあり、他片も中期後葉を上らない時期のものと推定できる。

佐倉市側と千葉市側の成果を総合して判断すると、旧石器時代には一時的な逗留地としての「キャンプサイト」的な空間利用の痕跡がみられ、縄文時代は住居跡を主体とするような集落といった居住空間は形成されず、貯蔵穴や何らかの用途に供する土壙（土坑）群が広範囲に散在するといった状況であったことを窺わせる。これ以降の時代は、奈良時代に方形周溝状遺構を単独で形成する墓域として一部が利用されるが、墓域が発展的に継続することはない。中世以降も単発的に遺構が形成されるが、集落として大規模に台地上が開削されるような様子は窺うことができない。下泉町遺跡群の他の遺跡と比して遺構・遺物は少なく、非居住域としての空白地帯となっている。



第６図　白池台遺跡確認遺構配置図

2　新堤遺跡

新堤遺跡は、弥富川に開析する小支谷（左岸）に面した標高約40mを測る舌状台地上に立地する。遺跡の北西側に位置する白池台遺跡との間に極小谷があるが、白池台遺跡に比べ支谷に面する規模・台地平坦面の面積は広い。

この遺跡も、遺跡範囲の東端で千葉市と佐倉市の市境が存在している。遺跡範囲全体に比して、千葉市域の範囲は全体の1/6程度と少なく、遺跡の主体的な範囲が佐倉市域にあることになる。

佐倉市域では、平成８・９年度の２ヶ年にわたり、約23,000㎡を調査している。旧石器遺物集中箇所３箇所、縄文時代は早期・撚糸文系土器を主体とした包含層が広く検出され[*1]、中期１件・後期５軒の住居跡や土壙が検出されている。検出された遺構の主体となるのは、古墳時代前期の集落跡で33軒の住居跡や土坑が検出されている。奈良・平安時代の円形・方形周溝状遺構群や土壙墓等も検出されている。このような状況は、谷を挟んだ南東側に位置する上谷津第１遺跡や方形周溝状遺構が多く検出された端山越遺跡の様相と近似している。しかし、未報告なので詳細に不明瞭な点も多い。

年報や平成９年度千葉県遺跡調査研究発表会資料[*2]によると、古墳時代前期の住居跡は、台地の北東部と南西部の２群にまとまっているとされる。住居跡の特徴は、主柱穴がないものが大半を占め、貯蔵穴を有するものが多い。床面直上に焼土や炭化物が検出される場合があり、住居廃棄の際に火を放った可能性が指摘されている。また、住居跡の重複が見られず、床の踏みしめ具合が甘い点など、住居の使用年数が短いとの推測もされている。総体的に遺物量が多くはないが、まとまって遺物が出土する住居跡がいくつかあり、15・33号住居跡のように小型の甕が多く出土するような特異なケースもあるようである。住居跡出土の遺物の内、甕を概観するとケズリやナデ調整を施すものが大半を占め、ハケ調整を施すものは頚部や胴部上半にしか施されないものが多い。また頚部が明確に屈曲して外反・外傾するものが多く、緩く外反するものは少ない。小型器台は、穿孔部の厚みが薄く、杯部が脚裾部よりも小さいものばかりである。これらの特徴は、古墳時代前期の土器編年上はやや新相を示す傾向が窺えるようである。33号住居跡のように胴部上半に横区画の縄文帯や口縁部に棒状浮文を施す、やや古手の様相を呈する土器を出土する住居跡もあるが、総じて新相の特徴が目立つようである[*3]。同時期の集落である上谷津第１遺跡出土の遺物を概観すると、甕の口縁端部に刻みがあったり、ハケ調整が底部際まで施されたり、頚部屈曲が緩く外反するといった古相を呈するものがかなり含まれており、総じて西御門新堤遺跡よりも古相を呈しているように感じられる。このことから、谷を挟んで近接する両遺跡が極めて近しい関係の遺跡であるが、形成開始時期は上谷津第１遺跡の方がやや早かったもとの推測できる。これらに関しての詳細な検討は、第９章第２節にて後述する。

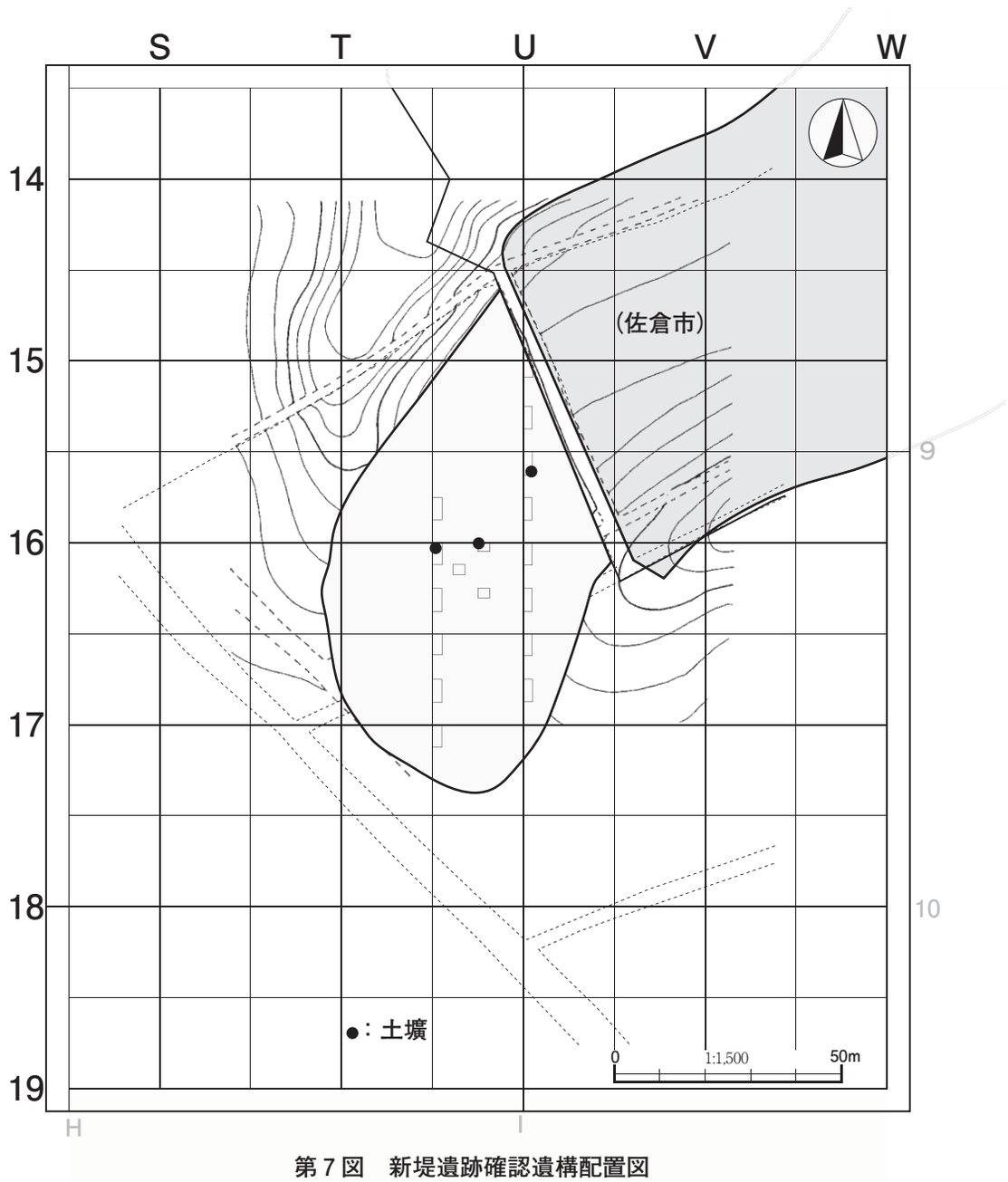
千葉市域で検出された遺構は、遺構・遺物ともに極めて少ない。遺構は、縄文時代の土壙３基のみである。遺物は、中期から後期半ばごろまでの縄文土器が51点出土している。千葉市側は、小台地の基部から平坦部にあたり、平面積的には広範なものの、他の遺跡同様に独立した突端部や緩斜面よりも人の手が入りにくい立地条件が整っているように思われる。なお、西御門新堤遺跡の遺構分布範囲の西端には遺構が希薄であり、溝と土壙ばかりである。最西端にある円形周溝状遺構は、距離にして50m近く離れ、主たる遺構の分布が台地の中央部から先端方面（東）に偏っていることは明瞭である[*4]。

※1　縄文時代早期条痕文期・撚糸文期の包含層は、上谷津第1遺跡と上谷津第2遺跡でも広く検出されている。住居跡などの集落跡は検出されていないが、台地の先端よりで緩斜面にかけて広範囲に分布するという傾向は、極めてよく似ている。西御門支谷を挟んだ対岸台地上の西御門荒生遺跡でも早期の包含層と炉穴・土壙群が検出されている。これら4遺跡の傾向から弥富川流域が、縄文時代早期の遺跡が密集する地域であると推測される。

※2　年報・発表会当時は、「新堤遺跡」として報告されているが、その後の整理作業の課程において千葉市の新堤遺跡と区分するために現在では「西御門新堤遺跡」として扱われている。

※3　西御門新堤遺跡出土遺物に関しては、竹内順一氏の御厚意により、整理途中の実測図面を拝見させていただいた。

※4　下泉町遺跡群で検出された集落は、台地上の広い平坦地よりも独立した小台地上の先端寄りのの平面地や緩斜面地に立地することが多い。このような傾向は、この遺跡群にかかわらず広く同様の傾向が窺える場合が多いように思われる。ただし、時期や構成される遺構によっては異なった占地をする場合も多々あり一概に括れないのも事実であり、立地傾向の分析が課題である。



第7図　新堤遺跡確認遺構配置図

3　端山越遺跡

端山越遺跡は、西側に鹿島川、北側に弥富川から延びる小規模な浸食谷の最奥部の右岸、標高約39～41ｍを測る台地上に立地する。遺跡範囲は、佐倉市に跨って広がっており（内田端山越遺跡・内田端山越窯跡）、千葉市側は遺跡の南東端部の25,000㎡程が対象範囲であった。周辺には、北東側の浅い谷津を挟んで井戸作南遺跡と宮内井戸作遺跡、東側に大草台古墳群が所在する。

内田端山越遺跡は、印旛沼に注ぐ鹿島川の右岸、標高約26～40ｍを測る台地上に主に展開している。遺跡範囲は広く、千葉市側の端山越遺跡の面積に比して数倍の面積である[※1]。

遺構は、旧石器時代は遺物集中箇所17箇所、縄文時代は早期の炉穴13基と包含層４箇所、中期の住居跡７軒、後期の住居跡８軒、多くの陥穴や土壙、古墳時代は後期の住居跡が17軒と土坑が27基等が検出されている。この遺跡の主たる時代は、奈良・平安時代で、住居跡247軒、掘立柱建物跡75棟、土坑285基、須恵器窯３箇所、粘土採掘坑３基等の集落と生産址が検出されている。中近世も土坑や溝、土壙墓などが多く検出されている。数的に奈良・平安時代に広く台地上が利用されていたことは明瞭であり、居住域だけではなく生産域も併設している点が特に注目される。中でも、須恵器製作に関わる粘土採掘坑（素材の採集）、ロクロピットと粘土貼り土坑が検出された住居跡等の工房跡・保存庫、窯跡といった須恵器製作全般に関わる工程が把握できることは重要である[※2]。

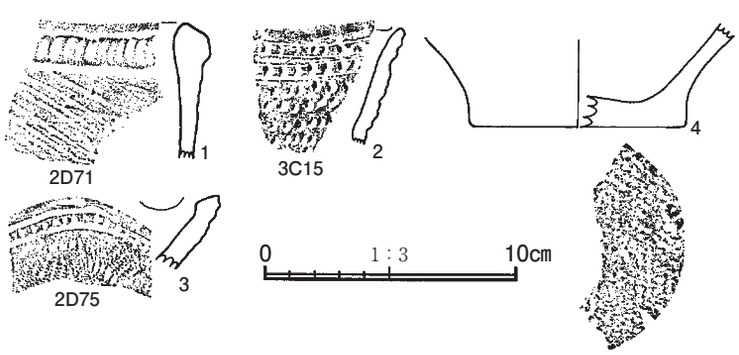
確認調査で検出された遺構は、縄文時代の土壙20基、古墳時代から平安時代までの住居跡９軒・土壙２基・方形周溝状遺構３基、時期不明の溝４条が確認されている。しかし、全ての遺構が本調査で再検出されているとは限らない。再検出された11・21号方形周溝墓、溝状遺構とされていたものが４・８・12号方形周溝墓に対応したが、住居跡・土壙の再検出率は悪く別遺構との誤認が多かった。つまり、第３表に示した成果が遺構の実数とはならなかったのである。この状況は、他の遺跡でも等しく見られる傾向である[※3]。

遺物は調査面積の割に少なく、縄文時代中期（加曽利Ｅ式）・後期（堀之内式・加曽利Ｂ式・安行式）の土器が主体で、中でも堀之内Ⅱ式～加曽利Ｂ２式期のものが多い。他には奈良・平安時代の土師器と中近世陶磁器が出土しているが、再検出された遺構周辺に集中し微量である。

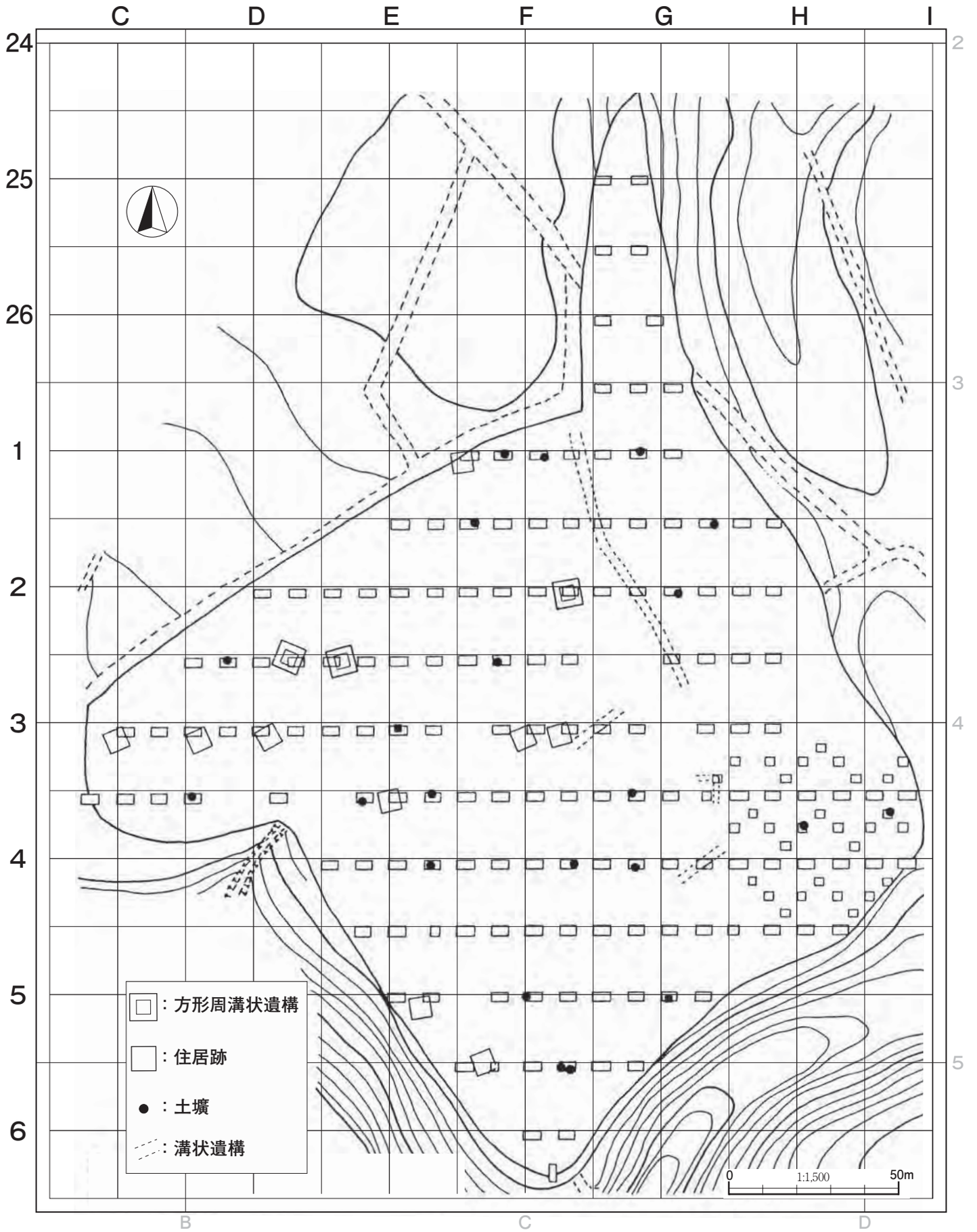
※１　対象面積は広いものの、鹿島川から延びる複雑に入り組んだ浸食谷を除く台地上に遺構が広く展開しており、時期・性格・分布傾向等を把握できればひと括りでは扱えない古代の空間利用が明らかとなろう。

※２　端山越遺跡でも本調査の時にロクロピットが付設された住居跡が１軒検出され、内田端山越遺跡の工房跡群の一角を担っていると考えられる。この住居跡以東には同期の集落が確認できないことから、内田端山越遺跡の奈良・平安時代の集落の最東端を検出したと考えられる。集落が広がらない反面、方形周溝状遺構や土壙墓・有天井土壙といった墓域を構成する遺構群が多く検出されており、内田端山越遺跡が集落域、端山越遺跡付近が墓域として区分された土地利用が行われていた可能性を想定できる。

※３　調査時の状況的制約は仕方ないことだが、調査区の設定方法の妥当性には疑問が残らざるを得ない。



第８図　端山越遺跡確認調査時出土遺物



第 9 図　端山越遺跡確認遺構配置図

4　上谷津第１遺跡

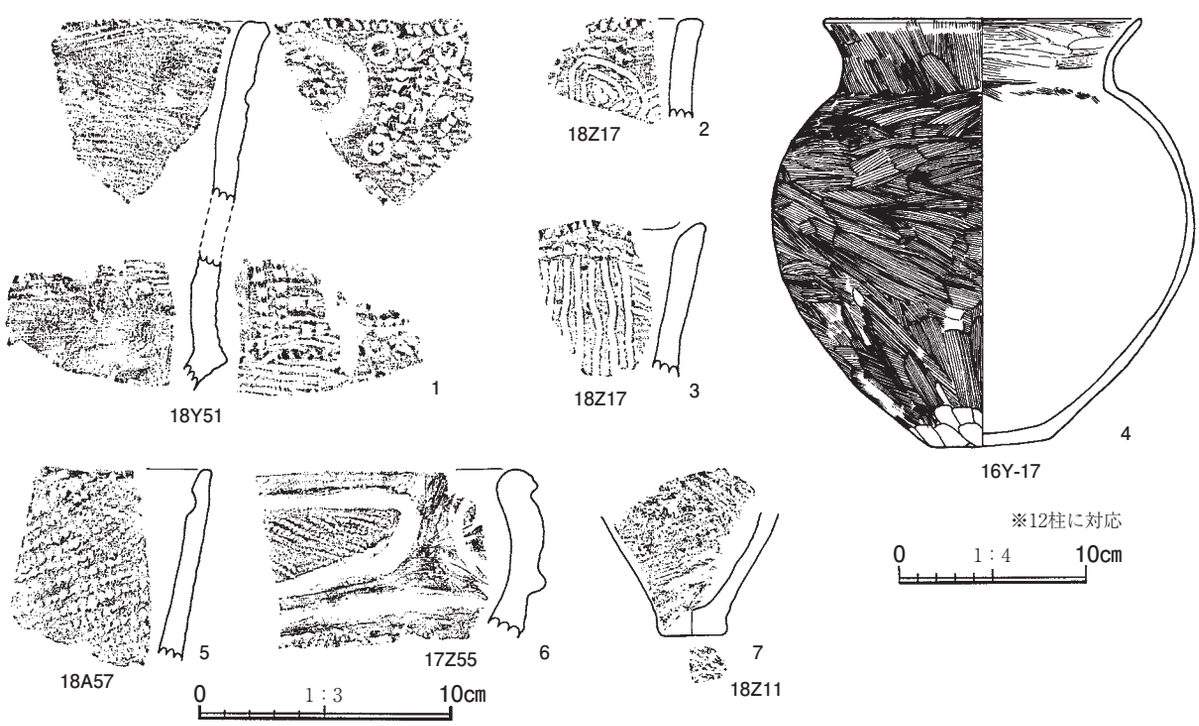
上谷津第１遺跡は、東側に西御門支谷を見下ろす標高約42～44ｍを測る台地上に立地する。北側に西御門新堤遺跡・新堤遺跡、南東側に上谷津第２遺跡が所在する。遺跡範囲は全て千葉市域である。

確認調査では、縄文時代の住居跡10軒・土壙37基、古墳時代から平安時代までの住居跡12軒・土壙４基・方形周溝状遺構２基が確認された。それらの内、縄文時代中期から後期の住居跡10軒は、本調査では再検出されず、未確認であった中期の住居跡が１軒検出された。古墳時代前期の住居跡は、６・12・18・19・21号住居跡が再検出された。なお、第10図- ４の土師器は、12号住居跡が検出されたグリッドから出土したものである。方形周溝状遺構は、３・４号が再検出、７号が住居跡と誤認されていた。また、円形周溝状遺構も住居跡とされていた。平安時代の住居跡は検出されず、遺物も確認されなかった。土壙の内２基が３・９号炭窯に対応した。

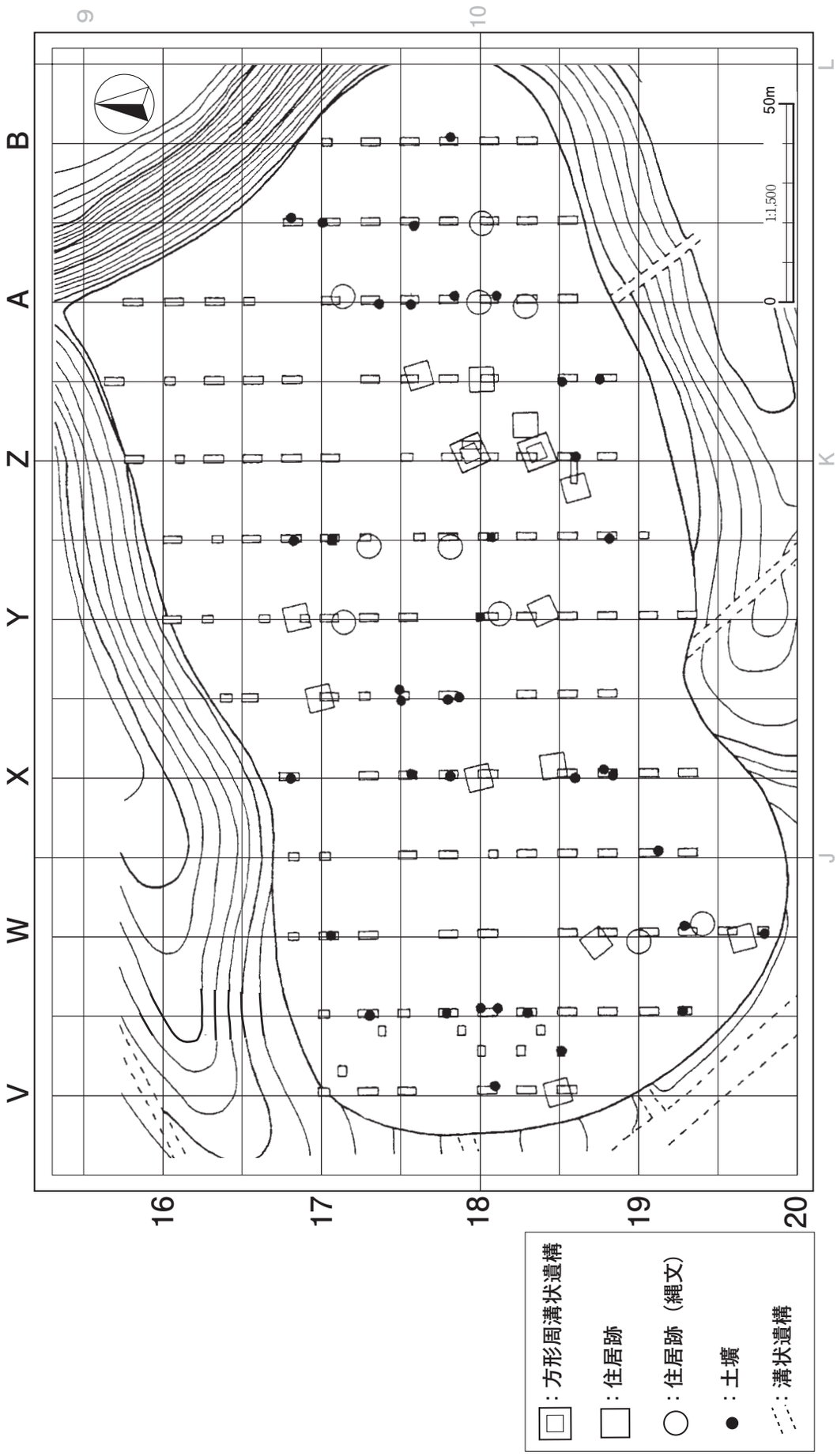
遺物は、縄文時代の土器片コンテナ２箱・石器・石材17点、古墳時代の土器片43点が出土した。縄文時代中期加曽利ＥⅣ式と後期加曽利Ｂ式の土器が最も多かった。また、縄文時代早期・条痕文系の土器片(第10図- １・２・７)が比較的目立ち、第159図に示した分布範囲とほぼ合致する傾向が窺える。特に１のような茅山下層式に比定されるものが多い。また、撚糸文系の土器片も混在しており、台地の先端部に集中する傾向が窺えた。微量だが、加曽利ＥⅡ式頃の遺物（６）が数点出土したが、該当する時期の遺構は、本調査でも検出されていない。また、堀之内式も少量ある。

古墳時代の遺物は前期のものが少量出土しているが、住居跡が再検出されたグリッド周辺に集中しており、細片が微量出土したグリッドもある[※1]。

※１　このような出土傾向は、住居跡廃棄後の開発行為による遺構の破壊がほとんど行われなかった可能性を示唆しており、本調査において出土した遺物の一括性を端的に示すものと考えられる。



第10図　上谷津第１遺跡確認調査時出土遺物



第11図　上谷津第１遺跡確認遺構配置図

5　上谷津第２遺跡

上谷津第２遺跡も東側に西御門支谷を見下ろす標高約42～44ｍを測る台地上に立地する。浸食谷を挟んだ北西側に上谷津第１遺跡があり、西御門支谷の対岸台地上に西御門荒生遺跡が所在する。この遺跡も遺跡範囲全てが千葉市域である。

確認調査では、縄文時代の住居跡12軒・土壙51基、古墳時代から平安時代の住居跡１軒、中近世の炭窯１基が検出されている。これらの内、縄文時代の住居跡７軒・土壙の大多数、古墳時代から平安時代の住居跡が誤認であった。３・６・12号住居跡は再検出され、10・11号住居跡が土壙として確認されていた。土壙の誤認率が極めて高く、完全に整合したものはない。

遺物は、縄文時代の土器片コンテナ２箱・石器・石材10点、古墳時代から平安時代の土器片が５点出土した。全体的に上谷津第１遺跡とよく似た状況を呈している。縄文時代早期の撚糸文系・条痕文系の土器は第203図に示した分布範囲とほぼ合致する傾向が窺える。

撚糸文系の土器は、量的には多くはないものの散在する。縦位の撚糸が尖底部まで施される夏島式（第12図-3）の土器が主体で、細片の中に大浦山式が若干含まれていた。

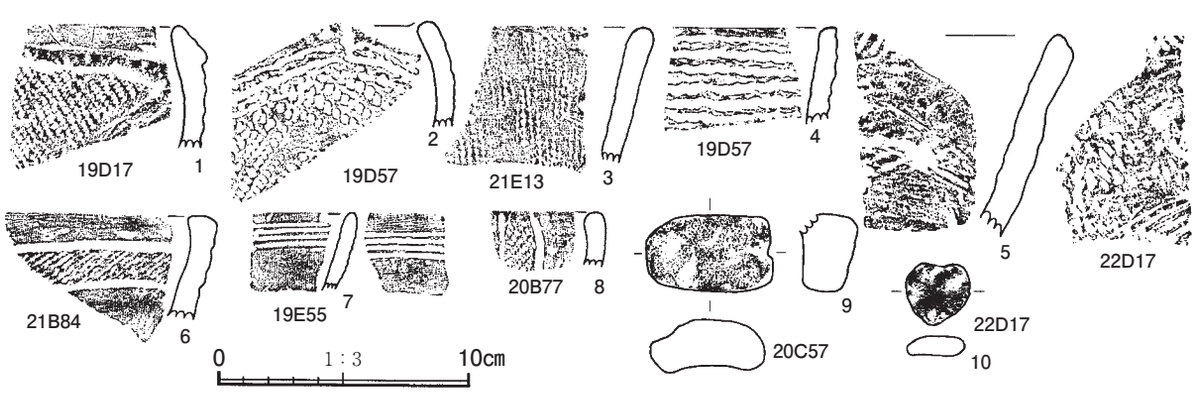
条痕文系の土器は撚糸文系に比べて多く、調査対象域に広く出土した。茅山下層式が最も多く、鵜ヶ島台式が少量含まれていた。また、尖底土器はなく、平底のものばかりであった。

前期の土器は、沈線文系の土器片が微量あり、黒浜式（第12図-4）と諸磯式が散見できたが、量的には少なかった。本調査では、４軒の前期住居跡が検出されているので、当該期遺物が出土することに問題は感じないものの、出土した地区に際だった偏りがないことから、遺物の包含層が浅く広く広がっていたと推定される。

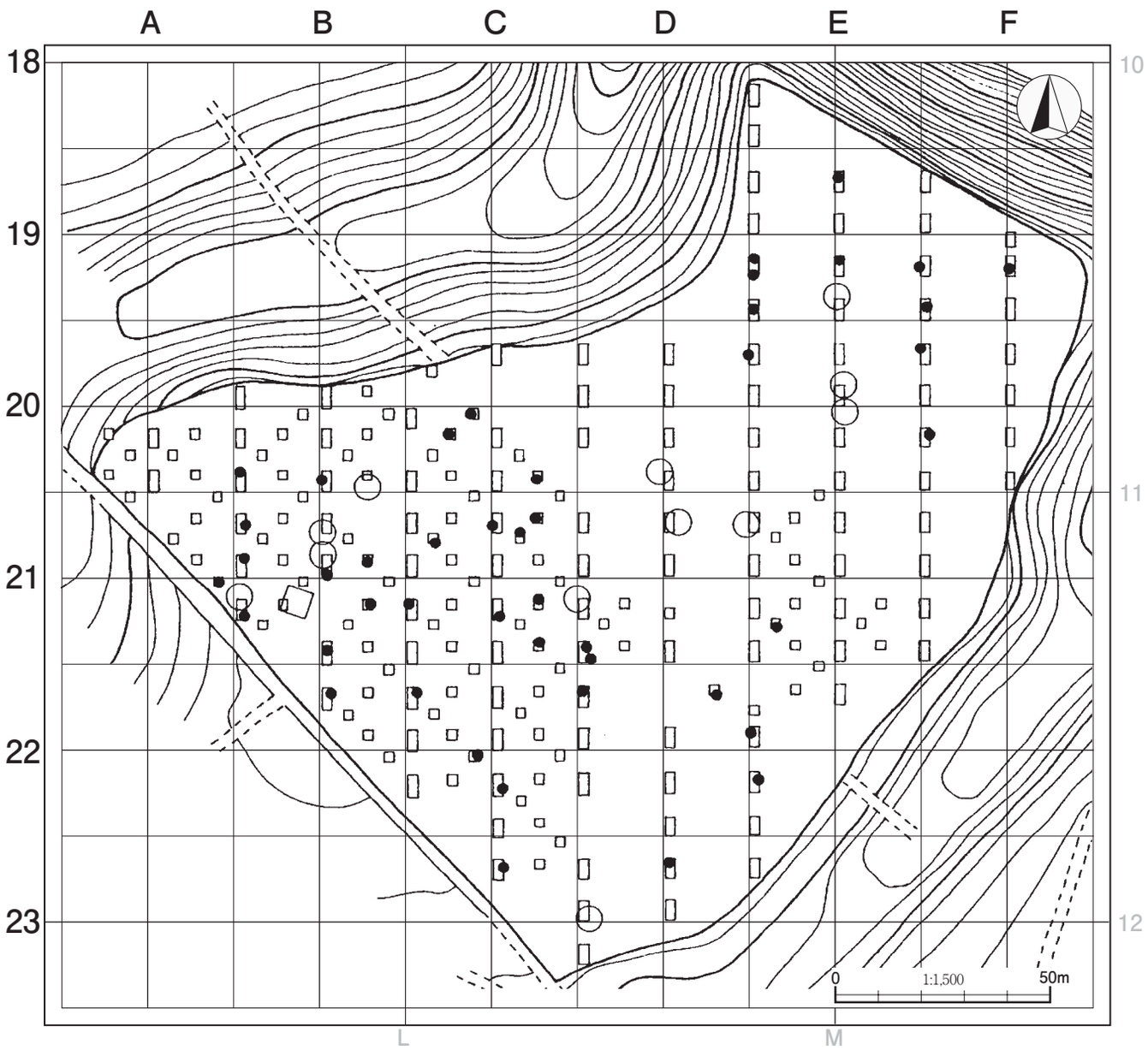
中期の土器は末葉のものが主体である。しかし、称名寺式に伴う加曽利ＥⅣ式系との区分は現状ではできないので、時期の確定はしにくい。本調査の成果を鑑みても、中期末葉から後期初頭の過渡期の様相を呈しているとしか判断できない。

後期の土器は、称名寺Ⅰ式が一定量含まれているが、加曽利ＥⅣ系のものもかなり含まれているようである。堀之内式も少量含まれていたが、加曽利Ｂ式がもっとも出土量が多かった。安行式の細片も含まれているが、後期か晩期かは判別できない。

９と10は、土器片錘である。両方とも使用によると考えられる摩耗が激しい。９は厚みと形状から中期末葉前後と推定される。10は、かなり文様が不鮮明だが、前期・撚糸文かもしれない。



第12図　上谷津第２遺跡確認調査時出土遺物



第13図　上谷津第２遺跡確認遺構配置図

6　井戸作南遺跡

井戸作南遺跡は、鹿島川中流域右岸の標高約42～44mを測る台地上に立地する。この遺跡も、佐倉市（宮内井戸作遺跡）と千葉市の２市に跨って遺跡が展開し、検出された遺構の密集具合から遺跡中心域が宮内井戸作遺跡にあることがわかっている。井戸作南遺跡は、集落の最も西端の一部をかすめているにすぎないが、２遺跡でこの集落ほぼ全ての範囲を網羅したことになる。なお、西側に端山越遺跡・内田端山越遺跡、東側に明神台遺跡、北側に宮内南台遺跡が所在する。

宮内井戸作遺跡は、旧石器時代から中・近世まで遺構が形成される。その中で縄文時代後・晩期の集落が主体となる。住居跡と住居跡を構成する柱穴・貯蔵穴・土壙・墓壙などの多種に及ぶ遺構が約5,000基以上検出され、総重量が100ｔを超える膨大な遺物が出土している。

この集落は、弥富川側から開析された浸食谷を囲む範囲が中心域である。時期的には、中期末葉（加曽利ＥⅣ式期）から晩期中葉（前浦式期）まで継続して造営され、時期によってその分布範囲を変化させつつ限られた範囲内に展開することが報告されている[*1]。中期末葉から後期初頭（称名寺式期）頃は調査範囲全体に散在しており、その中心はⅡ区である。この時期は、内田端山越遺跡・明神台遺跡上谷津第２遺跡でも同時期の遺構が検出されており、お互いに連動した集落と推測される。後期前葉（堀之内式期）に集落は最盛期を迎え、後期中葉（加曽利Ｂ式期）にも安定して形成され続ける。そして、後期末葉（安行式期）に規模を縮小し、晩期には遺構・遺物とも激減しているようである。

遺構の中では、Ⅱ区を中心に検出された加曽利Ｂ式期から出現する大型住居跡が注目できる。その中で118号住居（晩期前葉に廃棄）の残存具合が最もよく例に取り上げられることが多い。径は約15m、４・５回の建て替えが行われ、後期中葉以降晩期に至るまで長期間集落の中心的建物として利用されていた可能性が指摘されており、この遺跡を知らしめたシンボル的な遺構となっている。

遺物は、大量の土器や石器と共に、耳飾り・土偶（筒形・山形・ミミズク形等）・土版（人面付きを含む）・亀形土製品・垂飾（翡翠製・鮫歯製・牙製）・玉類などの特殊なものが多く含まれていた。群馬産と推定される耳飾りや東北地方産と考えられる遮光器土偶片などの遠隔地との交流を物語るものも含まれていた。シカなどの獣骨、貝類、炭化したトチなどの動物遺存体も多く出土している。

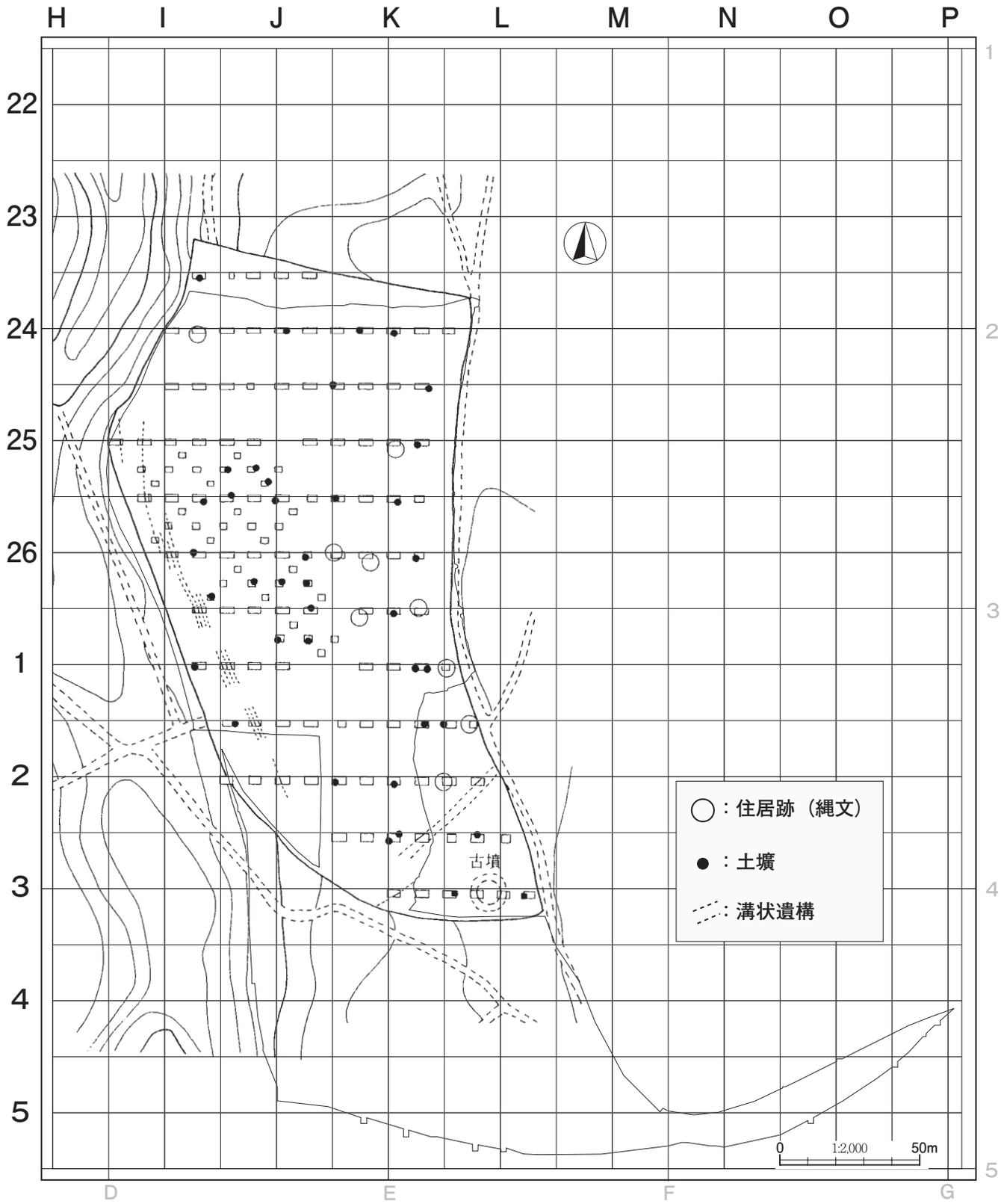
古墳時代は、中期の集落が検出されている。井戸作南遺跡と大草台古墳群でも検出され、事業範囲内の広大な台地平坦部に小規模な集落が散在する様子が窺える。

中世の遺構も多く検出されているが、台地整形区画といった一般集落的な要素を有したものが主体である。

井戸作南遺跡の確認調査は、平成元年度に実施したものと平成９年度に本調査へ継続して実施した時の２度に分かれている。検出した遺構は主に平成元年度のものだが、縄文時代の住居跡９軒・土壙38基、古墳時代から平安時代の土壙２基、古墳１基が確認され、遺物は縄文土器７箱・石器25点・古墳時代以降の土器１箱・中近世の陶磁器片などが出土した。しかし、本調査時に対応できたのは、住居跡が１号住居跡１軒・13号溝・少数の土壙などであり、対応率は悪い。

円墳が確認されたが、本調査では保存範囲として調査が実施されていない。

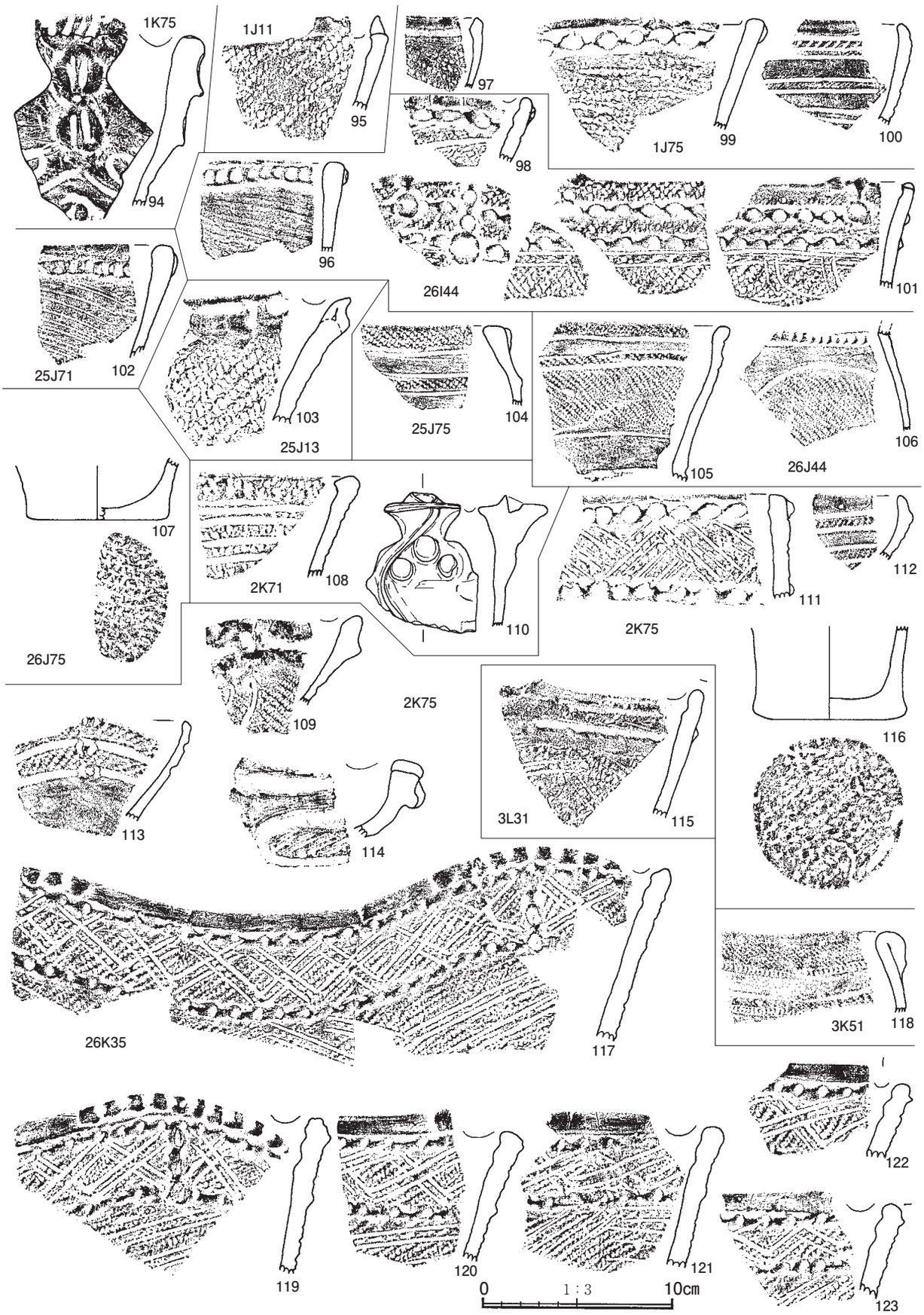
遺物は、多数出土し、その多くが縄文土器である。加曽利ＥⅢ式～安行3ａ式までの土器を確認し、その内最も多いのは､加曽利Ｂ２式の粗製土器である。加曽利Ｂ１式の精製土器も比較的多い。量的に



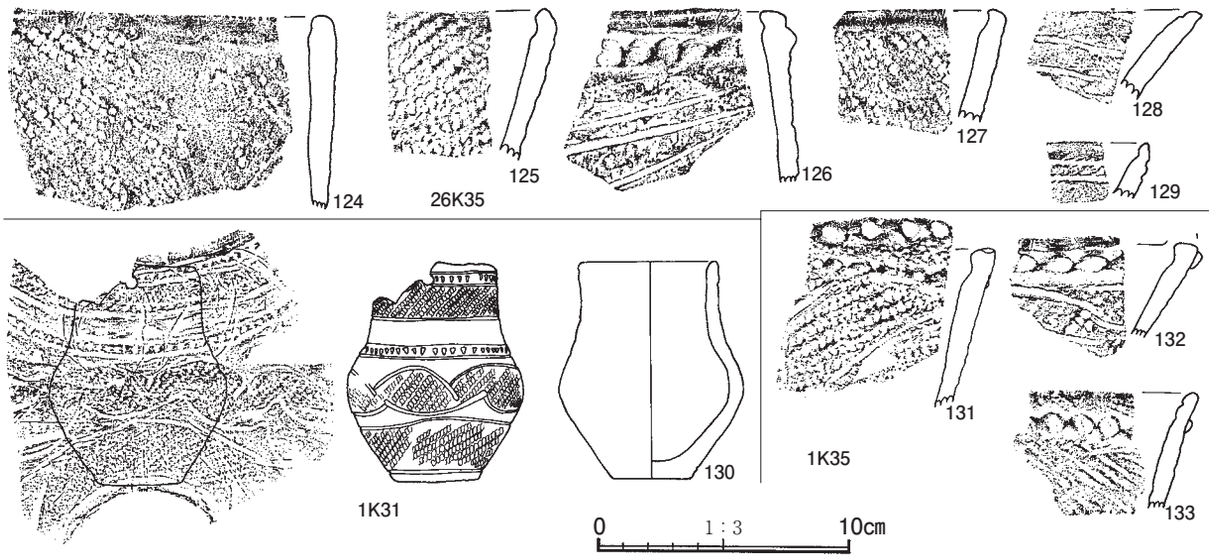
第14図　井戸作南遺跡確認遺構配置図

第15図　井戸作南遺跡確認調査時出土遺物①

第16図　井戸作南遺跡確認調査時出土遺物②



第17図　井戸作南遺跡確認調査時出土遺物③



第18図　井戸作南遺跡確認調査時出土遺物④

は多くないが、曽谷式と思われるものも含まれている（第15図-39・第16図-10・第18図- 7）。これらの土器は、１Ｋ・26Ｋ区に特に集中する。本調査でも同時期の遺構が集中して検出された範囲にあたる。２Ｋ区も同様の傾向が窺えたが、協議の結果保存地域となったので本調査は実施していない。

※１　田中大介　2007 「宮内井戸作遺跡」平成18年度千葉県遺跡調査研究発表会発表要旨

第２節　小結

ここまで、確認調査を実施した６遺跡の状況を解説してきた。白池台遺跡と新堤遺跡は、遺構・遺物とも少なく、遺跡の主体的な範囲が佐倉市側の西御門白池台遺跡・西御門新堤遺跡にあることがわかった。両遺跡に共通しているのは、当市の調査範囲が舌状台地と主たる台地平坦地をつなぐ基部にあたり、その範囲に遺構が検出されることが少ないという傾向を示すことができたことである。この傾向は、上谷津第１・２遺跡でもみられ、この遺跡群共通のものであると予想される。このような傾向が他の遺跡でも合致するかは今後の検討課題である。端山越遺跡は、調査対象範囲が広い割に確認された遺構・遺物は少なかった。奈良・平安時代の方形周溝状遺構のように出土遺物が少ない遺構が広く分布し、佐倉市の内田端山越遺跡で検出された古代集落の奥津城である可能性を示唆していた。上谷津第１遺跡では古墳時代前期の土器が出土し、本調査成果でも当該期の集落が広く展開していることが判明した。同時に、早期・撚糸文と条痕文系の土器が一定量出土しており、広く包含層があったと理解できるのだが、残念ながら包含層の広がりを層序的に把握するには至らなかった。これは、上谷津第２遺跡でも同様である。上谷津第２遺跡は、縄文時代中期末から後期初頭のかけての遺物が比較的まとまって出土し、本調査成果と同じ結果となった。井戸作南遺跡は最も遺物が多く出土したが、宮内井戸作遺跡と比べ遺構の密集度が低いことが明確となった。遺物の内容も特殊な遺物は極めて少なく、集落の末端を把握できた程度であることが理解できた。

成果の評価は本調査成果の検討を踏まえて行うが、確認調査での唯一の問題点は、本調査成果と確認調査成果の間に若干の齟齬が生じたことである。確認調査時の様々な制約によって生じることと推測できるが、今後の調査精度の向上に向けての課題の一つとして把握しておきたい。

第３章　明神台遺跡の調査

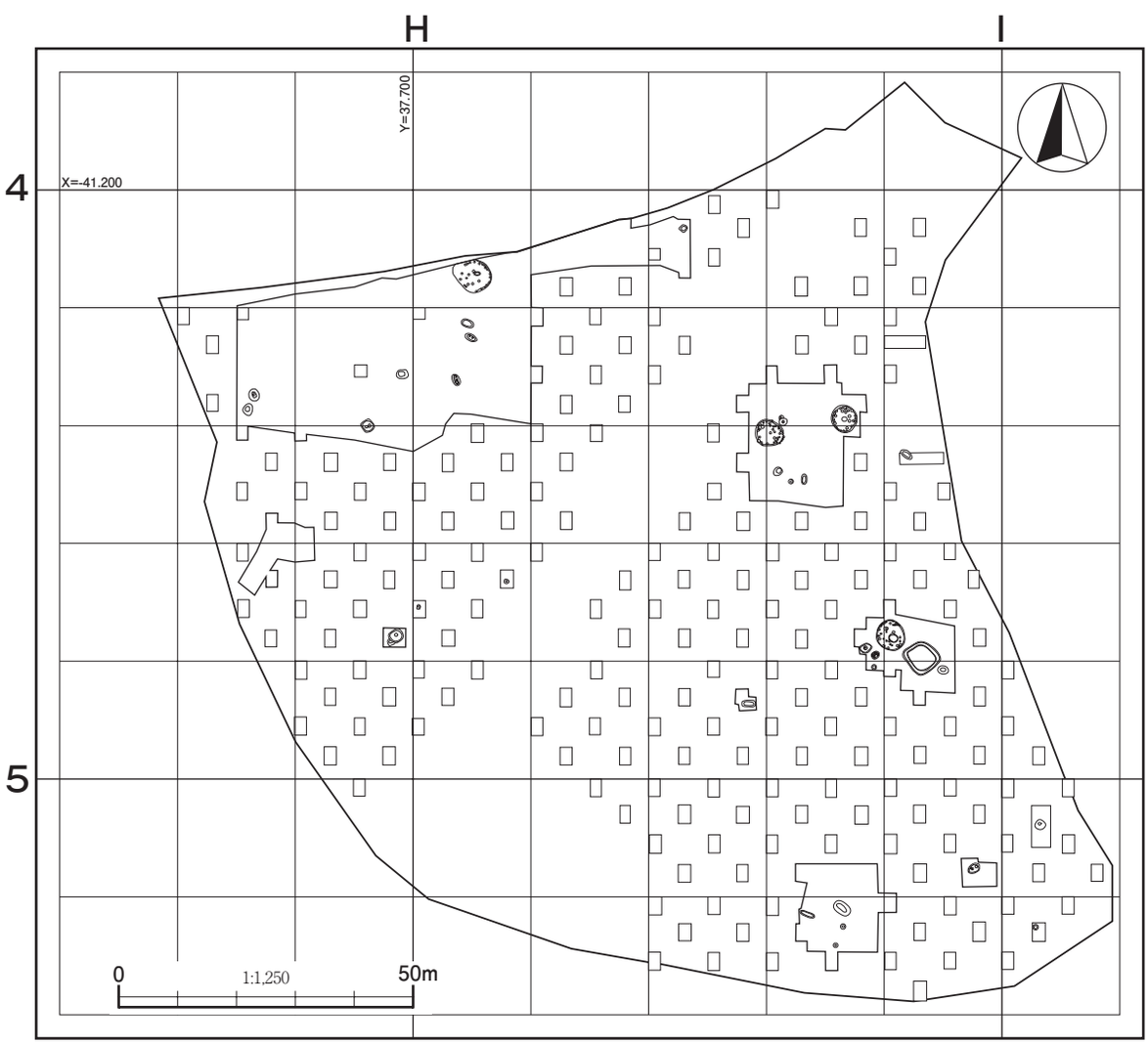
明神台遺跡は、調査範囲に比して遺構の密度はまばらであったため、確認調査を実施後に遺構の確認された範囲を拡張して本調査を継続して実施した。従って、第２章では項をもうけていない。調査成果は第４表にあるとおりである。

第１節　遺跡の概要

明神台遺跡は、弥富川左岸の標高約40～43mの浸食谷の最奥部にあたる台地上中央部に立地する。遺跡範囲の約1/5が千葉市、残りの4/5が佐倉市に行政区分される。北西側に宮内井戸作遺跡・井戸作南遺跡があり、南側に大草台古墳群が所在する。

佐倉市側の調査は、財団法人印旛郡市埋蔵文化財センターによって平成７～９年度に確認調査と本調査が実施されている。しかし、まだ調査成果の本報告はされていない。

調査成果の概要は、旧石器の遺物集中地点が３箇所、縄文時代の炉穴４基（早期）・住居跡７軒



第19図　明神台遺跡遺構配置図

（早期２軒・前期１軒・後期４軒）・土坑５基・土壙107基・晩期包含層、奈良・平安時代の方形周溝状遺構19基（内、１基は主体部検出）・土壙墓３基・土坑38基、中近世は土壙墓・土坑・溝・炭窯等が検出されている。旧石器は調査区の北西側で出土し、３地点でそれぞれ200点近い石器及び剥片が出土している。縄文時代は、遺跡の南西部に集中しており、後期の住居跡は台地縁辺部で検出されている。早期条痕文期の住居跡が２軒検出されているが、条痕文期の包含層は上谷津第１・２遺跡、西御門荒生遺跡などでも広く確認されているものの、遺構が検出されたのは、佐倉市の調査での成果が遺跡群中で唯一の例となる。土壙は後・晩期のものが多く、晩期包含層を含めて隣接する宮内井戸作遺跡で検出されている同期の遺構群との関連性が注目される。また、晩期包含層出土の土器の多くが晩期荒海式の粗製土器とされ、同期の遺物が出土している西御門荒生遺跡と上谷津第１遺跡との位置関係から、西御門支谷に晩期末葉の集落が存在していた可能性を示唆している。奈良・平安時代の方形周溝状遺構群中では、平成９年度調査で検出された主体部を伴う例が注目される。主体部の形状は、平面形が長方形、墓壙底面に主軸に直交する３条の溝があり、中位に明確な段を有している。端

第４表　明神台遺跡遺構一覧

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
１号	住居跡	A001	縄文	堀之内１式	
２号	住居跡	A002	縄文	加曽利ＥⅣ式	
３号	住居跡	A003	縄文	加曽利Ｂ１式	
４号	住居跡	A004	縄文	加曽利ＥⅣ式	

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
１号	陥穴	C004	縄文		
２号	陥穴	C006	縄文		
３号	陥穴	C008	縄文		
４号	陥穴	C014	縄文		

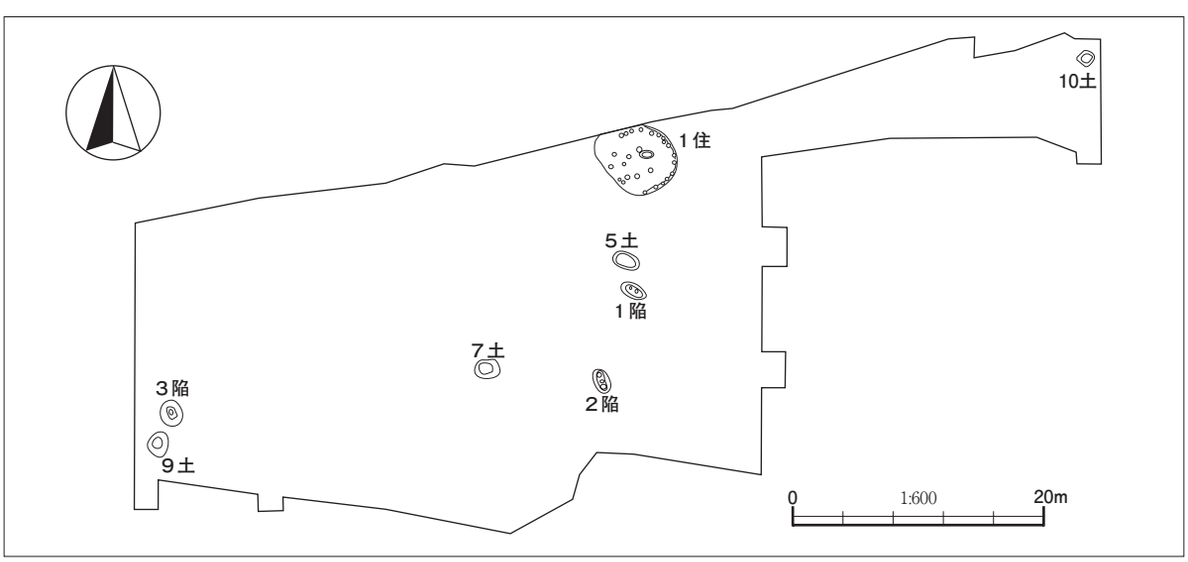
遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
１号	土壙	C001	縄文？		
２号	土壙	C002	縄文？		
３号	土壙	C003	縄文？		
４号	欠番				
５号	土壙	C005	縄文？		
６号	欠番				
７号	土壙	C007	縄文？		
８号	欠番				
９号	土壙	C009	縄文？		
10号	土壙	C010	縄文？		
11号	土壙	C011	縄文？		
12号	土壙	C012	縄文？		
13号	土壙	C013	縄文？		

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
14号	欠番				
15号	土壙	C015	縄文？		
16号	土壙	C016	縄文？		
17号	土壙	C017	縄文	加曽利ＥⅡ式	
18号	土壙	C018	縄文？		
19号	土壙	C019	縄文？		
20号	土壙	C020	縄文	加曽利ＥⅣ式	
21号	土壙	C021	縄文？		
22号	土壙	C022	縄文？		
23号	土壙	C023	縄文？		
24号	土壙	C024	縄文？		
25号	土壙	C025	縄文？		
26号	土壙	C026	縄文？		

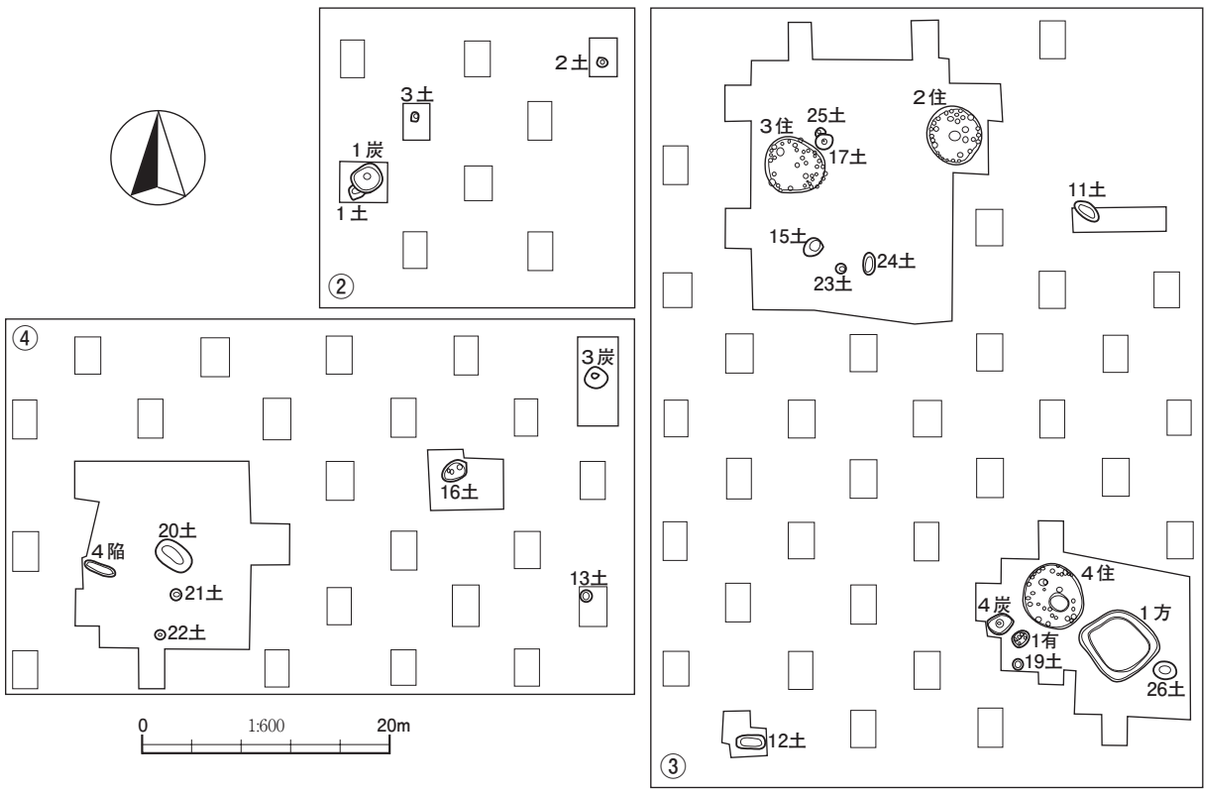
遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
１号	有天井土壙	C18	奈良		

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
１号	方形周溝状遺構	（同左）	奈良		

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
１号	炭窯	G001	中近世		
２号	炭窯	G002	中近世		
３号	炭窯	G003	中近世		
４号	炭窯	G004	中近世		



第20図　明神台遺跡遺構配置詳細図（1/600）①



第21図　明神台遺跡遺構配置詳細図（1/600）②・③・④

山越遺跡で検出された２号土壙墓（第53図）と酷似している。方形周溝状遺構が群集する面で、端山越遺跡・上谷津第１遺跡等と共に奈良・平安時代の集落が検出された内田端山越遺跡の墓域の一角として位置づけることが可能であろう。

第２節　検出された遺構と遺物

明神台遺跡からは、縄文時代中期末葉頃から近世までの遺構が検出されたが、住居跡・陥穴と一部の土壙を除き明確に遺構の時代を比定できるものは少ない。遺構の密度は薄いが、縄文時代中期末葉と後期半ば頃の集落の一部が散在していたことがわかる。後期（堀之内１式期）の１号住居跡は、この遺構以東に同時期の遺構が検出されていないことから、調査区西側の浸食谷を挟んだ宮内井戸作遺跡で検出された集落の一角である可能性もあろう。中期末葉（加曽利ＥⅣ式期）の２・４号住居跡は、後期的な要素を持った土器は全くなく、遺構のある調査区の一括遺物の中にも後期に属する遺物はないことから加曽利ＥⅣ式期の短期間に形成された集落である可能性が考えられる。

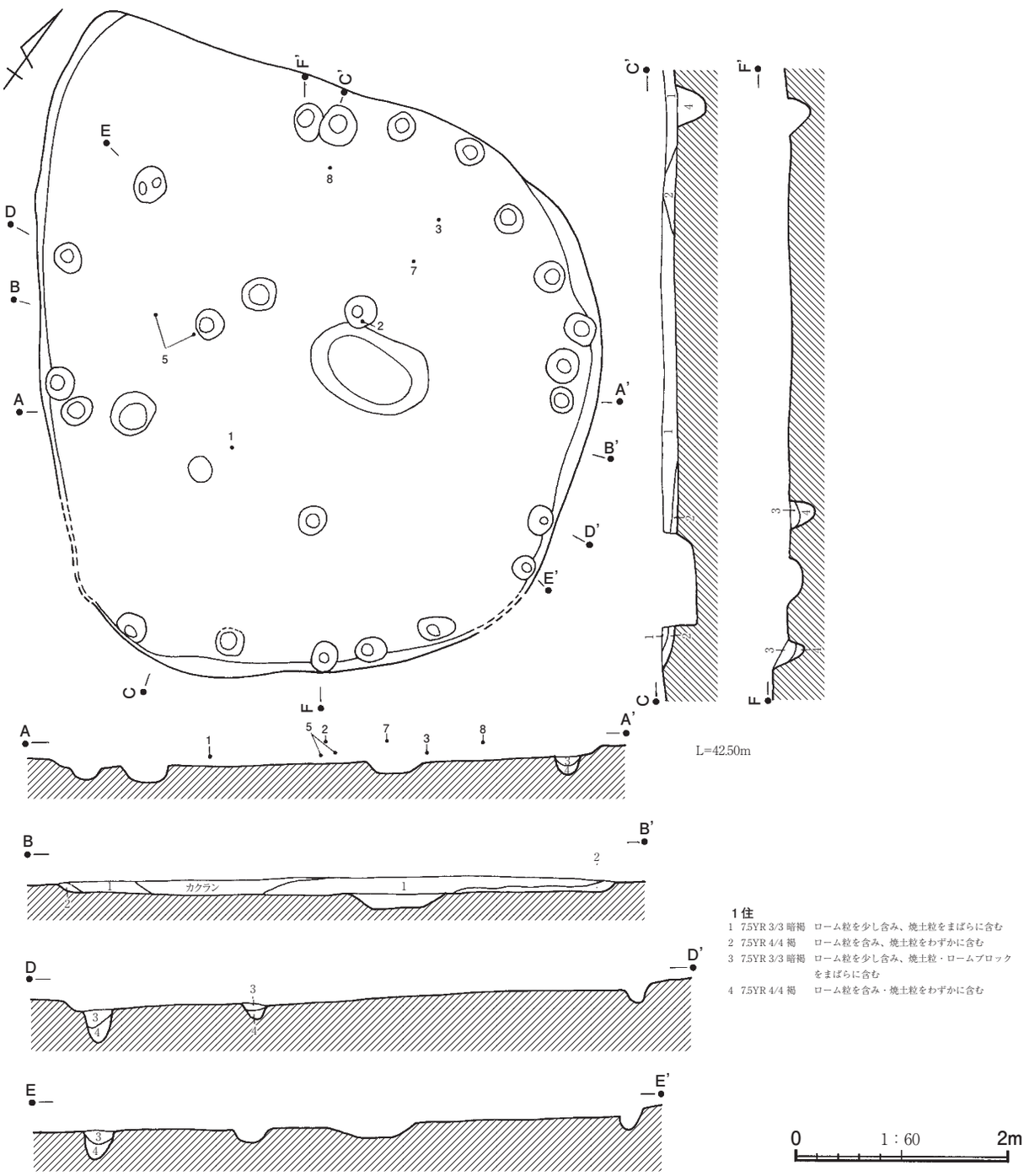
１　住居跡

第５表　明神台遺跡検出の住居跡（縄文時代）

遺構No.	検出区	主軸方位	平面形	規模（m）			炉位置	重複関係	時期	挿図No.		備考
				長軸	短軸	深さ				遺構	遺物	
１号	4H 2b･d 12a･c	N－　?　－W	円	5.7	5.5	0.17	不明	なし	堀之内１	第22図	第27図	
２号	4H 74c･75a	N－　?　－W	円	4.81	4.59	0.13	中央	なし	加曽利EⅣ	第23図	第27図	
３号	4H 55b･65a	N－　?　－W	不整円	5.2	4.6	0.16	不明	なし	加曽利B1	第24図	第28図	
４号	4H 78b･d 88a･c	N－　?　－W	円	5.6	4.76	0.2	やや南東より	なし	加曽利EⅣ	第25図	第27図	

1号住居跡　　遺構：第22図　　遺物：第27図

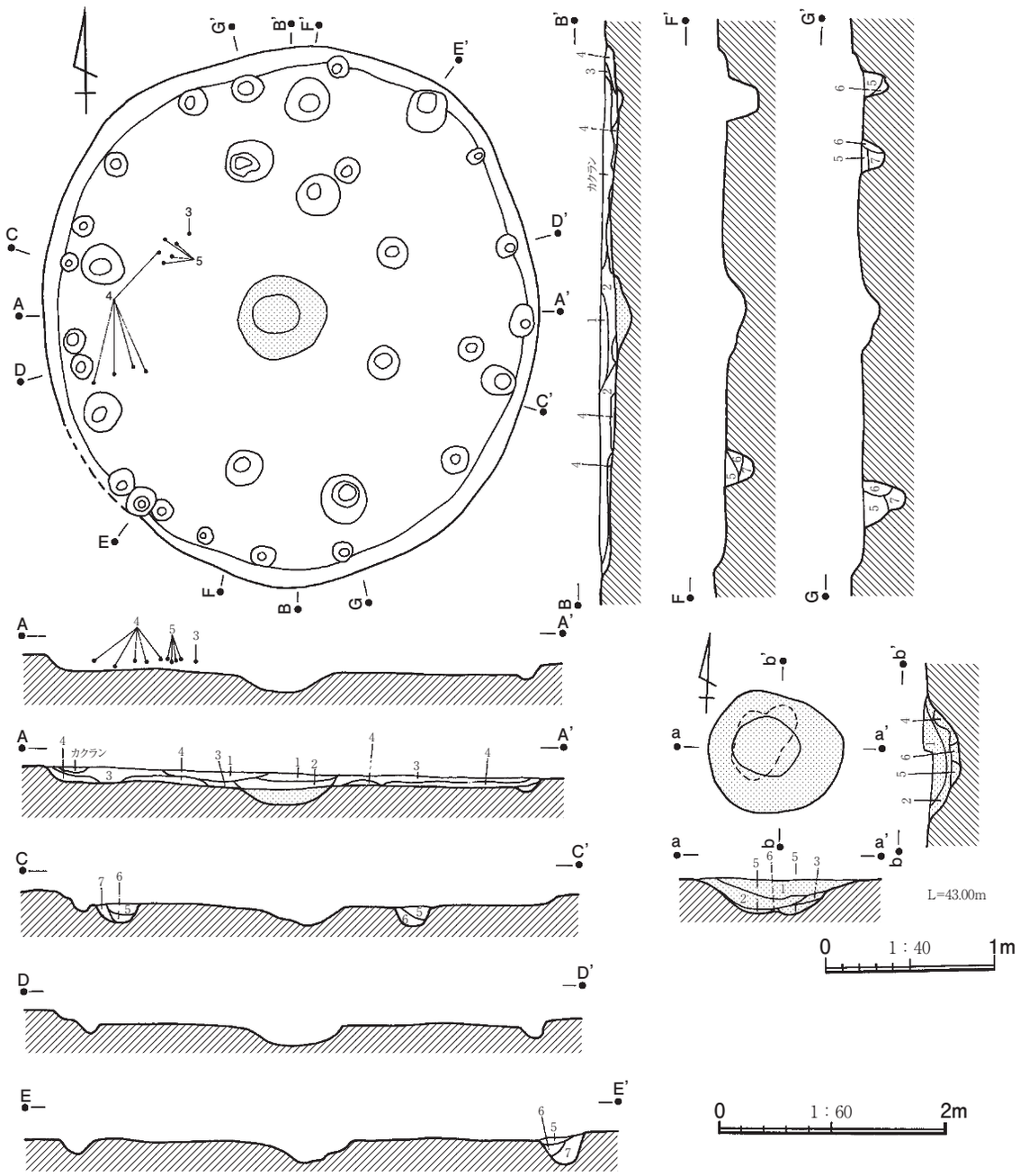
遺構の状況	平面形は円形を呈する。炉はほぼ中央。主柱穴はなく、壁柱穴がある。炉周囲に若干の柱穴がある。北西隅に無柱穴の床面らしきものがあるが、柱穴の配列具合から、掘りすぎの可能性もある。
遺物の状況	堀之内１式期の遺物が主体である。若干の中期末葉から後期初頭の土器片が混じるが、床面直上のものは堀之内式期のものでまとまる。
備考	



第22図　明神台遺跡１号住居跡

2号住居跡　　遺構：第23図　　遺物：第27図

遺構の状況	平面形は円形を呈する。炉は中央。炉の南北、やや壁寄りに主柱穴が2穴。壁柱穴はほぼ一巡する。
遺物の状況	加曽利EⅣ式期の遺物のみである。
備考	



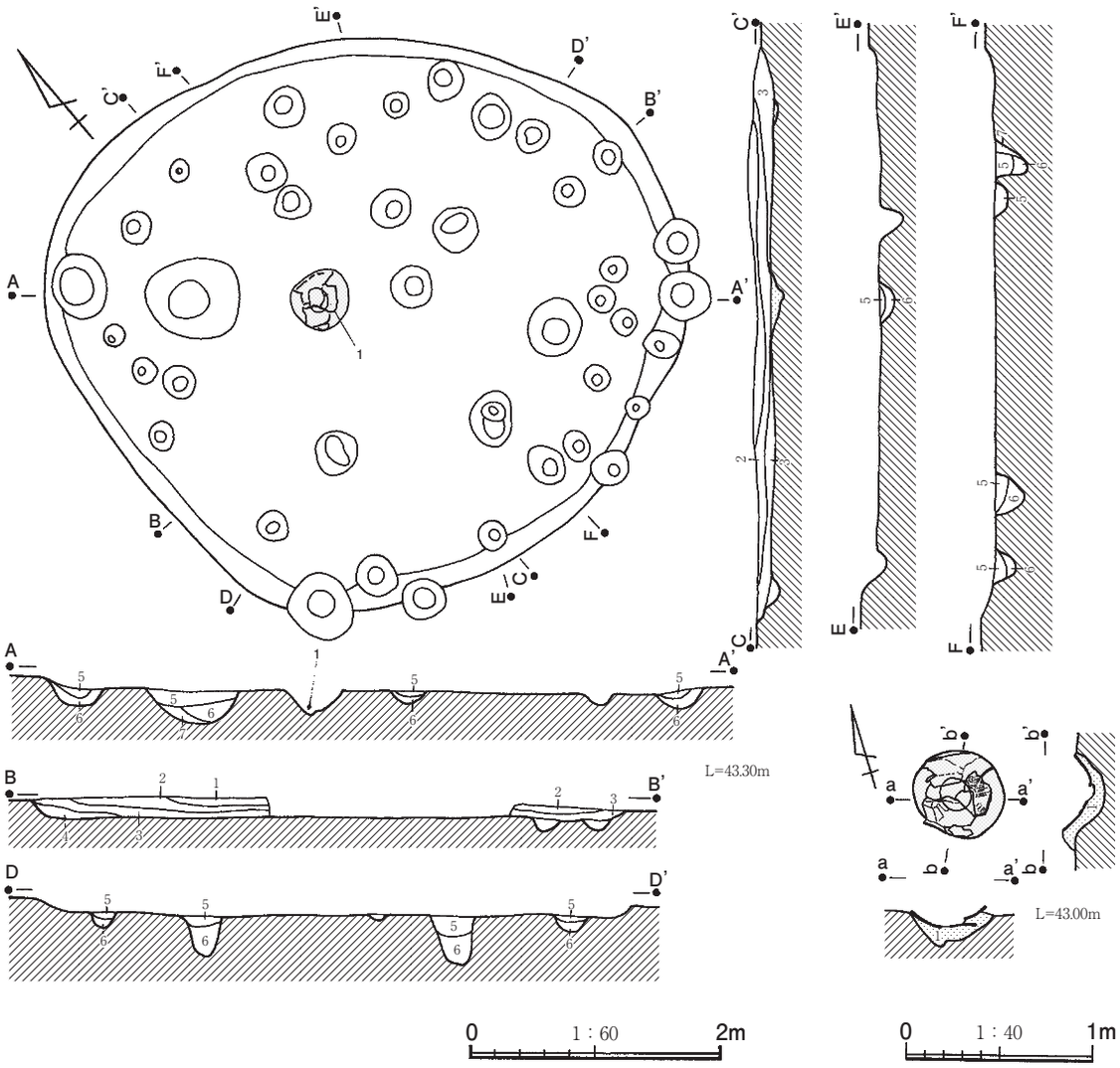
2住
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み・焼土粒を少し含む
2　7.5YR 4/5 褐　ローム粒を含み、焼土粒・焼土ブロックを少し含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
4　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロック・焼土粒をまばらに含む
5　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒・ロームブロックをまばらに含む
6　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを少し含み、焼土粒をわずかに含む
7　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを少し含む

2住炉
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・焼土粒をまばらに含む
2　2.5YR 3/3 暗赤褐　焼土粒含み・焼土ブロックを少し含む　ローム粒をまばらに含む
3　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含む
4　2.5YR 3/6 暗赤褐　焼土ブロックを含み、焼土粒を少し含む
5　5YR 3/4 暗赤褐　焼土粒を含み、ロームブロックを少し含む
6　2.5YR 4/5 赤褐

第23図　明神台遺跡 2 号住居跡

3 号住居跡　　遺構：第24図　　遺物：第28図

遺構の状況	平面形は、不整円形を呈する。炉は不明である。主柱穴が中央寄りに 4 穴。炉体土器が 1 箇所ある。壁柱穴が巡るが、比較的ランダムである。
遺物の状況	遺物は、炉体土器のみである。加曽利B1式期のやや大型の深鉢である。底部は欠損している。
備考	



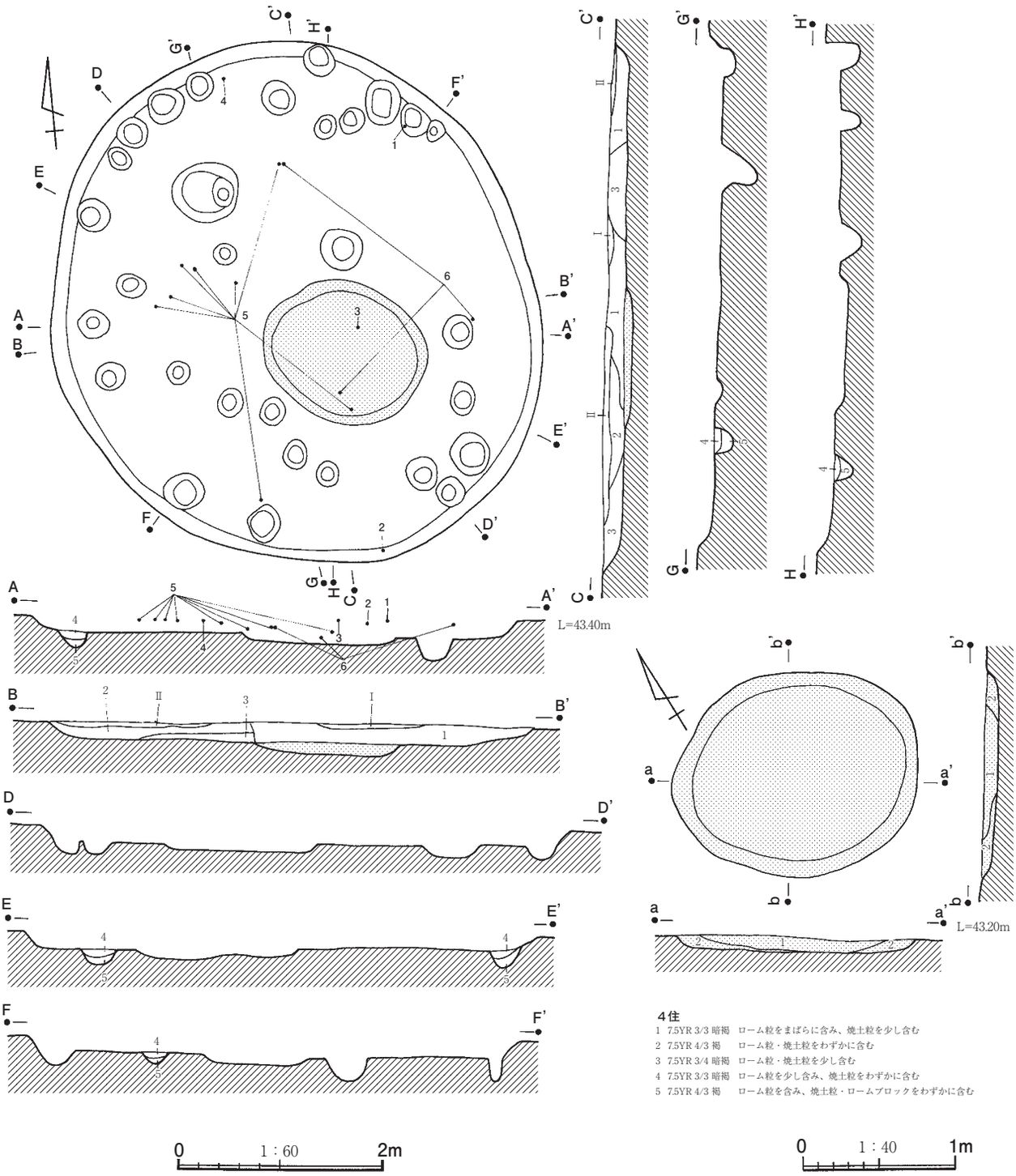
3住
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒子を含み、焼土粒・ロームブロックをまばらに含む
3
4　7.5YR 4/6 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを少し含む
5　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
6　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、焼土粒をわずかに含む
7　7.5YR 4/6 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む

3住炉
1　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を主体に、焼土粒をまばらに含む

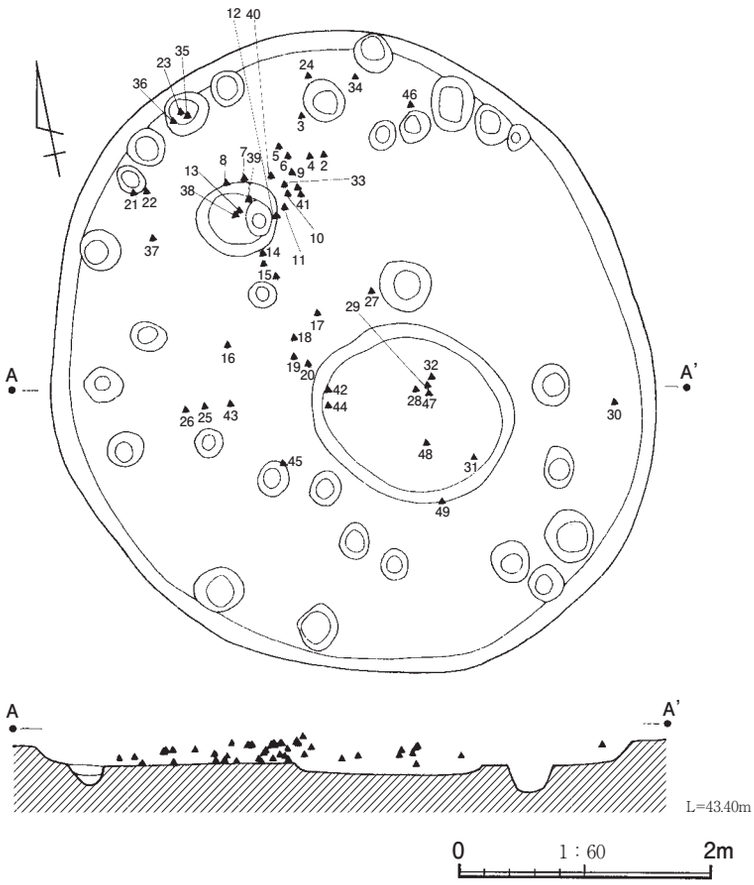
第24図　明神台遺跡 3 号住居跡

4号住居跡　　遺構：第25・26図　　遺物：第27図

遺構の状況	平面形は円形を呈する。炉はほぼ中央に大きめに焼土が分布する。主柱穴は不明瞭である。壁柱穴が、北東側を除きほぼ全周する。
遺物の状況	遺物は、加曽利EⅣ式期の遺物が主体である。
備考	



第25図　明神台遺跡 4 号住居跡



第26図　明神台遺跡４号住居跡出土黒耀石分布図

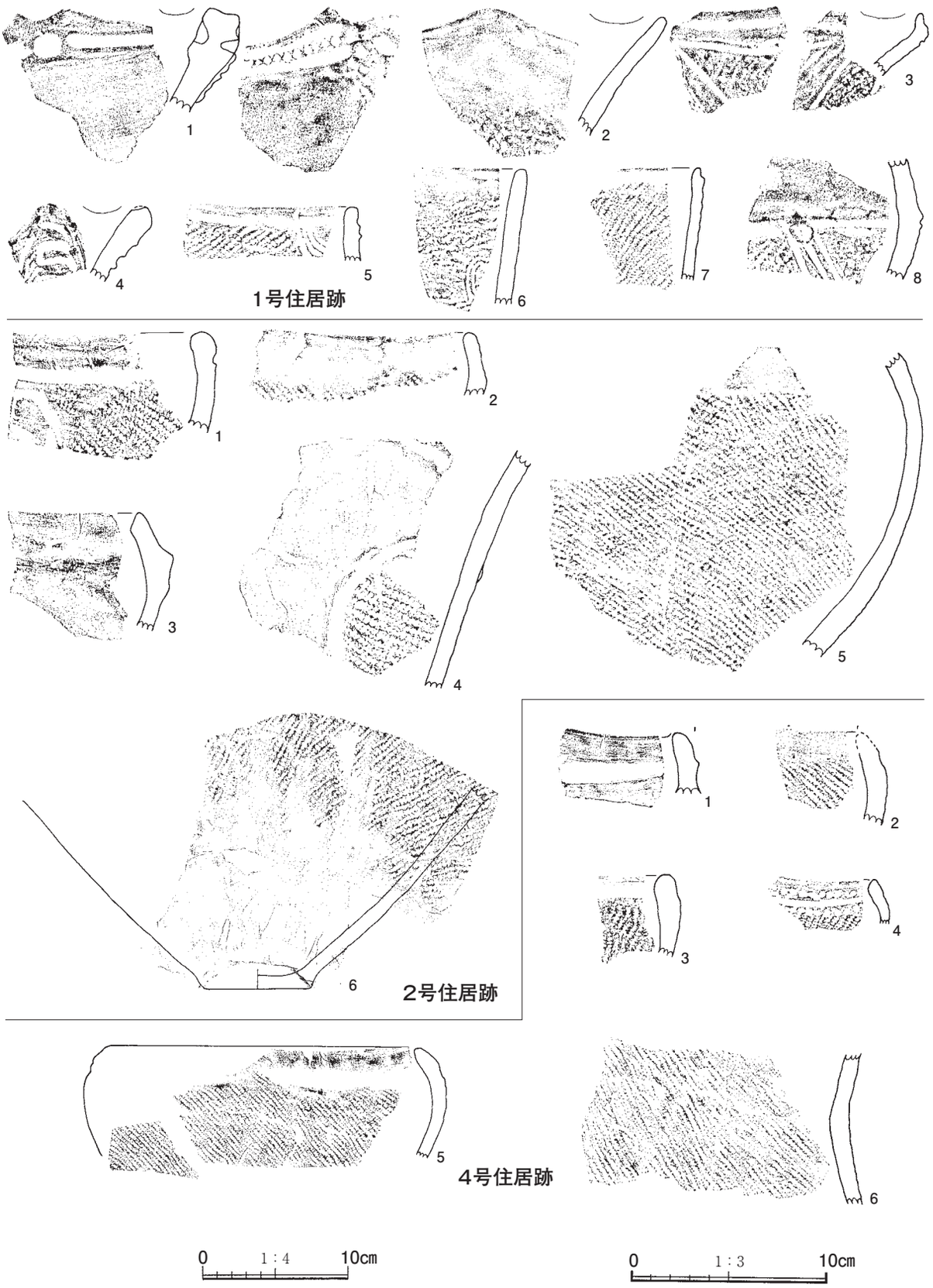
４号住居跡とその周辺域からは多くの黒耀石が出土している。第26図は４号住居跡内から出土した黒耀石のみの出土状況の図面である。この住居跡から出土した黒耀石は全て剥片で、0.1ｇ以下の細片が多く、床面直上からの出土であることから、この住居跡内で石器が加工されていた結果と考えられる。住居跡周辺から出土しているものも多いが、遺構よりも上層の包含層内に含まれており、耕作などによりこの遺構の一部が破壊された折に周辺に拡散した結果と考えている。なお、接合を試みたものの小さなものが多かったので全く接合することができなかった。

４号住居跡及び周辺の全ての剥片・石器を蛍光Ｘ線分析した結果[*1]、１点を除き他の全ての剥片が長野県諏訪郡星ヶ塔産のものであることがわかった。また、17・20・26号土壙周辺の資料も同様の結果であった。

４号住居跡は縄文時代中期末葉の加曽利ＥⅣ式期の住居跡であり、この住居跡周辺と一部の遺構周辺でのみ黒耀石が出土しているので、明神台遺跡から出土したほぼ全ての黒耀石が中期末葉の所産である可能性が高いと予測できる[*2]。

※１　黒耀石の産地同定分析は、附編にて成果を掲載したとおりである。しかし、その成果に基づく下泉町遺跡群での検討は行うことができなかった。稿を別にして詳細を再検討することとしたい。

※２　うならすず遺跡の加曽利ＥⅣ式期とされる黒耀石も星ヶ塔産のものが多い。しかし、遺跡によって出土状況や取り上げ方、包含層の特徴などの相違点があり、型式学的な同時性をもって単純に評価することは慎重になるべきかもしれない。



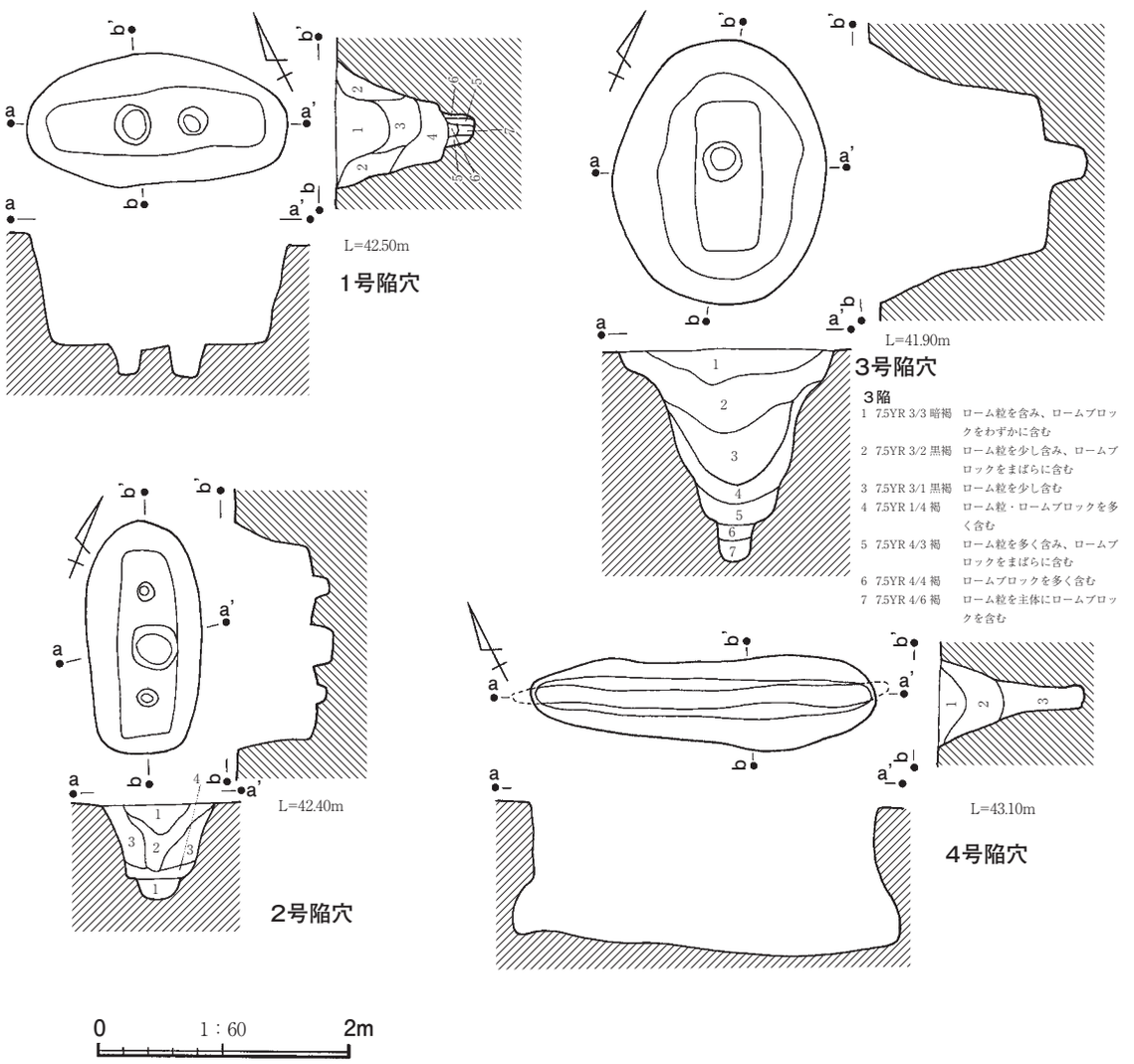
第27図　明神台遺跡１・２・４号住居跡出土遺物

第28図　明神台遺跡 3 号住居跡出土遺物

2　陥穴

第6表　明神台遺跡検出の陥穴

遺構No.	検出区		平面形 方位	法量（m） 長軸 （上端） （下端）	短軸	深さ	堀方断面形状	時代 時期	特　徴	挿図No. 遺構	遺物	旧名称	備　考
1号	4H	3b･d 13a･c	楕円形 N-　65°　- W	2.08 1.75	1.04 0.54	0.84	逆台形	縄文	底面にピット２穴 （穴断面に柱痕）	第29図	－	C4	
2号	4H	4b	長方形 N-　23°　- E	1.85 1.46	0.90 0.45	0.62	逆台形	縄文	底面にピット３穴 （小・大・小の順）	第29図	－	C6	
3号	4G	74a･c	楕円形 N-　25°　- E	2.11 1.16	1.71 0.55	1.41	逆台形	縄文	底面にピット１穴	第29図	－	C8	
4号	5H	63b	楕円形 N-　67°　- W	2.79 2.72	0.46 0.20	1.18	逆台形	縄文	下部が抉れる	第29図	－	C14	



3陥
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをわずかに含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
3　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒を少し含む
4　7.5YR 1/4 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む
5　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックをまばらに含む
6　7.5YR 4/4 褐　ロームブロックを多く含む
7　7.5YR 4/6 褐　ローム粒を主体にロームブロックを含む

1陥
1　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・ロームブロックを少し含み、焼土粒をわずかに含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む
4　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
5　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含む
6　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
7　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを少し含む

2陥
1　7.5YR 3/2 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
4　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む

4陥
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒子を少し含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒子を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
3　7.5YR 4/3 褐　ローム粒子を多く含み、ロームブロック・焼土粒子をわずかに含む
4　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒子を含み、ロームブロックを少し含む
5　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒子・ロームブロックを少し含む

第29図　明神台遺跡陥穴

3　土壙

第７表　明神台遺跡検出の土壙

遺構No.	検出区		平面形 方位	法量（m） 長軸 （上端） （下端）	短軸	深さ	堀方断面形状	時代 時期	特　徴	挿図No. 遺構	遺物	旧名称 ※変更分のみ	備　考
１号	4G	98d	長方形？ N-　61°-E	1.53 (0.76)	1.18 (0.52)	0.61	逆台形？	縄文？	攪乱により大きく破壊	第30図	－		１号炭窯に切られる
２号	4H	17d	楕円形 N-　18°-W	0.89 0.52	0.69 0.37	0.26	不整形	縄文？		第30図	－		
３号	4H	8a	円形 N-　86°-E	0.74 0.46	0.66 0.40	0.11	浅碗形	縄文？		第30図	－		
５号	4H	3b 13a	楕円形 N-　55°-W	2.09 1.89	1.20 0.86	0.36	逆台形	縄文？	ピット有　２穴	第30図	－		
７号	4G	94b	楕円形 N-　89°-W	1.90 1.66	1.46 1.03	1.75	円筒形	縄文？		第30図	－		
９号	4G	74c	楕円形 N-　20°-E	1.85 0.95	1.39 0.78	0.64	逆台形	縄文？		第30図	－		
10号	4H	41d	正方形 N-　47°-W	1.05 0.88	0.98 0.88	0.07	浅碗形	縄文？		第30図	－		
11号	4H	85c ・d	楕円 N-　°-E	2.05 1.47	(0.96) 0.49	0.38	浅碗形	縄文？		第30図	－		
12号	4H	59d	長方形 N-　86°-W	2.09 1.22	1.04 0.61	0.50	逆台形	縄文？		第30図	－		
13号	5I	3d	円形 N-　？°-E	0.84 0.28	0.79 0.28	0.34	逆台形	縄文？		第30図	－		
15号	4H	65c	楕円形 N-　37°-E	1.43 0.98	1.12 0.94	0.52	逆台形	縄文？		第30図	－		
16号	5H	92b・ c・d	楕円形？ N-　49°-E	2.12 1.42	1.48 0.91	0.71	碗形	縄文？	ピット有　３穴	第31図	－		撹乱
17号	4H	64c	円形 N-　？°-E	1.50 1.13	1.44 1.07	0.43	浅碗形	縄文 加曽利ＥⅡ		第31図	第31図		25土と重複
19号	4H	79b	円形 N-　0　-E	0.83 0.68	0.77 0.62	0.09	浅碗形	縄文？		第31図	－		
20号	5H	73a	楕円形 N-　50°-W	2.75 1.83	1.88 0.82	0.45	浅碗形？	縄文 加曽利ＥⅣ		第31図	第31図		
21号	5H	73c	円形 N-　？°-E	0.69 0.40	0.63 0.41	0.35	逆台形	縄文？		第31図	－		
22号	5H	73c	円形 N-　？°-E	0.67 0.47	0.66 0.47	0.34	浅碗形	縄文？		第31図	－		
23号	4H	65c	楕円 N-　20°-W	1.00 0.65	0.83 0.57	0.13	浅碗形	縄文？		第31図	－		
24号	4H	65d	楕円 N-　6°-E	1.86 1.53	1.14 0.82	0.13	浅碗形	縄文？		第31図	－		
25号	4H	64c	円形？ N-　？°-E	0.90 0.33	0.56 0.44	0.30	？	縄文？	ピット有　１穴	第31図	－		17土と重複
26号	4H	89d 99a	不整円形 N-　88°-W	1.71 0.82	1.42 0.68	2.35	円筒形	縄文？		第30図	－		

2土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・ロームブロックをまばらに含む
2　7.5YR 4/6 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む
3　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む

3土
1　7.5YR 3/2 黒褐　粘性なく、しまりない。炭化物粒・焼土粒を含む

5土
1　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックをまばらに含む
4　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む

7土
1　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
2　2.5YR 3/4 暗赤褐　ローム粒をわずかに含む。焼土粒をブロック含む
3　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・焼土粒をわずかに含む
4　7.5YR 2/1 黒　ローム粒をわずかに含む
5　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
6　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
7　7.5YR 4/4 褐　ローム粒とロームブロックを多く含
8　7.5YR 4/4 褐　粘性ややあり、よくしまる。ロームブロックを主体にローム粒を含む
9　7.5YR 3/3 暗褐　粘性ややあり、よくしまる。ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む

9土
1　7.5 YR 3/5 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックまばらに含む
2　7.5 YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含む
3　7.5 YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

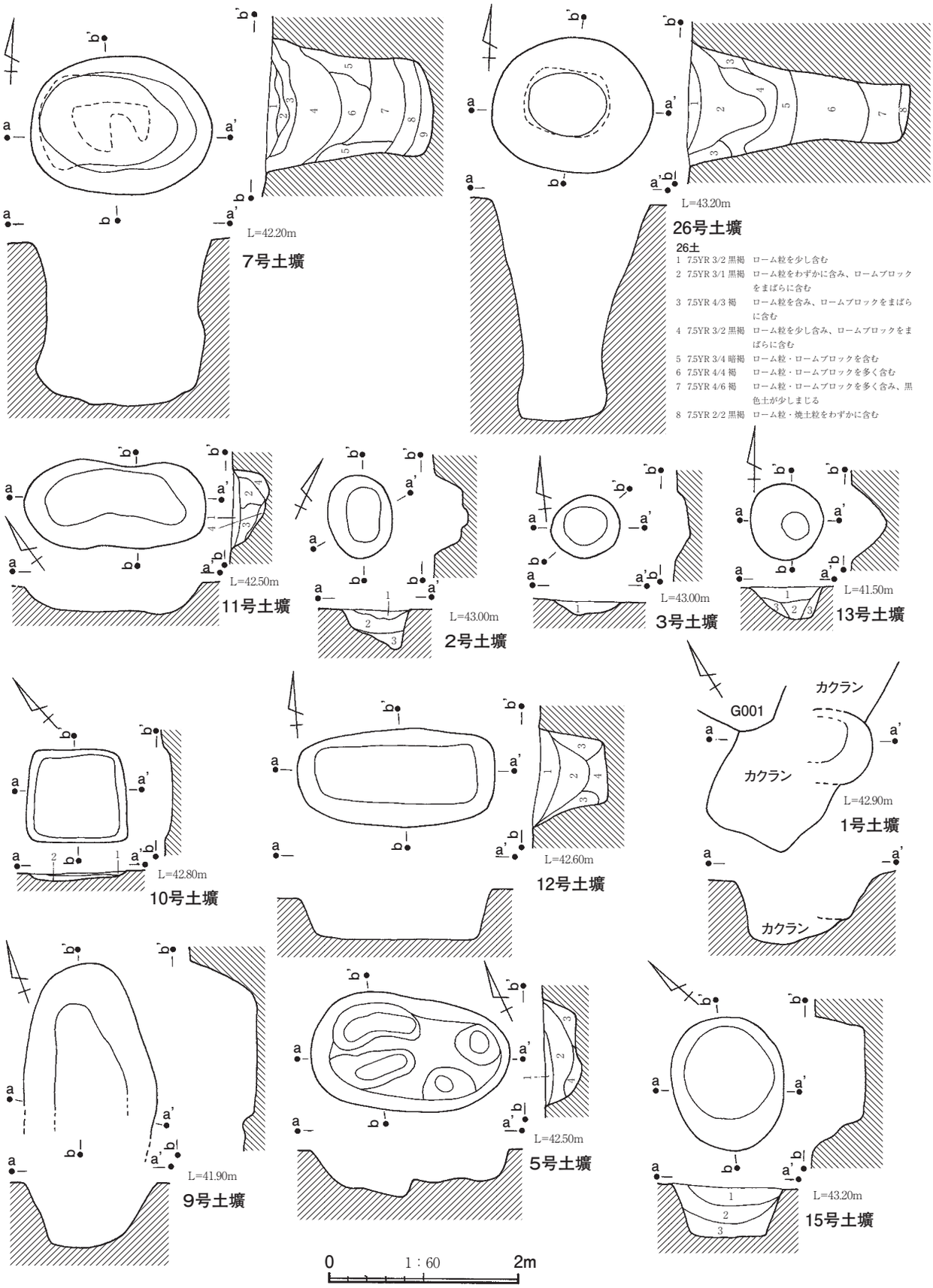
10土
1　7.5YR 3/2 黒褐　しまりない。焼土粒・炭化物粒を少し含む
2　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、焼土粒・炭化物粒をわずかに含む

11土
1　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
2　7.5YR 黒褐　ローム粒を少し含む
3　7.5YR 3/3暗褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む
4　7.5YR 4/4褐　ローム粒・ロームブロックを含む

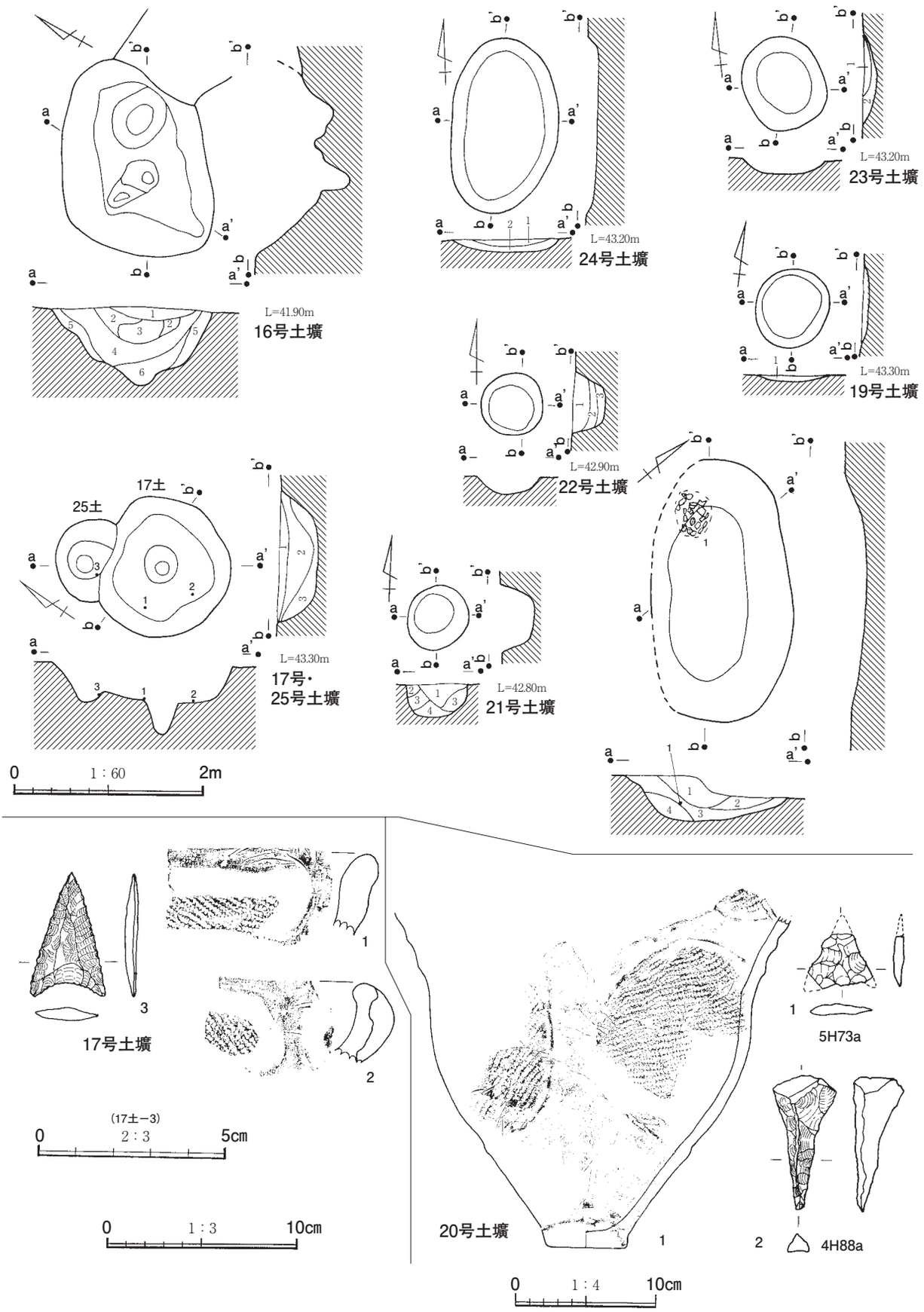
12土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
4　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む

13土
1　7.5YR 3/1 黒褐　焼土粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含む
3　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む

15土
1　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を少し含みロームブロックをまばらに含む
2　7.5YR 6/3 暗褐　ローム粒を少し含む
3　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む



第30図　明神台遺跡土壙①



第31図　明神台遺跡土壙②及び土壙出土遺物

16土
1 7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・焼土粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
3 7.5YR 4/6 赤褐　焼土粒を多く含む
4 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
5 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
6 7.5YR 4/6 褐　ローム粒をやや多く含み、ロームブロックをまばらに含む

17土
1 7.5YR 3/3暗 褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
2 7.5YR 9/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む
3 7.5YR 4/6 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

19土
1 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む

20土
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
3 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含み、焼土粒をまばらに含む
4 7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

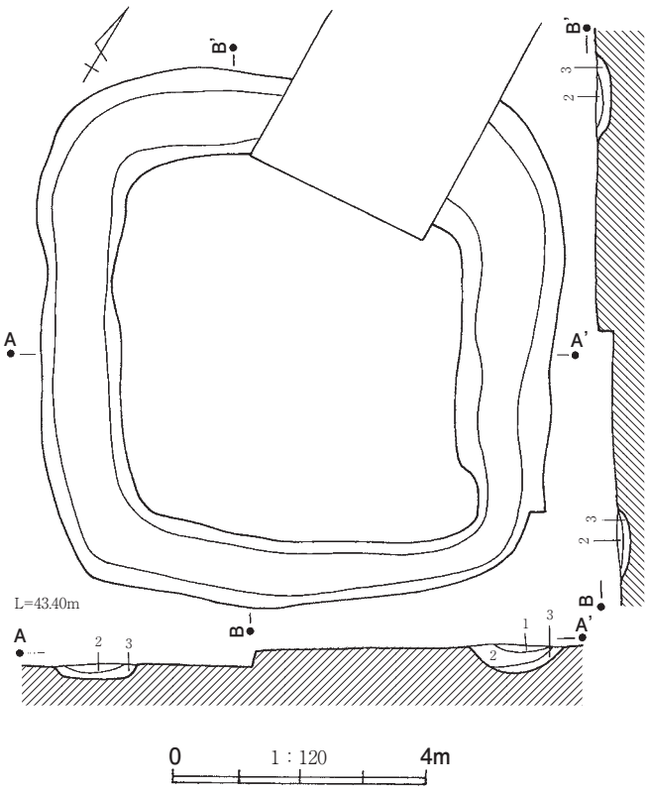
21土
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
2 7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
3 7.5YR 3/3 褐　ローム粒を少し含み、ロームブロック･焼土粒をわずかに含む
4 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む

22土
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含む
3 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む

23土
1 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかにに含む
2 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、焼土粒･ロームブロックをまばらに含む

24土
1 7.5YR 4/4 暗褐　ローム粒を含み焼土粒を少し含む
2 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロック少し含む

4　方形周溝状遺構



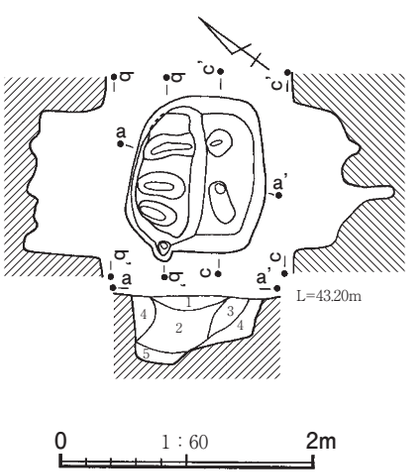
1号方形周溝状遺構

検出区	97-B調査区	
周溝規模		長軸　短軸　深さ
	外周	8.6×8.14×0.5m
	内周	5.88×5.28
		1.4m
方位	N－　30°　－W	
時代	奈良？	**時期**
遺構の状況	平面形はほぼ正方形。四隅がやや丸みを帯びる。盛土は確認されなかった。断面は半円形。	
遺物の状況	明確に伴うと判断できる遺物はない。	
備考		

1方周
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
2 7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・焼土粒を少し含む
3 7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む

第32図　明神台遺跡方形周溝状遺構

5　有天井土壙



第8表　明神台遺跡検出の有天井土壙

遺構No.	検出区	上端平面形	法量（m） 長辺	短辺	深さ	底面状況
			（上端）		上段	
			（下端）		下段	
1号	4H　78d 79c	不整方形	1.24 / 0.97	1.06 / 0.93	0.35 / 0.54	3条の溝
	時代 時期	**特徴**	**挿図No.** 遺構	遺物	**旧名称**	**備考**
	奈良・平安？	ピット下段1・上段2天井部は崩落	第32図	－	C18	

1有
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、ロームブロック・焼土粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む焼土粒をわずかに含む
3 7.5YR 4/3 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロック・焼土粒をわずかに含む
4 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
5 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む

第33図　明神台遺跡有天井土壙

6　調査区一括遺物

第34図　明神台遺跡調査区出土遺物

第３節　小結

明神台遺跡では、住居跡４軒・陥穴４基・土壙21基・方形周溝状遺構１基・有天井土壙１基・炭窯４基が検出された。調査が、確認調査実施後に遺構が確認された部分のみを拡張して本調査に移行するという形態をとったため、調査範囲内全てを調査できたわけではない。未調査の範囲に小型の住居跡や土壙といったものが皆無であったとは言い切れないであろう。

住居跡　加曽利ＥⅣ式期の２・４号住居跡は、比較的近くで検出されたが、周辺から同時期の遺構が検出されていないことから集落としては規模が小さいと予想される。堀之内式期の１号住居跡は、調査区の北西隅に位置し、他の３軒とは少し離れた位置関係となる[※1]。加曽利Ｂ１式期の３号住居跡は、単独で検出されたが、西御門明神台遺跡で検出された後期の住居跡群の一角を担う可能性もある。

陥穴　全ての陥穴から遺物の出土がないので時期の特定はできないが、底面の柱穴や堀方の形状が通有の陥穴と同様なため縄文時代の所産と考えている。１号陥穴の底面柱穴は、中心に柱痕（５・６層）が確認できた。

土壙　土壙は21基検出されたが、時期を比定できたものは少ない。17号土壙が加曽利ＥⅡ式期、20号土壙が加曽利ＥⅣ式期の２基だけである。その他のものは縄文時代としたが、時期を決定づける根拠はない。７・26号土壙は他の土壙に比べて深く平面規模もやや大きい。底部に柱穴などが付設されていないことから陥穴には含めなかったが、深さは落とし穴として機能しうる規模である。

20号土壙は、長楕円形の平面形であまり深さがなく、その一端の覆土中位から深鉢（第31図20土-１）が出土した。これは、希に検出される縄文時代の土壙墓によく似た状況であるといえる。

方形周溝状遺構　検出された１基からは墓壙などの墓と認識しうる施設は検出されなかったが、西御門明神台遺跡などでも同様の遺構群が検出され、その内の１基には主体部が伴っていた。その時期が奈良・平安時代とされており、一連の遺構群である可能性が高いと考えられる。

隣接する遺跡からも奈良・平安時代の集落は検出されておらず、内田端山越遺跡で検出されている集落に付随する墓域の一翼を担った遺構と考えられる。

有天井土壙　天井部は残存していなかったが、最低部に３条の短い溝を長軸に直交させて掘り、片面に段を有する形状が、有天井土壙の形状と認識できる。段上から掘られたピットは深く、場合によっては何らかの上屋構造が伴っていた可能性も考えられる。その場合、地山の天井ではなく、上屋が架けられたことになり、墓壙としての機能と考えるよりも火葬施設のような施設であることも念頭に置くべきかもしれない。

炭窯　炭窯は４基検出された。それぞれが単独で形成され、規則性は見られない。全て中近世以降の遺構である。なお、図面・写真は掲載していない。

調査区一括遺物　第34図で図示したように、殆どの遺物が加曽利ＥⅣ式か堀之内式で占められている。加曽利Ｂ式も若干含まれるが少量である。石器も少なく、第34図-34の石棒の先端片や第31図-１・２のような黒耀石製の石鏃と石錐や若干の敲石・石皿片が出土した程度である。

総じて遺構・遺物は、多い方ではない。東隣する白池台遺跡でも遺構が希薄であったことから、上谷津第１遺跡以西で井戸作南遺跡にいたる空間利用が活発ではなかったことがわかる。

※１　西御門明神台遺跡の状況が不明なので、集落がどの程度広がるかは未知数だが、数件程度の小集落となるのではないかと予想している。

第４章　端山越遺跡の調査

端山越遺跡の概要は、第２章第１節第３項にて記しているので、ここでは割愛する。本章では、本調査で検出された遺構の説明を行う。

検出された遺構は第９表に一覧を掲載している。

第９表　端山越遺跡遺構一覧

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
旧石器集中箇所			旧石器		

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
1号	住居跡	A001	奈良	8末～9初	
2号	住居跡	A002	縄文	加曽利EⅢ式?	
3号	住居跡	A003	奈良	8末～9初	=中原窯？

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
1号	陥穴	C002	縄文		
2号	陥穴	C013	縄文		
3号	陥穴	C015	縄文		
4号	陥穴	C022	縄文		
5号	陥穴	C026	縄文		
6号	陥穴	C034	縄文		
7号	陥穴	C037	縄文		
8号	陥穴	C043	縄文		
9号	陥穴	C046	縄文		
10号	陥穴	C047	縄文		

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
1号	土壙墓	C006	奈良		
2号	土壙墓	C045	奈良		

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
1号	有天井土壙	C001	奈良	8C	
2号	有天井土壙	C048	奈良		

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
1号	欠番				
2号	欠番				
3号	土壙	C003	縄文？		
4号	土壙	C004	縄文？		
5号	土壙	C005	縄文？		
6号	欠番				
7号	土壙	C007	縄文？		
8号	土壙	C008	縄文？		
9号	土壙	C009	縄文？		
10号	土壙	C010	縄文？		
11号	土壙	C011	縄文？		
12号	土壙	C012	縄文？		
13号	欠番				
14号	土壙	C014	縄文？		
15号	欠番				
16号	土壙	C016	縄文？		
17号	土壙	C017	縄文		
18号	土壙	C018	縄文？		
19号	土壙	C019	縄文？		
20号	土壙	C020	縄文		
21号	土壙	C021	縄文		
22号	欠番				
23号	土壙	C023	縄文		
24号	土壙	C024	縄文		
25号	土壙	C025	縄文？		
26号	欠番				
27号	土壙	C027	縄文？		
28号	土壙	C028	縄文		
29号	土壙	C029	縄文		
30号	土壙	C030	奈･平		
31号	土壙	C031	奈･平		
32号	土壙	C032	縄文		
33号	土壙	C033	縄文		
34号	欠番				
35号	土壙	C035	奈･平		
36号	土壙	C036	縄文？		
37号	欠番				
38号	土壙	C038	縄文？		

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
39号	土壙	C039	奈･平		
40号	土壙	C040	縄文？		
41号	土壙	C041	縄文		
42号	土壙	C042	縄文		
43号	欠番				
44号	土壙	C044	縄文		
45号	欠番				
46号	欠番				
47号	欠番				
48号	欠番				
49号	土壙	C049	縄文？		
50号	土壙	C050	縄文？		
51号	土壙	C051	縄文？		
52号	土壙	C052	縄文？		
53号	土壙	C053	縄文？		
54号	土壙	C054	縄文？		
55号	土壙	C055	縄文		
56号	土壙	C056	縄文？		
57号	土壙	C057	縄文		
58号	土壙	C058	縄文		
59号	土壙	C059	奈･平		

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
1号	方形周溝状遺構	1号方形周溝状遺構	奈良		
2号	方形周溝状遺構	2号方形周溝状遺構	奈良		
3号	方形周溝状遺構	3号方形周溝状遺構	奈良		
4号	方形周溝状遺構	4号方形周溝状遺構(旧)	奈良		旧
		4号方形周溝状遺構(新)	奈良		新
5号	方形周溝状遺構	5号方形周溝状遺構	奈良		
6号	方形周溝状遺構	6号方形周溝状遺構	奈良		
7号	方形周溝状遺構	7号方形周溝状遺構	奈良		
8号	方形周溝状遺構	8号方形周溝状遺構	奈良		
9号	方形周溝状遺構	9号方形周溝状遺構	奈良		
10号	方形周溝状遺構	10号方形周溝状遺構	奈良		
11号	方形周溝状遺構	11号方形周溝状遺構	奈良		
12号	方形周溝状遺構	12号方形周溝状遺構	奈良		
13号	方形周溝状遺構	13号方形周溝状遺構	奈良		
14号	方形周溝状遺構	14号方形周溝状遺構	奈良		
15号	方形周溝状遺構	15号方形周溝状遺構	奈良		
16号	方形周溝状遺構	16号方形周溝状遺構	奈良		
17号	方形周溝状遺構	17号方形周溝状遺構	奈良		
18号	方形周溝状遺構	18号方形周溝状遺構	奈良		
19号	欠番				
20号	方形周溝状遺構	20号方形周溝状遺構	奈良		
21号	方形周溝状遺構	21号方形周溝状遺構	奈良		

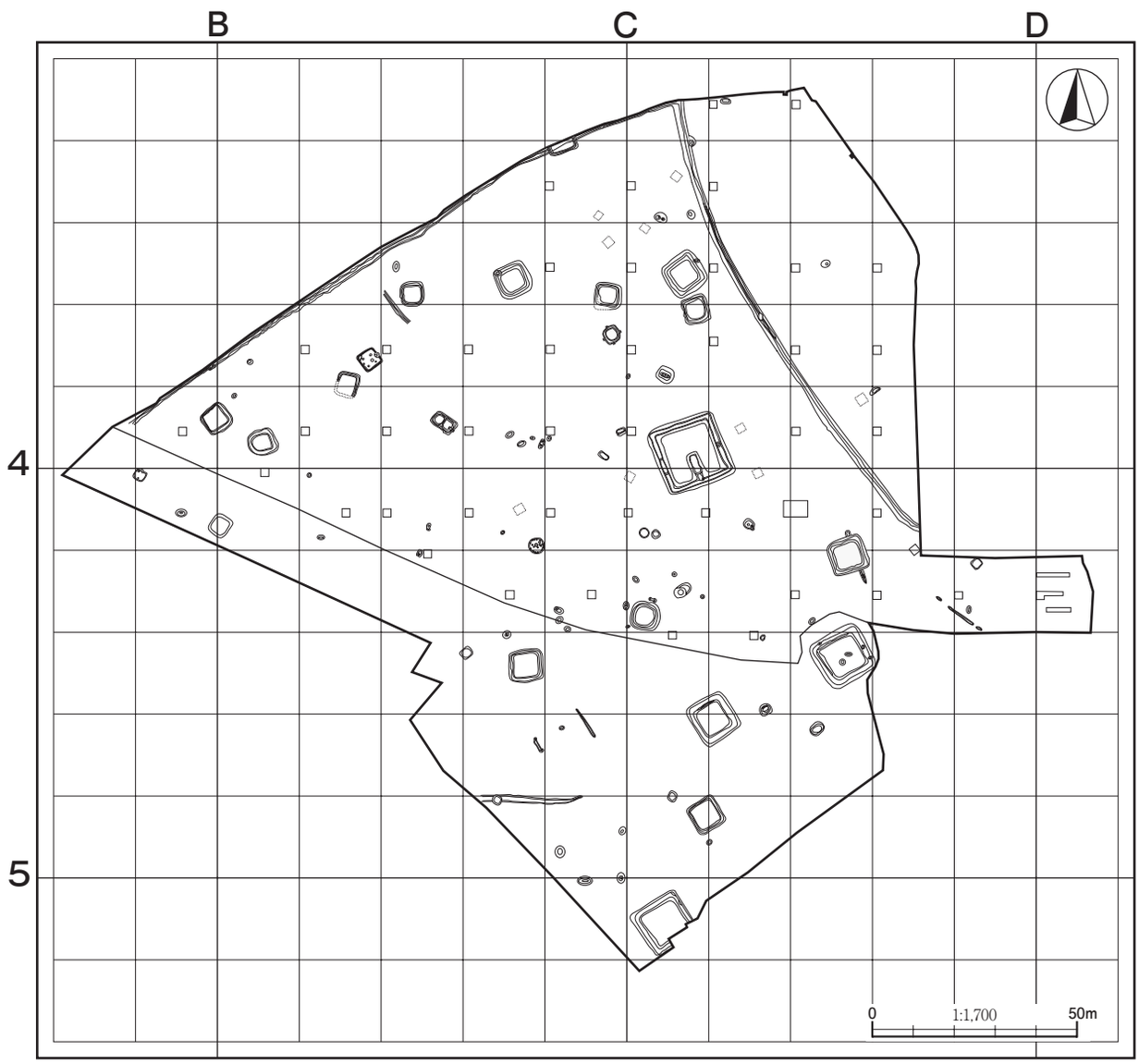
遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
1号	溝	D001	中近世		
2号	溝	D002	中近世		
3号	溝	D003	中近世		
4号	溝	D004	中近世		
5号	溝	D005	中近世		
6号	溝	D006	中近世		

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
1号	道状遺構	1号道状遺構	中近世		
2号	道状遺構	2号道状遺構	中近世		

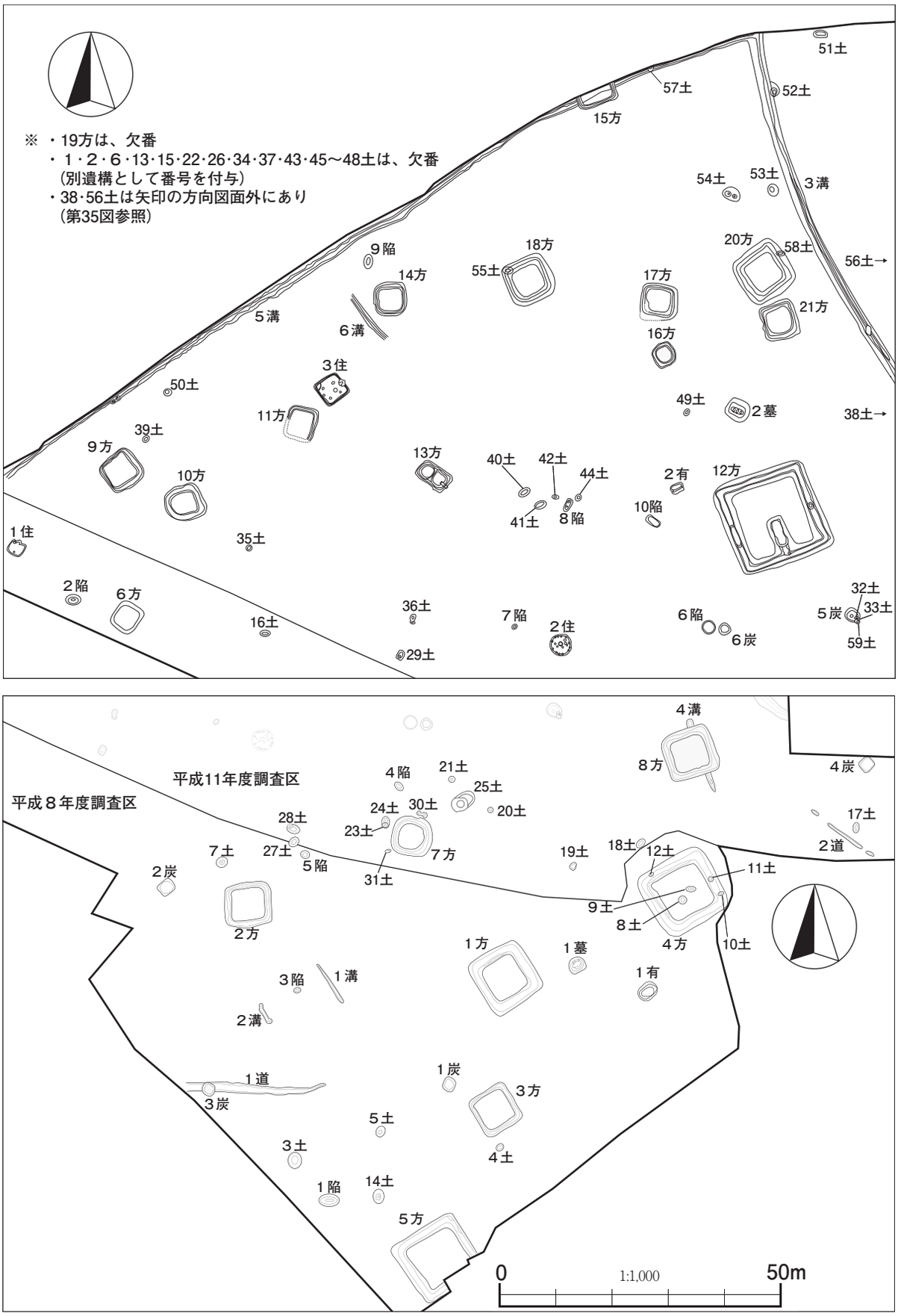
遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
1号	炭窯	G001	中近世		
2号	炭窯	G002	中近世		
3号	炭窯	G003	中近世		
4号	炭窯	G004	中近世		
5号	炭窯	G005	中近世		
6号	炭窯	G006	中近世		

第１節　遺跡の特徴

この遺跡の特徴は、方形周溝状遺構が群を形成して検出されたことである。特に、最大規模の12号方形周溝状遺構は、南側に開口する地下式の墓室を持つという点で特異な存在である。これ以外の19基からは、墓室・墓壙・主体部と目される施設は検出されていない。また、他の遺構からも盛土痕跡は確認されなかった。遺物は、周溝内出土が主で、奈良・平安時代に比定できるもので占められている。周辺では同時期の住居跡が２軒検出され、３号住居跡から土器製作に関連するロクロピットと粘土貯留用の屋内土坑が検出されている。佐倉市側の内田端山越遺跡で須恵器窯が３基検出され、それに付随すると推定される工房跡・集落が検出されているが、方形周溝状遺構は検出されていない。このことから本遺跡が集落に関わる墓域空間として位置付けられると想定できる。井戸作南遺跡からも方形周溝状遺構のみが検出されることからも集落域と墓域の別が明確になされていた可能性があろう。有天井土壙や土壙墓は、方形周溝状遺構と平行して造営された墓壙と考えている。しかし、覆土中から骨片や焼土・炭化物などが出土しており、火葬施設として機能していた可能性もある。



第35図　端山越遺跡遺構配置図



第36図　端山越遺跡遺構配置詳細図（1/1,000）

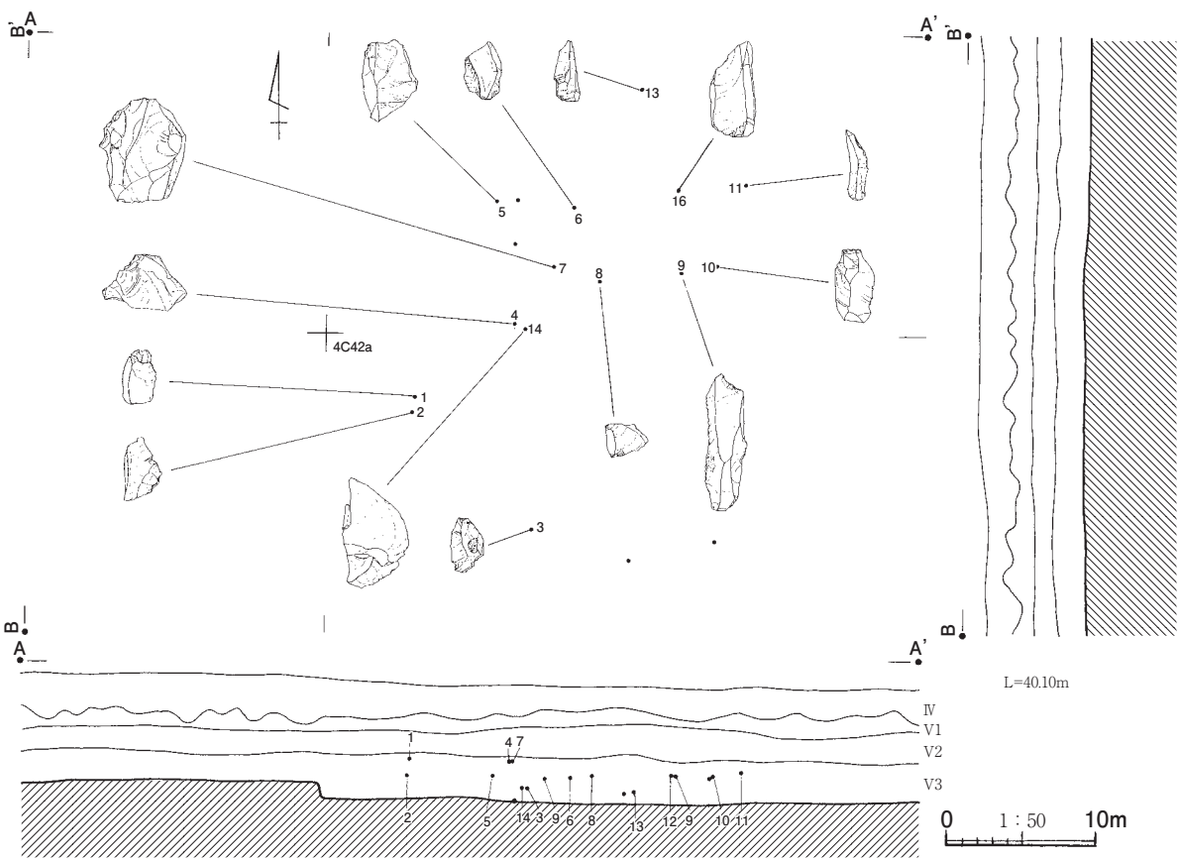
第２節　検出された遺構と遺物

１　旧石器集中箇所

旧石器集中箇所は平成11年度調査区の４Ｃ42ａ付近で出土した。一括遺物として、３Ａ85ａ付近と３Ｂ27ａ付近で１点ずつ出土している。基本層序は、Ⅰ層（表土層）・Ⅱ層（旧表土・包含層）・Ⅲ層（ソフトローム層）・Ⅳ層（ハードローム層）で、Ⅲ層が遺跡群全体の基本層序のⅣ層に相当する。しかし、ローム層内の細別は、発掘調査時に行っておらず不明な点が多い。

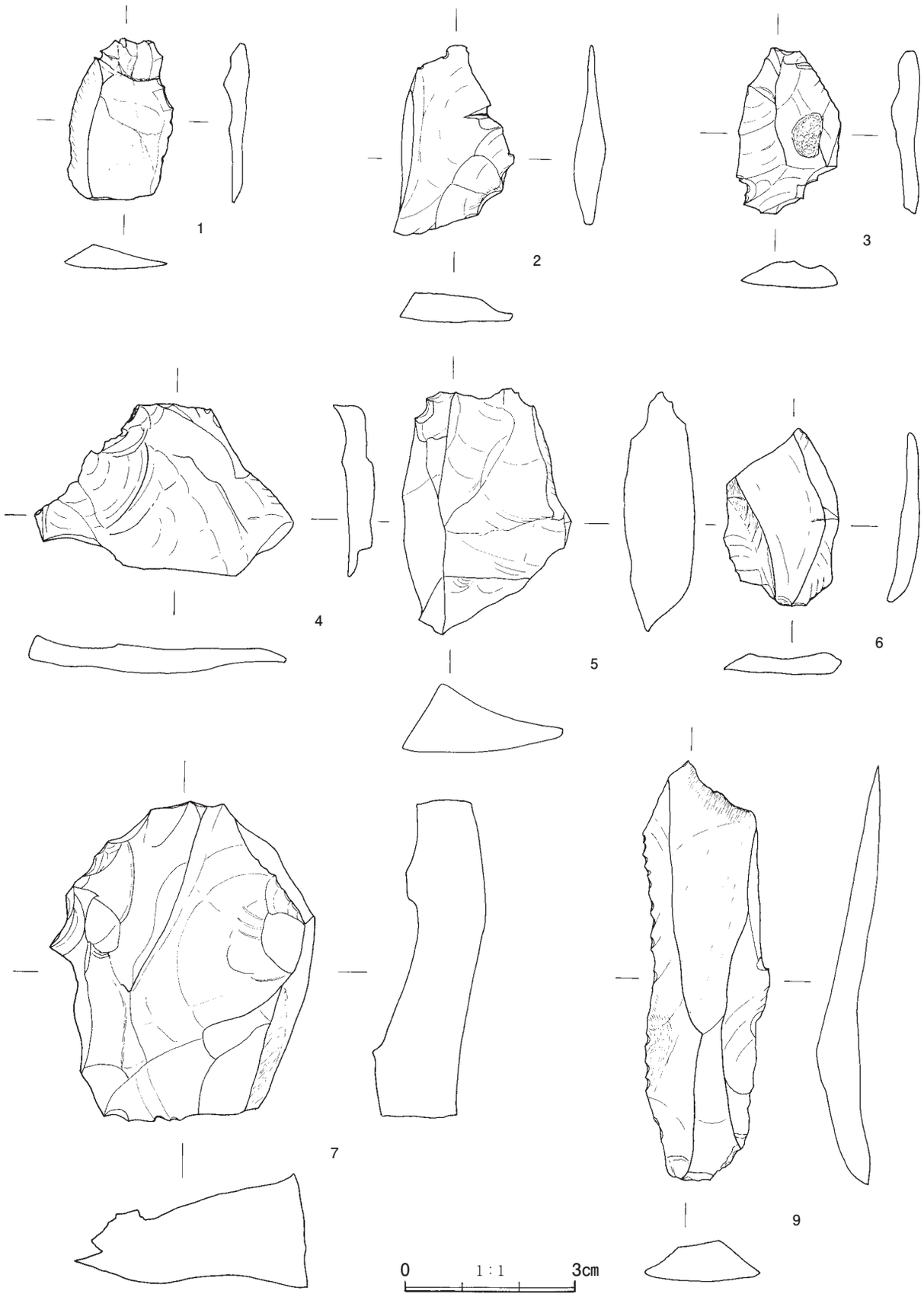
４C42aではⅣ層から遺物が出土している。第37図-1・４・７はⅣ層の最上部から出土している。同図-2・5～12はⅣ層中位、同図-3・13・14はやや下部から出土している。更に下層から出土したものもあるが、細片で図化できなかったものもある。8・9・11以外は同じ珪質頁岩であり、4と7のように接合した資料もある。8はチャート、9は安山岩、11は頁岩系の石材と思われる。これらの内、９・11がナイフ型石器、５・７・14は石核、それ以外は剥片であろう。

ユニットとしては小規模なものばかりである。佐倉市白池台遺跡でのユニットと同様の小規模なキャンプサイトと考えられる。

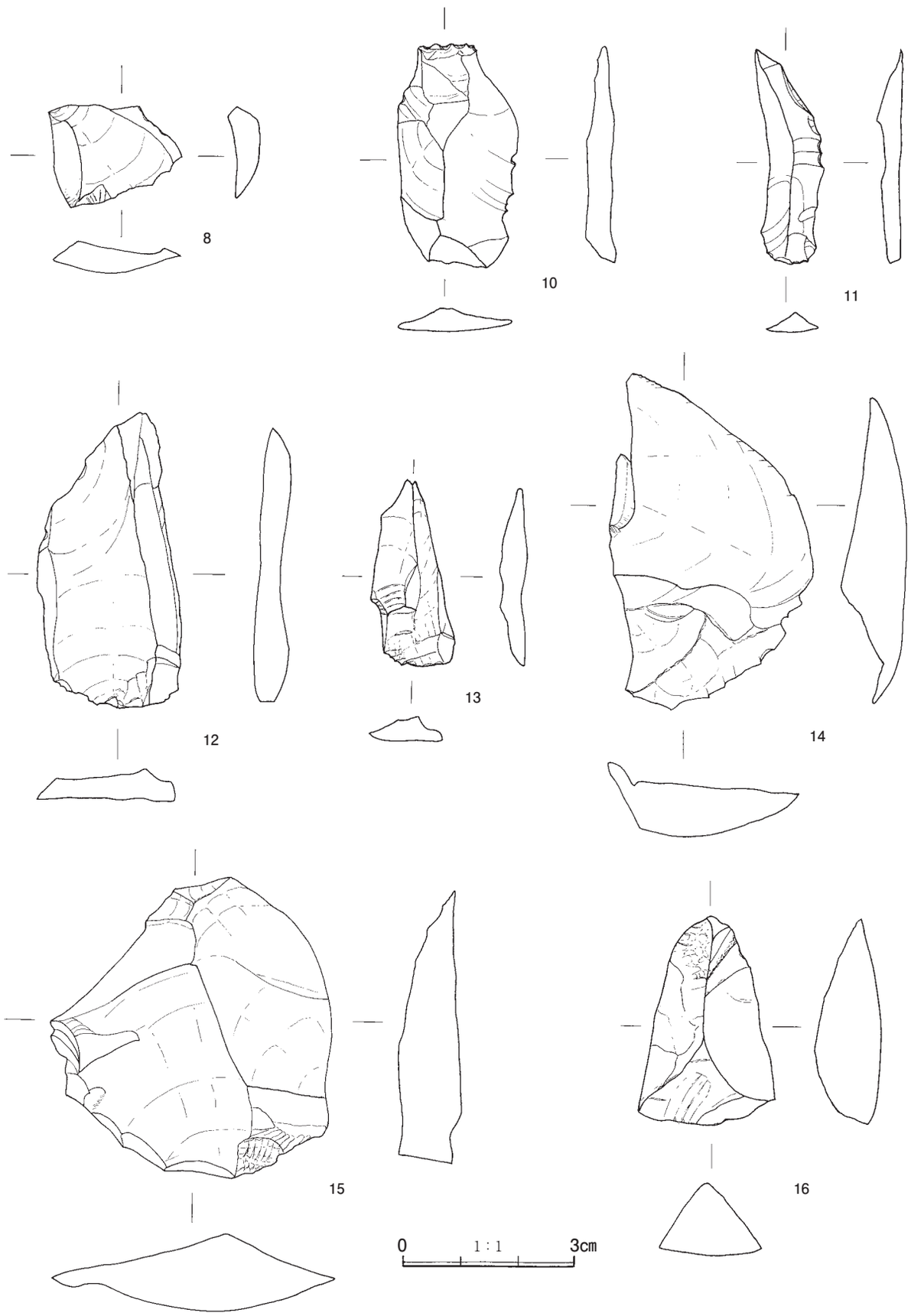


※Ⅴ層の詳細は不明。ハードロームの細分層。

第37図　端山越遺跡旧石器遺物分布図



第38図　端山越遺跡出土旧石器①



第39図　端山越遺跡出土旧石器②

第10表　端山越遺跡出土の旧石器計測値一覧

No.	遺構名 地区	種類	法量（cm・g）				石材	取上No.	挿図番号	備考
			長さ	幅	厚み	重さ				
1	4C　42a	剥片	2.8	1.8	0.5	1.8	珪質頁岩	4C　42a　-　1	第38図	
2	4C　42a	剥片	3.4	2.0	0.5	2.7	珪質頁岩	4C　42a　-　2	第38図	
3	4C　42a	剥片	3.0	1.8	0.5	2.3	珪質頁岩	4C　42a　-　3	第38図	
4	4C　42a	剥片	3.0	4.5	0.6	5.9	珪質頁岩	4C　42a　-　6	第38図	7と接合
5	4C　42a	剥片	4.3	3.0	1.2	11.6	珪質頁岩	4C　42a　-　8	第38図	
6	4C　42a	石核	3.2	2.0	0.5	2.4	珪質頁岩	4C　42a　-　10	第38図	
7	4C　42a	剥片	5.5	4.6	1.9	48.7	珪質頁岩	4C　42a　-　11	第38図	4と接合
8	4C　42a	剥片	1.8	2.4	0.5	2.0	珪質頁岩	4C　42a　-　12	第39図	
9	4C　42a	剥片石器	7.4	2.3	0.9	12.1	珪質頁岩	4C　42a　-　13	第38図	
10	4C　42a	剥片	3.8	2.2	0.5	3.7	珪質頁岩	4C　42a　-　14	第39図	
11	4C　42a	剥片	3.8	1.2	0.4	1.4	珪質頁岩	4C　42a　-　15	第39図	
12	4C　42a	ナイフ？	5.1	2.5	0.6	7.3	珪質頁岩	4C　42a　-　16	第39図	
13	4C　42a	剥片	3.3	1.4	0.4	1.5	珪質頁岩	4C　42a　-　17	第39図	
14	4C　42a	剥片	5.9	3.5	1.2	17.6	珪質頁岩	4C　42a　-　18	第39図	
15	3A　90a	剥片	5.3	4.9	1.3	31.2	珪質頁岩	3A　90a	第39図	
16	3B　38c	剥片	3.7	2.4	1.2	8.8	珪質頁岩	3B　38c　-　8	第39図	

2　住居跡

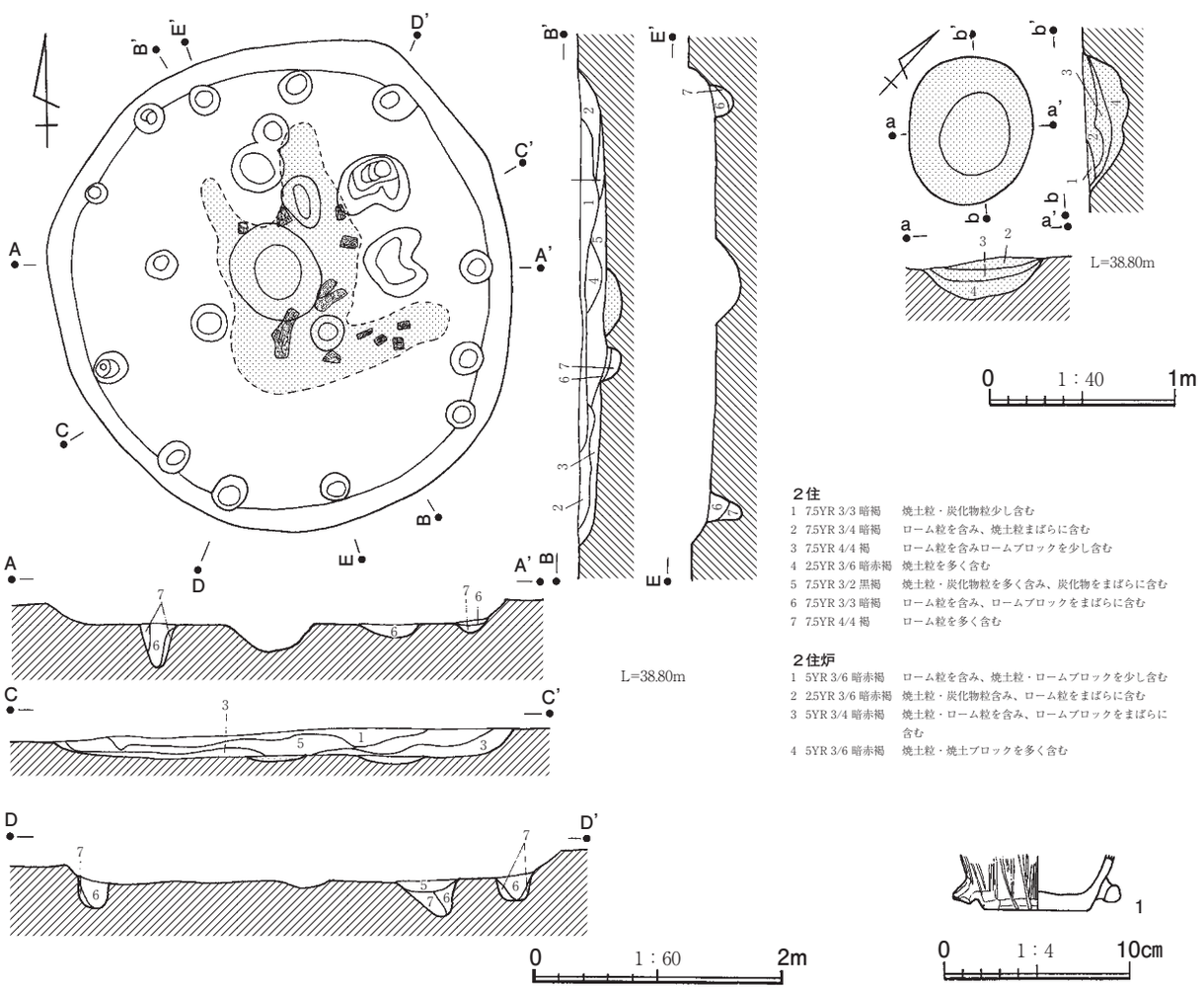
住居跡は、縄文時代中期が１軒、奈良時代が２軒検出されている。縄文時代中期の住居跡である２号住居跡は、平成11年度調査区のやや西より、台地平坦部のほぼ中央に位置する。周辺に同時期の遺構はなく、単独である。調査区一括遺物も同時期のものはほとんどない。奈良時代の住居跡は平成８・11年度で検出され、調査区の西端に位置する。奈良時代の集落が検出されている内田端山越遺跡に近接した地点であり、その集落の東端を担う遺構と考えられる。

第11表　端山越遺跡検出の住居跡（縄文時代）

遺構No.	検出区	主軸方位	平面形	規模（m）			炉位置	重複関係	時期	挿図No.		備考
				長軸	短軸	深さ				遺構	遺物	
２号	4B　82c	N－　？　－W	円	3.81	3.73	0.2	中央	なし	加曽利EⅢ	第40図	第40図	焼土・炭化物有

２号住居跡　　遺構：第40図　　遺物：第40図

遺構の状況	平面形は円形を呈する。炉は中央。主柱穴は不明瞭である。壁柱穴が全周し、炉周辺にもランダムに柱穴あり。焼土・炭化物が炉周辺で検出。
遺物の状況	総じて遺物は少なく、加曽利EⅢ式と推定される底部が一点のみである。
備考	



第40図　端山越遺跡２号住居跡・出土遺物

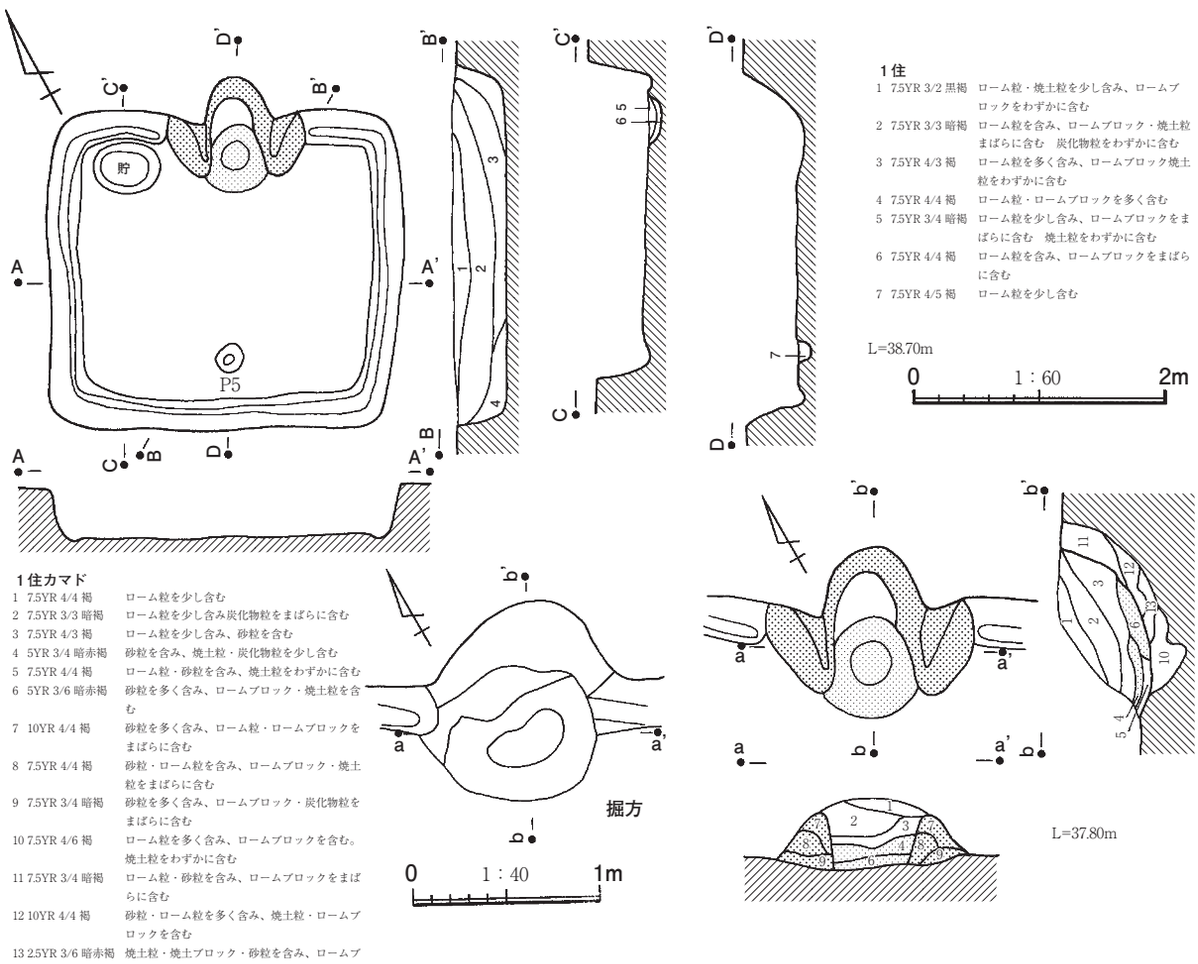
第12表　端山越遺跡検出の住居跡（奈良時代）

遺構No.	検出区		平面形状	主軸方位	規模（m）			床面	カマド位置	貯蔵穴位置	階段用柱穴	壁溝	重複関係		備考
					長軸	短軸	深さ						旧	新	
1号	4A 4B	71b 81a	方形	N- 30° - E	3.03	2.78	0.42	－	北東辺	北東隅	○	○			
3号	3B	38b	方形	N- 35° - E	4.92	4.53	0.49	－	北東辺	※		○			粘土貯蔵穴・ロクロピットあり

※3号住居跡の場合、通常の貯蔵穴ではなく、粘土貯留用の土坑となる。

1号住居跡　　遺構：第41図　　遺物：第43図

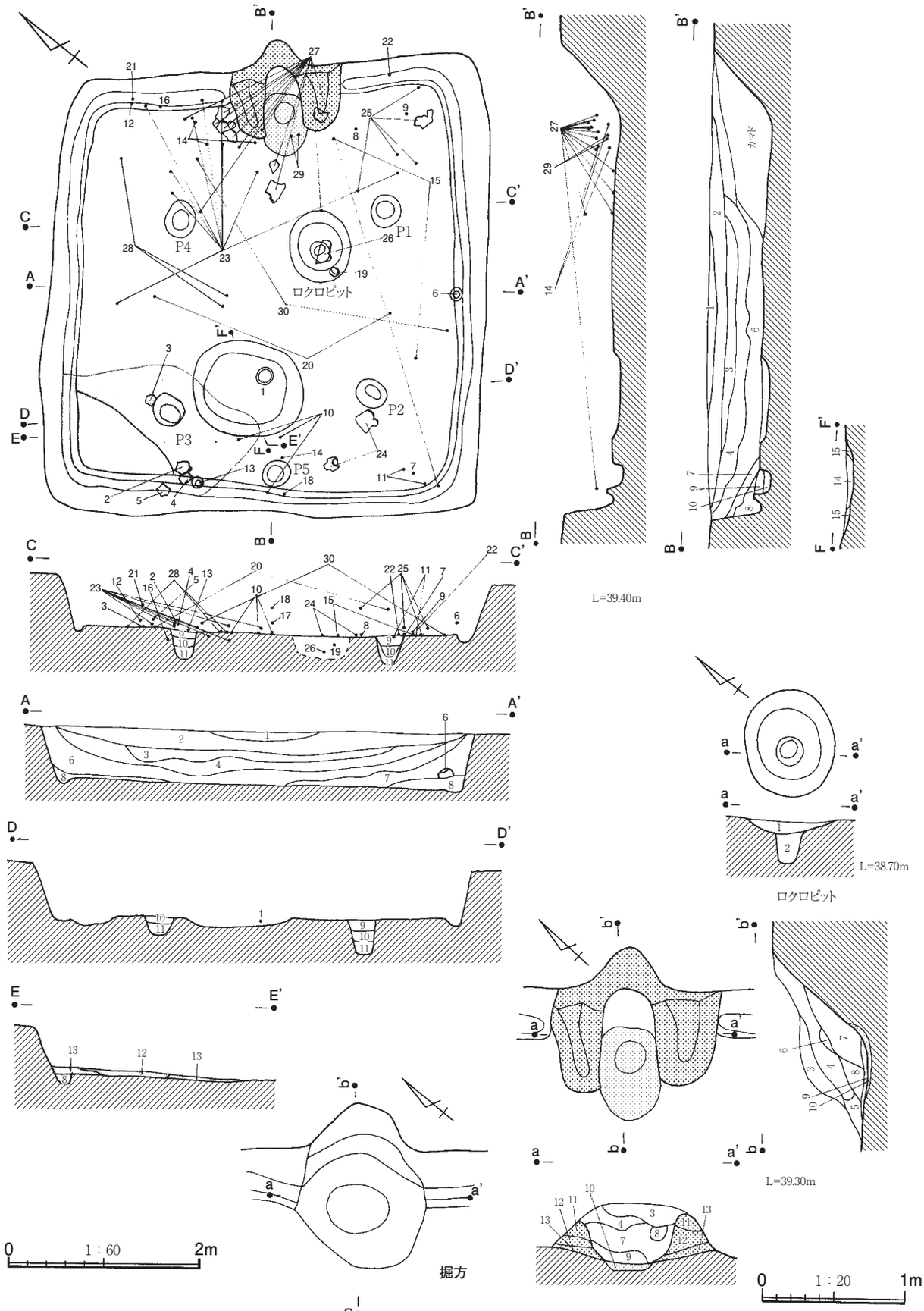
遺構の状況	カマドは北辺中央部。主柱穴はない。南辺中央に階段用柱穴が1穴。北西隅（カマド西脇）に1つ。壁溝が全周する。
遺物の状況	須恵器の杯・甕・広口壺が出土。未図化も同様の器種が出土。
備考	



第41図　端山越遺跡 1 号住居跡

3号住居跡　　遺構：第42図　　遺物：第44・45図

遺構の状況	カマドは北東辺中央にあり。主柱穴はやや深めの4穴。階段用柱穴はない。P1西側にロクロピットあり。P3とP4の間に貯蔵穴があり、西隅の凹みに未使用の粘土塊が多量に貯蔵されていた。粘土の厚さは10㎝前後、床面直上で検出された。
遺物の状況	多量の遺物が出土。須恵器が主体で、つまみ付き杯蓋・杯・皿・甕・広口壺・大甕が出土。土師器の杯も含まれている。未図化のものも同様の器種がある。
備考	ロクロピットと貯蔵された粘土の存在から、この住居跡が土器の製作工房であった可能性がある。しかし、周囲に同様の施設はなく、単独で存在することから検討すべき問題も含んでいる。市外の端山越遺跡で検出された須恵器登窯との関連にも注目すべきである。

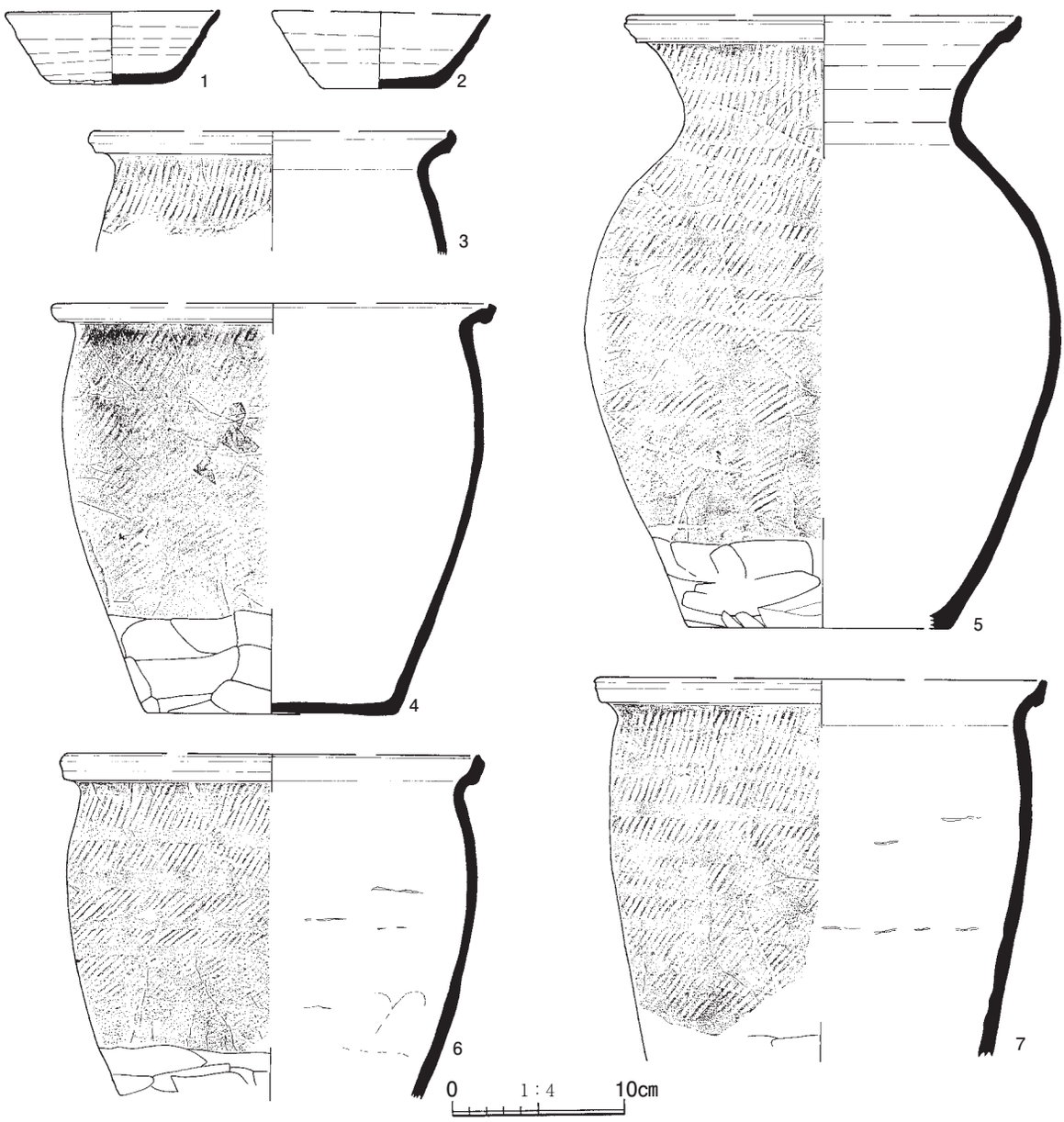


第42図　端山越遺跡 3 号住居跡

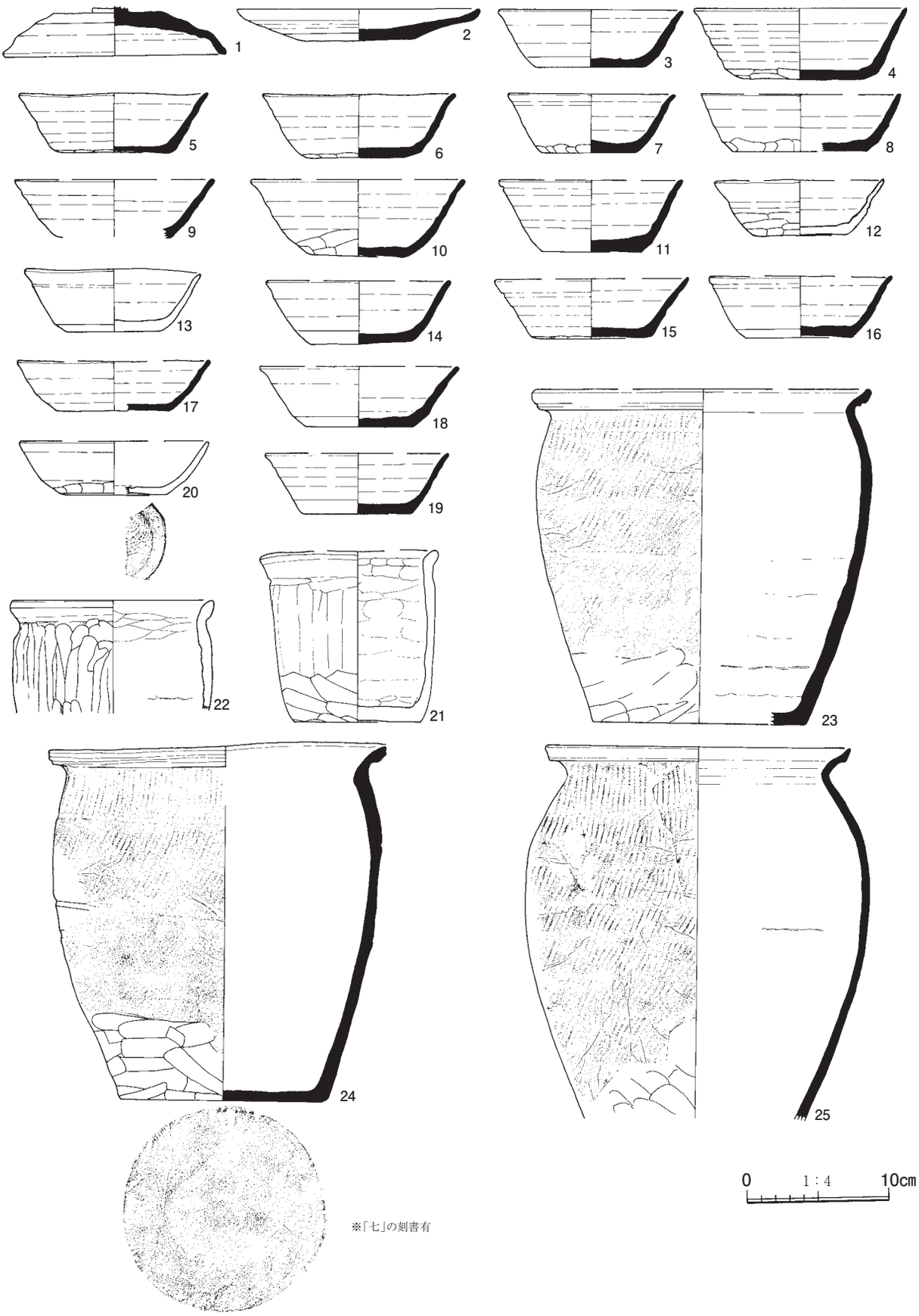
3住
1　7.5YR 3/3 暗褐　焼土粒・炭化物をまばらに含む
2　7.5YR 2/1 黒褐　ローム粒を多く含む
3　75YR 3/3 暗褐　焼土粒をわずかに含む
4　7.5YR 3/3 暗褐　焼土粒をわずかに含む
5　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒をまばらに含み、焼土粒をわずかに含む
6　7.5YR 3/4 暗褐　ロームブロックをまばらに含む
7　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を多く含む
8　75YR 3/3 暗褐　ローム粒・黒色粒をまばらに含む
9　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をまばらに含む
10　7.5YR 3/4 暗褐　ロームブロックをまばらに含む
11　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を多く含む
12　25Y 4/2暗 灰黄　白色粒・橙色粒を多く含む
13　10YR 5/8 黄褐　白色粒・褐色粒を多く含む
14　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・白色粘土質粒を多く含む
15　7.5YR 3/3 暗褐　白色粘土ブロック・砂質褐色土ブロックを多く含む

3住ロクロピット
1　7.5YR3/3暗褐　ローム粒を多く含む
2　7.5YR3/3暗褐　白色粒を多く含む

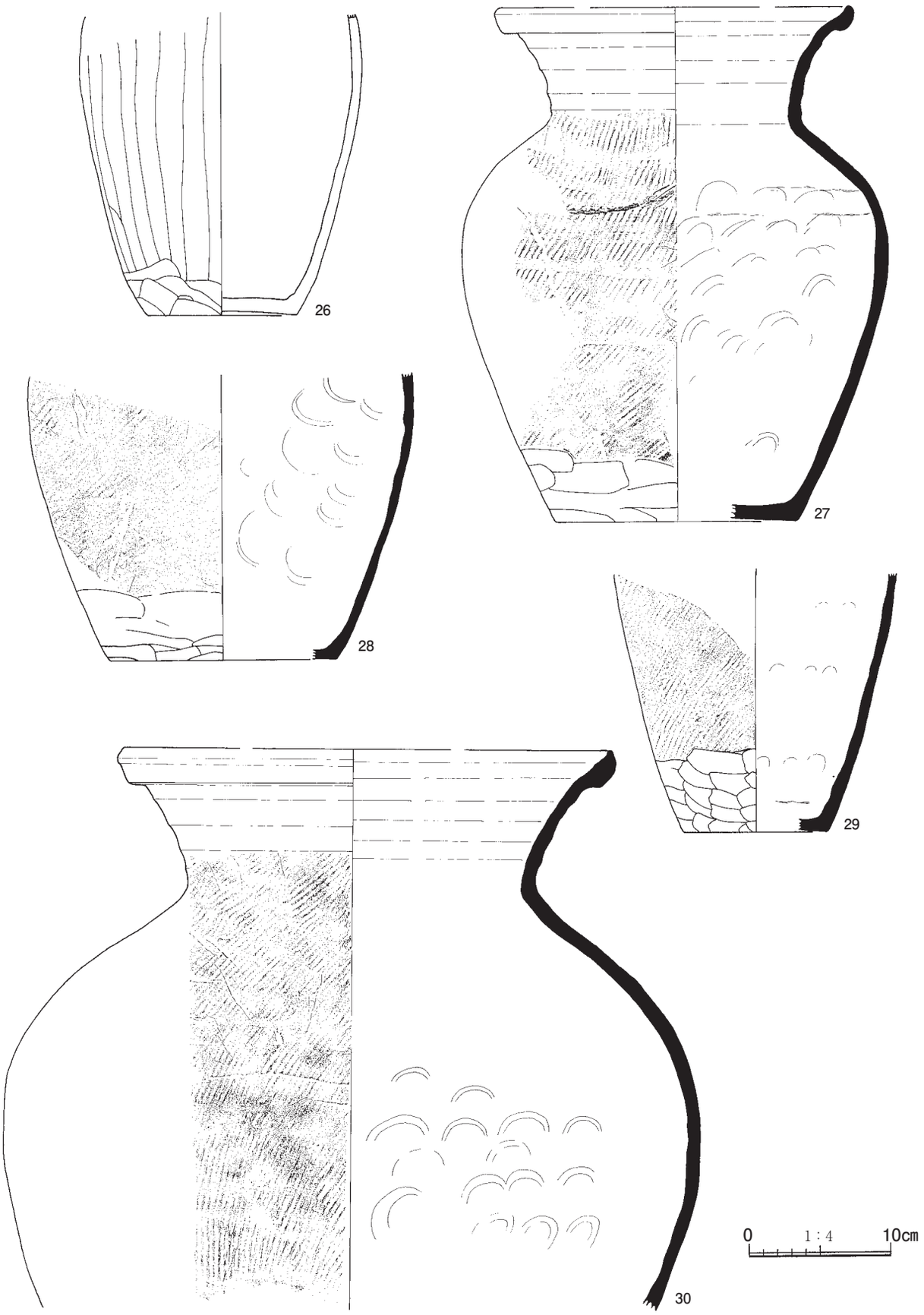
3住カマド
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・白色粘土を多く含む
2　75YR 3/3 暗褐　ローム粒・橙色粒を多く含み、焼土粒をわずかに含む
3　5YR 4/2 灰褐　白色砂質粒を含み、炭化物粒をわずかに含む
4　5YR 3/2 暗赤褐　ローム粒・炭化物粒をまばらに含む
5　5YR 3/3 暗赤褐　白色砂質粒を多く含み、焼土粒をわずかに含む
6　5YR 4/2 灰褐　炭化物粒・焼土粒をわずかに含む
7　2.5YR 3/4 暗赤褐　焼土ブロックを含む
8　2.5YR 3/2 暗赤褐　白色粒・黒色粒を多く含む
9　25YR 3/6 暗赤褐　白色粒をわずかに含む
10　5YR 3/2 暗赤褐　白色粒をわずかに含む



第43図　端山越遺跡 1 号住居跡出土遺物



第44図　端山越遺跡 3 号住居跡出土遺物①



第45図　端山越遺跡 3 号住居跡出土遺物②

ロクロピットの検出された３号住居跡は、内田端山越遺跡で検出された窯跡とその周辺域に展開する同様の工房跡との関連性が極めて強い遺構と考えられる。ロクロピットは、住居跡内の中央からややカマド寄りの主柱穴P1の隣に位置している。ピット内から第44図-19の須恵器杯と第45図-26の土師器甕が出土している。Ｐ５のすぐ脇には粘土を貯蔵したと推測される浅い土坑状凹みがあり、床面南西隅には厚いところで10㎝程度の白色粘土が堆積していた。この粘土は、土器製作用に貯蔵していたものと考えられる。これらのことから、この住居跡が土器製作のための工房跡であった可能性が窺える。このような遺構は、内田端山越遺跡で平成９年度の第１地点で検出された３号住居跡（端山越遺跡３号住居跡同時期）をはじめ、市内の須恵器窯が検出された遺跡周辺で検出される場合が多い。

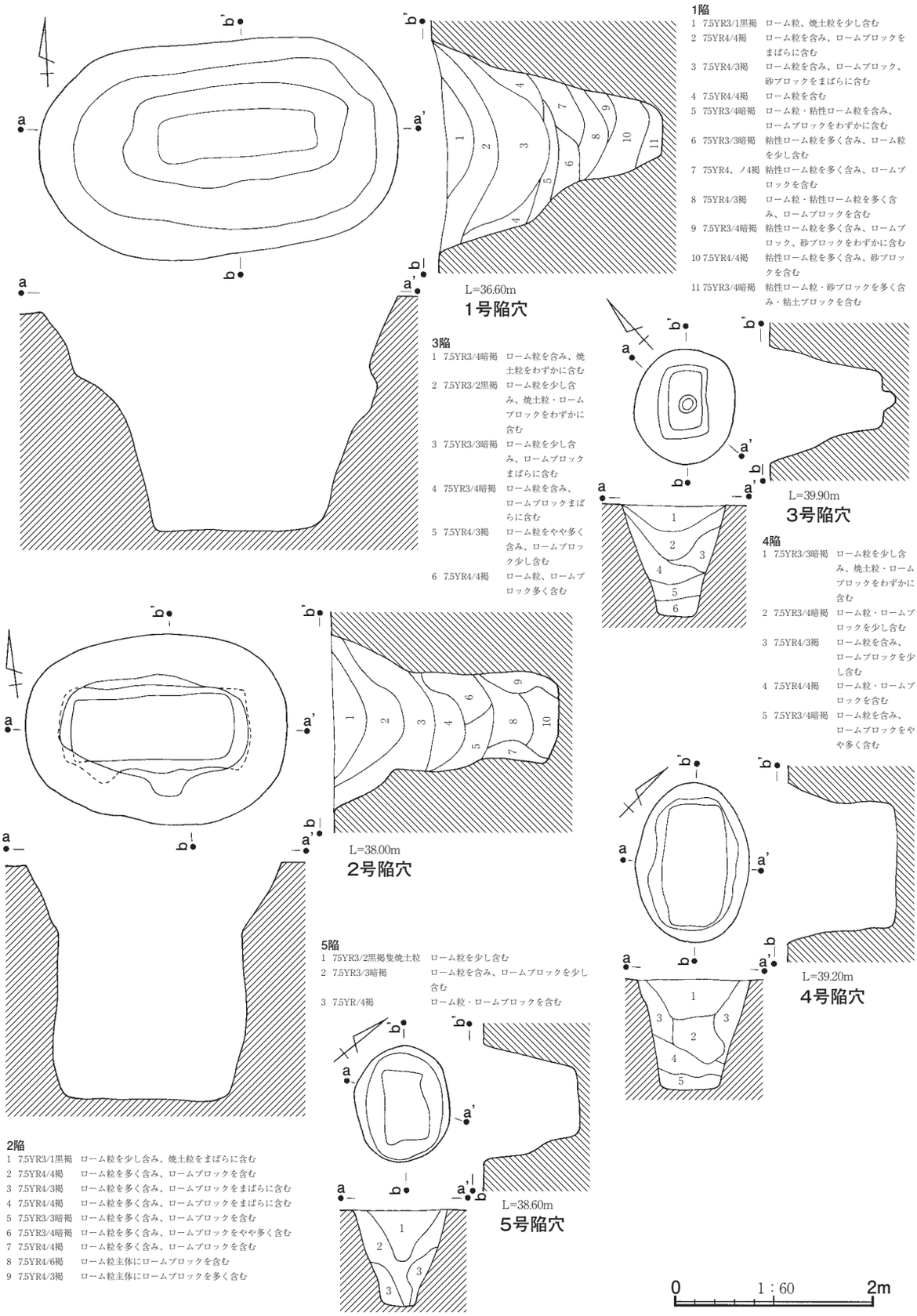
近隣では、鹿島川を挟んだ対岸の千葉市大井戸町に所在する下広尾遺跡（第３図-14）で奈良時代のロクロピットを有する住居跡（平成12年度調査Ａ001未報告）が１軒検出されている。この遺跡は、金親支谷の開口部を望む台地縁辺部にあり、金親支谷の谷奥に宇津志野窯跡（第３図-10）と宇津志野南窯跡（第３図-11）がある。また、すぐ西隣の支谷奥に中原窯跡（第３図- ９）が所在しており、この辺りが、所謂「千葉産」とされる奈良・平安時代の須恵器の生産地であったことが理解できる。

うならすず遺跡では、14軒の奈良・平安時代の住居跡の内、A-004・041･047・048の４軒（平安時代）でロクロピットが検出された。A-047・048のすぐ南側に掘立柱建物跡が５棟あり、土器の製作工房的な空間を形成していたようである。また、うならすず遺跡に隣接するムグリ遺跡で、奈良時代の横口式窯１基と半地下式平窯２基が検出されており、うならすず遺跡で検出された住居跡よりも時代が古くなるものの、この地域が継続的に営まれた土器製作集団の工房兼居住域であった可能性を示唆している。土気南遺跡群の南河原坂窯跡群では、奈良時代の窯・ロクロピットが検出された住居跡・粘土採掘坑などが検出されている。また、坂ノ越遺跡では、平安時代の登窯・ロクロピットが検出された住居跡・粘土採掘坑などが検出されており、この地域が奈良・平安時代の一大生産遺跡として機能していたことが窺える。このような生産関連遺跡の集成と検討は、今後の課題である。

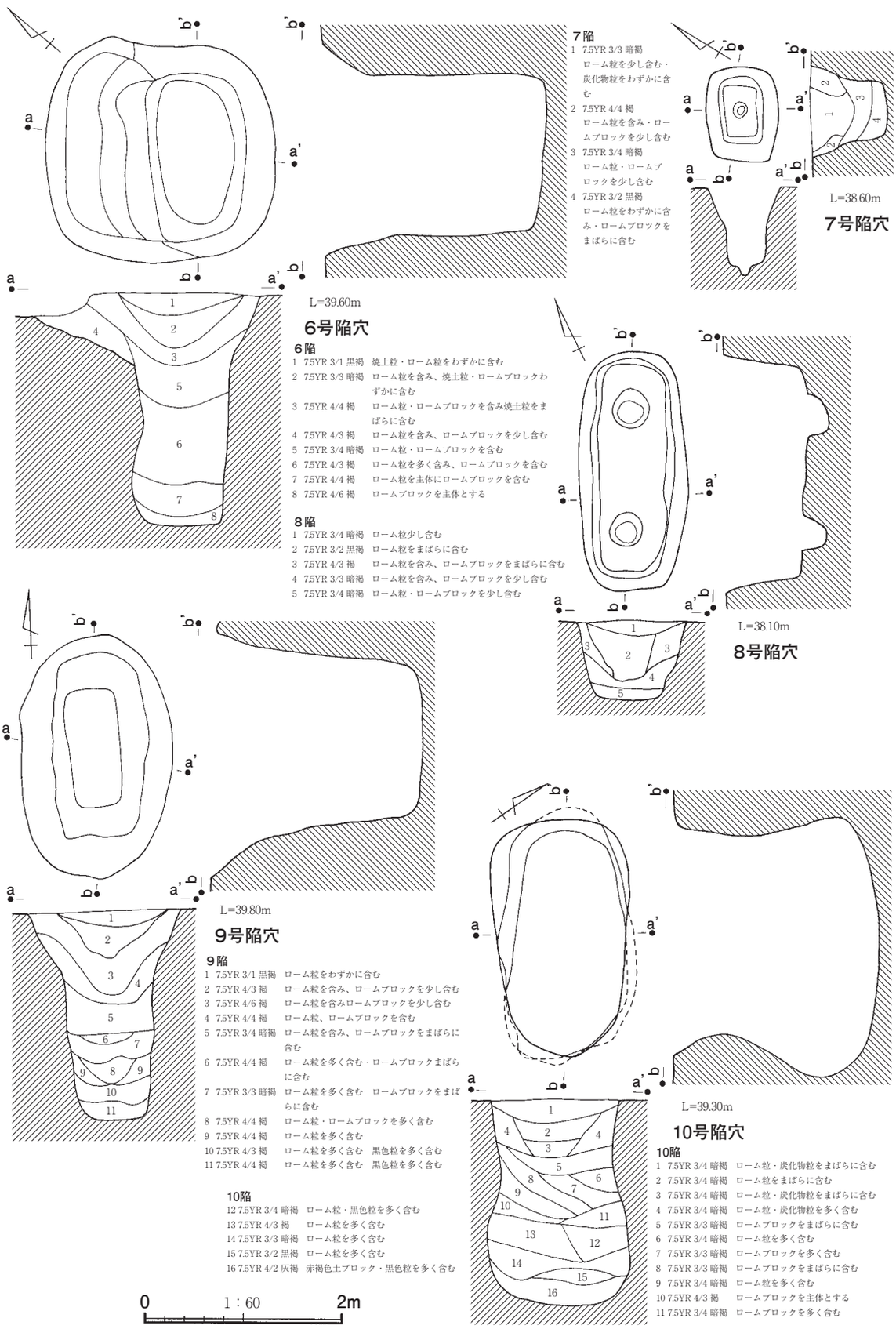
3　陥穴

第13表　端山越遺跡検出の陥穴

遺構No.	検出区		平面形 方位	法量（m） 長軸	短軸 （上端） （下端）	深さ	堀方断面形状	時代 時期	特徴	挿図No. 遺構	遺物	旧名称	備考
1号	5B	91	長方形 N　°　E	3.64 0.45	2.16 2.80	2.14	逆台形	縄文	底平面は長方形	第46図	－	C2	
2号	4A	92a	長方形 N　85°　W	2.62 1.15	1.95 0.85	2.30	逆台形	縄文	底平面は長方形 中段まで斜傾	第46図	－	C13	
3号	4B	87a	楕円形 N　42°　E	1.15 0.60	1.02 0.40	1.11	逆台形	縄文	底平面は長方形 中央にピット１穴	第46図	－	C15	
4号	4C	3c	楕円形 N　45°　W	1.63 1.25	1.15 0.58	1.09	下部 直下形	縄文	底面は胴張長方形	第46図	－	C22	
5号	4B	84c ･d	楕円形 N　53°　W	1.18 0.70	0.95 0.35	0.97	逆台形	縄文	底平面は長方形	第46図	－	C26	
6号	4C	2c	方形 N　40°　W	1.16 1.90	1.10 0.75	1.17	円筒形	縄文	中段まで斜傾	第47図	－	C34	別遺構と重複？
7号	4B	62d	長方形 N　65°　E	0.95 0.55	0.73 0.30	0.77	逆台形	縄文	底面は長方形 中央にピット１穴	第47図	－	C37	
8号	3B	90a	長方形 N　29°　E	2.42 2.10	1.10 0.65	0.78	逆台形	縄文	底面は隅丸長方形 両端にピット２穴	第47図	－	C43	
9号	3B	46a	楕円形 N　90°　E	2.47 1.10	1.54 0.55	2.11	円筒形	縄文	底平面は長方形	第47図	－	C46	
10号	3B	100c	楕円形 N　59°　W	2.41 2.28	1.32 1.40	2.03	下膨 円筒形	縄文	下部が抉れる	第47図	－	C47	



第46図　端山越遺跡陥穴①



第47図　端山越遺跡陥穴②

4　土壙

第14表　端山越遺跡検出の土壙

遺構No.	検出区	平面形 方位	法量（m） 長軸	短軸	深さ	堀方断面 形状	時代 時期	特　徴	挿図No. 遺構	遺物	備　考
			（上端）								
			（下端）								
3号	4B　90a	楕円形 N　8°　W	2.99 1.72	2.47 1.47	1.25	碗形	縄文？		第48図	－	
4号	4C　20b	長方形 N　59°　E	1.09 0.91	0.93 0.75	0.23	逆台形	縄文？		第50図	－	
5号	4B　99d	楕円形 N　5°　E	1.89 0.67	1.48 0.55	1.25	逆台形	縄文？		第48図	－	
7号	4B　75a	楕円形 N　8°　E	1.77 0.78	1.68 0.62	0.96	碗形	縄文？		第48図	－	
8号	4C　55c	不整円形 N　85°　W	1.50 1.03	1.40 0.68	1.25	浅碗形？	縄文？		第48図	－	
9号	4C　55c	楕円形 N　84°　W	1.53 1.00	0.83 0.50	0.50	逆台形	縄文？		第50図	－	
10号	4C　55d	楕円形 N　77°　W	0.54 0.23	0.45 0.15	0.22	不整形	縄文？		第50図	－	4号方形周溝内に有
11号	4C　55d	円形 N　°　E	0.73 0.62	0.70 0.58	0.08	浅碗形	縄文？		第50図	－	4号方形周溝内に有
12号	4C　45b	楕円形 N　58°　E	0.75 0.63	0.60 0.48	0.03	浅碗形	縄文？		第50図	－	4号方形周溝内に有
14号	4B　100d	楕円形 N　0°	2.44 0.80	1.81 0.72	0.37	浅碗形	縄文？		第48図	－	
16号	4B　22c・d	楕円形 N　58°　W	1.63 0.98	1.25 0.58	0.70	碗形	縄文？		第48図	－	
17号	4C　84a	楕円形 N　2°　W	2.01 1.60	12.30	0.40	不整形	縄文	ピット有　5穴	第50図	－	
18号	4C　44c・d	不整楕円形 N　41°　E	2.01 1.60	1.19 0.80	0.29	浅碗形	縄文？	ピット有　1穴	第50図	－	
19号	4C　35c	楕円形 N　16°　E	1.46 1.10	0.60 0.80	0.29	浅碗形	縄文？	ピット有　1穴	第50図	－	
20号	4C　14b	円形 N　28°　E	1.25 0.58	0.93 0.57	0.40	浅碗形	縄文		第50図	－	
21号	4C　13c	円形 N　29°　W	0.98 0.50	0.85 0.44	1.13	浅碗形	縄文		第49図	－	
23号	4B　94c	楕円形 N　47°　W		1.14 0.70	0.92	逆台形	縄文		第48図	－	
24号	4B　94b	楕円形 N　45°　E		1.24 0.60	0.68	逆台形	縄文	ピット有　1穴	第48図	－	23土に切られる
25号	4C　14a	楕円形 N　52°　E	2.14	1.47	0.28	浅碗形	縄文？		第50図	－	
27号	4B　84c	楕円形 N　62°　E	1.77 0.88	1.40 0.45	0.58	不整形	縄文？	ピット有　1穴	第50図	－	
28号	4B　84a・c	不整楕円形 N　77°　W	2.07 1.35	1.59 1.10	0.29	浅碗形	縄文	ピット有　2穴	第50図	－	
29号	4B　43b	長方形 N　38°　E	1.72 1.26	1.16 0.63	0.65	逆台形	縄文	ピット有　1穴	第49図	－	
30号	4C　4b	瓢箪形 N　80°　W	1.65 0.75	1.12 0.65	0.08	不整形	奈良・平安		第50図	－	
31号	4B　94d 4C　4c	瓢箪形 N　77°　E	1.21 0.40	0.72 0.40	0.05	浅碗形	奈良・平安		第50図	－	
32号	4C　22b	方形 N　81°　E	0.64 0.50	0.50 0.45	1.07	逆台形	縄文		第49図	－	5炭, 33土と切り合う
33号	4C　22b	長方形 N　21°　W	0.42 0.41	0.36 0.40	1.07	逆台形	縄文		第49図	－	5炭, 33土と切り合う
35号	4B　21a	円形 N　0°　E	1.06 0.82	1.02 0.72	0.10	浅碗形	奈良・平安		第50図	－	
36号	4B　52a	瓢箪形 N　5°　E	1.93 0.75	0.90 0.45	0.33	碗形	縄文？		第50図	－	
38号	3C　69a	不整楕円形 N　49°　E	2.57 2.40	1.35 0.90	1.10	楕円形	縄文？		第49図	－	
39号	3B　9a	長方形 N　43°　E	1.30 1.05	0.63 0.55	0.24	浅逆台形	奈良・平安		第50図	－	
40号	3B　80a	長方形 N　56°　E	2.19 1.90	1.80 0.70	0.74	逆台形	縄文？		第49図	－	
41号	3B　80a	長方形 N　74°　E	2.31 1.90	1.23 0.93	0.81	逆台形	縄文		第49図	－	
42号	3B　80b	長方形 N　65°　W	1.17 0.80	0.81 0.50	1.07	円筒形	縄文		第49図	－	
44号	3B　90a	長方形 N　29°　E	0.99 0.70	0.88 0.62	0.43	碗形	縄文	ピット有　1穴	第49図	－	
49号	3C　9a	長方形 N　12°　E	0.98 0.78	0.73 0.50	0.86	円筒形	縄文？		第49図	－	
50号	3B　8b	円形 N　29°　E	1.19 0.96	1.04 0.71	1.08	円筒形	縄文？		第49図	－	

遺構No.	検出区	平面形 方位	法量（m） 長軸	短軸	深さ	堀方断面形状	時代 時期	特　徴	挿図No. 遺構	遺物	備　考
			（上端） （下端）								
51号	3C　22a	楕円形 N　86° W	2.27 1.78	1.25 0.80	0.82	逆台形	縄文？		第49図	－	
52号	3C　13b	楕円形？ N　36° W	2.76 2.40	1.59 (1.35)	0.45	浅碗形	縄文？		第51図	－	3溝に切られる
53号	3C　14d	長方形 N　30° W	2.23 1.72	1.63 1.36	0.64	浅碗形	縄文？	ピット有　1穴	第51図	－	
54号	3C　4d	不整楕円形 N　45° W	3.22 2.75	2.25 1.80	0.40	不整形	縄文？	ピット有　2穴	第51図	－	
55号	3B　66b	不整円形 N　82° W	1.61 1.26	1.24 1.05	0.60	逆台形	縄文		第51図	－	18号方形周溝内
56号	3c　45d 46b	楕円 N　56° E	2.31 1.85	1.75 1.40	0.22	浅碗形	縄文？		第51図	－	
57号	3B　92c	不整形 N　45° W	1.40 0.55	1.00 0.60	0.70	不整形	縄文	ピット有　1穴	第51図	－	5溝内
58号	3c　15d	長方形 N　85° E	1.39 1.16	0.85 0.80	0.66	逆台形	縄文		第51図	－	
59号	4C　20a ・c	不整楕円形 N　28° W	1.69 1.40	1.27 0.80	0.84	逆台形	奈良･平安？	ピット有　3穴	第51図	－	12号方形周溝

32・33土
1　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
3　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む
4　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
5　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックをまばらに含む

35土
1　7.5YR 3/2 黒褐　焼土粒、炭化物粒を含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含む、焼土粒･炭化物粒をまばらに含む
3　5YR 3/6 暗赤褐　ローム粒･焼土粒を含み、ロームブロックを少し含む

36土
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を少し含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む

39土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含む
2　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

57土
1　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをわずかに含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含む
3　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
4　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをわずかに含む

42土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含む
3　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをわずかに含む
4　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
5　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
6　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む

21土
1　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含む
2　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・焼土粒を少し含む
4　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・焼土粒を少し含む
5　7.5YR 4/6 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

29土
1　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
3　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
4　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

38土
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少しも
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを少し含む
4　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をわずかに含む、ロームブロックをまばらに含む
5　7.5YR 4/6 褐　ローム粒、ロームブロックを多く含む

40土
1　75YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
2　75YR 3/1 黒褐　ローム粒をわずかに含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
4　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
5　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

41土
1　7.5YR 4/3褐　ローム粒を含み、焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/1黒褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
3　7.5YR 3/4暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
4　7.5YR 4/4褐　ローム粒・ロームブロックを含む
5　7.5YR 4/3褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックをまばらに含む

44土
1　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、焼土粒･炭化物粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

50土
1　7.5YR 3/2 黒褐　ロームブロックをわずかに含む
2　7.5YR 3/2 暗褐　ローム粒をまばらに含む
3　7.5YR 3/2 暗褐　ロームブロックをわずかに含む

49土
1　7.5YR 4/6 褐　ローム粒をやや多く含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ローム粒ブロック少し含む
4　7.5YR 4/6 明褐　ロームブロック・ローム粒を含む
5　7.5YR 4/6 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックをまばらに含む
6　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む
7　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む

51土
1　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックをわずかに含む
4　7.5YR 3/4 暗褐　ロームブロックをまばらに含む
5　7.5YR 4/4 褐　ロームブロックを多く含む
6　7.5YR 4/6 褐　ロームブロック・黒色土ブロックをまばらに含む

58土
1　7.5YR 3/2黒褐　ローム粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/4暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
3　7.5YR 3/1黒褐　ローム粒・ロームブロックをわずかに含む
4　7.5YR 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
5　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

20土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・焼土粒を少し含む
2　7.5YR 3/4　ローム粒・ロームブロックを少し含む
3　4/2 褐　ローム粒を含み、ローム粒･ロームブロックを少し含む

25土
1　2.5YR 4/6 赤褐　焼土ブロックを多く含む
2　5YR 3/6 暗赤褐　焼土ブロックを含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含む

11土
1　75YR 4/6 褐　ロームブロックを主体とする

4土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・焼土粒を少し含む
2　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロック焼土粒を少し含む
3　7.5YR 3/2 黒褐　炭化物粒を多く含み、焼土粒・ローム粒を含む

10土
1　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を含み、ロームブロック･焼土粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをわずかに含む

12土
1　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・焼土粒を少し含む

9土
1　7.5YR 4/6 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む

31土
1　5YR 3/6 暗赤褐　ローム粒・焼土粒を含む

27土
1　7.5YR 4/6褐　ローム粒主体でロームブロックを含む
2　7.5YR 3/2黒褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む
3　7.5YR 4/3褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む

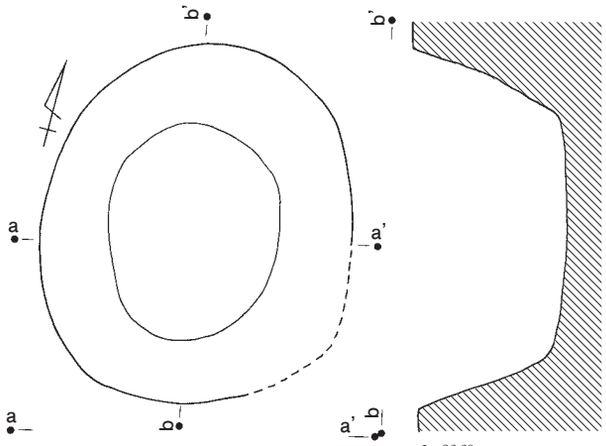
28土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含む
2　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含む

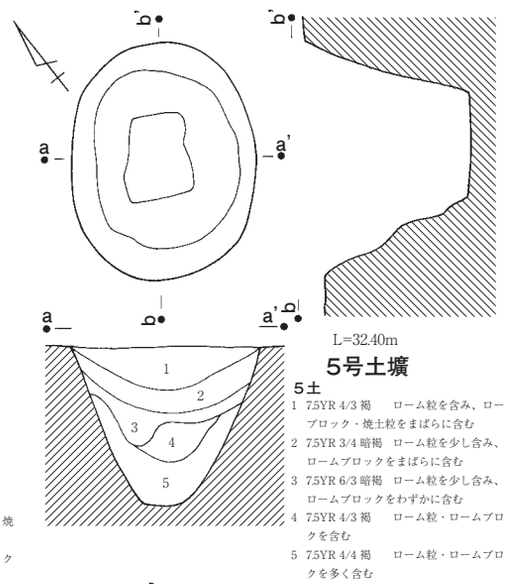
30土
1　2.5YR 3/6 暗赤褐 焼土粒を多く含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、焼土粒を少し含む

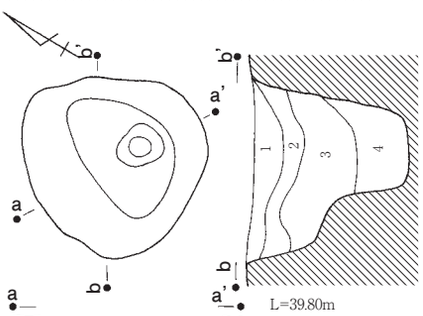
17土
1　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

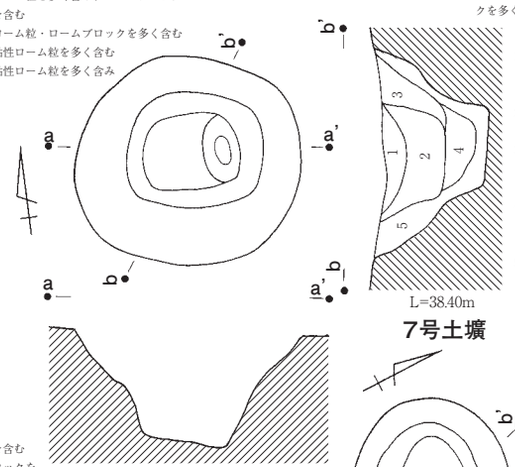
18土
1　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含む
3　7.5YR 4/3 褐　ロームブロックを含み、ローム粒を少し含む

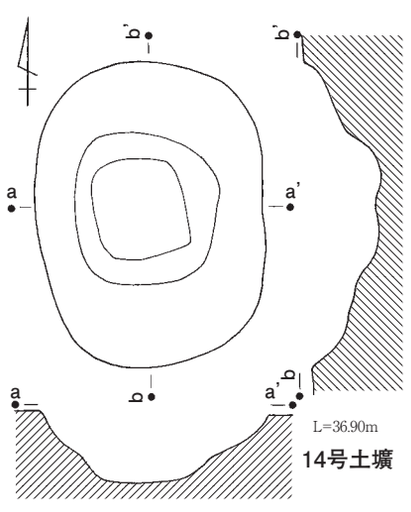
19土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含む
2　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

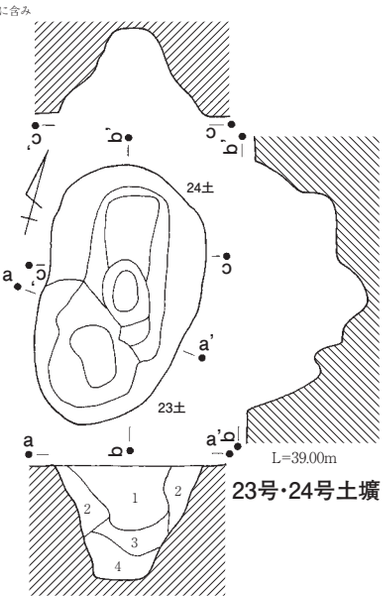


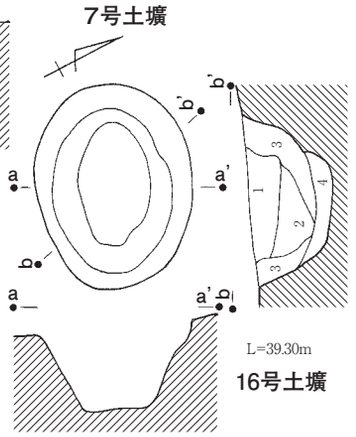


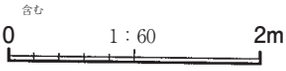




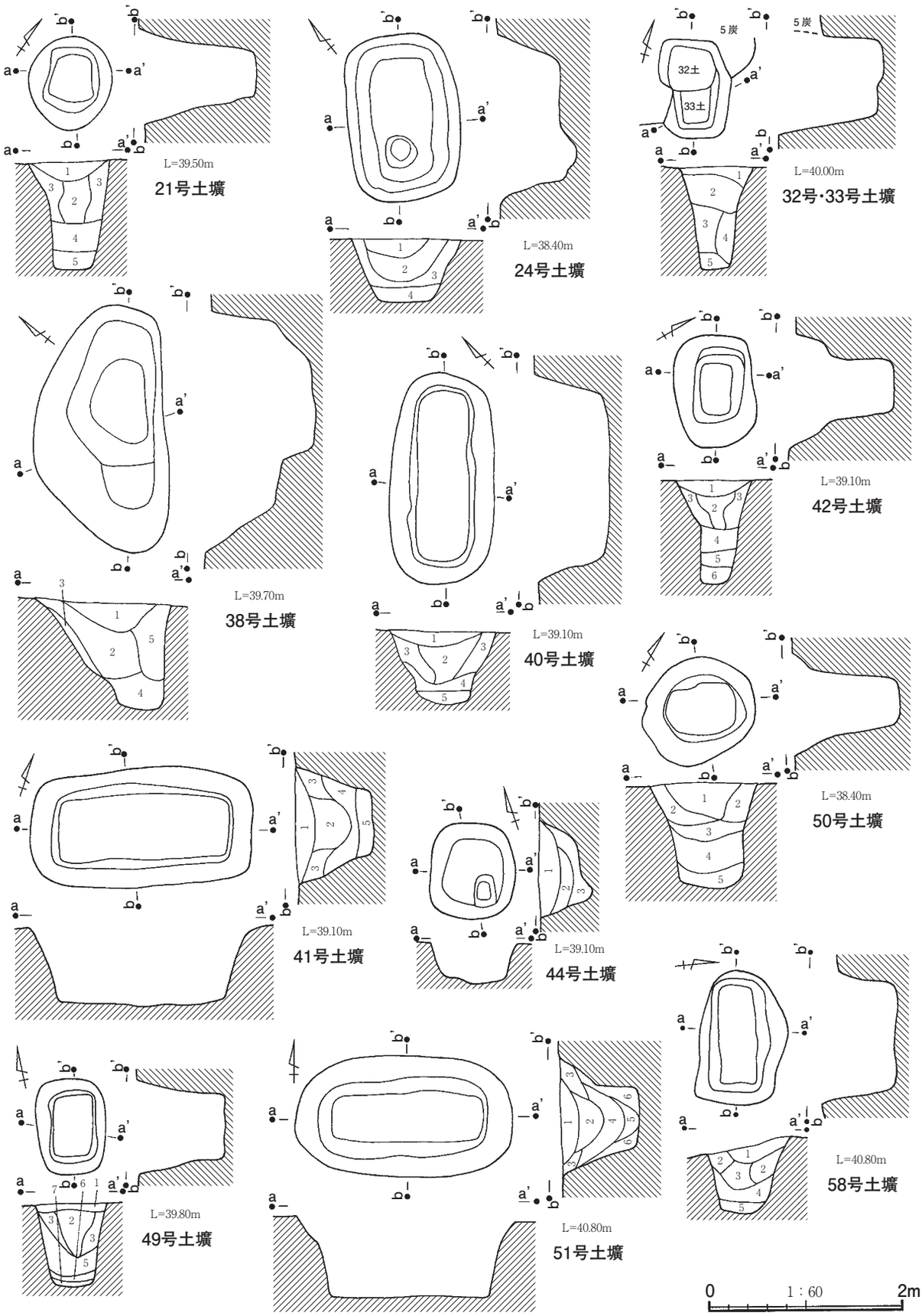




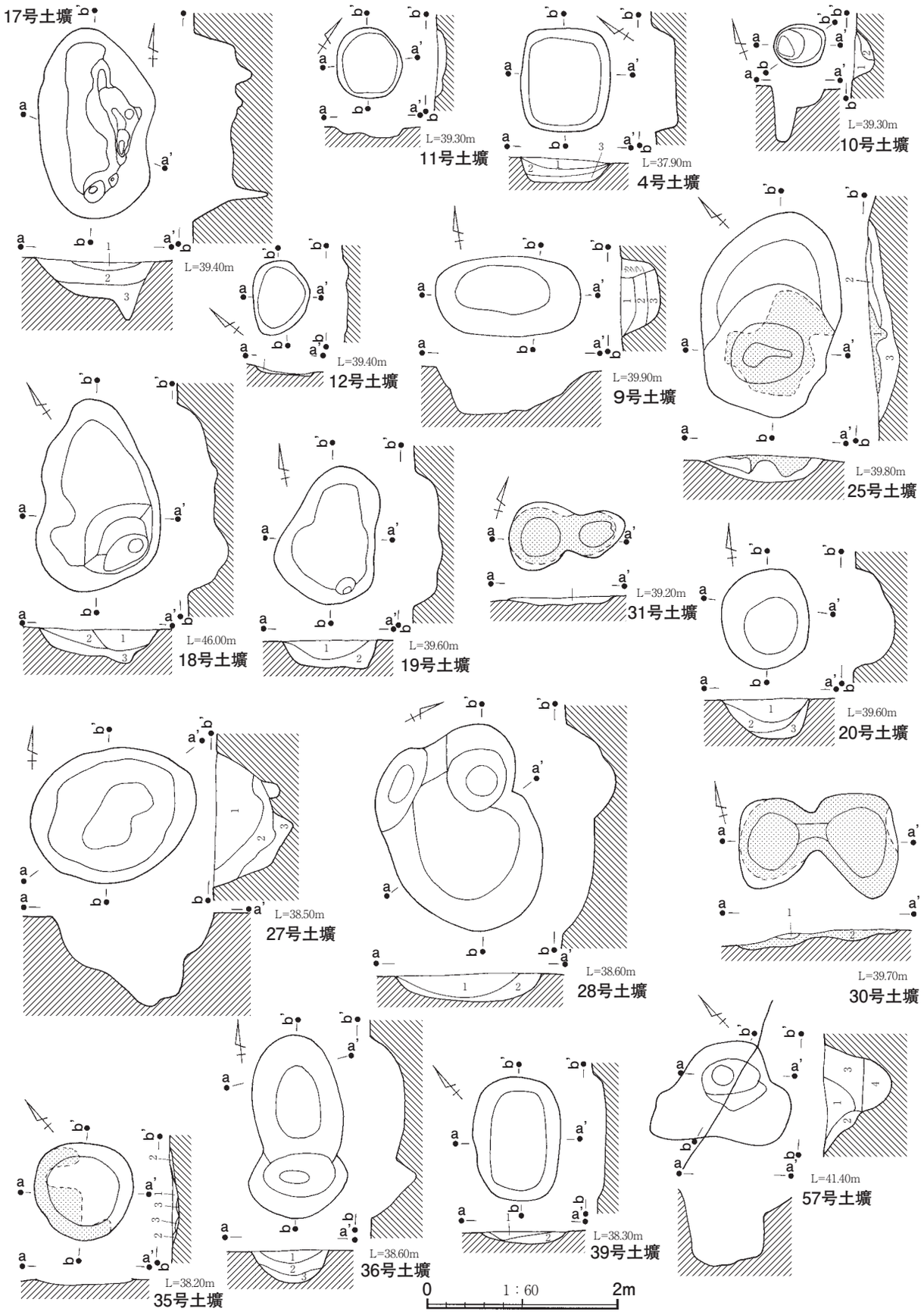




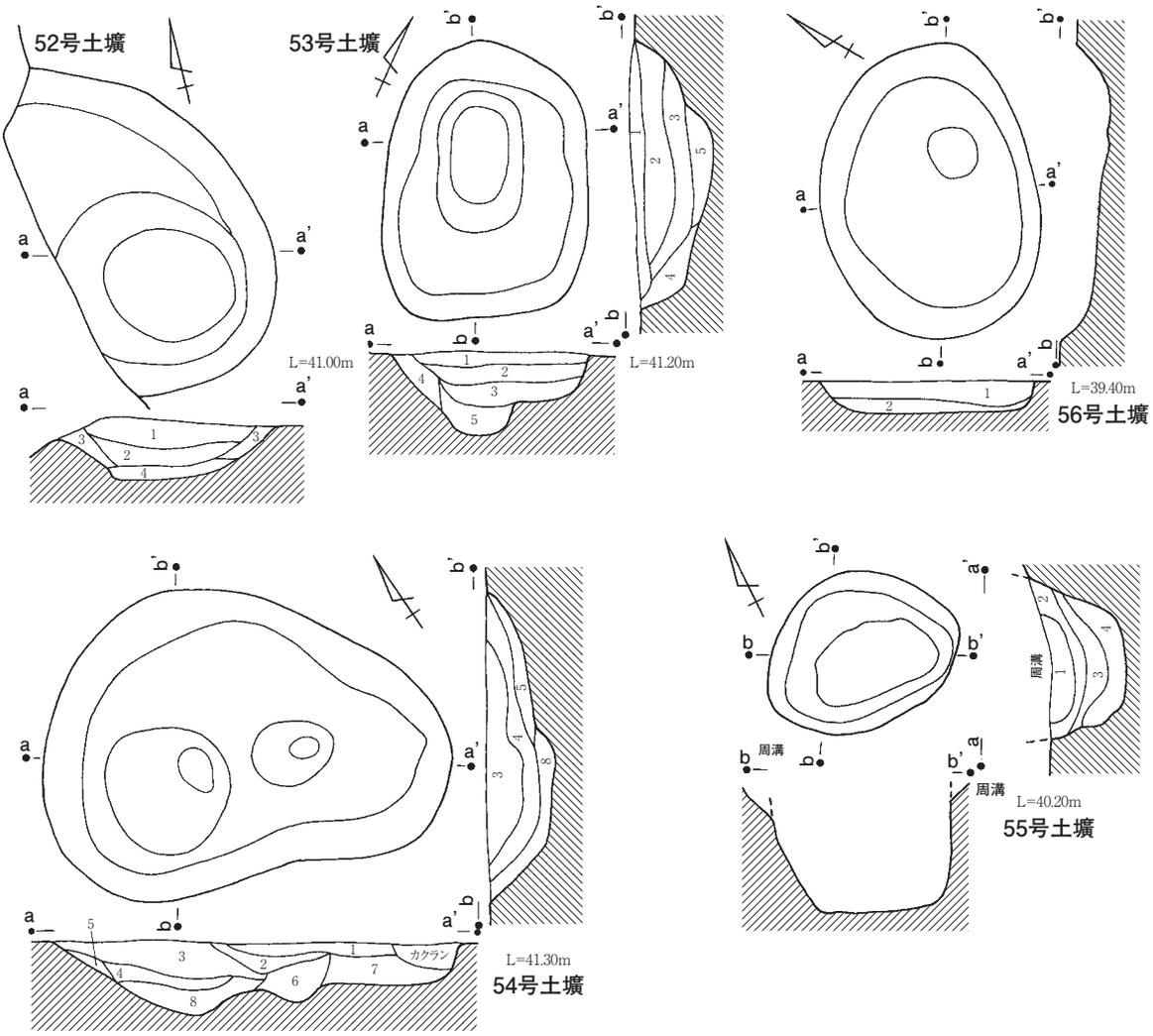
第48図　端山越遺跡土壙①



第49図　端山越遺跡土壙②



第50図　端山越遺跡土壙③



52土
1 7.5YR 3/2 黒褐 ローム粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/3 暗褐 ロームブロックをまばらに含む
3 7.5YR 3/4 暗褐 ロームブロックをまばらに含む
4 7.5YR 4/4 褐 ロームブロックを多く含む

53土
1 7.5YR 2/1 黒 ローム粒・炭化物をまばらに含む
2 7.5YR 3/2 黒褐 ローム粒・炭化物を多く含む
3 7.5YR 3/2 黒褐 ローム粒を多く、炭化物をわずかに含む
4 7.5YR 4/3 褐 暗褐色土ブロックを多く含む

54土
1 7.5YR 2/1 黒 ローム粒・炭化物粒をわずかに含む
2 7.5YR 3/1 黒褐 ローム粒・炭化物ブロックを多く含む
3 7.5YR 3/1 黒褐 ローム粒をまばらに含む
4 7.5YR 2/1 黒 ローム粒をわずかに含む
5 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒を斑状に含む
6 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒を多く含む
7 7.5YR 3/4 暗褐 ローム粒・黒色粒をまばらに含む
8 7.5YR 3/3 暗褐 炭化物ブロックをわずかに含む

55土
1 7.5YR 3/4 暗褐 ローム粒を少し含み焼土粒をわずかに含む
2 7.5YR 3/6 暗褐 ローム粒を含み、焼土粒をまばらに含む
3 7.5YR 4/4 褐 ローム粒を含み、ロームブロ・ソクを少し含む
4 7.5YR 4/6 褐 ローム粒・ロームブロックを多く含む

56土
1 7.5YR 3/2 黒褐 ローム粒をわずかに含む
2 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒をまばらに含む

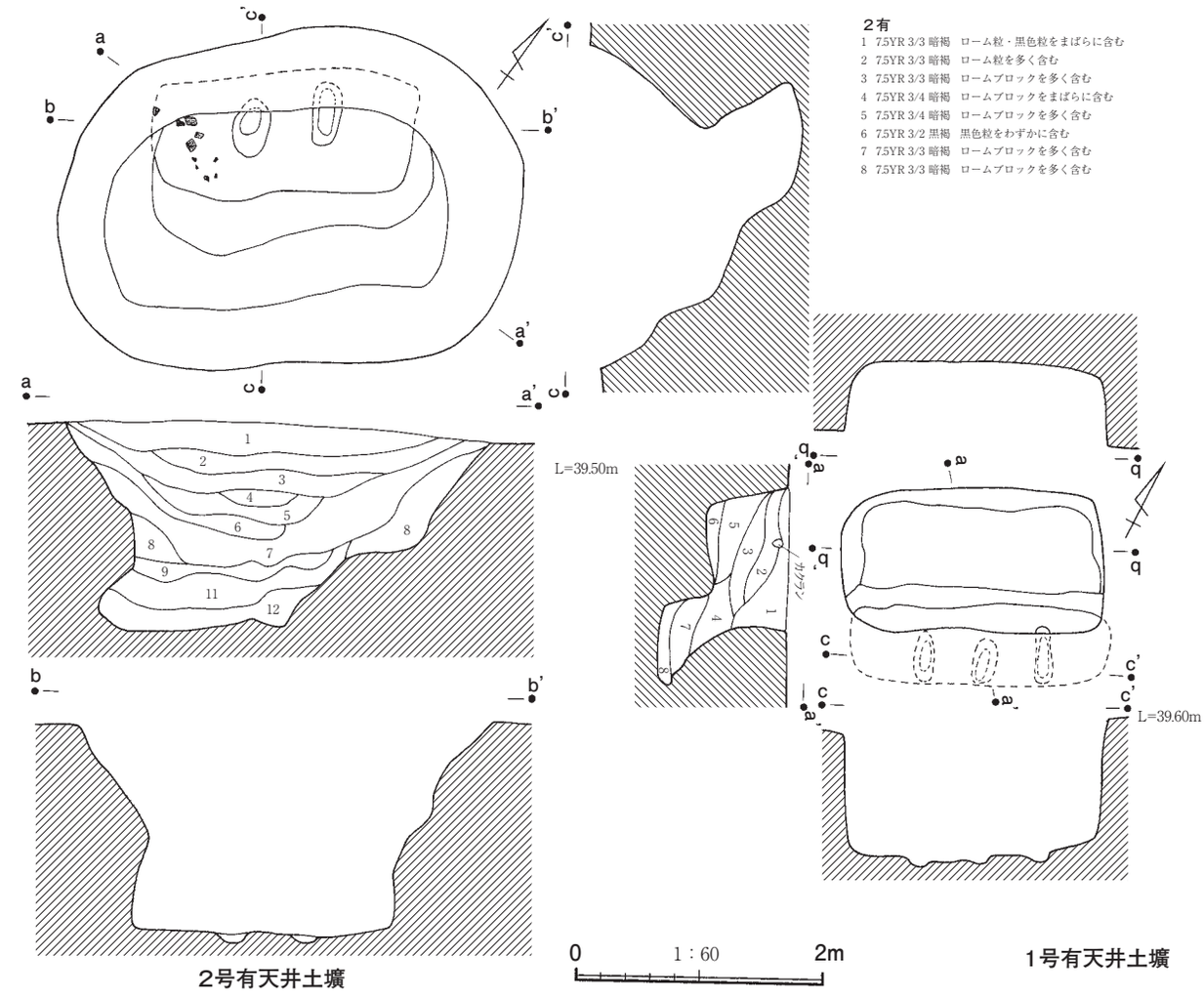
59土
1 7.5YR 3/2 黒褐 ロームブロックを含む
2 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒を少し含む
3 7.5YR 4/3 褐 ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
4 7.5YR 4/4 褐 ローム粒・ロームブロックを含む

第51図　端山越遺跡土壙④

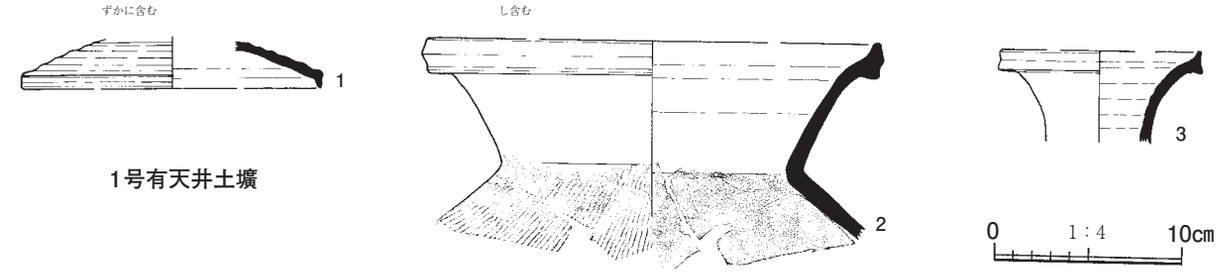
5　有天井土壙

第15表　端山越遺跡検出の有天井土壙

遺構No.	検出区	上端平面形	法量（m） 長辺	短辺	深さ	底面状況	時代時期	特徴	挿図No. 遺構	遺物	旧名称	備考
			（上端）		上段							
			（下端）		下段							
1号	4C　45d	長方形	2.14	1.14	0.68	3条の溝	奈良 8世紀前半？	天井部残存	第52図	第52図	C1	
			2.12	0.66	1.05							
2号	3B　100b	楕円形	3.78	2.65	0.96	2条の溝	奈良・平安？	天井部残存	第52図	－	C48	
			2.15	0.98	1.68							



1有
1 7.5YR 3/1 黒褐 ローム粒・焼土粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒を含み、焼土粒をわずかに含む
3 7.5YR 3/2 黒褐 ローム粒を少し含み、焼土粒・ロームブロックをまばらに含む
4 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒を少し含み、ロームブロック・焼土粒をわずかに含む
5 7.5YR 3/4 暗褐 ローム粒・ロームブロックを少し含み、焼土粒をわずかに含む
6 7.5YR 4/4 褐 ローム粒・ロームブロックを含み、焼土粒・炭化物粒を少し含む
7 7.5YR 4/4 褐 ローム粒・ロームブロックを含み､焼土粒・炭化物粒・炭化物をまばらに含む
8 7.5YR 4/6 褐 ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む。焼土粒・炭化物粒を少し含む
9 7.5YR 4/6 褐 ローム粒・ロームブロックを多く含む。焼土粒を少し含む
10 7.5YR 3/4 暗褐 ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む。炭化物粒をわずかに含む
11 7.5YR 4/4 褐 ローム粒を多く含み、ロームブロックを多く含む
12 7.5YR 4/2 褐 ローム粒を多く含み、ロームブロックをまばらに含む



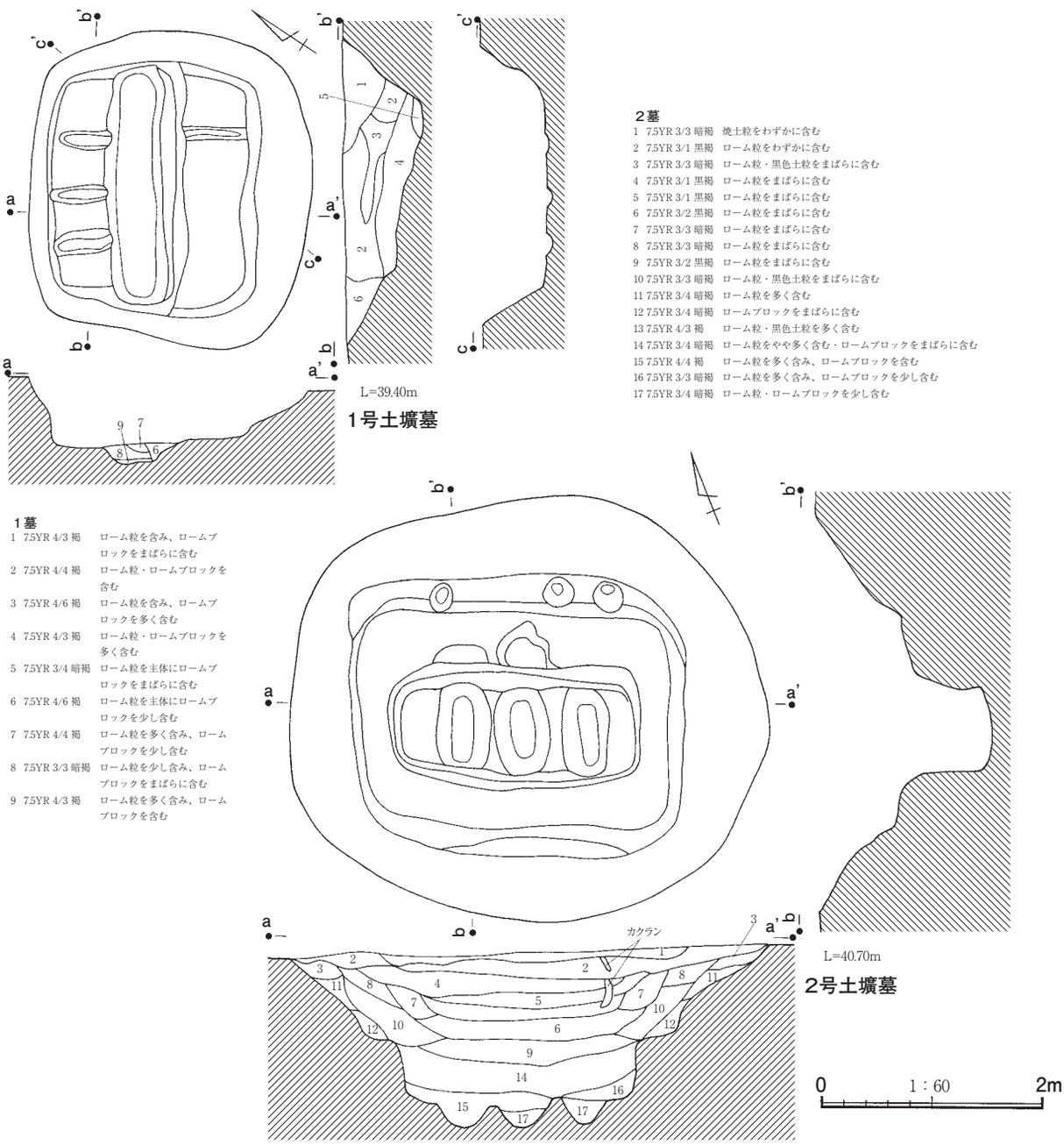
1号有天井土壙

第52図　端山越遺跡有天井土壙・出土遺物

6　土壙墓

第16表　端山越遺跡検出の土壙墓

遺構No.	検出区	平面形	法量（m） 長辺（上端）（下端）	法量（m） 短辺（上端）（下端）	深さ	堀方断面形状	時代時期	特徴	挿図No. 遺構	挿図No. 遺物	旧名称	備考
1号	4C　36c	長方形	2.74 2.04	2.54 0.35	0.78	逆台形	奈良・平安？	中央部が1段下がる 上段に4条の溝	第53図	なし	C6	
2号	3c　8d 18 c	不整円形 下部長方形	4.32 2.08	3.81 0.92	1.32	逆台形	奈良・平安？	中央部が1段下がる 底面に3条溝 中段に3穴 層序に炭化物含まれる	第53図	なし	C45	火葬墓？



1墓
1 7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
2 7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
3 7.5YR 4/6 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを多く含む
4 7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む
5 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を主体にロームブロックをまばらに含む
6 7.5YR 4/6 褐　ローム粒を主体にロームブロックを少し含む
7 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを少し含む
8 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
9 7.5YR 4/3 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む

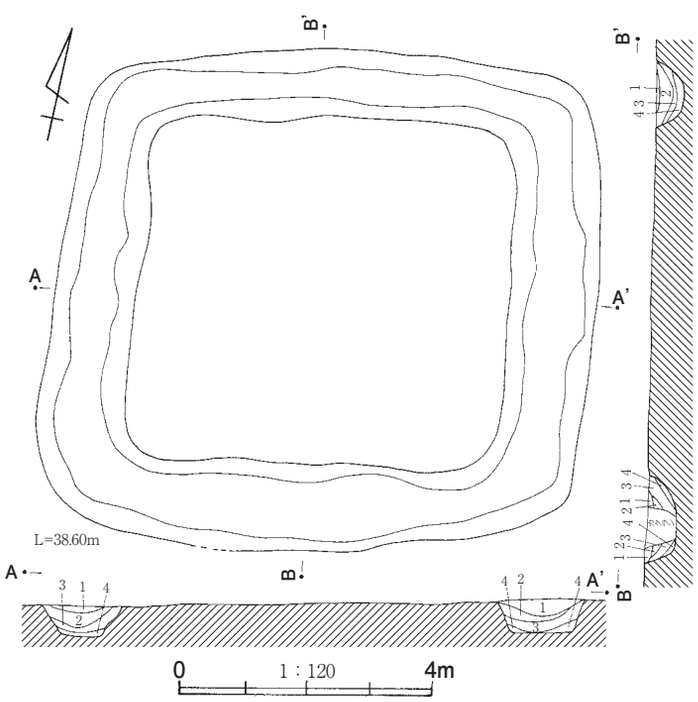
2墓
1 7.5YR 3/3 暗褐　焼土粒をわずかに含む
2 7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒をわずかに含む
3 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・黒色土粒をまばらに含む
4 7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒をまばらに含む
5 7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒をまばらに含む
6 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
7 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をまばらに含む
8 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をまばらに含む
9 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
10 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・黒色土粒をまばらに含む
11 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を多く含む
12 7.5YR 3/4 暗褐　ロームブロックをまばらに含む
13 7.5YR 4/3 褐　ローム粒・黒色土粒を多く含む
14 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒をやや多く含む・ロームブロックをまばらに含む
15 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む
16 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを少し含む
17 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む

第53図　端山越遺跡土壙墓

7　方形周溝状遺構

第17表　端山越遺跡方形周溝状遺構

遺構No.	検出区		方位	法量（m）※軸長は外辺 長軸 (上端) (下端)	短軸	溝幅 上溝 下溝	周溝深さ	周溝堀方断面形状	時代時期	挿図No. 遺構	挿図No. 遺物	備考
1号	4C	27	N　－33°　－W	10.95 6.9	10.4 6.5	1.98 1.2	0.53	半円形	奈良・平安時代	第57図	第66図	
2号	4B	73c	N　－82°　－E	8.65 5.95	8.04 5.6	1.29 0.8	0.49	逆台形	奈良・平安時代	第54図	－	
3号	4C	29c	N　－29°　－W	7.9 5.7	7.6 5.6	1.0 0.4	3.38	逆台形	奈良・平安時代	第57図	－	
4号	4C	55a	N　－59°　－E	13.5 8.6	12.9 8.15	2.4 1.0	0.88	逆台形	奈良・平安時代	第55図	第66図	新
				9.3 7.35	8.7 6.3	? ?	?	逆台形？	奈良・平安時代	第56図	第66図	旧
5号	5C	2a・b 12a	N　－57°　－E	12.6 8.85	12.4 8.32	1.9 0.83	1.05	逆台形	奈良・平安時代	第56図	－	
6号	4B	2	N　－33°　－E	5.2 4.1	5 3.8	0.55 0.35	0.1	浅碗形？	奈良・平安時代	第58図	－	
7号	4C	4	N　－11°　－E	7.15 4.5	7.0 4.3	1.35 0.5	0.4	半円形	奈良・平安時代	第58図	第66図	
8号	4C	53	N　－18°　－W	9.1 6.1	8.8 5.9	1.51 0.53	0.58	逆台形？	奈良・平安時代	第58図	第66図	
9号	3A	99d 100b	N　－41°　－W	7.0 4.3	6.8 5.2	0.93 0.48	0.23	半円形	奈良・平安時代	第59図	第66図	
10号	3B	10b・d 20a・c	N　－27°　－W	6.8 4.2	6.7 3.7	1.25 0.75	2.88	半円形	奈良・平安時代	第59図	第67図	
11号	3B	38c・d	N　－15°　－E	－ －	5.4 3.9	0.67 0.21	0.25	半円形	奈良・平安時代	第59図	第68図	
12号	3C	10b・d 20a・c	N　－66°　－E	17.04 12.1	16.92 11.6	2.625 0.78	1.06	下半直下	奈良・平安時代	第63図	第67図	南西角欠損
13号	3B	59c・d 60a・c	N　－56°　－W	6.2	3.0 2.0	0.69	0.23	半円形	奈良・平安時代	第60図	第68図	西側 東側
				3.65	3.5 2.4							西側 東側
14号	3B	46d	N　－ 5 °　－W	6.1 4.1	6.0 3.95	0.98 0.4	0.25	半円形	奈良・平安時代	第60図	第68図	
15号	3B	83c・d	N　－73°　－E	－ －	7.2 5.9	6.7 0.35	0.15	半円形	奈良・平安時代	第60図	－	2/3欠
16号	3B	97d	N　－25°　－W	4.45 2.55	4.1 2.85	7.4 4.5	0.15	半円形	奈良・平安時代	第61図	第68図	
17号	3B	96c・d	N　－ 4 °　－E	6.6 4.2	(6.5) 4.0	1.25 0.35	0.48	半円形	奈良・平安時代	第61図	第68図	
18号	3B	76a	N　－33°　－W	8.3 5.0	8.3 5.1	1.68 5.0	5.25	半円形	奈良・平安時代	第61図	－	
20号	3C	16	N　－35°　－W	9.8 5.7	9.1 5.5	2.0 6.1	0.625	半円形	奈良・平安時代	第62図	第68図	
21号	3C	17a 17b	N　－18°　－W	6.8 4.35	6.4 4.35	1.2 1.08	0.6	半円形	奈良・平安時代	第62図	第68図	



2号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面形は東西にやや長い方形。周溝断面形は半円形～角丸逆台形。人為的な埋め戻しはされていない。盛土の痕跡は全く確認できなかった。
遺物の状況	明確に伴うと判断できる遺物はない。
備考	

2方
1　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を含み、焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
4　7.5YR 4/6 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロック含む

第54図　端山越遺跡第2号方形周溝状遺構

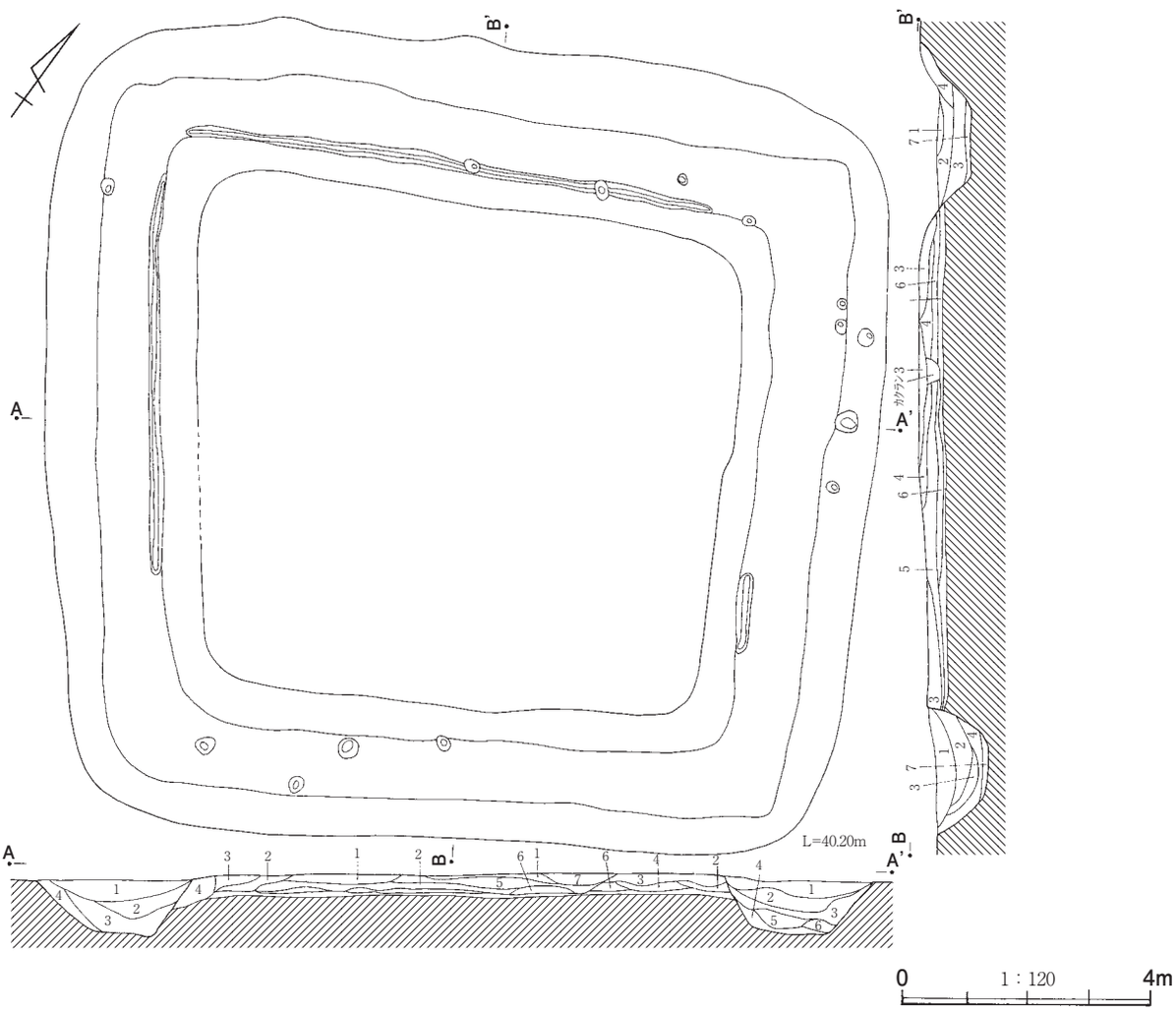
4 号方形周溝状遺構（旧）

遺構の状況	周溝の内端は検出された。 (新)遺構の断面に盛土の痕跡がある。最上部は削平。平面形は西辺が長く東辺が短いいびつな台形。
遺物の状況	明確に伴うと判断できる遺物はない。
備考	第56図の上

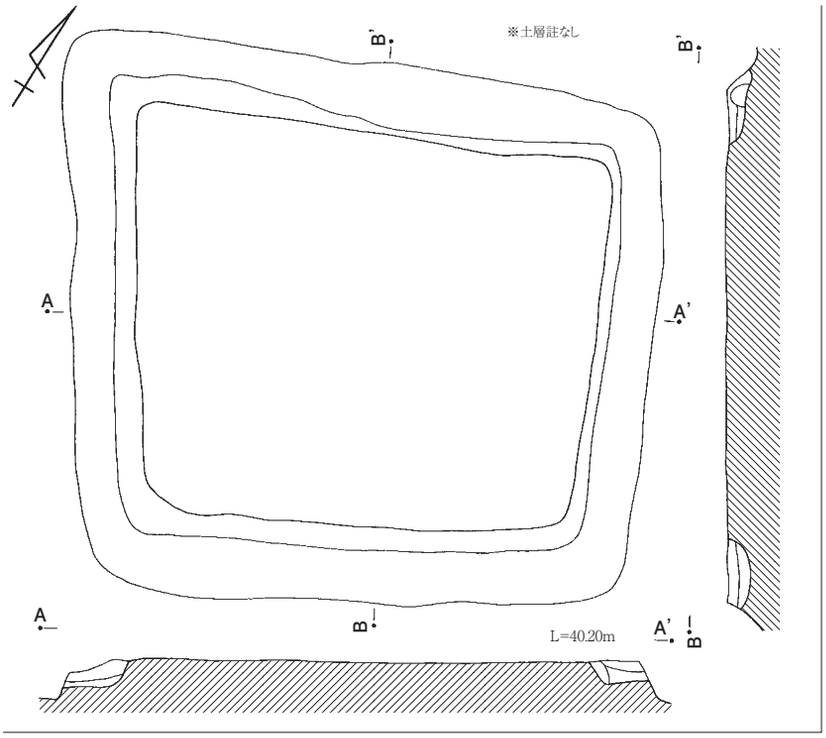
4 号方形周溝状遺構（新）

遺構の状況	(旧)遺構よりも一まわり規模が大きい。周溝内の溝は、(旧)遺構の掘方の一部。断面は逆台形。平面的に(旧)遺構と全く同じなので、同型に拡張した可能性あり。
遺物の状況	周溝内から須恵器の鉢が出土。時期は 8 世紀代。
備考	

4方
1 7.5YR 4/3 褐　ローム粒を多く含む
2 7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをわずかに含む
3 7.5YR 4/6 褐　ロームブロックをわずかに含む
4 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含む
5 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをわずかに含む
6 7.5YR 4/4 褐　ソフトローム
7 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含む
8 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックをわずかに含む

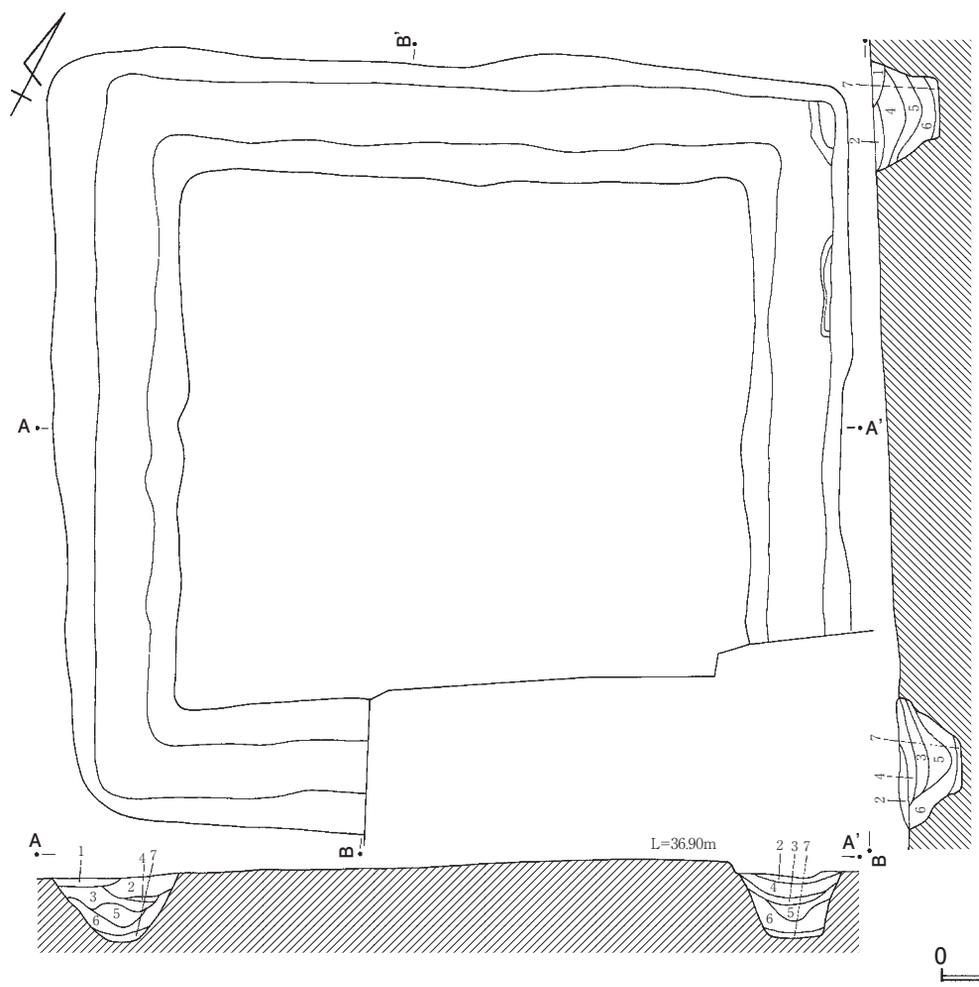


第55図　端山越遺跡 4（新）号方形周溝状遺構



5 号方形周溝状遺構

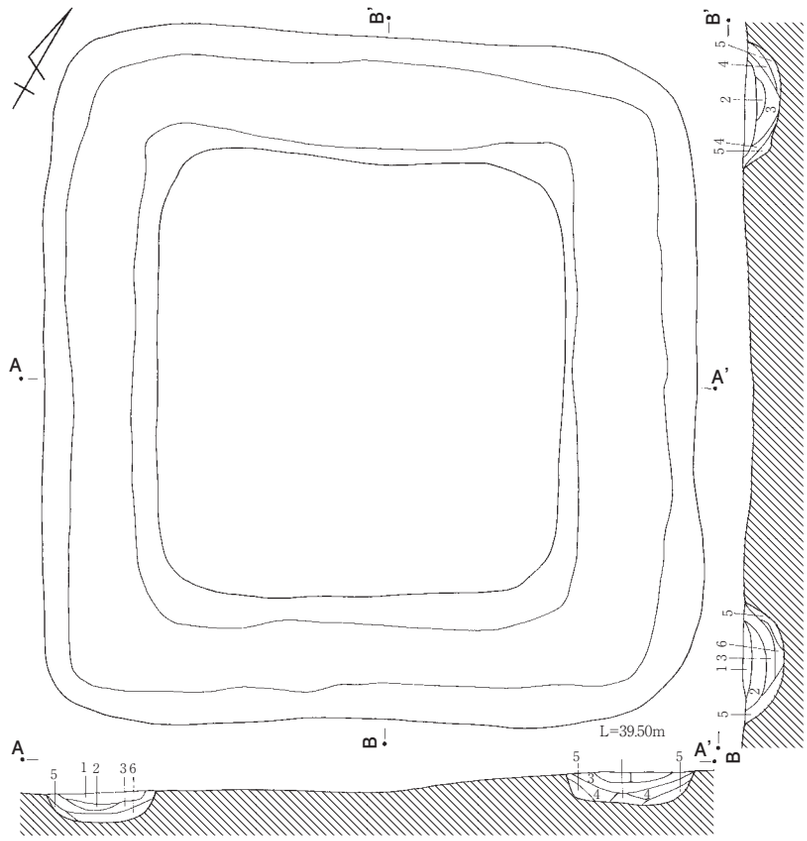
遺構の状況	平面形はほぼ正方形。四隅が直に曲がる。盛土は確認されなかった。断面は逆台形。
遺物の状況	明確に伴うと判断できる遺物はない。
備考	



5方
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、焼土粒・炭化物粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロック・焼土粒をまばらに含む
3 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む。焼土粒をわずかに含む
4 7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロック含む。焼土粒をわずかに含む
5 7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックをやや多く含む。焼土粒をわずかに含む
6 7.5YR 4/3 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む
7 7.5YR 4/6 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む。粘性ロームブロックを少し含む

0　1：120　4m

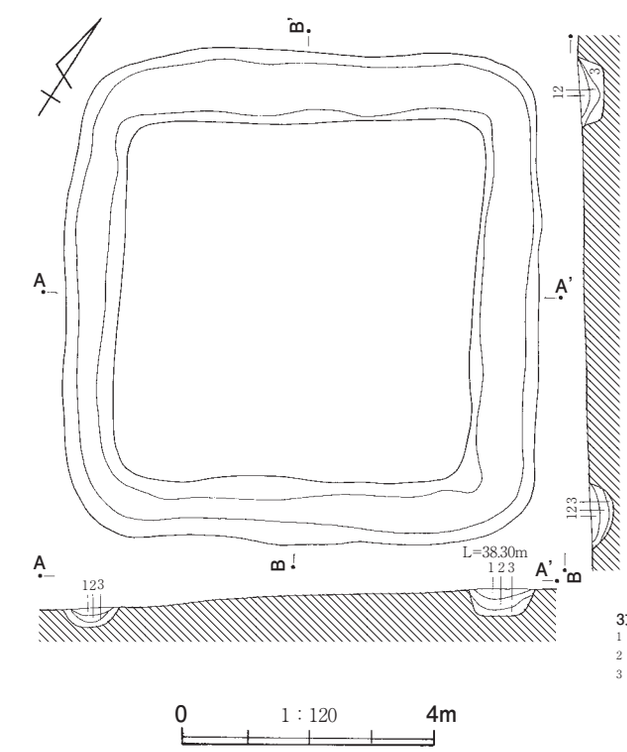
第56図　端山越遺跡 4（旧）・5 号方形周溝状遺構



1 号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面形はほぼ正方形。四隅がやや丸みを帯びる。盛土は確認されなかった。断面は半円形。
遺物の状況	遺物は周溝覆土から出土。須恵器甕・長頸壺高台部と土師器糸切り底の杯・布目平瓦が出土。瓦は遺構造成時のものかは疑問。 時期は 8 世紀代。
備考	

1方
1　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロック・焼土粒をわずかに含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
4　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロック含む。焼土粒をわずかに含む
5　7.5YR 4/6 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む
6　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む
7　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックをに含む



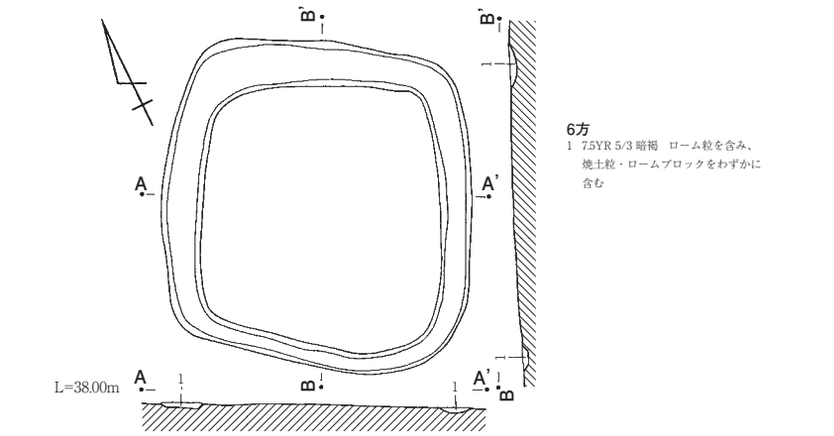
3 号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面形はほぼ正方形。四隅がやや丸みを帯びる。盛土は確認されなかった。断面は半円形～逆台形。
遺物の状況	明確に伴うと判断できる遺物はない。
備考	

3方
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含み、焼土粒をまばらに含む
2　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、焼土粒をわずかに含む
3　7.5YR 4/6 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む

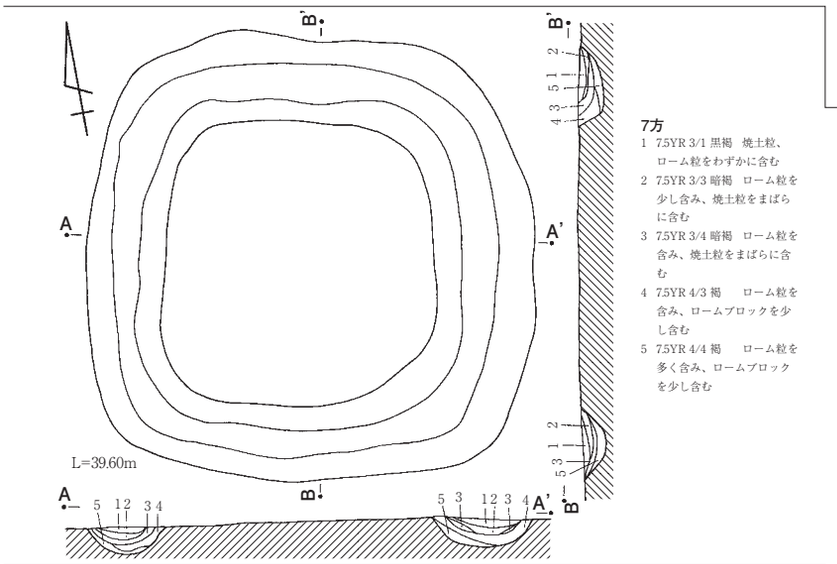
0　1：120　4m

第57図　端山越遺跡 1 ・ 3 号方形周溝状遺構



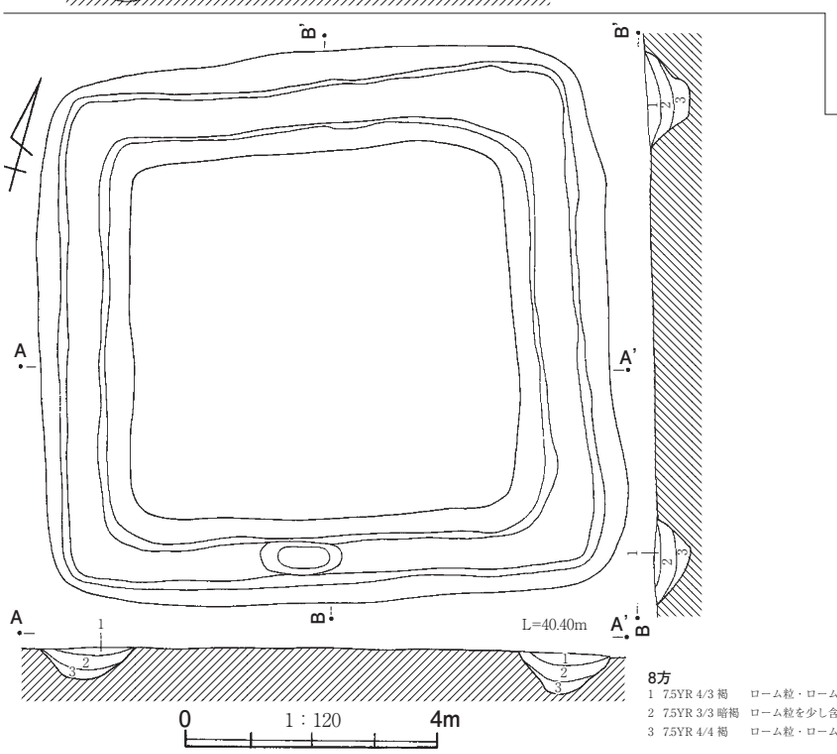
6 号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面的に方形だが歪な感は否めない。小型で周溝の残りも悪い。断面は半円形。
遺物の状況	遺物は全くない。
備考	



7 号方形周溝状遺構

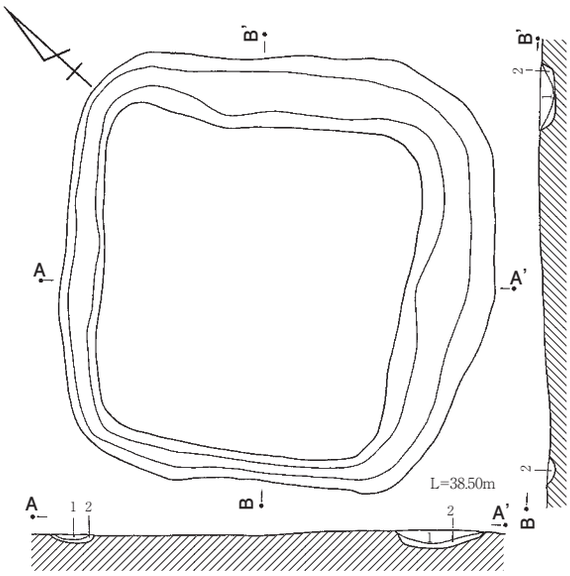
遺構の状況	平面的に隅の丸みが激しい方形である。内周は方形気味だが、外周は丸みが更にきつい。断面は半円形。
遺物の状況	布目平瓦と須恵器短頸壺・高盤が出土。高盤には雲母が含まれる。時期は 8 世紀半ば以降。
備考	高盤は新治産？



8 号方形周溝状遺構

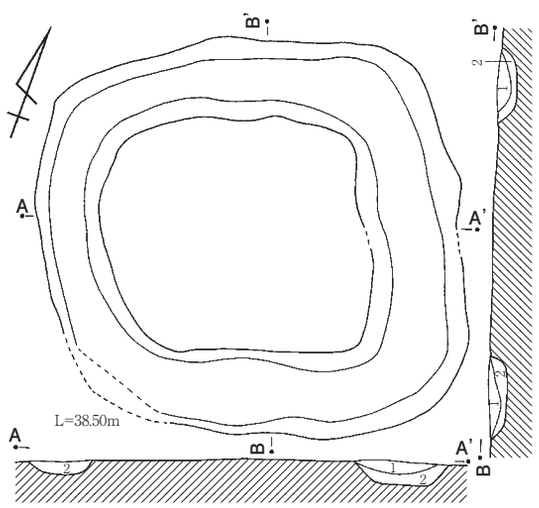
遺構の状況	平面形はやや東西にやや長い方形。周溝には段があり、断面は中位に稜がある。盛土は確認されなかった。
遺物の状況	周溝内から、土師器の短頸壺片が出土。 時期は 8 世紀代？。
備考	

第58図　端山越遺跡 6 ・ 7 ・ 8 号方形周溝状遺構



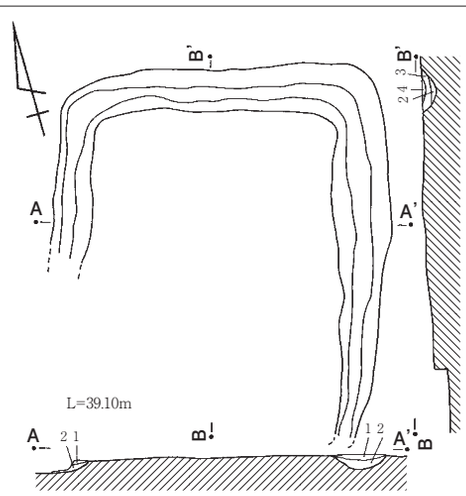
9 号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面的に方形だが歪な感は否めない。やや小型で周溝の残りも悪い。断面は半円形。
遺物の状況	周溝から比較的多く出土。布目丸瓦と土師器杯片・須恵器甕・甑が出土。第66図-6の甑底部は大きな単孔である。 時期は、８世紀代。
備考	



10号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面的に方形だが歪な感は否めない。やや小型で周溝の残りも悪い。西辺はとても丸みを帯びる。断面は半円形。
遺物の状況	周溝から比較的多く出土。土師器・須恵器の杯、須恵器甕・長頸壺が出土。長頸壺の体部肩の稜が丸みを帯びる。 時期は８世紀半ば以降。
備考	

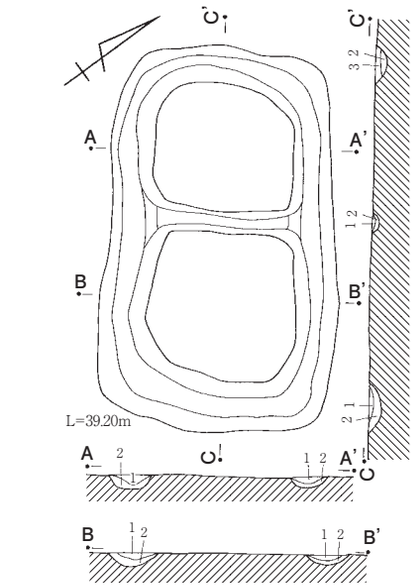


11号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面形はやや南北に長い方形。南西隅が欠損している。やや小型で周溝の残りも悪い。断面は半円形。
遺物の状況	明確に伴うと判断できる遺物はない。
備考	

0　1：120　4m

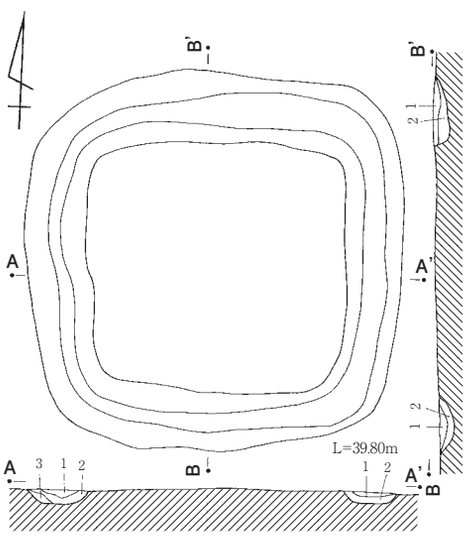
第59図　端山越遺跡９・10・11号方形周溝状遺構



13方
1 7.5YR 3/2 黒褐 ローム粒をわずかに含み、焼土粒・炭化物粒をわずかに含む
2 7.5YR 4/3 褐 ローム粒を含み、ロームブロックを少し含み、焼土粒をまばらに含む
3 7.5YR 4/4 褐 ローム粒・ロームブロックを含み、焼土粒・炭化物粒をまばらに含む

13号方形周溝状遺構

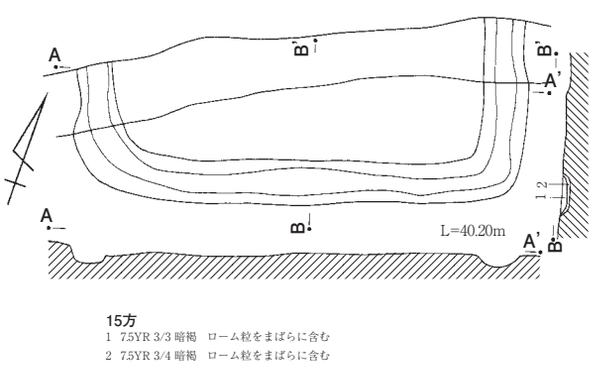
遺構の状況	平面形は、小型のものが2基並列している。切り合い関係は無いようなので、一連の遺構である。隅は丸みがあり、断面は半円形。
遺物の状況	須恵器杯4点と鉢1点が周溝から出土。第68図-1は白色粒が目立つ。 時期は8世紀後半。
備考	



14方
1 7.5YR 3/1 黒褐 ローム粒をわずかに含む
2 7.5YR 3/2 黒褐 ローム粒をまばらに含む
3 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒をまばらに含む

14号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面形はほぼ正方形。外周四隅がやや丸みを帯びる。盛土は確認されなかった。周溝は浅く、断面は半円形。
遺物の状況	土師器杯と須恵器甕片が周溝から出土。 時期は8世紀代。
備考	



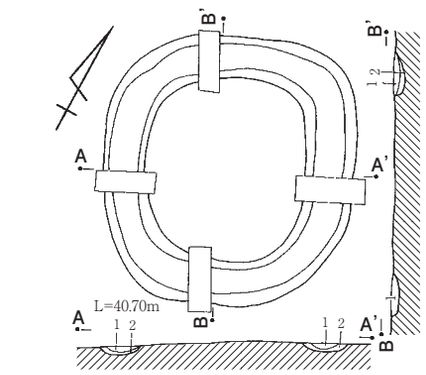
15方
1 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/4 暗褐 ローム粒をまばらに含む

15号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面形は方形であろうが、北側2/3が調査範囲外で未調査である。周溝は浅く半円形。
遺物の状況	遺物は全くない。
備考	

0 1：120 4m

第60図　端山越遺跡13・14・15号方形周溝状遺構

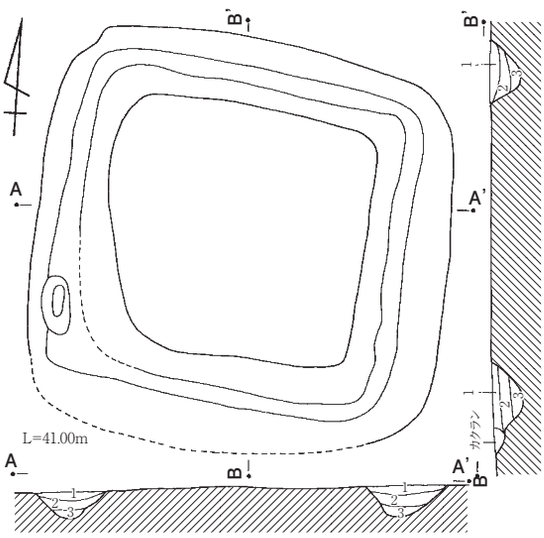


16方
1 7.5YR 2/1 黒褐 ローム粒をわずかに含む
2 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒をわずかに含む

17方
1 7.5YR 3/1 黒褐 ローム粒を多く含む
2 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒を多く含む
3 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒を多く含む

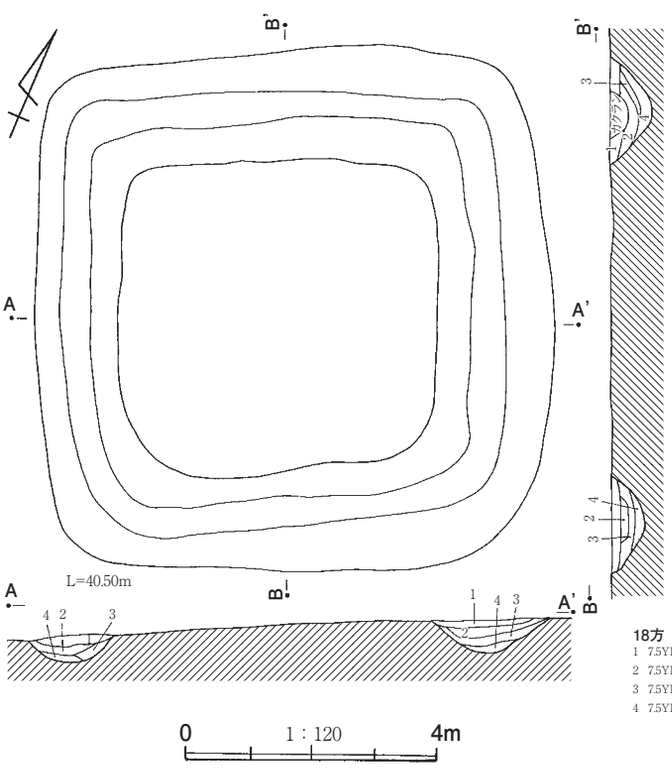
16号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面形は方形だが、隅の丸みが激しく円にかなり近い。周溝は浅く半円形。
遺物の状況	周溝から須恵器甕が出土。 時期は8世紀代。
備考	本遺跡内で最小規模



17号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面形はほぼ正方形。外周四隅がやや丸みを帯びる。盛土は確認されなかった。周溝は浅く、断面は半円形。南西部が一部破壊。
遺物の状況	周溝から土師器杯と須恵器長頸壺が出土。杯は底部糸切りで9世紀末？。長頸壺は、9世紀代にはいるか。
備考	出土遺物は最も新しい。



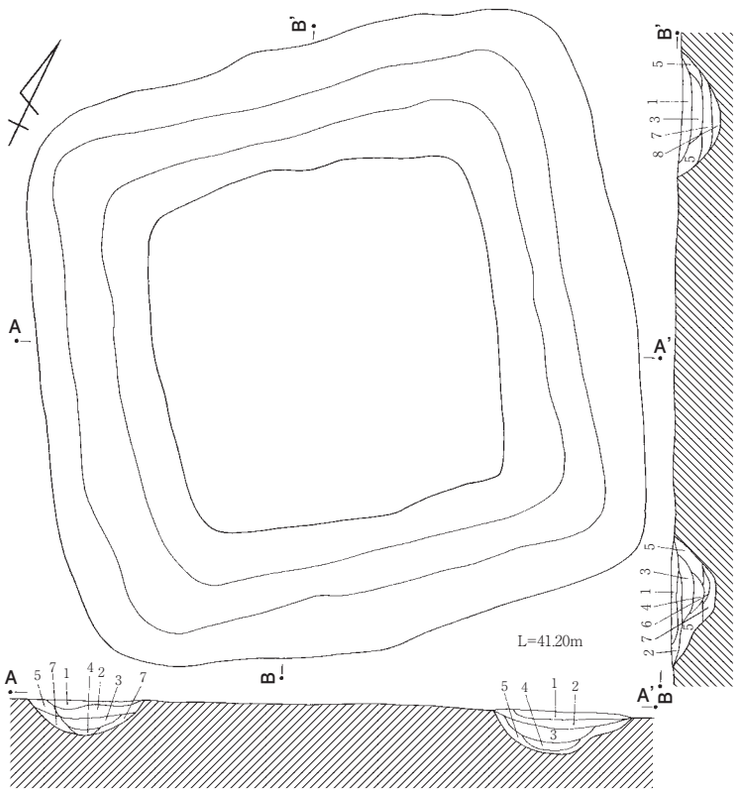
18号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面形はほぼ正方形。四隅がやや丸みを帯びる。盛土は確認されなかった。断面は半円形。
遺物の状況	明確に伴うと判断できる遺物はない。
備考	

18方
1 7.5YR 3/1 黒褐 ローム粒をまばらに含む
2 7.5YR 2/1 黒 ローム粒をまばらに含む
3 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒・黒色粒をまばらに含む
4 7.5YR 3/4 暗褐 ローム粒を多く含む

0 1：120 4m

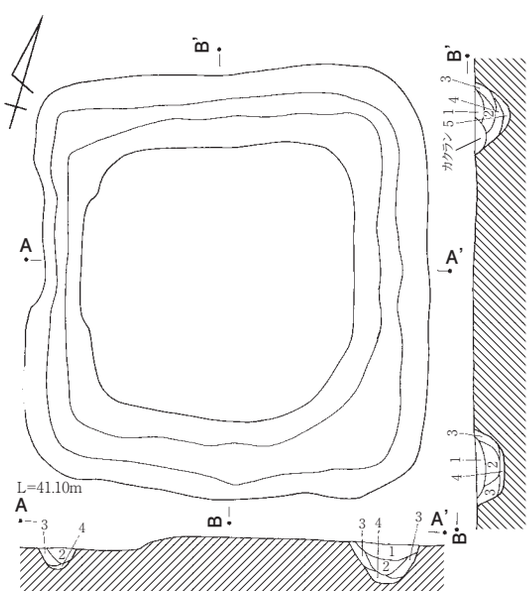
第61図　端山越遺跡16・17・18号方形周溝状遺構



20号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面形はほぼ正方形。四隅がやや丸みを帯びる。盛土は確認されなかった。断面は半円形。周溝の残りはよい。
遺物の状況	８世紀代後半の須恵器高盤が２点周溝から出土。白色粒が目立つ。
備考	高盤は新治産？

20方
1　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
3　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を少し含む
4　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
5　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
6　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含む
7　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
8　7.5YR 3/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む



21号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面形はほぼ正方形。四隅がやや丸みを帯びる。盛土は確認されなかった。断面は半円形。
遺物の状況	周溝から須恵器高盤の脚部、土師器小型甕が出土。時期は８世紀後半以降。
備考	高盤は新治産？

21方
1　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を多く含む
3　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・黒色土粒をまばらに含む
4　7.5YR 4/6 褐　黒色粒をまばらに含む

0　1：120　4m

第62図　端山越遺跡20・21号方形周溝状遺構

12号方形周溝状遺構

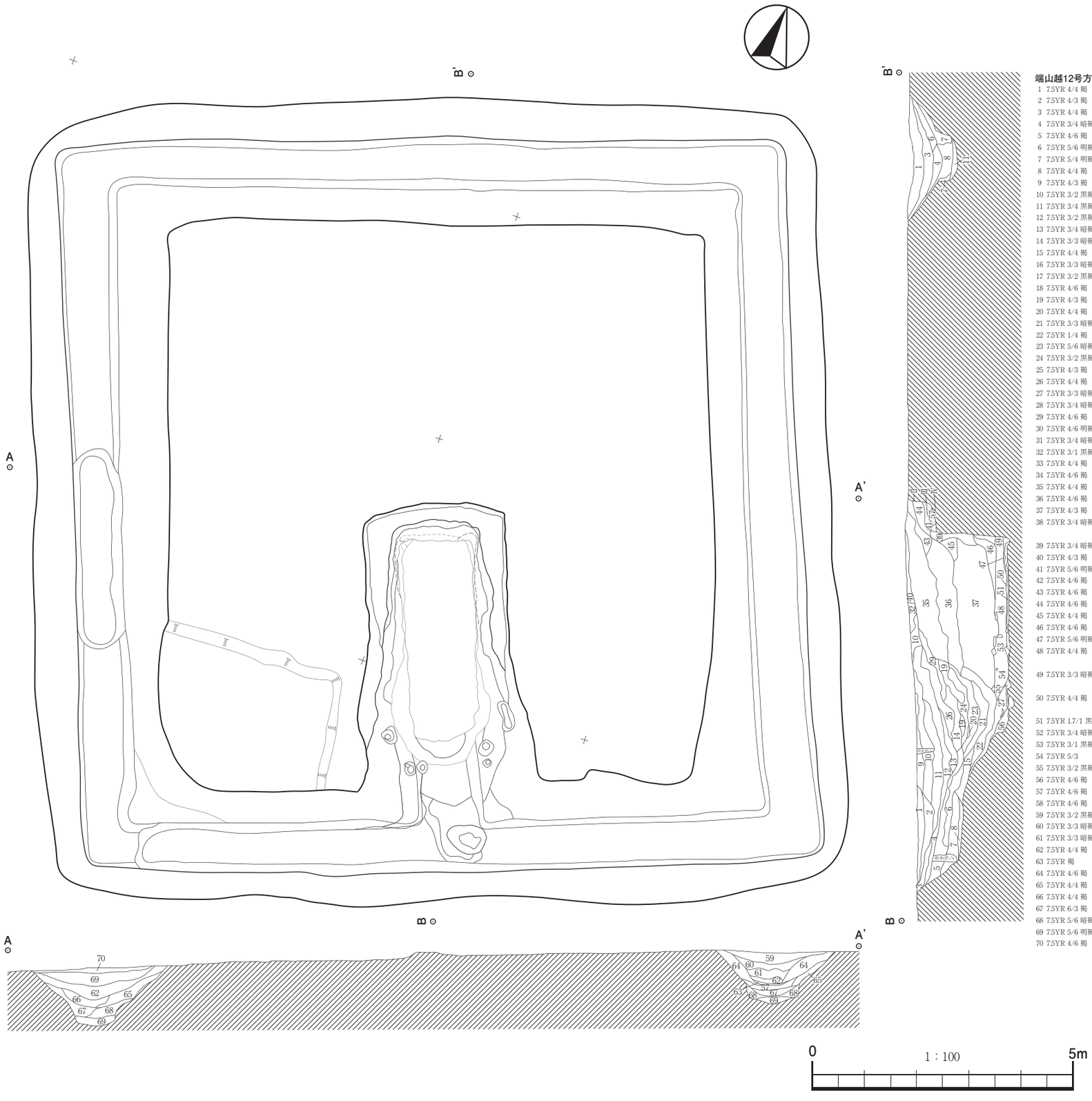
この遺構は、端山越遺跡で検出された方形周溝状遺構群を代表する遺構である。規模が他の方形周溝状遺構に比べて大きく、極めて特異な主体部を有しているからである。また、下泉町遺跡群（佐倉市のものも含む）で検出された方形周溝状遺構の中でも目立つ存在である。しかし、遺構本体の特異性が目立つ反面、この遺構に伴う遺物の状況は不明瞭な点が多い。

遺構規模　12号方形周溝状遺構以外の外周規模の平均が7.95m、次に大きい４号方形周溝状遺構（新）でも13.5mであり、その大きさが一回り大きいことがわかる。上谷津第１遺跡・大草台古墳群・明神台遺跡で検出された方形周溝状遺構と比較しても大きい。下泉町遺跡群で検出された方形周溝状遺構の中で最大規模を誇ると思われる。周溝の断面形は、上半を斜傾させて段を形成し、下半が直下する構造であり、他に同様のものはない。

主体部　空間構造的には古墳時代後期から終末期にみられる複室構造をもつ横穴式石室のような形態である。壁溝を含めた主室長は1.85m、幅1.3m、深さ1.23mを測る。前室長は1.1m、幅1.28mで、主室・前室全長は2.95mとなる。前庭部は、地下構造のため斜路を呈しており（羨道）、周溝下端から約2.5m程の長さがある。この羨道部途中の両脇に７つのピットが検出されている。天井部は開放されていて、主室奥壁・側壁上端部に幅20～50㎝ の平坦面を有する段が形成される。その段平坦部と主室底面直上に炭化物と白色粘土が検出された。その分布状況から開放された天井部に木製の板を高架し、白色粘土で目張りして上部を閉じていたといった構造（天井壁）が想定できる。そして、羨道部に穿たれたピット群はその上屋構造を支え、開閉可能な出入口を構成する柱穴であると想定できる。

主体部の層序　主室部分の層序は各層の厚みがあり、ある程度均一な質感を保った層である。対して、前室部分の層序は、細分化されその中に複数の遺物が混在するといった均一感のない層である。主室部分は、床面直上付近に粘土や炭化物が含まれ、それよりも上層からは全く含まれない。粘土や炭化物よりも下層に層が形成されていないことから、高架されていた天井壁木材が腐食して崩落する瞬間まで空間を維持していたと考えられる。粘土より上層は安定した層様を呈しており、天井壁の上に堆積していた盛土が一緒に崩落した状況であろう。その層の厚みから、約１m前後の高さの盛土が想定可能である。前室の部分の堆積状況は、主体部内から出土した第67図-7の須恵器長頸壺が、凹みに一気に落ち込んだ破片と段部平坦面上の破片に分かれている状況から、凹みに不安定な堆積層が一気に流れ込んだ様相を呈している。この流れ込みは盛土であった可能性もあるが、主室に崩落した層のような安定した層ではなく、柔らかく不安定な質感を有する２次的な堆積層であった可能性が強い。場合によっては、前室の上部には方形周溝状遺構としての盛土がなく、埋葬後に出入口を封鎖するための埋土であった可能性も考えられよう。

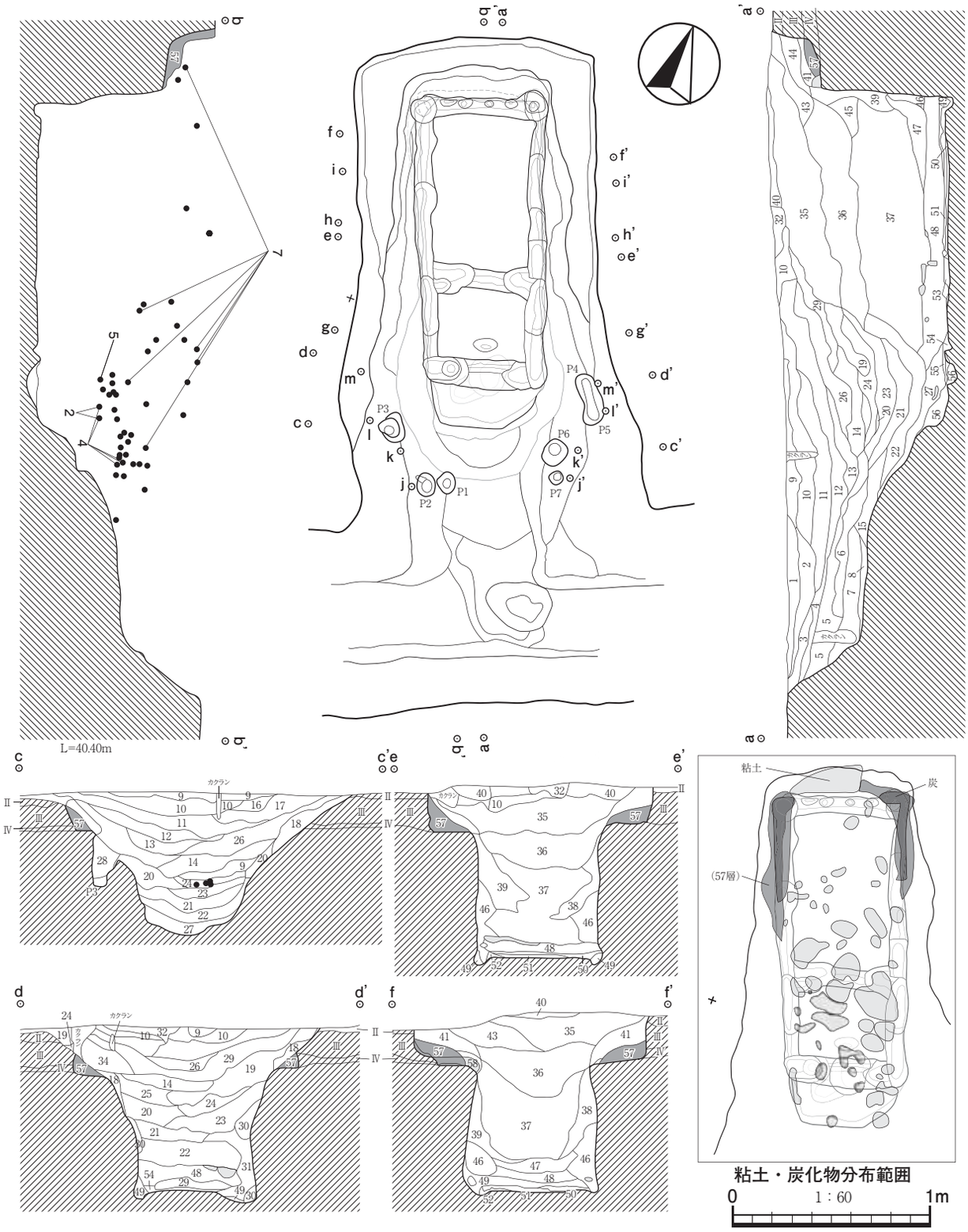
遺物　主体部内と周溝北西隅・南西隅の３箇所から出土している。主体部内出土の遺物は、８世紀後半頃に比定できる。分布状況は、主体部の天井部上に散在していた土器が、天井部の崩落による流れ込みによって前室と羨道部中位に混入した状態を示していると考えられる。周溝北西隅と南西隅で出土した千葉産の須恵器広口甕（第67図12方-8･9）は上層から出土しており、周溝がある程度埋没した後に廃棄されたものと推定される。主体部内から出土した遺物との時期的な差はあまりないと思われ、主体部が崩落した時期が周溝がある程度埋没し、天井部木材が腐食するだけの時間が介在していたこ



端山越12号方形周溝主体部層序

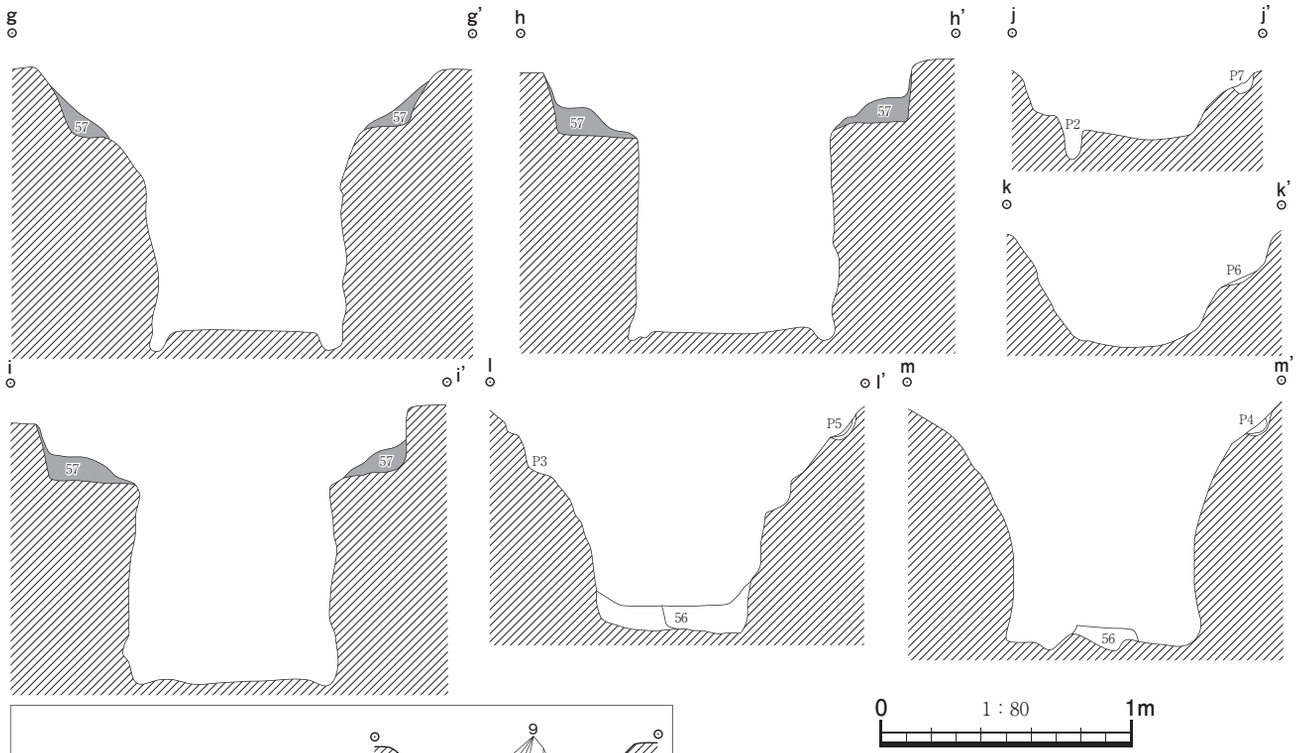
1	7.5YR 4/4 褐	ローム粒を含み、焼ヒ粒・炭化物粒を少し含む
2	7.5YR 4/3 褐	ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
3	7.5YR 4/4 褐	ローム粒を含み、ロームブロックをわずかに含む
4	7.5YR 3/4 暗褐	ローム粒を少し含む
5	7.5YR 4/6 褐	ローム粒を含み、ロームブロソクを少し含む
6	7.5YR 5/6 明褐	ローム粒を多く含み、ロームブロソクをまばらに含む
7	7.5YR 5/4 明褐	ローム粒・ロームブロ・ソケを多く含む
8	7.5YR 4/4 褐	ロームブロソクを多く含み、ローム粒を含む
9	7.5YR 4/3 褐	ローム粒・ロームブロソクを含む
10	7.5YR 3/2 黒褐	ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
11	7.5YR 3/4 黒褐	ローム粒・焼上粒をわずかに含む
12	7.5YR 3/2 黒褐	ローム粒を少し含み・焼土粒・炭化物粒をまばらに含む
13	7.5YR 3/4 暗褐	ローム粒を含み、ロームブロック・焼上粒をまばらに含む
14	7.5YR 3/3 暗褐	ローム粒・ロームブロソクを少し含み、焼土粒・炭化物粒をわずかに含む
15	7.5YR 4/4 褐	ローム粒・ロームブロソクを含み、焼土粒・粘上粒を少し含む
16	7.5YR 3/3 暗褐	ローム粒を含み、ロームブロ・ソクをまばらに含む
17	7.5YR 3/2 黒褐	ローム粒、ロームブロックを少し含む
18	7.5YR 4/6 褐	ローム粒を多く含み、ロームブロックを少し含む
19	7.5YR 4/3 褐	ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む
20	7.5YR 4/4 褐	ローム粒を多く含む
21	7.5YR 3/3 暗褐	ローム粒、ロームブロックを少し含み、粘土粒・炭化物粒をまばらに含む
22	7.5YR 1/4 褐	ローム粒・ロームブロックを多く含み、粘土粒を少し含む
23	7.5YR 5/6 暗褐	ローム粒・ロームブロックを多く含む
24	7.5YR 3/2 黒褐	ローム粘を含み、炭化物粒・ロームブロックをまばらに含む
25	7.5YR 4/3 褐	ローム粒・ロームブロック含み、炭化物粒・焼土粒をまばらに含む
26	7.5YR 4/4 褐	ローム粒をやや多く含み、ロームブロックをまばらに含む
27	7.5YR 3/3 暗褐	ローム粒・ロームブロソクを含み、粘土粒を少し含む
28	7.5YR 3/4 暗褐	ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
29	7.5YR 4/6 褐	ローム粒を多く含みロームブロソクをまばらに含む
30	7.5YR 4/6 明褐	ロームブロックを多く含み、粘上粒を少し含む
31	7.5YR 3/4 暗褐	ローム粒を含み、粘ヒブロック・粘土粒を少し含む
32	7.5YR 3/1 黒褐	ローム粒をわずかに含む
33	7.5YR 4/4 褐	ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
34	7.5YR 4/6 褐	ローム粒・ロームブロ・ソクをやや多く含む
35	7.5YR 4/4 褐	ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
36	7.5YR 4/6 褐	ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
37	7.5YR 4/3 褐	ローム粒を含み・ロームブロックを含む
38	7.5YR 3/4 暗褐	ローム粒・粘土粒を含み、炭化物、ロームブロックを少し含む、白色粘土ブロックをまばらに含む
39	7.5YR 3/4 暗褐	ローム粒・粘土粒を含み・、炭化物粒・ロームブロックをわずかに含む
40	7.5YR 4/3 褐	ローム粒を多く含み、、ロームブロ・ソクをまばらに含む
41	7.5YR 5/6 明褐	ローム粒を多く含み、ロームブロックを含み、炭化物粒をわずかに含む
42	7.5YR 4/6 褐	しまりない。ローム粒を多く含み、ロームブロックをまばらに含む
43	7.5YR 4/6 褐	ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む
44	7.5YR 4/6 褐	ロームブロック・ローム粒をやや多く含み、炭化物粒をわずかに含む
45	7.5YR 4/4 褐	ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
46	7.5YR 4/6 褐	ローム粒・ロームブロックを多く含み、粘土粒・炭化物粒をわずかに含む
47	7.5YR 5/6 明褐	ローム粒を含み・、ロームブロックをやや多く含む
48	7.5YR 4/4 褐	ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む、炭化物・粘土粒・粘土ブロックをまばらに含む
49	7.5YR 3/3 暗褐	粘性なく、しまりない,ローム粒・ロームブロックを含み炭化物を多く含む、粘上粒を含む
50	7.5YR 4/4 褐	ローム粒を多く含み・ロームブロックをまばらに含む、粘ニヒ粒・炭化物を少し含む
51	7.5YR 1.7/1 黒	炭化物・ローム粒を含む
52	7.5YR 3/4 暗褐	ローム粒をやや多含み、炭化物を含む
53	7.5YR 3/1 黒褐	炭化物・炭化物粒子を多く含み、ローム粒・ロームブロックを含む
54	7.5YR 5/3	ローム粒を含み、粘土ブロック・粘土粒・炭化物粒を少し含む
55	7.5YR 3/2 黒褐	粘土粒・炭化物粒・ローム粒を含む
56	7.5YR 4/6 褐	ロームブロックを主体に炭化物をまばらに含む
57	7.5YR 4/6 褐	ロームブロックを多1含み、ローム粒を含む,炭化物をわずかに含む
58	7.5YR 4/6 褐	ローム粒を多く含み、ロームブロックをわずかに含む
59	7.5YR 3/2 黒褐	ローム粒を少し含、転、焼土粒・炭化物粒をわずかに含む
60	7.5YR 3/3 暗褐	ローム粒を少し含み、ロームブロック・焼土粒をわずかに含む
61	7.5YR 3/3 暗褐	ローム粒子を含み、ロームブロックをまばらに含む
62	7.5YR 4/4 褐	ローム粒を少し含む
63	7.5YR 褐	ローム粒・ロームブロックを含む
64	7.5YR 4/6 褐	ローム粒・ロームブロ・クを含む
65	7.5YR 4/4 褐	ローム粒・ロームブロックを多く含む
66	7.5YR 4/4 褐	ローム粒を多く含み、ロームブロ・ソクを含む
67	7.5YR 6/3 褐	ローム粒を多く含み、ロームブロックを少し含む
68	7.5YR 5/6 暗褐	ローム粒・ロームブロックを含む
69	7.5YR 5/6 明褐	ロームブロックを多く含み、ローム粒を含む
70	7.5YR 4/6 褐	ローム粒・ロームブ17ックを多く含み、焼土粒を含む

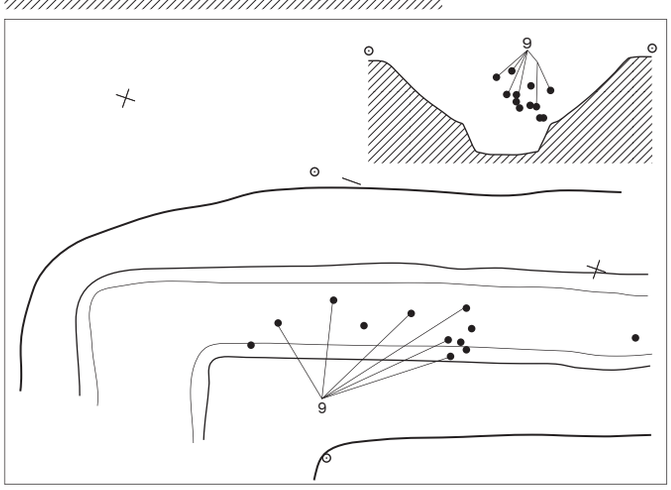
第63図　端山越遺跡12号方形周溝状遺構



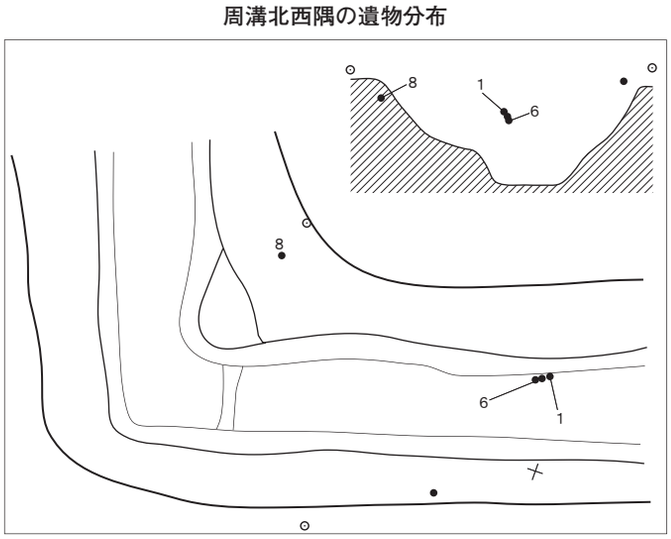
第64図　端山越遺跡12号方形周溝状遺構主体部

とを示していると考えられる。つまり、主体部の構築時期と遺物を廃棄した時期との間に明確な時間差が存在する可能性があるのである。反面、この地域の須恵器編年体系が今だ流動的なこともあり、同時期と判断したものが異なる場合、この推定が成立しない可能性も十分考慮しなければならない。

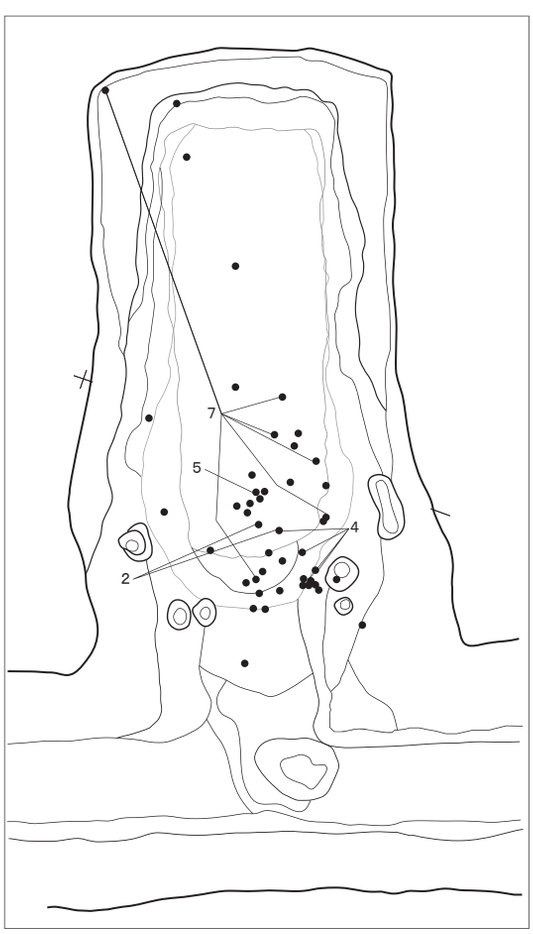




周溝北西隅の遺物分布

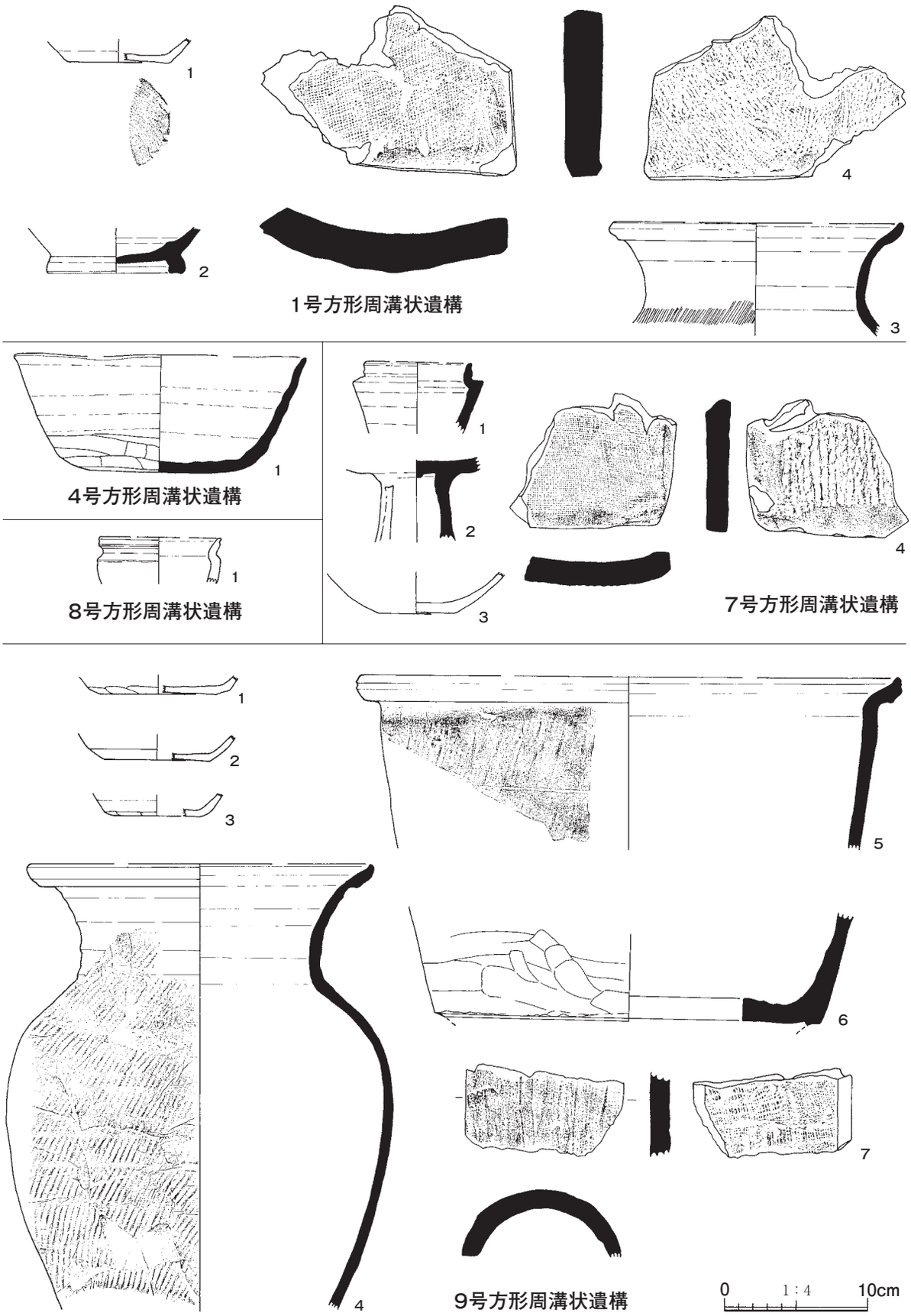


周溝南西隅の遺物分布

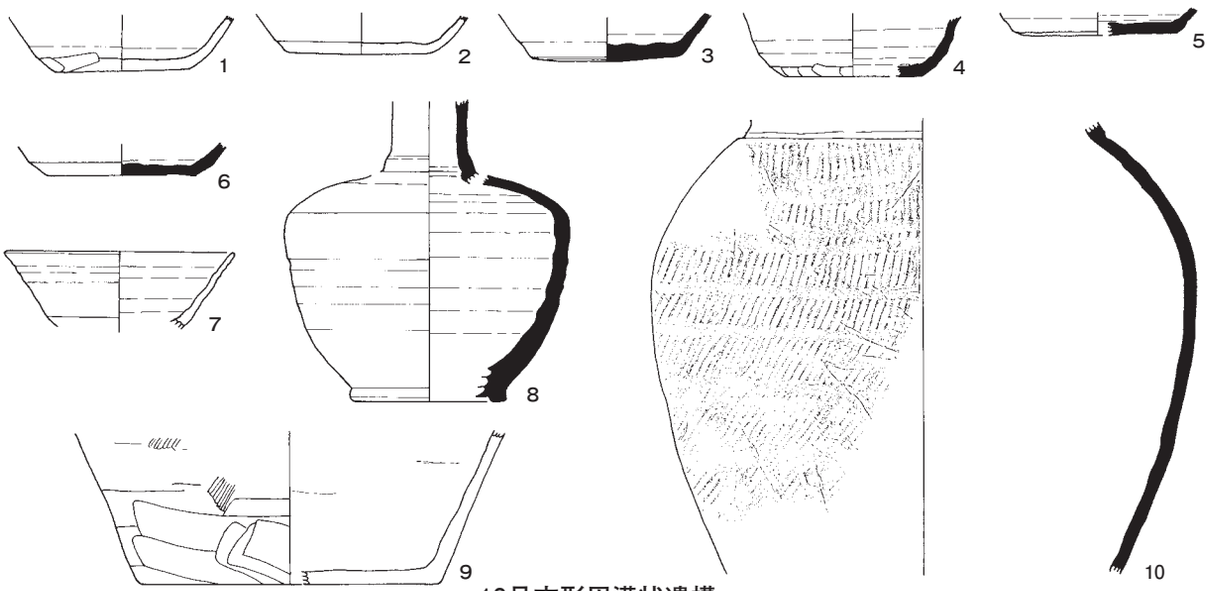


主体部内の遺物分布

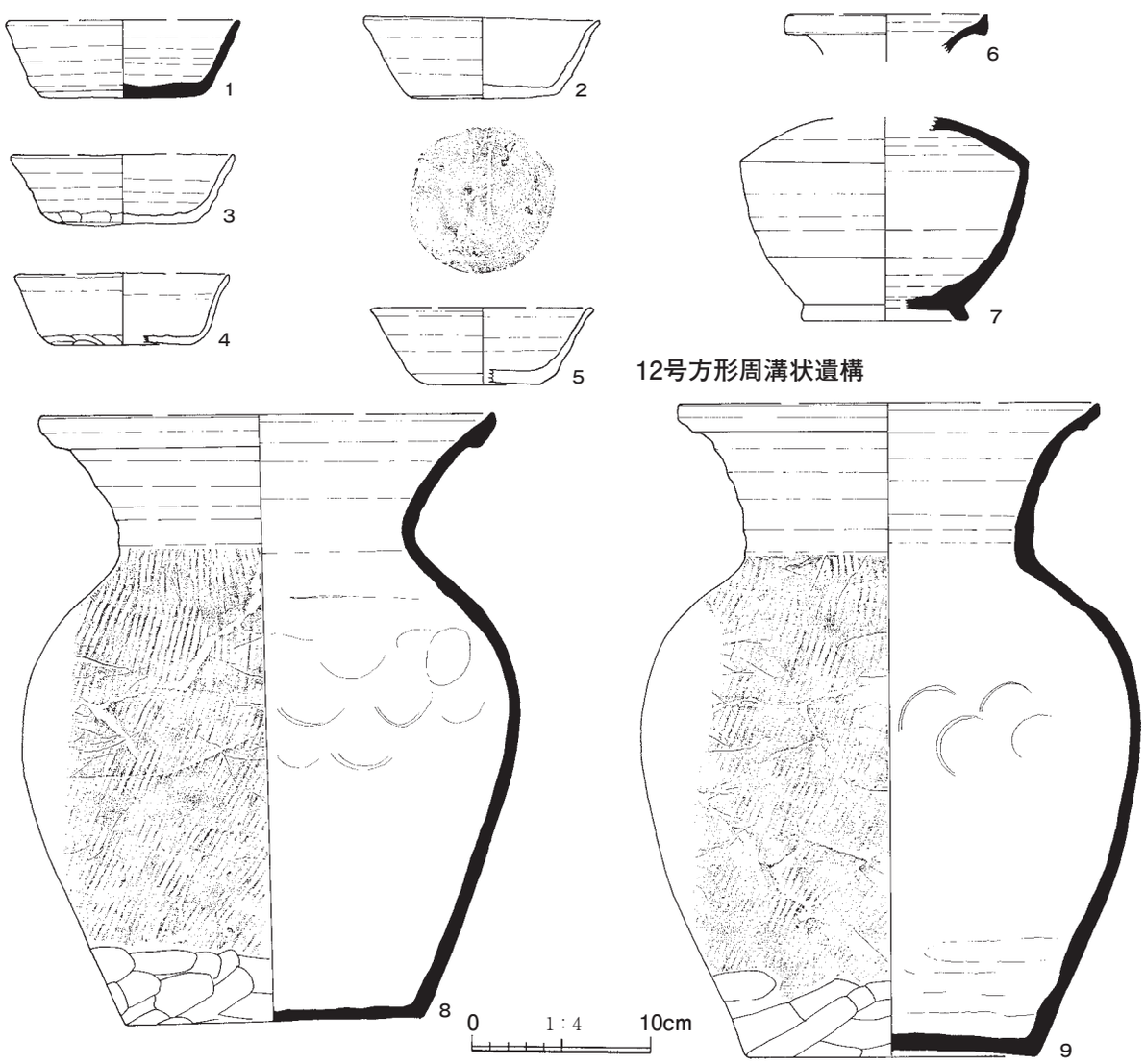
第65図　端山越遺跡12号方形周溝状遺構主体部断面図・遺物出土状況



第66図　端山越遺跡方形周溝状遺構出土遺物①

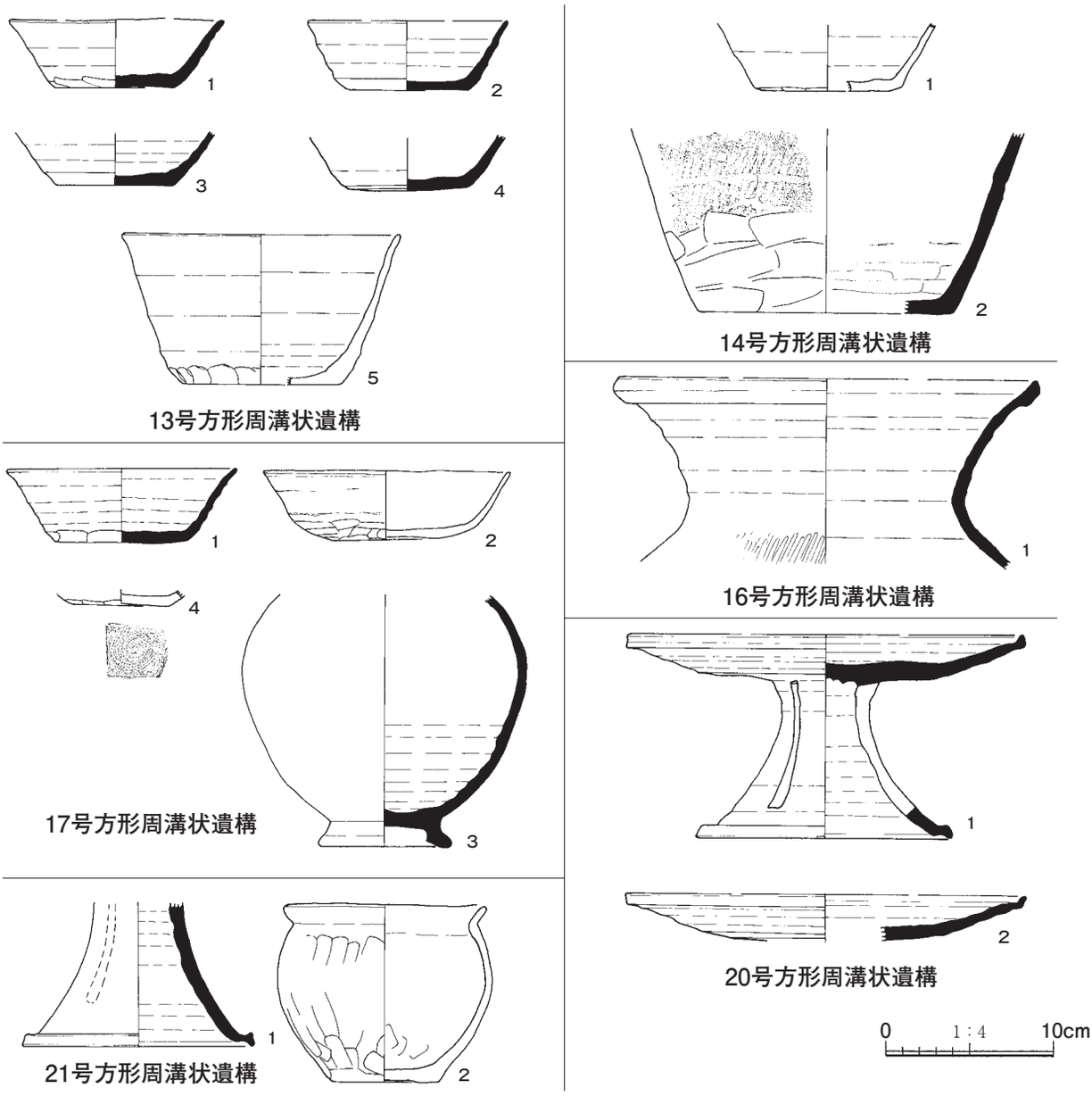


10号方形周溝状遺構



12号方形周溝状遺構

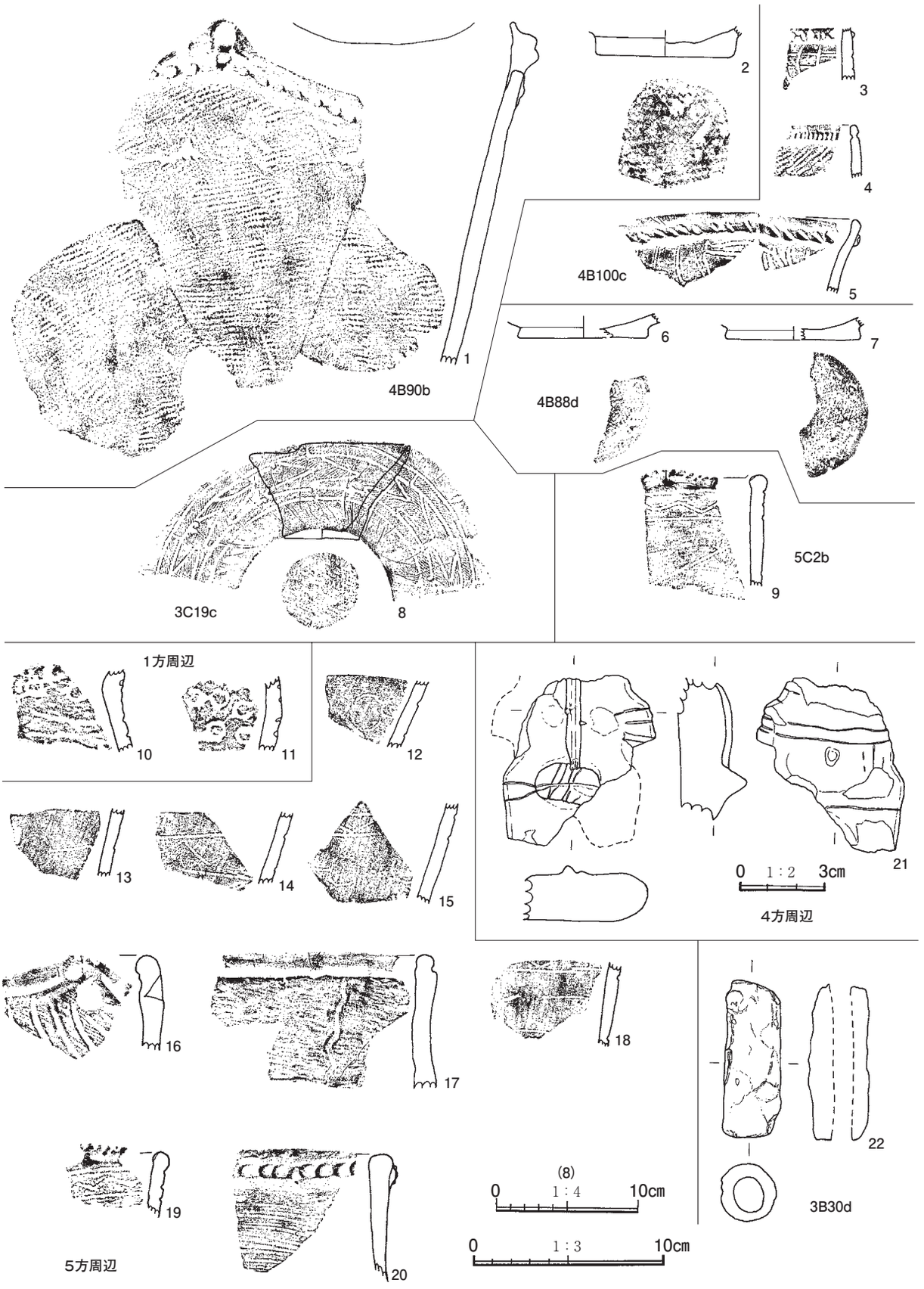
第67図　端山越遺跡方形周溝状遺構出土遺物②



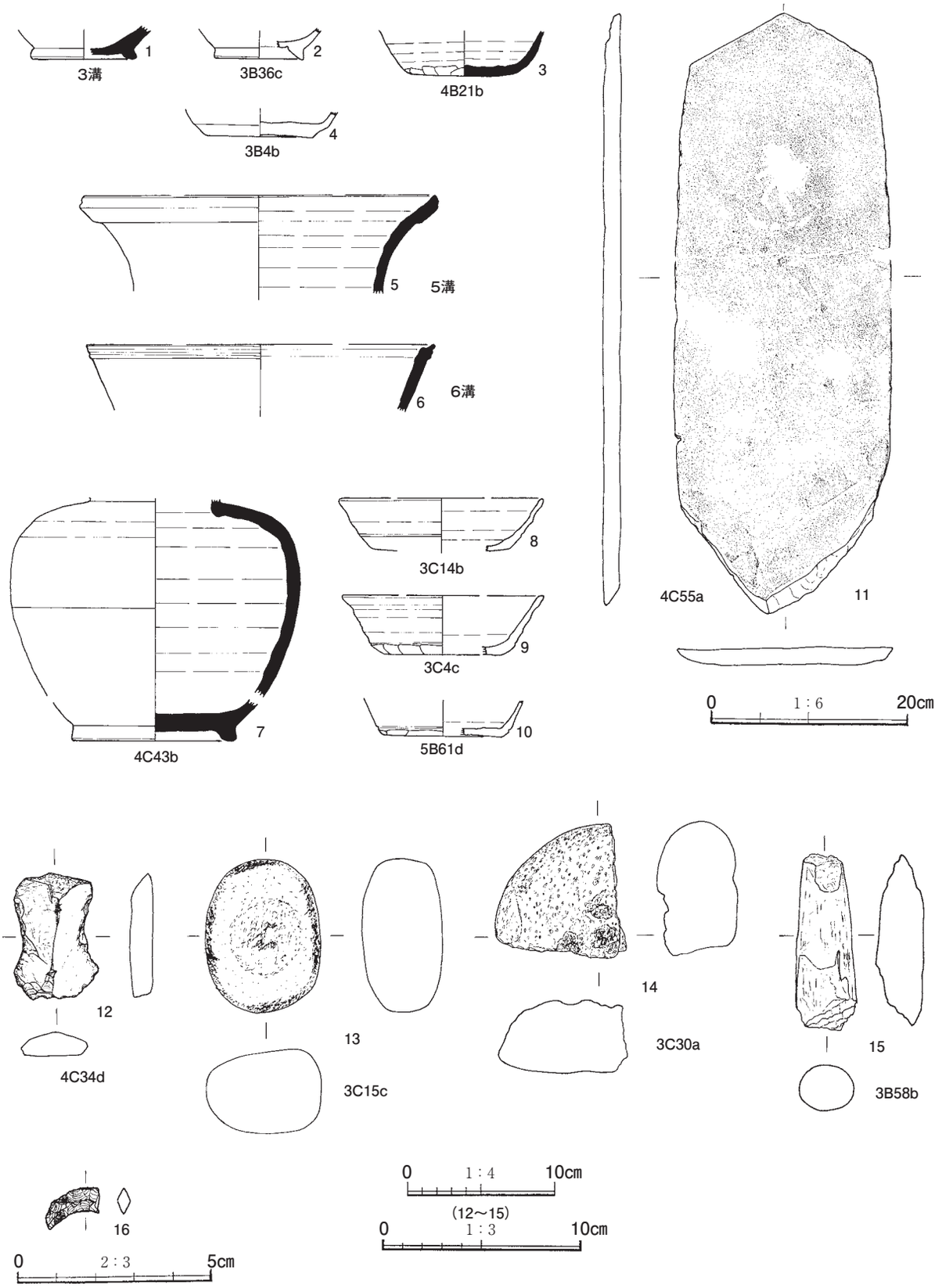
第68図　端山越遺跡方形周溝状遺構出土遺物③

8　調査区一括遺物

端山越遺跡は、縄文時代の遺構が少ないせいか縄文時代の遺物は遺跡群の他遺跡に比べ少なかった。第69図-8の加曽利Ｂ3式の小型浅鉢は、口縁部の約1/2が極端に摩耗している。これは、枡のように何かを掬い続けた結果による摩耗と考えられる。同図-10･11は同一個体で、条痕文系の土器に円形の押型が施される土器である。同図-9･12～15･18は同一個体で口縁端部に刻み、胴部は浅い沈線で区画したり、横線に円形・三角形・波線を配するモチーフの土器である。同図-21は加曽利Ｂ式の土偶である。頭部・右腕・左足・乳房は欠損している。同図-22は手捏の土錘？である。手で捏ねて?に巻き付けてから?を引き抜いた様子がわかる。また、指紋が明瞭に判別できる。



第69図　端山越遺跡調査区出土遺物①



第70図　端山越遺跡調査区出土遺物②

第70図-11の板碑は、４号方形周溝状遺構の墳丘部分の中世以降の堆積層から出土した。周溝検出面にとても近い高さであったことから、この板碑が廃棄された時点で盛土と考えられる高まりはほぼ残存していなかった可能性を示唆している。つまり、盛土は元来なかったか極めて低かったと想定できる。

第３節　小結

端山越遺跡では、旧石器集中箇所１箇所・住居跡３軒・陥穴10基・土壙45基・有天井土壙２基・土壙墓２基・方形周溝状遺構20基・溝６条・道状遺構２条・炭窯６基が検出された。

旧石器　集中箇所は１箇所だが、一括遺物として他に２地点で石器が出土している。4C42a区周辺で検出された集中箇所からは18点の石器が第V3層から出土している。石材は珪質頁岩類で接合はできなかったが第38・39図-８・９・11を除き同一の原石からの石器で、極めて小規模なサイトと推定される。その他の２地点からは、単体で出土しており、詳細は不明である。

住居跡　加曽利ＥⅢ式期の２号住居跡は単独で検出され、周囲の一括遺物の中からも殆ど同時期のものは出土していない。遺跡群中の他遺跡でもこの時期の住居跡は珍しい。

８世紀後半の１・３号住居跡は、調査区の西側に存在する。３号住居跡に敷設されたロクロピットと粘土貯留用の屋内土坑の存在から、土器製作工房としての機能を有していたことがわかる。内田端山越遺跡で検出された窯（２・３号窯）や同様の住居跡、掘立柱建物跡群との位置関係から同じ集落の最東端の住居跡であると考えられる。内田端山越窯跡とほぼ同時期と考えられる中原窯跡やそれに続く宇津志野窯跡・宇津志野南窯跡では、周辺での調査事例が乏しく工房跡の検出例はない。しかし、宇津志野窯跡と宇津志野南窯跡が立地する鹿島川から浸食された金親支谷の開口部には、ロクロピットのある住居跡を検出した下広尾遺跡（平成12年度調査・A001未報告）があり、鹿島川を介したこの地域に８世紀後半から９世紀半ば頃まで操業した須恵器の窯跡群が存在することを示唆している。これらの窯は、谷津の東側斜面に立地している共通点からも、周辺の支谷の東側斜面どこかに未発見の窯跡が検出される可能性がある。また、この周辺域の谷筋に工房跡を伴う集落が発見され、これら全ての遺跡が総合的に検討されることを期待したい。

陥穴　陥穴は、10基検出された。３・７・８号陥穴は底面に柱穴がある。平面形は楕円形か隅丸の長方形で近似するものが多いが、断面形には逆台形のもの（１・３・５・８・９号陥穴）、上半は斜傾し、中段以下が直下するもの（２・４・６・７号陥穴）、下部がオーバーハングするもの（10号陥穴）の３種類ある。遺物が出土したものはなく時期の比定は難しいが、形状的に通有の縄文時代の陥穴に近似することから全て縄文時代の所産と考えている。

土壙　縄文時代は15基、奈良・平安時代が５基、時期が明確でないものが25基の合計45基が検出された。これらの土壙は、検出面と底部の平面形や断面形と深さなどによってある程度の類型化ができる。しかし、類型化することが機能や遺構の時代を確定するだけの根拠とはならなかった。

平面形は、円形・楕円形・隅丸長方形・長方形・不整円形があり、底部平面形は、方形系・円形系・不整円形がある。短辺が長辺の半分以下の庭部方形系で、平面形が隅丸長方形・長方形の土壙（29・40・41・51・58号土壙）はその形状から土壙墓のような機能を持った遺構の可能性もある。円

形で深さがあるもの（21・50号土壙）や方形で深さがあるもの（32・33・49号土壙）は貯蔵穴、平面楕円形で深さがあるもの（５・７・16・59号土壙）は貯蔵穴や落とし穴の可能性もあるが、いずれも何の根拠も得られてはいない。

有天井土壙　有天井土壙は、２基検出された。１号有天井土壙は１号と４号方形周溝状遺構の間で１号土壙墓の東側、２号有天井土壙は12号方形周溝状遺構のすぐ西側で検出された。竪坑内が有段化され、最低部には土壙の主軸に直交した短い溝が２、３条みられ、下段の容積は上段竪坑部の容積に比して狭い傾向がある。下段は竪坑部の底面からオーバーハングさせた地下式横穴状の形態となる。底面に溝を有するのは土壙墓も同様である。これらは、総体的な構造は異なるが、最低部部分の構造は同じであり、機能的にもとても近い間柄にある遺構と推定される。

土壙墓　土壙墓は、２基検出された。１号土壙墓は１号と４号方形周溝状遺構の間、２号土壙墓は12号方形周溝状遺構のすぐ北側で検出された。形態的に、県内で一般的に火葬墓とされる遺構と同形態の遺構と考えられる。しかし、火葬墓とされる場合、炭化物や焼土、遺構堀方の被熱焼土化といった痕跡が見られる場合が多いようだが、本遺跡例からはそのような痕跡は確認できなかった。２号土壙墓の上層で僅かな焼土粒が確認されているが、火葬を行ったと積極的に指示することはできない。また、２号土壙墓から出土した獣骨（種不明）の意味するところは不明である。

西御門明神台遺跡で平成９年度に調査された方形周溝状遺構の１基の主体部が、２号土壙墓ととてもよく似た形態のものである。

有天井土壙も土壙墓も奈良・平安時代の墓の一形態と考えられ、方形周溝状遺構を含めて奈良・平安時代の墓域を形成していたことが理解できる。

方形周溝状遺構　　方形周溝状遺構は、この遺跡の主たる遺構であるといえる。特に、最大規模を誇り特殊な主体部を有する12号方形周溝状遺構が方形周溝状遺構群を代表する遺構である。

この遺構は、周溝外辺の長さで10m超・６m以上10m未満・６m未満のものに大別できる。10mを超えるのは、１・４（新）・５・12号方形周溝状遺構、６m以上10m未満は２・３・４（旧）・７・８・９・10・14・15・17・18・20・21号方形周溝状遺構、６m未満が６・11・16号方形周溝状遺構となる。13号方形周溝状遺構は、２基が並列し、マウンド間の周溝を共有する構造となる。それぞれのマウンドの大きさは６m未満のものに類する。７・10・16号方形周溝状遺構は、方形の角が他のものに比べ丸く、マウンド部が方形気味ではあるが円形に近い形となる。１・３・４・５・８・９・12・15・18・21号方形周溝状遺構は主軸が北西方向にほぼ揃う傾向がみられ、２・14・17号方形周溝状遺構も主軸が揃う。しかし、何かしらの明確な指向性を見出すことはできない。

遺物は12号方形周溝状遺構のもの以外は、周溝からの一括遺物ばかりである。しかし、近辺に奈良時代の遺構は少なく、周溝などに積極的に遺物が廃棄される環境とは考えにくいため、ほぼ全ての遺物がそれぞれの方形周溝状遺構に伴うものと判断できる。

溝・道状遺構・炭窯　溝と道状遺構は現代の赤道と重複する部分もある。これらは全て中近世以降の遺構である。なお、図面・写真は掲載していない。

第５章　大草台古墳群の調査

第１節　調査の概要

大草台古墳群は、ちばリサーチパークのほぼ中央を南北に貫く主要道路の造成に伴う調査が主たる目的であった。よって幅約20m前後の幅狭な範囲を平成８年度に確認調査したのがはじまりである。

確認調査の結果、古墳状の高まりが元来把握されていた部分周辺に遺構が確認されたので、遺構の確認された部分と古墳と認識されていた地点ごとに小調査区を設定して調査を行った。

以下、各調査区ごとに概略を説明する。

96-Ⅰ調査区　１号古墳の周溝北西縁、溝１条、土壙墓１基・旧石器集中箇所２箇所が検出された。旧石器の集中箇所の分布規模は小さく、剥片が中心であった。１号土壙墓から勾玉・管玉・ガラス玉といった装身具が出土した。恐らく、古墳時代後期の墳丘を伴わない土壙墓であろう。溝は中世以降のものである。

第18表　大草台古墳群遺構一覧

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	調査区	備考
旧石器集中箇所		第Ⅰ地点	旧石器		96Ⅰ区	Ⅰ地点
旧石器集中箇所		第Ⅱ地点	旧石器		96Ⅰ区	Ⅱ地点

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	調査区	備考
１号	住居跡	A001	古墳	中期	98B区	
２号	住居跡	A002	縄文	加曽利Ｂ式	99A区	
３号	住居跡	A003	縄文	安行式	99B区	

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	調査区	備考
１号	陥穴	C012	縄文		97B区	
２号	陥穴	C018	縄文		99B区	

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	調査区	備考
１号	土壙墓	Ⅰ-1土（C025）	古墳	後期	96Ⅰ区	

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	調査区	備考
１号	有天井土壙	Ⅱ-4土			96Ⅱ区	

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	調査区	備考
１号	土壙	Ⅱ-1土	縄文？		96Ⅱ区	
２号	土壙	Ⅱ-2土	古墳	中期	96Ⅱ区	
３号	土壙	Ⅱ-3土	縄文？		96Ⅱ区	
４号	欠番					
５号	土壙	Ⅱ-5土	縄文？		96Ⅱ区	
６号	土壙	Ⅱ-6土	縄文？		96Ⅱ区	
７号	土壙	C012	縄文？		98B区	
８号	土壙	A002内C001	縄文？		99A区	
９号	土壙	C009	中世		97C区	
10号	土壙	C011(重複)	中世		97C区	
11号	土壙	C011	中世		97B区	１古再利用
12号	欠番					
13号	土壙	C012(重複)	中世		97B区	
14号	土壙	C014	中世		98A区	５古内
15号	土壙	C015	中世		98A区	５古内・石塔類
16号	土壙	C016	縄文？		98A区	
17号	土壙	C017	中世		99B区	
18号	欠番					
19号	土壙	C019	縄文？		99B区	
20号	土壙	C020	縄文？		99B区	
21号	土壙	C021	古墳	後期	99B区	
22号	土壙	C022	縄文？		99C区	
23号	土壙	C023	縄文？		99C区	
24号	土壙	C024	縄文？		99C区	
25号	欠番					
26号	土壙	C026	中世？		96Ⅱ区	
27号	土壙	C027	中世		99B区	
28号	土壙	C028	縄文？		99C区	

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	調査区	備考
１号	古墳	１号墳	古墳	後期	97B区	
２号	古墳	２号墳	古墳	後期	96Ⅱ区	

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	調査区	備考
３号	古墳	３号墳	古墳	後期	96Ⅱ区	
４号	古墳	４号墳	古墳	６末～７Ｃ初	98B区	
５号	古墳	５号墳	古墳	６～７Ｃ？	98A区	
６号	欠番					
７号	古墳	７号墳	古墳	後期？	99B区	
８号	欠番					
９号	古墳	９号墳	古墳	後期？	99A区	

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	調査区	備考
１号	方形周溝状遺構	H001	奈良？		96Ⅱ区	
２号	方形周溝状遺構	H002	奈良？		98B区	

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	調査区	備考
１号	円形周溝状遺構	同左	古墳		96Ⅱ区	
２号	円形周溝状遺構	同左	奈良？		98A区	

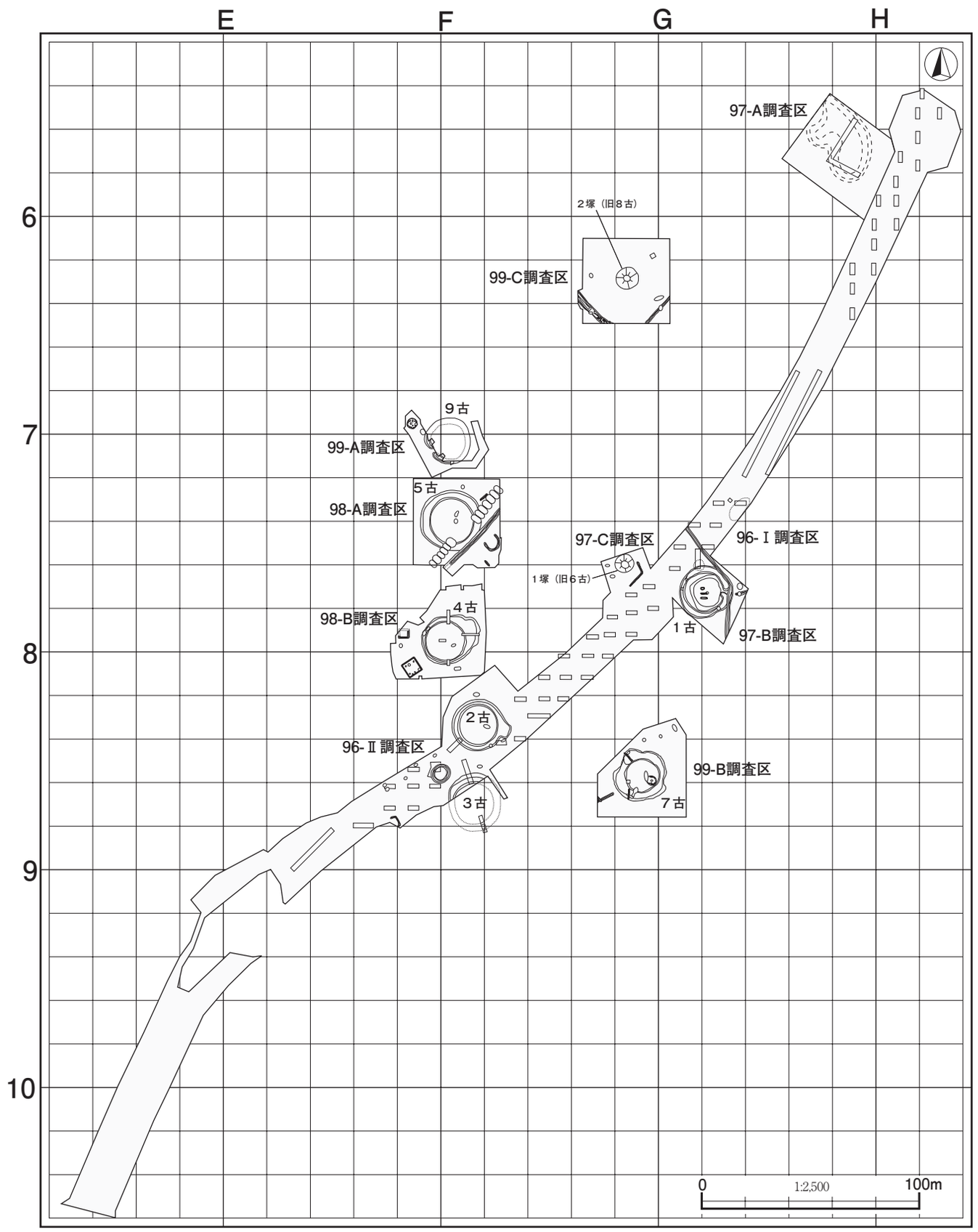
遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	調査区	備考
１号	道状遺構	同左	近世		98A区	
２号	道状遺構	同左	近世		99C区	

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	調査区	備考
１号	溝	D001	中世？		97B区	
２号	溝	D002	中世？		97C区	
３号	溝	D003	中世？		97B区	
４号	溝	D004	近世？		98A区	
５号	溝	D005	近世？		98A区	
６号	溝	D006	中世？		98A区	
７号	溝	D007	中世？		99B区	
８号	溝	D008	中世？		99B区	
９号	溝	D009	中世？		99B区	
10号	溝	D010	中世？		99B区	
11号	溝	D011	中世？		99C区	

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	調査区	備考
	土坑列		近世		98A区	

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	調査区	備考
１号	塚	６号墳	中近世		97C区	
２号	塚	８号墳	中近世		99C区	
３号	塚	９号墳	中近世		99A区	古墳再利用？
４号	塚	15号墳	中近世？		99C区	近現代？
５号	塚	１号墳	中近世		97B区	古墳再利用
６号	塚	５号墳	中近世		98A区	古墳再利用

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	調査区	備考
１号	炭窯	96Ⅰ-G001	中近世		96Ⅰ区	
２号	炭窯	97B-G001	中近世		97B区	
３号	炭窯	99B-G001	中近世		99B区	
４号	炭窯	99A-G002	中近世		99A区	
５号	炭窯	99B-G003	中近世		99B区	
６号	炭窯	99C-G004	中近世		99C区	



第71図　大草台古墳群調査区配置図

96-Ⅱ調査区　2号古墳（主体部3基）と3号古墳（主体部1基）の周溝北西端、土壙6基、円形周溝状遺構1基、方形周溝状遺構1基、有天井土壙1基を検出した。2号古墳の主体部の内、2号主体部は墳丘内で検出されたが、1・3号主体部は周溝外で検出された。3号古墳の主体部も周溝外である。円形周溝状遺構からは主体部は検出されなかったが、周溝内から完形の古墳時代後期初頭の土師器杯が出土したので墳丘盛土が削平された古墳と考えられる。方形周溝状遺構と有天井土壙は奈良時代のものであろう。

97-A調査区　調査対象範囲の最も北側に設けられた調査区である。当初、古墳と推定して調査に望んだが、調査の結果現代の盛土であることが判明した。他に遺構は検出されなかった。

97-B調査区　1号古墳の墳丘部分周辺の調査である。96-Ⅰ調査区で検出されていた周溝を含めた全体像が判明した。96-Ⅰ調査区に続く溝の他に1条の溝、土壙2基、陥穴1基、炭窯1基が検出された。1号古墳からは長軸を東西方向にした主体部が3基並列して検出された。11号土壙は墳丘上部から掘り込まれた15世紀後半頃に比定できる常滑の大甕が埋設されていた土壙である。

97-C調査区　中近世以降の塚1基と溝1条、土壙2基が検出された。塚は、当初古墳と推定して調査に望んだが、墳丘規模、堆積状況などの観察の結果、塚であると訂正された。

98-A調査区　旧地形上からマウンドがあり古墳とされていた部分の調査である。古墳1基、円形周溝状遺構1基、土壙3基、溝3条、道状遺構1条、土坑列1列が検出された。5号古墳からは主体部は検出されなかったが、14・15号土壙が墳丘状から掘り込まれ、墳丘盛土を深く掘り下げつつ破壊した影響で主体部が破壊されたと推定される。円形周溝状遺構からは遺物がないので時期の比定はできない。道は現道の舗装前の姿と思われる。土坑列は古墳裾を壊し、旧道に沿って配列することから中世以降の遺構である。

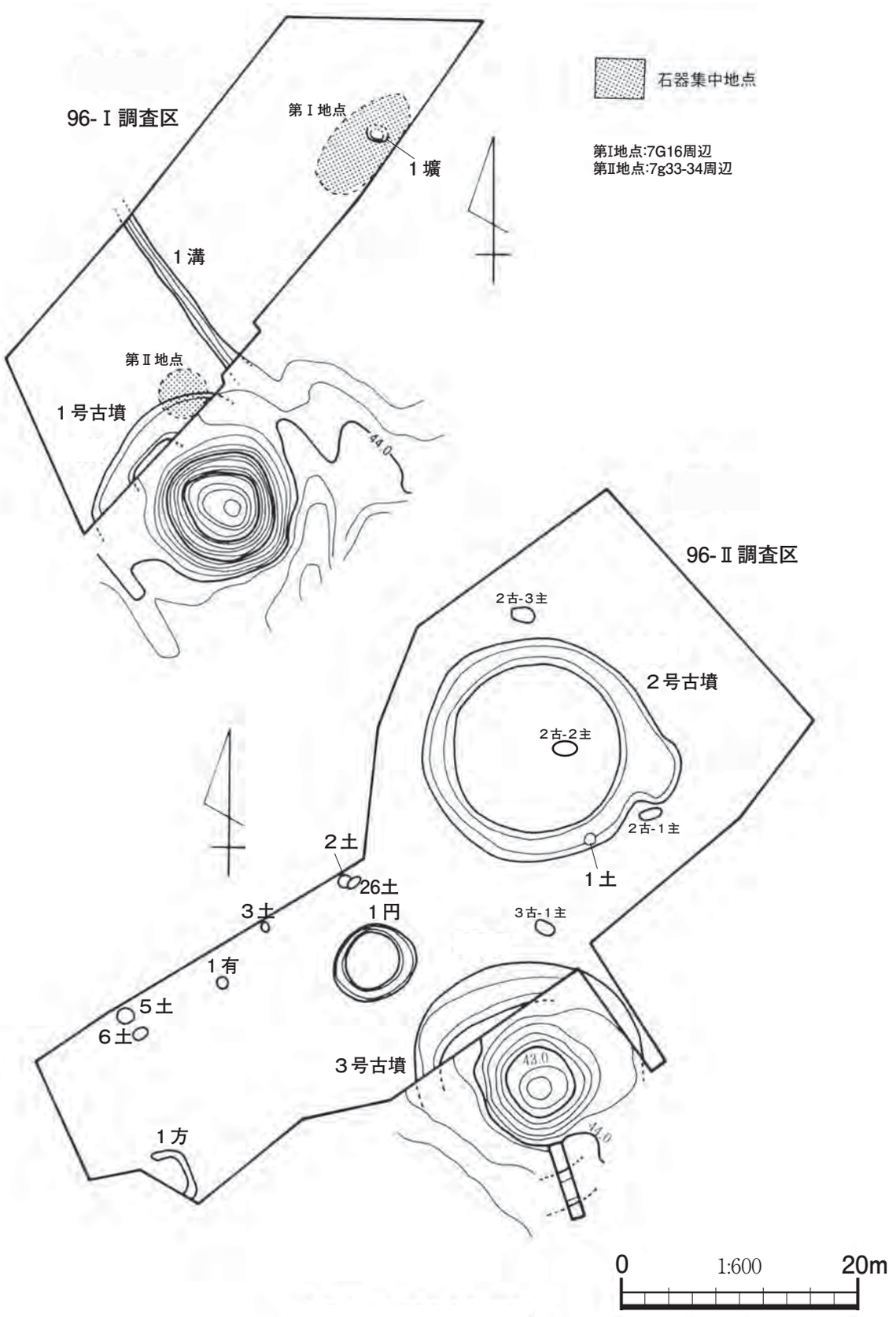
98-B調査区　旧地形上からマウンドがあり古墳とされていた部分の調査である。古墳1基、住居跡1軒、方形周溝状遺構1基、土壙1基が検出された。4号古墳からは5基の主体部が検出され、1・4号主体部は墳丘内、2・3号主体部は周溝内北西部分、5号主体部は周溝外で検出された。1号住居跡は、古墳時代中期のものである。

99-A調査区　9号古墳と2号住居跡、土壙1基、炭窯2基が検出された。9号古墳は盛土部分が保存対象域となったため調査はせず、工事に関わる部分のみを拡張して調査を実施した。古墳の周溝が南西隅でとぎれることが判った。2号住居跡は縄文時代後期中葉・加曽利B式期のものである。

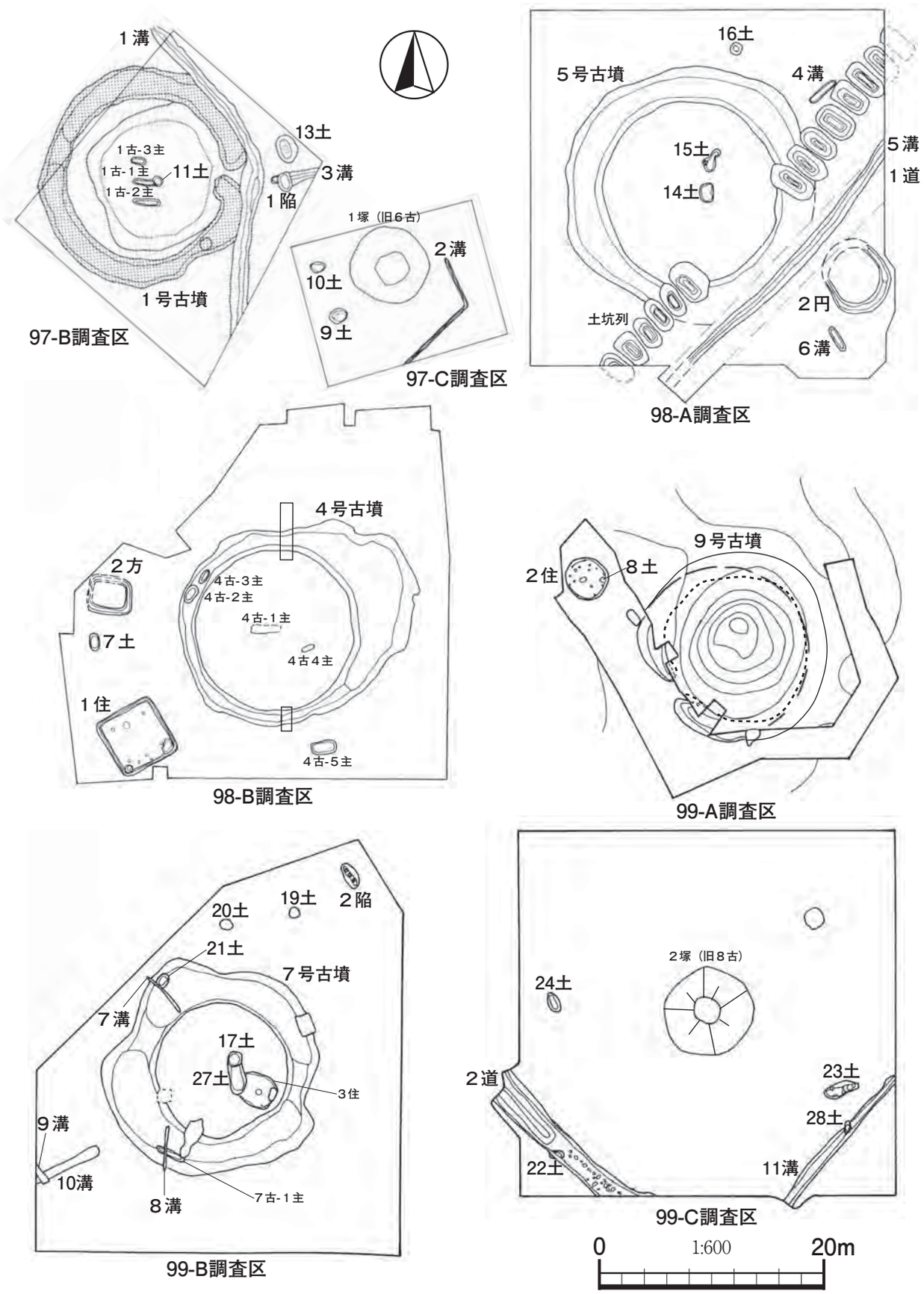
99-B調査区　7号古墳と3号住居跡、土壙5基、陥穴1基、溝4条、炭窯3基が検出された。7号古墳は1・5号古墳と同様に墳丘を再利用されており、17・27号土壙に墳丘中央部をひどく破壊されている。主体部は、南西部の周溝内で1基検出された。3号住居跡は、墳丘下で検出された。

99-C調査区　旧地形上からマウンドがあり古墳とされていた部分の調査である。調査の結果、中近世の塚であることが判明した。他には、土壙4基、溝1条、道状遺構1条、炭窯1基が検出された。

以上のように、古墳周辺に集中して調査区を設定したため、各古墳間の全くの未調査範囲にも住居跡や土壙・陥穴といった遺構は存在していた可能性が高い。3号古墳の南側にある10号古墳は保存協定により現状保存されることとなったので調査は実施しなかった。



第72図　大草台古墳群96-Ⅰ・Ⅱ区遺構配置図



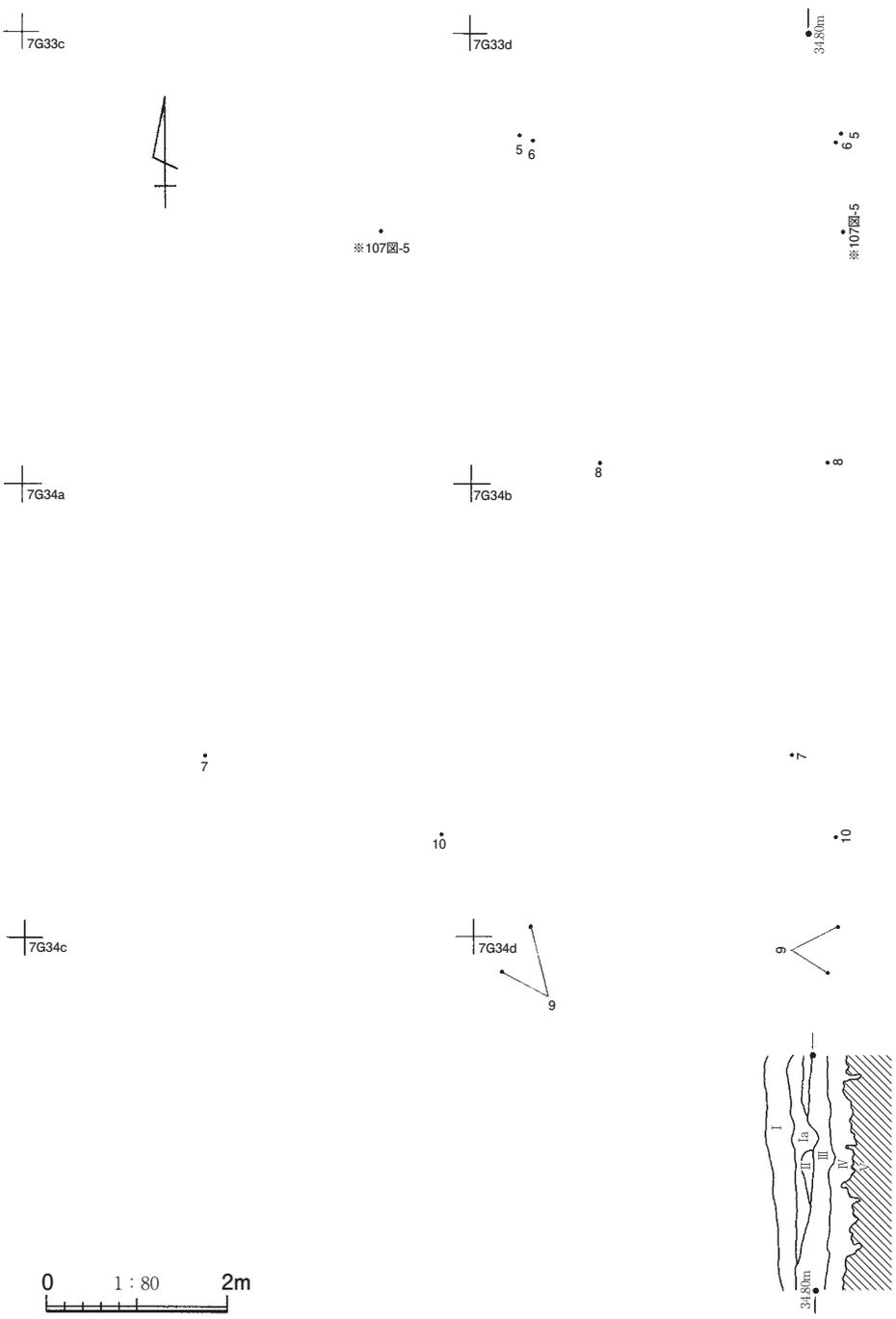
第73図　大草台古墳群97・98・99年度調査区遺構配置図

第２節　検出された遺構と遺物

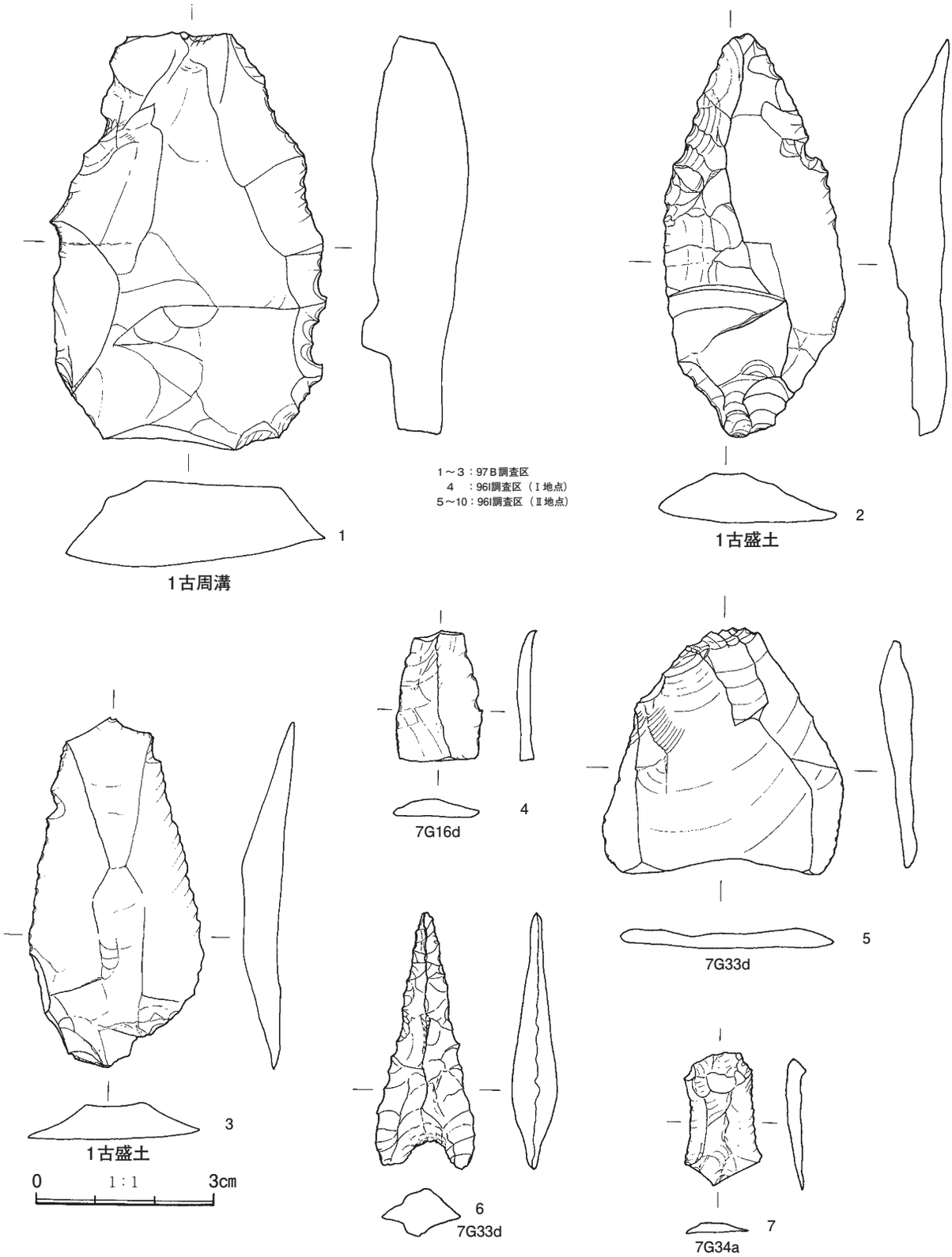
１　旧石器集中箇所

旧石器が出土したのは、96-Ⅰ調査区と97-Ｂ調査区である。97-Ｂ調査区は、１号古墳の盛土内･周溝内から一括遺物として取り上げられた資料である。96-Ⅰ調査区とは隣接しており、97-Ｂ調査区出土の石器（第75図-1～3）は、本来96-Ⅰ調査区の第Ⅰ地点で検出された石器の集中箇所に含まれるべきものが古墳造成時の周溝掘削時に掘り出され、盛土に混ざり込んだと見るのが妥当である。

96-Ⅰ調査区で検出された集中箇所は２地点あるが、第Ⅱ地点からは極小の剥片が主体であった。

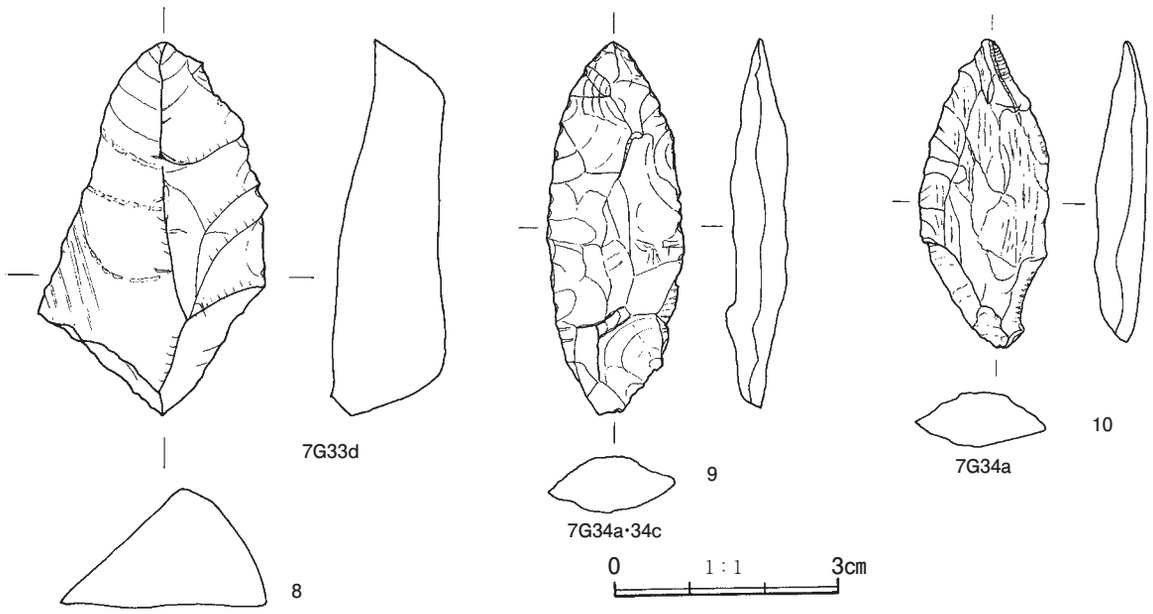


第74図　大草台古墳群旧石器遺物分布図



第75図　大草台古墳群出土旧石器①

図化できたものの多くは第Ⅱ地点（７Ｇ33付近）に関わるものである。第Ⅰ地点で出土した旧石器の中には、少量の黒耀石の薄片が混ざっていた。薄片ばかりだったので図化はしなかったが、産地同定分析にかけてみたところ、全てが高原山産であることが判明した。



第76図　大草台古墳群出土旧石器②

第19表　大草台古墳群出土の旧石器計測値一覧

No.	遺構名 地区	種類	法量（cm・g） 長さ	幅	厚み	重さ	石材	取上No.	挿図番号	備考
1	7G 16d	スクレイパー	7.0	4.7	1.5	55.3	玉髄	1古 － 5	第75図	
2	7G 16d	剥片石器	6.8	3.1	0.9	15.4	頁岩	1古	第75図	
3	7G 16d	剥片石器	5.8	3.0	0.7	10.0	頁岩	1古	第75図	
4	7G 16d	剥片	2.2	1.4	0.3	1.1	珪質頁岩	7G 16d	第75図	
5	7G 33d	剥片	4.1	4.0	0.5	7.6	珪質頁岩	7G 33d － 1	第75図	
6	7G 33d	石鏃？	4.3	1.6	0.8	3.1	チャート？	7G 33d － 2	第75図	縄文？
7	7G 34a	剥片	2.3	1.3	0.3	0.8	珪質頁岩	7G 34d － 1	第75図	
8	7G 33d	石核	5.1	3.1	1.5	19.5	珪質頁岩	7G 33d － 10	第76図	
9	7G 34a	尖頭器	4.9	1.8	0.8	7.1	安山岩？	7G 33d － 8	第76図	7G34c-4と接合
10	7G 34a	尖頭器	4.1	1.8	0.7	4.9	チャート	7G 33d － 9	第76図	

第75図-1～4は第Ⅱ地点、第75図-5～7・第76図- 8 ～10は第Ⅰ地点出土の遺物である。

第75図-1は１号古墳周溝底辺のソフトローム中から出土した玉随のスクレイパーである。同図-2･3は１号古墳の盛土一括資料の頁岩製の剥片石器（ナイフ？）である。同図-4は頁岩の剥片である。

第75図-5は頁岩の剥片である。同図-6は恐らく縄文時代の石鏃と思われるが、旧石器の同図-5の剥片とほぼ同レベルのソフトローム層最上部で出土している。厳密な意味では分離すべきかもしれないが、同じユニット内での出土品として扱っておく。同図-7は珪質頁岩の剥片（台形石器？）だが、Ⅲ層の包含層中からの出土であり、縄文時代の攪拌などによってまきあがったものと思われる。第76図-8は珪質頁岩で、厚みがあるので石核であろう。同図-9は尖頭器で、２片に割れていたが接合した。石材は安山岩系と思われるが表面の風化が激しくわかりにくい。１片はⅢ層の包含層中であり､これも縄文時代の攪拌などによってまきあがったものと思われる。同図-10はチャート製の尖頭器である。

第Ⅱ地点の未図化の資料の中にホルンフェルス製の石核があり、同じ素材から剥離されたと考えられる剥片が少量含まれていた。なお、第107図- 5 の黒耀石製の石鏃（縄文時代）はレベル的にハードローム内だが、包含層からのクラックや木の根による移動かと推測するが実際は不明瞭な点が多い。

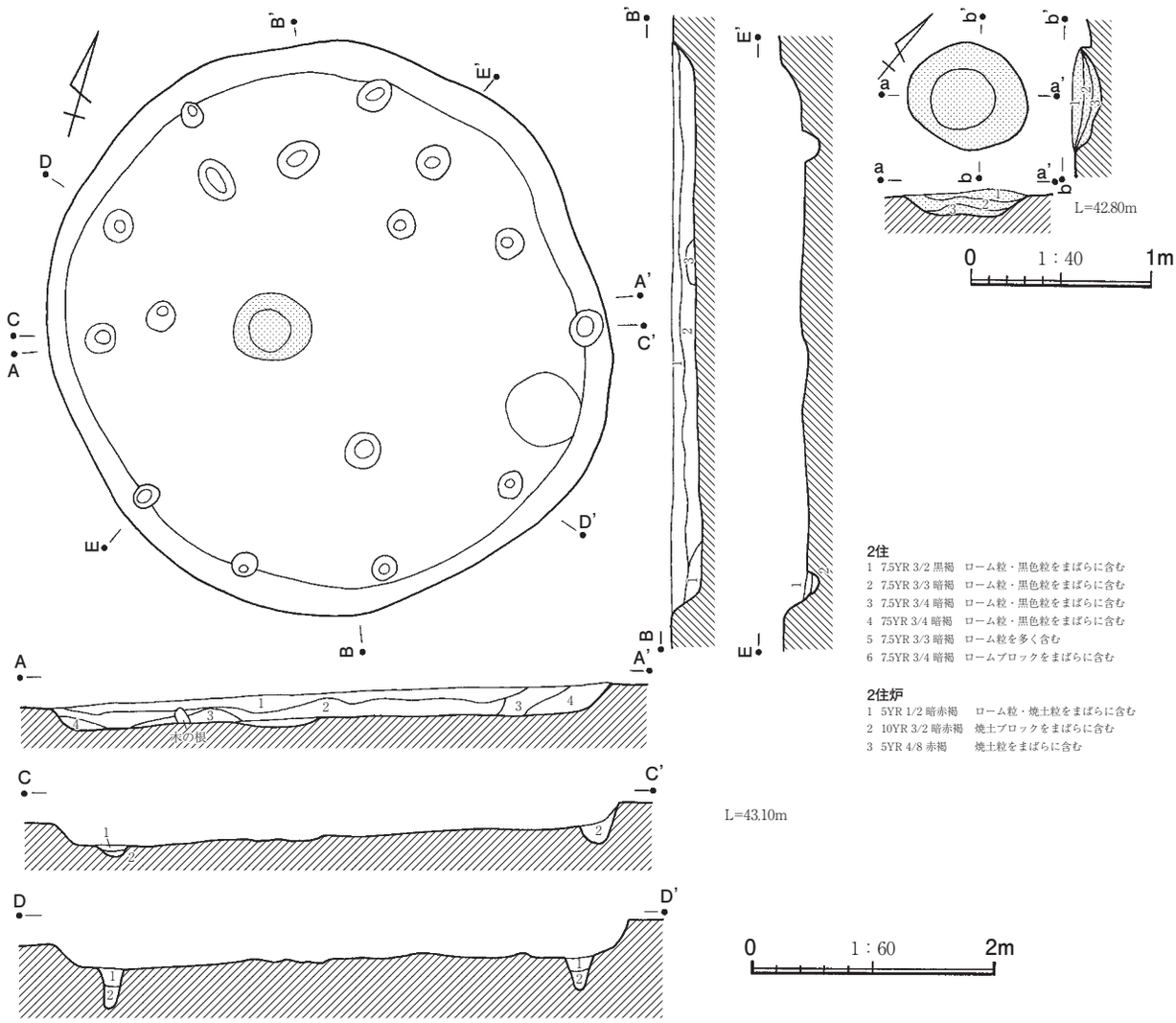
2　住居跡

第20表　大草台古墳群検出の住居跡（縄文時代）

遺構No.	検出区	主軸方位	平面形	規模（m）			炉位置	重複関係		時期	挿図No.		備考
				長軸	短軸	深さ		旧	新		遺構	遺物	
2号	6E　90bd	N-　?　-W	円	4.82	4.46	0.23	やや北西より			後期？	第77図	－	
3号	8F　96d	N-　59°　- E	楕円	4.32	3.66	0.12	中央		7古	安行2	第78図	第78図	

2号住居跡　　遺構：第77図　　遺物：ー

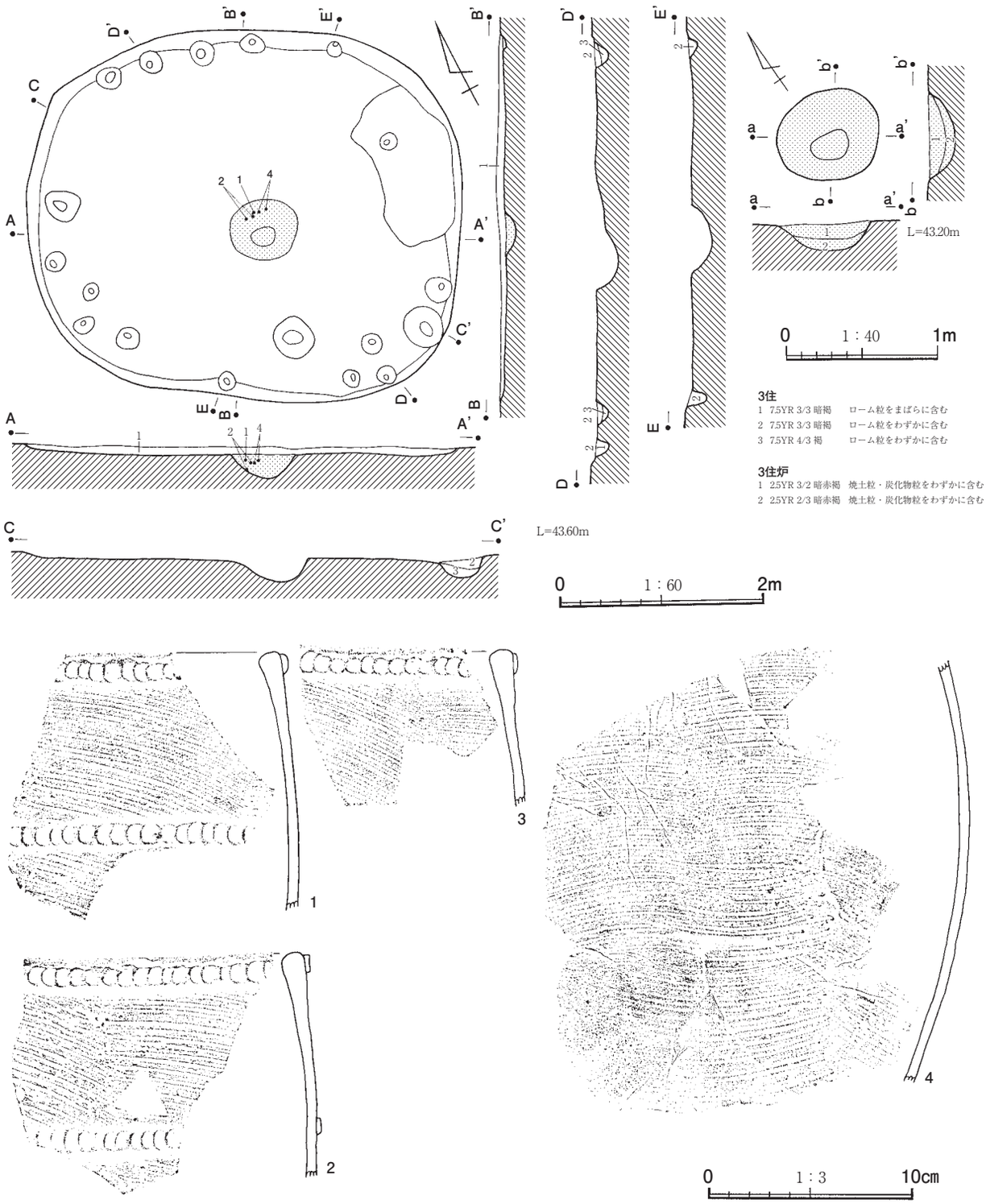
遺構の状況	平面形は円形を呈する。炉は中央からやや西寄り。主柱穴は不明瞭だが、壁柱穴の中に深いものと浅いものがほぼ交互に配列する。炉周辺にランダムに柱穴がある。
遺物の状況	遺物はほとんどない。図化できたものはないが、後期に比定できる遺物が出土している。
備考	



第77図　大草台古墳群2号住居跡

3 号住居跡　　遺構：第78図　　遺物：第78図

遺構の状況	平面形は隅丸長方形を呈する。炉はほぼ中央。主柱穴はない。壁柱穴がめぐるが、北西の一部と南西辺に柱穴がない部分がある。南西隅にやや深めの穴が２穴あるが、用途は不明。
遺物の状況	遺物は、安行式の粗製深鉢に比定できるものが１個体分と動機の破片が少量出土している。
備考	



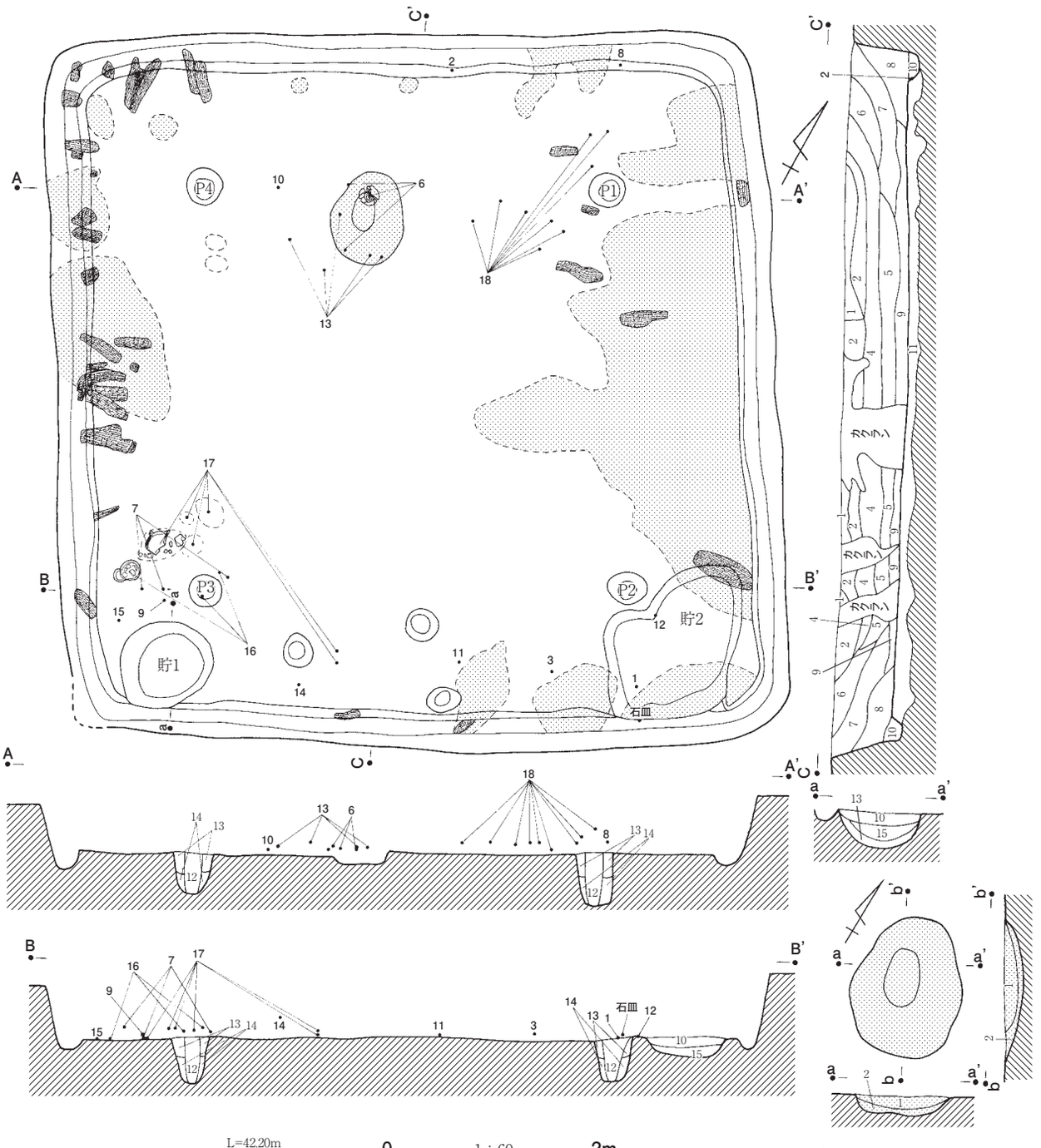
第78図　大草台古墳群 3 号住居跡・出土遺物

第21表　大草台古墳群検出の住居跡（古墳時代）

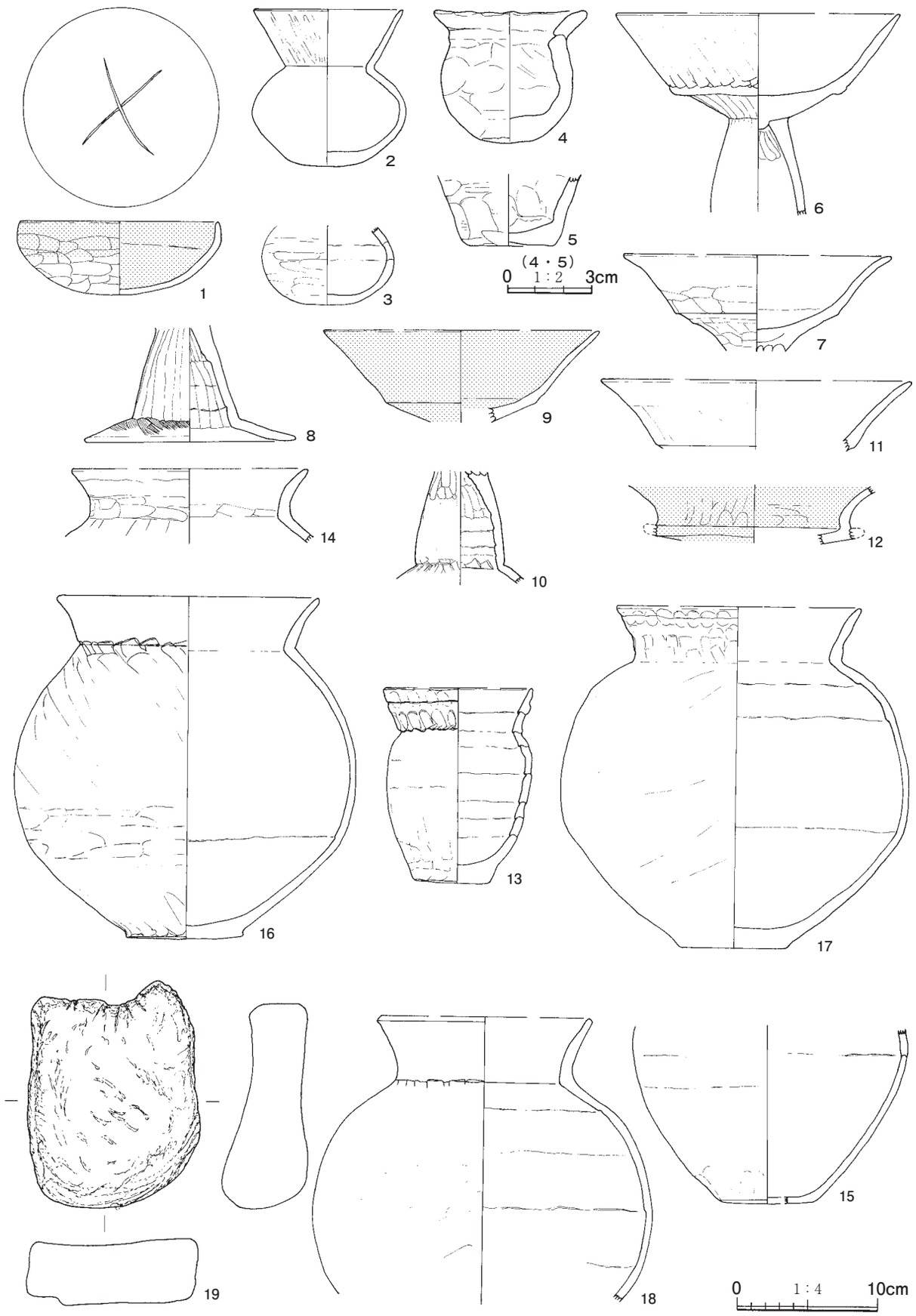
遺構No.	検出区	平面形状	主軸方位	規模（m）			床面	炉位置	貯蔵穴位置	階段用柱穴	壁溝	重複関係		時期	備考
				長軸	短軸	深さ						旧	新		
1号	8E　81a～d	方形	N－　30°　－W	6.9	6.9	0.71	貼床	北寄	南西隅 南東隅	○	○				焼土・炭化物

1号住居跡　　遺構：第79図　　遺物：第80図

遺構の状況	炉は中央から北寄りに1つ。主柱穴はやや深めの4穴。南辺に階段用柱穴が1穴あり。すぐ北側と西寄りに各1穴あり。貯蔵穴は南西隅と南東隅の2つ。壁溝は全周する。土層はレンズ状に堆積。焼土・炭化物が散在し、炭化物は西辺に多く残存。焼土は東辺に多く残存。
遺物の状況	遺物は多い。ケズリ→ナデ甕・輪積小型甕・ナデ甕・坩・高杯（突起付含む）・杯・手捏土器が出土。未図化は、ナデ甕（大型・小型）高杯・大型坩？はある。
備考	周囲に同時期の住居は検出されず、遺物も遺構以外からはほとんど出土していない。



第79図　大草台古墳群1号住居跡



第80図　大草台古墳群 1 号住居跡出土遺物

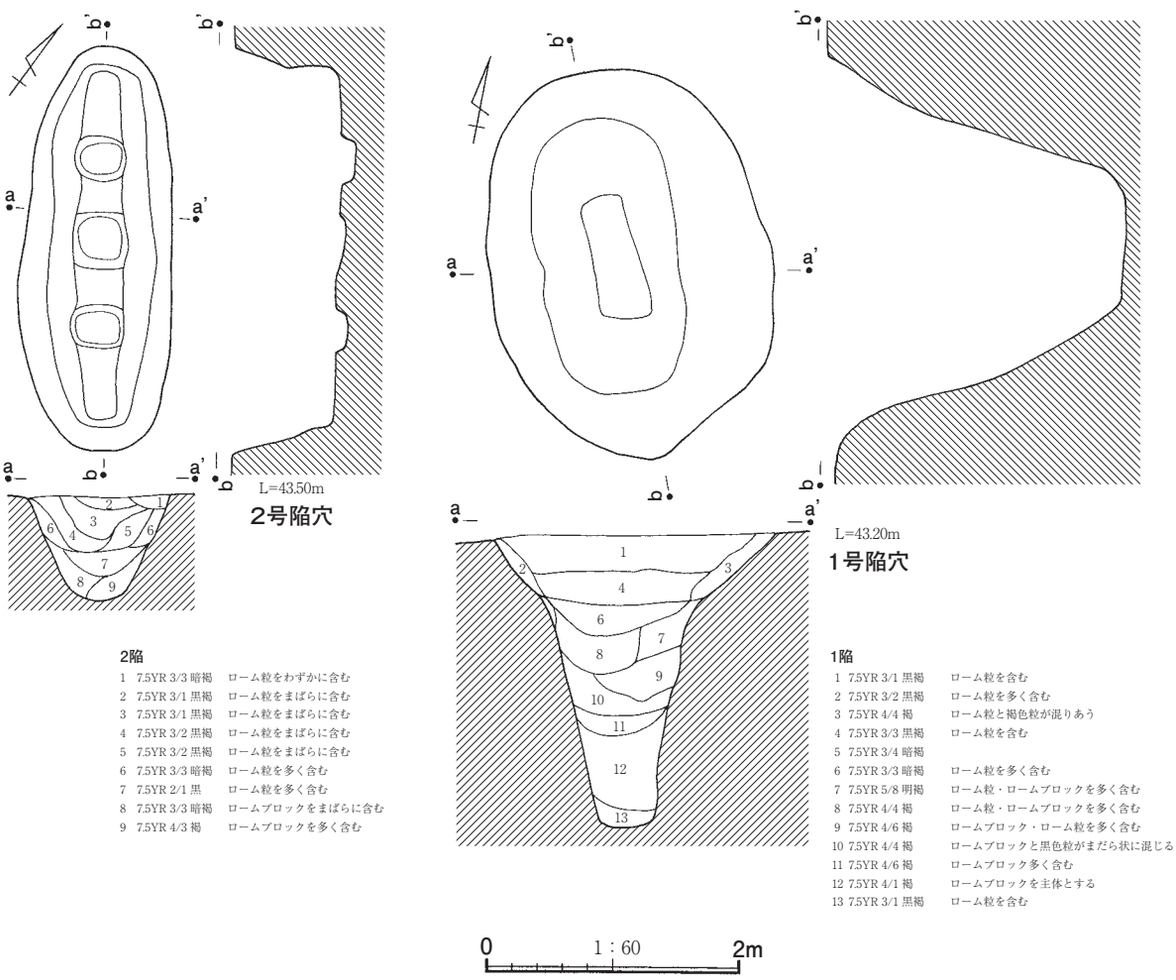
1住
1 7.5YR 2/3 極暗褐　焼土粒を多く含む
2 7.5YR 2/2 黒褐　ローム粒をわずかに含む
3 7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒をわずかに含む
4 7.5YR 3/3 暗褐　褐色土ブロック・炭化物をわずかに含む
5 7.5YR 2/1 黒　ローム粒・炭化物粒を多く含む
6 7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・炭化物粒を多く含む
7 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・炭化物粒・焼土粒を多く含む
8 7.5YR 4/4 褐　ローム粒・炭化物粒・焼土粒を多く含む
9 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒・炭化物粒・焼土粒を多く含む
10 7.5YR 3/1 黒褐　ロームブロック・焼土粒・炭化物粒を含む
11 7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックを多く、炭化物粒・焼土粒をわずかに含む（貼り床）
12 7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒を多く含む
13 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・黒色粒を多く含む
14 7.5YR 3/4 暗褐　ロームブロック・ローム粒を多く含む
15 7.5YR 3/2 黒褐　炭化物粒をまばらに含む

1住炉
1 10R 3/3 黒赤褐　焼土ブロックをまだら状に、炭化物粒をまばらに含む
2 10R 2/3 極暗赤褐　焼土粒・炭化物粒をまばらに含む

3　陥穴

第22表　大草台古墳群検出の陥穴

遺構No.	検出区	平面形 方位	法量（m） 長軸	短軸 （上端） （下端）	深さ	掘方断面形状	時代 時期	特徴	挿図No. 遺構	遺物	旧名称	備考
1号	7G　37d	楕円形 N－　20°　－E	3.15 1.00	2.20 0.42	1.33	丸碗形	縄文？	底平面は長方形	第81図	第83図	C12	
2号	8G　4b ・d	楕円形 N－　36°　－E	3.22 2.18	1.20 0.42	0.81	逆台形	縄文	底面にピット３穴 ピットは方形気味	第81図	－	C18	



2陥
1 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をわずかに含む
2 7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒をまばらに含む
3 7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒をまばらに含む
4 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
5 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
6 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を多く含む
7 7.5YR 2/1 黒　ローム粒を多く含む
8 7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックをまばらに含む
9 7.5YR 4/3 褐　ロームブロックを多く含む

1陥
1 7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒を含む
2 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を多く含む
3 7.5YR 4/4 褐　ローム粒と褐色粒が混りあう
4 7.5YR 3/3 黒褐　ローム粒を含む
5 7.5YR 3/4 暗褐
6 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を多く含む
7 7.5YR 5/8 明褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む
8 7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む
9 7.5YR 4/6 褐　ロームブロック・ローム粒を多く含む
10 7.5YR 4/4 褐　ロームブロックと黒色粒がまだら状に混じる
11 7.5YR 4/6 褐　ロームブロック多く含む
12 7.5YR 4/1 褐　ロームブロックを主体とする
13 7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒を含む

第81図　大草台古墳群陥穴

4　土壙

第23表　大草台古墳群検出の土壙

遺構No.	検出区		平面形 方位	法量（m） 長軸	短軸 （上端） （下端）	深さ	堀方断面形状	時代 時期	特徴	挿図No. 遺構	遺物	旧名称 ※変更分のみ	備考
1号	8F	26a	円形 N－　?°　－E	1.14 0.92	1.10 0.88	0.55	不定形	縄文？		第82図	－	Ⅱ-1土	
2号	8E	95d	円形 N－　°　－E	1.45 1.40	1.40 1.15	0.45	逆台形	古墳時代 中期		第82図	第83図	Ⅱ-2土	2土は26土に切られる
3号	8E	86b	楕円形 N－　20°　－E	0.94 0.45	0.79 0.30	0.27	浅碗形	縄文？		第82図	－	Ⅱ-3土	
5号	8E	77a	円形 N－　?°　－E	1.76 1.37	1.70 1.27	0.55	逆台形	縄文？		第82図	－	Ⅱ-5土	
6号	8E	77b	楕円形 N－　50°　－E	1.72 1.17	1.06 0.40	0.33	浅碗形	縄文？		第82図	－	Ⅱ-6土	
7号	7E	90c	楕円形 N－　?°　－E	1.84 1.47	1.17 0.90	0.33	浅碗形	縄文？		第82図	－	C12	
8号	6E	90b	円形 N－　?°　－E	0.62 0.37	0.60 0.35	0.16	浅碗形	縄文？		第82図	－	A2内C1	
9号	7F	77b・c・d	楕円形 N－　70°　－E	4.70 1.70	3.00 1.20	1.30	逆台形	中世		第82図	－	C9	
10号	7F	76d・g	楕円形 N－　?°　－E	1.70 1.50	1.05 0.70	0.27	浅碗形	中世		第83図	－	C11（重複）	
11号	7G 7F	78a-d 76d-d	楕円形 N－　77°　－E	1.65 0.90	1.04 0.85	0.80	不定形	中世		第83図	第107図	C11	1古再利用
13号	7E	90c	楕円形 N－　13°　W	1.63 0.80	1.18 0.42	0.30	浅碗形	中世		第82図	－	C12（重複）	
14号	7F	4d	長方形 N－　1°　－E	2.02 1.65	1.34 1.00	0.36	台形	中世		第82図	－	C14	5古内
15号	7F	4d	不整形 N－　?°　－E	2.54 2.35	(1.55) 0.85	0.33	不定形	中世		第83図	第108図	C15	5古内
16号	7F	13a	楕円形 N－　28°　－W	1.44 1.15	1.22 0.85	1.75	円筒形	中世		第82図	－	C16	
17号	8F	96d	方形 N－　12°　－E	4.62	1.62 1.20	1.81	不定形	中世		第83図	－	C17	7号墳内
19号	8G	5a	不整円形 N－　?°　－E	1.28 0.95	1.19 0.75	0.36	逆台形	縄文？		第83図	－	C19	
20号	8F	95a	不整円形 N－　?°　－E	1.40 1.20	1.24 1.10	0.19	浅逆台形	縄文？		第82図	－	C20	
21号	8F	85d	楕円形 N－　?°　－E	1.55 1.27	0.92 1.20	0.47	円筒形	古墳時代 後期		第82図	－	C21	9溝と重複
22号	6F	65c・d	楕円形 N－　86°　－E	1.63 1.35	0.92 0.65	0.38	逆台形	縄文？		第83図	－	C22	道状1号遺溝と重複
23号	6F	94d	不整楕円形 N－　71°　－E	3.75 3.40	1.26 0.85	0.33	浅碗形	縄文？	ピット有　1穴	第83図	－	C23	
24号	6F	63d	不整長方形 N－　69°　－E	2.19 2.08	1.09 0.90	0.85	逆台形	縄文？		第82図	－	C24	
26号	8E	95d	長方形 N－　?°　－E	1.72 1.65	0.54 0.35	0.69	円筒形	中世？		第82図	－	C26	26土は2土を切る
27号	8F	96d	不整円形 N－　?°　－E	1.85 1.55	1.80 1.35	0.80	台形	中世		第83図	－	C27	27土は17土を切る
28号	6F 6G	95b 5a	楕円形 N－　11°　－E	1.50 1.00	7.50 0.35	0.34	浅碗形	縄文？		第83図	－	C28	10溝と切りあい

1土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をまばらに含む
2　7.5YR 4/3 褐　暗褐色中にローム粒を多く、ロームブロックをまばらに含む
3　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・ロームブロックをまばらに含む
4　7.5YR 5/6 明褐　多量のローム粒･ロームブロックから成り、黒色土をわずかに含む

2土
1　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・炭化粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む
3　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を多量に含み、ロームブロックをまばらに含む
4　7.5YR 3/2 黒褐　ロームブロックを多く含む
5　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を多量に含み、ロームブロックを全体にやや多く含む
6　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を全体にやや多く含み、ロームブロックをまばらに含む
7　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒・炭化粒を全体にまばらに含む
8　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を全体にやや多く含む
9　7.5YR 3/1 黒褐　ロームブロックをまばらに含み炭化材(小片)を底部に含む

3土
1　7.5YR 3/3 暗褐　わずかにローム粒を含む
2　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を全体にほぼ均等に含む
3　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを壁よりに多く含む

5土
1　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックをやや多く含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒は少なくなるが、ロームブロックが若干多くなる
3　7.5YR 3/1 黒褐　炭化粒を多く含む、又形状は確認できないが炭化材を含む

6土
1　7.5YR 3/1 黒褐　わずかにローム粒を含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を斑状にやや多く含む
3　7.5YR 4/6 褐　ローム粒を多量に含み、ロームブロックまばらに含む

7土
1　7.5YR 3/4 暗褐　焼土粒・炭化物粒を多く含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　焼土粒・炭化物粒をまばらに含む
3　7.5YR 3/2 黒褐　焼土粒・炭化物粒をわずかに含む
4　7.5YR 4/3　褐褐色土ブロックをまばらに含む
5　7.5YR 4/4 褐　ロームブロックを斑状に含む

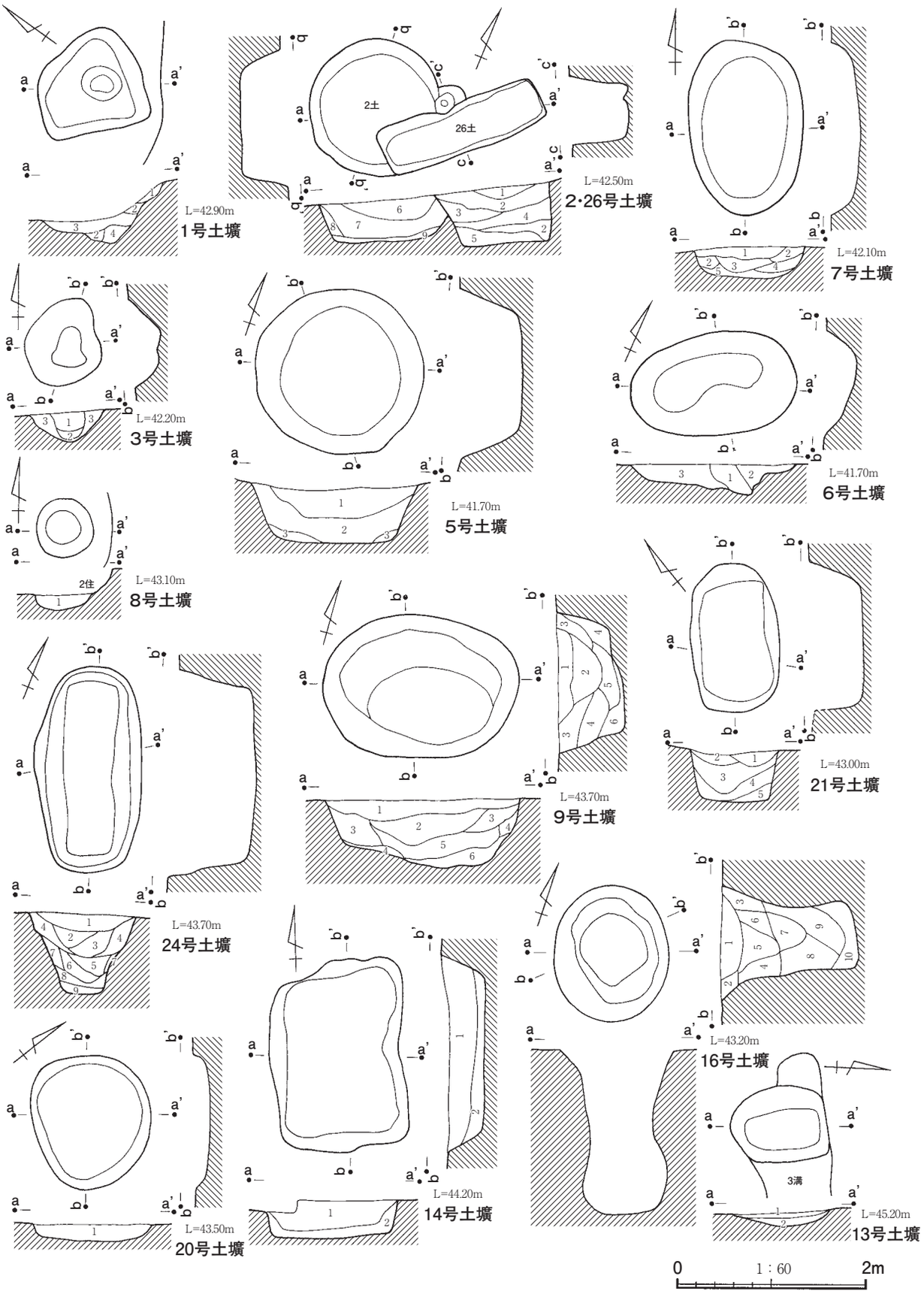
8土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックまばらに含む

9土
1　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒・黒色粒を含む
2　7.5YR 3/2 黒褐
3　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を多く含む
4　7.5YR 4/6 褐　ローム粒を多く含む
5　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒、ロームブロックを多く含む
6　7.5YR 4/6 褐　黒色粒を含む（ソフトローム層）

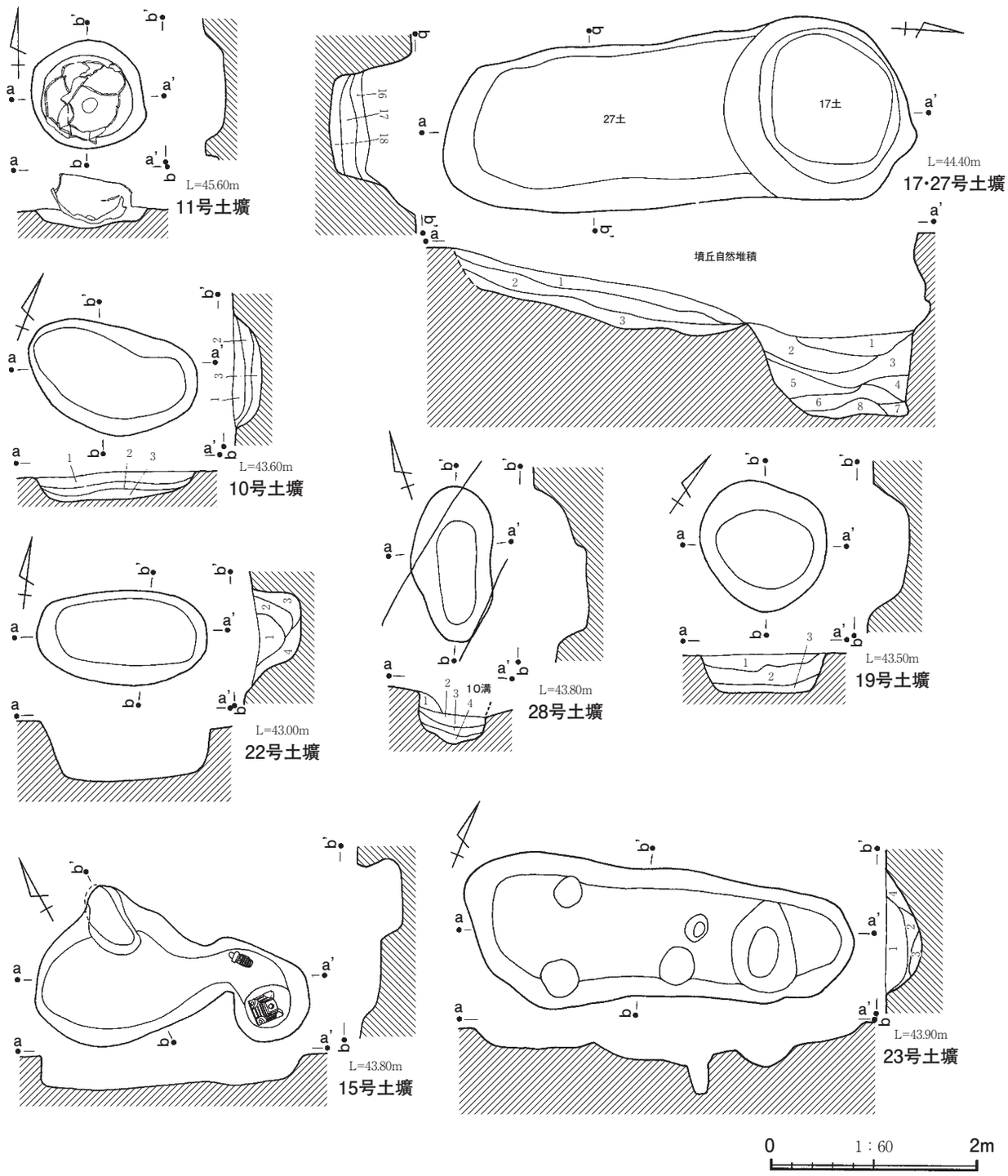
10土
1　7.5YR 2/3極 赤褐　焼土ブロック・焼土粒を含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を斑状に含む
3　7.5YR 4/6 褐　ロームブロックを含む

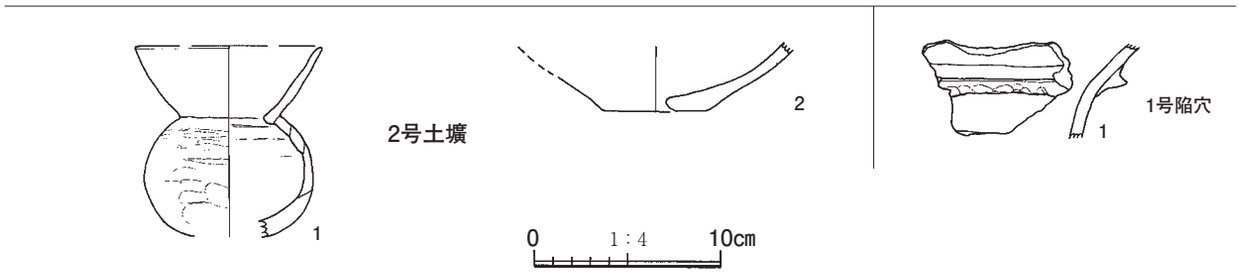
13土
1　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒を含む
2　7.5YR 3/1 黒褐　ロームブロックを多く含む

14土
1　7.5YR 3/4 暗褐　ロームブロックをまばらに、ローム粒･黒色土粒を多く含む
2　7.5YR /4 暗褐　ロームブロックをまばらに、ローム粒･黒色土粒を多く含む



第82図　大草台古墳群土壙①





第83図　大草台古墳群土壙②

16土
1　7.5YR 3/3 暗褐　焼土ブロックを含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒をわずかに含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックをまばらに含む
4　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をまばらに含む
5　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を多く含む
6　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をまばらに含む
7　7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックをまばらに含む
8　7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックをまばらに含む
9　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を多く含む
10　7.5YR 4/3 褐　ロームブロック主体

17土
1　7.5YR 3/2 黒褐　ロームブロック・黒色土ブロックを多く含む
2　7.5YR 3/3 黒褐　ロームブロックをまばらに含む
3　7.5YR 3/3 黒褐　ロームブロック・黒色土ブロックを斑状に多く含む
4　7.5YR 3/4 黒褐　ロームブロックをまばらに含む
5　7.5YR 3/4 黒褐　ロームブロック・黒色土ブロックを斑状に含む
6　7.5YR 3/3 黒褐　ロームブロック・黒色土ブロックを斑状に含む
7　7.5YR 3/3 黒褐　ロームブロックを多く含む
8　7.5YR 2/1 黒　ローム粒をわずかに含む

19土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をわずかに含む
3　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒をわずかに含む

20土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をまばらに含む

21土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を多く含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ロームブロックを多く含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックを多く含む
4　7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックを多く含む
5　7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックをまばらに含む

22土
1　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
3　7.5YR 4/3 褐　橙色・黒色粒をわずかに含む
4　7.5YR 4/3 褐　橙色・黒色粒をわずかに含む

23土
1　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒をまばらに含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・黒色粒をまばらに含む
4　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・黒色粒をまばらに含む

24土
1　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・黒色粒をわずかに含む
2　7.5YR 2/2 黒褐　ローム粒・黒色粒をわずかに含む
3　7.5YR 2/2 黒褐　ローム粒・黒色粒をわずかに含む
4　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・黒色粒をまばらに含む
5　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・黒色粒を多く含む
6　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・黒色粒を多く含む
7　7.5YR 4/3 褐　ロームブロックをわずかに含む
8　7.5YR 4/4 褐　ロームブロック・黒色土ブロックを含む
9　7.5YR 2/2 褐　ローム粒を多く含む

27土
1　7.5YR 5/6 明褐　ローム主体、黒色土ブロックをまばらに含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロック・黒色土ブロックを多く含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックをまばらに含む

28土
1　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックをわずかに含む

5　古墳

1 号古墳

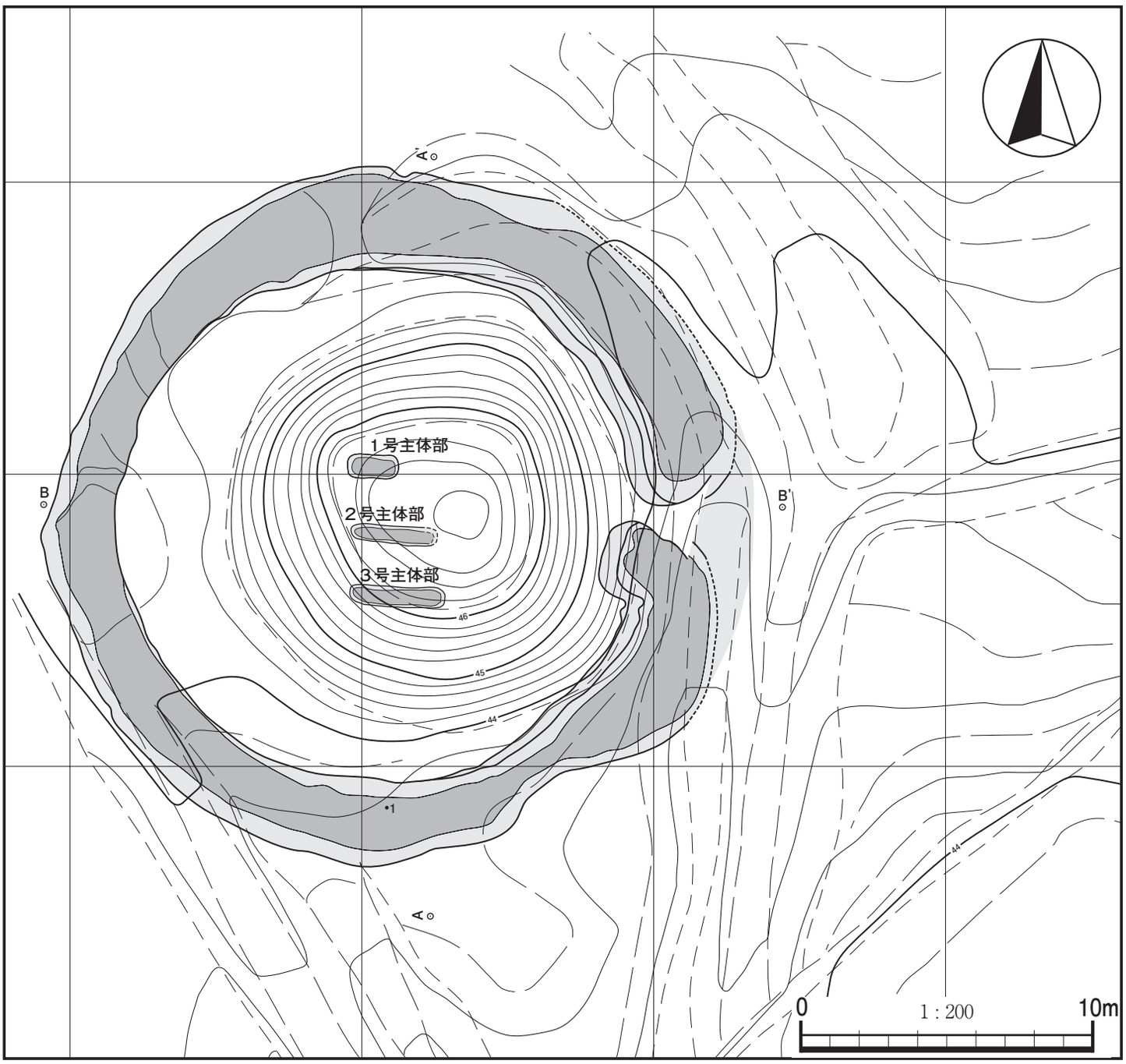
遺構：第84・85図　　遺物：第96・98・99図

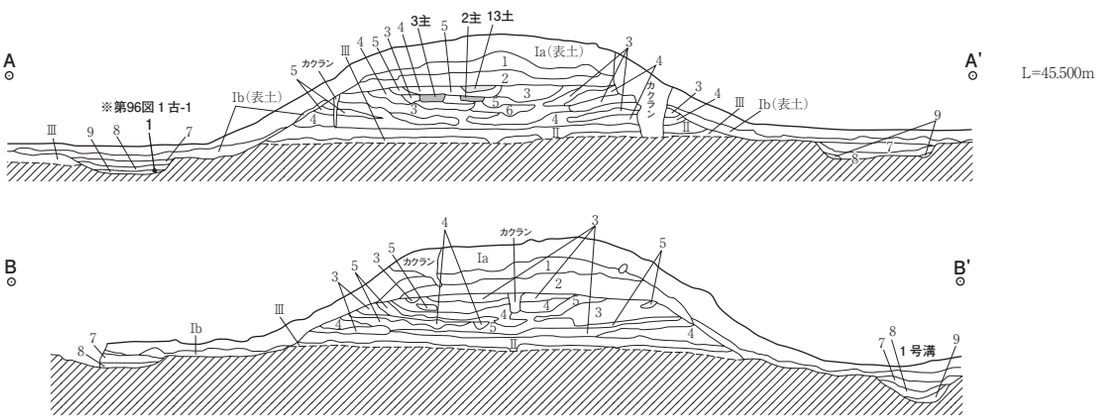
検出区		97-B調査区	**墳形**	円墳	
周溝規模	外周	長軸　短軸　深さ 23.8×23×0.4m	**墳丘規模**	長軸　短軸　高さ 17.2×17×2.4m ※高さは表土を除いた盛土高	
	幅	3.2m			
方位		N－　89°　－W	**付属施設**	主体部3箇所	
時代		古墳　**時期**　後期	**切合関係**	1 号溝	

1 号主体部	長軸　短軸　深さ	
形態：　木棺直葬？	1.76×0.75×0.18m	
2 号主体部	長軸　短軸　深さ	
形態：　木棺直葬	(3.08)×0.58×0.15m	
3 号主体部	長軸　短軸　深さ	
形態：　木棺直葬	(2.92)×0.63×0.12m	

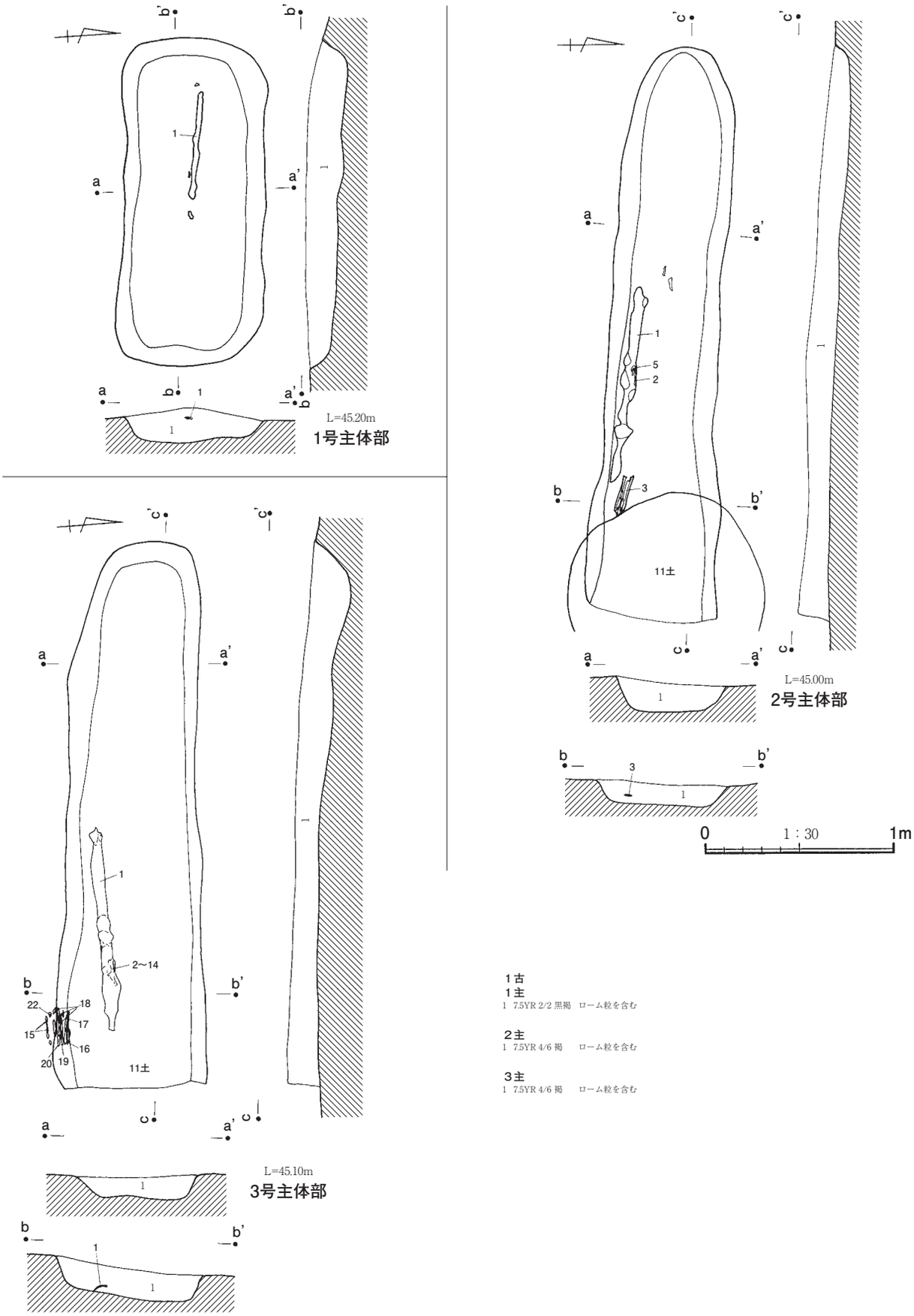
遺構の状況	墳丘は残存。墳丘盛土最上層部の3層下面で主体部を3基検出。3基とも主軸方向（東西方向）は同じで、墳丘のほぼ中央部に並列して配置される。主体部検出面までは、ブロックを平衡堆積にしている。周溝の東側は土橋状に溝がとぎれる。
遺物の状況	周溝南部分底部から土師器杯が出土（第96図1古-1）。須恵器模倣杯で、調整などは比較的丁寧であり、その形状的に6世紀後半頃に比定できる。他に、周溝ないから第96図1古-2の8世器代の須恵器杯片と布目瓦片が出土している。周囲に同時期の遺構はない。
備考	2号主体部の東端は、11号土壙（中世）に切られる。この土壙は墳丘上部を中世に墓として再利用したもので、第107図11土-1の常滑甕が埋置されていた。甕の中には何もなかったが、土壙底部から銅銭が5枚出土している。甕の形態的に15世紀後半に比定できる。

1号主体部	隅丸長方形の平面形で、他の主体部よりも規模が小さい。中央やや西寄りの上層部から第98図1主-1の直刀が1振出土している。出土位置から、棺床ではなく棺外の蓋上に埋葬された可能性が考えられる。
2号主体部	長楕円形で長軸が3m以上と長いが、東端を11号土壙によって破壊されている。中央の南よりの底部から第98図2主-1の直刀が一振と直刀に付着して2主-2･5の鉄鏃が出土。直刀の東側床面直上に2主-3の鉄鏃群が出土している。
3号主体部	長楕円形で長軸が3m以上と長いが、東端は破壊されている。中央から南東よりの底部から第98図3主-1の直刀1振と第99図3主-2～14の鉄鏃が出土。直刀の東南側上層に3主-15～22のの鉄鏃群が出土しており、位置的に棺外の副葬と考えられる。





第84図　大草台古墳群1号古墳



1古
1主
1 7.5YR 2/2 黒褐 ローム粒を含む

2主
1 7.5YR 4/6 褐 ローム粒を含む

3主
1 7.5YR 4/6 褐 ローム粒を含む

第85図　大草台古墳群１号古墳１・２・３号主体部

1古

Ⅰa　表土
　b　表土
Ⅱ　旧表土　7.5YR 2/1 黒
Ⅲ　ソフトローム　7.5YR 5/6 明褐
1　不明
2　不明
3　7.5YR 3/1 黒褐
4　7.5YR 5/8 明褐　ロームブロック多い
5　7.5YR 4/4 褐　ロームブロック多い
6　7.5YR 2/1 黒　旧表土ブロック入る
7　7.5YR 3/1 黒褐
8　7.5YR 5/6 明褐
9
1主　7.5YR 2/2 黒褐　ローム粒入る
2主　7.5YR 4/6 褐　ローム粒入る
3主　7.5YR 2/6 褐　ローム粒入る

2 号古墳

遺構：第86・87図　　遺物：第96図

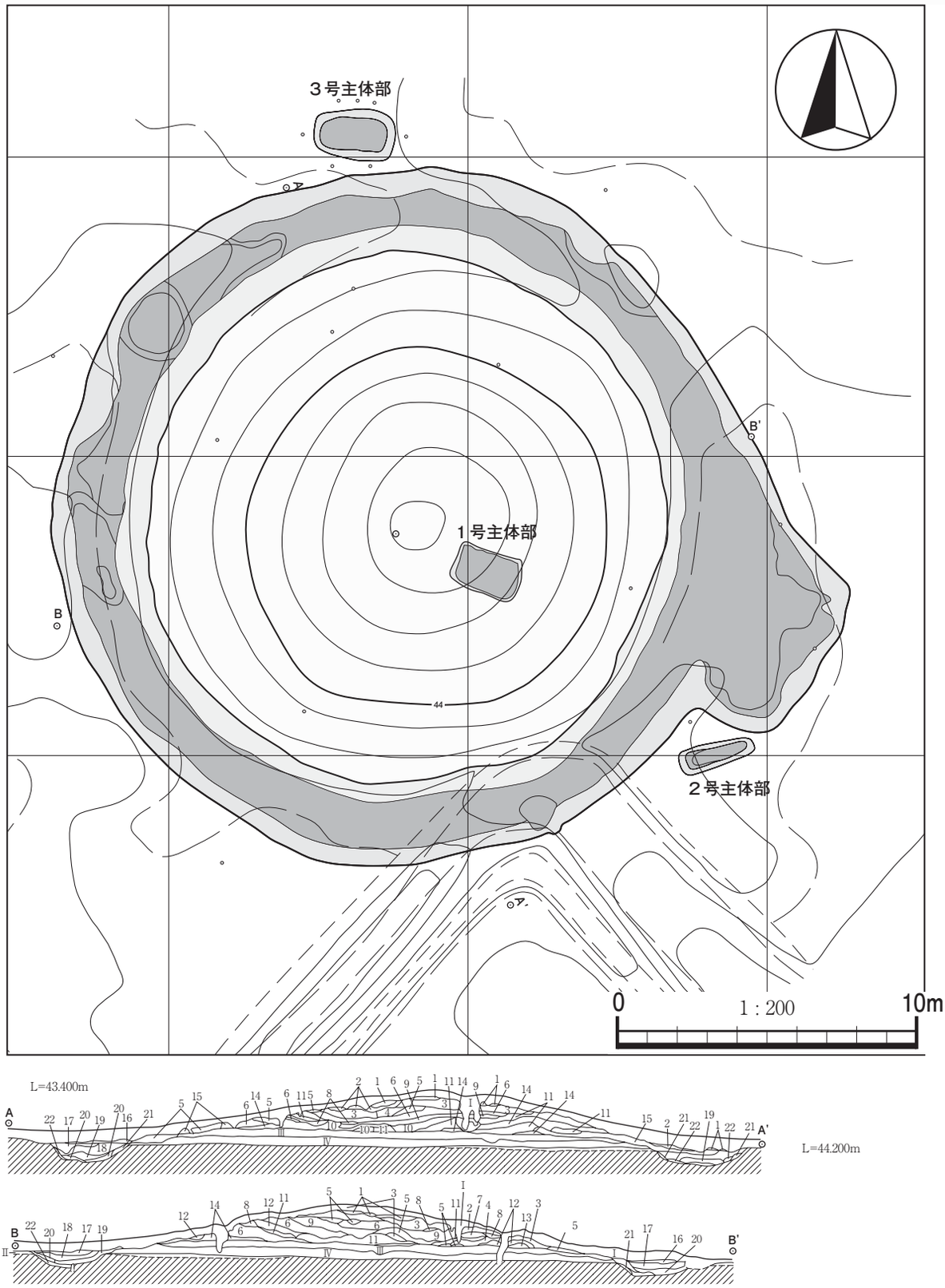
検出区		96-Ⅱ調査区		**墳形**	円墳	1 号主体部	長軸　短軸　深さ
周溝規模	外周	長軸　短軸　深さ 23.2×22.7×0.5m		**墳丘規模**	長軸　短軸　高さ 17.7×17.2×1.6m	**形態**：　木棺直葬	2.2×1.42×0.5m
	幅	3m			※高さは表土を除いた盛土高	2 号主体部	長軸　短軸　深さ
方位		N－　78°　－W		**付属施設**	主体部 3 箇所	**形態**：　木棺直葬	2.7×0.86×0.42m
時代		古墳	**時期**	後期	**切合関係**	1 土	3 号主体部　長軸　短軸　深さ
						形態：　木棺直葬	2.84×1.65×0.62m

遺構の状況	墳丘は残存するが、低い。墳丘内に 1 号主体部、墳丘外の南東部に 2 号主体部、北側に 3 号主体部が検出。周溝は、平面的に東側で一部張り出している。その張り出しのすぐ南に 2 号主体部がある。	**1 号主体部**	墳丘内のほぼ中央、主軸はN-78°-Wである。平面形は長方形、壁は直下する。際だった特徴はないが、墳丘盛土内から明確に掘り込まれている（写真図版23-2）。
遺物の状況	周溝からは、古墳造営時の遺物は出土しなかった。第96図 2 古-6～9は、8 世紀末以降のものである。2 号主体部の底面と 3 号主体部の覆土からそれぞれ 7 世紀半ば頃までに比定できる土師器杯が出土している。	**2 号主体部**	墳丘の南東部、張り出し部のすぐ南にある。短辺は短く細長い長方形を呈する。主軸はN-75°-Eである。土師器杯が床面から出土した（第96図 2 古-1）。
備考	周溝の膨らみが、古墳造営時からのものかの確証はない。	**3 号主体部**	墳丘の北側ほぼ中央にある。主軸はN-82°-Wである。短辺の幅は比較的ある。際だった特徴はないが、覆土中から土師器杯が出土した（第96図 2 古-3）。

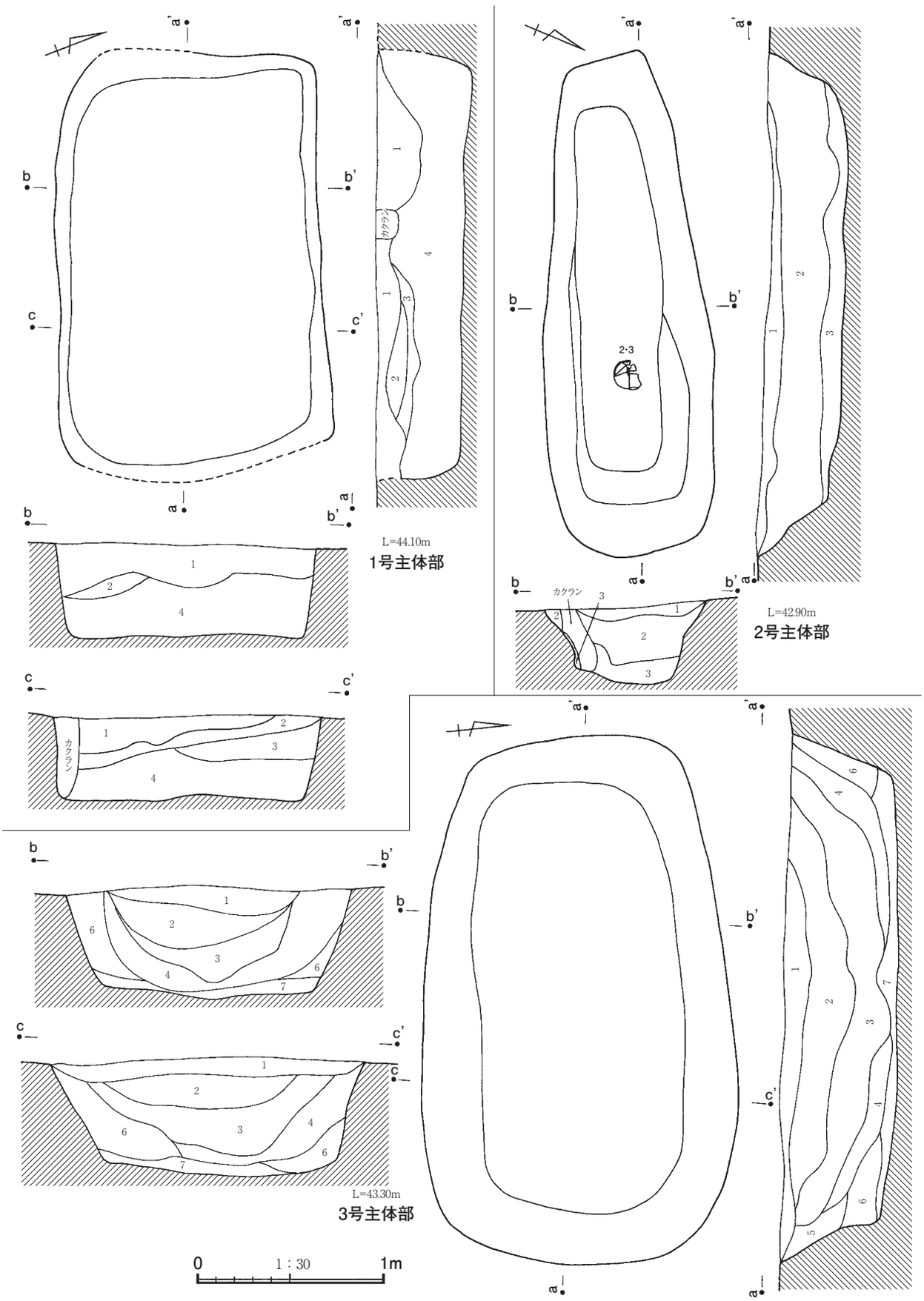
2 古

（墳丘）
1　7.5YR 2/1 黒
2　7.5YR 5/8 明褐
3　7.5YR 5/6 明褐
4　7.5YR 4/3 暗褐
5　7.5YR 4/4 暗褐
6　7.5YR 4/6 明褐　黒色ブロック入る
7　7.5YR 3/3 褐
8　7.5YR 3/2 黒褐
9　7.5YR 3/4 暗褐
10　7.5YR 4/6 明褐
11　7.5YR 5/7 明褐　黒色土がまだらに入る
12　7.5YR 4/6 明褐
13　7.5YR 3/3 暗褐　黒色土少量入る
14　7.5YR 3/2 黒褐
15　7.5YR 2/1 黒褐

（周溝）
16　5YR 3/2 暗赤褐　現表土層最下部に広く認められる、焼土粒をまばらにやや多く含み、しまりやや弱い
17　7.5YR 2/1 黒　混入物はほとんど認められない、しまり良
18　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒をわずかに含み、しまり良、②層よりやや土層に近い色調をもつ
19　7.5YR 7/1 黒　ローム粒及び焼土粒をわずかに含む、よくしまっている。（漆黒）
20　7.5YR 3/3 暗褐　粗いローム粒をやや多く含み、しまり良（ただし、④層よりはしまり弱い）
21　7.5YR 4/6 褐　ローム粒を多量に含み、よくしまる。（壁剥落ち）
22　7.5YR 2/3 黒褐　黒色土とローム粒をほぼ半々に含み、ローム・ブロック（φ0.5～1cm）を少量含む、しまりやや弱い
23　7.5YR 4/4 褐　ローム・ブロックを多く含み、その間にローム粒及び黒色土が混入する、しまり良



第86図　大草台古墳群２号古墳



第87図　大草台古墳群２号古墳１・２・３号主体部

2古
1主
1 7.5YR 4/6 褐　ローム粒・ロームブロックを多量に含む
2 7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・ロームブロックを含む
3 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含む
4 7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

2主
1 7.5YR 2/2 黒褐　ローム粒・ロームブロックをわずかに含む
2 7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む
3 7.5YR 5/8 明褐　ローム粒を多量に含み、ロームブロックをまばらに含む

3主
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をわずかに含む
2 7.5YR 2/1 黒　ローム粒をまばらに含む
3 7.5YR 2/2 黒褐　ローム粒をやや多く含む
4 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックをまばらに含む
5 7.5YR 4/6 褐　ローム粒を多量に含む
6 7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
7 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・ロームブロックを含む

3号古墳

遺構：第88・89図　　遺物：第97・100図

検出区	96-Ⅱ調査区		**墳形**	円墳	
周溝規模	外周	長軸　短軸　深さ 25.4×(24)×0.5m	**墳丘規模**	長軸　短軸　高さ 19×(17.5)×　？　m	
	幅	3.8m			
方位	N－　？°　－W		**付属施設**	主体部1箇所	
時代	古墳	**時期** 後期	**切合関係**		
遺構の状況	北西部の周溝と南西部の周溝のごく一部が検出されているにすぎない。周溝は、0.5m前後と比較的浅い。南東側は現代の地道が走っており、破壊されていると予想される。現況での古墳高は約1.8mである。				
遺物の状況	第97図3古-1･2は、周溝内出土である。杯は浅く彩色などもない。調整は口縁横ナデで、横ケズリである。その形態・調整的な特徴から6世紀末～7世紀前半頃に比定できる。				

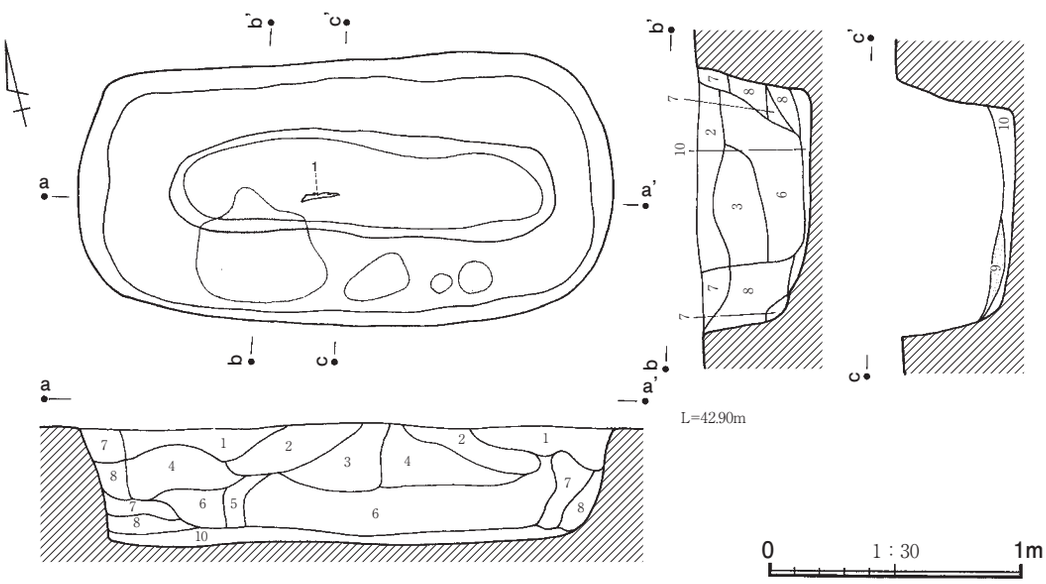
1号主体部	長軸　短軸　深さ
形態：　木棺直葬	2.12×1.06×0.44m
木棺部	1.54×0.42　0.4m

1号主体部

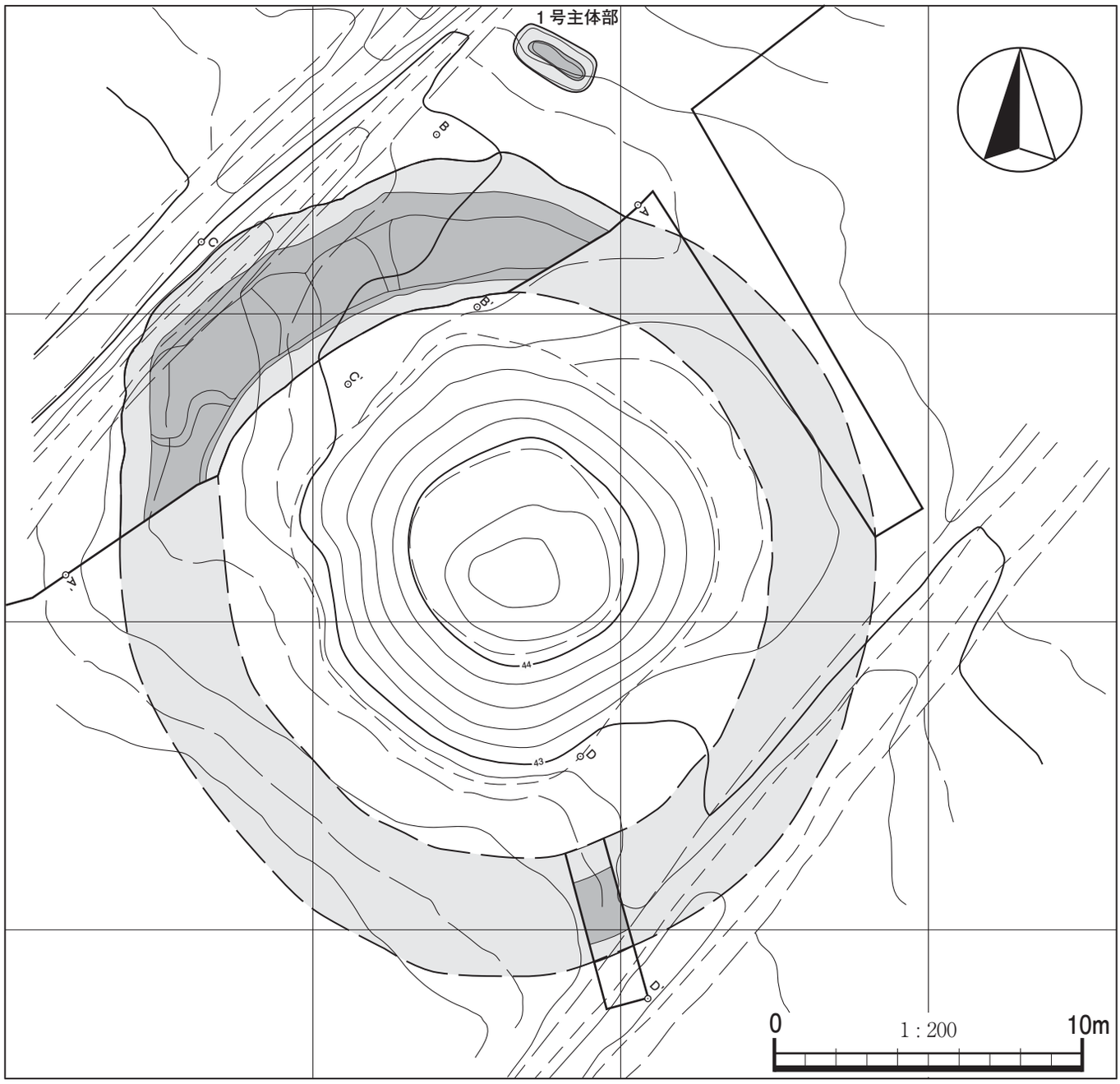
墓壙内に、長さ1.52×幅0.42mの木棺痕がある。また、白色粘土が一部残存しており、木棺周辺を粘土で被覆していた可能性が考えられる。出土遺物は、刀子一点であるが、時期比定の確固たる根拠とはならない。この主体部は、墳丘外主体部なので、場合によっては本古墳とは関係ない可能性もある。

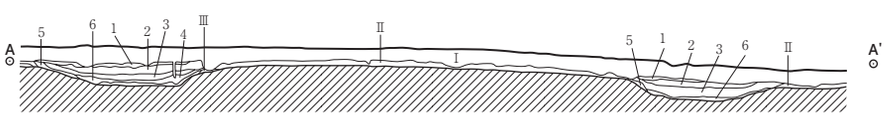
備考

墳頂部は保存区域なので未調査。主体部の有無は不明。

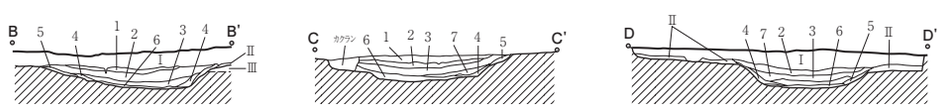


第88図　大草台古墳群3号古墳1号主体部





A－A'　L=43.200m
B－B'　L=42.600m
C－C'　L=42.700m
D－D'　L=42.900m



第89図　大草台古墳群 3 号古墳

3古
1主
1 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をわずかに含む
2 7.5YR 2/2 黒褐　ローム粒・ロームブロックをまばらに含む
3 7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックをまばらに含む
4 7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
5 10YR 2/3 黒褐　粘土ブロックをまばらに含む
6 7.5YR 2/2 黒褐　ローム粒を含む
7 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・ロームブロックを含む
8 7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む
9 10YR 6/6 明黄褐　粘土層(下末吉ローム)
10 7.5YR 5/6 明褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む（貼床）

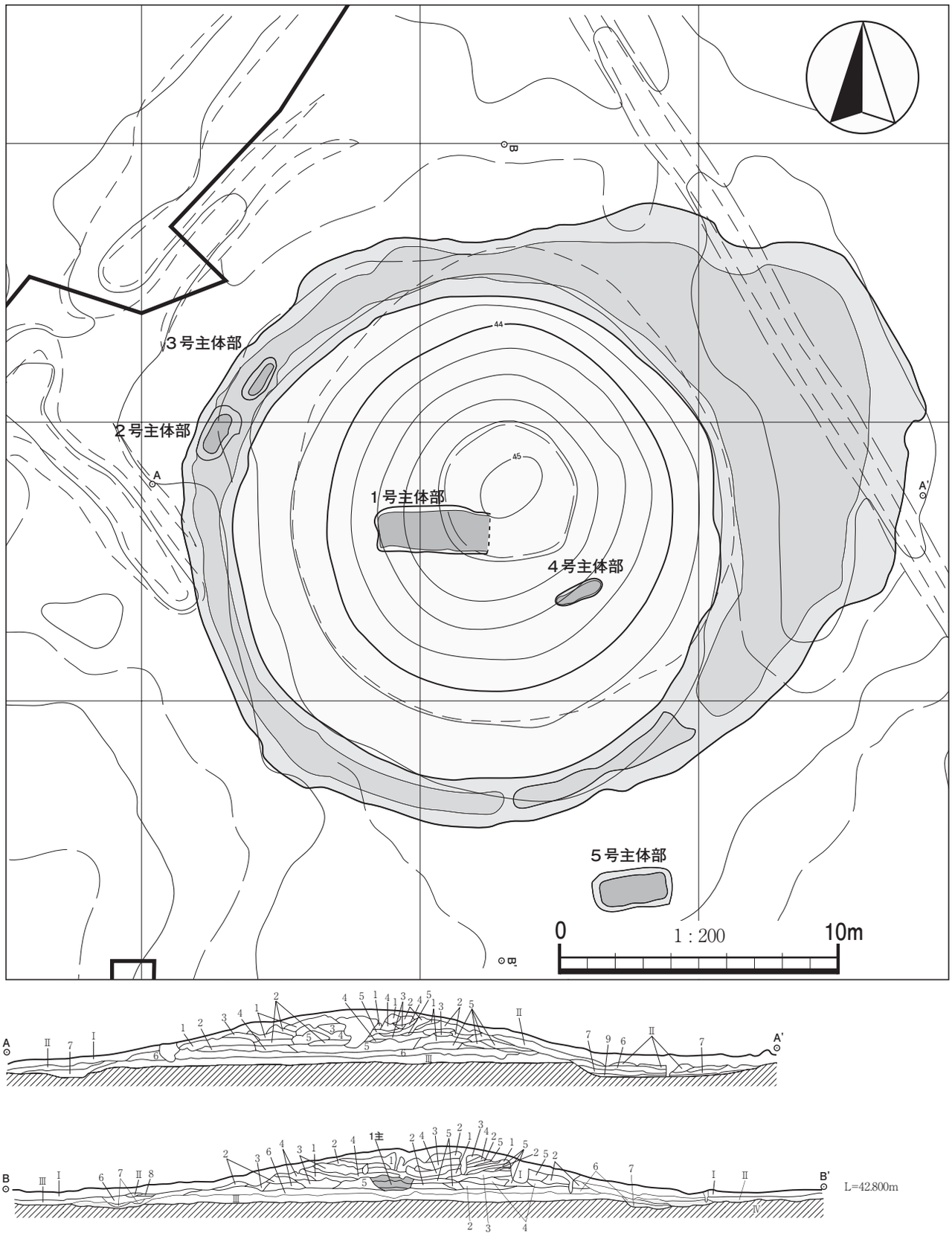
3古
Ⅰ 7.5YR 3/1 表土層　黒褐
Ⅱ　褐色土層
Ⅲ
1 5YR 3/2 暗赤褐　焼土粒（φ0.5～5mm）を全体に含む、しまり弱（焼土は周溝確認面で広く認められた）
2 7.5YR 2/1 黒　わずかにローム粒を含む、しまり良
3 7.5YR 3/2 黒褐　粗目のローム粒を全体にまばらに含む、しまり良
4 7.5YR 3/3 暗褐　暗褐色土をベースとして、粗目のローム粒をやや多く含む、しまり良、粘性をもつ
5 10YR 4/6 褐　ローム粒を主体とした土層、しまりやや良（風化ローム層？）
6 7.5YR 4/3 褐　4層をベースとし、ローム粒及びローム・ブロック（φ0.5～2cm）を多く含む、しまり良
7 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をわずかに含み、よくしまる

4号古墳

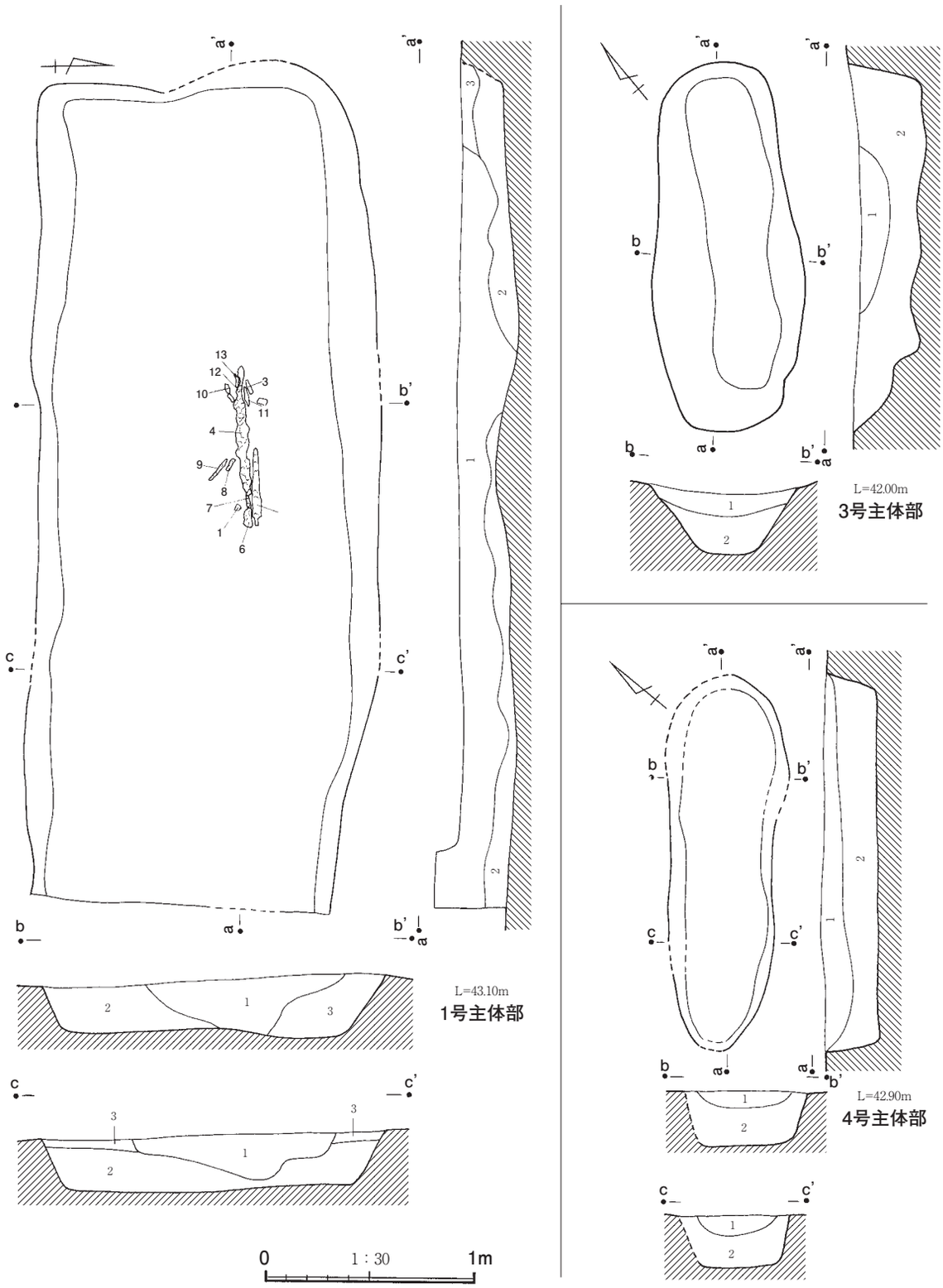
遺構：第90～92図　　遺物：第97・100図

検出区	98- B 調査区		**墳形**	円墳	1号主体部　長軸　短軸　深さ
周溝規模	外周	長軸　短軸　深さ 22×21×0.47m	**墳丘規模**	長軸　短軸　高さ 17.3×17.2×1.9m	**形態**：　木棺直葬　(3.93)×1.64×0.23m
	幅	2m			2号主体部　長軸　短軸　深さ
方位	N－　90°　－W		**付属施設**	主体部5箇所	**形態**：　木棺直葬　2.3×1×0.32m
時代	古墳　**時期**　後期		**切合関係**		3号主体部　長軸　短軸　深さ **形態**：　木棺直葬　1.78×0.71×0.29m
遺構の状況	周溝の北東側が広がる。すぐ東側に現代の地道があることから、その造営時に破壊された可能性がある。墳丘は比較的良好に残存し、上部から1号主体部と4号主体部が検出された。これらは、掘り込み面に若干の相違があるようなので（4号主体部が新しい？）、時期差が存在する可能性がある。2・3号主体部は周溝内埋葬で、本古墳の追葬主体部の可能性がある。				4号主体部　長軸　短軸　深さ **形態**：　木棺直葬　1.82×0.49×0.26m
					5号主体部　長軸　短軸　深さ **形態**：　木棺直葬　2.76×1.38×0.48m
遺物の状況	第97図4古-1の須恵器杯身はほぼ完形品で、陶邑編年のTK10の古手に相当すると考えられる。この土器は周溝内で出土したが、本古墳の造営時期に近い時期の混入と考えられるので、およそ6世紀中頃に比定できよう。1号主体部からまとまって鉄器が出土している。刀と短刀、刀子などが出土した。				**3号主体部**　周溝内北西部で検出。2号主体部と縦列する。長楕円形を呈し、覆土も特徴はない。遺物も出土しなかった。
1号主体部	墳丘のほぼ中央部にある。主軸はほぼ東西を向く。東端を調査区割り時に誤って破壊してしまった。規模は本古墳の主体部の中では最大である。覆土に際だった特徴はなく、通例の木棺直葬と考えられる。 刀・短刀・刀子・鉄鏃（短頸鏃･長頸鏃）が出土。	**2号主体部**	周溝内北西部で検出。3号主体部と縦列する。長楕円形を呈し、覆土も特徴はない。遺物も出土しなかった。		**4号主体部**　墳丘内、1号主体部の南東約4m離れて検出された。2・3号主体部よりも堀方が箱形を呈し、1号主体部とよく似た形状である。規模は小さく長楕円形である。遺物は第100図-8の用途不明の楕円形鉄板のみである。
					5号主体部　地山からの深さは深い。周溝外南部で検出された墓壙である。層序的に木棺が埋置されていた可能性が高い。粘土などの特徴的なものはない。遺物も出土しなかった。
備考	4号主体部出土の鉄板は鉄挺ではない。				

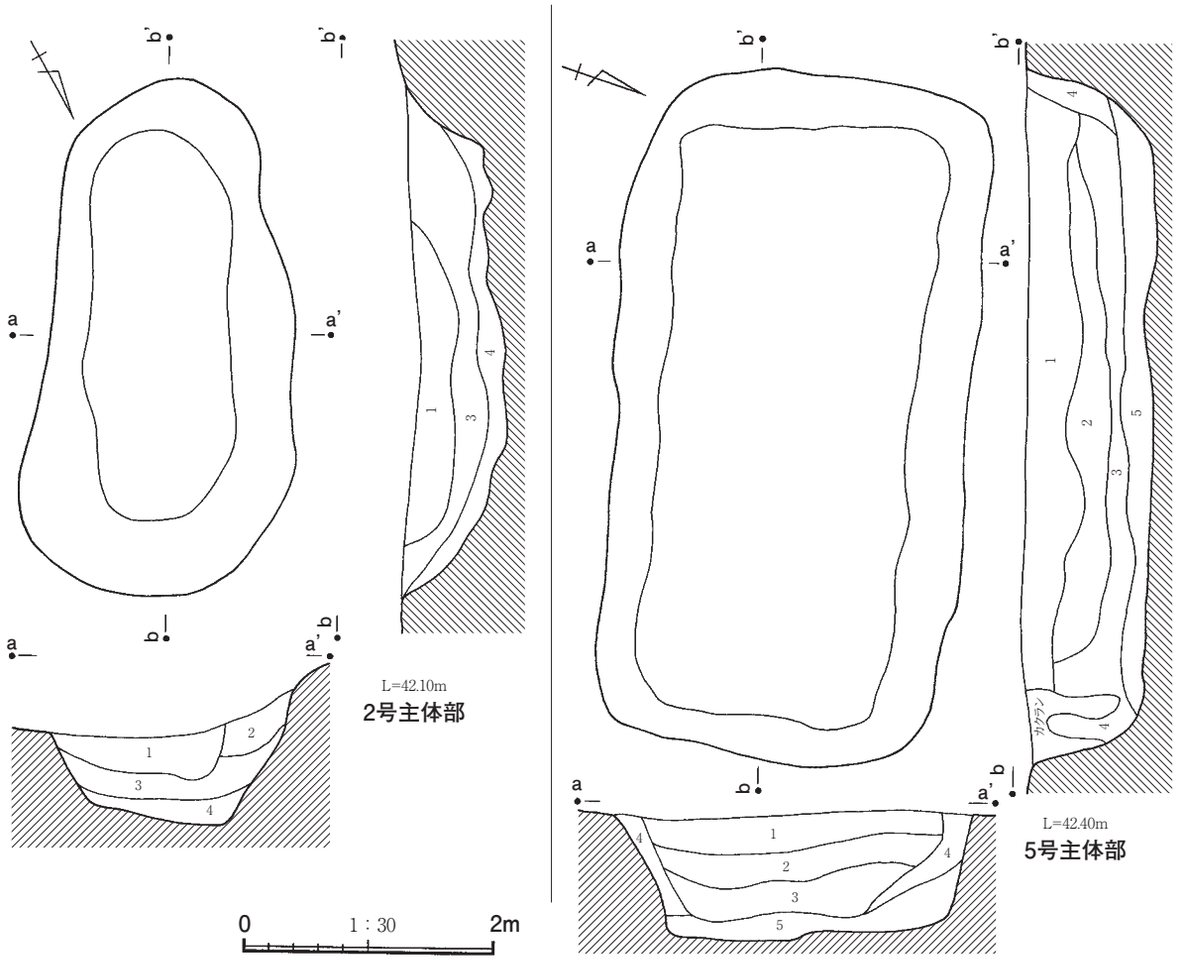
4古
Ⅰ 表土
Ⅱ 7.5YR 3/2 黒褐
Ⅲ 10YR 4/4 褐　新期テフラ入る？
Ⅳ 10YR 4/6 褐　ソフトローム
1 7.5YR 4/3 褐
2 7.5YR 3/1 黒褐
3 7.5YR 4/6 褐　黒褐色土ブロックまざる
4 7.5YR 4/4 褐　褐色土・黒褐色土まざる
5 7.5YR 2/1 黒
6 7.5YR 1.7/1 黒　旧表土か？
7 7.5YR 2/1 黒
8 7.5YR 3/4 暗褐
9 7.5YR 2/3 極暗褐



第90図　大草台古墳群 4 号古墳



第91図　大草台古墳群４号古墳１・３・４号主体部



第92図　大草台古墳群 4 号古墳 2 ・ 5 号主体部

4古
1主
1　10YR 2/1 黒　　白色粘土ブロックを含む
2　7.5YR 4/3 褐　　ロームブロックを斑状に含む
3　7.5YR 2/1 黒

3主
1　7.5YR 3/1 黒褐　　ローム粒・ロームブロックを多く含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　　ローム粒・ロームブロックを多く含む

4主
1　7.5YR 3/3 暗褐　　ローム粒をわずかに含む
2　7.5YR 2/1 黒

2主
1　7.5YR 3/1 黒褐　　ローム粒・ロームブロックを多く含む
2　7.5YR 3/1 黒褐　　ローム粒・ロームブロックを多く含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　　ローム粒を多く含む
4　7.5YR 4/3 褐　　ロームブロックを多く含む

5主
1　7.5YR 3/3 暗褐　　ロームブロックを斑状に含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　　ロームブロック・黒色土ブロックを斑状に含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　　ロームブロック・黒色土ブロックを含む
4　7.5YR 3/4 暗褐　　ローム粒をまばらに含む
5　7.5YR 3/3 暗褐　　ローム粒・ロームブロック・黒色土ブロックを含む

5 号古墳

遺構：第93図　　遺物：ー

検出区	98- A 調査区	**墳形**	円墳	**遺構の状況**	主体部は、中世以降の土壙２基によって破壊されている。鉄刀の破片が攪乱から出土しており、他の古墳同様６世紀代後半の造営と推定できる。南東部に土坑列が並んでおり、周溝が完全に破壊されている。本古墳周辺では追葬墓壙は全く検出されなかった。
周溝規模 外周	長軸　短軸　深さ 25.2×25.12×0.5m	**墳丘規模**	長軸　短軸　高さ 19.5×19.5×2.3m		
周溝規模 幅	4m				
方位	N－　？°　－W	**付属施設**	主体部破壊？		
時代	**時期**	**切合関係**	土坑列		
遺物の状況	土器は全く出土していない。盛土内の攪乱から鉄刀の破片が微量出土したのみである。				
備考	中近世に再利用されている。				

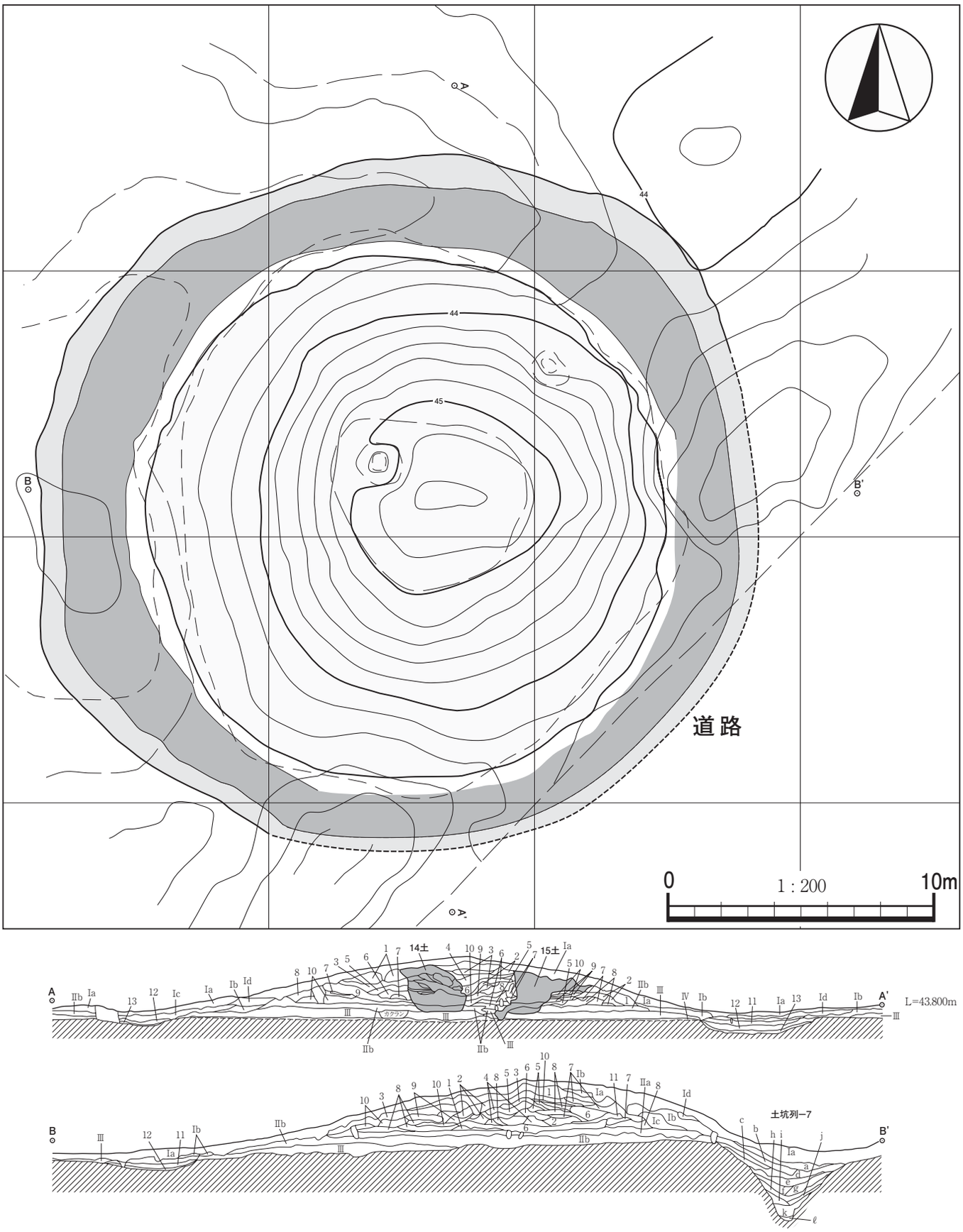
5古

Ⅰa　表土
Ⅰb　7.5YR 3/2 黒褐色　粘性 なし　しまり なし　ローム粒を多く含む　１号土壙列掘下げ際の廃土を盛土したものと考えられる
Ⅰc　7.5YR 3/1 黒褐色　〃　〃　〃　〃　ローム粒を多く含む
Ⅰd　7.5YR 4/4 褐色　〃　〃　〃　〃
Ⅱa　7.5YR 2/1 黒色　〃　〃　〃　弱　焼土粒（φ0.1～0.2mm）、焼土ブロック（φ4～5cm）
Ⅱb　7.5YR 2/1 黒色　〃　強　〃　強　焼土粒（φ0.1～0.2mm）をわずかに含む
Ⅲ　7.5YR 4/3 褐色　〃　やや強　〃　〃　黒色粒（φ0.1～0.2mm）をわずかに含む
Ⅳ　7.5YR 5/6 明褐色　〃　強　〃　〃　ソフトローム層
1　7.5YR 4/4 褐色　粘性 なし　しまり　強　ローム粒を多く含む
2　7.5YR 3/3 暗褐色　〃　〃　〃　〃　ロームブロックと褐色土が混り合う
3　7.5YR 3/4 暗褐色　〃　〃　〃　〃　ロームブロック、黒色土ブロック、褐色土が混り合う
4　7.5YR 3/2 黒褐色　〃　〃　〃　〃　ロームブロックと黒色土が混り合う
5　7.5YR 4/4 褐色　〃　弱　〃　〃　褐色土主体、ロームブロックと黒色土ブロックが混り合う
6　7.5YR 4/3 褐色　〃　〃　〃　〃　褐色土主体、ロームブロックがまばらに含む
7　7.5YR 2/1 黒色　〃　やや弱　〃　やや強　ローム粒をわずかに含む
8　7.5YR 3/3 暗褐色　〃　〃　〃　強　褐色土主体、ロームブロック、黒色土ブロックが混り合う
9　7.5YR 3/3 暗褐色　〃　弱　〃　やや強　ロームブロックと褐色土が混り合う
10 7.5YR 3/2 黒褐色　〃　〃　〃　〃　ロームブロックと黒色土をまばらに含む
11 7.5YR 3/2 黒褐色　〃　弱　〃　強　ロームブ粒をまばらに含む
12 7.5YR 3/3 暗褐色　〃　〃　〃　〃　ロームブ粒を多く含む
13 7.5YR 4/6 褐色　〃　強　〃　〃　ロームブロック（φ3～5m）を多く含む

9 号古墳

遺構：ー　　遺物：ー

検出区	99- A 調査区	**墳形**	円墳	**遺構の状況**	南西部の周溝が一部が検出されているにすぎない。周溝は、0.5m前後と比較的浅い。保存協定により墳頂部の調査は実施していない。主体部の有無は不明である。現況での古墳高は約1.6mである。周溝の南西部に陸橋？がある可能性が高い。
周溝規模 外周	長軸　短軸　深さ 20×20×0.3m	**墳丘規模**	長軸　短軸　高さ 16×15×1.6m		
周溝規模 幅	2.6m				
方位	N－　？°　－W	**付属施設**	不明		
時代	古墳　**時期**　後期？	**切合関係**			
備考					



第93図　大草台古墳群 5 号古墳

7号古墳

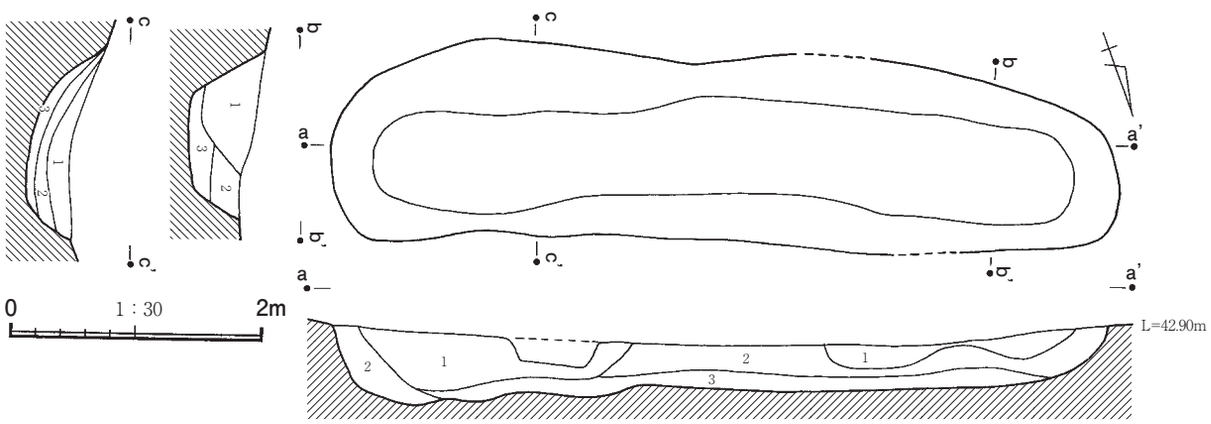
遺構：第94・95図　　遺物：第96図

検出区	99- B 調査区		墳形	円墳	1号主体部　長軸　短軸　深さ 形態：　木棺直葬　3.2×0.7×0.18m
周溝規模	外周	長軸　短軸　深さ 24×22.4×0.3m	墳丘規模	長軸　短軸　高さ 14.7×14.5×1.4m	1号主体部：周溝の南西部で検出された。層序的には特徴はない。遺物はない。
	幅	4m			
方位	N－　？°　－W		付属施設	主体部1箇所	
時代	古墳	時期　後期	切合関係	17土・21土	

遺構の状況：墳丘規模に対して周溝幅がやや広い感がある。周溝外周肩は部分的に削平されている可能性がある。周溝の深さも比較的浅い。墳丘はやや低く、主体部が検出されなかったことから本来的な高さに比べかなり削平されている可能性が高い。

遺物の状況：第96図7古-1･2は周溝内出土である。土師器杯の形状から6世紀後半～7世紀前半に比定できる。墳丘盛土出土の甕の破片と21土出土の破片が接合した。場合によっては21号土壙も主体部である可能性も考えられる。

備考：



第94図　大草台古墳群7号古墳1号主体部

7古
1主
1　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒を多く含む
2　7.5YR 3/2 暗褐　ロームブロックをまだらに含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックをまだらに含む

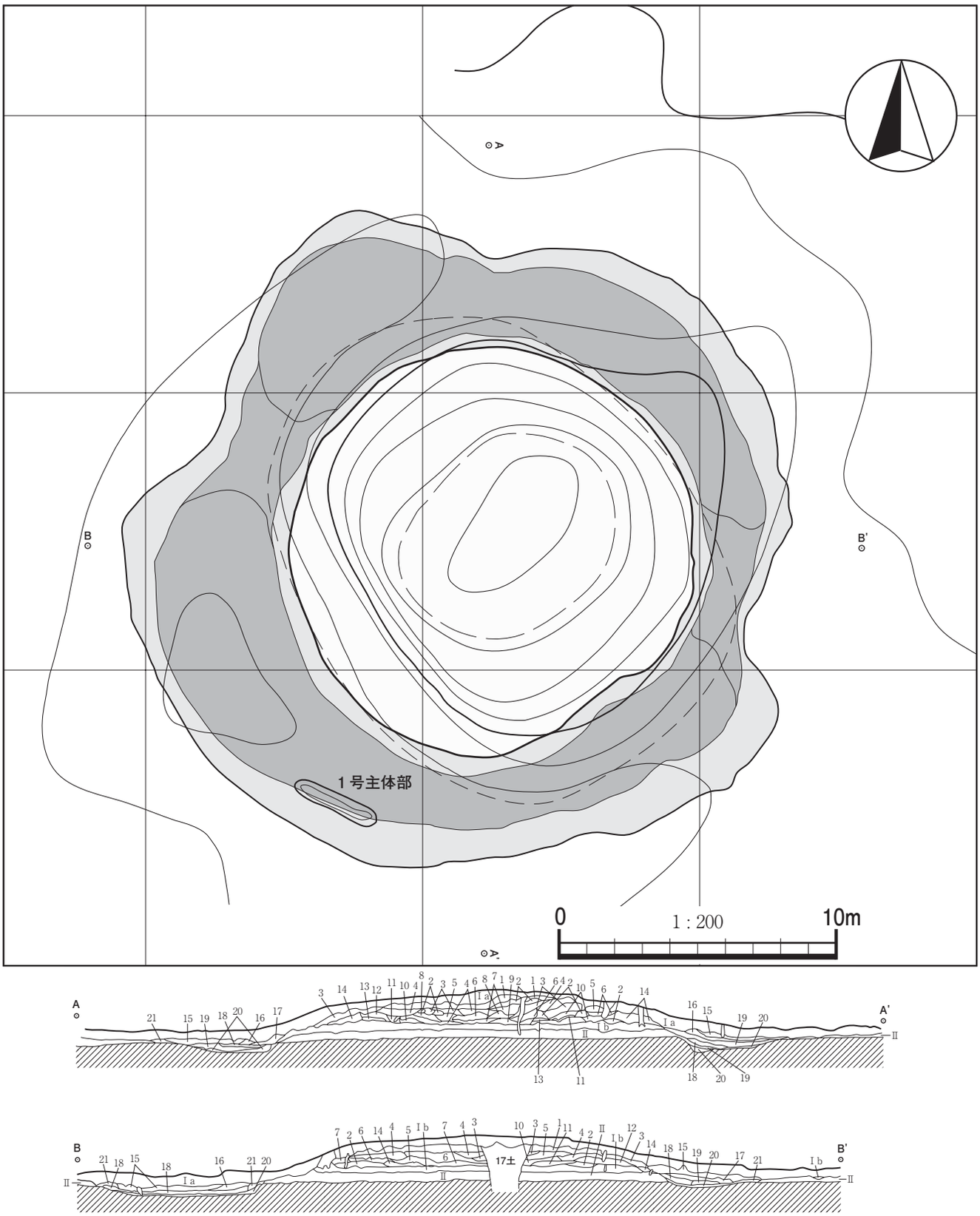
Ⅰa　現表土
Ⅰb
Ⅱ

墳丘

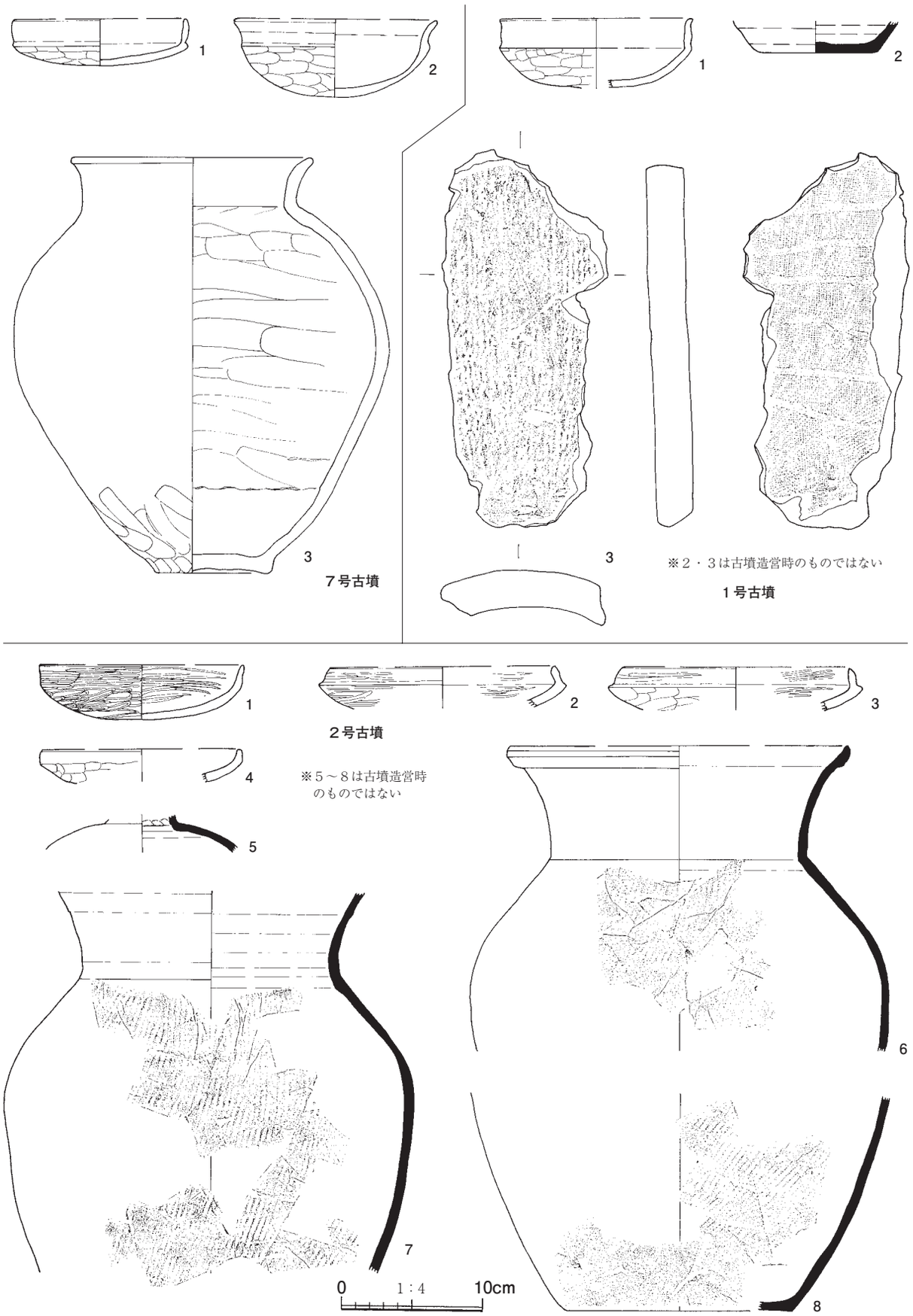
1	7.5YR 3/3 暗褐色	粘性　弱	しまりやや弱	φ5～6cmのロームブロックをまばらに混じる
2	7.5YR 2/1 黒色	〃　やや弱	しまりやや強	φ1～2mmのローム粒をまばらに混じる
3	7.5YR 3/3 暗褐色	〃　〃	〃　〃	φ1～2mmのローム粒を多く含む
4	7.5YR 3/3 暗褐色	〃　やや強	〃　〃	φ5～6cmのロームブロックを多く含む
5	7.5YR 3/4 暗褐色	〃　やや弱	〃　〃	φ5～6cmのロームブロックを多く含み、斑状を呈す
6	7.5YR 3/4 暗褐色	〃　やや強	〃　〃	φ7～8cmのロームブロックを多く含み、斑状を呈す
7	7.5YR 3/4 暗褐色	〃　〃	〃　〃	φ1～2cmのロームブロック、黒色土ブロックを多く含み、斑状を呈す
8	7.5YR 3/4 暗褐色	〃　弱	〃　強	φ2～3cmのロームブロック、黒色土ブロックを多く含み、斑状を呈す
9	7.5YR 4/3 褐色	〃　〃	〃　〃	φ5～6cmのロームブロックを主体とし、φ1～2cmの暗褐色ブロック、黒色土ブロックを多く含み、斑状を呈す
10	7.5YR 3/3 暗褐色	〃　やや強	〃　〃	φ2～3mmのローム粒、黒色粒を多く含む
11	7.5YR 3/3 暗褐色	〃　弱	〃　〃	φ1～2mmのローム粒、黒色粒を多く含む
12	7.5YR 4/3 褐色	〃　〃	〃　弱	φ1～2mmのローム粒、黒色粒をまばらに含む
13	7.5YR 3/3 暗褐色	〃　〃	〃　〃	φ1～2mmのローム粒、黒色粒をまばらに含む
14	7.5YR 3/3 暗褐色	〃　なし	〃　〃	φ1～2mmのローム粒、黒色粒をまばらに含み、木根が多く入る

周溝

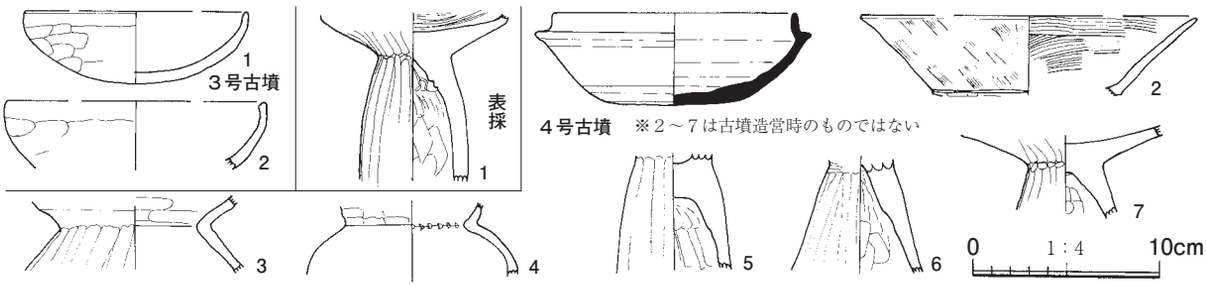
15	S1 7.5YR 3/1 黒褐色	粘性　弱	しまりやや弱	φ1～2mmのローム粒をまばらに含む
16	S2 7.5YR 3/1 黒褐色	〃　〃	〃　〃	φ1～2mmのローム粒をわずかに含む
17	S3 7.5YR 3/1 黒褐色	〃　〃	〃　弱	φ1～2mmのローム粒をわずかに含む
18	S4 7.5YR 2/1 黒色	〃　やや弱	〃　やや強	φ1～2mmのローム粒をまばらに含む
19	S5 7.5YR 2/1 黒色	〃　やや強	〃　〃	φ1～2mmのロームブロックをわずかに含む
20	S6 7.5YR 3/2 黒褐色	〃　〃	〃　〃	φ1～2mmのローム粒を多く含む
21	S7 7.5YR 3/2 黒褐色	〃　弱	〃　弱	φ1～2mmのローム粒を多く含む



第95図　大草台古墳群 7 号古墳



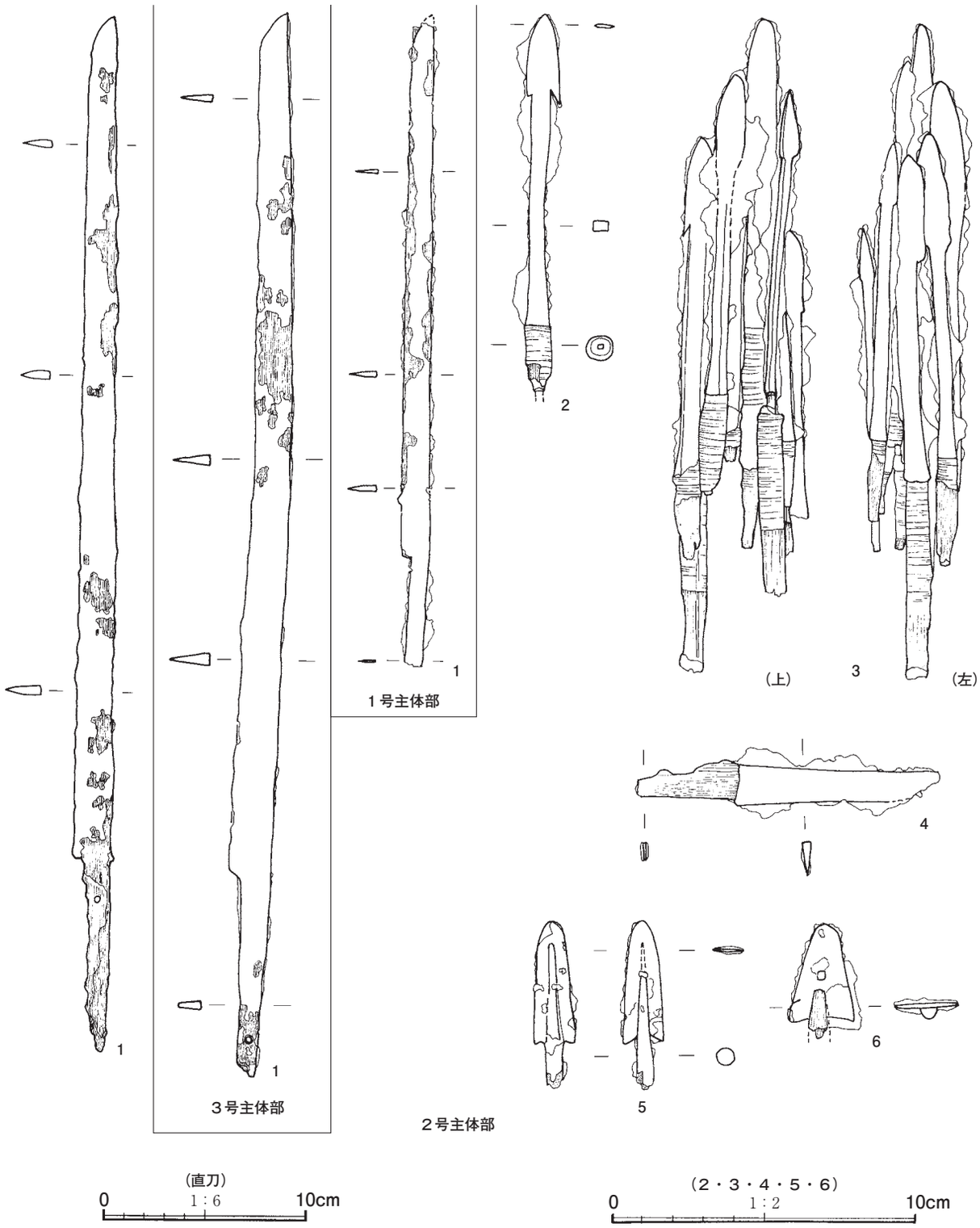
第96図　大草台古墳群1・2・7号古墳出土遺物



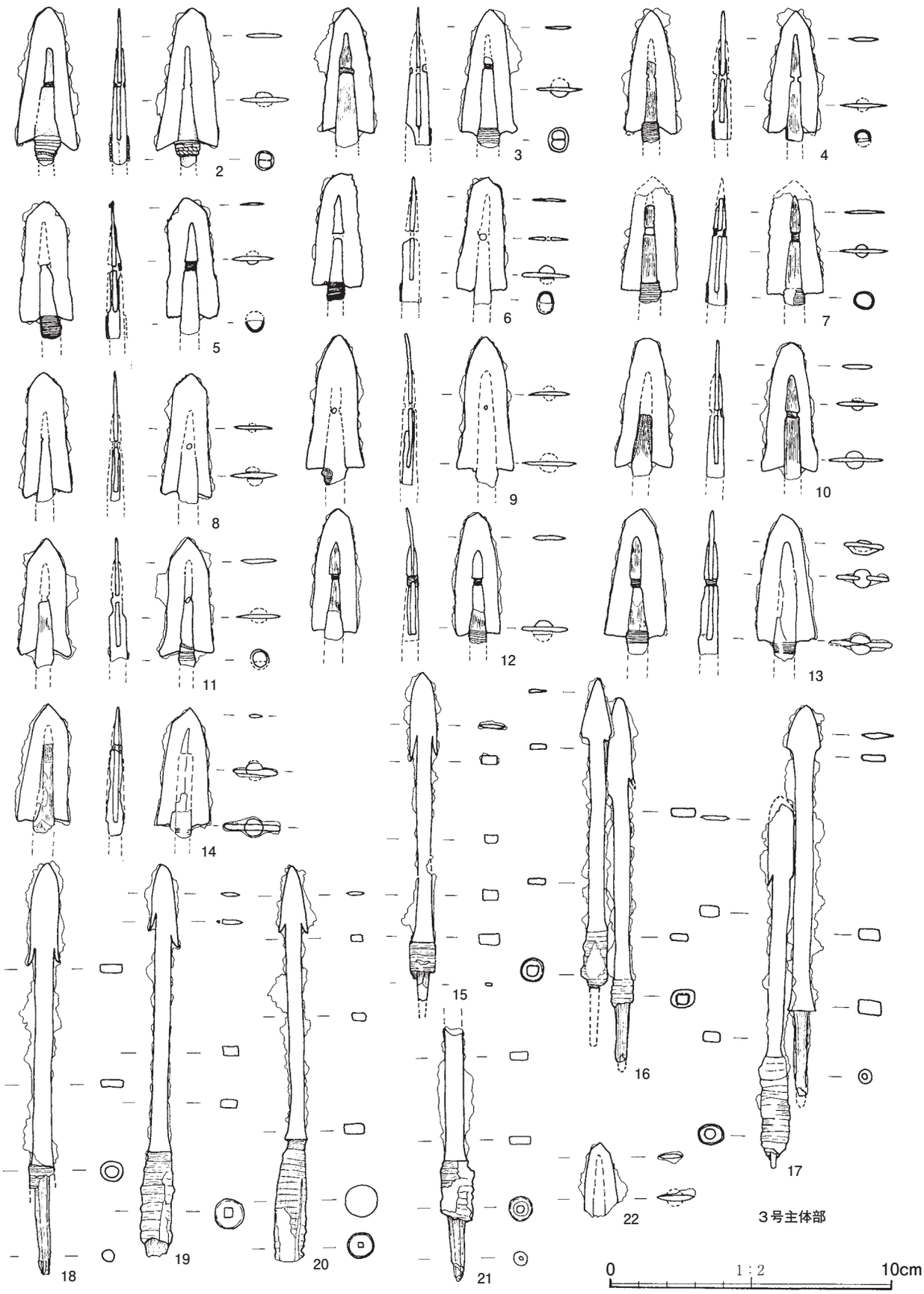
第97図　大草台古墳群３・４号古墳出土遺物

第24表　大草台古墳群出土の鉄製品計測値一覧

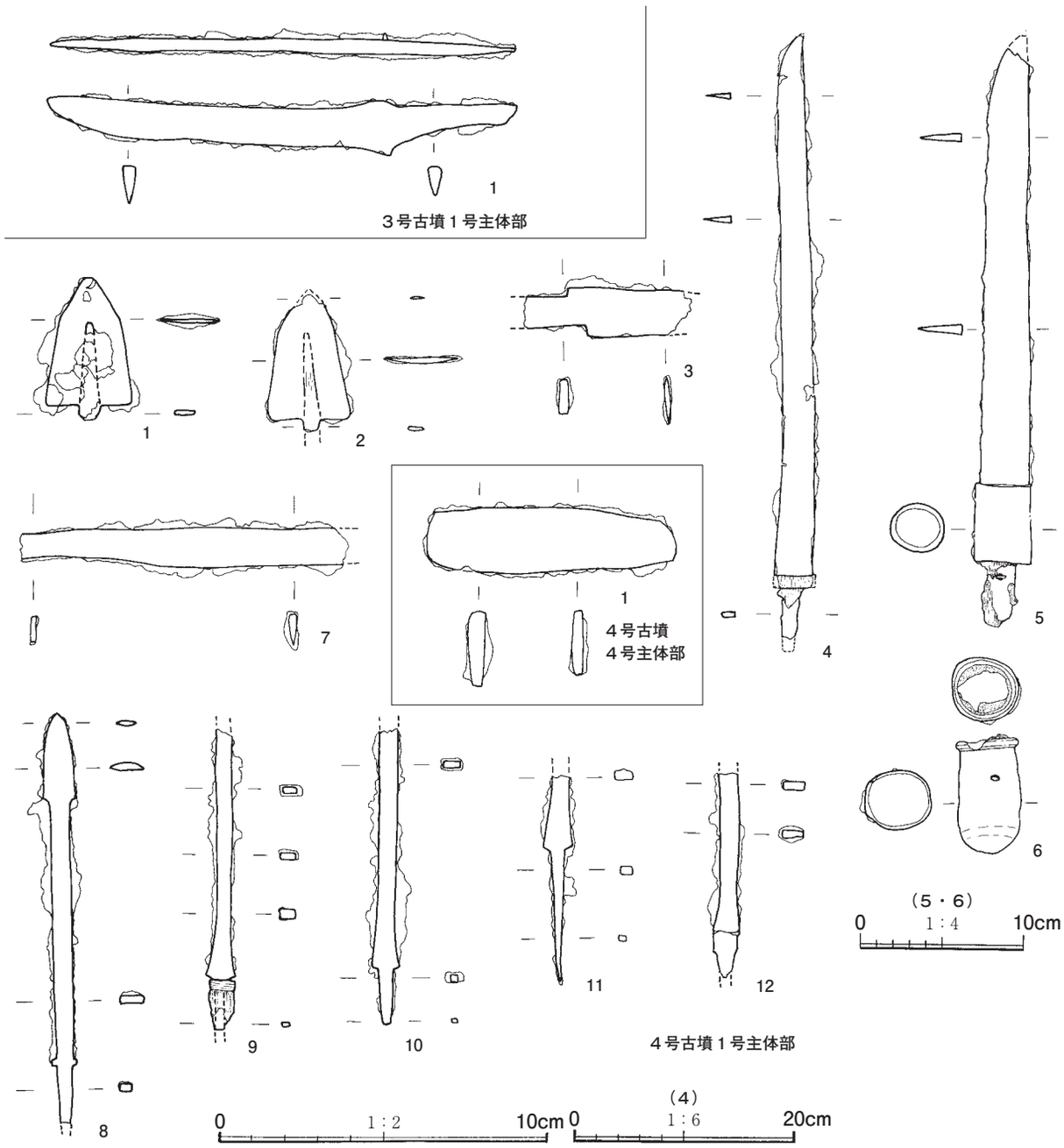
挿図No.		遺構名	種類	時代	時期	法量（cm・g） 長軸	短軸	厚み	注記・取上No.		備考	
第98図	1主 1	1古	直刀	古墳	後期	64.30	2.75	0.65	1主		30～49cmの2片で1個体	
									1主		木質部主体	
第98図	2主 1	1古	直刀	古墳	後期	102.80	3.45	0.80	2主			
第98図	2主 2	1古	鉄鏃	古墳	後期	10.50	0.50	0.40	2主	7	取上No.7と再接合できずに別番号に	
第98図	2主 3	1古	鉄鏃	古墳	後期	22.0 (平均17cm)	4.4 (平均0.5cm)	平均 0.2	2主	1	長頸鏃の中茎部・木質部	
		1古	鉄鏃	古墳	後期				2主	2	長頸鏃の中茎部・木質部	
		1古	鉄鏃	古墳	後期				2主	3	長頸鏃の中茎部・木質部	
		1古	鉄鏃	古墳	後期				2主	4	長頸鏃の鏃身	
		1古	鉄鏃	古墳	後期				2主	5	長頸鏃の頚部	
		1古	鉄鏃	古墳	後期	※束全体の数値 全部で9本の長頸鏃			2主	6	長頸鏃の中茎部・木質部	
		1古	鉄鏃	古墳	後期				2主	7	長頸鏃12本の束・木質部・繊維	
		1古	鉄鏃	古墳	後期				2主	9	長頸鏃の頚部	
		1古	鉄鏃	古墳	後期				2主	10	長頸鏃の中茎部・木質部	
第98図	2主 4	1古	鉄鏃	古墳	後期	(10.10)	(6.10)	0.30	2主			
第98図	2主 5	1古	鉄鏃	古墳	後期	5.60	1.25	0.20	2主	8	直刀に付着	
第98図	2主 6	1古	鉄鏃	古墳	後期	3.10	2.30	0.40	2主		無頸鏃？鏃身	
第98図	3主 1	1古	直刀	古墳	後期	105.00	3.80	3.80	3主			
第99図	3主 2	1古	鉄鏃	古墳	後期	5.10	2.30	0.20	3主	①	直刀に付着？	
第99図	3主 3	1古	鉄鏃	古墳	後期	5.00	1.90	0.15	3主	②	直刀に付着？	
第99図	3主 4	1古	鉄鏃	古墳	後期	4.40	1.90	0.15	3主	③	直刀に付着？	
第99図	3主 5	1古	鉄鏃	古墳	後期	4.10	1.90	0.18	3主	④	直刀に付着？	
第99図	3主 6	1古	鉄鏃	古墳	後期	3.90	1.75	0.18	3主	⑤	直刀に付着？	
第99図	3主 7	1古	鉄鏃	古墳	後期	4.10	2.10	0.15	3主	⑥	直刀に付着？	
第99図	3主 8	1古	鉄鏃	古墳	後期	4.50	1.80	0.15	3主	⑦	直刀に付着？	
第99図	3主 9	1古	鉄鏃	古墳	後期	4.70	2.10	0.20	3主	⑧	直刀に付着？	
第99図	3主 10	1古	鉄鏃	古墳	後期	4.50	2.00	0.20	3主	⑨	直刀に付着？	
第99図	3主 11	1古	鉄鏃	古墳	後期	4.30	2.00	0.15	3主	⑩	直刀に付着？	
第99図	3主 12	1古	鉄鏃	古墳	後期	4.50	1.60	0.30	3主	⑪	直刀に付着・写真有り	
第99図	3主 13	1古	鉄鏃	古墳	後期	4.60	2.10	0.40	3主	⑫	直刀に付着・写真有り	
第99図	3主 14	1古	鉄鏃	古墳	後期	4.30	2.00	0.30	3主	⑬	直刀に付着・写真有り	
第99図	3主 15	1古	鉄鏃	古墳	後期	11.70	0.50	0.30	3主	2	長頸鏃の中茎部・木質部	
			鉄鏃	古墳	後期				3主	3	長頸鏃の鏃身	
第99図	3主 16	1古	鉄鏃	古墳	後期	13.10	0.60	0.40	3主	12	長頸鏃の頚部～中茎部・木質部	
			鉄鏃	古墳	後期	11.10	0.60	0.40	3主	13	長頸鏃の鏃身（2本）	
第99図	3主 17	1古	鉄鏃	古墳	後期	14.00	0.80	0.50	3主	14	長頸鏃の中茎部・木質部	
			鉄鏃	古墳	後期	13.00	0.80	0.40	3主	15	長頸鏃の鏃身部～中茎部・木質部（2本）	
第99図	3主 18	1古	鉄鏃	古墳	後期	14.80	0.80	0.30	3主	9	長頸鏃の中茎部・木質部	
			鉄鏃	古墳	後期				3主	10	長頸鏃の頚部	
			鉄鏃	古墳	後期				3主	11	長頸鏃の鏃身	
第99図	3主 19	1古	鉄鏃	古墳	後期	14.00	0.65	0.30	3主	17	長頸鏃の中茎部・木質部	
第99図	3主 20	1古	鉄鏃	古墳	後期	14.20	0.70	0.40	3主	16	長頸鏃の鏃身部～中茎部・木質部（2本）	
第99図	3主 21	1古	鉄鏃	古墳	後期	9.10	0.80	0.30	3主	4	長頸鏃の頚部～中茎部・木質部	
第99図	3主 22	1古	鉄鏃	古墳	後期	2.60	1.20	0.25	3主	1	無頸鏃？鏃身一部	
		1古	鉄鏃	古墳	後期	－	－	－	3主	5	長頸鏃の中茎部・木質部	細片未掲載
		1古	鉄鏃	古墳	後期	－	－	－	3主	6	長頸鏃の中茎部・木質部	細片未掲載
		1古	鉄鏃	古墳	後期	－	－	－	3主	7	長頸鏃の中茎部・木質部	細片未掲載
		1古	鉄鏃	古墳	後期	－	－	－	3主	8	長頸鏃の中茎部・木質部	細片未掲載
第100図	1主 1	3古	刀子	古墳	後期	14.40	1.40	0.40	主	1		
第100図	1主 1	4古	鉄鏃	古墳	後期	4.10	2.55	0.15	1主	3	有頸鏃の鏃身のみ	
第100図	1主 2	4古	鉄鏃	古墳	後期	3.90	2.50	0.15	1主		有頸鏃1点と長頸鏃鏃身3点	
第100図	1主 3	4古	刀子	古墳	後期	(5.10)	1.50	0.25	1主	4	刀子？	
第100図	1主 4	4古	直刀	古墳	後期	56.20	2.70	0.55	1主		13と同一個体・とても脆い	
		4古	直刀	古墳	後期				1主	13		
第100図	1主 5	4古	直刀	古墳	後期	35.20	2.70	0.55	1主	9	短刀	
第100図	1主 6	4古	柄頭	古墳	後期	7.00	0.44	0.20	1主	10	短刀の束頭	
第100図	1主 7	4古	刀子	古墳	後期	(10.00)	0.90	0.20	4主	12		
第100図	1主 8	4古	鉄鏃	古墳	後期	12.40	0.70	0.40	1主	2	長頸鏃の鏃身部～中茎部	
第100図	1主 9	4古	鉄鏃	古墳	後期	(9.20)	0.58	0.35	1主	6	長頸鏃の頚部～中茎部・木質部	
第100図	1主 10	4古	鉄鏃	古墳	後期	(8.90)	0.57	0.30	1主	8	長頸鏃の頚部～中茎部・木質部	
第100図	1主 11	4古	鉄鏃	古墳	後期	(6.40)	0.40	0.25	1主	7	長頸鏃の頚部～中茎部・木質部	
第100図	1主 12	4古	鉄鏃	古墳	後期	(6.30)	0.70	0.30	1主	5	長頸鏃の頚部～中茎部・木質部	
		4古	鉄鏃	古墳	後期	－	－	－	1主	1	長頸鏃の中茎部・木質部	細片未掲載
第100図	4主 8	4古	？	古墳	後期	6.70	2.00	0.40	1主	1	平面楕円形	
		4古	刀子	古墳	後期	－	－	－	1主	11		細片未掲載
		5古	直刀	古墳	後期	－	－	－			ベルト除去時	細片未掲載
		5古	直刀？	古墳	後期	－	－	－	一括		細片	細片未掲載
		7古	銭	古墳	後期	－	－	－	一括		「寛永通寶」	細片未掲載
		11土	銭	中世		－	－	－		2	1古墳丘内・「元豊通寶」	細片未掲載
		11土	銭	中世		－	－	－		3	1古墳丘内・「元豊通寶」	細片未掲載
		11土	銭	中世		－	－	－		4	1古墳丘内・「政和通寶」	細片未掲載
		11土	銭	中世		－	－	－		5	1古墳丘内・「熙寧元寶」（所在不明）	細片未掲載
		11土	銭	中世		－	－	－		6	1古墳丘内・「元祐通寶」	細片未掲載



第98図　大草台古墳群１号古墳出土鉄器①



第99図　大草台古墳群１号古墳出土鉄器②



第100図　大草台古墳群3・4号古墳出土鉄器

大草台古墳群出土の鉄鏃

大草台古墳群から出土した鉄鏃は、１・４号古墳出土の総数で43本ある。内訳は、１号古墳２号主体部で長頚鏃10本（第98図１古２主-２・３）・短頸または無頸鏃２本（第98図１古２主-５・６）、３号主体部長頚鏃９本（第99図１古３主-15～21)･短頸または無頸鏃14本（第99図１古３主-２～14･22)、４号古墳１号主体部で長頚鏃６本（第100図４古１主-８～12と未実測１本）・短頸鏃２本（第100図-１・２）である。

１号古墳２号主体部の長頚鏃は、主体部内の南壁寄り、直刀の東側に刃頭を東に向けて束となって出土した。取上もほぼ束状態で行えたので、保存処理をその束の状態のまま実施することとしたため、鉄鏃個々の形態を詳細に観察することはできていない。鏃身部で形状が把握できたものには、片腸抉長三角形台形関のものがあり、腸抉長三角形も含まれているようである。長頸部は7.5～８㎝前後あり、鏃身部は3.5㎝ 前後が主体である。鏃身部付近には織物片が付着しており、この鏃束が埋葬時に袋状の布で覆われていたと考えられる。茎部には木質部が残存し、接合部の樹皮紐が丁寧に巻かれているのが看取できる。織物と茎部残存の樹種の分析は残念ながら行えなかった。短頸または無頸鏃は、接合部に木質部が残存しているので短頸の有無は不明である。第98図-5は、腸抉長三角形鏃で本古墳群中最も鏃身幅が狭く小振りな短頸または無頸鏃である。同図-6は腸抉気味の三角形鏃で、厚みが薄く全体的に華奢な印象を受ける鏃である。３号主体部の長頚鏃は、主体部の南東隅のやや上層、木棺外と推定される位置で、刃頭を東に向けてまとまって出土した。第99図-15･18～20が腸抉長三角形台形関、同図16･17が長三角形角関・台形関で構成される。腸抉長三角形台形関の長頸部は7.5～８㎝前後、鏃身部は3.5㎝前後と2.5㎝前後のものがある。鏃身が短い方が刃部がとがる傾向がある。腸抉が左右で段違いになるものもある。短頸または無頸鏃は、棺床出土の直刀と一緒に出土した。刃頭は束頭方向つまり東側に向きである。13本全てが長三角形で腸抉関か角関である。大きさはほぼ揃っており、極端な大小はない。頸部には全て木質部が残存しており、具体的な形状は不明である。厚さは総じて薄く、鏃身ほぼ中央部に円形の孔があり、矢柄先端は２つに割れ、先細る先端付近に凹みを造り円孔部分で紐で固定している。頸部も細い紐で固定している。鏃身部の形状は長三角形と思われるが、一部に角が存在しそうなものもあり、そうなると長五角形となる。１号古墳の全ての鏃身刃部は両切刃(両丸)平造りで、長頚鏃頸部は長方形を呈するもののみである。関部には、棘状関のものはなく、角関か台形関のみである。長頚鏃で両丸造り、腸抉は浅く三角形が主体、平根系鏃・台形関・段違い腸抉関を含んでいるので、古墳時代後期の鉄鏃のパターンである。６世紀後半に一般的になる棘状関が１点も含まれないことから６世紀後半以前となる。埋葬時期は６世紀前半に比定できよう。

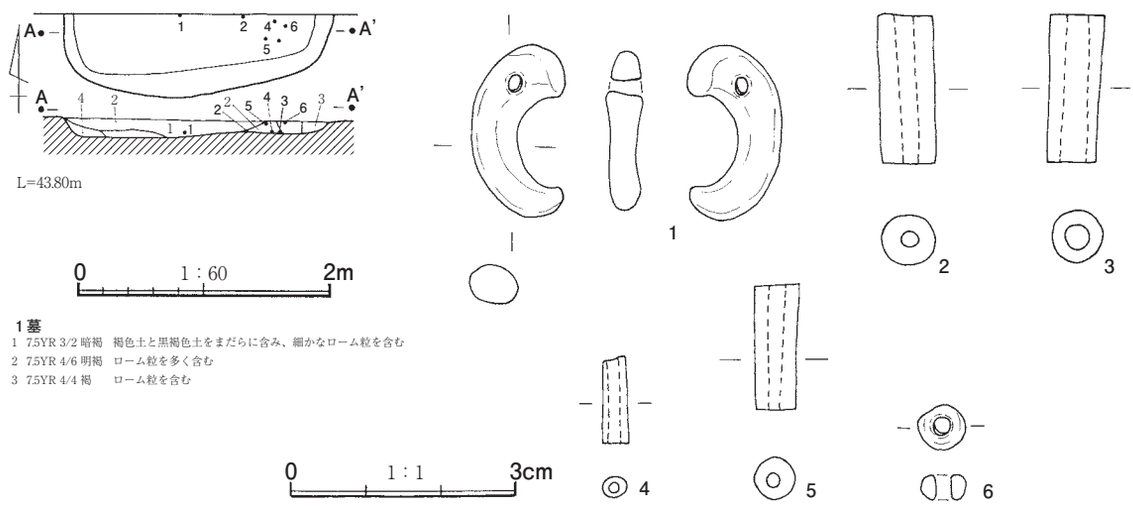
４号古墳の長頚鏃は、１点を除いて鏃身部がない。それらの関部はみな台形関である。残る１点は鏃身部ナデ関・長頸部下端が棘状関である。短頸鏃は、角関（平根）で両切刃平造りで薄い。棘状関・平根といった特徴から６世紀後半以降と推定される。

これらのことから、１号古墳の方が４号古墳よりも古いと推定できる。４号古墳周溝出土の須恵器がＴＫ10古相なので、鉄鏃との年代観に若干のづれが生じる点は問題だが、現状で鉄鏃編年が確立していないことから断定的に扱うことは難しい。今後、市域の後期古墳出土の鉄鏃の検討を踏まえて再検討することとしたい。

6　土壙墓

第25表　大草台古墳群検出の土壙墓

遺構No.	検出区	平面形	法量（m） 長辺（上端）	法量（m） 長辺（下端）	法量（m） 短辺（上端）	法量（m） 短辺（下端）	深さ	堀方断面形状	時代時期	特徴	挿図No. 遺構	挿図No. 遺物	旧名称	備考
1号	7G　35	隅丸長方形	2.16	1.92	?	?	0.15	浅碗形	古墳後期	北半分は破壊 勾玉・管玉・ガラス玉副葬	第101図	第101図	C25	古墳主体部？

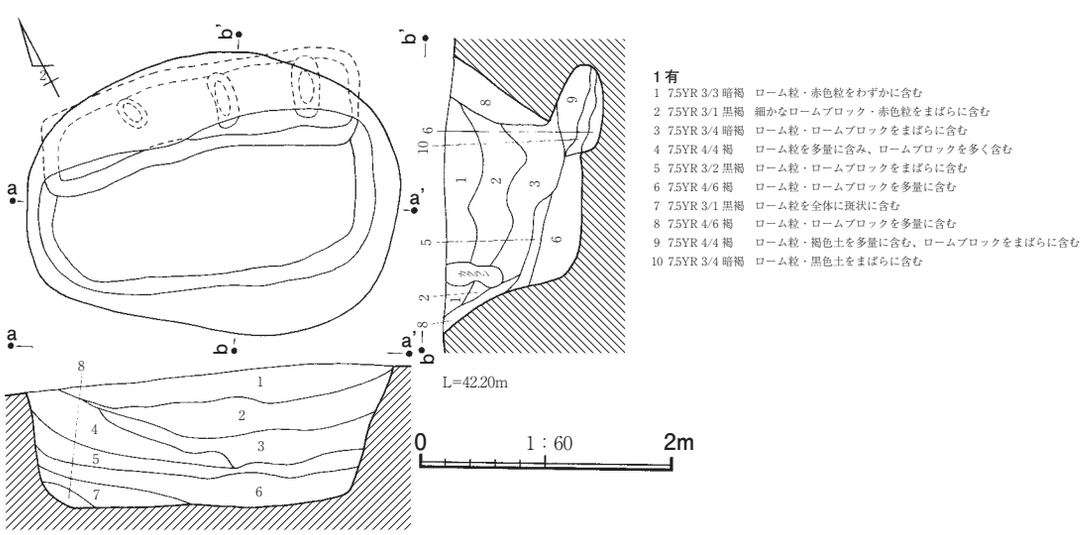


第101図　大草台古墳群土壙墓・出土遺物

7　有天井土壙

第26表　大草台古墳群検出の有天井土壙

遺構No.	検出区	上端平面形	法量（m） 長辺（上端）	法量（m） 長辺（下端）	法量（m） 短辺（上端）	法量（m） 短辺（下端）	法量（m） 深さ 上段	法量（m） 深さ 下段	底面状況	時代時期	特徴	挿図No. 遺構	挿図No. 遺物	旧名称	備考
1号	8E　96c	楕円形	1.51	1.06	1.15	0.25	0.54	0.62	3条の溝	奈良・平安？	天井部残存 下段は狭い	第102図	なし	C4	

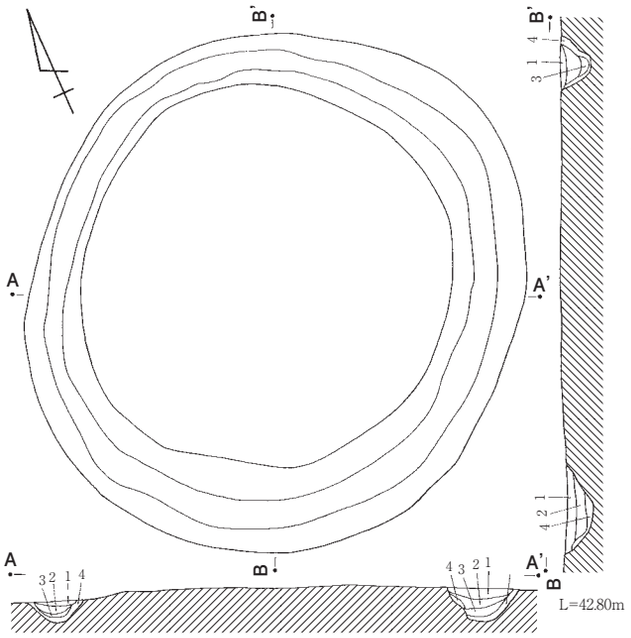


第102図　大草台古墳群有天井土壙

8　円形周溝状遺構

第27表　大草台古墳群検出の円形周溝状遺構

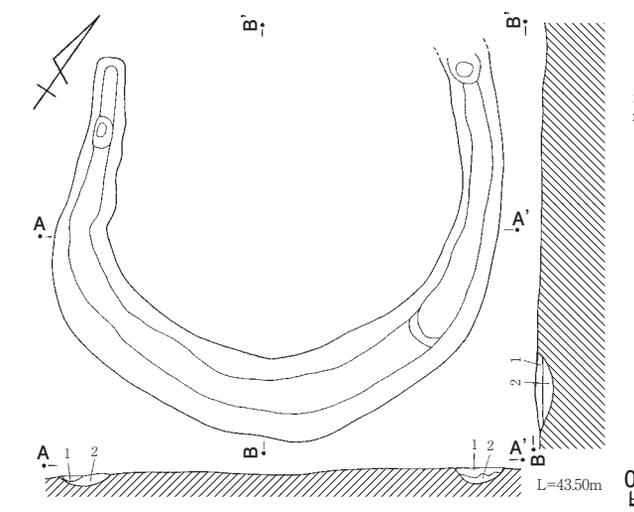
遺構No.	検出区	方位	法量（m）※軸長は外辺 長軸	短軸	溝幅	周溝深さ	周溝堀方断面形状	時代時期	挿図No. 遺構	遺物	備考
1号	8E　97b･d	N－　？°　－W	8.3（外周）	7.9	0.8	0.5	逆台形	古墳？後期？	第103図	第103図	
			6.12（内周）	5.9							
2号	7F　36a	N－　？°　－W	7.0	？	0.8	0.3	半円形	奈良？	第103図	－	周溝北側欠損
			4.6	？							



1円
1　7.5YR 3/3 暗褐　若干灰褐がかった色調、ローム粒がわずかにみられる
2　7.5YR 3/1 黒褐
3　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒をまばらに含む
4　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多量に含む

1号円形周溝状遺構

遺構の状況	墳丘盛土は完全に削平されている。主体部も検出されなかった。周溝断面は逆台形で、底面が明確に認識できる。
遺物の状況	周溝から完形の土師器杯とケズリ甕が出土。形状的に6世紀半ば頃か？
備考	

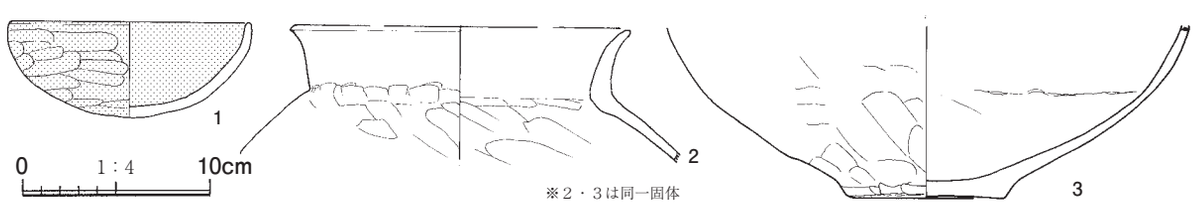


2円
1　7.5YR 3/1 黒褐
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・ロームブロックをまばらに含む

2号円形周溝状遺構

遺構の状況	盛土はなく、周溝断面は半円形である。周溝北側が欠損。
遺物の状況	遺物は出土しなかった。
備考	

0　1：120　4m

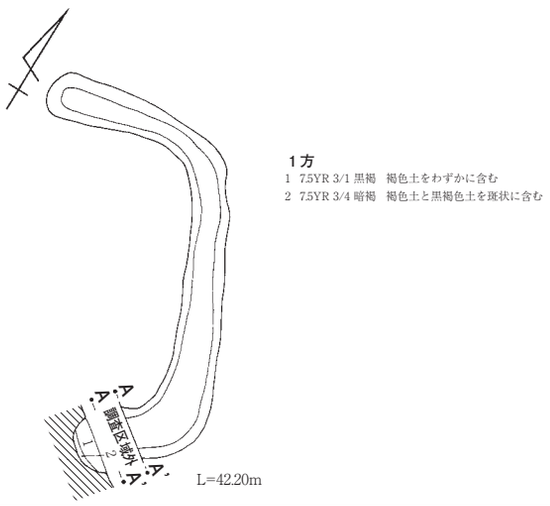


第103図　大草台古墳群1・2号円形周溝状遺構・1号円形周溝状遺構出土遺物

9　方形周溝状遺構

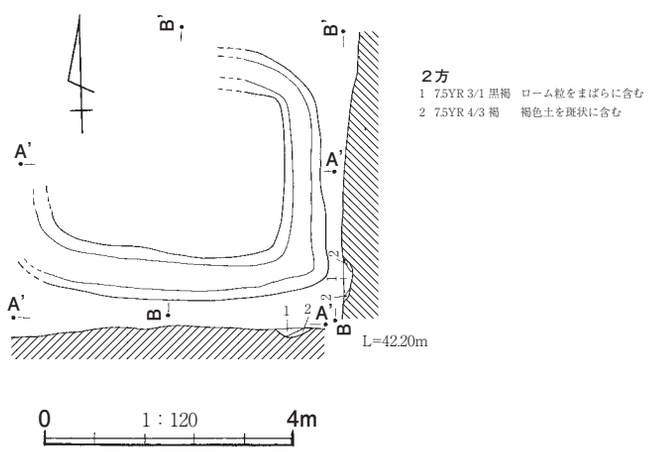
第28表　大草台古墳群方形周溝状遺構一覧

遺構No.	検出区	方位	法量（m）※軸長は外辺 長軸	短軸	溝幅	周溝深さ	周溝堀方断面形状	時代時期	挿図No. 遺構	遺物	備考
			（外周）								
			（内周）								
1号	8E　90d	N－　？°　－W	(6.0)	?	0.64	0.32	半円形	奈良？	第104図	－	周溝西半分欠損
			(4.4)	?							
2号	7E　90a	N－　？°　－W	(5.0)	4.1	0.6	0.18	半円形	奈良？	第104図	－	周溝北西隅欠損
			3.7	2.6							



1号方形周溝状遺構

遺構の状況	周溝西半分は欠損。周溝も浅い。平面形は方形と推測されるが不確実。盛土は残っていなかった。
遺物の状況	遺物は出土しなかった。
備考	



2号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面形は東西にやや長い方形を呈する。北西隅を欠損。周溝は浅い。
遺物の状況	遺物は出土しなかった。
備考	

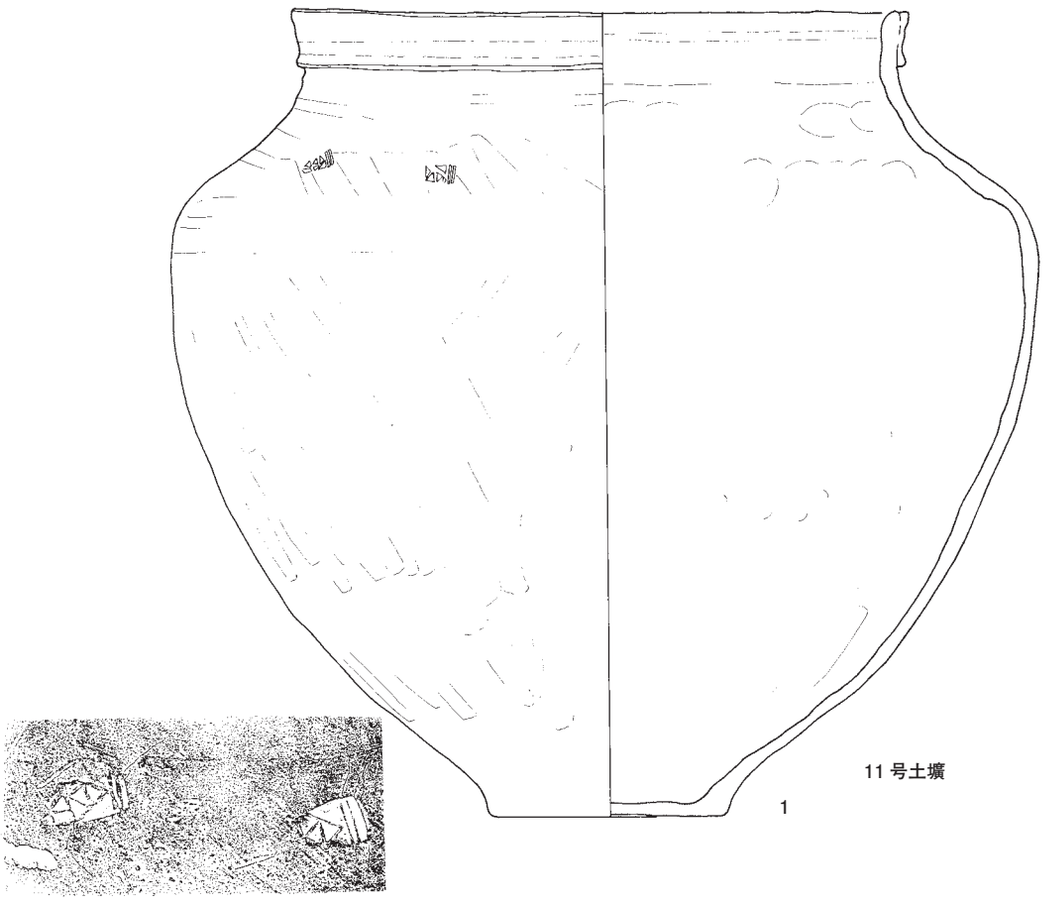
第104図　大草台古墳群1・2号方形周溝状遺構

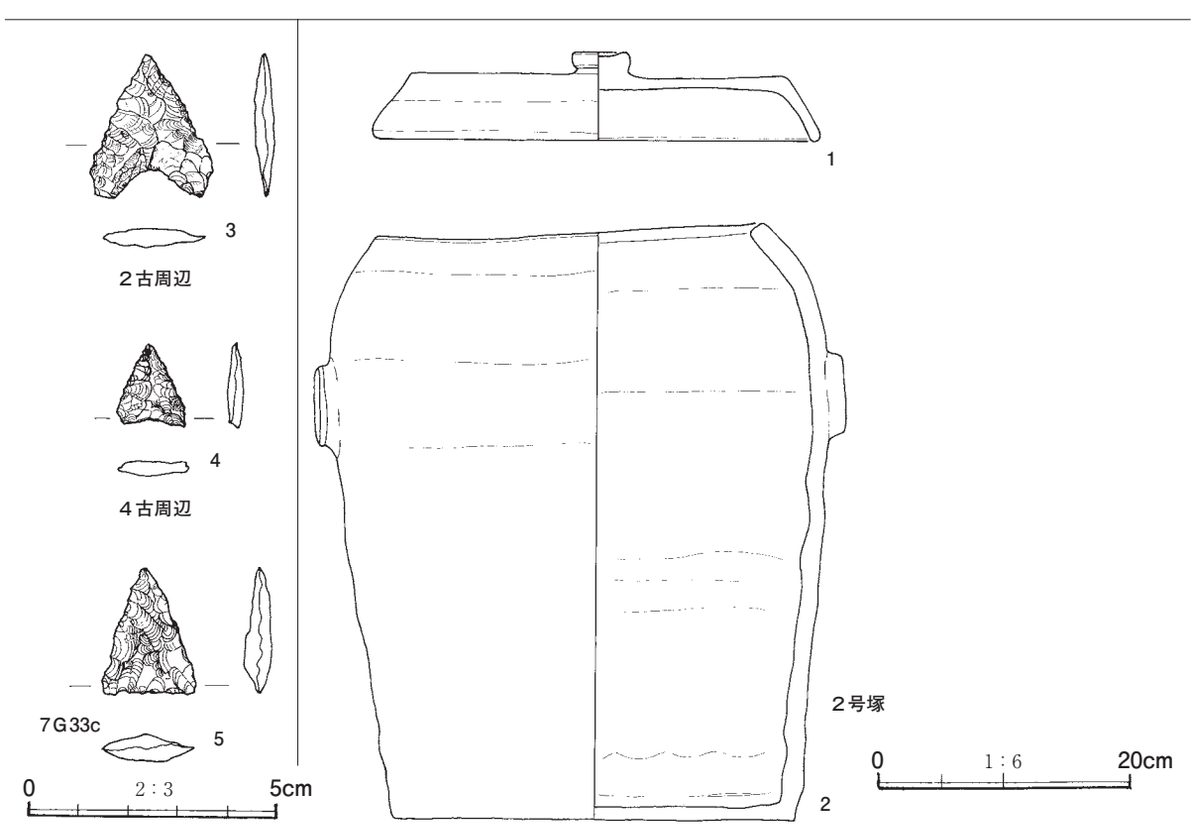
10　調査区一括遺物

これらの遺物の多くは、古墳の盛土内に混入していたものである。縄文時代後期以降のものでほぼ占められる。最も古いのは第105図-15の前期・諸磯式である。同図-14は加曽利ＥⅣ式である。最も多いのは加曽利Ｂ式だが、曽谷式（第105図-3･19・第106図-1･４等）、安行１式（第105図-13･27･第106図-6･12･13･21等）なども一定量含まれている。晩期は、安行３式（第105図-9）と前浦式（第106図-29）などがある。加曽利Ｂ式は１・５号古墳周辺、曽谷式は２・４号古墳周辺、安行式は７号古墳周辺で出土することが多い。加曽利Ｂ式期の２号住居跡、後期安行式期の３号住居跡との位置関係ともほぼ符合する。何れにせよ、遺物量からして各期の遺構が密に分布するわけではないようである。

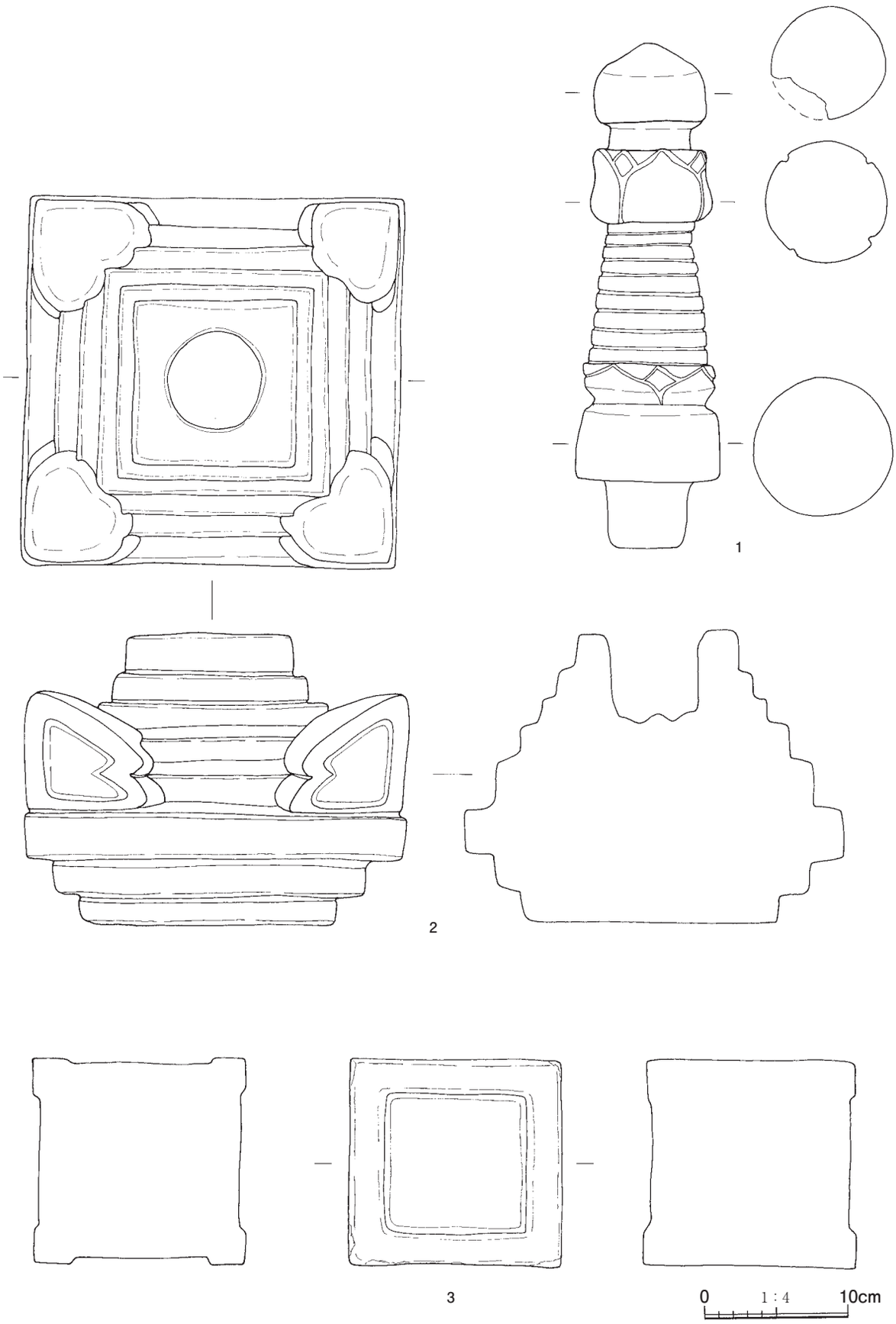
第105図　大草台古墳群調査区出土遺物①

第106図　大草台古墳群調査区出土遺物②





第107図　大草台古墳群11号土壙・２号塚出土中近世遺物



第108図　大草台古墳群15号土壙出土石塔類

第３節　小結

大草台古墳群からは、旧石器集中箇所２箇所・住居跡３軒・陥穴２基・土壙墓１基・有天井土壙１基・土壙24基・古墳７基・方形周溝状遺構２基・円形周溝状遺構２基、溝11条、道状遺構２条、土坑列１箇所、塚６基（内４基は古墳の再利用）、炭窯６基が検出された。

旧石器集中箇所　96-Ⅰ調査区で２地点が検出されたが、極めて小規模なブロックである。

住居跡　２・３号住居跡は、縄文時代後期の住居跡である。２号住居跡は遺物が少なく、時期の特定はできないが、周辺から出土した土器が後期・加曽利Ｂ式期以降の細片であった。３号住居跡は、炉から出土した土器が安行式の紐線文の粗製土器で、安行２式に比定できる。１号住居跡は、古墳時代中期の住居で、第80図-１の土師器杯の形状から中期でもやや新しめと考えられる。

陥穴　97-Ｂ調査区の東端と99-Ｂ調査区の北東隅で検出され、調査範囲の東端に集中している。

土壙墓　土壙墓は、96-Ⅰ調査区の石器集中箇所の第Ⅱ地点の範囲中で検出された。勾玉・管玉・ガラス玉が出土したため、中世以降の墓ではなく古墳時代の土壙墓と考えられる。

有天井土壙　96-Ⅱ調査区で検出された。遺構は、１号方形周溝状遺構の北東側に位置する。端山越遺跡検出の２号有天井土壙と構造的に同じである。

土壙　２号土壙は、第83図-1･２の土師器が出土したので、古墳時代中期に比定できる。21号土壙から出土した土師器が、７号古墳周溝内から出土したものと接合した（第96図７古-３）。11号土壙は、１号古墳を15世紀後半に塚として再利用した時に埋設された常滑の大甕が出土した。14～17号土壙と27号土壙は、中世と考えられる遺物が少量出土している。15号土壙からは第108図の石塔類が出土した。構造的には、端山越遺跡と同様の傾向がみられる。短辺が長辺の半分以下の庭部方形系で、平面形が隅丸長方形・長方形の土壙（21・22・24・26号土壙）はその形状から土壙墓のような機能を果たす遺構の可能性がある。円形で深さがあるもの（16号土壙）、円形で浅いもの（５・19号土壙）、平面楕円形で深さがあるもの（７・９号土壙）も貯蔵穴や落とし穴の可能性もあるが、いずれも根拠は薄い。

古墳　７基検出したが、９号古墳は保存地域として調査は実施されなかった。古墳出土の遺物は少ない。１号古墳の３基の主体部から直刀や鉄鏃類が多く出土した。２号古墳は、２号主体部から第96図-１の土師器杯（７世紀代）、３号主体部埋土から同図-2・３の同時期の杯が出土した。３号古墳の１号主体部からは、副葬品の刀子が１点、４号古墳の１号主体部から直刀・短刀・鉄鏃類が多く出土し、周溝から６世紀中頃（ＴＫ10古段階）の須恵器杯身が完形で出土している。７号古墳は、第１主体部北西側の周溝内から土師器の甕上半部が出土し、接合する底部が21号土壙から出土している（第96図７古-３）。21号土壙は７号古墳の主体部の可能性もある。

方形周溝状遺構　96-Ⅱ調査区の南西端で１号方形周溝状遺構、98-Ｂ調査区で２号方形周溝状遺構が検出された。１号方形周溝状遺構の北東側に有天井土壙が検出されており、奈良・平安時代の墓域を形成している。１・２号とも調査区の西寄りで検出されている。

溝・道状遺構・土坑列・炭窯は、項を設けての説明・図面・写真の掲載は行っていない。土坑列の関しては、５号古墳断面図（第93図）にて一部の土坑の堆積状況を掲載している。

第６章　上谷津第１遺跡の調査

第１節　調査の概要

上谷津第１遺跡の調査は、平成10～12年度にかけての３カ年継続して実施された。検出された遺構は第29表にまとめたとおりである。

第29表　上谷津第１遺跡遺構一覧

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
旧石器集中箇所			旧石器		H11

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
１号	炉穴	F001	縄文	早期	H10
２号	炉穴	F002	縄文	早期	H10
３号	炉穴	F003	縄文	早期・条痕文期	H10
４号	炉穴	F004	?	?	H11
５号	炉穴	F005	縄文	早期？	H11

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
１号	住居跡	A001	古墳	前期	H10
２号	住居跡	A002	古墳	前期	H10
３号	住居跡	A003	古墳	前期	H10
４号	住居跡	A004	古墳	前期	H10
５号	住居跡	A005	古墳	前期	H10
６号	住居跡	A006	古墳	前期	H10
７号	住居跡	A007	古墳	前期	H10
８号	住居跡	A008	古墳	前期	H10
９号	住居跡	A009	古墳	前期	H10
10号	住居跡	A010	古墳	前期	H10
11号	住居跡	A011	古墳	前期	H10
12号	住居跡	A012	古墳	前期	H10
13号	住居跡	A013	古墳	前期	H10
14号	住居跡	A014	縄文	加曽利ＥⅣ式	H10
15号	住居跡	A015	古墳	前期	H10
16号	住居跡	A016	古墳	前期	H11
17号	住居跡	A017	古墳	前期	H11
18号	住居跡	A018	古墳	前期	H11
19号	住居跡	A019	古墳	前期	H11
20号	住居跡	A020	古墳	前期	H11
21号	住居跡	A021	古墳	前期	H11
22号	住居跡	A022	古墳	前期	H11
23号	住居跡	A023	古墳	前期	H11
24号	住居跡	A024	古墳	前期	H12

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
１号	陥穴	C002	縄文		H10
２号	陥穴	C005	縄文	前期？	H10
３号	陥穴	C018	縄文		H10
４号	陥穴	C030	縄文		H11
５号	陥穴	C032	縄文		H11
６号	陥穴	C037	縄文		H11
７号	陥穴	C038	縄文	早期・条痕文期	H11

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
１号	欠番				
２号	欠番				
３号	土壙	C003	縄文		H10
４号	土壙	C004	縄文		H10
５号	欠番				
６号	欠番				
７号	欠番				
８号	欠番				
９号	土壙	C009	縄文		H10
10号	土壙	C010	中近世		H10
11号	土壙	C011	縄文		H10
12号	土壙	C012	縄文	後期	H10
13号	土壙	C013	縄文		H10
14号	土壙	C014	縄文		H10
15号	土壙	C015	縄文		H10
16号	土壙	C016	奈・平？		H10
17号	土壙	C017	縄文		H10
18号	欠番				
19号	土壙	C019	縄文		H10
20号	土壙	C020	縄文		H10
21号	土壙	C021	縄文		H10

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
22号	土壙	C022	縄文		H10
23号	土壙	C023	縄文		H10
24号	土壙	C024	縄文？		H10
25号	土壙	C025	縄文		H10
26号	土壙	C026	縄文		H10
27号	土壙	C027	縄文		H10
28号	欠番				
29号	土壙	C029	縄文？		H11
30号	欠番				
31号	土壙	C031	中近世？		H11
32号	欠番				
33号	土壙	C033	中近世？		H11
34号	土壙	C034	奈良	９Ｃ初	H11
35号	欠番				風倒木
36号	欠番				
37号	欠番				
38号	欠番				
39号	土壙	C039	縄文		H11
40号	土壙	C040	?		H11
41号	土壙	C041	縄文？		H11
42号	土壙	C042	縄文？		H11
43号	土壙	C043	縄文		H11
44号	土壙	C044	縄文？		H11
45号	土壙	C045	中世？		H12

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
１号	土壙墓	C036	奈良？		H11

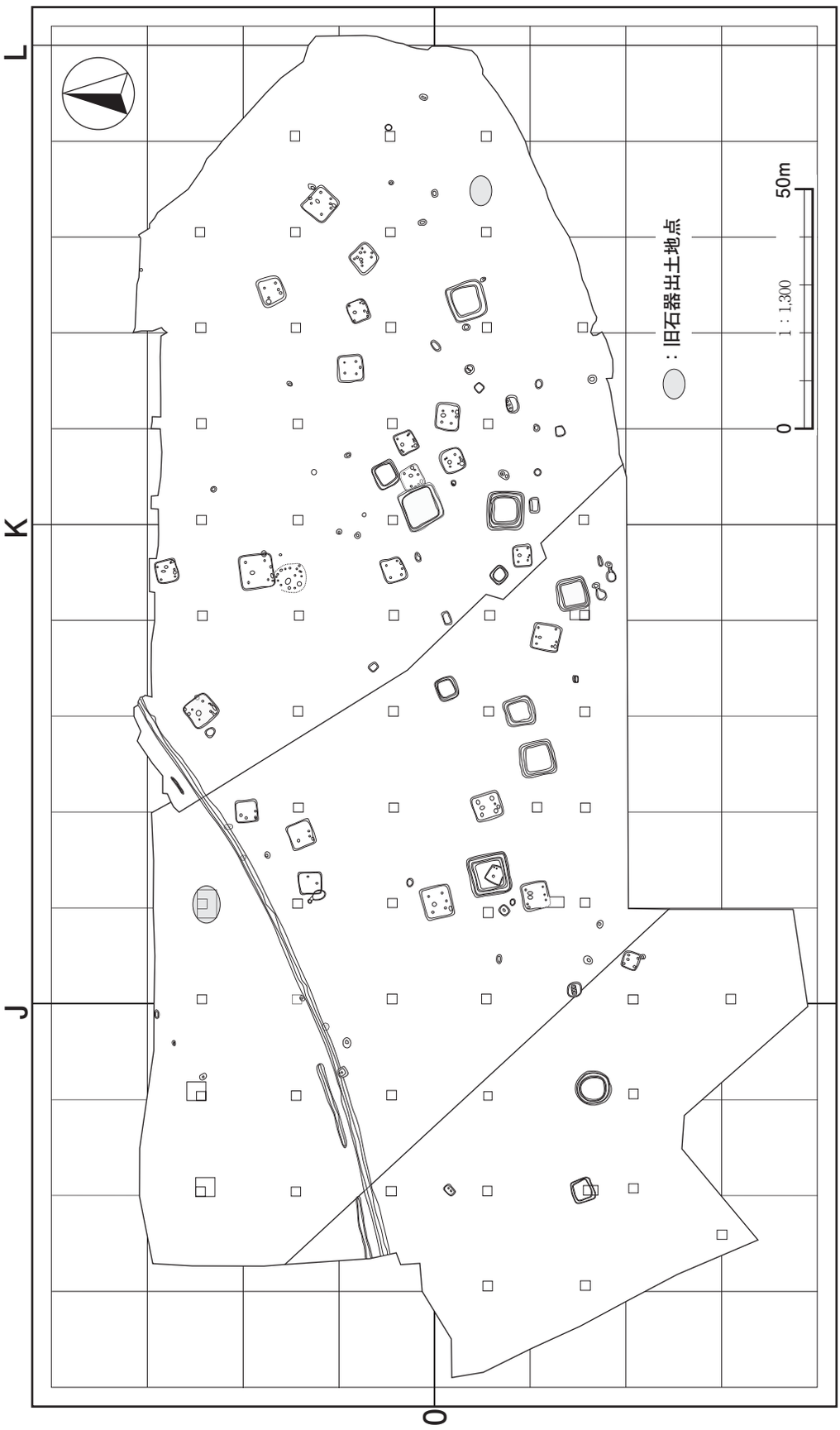
遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
１号	有天井土壙	C001	奈良？		H10
２号	有天井土壙	C007	奈良		H10
３号	有天井土壙	C008	奈良？		H10
４号	有天井土壙	C028	奈良？		H11

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
１号	円形周溝状遺構	１号円形周溝状遺構	奈良？		H12

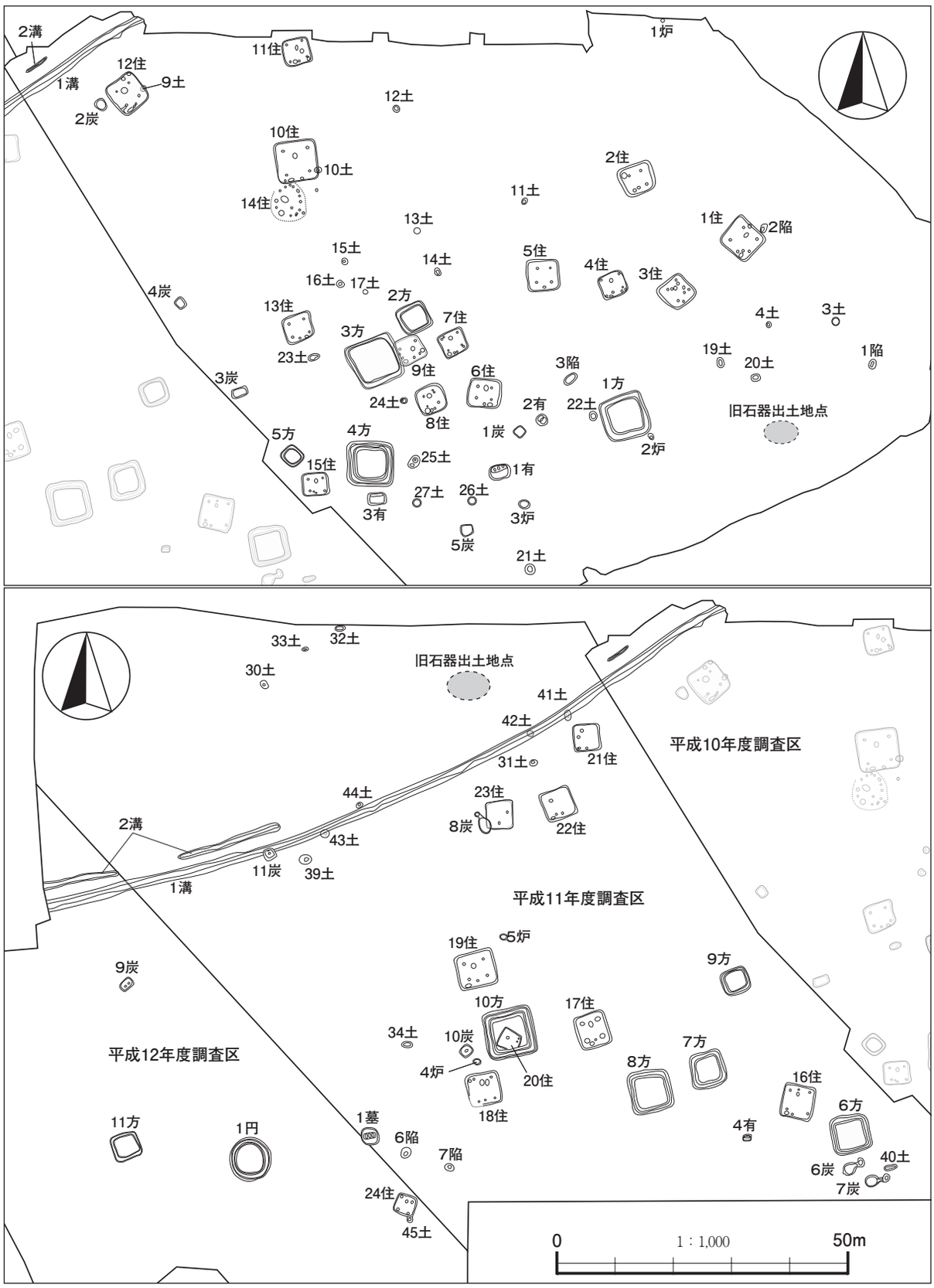
遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
１号	方形周溝状遺構	１号方形周溝状遺構	奈良？		H10
２号	方形周溝状遺構	２号方形周溝状遺構	奈良？		H10
３号	方形周溝状遺構	３号方形周溝状遺構	奈良？		H10
４号	方形周溝状遺構	４号方形周溝状遺構	奈良？		H10
５号	方形周溝状遺構	５号方形周溝状遺構	奈良？		H10
６号	方形周溝状遺構	６号方形周溝状遺構	奈良？		H11
７号	方形周溝状遺構	７号方形周溝状遺構	奈良？		H11
８号	方形周溝状遺構	８号方形周溝状遺構	奈良？		H11
９号	方形周溝状遺構	９号方形周溝状遺構	奈良？		H11
10号	方形周溝状遺構	10号方形周溝状遺構	奈良？		H11
11号	方形周溝状遺構	11号方形周溝状遺構	奈良？		H12

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
１号	溝	D001	中世		H10～H12
２号	溝	D002	中世		H10～H12

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
１号	炭窯	G001	中近世		H10
２号	炭窯	G002	中近世		H10
３号	炭窯	G003	中近世		H10
４号	炭窯	G004	中近世		H10
５号	炭窯	G005	中近世		H10
６号	炭窯	G006	中近世		H11
７号	炭窯	G007	中近世		H11
８号	炭窯	G008	中近世		H11
９号	炭窯	G009	中近世		H12
10号	炭窯	G010	中近世		H11
11号	炭窯	G011	中近世		H11



第109図　上谷津第１遺跡遺構配置図



第110図　上谷津第１遺跡遺構配置詳細図

この遺跡で注目すべきは、古墳時代前期の集落がほぼ丸ごと検出されたことである。台地のほぼ全域を調査対象範囲としたので、平坦部分に展開していたと想定される住居跡は全て検出できたと考えられる。これらの住居跡は、全て切り合い関係が見られず、それぞれ独立して検出された。このことは、この集落が重複関係にならない程度に新しい住居跡を構築する時間的な連続性が存在したことを示していると思われる。遺構の切り合い関係がない分、出土遺物の前後関係を考慮するのに型式学的な検討が不可欠な遺跡であるといえる。逆に言えば、住居跡廃棄後に後世に遺物が混入しにくい状況を形成しているともいえる。また、北側の谷津を隔てた台地上に展開する西御門新堤遺跡でも古墳時代前期の集落が検出されており相互の関係が注目される。土器や住居跡の変遷過程、遺跡間の関係などの検討は第９章にて行う。

方形周溝状遺構も11基検出され、本遺跡郡中では端山越遺跡に続いてその数が多い。主体部は検出されなかったが、周辺には同時期の墓壙と推定される有天井土壙や土壙墓などが同じ分布範囲に形成されている。

縄文時代の遺構は、14号住居跡と陥穴・土壙が主なものだが、早期の炉穴も５基検出されている。早期の遺構は少ないものの、調査区の一括資料中には多くの撚糸文系や条痕文系の土器が含まれており、当該期の包含層が台地の広範囲に広がっていたことを示している（第159図）。

第２節　検出された遺構と遺物

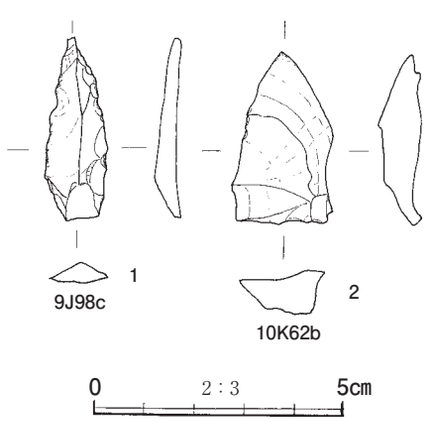
上谷津第１遺跡で検出された遺構は、炉穴・住居跡・陥穴・土壙・土壙墓・有天井土壙・円形周溝状遺構・方形周溝状遺構・溝・炭窯が検出された。検出された遺構の一覧は第29表にある。

１　旧石器

旧石器は、発掘調査時において旧石器集中箇所として認識された地点が１箇所（９Ｊ26ａ地区周辺）あったが、取り上げられた遺物を検討した結果、大多数が旧石器ではなくローム層中に含まれていた極小さな円礫であることが判明した。その大きさは概ね５ｍｍ前後のもので占められ、石器やその素材となりうる素材は全く含まれていなかった。よって、遺物集中箇所として項を設けることはしなかった。しかし、数点の旧石器が他地点で出土していたので、単体ばかりだが、第111図に実測図を掲載した。１は、９J28C地区で出土した尖頭器である。縄文時代の包含層下部から出土した。材質は珪質頁岩である。２は、10K62B地区で出土し、剥片であろう。やや厚みがあり尖っているので尖頭器様に見えるが、整形痕が全く観察できない。材質は、珪質頁岩である。

第30表　上谷津第１遺跡出土の旧石器計測値一覧

No.	遺構名 地区	種類	法量（cm・g）			
			長さ	幅	厚み	重さ
1	9J　28C	尖頭器？	3.6	1.3	0.5	1.8
2	10K　62b	剥片	3.5	2.0	0.8	6.0
石材		取上No.	挿図番号		備考	
珪質頁岩		9J28c	第111図		8 炭底部	
珪質頁岩		10K62b-2	第111図			



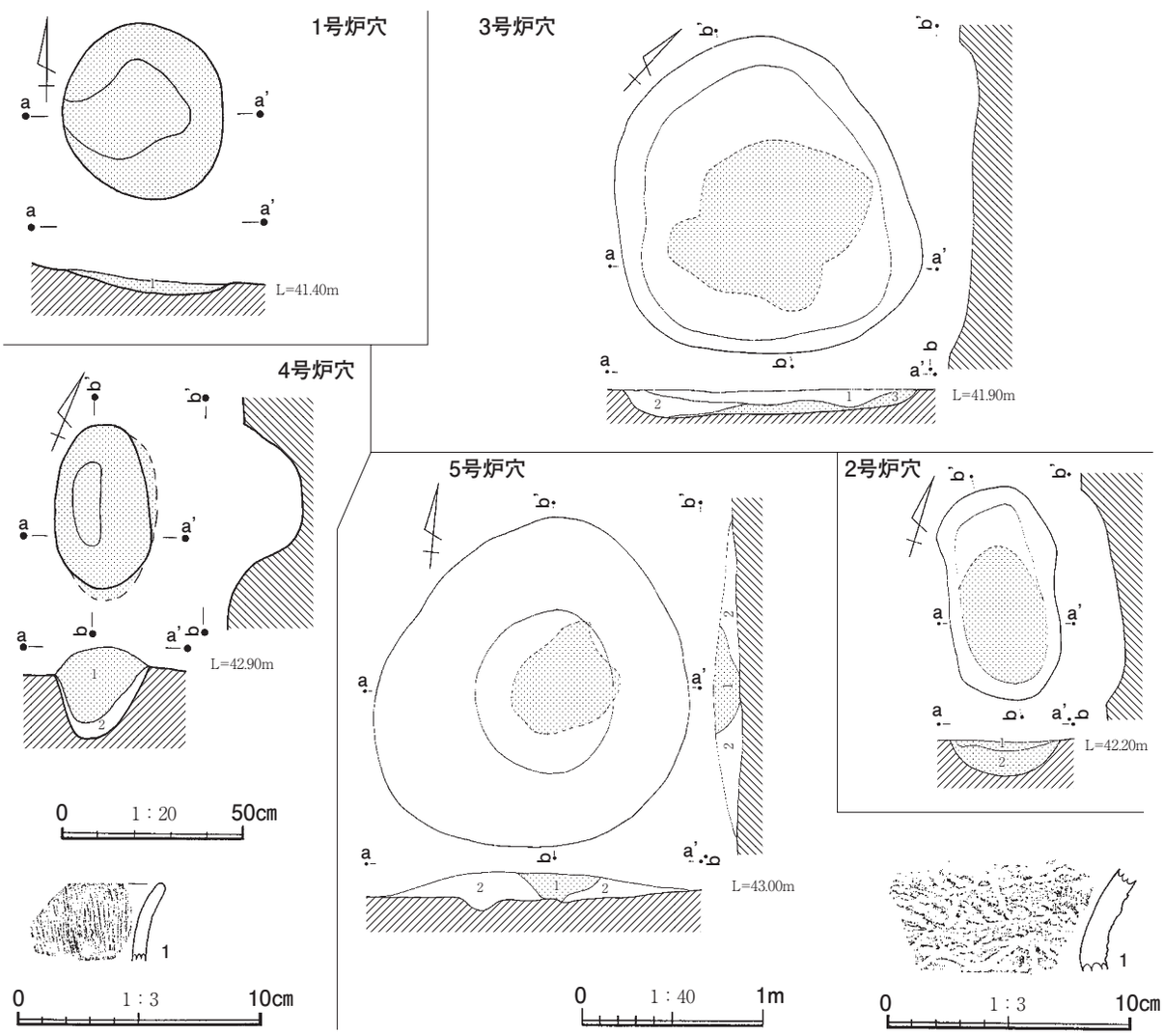
第111図　上谷津第１遺跡旧石器

２　炉穴

４箇所で炉穴が検出された。１・２・４号炉穴は、縄文時代早期のものである。３・５号炉穴は、遺構規模が他のものよりも大きく、やや炉穴というよりも焼土坑のような雰囲気がある。３号炉穴は、浅く掘り込まれた土坑様の凹み中央部に焼土が濃く分布していた。壁面の焼土化はあまり激しくはなかった。５号炉穴は、盛土の上に焼土の凹みがあるといった施設で、縄文時代より降るかもしれない。

第31表　上谷津第１遺跡検出の炉穴

遺構No.	検出区	法量（m）			平面形	堀方断面形状	時代	時期	特徴	挿図No.		備考
		長軸	短軸	深さ						遺構	遺物	
１号	9K　54c	0.48	0.44	0.03	円	浅半円	縄文	早期		第112図	－	
２号	10K　52a	1.18	0.6	0.18	楕円	浅半円	縄文	早期		第112図	第112図	
３号	10K　23b	1.74	1.63	0.25	不整円	浅半円	縄文	早期	上層は焼土化しない	第112図	－	
４号	10J　24d	0.49	0.28	0.2	楕円	浅半円	縄文	早期	他のものよりも深さがある	第112図	－	
５号	9J　30d	1.82	1.71	0.14	不整円	半円	縄文	早期	小規模な盛土の中心に炉体	第112図	第112図	



1炉穴
1　7.5R 4/6 赤色　　焼土を主体とする

2炉穴
1　5YR 3/4 暗赤褐　　焼土粒・ローム粒を多く含む
2　2.5YR 3/6 暗赤褐　　焼土粒を含み、ローム粒を少し含む

3炉穴
1　7.5YR 3/2 黒褐　　ローム粒・焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
3　5YR 3/6 暗赤褐　　ローム粒・焼土粒を少し含む

4炉穴
1　2.5YR 3/6 暗赤褐　　焼土粒・ローム粒を含む
2　7.5YR 4/4 褐　　ローム粒を含む

5炉穴
1　5YR 4/3 にぶい赤褐　焼土・焼土ブロックを多量に含む
2　5YR 4/2 灰褐　　焼土粒を含む

第112図　上谷津第１遺跡炉穴・出土遺物

3　住居跡

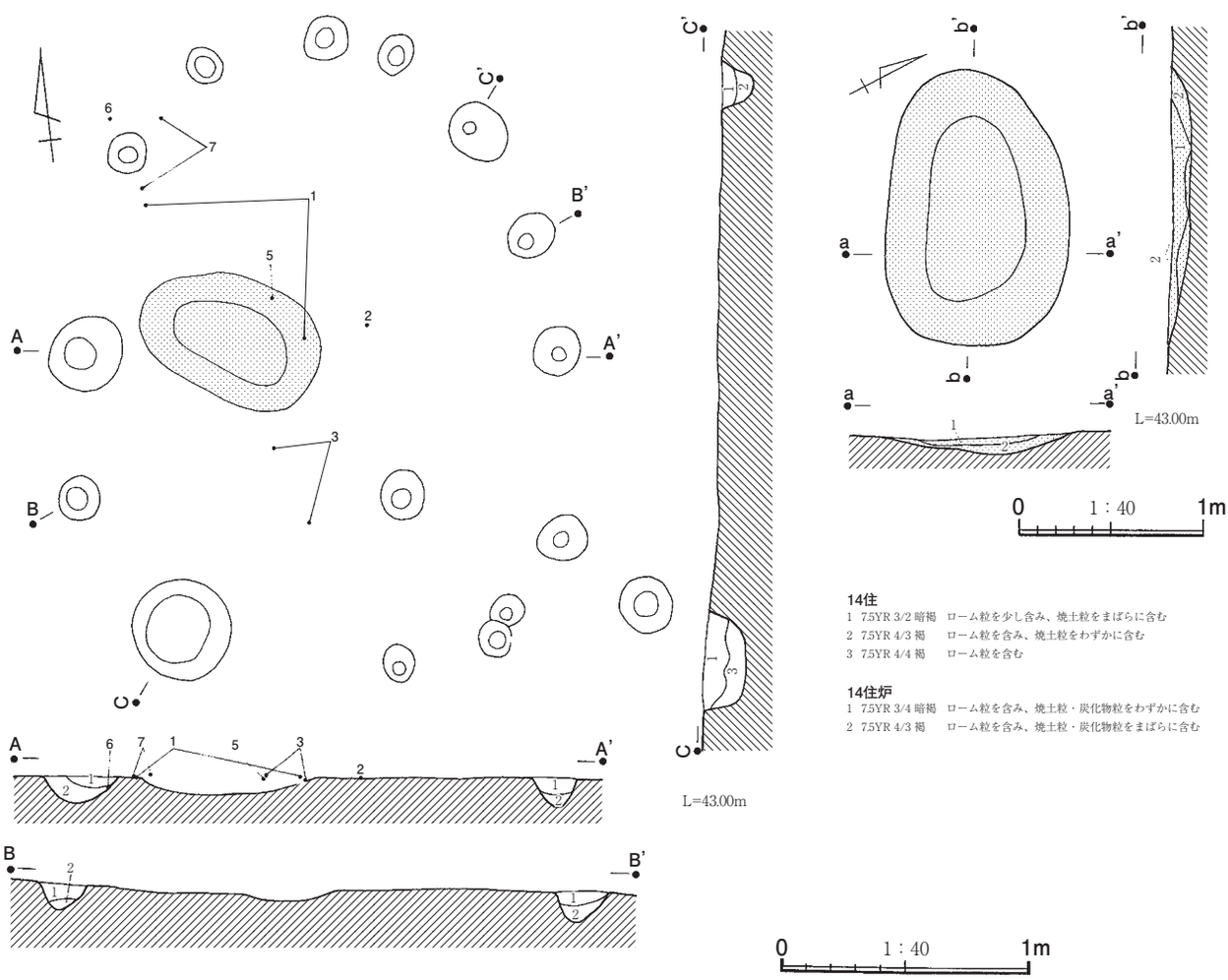
住居跡は、縄文時代中期・加曽利ＥⅣ式期の14号住居跡と23軒の古墳時代前期の住居跡が検出された。14号住居跡は単独で検出され、同時期の遺構は近辺では全くない。一応、包含層から同時期の遺物が少量出土している。この遺跡では、古墳時代前期の一集落が丸ごと検出されたのが最大の成果である。切り合い関係がないので、遺構間の時期的な関係をふまえるのは型式学的な作業を踏まえる必要がある。その検討は第９章まとめにて行った。

第32表　上谷津第１遺跡検出の住居跡（縄文時代）

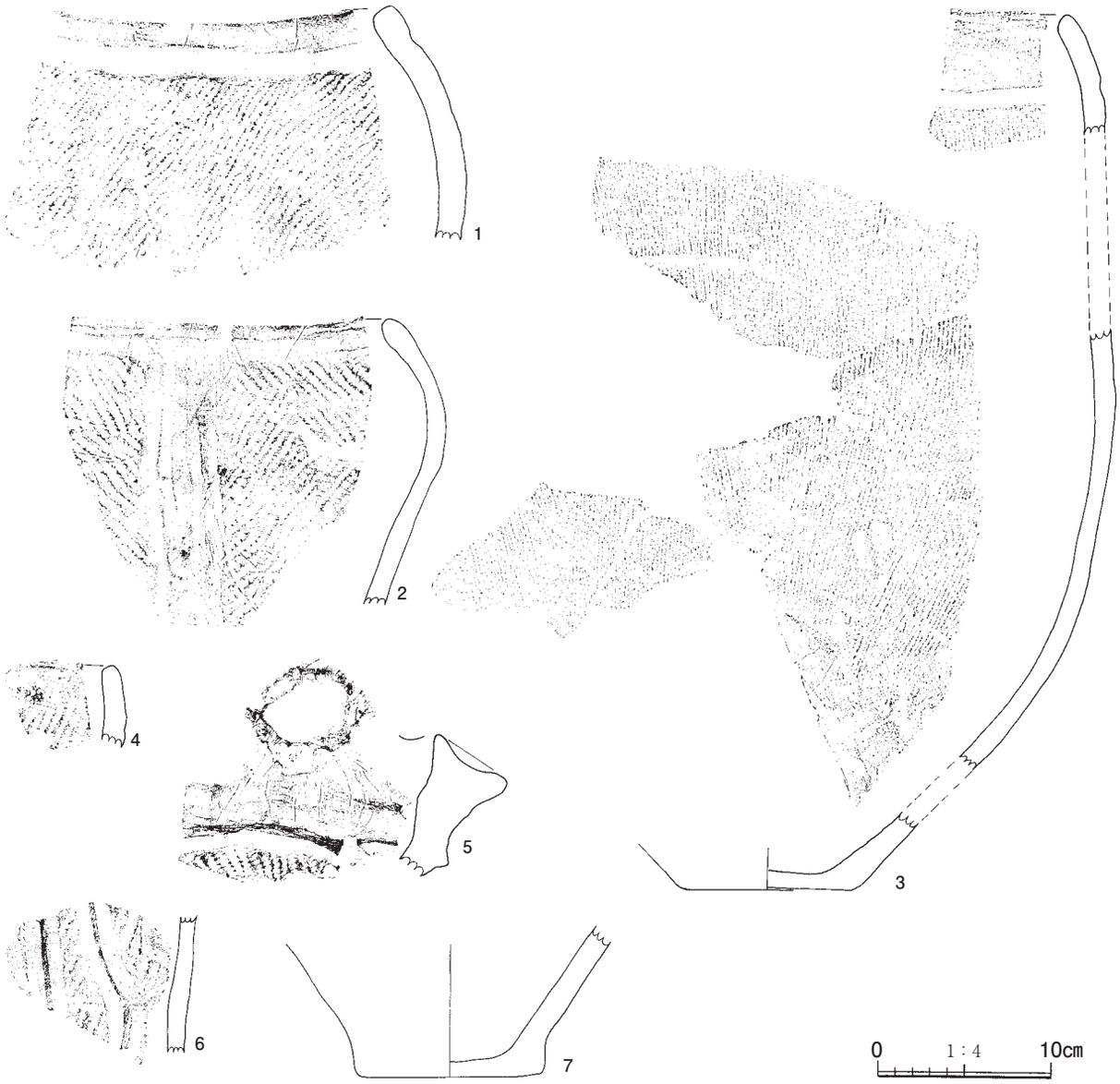
遺構No.	検出区	主軸方向	平面形	法量（m）			炉	重複関係		時期	挿図No.		備考
				長軸	短軸	深さ	位置	旧	新		遺構	遺物	
14号	9J　87d	Ｎ－　？°　－Ｗ	楕円？	(5.5)	(4.5)	？	中央			加曽利ＥⅣ	第113図	第114図	

14号住居跡　　遺構：第113図　　遺物：第114図

遺構の状況	平面形は不明だが、ほぼ円形を呈していると推定される。炉は、推定住居跡規模に対してやや大きいように感じられる。中央からやや西側に寄る。
遺物の状況	遺物は、床面直上から加曽利ＥⅣ式期に比定できるものが出土している。
備考	



第113図　上谷津第１遺跡14号住居跡



第114図　上谷津第１遺跡14号住居跡出土遺物

古墳時代前期の住居跡

23軒の住居跡は、12号住居跡の拡張痕跡以外に住居跡間の切り合い関係があるものはない。

ここでは、住居跡の構造的・検出状況的な側面から共通項がある住居跡ごとに分別する。

・大きさ　6m以上：１・10・12（新）・19住

4.5m以上6m未満：２・３・５・６・８・９・11・12（旧）・13・16・17・18・21・22・23住

4.5m未満：４・７・15・20・24住（4.5m未満のものは、総じて遺物量が少ない。）

・一定量の遺物が床面直上から出土：１・３・４・６・10・11・12・16・17・19・21・22・23住

・床面直上からは全く出土品がない：２・５・７・８・９・13・15・18・20・24住

・炉は付属しない住居跡：５・23住

・貯蔵穴が付属しない住居跡：３・５・12・20・23・24住

・主柱穴が未検出の住居跡：20・21・22・23住

・主柱穴掘方が深い住居跡：５・６・10・12・17住

・貼床された住居跡：６・８・10・12・17・18・19・21・22・23住（左記以外は貼床されない）

・壁溝がある住居跡：10・12・15・17・18・19・21・22住（左記以外は壁溝はない）

・焼土・炭化物が床面直上から検出された住居跡：２・３・４・７・９・10・11・12・15・22住

以上のような要素が抽出でき、これらの組合せで幾つかのグループが形成される。

①遺物が多く、主柱穴がなく、壁溝があり、貼床された住居跡：21・22・23住

②遺物が多く、壁溝があり、貼床された住居跡：10・12・17・18・19住

③際だった要素がない住居跡：１・２・３・４・５・７・９・11・13・16・24住

③の中で、遺物が多いのは１・３・５・６・11・16住住居跡である。

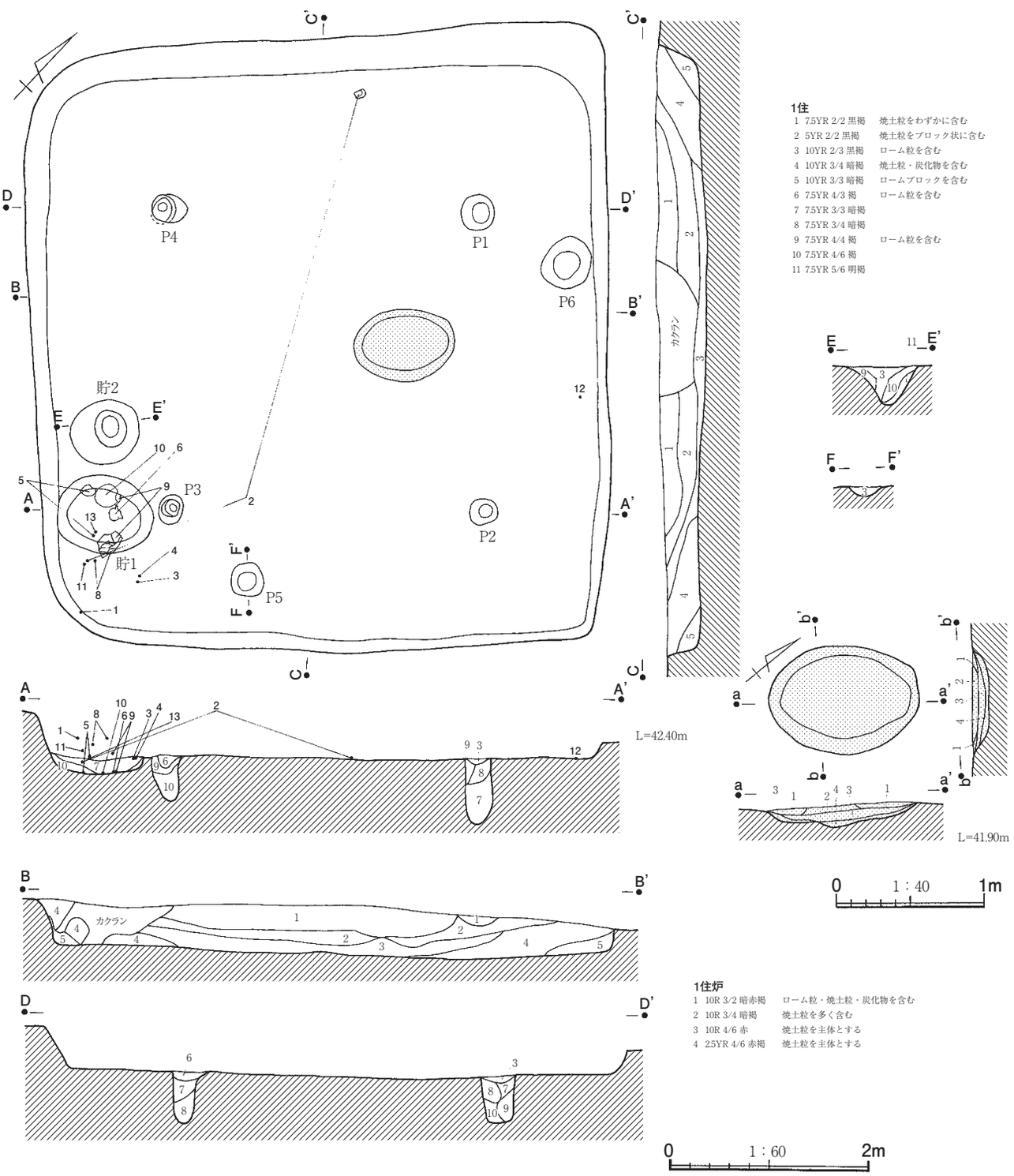
なお、第９章にて遺物の型式学的な側面と住居跡の構造的な側面とを総合した検討を行う。

第33表　上谷津第１遺跡検出の住居跡（縄文時代）一覧

遺構No.	検出区	平面形状	主軸方位	規模（m）			床面	炉位置	貯蔵穴位置	階段用柱穴	溝幅	重複関係		時期	備考
				長軸	短軸	深さ						旧	新		
１号	9K　68c･d	方形	N－　45°　－W	6.14	5.78	0.48		北寄	南辺２ヶ	○					
２号	9K　47b･d	方形	N－　18°　－W	5.95	502	0.5		北寄２ヶ	北西隅	○					炭化物
３号	9K　59a～d	方形	N－　46°　－W	5	4.75	0.33		北寄東寄		○					焼土
４号	9K　49b	方形	N－　20°　－W	4.31	4.09	0.5		北寄	南辺（西寄）	○					焼土・炭化物柱穴が四隅に有
５号	9K　39a･b	方形	N－　1°　－W	5.37	5.33	0.58		－	－	○					柱穴深い
６号	10K　21a	方形	N－　2°　－W	5.47	4.73	0.64	貼床	北寄	南辺（東寄）	○					柱穴深い
７号	9K　20b	方形	N－　25°　－W	4.45	4.35	0.45		北寄	南西隅	○					焼土
８号	10K　11a	方形	N－　20°　－W	4.75	4.65	0.5	貼床	北寄	南西隅２ヶ	○					
９号	9K　10b･d 20a･c	方形	N－　66°　－E	4.73	3.98	0.45		東寄	南東隅南西隅	○			３方		炭化物
10号	9J　87b･97a	方形	N－　9°　－W	7.8	7.5	0.48	貼床	北寄	南辺（西寄）	○	○		10土		柱穴深い
11号	9J　95a～d	方形	N－　15°　－W	4.5	4.5	0.24		北寄	南辺南東隅	○					焼土・炭化物
12号	9J　66a･56b･65c	方形	N－　39°　－W	6	5.54	0.35	貼床	北寄	北東隅2南西隅	○	○	９土12土			焼土柱穴深い
12号	9J　66a･56b･65c	方形	N－　39°　－W	5.4	4.7	－	貼床？	北寄	－		○				旧住居跡柱穴深い？
13号	9J　100a	方形	N－　20°　－W	4.64	4.97	0.35		北寄	南辺（東寄）	○					
15号	10J　92c	方形	N－　8°　－W	4.35	4	0.5		北寄	南辺（西寄）	○	○				焼土・炭化物
16号	10J　73b	方形	N－　8°　－E	5.82	5.56	0.45		北寄	南辺（西寄）	○					
17号	10J　42a～d	方形	N－　17°　－W	5.75	5.38	0.55	貼床	北寄	南辺（西寄）	○	○				柱穴深い
18号	10J　22c･23a	方形	N－　11°　－W	5.7	5.55	0.48	貼床	北寄２ヶ	北西隅	○	○				
19号	10J　21a	方形	N－　16°　－W	6.8	5.95	0.5	貼床	北寄	南辺（西寄）	○	○				
20号	10J　22b	方形	N－　62°　－W	3.58	3.53	0.18		西寄		○			20方		主柱穴なし
21号	9J　47a	方形	N－　8°　－W	4.6	4.55	0.68	貼床	西寄北西寄	南西隅	○	○				主柱穴なし
22号	9J　38a	方形	N－　22°　－W	5.21	5.09	0.81	貼床	北西寄	南西隅	○	○				主柱穴１穴焼土・炭化物
23号	9J　28a～d	方形	N－　42°　－W	4.63	4.52	0.52	貼床	－		○					主柱穴なし
24号	10J　15a	方形	N－　23°　－E	3.52	3.38	0.45		北寄				45土			

１号住居跡　　遺構：第115図　　遺物：第136図

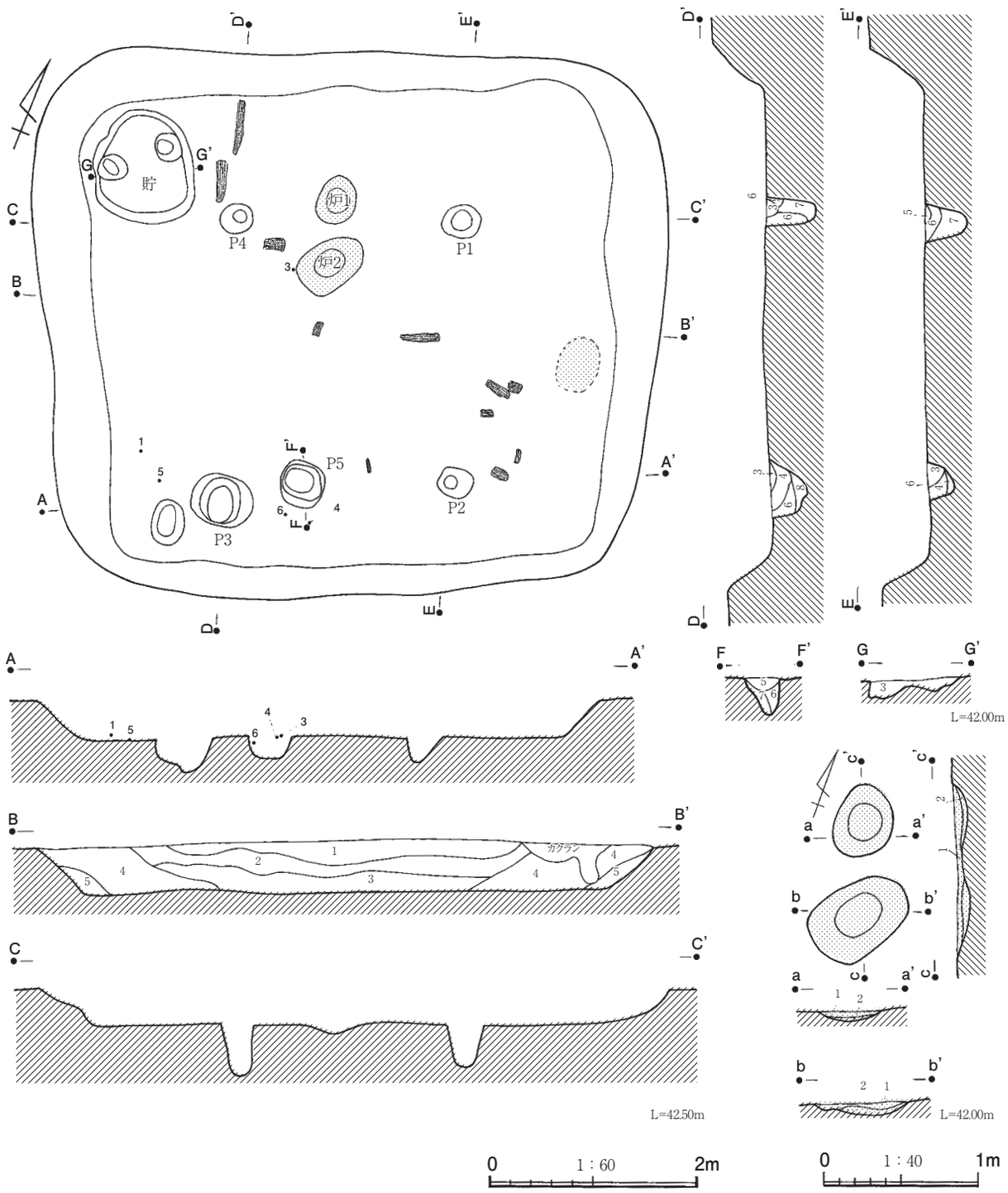
遺構の状況	炉は中央からやや東寄り。主柱穴はやや深めの４穴、東辺・南辺・西辺に各１穴ずつ階段用柱穴あり。貯蔵穴は西辺の南西隅寄りにあり。土層はレンズ状に堆積。
遺物の状況	ハケ甕・ナデ甕・大型の壺・二重口縁壺・大型の坩・小型の坩・小型の甕・碗型鉢・土玉・軽石製品・石皿が出土。大型壺は木葉痕つく。軽石製品は円形？。石皿には、縁辺部に複数の擦痕があり、鉄製品の砥石としても使用か？。また、凹み内に朱が付着。成分の分析は行っていない。
備考	



第115図　上谷津第１遺跡１号住居跡

２号住居跡　　遺構：第116図　　遺物：第136図

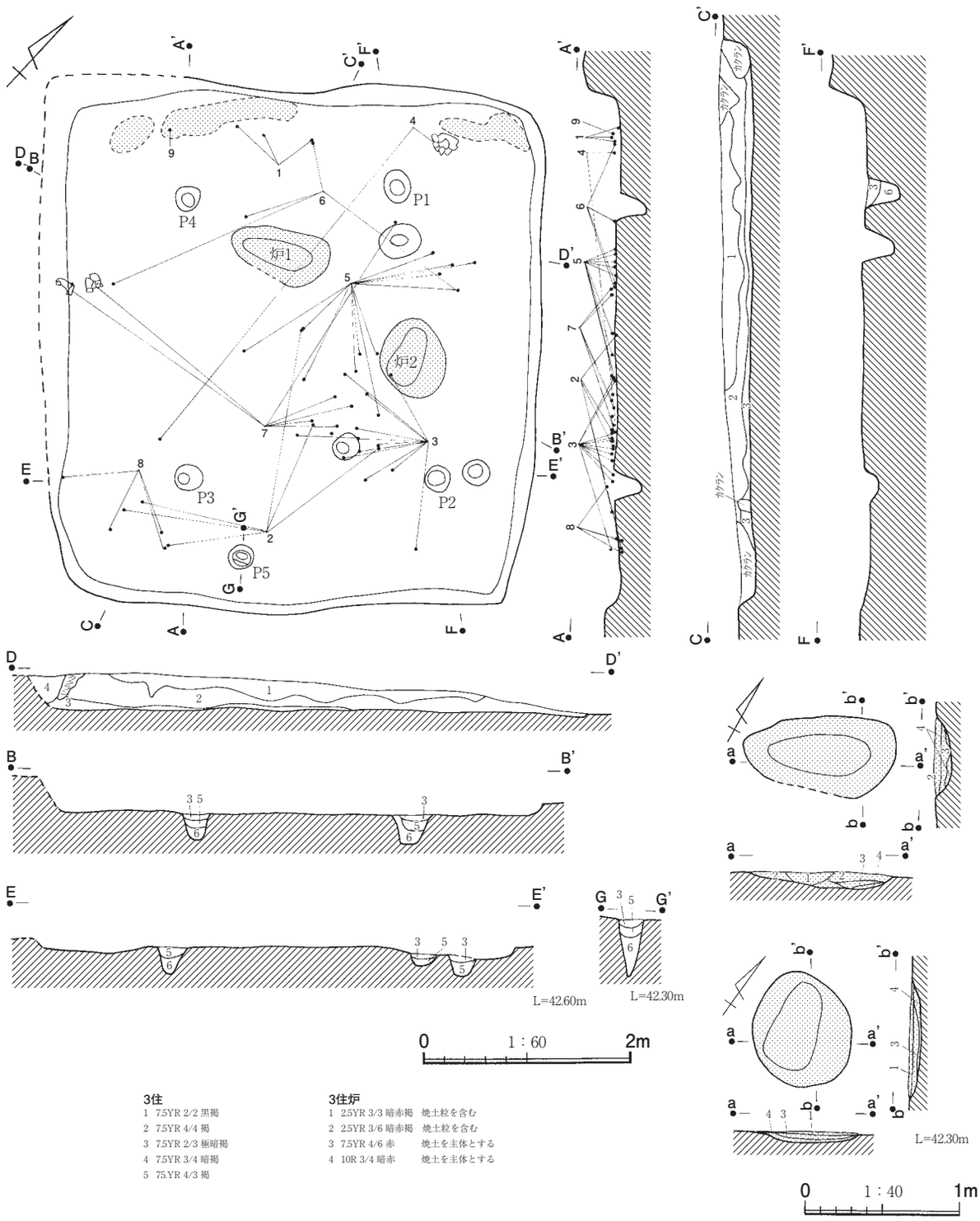
遺構の状況	壁は直に立ち上がらず、やや斜傾している。炉は中央からやや北寄りに２箇所あり。主柱穴はやや深めの４穴。南辺中央付近に階段用柱穴が１箇所、南西隅に１箇所あり。貯蔵穴は北西隅にあり。土層はレンズ状に堆積。部分的に炭化物が検出され、火災住居跡の可能性がある。土層はレンズ状に堆積。
遺物の状況	総体的に遺物量は少ない。図化できた遺物は、手捏土器・ハケ甕片を加工した円板・花弁状の装飾土製品（大型の土器に付着？）・土玉しかない。未図化の破片には、ナデ甕（大型・小型）・ハケ甕・大型坩？・小型高杯か器台がある。甕はナデ・磨きが主体で、ハケは少ない。
備考	



第116図　上谷津第１遺跡２号住居跡

３号住居跡　　遺構：第117図　　遺物：第137図

遺構の状況	北西隅と西辺は破壊。炉は中央から北寄りと東寄りに各１箇所。主柱穴は浅めの４穴。東辺寄りとP2付近にランダムな柱穴？南辺にやや深めの階段用柱穴が１穴あり。貯蔵穴はない。土層はレンズ状に堆積。
遺物の状況	比較的遺物量は多い。ハケ甕（大型・小型）・ナデ甕・ハケ＋ケズリ壺・器台？・甕片を加工した円板が出土。甕底部に木葉痕あるもの含む。未図化のものは、大小のハケ甕が多く、小型の坩と高杯？片が含まれる。ナデ甕片もあるが少量である。
備考	



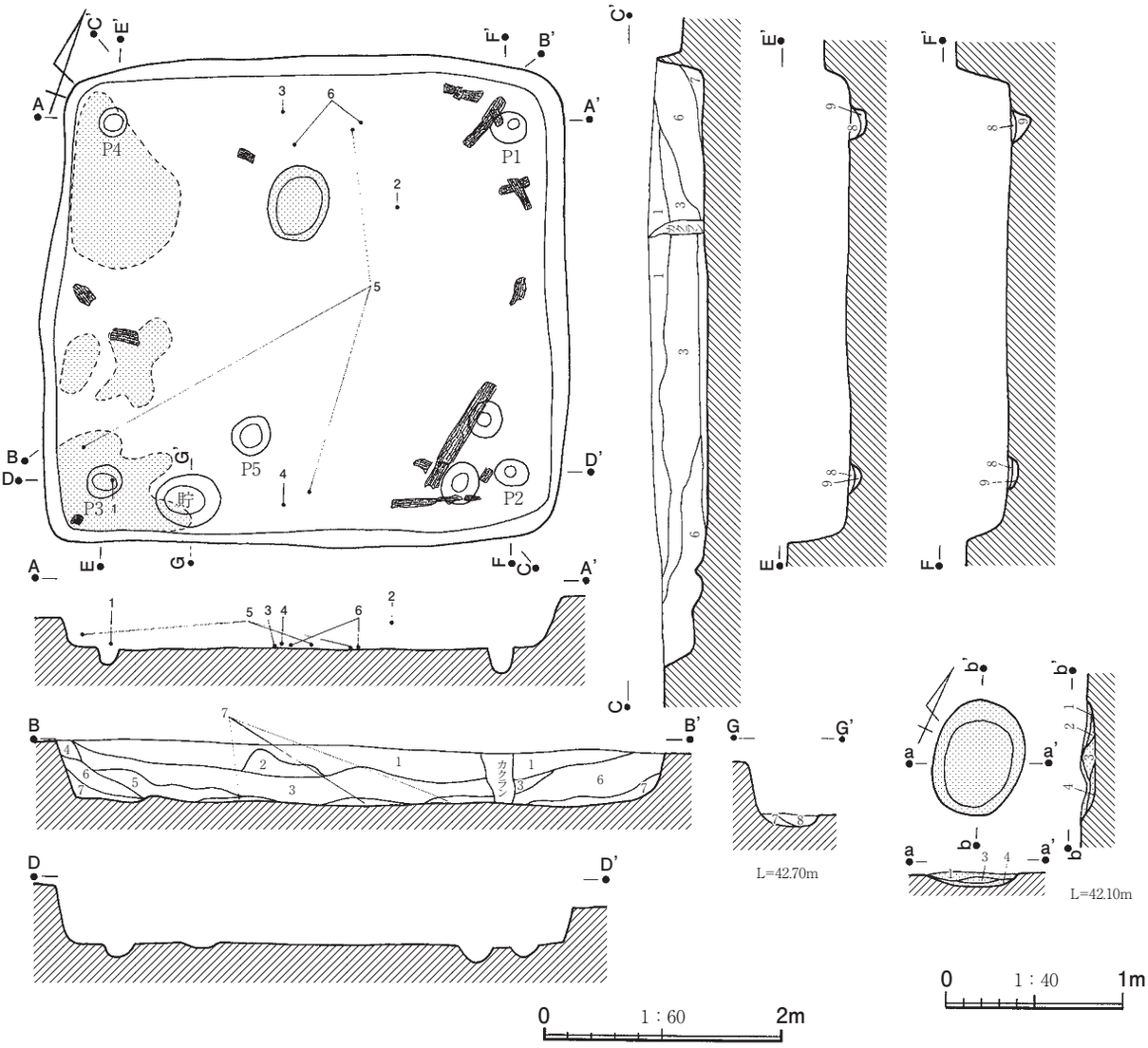
3住
1　7.5YR 2/2 黒褐
2　7.5YR 4/4 褐
3　7.5YR 2/3 極暗褐
4　7.5YR 3/4 暗褐
5　75.YR 4/3 褐

3住炉
1　2.5YR 3/3 暗赤褐　焼土粒を含む
2　2.5YR 3/6 暗赤褐　焼土粒を含む
3　7.5YR 4/6 赤　焼土を主体とする
4　10R 3/4 暗赤　焼土を主体とする

第117図　上谷津第１遺跡３号住居跡

４号住居跡　　遺構：第118図　　遺物：第137図

遺構の状況	炉は中央から北寄り。主柱穴が四隅に浅めに４穴、P2周辺にさらに２穴あり。南辺やや西寄りに階段用柱穴が１穴あり。貯蔵穴は年片西寄りにあり。東壁付近に集中して炭化材、西壁付近に焼土が多く分布する。火災住居の可能性がある。土層はレンズ状に堆積。
遺物の状況	遺物量は多くはない。ハケ甕・ナデ＋ケズリ甕・壺（大型・小型）が出土。細片は甕が壺片が占め、その他の器種片は確認できなかった。
備考	



2住
1　7.5YR 2/2 黒褐　焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 2/2 黒褐　焼土ブロック・炭化物を多く含む
3　10YR 3/4 暗褐　炭化物・ロームブロックを含む
4　10YR 4/4 褐　炭化物・焼土粒を含む
5　10YR 4/6 褐　ロームブロックを含む
6　7.5YR 4/4 褐　ロームブロックを含む
7　7.5YR 4/6 褐　ロームブロックを含む
8　7.5YR 3/1 黒褐　炭化物を多く含む

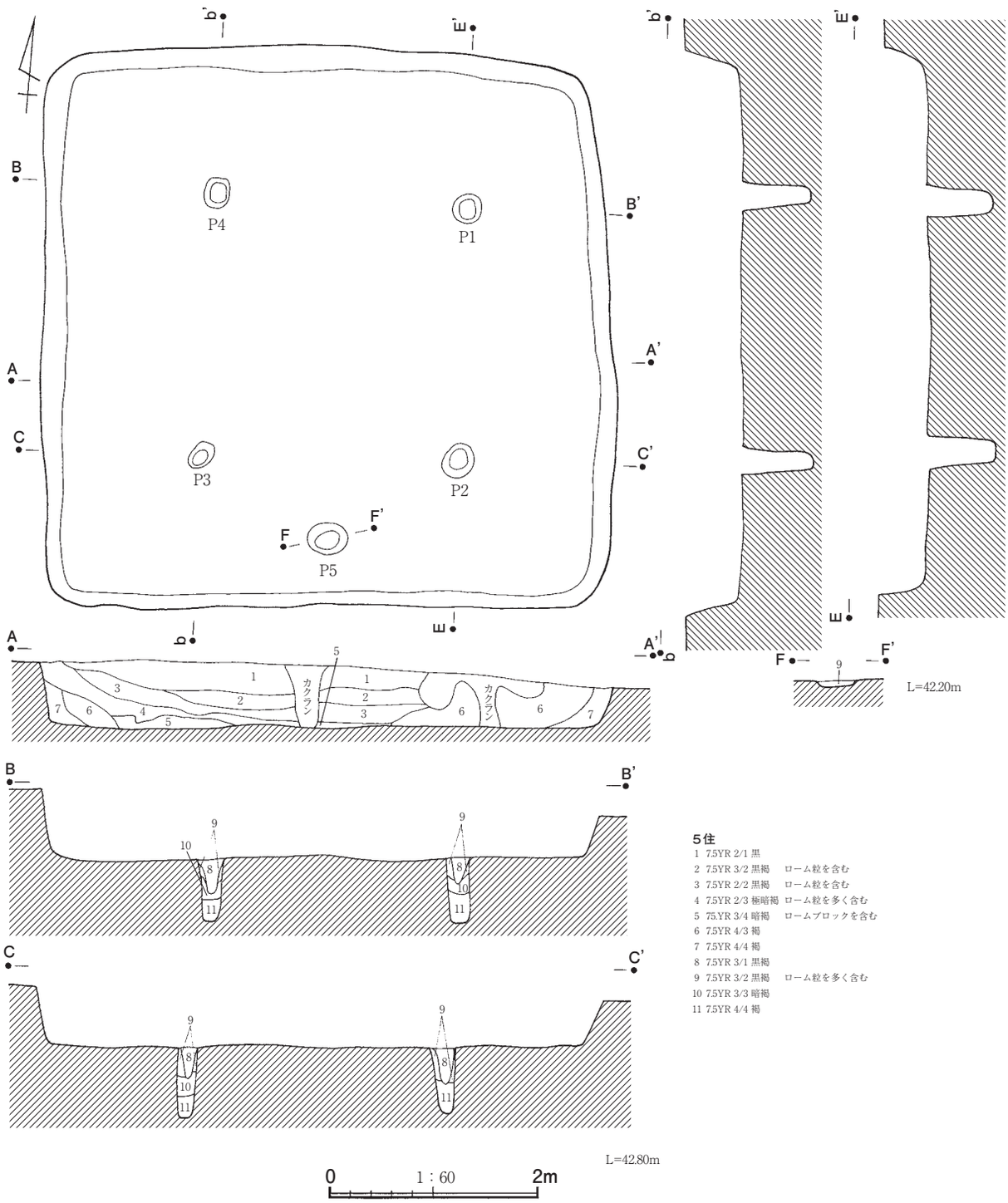
4住
1　7.5YR 2/2 黒褐　ローム粒・炭化物をわずかに含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒・炭化物をわずかに含む
3　10YR 2/2 黒褐　焼土粒・炭化物を含む
4　7.5YR 3/4 暗褐
5　7.5YR 4/4 褐　焼土粒を多く含む
6　7.5YR 3/3 暗褐　褐色土と黒褐色土が斑状にまざる
7　7.5YR 3/2 黒褐
8　7.5YR 3/4 暗褐
9　7.5YR 4/4 褐

4住炉
1　10YR 3/2 暗赤褐　焼土粒を多く含む
2　5YR 2/2 黒褐　焼土粒を含む
3　10YR 3/6 暗赤　焼土粒を主体とする
4　2.5YR 3/6 暗赤褐

第118図　上谷津第１遺跡４号住居跡

５号住居跡　　遺構：第119図　　遺物：第137図

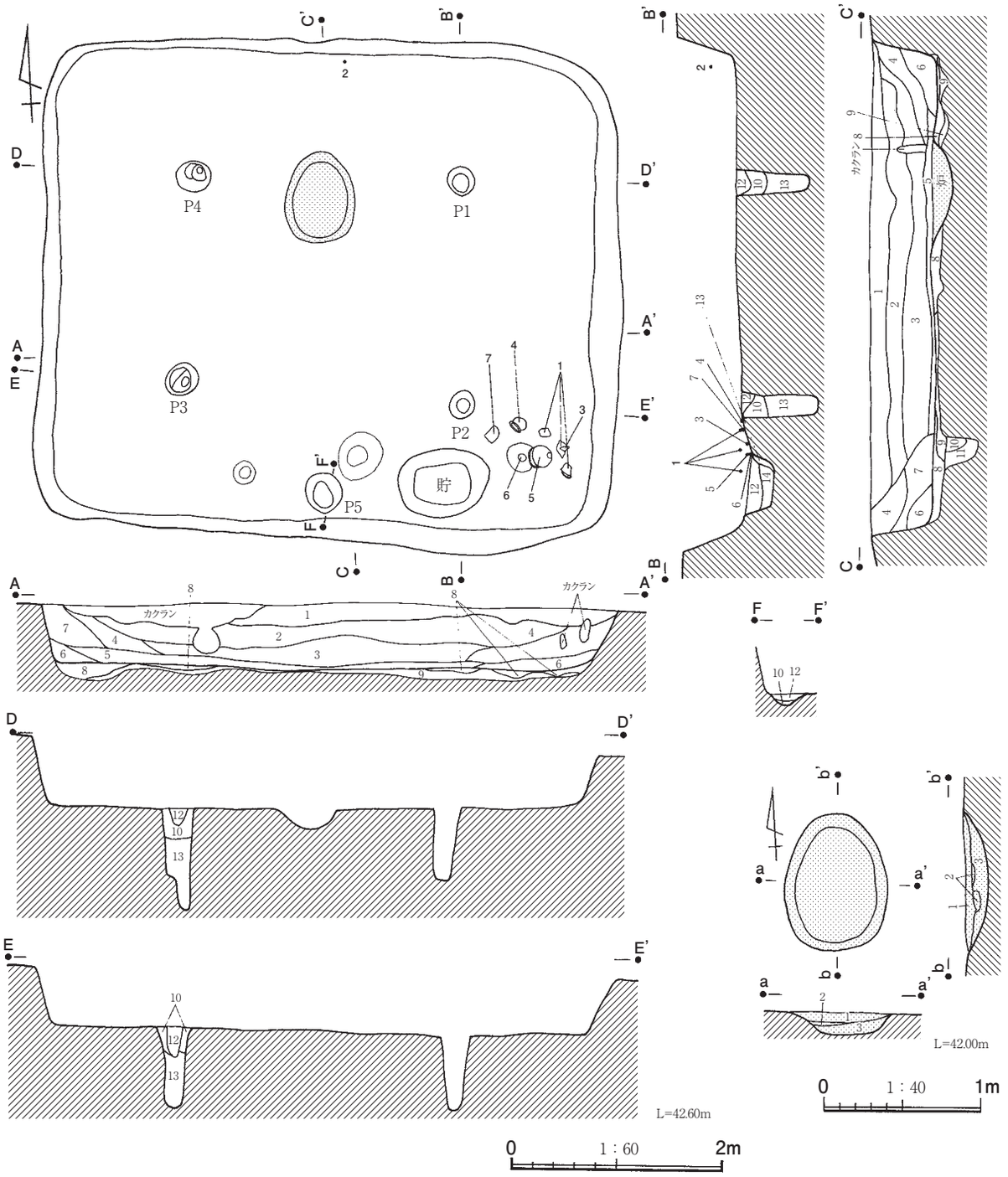
遺構の状況	炉は検出されなかった。柱穴は深いものが４穴。南辺中央部に階段用柱穴が１穴。貯蔵穴もない。土層はレンズ状に堆積。
遺物の状況	遺物もほとんど細片ばかりで少なく、図化できたものはハケ甕の底部のみである。破片の中に、ナデ甕と高杯または器台の杯部のようなものも含まれていた。
備考	平面形状的に住居跡の形態を整えているが、炉がなく、遺物の出土量が極めて少ないことなどから住居して利用された期間が短いか、住居以外のものとして利用した可能性も考慮すべきかもしれない。



第119図　上谷津第１遺跡５号住居跡

６号住居跡　　遺構：第120図　　遺物：第137・138図

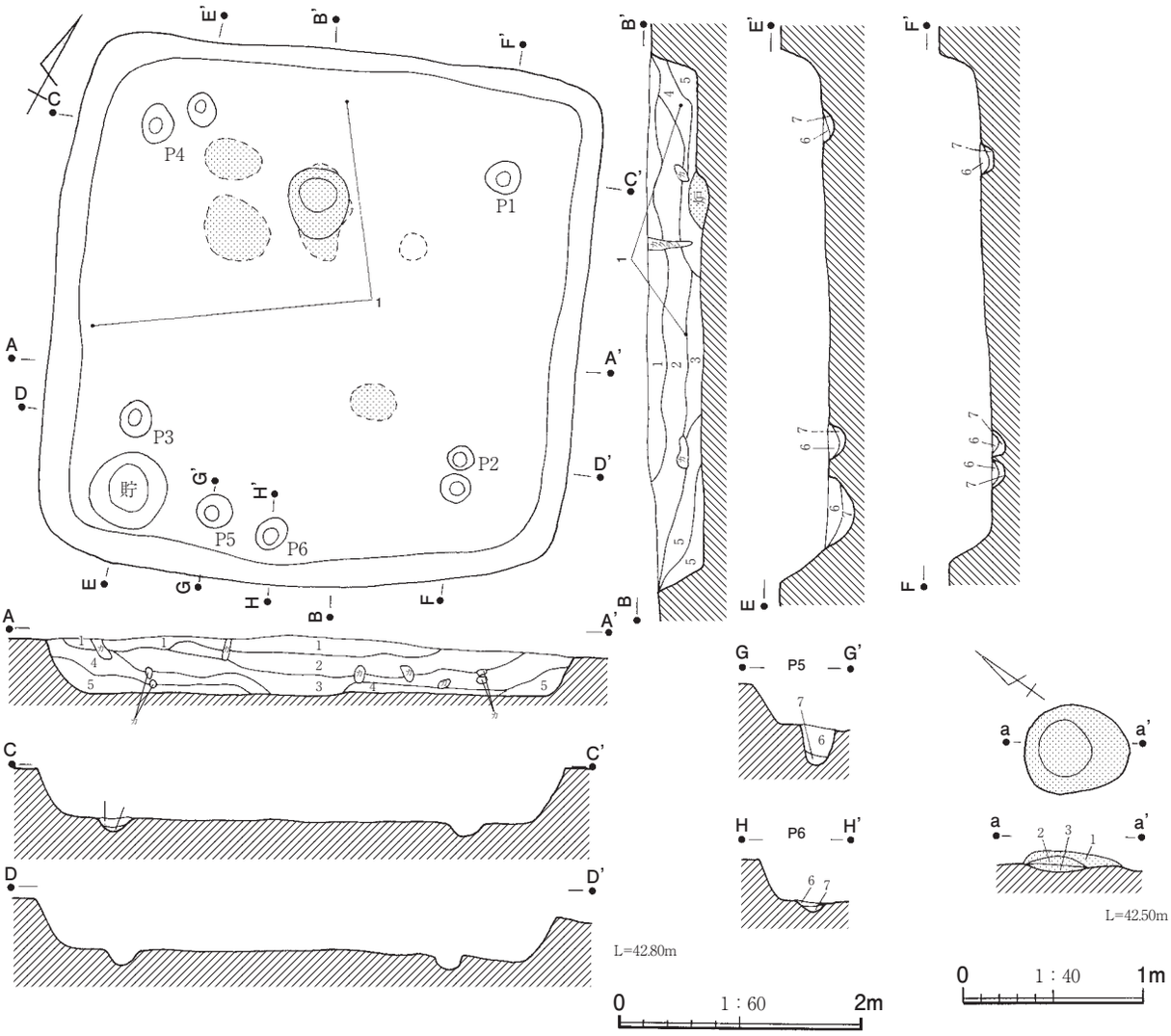
遺構の状況	平面的にやや東西に長い方形を呈する。炉は中央から北寄り。主柱穴は深めの４穴。南辺に階段用柱穴が１穴あり、その周囲に２穴ランダムに柱穴あり。貯蔵穴は南辺東寄りにあり。床は貼り床をして整地している。土層はレンズ状に堆積。
遺物の状況	ハケ甕・ナデ＋ケズリ甕・小型のハケ甕・大型の壺？・高杯が別個体で２個体（杯部と脚部）小型高杯の杯部が出土。本遺跡の中では、高杯がやや多く出土している。甕の頚部は明瞭に屈曲する。
備考	



第120図　上谷津第１遺跡６号住居跡

７号住居跡　　遺構：第121図　　遺物：第138図

遺構の状況	炉は、中央からやや北寄り。主柱穴はやや四隅寄りに浅めのが４穴あり、P2・P4には並列して１穴ずつ敷設。南辺中央よりわずかに西寄りに階段用柱穴が１穴、更に西側に柱穴が１穴あり。貯蔵穴は南西隅にあり、主柱穴P3がそれにともないやや北寄りに。焼土が炉の周辺にやや集中して検出。土層はレンズ状に堆積するが、ブロックがややめだつ。
遺物の状況	遺物はとても少ない。図化できたのは器台脚部のみである。他は細片ばかりで、甕片が主体である。
備考	



第121図　上谷津第１遺跡７号住居跡

６住
1 7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・焼土粒をわずか含む
2 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含む、焼土粒・ロームブロックをまばらに含む
3 7.5YR 2/2 黒褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
4 7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、焼土粒・ロームブロックを少し含む
5 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・ロームブロックを含み、焼土粒を少し含む
6 7.5YR 4/6 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む
7 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、焼土粒を含む
8 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
9 7.5YR 4/6 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを少し含む
10 7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
11 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
12 7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒をわずかに含む
13 7.5YR 4/4 褐　ロームブロックを多く含む
14 7.5YR 4/2 黒褐　ロームブロックをまばらに含む

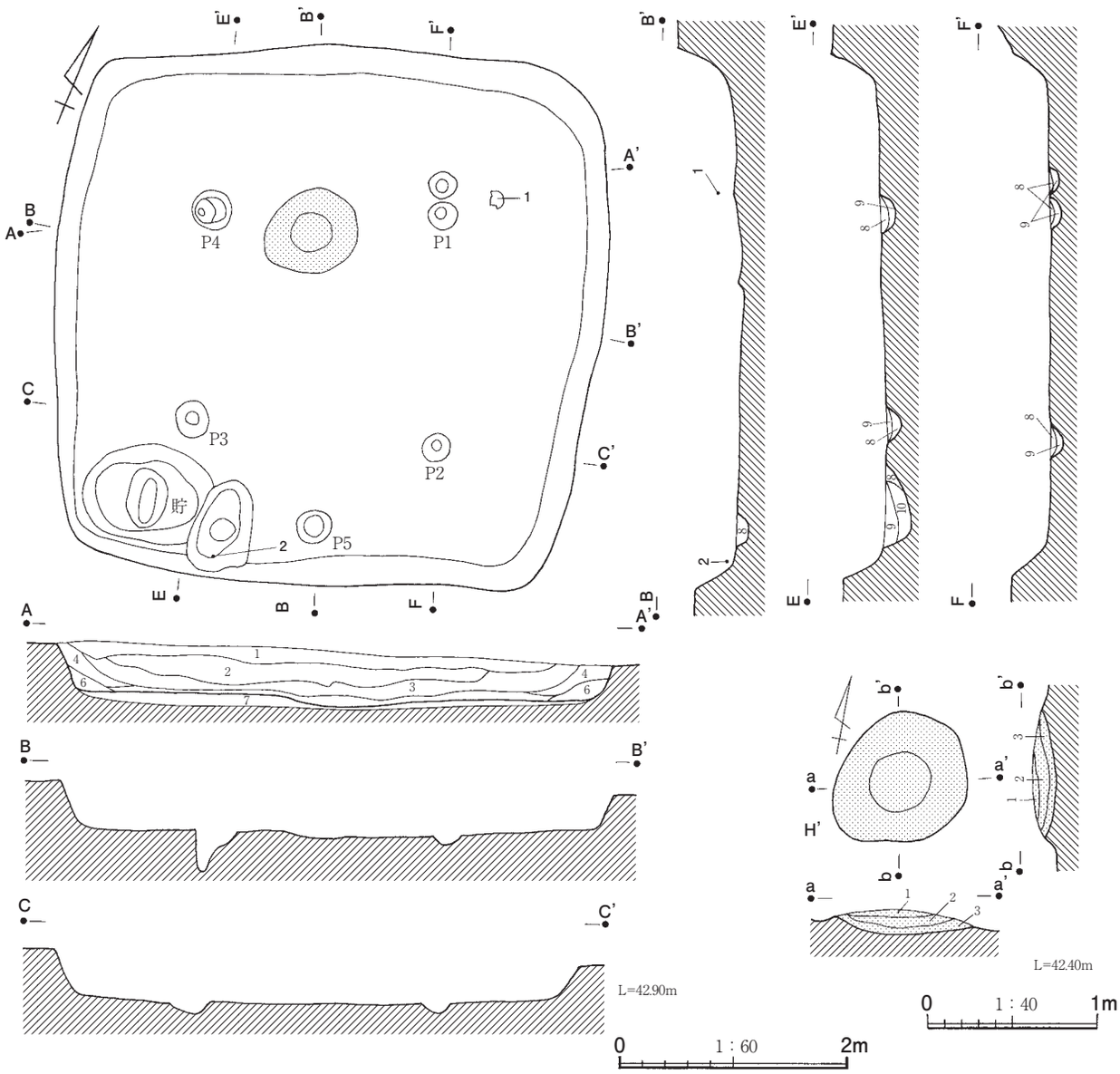
６住炉
1 10R 3/1 暗赤灰　焼土粒を多く含む
2 7.5YR 4/8 赤　焼土を主体とする
3 7.5YR 5/8 明赤褐　焼土を主体とする

７住
1 7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒をわずかに含み、焼土粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
3 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをわずかに含む
4 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
5 7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをわずかに含む
6 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
7 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む

７住炉
1 2.5YR 3/1 暗赤灰　焼土粒・ロームブロックを含む
2 2.5YR 3/3 暗赤褐　焼土粒を主体とする
3 7.5YR 3/3 暗赤褐　焼土粒を主体とするる

８号住居跡　　遺構：第122図　　遺物：第138図

遺構の状況	壁は直に立ち上がらず、やや斜傾している。炉は中央からやや北寄り。主柱穴は中央付近に集まる傾向が見られ、浅めのものが４穴、P1脇に１穴あり。南辺中央部に階段用柱穴が１穴。貯蔵穴は南西隅に２つ併設されるが、切り合い関係は不明である。床は貼り床をして整地している。土層はレンズ状に堆積。
遺物の状況	遺物は少ない。図化したのは小型高杯と木葉痕のつくケズリ甕底部のみである。
備考	



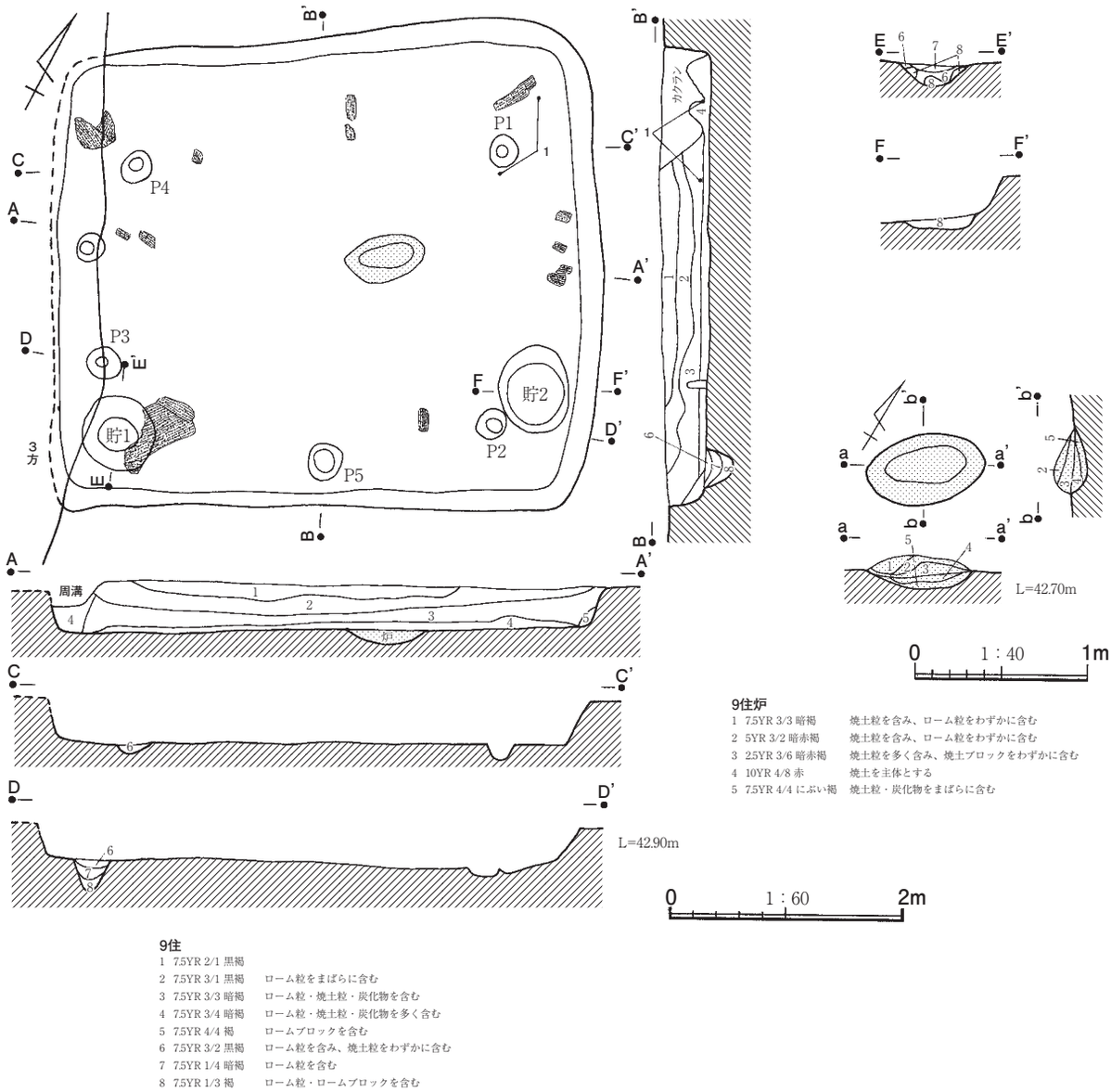
８住
1　7.5YR 3/1 黒褐
2　7.5YR 2/2 黒褐
3　7.5YR 3/3 暗褐　焼土粒をわずかに含む。
4　7.5YR 4/4 褐
5　7.5YR 4/3 褐
6　7.5YR 4/6 褐
7　7.5YR 4/3 褐　ロームブロック・ローム粒・焼土粒を少量含む
8　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む、焼土粒をわずかに含む
9　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
10　7.5YR 4/6 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

８住炉
1　5YR 3/2 暗赤褐　焼土粒を含み、焼土ブロックをまばらに含む
2　2.5YR 3/6 暗赤褐　焼土粒を多く含み、焼土ブロック・ローム粒を含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロック・焼土粒を少し含む

第122図　上谷津第１遺跡８号住居跡

９号住居跡　　遺構：第123図　　遺物：第138図

遺構の状況	平面的にやや東西に長い方形を呈する。炉は中央から東寄り。主柱穴は浅めの４穴。階段用柱穴が南辺に１穴、西辺に１穴あり。貯蔵穴は南西隅と南東隅に２箇所あり。炭化物が中央から放射状を呈しつつ分布する。土層はレンズ状に堆積する。
遺物の状況	遺物は少ない。底部が輪高台を呈するハケ甕が出土。破片は甕片ばかりであった。
備考	西端を３号方形周溝状遺構に切られている。



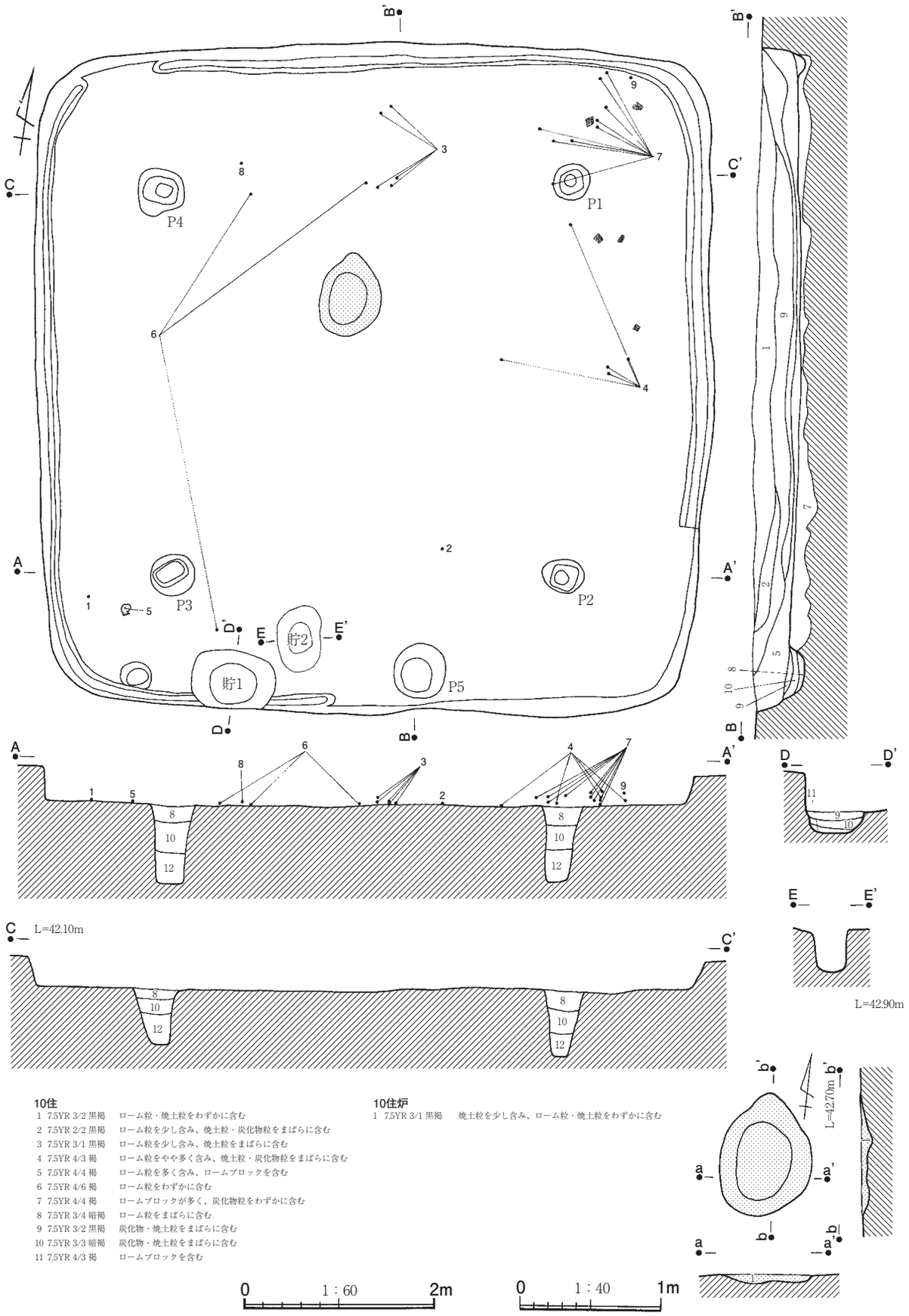
9住炉
1　7.5YR 3/3 暗褐　　焼土粒を含み、ローム粒をわずかに含む
2　5YR 3/2 暗赤褐　　焼土粒を含み、ローム粒をわずかに含む
3　2.5YR 3/6 暗赤褐　　焼土粒を多く含み、焼土ブロックをわずかに含む
4　10YR 4/8 赤　　焼土を主体とする
5　7.5YR 4/4 にぶい褐　　焼土粒・炭化物をまばらに含む

9住
1　7.5YR 2/1 黒褐
2　7.5YR 3/1 黒褐　　ローム粒をまばらに含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　　ローム粒・焼土粒・炭化物を含む
4　7.5YR 3/4 暗褐　　ローム粒・焼土粒・炭化物を多く含む
5　7.5YR 4/4 褐　　ロームブロックを含む
6　7.5YR 3/2 黒褐　　ローム粒を含み、焼土粒をわずかに含む
7　7.5YR 1/4 暗褐　　ローム粒を含む
8　7.5YR 1/3 褐　　ローム粒・ロームブロックを含む

第123図　上谷津第１遺跡９号住居跡

10号住居跡　　遺構：第124図　　遺物：第138図

遺構の状況	炉は中央からやや北寄り。主柱穴は深めの４穴、柱穴下端が方形を呈する。南辺に階段用柱穴が１穴あり。南辺南西隅寄りに１穴。貯蔵穴は南辺の西寄りに２つ併設。南東隅と北東隅の一部を除き壁溝が廻る。床は貼り床をして整地している。土層はレンズ状に堆積。炭化物が北東隅付近に若干分布する。
遺物の状況	ハケ甕・ナデ甕（中型・小型）・小型壺・大型坩・小型坩・小型碗型鉢・器台・甕片に加工した円板は図化した。ハケ甕は木葉痕あり。未図化の破片には、ハケ甕・ナデ甕・器台・高杯か器台の杯部・ミニチュア甕がある。甕の頚部は明瞭に屈曲、小型品は内面に輪積痕があるものも含む。赤彩品ものもある。
備考	本遺跡の中で検出された住居跡の中では最大規模。10号土壙に切られる。



10住

1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒・焼土粒をわずかに含む
2 7.5YR 2/2 黒褐　ローム粒を少し含み、焼土粒・炭化物粒をまばらに含む
3 7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
4 7.5YR 4/3 褐　ローム粒をやや多く含み、焼土粒・炭化物粒をまばらに含む
5 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む
6 7.5YR 4/6 褐　ローム粒をわずかに含む
7 7.5YR 4/4 褐　ロームブロックが多く、炭化物粒をわずかに含む
8 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒をまばらに含む
9 7.5YR 3/2 黒褐　炭化物・焼土粒をまばらに含む
10 7.5YR 3/3 暗褐　炭化物・焼土粒をまばらに含む
11 7.5YR 4/3 褐　ロームブロックを含む

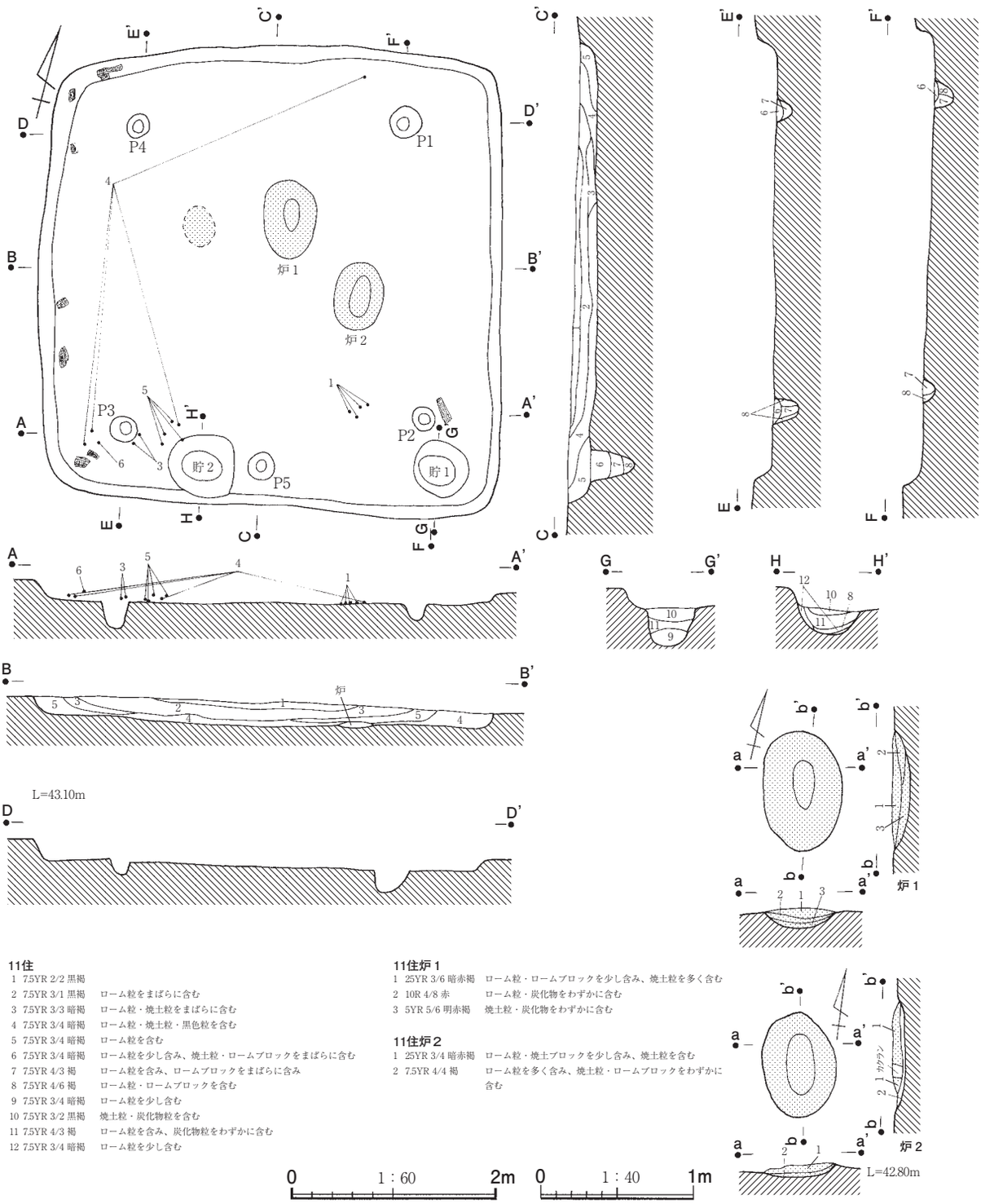
10住炉

1 7.5YR 3/1 黒褐　焼土粒を少し含み、ローム粒・焼土粒をわずかに含む

第124図　上谷津第１遺跡10号住居跡

11号住居跡　　遺構：第125図　　遺物：第138・139図

遺構の状況	炉は中央からやや北寄りに１つ、東寄りに１つの計２箇所。主柱穴は浅めに４穴。南辺中央に階段用柱穴が１穴あり。貯蔵穴は南辺の西寄りと南東隅の２箇所。残存深度は浅い。壁際に炭化物、中央付近に焼土が分布する。火災住居の可能性がある。土層はレンズ状に堆積。
遺物の状況	図化したのは、ナデ甕・棒状浮文付の壺口縁部・複合口縁壺（ナデミガキ）・小型ハケ＋ミガキ壺・坩・ミニチュア鉢がある。未図化には、ハケ甕・ナデ甕・壺口縁・高杯杯部？・軽石がある。
備考	棒状浮文のついた壺が出土したのは、この住居跡だけである。



11住

1	7.5YR 2/2 黒褐	
2	7.5YR 3/1 黒褐	ローム粒をまばらに含む
3	7.5YR 3/3 暗褐	ローム粒・焼土粒をまばらに含む
4	7.5YR 3/4 暗褐	ローム粒・焼土粒・黒色粒を含む
5	7.5YR 3/4 暗褐	ローム粒を含む
6	7.5YR 3/4 暗褐	ローム粒を少し含み、焼土粒・ロームブロックをまばらに含む
7	7.5YR 4/3 褐	ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含み
8	7.5YR 4/6 褐	ローム粒・ロームブロックを含む
9	7.5YR 3/4 暗褐	ローム粒を少し含む
10	7.5YR 3/2 黒褐	焼土粒・炭化物粒を含む
11	7.5YR 4/3 褐	ローム粒を含み、炭化物粒をわずかに含む
12	7.5YR 3/4 暗褐	ローム粒を少し含む

11住炉１

1	25YR 3/6 暗赤褐	ローム粒・ロームブロックを少し含み、焼土粒を多く含む
2	10R 4/8 赤	ローム粒・炭化物をわずかに含む
3	5YR 5/6 明赤褐	焼土粒・炭化物をわずかに含む

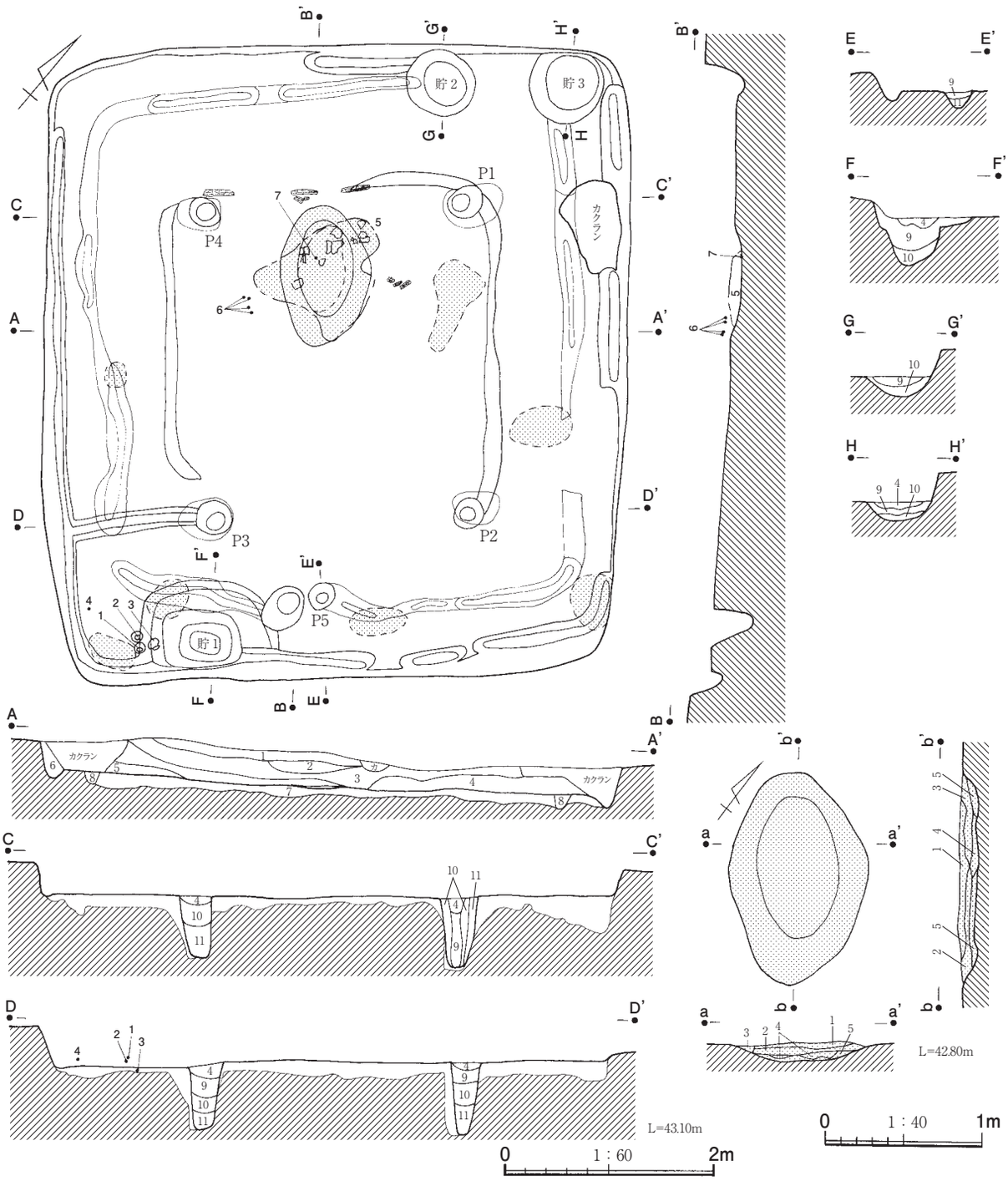
11住炉２

1	25YR 3/4 暗赤褐	ローム粒・焼土ブロックを少し含み、焼土粒を含む
2	7.5YR 4/4 褐	ローム粒を多く含み、焼土粒・ロームブロックをわずかに含む

第125図　上谷津第１遺跡11号住居跡

12号住居跡　　遺構：第126図　　遺物：第139図

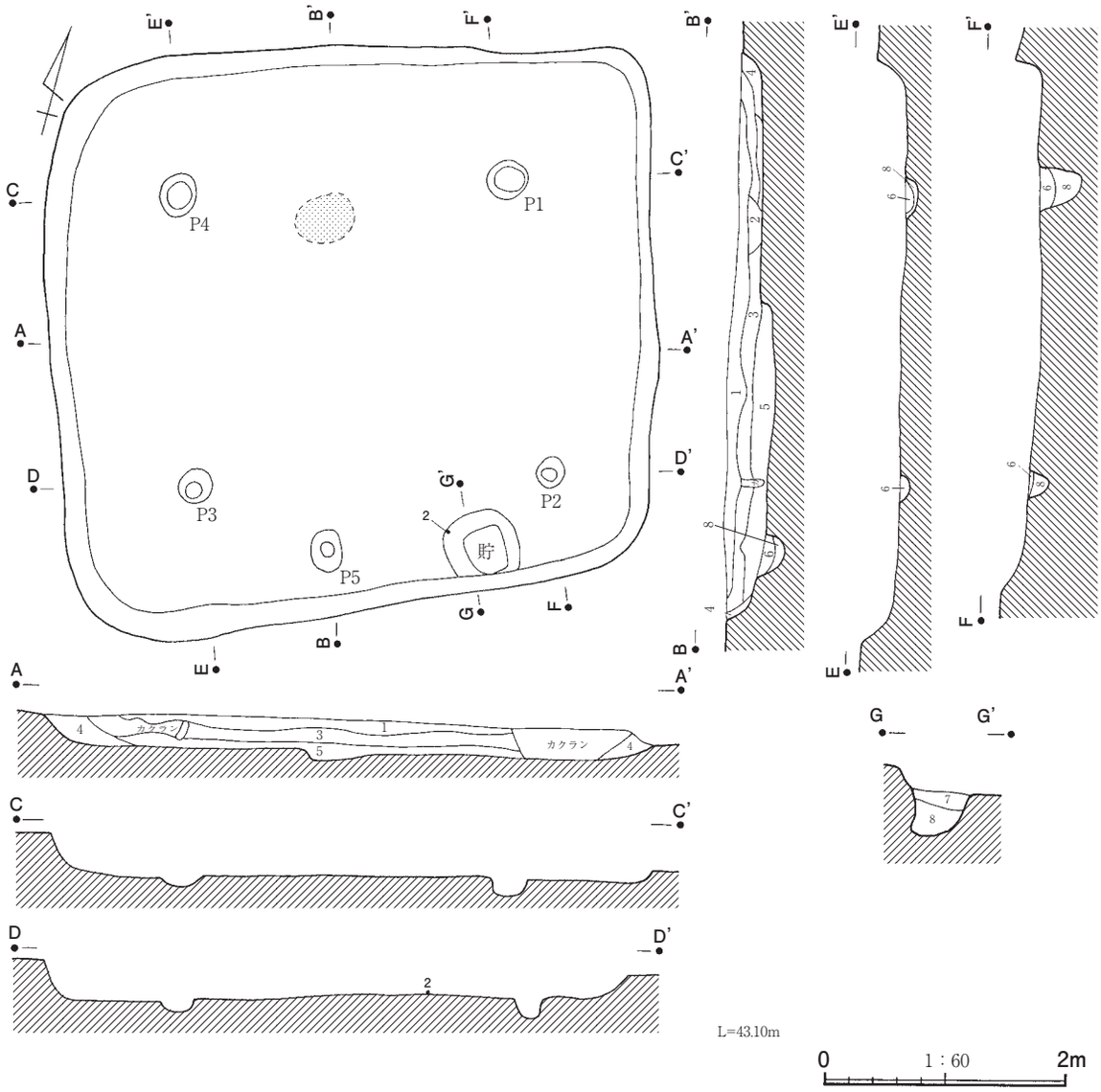
遺構の状況	この住居跡は建て替えを行っている。旧住居跡の壁溝が内周し、その内側には１段段差がある。所謂、ベッド状遺構であろうか。炉は中央やや北寄りで、新旧同じ場所であったようである。主柱穴は深めの４穴で、これも新旧ほぼ同じ位置である。南辺中央に階段用柱穴が１穴あり。貯蔵穴は北東隅と北片東寄りの２箇所と南辺西寄りに溝を廻らすもの１箇所の計３箇所あり。旧住居跡には貯蔵穴がなかったようである。壁溝は新旧ともに廻るが、新住居は貯蔵穴とP3の間仕切り溝もある。新住居は貼り床される。炭化物・焼土も新住居に伴う。土層はレンズ状に堆積。
遺物の状況	口唇部に指頭押圧の刻みがあるハケ甕・ハケ＋ミガキ壺・小型ハケ甕・皿形鉢・土製勾玉が出土。未図化には、ハケ甕・ナデ甕・高杯杯部（２個体）がある。ハケ甕の頚部は屈曲しない。
備考	指頭押圧刻みの口唇部をもつハケ甕と土製勾玉はこの遺跡では唯一。皿形鉢は16号住居跡とこの住居跡だけ。この遺構が９・12号土壙を切る。



第126図　上谷津第１遺跡12号住居跡

13号住居跡　　遺構：第127図　　遺物：第139図

遺構の状況	壁は直に立ち上がらず、やや斜傾している。炉は中央やや北寄りに焼土が検出されているが確定ではない。主柱穴は浅めの４穴。貯蔵穴は南辺東寄りに１つ。南辺中央に階段用柱穴が１穴あり。土層はレンズ状に堆積。
遺物の状況	遺物は少ない。図化したのは、大型坩口縁部とハケ調整碗型鉢？だけである。未図化には、ハケ甕・ナデ甕・高杯？の破片が少量ある。
備考	



第127図　上谷津第１遺跡13号住居跡

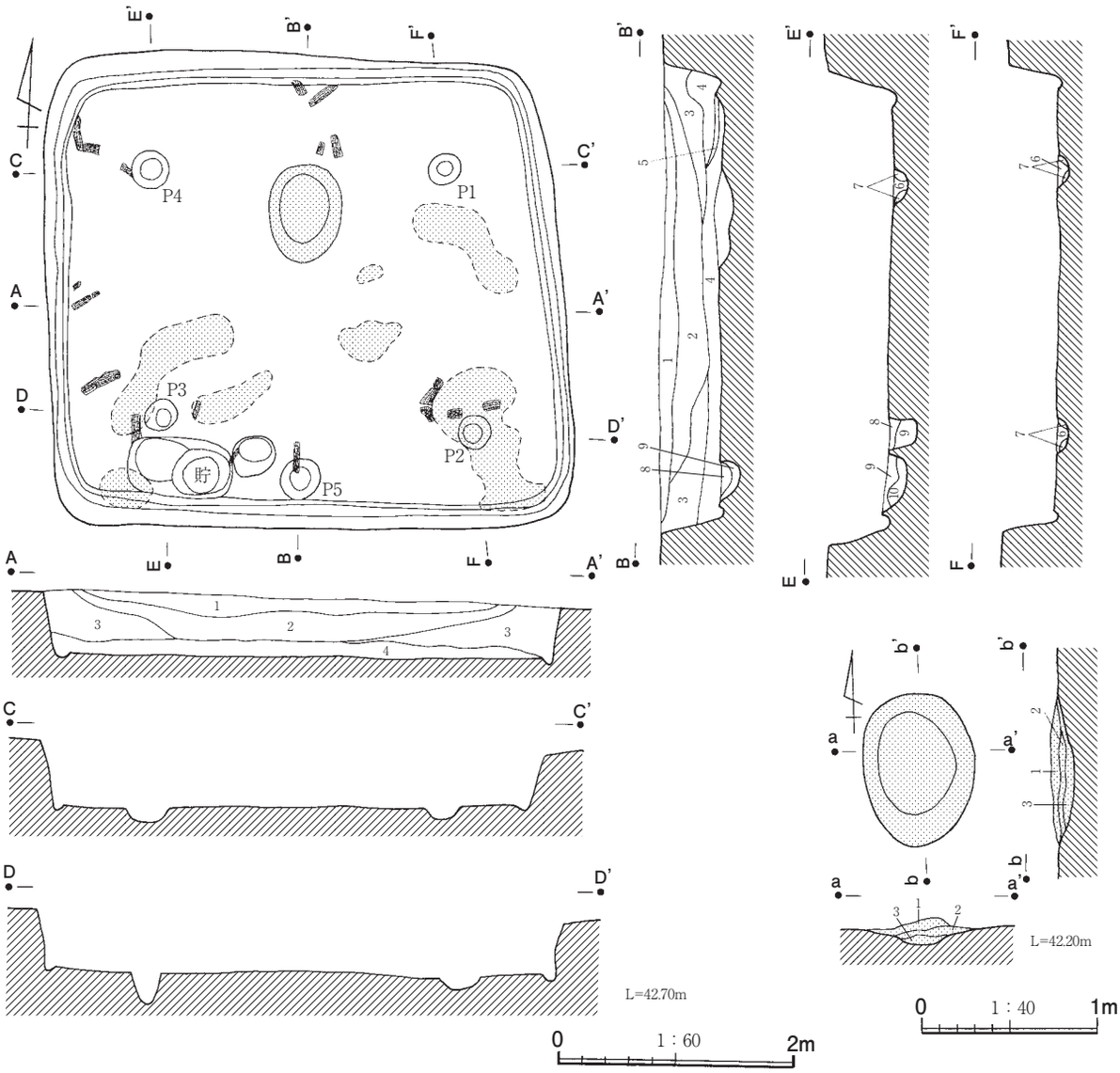
12住
1 7.5YR 2/1 黒　ローム粒をまばらに含む
2 7.5YR 2/3 極暗褐　焼土粒を含む
3 7.5YR 2/2 黒褐　焼土粒を含む
4 7.5YR 3/3 暗褐　焼土粒・ローム粒を含む
5 7.5YR 4/3 褐　炭化物・焼土ブロック・ローム粒を多く含む
6 7.5YR 4/4 褐　ロームブロックを含む
7 7.5YR 4/6 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む
8 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含む
9 7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
10 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを少し含む
11 7.5YR 4/6 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む
12 7.5YR 5/6 明褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

12住炉
1 2.5YR 3/1 暗赤灰　ローム粒・焼土粒をまばらに含む
2 10YR 3/3 暗赤褐　焼土ブロックを多く含む
3 5YR 3/1 黒褐　ローム粒を多く含む
4 10YR 3/3 暗赤褐　炭化物を多く含む
5 5YR 5/1 明赤褐　ロームブロックを主体とする

13住
1 7.5YR 2/1 黒　ローム粒をわずかに含む
2 7.5YR 3/4 暗褐　焼土粒をまばらに含む
3 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をまばらに含む
4 7.5YR 4/3 褐
5 7.5YR 4/6 褐　ロームブロックをまばらに含む
6 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を少し含む
7 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、焼土粒・炭化物をまばらに含む
8 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む

15号住居跡　　遺構：第128図　　遺物：ー

遺構の状況	炉は中央やや北寄り。主柱穴は浅めの４穴。南辺中央に階段用柱穴１穴。貯蔵穴は南辺西側に２つ並列しているが、切り合い関係などは不明。壁も溝が全周する。炭化物・焼土が全体的に分布。火災住居の可能性あり。土層はレンズ状に堆積。
遺物の状況	遺物はほとんどない。破片もハケ甕の小片が数個出土しただけ。
備考	



第128図　上谷津第１遺跡15号住居跡

15住
1　7.5YR 3/3 暗褐　　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/1 黒褐　　ローム粒をわずかに含み、焼土粒・炭化物粒をまばらに含む
3　7.5YR 4/3 褐　　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
4　7.5YR 3/4 暗褐　　ローム粒・ロームブロックを含み、焼土粒・炭化物粒を少し含む
5　2.5YR 3/6 暗赤褐　焼土粒を多く含む
6　7.5YR 3/2 黒褐　　ローム粒をわずかに含み、焼土粒をまばらに含む
7　7.5YR 4/4 褐　　ローム粒多く含み、ロームブロックを少し含む
8　7.5YR 3/3 暗褐　　ローム粒含み、ロームブロックをまばらに含む
9　7.5YR 4/3 褐　　ローム粒含み、ロームブロックをわずか含む
10　7.5YR 3/2 黒褐　　ローム粒少し含み、焼土粒・炭化物粒をまばらに含む

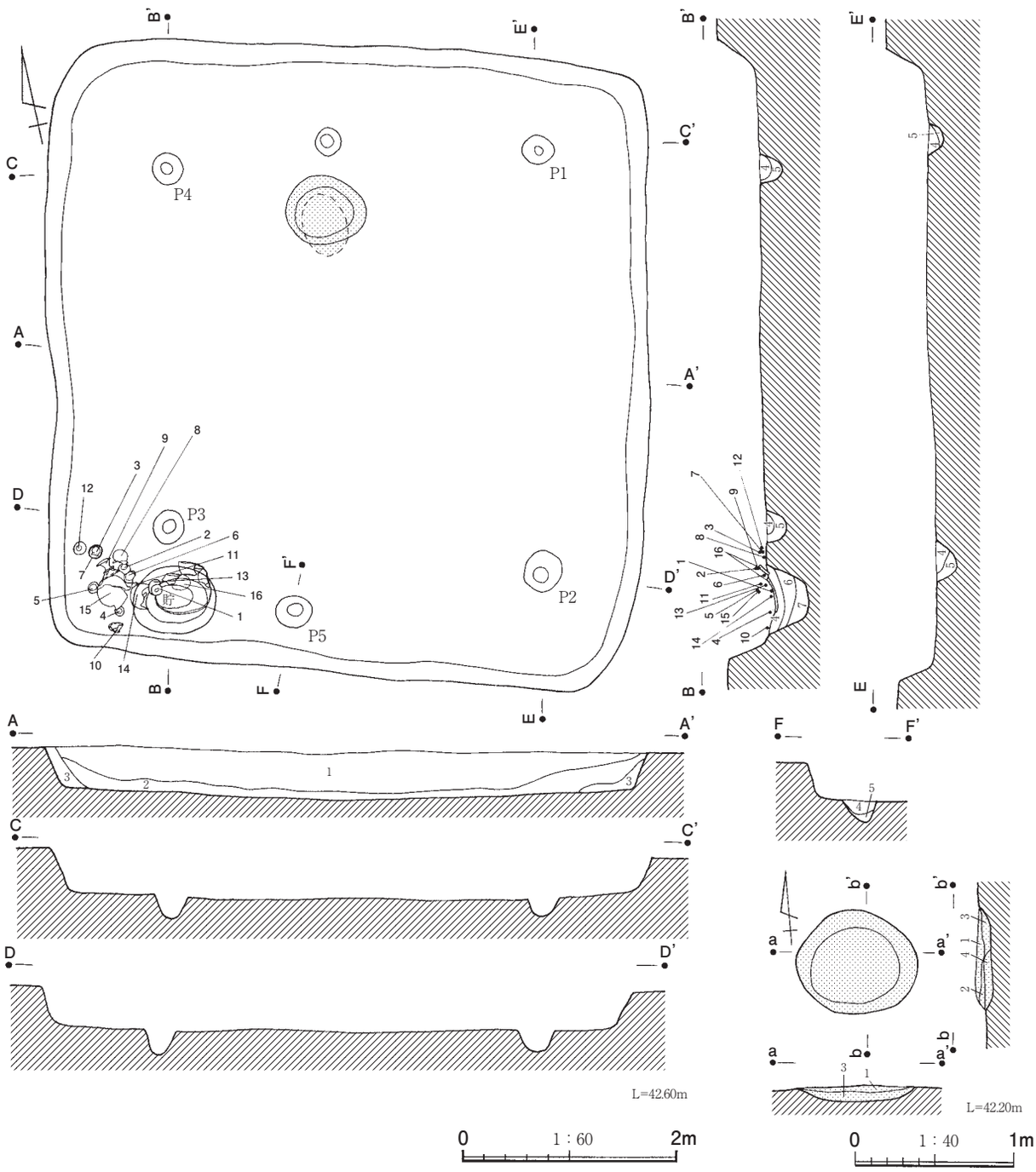
15住炉
1　5YR 3/6 暗赤褐　　ローム粒を少し含み、焼土粒・炭化物粒を含む
2　25YR 3/6 暗赤褐　ローム粒・焼土ブロックをまばらに含み、焼土粒を多く含む
3　2.5YR 4/6 赤褐　　ロームブロックを含む

16住
1　7.5YR 3/2 黒褐　　ローム粒・焼土粒をやや含む
2　7.5YR 4/3 褐　　ローム粒・炭化物粒を含む
3　7.5YR 5/4 にぶい褐　焼土粒・炭化物粒をやや多く含む
4　7.5YR 4/2 灰褐　　ソフトロームブロックを含み、焼土粒、炭化物粒を微量含む
5　7.5YR 5/6 明褐　　ソフトロームを主体とし、黒色土が斑状に混じる
6　7.5YR 4/3 褐　　ローム粒を微量に含む
7　7.5YR 4/4 褐　　ロームブロックを少量含む

16住炉
1　2.5YR 3/2 暗赤褐　　焼土粒を含み、ソフトロームを含む
2　2.5YR 4/2 灰赤　　焼土粒をやや多く含み、ソフトロームを含む
3　7.5YR 5/4 にぶい褐　焼土粒を多く含む
4　75YR 4/1 褐灰　　焼土粒を微量含む

16号住居跡　　遺構：第129図　　遺物：第139・140図

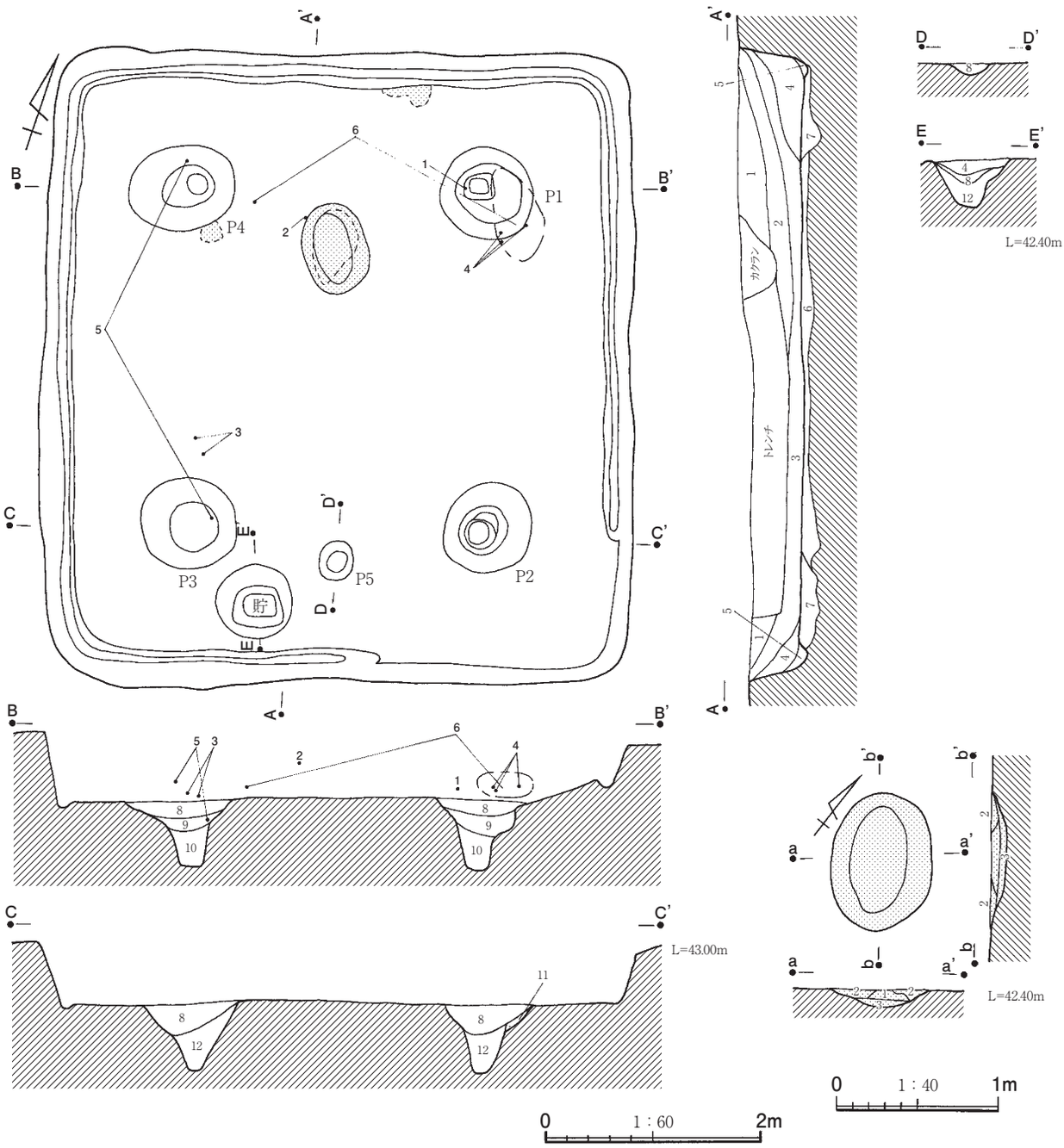
遺構の状況	炉は中央から北寄り。主柱穴は浅めの４穴。南辺西寄りに階段用柱穴が１穴あり。炉のすぎ北側に１穴。貯蔵穴は南辺西寄りに１つ。遺物が貯蔵穴周辺でまとまって出土。土層はあまり細かい層をなさず、大まかにレンズ状に堆積。
遺物の状況	遺物は完形品が非常に多い。ハケ甕・ハケ＋ミガキ大型壺？・装飾器台・小型ハケ壺・小型ナデ甕・鉢類（碗型・皿型）・小型碗型鉢・手捏土器（甕型・鉢形）が出土。破片は少なく、ハケ状工具による刻み口唇のハケ甕片・ナデ甕片がある。ハケ甕の頚部は明瞭に屈曲する。
備考	装飾器台は、胎土は在地的な雰囲気を呈するが、透かしや杯部の張り出しなどに北陸系の影響が見られる。１・６号住居跡の大型壺の底部の存在と類似し、破損後の再利用の可能性あり。皿形鉢は12・16号住居跡で出土。



第129図　上谷津第１遺跡16号住居跡

17号住居跡　　遺構：第130図　　遺物：第140図

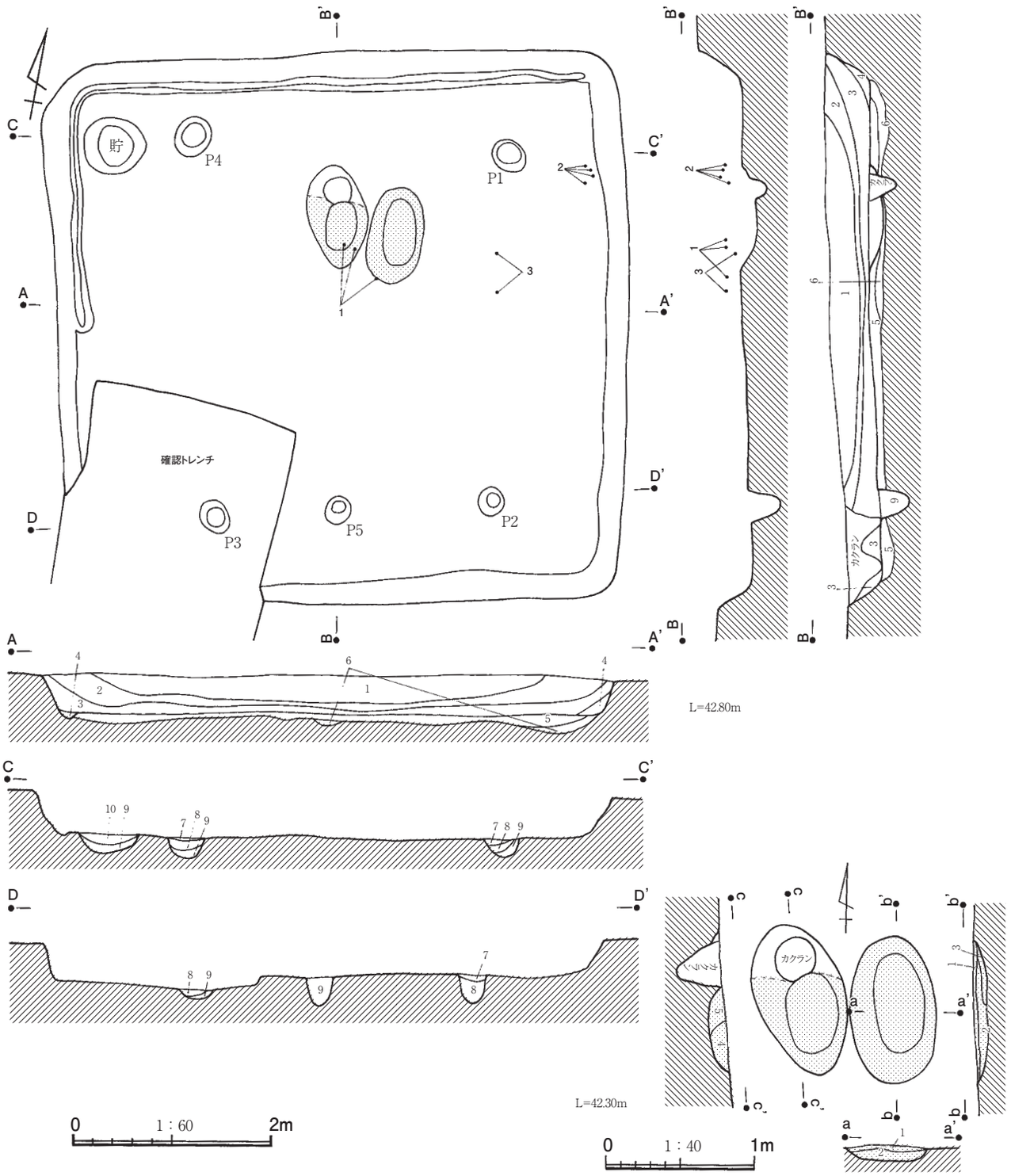
遺構の状況	炉は中央から北寄り。主柱穴は深めの４穴、全て抜き取ったようで上半が擂鉢状に広がっている。P1の底部は方形を呈する。南辺中央に階段用柱穴１穴。貯蔵穴は南辺西寄りに１つ。床は貼り床である。南東隅を除いて壁溝が廻る。土層はレンズ状に堆積。
遺物の状況	小型ナデ甕・ミガキ壺？・小型高杯杯部・高杯（杯部・脚部）・器台が出土。未図化は、ハケ甕・ナデ甕・小型坩片がある。
備考	



第130図　上谷津第１遺跡17号住居跡

18号住居跡　　遺構：第131図　　遺物：第140図

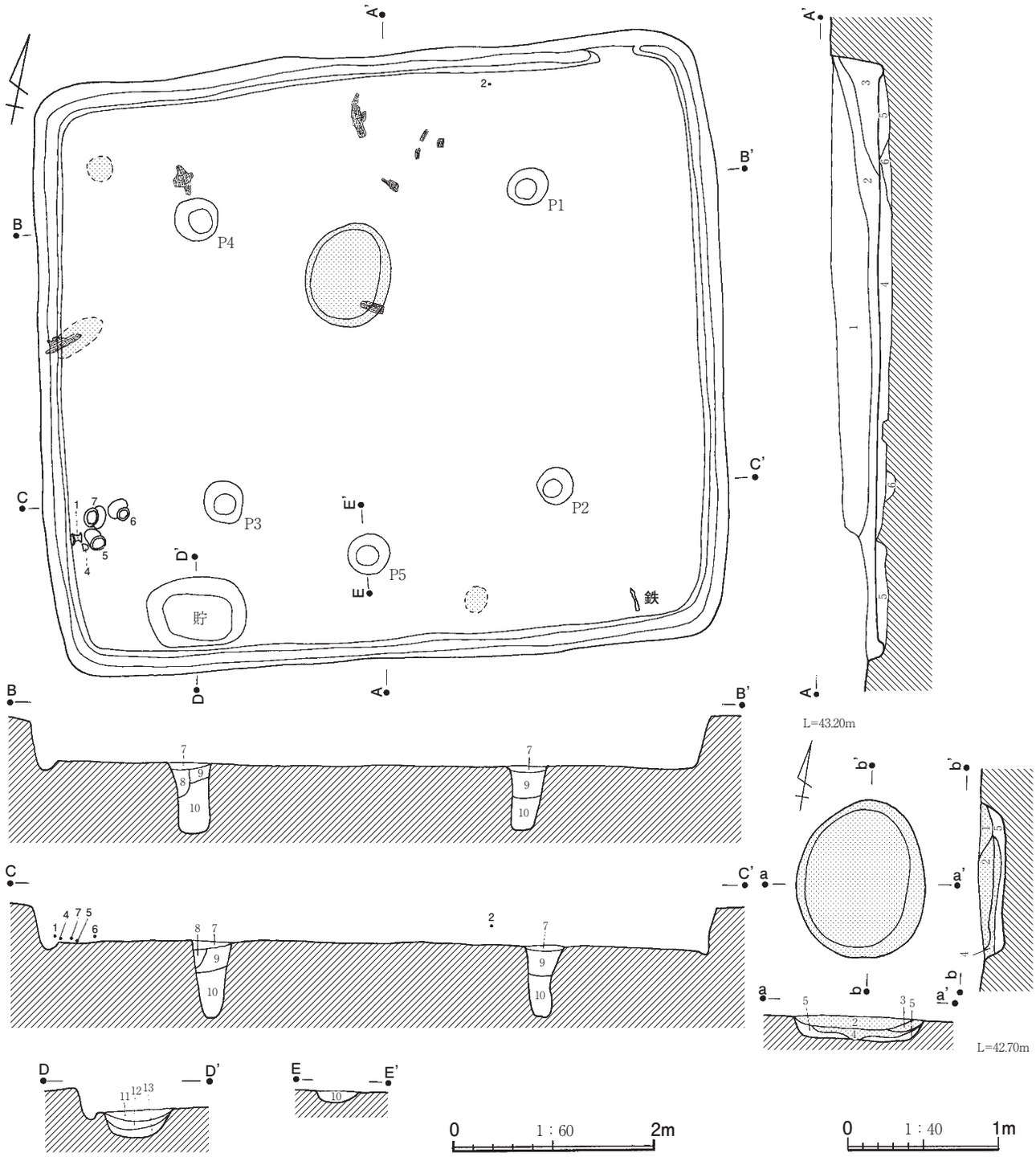
遺構の状況	遺構の南西隅は破壊。炉は中央から北寄りに２つ併存する。主柱穴は浅めが４穴。南辺中央に階段用柱穴１穴。貯蔵穴は北西隅に１つ。壁溝は北辺と北西隅に廻る。床は貼り床。土層はレンズ状に堆積。
遺物の状況	二重口縁壺口縁部・小型高杯杯部が出土。未図化は、ハケ甕・ナデ甕（赤彩？）・高杯・小型坩・手捏土器がある。二重口縁壺は、色調・胎土が在地とは異なるので搬入品の可能性がある。
備考	



第131図　上谷津第１遺跡18号住居跡

19号住居跡　　遺構：第132図　　遺物：第141図

遺構の状況	平面的にやや東西に長い方形を呈する。炉は中央から北寄り。主柱穴は深めの４穴。南辺に階段用柱穴が１穴。貯蔵穴は南辺西寄りに１つ。壁溝は北東隅の一部を除きほぼ全周。床は貼り床。炭化物・焼土が散在する。土層はレンズ状に堆積。
遺物の状況	ハケ甕（ハケ状工具による刻み口唇・素口縁）・器台・小型坩・小型精製鉢が出土。甕は、底部に穿孔されているのが一点、木葉痕のもの二点あり。木葉痕のつく甕の胎土は在地のものとは異なるので搬入品の可能性がある。未図化は、ハケ甕・ナデ甕・折返口縁壺・小型ナデ甕？がある。
備考	未図化分にナデの折返口縁壺片が意外にある。



第132図　上谷津第１遺跡19号住居跡

17 住

1	7.5YR 3/1 黒褐	ローム粒をやや多く含み、焼土粒を少し含む
2	7.5YR 4/3 褐	ローム粒・ロームブロックをやや多く含み、焼土粒を少し含む
3	7.5YR 4/2 灰褐	ローム粒・ロームブロックをやや多く含み、焼土粒を少し含む
4	7.5YR 3/2 黒褐	ローム粒を少し含む
5	7.5YR 3/3 暗褐	ローム粒を少し含み、ソフトローム粒を斑状に含む
6	7.5YR 5/3 にぶい褐	ソフトロームを斑状に多く含む
7	7.5YR 4/2 灰褐	ローム粒・ロームブロックを多く含む
8	7.5YR 4/2 灰褐	ローム粒を含む
9	7.5YR 4/3 褐	ローム粒・ロームブロックをやや含む
10	7.5YR 4/4 褐	ローム粒・ロームブロックを多く含む
11	7.5YR 4/4 褐	ローム粒・ロームブロックをやや多く含む
12	7.5YR 4/3 褐	ローム粒・ロームブロックをやや多く含む

17 住炉

1	2.5YR 3/3 暗赤褐	ローム粒を少し含み、焼土粒・焼土ブロックを含む
2	2.5YR 3/1 暗赤褐	ローム粒・炭化物粒・灰を少し含む
3	2.5YR 4/2 灰赤	焼土粒・焼土ブロックを多く含む

18 住

1	7.5YR 2/1 黒	ローム粒多く、焼土粒を少量含む
2	7.5YR 4/2 灰褐	褐色土をやや含む
3	7.5YR 4/4 褐	褐色土を斑状に多く含む
4	7.5YR 5/6 暗褐	ローム粒を多く含み、褐色土を多く含む
5	7.5YR 4/2 灰褐	ローム粒・ロームブロックを含む
6	7.5YR 5/4 にぶい褐	ハードロームブロックを多く含む
7	7.5YR 3/4 暗褐	ローム粒少し含む
8	7.5YR 4/4 褐	ローム粒を多く含み、ロームブロックを少し含む
9	7.5YR 4/3 褐	ローム粒・ロームブロックを含む
10	7.5YR 4/2 灰褐	ローム粒をやや多く含む

18 住炉

1	2.5YR 3/2 暗赤褐	ローム粒をわずかに含む
2	2.5YR 4/3 にぶい赤褐	ローム粒をわずかに含む
3	7.5YR 4/3 褐	ローム粒をわずかに含む
4	7.5YR 4/2 灰褐	ローム粒をわずかに含む
5	7.5YR 5/4 にぶい褐	焼土粒・ローム粒・ロームブロックを少量含む

19 住

1	7.5YR 3/1 黒褐	ローム粒を多く含み、焼土炭化物を少し含む
2	7.5YR 4/3 褐	ソフトロームをまばらに含む
3	7.5YR 4/4 褐	ローム粒を多く含み、焼土炭化物をやや多く含む
4	7.5YR 4/3 褐	ローム粒・ソフトロームブロックを多く含む
5	7.5YR 3/2 黒褐	ローム粒・ハードブロックをやや含む
6	7.5YR 5/6 明褐	ハードロームブロックを主体的に含む
7	7.5YR 3/3 暗褐	ローム粒をわずかに含む
8	7.5YR 4/4 褐	ローム粒・ロームブロックを含む
9	7.5YR 3/4 褐	ローム粒を多く含み、ロームブロックを少し含む
10	7.5YR 4/3 褐	ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む
11	7.5YR 4/2 灰褐	ローム粒をやや多く含む
12	7.5YR 3/2 黒褐	ローム粒・ロームブロックをやや多く含む
13	7.5YR 3/2 灰褐	ローム粒・ロームブロックをやや多く含む

19 住炉

1	2.5YR 3/1 暗赤灰	焼土粒を少量含む
2	2.5YR 3/2 暗赤褐	焼土粒・焼土ブロックをやや多く含む
3	7.5YR 4/3 褐	ローム粒・ソフトロームブロックをやや含む
4	2.5YR 3/2 暗赤褐	焼土粒・ロームブロックを多く含む
5	7.5YR 4/2 灰褐	ハードロームブロックを含む

20号住居跡　　遺構：第133図　　遺物：第141図

遺構の状況	遺構の南東隅が破壊。炉は中央から西寄り。主柱穴がなく、東辺中央に階段用柱穴が１穴。その北側に更に１穴あり。極めて簡素な印象である。
遺物の状況	遺物量は少ない。図化したのは、ハケ甕とナデ甕の底部・ミニチュア土器の底部のみである。未図化は、ハケ甕・ナデ甕・高杯杯部・折返口縁壺の破片がある。ハケは幅が広いものと狭いものの２種類みられる。
備考	本遺跡で検出された住居跡の中では最小規模である。20号方形周溝状遺構に切られる。

21号住居跡　　遺構：第133図　　遺物：第142図

遺構の状況	炉は中央から西寄りと北西寄りの２つ。主柱穴がなく、南辺中央に階段用柱穴が１穴。貯蔵穴は南西隅に１つ。床は貼り床。壁溝は、西側に一部にのみあり。土層はレンズ状に堆積。
遺物の状況	ハケ甕・ナデ甕・小型ハケ甕・折返口縁壺（ハケとミガキの２種）・碗型鉢が出土。未図化は、ハケ甕・ナデ甕・小型坩？がある。
備考	

22号住居跡　　遺構：第134図　　遺物：第142図

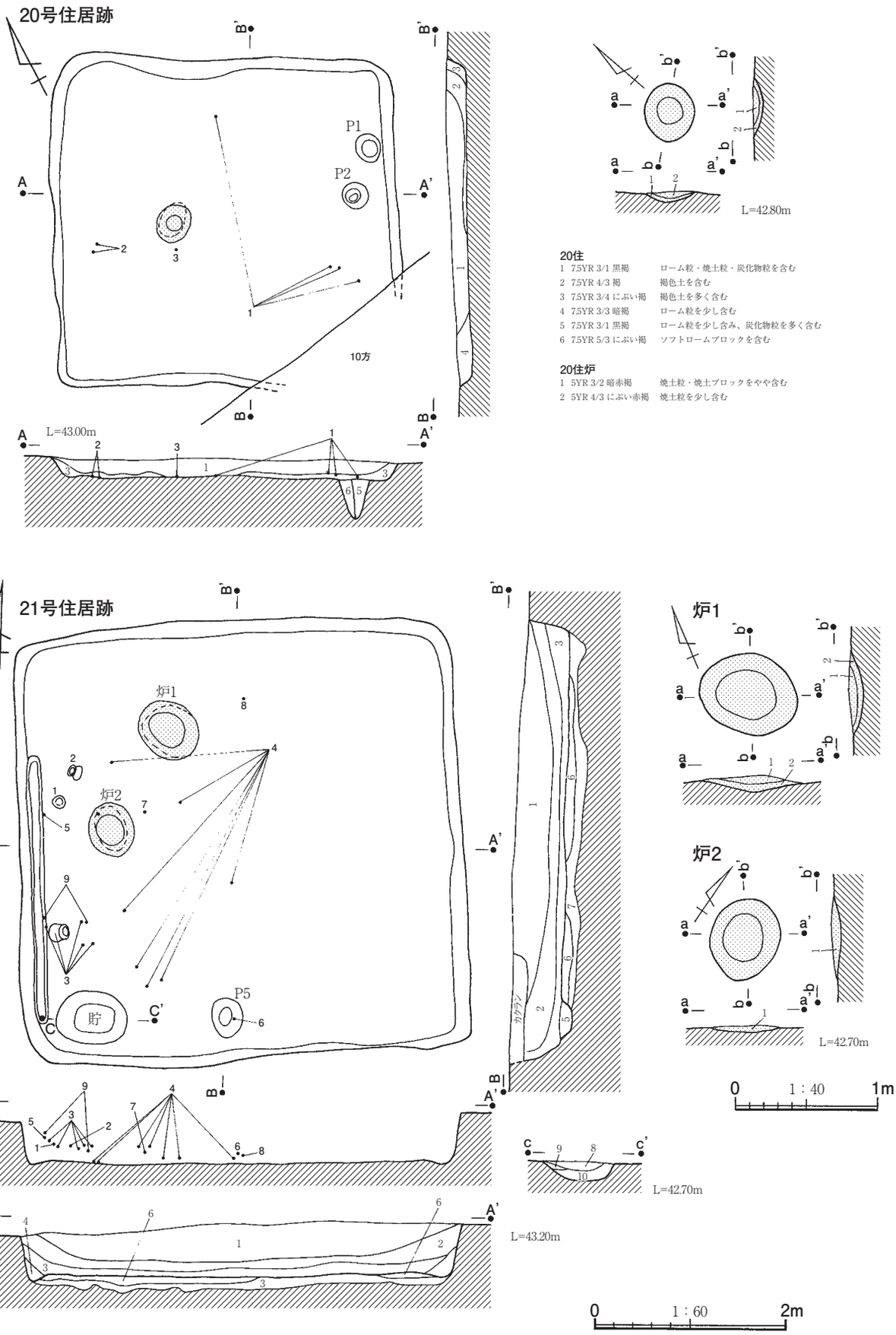
遺構の状況	炉は中央からやや北西寄りに１つ。主柱穴がなく、南辺中央に階段用柱穴が１穴。その西側に１穴。貯蔵穴は南西隅に１つ。床は貼り床。壁溝は全周する。中央部他にわずかに焼土と炭化物があり。
遺物の状況	小型ハケ甕・器台・鉢・坩？が出土。未図化は、ハケ甕・ナデ甕・坩（大型・小型）がある。
備考	ハケ甕片に中に、19号住居跡出土の木葉痕付きの甕とよく似た胎土の破片がある。

23号住居跡　　遺構：第134図　　遺物：第142図

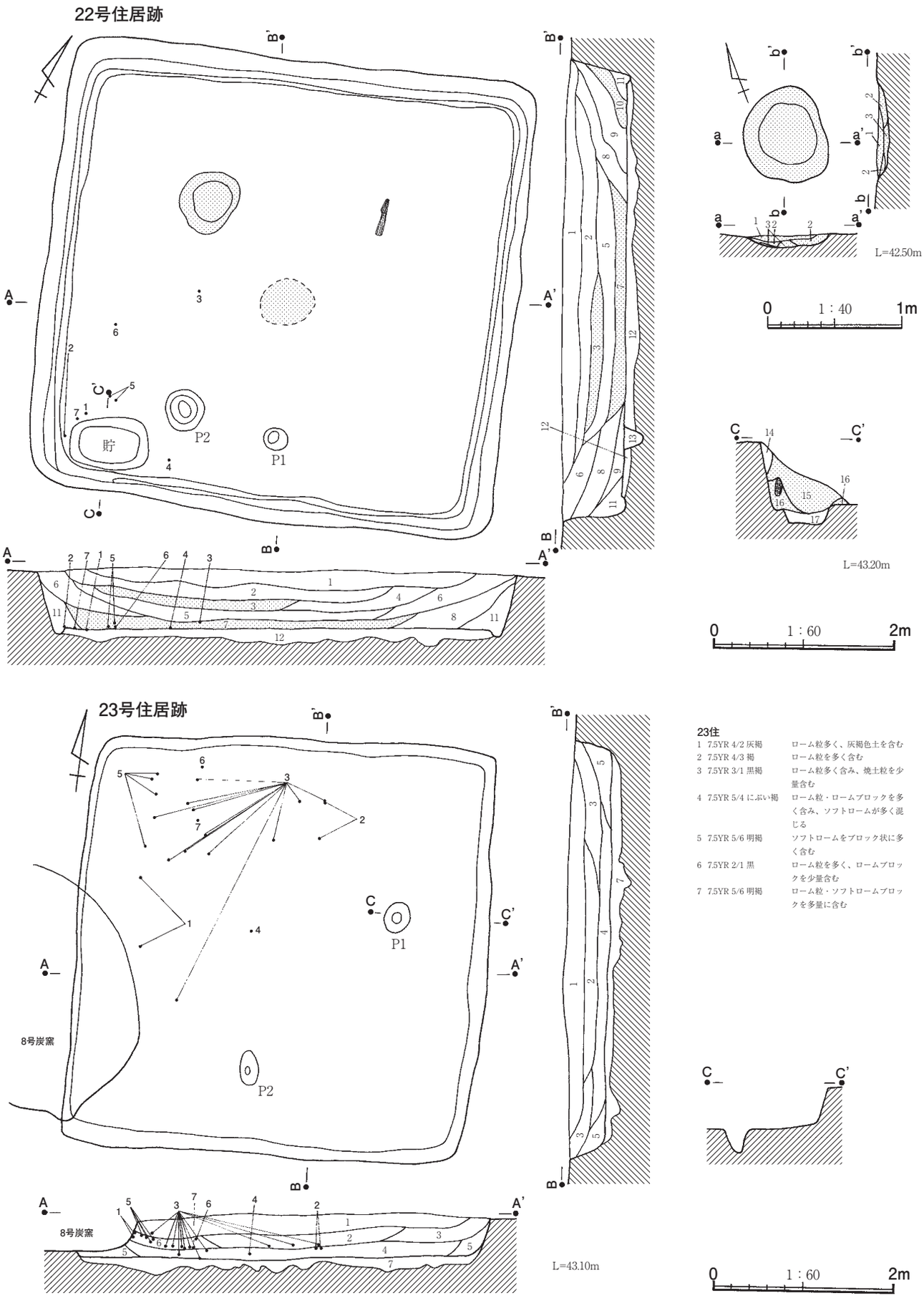
遺構の状況	炉も主柱穴もない。東辺中央に階段用柱穴が１穴、南辺中央に階段用柱穴らしき柱穴が１穴あり。床は貼り床。貯蔵穴壁溝はない。
遺物の状況	ハケ甕（ハケ状工具による刻み口唇３個体他）・小型高杯・器台が出土。未図化は、ハケ甕・大型坩がある。甕片は全てハケである。
備考	小型高杯は、胎土・形状的に在地のものではなく、東海産（静岡東部・大廓式？）の可能性がある。口唇刻みハケ甕は19号住居跡出土の刻み口唇ハケ甕と胎土が近似。

24号住居跡　　遺構：第135図　　遺物：第142図

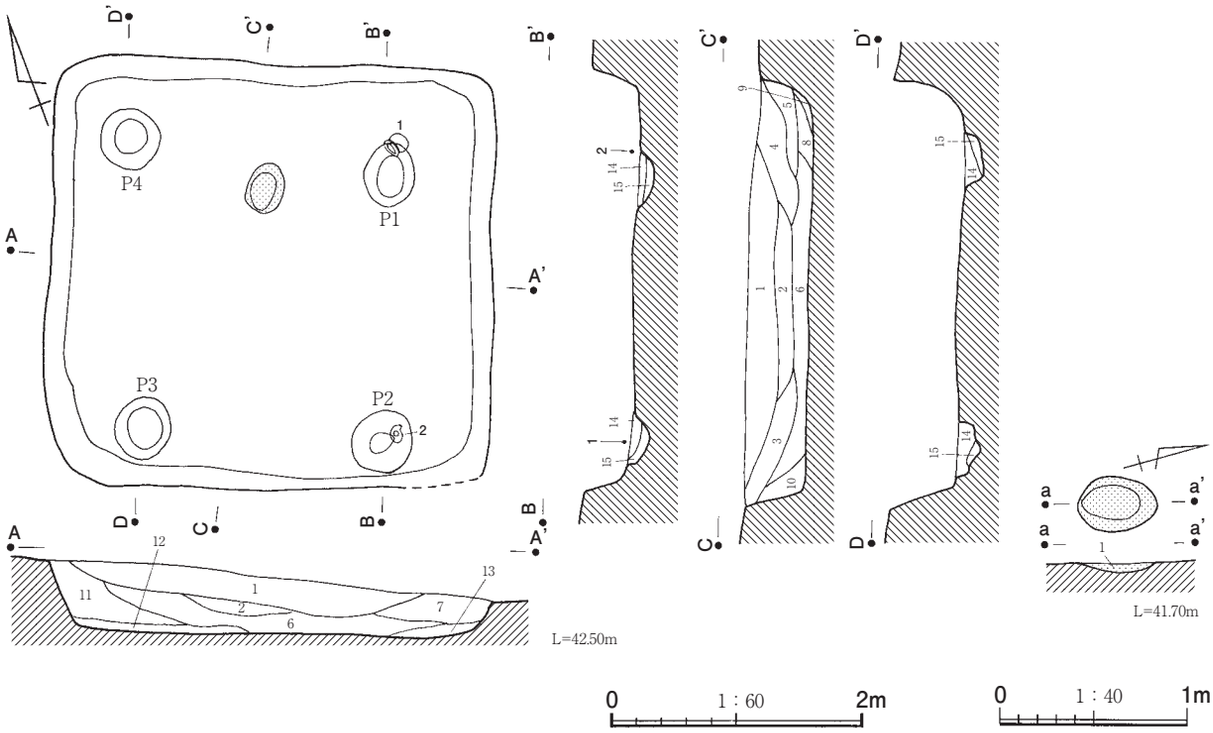
遺構の状況	炉は中央から北寄りに１つ。主柱穴は４穴あり、南側の２穴は壁際まで迫る。階段用柱穴・貯蔵穴・壁溝はない。土層はあまり細かい層をなさず、大まかにレンズ状に堆積。
遺物の状況	遺物は少ない。小型のナデ＋ケズリ甕・鉢が出土。
備考	



第133図　上谷津第１遺跡20・21号住居跡



第134図　上谷津第１遺跡22・23号住居跡



第135図　上谷津第１遺跡24号住居跡

21住

1	7.5YR 3/2 黒褐	ローム粒・焼土粒を含む
2	7.5YR 4/2 灰褐	ローム粒をやや多く含む
3	7.5YR 4/4 褐	ローム粒を多く含む
4	7.5YR 5/6 明褐	ソフトロームを主体とする
5	7.5YR 4/3 褐	ローム粒・ロームブロック・黒色土粒を含む
6	7.5YR 4/3 褐	ローム粒・ロームブロックを多く含む
7	7.5YR 5/4 にぶい褐	ローム粒・ロームブロックを多く含む
8	7.5YR 3/1 黒褐	ローム粒・ロームブロック・焼土ブロック・炭化物を少し含む
9	7.5YR 4/3 にぶい褐	焼土粒を多く含む
10	7.5YR 4/2 灰褐	ローム粒を多く含み、焼土を少し含む

21住炉1

1	2.5YR 4/3 にぶい赤褐	焼土粒・焼土ブロックを多く含む
2	2.5YR 4/2 灰赤	焼土粒・ロームブロックを少し含む

21住炉2

1	2.5YR 4/2 灰赤	焼土粒をやや多く、ロームブロックを少し含む

22住

1	7.5YR 4/2 灰褐	ローム粒・焼土粒を少量含む
2	7.5YR 3/1 黒褐	焼土粒をやや多く含む
3	5YR 3/2 暗赤褐	焼土粒・焼土ブロックを多く含む
4	7.5YR 3/2黒褐	焼土粒・焼土ブロックを含む
5	7.5YR 3/3 暗褐	焼土粒をやや含む
6	7.5YR 4/3 褐	ローム粒をやや多く含む
7	5YR 4/3 にぶい赤褐	焼土粒・焼土ブロックをやや多く含む
8	5YR 3/3 暗赤褐	ローム粒・ロームブロックをやや多く含む
9	5YR 4/2 灰褐	ローム粒・ロームブロック多く含む
10	5YR 4/4 にぶい赤褐	ローム粒・焼土粒を多く含む
11	5YR 5/3 にぶい赤褐	ローム粒・ロームブロックをやや多く含む
12	7.5YR 4/6 褐	ローム粒を主体にロームブロックを含む
13	7.5YR 4/3 褐	ローム粒・ロームブロックをやや多く含む
14	7.5YR 4/4 褐	ソフトロームが多く混じる
15	5YR 4/3 にぶい赤褐	ローム粒を多く含み、焼土粒やや多く含む
16	7.5YR 3/2 黒褐	ローム粒・炭化物粒をやや多く含む
17	7.5YR 4/3 褐	ローム粒・ロームブロックを多く含む

22住炉

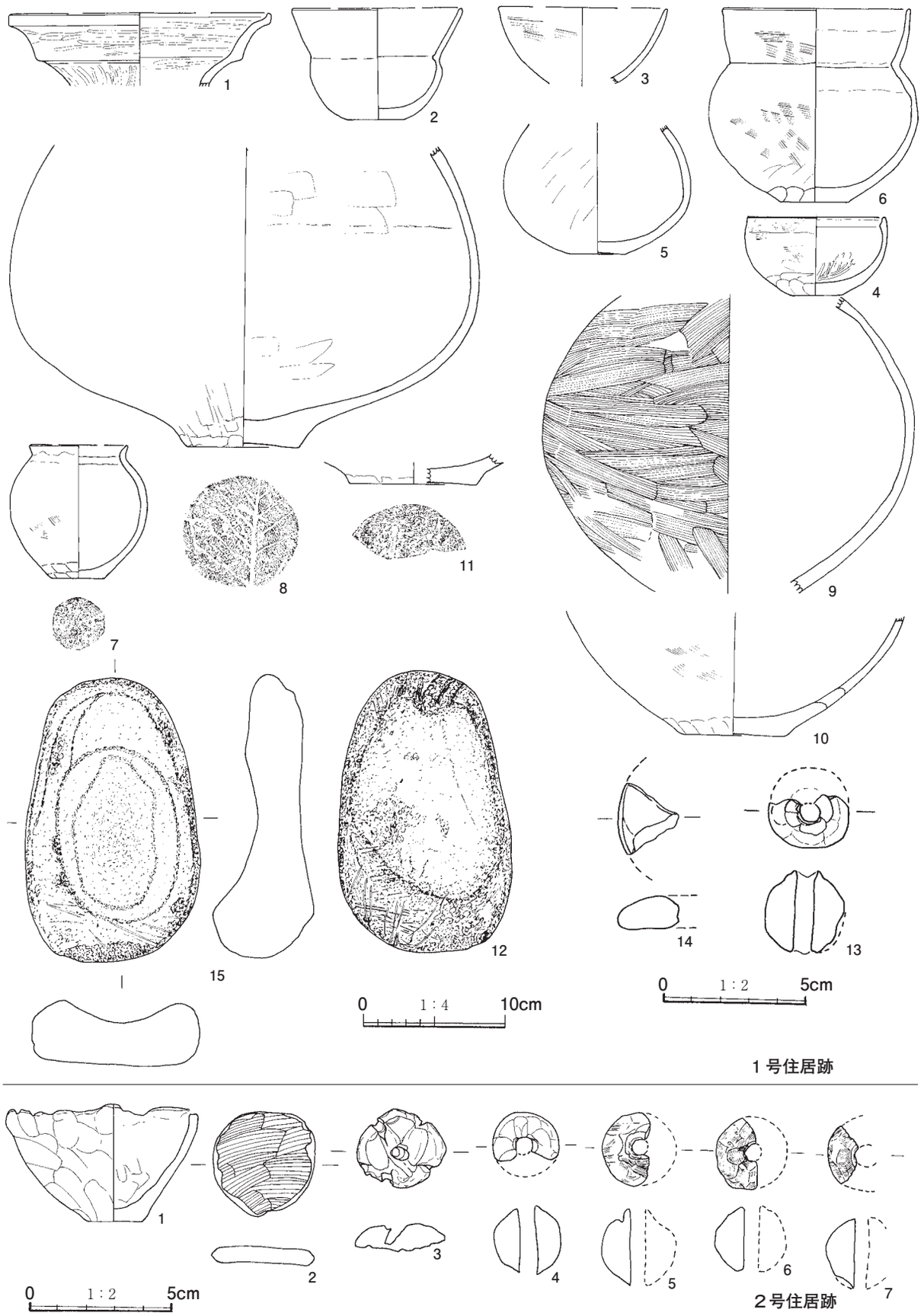
1	2.5YR 3/2 暗赤褐	焼土粒を多量含む
2	5YR 2/2 黒褐	焼土粒をまばらに含む
3	5YR 3/4 赤褐	焼土

24住

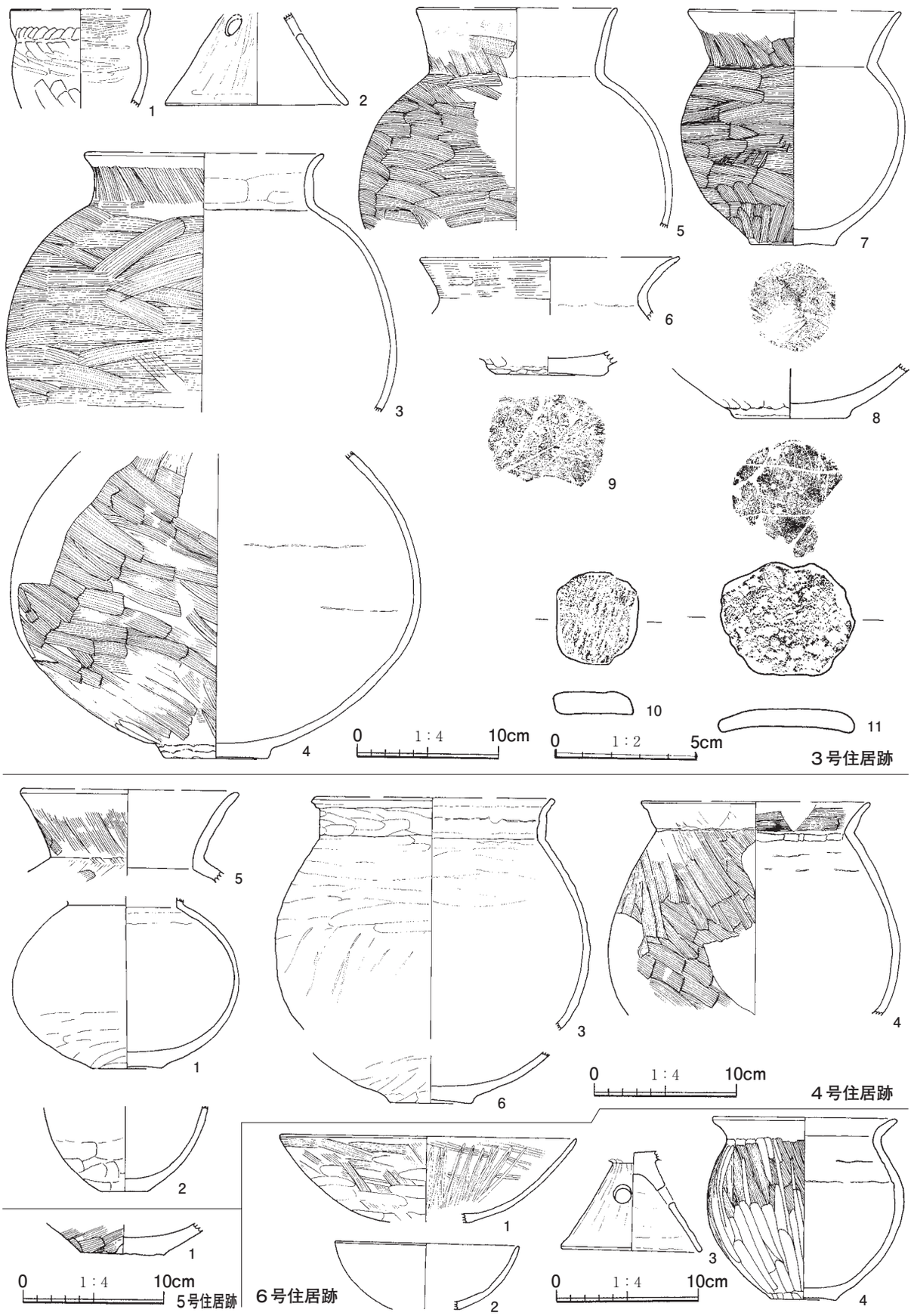
1	7.5YR 3/1 黒褐	ローム粒を少量含む
2	7.5YR 3/3 暗褐	ローム粒・ソフトロームをやや多く含む
3	7.5YR 3/2 黒褐	ローム粒を少量含む
4	7.5YR 3/2 黒褐	ローム粒を含む
5	7.5YR 4/2 灰褐	ローム粒・ソフトロームをやや多く含む
6	7.5YR 4/3 褐	ローム粒を含む
7	7.5YR 3/3 暗褐	ローム粒をやや含む
8	7.5YR 3/1 黒褐	ローム粒を少量含む
9	7.5YR 4/3 褐	ローム粒・ソフトロームをやや多く含む
10	7.5YR 4/2 灰褐	ローム粒・ソフトロームをやや含む
11	7.5YR 4/2 灰褐	ローム粒・ソフトロームをやや含む
12	7.5YR 4/2 灰褐	ローム粒・ソフトロームを多く含む
13	7.5YR 4/3 褐	ローム粒・ソフトロームをやや多く含む
14	7.5YR 4/2 灰褐	ローム粒・ハードロームブロックをやや多く含む
15	7.5YR 4/4 褐	ローム粒・ハードロームブロックを多量に含む

24住炉

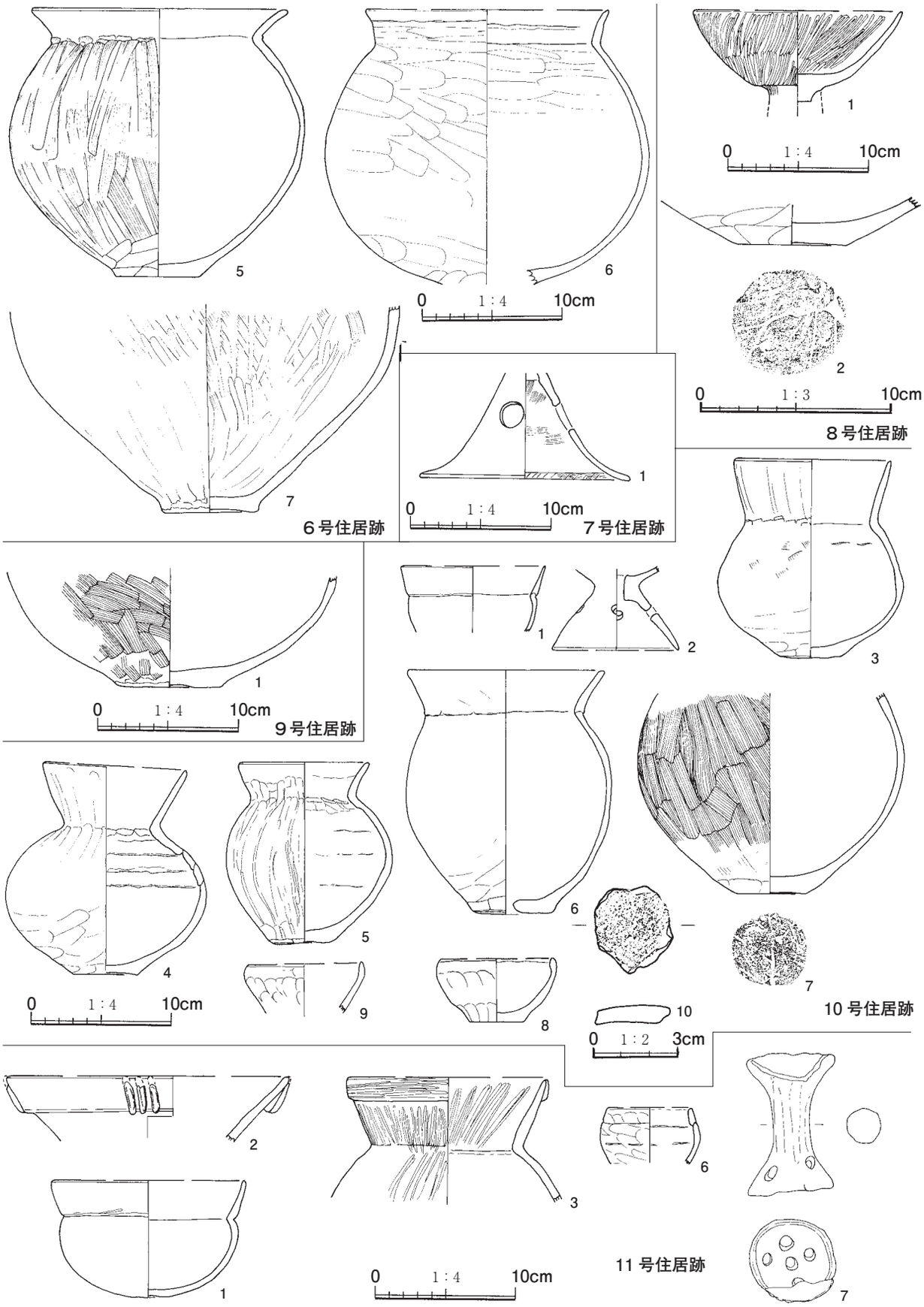
1	2.5YR 5/3 にぶい赤褐	焼土粒を多く含み、炭化物を少量含む



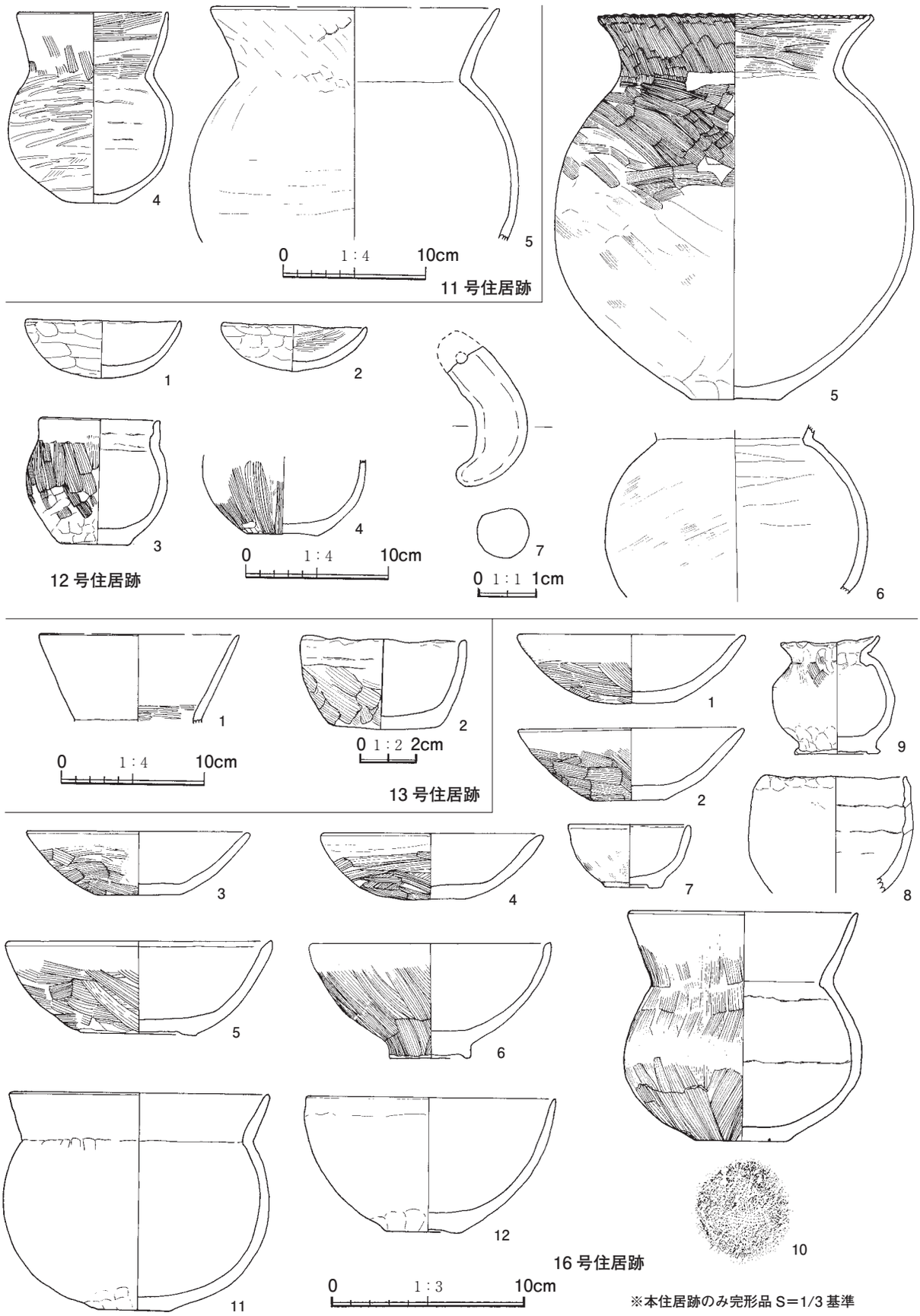
第136図　上谷津第１遺跡１・２号住居跡出土遺物



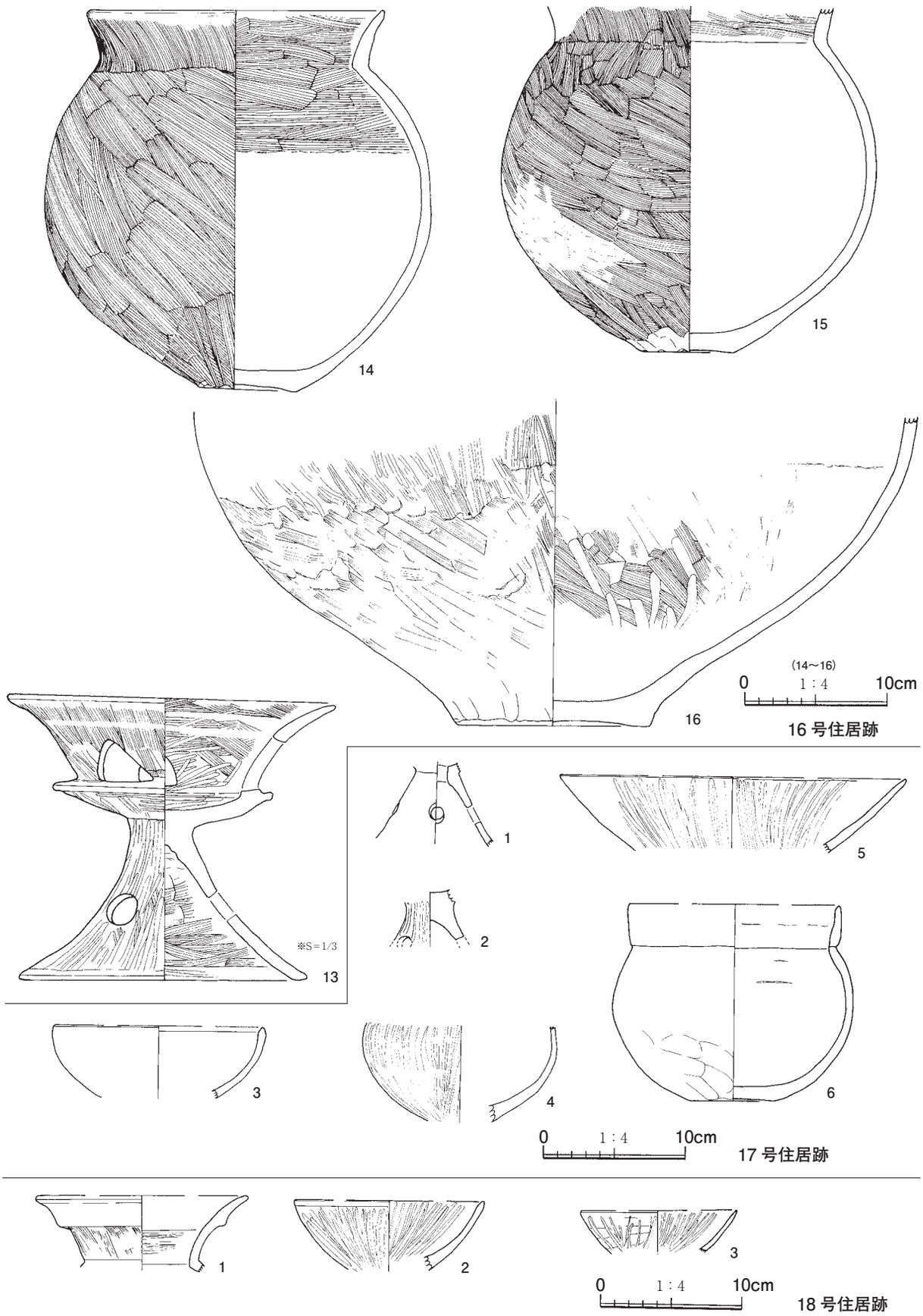
第137図　上谷津第１遺跡３～６号住居跡出土遺物



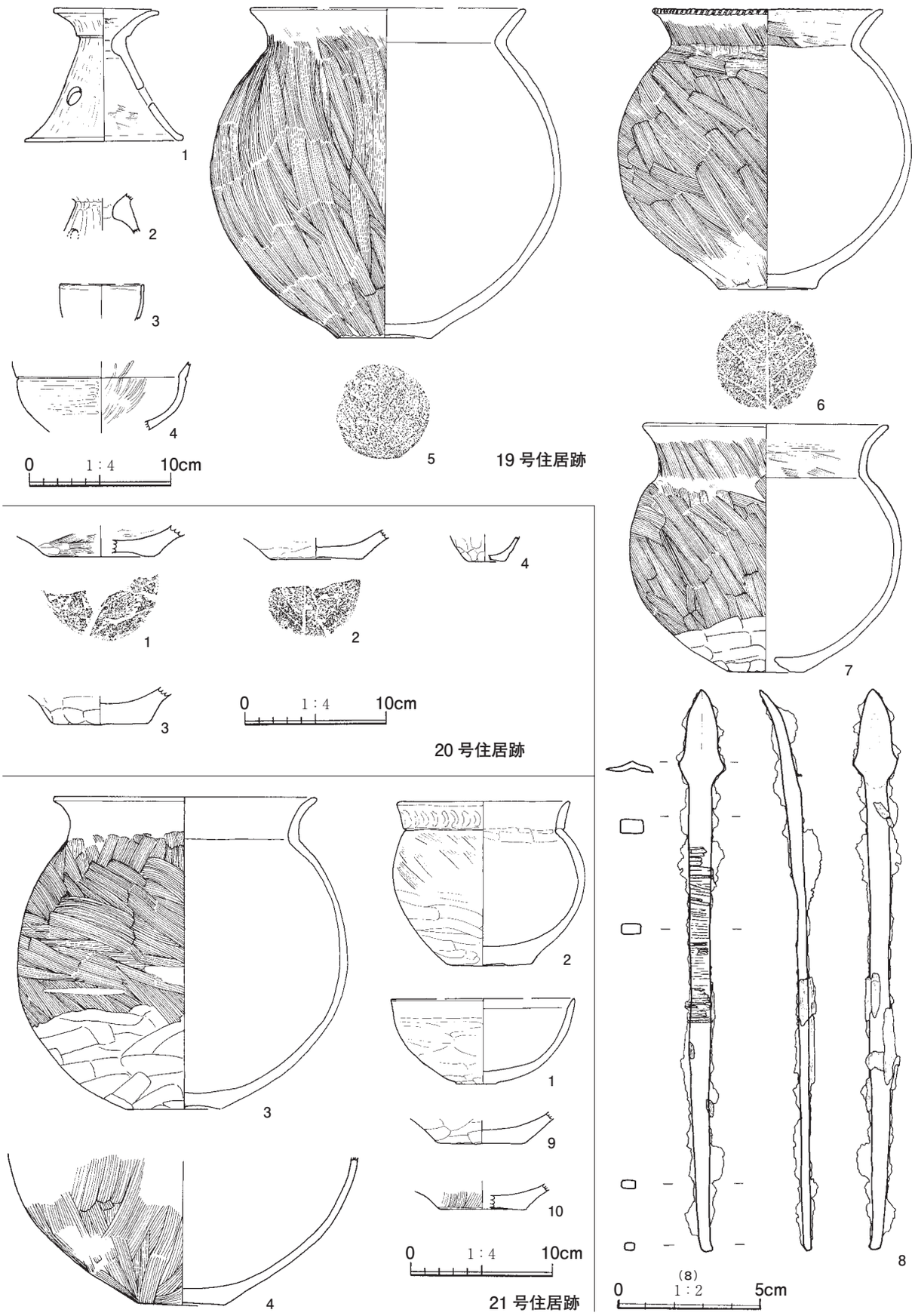
第138図　上谷津第１遺跡６～11号住居跡出土遺物



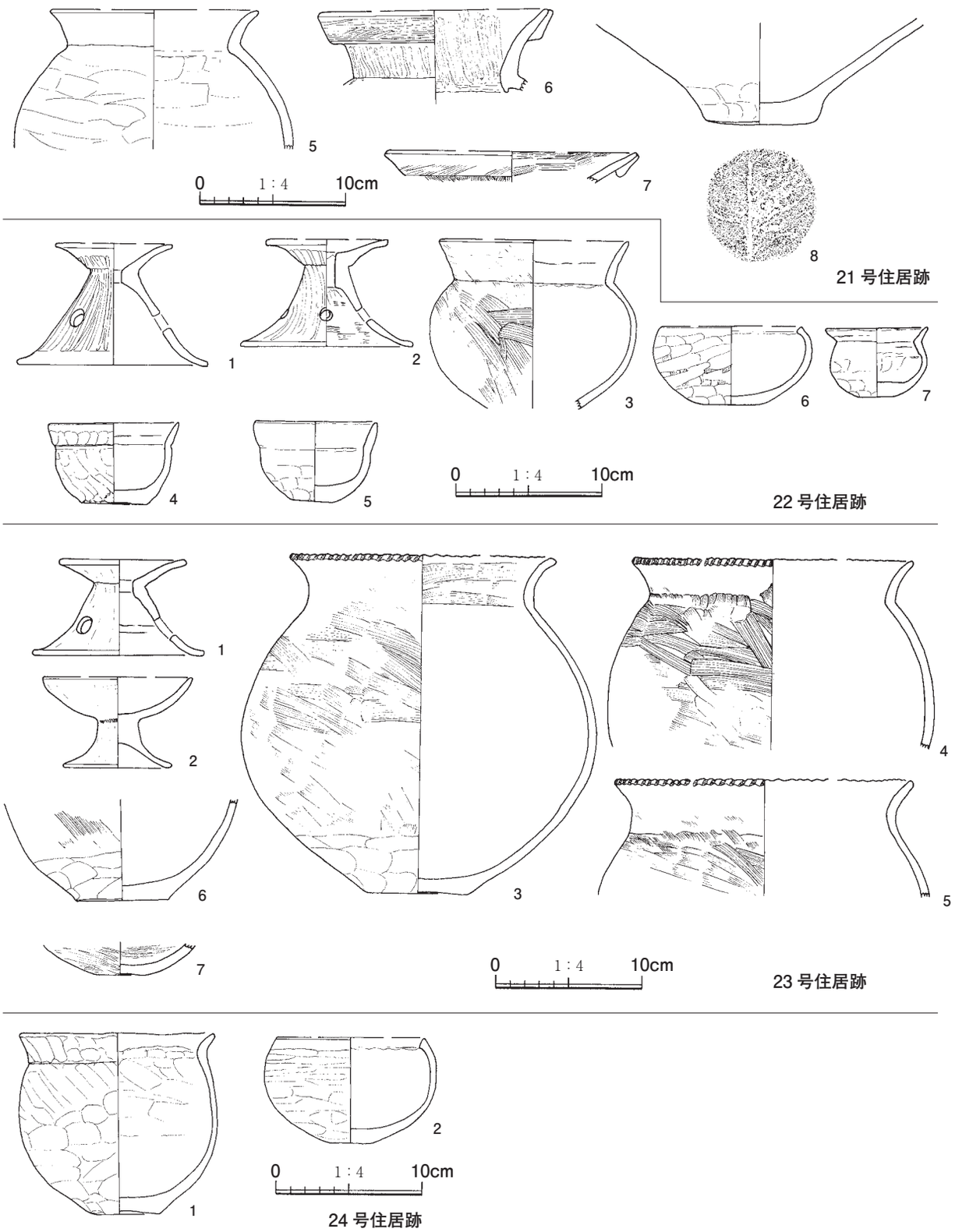
第139図　上谷津第１遺跡11～13・16号住居跡出土遺物



第140図　上谷津第１遺跡16～18号住居跡出土遺物



第141図　上谷津第１遺跡19～21号住居跡出土遺物



第142図　上谷津第１遺跡21～24号住居跡出土遺物

古墳時代前期の遺物　上谷津第１遺跡の古墳時代前期住居跡出土資料の傾向を略説しておく。

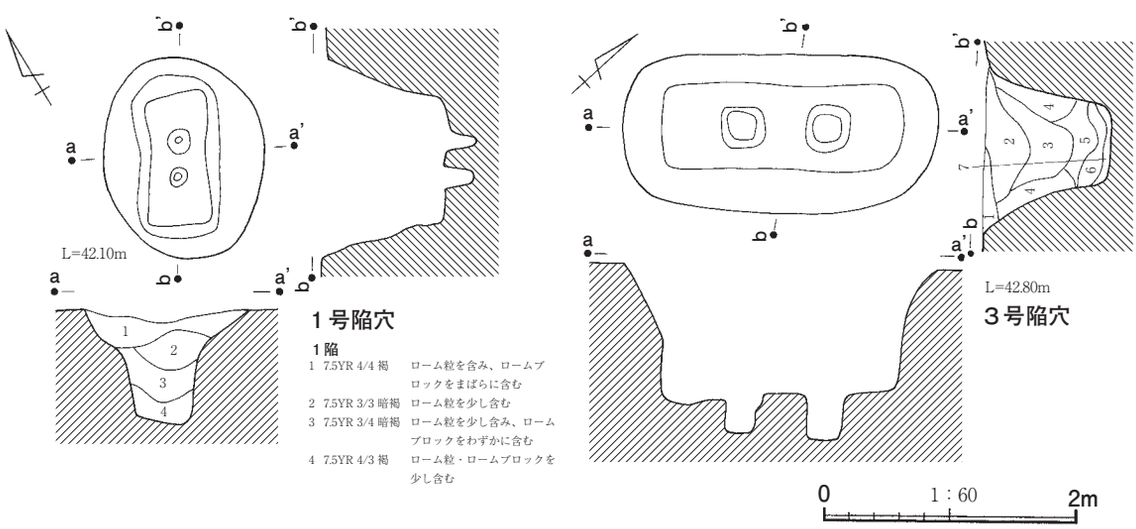
検出された23軒の住居跡の内、一定量の遺物が床面直上から出土した住居跡は、１・３・４・６・10・11・12・16・17・19・21・22・23号住居跡の13軒である。その他の住居跡からも少量の遺物が出土している場合もあるが、比較検討する場合にはそれほどの意味を持たないと考えられる。

遺物全体を俯瞰してみると、ハケ調整をメインに施す遺物が多いようである。西御門新堤遺跡の資料が比較的ケズリやナデ調整を施すものが目立つのと対照的である。甕のハケ調整は、頸部から底部際まで胴部全体に施されたままのものが多い（１住-9、３住-3･４・７、９住-1、16住-14･15、19住-5･６等）。甕頸部は、明確な「く」字をなすものが主体であるものの、緩やかに外反するといったやや古相と判断できるもの（12住-5、23住-3･５等）も少なくない。口縁端部に刻みが施されるものもある（12住-5、19住-6、23住-3･４・５）。甕の中に台付きのものは全くなく、上総の傾向に準じている。やや大型の有段口縁壺の胴部下半のみというのが幾つかある（１住-8、６住-7、16住-16、21住-8）。これは、16号住居跡のような床面一括遺物の中にもあり、破損品にも関わらず一つの器種として意図的に再利用されていた感がある。何かしらの用途（大皿?）として機能していたのであろうか。

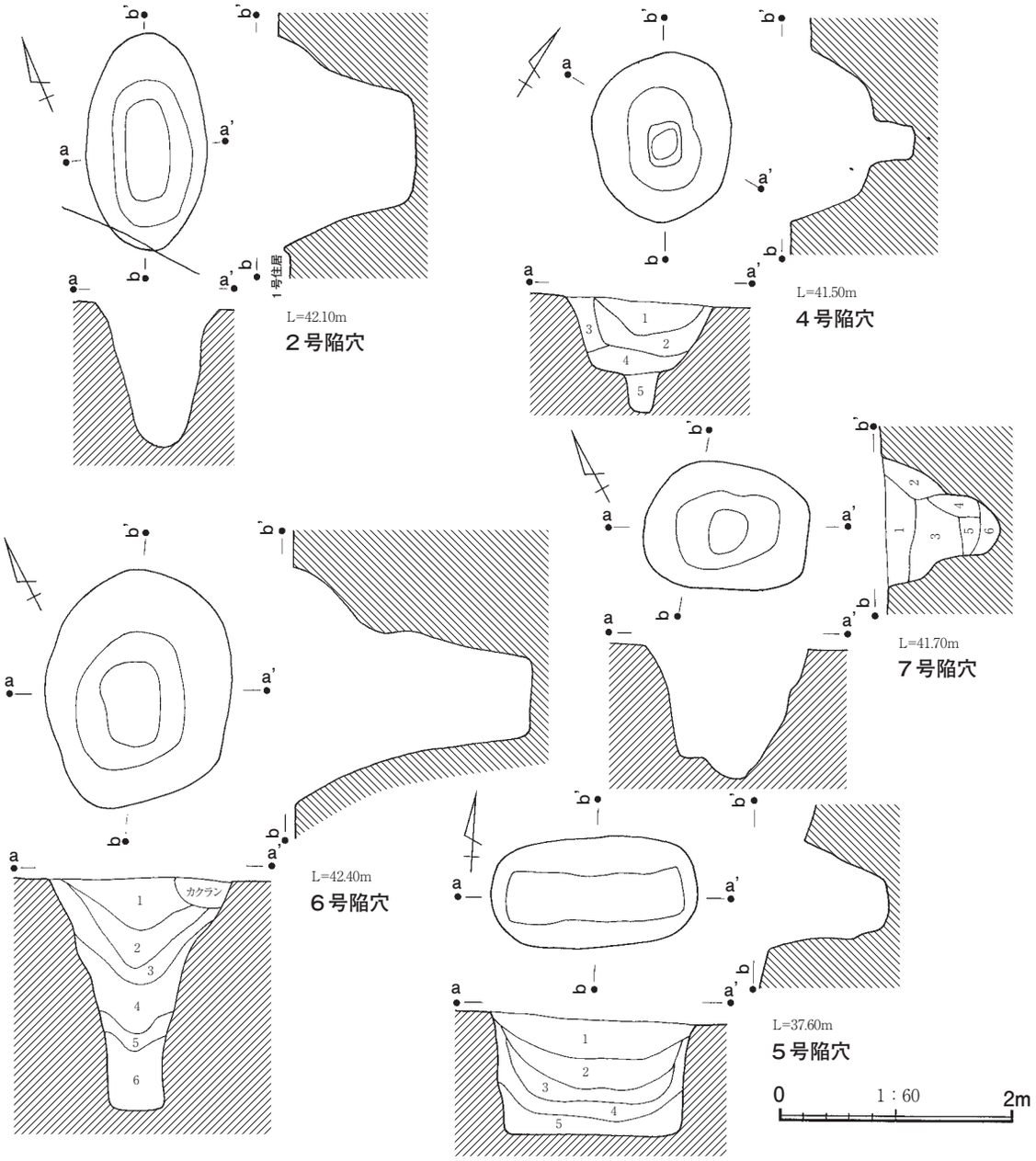
3　陥穴

第34表　上谷津第１遺跡検出の陥穴

遺構No.	検出区	平面形 方位	法量（m） 長軸	短軸	深さ	堀方断面形状	時代 時期	特徴	挿図No. 遺構	挿図No. 遺物	旧名称	備考
			（上端） （下端）									
１号	9K　90d	楕円形 N　25°　E	1.62 1.05	1.29 0.45	0.94	逆台形	縄文 前期	底平面は長方形 底面にピット２穴	第143図	第147図	C2	
２号	9K　78c	楕円形 N　25°　E	1.90 0.90	1.04 0.40	1.22	逆台形	縄文？	定平面は楕円形	第144図	－	C5	
３号	9K　40d 10K　31b	長方形 N　42°　E	2.51 1.90	1.27 0.65	1.00	逆台形	縄文	底平面は長方形 底面に方形ピット２穴	第143図	－	C18	
４号	9I　86a ・b	楕円形 N　42°　W	1.47 0.90	1.18 0.70	0.61	逆台形	縄文	底平面は楕円形 中央に方形ピット１穴	第144図	－	C30	
５号	9I　95b	長方形 N　85°　E	1.80 1.55	0.94 0.45	1.06	方形	縄文	底平面は長方形	第144図	－	C32	
６号	10J　4b	楕円形 N　28°　E	2.04 0.48	1.61 0.73	2.04	逆台形	縄文	底平面は不整円形	第144図	－	C37	
７号	10J　24d	不整方形 N　52°　W	1.41 0.50	1.09 0.35	0.96	不整円形	縄文	底面に不整形段	第144図	－	C38	



第143図　上谷津第１遺跡陥穴①



第144図　上谷津第１遺跡陥穴②

３陥
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロック・焼土粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・焼土粒をまばらに含む
3　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒粒を少し含み、ロームブロックをわずかに含む
4　7.5YR 5/6 明褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックをまばらに含む
5　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
6　7.5YR 4/6 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
7　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む

５陥
1　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒を微量に含む
2　7.5YR 4/1 褐灰　ローム粒を少量含む
3　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒を少量含む
4　7.5YR 4/2 灰褐　ローム粒をやや多く含み、ソフトロームブロックを含む
5　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

７陥
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含む
2　7.5YR 4/8 褐　ローム粒を含み、ローズブロックをわずかに含む
3　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含む
4　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
5　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックを含む
6　7.5YR 4/6 褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックを含む

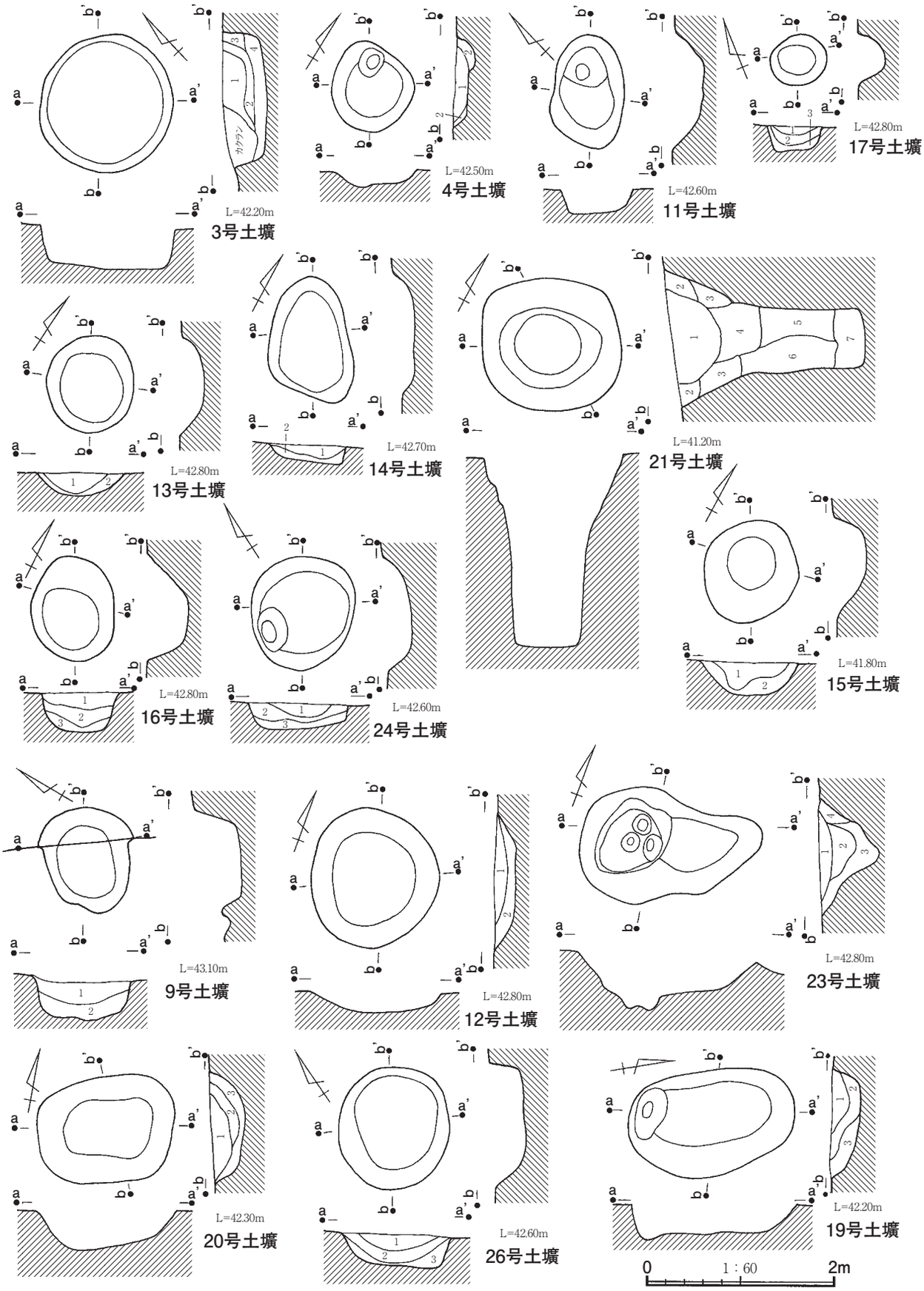
４陥
1　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒を少し含む
2　7.5YR 4/2 灰褐　ローム粒を少し含み、ソフトロームブロックを含む
3　7.5YR 4/3 褐　ソフトロームブロックを多く含む
4　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む
5　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

６陥
1　7.5YR 4/2 灰褐　ローム粒を少量含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をやや多く含む
3　7.5YR 4/3 褐　ローム粒をやや多く含み、ソフトロームブロックをまばらに含む
4　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックをやや多く含み、ソフトロームブロックをまばらに含む
5　7.5YR 4/6 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む
6　7.5YR 4/6 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

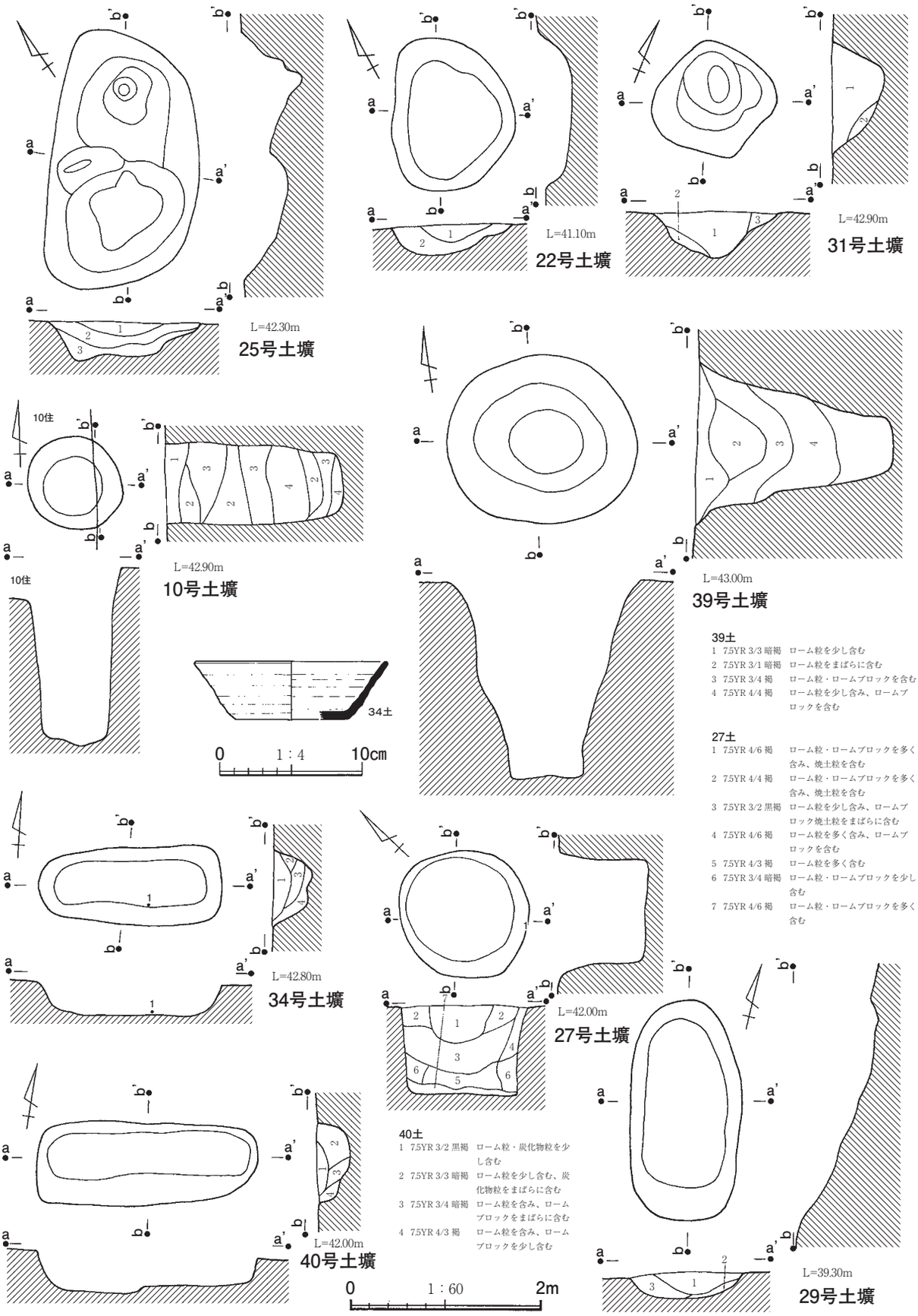
4　土壙

第35表　上谷津第１遺跡検出の土壙一覧

遺構No.	検出区	平面形 方位	法量（m） 長軸 （上端） （下端）	法量（m） 短軸	深さ	堀方断面形状	時代 時期	特徴	挿図No. 遺構	挿図No. 遺物	備考
3号	9K　90a	円形 N－　0°　－	1.48 1.30	1.43 1.20	0.46	逆台形	縄文		第145図	－	
4号	9K　80a	不整円形 N－　45°　－W	0.99 0.64	0.89 0.60	0.23	浅碗形	縄文		第145図	－	
9号	10K　31c	不整円形 N－　40°　－E	1.18 0.79	0.90 0.60	0.40	逆台形	縄文		第145図	－	12住より古い
10号	9J　97a	円形 N－　67°　－W	1.03 0.62	0.96 0.62	1.85	円筒形	中近世以降		第146図	－	10住切る
11号	9K　37d	楕円 N－　42°　－E	12.20 0.90	7.60 0.55	0.27	浅碗形	縄文	ピット有　１穴	第145図	－	
12号	9K　6b	円形 N－　12°　－W	1.50 1.00	1.40 0.90	0.23	不整形	縄文		第145図	第147図	
13号	9K　18a	円形 N－　0°　－	1.04 0.75	0.96 0.65	0.25	浅碗形	縄文		第145図	－	
14号	9K　19a	不整楕円 N－　25°　W	1.30 1.10	0.86 0.65	0.19	不整浅碗形	縄文		第145図	－	
15号	9J　98d	不整楕円 N－　5°　－E	1.14 0.58	1.02 0.50	0.35	浅碗形	縄文		第145図	－	
16号	9J　99d	楕円 N－　40°　－W	1.14 0.71	0.89 0.57	0.42	碗形	奈・平？		第145図	－	
17号	9K　9a	円形 N－　65°　－W	0.60 0.40	0.56 0.30	0.25	碗形	縄文		第145図	－	
19号	9K　7a ・c	不整楕円 N－　5°　－E	1.81 1.35	1.13 0.65	0.32	浅碗形	縄文	ピット有　１穴	第145図	－	
20号	10K　61b	長方形 N－　70°　－E	1.50 0.95	1.13 0.60	0.36	浅碗形			第145図	－	
21号	10K　34a	不整円形 N－　36°　－W	1.45 1.10	1.48 0.90	2.08	円筒形	縄文		第145図	－	
22号	10K　41c	不整円形 N－　11°　－E	1.63 1.25	1.32 1.00	0.29	浅碗形	縄文		第146図	－	
23号	10J　100c	不整円形 N－　71°　－E	1.99 1.55	0.71 0.80	0.65	不整形	縄文	ピット有　３穴	第145図	－	
24号	10K　1b	不整円形 N－　74°　－E	1.26 0.95	1.13 0.65	0.27	逆台形		ピット有　１穴	第145図	－	
25号	10K　12a	不整長方形 N－　43°　－E	2.72 2.00	1.58 1.25	0.37	逆台形	縄文	ピット有　２穴	第146図	－	
26号	10K　23a	不整円形 N－　45°　－E	1.35 1.00	1.20 0.90	0.34	逆台形	縄文		第145図	－	
27号	10K　13a	不整円形 N－　10°　－E	1.47 1.15	1.36 1.10	0.93	円筒形	縄文		第146図	－	
29号	9J　5d	楕円 N－　14°　－W	2.32 1.80	1.16 0.85	0.27	浅碗形			第146図	－	
31号	9J　37a	方形 N－　°　－E	1.18 0.90	1.06	0.48	碗形	中世		第146図	－	
33号	9I　95c	方形 N－　70°　－E	1.06 0.90	0.72 0.52	0.85	逆円錐形	中世	ピット有　１穴	第147図	－	
34号	10J　2b	長方形 N－　85°　－W	1.93 1.60	0.80 0.45	0.35	逆台形	奈・平 ９世紀		第146図	第146図	
39号	9I　99a	円形 N－　61°　－W	1.98 1.40	1.80 1.15	2.05	円筒形			第146図	－	
40号	10J　94a	方形 N－　81°　－E	2.34 2.15	0.89 0.40	0.38	浅碗形			第146図	－	
41号	9J　86d	楕円形 N－　6°　－W	1.89 1.45	1.02 0.45	0.38	浅碗形			第147図	－	
42号	9J　36c	円形 N－　45°　－W	0.98 0.65	0.97 0.65	0.16	浅碗形			第147図	－	
43号	9I　98d	円形 N－　64°　－E	1.43 0.70	1.39 0.61	0.38	浅碗形	縄文		第147図	－	
44号	9J　8a	不整円形 N－　67°　－E	1.22 0.81	1.06	0.38	碗形		ピット有　２穴	第147図	－	
45号	10J　15a	円形 N－　2°　－E	1.06 0.84	1.12 0.75	0.32	浅碗形	中世		第147図	－	



第145図　上谷津第１遺跡土壙①

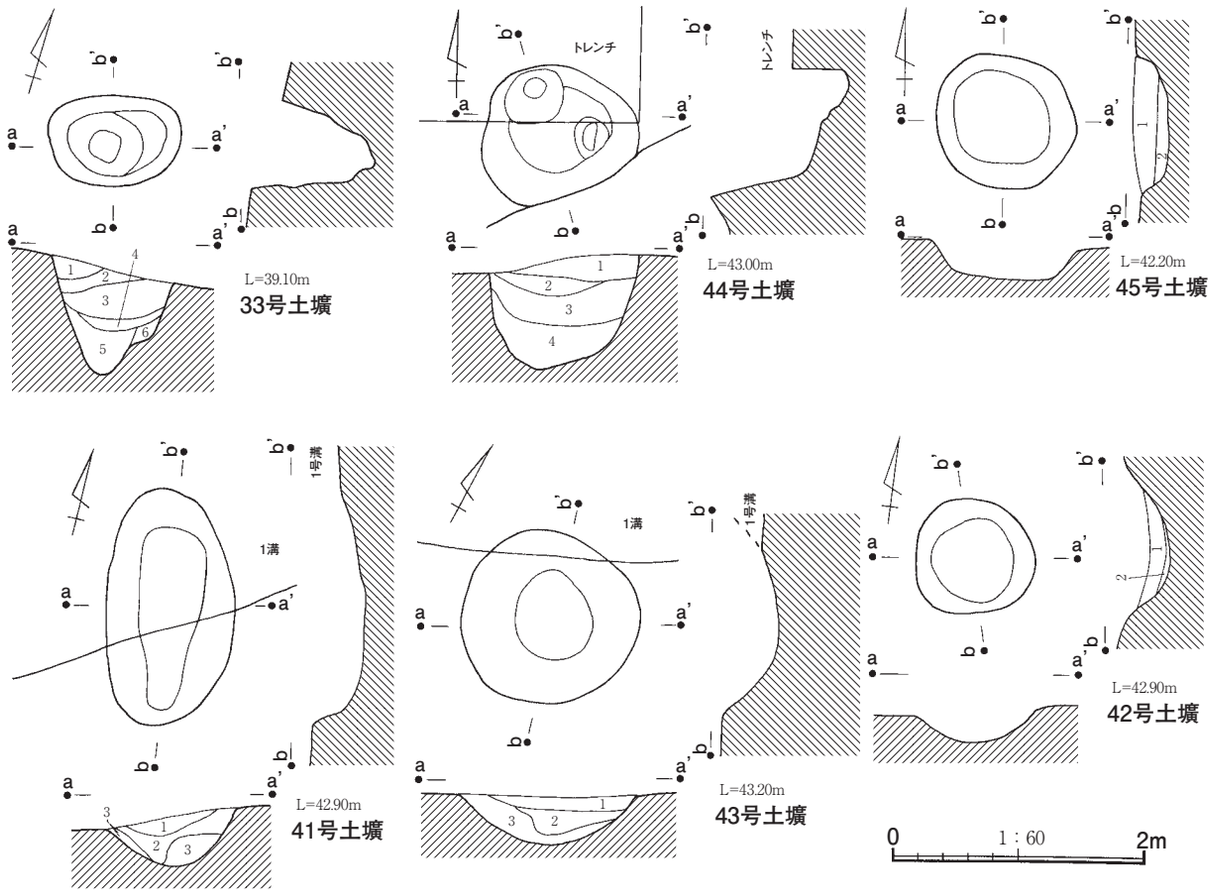


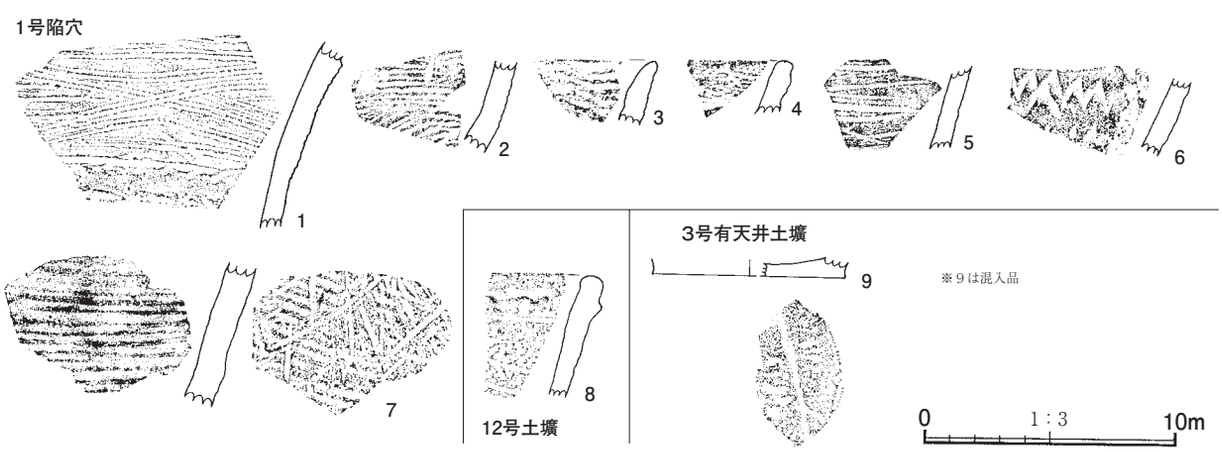
39土
1 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒を少し含む
2 7.5YR 3/1 暗褐 ローム粒をまばらに含む
3 7.5YR 3/4 褐 ローム粒・ロームブロックを含む
4 7.5YR 4/4 褐 ローム粒を少し含み、ロームブロックを含む

27土
1 7.5YR 4/6 褐 ローム粒・ロームブロックを多く含み、焼土粒を含む
2 7.5YR 4/4 褐 ローム粒・ロームブロックを多く含み、焼土粒を含む
3 7.5YR 3/2 黒褐 ローム粒を少し含み、ロームブロック焼土粒をまばらに含む
4 7.5YR 4/6 褐 ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む
5 7.5YR 4/3 褐 ローム粒を多く含む
6 7.5YR 3/4 暗褐 ローム粒・ロームブロックを少し含む
7 7.5YR 4/6 褐 ローム粒・ロームブロックを多く含む

40土
1 7.5YR 3/2 黒褐 ローム粒・炭化物粒を少し含む
2 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒を少し含む、炭化物粒をまばらに含む
3 7.5YR 3/4 暗褐 ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
4 7.5YR 4/3 褐 ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む

第146図　上谷津第１遺跡土壙②





第147図　上谷津第１遺跡土壙③・出土遺物

３土
1　7.5YR 4/3 褐
2　7.5YR 3/2 黒褐
3　7.5YR 4/4 褐
4　7.5YR 2/2 黒褐　炭化物を多く含む

４土
1　7.5YR 3/3 暗赤褐　焼土をブロック状に多く含む
2　7.5YR 3/3 暗褐

９土
1　7.5YR 4/6 褐　ローム粒主体
2　7.5YR 4/4 褐　ローム粒主体でロームブロックをまばらに含む

12土
1　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
2　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含み、焼土粒をわずかに含む

13土
1　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含む

14土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含む
2　7.5YR 4/6 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む

15土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをわずかに含む

16土
1　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、焼土粒をわずかに含む
3　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む

17土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含む
2　7.5YR 4/4 褐　白ーム粒を含み炭化物粒をわずかに含む
3　7.5YR 4/6 褐　ローム粒を多く含む

20土
1　7.5YR 4/6 褐　ローム粒をわずかに含む
2　7.5YR 4/3 褐
3　7.5YR 3/4 暗褐

21土
1　7.5YR 3/1 褐　ローム粒をわずかに含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒をわずかに含む
3　7.5YR 4/3 褐　ローム粒をわずかに含む
4　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を多く含む
5　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含む
6　7.5YR 4/6 褐　ロームブロックを少し含む
7　7.5YR 2/2 黒褐　ローム粒を多く含む

23土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含む
2　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒をわずかに含み、ロームブロックをまばらに含む
3　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒・ロームブロックをまばらに含む
4　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含む

24土
1　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む

26土
1　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒・ロームブロックを少し含み、炭化物粒をわずかに含む

10土
1　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・ロームブロックをまばらに含む
4　7.5YR 4/4 褐　ローム粒をやや多く含み、ロームブロックを含む

22土
1　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
2　7.5YR 3/3 褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む

25土
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・ロームブロックを含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む

29土
1　7.5YR 2/1 黒　ローム粒を少量含む
2　7.5YR 4/2 灰褐　ソフトロームをブロック状に多く含む
3　7.5YR 4/3 褐　ソフトロームを斑状にやや含む

31土
1　7.5YR 4/2 灰褐　ローム粒・ロームブロックをやや多く含む
2　7.5YR 5/6 明褐　ローム粒を多く含み、ソフトロームが多く混じる
3　7.5YR 5/4 にぶい褐　焼土粒・炭化物粒を多く含む

34土
1　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ソフトロームがやや混じる
2　7.5YR 5/6 明褐　ソフトロームを主体的に含む
3　7.5YR 4/2 灰褐　ローム粒を含む
4　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を少量含む

33土
1　7.5YR 4/1 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む
2　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒を少量含む
3　7.5YR 4/1 灰褐　ローム粒・ロームブロックをやや多く含む
4　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒を少量含む
5　7.5YR 4/1 灰褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む
6　7.5YR 4/2 灰褐　ローム粒・ロームブロックを主体とする

41土
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含む
3　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含む

42土
1　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒をわずかに含み、焼土粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む

43土
1　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含む
3　7.5YR 3/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをわずかに含む

44土
1　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックをやや多く含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
4　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロック・焼土粒をまばらに含む

45土
1　7.5YR 4/2 灰褐　ローム粒・焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/1 黒褐　炭化物を多く含む

6　土壙墓

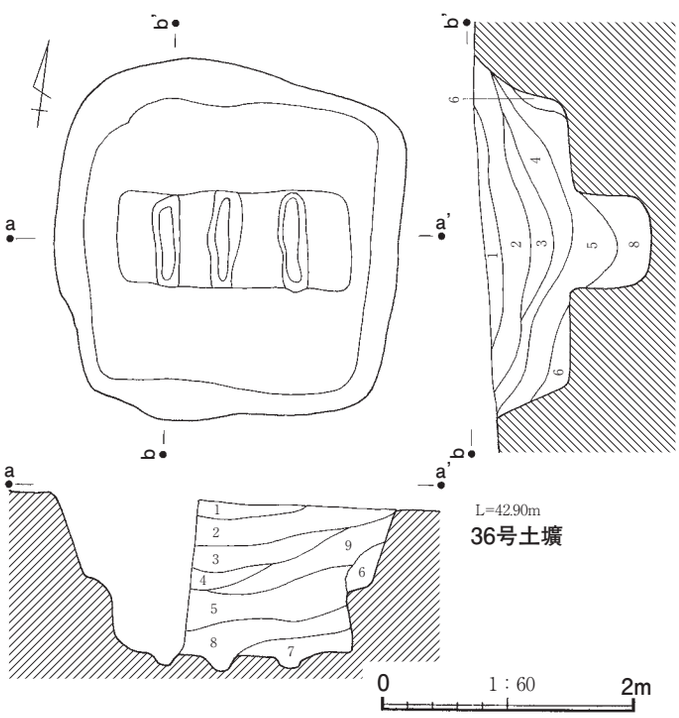
第36表　上谷津第１遺跡検出の土壙墓

遺構No.	検出区	平面形	法量（m） 長辺	短辺	深さ
			（上端）		
			（下端）		
1号	10J　3c	方形	2.78	2.40	1.24
			1.84	0.76	

堀方断面形状	時代・時期	特徴
方形	奈良・平安？	形状は端山越遺跡２号土壙墓と近似

挿図No.		旧名称	C036
遺構	遺物	備考	
第148図	－		

1　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・焼土粒を含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をやや多く含む
3　7.5YR 2/1 黒　ローム粒・炭化物を多く含む
4　7.5YR 4/2 灰褐　ローム粒をやや多く、ロームブロックを少量含む
5　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む
6　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・ロームブロックをやや多く含む
7　7.5YR 5/6 明褐　ソフトロームを主体的に含む
8　7.5YR 4/2 灰褐　ローム粒・ロームブロックをやや多く含む
9　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒子を含み、ロームブロックまばらに含む

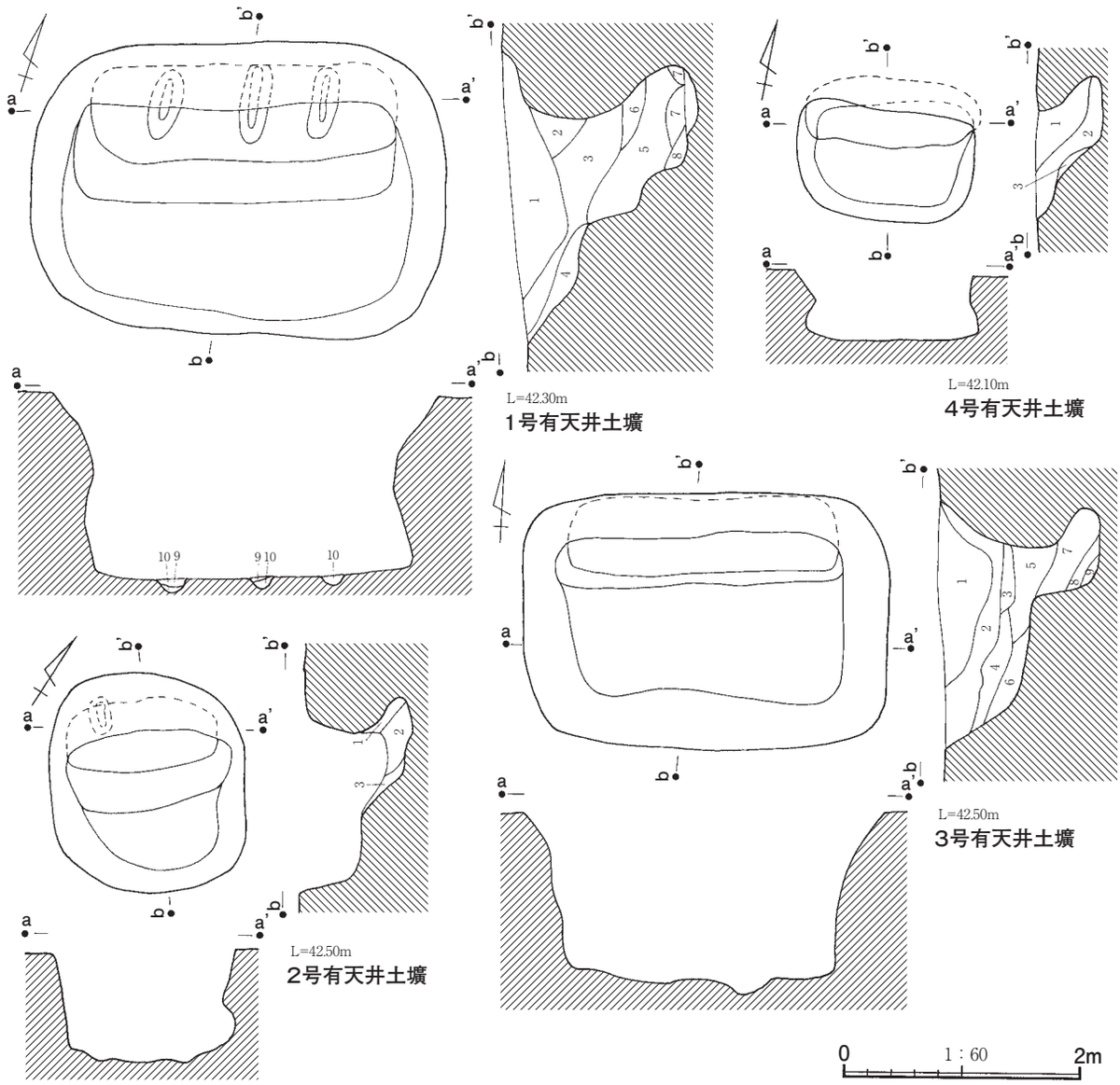


第148図　上谷津第１遺跡土壙墓

7　有天井土壙

第37表　上谷津第１遺跡検出の有天井土壙

遺構No.	検出区		上端平面形	法量（m） 長辺	短辺	深さ	底面状況	時代時期	特徴	挿図No. 遺構	遺物	旧名称	備考
				（上端）		上段							
				（下端）		下段							
１号	10K	22c・d	長方形	3.53	2.48	0.55	３条の溝	奈良・平安？	天井部残存 下段は狭い	第149図	－	C1	
				2.60	1.00	1.54							
２号	10K	31c	長方形	1.9	1.66	0.31	１条の溝	奈良・平安？	天井部残存 下段は狭い	第149図	－	C7	
				1.28	0.64	0.54							
３号	10K	3ab	長方形	3.14	2.18	0.68	平坦	奈良・平安？	天井部残存 下段は狭い	第149図	－	C8	
				2.2	0.56	1.38							
４号	10J	63d	長方形	1.52	1.22	0.08	平坦	奈良・平安？	天井部残存 下段は狭い	第149図	－	C28	
				1.5	0.58	0.56							



１有
1　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒をわずかに含み、焼土粒をまばらに含む
2　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
4　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
5　7.5YR 5/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
6　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
7　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
8　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む
9　7.5YR 4/6 褐　ロームブロックを含む
10　7.5YR 3/2 黒褐　ロームブロック・ローム粒を少し含む

２有
1　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む
3　7.5YR 4/3 暗褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを少し含む

第149図　上谷津第１遺跡有天井土壙

３有
1　7.5YR 2/1 黒　　ローム粒をまばらに含む
2　7.5YR 4/4 褐　　ロームブロック・ローム粒をまばらに含む
3　7.5YR 3/2 黒褐　ロームブロック・ローム粒をまばらに含む
4　7.5YR 4/4 褐　　ロームブロック・ローム粒を多く含む
5　7.5YR 4/3 褐　　ロームブロック・ローム粒を多く含む
6　7.5YR 3/4 暗褐　ロームブロック・ローム粒を多く含む
7　7.5YR 3/4 暗褐　ロームブロック・ローム粒を多く含む
8　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒をわずかに含む
9　7.5YR 5/8 明褐　ローム粒をわずかに含む

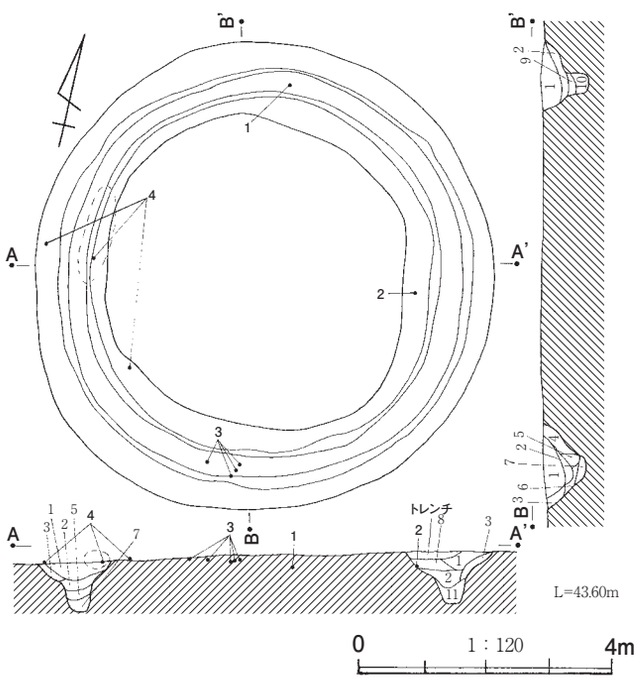
４有
1　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・ロームブロックを多く含み、炭化物粒を少し含む
2　7.5YR 4/3 褐　　ローム粒・ロームブロックを多く含み、炭化物粒を少し含む
3　7.5YR 5/4 にぶい褐　ソフトロームブロックを多く含む

8　円形周溝状遺構

遺構：第150図　　遺物：第155図

検出区	10 I -84 a ～ d
規模	外周 7.48×7.32 / 内周 4.7×4.92 × 0.76 m
方位	N－　？°　－W
時代	奈良？　時期　？
遺構の状況	盛土は完全に削平されていた。　盛土部分に埋葬施設などは確認されていない。周溝は中位に段があり下部は直下する。
遺物の状況	周溝内上層から須恵器の短頸壺･長頸壺･杯と土師器の杯(鉢？)が出土。８世紀前半に比定できる。
備考	

１円
1　7.5YR 4/3 褐　　ローム粒を含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　　ローム粒を含み、焼土粒･ソフトロームを少量含む
3　7.5YR 4/4 褐　　ソフトロームをやや多く含む
4　7.5YR 5/3にぶい褐　ソフトロームを多く含む
5　7.5YR 4/2 灰褐　　ローム粒・ソフトロームをやや多く含む
6　7.5YR 4/3 褐　　ローム粒・ソフトロームを多く含む
7　7.5YR 5/6 明褐　　ローム粒、ソフトロームを多く含む
8　7.5YR 3/3 暗褐　　ローム粒をやや多く含む
9　7.5YR 3/3 暗褐　　ローム粒・ソフトロームを少量含む
10　7.5YR 4/3 褐　　ローム粒・ソフトロームを含む
11　7.5YR 4/2 灰褐　　ローム粒・ソフトロームをやや多く含む



第150図　上谷津第１遺跡１号円形周溝状遺構

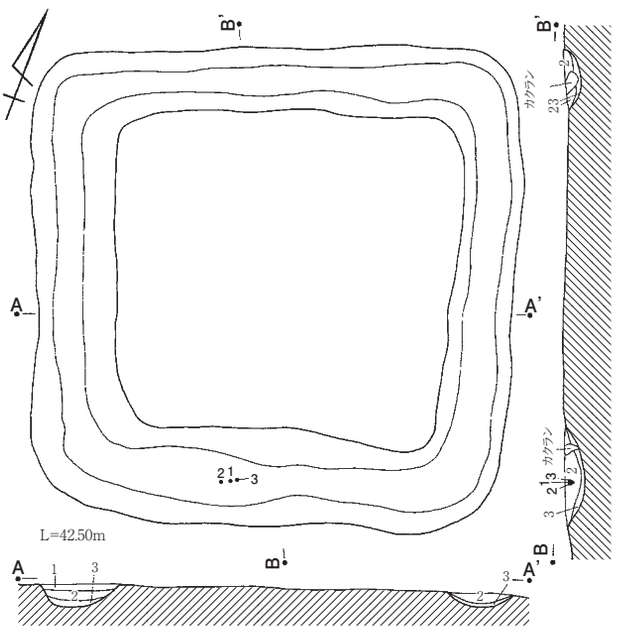
9　方形周溝状遺構

第38表　上谷津第１遺跡検出の方形周溝状遺構一覧

遺構No.	検出区		方位	法量（m） 長軸	短軸	溝幅	周溝深さ	周溝堀方断面形状	時代時期	挿図No. 遺構	遺物	備考
				(外周) / (内周)								
1号	10k	41b･d	N－　20°　－W	7.51 / 5.4	7.45 / 5	1.26	0.35	半円形	奈良 8世紀初頭	第151図	第155図	
2号	9k	20a	N－　32°　－W	5.17 / 4	4.93 / 3.78	0.7	0.15	半円形	奈良？	第151図	－	
3号	9k	10b～d	N－　25°　－W	8.2 / 6.7	7.88 / 6.32	1.08	0.25	半円形	奈良？	第151図	－	
4号	10k	2a～d	N－　2°　－E	7.75 / 5.1	7.72 / 5.02	1.5	0.45	半円形	奈良？	第152図	第155図	遺物は混入品
5号	10J	82b	N－　41°　－W	3.58 / 2.86	2.94 / 2.12	0.46	0.17	半円形	奈良？	第152図	－	
6号	10J	83c･d	N－　11°　－W	6.8 / 4.92	6.45 / 2.6	1	0.32	半円形	奈良？	第152図	第155図	遺物は混入品
7号	10J	62a･c	N－　13°　－W	7 / 5.2	5.7 / 3.8	1.2	0.34	半円形	奈良 8世紀	第153図	第155図	
8号	10J	42d	N－　10°　－W	7.22 / 5.3	7.02 / 5.06	1.1	0.3	半円形	奈良 8世紀	第153図	第155図	
9号	10J	61a･b	N－　17°　－W	4.78 / 3.34	4.41 / 3.04	0.76	0.24	半円形	奈良？	第153図	－	
10号	10J	22a	N－　12°　－W	8.43 / 5.6	8.28 / 5.46	1.6	0.52	逆台形？	奈良？	第154図	第155図	
11号	10I	64a	N－　14°　－W	4.93 / 3.54	4.68 / 3.32	0.8	0.2	半円形	奈良？	第154図	－	

１号方形周溝状遺構

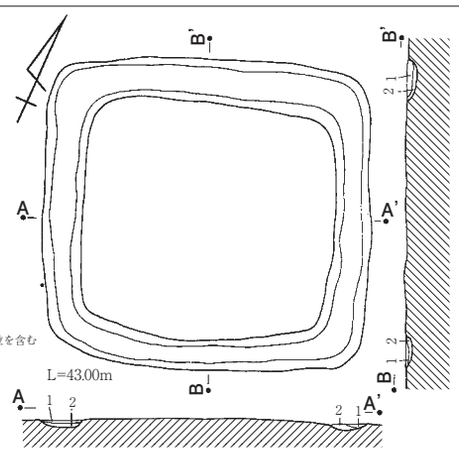
遺構の状況	平面形はほぼ正方形。四隅が直に曲がる。盛土は確認されなかった。断面は半円形。
遺物の状況	遺物は周溝覆土から出土。須恵器長頸壺と杯が出土。 時期は８世紀代初頭頃か？。
備考	



1方
1　7.5YR 2/2 黒褐　　砂粒を多く含む
2　7.5YR 2/3 極暗褐　ローム粒を含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　　ローム粒を多く含む
4　7.5YR 4/6 褐　　ローム粒を多く含む

２号方形周溝状遺構

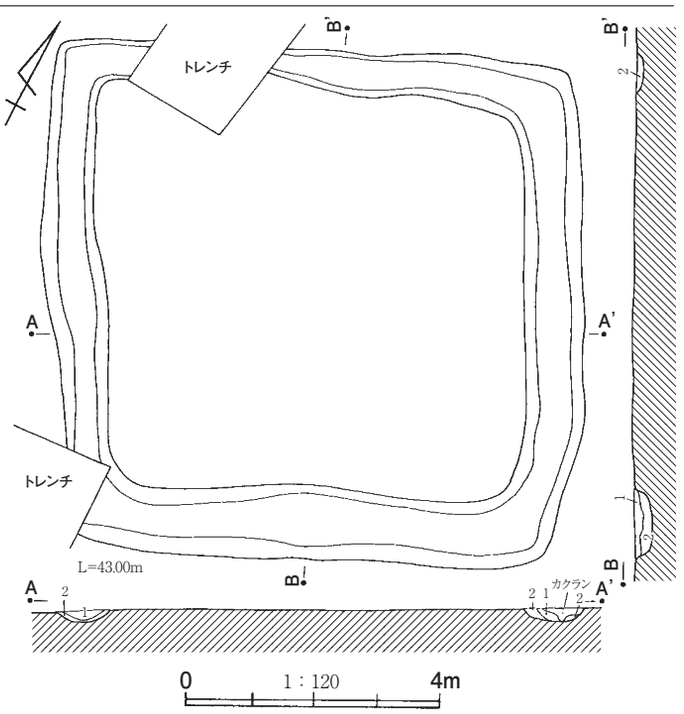
遺構の状況	平面形は東西にやや長い方形。周溝断面形は半円形。 盛土の痕跡は全く確認できなかった。
遺物の状況	明確に伴うと判断できる遺物はない。
備考	



2方
1　7.5YR 3/1 黒褐
2　7.5YR 4/4 褐　　ローム粒を含む

３号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面形はほぼ正方形。四隅が直に曲がる。盛土は確認されなかった。断面は半円形。
遺物の状況	明確に伴うと判断できる遺物はない。
備考	

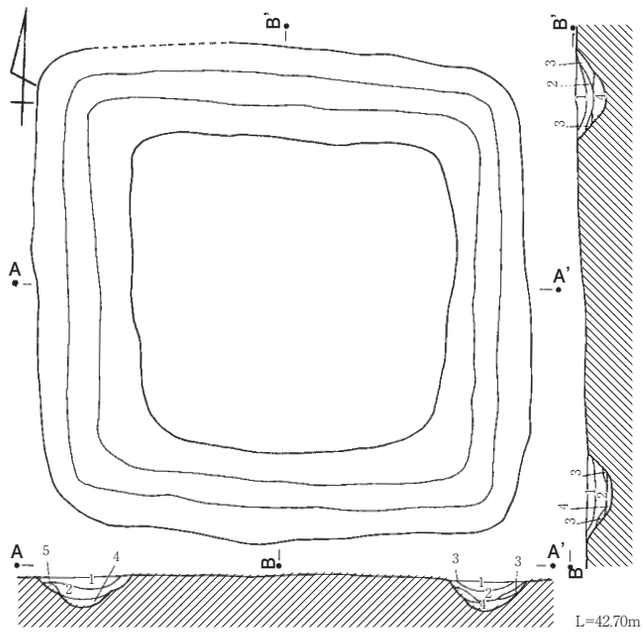


3方
1　7.5YR 2/2 黒褐
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含む

第151図　上谷津第１遺跡１・２・３号方形周溝状遺構

４号方形周溝状遺構

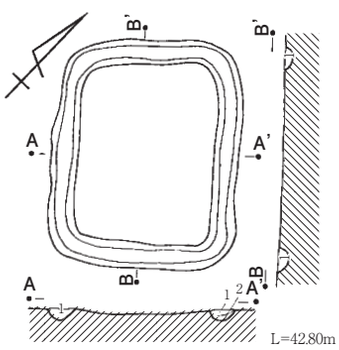
遺構の状況	平面形はほぼ正方形。四隅がやや丸みを帯びる。盛土は確認されなかった。断面は半円形。
遺物の状況	第155図に掲載した本遺構の遺物は、周溝内に混入した古い遺物。古墳時代前期に比定できる。
備考	



4方
1　7.5YR 3/1 黒褐　　ローム粒を若干含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　　ローム粒を若干含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　　ローム粒・ロームブロックをまばらに含む
4　7.5YR 3/4 暗褐　　ローム粒をまばらに含む
5　7.5YR 3/3 暗褐　　ローム粒・ロームブロックを少し含む

５号方形周溝状遺構

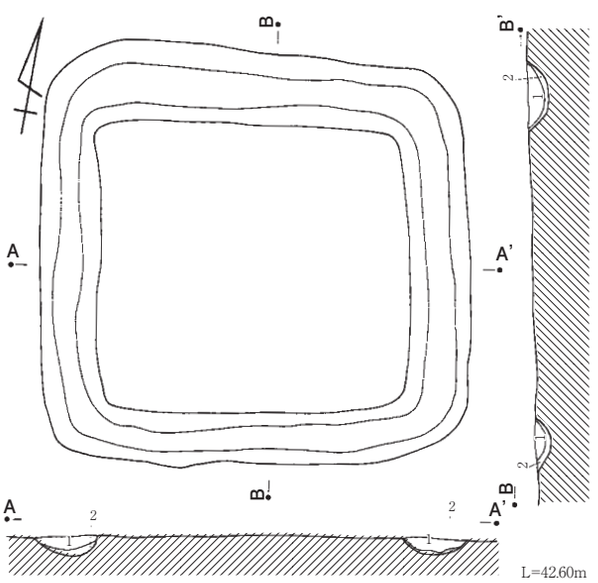
遺構の状況	平面形は南北にやや長い方形。周溝断面形は半円形。 盛土の痕跡は全く確認できなかった。
遺物の状況	明確に伴うと判断できる遺物はない。
備考	最小規模



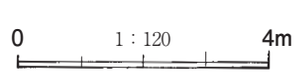
5方
1　7.5YR 3/2 黒褐　　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　　ローム粒含み、ロームブロックをまばらに含む

６号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面形はほぼ正方形。四隅がやや丸みを帯びる。盛土は確認されなかった。断面は半円形。
遺物の状況	第155図に掲載した本遺構の遺物は、周溝内に混入した古い遺物。古墳時代前期に比定できる。
備考	



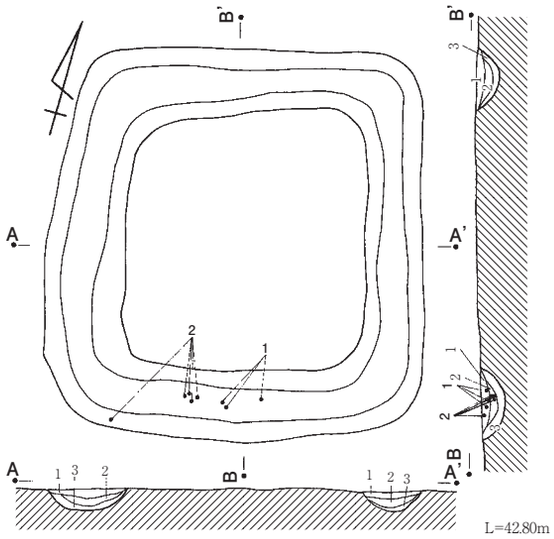
6方
1　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒を少量含む
2　7.5YR 4/3 褐　　褐色土を斑状に含む



第152図　上谷津第１遺跡４・５・６号方形周溝状遺構

７号方形周溝状遺構

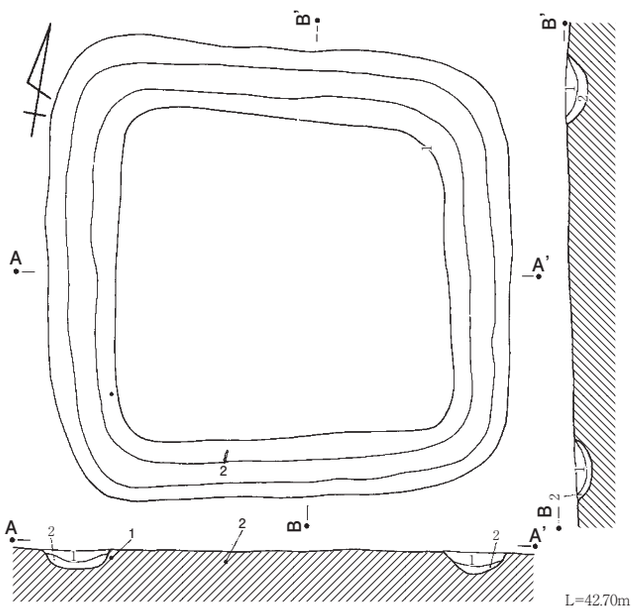
遺構の状況	平面形はほぼ正方形。四隅がやや丸みを帯びる。盛土は確認されなかった。断面は半円形。
遺物の状況	周溝内から須恵器の長頸壺２点出土。８世紀代に比定できる。
備考	



7方
1 7.5YR 4/2 灰褐　ローム粒・焼土炭化物を少量含む
2 7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・焼土炭化物を微量に含む
3 7.5YR 4/3 褐　炭化物を少量含む

８号方形周溝状遺構

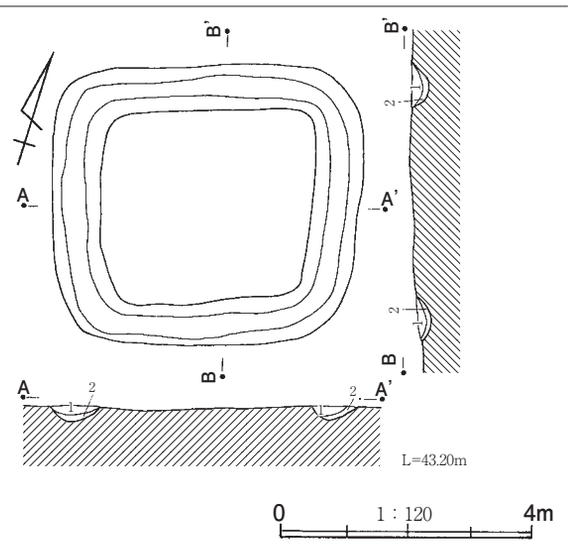
遺構の状況	平面形はほぼ正方形。四隅がやや丸みを帯びる。盛土は確認されなかった。断面は半円形。
遺物の状況	周溝内から、須恵器短頸壺が出土。時期は８世紀代に比定できる。また、刀子が一点出土。
備考	



8方
1 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少量含み、焼土粒を微量含む
2 7.5YR 5/4 にぶい褐　黄褐色土を斑状に含む

９号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面形はほぼ正方形。四隅がやや丸みを帯びる。盛土は確認されなかった。断面は半円形。
遺物の状況	明確に伴うと判断できる遺物はない。
備考	

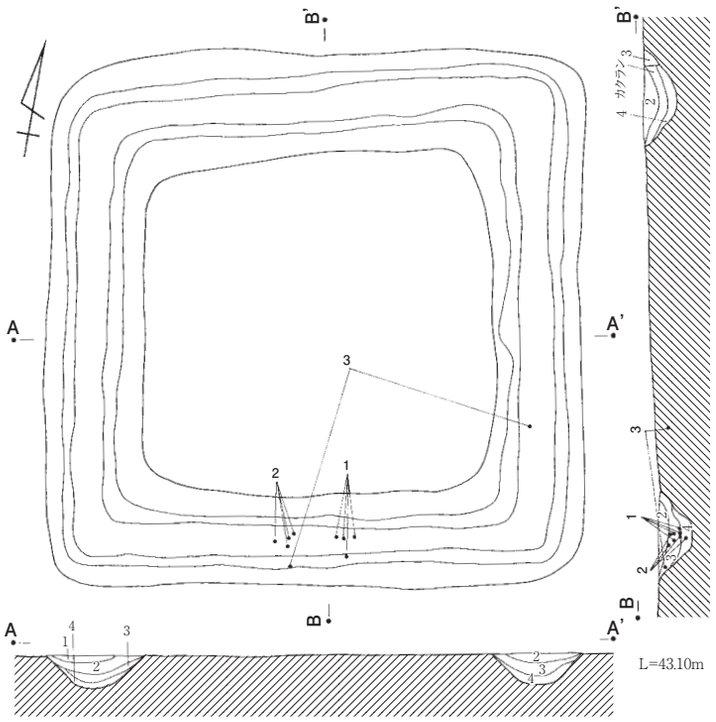


9方
1 7.5YR 4/2 灰褐　ローム粒を含み、焼土粒を少量含む
2 7.5YR 4/3 褐　ローム粒をやや多く含む

第153図　上谷津第１遺跡７・８・９号方形周溝状遺構

10号方形周溝状遺構

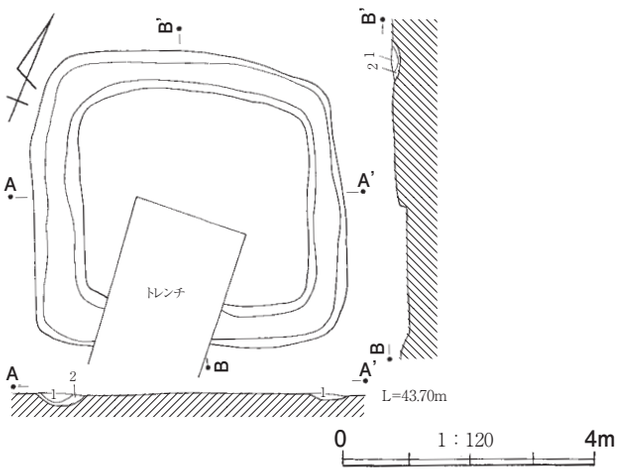
遺構の状況	平面形はほぼ正方形。四隅がやや丸みを帯びる。盛土は確認されなかった。断面は半円形。周溝がやや幅広である。
遺物の状況	周溝から土師器の小鉢が３点出土。
備考	



10方
1　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・焼土粒を含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒・焼土粒・ロームブロックを含む
3　7.5YR 4/2 灰褐　ローム粒・焼土粒を含み、褐色土を含む
4　7.5YR 4/3 褐　　ローム粒・焼土粒を含み、褐色土を多く含む

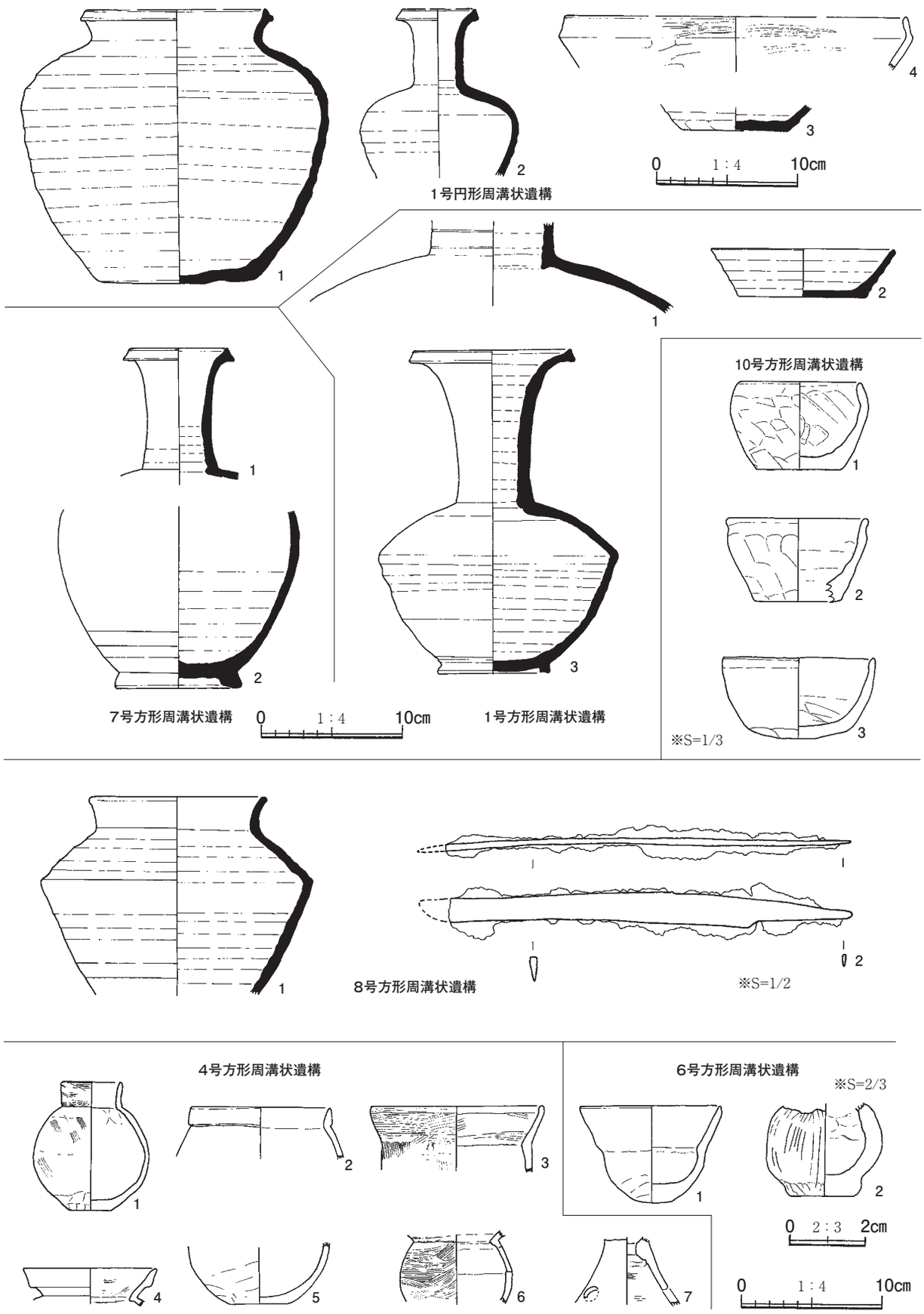
11号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面形はほぼ正方形。外周四隅がやや丸みを帯びる。盛土は確認されなかった。周溝は浅く、断面は半円形。南西部が一部破壊。
遺物の状況	明確に伴うと判断できる遺物はない。
備考	



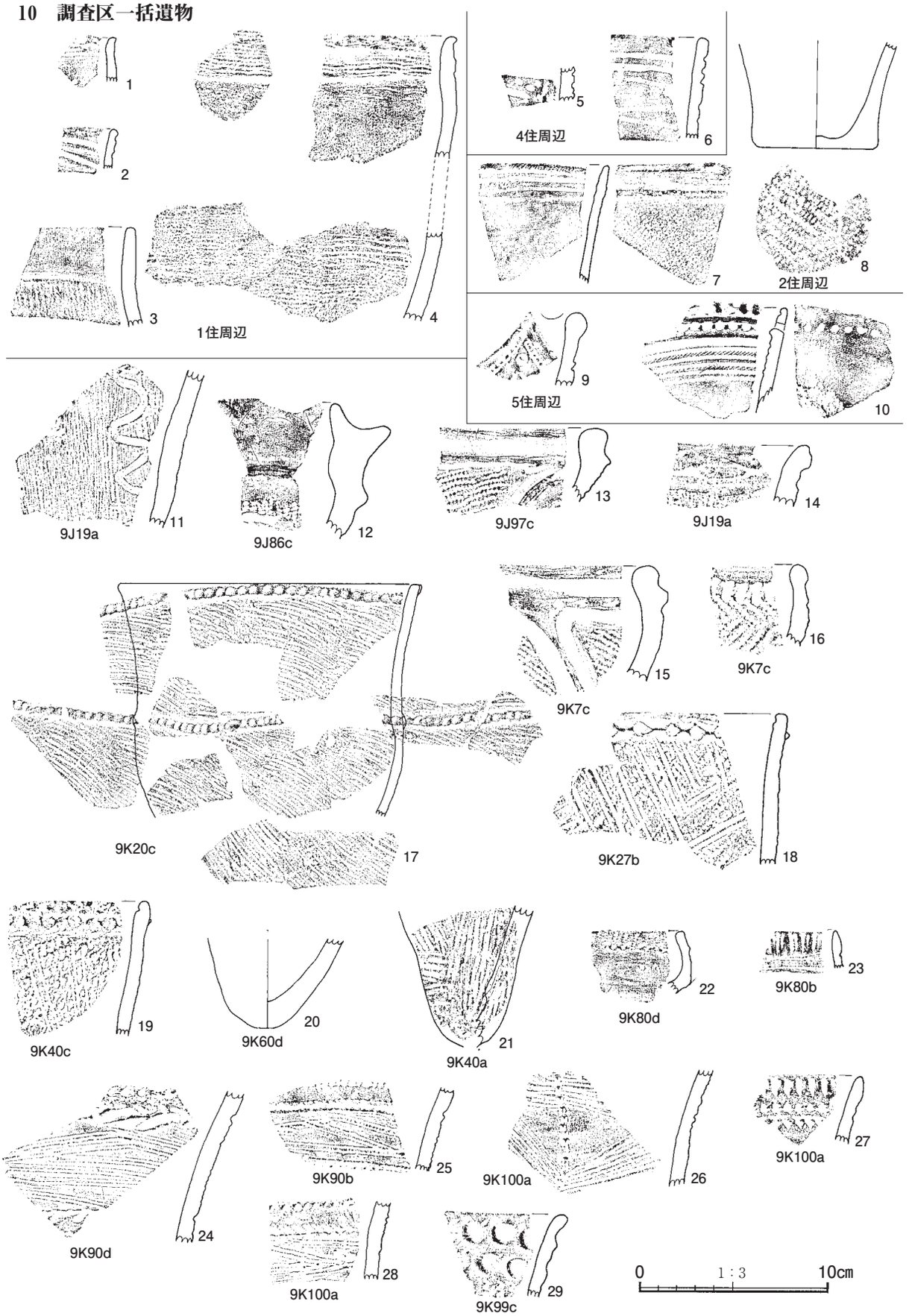
11方
1　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少量含む
2　7.5YR 4/3 褐　　ソフトロームを含む

第154図　上谷津第１遺跡10・11号方形周溝状遺構

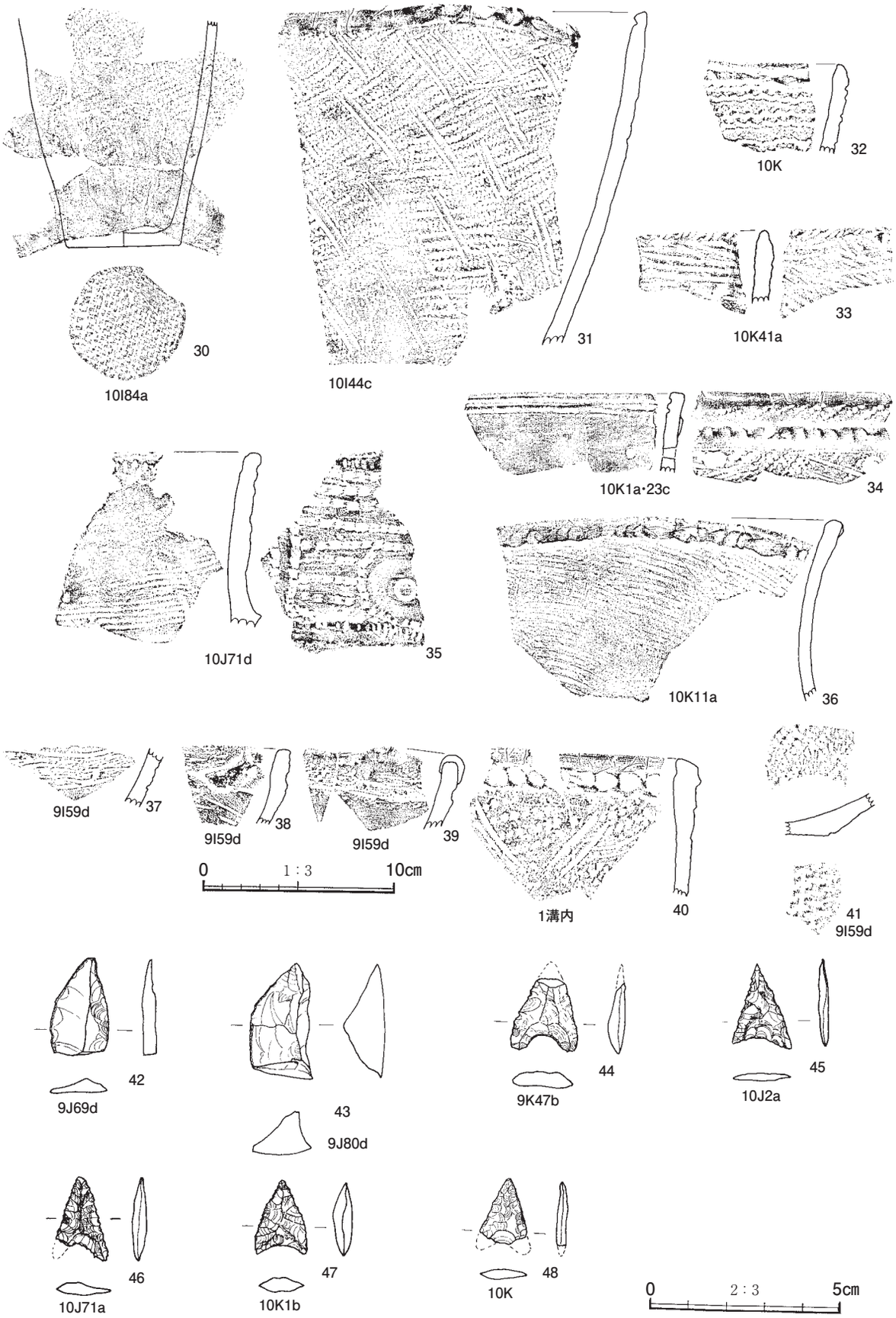


第155図　上谷津第１遺跡円形・方形周溝状遺構出土遺物

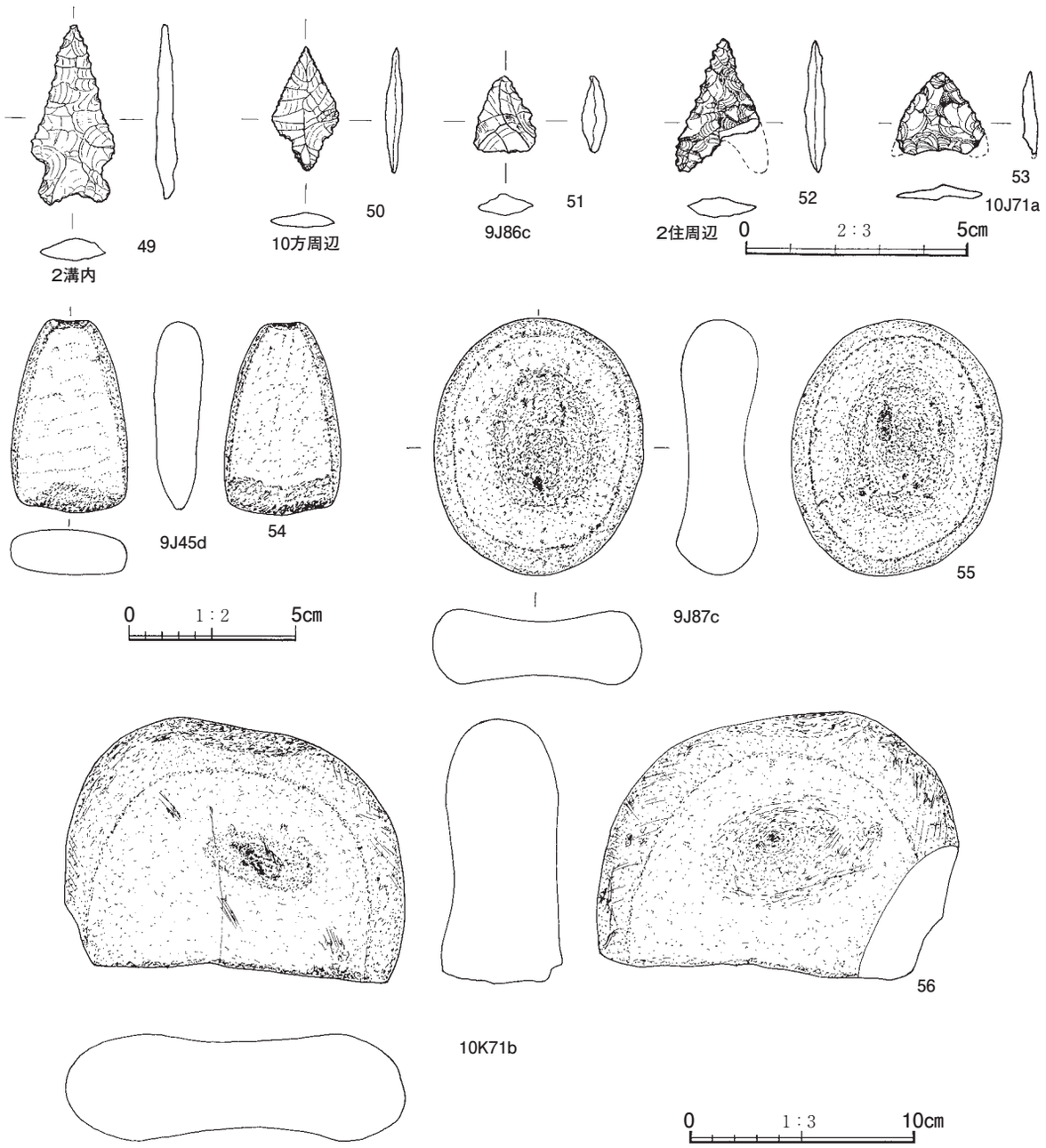
10　調査区一括遺物



第156図　上谷津第１遺跡調査区出土遺物①



第157図　上谷津第１遺跡調査区出土遺物②



第158図　上谷津第１遺跡調査区出土遺物③

第３節　小結

上谷津第１遺跡では、炉穴５基、住居跡24軒、陥穴７基、土壙31基、土壙墓１基、有天井土壙４基、円形周溝状遺構１基、方形周溝状遺構11基、溝２条、炭窯11基が検出された。遺構の主体は、古墳時代前期の集落（住居跡23軒）である。

旧石器　第111図に示した石器と第157図-42・43の４点が出土しただけである。第157図のものは黒耀石製の尖頭器であろう。42は表面の風化が激しい。これらの黒耀石は分析の結果、小深沢産のものと判明した。

炉穴　５基検出され、１～３号炉穴は調査区の東側の台地縁辺部付近、４・５号炉穴は台地の中央部やや南よりに分布する。２・３号炉穴からは条痕文土器、４号炉穴からは撚糸文系土器が出土した。

住居跡　24軒の住居跡の内、14号住居跡が縄文時代中期・加曽利ＥⅣ式期である他は、古墳時代前期の住居跡である。住居跡は台地の基部にはなく、中央から台地先端部にかけて広く展開する。全く重複関係はなく各々単独で造られている。土器の内容を検討すると６期程に分けられる可能性が高い。また、集落内である程度の系統だったグループが存在する可能性もある。詳細な検討は、第９章にて行う。

陥穴　遺物は総じて少ないが、７基の陥穴の内、１・２・７号陥穴から縄文時代早期の土器片が出土している。底部に柱穴があるもの（１・３号）と無いもの（左記以外）に分けられる。

土壙　縄文時代のものが22基、奈良・平安時代のものが２基、中近世のものが４基、時期が不明なものが１基ある。縄文時代のものの内、２・７号土壙は早期条痕文期と考えられる。奈良・平安時代の34号土壙は９世紀初頭頃と推定される（第146図34土- １）。

土壙墓　端山越遺跡の２号土壙と構造的によく似ているが、覆土中に炭化物と焼土を含んでいる。方形の上部と長方形で長軸に直交する溝が底部に３条ある下段とに分かれる。遺物が出土していないので時期の特定はできないが、他遺跡の同形状の遺構が奈良・平安時代の所産である場合が多い。

有天井土壙　４基検出され、１号有天井土壙は底部に直交する３条の溝、２号有天井土壙には１条の溝がある。これらは土壙墓と同様の底面構造である。３・４号有天井土壙には底部の溝がなかったが、上部構造から下部構造へ展開する地下式横穴状の形態であり、１・２号有天井土壙と同類であることは間違いない。遺物はないが、土壙墓と同様の理由で奈良・平安時代の遺構と考えている。

円形・方形周溝状遺構　円形周溝状遺構は、第155図１円-1･２が周溝上段部から出土し、８世紀前半代に比定できる。方形周溝状遺構は、１号方形周溝状遺構の第155図１方- ２･３が８世紀中頃、７号方形周溝状遺構の第155図7方-1･２と8方-1が８世紀後半頃に比定できよう。これらのことから円形周溝状遺構が方形周溝状遺構に先行する形態の墳墓である可能性が考えられる。

溝・炭窯　溝は、調査範囲の北西側にある。自然地形的にやや緩斜面気味になる稜線際にあり、開発前に存在した地道と重なる関係にある。遺構の形成に関わると推定できるような遺物はないが、現代の地道と重複するといった状況から中近世以降に作られた遺構であると予想できる。なお、古墳時代前期の集落がこの溝よりも北側に広がらない様子が窺え、場合によってはその時代から継続する可能性もなくはないように思われる。炭窯の配列には規則性は見られない。平面形が方形を呈するもの（１～５・９～11号炭窯）と焚き口と本体に分割する瓢箪形のもの（６～８号炭窯）に分類できる。

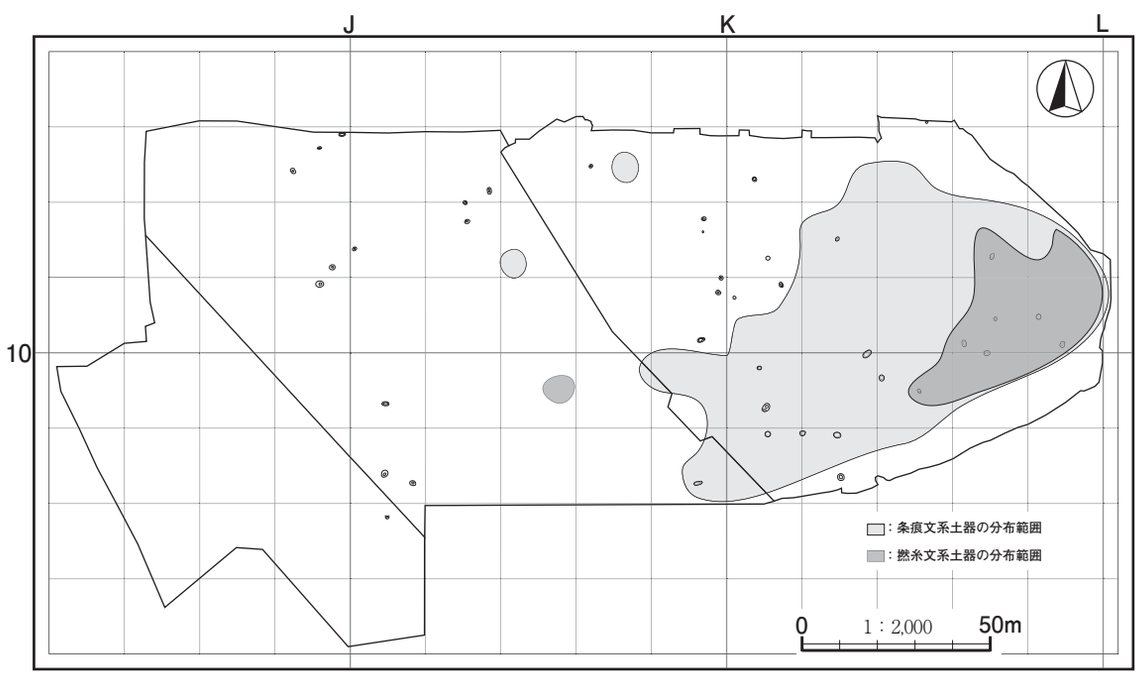
調査区一括遺物（第156～158図）

遺構に伴わずに調査区ごとに包含層から出土した遺物のうち、特徴的な遺物のみを抽出した。時代は、旧石器・縄文時代早期・前期・中期前半～末葉・後期・晩期末葉・弥生時代・古墳時代前期・奈良・平安時代の遺物が出土した。旧石器は第157図-42（9J69b）・43（9J80d）のみである。両方とも黒耀石で、長野県小深沢産であることが分析で判明している。縄文時代早期は、撚糸文系と条痕文系の土器が出土している。第156図-20は尖底土器で内外面ともナデ調整で、撚糸文系の土器の底部と思われる。同図-21は内外面とも密な貝殻条痕を施す尖底土器で野島式の可能性がある。第157図-35は茅山下層式である。このタイプの土器片は比較的目立つ量が含まれていたが、個体として復元できるものはなかった。同図-33も条痕文系で口唇部に刻みがはいる。前期は、諸磯式（第156図-22･24

～26・28）と浮島式（第156図-23･27･29）が出土している。第157図-32も前期と思われるが型式は不明である。中期は、前半の阿玉台式（第156図- ９）、半ば以降の加曽利ＥⅢ式（第156図-15）、縦位の条線に蛇行垂下文の曽利系の土器（第156図-11）、加曽利ＥⅣ式（第156図-12～14・16）が出土している。後期初頭の称名寺式に類すると考えられる細片が出土しているので、加曽利ＥⅣ式系のものもある程度含まれているのであろう。後期は、堀之内式（第156図- ７･10）、加曽利Ｂ式（第156図-18･19・第157図-31･34･40）、安行式（第156図-17・第157図-36）がある。加曽利Ｂ式の粗製土器がもっとも量的には目立ち、Ｂ１式よりもＢ２式の方がおそらく多いであろう。晩期は終末期の千網式・荒海式が１号住居跡周辺からやや集中して出土している（第156図- １～６）。このタイプの土器は、宮内井戸作遺跡や弥富川を挟んだ対岸の西御門荒生遺跡などで出土しており、西御門支谷に晩期末葉の集落群が群在していたことを示唆している。弥生時代の遺物は、土器はなく第158図-49の「アメリカ式石鏃」１点である。

このタイプ石鏃は、千葉市内では初出であり、千葉県内においてもその数は少ない。県内の出土例の実数は把握していないが、茂原市宮ノ台遺跡出土例が『房総考古学ライブラリー４弥生時代』で紹介されている。本例は、チャート製で鏃身部の整形具合がとても丁寧で、平面形状的にも通有の石鏃とよく似ている。東北地方・北陸地方で出土する例よりも、鏃身部の状況は房総で出土する縄文時代の石鏃と形状的には近いようである。

第159図は、撚糸文系と条痕文系の土器が分布する範囲である。この時期の遺構は炉穴のみで、住居跡などの集落跡は検出されていない。しかし、下図のように台地の先端部分に集中して遺物の包含層が存在し、明確に早期にこの台地上で生活圏が形成されていたことを示している。このような状況は、西御門明神台遺跡や上谷津第２遺跡でも同様の傾向がみられる。つまり、西御門支谷を望む台地縁辺部に早期の集落が点在していたことが理解できる。時間的な制約から、遺物の検討や図面の掲載がかなわなかったが、代表的な遺物の抽出は行っているので活用していただければ幸いである。



第159図　上谷津第１遺跡撚糸文・条痕文系土器分布範囲

第７章　上谷津第２遺跡の調査

上谷津第２遺跡の本調査は、確認調査時に遺構がほとんど確認されなかった北西部のやや緩斜面気味の地点と台地東端部分を除外した範囲を調査対象とした。

第１節　調査の概要

検出された遺構の種類は、炉穴・住居跡・陥穴・土壙・有天井土壙・方形周溝状遺構・掘立柱建物跡・炭窯である。これらの中で遺跡を代表する主たる遺構となるのは、縄文時代中期末から後期初頭の７軒の住居跡である。

住居跡の時期は、２・３号住居跡が前期・黒浜式期、４・５号住居跡は時期を確定できる物証がなかったので、縄文時代とした。４・５号住居跡からは、床面近くで若干の撚糸文系の土器が出土した

第39表　上谷津第２遺跡遺構一覧

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	
１号	炉穴	F001	縄文	早期	
２号	炉穴	F002	縄文	早期	
３号	炉穴	F003	縄文	早期	
４号	炉穴	F004	縄文	早期	
５号	炉穴	F005	縄文	早期	

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
１号	住居跡	A001	縄文	加曽利ＥⅣ式？	
２号	住居跡	A002	縄文	黒浜	
３号	住居跡	A003	縄文	黒浜	
４号	住居跡	A004	縄文	前期？	
５号	住居跡	A005	縄文	前期？	
６号	住居跡	A006	縄文	称名寺Ⅰ式	柄鏡型・大型石棒
７号	住居跡	A007	縄文	称名寺Ⅰ式	
８号	住居跡	A008	縄文	称名寺Ⅰ式	
９号	住居跡	A009	縄文	加曽利ＥⅣ式	
10号	住居跡	A010	縄文	称名寺Ⅰ式	
11号	住居跡	A011	縄文	称名寺Ⅰ式	
12号	住居跡	A012	縄文	称名寺Ⅰ式	

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	
１号	陥穴	C006	縄文		
２号	陥穴	C024	縄文	条痕文期	

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
１号	土壙	C001	縄文		
２号	土壙	C002	縄文		
３号	土壙	C003	縄文		
４号	土壙	C004	縄文		
５号	土壙	C005	縄文		
６号	欠番				
７号	土壙	C007	縄文		
８号	土壙	C008	縄文		
９号	土壙	C009	縄文	後期？	
10号	土壙	C010	縄文		
11号	土壙	C011	縄文	撚糸文期？	
12号	土壙	C012	縄文	撚糸文期？	
13号	土壙	C013	縄文		
14号	土壙	C014	縄文		
15号	土壙	C015	縄文		
16号	土壙	C016	縄文	称名寺Ⅰ式	32・35土と接合
17号	土壙	C017	縄文		
18号	土壙	C018	縄文		
19号	土壙	C019	縄文	撚糸文期？	
20号	土壙	C020	縄文	撚糸文期？	
21号	土壙	C021	縄文	条痕文期	
22号	土壙	C022	縄文	条痕文期	
23号	土壙	C023	縄文	加曽利ＥⅣ式？	
24号	欠番				
25号	欠番				
26号	土壙	C026	縄文	加曽利ＥⅣ式？	
27号	土壙	C027	縄文	後期初	
28号	欠番				
29号	土壙	C029	縄文	後期初	

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
30号	土壙	C030	縄文	条痕文期	
31号	土壙	C031	縄文	撚糸文期	
32号	土壙	C032	縄文	称名寺Ⅰ式	16・35土と接合
33号	土壙	C033	縄文	加曽利ＥⅣ式	
34号	土壙	C034	縄文		
35号	土壙	C035	縄文	称名寺Ⅰ式	16・32土と接合
36号	土壙	C036	縄文		
37号	土壙	C037	縄文	撚糸文期	
38号	土壙	C038	縄文		
39号	土壙	C039	縄文		
40号	土壙	C040	縄文	加曽利ＥⅣ式	
41号	土壙	C041	縄文	加曽利ＥⅣ式	
42号	土壙	C042	縄文		
43号	土壙	C043	縄文		
44号	土壙	C044	縄文		
45号	土壙	C045	縄文	加曽利ＥⅣ式	
46号	土壙	C046	縄文		
47号	土壙	C047	縄文	加曽利ＥⅣ式	
48号	土壙	C048	縄文	称名寺Ⅰ式？	
49号	土壙	C049	縄文	諸磯ｂ式？	
50号	土壙	C050	縄文		
51号	土壙	C051	縄文	加曽利ＥⅣ式	
52号	土壙	C052	縄文		
53号	土壙	C053	縄文		
54号	土壙	C054	縄文		
55号	土壙	C055	縄文		
56号	土壙	C056	縄文	加曽利ＥⅣ式	
57号	土壙	C057	縄文		
58号	土壙	C058	縄文	加曽利ＥⅣ式	
59号	土壙	C059	縄文	称名寺Ⅰ式	
60号	土壙	C060	縄文		
61号	土壙	C061	縄文	早期	
62号	土壙	C062	縄文	加曽利ＥⅣ式	
63号	土壙	C063	縄文	加曽利ＥⅣ式	
64号	土壙	C064	縄文		
65号	土壙	C065	縄文		

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	
１号	有天井土壙	C025	奈良？		
２号	有天井土壙	C028	奈良？		

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	
１号	方形周溝状遺構	同左	奈良？		
２号	方形周溝状遺構	同左	奈良？		
３号	方形周溝状遺構	同左	奈良？		

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	
１号	掘立柱建物跡	B001	中世？		

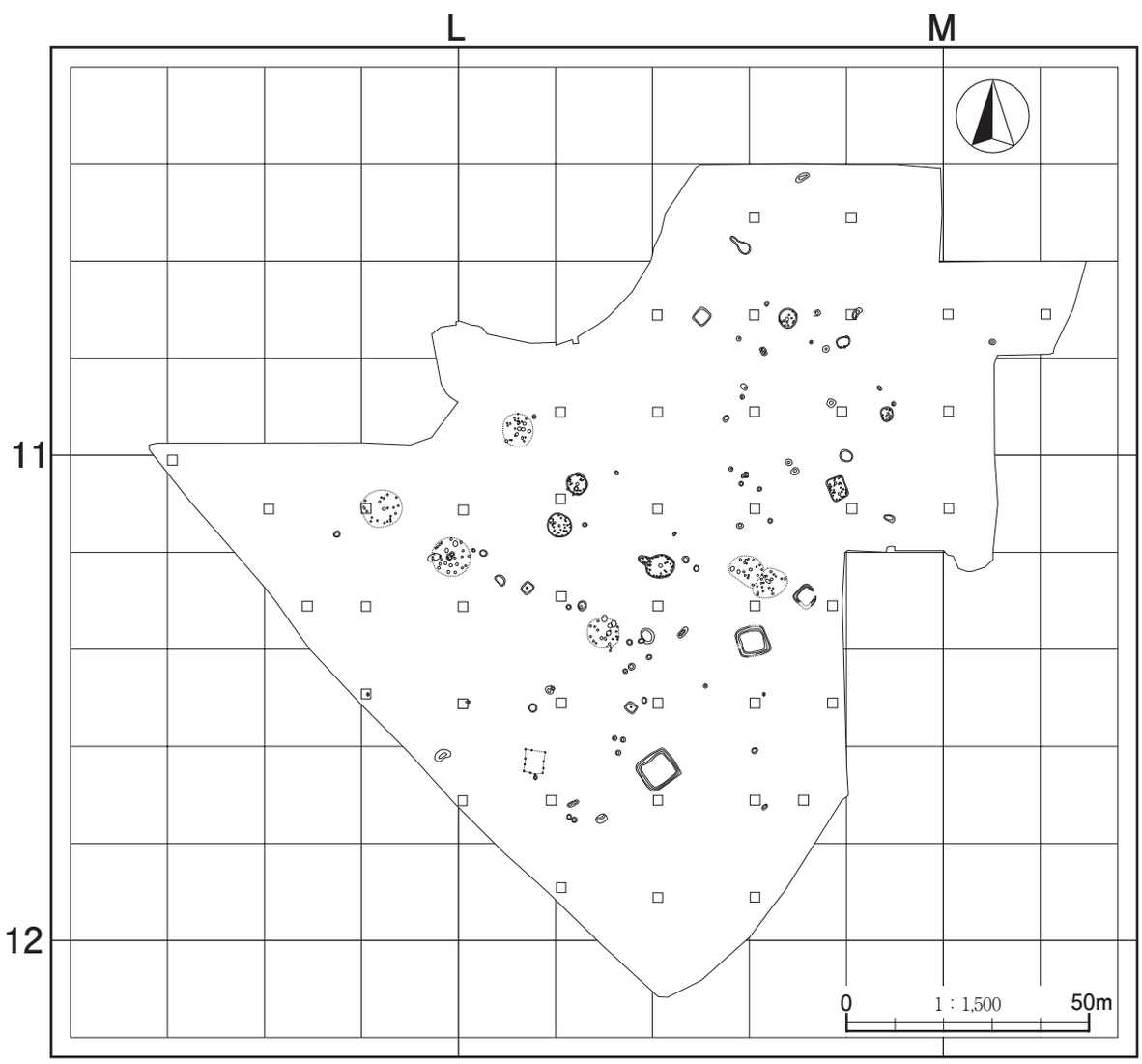
遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	
１号	炭窯	G001	中近世		
２号	炭窯	G002	中近世		
３号	炭窯	G003	中近世		
４号	炭窯	G004	中近世		

が、炉跡といった確実に住居跡に付属する施設からの出土遺物がなく、周辺に早期・撚糸文と条痕文期の包含層があることから混入品の可能性が棄てきれない。また、撚糸文期の一般的な住居跡形態とは異なるようでもあり、これらのことから時期の確定はさけることとした。

黒浜式期の住居跡は、調査区中央部やや北東よりの範囲に２・３号住居跡が分布する。

中期末から後期初頭の住居跡は主に台地の最頂部の平坦地に分布している。

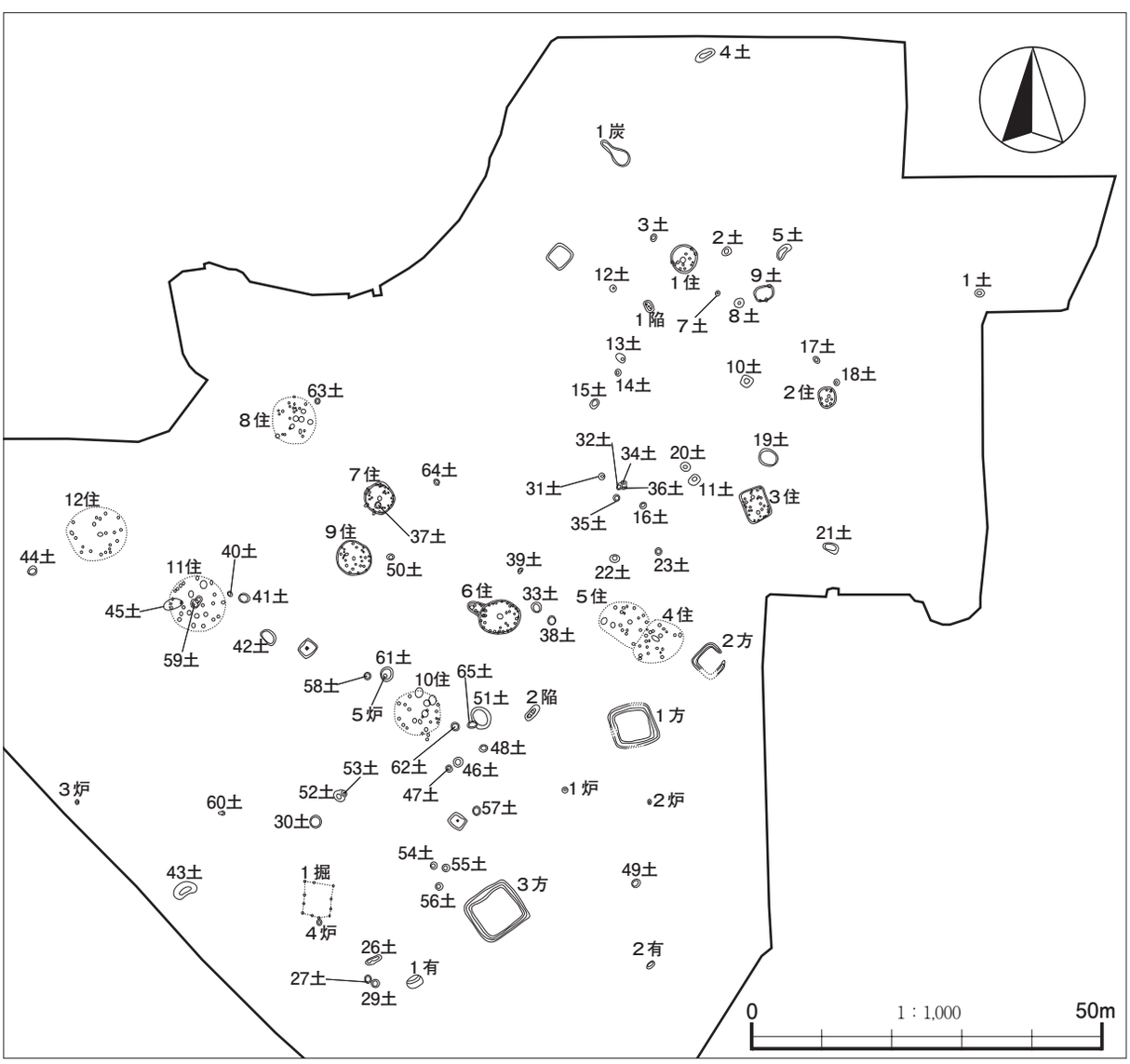
これらの中で、注目すべきは柄鏡形住居跡の６号住居跡（称名寺Ⅰ式期）である。遺物量が豊富で、市内で検出されている柄鏡形住居跡の中では遺存度が比較的良好な資料である。この住居跡は柄部先端（第175図-14）と主屋基部（同図-13）の２箇所に埋甕がある。柄部先端のものは横置されたタイプである。石製品もやや多く、第199図-141～146の凹石・石棒片・磨製石斧などが出土した。第176図-15･16のような壺形土器は市内では珍しい。７号住居跡は、６号住居跡とほぼ同時期の遺構である。遺物は豊富で、緑泥片岩製の約90㎝ の大型石棒（第177図-15）や蓋（同図-13）とセットの瓢箪形注口土器（同図-14）も遺存状態は良好である。石棒の出土した西側に出入口と考えられる外向きの長円ピットが２つ並び、ピットの脇に石棒と埋甕（第177図-12）が出土した。８号住居跡の埋甕は、縦置



第160図　上谷津第２遺跡遺構配置図

である。９号住居跡は加曽利ＥⅡ式期の住居跡で、中央に付設された土器埋設炉に利用された土器が複数ある（第178図９住-3・第179図９住- ４～７・第180図９住-12）。

土壙は、全て縄文時代の所産で、早期・前期・中期・後期と時期が不明なものがある。早期・撚糸文期（11・12・19・20・31・37号土壙）のものは、31・37号土壙が確実である。条痕文期（21・22・30号土壙）がある。時期の確定はできないが61号土壙は早期のようである。早期は諸磯ｂ式期の49号土壙のみである。中期は末葉の加曽利ＥⅣ式（23・26・33・40・41・45・47・51・56・58・62・63号土壙）のものである。後期は初頭の称名寺Ⅰ式（16・32・35・48・59号土壙が確実で、27・29号土壙はやや不安がある。）のものである。16・32・35号土壙の資料は、お互いにかなり接合するものが含まれていた。本遺跡における、中期末葉の加曽利ＥⅣ式の資料と称名寺Ⅰ式に伴う所謂「加曽利ＥⅣ系」とされる資料の間に、明確な差異を見いだすことはできない。称名寺式が構成遺物の中に確実に含まれるものを称名寺式としたが、加曽利ＥⅣ式とされた遺構の遺物にたまたま称名寺式が混ざらなかったとするならば、その区別は現状ではできないといってよい。「加曽利ＥⅣ系」の定義の整理が望まれる。



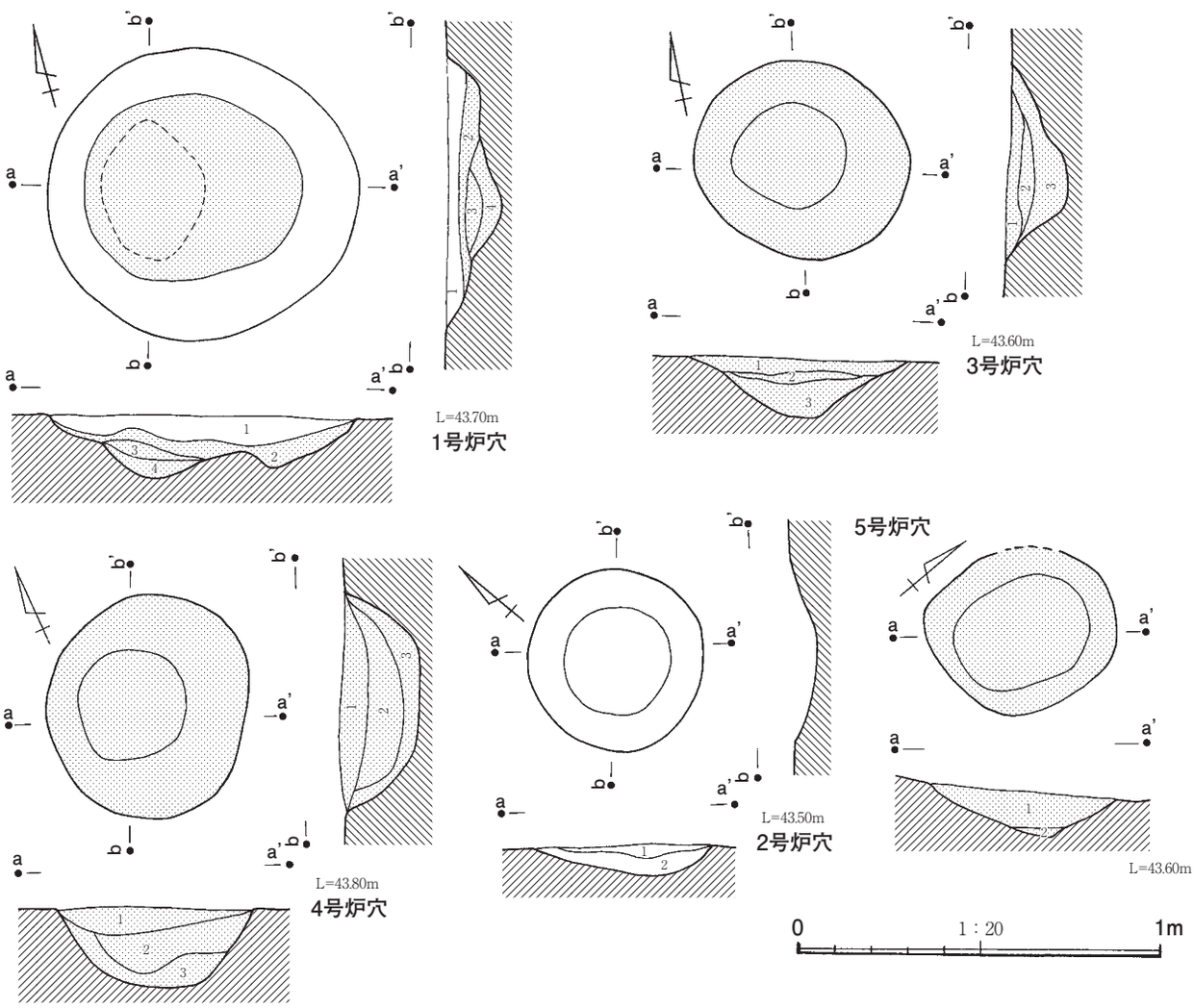
第161図　上谷津第２遺跡遺構配置詳細図

第２節　検出された遺構と遺物

１　炉穴

第40表　上谷津第２遺跡検出の炉穴

遺構No.	検出区	法量（m） 長軸	短軸	深さ	平面形	堀方断面形状	時代	時期	特徴	挿図No. 遺構	遺物	備考
１号	11L　55c	0.85	0.81	0.12	円形	浅半円形	縄文	早期	炉体は西側に寄る	第162図	－	
２号	11L　65c	0.5	0.48	0.06	円形	浅半円形	縄文	早期		第162図	－	
３号	11K　85c	0.6	0.55	0.15	円形	浅半円形	縄文	早期		第162図	－	
４号	11L　17d	0.83	0.69	0.27	楕円形	浅半円形	縄文	早期	やや深い	第162図	－	
５号	11L　24b	0.51	0.45	0.13	楕円形	浅半円形	縄文	早期		第162図	－	



1炉
1　7.5YR 4/4 褐　焼土粒をわずかに含む
2　5YR 4/8 赤褐　焼土粒を多く含む
3　25YR 3/4 赤青褐　焼土主体の炭化物粒を多く含む
4　2.5YR 2/3 極暗赤褐　焼けたロームブロック主体

2炉
1　7.5YR 4/4 褐　焼土粒・炭化物粒をわずかに含む
2　7.5YR 4/6 褐　焼土粒・炭化物粒をわずかに含む

3炉
1　5YR 3/3 暗褐　焼土粒・黒色粒をわずかに含む
2　2.5YR 3/4 暗赤褐　焼土粒をまばらに含む
3　2.5YR 3/6 暗赤褐　焼土ブロックを含む

4炉
1　5YR 3/3 暗赤褐　焼土粒をわずかに含む
2　5YR 3/4 暗赤褐　焼土粒を多く含む
3　5YR 3/2 暗赤褐　焼土粒をわずかに含む

5炉
1　5YR 3/4 暗赤褐　焼土粒をわずかに含む
2　5YR 3/4 暗赤褐　焼土粒をわずかに含む

第162図　上谷津第２遺跡炉穴

２　住居跡

第41表　上谷津第２遺跡検出の住居跡（縄文時代）

遺構No.	検出区		主軸方位	平面形	規模（m）			炉位置	重複関係		時期	挿図No.		備考
					長軸	短軸	深さ		旧	新		遺構	遺物	
１号	10L	68b	N－　7°　－E	楕円	3.93	3.52	0.15	中央			加曽利EⅣ	第163図	第174図 第199図	
２号	11L	71c	N－　16°　－W	長方	2.71	2.37	0.1	中央			条痕文	第163図	第174図	茅山下層？
３号	11L	71c	N－　19°　－W	長方	4.53	3.65	0.35	南北壁際各１			黒浜	第164図	第174図 第175図	焼土分布
４号	11L	63acd	N－　？°　－W	？	(5.5)	(5.0)	？	中央？			前期？	第165図	第175図	
５号	11L	53b 63a	N－　？°　－W	？	(6.0)	(5.5)	？	中央？			前期？	第166図	－	
６号	11L	43a	N－　18°　－W	柄鏡	7.56	5.3	0.24	不明			称名寺Ⅰ	第166図 第167図	第175図 第176図	埋甕２
７号	11L	21a～d	N－　30°　－E	円？	4.5	4.45	0.2	中央			称名寺Ⅰ	第168図	第176図 第177図	石棒・埋甕
８号	10L	20a･c	N－　？°　－W	円？	(5.0)	(5.0)	？	中央？	37土		称名寺Ⅰ	第169図	第178図	埋甕
９号	11L	22a	N－　1°　－W	円	(4.89)	4.85	0.25	中央			加曽利EⅡ	第170図	第178～ 180図	土器埋設炉
10号	11L	24d 34c	N－　？°　－W	円？	(6.35)	(6.0)	？	不明			称名寺Ⅰ	第171図	第180図 第181図	
11号	11K	92d	N－　？°　－W	円？	(7.8)	(7.0)	？	不明	45･59土		称名寺Ⅰ	第172図	第181図	
12号	11K	92ab	N－　？°　－W	円？	(7.0)	(6.0)	？	中央？		炭	称名寺Ⅰ？	第173図	第181図	

１号住居跡　　遺構：第163図　　遺物：第174・199図

遺構の状況	平面形は不整円形。炉はほぼ中央。主柱穴は不明確。壁柱穴は、北西側をのぞいてめぐる。炉の周辺にランダムに柱穴あり。
遺物の状況	遺物は少ない。加曽利EⅣ式に比定できる破片が出土。
備考	

２号住居跡　　遺構：第163図　　遺物：第174図

遺構の状況	平面形は隅は丸みを帯びる長方形を呈する。炉は長軸中央からやや南より。隣接して住居内土壙がある。主柱穴はない。南西隅あたりに壁柱穴らしき柱穴が並ぶが、全体的にはランダムである。
遺物の状況	遺物は少ない。条痕文系と撚糸の土器片が散在する。２は、口唇部に押圧により凹みがつづく。口唇直下には連続して二枚貝の押捺が施文される。４も類似した押圧痕が見られる。
備考	

１住
1　7.5YR 4/4 褐　ローム粒多く含み、ロームブロックをまばらに含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒含み炭化物粒・焼土粒をまばらに含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒多く含み、焼土粒をまばらに含む
4　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒を少し含み焼土粒をまばらに含む
5　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を少し含み焼土粒をまばらに含む
6　7.5YR 4/4 褐　ロームを多く含み、ロームブロックをまばらに含む
7　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、焼土粒をまばらに含む

１住炉
1　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・焼土粒をわずかに含む
2　5YR 3/6 暗赤褐　ローム粒を含み、焼土粒を少し含む
3　5YR 3/4 暗赤褐　焼土粒を含みローム粒を少し含む
4　2.5YR 3/6 暗赤褐　焼土ブロックを含む、炉底部のやけた部分

２住
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/5 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを含む。焼土粒を少し含む
4　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを含み、焼土粒をわずかに含む
5　7.5YR 褐　ローム粒・ロームブロックをわずかに含む
6　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
7　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・ロームブロックを少し含み、焼土粒をわずかに含む

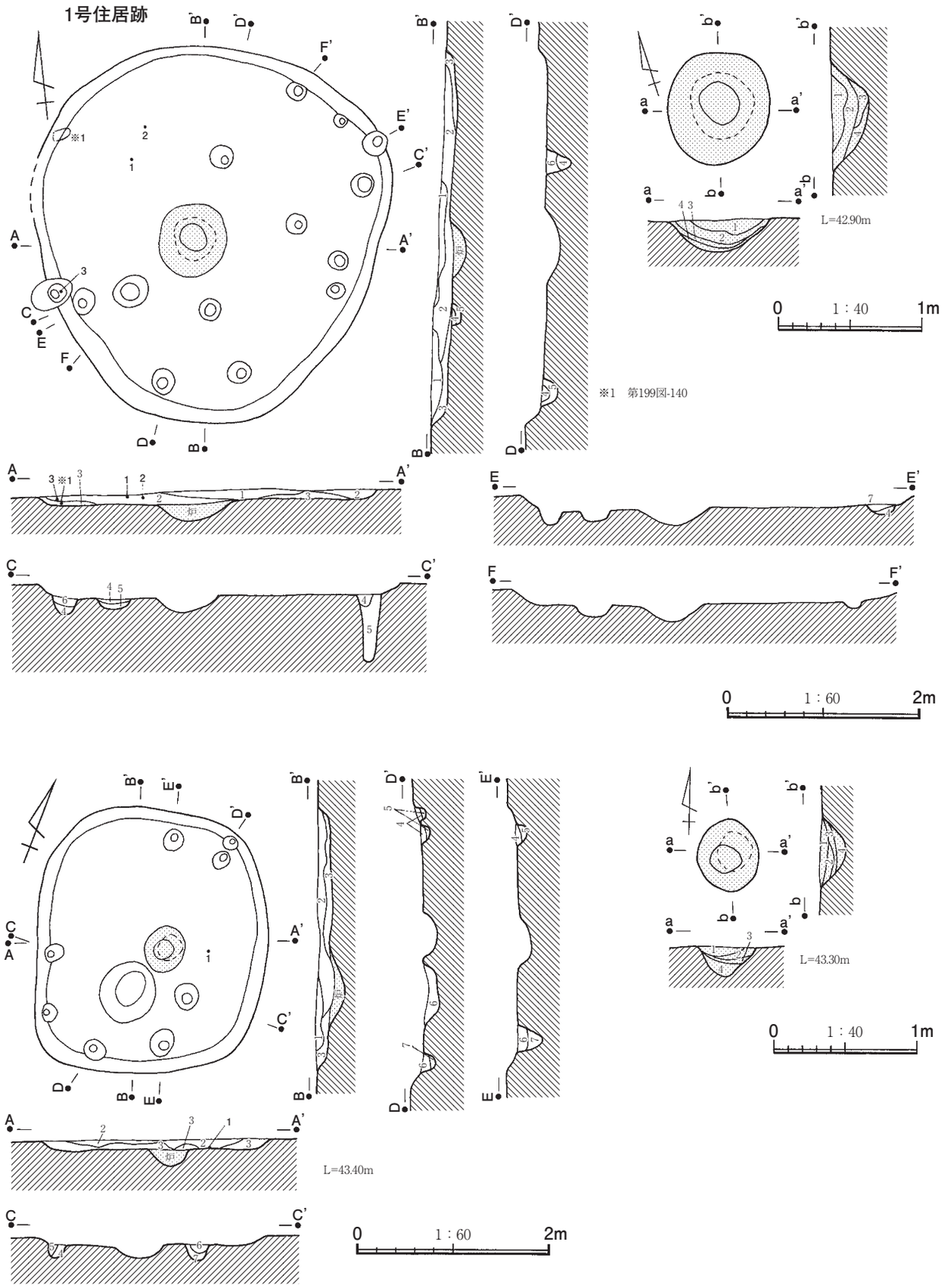
２住炉
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒含み、焼土粒を少し含む
2　5YR 3/6 暗赤褐　ローム粒・焼土粒を含む
3　2.5YR 3/6 暗赤褐　焼土粒をやや多く含み、ローム粒を少し含む
4　2.5YR 3/4 暗赤褐　焼土粒を多く含み、ローム粒を含む

３住
1　7.5YR 3/3 黒褐　ローム粒・焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒子を少し含み、ロームブロック、焼土粒をわずかに含む
4　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロック、焼土粒をまばらに含む
5　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
6　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
7　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む

３住炉
1　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・焼土粒を少し含む
2　2.5YR 3/6 暗赤褐　ロームのやけた部分
3　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をわずかに含む

４住
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
2　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
3　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロック、焼土粒をわずかに含む
4　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

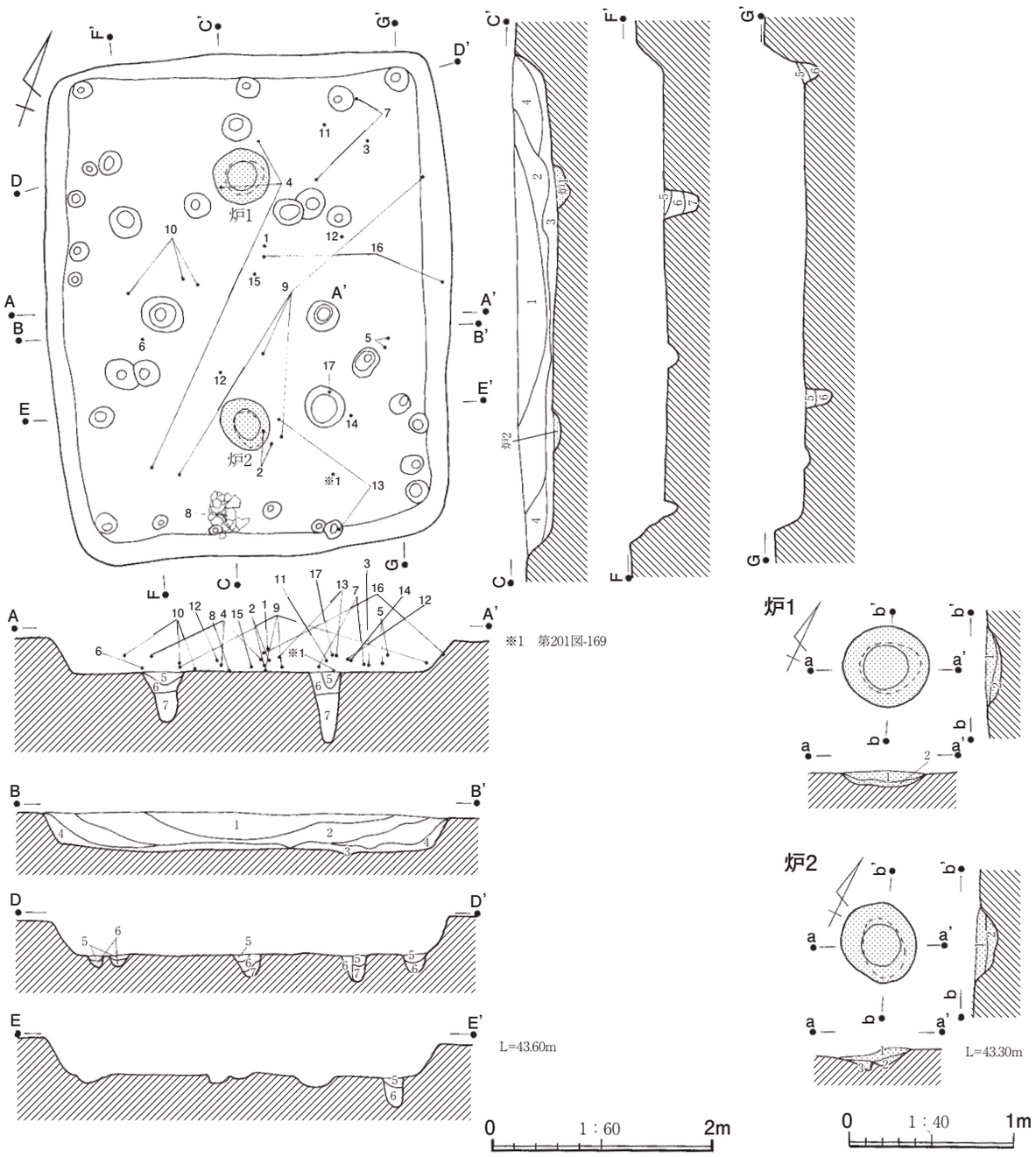
４住炉
1　2.5YR 3/4 暗赤褐　焼土粒・ローム粒子を含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、焼土粒を少し含む



第163図　上谷津第２遺跡１・２号住居跡

３号住居跡　　遺構：第164図　　遺物：第174・175・201図

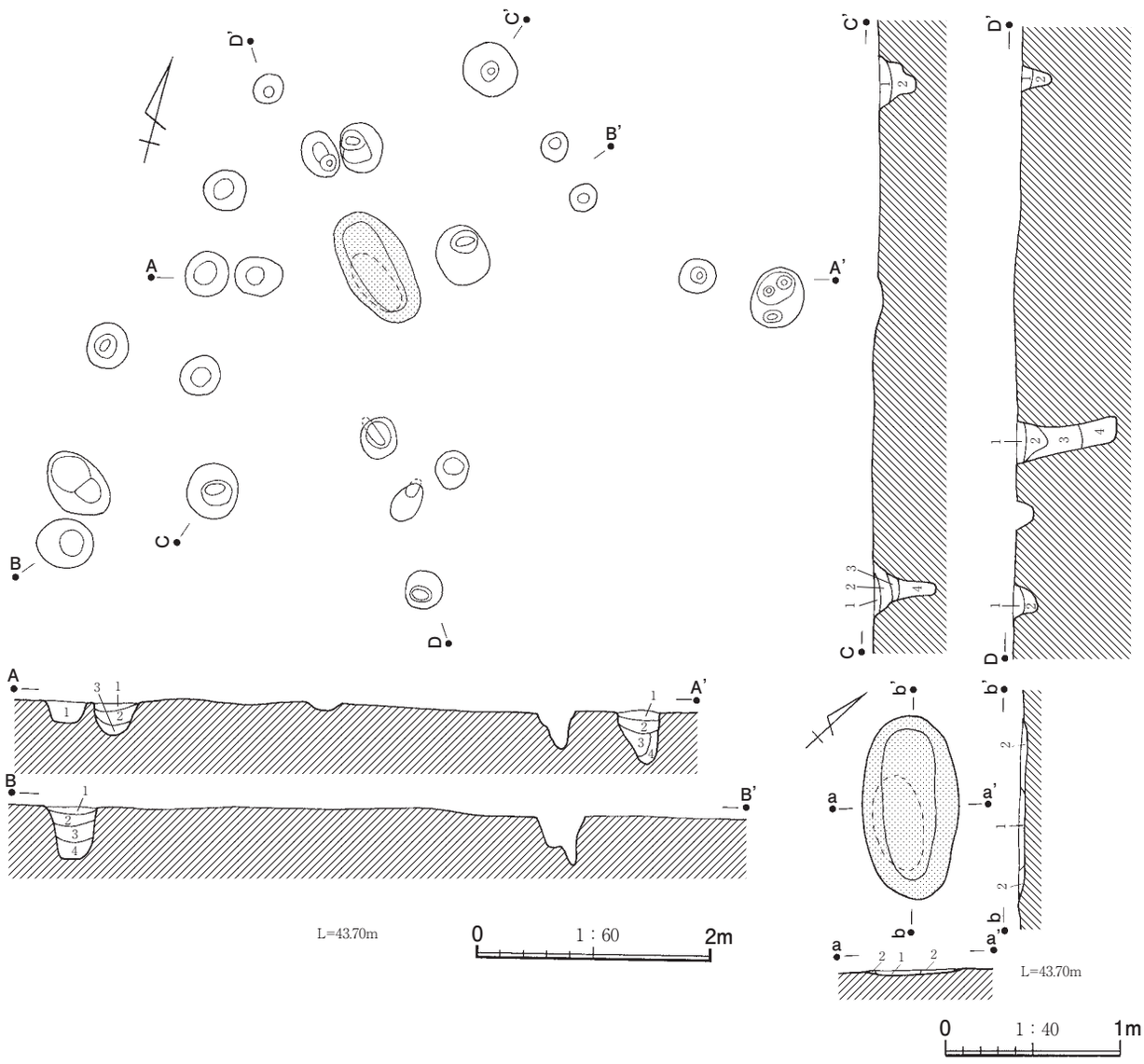
遺構の状況	平面形は長方形を呈する。炉は長軸中央部北寄りと南よりの２箇所にあり。短軸中心線上に２穴(a-a') の主柱穴がある。北辺の東西の各隅と中央に等間隔で柱穴があるが、これら以外に規則性のある柱穴はない。
遺物の状況	遺物は多い。５の黒浜式の深鉢は床面直上からの出土であり、この住居跡を代表する。１･12のように条痕文を施文擦る土器も含む。３は素口縁の横位に平行沈線を施す。４は羽縄文の素口縁深鉢。７のような補修痕のある破片も少なくない。10は、平行沈線による横位の平行沈線間に波状沈線を施すもので、口縁端部までの施文状況から諸磯a式に連なるとも考えられる。
備考	



第164図　上谷津第２遺跡３号住居跡

４号住居跡　　遺構：第165図　　遺物：第175図

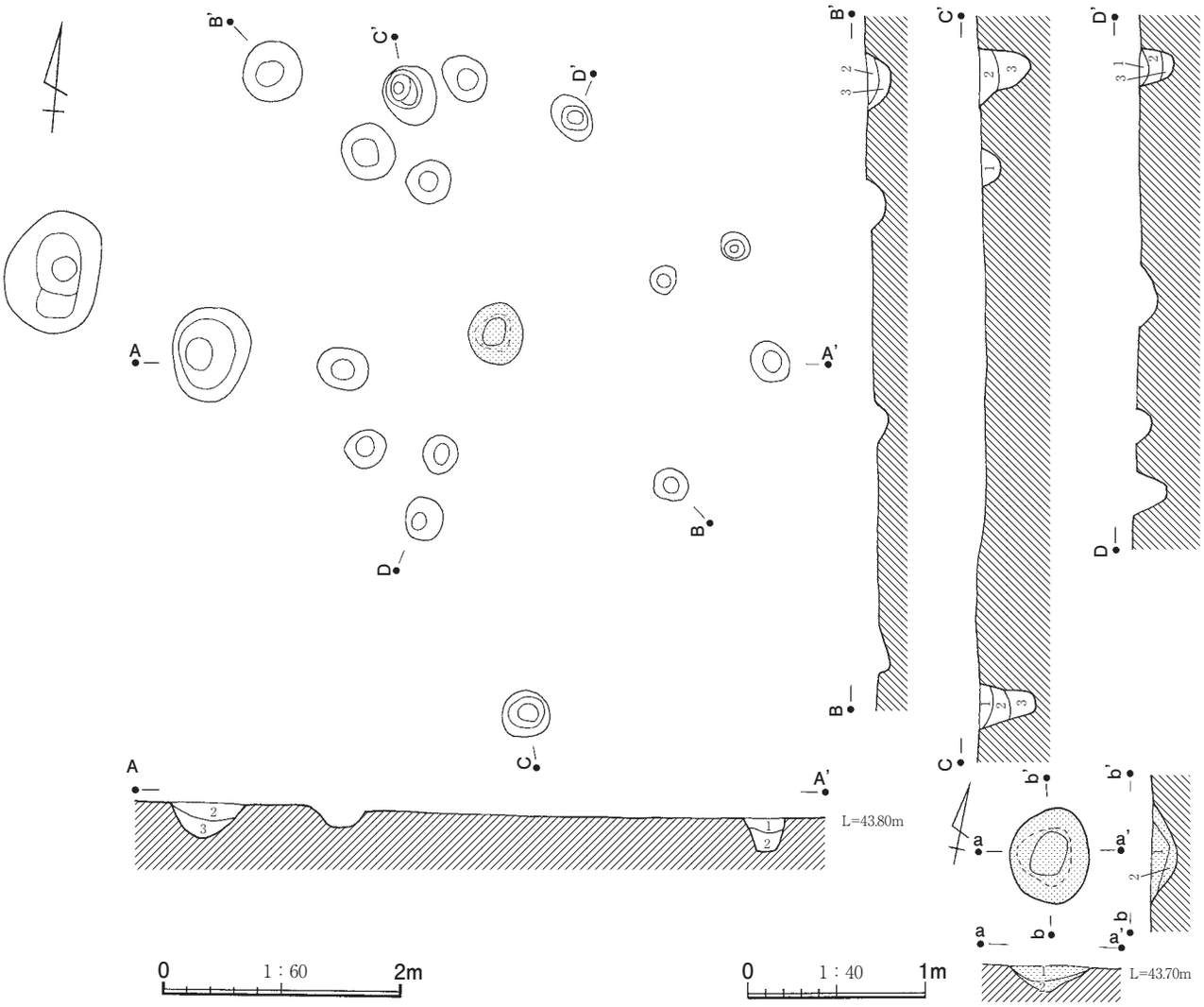
遺構の状況	平面形は円形と推定される。炉は中央？。主柱穴はない。柱穴がランダムに配置され、規則性は見出せない。壁の立ち上がりは検出できなかったので、本来的な深さは不明である。
遺物の状況	遺物は極めて少ない。図化したものは撚糸形の深鉢片のみである。本遺跡は、撚糸系の土器が広範囲に出土することがわかっており、必ずしもこの住居に伴うものかの確証は得ることはできない。また、平面形が不明瞭なことも時期比定を困難にさせている。しかし、一応、前期のものとしておく。
備考	



第165図　上谷津第２遺跡４号住居跡

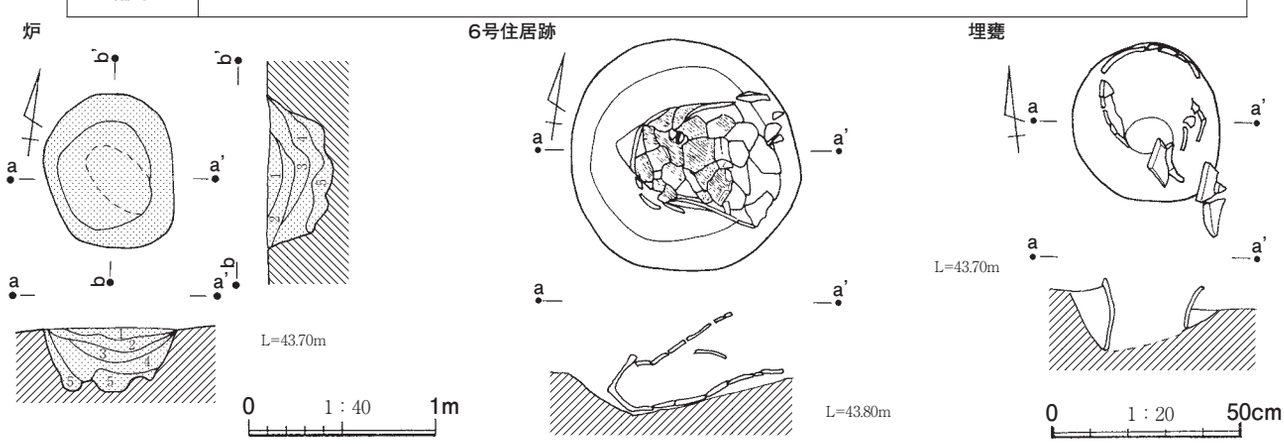
５号住居跡　　遺構：第166図　　遺物：ー

遺構の状況	平面形は円形と推定される。炉は中央？。主柱穴はない。柱穴がランダムに配置され、規則性は見出せない。壁の立ち上がりは検出できなかったので、本来的な深さは不明である。炉が検出されたので住居跡としたが、不明な点が多い遺構である。
遺物の状況	遺物は極めて少ない。図化できるほどのものもない。
備考	状況は４号住居跡と酷似している。

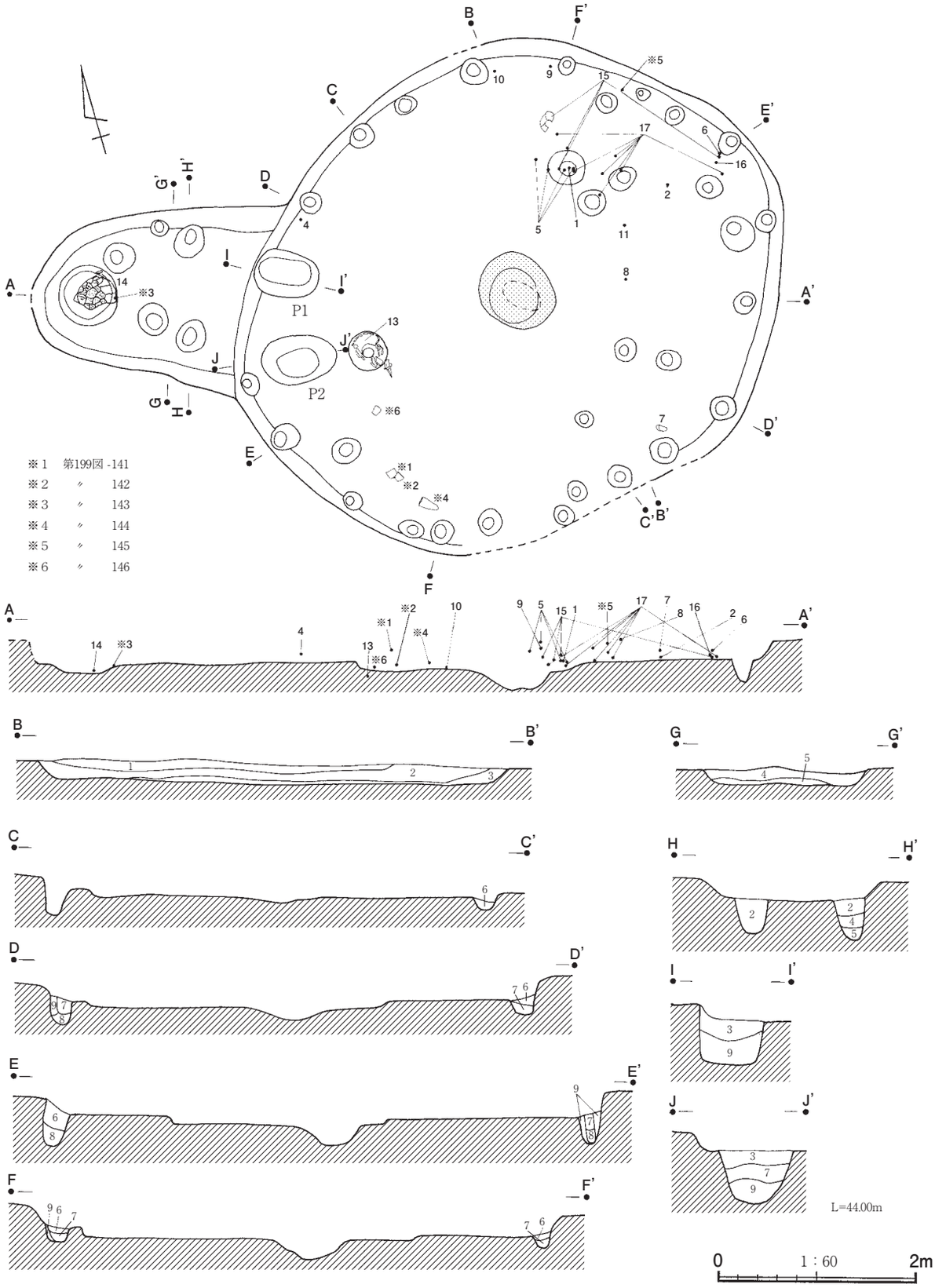


６号住居跡　　遺構：第166・167図　　遺物：第175・176・199図

遺構の状況	柄鏡型の住居跡である。舌上の柄部が不整円形の主体となる堀方に連結している。連結部に平行する長楕円形の柱穴がある。壁柱穴がほぼ一巡する。主柱穴と判断できるものはない。炉は、主体部のほぼ中央。
遺物の状況	遺物は豊富である。柄部先端と基部の２箇所に埋甕が検出された。住居内の北東付近にやや遺物が集中する。称名寺１式の壺型土器と加曽利EⅣ系の土器が共伴する。また、中部高地系の弧線文系の土器が若干伴う。
備考	



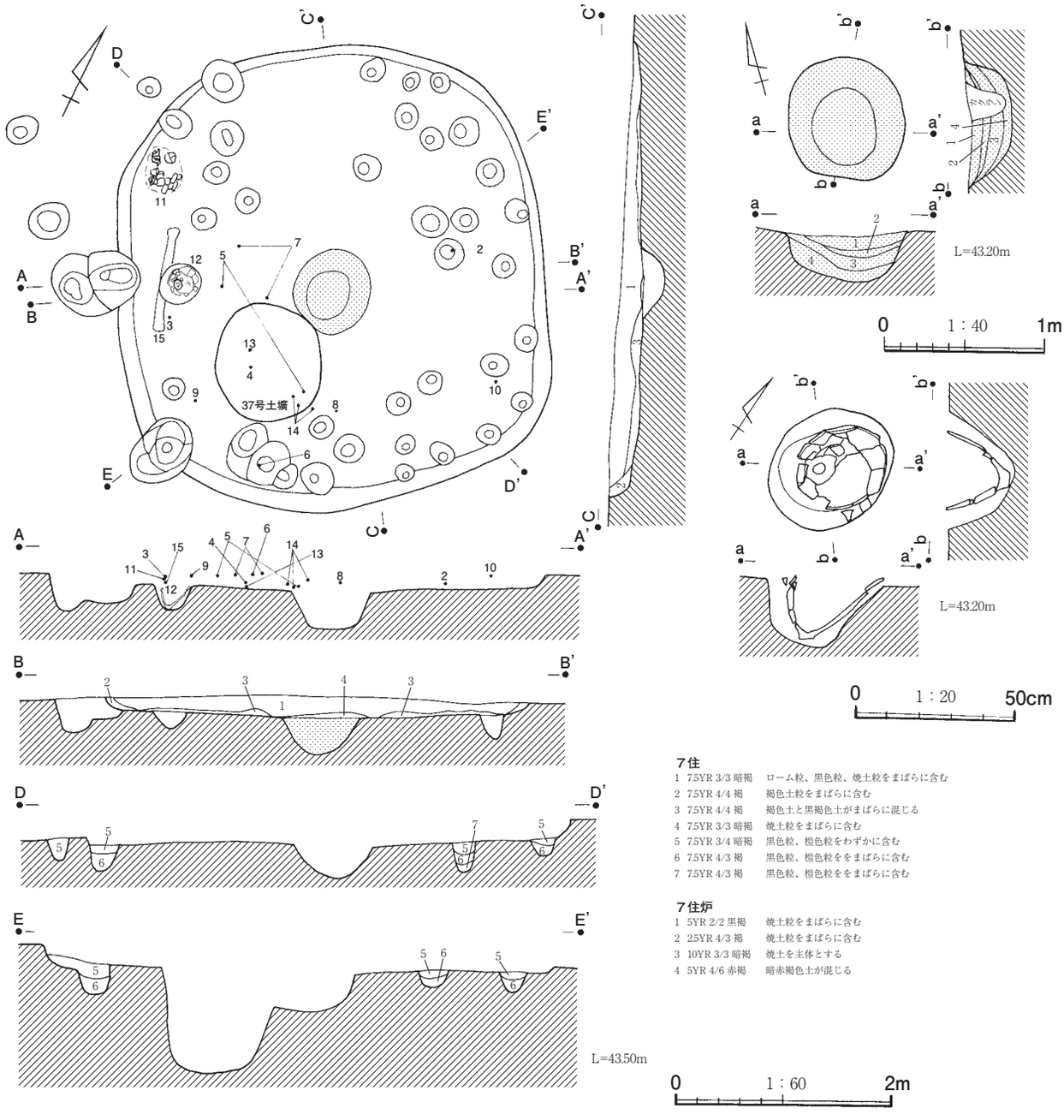
第166図　上谷津第２遺跡５号住居跡・６号住居跡埋甕



第167図　上谷津第２遺跡６号住居跡

７号住居跡　　遺構：第168図　　遺物：第176・177図

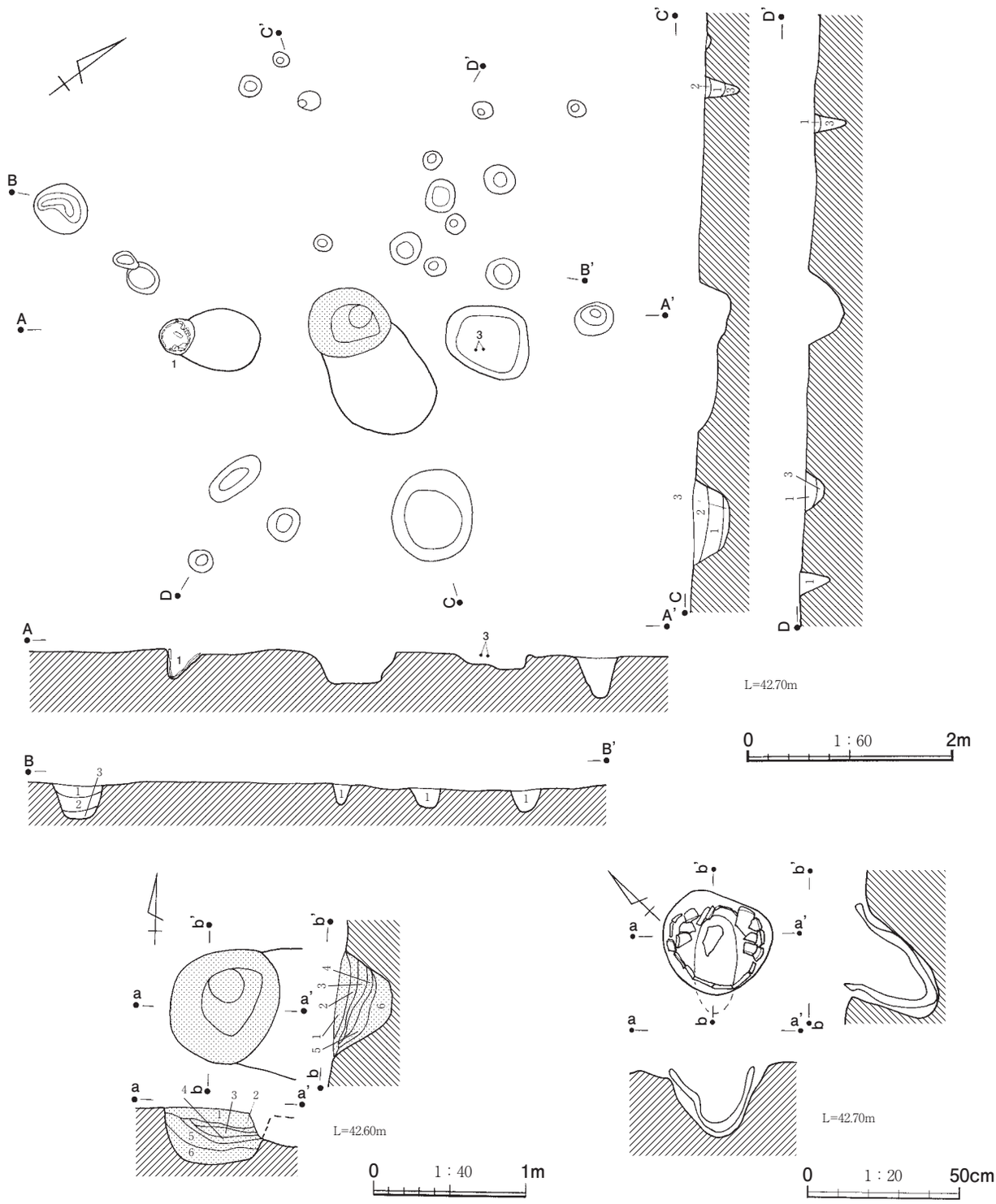
遺構の状況	平面形は円形の主体部に南西側に出入口用と推測される１対の上端長楕円形の柱穴が検出。柱穴は、壁柱穴もあるが、多くはランダムに散在している。主柱穴は不明瞭である。炉は、ほぼ中央。
遺物の状況	遺物は豊富である。称名寺１式が含まれる加曽利EⅣ式主体の住居跡である。瓢箪形壺型土器が蓋とセットで出土している。緑泥片岩製の石棒もある。
備考	



第168図　上谷津第２遺跡７号住居跡

８号住居跡　　遺構：第169図　　遺物：第178図

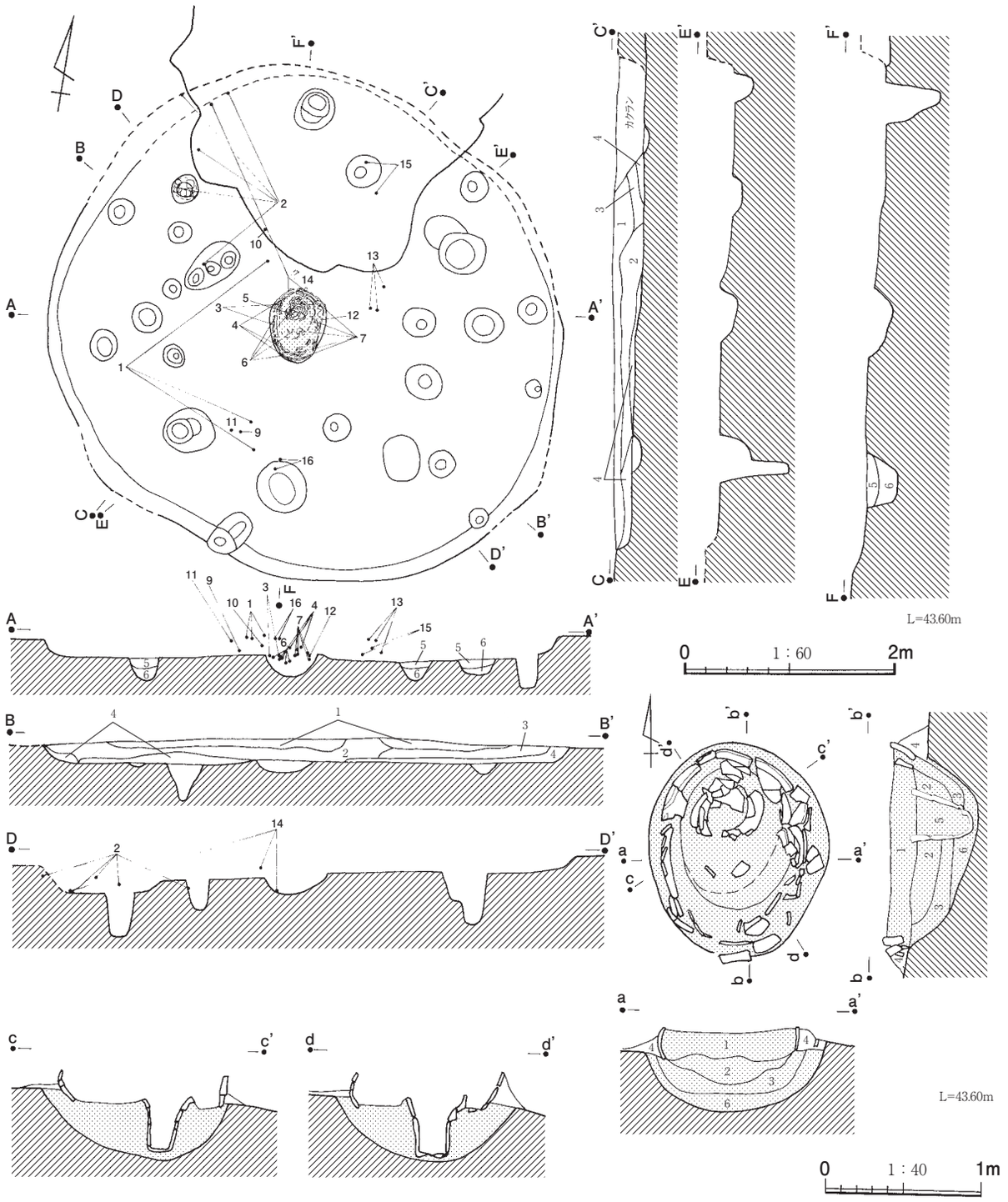
遺構の状況	平面形は円形と推定される。炉は中央。主柱穴はない。柱穴がランダムに配置され、規則性は見出せない。壁の立ち上がりは検出できなかったので、本来的な深さは不明である。
遺物の状況	埋甕が１つ検出。称名寺１式に比定できる。その他には、加曽利EⅣ式に比定できる遺物が若干出土した。総じて遺物量は少なめである。
備考	



第169図　上谷津第２遺跡８号住居跡

９号住居跡　　遺構：第170図　　遺物：第178・179・180図

遺構の状況	平面形は円形を呈する。一部破壊されているが、柱穴が検出されているのでおよその住居範囲は推定できる。主柱穴は、７穴（網掛）ある。主柱穴以外のものに規則性はみられない。炉は中央部にあり、土器埋設炉である。
遺物の状況	遺物は豊富である。加曽利ＥⅡ式に比定できる。土器埋設炉に転用された個体が複数ある。
備考	



第170図　上谷津第２遺跡９号住居跡

10号住居跡　　遺構：第171図　　遺物：第180・181・201図

遺構の状況	平面形は円形と推定される。炉は検出されていない。主柱穴と判断できる柱穴はなく、ランダムに散在する。住居跡に伴うかは不明だが、範囲内に床面下で検出された土壙が４穴ある。壁の立ち上がりが検出されなかったので、深さは不明である。南東方向に柱穴が広がる傾向は、広義の柄鏡型に含まれる可能性がある。
遺物の状況	その土壙に伴うと推定される遺物と住居跡内にある埋甕は加曽利EⅣ式系であり、共伴する遺物に中に一定量の称名寺１式の土器が含まれている。
備考	

11号住居跡　　遺構：第172図　　遺物：第181図

遺構の状況	平面形は円形と推定される。炉は検出されていない。主柱穴と判断できる柱穴はなく、ランダムに散在する。住居跡に伴うかは不明だが、範囲内に床面下で検出された土壙が１穴ある。壁の立ち上がりが検出されなかったので、深さは不明である。
遺物の状況	遺物は、土壙内以外は少ない。土壙内出土遺物は、称名寺１式を含む加曽利EⅣ系の土器が多い。住居内床面出土のものは、加曽利EⅣ式で占められる。場合によっては、土壙と住居は時期が若干異なる可能性もある。前後関係が不明瞭であり、調査担当者の現場での意見を尊重しておく。
備考	住居内土壙との間に時期差がある可能性あり。

5住
1　7.5YR 2/3 褐　　ローム粒を含み、ロームブロック、焼土粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
3　7.5YR 4/4 褐　　ローム粒、ロームブロックを含む

5住炉
1　2.5YR 3/3 暗赤褐 ローム粒、焼土粒を含む
2　2.5YR 3/6 暗赤褐 焼土粒を多く含み、ローム粒子を含む

6住
1　7.5YR 4/3 褐　　ローム粒を含み、焼土粒・ロームブロックを少し含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
3　7.5YR 3/2 暗褐　　ローム粒、焼土粒をまばらに含む
4　7.5YR 3/4 暗褐　　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
5　7.5YR 4/3 褐　　ローム粒をやや多く含み、焼土粒をわずかに含む
6　7.5YR 4/3 褐　　ローム粒を含む
7　7.5YR 3/4 暗褐　　ローム粒をやや少し含む
8　7.5YR 3/3 暗褐　　ローム粒を少し含む
9　7.5YR 4/4 褐　　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む

6住炉
1　7.5YR 3/2 黒褐　　ローム粒・焼土粒をわずかに含む
2　2.5YR 3/6 暗赤褐 ローム粒を少し含み、焼土粒を含む
3　2.5YR 3/6 暗赤褐 焼土粒を多く含み、焼土ブロック・ローム粒を少し含む
4　2.5YR 4/6 赤褐　　焼土主体とし、黒色粒を多く含む
5　2.5YR 4/6 赤褐　　焼土ブロック主体とし、白色粒を多く含む

8住
1　7.5YR3/3暗褐　ローム粒をまばらに含む
2　7.5YR3/2黒褐　ローム粒をわずかに含む
3　7.5YR3/3暗褐　ローム粒をわずかに含む

8住炉
1　7.5YR 3/3 暗褐　　焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　　焼土粒をわずかに含む
3　2.5YR 3/5 暗赤褐　焼土粒をまばらに含む
4　2.5YR 3/4 暗赤褐　焼土粒を多く含む
5　2.5YR 3/6 暗赤褐　焼土ブロック主体
6　2.5YR 3/2 暗赤褐　焼土粒・ロームブロックを多く含む

9住
1　7.5YR3/4暗褐　　炭化物粒･ローム粒をわずかに含み、黒褐色土と褐色土が斑状に混ざる
2　7.5YR 3/5 暗褐　　炭化物粒・ローム粒をまばらに含む
3　7.5YR 3/2 黒褐　　炭化物粒・ローム粒をまばらに含む
4　7.5YR 4/3 褐　　炭化物粒･ローム粒をまばらに含み、黒褐色土と褐色土を斑状に含む
5　7.5YR 3/3 暗褐　　ローム粒・黒色粒をわずかに含む
6　7.5YR 3/4 暗褐　　ローム粒・黒色粒をわずかに含む

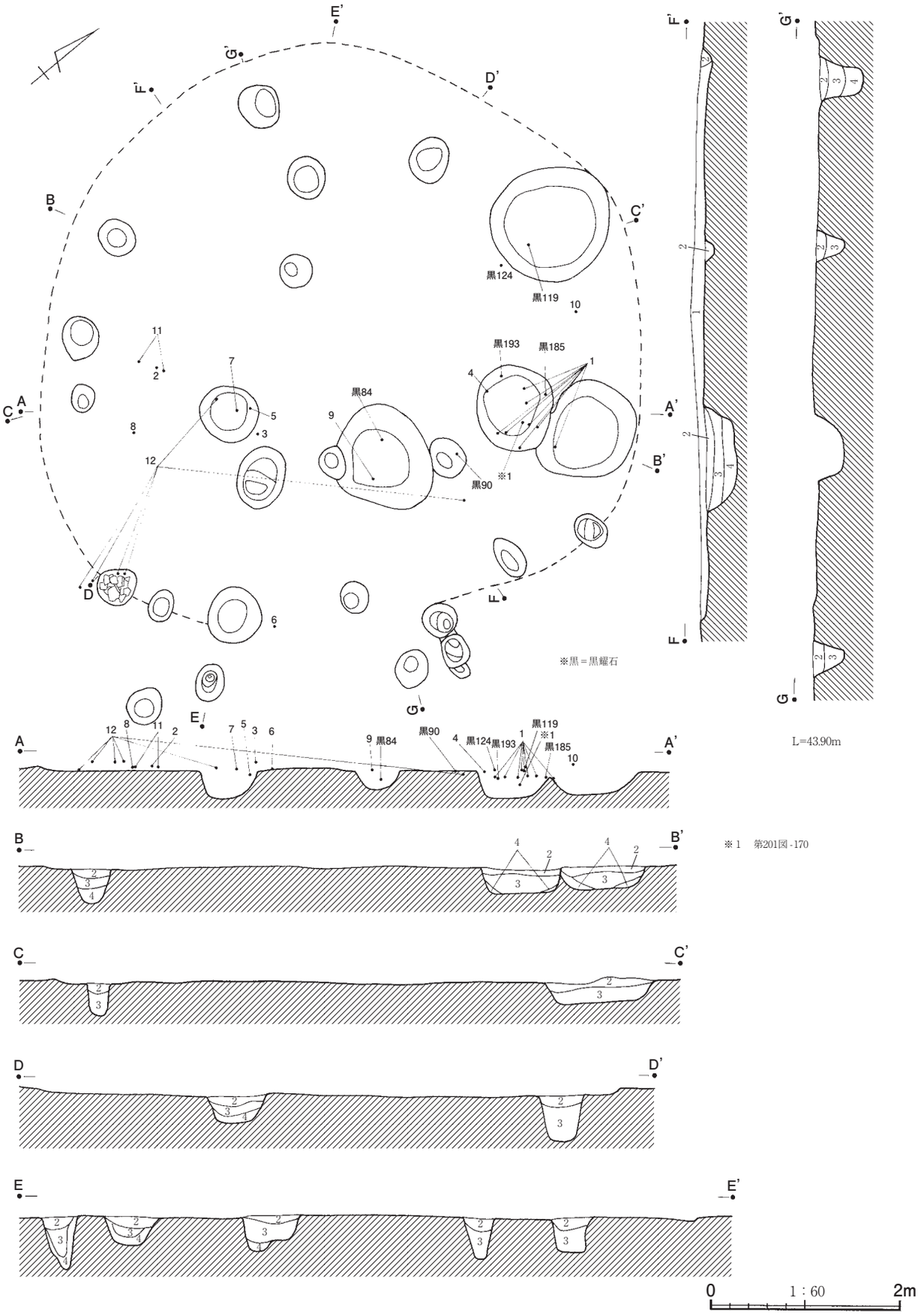
9住炉
1　7.5YR 3/4 暗褐　　焼土粒、炭化物粒をまばらに含む
2　10R 3/2 暗赤褐　　焼土粒主体、一部褐色土粒を含む
3　10R 2/3 極暗赤褐　焼土粒・炭化物粒をごくわずかに含む
4　7.5YR 3/2 黒褐色土 ローム粒をわずかに含む
5　10R 2/2 極暗赤褐　焼土粒・炭化物粒をまばらに含む
6　7.5YR 3/4 暗褐　　焼土粒・炭化物粒をまばらに含む

10住
1　7.5YR 4/3 褐　　黒褐色土と褐色土が斑状に混ざる
2　7.5YR 3/2 黒褐　　ローム粒、焼土粒をわずかに含む
3　7.5YR 3/4 暗褐　　黒色土と褐色土が斑状に混じる
4　7.5YR 3/4 褐色　　ローム粒を多く含む

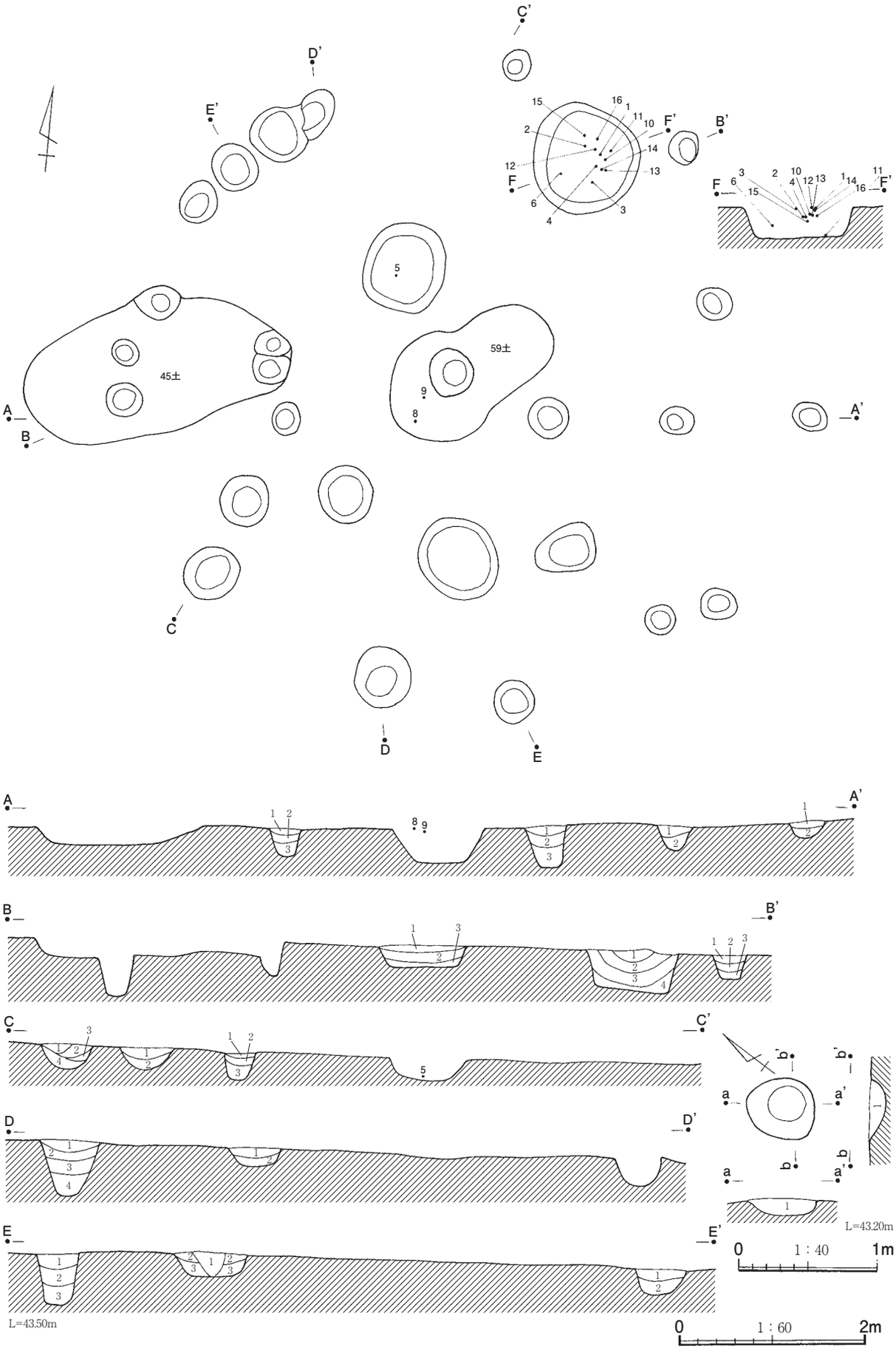
11住
1　7.5YR 3/2 黒褐　　ローム粒・黒褐色粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　　ローム粒・黒褐色粒をまばらに含む
3　7.5YR 3/4 暗褐　　ローム粒・黒褐色粒をまばらに含む
4　7.5YR 4/3 褐色　　ローム粒・黒褐色粒をまばらに含む

12住
1　7.5YR 3/2 黒褐　　ローム粒・黒色粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　　ローム粒・黒色粒をまばらに含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　　ローム粒・黒色粒をまばらに含む

12住炉
1　7.5YR 3/4 暗褐　　焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 4/3 褐　　ローム粒・焼土粒をまばらに含む



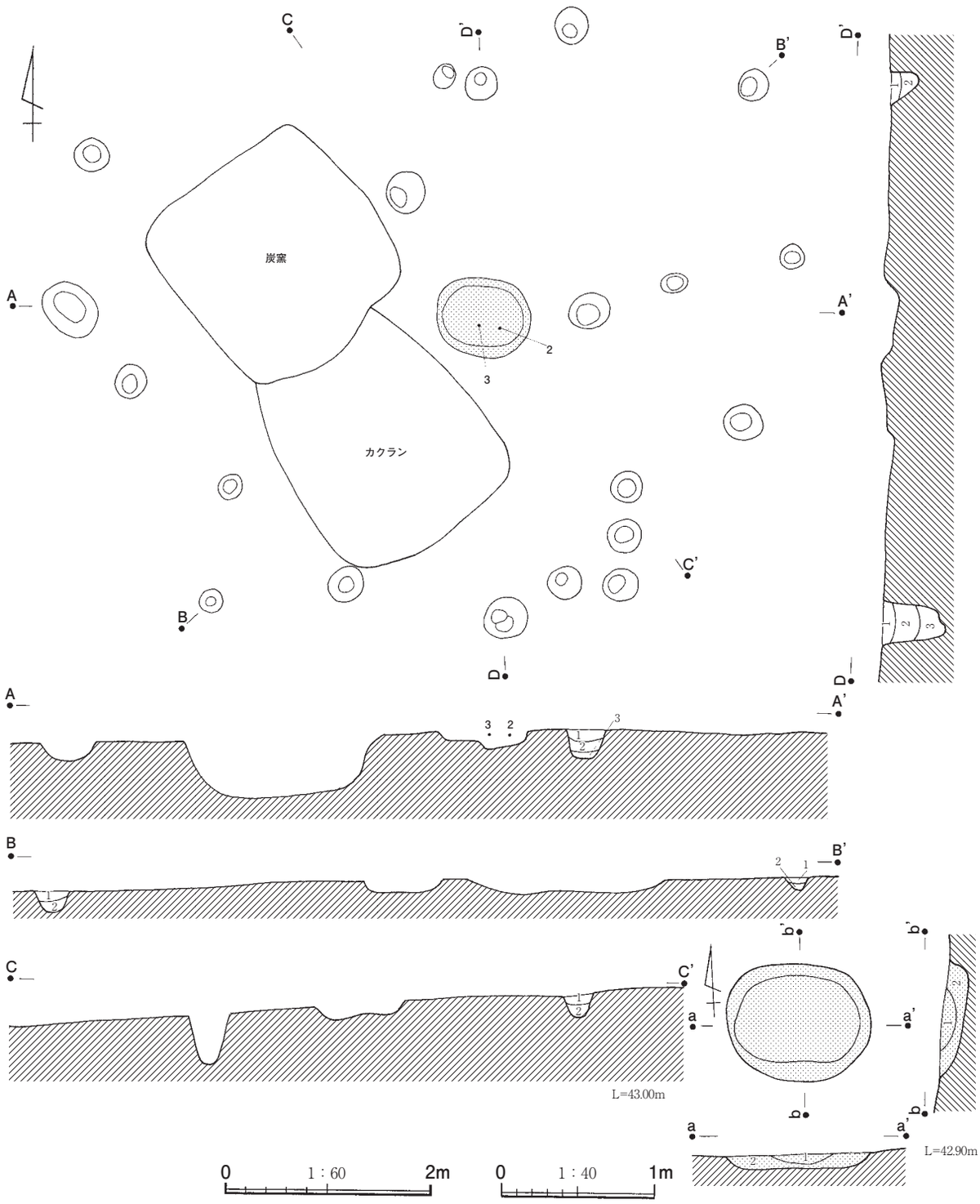
第171図　上谷津第２遺跡10号住居跡



第172図　上谷津第２遺跡11号住居跡

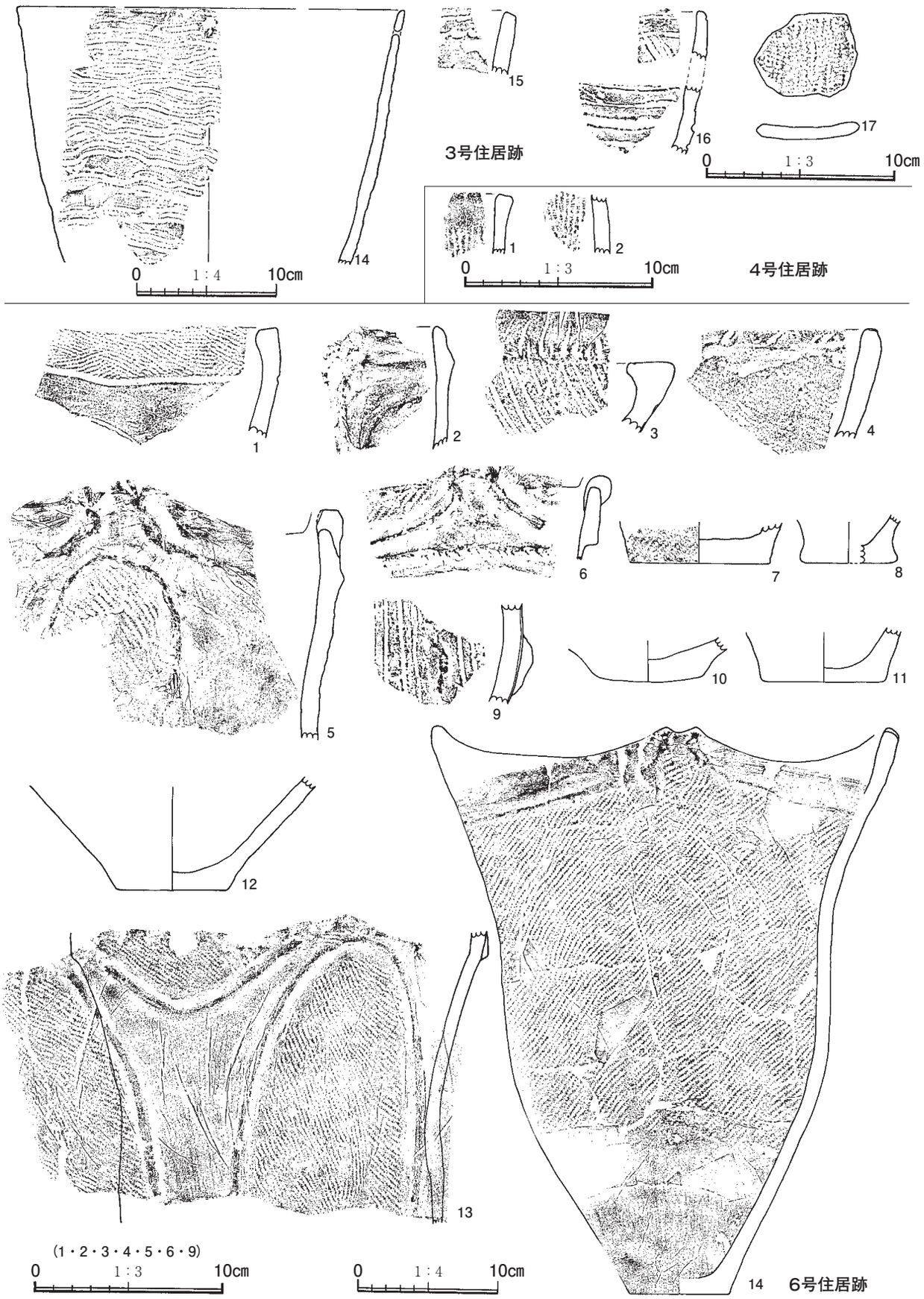
12号住居跡　　遺構：第173図　　遺物：第181図

遺構の状況	平面形は円形と推定される。炉は中央。主柱穴と判断できる柱穴はなく、ランダムに散在する。中央部に大規模な攪乱がある。壁の立ち上がりが検出されなかったので、深さは不明である。
遺物の状況	炉内から出土した遺物が若干ある。加曽利EⅣ式に比定できる。
備考	

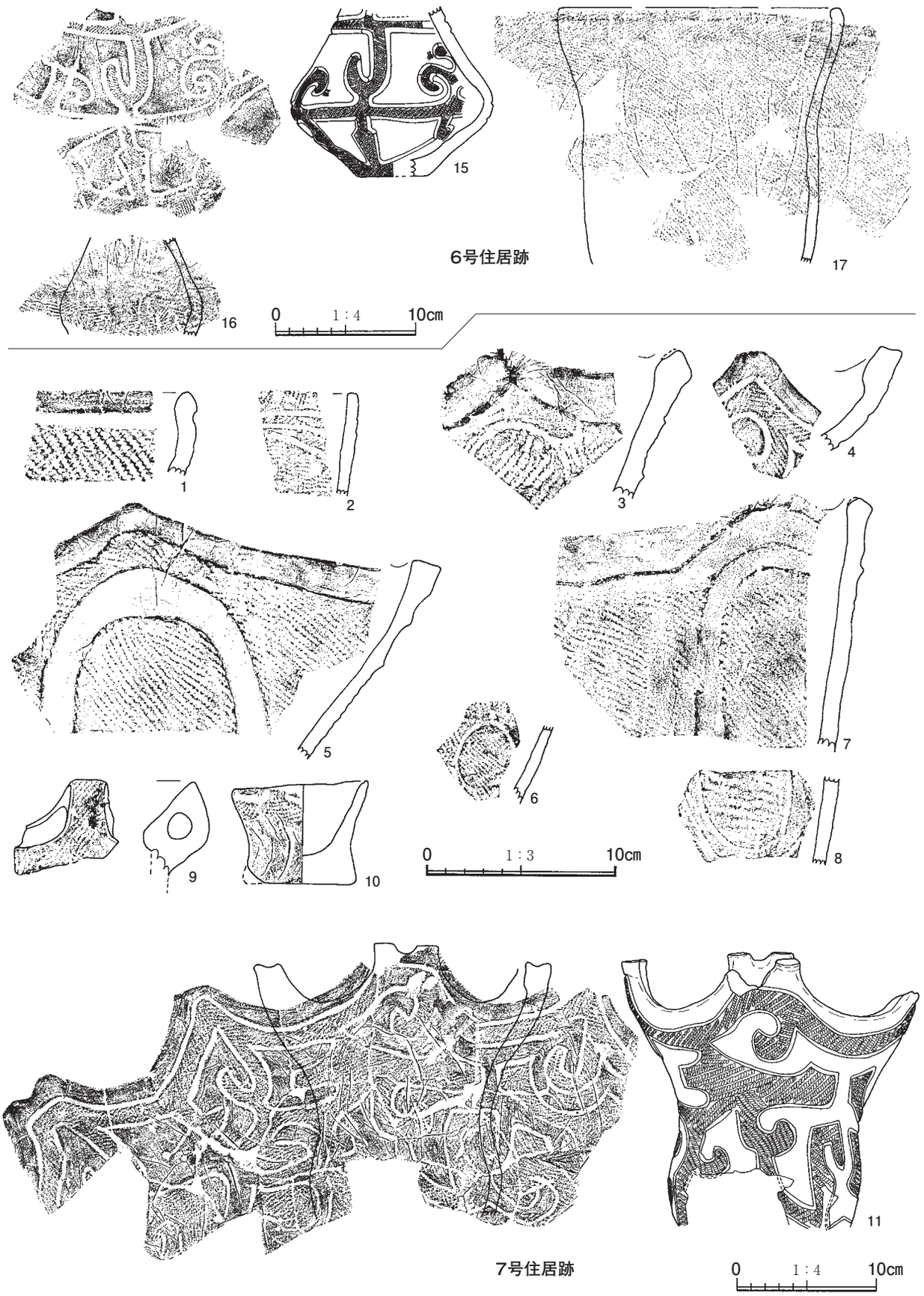


第173図　上谷津第２遺跡12号住居跡

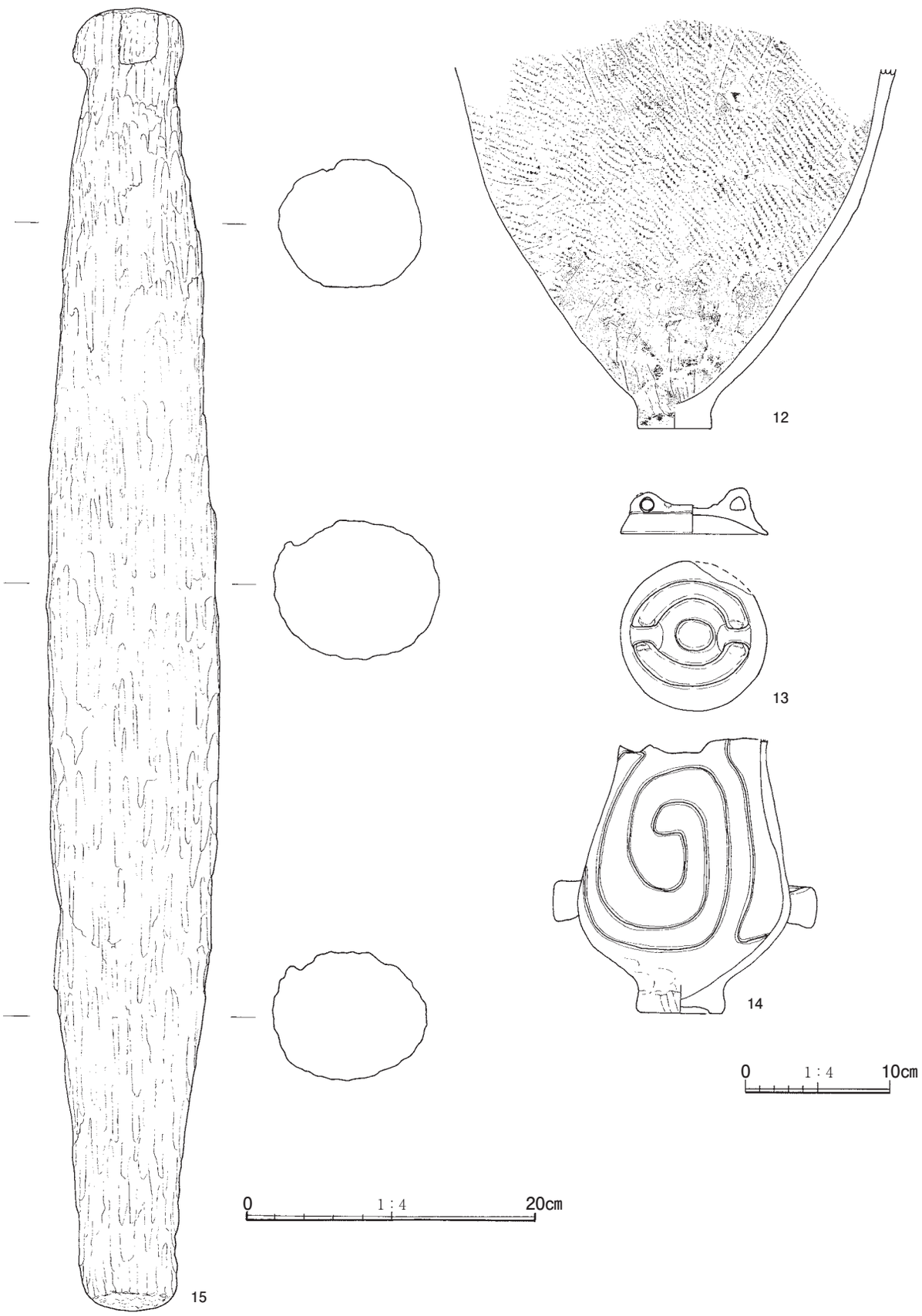
第174図　上谷津第２遺跡１～３号住居跡出土遺物



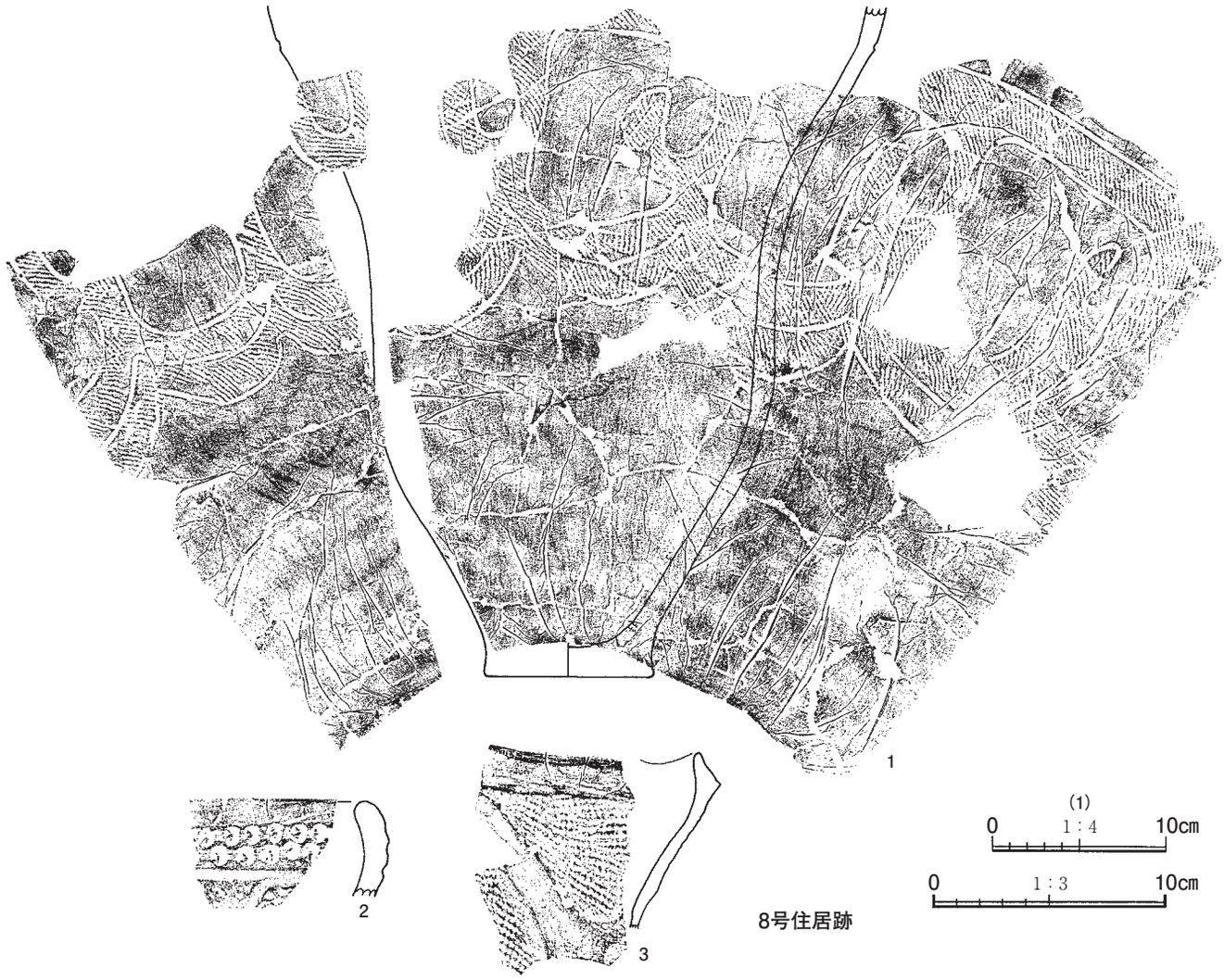
第175図　上谷津第２遺跡３・４・６号住居跡出土遺物

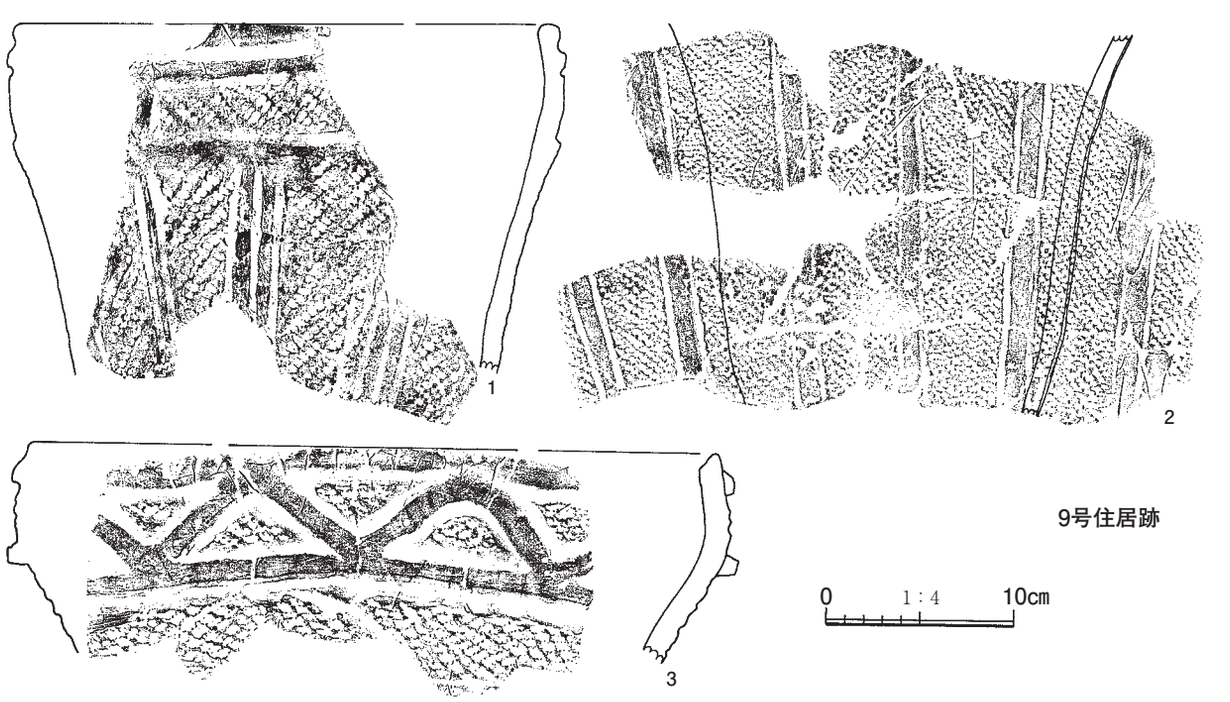


第176図　上谷津第２遺跡６・７号住居跡出土遺物

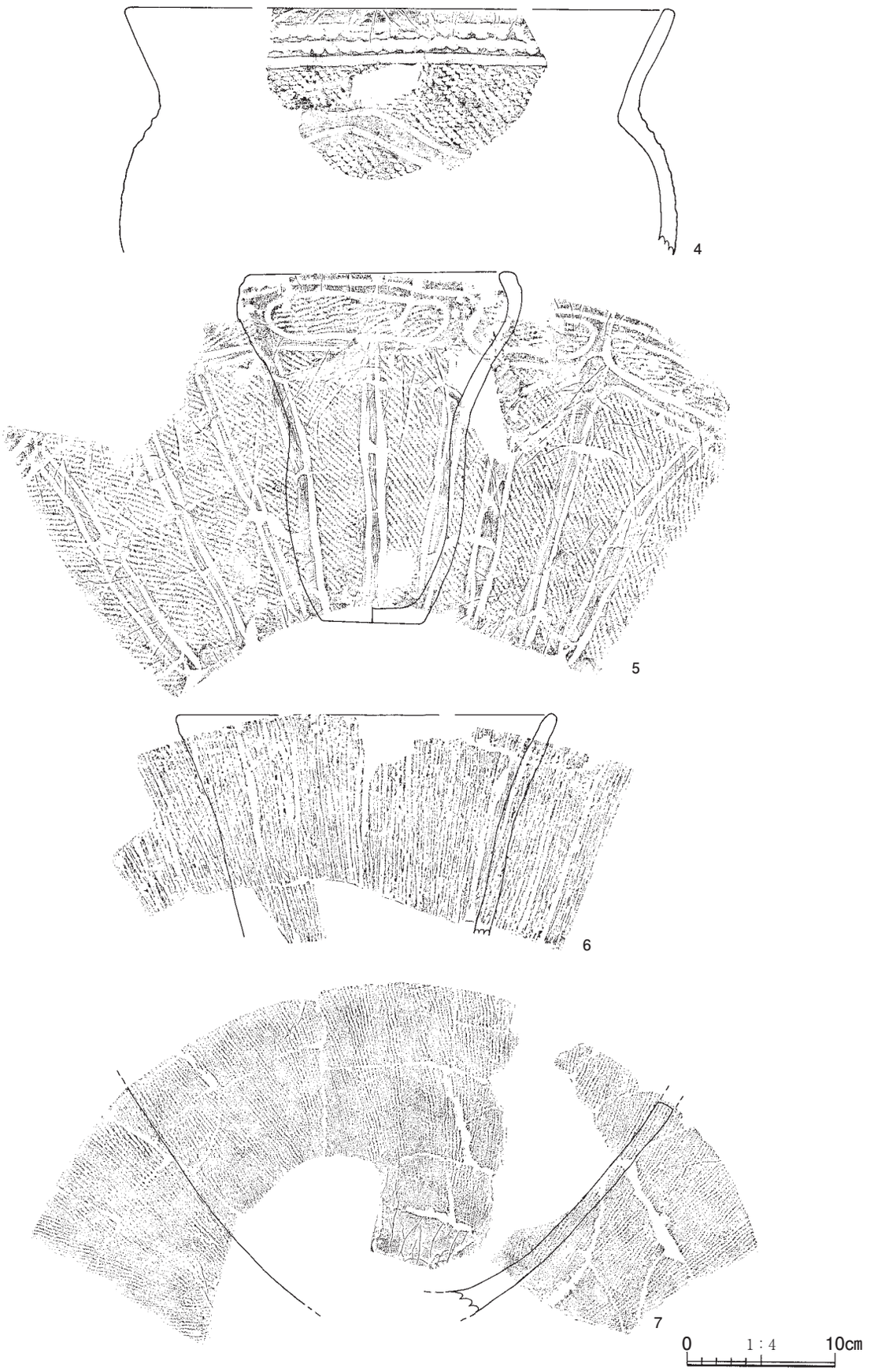


第177図　上谷津第 2 遺跡 7 号住居跡出土遺物

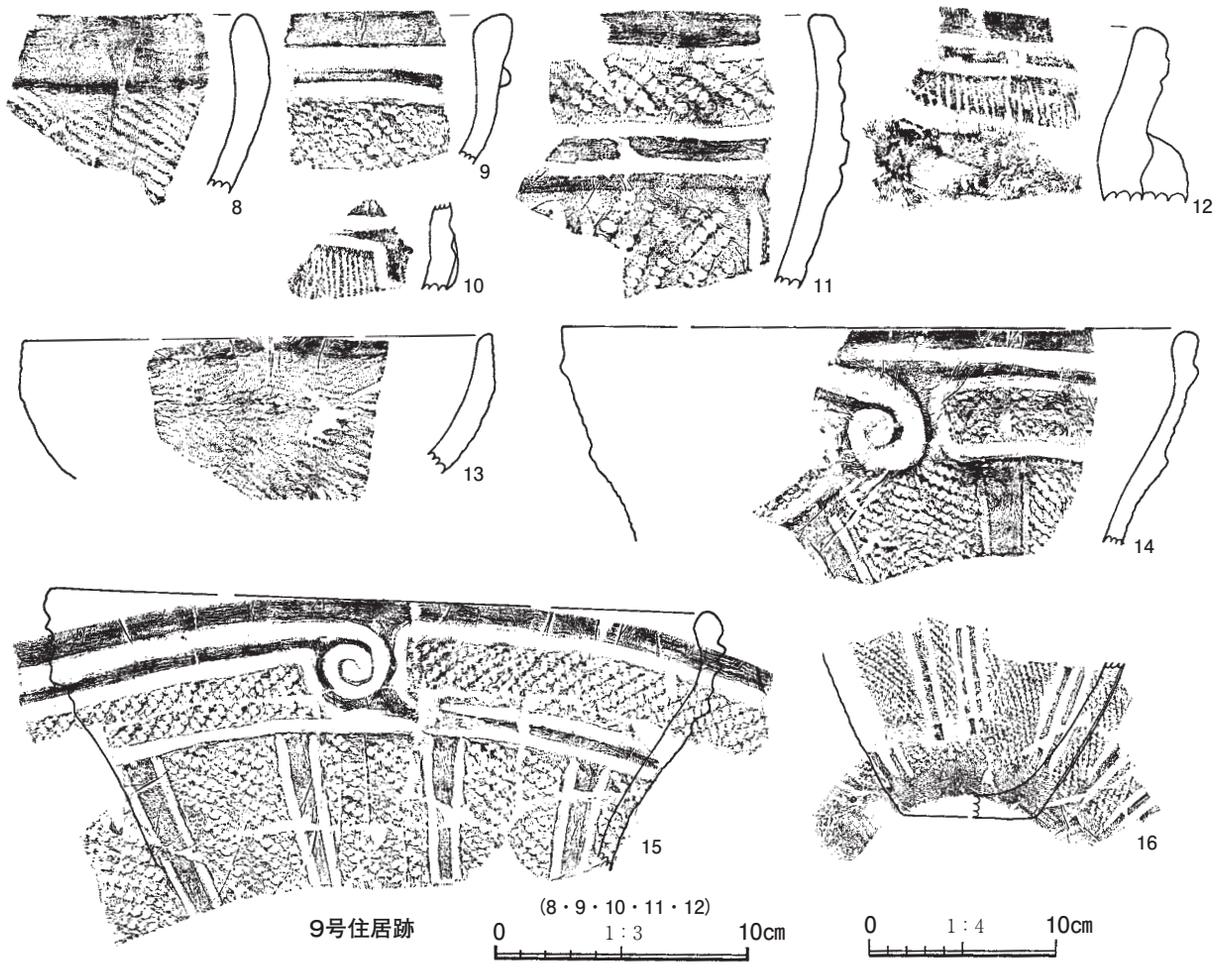


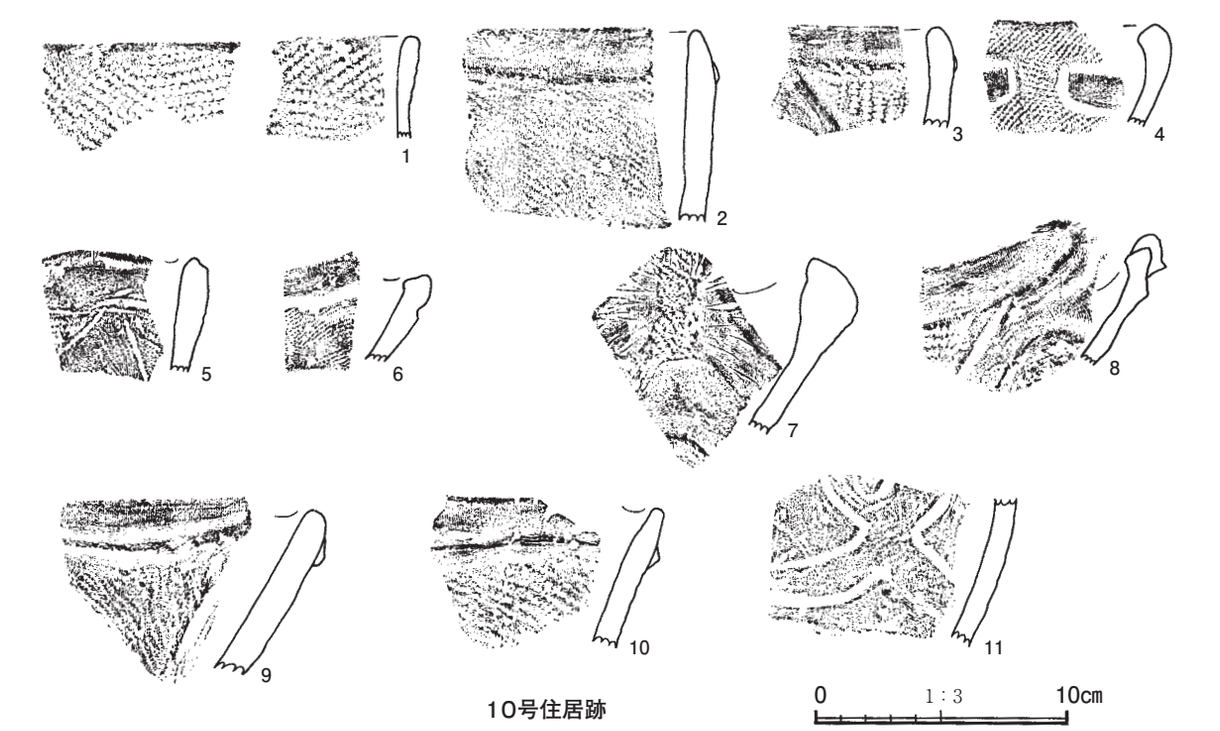


第178図　上谷津第２遺跡８・９号住居跡出土遺物

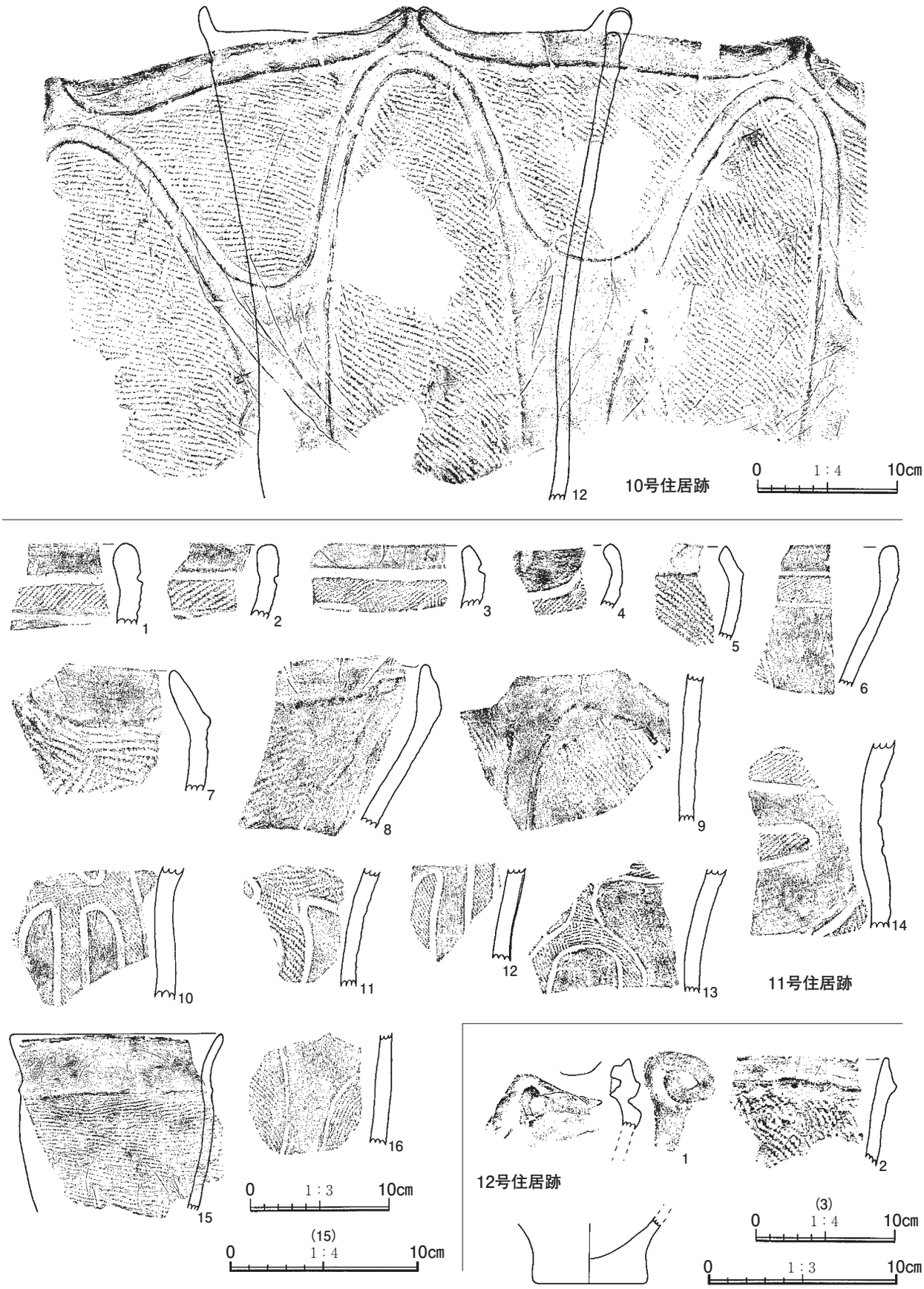


第179図　上谷津第 2 遺跡 9 号住居跡出土遺物





第180図　上谷津第２遺跡９・10号住居跡出土遺物

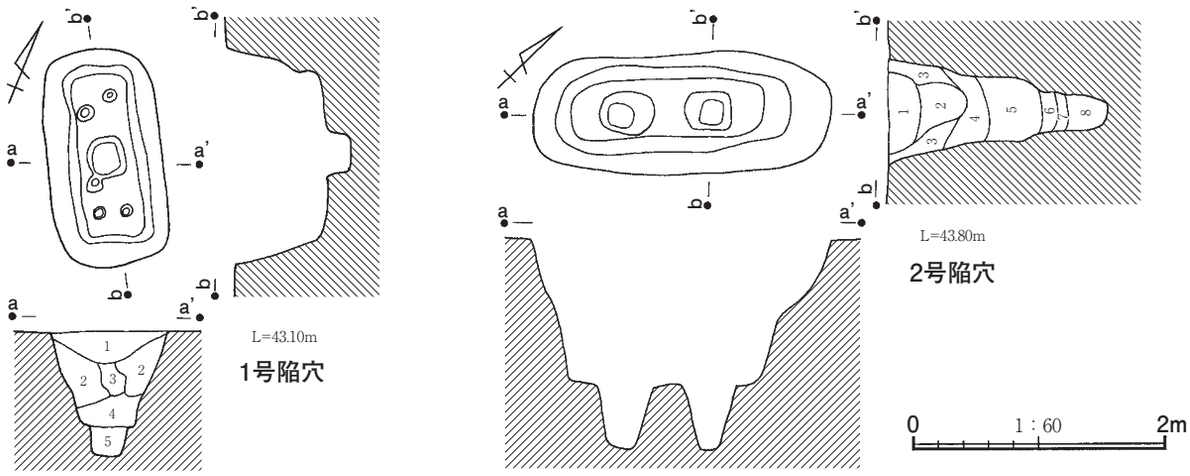


第181図　上谷津第２遺跡10～12号住居跡出土遺物

3　陥穴

第42表　上谷津第２遺跡検出の陥穴

遺構No.	検出区	平面形 方位	法量（m） 長軸	短軸	深さ	堀方断面形状	時代 時期	特徴	挿図No. 遺構	挿図No. 遺物	旧名称	備考
			（上端）									
			（下端）									
１号	10C　68c	長方形	1.74	9.00	0.78	逆台形	縄文	底平面は長方形 方形ピット１穴＋５穴	第182図	－	C6	
		N－　32°　－W	1.30	0.45								
２号	11L　44d	長方形	2.39	0.96	1.20	逆台形	縄文 条痕文期	底平面は長方形 中央に方形ピット２穴	第182図	第190図	C24	
		N－　50°　－E	1.50	0.45								



1陥
1　7.5YR 3/3 暗褐　　ローム粒を少し含む
2　7.5YR 4/3 黒褐　　ローム粒を含みロームブロックを少し含む
3　7.5YR 3/2 黒褐　　ローム粒・ロームブロックをまばらに含む
4　7.5YR 3/3 黒褐　　ローム粒をまばらに含み、ロームブロックをわずかに含む
5　7.5YR 4/6 褐　　ローム粒・ロームブロックを含む

2陥
1　7.5YR 2/2 黒褐　　ローム粒をわずか含む
2　7.5YR 2/2 黒褐　　ローム粒をわずか含む
3　7.5YR 3/4 暗褐　　褐色粒をまばらに含む
4　7.5YR 4/3 褐　　褐色粒をまばらに含む
5　7.5YR 3/4 暗褐　　焼土粒をまばらに含む
6　7.5YR 3/3 暗褐　　焼土粒をまばらに含む
7　7.5YR 2/1 黒　　褐色土を多く含む
8　7.5YR 4/3 褐　　ロームブロックを多く含む

第182図　上谷津第２遺跡陥穴

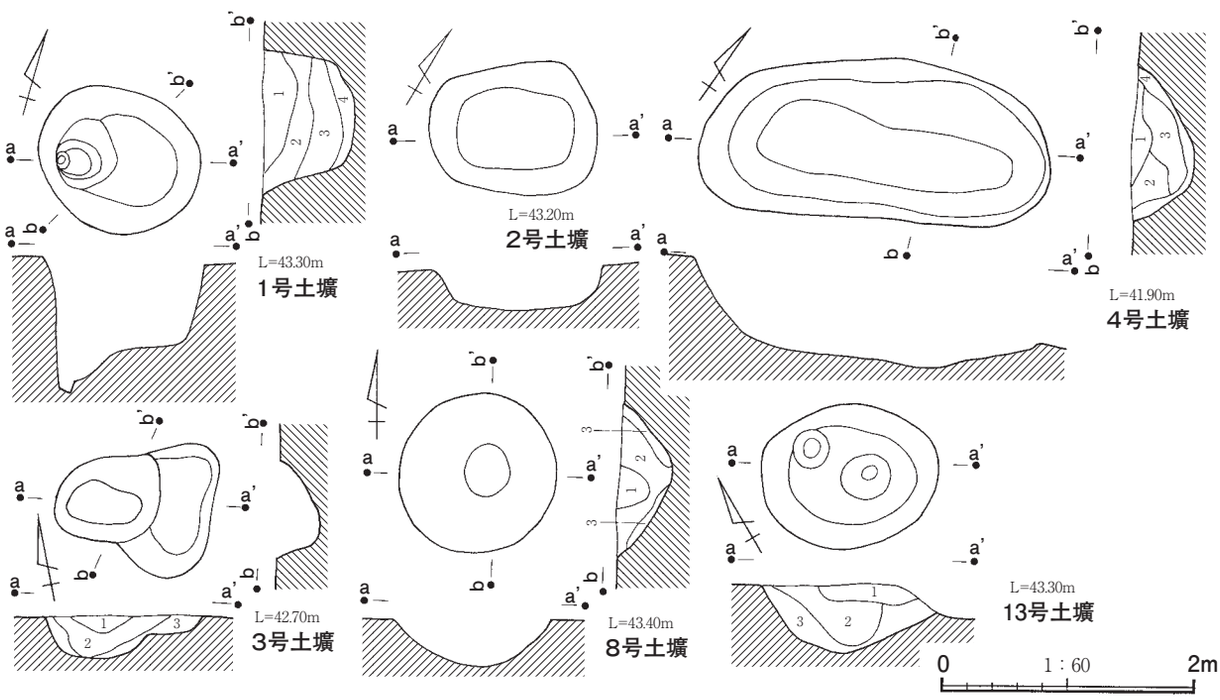
4　土壙

第43表　上谷津第２遺跡検出の土壙

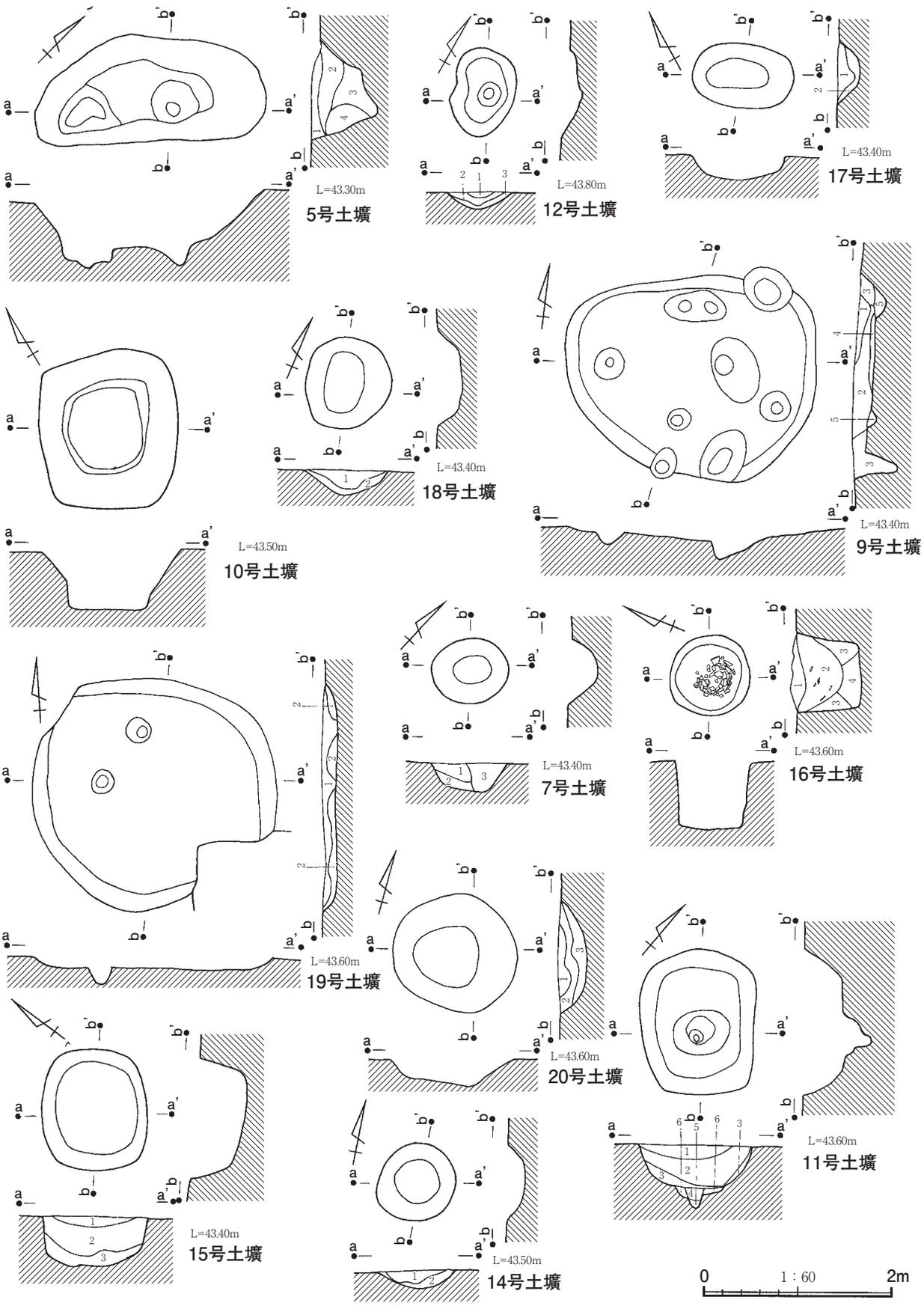
遺構No.	検出区	平面形 方位	法量（m） 長軸	短軸	深さ	堀方断面形状	時代 時期	特徴	挿図No. 遺構	挿図No. 遺物	備考
			（上端）								
			（下端）								
１号	10M　18c	円形	1.30	1.20	0.71	円筒形	縄文	ピット有　１穴	第183図	－	
		N－　84°　－E	1.05	0.70							
２号	10C　78a	長方形	1.33	1.04	0.32	浅碗形	縄文		第183図	－	
		N－　52°　－E	0.95	0.65							
３号	10L　67c	不整円形	1.26	0.81	0.35	不定形	縄文		第183図	－	
		N－　66°　－W	0.80	0.80							
４号	10L　75a	方形	2.81	1.26	0.46	碗形	縄文		第183図	－	
		N－　46°　－E	2.00	0.45							
５号	10L　88a	楕円形	2.50	1.12	0.58	不整台形	縄文	ピット有　１穴	第184図	－	
		N－　40°　－E	1.65	1.60							
７号	10L　78c	楕円形	0.81	0.70	0.30	逆台形	縄文		第184図	－	
		N－　38°　－E	0.41	0.30							
８号	10L　78d	円形	1.31	1.25	0.40	半円形	縄文		第183図	－	
		N－　40°　－E	0.40	0.36							
９号	10L　78d	楕円形	2.71	2.16	0.20	円筒形	縄文 条痕文	ピット有　８穴	第183図	第188図	
		N－　63°　－E	2.40								
10号	10L　79d	方形	1.70	1.50	0.64	不整台形	縄文		第184図	－	
		N－　28°　－E	1.00	0.90							
11号	11l　61b	方形	1.56	1.21	0.44	逆台形	縄文 条痕文	ピット有　１穴	第184図	第188図	
		N－　48°　－E	1.20	0.90							
12号	10L　68d	不整楕円形	0.96	0.66	0.17	浅碗形	縄文 撚糸文		第184図	第188図	
		N－　28°　－W	0.70	0.40							
13号	10L　59b	楕円形	1.42	1.17	0.54	浅碗形	縄文	ピット有　１穴	第184図	－	
		N－　45°　－W	1.20	0.75							

遺構No.	検出区	平面形 方位	法量（m） 長軸 （上端） （下端）	短軸	深さ	堀方断面形状	時代 時期	特徴	挿図No. 遺構	挿図No. 遺物	備考
14号	10L 59d	円形 N－ 0° －	0.83 0.50	0.81 0.45	0.17	浅碗形	縄文		第184図	－	
15号	10L 60a・b	方形 N－ 56° －E	13.10 1.00	11.10 0.90	0.47	円筒形	縄文		第184図	－	
16号	11L 61c	円形 N－ 80° －E	0.86 0.70	0.87 0.70	0.84	円筒形	縄文 称名寺Ⅰ		第184図	第188図 第189図	遺物32･35土と接合
17号	10L 89d	円形 N－ 54° －W	1.09 0.66	0.39 0.32	0.02	円筒形	縄文		第184図	－	
18号	10L 89d	楕円形 N－ 0° －E	1.00 0.65	0.90 0.40	0.26	浅碗形	縄文 条痕文		第184図	第189図	
19号	11L 81a	円形 N－ 90° －E	2.26 2.25	2.50 2.15	0.17	逆台形	縄文 撚糸文	ピット有 1穴	第184図	第189図	
20号	11L 61c	円形 N－ 90° －E	1.35 0.70	1.26 0.65	0.29	浅碗形	縄文 撚糸文		第184図	第189図	
21号	11L 82b	方形 N－ 76° －E	2.26 1.55	1.28 0.80	0.44	逆台形	縄文 条痕文	ピット有 2穴	第185図	第189図	
22号	11L 52b	円形 N－ 90° －	1.18 0.80	1.18 0.75	0.47	逆台形	縄文 条痕文		第185図	第189図	
23号	11L 62a	楕円形 N－ 0° －	1.01 0.80	0.83 0.60	0.32	逆台形	縄文 称名寺Ⅰ		第185図	第190図	
26号	11L 28a	長方形 N－ 66° －E	2.16 1.95	0.87 0.65	0.36	逆台形	縄文 加曽利ＥⅣ		第186図	第190図	
27号	11L 28a	円形 N 38° E	1.02 0.90	0.98 0.80	0.52	円筒形	縄文 称名寺Ⅰ		第185図	－	
29号	11L 28c	円形 N 43° －E	1.31 1.10	1.21 0.95	0.68	逆台形	縄文 称名寺Ⅰ		第185図	－	
30号	11L 16a・b	円形 N－ 90° －E	17.80 1.55	16.80 1.55	15.50	円筒形	縄文 条痕文		第185図	第190図	
31号	11L 51c	円形 N－ 0° －	0.93 0.50	0.84 0.37	0.24	逆台形	縄文 撚糸文	ピット有 1穴	第185図	－	
32号	11L 51b	楕円形 N－ 55° －E	0.89 0.60	0.68 0.50	0.44	逆台形	縄文 称名寺Ⅰ		第185図	第190図	34･36土と重複･遺物16･35土と接合
33号	11L 43b	円形 N－ 0° －	1.43 1.20	1.41 1.10	1.09	円筒形	縄文 加曽利ＥⅣ		第185図	第190図	
34号	11L 51b	方形 N－ 0° －	0.59 0.50	(0.57) 0.38	0.51	円筒形	縄文	ピット有 1穴	第185図	－	32･34土と切り合う
35号	11L 51b	円形 N－ 90° －E	0.94 0.72	0.91 0.70	0.44	円筒形	縄文 称名寺Ⅰ		第185図	第190図	遺物16･32土と接合
36号	11L 51b	長方形 N－ 50° －E	0.87 0.55	(0.5) 0.20	0.39	円筒形	縄文		第185図	第190図	32･34土と重複
37号	11L 21c・d	楕円形 N－ 50° －W	1.14 1.00	0.96 0.90	0.56	円筒形	縄文 撚糸文？		第186図	第190図	
38号	11L 43b	楕円形 N－ ° －E	1.27 1.20	1.10 1.05	0.61	円筒形	縄文		第185図	－	
39号	11L 42c	楕円形 N－ 45° －E	0.78 0.50	0.58 0.30	0.34	円筒形	縄文	ピット有 1穴	第185図	－	
40号	11L 3a	楕円形 N－ 43° －W	7.90 0.53	6.70 0.52	1.80	逆台形	縄文 加曽利ＥⅣ		第186図	第190図	
41号	11L 3a・3b	円形 N－ ° －E	1.43 1.27	1.44 1.25	0.10	浅碗形	縄文 加曽利ＥⅣ		第186図	第190図	
42号	11L 3d	楕円形 N－ 51° －W	2.47 2.35	1.58 1.40	0.15	浅碗形	縄文		第186図	－	
43号	11L 7b	方形 N－ 58° －E	37.50 3.10	1.90 1.30	0.60	逆台形	縄文		第186図	－	
44号	11K 72d	円形 N－ 0° －	11.30 0.90	11.30 0.80	2.40	逆台形	縄文		第186図	－	
45号	11K 93b	方形 N－ 68° －E	2.85 (2.5)	1.48 1.20	0.17	逆台形	縄文 加曽利ＥⅣ	11住のピット有	第186図	第190図	
46号	11L 35b	円形 N－ 90° －E	1.37 0.91	1.28 0.80	0.28	浅碗形	縄文		第186図	－	
47号	11L 35a	円形 N－ 65° －W	1.04 0.70	0.87 0.55	0.22	逆台形	縄文 称名寺Ⅰ		第186図	第190図	
48号	11L 35b	円形 N－ ° －E	1.12 0.91	1.02 0.90	0.68	円筒形	縄文 称名寺Ⅰ？		第186図	第190図	

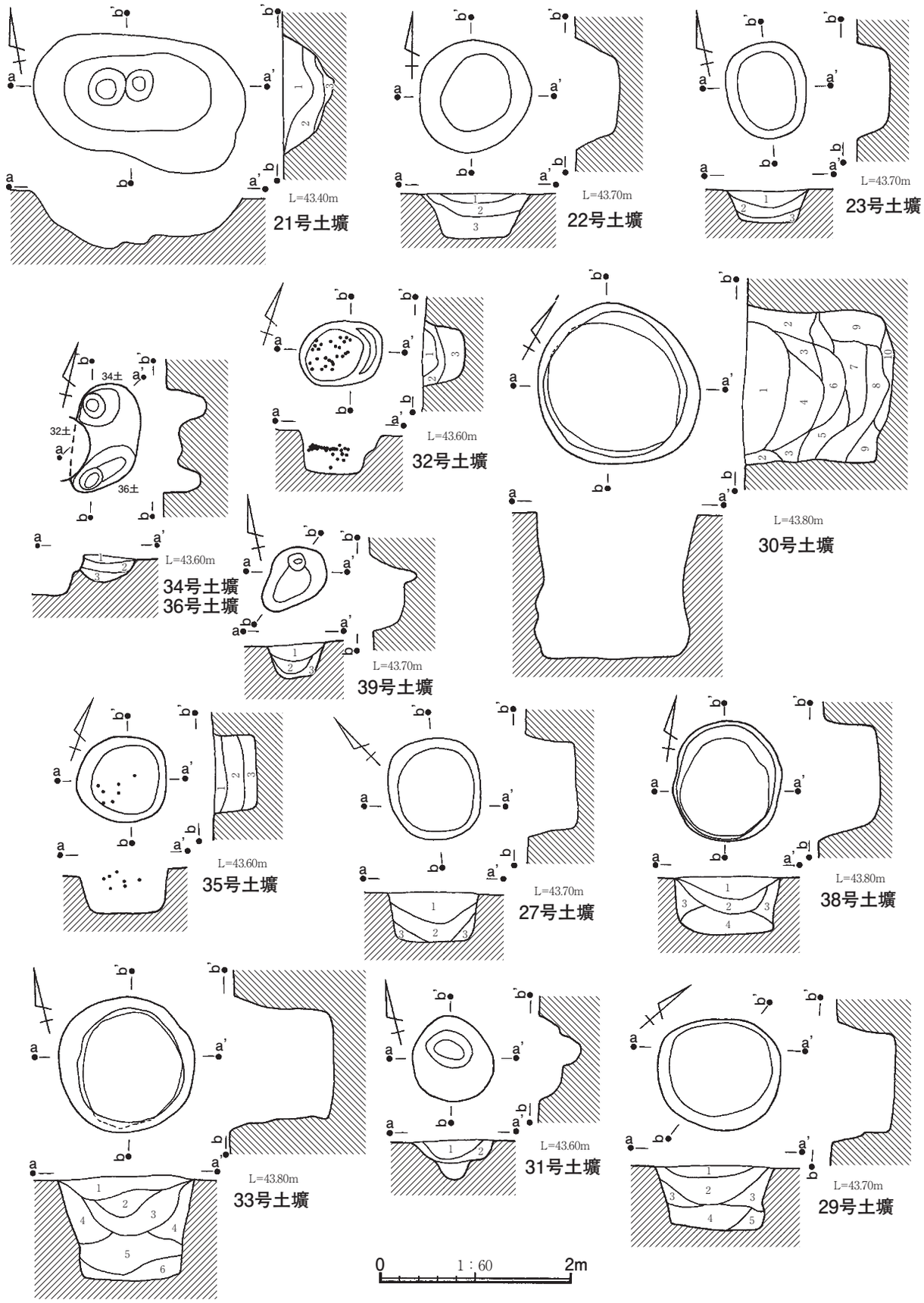
遺構No.	検出区	平面形 方位	法量（m） 長軸（上端）（下端）	法量（m） 短軸（上端）（下端）	深さ	堀方断面形状	時代 時期	特徴	挿図No. 遺構	挿図No. 遺物	備考
49号	11L 67a	円形 N－90°－E	1.21 / 0.95	1.11 / 0.70	0.18	浅碗形	縄文 加曽利ＥⅣ		第186図	第191図	
50号	11L 22b	円形 N－0°－	0.98 / 0.76	0.98 / 0.65	0.51	円筒形	縄文		第186図	－	
51号	11L 34d	方形 N－41°－W	3.38 / 2.28	2.80 / 2.05	0.93	碗形	縄文		第187図	第191図	65土を切る
52号	11L 15d	方形？ N－30°－E	1.83 / 0.70	1.54 / 0.55	0.78	逆台形	縄文		第187図	－	53土に切られる
53号	11L 15d	楕円形 N－42°－W	0.87 / 0.45	0.75 / 0.30	1.43	円筒形	縄文		第187図	－	52土に切られる
54号	11L 36c	円形 N－45°－W	0.97 / 0.65	0.91 / 0.65	0.55	円筒形	縄文		第187図	－	
55号	11L 36c	円形 N－49°－W	1.13 / 0.76	1.03 / 0.65	0.45	逆台形	縄文		第187図	－	
56号	11L 37a	円形 N－23°－W	1.05 / 0.70	0.94 / 0.65	0.53	円筒形	縄文 加曽利ＥⅣ		第187図	第191図	
57号	11L 36b・c	円形 N－46°－W	1.22 / 1.00	1.09 / 0.90	0.65	円筒形	縄文		第187図	－	
58号	11L 24a	円形 N－0°－	0.96 / 0.73	0.92 / 0.71	0.65	円筒形	縄文 加曽利ＥⅣ		第187図	第191図	
59号	11K 93b	方形 N－55°－E	1.95 / 1.20	1.15 / 0.70	0.35	逆台形	縄文 称名寺Ⅰ	ピット有　１穴	第187図	第191図	
60号		不明 N－°－E	0.60	0.45 / 0.35	0.24	逆台形	縄文		第187図	－	
61号	11L 24b	方形？ N－25°－E	2.03 / 1.65	1.86 / 1.60	0.25	逆台形	縄文 早期		第187図	－	５炉と撹乱有
62号	11L 34c・d	円形 N－85°－E	1.23 / 1.00	1.30 / 0.95	0.40	円筒形	縄文 加曽利ＥⅣ		第187図	第191図	
63号	11L 28a・b	円形 N－0°－	0.81 / 0.62	0.78 / 0.62	0.30	逆台形	縄文 加曽利ＥⅣ		第187図	第191図	
64号	11L 31a	楕円形 N－23°－W	0.81 / 0.65	0.65 / 0.45	0.38	円筒形	縄文		第187図	－	
65号	11L 34d	不明 N－74°－E	1.26	1.05 / 0.65	0.36	逆台形？	縄文		第187図	－	51土に切られる



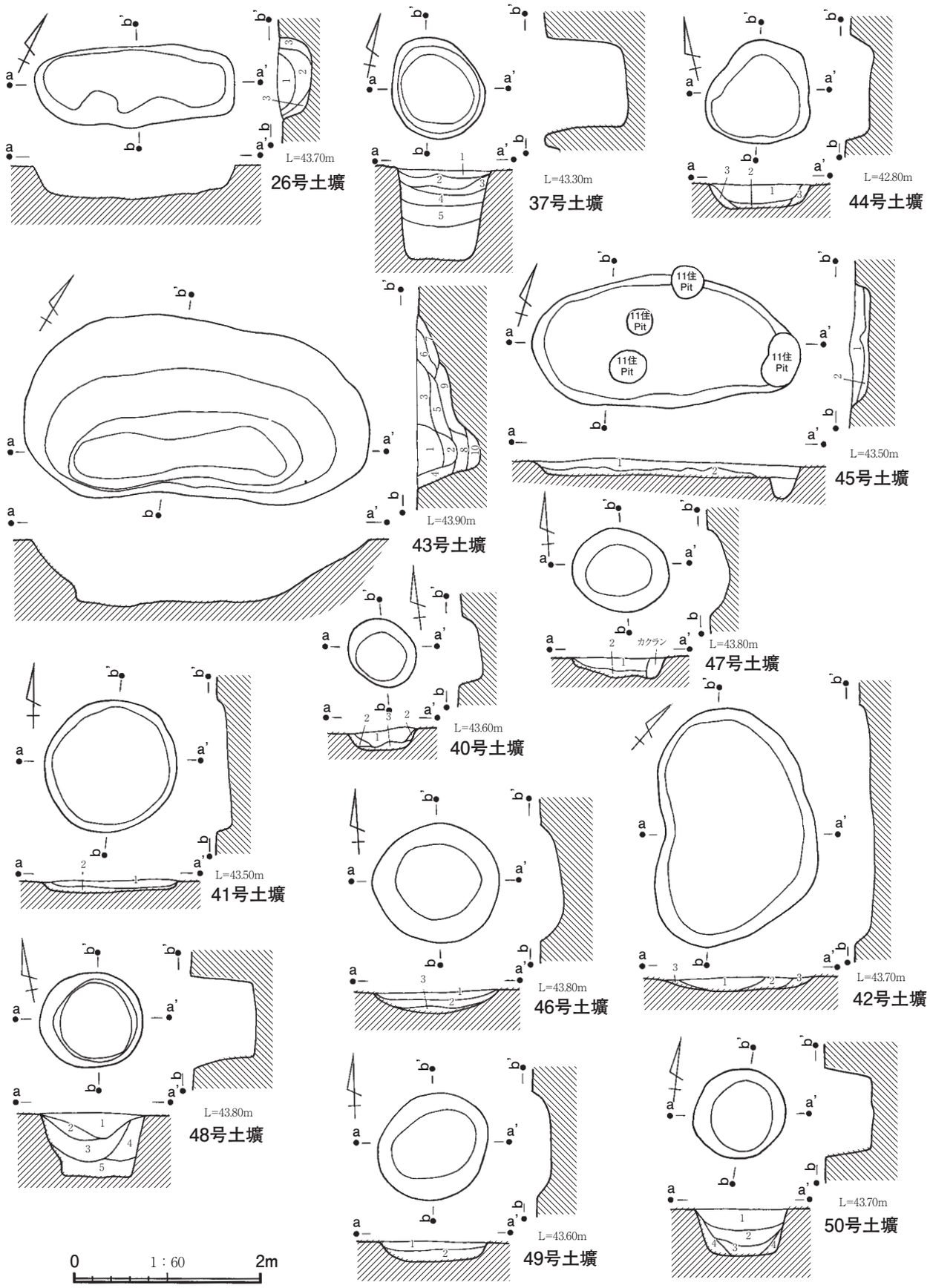
第183図　上谷津第２遺跡土壙①



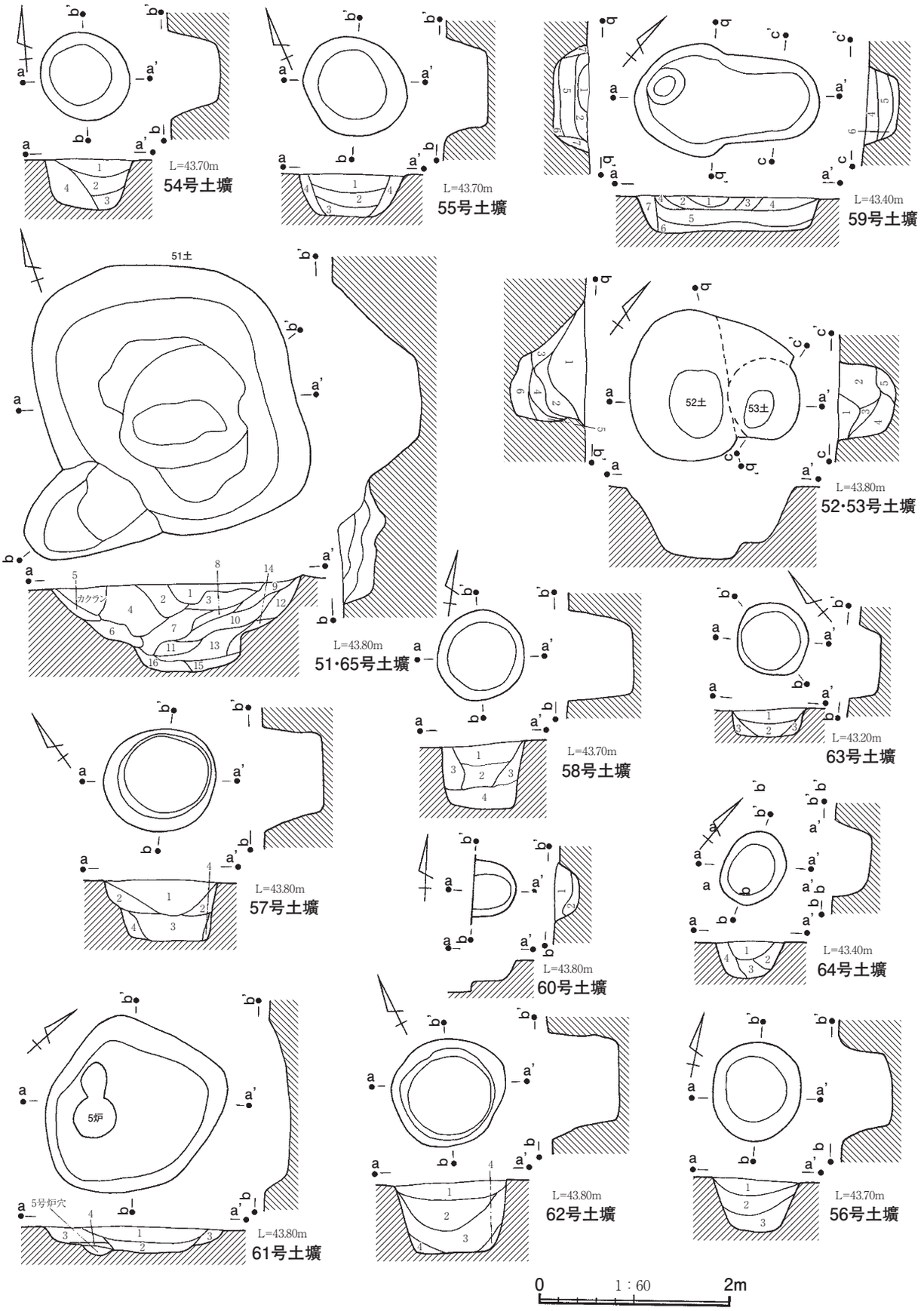
第184図　上谷津第２遺跡土壙②



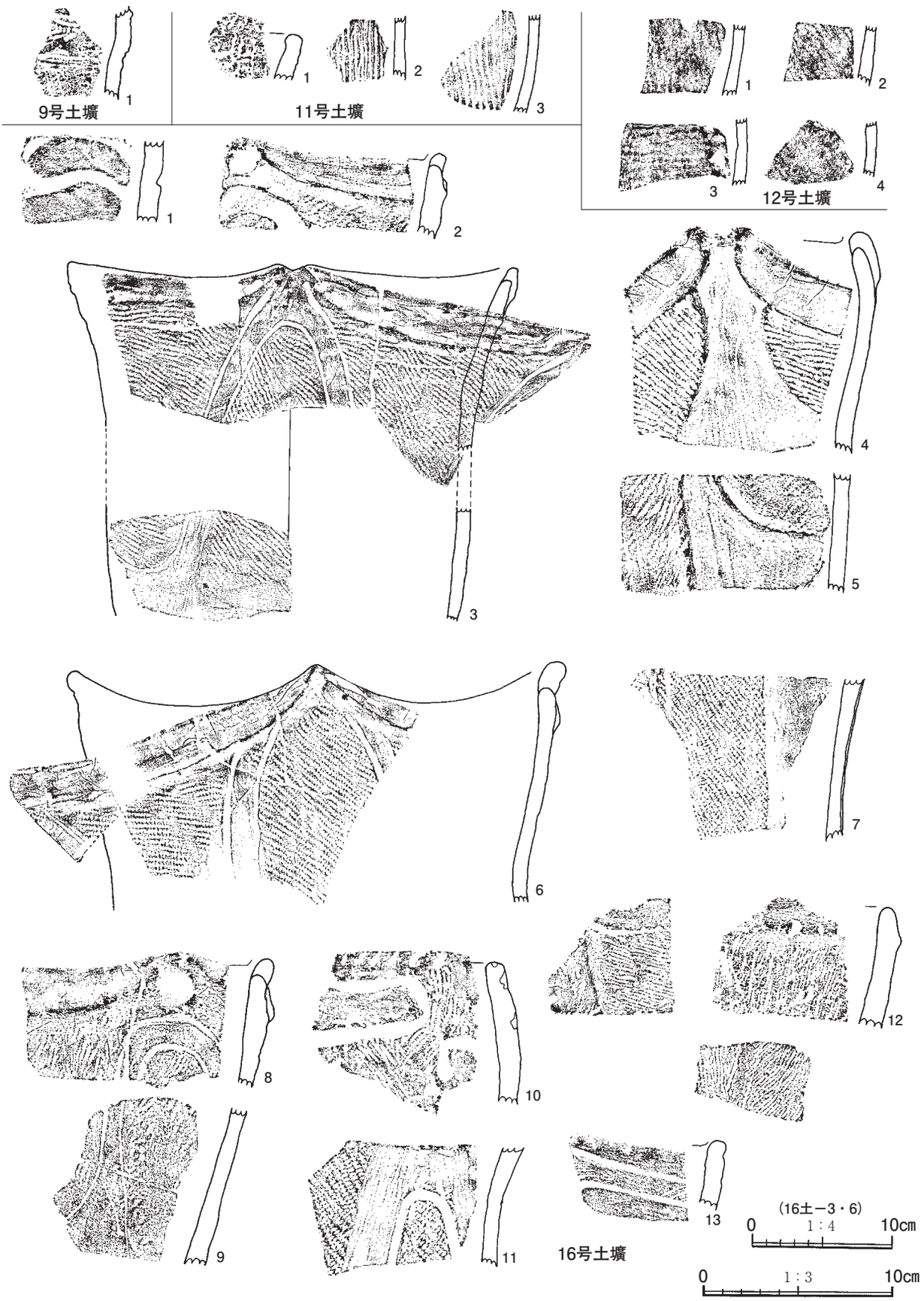
第185図　上谷津第２遺跡土壙③



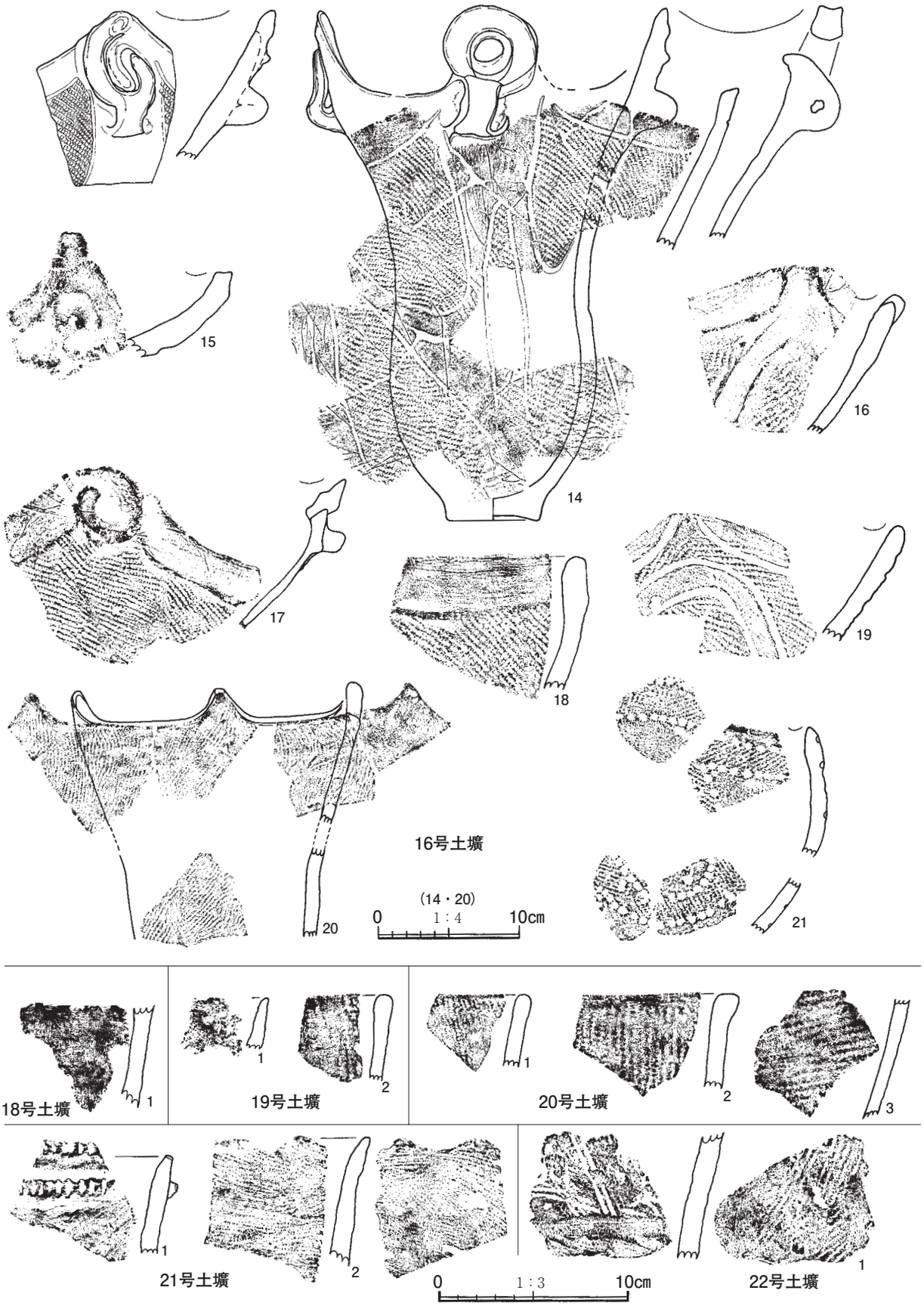
第186図　上谷津第２遺跡土壙④



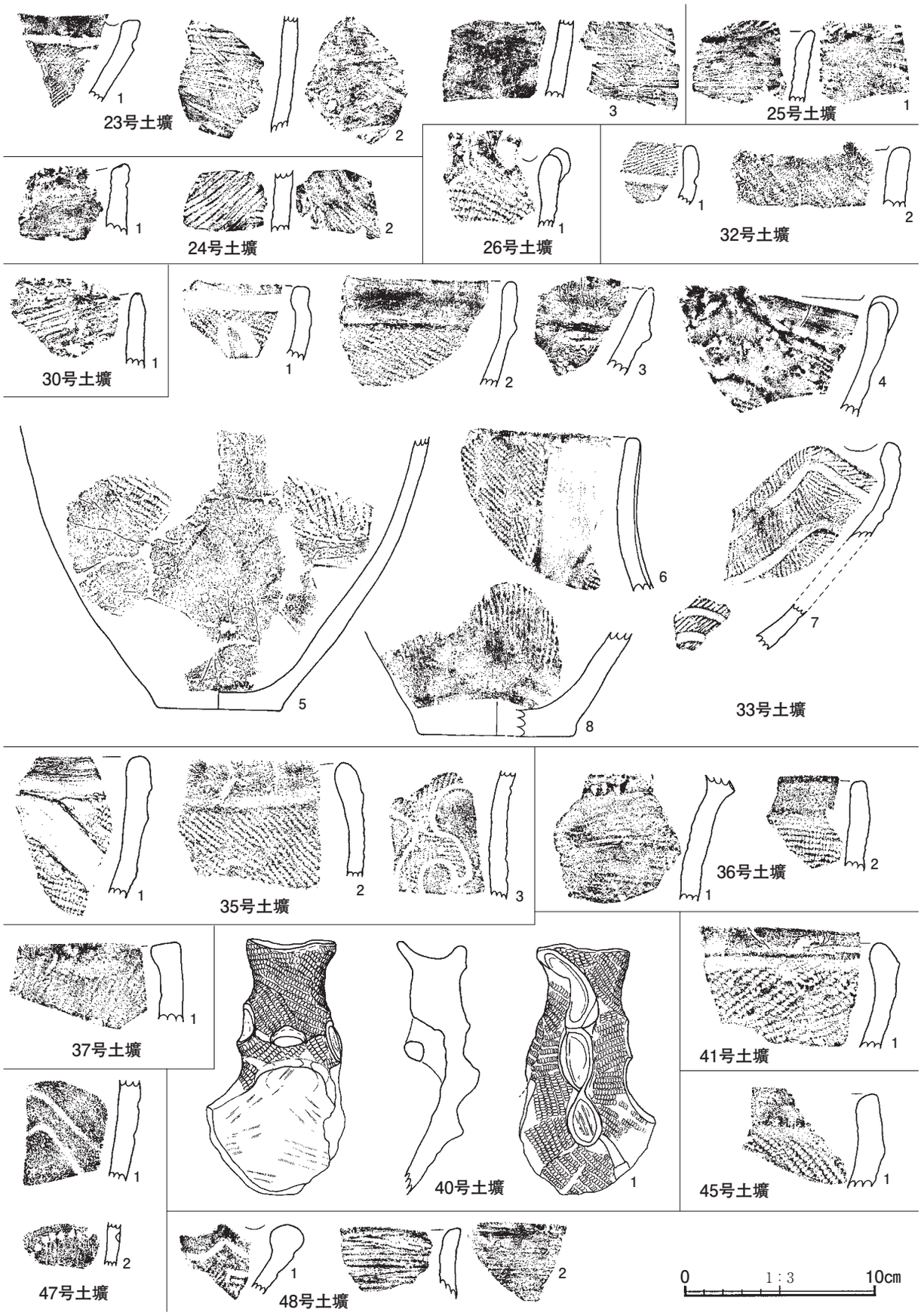
第187図　上谷津第２遺跡土壙⑤



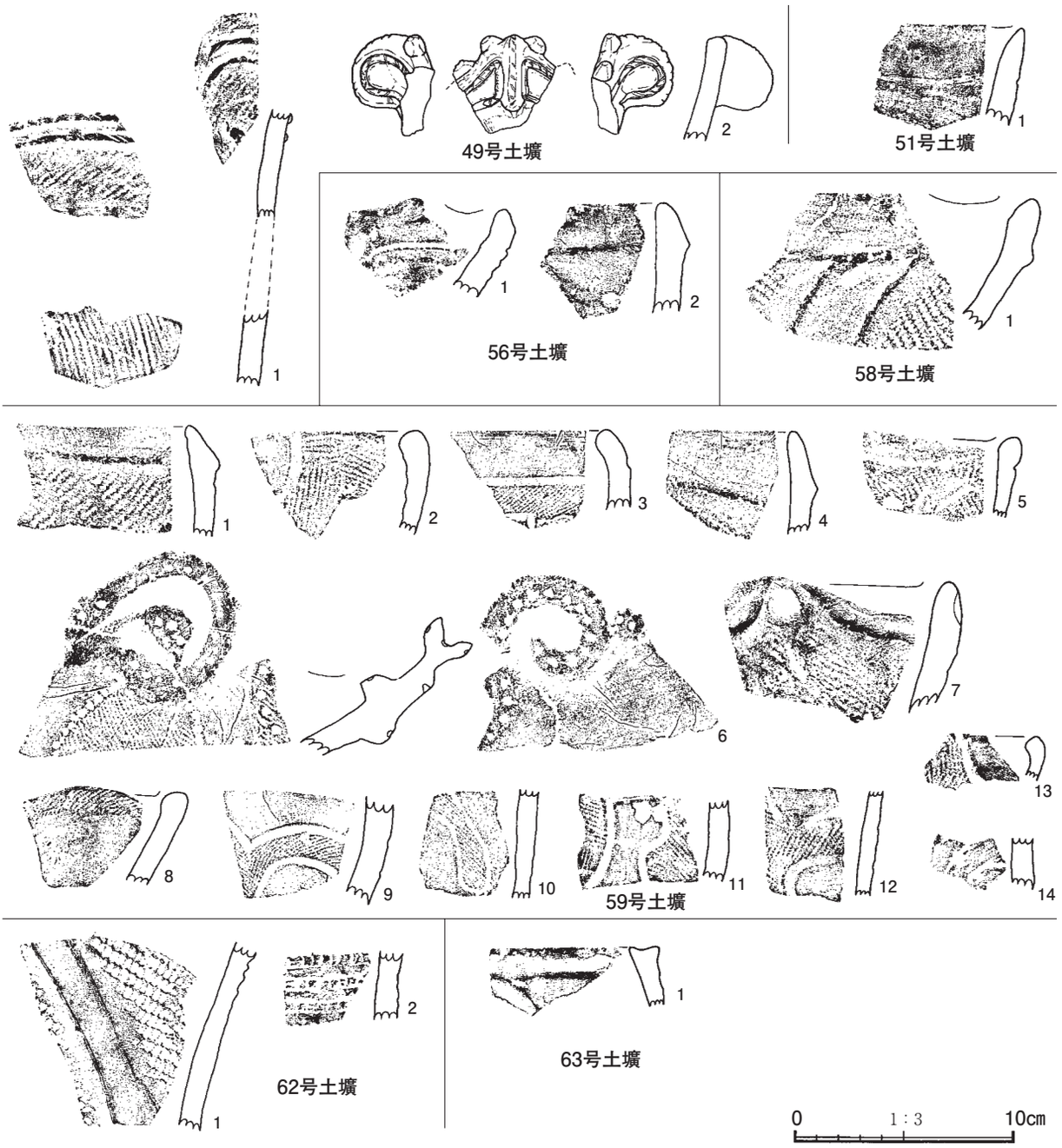
第188図　上谷津第２遺跡土壙出土遺物①



第189図　上谷津第２遺跡土壙出土遺物②



第190図　上谷津第２遺跡土壙出土遺物③



第191図　上谷津第２遺跡土壙出土遺物④

5 土
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み焼土粒をわずかに含む
2 5YR 3/6 暗褐　焼土粒・ローム粒を少し含む
3 7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒をわずかに含む
4 7.5YR 4/2 褐　ローム粒を含みロームブロックをまばらに含む

7 土
1 7.5YR 4/6 褐色土　褐色粒をまばらに含む
2 7.5YR 5/6 明褐　ローム粒をわずかに含む
3 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒をまばらに含む

9 土
1 7.5YR 5/6 明褐　ローム粒・褐色粒を多く含む
2 7.5YR 3/4 暗褐　ロームブロックをまばらに含む
3 7.5YR 4/3 褐　ロームブロックをまばらに含む
4 7.5YR 4/6 褐　暗褐色土をまばらに含む
5 7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックをまばらに含む

11 土
1 7.5YR 3/2 暗褐　ローム粒を含む
2 7.5YR 3/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
3 7.5YR 3/4 褐　ローム粒、ロームブロック含む
4 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含む
5 7.5YR 4/4 褐　ローム粒、ロームブロックを含む
6 7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む

12 土
1 7.5YR 3/3 暗褐　焼土粒・ローム粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を少し含む
3 7.5YR 6/3 褐　ローム粒を少し含む

14 土
1 7.5YR 3/4 黒褐　ローム粒をまばらに含む
2 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをわずかに含む

15 土
1 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を少し含む
2 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む
3 7.5YR 4/2 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

16 土
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をわずかに含み、焼土粒まばらに含む
2 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒少し含み、炭化物粒・焼土粒をまばらに含む
3 75YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
4 75YR 3/4 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒・炭化物粒をわずかに含む

17 土
1 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・焼土粒を少し含む
2 7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む

18 土
1 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロック・焼土粒をまばらに含む
2 7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、焼土粒をまばらに含む

19 土
1 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
2 7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、焼土粒もわずかに含む

20 土
1 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
2 7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含む
3 7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

21 土
1 7.5YR 4/6 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む
2 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
3 7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む

22 土
1 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒まばらに含む
2 7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロック焼土粒をわずかに含む
3 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックを含む

23 土
1 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
2 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロック少し含む
3 7.5YR 4/6 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

27 土
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をわずかに含む
2 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
3 7.5YR 3/2 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックを含む

29 土
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を多く含む
2 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・黒色粒をわずかに含む
3 7.5YR 3/4 暗褐　ロームブロックを多く含む
4 7.5YR 3/3 黒褐　ローム・黒色粒を多く含む
5 7.5YR 4/3 褐　ロームブロック主体

30 土
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を多く、焼土粒・炭化物粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含む
3 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を多く含む
4 7.5YR 4/2 黒褐　ローム粒を多く含む
5 7.5YR 4/3 褐　ロームブロックを主体とする

6 7.5YR 3/4 暗褐　ロームブロックを多く含む
7 7.5YR 3/4 暗褐　ロームブロックを含む
8 7.5YR 4/4 褐　ロームブロックを主体とする
9 7.5YR 4/4 褐
10 7.5YR 2/2 黒褐　ローム粒を多く含む

31 土
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒・炭化物粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックをまばらに含む

32 土
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒・黒色粒・ロームブロックをまばらに含む
2 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・黒色粒をまばらに含む
3 7.5YR 3/4 暗褐　黒土粒をわずかに含む

33 土
1 7.5YR 2/2 黒褐　焼土粒・炭化物粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/2 黒褐　焼土粒・炭化物粒を多く含む
3 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をわずかに含む
4 7.5YR 4/3 褐　ロームブロックを含む
5 7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックがまばらに含む
6 7.5YR 3/4 暗褐　ロームブロックを多く含む

34・36 土
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をまばらに含む
3 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をまばらに含む

35 土
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をまばらに含む
3 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をまばらに含む

38 土
1 7.5YR 2/3 黒褐　ローム粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を多く含む
3 7.5YR 3/4 暗褐　褐色土と黒褐色土が斑状に混ざる
4 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を多く含む

39 土
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をわずかに含む
2 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をわずかに含む
3 7.5YR 4/4 褐　黒褐色土と褐色土が斑状に混ざる

26 土
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を多く含む
2 7.5YR 3/3 暗褐　黒色土と褐色土をまばらに含む
3 7.5YR 4/3 褐色　黒色土をまばらに含む

37 土
1 7.5YR 2/2 黒褐　焼土粒をわずかに含む
2 7.5YR 3/2 黒褐　焼土粒をわずかに含む
3 7.5YR 4/4 褐
4 7.5YR 3/2 黒褐　ロームブロックをまばらに含む
5 7.5YR 4/4 褐　黒色土をまばらに含む

40 土
1 7.5YR 2/2 黒褐　ローム粒をわずかに含む
2 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をわずかに含む
3 7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックをわずかに含む

41 土
17.5YR 3/4 暗褐　ローム・黒色粒をわずかに含む
27.5YR 3/4 暗褐　ローム・黒色粒をまばらに含む

42 土
1 7.5YR 3/2 黒褐　ロームブロックをわずかに含む
2 7.5YR 3/2 黒褐　黒色粒をわずかに含む
3 7.5YR 3/2 黒褐　黒色粒をまばらに含む

43 土
1 7.5YR 3/2 暗褐　ローム粒・黒色粒をわずかに含む
2 7.5YR 3/2 暗褐　ローム粒・黒色粒をまばらに含む
3 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・黒色粒をわずかに含む
4 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・黒色粒をわずかに含む
5 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・黒色粒をまばらに含む
6 7.5YR 3/4 暗褐　黒褐色土ブロックをまばらに含む
7 7.5YR 3/4 暗褐　黒褐色土ブロックを多く含む
8 7.5YR 3/3 暗褐　黒褐色土ブロックを多く含む
9 7.5YR 3/3 暗褐　黒褐色土ブロックを多く含む
10 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を多く含む

44 土
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を多く含む
3 7.5YR 3/4 暗褐　黒褐色土と褐色土が混ざる

45 土
1 7.5YR 3/2 黒褐　黒褐色土と褐色土が斑状に混ざる
2 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をまばらに含む

46 土
1 7.5YR 3/2 黒褐　黒色土と褐色土が斑状に混ざる
2 7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックをわずかに含む
3 7.5YR 3/4 暗褐　黒色粒をまばらに含む

47 土
1 7.5YR 3/3 暗褐　黒色粒を多く含む
2 7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックを多く含む

48 土
1 7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・炭化物粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/2 黒褐　ロームブロックをわずかに含む
3 7.5YR 4/4 暗褐　ロームブロックをわずかに含む
4 7.5YR 3/4 暗褐　ロームブロックを多く含む
5 7.5YR 2/3 暗褐　ロームブロックをわずかに含む

49 土
1 7.5YR 3/3 暗褐　黒色粒をわずかに含む
2 7.5YR 3/4 暗褐　黒色粒をまばらに含む

50 土
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をまばらに含む
3 7.5YR 3/4 暗褐　ロームブロックを少し含む
4 7.5YR 3/4 暗褐　ロームブロックをまばらに含む

51 土
1 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を多く含む
2 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を多く含む
3 7.5YR 4/3 褐色　ローム粒を主体とする
4 7.5YR 4/3 褐色　ロームブロックを含む
5 7.5YR 3/2 黒褐　ロームブロックを多く含む
6 7.5YR 3/2 黒褐　ロームブロックを多く含む
7 7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックを一部含む
8 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
9 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をわずかに含む
10 7.5YR 3/2 黒褐　ロームブロックを多く含む
11 7.5YR 3/2 黒褐　ロームブロックを多く含む
12 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
13 7.5YR 3/2 黒褐　ロームブロックを一部含む
14 7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックを主体とする
15 2.5YR 4/3 褐　ロームブロック主体とする
16 2.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を多く含む

52 土
1 7.5YR 2/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
2 7.5YR 2/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
3 7.5YR 3/4 暗褐　褐色土と黒褐色土が斑状に混じる
4 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を少し含む
5 7.5YR 3/4 暗褐　褐色土と黒褐色土が斑状に混ざる
6 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を多く含む

53 土
1 7.5YR 3/4 暗褐　ロームブロックを含む
2 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
3 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒をまばらに含む
4 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒をまばらに含む
5 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒をまばらに含む

54 土
1 7.5YR 3/3 黒褐　ローム粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/3 黒褐　ロームブロックをまばら含む
3 7.5YR 3/3 黒褐　ロームブロックをまばら含む
4 7.5YR 4/3 褐色　黒褐色土を含む

55 土
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/2 黒褐　ロームブロックをまばらに含む
3 7.5YR 3/2 黒褐　ロームブロックをまばらに含む
4 7.5YR 4/3 褐色　黒色粒をわずかに含む

56 土
1 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・炭化物粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックを一部含み斑状をきす
3 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒をまばらに含む

57 土
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒・黒色粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・黒褐色粒をまばらに含む
3 7.5YR 3/2 黒褐　ロームブロック・ローム粒、黒色粒をまばらに含む
4 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を多く含む

58 土
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒・黒色粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒・黒色粒をまばらに含む
3 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をわずかに含む
4 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をわずかに含む

59 土
1 5YR 3/3 暗赤褐
2 7.5YR 3/3 暗褐　焼土粒とローム粒をわずかに含む
3 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をわずかに含む
4 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をわずかに含む
5 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をわずかに含む

60 土
1 7.5YR 3/2 黒褐　炭化物粒をわずかに含む
2 7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックを含む

61 土
1 7.5YR 3/2 暗褐　ローム粒・黒色粒をわずかに含む
2 7.5YR 4/3 褐　黒色粒を多く含む
3 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・黒色粒を多く含む
4 7.5YR 3/4 暗褐　焼土粒をわずかに含む

62 土
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒・ロームブロックをまばらに含む
3 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・ロームブロックをまばらに含む
4 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をまばらに含む

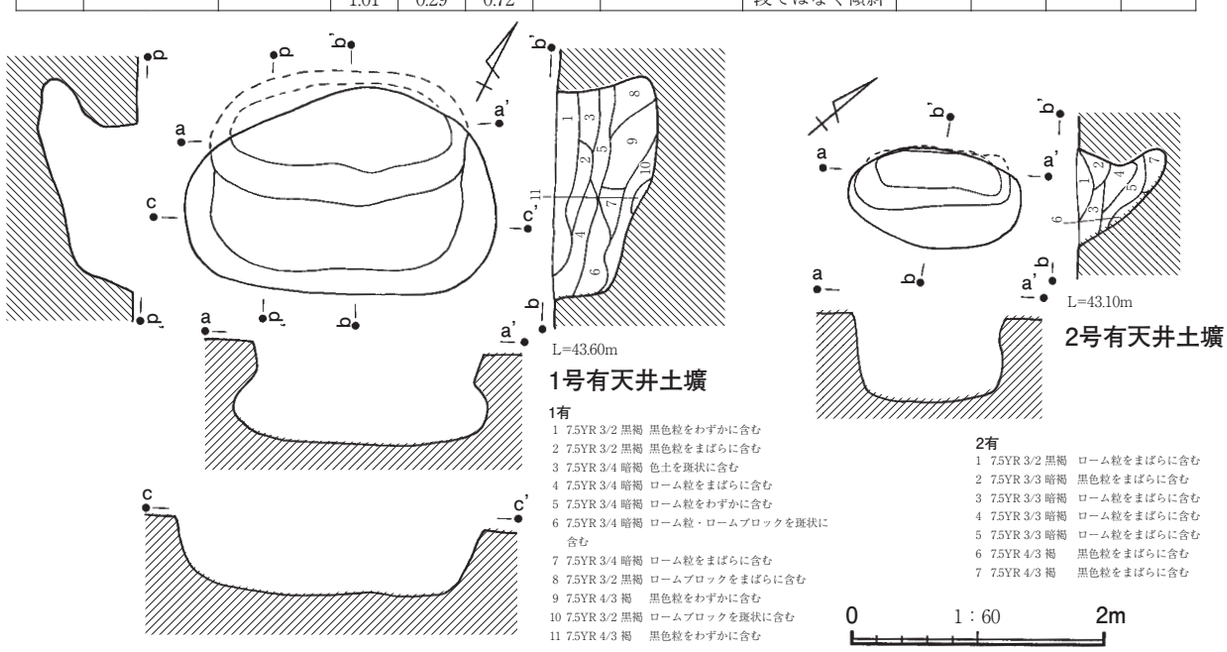
63 土
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
3 7.5YR 3/3 黒褐　ローム粒をまばらに含む

64 土
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/3 黒褐　ローム粒をまばらに含む
3 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
4 7.5YR 3/3 黒褐　ローム粒をまばらに含む

5　有天井土壙

第44表　上谷津第２遺跡検出の有天井土壙

遺構No.	検出区	上端平面形	法量（m） 長辺	短辺	深さ 上段	深さ 下段	底面状況	時代時期	特徴	挿図No. 遺構	挿図No. 遺物	旧名称	備考
1号	11L 28b・d	不整楕円形	2.47	1.64	0.55		平坦	奈良・平安？	天井部残存 下段は狭い	第192図	－	C25	
			1.94	0.96	0.75								
2号	11L 68 c	楕円形	1.39	0.82	0.34		平坦	奈良・平安？	天井部残存？ 段ではなく傾斜	第192図	－	C28	
			1.01	0.29	0.72								



第192図　上谷津第２遺跡有天井土壙

6　方形周溝状遺構

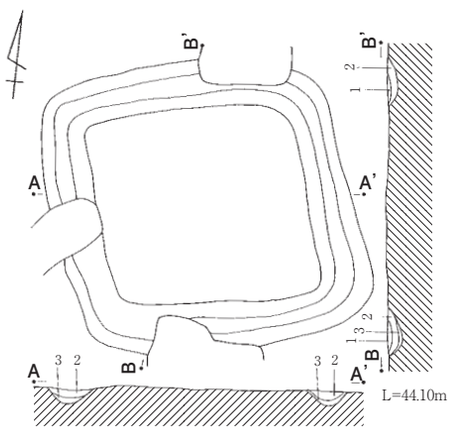
第45表　上谷津第２遺跡検出の方形周溝状遺構一覧

遺構No.	検出区	方位	法量（m） 長軸	短軸	溝幅	周溝深さ	周溝堀方断面形状	時代時期	挿図No. 遺構	遺物	備考
			（外周）								
			（内周）								
1号	11L　54d	N－　32°　－W	4.72	4.7	0.66	0.24	半円形	奈良・平安	第193図	－	
			3.32	3.14							
2号	11L　73c	N－　42°　－E	3.24	2.9	0.4	0.14	半円形	奈良・平安	第193図	－	
			2.54	2.14							
3号	11L　47a･c	N－　41°　－E	5.64	5.3	0.66	0.2	逆台形？	奈良・平安	第193図	－	
			4.44	4							

１号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面形はやや平行四辺形気味。四隅が直気味に曲がる。盛土は確認されなかった。断面は半円形。
遺物の状況	明確に伴うと判断できる遺物はない。
備考	

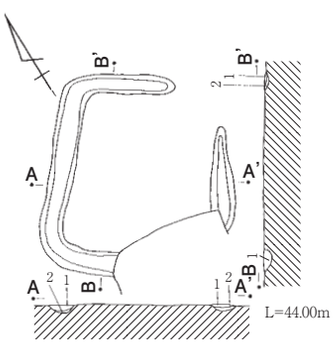
1方
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒・焼土粒をわずかに含む
3　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含む



２号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面形はほぼ正方形。四隅が直に曲がる。盛土は確認されなかった。断面は半円形。北東隅が橋状に切れる。南東隅が破壊。
遺物の状況	明確に伴うと判断できる遺物はない。
備考	

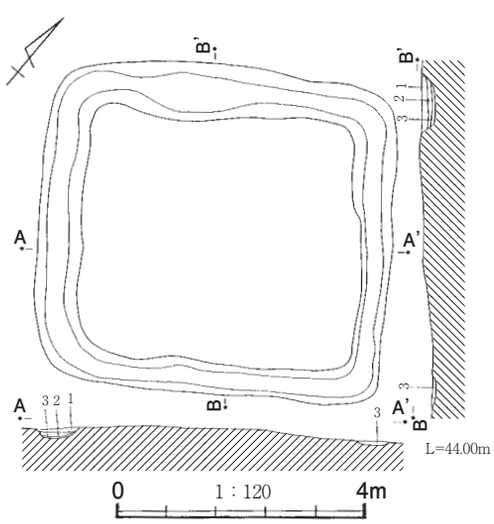
2方
1　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む



３号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面形は東西にやや長い方形。周溝断面形は半円形。 盛土の痕跡は全く確認できなかった。
遺物の状況	明確に伴うと判断できる遺物はない。
備考	

3方
1　7.5YR 2/2 黒褐　ローム粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　褐色粒をわずかに含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　黒色粒をわずかに含む



第193図　上谷津第２遺跡１・２・３号方形周溝状遺構

７　調査区一括遺物

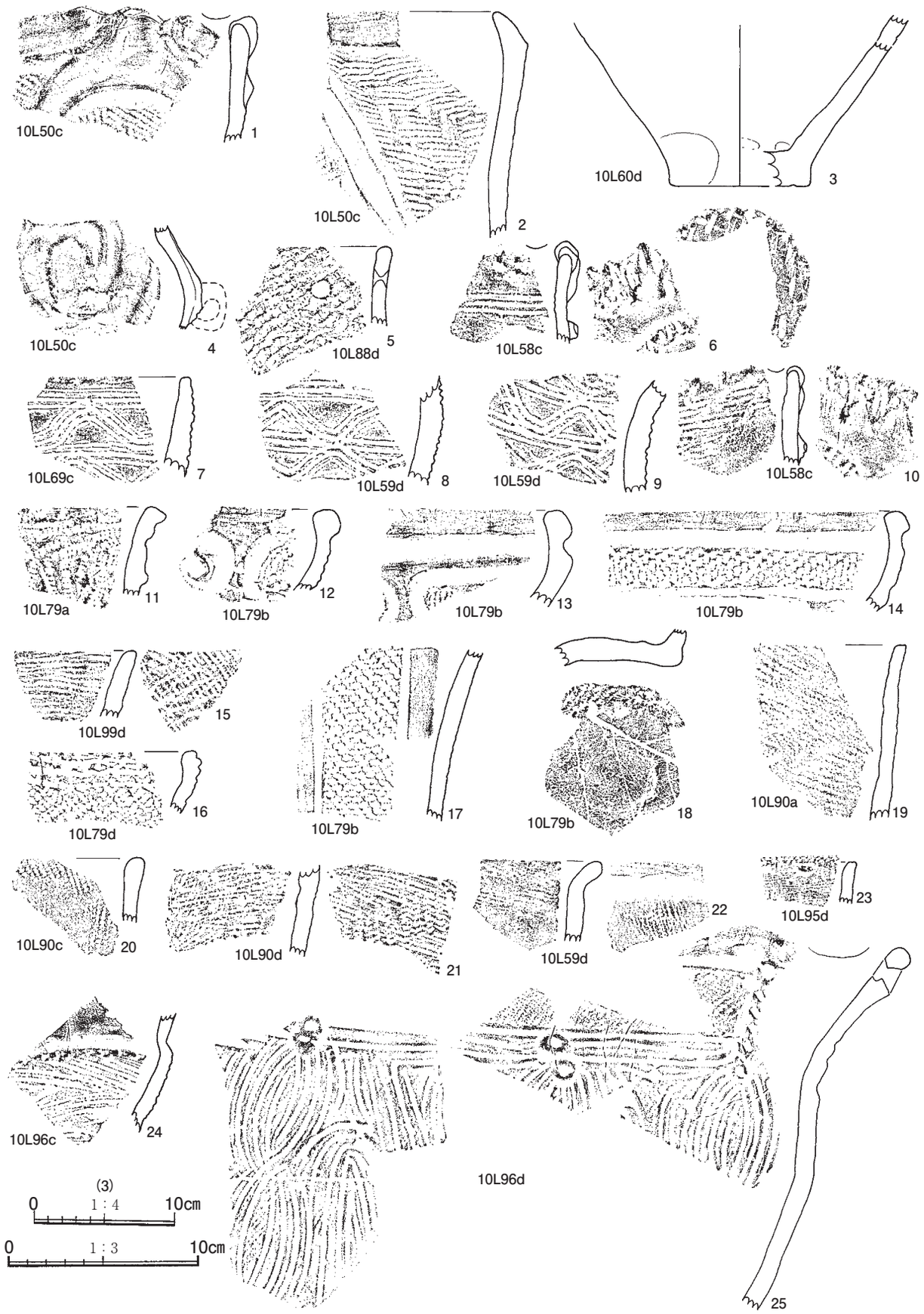
上谷津第２遺跡は、縄文時代の遺物が調査地域全体で多く出土している。時期は、早期の撚糸文・条痕文、前期の黒浜式・諸磯式、中期の加曽利ＥⅡ式・ＥⅣ式、後期の称名寺式・堀之内式・加曽利Ｂ式・後期安行式がある。これらの中でも称名寺式（加曽利ＥⅣ式系含む）と加曽利Ｂ式の量が多い。時期の特定はできないが、尖頭器・石鏃・石皿・凹石・磨石・敲石・石棒・打製石斧・磨製石斧・軽石なども他遺跡に比べて出土量が多い。

旧石器　11L22a付近の７号住居跡周辺（第198図-114～116）・10L68a･d（同図-120･117）・10L80d（同図118･121）・11Ｌ82ａ（同図-119）の縄文時代以降の包含層内から出土している。いずれも縄文時代以降のローム層の攪拌でローム層外へ掘りおこされてしまったものである。118は石核、121は尖頭器(?)、それ以外は剥片である。121のチャートを除き、珪質頁岩である。

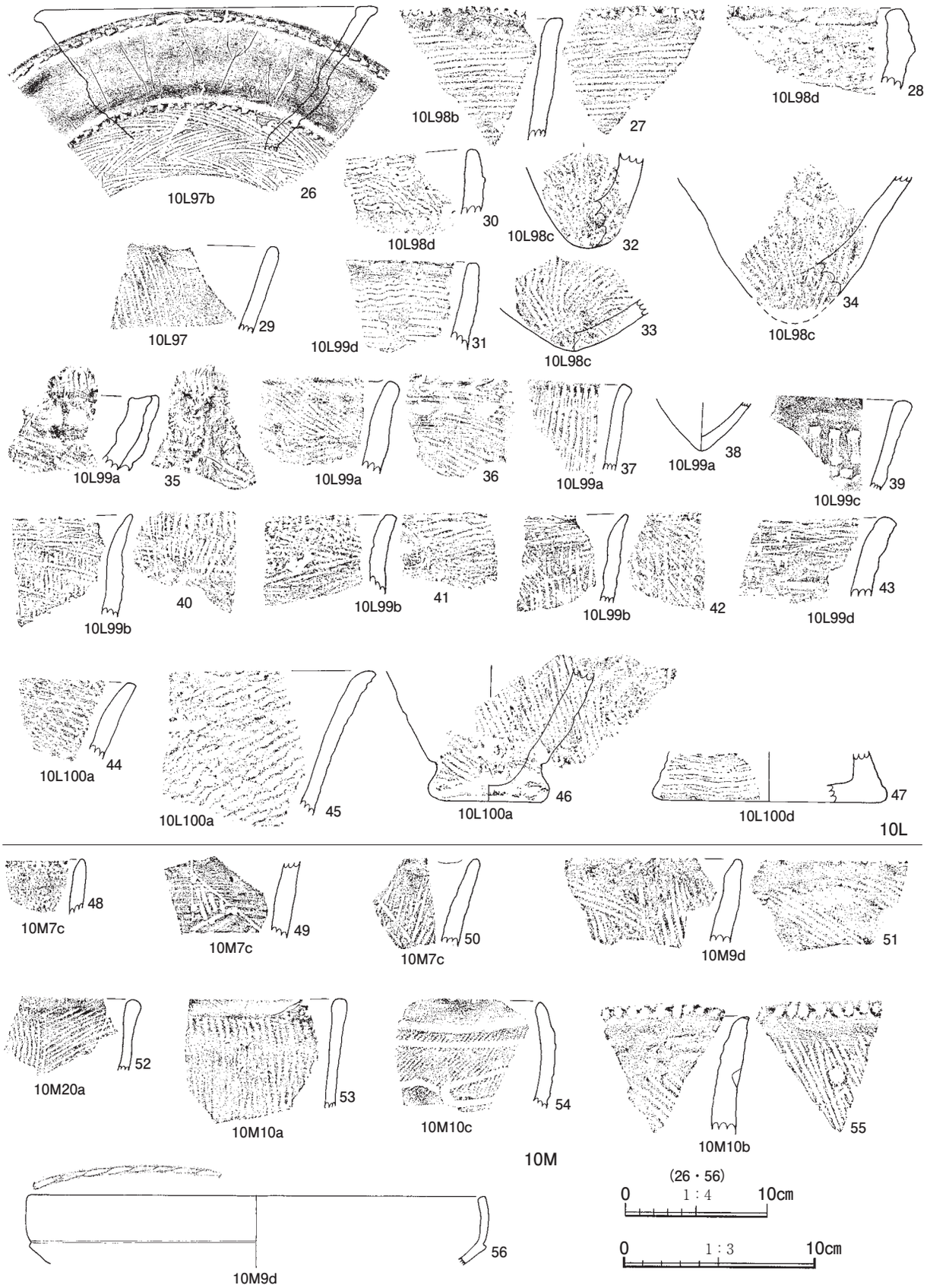
石器　第199図-140の凹石転用石皿は１号住居跡、第198図-126（チャート製石鏃）・第199図-141（緑泥片岩製凹石）・142（緑泥片岩製凹石）・143（砂岩製凹石転用石皿）・144（砂岩製磨石）・145（緑泥片岩製石棒片）･146（粘板岩製磨製石斧）は６号住居跡出土である。第198図-127（チャート製石鏃）は７号住居跡、第201図-170（黒耀石製石鏃）は10号住居跡出土である。第198図-9（チャート製石鏃？）は９号土壙、同図-129（粘板岩製石鏃）、同図-128（チャート製石鏃）は45号土壙である。第201図-169は３号住居跡出土の軽石である。これら以外のものは、包含層出土の各地区出土のものである。石鏃は、遺跡群の他遺跡に比べ出土量が多い。石鏃や石斧などはほぼ全て掲載したが、その他の石器は数量が多いため位置のみ掲載した。

土製品　第198図-103～113の土器片転用の土製円板がやや目立つ。円板があるわりに、土錘・土器片錘が極端に少なかった。

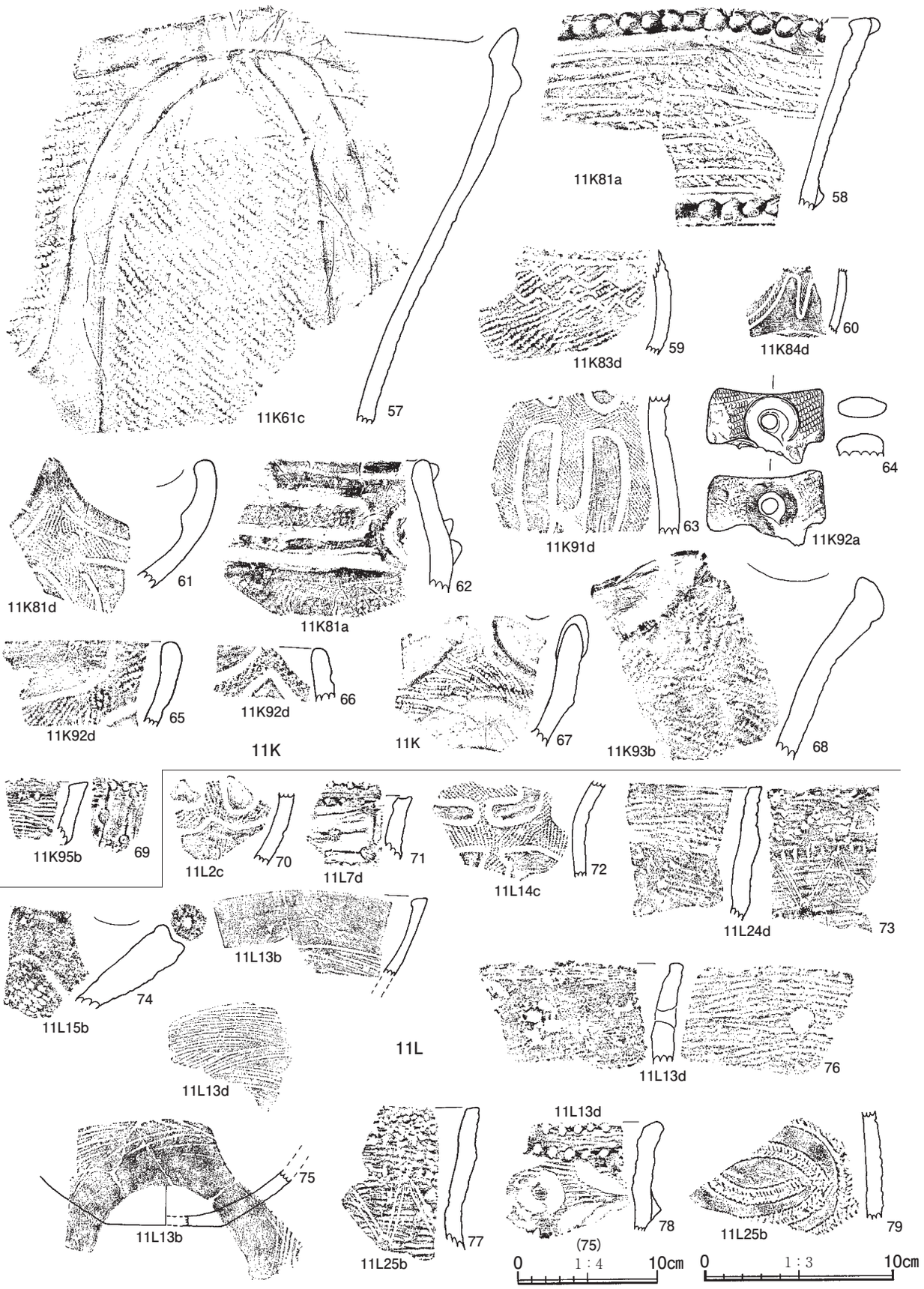
土器　早期・撚糸文系土器（第194図-22・29・38・53・92）は、調査範囲の東端の台地縁辺部に多く分布していた。量的に際だって多いわけではないが、拡散度合いは広い。型式は、22・92が井草式、27・53が夏島式、62の小型の尖底部は不明である。条痕文系土器は、撚糸文系土器の分布範囲と重なる範囲に加え、台地付け根までの東寄りに広く分布する。形式的に多いものは、茅山下層式(第194図-11・第196図-73・77・78・第197図-102等）である。野島式・鵜ヶ島台式（第196図-69・第197図-97･100等）・下吉井式（第194図-７～９）なども出土している。前期は黒浜式（未掲載）と諸磯式（第194図-16･第196図-79･第197図-80）があり、諸磯ｂ式が多いようである。中期は、加曽利ＥⅣ式が最も多いが、加曽利ＥⅡ式（第194図-12～14･第196図-62･第197図-84）のものも目立つ。なお、加曽利ＥⅡ式は、９号住居周辺に偏っている。後期は、初頭の称名寺式と加曽利ＥⅣ系が多い。第197図-86のように、沈線区画の外に撚糸を転がして充填するといったものが含まれ、16号土壙でも同じものが出土している（第188図-10)。第194図-４は、瓢箪形注口土器の胴部と思われる。加曽利ＥⅣ式系では、形骸化した沈線区画による玉抱文（Ｏ字文）を施す例（第197図-85･89）が目立つ。堀之内式は少ない（第194図-25)。加曽利Ｂ式は調査範囲に広く分布する。特に同期の遺構周辺でまとまっており、加曽利Ｂ１･Ｂ２式が目立つ。安行式は、後期と思われるものしかない（細片なので未掲載)。



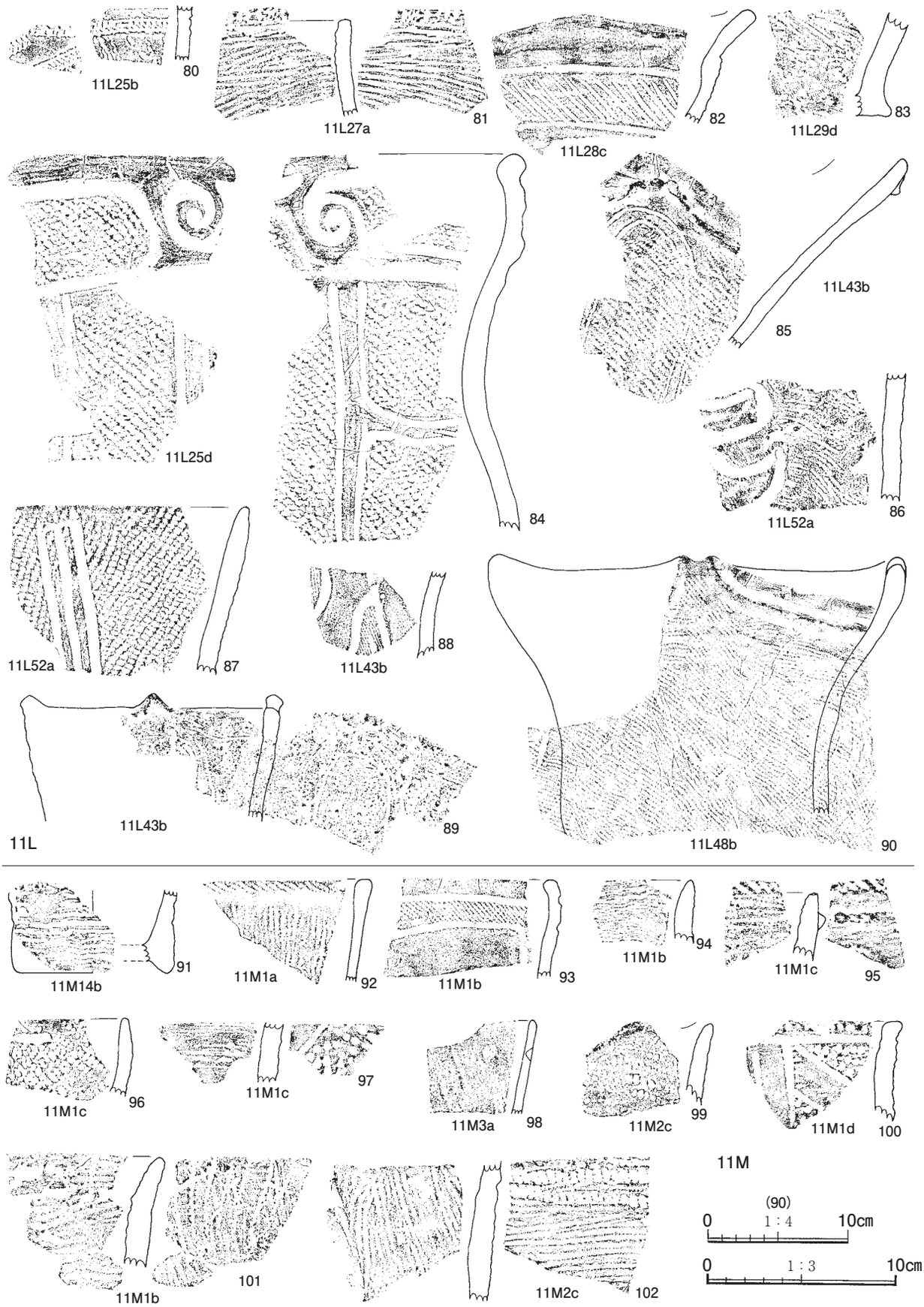
第194図　上谷津第２遺跡調査区出土遺物①



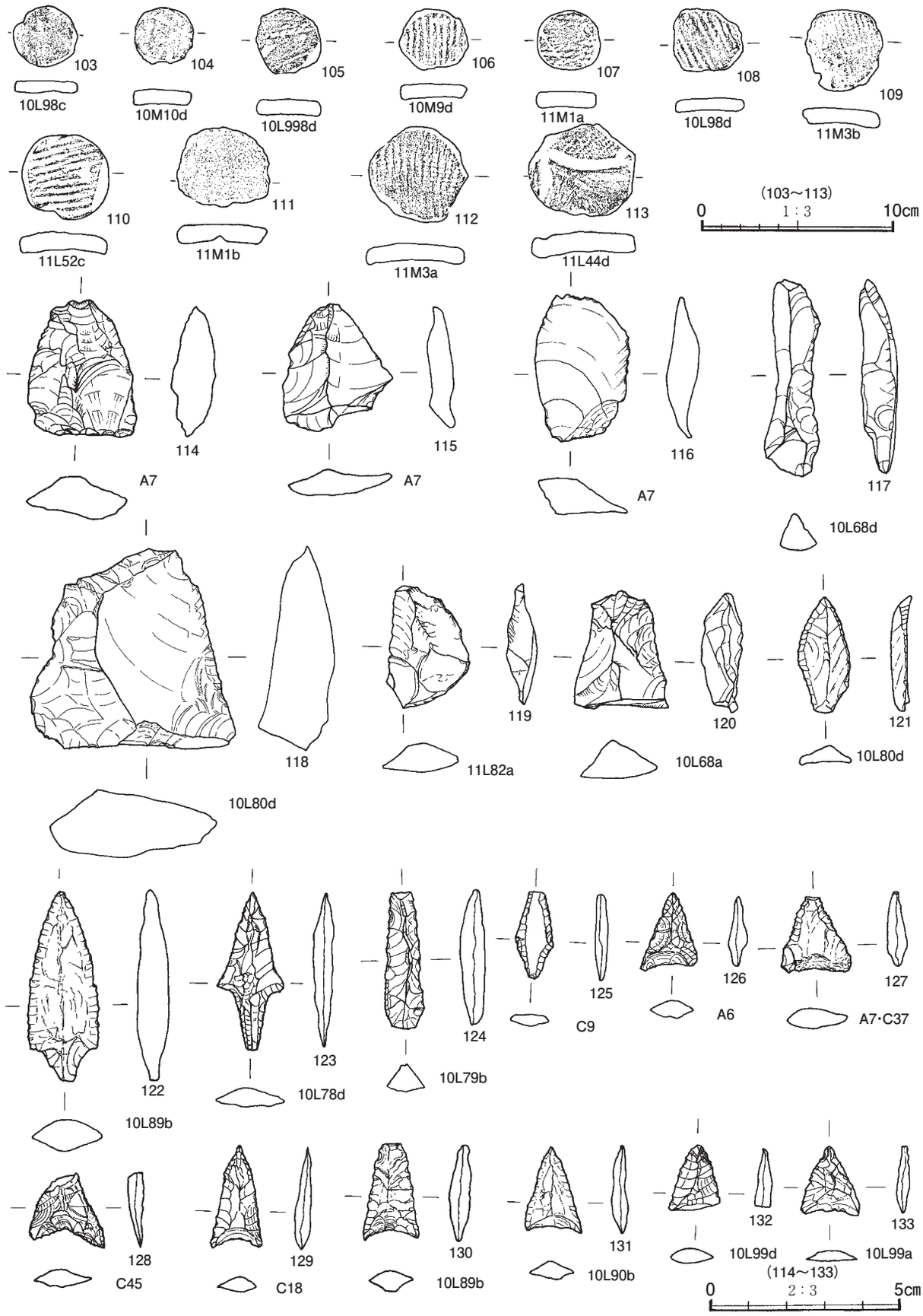
第195図　上谷津第２遺跡調査区出土遺物②



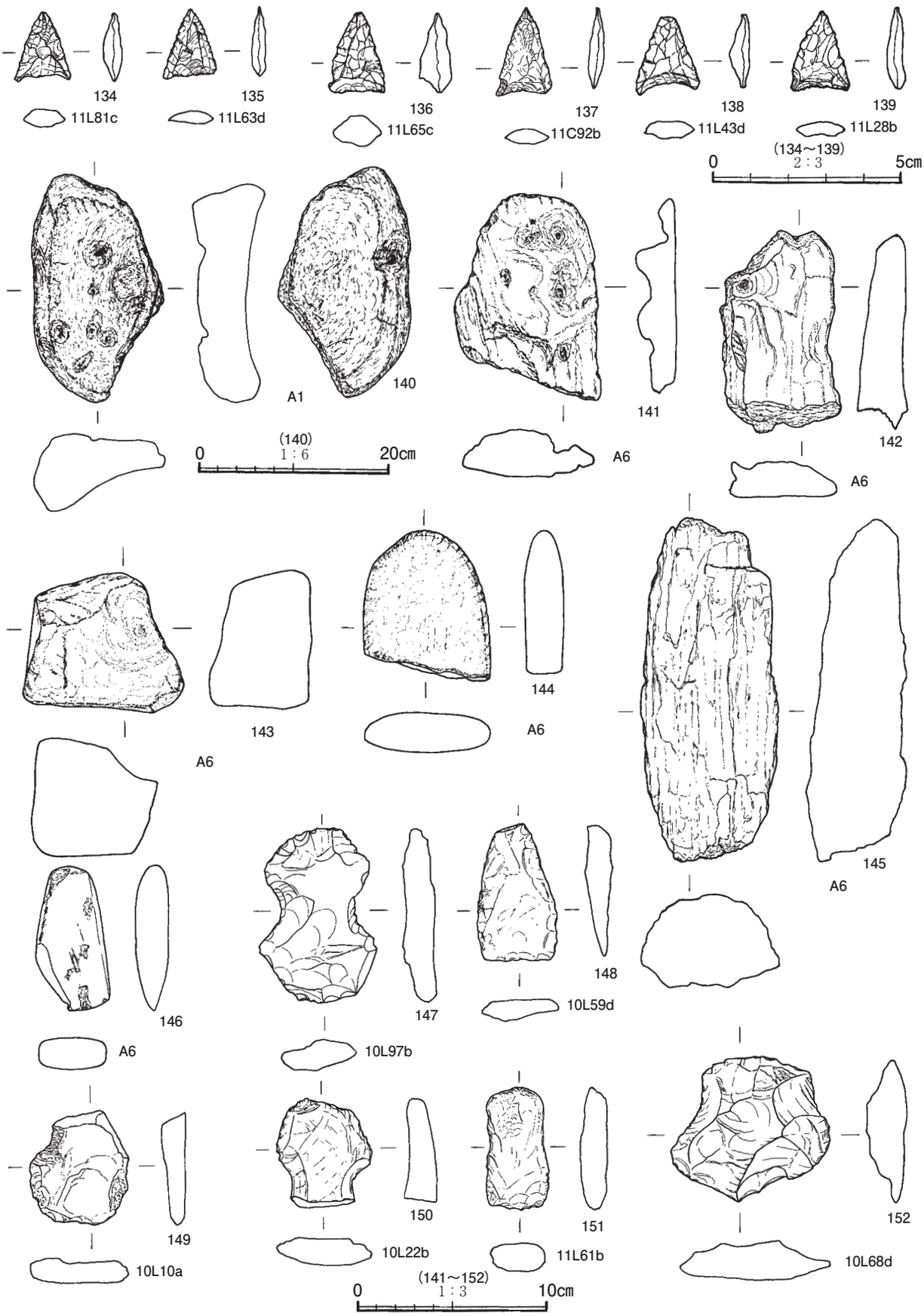
第196図　上谷津第２遺跡調査区出土遺物③



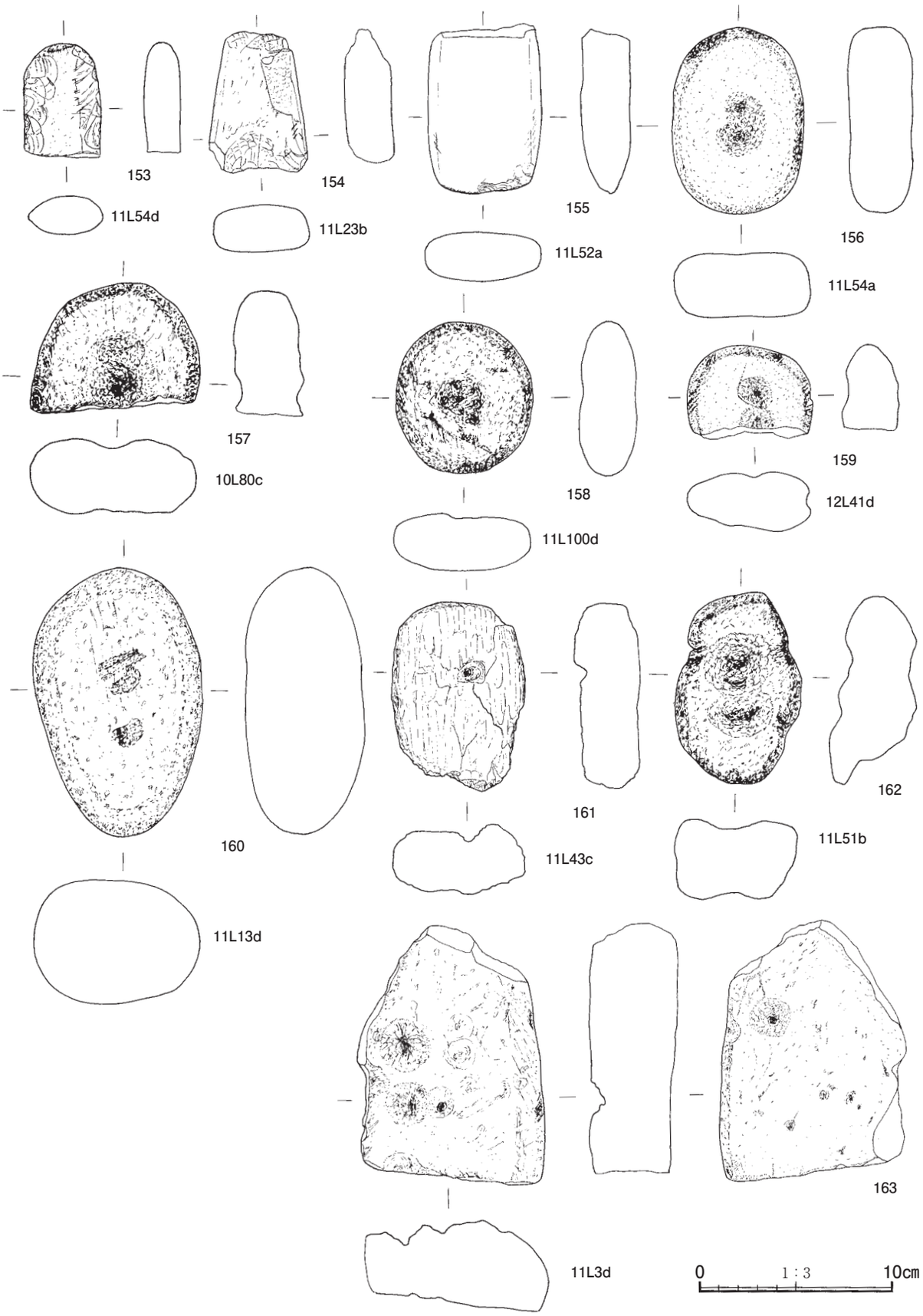
第197図　上谷津第２遺跡調査区出土遺物④



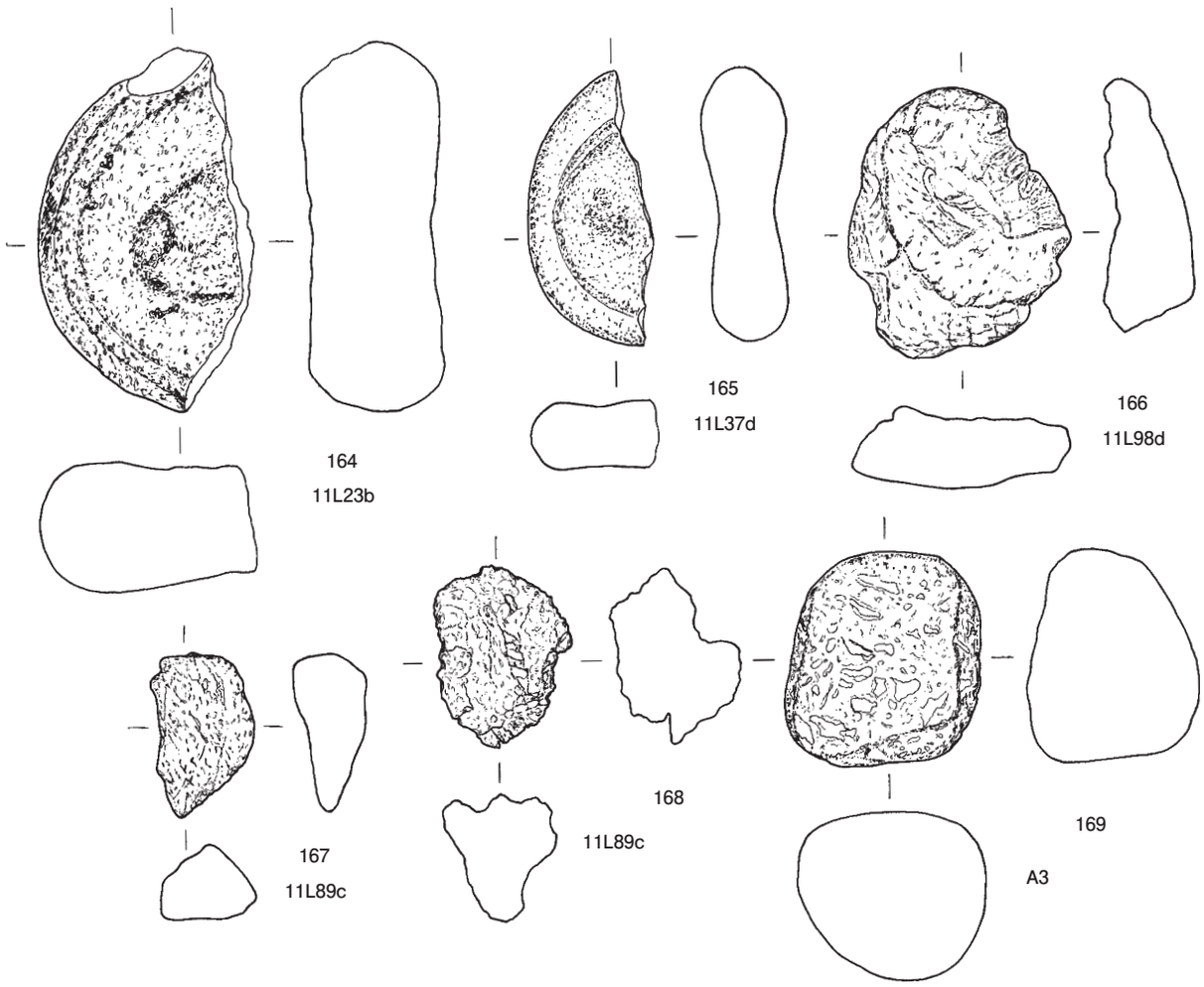
第198図　上谷津第２遺跡調査区出土遺物⑤（土製品・石器）

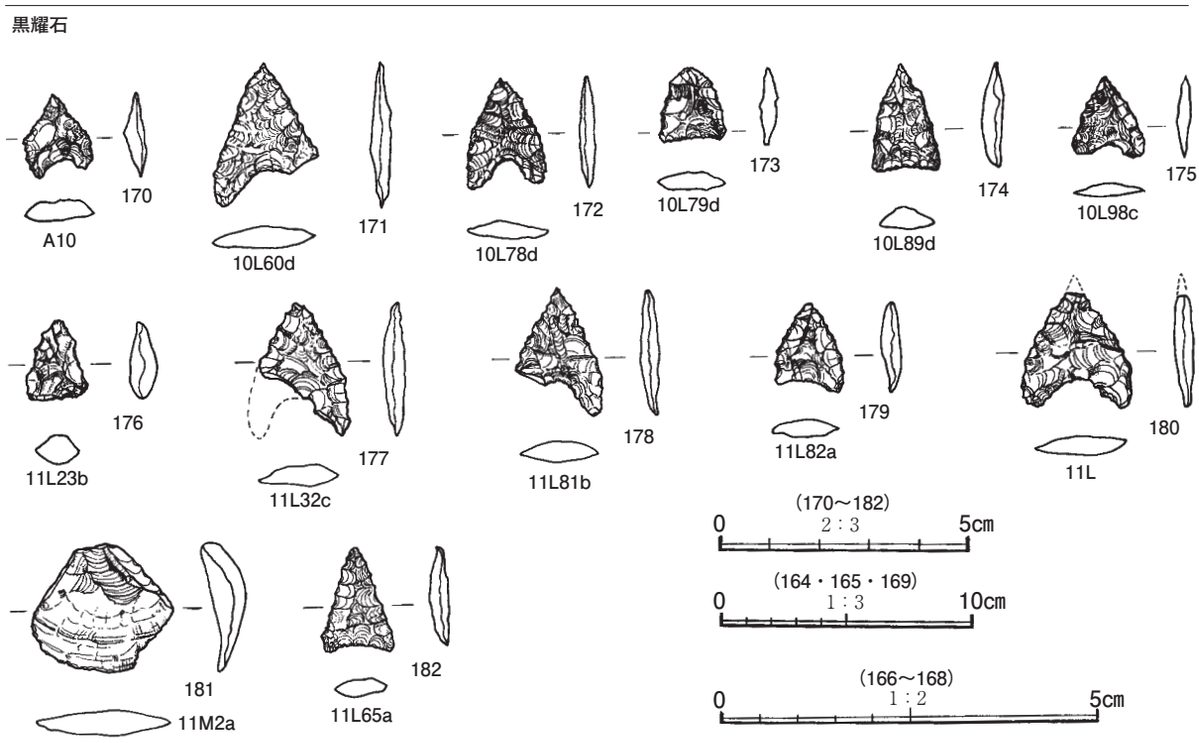


第199図　上谷津第２遺跡調査区出土遺物⑥（石器）



第200図　上谷津第２遺跡調査区出土遺物⑦（石器）

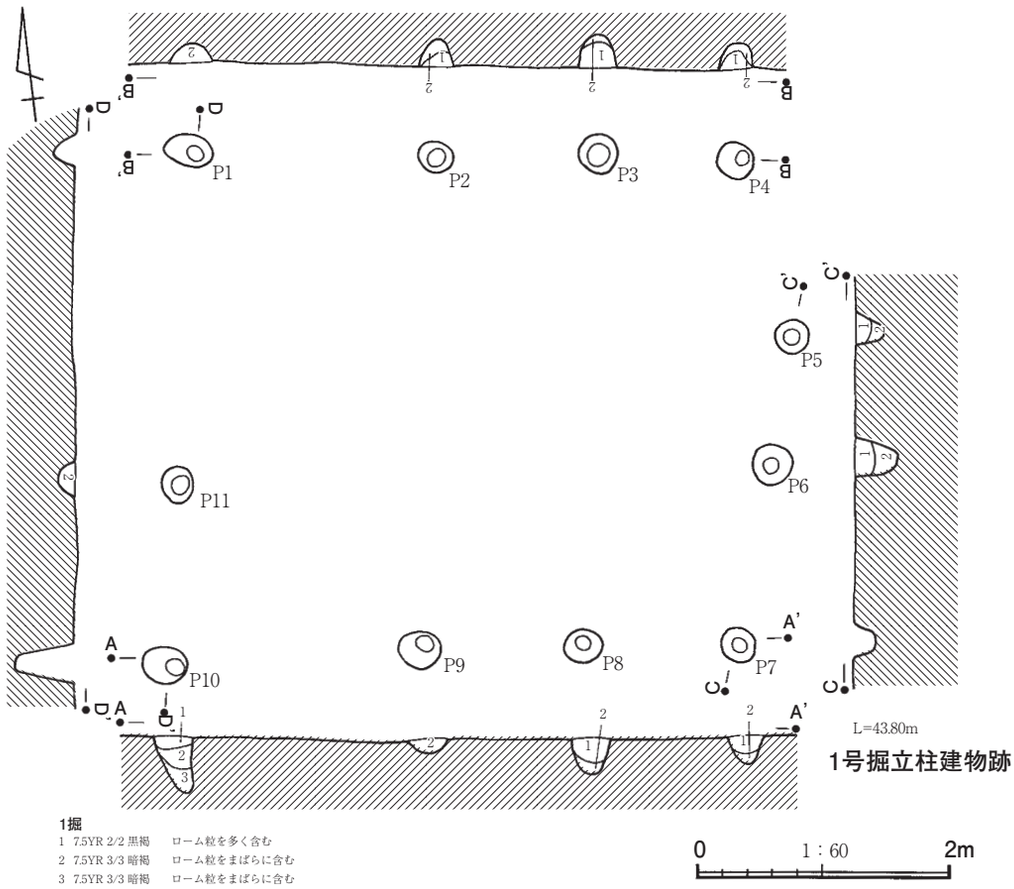




第201図　上谷津第２遺跡調査区出土遺物⑧（石器）

8　掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は、11Ｌ17地区で検出された。南北３間・東西３間で、東西方向にやや長い長方形を呈する。西側の柱穴列の内１本はなく、出入口であろうか。東西方向の東よりの２間は１間の幅が約1.25ｍだが、西よりの１間は約２ｍと間隔が広い。南北方向東側の柱穴列は、角から双方とも約1.25ｍだが、中央が約１ｍと狭い。柱穴の掘方は浅く柱痕は検出されなかった。



第202図　上谷津第２遺跡掘立柱建物跡

遺物が全く出土せず、周辺に奈良・平安時代の集落はないので、中世以降の掘立柱建物跡と推定する。また、硬化面は検出されなかったが、東側柱穴列の配列具合から平地式の建物であった可能性もあろう。

第３節　小結

上谷津第２遺跡では、炉穴５基・住居跡12軒・陥穴２基・土壙61基・有天井土壙２基・方形周溝状遺構３基・掘立柱建物跡１棟・炭窯４基が検出された。旧石器は、一括遺物として８点出土した（第198図-114～121）。遺構の主体となる時期は、縄文時代中期末葉から後期初頭頃の集落（住居跡７軒）である。旧石器に関しては、232頁で述べているので割愛する。

炉穴　全て調査範囲内の南側に偏って分布する。その分布は、第203図の撚糸文系土器の分布範囲にほぼ重なる傾向が窺える。炉内から出土したものが無いので時期の特定はできないが、先例から縄文時代早期の遺構と考えられる。

住居跡　12軒検出された内、７軒が中期末葉から後期初頭に属し、１軒が加曽利ＥⅡ式期、２軒が黒浜式期、２軒が出土遺物がないものの、調査時の所見にて前期と判断していたことを受けて一応前期とした。遺構の状況は、第１節にて大方まとめているのでここでは割愛する。

注目すべき遺物として、７号住居跡から出土した瓢箪型注口土器・瓢箪型土器がある。詳細・検討

は第９章にて行う。

陥穴　陥穴は、底部に柱穴が検出された典型的な形態のものである。２号陥穴から条痕文系の土器が出土しており、前期の所産である可能性が高い。

土壙　早期から後期までの時期の土壙が検出されたが、最多なのは中期末葉から後期初頭のものである。遺構の状況は、第１節にて大方まとめているのでここでは割愛する。それらの中で、特徴的なもののみ解説を付け加えておく。

16・32・35号土壙の遺物　これらの土壙から出土した遺物の間で、接合できた土器があった。３つの土壙は、５号住居跡のほぼ真北約15ｍ程の位置にまとまって検出され、接合資料がなかった23･36号土壙も近い時期の遺物が出土しており、これら全てで一連の土壙群を形成していると考えられる。最多の遺物が廃棄されていたのは16号土壙で、次いで32号土壙、最少が35号土壙である。全ての土壙で、遺物はほぼ２層中から出土しており、最下層からの遺物出土がない状況である。遺物の図面は、便宜上最も遺物が多かった16号土壙のところに接合されたものを掲載している。

32号土壙と接合したのは第188図-３・６･13･第189図-21である。35号土壙と接合したのは、第188図-12・第189図-14･20である。32号土壙と35号土壙で接合し、同一個体片が16号土壙から出土しているのが第188図-４・５である。これらの土器は、加曽利ＥⅣ式系の遺物が主体であるといえるが、第188図-１・10・13などは深く幅のある沈線で区画したり、その区画内に縄文を充填するといった称名寺式の特徴を持つ土器が含まれる。これらの土器は、必ずしも典型的な称名寺式の文様構成ではなく、加曽利ＥⅣ式の雰囲気も含む折衷様の土器である。32号土壙と35号土壙からは典型的なＪ字文を施した称名寺Ⅰ式の土器が含まれており土壙間の接合状況からしてこれら３つの土壙が極めて近い時期に廃棄されたものであることが想定できる。

59号土壙の遺物と11号住居跡の遺物　59号土壙出土の称名寺Ⅰ式のＪ字文が施されたもの（第191図-１～14）と11号住居跡の同様の土器（第181図-10～14）はおそらく同一個体のものが含まれている。11号住居跡の13と59号-10は沈線幅、施文原体が同じである。

有天井土壙　２基とも底部の直交溝は検出されなかった。調査区の南側に分布し、方形周溝状遺構と近接する。このような状況は、端山越遺跡・上谷津第１遺跡でも同様であり、これらの遺構が有機的に関係の深い遺構であることを示唆している。

方形周溝状遺構　遺構は、調査区南部やや東寄りに北東方向に配列された感がある。３基とも主体部は検出されていない。２号方形周溝状遺構の周溝南東隅が巡っていないが、残存する周溝の深さからして、上半を後世に削平されてしまったと考えた方が無難である。

掘立柱建物跡　１棟のみで周辺に中世以降の遺構は検出されていない。柱穴の規模は奈良・平安時代の通有のものに比べ浅く小さい。遺物も全く出土していない。単独で形成された中世以降の遺構であろう。

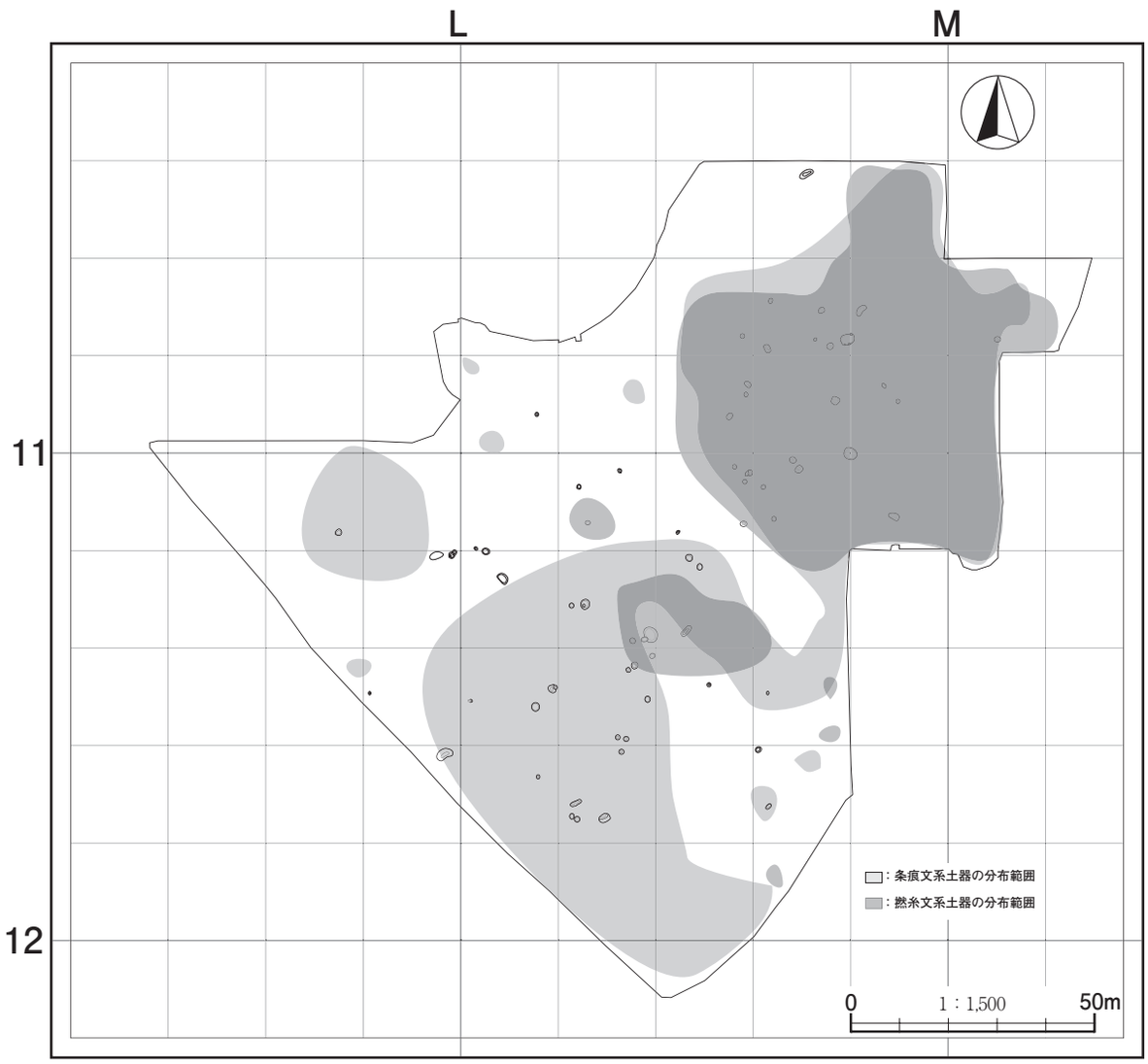
炭窯　配列に規則性は見られない。方形と瓢箪形がある。

調査区一括遺物　詳細は232頁にあるのでここでは割愛する。しかし、第203図に示したように縄文時代早期の撚糸文系と条痕文系土器の出土範囲についての傾向を検討しておく。

撚糸文系と条痕文系の土器が多く含まれる包含層は、上谷津第２遺跡だけの状況ではない。上谷津

第１遺跡や西御門明神台遺跡・西御門荒生遺跡などでも検出されており、弥富川流域の台地縁辺部に多く検出される傾向にある。西御門明神台遺跡では、条痕文期の住居跡が２軒検出されており、その他の遺跡でも恐らく住居跡があったものと予想されるが、検出はされていない。

本遺跡で出土してた撚糸文系土器には、井草式と夏島式があり、撚糸文期でも古手のものが多く出土していることがわかる。しかし、全てのものを抽出し検討できたわけではないので、再検討した場合は様相が変わってしまう可能性もある。一括遺物に掲載した資料は、台地の先端近くの10Ｌ99ａ地区周辺で出土したものばかりである。特にこの周辺からの出土量が多い。その他の分布範囲からは少量のものが散在していた程度である。検出されなかった生活痕（住居跡・炉穴・土壙など）の多寡を反映している可能性がある。条痕文系土器は、野島式・鵜ヶ島台式・茅山下層式・下吉井式が出土し、茅山下層式が最も多い。撚糸文期よりも広範囲に分布する。10Ｌ59地区付近に下吉井式、11Ｍ１地区付近に鵜ヶ島台式が比較的集中する。茅山下層式は広範に分布するが、11Ｌ25地区と10Ｌ99地区周辺にややまとまって出土した。それぞれの集中部分に何らかの遺構が存在した可能性もあろう。撚糸文系土器同様、全てを網羅的に検討するには至っていないことから、今後検討できればと考えている。



第203図　上谷津第２遺跡撚糸文・条痕文系土器分布範囲

第８章　井戸作南遺跡の調査

第１節　調査の概要

井戸作南遺跡は、下泉町遺跡群の中で最も多くの遺構が検出された遺跡である。住居跡・陥穴・土壙・方形周溝状遺構・掘立柱建物跡・溝・炭窯が検出され、土壙が最も多い。縄文時代中期・加曽利ＥⅢ式から後期・加曽利Ｂ３式期に遺構が形成されたものが主体である。

調査は、平成８年度から11年度までの４箇年実施された（平成８年度は表土除去のみ）。平成元年度の確認調査を実施した範囲は、対象範囲の北端の一部の地域を除いて本調査を実施した。遺構が最も多く検出されたのは平成９年度調査で、縄文時代の住居跡全てと古墳時代中期の住居跡や方形周溝状遺構が検出されている。平成10･11年度調査では陥穴と土壙、溝が検出されたにすぎない。縄文時代後期の包含層も薄くなり、平成11年度調査時には縄文時代中期・阿玉台式が密集する地点が検出されるなど宮内井戸作遺跡の状況とは雰囲気が変わってきたことがわかっている。その場合、宮内井戸作遺跡の縄文時代後期から晩期にかけての集落範囲は平成９年度調査区内でほぼ完結していたと考えられる。同じ集落と考えられる佐倉市の宮内井戸作遺跡の状況に比べれば遺構数がとても少ないといえる。確認調査の項（第２章第１節第６項）で概略を述べたように、この遺跡（本遺跡と宮内井戸作遺跡）の主体となる範囲は佐倉市側の宮内井戸作遺跡であることは間違いない。井戸作南遺跡から検出された住居跡群はまさしく集落の西端の一部をかすめたといった表現が妥当である。宮内井戸作遺跡の遺構分布図では、住居跡以外に多量の柱穴痕が検出されているが、井戸作南遺跡ではほとんど検出されていない。それだけ遺構の密集度が低いことを表している。それでも遺構数・遺物量は最多であり、検出された範囲も広いのである。

この遺跡の特徴は、縄文時代後期・加曽利Ｂ式期の集落の一端を検出したことであろう。あくまで

第46表　井戸作南遺跡遺構一覧

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
1号	住居跡	A001	縄文	加曽利Ｂ３式	H9
2号	住居跡	A002	縄文	加曽利Ｂ１式	H9
3号	住居跡	A003	縄文	加曽利Ｂ１式	H9
4号	住居跡	A004	縄文	加曽利Ｂ１式	H9
5号	住居跡	A005	縄文	加曽利Ｂ式	H9
6号	住居跡	A006	縄文	加曽利Ｂ１式	H9
7号	住居跡	A007	縄文	加曽利ＥⅢ式	H9
8号	住居跡	A008	縄文	加曽利Ｂ１式	H9
9号	住居跡	A009	古墳	中期	H9
10号	住居跡	A010	古墳	中期	H9

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
1号	陥穴	C001	縄文		H9
2号	陥穴	C003	縄文		H9
3号	陥穴	C004	縄文	後期	H9
4号	陥穴	C005	縄文	堀之内式	H9
5号	陥穴	C006	縄文		H9　佐倉市
6号	陥穴	C019	縄文		H9
7号	陥穴	C075	縄文		H9　佐倉市
8号	陥穴	C076	縄文		H9　佐倉市
9号	陥穴	C077	縄文		H9　佐倉市
10号	陥穴	C078	縄文		H9
11号	陥穴	C088	縄文		H11
12号	陥穴	C091	縄文	加曽利Ｂ式？	H11
13号	陥穴	C099	縄文		H11
14号	陥穴	C102	縄文		H11
15号	陥穴	C103	縄文		H11
16号	陥穴	C105	縄文	条痕文	H11
17号	陥穴	C107	縄文		H11
18号	陥穴	C083(ﾀﾞﾌﾞﾘ)	縄文		H10

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
1号	欠番				
2号	土壙	C002	縄文？		H9
3号	欠番				
4号	欠番				
5号	欠番				
6号	欠番				
7号	土壙	C007	縄文	加曽利Ｂ式	H9
8号	土壙	C008	縄文	後期？	H9
9号	土壙	C009	縄文	加曽利Ｂ式	H9
10号	土壙	C010	縄文	加曽利Ｂ式	H9
11号	土壙	C011	縄文？		H9
12号	土壙	C012	縄文	加曽利Ｂ式	H9
13号	土壙	C013	縄文	中期？	H9
14号	土壙	C014	縄文	加曽利Ｂ式	H9
15号	土壙	C015	縄文？		H9
16号	土壙	C016	縄文	堀之内式	H9
17号	土壙	C017	縄文？		H9
18号	土壙	C018	縄文？		H9
19号	欠番				
20号	土壙	C020	縄文	加曽利Ｂ式？	H9
21号	土壙	C021	縄文？		H9
22号	土壙	C022	縄文		H9
23号	土壙	C023	縄文	中期？	H9
24号	土壙	C024	縄文？		H9（柱穴？）
25号	土壙	C025	縄文？		H9（柱穴？）
26号	土壙	C026	縄文	加曽利Ｂ式	H9
27号	土壙	C027	縄文	堀？	H9
28号	土壙	C028	縄文	加曽利Ｂ式	H9
29号	土壙	C029	縄文？		H9
30号	土壙	C030	縄文	堀之内式	H9

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
31号	土壙	C031	縄文	堀之内式？	H9
32号	土壙	C032	縄文？		H9
33号	土壙	C033	縄文？		H9
34号	土壙	C034	縄文	堀之内式	H9
35号	土壙	C035	縄文？		H9
36号	土壙	C036	縄文	加曽利Ｂ式	H9
37号	土壙	C037	縄文？		H9
38号	土壙	C038	縄文	加曽利Ｂ式	H9
39号	土壙	C039	縄文？		H9
40号	土壙	C040	縄文？		H9
41号	土壙	C041	縄文？		H9（柱穴？）
42号	土壙	C042	縄文？		H9
43号	土壙	C043	縄文？		H9
44号	土壙	C044	縄文	堀之内式	H9
45号	土壙	C045	縄文？		H9
46号	土壙	C046	縄文？		H9
47号	土壙	C047	縄文	加曽利Ｂ式	H9
48号	土壙	C048	縄文？		H9
49号	土壙	C049	縄文？		H9
50号	土壙	C050	縄文？		H9
51号	土壙	C051	縄文？		H9
52号	土壙	C052	縄文？		H9
53号	土壙	C053	縄文？		H9
54号	土壙	C054	縄文？		H9
55号	土壙	C055	縄文？		H9
56号	土壙	C056	縄文？		H9
57号	土壙	C057	縄文？		H9
58号	土壙	C058	縄文？		H9
59号	土壙	C059	縄文？		H9
60号	土壙	C060	縄文？		H9
61号	土壙	C061	縄文？		H9
62号	土壙	C062	縄文？		H9
63号	土壙	C063	縄文	加曽利Ｂ式	H9
64号	土壙	C064	縄文？		H9
65号	土壙	C065	縄文？		H9
66号	土壙	C066	縄文？		H9
67号	土壙	C067	縄文	加曽利Ｂ式	H9
68号	土壙	C068	縄文？		H9
69号	土壙	C069	縄文？		H9
70号	土壙	C070	縄文？		H9
71号	土壙	C071	縄文	堀之内式？	H9

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
72号	土壙	C072	縄文？		H9
73号	土壙	C073	縄文	加曽利Ｂ１式	H9
74号	土壙	C074	縄文？		H9
75号	欠番				
76号	欠番				
77号	欠番				
78号	欠番				
79号	土壙	C079	縄文？		H9
80号	土壙	C080	縄文	後期	H9
81号	土壙	C081	縄文？		H9
82号	土壙	C082	縄文？		H9
83号	土壙	C083	縄文？		H10
84号	土壙	C084	縄文？		H9
85号	土壙	C085	縄文？		H9
86号	土壙	C086	縄文	加曽利Ｂ式	H11
87号	土壙	C087	縄文	加曽利Ｂ式	H11
88号	欠番				
89号	欠番				風倒木
90号	土壙	C090	中近世？		H11
91号	欠番				
92号	土壙	C092	中近世？		H11
93号	土壙	C093	縄文？		H11
94号	土壙	C094	縄文	後期	H11
95号	土壙	C095	縄文？		H11
96号	土壙	C096	縄文？		H11
97号	土壙	C097	縄文	加曽利Ｂ式	H11
98号	土壙	C098	中近世？		H11
99号	欠番				
100号	土壙	C100	中近世？		H11
101号	土壙	C101	中近世？		H11
102号	欠番				
103号	欠番				
104号	土壙	C104	中近世？		H11
105号	欠番				
106号	土壙	C106	縄文	条痕文	H11
107号	欠番				
108号	土壙	C108	縄文？		H11（柱穴？）
109号	欠番				
110号	土壙	C084（ダブリ）	縄文？		H11（柱穴？）
111号	土壙	C085（ダブリ）	縄文？		H11

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
1号	方形周溝状遺構	同左	奈良？		H9
2号	方形周溝状遺構	同左	奈良？		H9

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
1号	掘立柱建物跡	B001	中近世		H9
2号	掘立柱建物跡	B002	中近世		H9

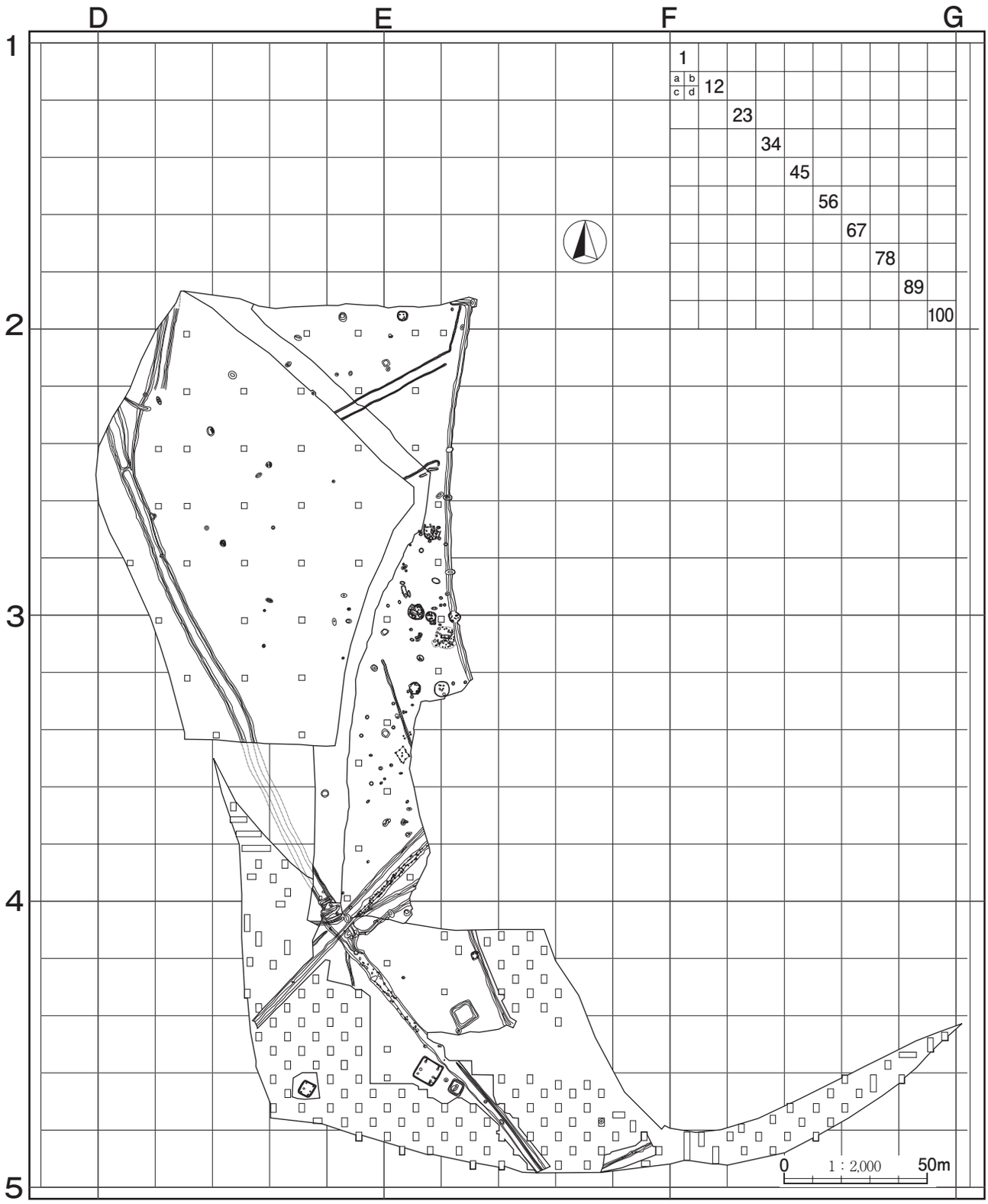
遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
1号	溝	D001	中近世		H9
2号	溝	D002	中近世		H9
3号	溝	D003	中近世		H9
4号	溝	D004	中近世		H9
5号	溝	D005	中近世		H9
6号	溝	D006	中近世		H9
7号	溝	D007	中近世		H9・H10
8号	溝	D008	中近世		H9・H10
9号	溝	D009	中近世		H9・H10
10号	溝	D010	中近世		H9・H10
11号	溝	D011	中近世		H9
12号	溝	D012	中近世		H9
13号	溝	D013	中近世		H9・H11
14号	溝	D014	中近世		H9
15号	溝	D015	中近世		H9

遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
16号	溝	D016	中近世		H9
17号	溝	D017	中近世		H9
18号	溝	D018	中近世		H9
19号	溝	D019	中近世		H9
20号	溝	D020	中近世		H9
21号	溝	D021	中近世		H9
22号	溝	D022	中近世		H9
23号	溝	D023	中近世		H9
24号	溝	D024	中近世		H10
25号	溝	D025	中近世		H10
26号	欠番				
27号	溝	D027	中近世		H11
28号	溝	D028	中近世		H11
29号	溝	D029	中近世		H11

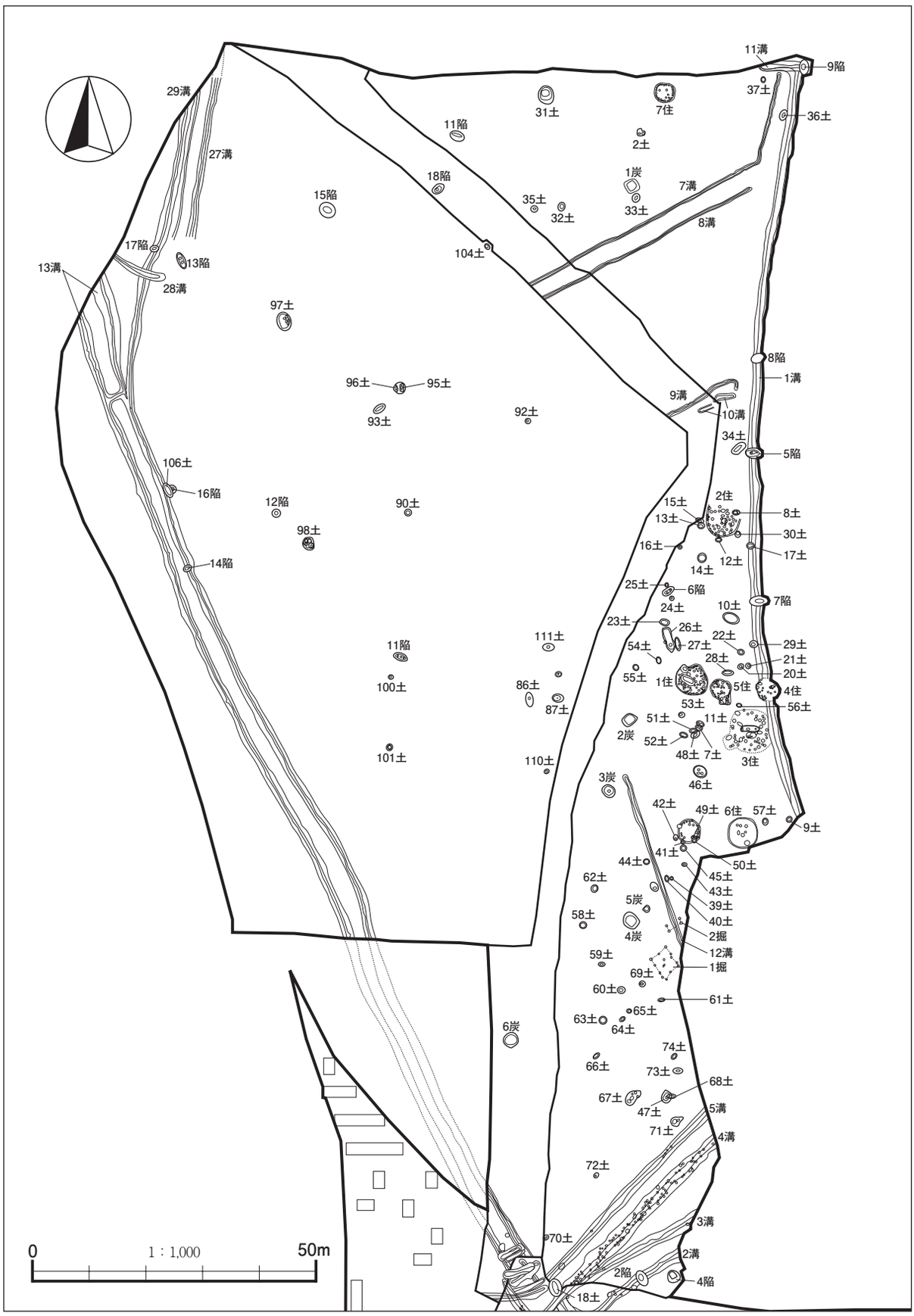
遺構No.	種類	旧名称	時代	時期	備考
1号	炭窯	G001	中近世		H9
2号	炭窯	G002	中近世		H9
3号	炭窯	G003	中近世		H9
4号	炭窯	G004	中近世		H9
5号	炭窯	G005	中近世		H9
6号	炭窯	G007	中近世		H9

本体は宮内井戸作遺跡となるが、遺構密集度が低いので住居跡ごとの形状は明確に認識できる。宮内井戸作遺跡での遺構面の検討では、縄文時代後期の生活面が厚い包含層中にあり、遺構は包含層中から掘り込まれたので掘方が検出されなかったと推測している。井戸作南遺跡も隣接している割に明確な掘り込みを検出できたのは、恐らく集落の縁辺部の包含層の厚みが薄くなってきていたのではないかと思われる。つまり、宮内井戸作遺跡の中心部分から縁辺部にかけて傾斜が形成されていたと判断でき、巨視的に見ると低めの盛土状の形状を呈していた可能性があると考えるのである。人工的にそ

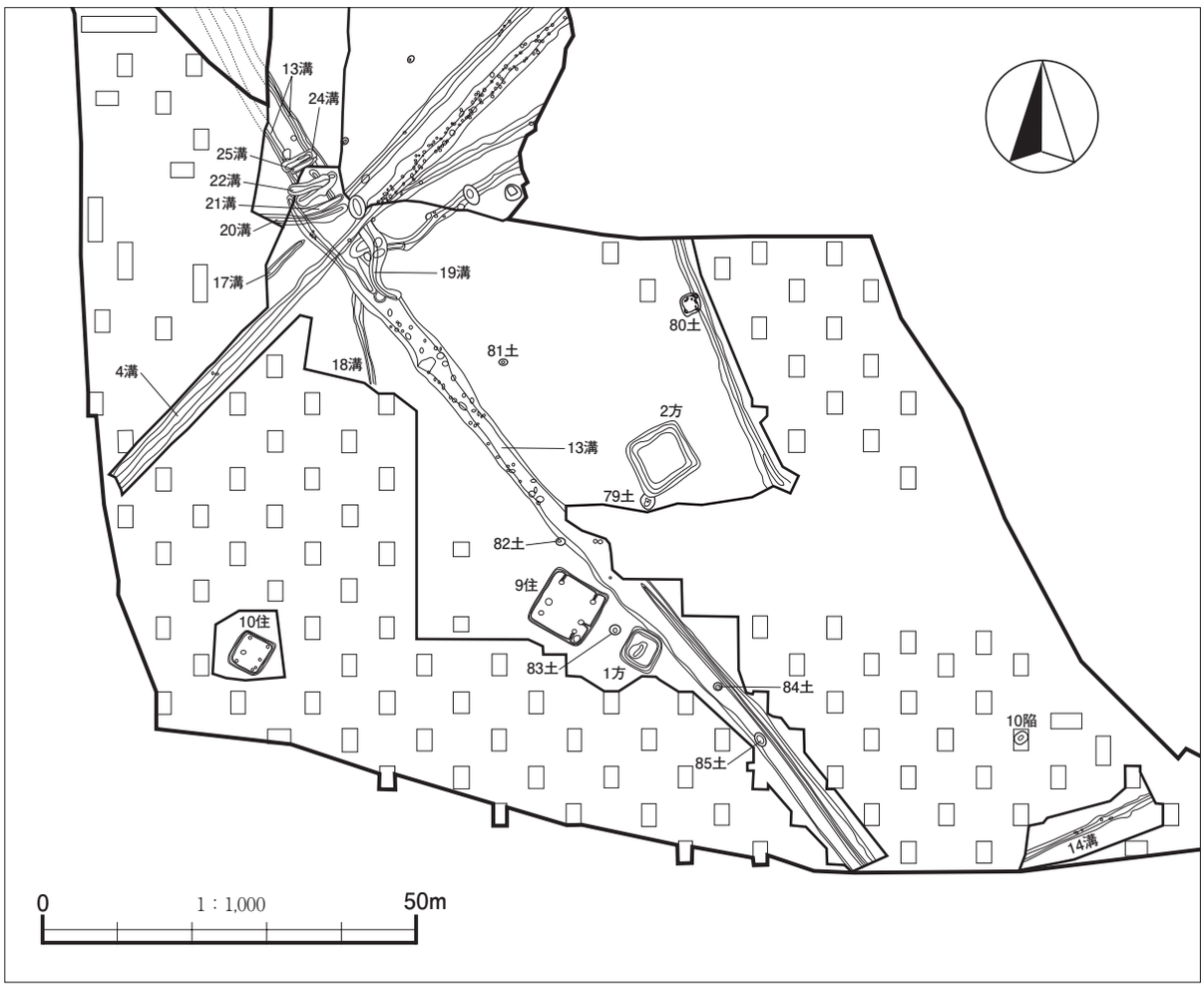
のようになったのか、同じ場所に営々と住み続けた結果そうなったのかは不明である。検討に値することではあるが、調査が終了しているこの時点では、予想の域を出ることはできない。



第204図　井戸作南遺跡遺構配置図



第205図　井戸作南遺跡遺構配置詳細図①



第206図　井戸作南遺跡遺構配置詳細図②

第２節　検出された遺構と遺物

検出された遺構は、第45表にあるとおりである。遺物は、旧石器・縄文時代中期～晩期の土器と石器など、古墳時代中期の土師器、中世陶器・カワラケなどが出土した。宮内井戸作遺跡から続く縄文時代後・晩期の包含層から同期の遺物が大量に出土している。一括遺物として掲載できたのはほんの一部である。なお、この遺跡からは縄文時代早・前期の遺構や遺物は全く検出されなかった。

１　住居跡

住居跡は、８軒検出された。加曽利Ｂ式期が７軒、加曽利ＥⅢ式期が１軒（７号住居跡）である。加曽利Ｂ式期の住居跡は、加曽利Ｂ１式期が６軒（２～６号･８号住居跡)、同Ｂ３式期が１軒（１号住居跡）である。土壙などによる破壊から炉が検出できなかったものが多い。

平面形状は、やや歪つな円形を呈するものが多いが、５号住居跡のように柄鏡形のような掘方を成すものもある。５号住居跡の張り出した部分の柱穴は入口状になっており、柄鏡型でもよいように感じられるが、切り合い関係は全く把握されていないので確証はない。柱穴がランダムに配置される場合が多いが、６号住居跡のようにほとんど柱穴がないものもある。２号住居跡から出土した深鉢（第216図２住- ７）は、埋甕ではない。埋甕のように柱穴などに嵌っていたわけではなく、床面に立った状態で置かれていたようである。

７号住居跡は、掘方・柱穴の配列など明確に他の住居跡と異なっている。壁柱穴がまわり、炉周辺にランダムに柱穴が巡る。炉もしっかりしている。遺物は少なく、横置された状態で出土した深鉢（第218図７住- １）以外には、細片が微量ある程度である。

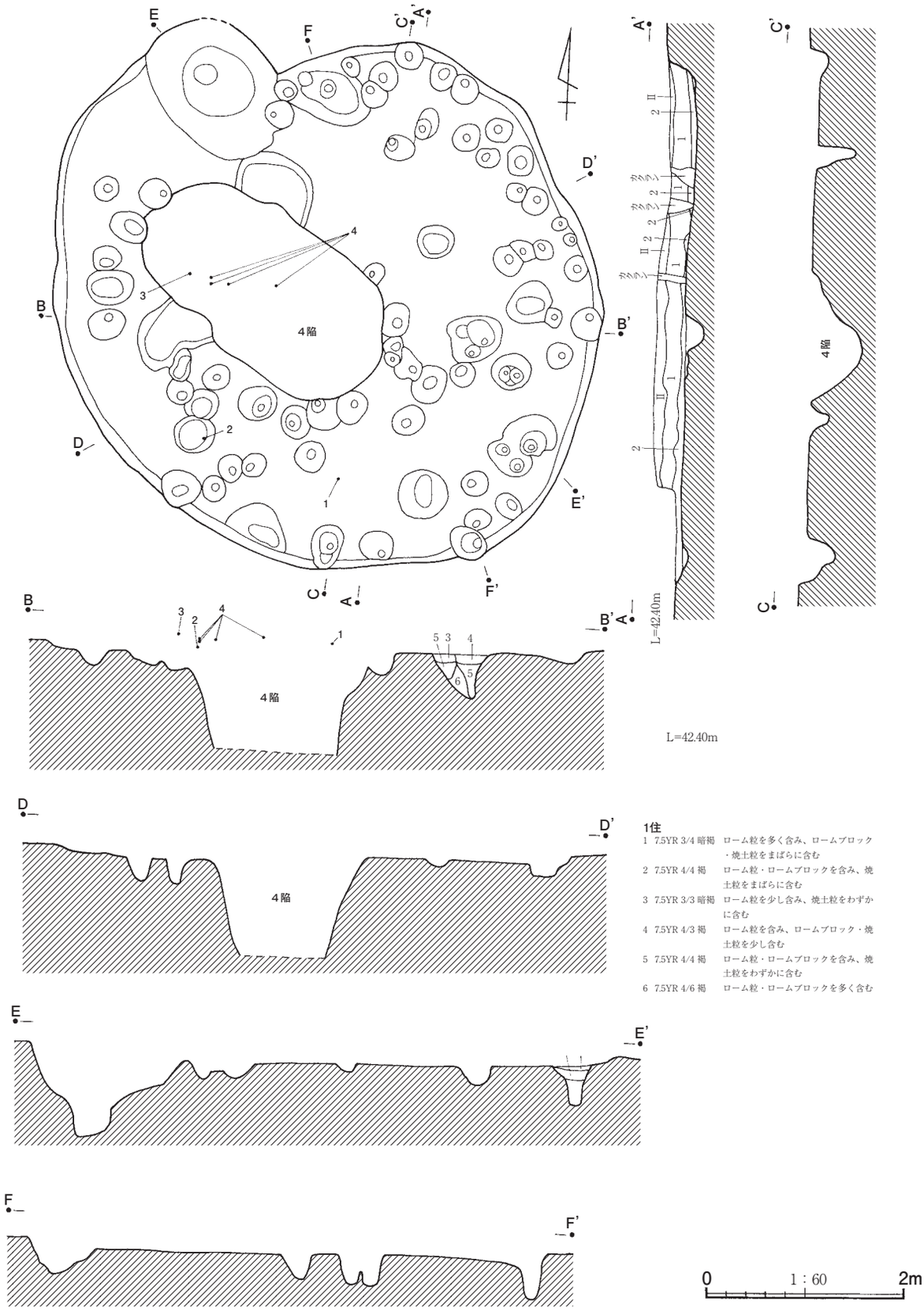
古墳時代中期の住居跡である９号住居跡はからは、滑石製の紡錘車と円板が２個ずつ出土している。それぞれ１つが未製品であり、この住居が工房的な要素を持った住人の住居であった可能性がある。

第47表　井戸作南遺跡検出の住居跡（縄文時代）

遺構No.	検出区	主軸方位	平面形	規模（m）			炉位置	重複関係		時期	挿図No.		備考
				長軸	短軸	深さ		旧	新		遺構	遺物	
１号	2E　20c	N－　36°　－W	不整円	6.8	5.28	0.3	不明		4陥	加曽利B3	第207図	第216図	
２号	2E　17d･18b	N－　46°　－W	不整円	(7.9)	6.45	0.22	不明	13土	8土 12土	加曽利B1	第208図 第209図	第216図	
３号	3E　21a	N－　？°　－W	円？	(7.0)	(6.5)	？	不明			加曽利B1	第210図	第216図 第217図	
４号	3E　21ab 30cd	N－　60°　－W	不整円	4.25	4.13	0.8	不明		1溝	加曽利B1	第211図	第217図	
５号	3E　11c	N－　22°　－W	不整方	5.17	3.78	0.7	不明			加曽利B1 ？	第212図	第217図	南側に張出？
６号	3E　13bd 23cd	N－　0°　－W	円	5.44	5.2	0.2	不明			加曽利B1	第213図	第217図 第219図	焼土分布
７号	1E　10d	N－　56°　－E	円	3.6	3.53	0.13	中央			加曽利EⅢ	第214図	第218図	焼土・炭化物分布
８号	3E　13ab	N－　37°　－W	円	4.1	3.86	0.12	中央	41土		加曽利B1	第215図	第218図	

１号住居跡　　遺構：第207図　　遺物：第216図

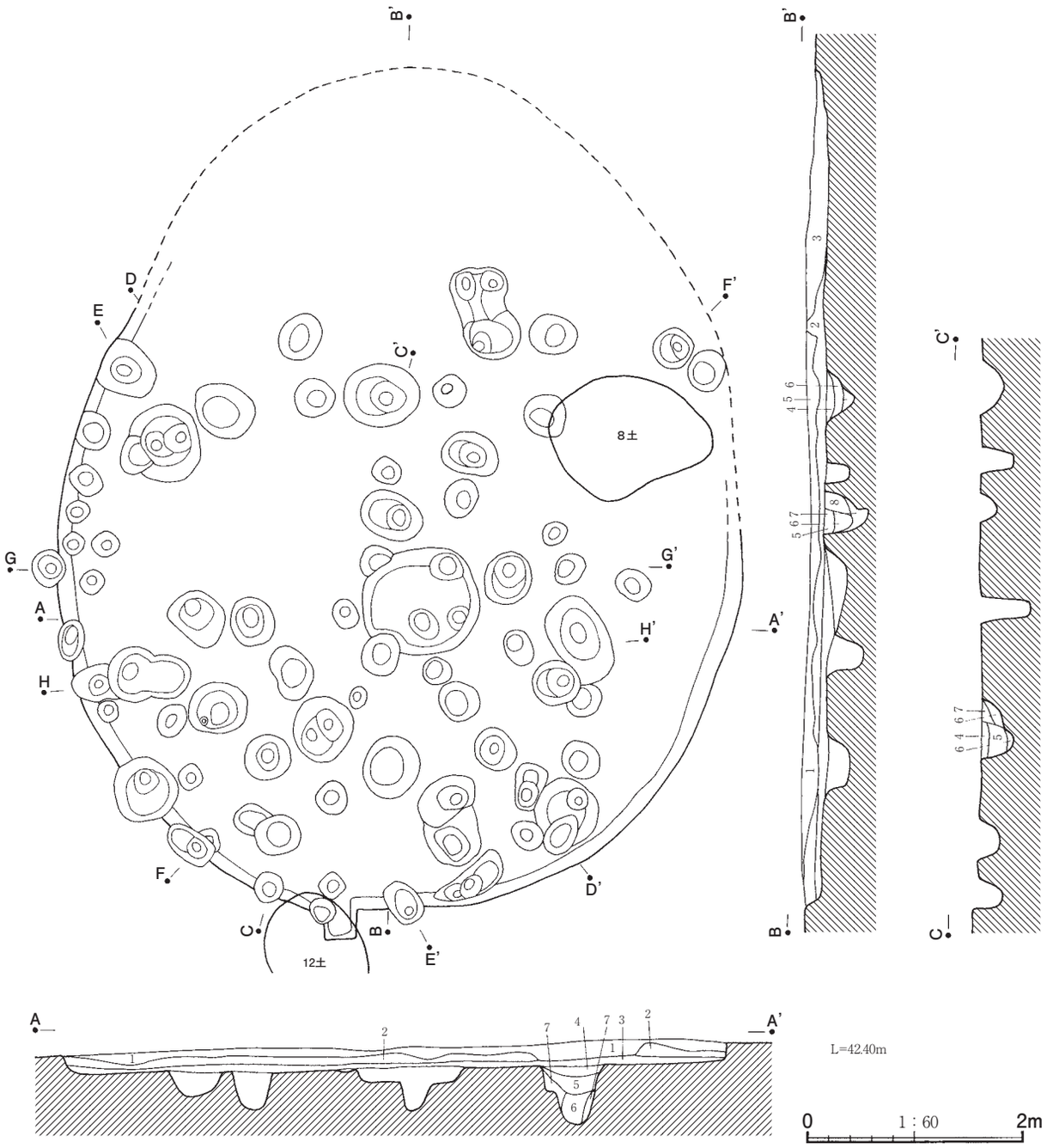
遺構の状況	平面形は円形。炉は検出されていない。主柱穴と判断できるものはなく、ランダムに散在する。住居跡内に４陥（堀之内式期）と７土（加曽利Ｂ式期）がある。炉は、４陥付近に存在した可能性はあるが、検出できなかった可能性がある。
遺物の状況	床直よりもやや上層から出土するものが多い。完形品はない。総体的に、加曽利Ｂ式に比定できる遺物がほぼ全てを占め、Ｂ３式に比定されるものも含まれている。
備考	



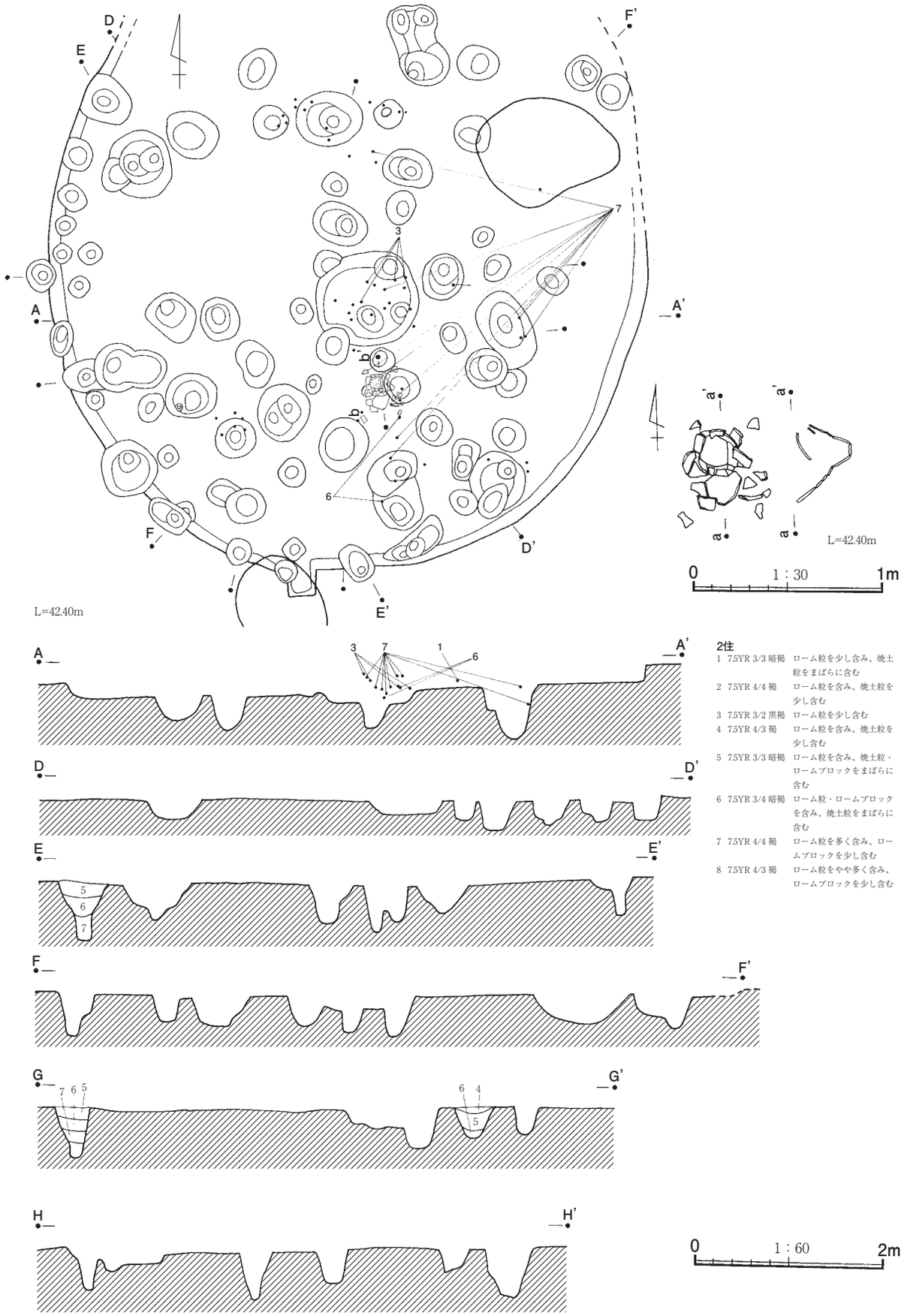
第207図　井戸作南遺跡 1 号住居跡

2 号住居跡　　遺構：第208・209図　　遺物：第216図

遺構の状況	平面形は円形と思われる。北側が欠損しており、調査時の復元はやや楕円を呈している。しかし、残存する柱穴や壁の状況から円形とするのが妥当であろう。炉は検出されていない。８・12土と重複している。土壙は両方とも後期のものだが、いずれも住居跡よりも新しいようである。主柱穴と判断できるものはなく、ランダムに散在する。
遺物の状況	７の深鉢（加曽利Ｂ１式）は、埋甕状に出土したが、破片は広く散在していた。７以外の土器は、若干接合できたものもあるが細片ばかりである。
備考	



第208図　井戸作南遺跡 2 号住居跡



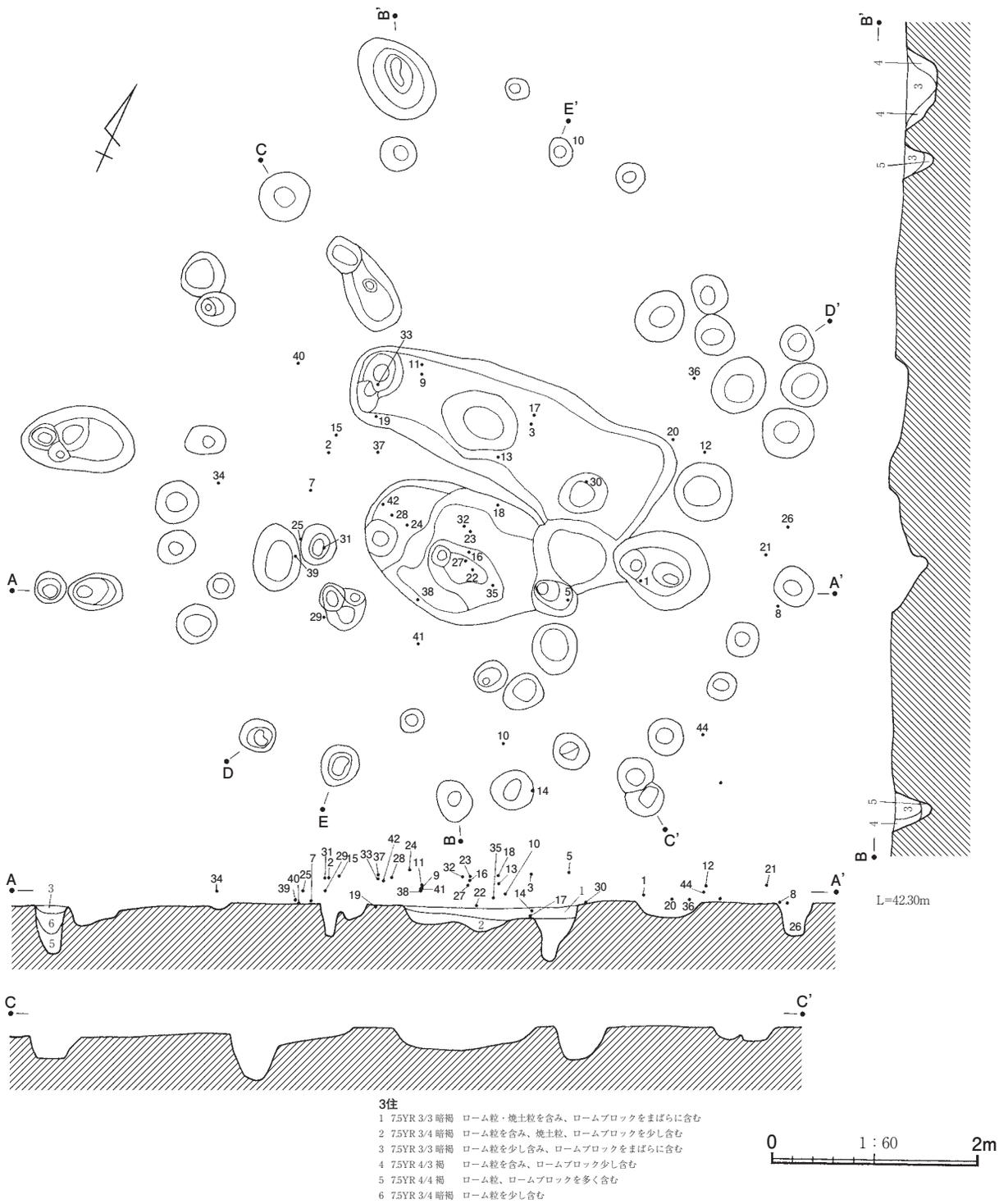
2住

1	7.5YR 3/3 暗褐	ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
2	7.5YR 4/4 褐	ローム粒を含み、焼土粒を少し含む
3	7.5YR 3/2 黒褐	ローム粒を少し含む
4	7.5YR 4/3 褐	ローム粒を含み、焼土粒を少し含む
5	7.5YR 3/3 暗褐	ローム粒を含み、焼土粒・ロームブロックをまばらに含む
6	7.5YR 3/4 暗褐	ローム粒・ロームブロックを含み、焼土粒をまばらに含む
7	7.5YR 4/4 褐	ローム粒を多く含み、ロームブロックを少し含む
8	7.5YR 4/3 褐	ローム粒をやや多く含み、ロームブロックを少し含む

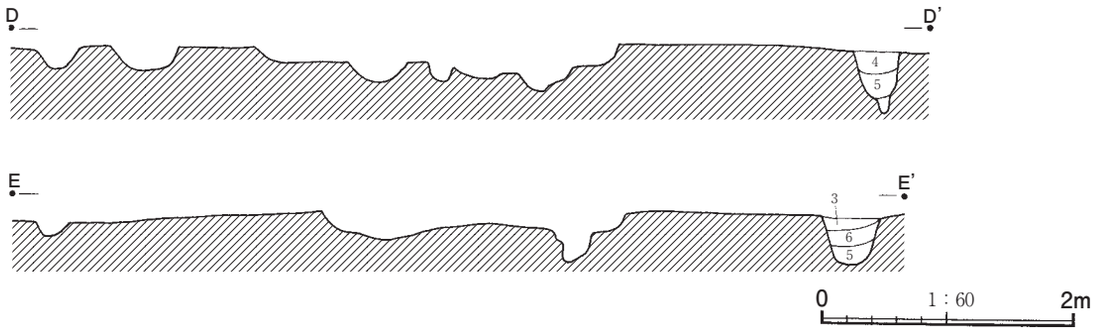
第209図　井戸作南遺跡 2 号住居跡（遺物分布図）

3号住居跡　　遺構：第210図　　遺物：第216・217図

遺構の状況	平面形は円形と推定される。炉は検出されていない。主柱穴と判断できるものはなく、壁柱穴が巡るようである。西側に若干突出する平面的にやや大きな柱穴があり、場合によっては、柄鏡の一種に含めて考えた方がよいかもしれない。壁は残存していなかった。
遺物の状況	遺物は比較的多いが、破片ばかりである。加曽利Ｂ１式と考えられるものが主体を占める。床面から出土するものも多い。分布はやや南より偏る。
備考	

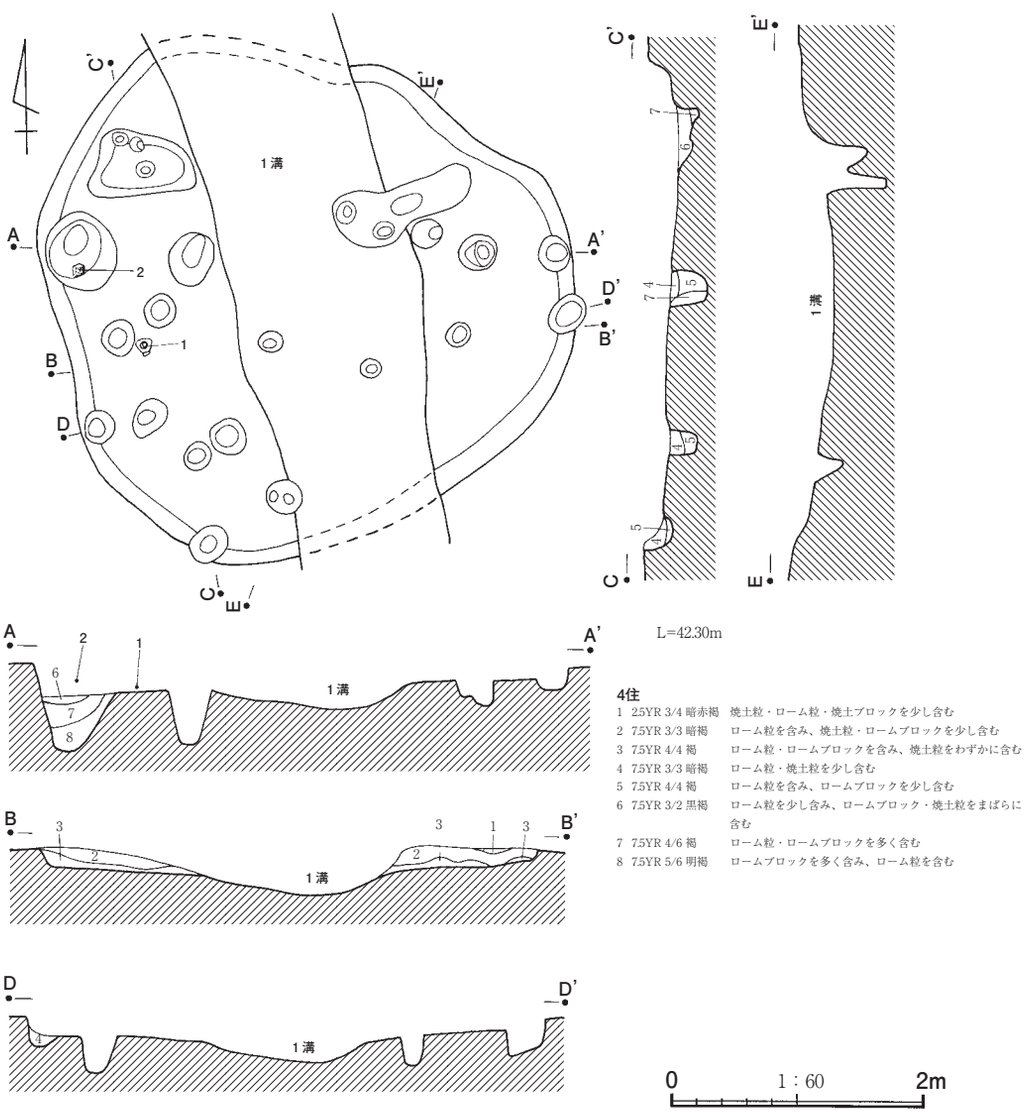


第210図　井戸作南遺跡３号住居跡



4号住居跡　　遺構：第211図　　遺物：第217図

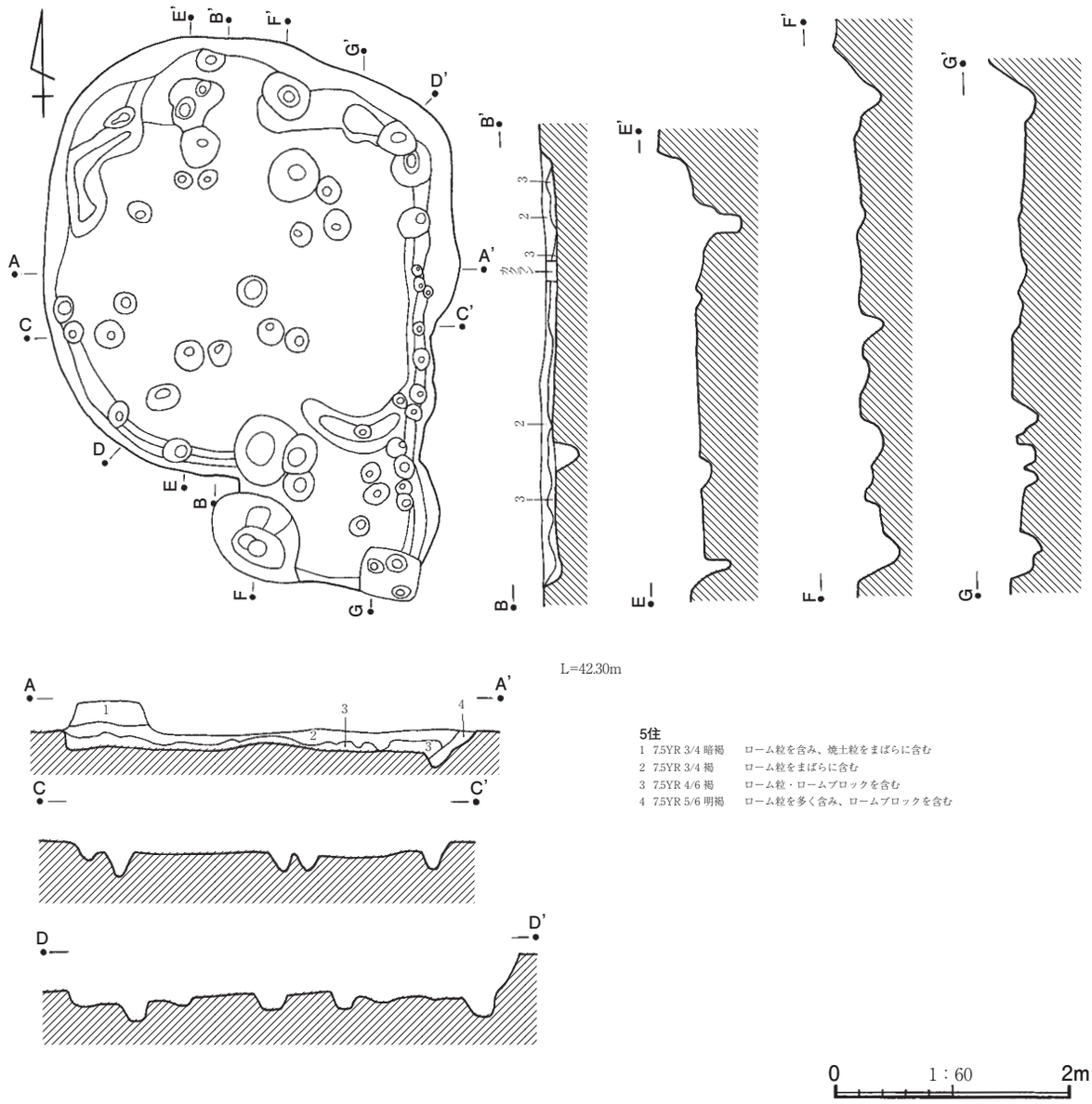
遺構の状況	遺構の中心を南北に１号溝で破壊されている。平面形は不整円形で、炉は検出されていない。明確な主柱穴はないが、やや深めのものが主柱穴であった可能性もあるが、規則性はない。
遺物の状況	遺物は、少ない。１は床面直上で出土しているが、破片である。その他のものも、細片ばかりで加曽利Ｂ１式に比定できるものが多い。
備考	



第211図　井戸作南遺跡 4 号住居跡

5 号住居跡　　遺構：第212図　　遺物：第217図

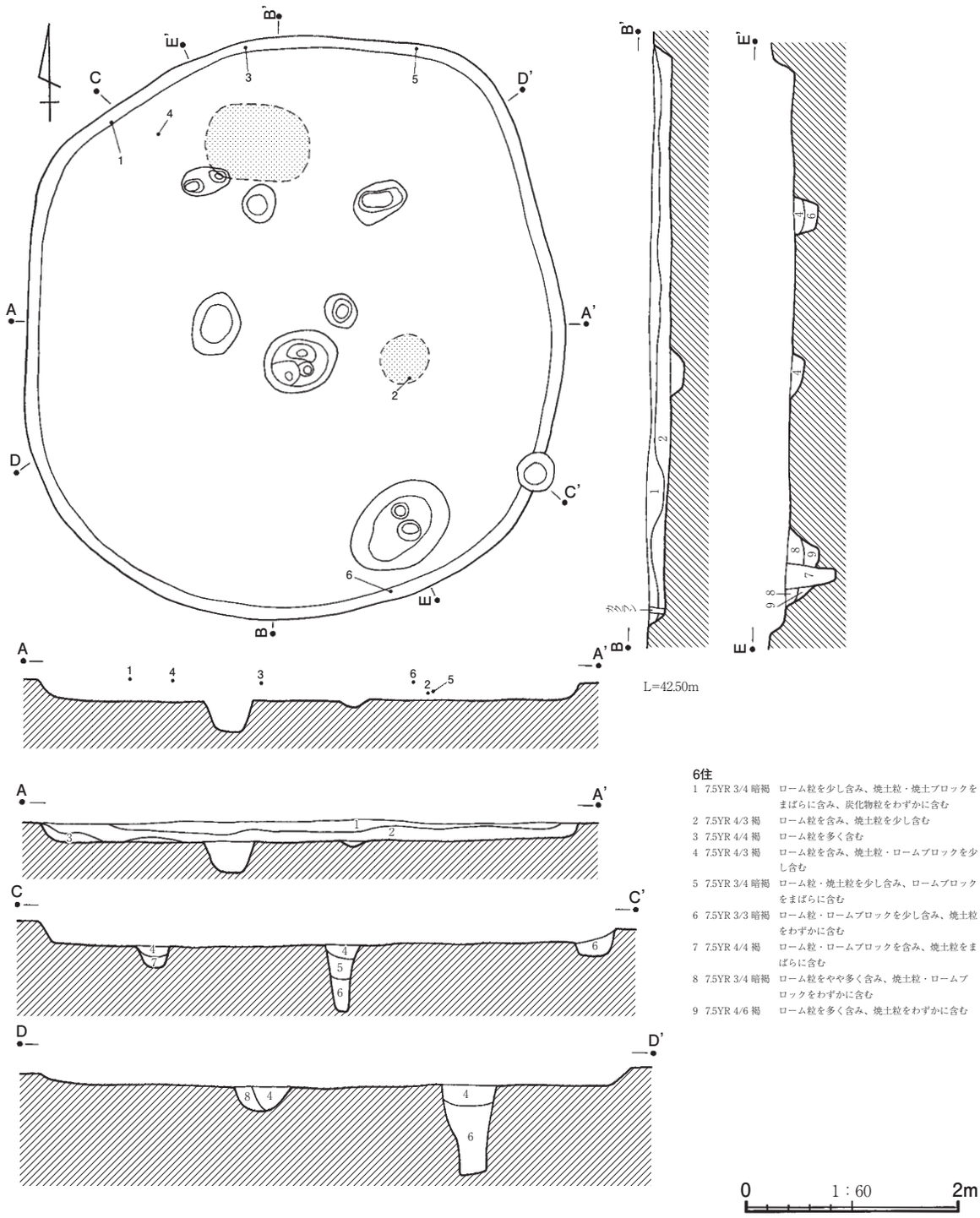
遺構の状況	遺構の残存具合は、比較的良好である。炉と主柱穴は検出されていないが、壁溝と壁柱穴が巡る。また、南東部に床面の高さを同じくする張り出しがあり、柱穴元もなっているので出入口の可能性もある。いわゆる柄鏡型に近いか。
遺物の状況	遺物はとても少なく、図化したものも一括遺物である。加曽利Ｂ式に比定できるか。
備考	



第212図　井戸作南遺跡 5 号住居跡

6 号住居跡　　遺構：第213図　　遺物：第217・219図

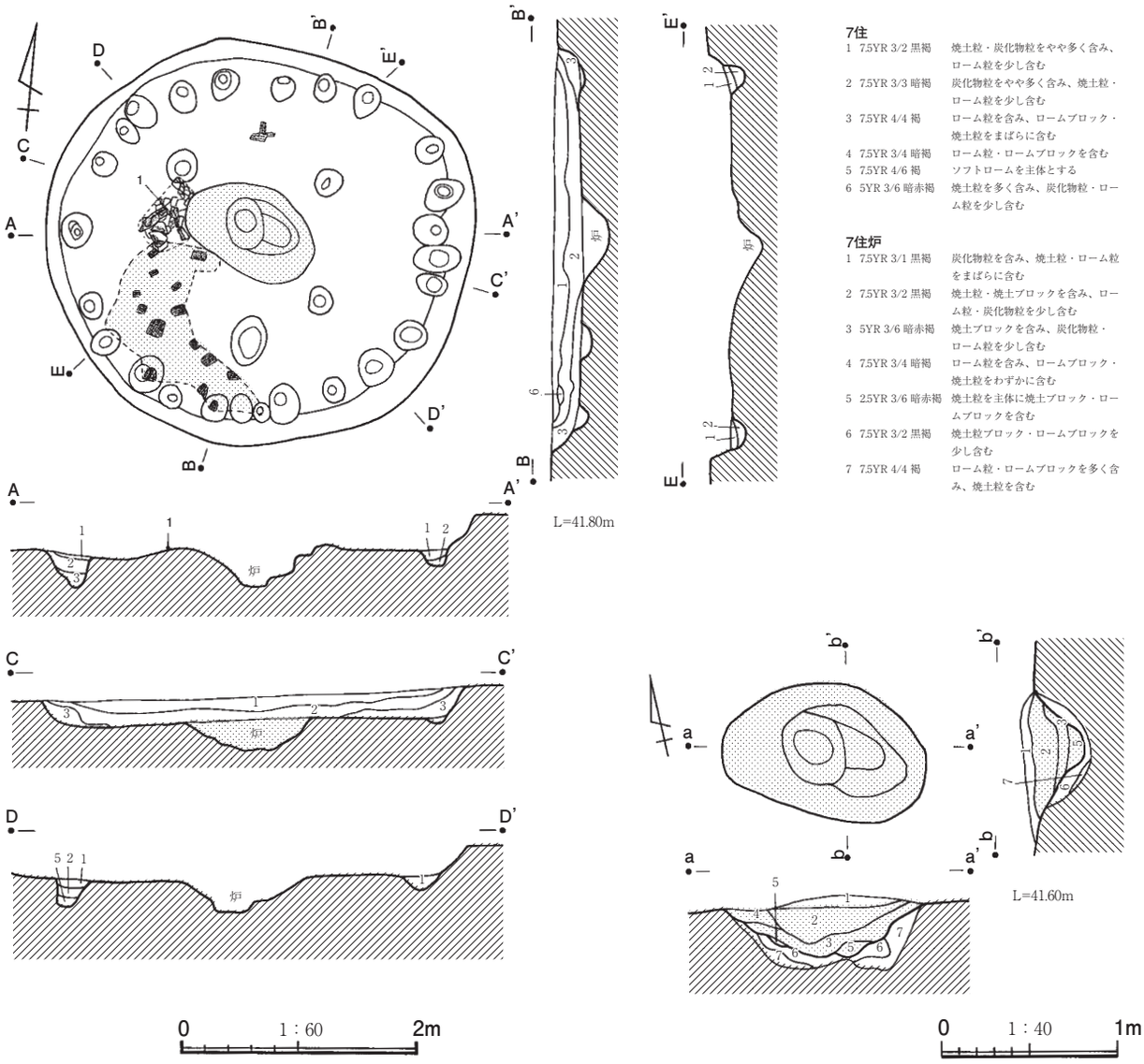
遺構の状況	平面形は南北にやや長い円形。中央に凹みがあるが、全く焼土化していないので炉ではない。柱穴は少ないが、比較的深めの柱穴がある。
遺物の状況	覆土のやや上層から出土している。加曽利Ｂ式に比定できるものが少量出土。焼土が若干床面直上から検出された。
備考	



第213図　井戸作南遺跡 6 号住居跡

7号住居跡　　遺構：第214図　　遺物：第218図

遺構の状況	遺構の残存具合は、比較的良好である。平面形は円形。中央に炉、壁柱穴がめぐる。主柱穴らしきものが炉周辺にあるが、深さがない。
遺物の状況	炉の東側から加曽利ＥⅢ式期の深鉢が一点出土。底部が完全に欠損している。
備考	



7住
1 7.5YR 3/2 黒褐　焼土粒・炭化物粒をやや多く含み、ローム粒を少し含む
2 7.5YR 3/3 暗褐　炭化物粒をやや多く含み、焼土粒・ローム粒を少し含む
3 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロック・焼土粒をまばらに含む
4 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・ロームブロックを含む
5 7.5YR 4/6 褐　ソフトロームを主体とする
6 5YR 3/6 暗赤褐　焼土粒を多く含み、炭化物粒・ローム粒を少し含む

7住炉
1 7.5YR 3/1 黒褐　炭化物粒を含み、焼土粒・ローム粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/2 黒褐　焼土粒・焼土ブロックを含み、ローム粒・炭化物粒を少し含む
3 5YR 3/6 暗赤褐　焼土ブロックを含み、炭化物粒・ローム粒を少し含む
4 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロック・焼土粒をわずかに含む
5 2.5YR 3/6 暗赤褐　焼土粒を主体に焼土ブロック・ロームブロックを含む
6 7.5YR 3/2 黒褐　焼土粒ブロック・ロームブロックを少し含む
7 7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含み、焼土粒を含む

第214図　井戸作南遺跡７号住居跡

9住
1 7.5YR 4/3 褐　ローム粒・焼土粒をわずかに含む
2 7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・焼土粒をわずかに含む
3 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
4 7.5YR 3/3 黒褐　ローム粒をわずかに含み、焼土粒を少し含む
5 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロック・焼土粒を少し含む
6 7.5YR 4/3 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックをまばらに含み、焼土ブロックをわずかに含む
7 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む
8 7.5YR 1/3 暗褐　ローム粒を・ロームブロックを少し含む
9 2.5YR 3/4 赤褐　焼土粒を主体とする
10 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
11 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
12 7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
13 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む
14 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む
15 7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

9住炉
1 5YR 3/4 暗赤褐　焼土粒をまばらに含み、ローム粒・焼土ブロックをわずかに含む
2 2.5YR 3/6 暗赤褐　焼土ブロックを主体とする

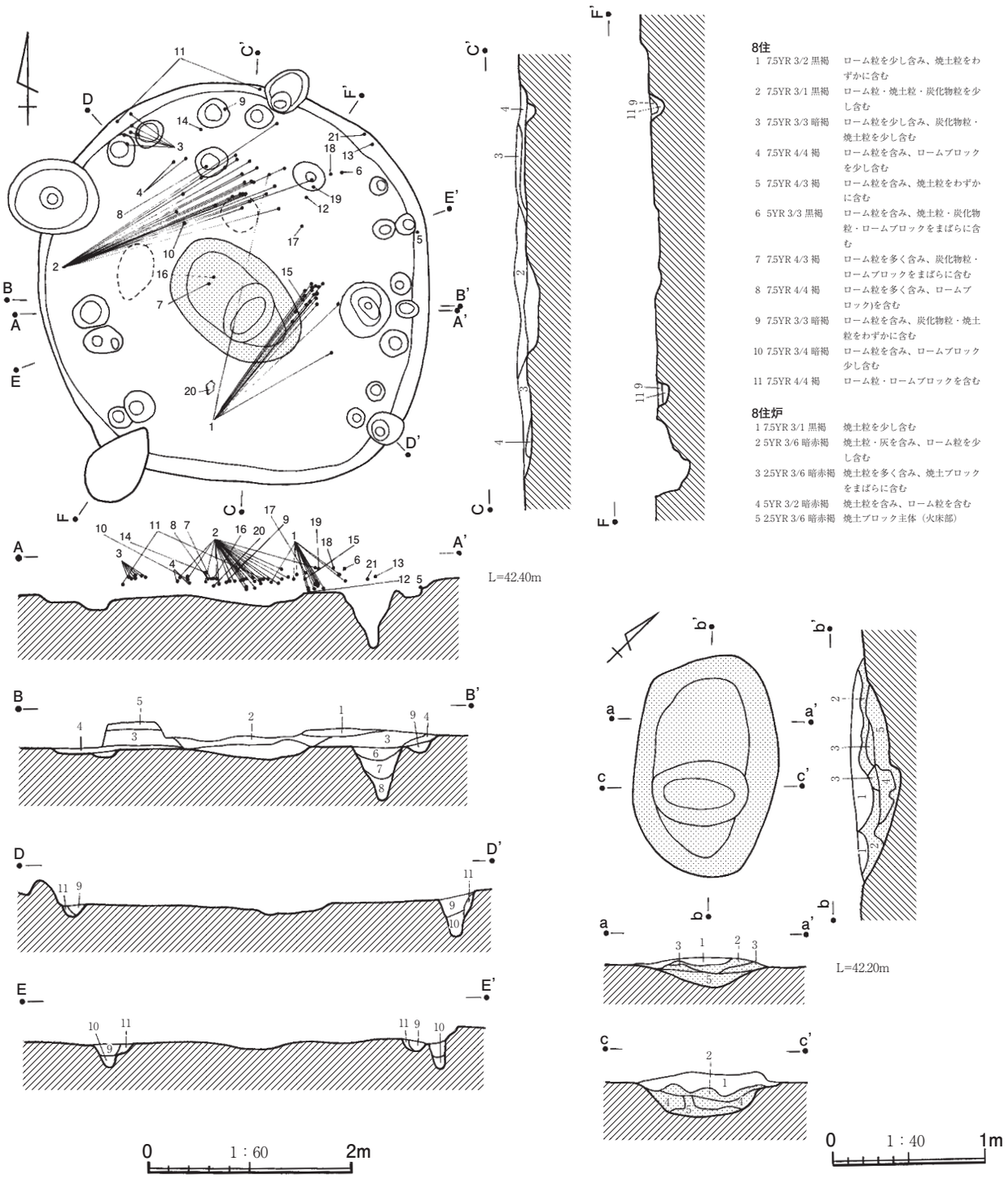
9住貯
1 7.5YR 黒褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
2 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む焼土粒をわずかに含む
3 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
4 7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロック焼土粒をわずかに含む
5 7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含み、焼土粒をまばらに含む

10住
1 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・焼土粒をまばらに含む
3 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックをまばらに含む
4 7.5YR 4/6 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロック・焼土粒をまばらに含む
5 7.5YR 5/4 明褐　ロームブロックを多く含み、ローム粒を含む
6 2.5YR 3/6 暗赤褐　焼土粒を多く含み、焼土ブロックを含む
7 7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含む
8 7.5YR 4/6 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

10住炉
1 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
2 2.5YR 3/6 暗赤褐　焼土粒を多く含み、焼土ブロックをまばらに含む
3 5YR3 /6 暗赤褐　ローム粒を少し含み、ローム粒を少し含む

8 号住居跡　　遺構：第215図　　遺物：第218図

遺構の状況	平面形は円形。中央にやや大きめの炉。壁柱穴状に柱穴がめぐるが、確実ではない。比較的ランダムに柱穴は分布する。明確な主柱穴はない。
遺物の状況	遺物は多い。1 の深鉢は床面直上、それ以外は覆土上部から出土したものが多い。加曽利B1式が主体だが、B2式や安行式も微量含まれている。
備考	



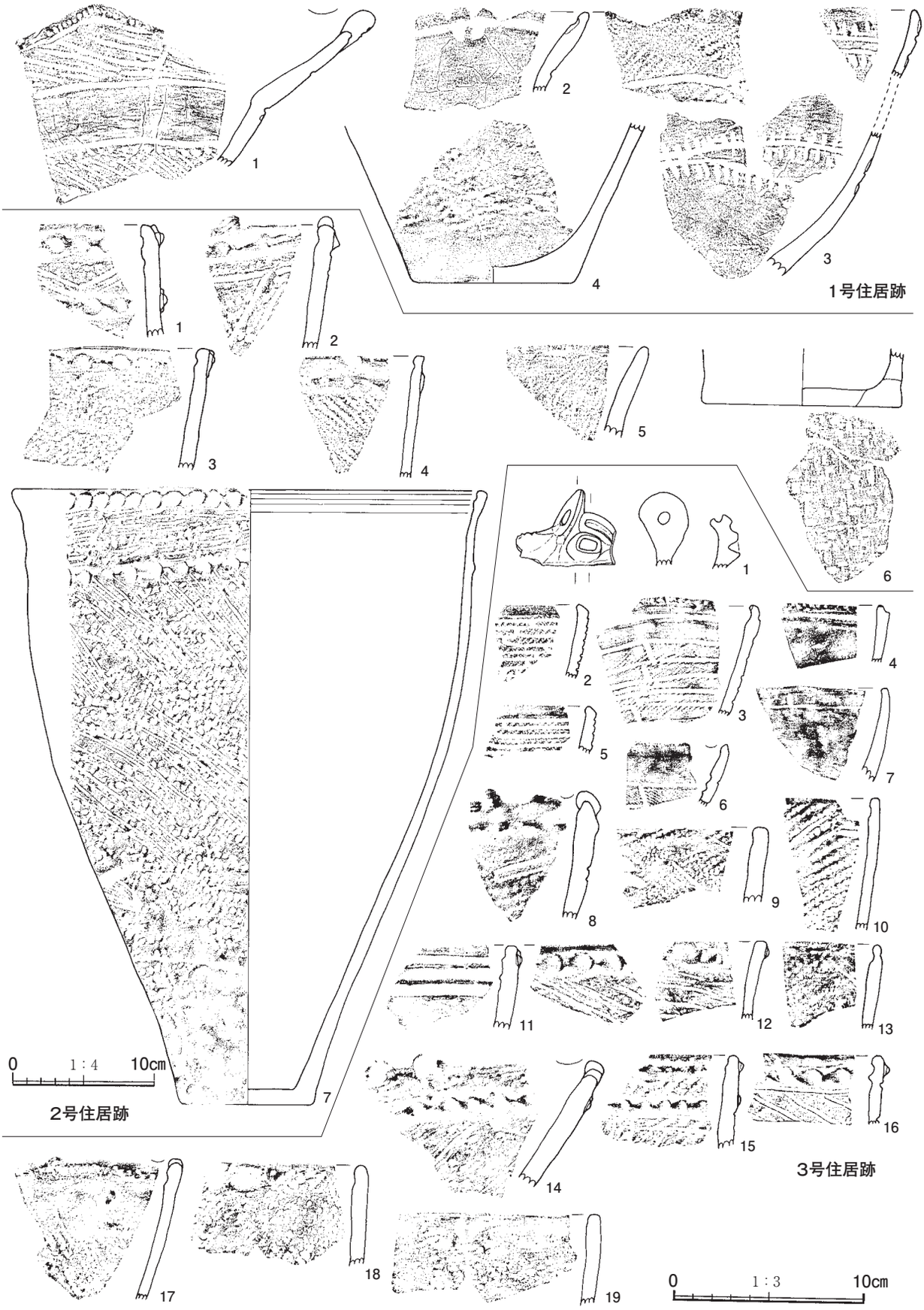
8住

1	7.5YR 3/2 黒褐	ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
2	7.5YR 3/1 黒褐	ローム粒・焼土粒・炭化物粒を少し含む
3	7.5YR 3/3 暗褐	ローム粒を少し含み、炭化物粒・焼土粒を少し含む
4	7.5YR 4/4 褐	ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
5	7.5YR 4/3 褐	ローム粒を含み、焼土粒をわずかに含む
6	5YR 3/3 黒褐	ローム粒を含み、焼土粒・炭化物粒・ロームブロックをまばらに含む
7	7.5YR 4/3 褐	ローム粒を多く含み、炭化物粒・ロームブロックをまばらに含む
8	7.5YR 4/4 褐	ローム粒を多く含み、ロームブロック)を含む
9	7.5YR 3/3 暗褐	ローム粒を含み、炭化物粒・焼土粒をわずかに含む
10	7.5YR 3/4 暗褐	ローム粒を含み、ロームブロック少し含む
11	7.5YR 4/4 褐	ローム粒・ロームブロックを含む

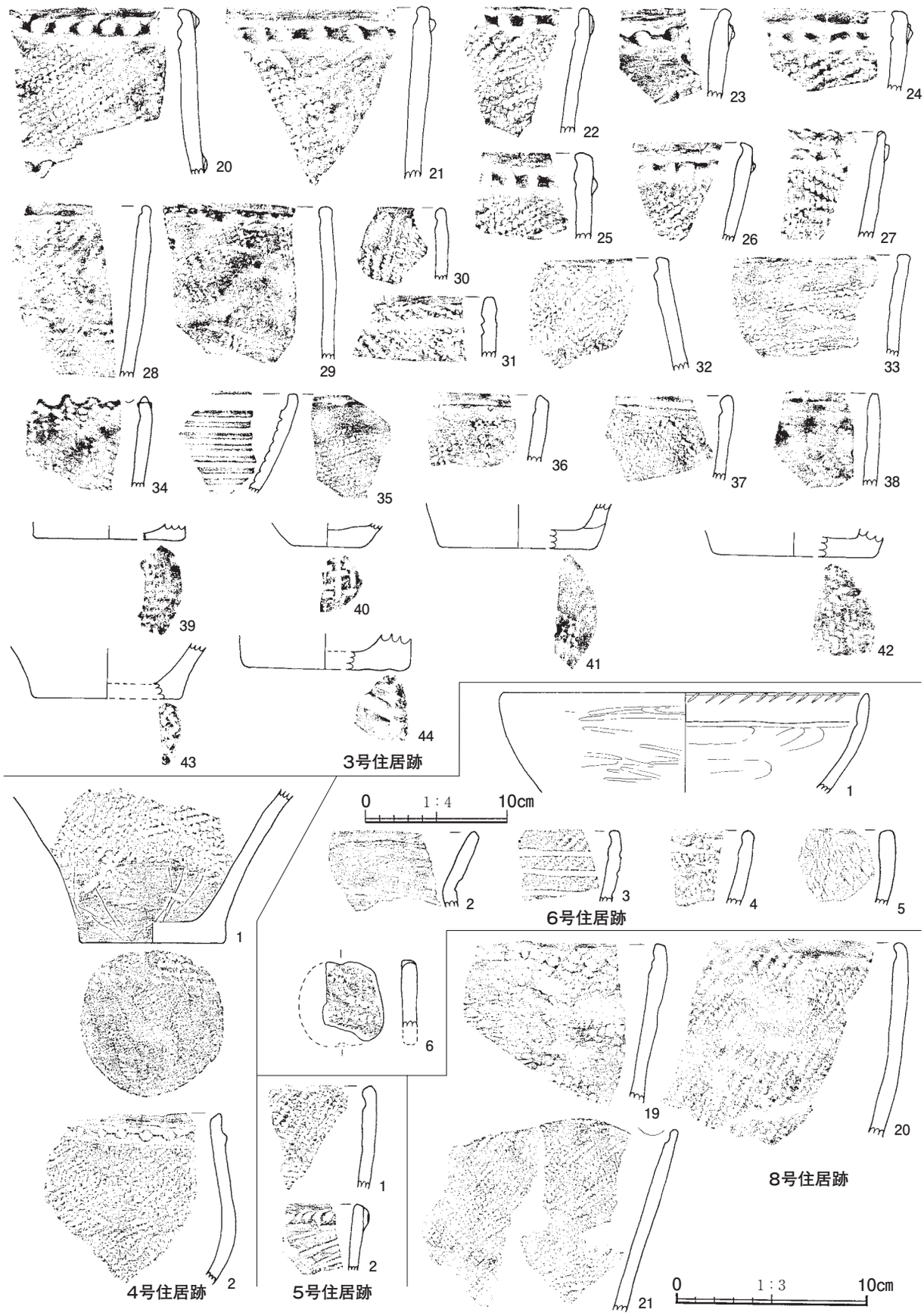
8住炉

1	7.5YR 3/1 黒褐	焼土粒を少し含む
2	5YR 3/6 暗赤褐	焼土粒・灰を含み、ローム粒を少し含む
3	2.5YR 3/6 暗赤褐	焼土粒を多く含み、焼土ブロックをまばらに含む
4	5YR 3/2 暗赤褐	焼土粒を含み、ローム粒を含む
5	2.5YR 3/6 暗赤褐	焼土ブロック主体（火床部）

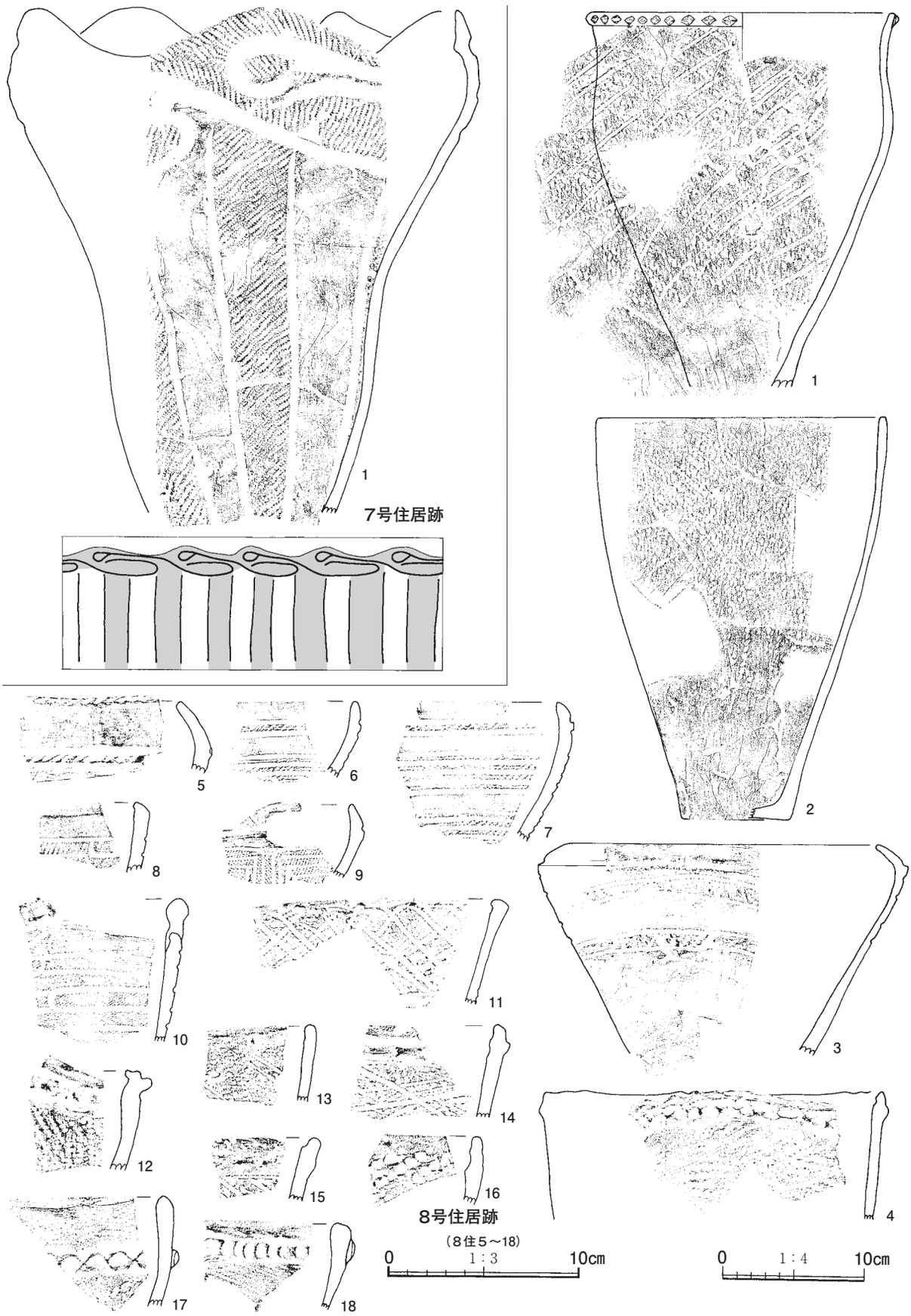
第215図　井戸作南遺跡 8 号住居跡



第216図　井戸作南遺跡 1 ～ 3 号住居跡出土遺物



第217図　井戸作南遺跡 3 ～ 6 ・ 8 号住居跡出土遺物



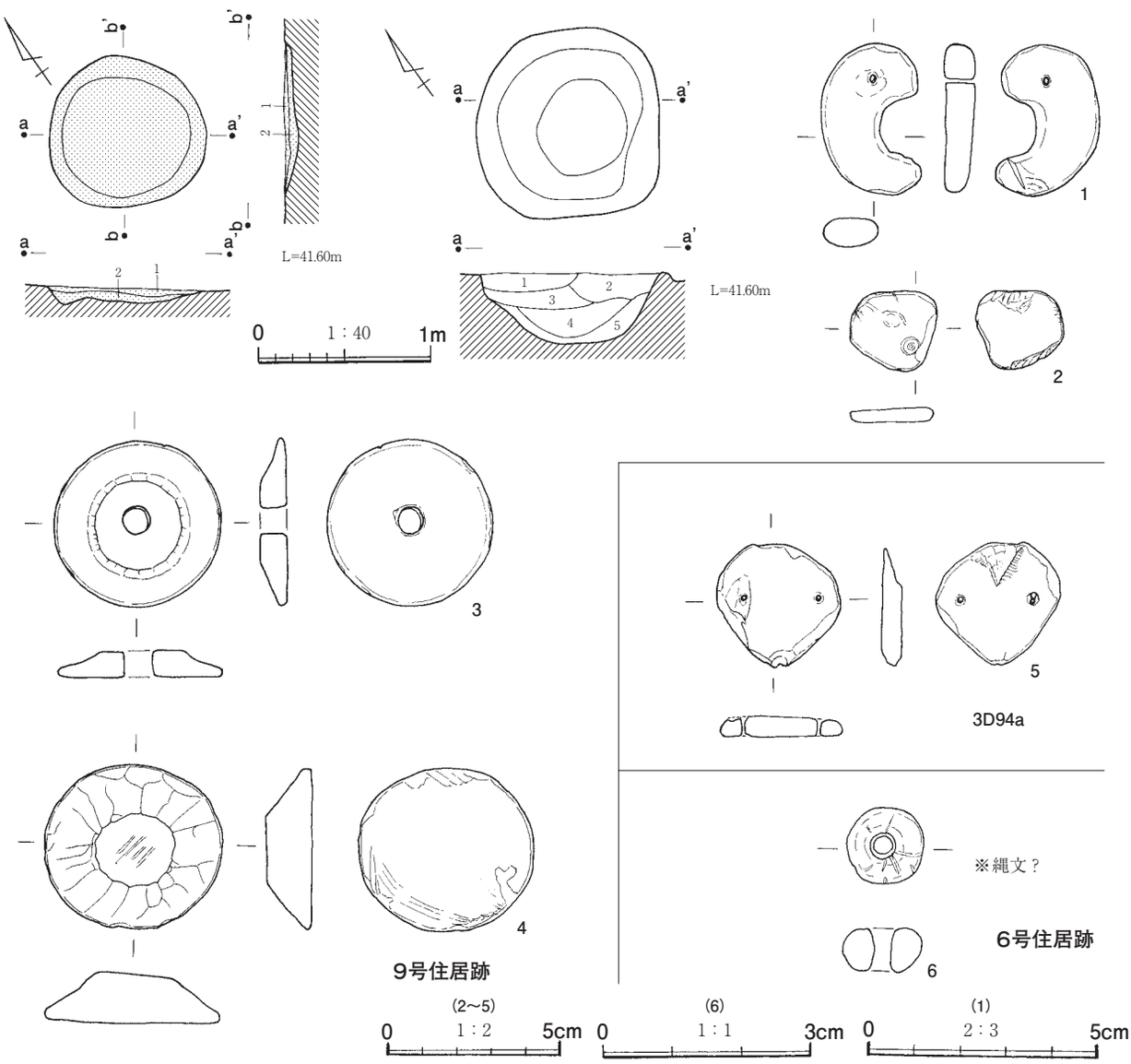
第218図　井戸作南遺跡７・８号住居跡出土遺物

第48表　井戸作南遺跡検出の住居跡（古墳時代）一覧

遺構No.	検出区	平面形状	主軸方位	規模（m）			床面	炉位置	貯蔵穴位置	階段用柱穴	壁溝	重複関係		備考
				長軸	短軸	深さ						旧	新	
9号	4D　27a·b	方形	N－　30°　－W	8.28	8.24	0.64	貼床	西寄	南東隅	○	○			焼土・炭化物
10号	4E　77a·c	方形	N－　28°　－W	5.38	4.78	0.48		西寄	南東隅	○	○			

9号住居跡　　遺構：第219・220図　　遺物：第219・222図

遺構の状況	炉は北西寄りに１つ。主柱穴は深めが４穴。南東辺中央に階段用柱穴が１穴あり。貯蔵穴は南隅に１つ。壁溝は全周し、P1・P2・P3・階段用柱穴に間仕切り溝が延びる。焼土・炭化物は全体に散在し、炭化物は北東辺寄りにやや集中する。
遺物の状況	小型ナデ甕・高杯が出土している。調整にハケを使用したものはない。未図化は、ナデ甕（大型・小型）・高杯でハケ甕片は全く含まれていない。推定個体数は10号住居跡よりも多いが復元可能なものは少ない。
備考	本遺跡群の中の古墳時代中期の住居跡の中では最大の規模である。

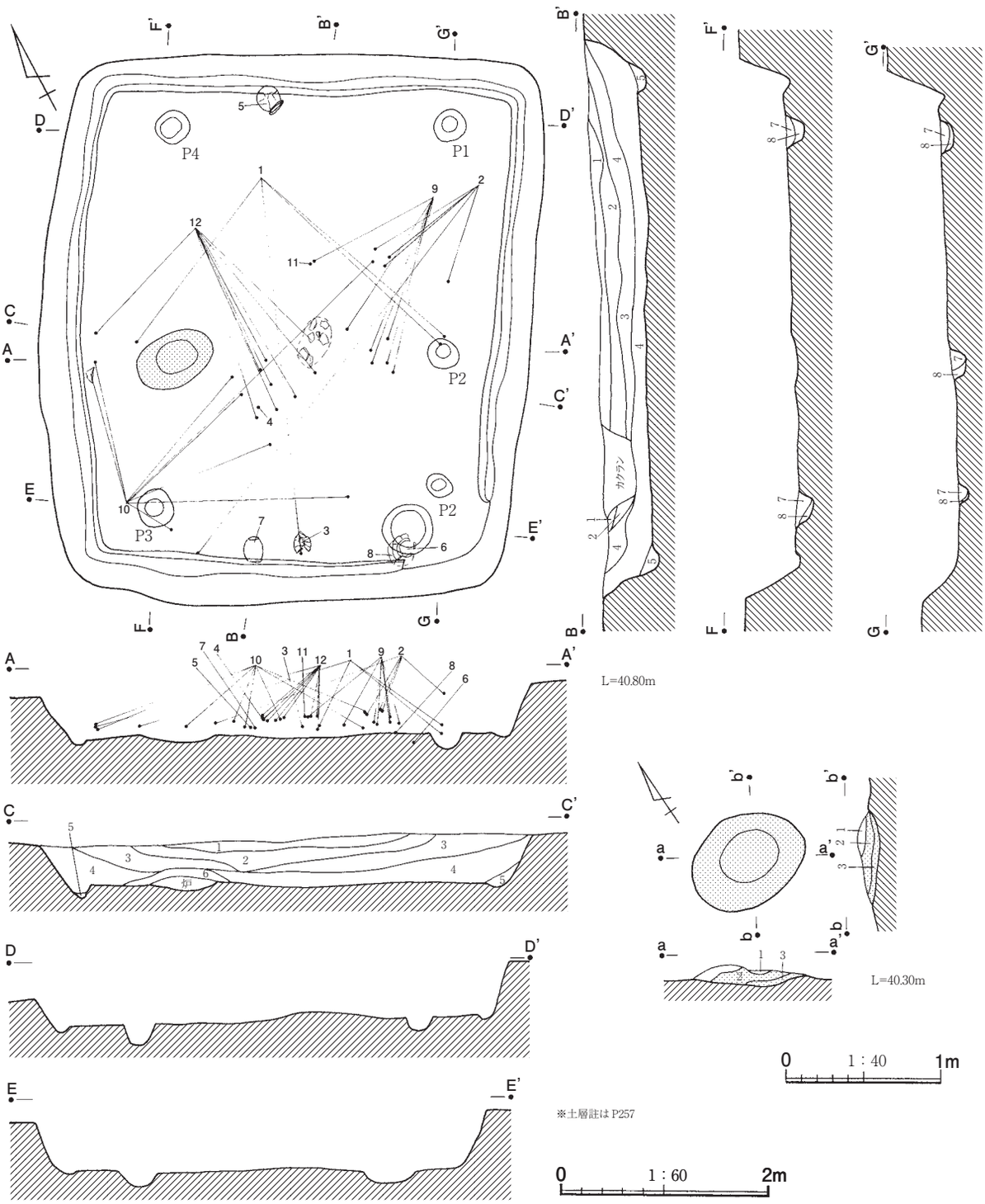


第219図　井戸作南遺跡９号住居跡・石製品

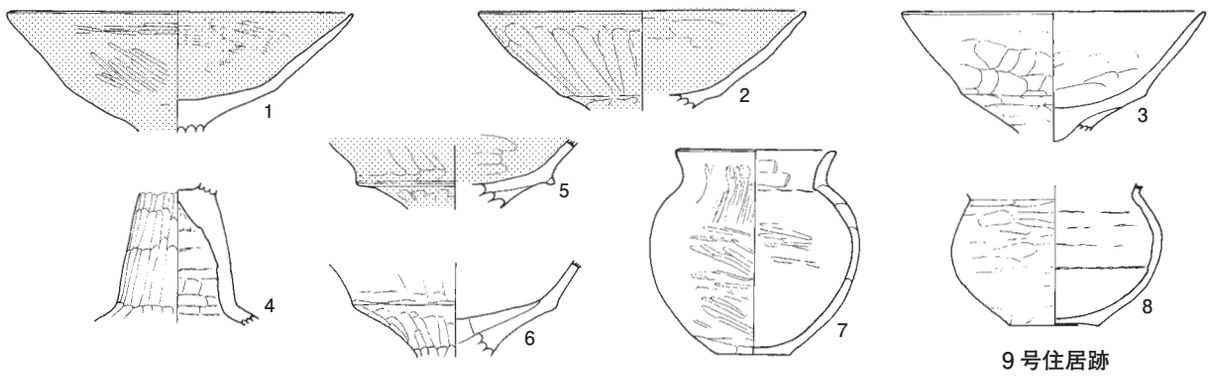
第220図　井戸作南遺跡 9 号住居跡

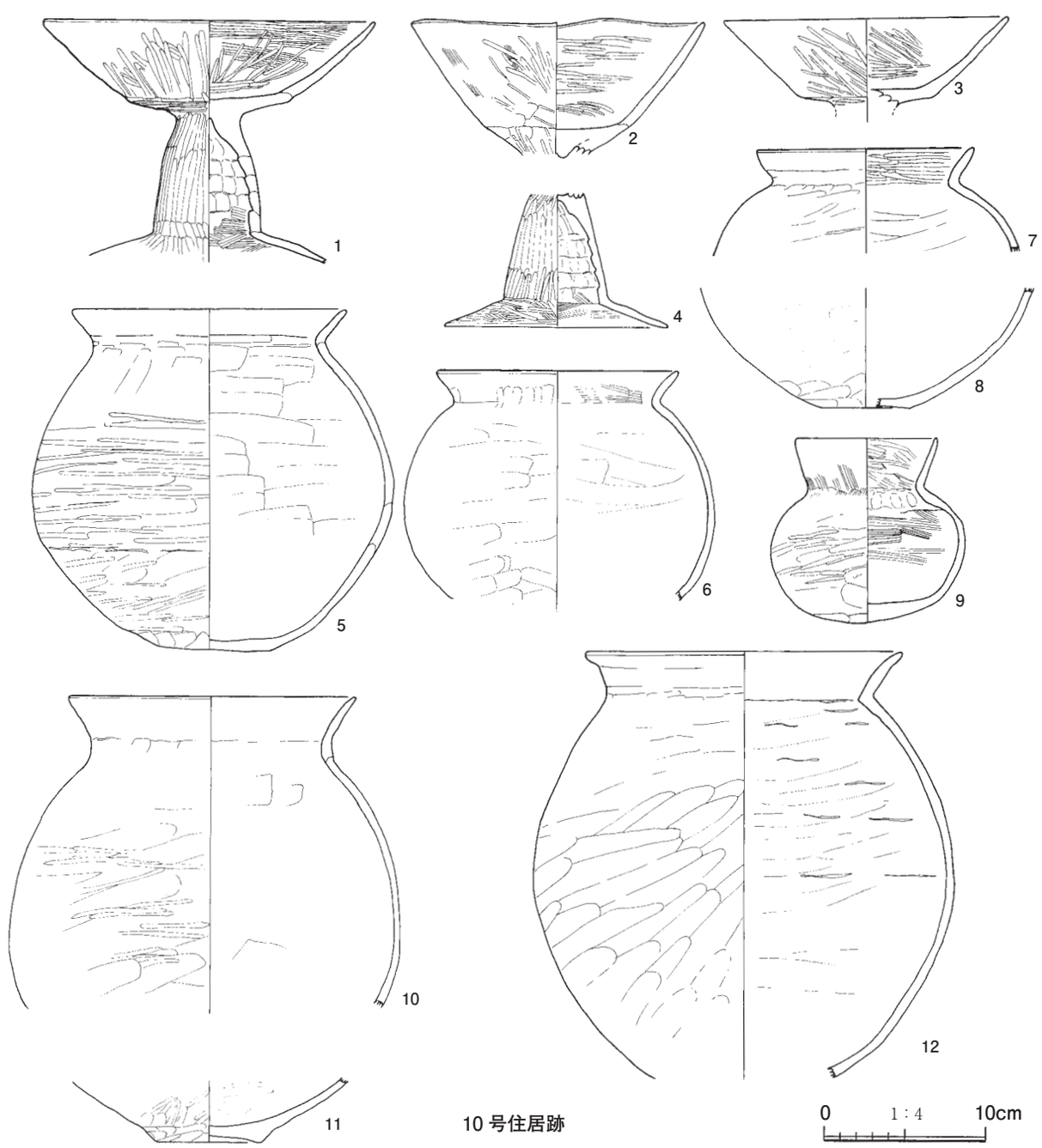
10号住居跡　　遺構：第221図　　遺物：第222図

遺構の状況	炉は北西寄りに１つ。主柱穴は浅めの４穴、全て壁近くに位置する。南東辺中央に階段用柱穴が１穴あり。P3のすぐ南側に貯蔵穴が１つ。壁溝は南隅の一部を除きほぼ全周する。
遺物の状況	ナデ甕・坩・高杯が出土。高杯脚部内面にハケ調整が見られるものが多い。未図化は、ナデ甕（大型・小型）・高杯でハケ甕片は全く含まれていない。
備考	



第221図　井戸作南遺跡10号住居跡



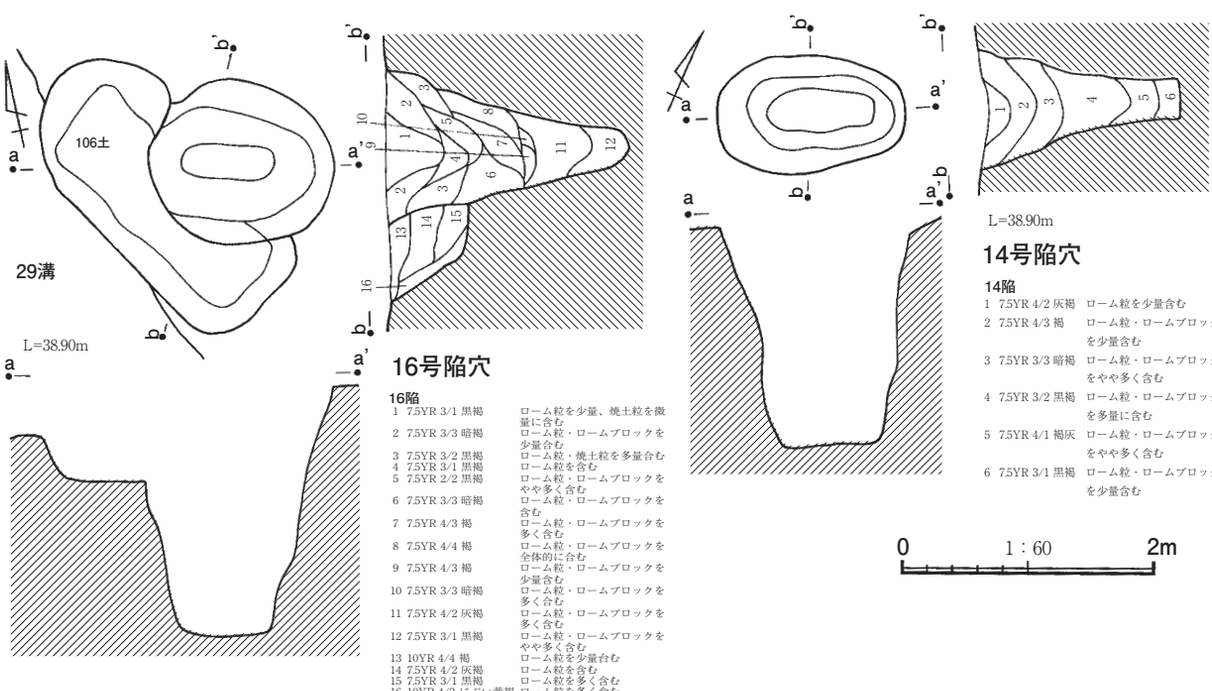


第222図　井戸作南遺跡 9 ・10号住居跡出土遺物

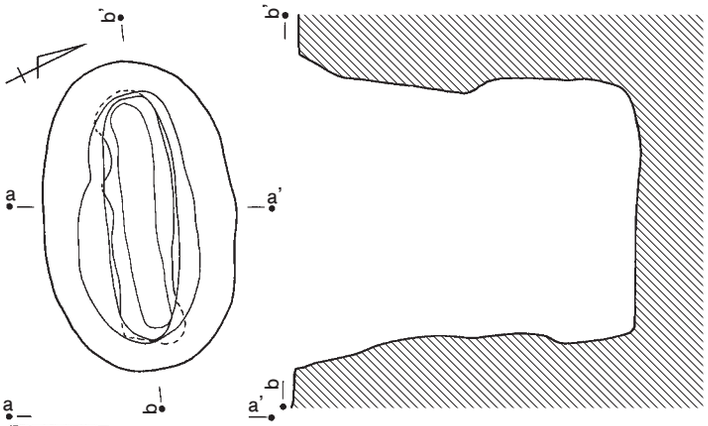
2　陥穴

第49表　井戸作南遺跡検出の陥穴

遺構No.	検出区		平面形 方位	法量（m） 長軸 （上端） （下端）	短軸	深さ	堀方断面形状	時代 時期	特徴	挿図No. 遺構	挿図No. 遺物	旧名称	備考
1号	2D	61a 71a	長方形 N－75°－W	2.49 1.80	1.53 0.50	2.71	逆台形	縄文	底面幅が狭い 下部が抉れる	第224図	－	C1	
2号	4E	1a	長方形 N－45°－W	3.68 1.10	1.58 0.72	2.95	逆台形	縄文？	底平面は長方形	第224図	－	C3	2溝に切られる
3号	4E	1b	楕円形 N－31°－W	2.52 1.15	2.04 0.75	2.22	逆台形	縄文 後期	底平面は長方形	第225図	－	C4	
4号	2E	20c	楕円形 N－60°W	2.85 2.20	1.54 0.25	2.72	逆台形	縄文 堀之内式	底面幅が狭い 下部が抉れる	第225図	－	C5	1住を切る
5号	2E	26c	長方形 N－85°－W	2.98 1.55	1.73 1.05	2.38	逆台形	縄文？	底面は以外に小さい	第226図	第234図	C6	1溝に切られる
6号	2E	9b	楕円形 N－63°－W	2.22 1.65	1.05 0.40	0.98	逆台形	縄文	底平面は長方形 中央に方形ピット2穴	第227図	－	C19	
7号	2E	29c	長方形 N－°－W	2.16 1.30	1.50 0.45	2.60	逆台形	縄文？	底平面は長方形 下部が抉れる	第226図	－	C75	
8号	2E	25a	不整形 N－54°－W	2.40 1.40	1.60 1.32	2.50	円筒形？	縄文？	壁は傾斜せず、ほぼ垂直に落ちる	第227図	－	C76	1溝に切られる
9号	1E	40a	楕円形 N－20°－W	2.66 0.80	1.30 0.75	2.70	円筒形	縄文？	底平面は方形。壁は傾斜せず、ほぼ垂直に落ちる。	第227図	－	C77	11溝に切られる
10号	4E	32c	楕円形 N　53°－E	2.10 0.85	1.65 0.50	1.50	円筒形？	縄文？		第226図	－	C78	
11号	2D	60b 70a	長方形 N－70°－W	2.31 2.00	1.00 0.55	1.43	逆台形	縄文	底面にピット3穴 ピットは方形気味	第225図	－	C88	
12号	2D	37d	円形 N－17°W	1.55 0.60	1.26 0.55	0.62	円筒形	縄文 加曽利B式？	規模が小さい 下部が抉れる	第227図	－	C91	
13号	2D	23a	長方形 N－26°－W	2.88 2.18	1.26 0.50	1.28	逆台形	縄文	底平面は長方形 中央に方形ピット2穴	第224図	－	C99	
14号	2D	28c	楕円形 N－64°－E	1.50 0.85	0.94 0.30	1.77	逆台形	縄文	底平面は長楕円形	第223図	－	C102	
15号	2D	42b ·d	楕円形 N－60°－W	1.36 0.45	1.23 0.80	1.14	円筒形	縄文	中段まで斜傾、下部は垂直に落ちる	第225図	－	C103	
16号	2D	17b	円形 N－80°－W	1.49 0.75	1.10 0.25	1.95	逆台形	縄文 条痕文期	平面規模は小さいが深い	第223図	－	C105	106土を切る
17号	2D	13b	楕円形 N－74°－E	1.33 0.75	0.85 0.34	1.18	円筒形	縄文	底平面は長楕円形	第226図	－	C107	29溝に切られる
18号	4E	27a	楕円形 N－19°－E	1.35 1.00	1.34 0.55	0.65	浅碗形	縄文	底平面は長楕円形	第224図	－	C83 （ダブリ）	109土



第223図　井戸作南遺跡陥穴①

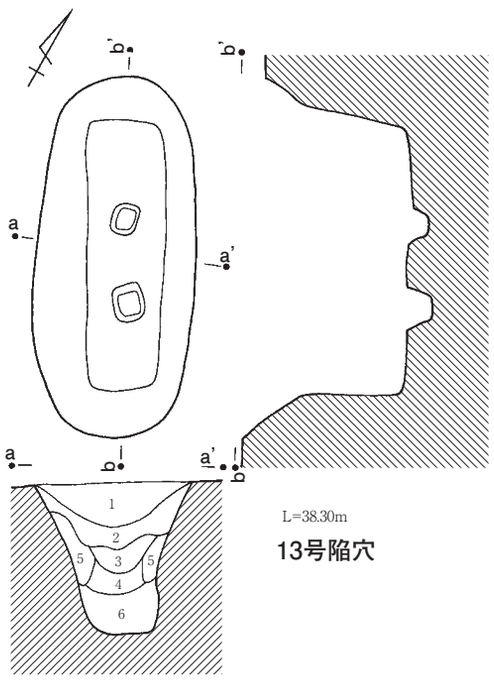


L=40.80m

1号陥穴

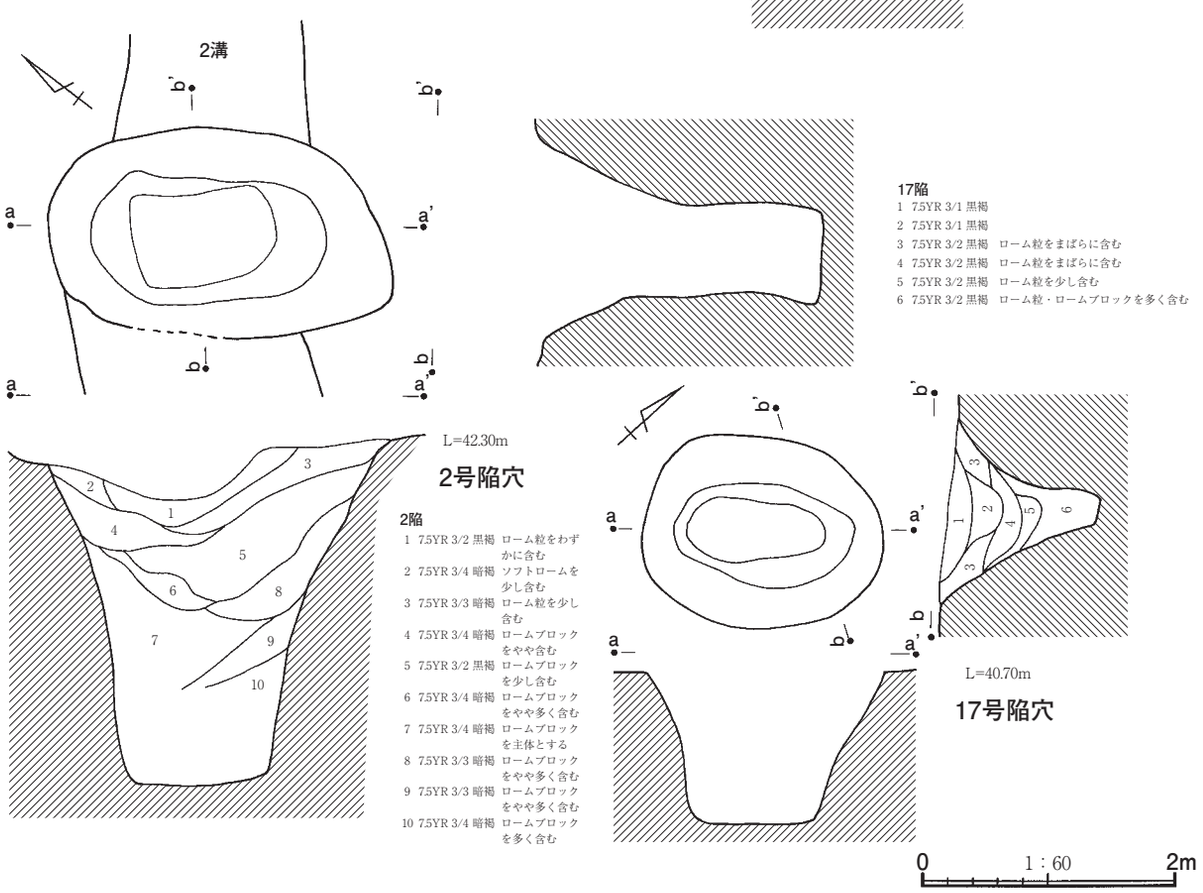
1陥
1 7.5YR 3/2 暗褐　ローム粒・ロームブロックを含み、炭化物粒をまばらに含む
2 7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
3 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、炭化粒をわずかに含む
4 7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む
5 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
6 7.5YR 4/6 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む
7 7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む
8 7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む

13陥
1 7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を少し含む
2 7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
3 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をわずかに含む
4 7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
5 7.5YR 4/6 褐　ロームブロックを多く含み、ローム粒を含む
6 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む



L=38.30m

13号陥穴



L=42.30m

2号陥穴

2陥
1 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をわずかに含む
2 7.5YR 3/4 暗褐　ソフトロームを少し含む
3 7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含む
4 7.5YR 3/4 暗褐　ロームブロックをやや含む
5 7.5YR 3/2 黒褐　ロームブロックを少し含む
6 7.5YR 3/4 暗褐　ロームブロックをやや多く含む
7 7.5YR 3/4 暗褐　ロームブロックを主体とする
8 7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックをやや多く含む
9 7.5YR 3/3 暗褐　ロームブロックをやや多く含む
10 7.5YR 3/4 暗褐　ロームブロックを多く含む

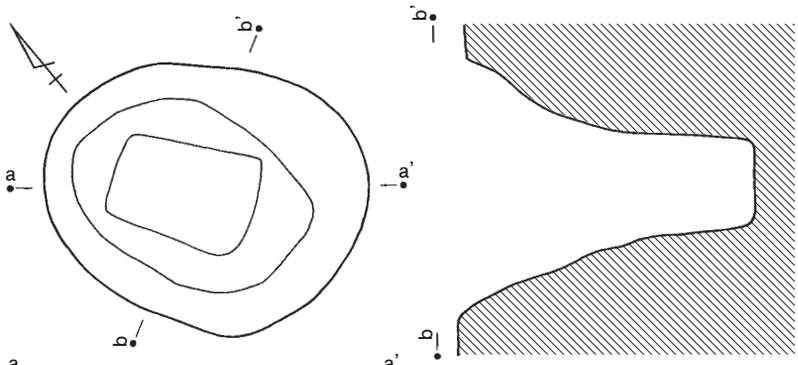
17陥
1 7.5YR 3/1 黒褐
2 7.5YR 3/1 黒褐
3 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
4 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
5 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含む
6 7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

L=40.70m

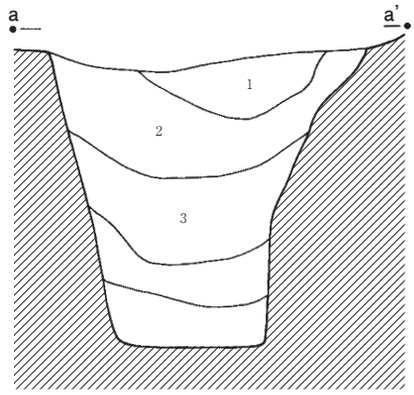
17号陥穴

0　1：60　2m

第224図　井戸作南遺跡陥穴②



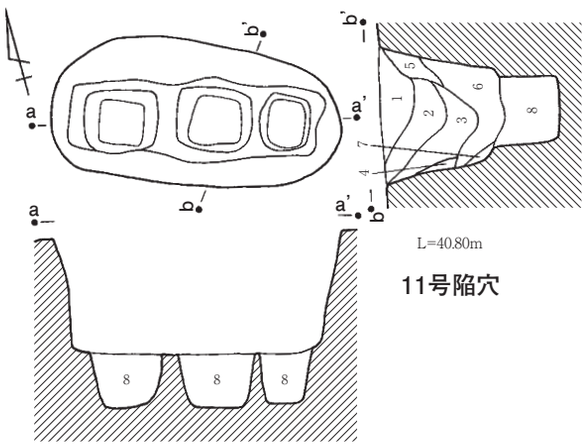
11陥
1 7.5YR 3/2 暗褐 ローム粒・焼土粒を多量に含む
2 7.5YR 4/3 褐 ローム粒を少量含む
3 7.5YR 3/3 黒褐 ローム粒・ロームブロックを少量含む
4 7.5YR 4/2 褐 ロームブロックを主体とする
5 7.5YR 4/2 暗褐 ロームが多く混じる
6 7.5YR 4/3 褐 ローム粒・ロームブロックをやや多く含む
7 7.5YR 4/2 褐 ロームブロックを主体とする
8 7.5YR 4/4 褐 ローム粒・ロームブロックを主体とする



L=42.40m

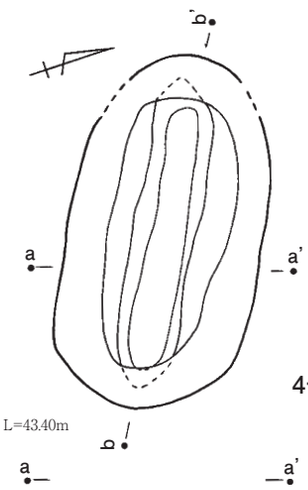
3号陥穴

3陥
1 7.5YR 3/1 黒褐 ローム粒を少し含む
2 7.5YR 3/2 黒褐 ソフトロームを少し含む
3 7.5YR 3/4 暗褐 ソフトロームをやや多く含む



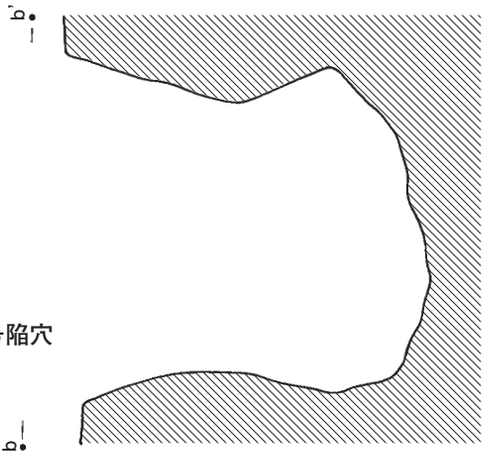
L=40.80m

11号陥穴

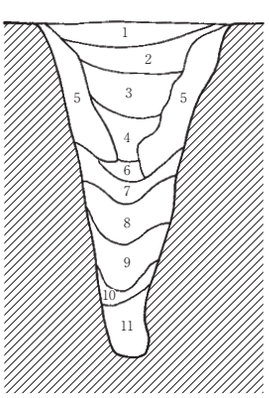


L=43.40m

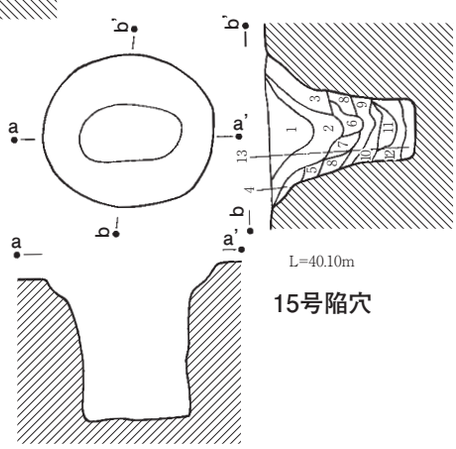
4号陥穴



15陥
1 7.5YR 3/2 黒褐 ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む
2 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒をやや多く含む
3 7.5YR 4/3 褐 ローム粒やや多く、ロームブロックを少量含む
4 7.5YR 4/2 灰褐 ローム粒・ロームブロックを少量含む
5 7.5YR 4/3 褐 ローム粒をやや多く、ロームブロックを少量含む
6 7.5YR 3/2 黒褐 ローム粒・ロームブロックを含む
7 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒・ロームブロックをやや多く含む
8 7.5YR 4/3 褐 ローム粒・ロームブロックを多く含む
9 7.5YR 4/2 灰褐 ローム粒・ロームブロックを多く含む
10 7.5YR 4/4 褐 ロームブロックを主体的に含む
11 7.5YR 4/1 褐灰 ローム粒・ロームブロックを多く含む
12 7.5YR 4/4 褐 ロームブロックを主体とする
13 7.5YR 3/1 黒褐 ローム粒・ロームブロックを多く含む
※8層以下がローム粒、ロームブロックを多量に含む

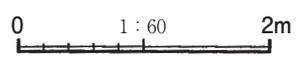


4陥
1 7.5YR 3/4 暗褐 ローム粒とロームブロックを少し含み、焼土粒をまばらに含む
2 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒を少し含み、ロームブロック・焼土粒をまばらに含む
3 7.5YR 3/4 暗褐 ローム粒・ロームブロックを少し含み、焼土粒をわずかに含む
4 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
5 7.5YR 4/6 褐 ローム粒・ロームブロックを多く含む
6 7.5YR 4/4 褐 ローム粒子を含み、ロームブロックを少し含む
7 7.5YR 3/4 暗褐 ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む
8 7.5YR 1/4 褐 ローム粒・ロームブロックを含み、黒褐色土が混じる
9 7.5YR 5/6 明褐 ローム粒・ロームブロックを主体とする
10 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
11 7.5YR 1/4 褐 ローム粒を主体にロームブロックを含む

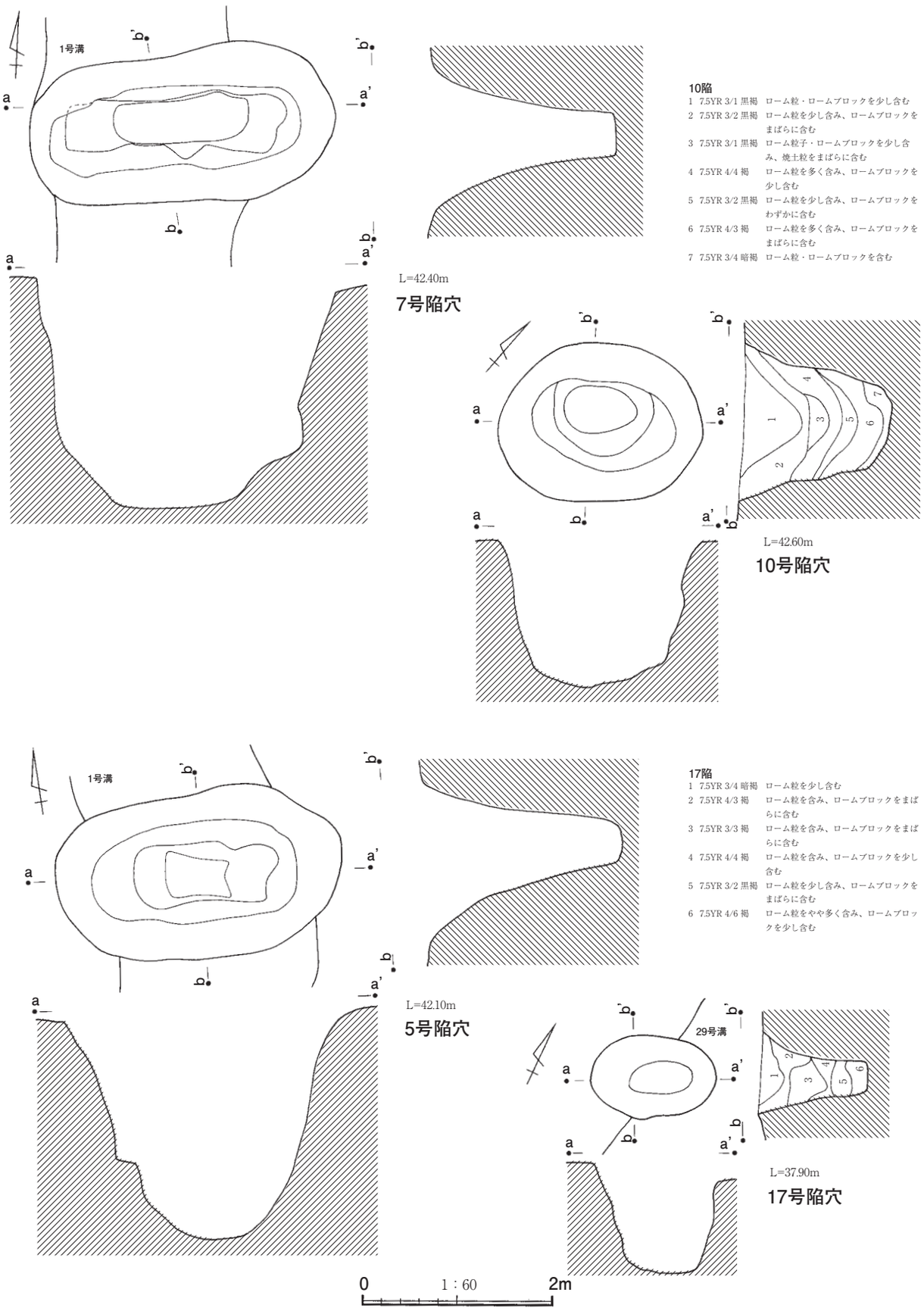


L=40.10m

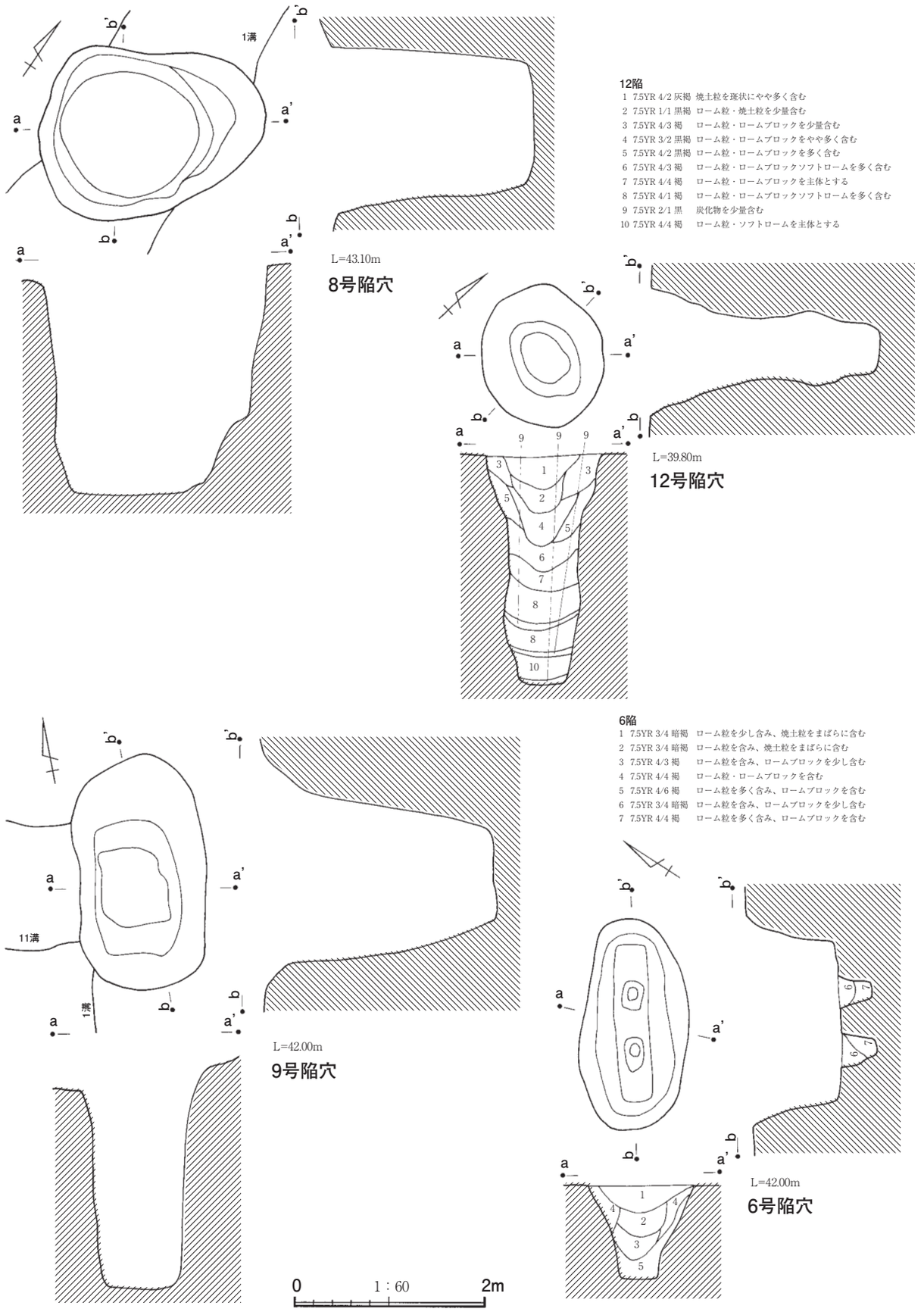
15号陥穴



第225図　井戸作南遺跡陥穴③



第226図　井戸作南遺跡陥穴④



第227図　井戸作南遺跡陥穴⑤

3　土壙

第50表　井戸作南遺跡検出の土壙一覧

遺構No.	検出区	平面形 方位	法量（m） 長軸（上端） （下端）	短軸	深さ	堀方断面形状	時代 時期	特徴	挿図No. 遺構	挿図No. 遺物	旧名称 ※変更分のみ	備考
2号	2E　1a	不整円形 N－　34°　－W	1.46 1.35	1.00	1.08	浅碗形	縄文？	ピット有　2穴	第228図	－		
7号	3E　11c	長方形 N－　58°　－W	1.09	0.67	0.54	浅碗形	縄文 加曽利B式	ピット有　1穴	第228図	第234図		11土と切り合う
8号	2E　17d	不整円形 N－　78°　－W	1.53 0.75	0.76 0.65	0.46	浅碗形	縄文 後期？	ピット有　1穴	第228図	－		2住と重複
9号	3E　23b	円形 N－　25°　－W	0.95 0.85	0.98 0.85	0.35	浅碗形	縄文 加曽利B式		第228図	第234図		
10号	2E　19d	長方形 N－　74°　－W	2.85 2.40	1.74 1.50	0.19	浅碗形	縄文 加曽利B式	ピット有　1穴	第228図	－		
11号	3E　11c	長方形 N－　68°　W	1.42 0.65	0.80 0.55	0.54	浅碗形	縄文？	ピット有　2穴	第228図	－		7土と切り合う
12号	2E　18d	不整円形 N－　15°　W	0.95 0.72	0.88 0.70	0.28	浅碗形	縄文 加曽利B式	ピット有　2穴	第228図	－		2住と重複
13号	2E　18a	楕円形 N－　70°　－W	1.10 0.50	0.75	0.78	円筒形	縄文 中期？	ピット有　3穴	第228図	－		住と重複
14号	2E　18c	円形 N－　58°　－E	1.40 1.23	1.30 1.22	0.50	碗形	縄文 加曽利B式	ピット有　1穴	第228図	第234図		
15号	2E　18c	長方形 N－　60°　－W	0.70 0.54	0.48 0.31	0.39	浅碗形	縄文？	ピット有　1穴	第228図	－		
16号	2E　8b	円形 N－　68°　－E	0.54 0.40	0.54 0.35	0.28	浅碗形	縄文 堀之内式		第228図	－		
17号	2E　28a	円形 N－　°　－E	1.18 1.04	0.97 0.84	0.38	浅碗形	縄文？		第228図	－		1溝と切り合う
18号	4D　81b	不整楕円形 N－　°　－E	3.60 1.20	2.00 0.75	0.50	浅碗形	縄文？		第230図	－		5溝と重複
20号	2E　30c	円形 N－　55°　－E	1.10 0.81	0.90 0.70	0.25	浅碗形	縄文 加曽利B式		第228図	－		
21号	2E　30c	円形 N－　°　－E	0.91 0.65	0.78 0.55	0.33	浅碗形	縄文？	ピット有　2穴	第230図	－		
22号	2E　30a	円形 N－　°　－E	1.08 0.90	1.08 0.75	0.19	浅碗形	縄文		第228図	－		
23号	2E　9d	楕円形	1.45 1.25	1.05 0.85	0.15	浅碗形	縄文 中期？		第230図	－		
24号	2E　9b	円形	0.55 0.45	0.52 0.45	0.50	円筒形	縄文？		第230図	－		
25号	2E　9b	楕円形 N－　6°　－E	0.60 0.42	0.47 0.35	1.40	円筒形	縄文？		第229図	－		
26号	2E　10d	長方形 N－　20°　－W	4.48 4.30	1.34 1.40	0.15	浅碗形	縄文 加曽利B式	ピット有　2穴	第229図	－		
27号	2E　10b	長方形 N－　7°　－W	2.35	0.75 0.50	0.18	浅碗形	縄文 堀之内式	ピット有　1穴	第229図	－		
28号	2E　20d	不整円形 N－　77°　－E	1.79	0.81 0.60	0.19	浅碗形	縄文 加曽利B式	ピット有　2穴	第229図	－		5住と重複
29号	2E　30a	円形 N－　13°　－E	1.30 0.90	1.05 0.70	0.27	浅碗形	縄文？	ピット有　4穴	第230図	－		
30号	2E　18b	円形 N－　°　－E	1.32 1.15	1.28 1.05	0.64	碗形	縄文 堀之内式		第229図	第234図		
31号	1D　90a	方形 N－　47°　－E	3.17 2.10	2.47 2.00	0.98	浅碗形	縄文 堀之内式		第229図	－		
32号	2D　82d	円形 N－　18°　－E	1.35 0.95	1.08 0.86	0.28	浅碗形	縄文？		第229図	－		
33号	2E　2a	楕円形 N－　28°　－E	1.67 1.00	1.20 0.70	0.48	浅碗形	縄文？		第229図	－		
34号	2E　16d	長方形 N－　38°　－E	2.74 2.30	1.32 0.95	0.50	浅碗形	縄文 堀之内式		第229図	－		
35号	2D　82c	円形 N－　15°　－W	1.00 0.62	0.97 0.45	0.50	碗形	縄文？		第231図	－		
36号	1E　30d	楕円形 N－　10°　－E	1.83 1.23	1.18 0.85	0.55	浅碗形	縄文		第230図	－		
37号	2E　30a	円形 N－　41°　－W	0.83 0.30	0.81 0.30	0.50	浅碗形	縄文 加曽利B式	ピット有　1穴	第230図	－		

遺構No.	検出区	平面形 方位	法量（m） 長軸（上端）	法量（m） 短軸（上端）	法量（m） 深さ	堀方断面形状	時代 時期	特徴	挿図No. 遺構	挿図No. 遺物	旧名称 ※変更分のみ	備考
			（下端）									
38号	3E 4a- d	楕円形 N－ 37° －W	1.65 1.45	1.08 0.85	0.16	浅碗形	縄文？	ピット有 1穴	第231図	第234図		
39号	3E 4d	円形 N－ 15° －W	0.70 0.55	0.70 0.50	1.09	円筒形 加曽利B式	縄文		第229図	－		
40号	3E 4d	楕円形 N－ 18° －W	1.05 0.83	0.67 0.50	0.20	浅碗形	縄文？	ピット有 2穴	第231図	－		
41号	3E 3d	不整円形 N－ 41° －E	0.88 0.48	0.52 0.40	0.30	？	縄文？		第229図	－		
42号	3E 3d	楕円形	1.15 0.95	0.93 0.80	0.25	逆台形	縄文？	ピット有 3穴	第230図	－		
43号	3E 4b	円形	0.75 0.60	0.70 0.55	0.40	逆台形	縄文？	ピット有 2穴	第230図	－		
44号	3E 3c 4a	円形 N－ 27° －E	0.95 0.78	0.93 0.68	0.29	浅碗形 堀之内式	縄文		第230図	－		
45号	3E 12a ・c	楕円形 N－ 10° －E	1.25 1.50	1.12 0.75	0.44	浅碗形	縄文？	ピット有 1穴	第230図	－		6住と重複
46号	3E 12c	楕円形 N－ 64° －W	2.36 2.15	1.95 1.70	0.46	浅碗形	縄文？	ピット有 2穴	第230図	－		
47号	3E 8b	不整円形 N－ 5° －W	2.30 1.85	1.96 1.65	0.19	浅碗形 加曽利B式	縄文		第230図	第234図		
48号	3E 11c	不整円形 N－ 15° －E	1.23 0.85	1.17 0.85	0.40	浅碗形	縄文？	ピット有 2穴	第230図	－		
49号	3E 13c	不整円形 N－ 55° －E	0.83 0.64	0.46 0.34	0.43	円筒形	縄文？		第231図	－		50土と重複
50号	3E 13c	長方形 N－ 70° －W	0.96 0.70	0.66 0.45	1.02	円筒形	縄文？		第231図	－		
51号	3E 11c	不整円形 N－ 71° －W	1.33		0.29	浅碗形	縄文？		第230図	－		48土と重複
52号	3E 1d	楕円形 N－ 71° －W	1.41 1.05	0.91 0.50	0.31	逆台形？	縄文？	ピット有 1穴	第232図	－		
53号	2E 1b	円形 N－ 21° －W	0.97 0.65	0.81 0.60	0.36	浅碗形	縄文？		第232図	－		
54号	2E 10b ・d	方形 N－ 20° －W	1.19 0.70	0.78 0.50	0.62	浅碗形	縄文？		第231図	－		
55号	2E 10c	楕円形 N－ 63° －W	1.06 0.90	0.87 0.60	0.27	浅碗形	縄文？		第231図	－		
56号	3E b?	楕円形 N－ 55° －W	1.05 0.70	0.87 0.62	0.34	浅碗形	縄文？		第232図	－		
57号	3E 23a	円形 N－ 12° －W	1.05 0.85	1.05 0.75	0.31	浅碗形	縄文？		第231図	－		
58号		円形 N－ ？° －E	1.21 0.90	1.14 0.80	0.23	逆台形	縄文？	ピット有 1穴	第232図	－		
59号	3D 95c ・d	円形 N－ 65° －W	1.19 0.66	1.02 0.55	0.42	逆台形	縄文？	ピット有 1穴	第232図	－		
60号	3D 96b	円形 N－ 26° －W	1.28 1.00	1.17 0.87	0.33	浅碗形	縄文？	ピット有 1穴	第231図	－		
61号	3E 6b	長方形 N－ 85° －W	1.07 0.90	0.50 0.30	0.18	逆台形	縄文？		第231図	－		
62号		円形 N－ 66° －E	1.36 1.05	1.14 0.90	0.30	浅碗形	縄文？		第231図	－		
63号	3D 96d	円形 N－ 74° －E	1.43 1.20	1.42 1.15	0.23	浅碗形 加曽利B式	縄文	ピット有 2穴	第231図	－		
64号	3D 96d	楕円形 N－ 48° －E	0.95 0.72	0.68 0.45	0.22	浅碗形	縄文？	ピット有 2穴	第231図	－		
65号	3E 6c	円形 N－ 25° －E	0.65 0.50	0.63 0.45	0.39	円筒形	縄文？	ピット有 2穴	第231図	－		
66号	3D 99a	長方形 N－ 31° －E	1.83 1.40	1.11 0.60	0.40	浅碗形	縄文？		第232図	－		
67号	3E 8a 3D 98d	不整円形 N－ 45° －E	3.16	1.89	0.35	浅碗形 加曽利B式	縄文		第232図	－		
68号	3E 8b	長方形 N－ 76° －E	1.65 1.50	0.69 0.35	0.21	浅碗形	縄文？	ピット有 2穴	第231図	－		
69号	3E	楕円形 N－ 48° －W	0.82 0.60	0.69 0.50	0.12	浅碗形	縄文？	ピット有 1穴	第231図	－		

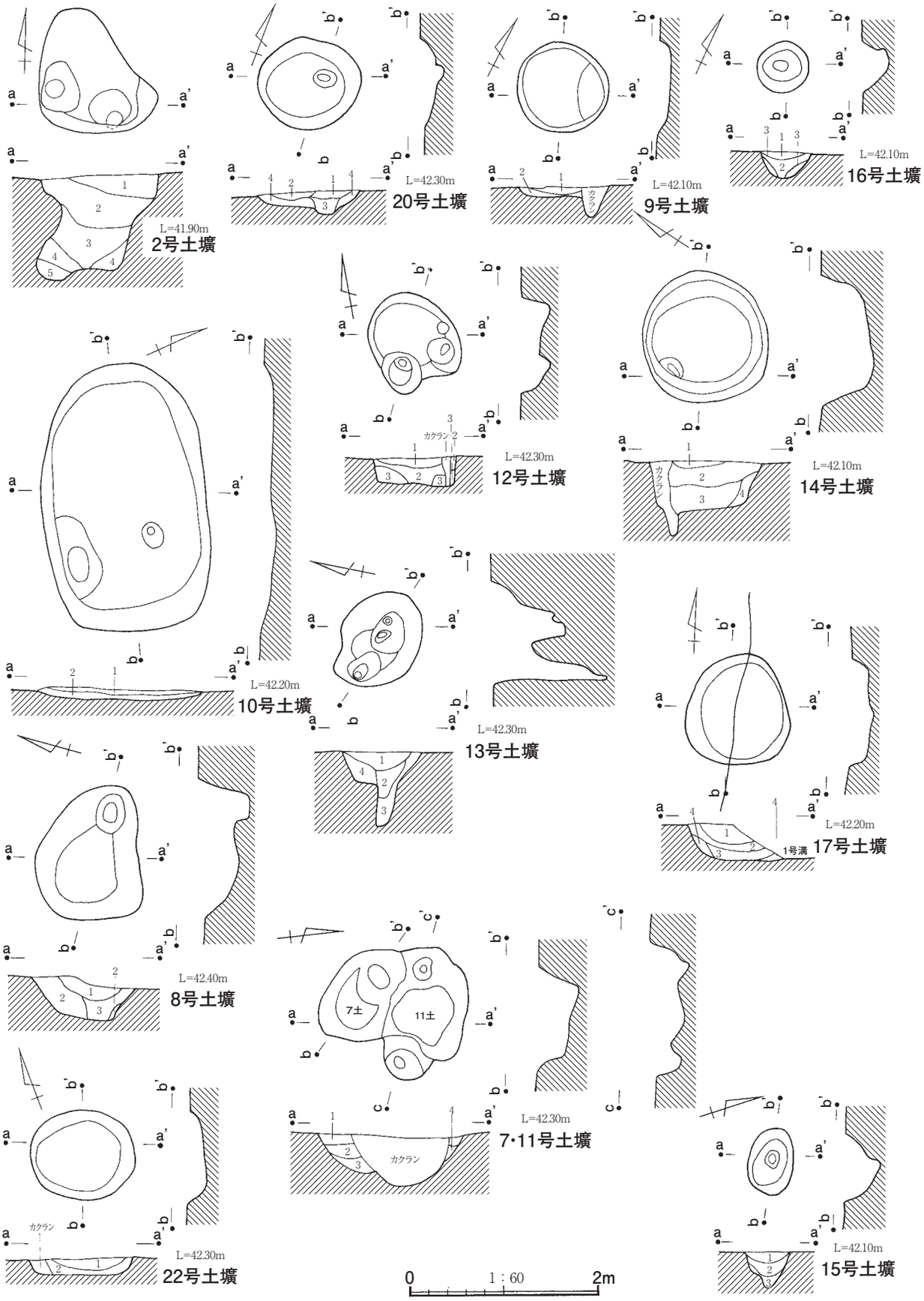
遺構No.	検出区	平面形 方位	法量（m） 長軸（上端） （下端）	短軸	深さ	堀方断面形状	時代 時期	特徴	挿図No. 遺構	挿図No. 遺物	旧名称 ※変更分のみ	備考
70号	3D 90d	円形 N－ 15° －E	0.90 0.50	0.81 0.35	0.41	浅碗形	縄文？		第232図	－		
71号	3E 8d	不整円形 N－ 50° －E	2.24 1.50	1.62 1.20	0.60	浅碗形	縄文 堀之内式		第231図	－		
72号	3D 99c	円形 N－ 26° －E	0.99 0.70	0.91 0.63	0.29	浅碗形	縄文？		第233図	－		
73号	3E 7d	長方形 N－ 79° －E	1.54 1.05	1.05 0.50	0.47	逆台形	縄文	ピット有 1穴	第232図	第234図		
74号	3E 7b	長方形 N－ 28° －E	1.14 0.95	0.71 0.56	0.26	浅碗形	縄文？		第233図	－		
79号	4E 25b	不整円形 N－ 25° －E	2.10 1.22	1.78 0.91	1.10	碗形	縄文？		第232図	－		2方と重複
80号	4E 32c	方形 N－ 18° －W	2.73 2.30	2.49 2.30	0.68	浅碗形	縄文 後期	ピット有 11？	第232図	－		15溝と重複
81号	4E 3d	円形 N－ ？° －E	0.69 0.75	0.66 0.70	0.25	浅碗形	縄文？		第232図	－		
82号	4E 16a	長方形 N－ ° －E	1.36 1.00	0.99 0.60	0.45	浅碗形	縄文？		第232図	－		
83号	4E 27a	楕円形 N－ 19° －E	1.35 1.10	1.34 1.07	0.65	浅碗形	縄文？		第233図	－		
84号	4E 37d	不整円形 N－ 33° －E	0.80 0.70	0.70 0.70	0.54	浅碗形	縄文？		第233図	－		
85号	4E 48c	長方形 N－ 35° －W	1.81	1.04	0.22	浅碗形	縄文？		第234図	－		
86号	3D 81a	長方形 N－ 7° －W	2.35 2.00	1.21 0.95	0.50	浅碗形	縄文 加曽利B式		第234図	－		
87号	3D 81b	楕円形 N－ 70° －E	1.86 1.50	1.52 1.20	0.42	浅碗形	縄文 加曽利B式		第233図	－		
90号	2D 67c	円形 N－ ？° －E	1.09 0.95	1.04 0.90	0.59	浅碗形	中近世？		第233図	－		
92号	2D 86a	円形 N－ 5° －W	0.88 0.65	0.83 0.60	0.30	浅碗形	中近世？		第233図	－		
93号	2D 56b	長方形 N－ 63° －E	2.08	0.99	0.70	浅碗形	縄文？		第233図	－		
94号	2D 16d	不整円形 N－ 39° －E	1.57	0.86	2.48	円筒形	縄文 後期		第234図	－		
95号	2D 65c	長方形 N－ 3° －E	(1.94) 1.50	(1.01) 0.55	7.40	円筒形	縄文？		第233図	－		96土重複
96号	2D 65c	楕円形 N－ 17° －W	(1.19) 0.74	(0.38) 0.16	0.62	逆台形	縄文？		第233図	－		95土重複
97号	2D 34d 44c	不整円形 N－ 10° －W	3.31 2.90	2.37 1.95	0.47	浅碗形？	縄文 加曽利B式		第233図	第234図		
98号		不整円形 N－ 11° －W	2.25	1.62	0.33	浅碗形？	中近世？		第234図	－		
100号	2D 60d	円形 N－ 7° －E	0.73 0.60	0.73 0.52	0.45	碗形	中近世？		第233図	－		
101号	3D 51d	楕円形 N－ ° －E	1.03 0.85	0.94 0.78	0.37	浅碗形	中近世？		第233図	－		
104号	2D 73a ・b	円形 N－ 8° －E	0.90 0.76	0.88 0.72	0.24	浅碗形	中近世？		第233図	－		
106号	2D 17b	長方形 N－ 29° －W	2.40	1.13	0.68		縄文 条痕文		第233図	－		16陥と重複
108号	2D 90d	楕円形 N－ 5° －E	0.73 0.30	0.73 0.20	1.04	円筒形	縄文？		第234図	－		
110号	3D 82b	不整円形 N－ ° －E	0.80 0.60	0.70 0.55	0.55	碗形？	縄文？		第233図	－	C84	
111号	2D 90b	不整楕円形 N－ ° －E	1.75 0.70	1.30 0.65	1.25	逆台形？	縄文？		第234図	－	C85	

2土
1 7.5YR 4/4 褐 ローム粒を多く含む
2 7.5YR 3/4 暗褐 ローム粒・ロームブロックをわずかに含む
3 7.5YR 4/6 褐 ローム粒・ロームブロックを多く含む
4 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒・ロームブロックを少し含む
5 7.5YR 2/3 黒褐 ローム粒を少し含む

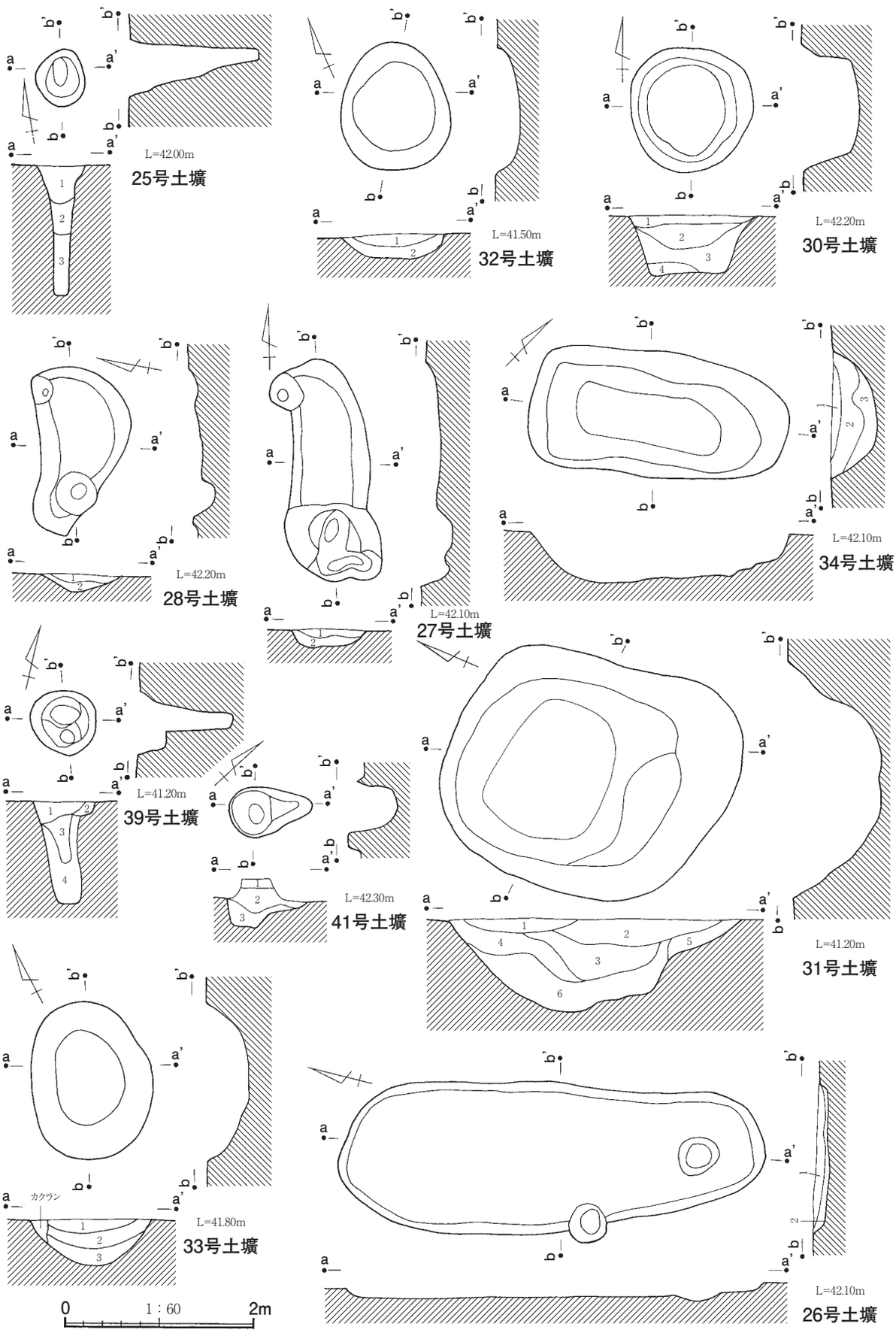
9土
1 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒を少し含み、ロームブロックを少し含む
2 7.5YR 4/4 褐 ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む

16土
1 7.5YR 3/4 暗褐 ローム粒を含む
2 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒を含む
3 7.5YR 4/4 暗褐 ローム粒を含む

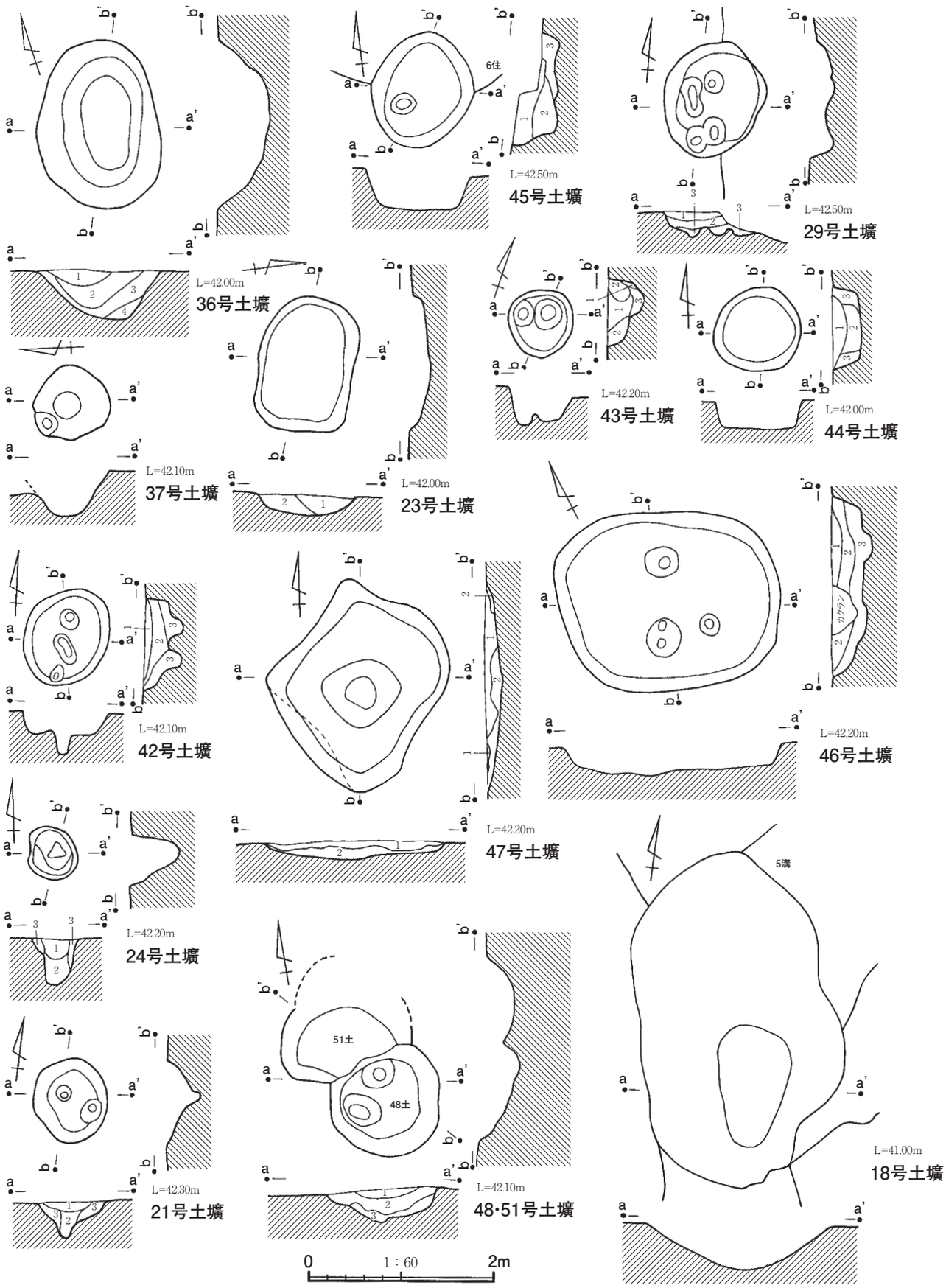
20土
1 7.5YR 3/3 暗褐 ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
2 7.5YR 3/4 暗褐 ローム粒をまばらに含み、ロームブロックをわずかに含む
4 7.5YR 4/4 褐 ローム粒を含み、ロームブロックを含む



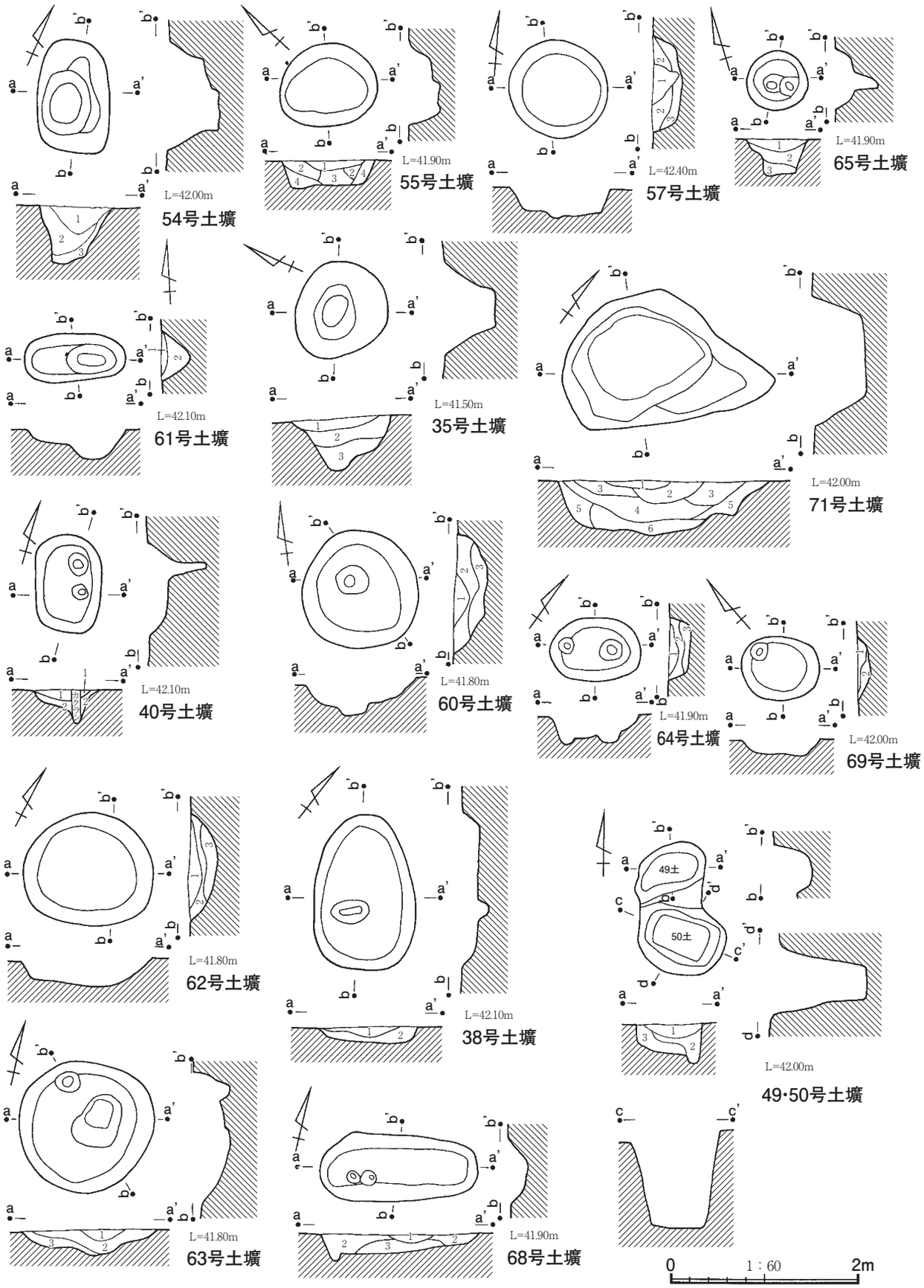
第228図　井戸作南遺跡土壙①



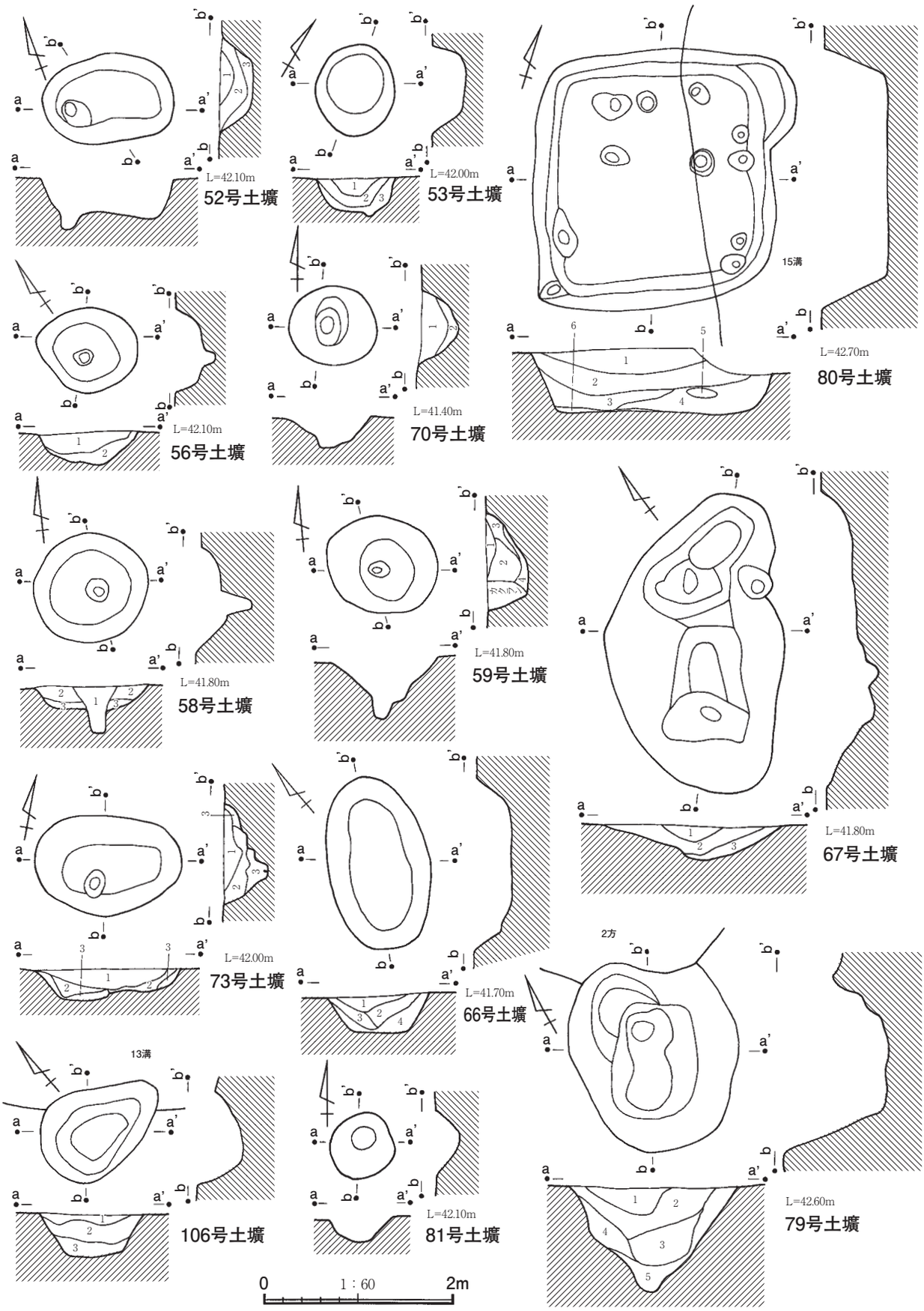
第229図　井戸作南遺跡土壙②



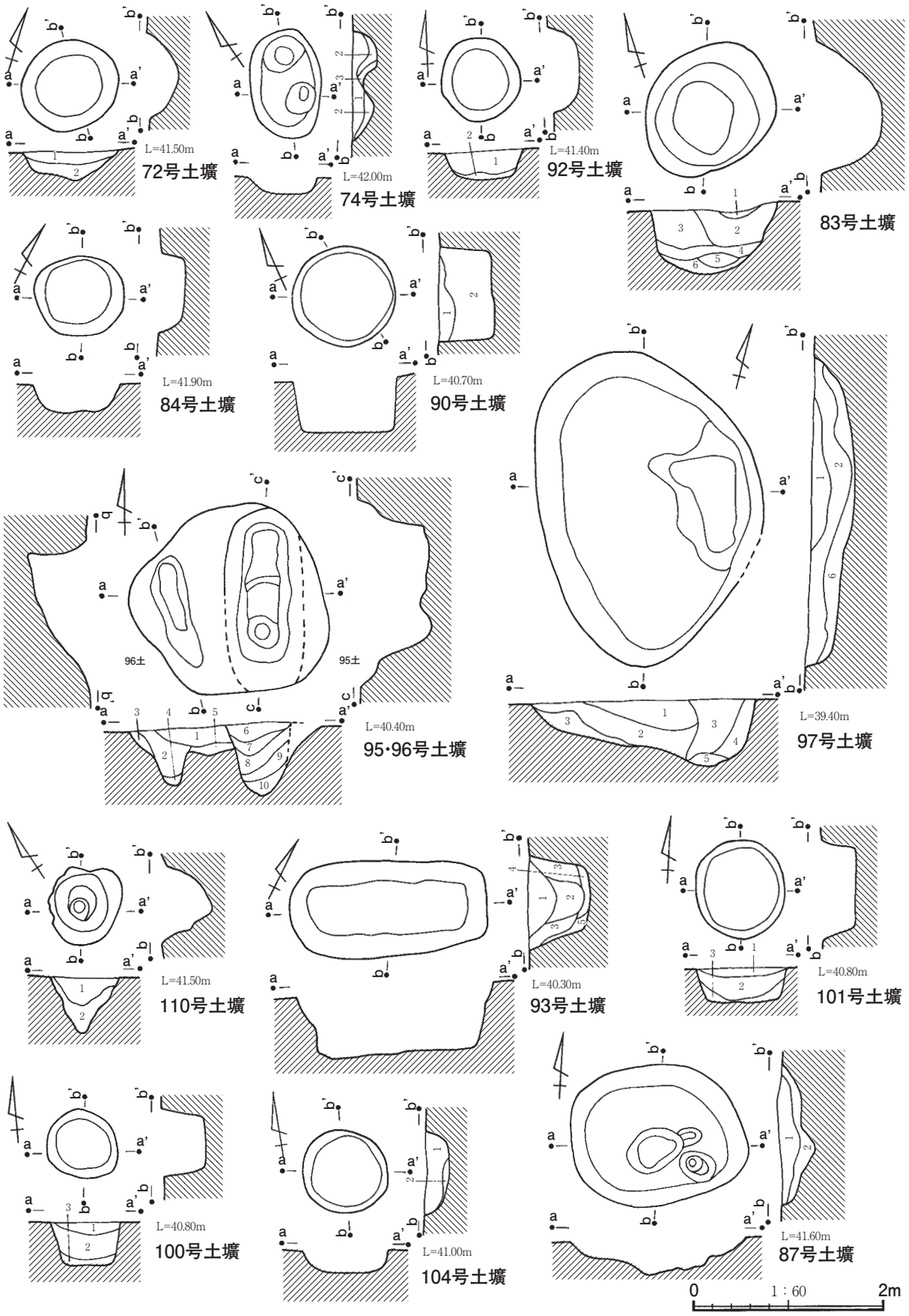
第230図　井戸作南遺跡土壙③



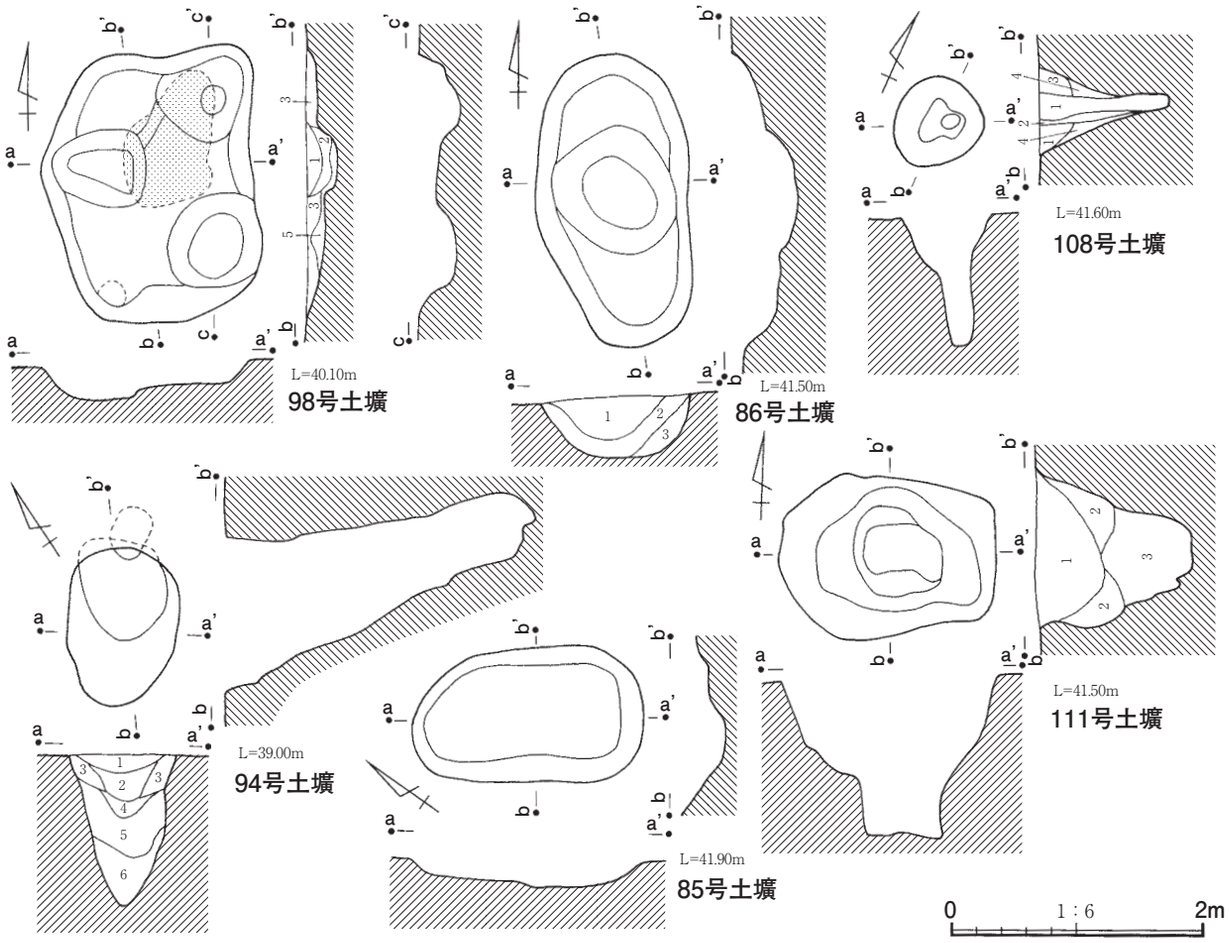
第231図　井戸作南遺跡土壙④

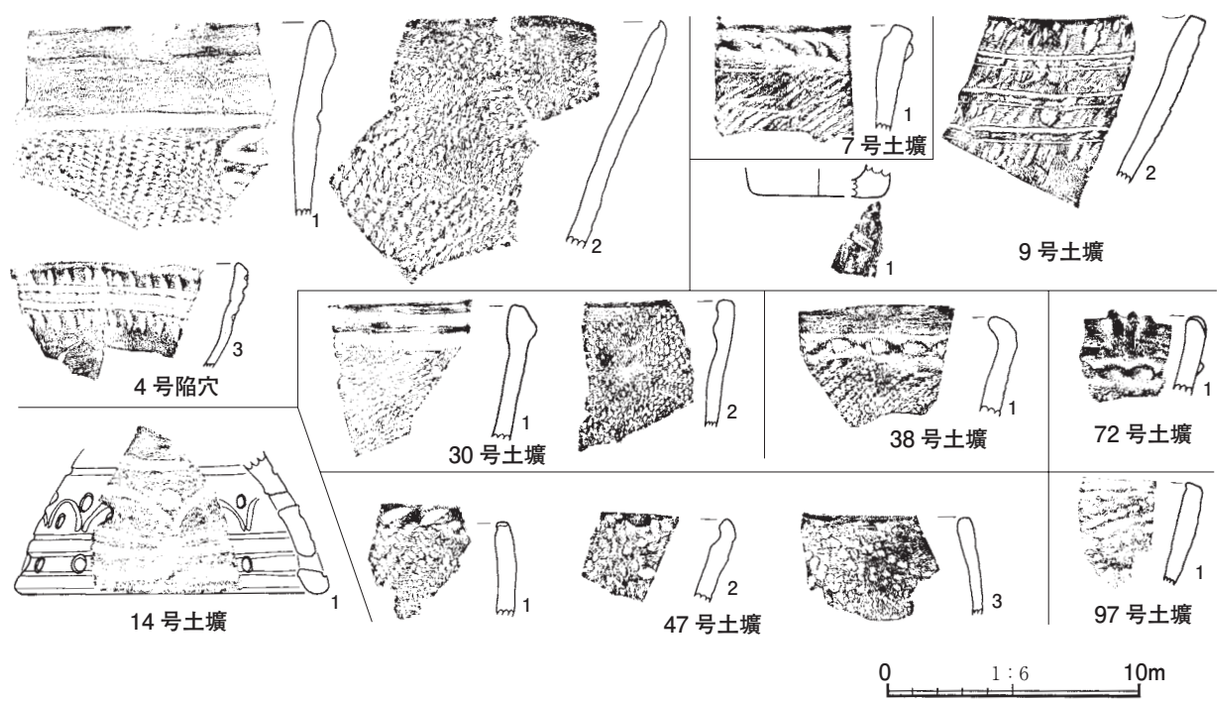


第232図　井戸作南遺跡土壙⑤



第233図　井戸作南遺跡土壙⑥





第234図　井戸作南遺跡土壙⑦・陥穴・土壙出土遺物

7・11土
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒をわずかに含み、焼土粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをわずかに含む
3　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロック、焼土粒子をまばらに含む
4　7.5YR 4/6 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを少し含む

10土
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
2　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

12土
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・焼土粒を少し含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
3　7.5YR 4/6 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを少し含む

13土
1　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックを含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

14土
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・ロームブロックを含む
4　7.5YR 4/6 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

15土
1　7.5YR 2/2 黒褐
2　7.5YR 3/3 暗褐
3　7.5YR 4/4 褐

17土
1　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロック含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒、ロームブロックを含む
4　7.5YR 4/4 褐　ローム粒、ロームブロックを含む

22土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む

25土
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
2　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
3　7.5YR 4/6 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む

26土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロック・焼土粒をまばらに含む
2　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む

27土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・焼土粒をまばらに含む
2　7.5YR 1/4 暗褐　ローム粒・ロームブロックを含む

28土
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

30土
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒をまばらに含み、ロームブロック・焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・ロームブロックをまばらに含み、焼土粒を少し含む
3　7.5YR 4/3 褐　ロームブロックをまばらに含み、ローム粒を少し含む
4　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをわずかに含む

31土
1　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックをまばらに含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをわずかに含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む
4　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を多く含む、ロームブロックを含む
5　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含む
6　7.5YR 4/6 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

32土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含む
2　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

33土
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を少し含む
2　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含む
3　7.5YR 4/6 褐　ローム粒・ロームブロック含む

34土
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

39土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、炭化物粒・焼土粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、焼土粒をまばらに含む
3　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、炭化物粒・焼土粒をわずかに含む
4　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む

41土
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・ロームブロックを少し含み、焼土粒をまばらに含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む

21土
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を少し含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含む、焼土粒をわずかに含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含む、ロームブロックをまばらに含む

23土
1　7.5YR 2/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

24土
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをわずかに含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをわずかに含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

29土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を多く含み、焼土粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックまばらに含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

36土
1　2.5YR 暗赤褐　焼土粒を多く含み、ローム粒を含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　焼土粒を少し含み、ローム粒を含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
4　7.5YR 4/6 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む

42土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・ロームブロックを含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

43土
1　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を含み、焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
3　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロック・焼土粒を含む
4　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

44土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・ロームブロックを少し含み、焼土粒をまばらに含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む

45土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含み、焼土粒・ロームブロックをわずかに含む
2　7.5YR 4/4 褐　ローム粒多く含み、ロームブロックを少し含む
3　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む

46土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒・炭化物粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブを少し含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームクを多く含む

47土
1　5YR 3/6 暗赤褐　ローム粒・焼土粒を多く含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む

48・51土
1　7.5YR 6/3 褐　ローム粒・ロームブロックを少し含み焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・ロームブロック・焼土粒を含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

35土
1　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・ロームブロックを含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含む

38土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・焼土粒を少し含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒含み、ロームブロックを少し含む

40土
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を少し含む
2　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む

49土
1　7.5YR 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む

54土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・焼土粒を少し含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む
3　7.5YR 4/6 褐　ローム粒・ロームブロックを主体とする

55土
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
4　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

57土
1　7.5YR 1/3 暗褐　ローム粒含み、焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

60土
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

62土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを少し含み、焼土粒をわずかに含む
3　7.5YR 4/6 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

63土
1　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックを含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを少し含む

64土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックをまばらに含む

65土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
3　7.5YR 3/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

69土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロック・焼土粒をわずかに含む

68土
1　7.5YR 3/2 黒褐　焼土粒を含み、ローム粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
3　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含む

71土
1　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロック・灰を含む
2　7.5YR 4/2 灰褐　ローム粒を少し含み、灰を含む
3　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを含み、灰をわずかに含む
4　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、灰をまばらに含む
5　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
6　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロック

52土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒・ロームブロックをまばらに含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む、焼土粒をわずかに含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む

53土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む
3　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む

56土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
2　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

80土
1　7.5YR 4/4 暗褐　ロームブロックを含み、ローム粒を少し含む
2　7.5YR 4/4 褐　ロームブロックを含み、ローム粒を含む
3　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを含む
4　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・ロームブロックを含む
5　7.5YR 4/4 褐　粘土ブロック
6　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含み、炭化物粒・焼土粒を少し含む

70土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む

58土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含み、焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックをまばらに含む
3　7.5YR 4/6 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

59土
1　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む、焼土粒をわずかに含む
3　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを含み焼土粒をわずかに含む
4　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

73土
1　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを含み、焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を含み、ロームブロック、焼土粒をまばらに含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

66土
1　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
4　7.5YR 4/6 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

67土
1　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
3　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含む

79土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒をわずかに含み、ロームブロックをまばらに含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をわずかに含む
3　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒をわずかに含み、焼土粒をまばらに含む
4　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをわずかに含む
5　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む

82土
1　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、焼土粒・ロームブロックをまばらに含む
3　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む

72土
1　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を少し含み、焼土粒をわずかに含む
2　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む

74土
1　7.5YR 3/3　ローム粒を少し含み、焼土粒をまばらに含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
3　7.5YR 4/6 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

83土
1　2.5YR 3/6 暗赤褐 焼土粒を主体とする
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含む
3　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
4　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
5　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をまばらに含む
6　7.5YR 4/3 褐　ローム粒をやや多く含み、ロームブロックを少し含む

95・96土
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
3　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
4　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む
5　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
6　7.5YR 4/2 灰褐　ローム粒少量含む
7　7.5YR 4/3 褐　ローム粒をやや多く含む
8　7.5YR 4/4 褐　ローム粒をやや多く含む
9　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少量含む
10　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を多く含む

100土
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒を少し含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
3　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

104土
1　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロック・炭化物をやや多く含む
2　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒・ロームブロックの炭化物を多量含む

92土
1　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・焼土粒・炭化物を少量含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒・焼土粒・炭化物を多く含む

90土
1　7.5YR 4/2 褐　ローム粒をやや多く、炭を少量含む
2　7.5YR 4/2 灰褐　ローム粒・ロームブロックを多量に、炭を少量含む

97土
1　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・ロームブロックをまばらに含む
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒・ロームブロックをわずかに含む
3　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒をわずかに含む
4　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む
5　7.5YR 4/6 褐　ロームブロックを多く含む
6　7.5YR 4/4 褐　ローム粒を多く含む

110土
1　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックをやや多く含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　ローム粒を少量含む

101土
1　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含む
2　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒子・ロームブロックを少し含み・炭化物をまばらに含む
3　7.5YR 4/6 褐　ローム粒を多く含み、ロームブロックを含む

87土
1　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックを少量含む
2　7.5YR 5/4 にぶい褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

93土
1　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロックをやや多く炭を少量含む
2　7.5YR 4/2 灰褐　ローム粒・ロームブロックを多量に含み、炭を少量含む

98土
1　7.5YR 8/2 灰　白灰を主体とする
2　7.5YR 3/3 暗褐　ローム粒を少し含む
3　7.5YR 3/4 暗褐　ローム粒・ロームブロックを少し含む
4　7.5YR 4/3 褐　ローム粒を含み、ロームブロックをまばらに含む
5　7.5YR 6/4 褐　ローム粒・ロームブロック含む

86土
1　7.5YR 4/2 灰褐　ローム粒・炭化物をやや多く含む
2　7.5YR 4/4 褐　ロームブロックを少量含む
3　7.5YR 5/6 明褐　ロームを主体とする

108土
1　7.5YR 4/2 灰褐　ローム粒を含む
2　7.5YR 4/3 褐　ローム粒・ロームブロック・粘土ブロックをやや多く含む
3　7.5YR 4/4 褐　ソフトロームが多く混じる
4　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを多く含む

94土
1　7.5YR 3/1 黒褐　炭化物粒・焼ニヒ粒を含み、ローム粒をわずかに含む
2　7.5YR 3/2 黒褐　炭化物粒・ローム粒を含む、焼土粒をわずかに含む
3　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒を少し含み、ロームブロックをまばらに含む
4　7.5YR 3/1 黒褐　ローム粒を少し含み、炭化粒・焼土粒をまばらに含む
5　7.5YR 4/6 褐　ローム粒を含み、ロームブロックを少し含む
6　7.5YR 4/4 褐　ローム粒・ロームブロックを含む

111土
1　7.5YR 4/2 灰褐　ローム粒・ロームブロックをやや多く含み、炭化物を少量含む
2　7.5YR 5/4 にぶい褐　ロームを多く含む
3　7.5YR 3/4 にぶい褐　ロームブロックを主体とする

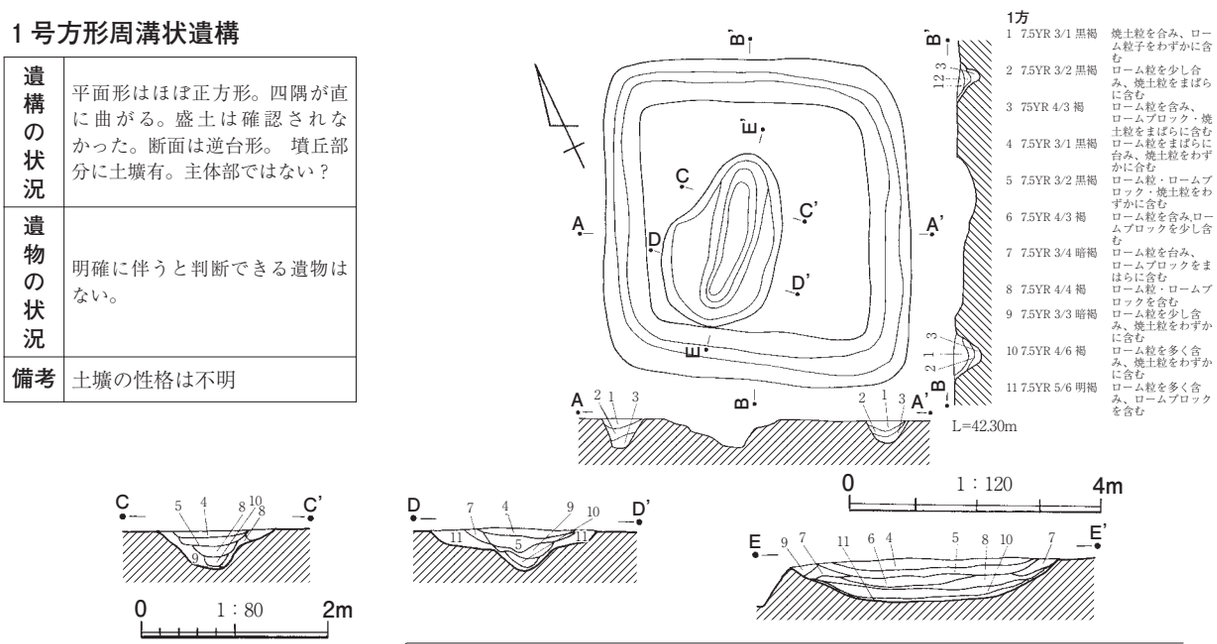
4　方形周溝状遺構

第51表　井戸作南遺跡検出の方形周溝状遺構一覧

遺構No.	検出区	方位	法量（m） 長軸	短軸	溝幅	周溝深さ	周溝堀方断面形状	時代時期	挿図No. 遺構	遺物	備考
			（上端）								
			（下端）								
1号	4E　27	N－　30°　－E	5.12	4.88	0.78	0.44	逆台形	奈良・平安	第235図	－	土壙有
			3.7	3.6							
2号	4E　25	N－　24°　－E	8.32	8.16	1.28	0.7	逆台形	奈良・平安	第235図	－	
			5.8	5.52							

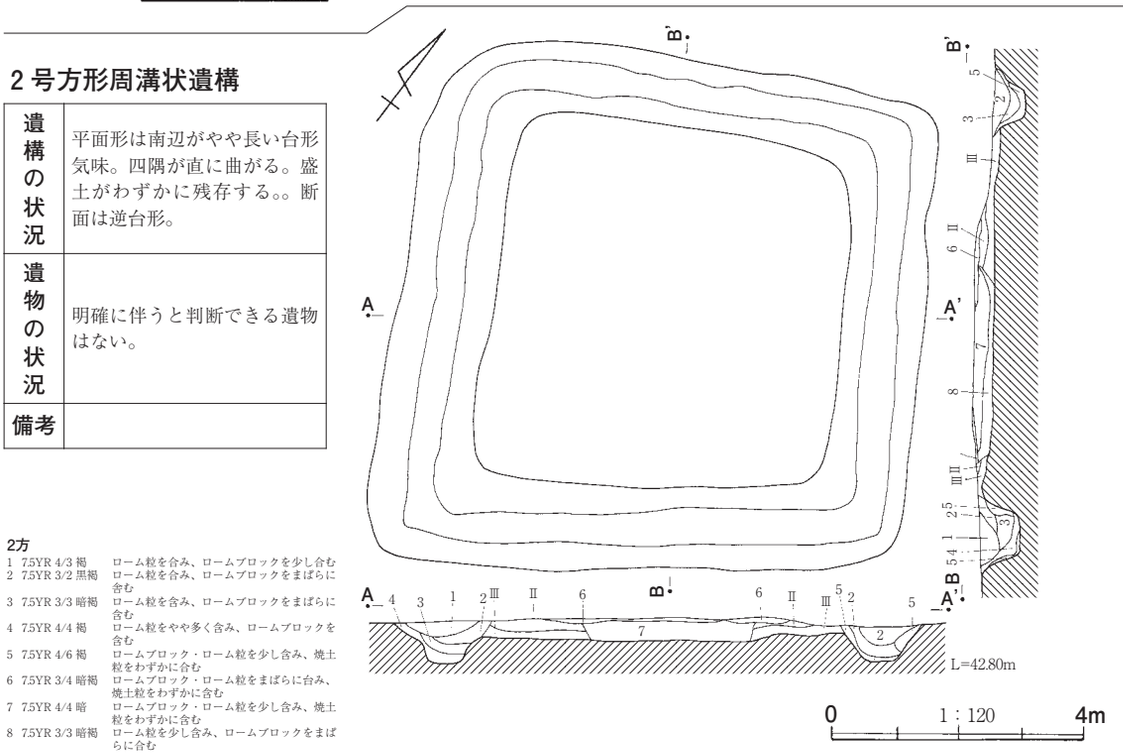
1号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面形はほぼ正方形。四隅が直に曲がる。盛土は確認されなかった。断面は逆台形。 墳丘部分に土壙有。主体部ではない？
遺物の状況	明確に伴うと判断できる遺物はない。
備考	土壙の性格は不明



2号方形周溝状遺構

遺構の状況	平面形は南辺がやや長い台形気味。四隅が直に曲がる。盛土がわずかに残存する。。断面は逆台形。
遺物の状況	明確に伴うと判断できる遺物はない。
備考	



第235図　井戸作南遺跡１・２号方形周溝状遺構

5　調査区一括遺物

井戸作南遺跡の調査面積は広く、相応の遺物量が出土した。量が膨大であったため、抽出できた遺物は、ほんの一部である。第236～246図に掲載した遺物は、できるだけ地区ごとにまとめて掲載しているが、石器や土製品などはそのかぎりではない。

出土した遺物は、土器（縄文土器・土師器）・土製品・土偶・石器（石斧・石鏃・石棒・石皿など）である。遺物総量が多かったにもかかわらず、石器類の出土が少ないという特徴がみられる。

土器　縄文土器は、中期の阿玉台式・加曽利ＥⅡ・Ⅳ式、後期の堀之内式・加曽利Ｂ式・曽谷式・安行式、晩期の安行式・前浦式が出土している。器形は、深鉢・浅鉢（台付含）・異形器台などがある。

阿玉台式は、2D96･97地区（第236図-16･17）と2E5～7地区（第237図-42～49･49･52）に集中して散在していた。しかし、遺物が一定量あるのも関わらず、遺構は全く検出されていない。阿玉台式期でよく見受けられる傾向である。復元できるものも少なく、遺構が存在していたとしても小規模な遺構であった可能性もあろう。輪積痕の痕跡は見られず、二列の角押文、口縁部文様体の拡大、キャリパー型の口縁部、雲母が目立つなどの諸条件から、阿玉台Ⅱ式のものでほぼ占められているようである。

加曽利ＥⅡ式（第238図-79）とⅣ式（第237図-40）は微量で、遺構は検出されていない。

堀之内式は、土壙が８基（４･16･27･30･31･34･44･71号土壙）検出されている。第237図-30･第238図-65･76･第239図-89･98･第240図-118･125･第244図-194などが堀之内式期となろう。３Ｅ地区で多く分布している。

加曽利Ｂ式は最も多い。各小期ごとの分布傾向に際だった偏りはなく、宮内井戸作遺跡側には広く同期の遺物が出土する。住居跡が検出された２Ｅ区に加曽利Ｂ２式がやや多いようである。

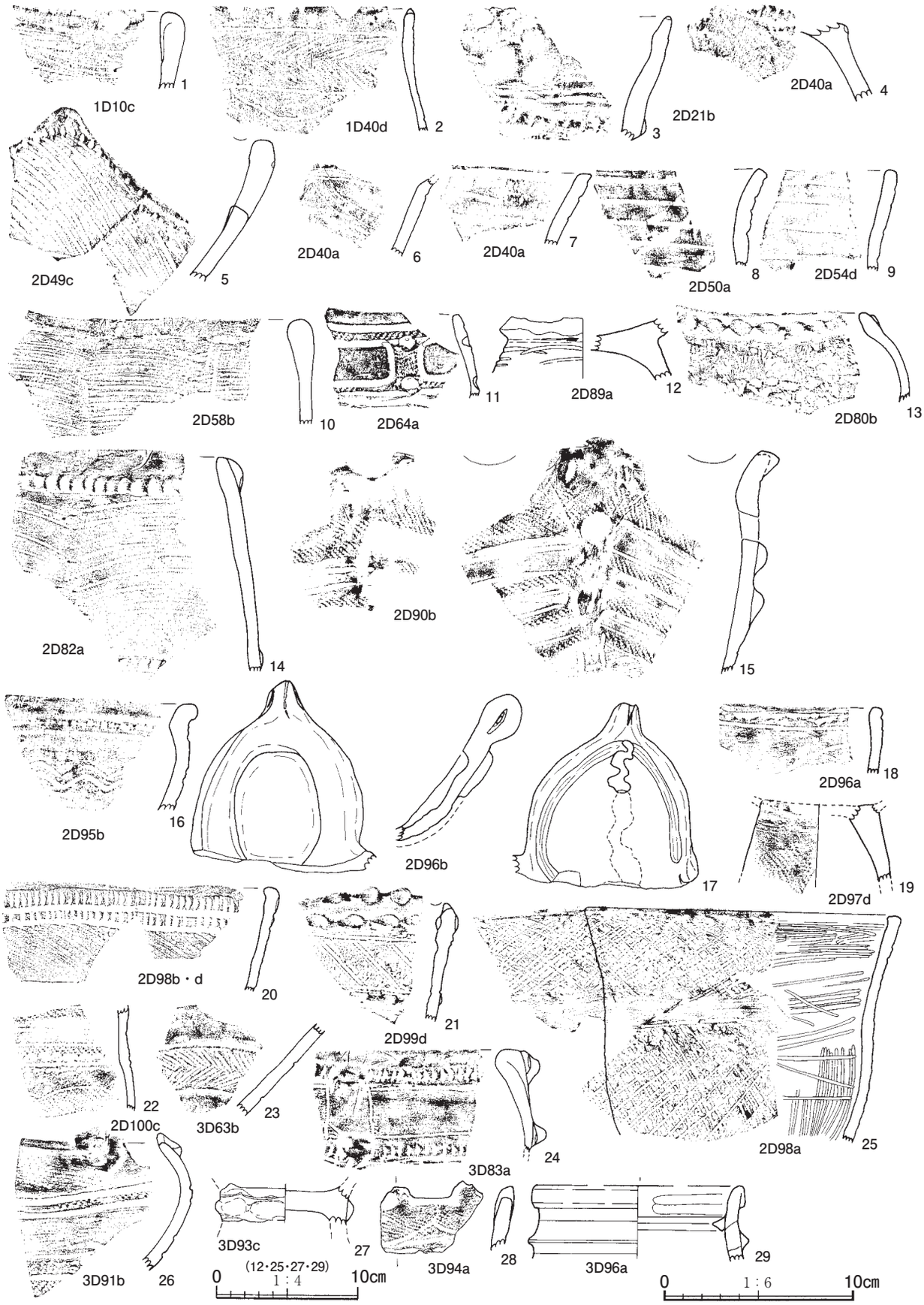
曽谷式は量的には少ない。第236図-２･18･20･22･第237図-37･77などが相当するか。分布に際だった偏りはない。

安行式は、後期の安行１式（第236図-15・第237図-31･第239図-88・99等）、安行２式（第238図-83・第239図-100・第240図-113等）と晩期の安行3ａ式、安行3ｂ式（第236図-28･第237図-38等）、安行3ｃ式（第236図-７～９･第238図-56･82･第239図-87･108･第244図-202等）があり、精製と粗製がある。

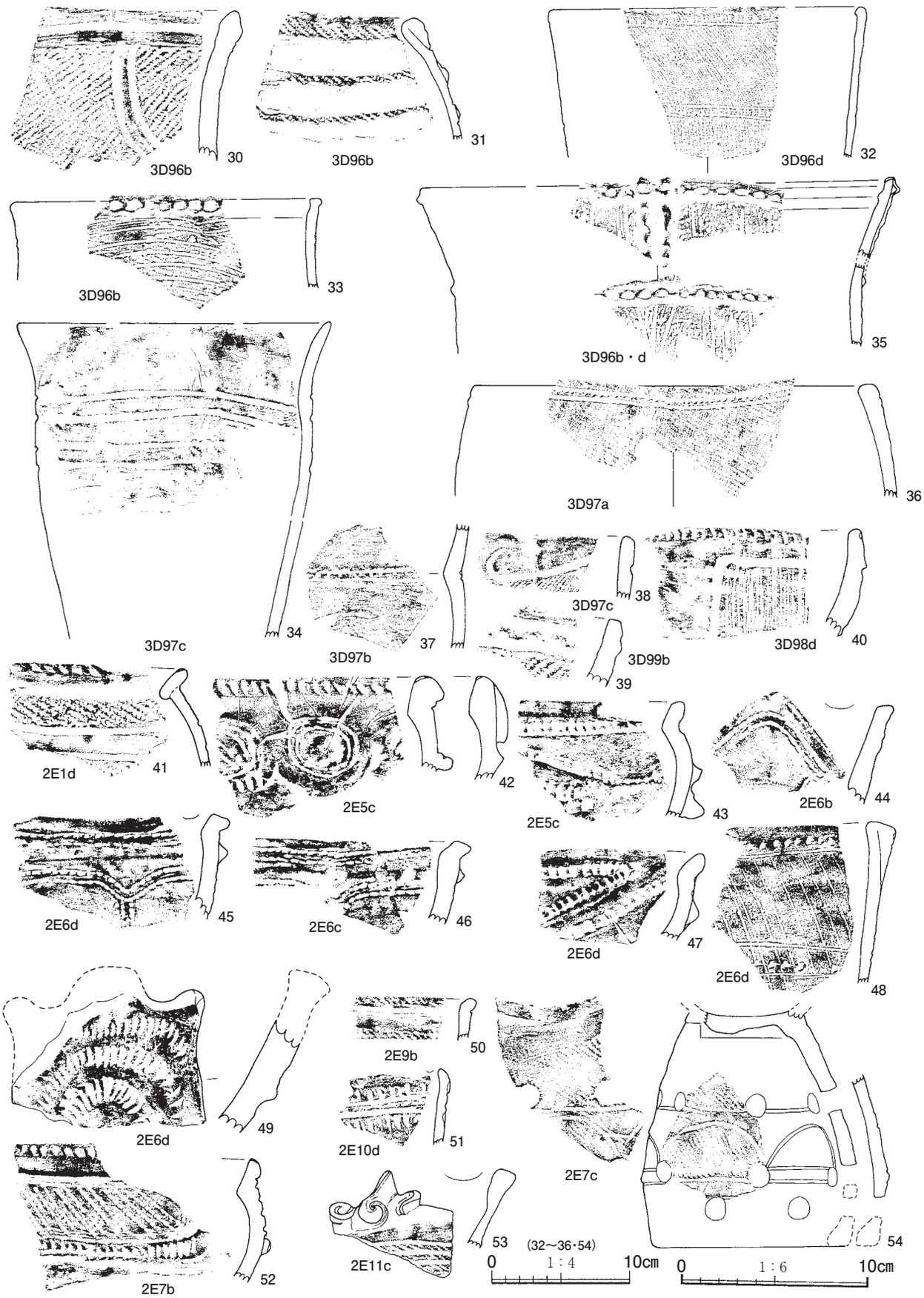
台付浅鉢片は、第236図-４･27･第237図-54･第238図-55･66、異形器台の脚が第244図-196であろう。

土偶　土偶は、４個体分出土した。第245図-208は、加曽利Ｂ式期の頭が欠損した土偶である。3D97ｂ地区で出土している。周囲には頭らしき破片はなく、上半と下半に割れ、上半は更に２つの分括していた。意図的に破砕した感が伺える。同図-209も加曽利Ｂ式期の脚部を欠損した土偶である。2D59ｃ地区で出土した。これらは、住居跡が検出された地区とは離れた地区から出土している。同図-210は、加曽利Ｂ式期の土偶の左腕である。指先の一部も欠損している。3E22ｄ地区の１号溝覆土中より出土した。同図-211は、晩期の中空土偶である。2D98ｂ地区で出土した。周辺に同期の遺構は検出されていない。宮内井戸作遺跡の土偶出土量からするととても少ない。やはり集落主体から離れているからであろうか。

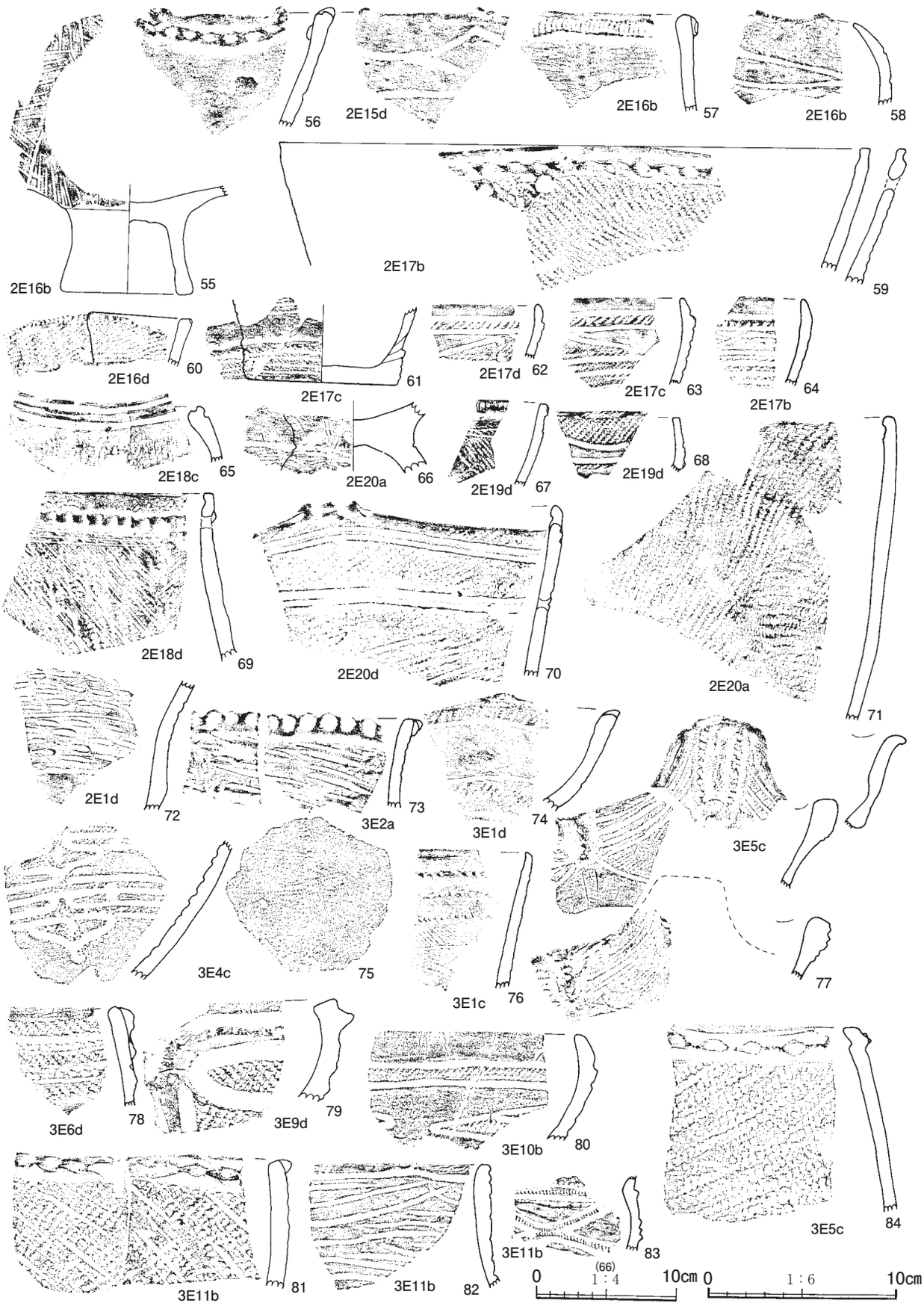
第242図-175～177は古墳時代中期の土師器である。175が３Ｄ96ｂ地区、176が３Ｄ23ａ地区、177が3E11ｂ地区で出土し、周辺には同時期の遺構は検出されていない。4D･4Ｅ区で検出された９･10号住居跡と同一の集落が未調査範囲に間隔をあけて分布していたのであろうか。



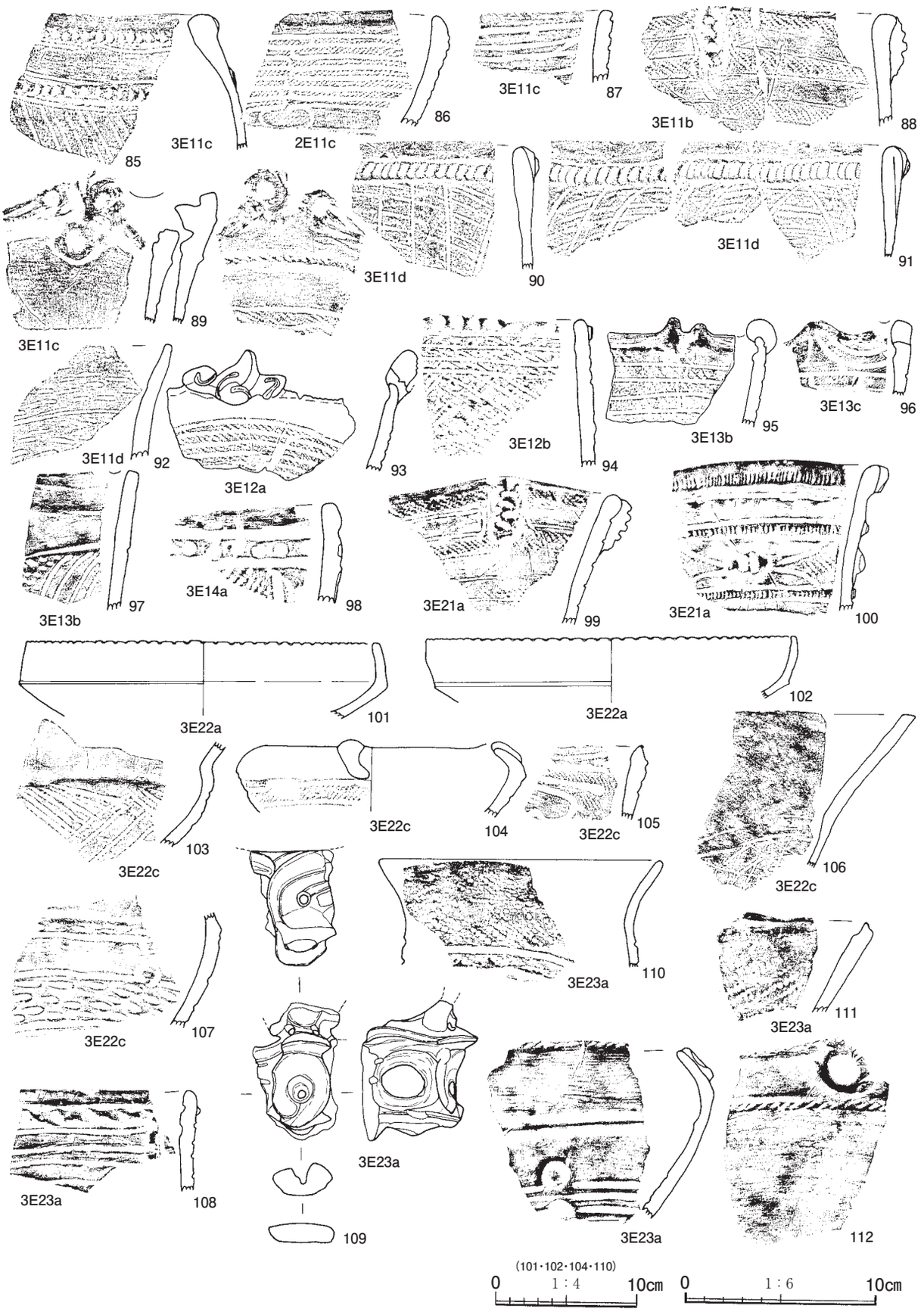
第236図　井戸作南遺跡調査区出土遺物①



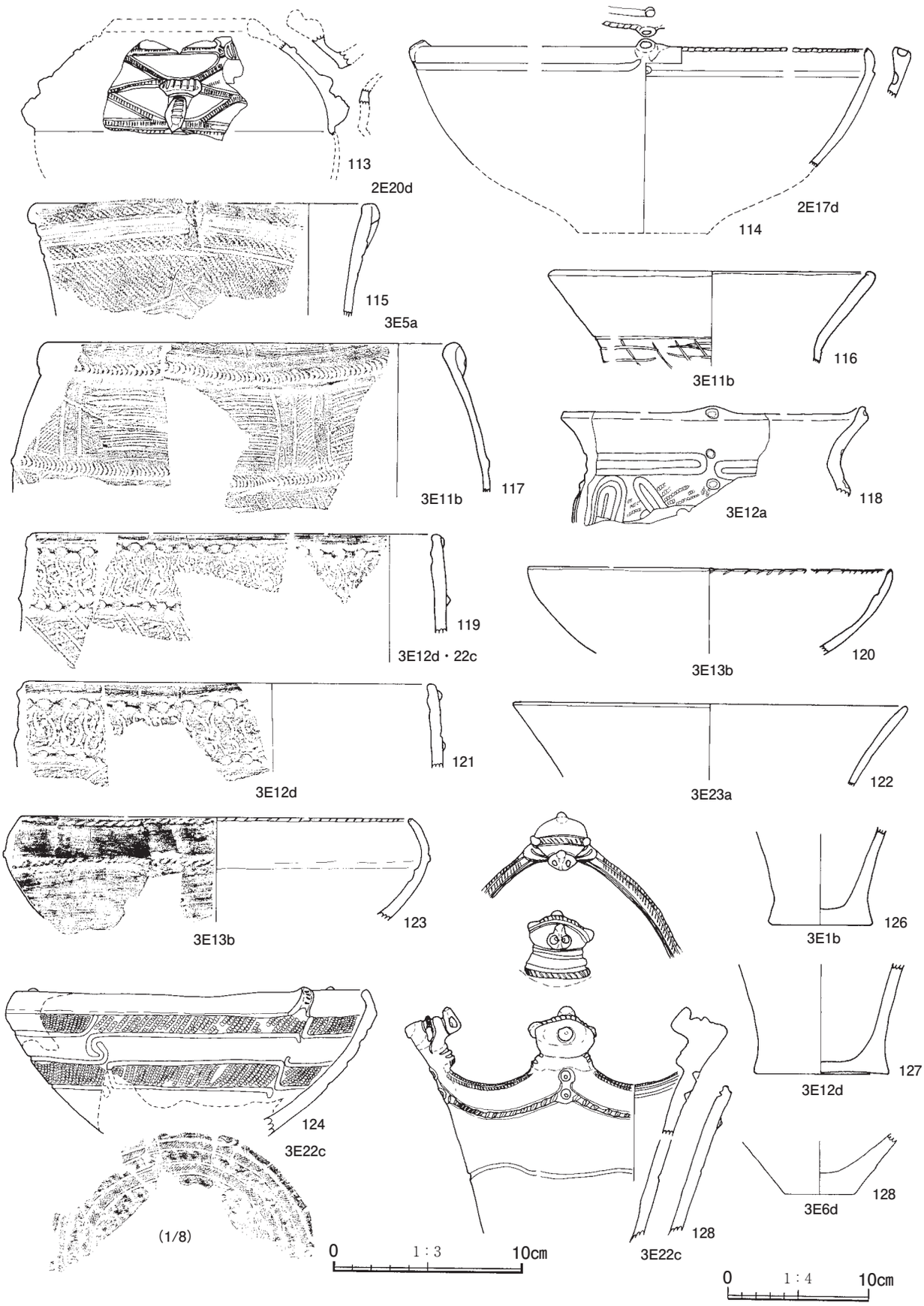
第237図　井戸作南遺跡調査区出土遺物②



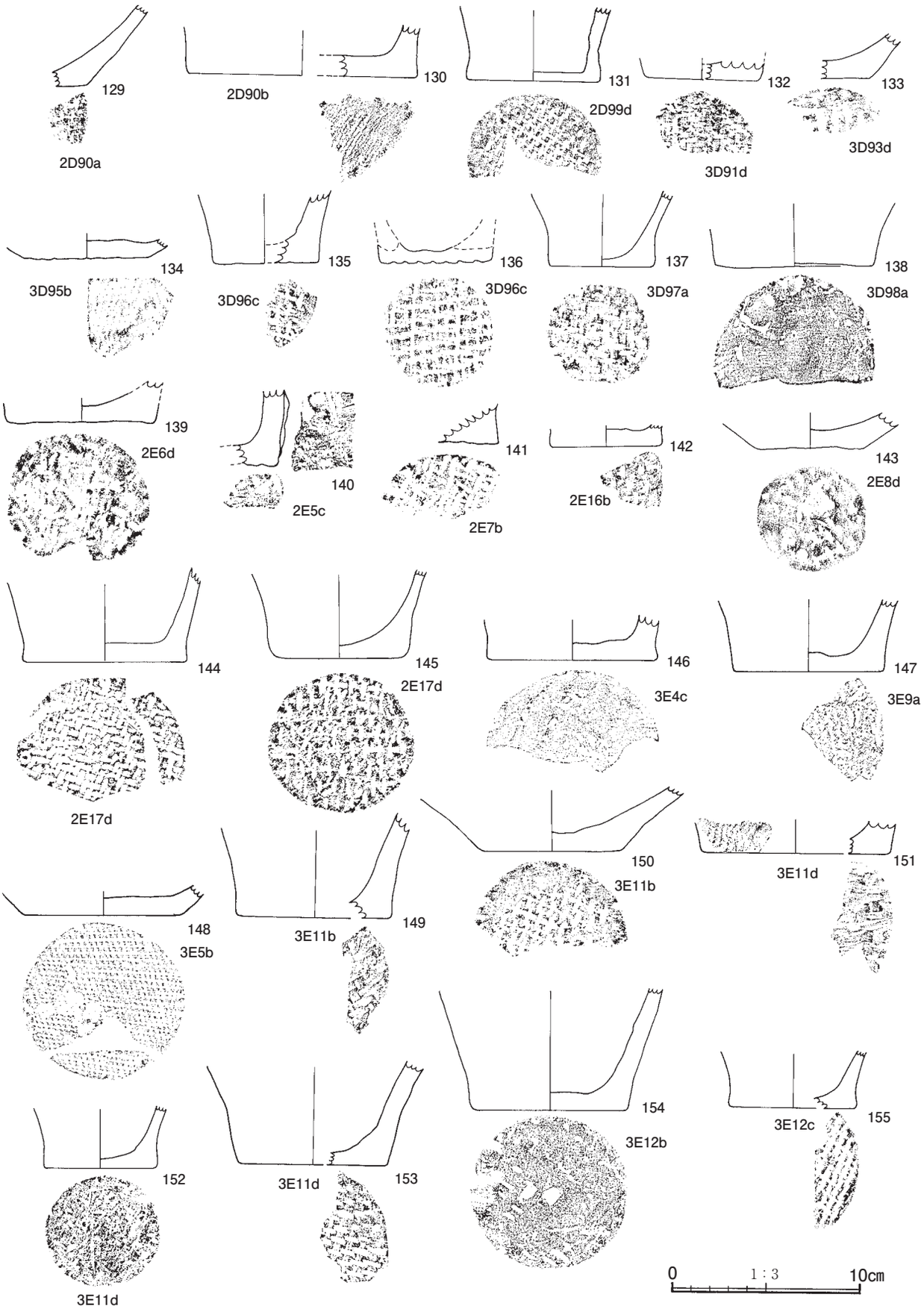
第238図　井戸作南遺跡調査区出土遺物③



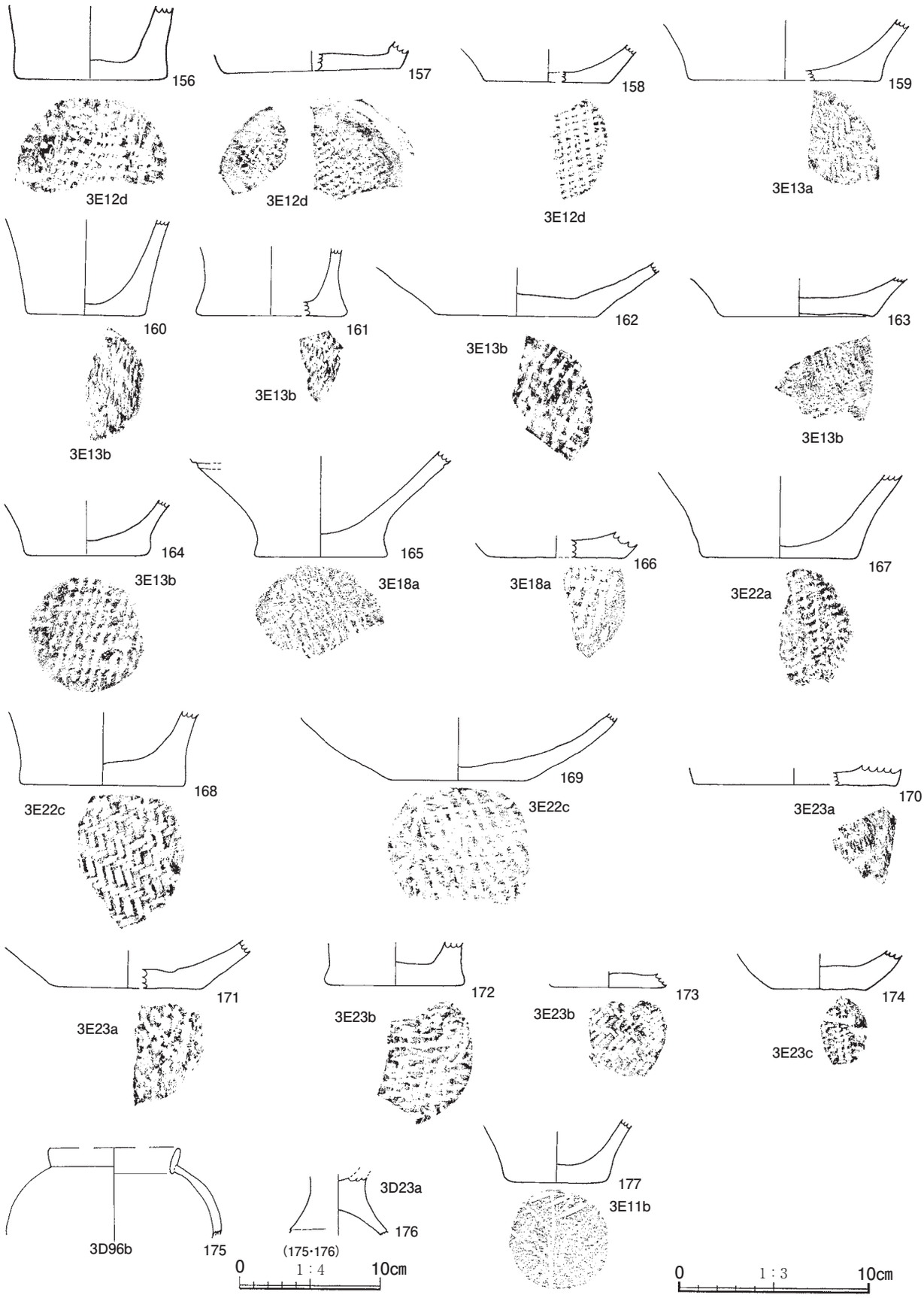
第239図　井戸作南遺跡調査区出土遺物④



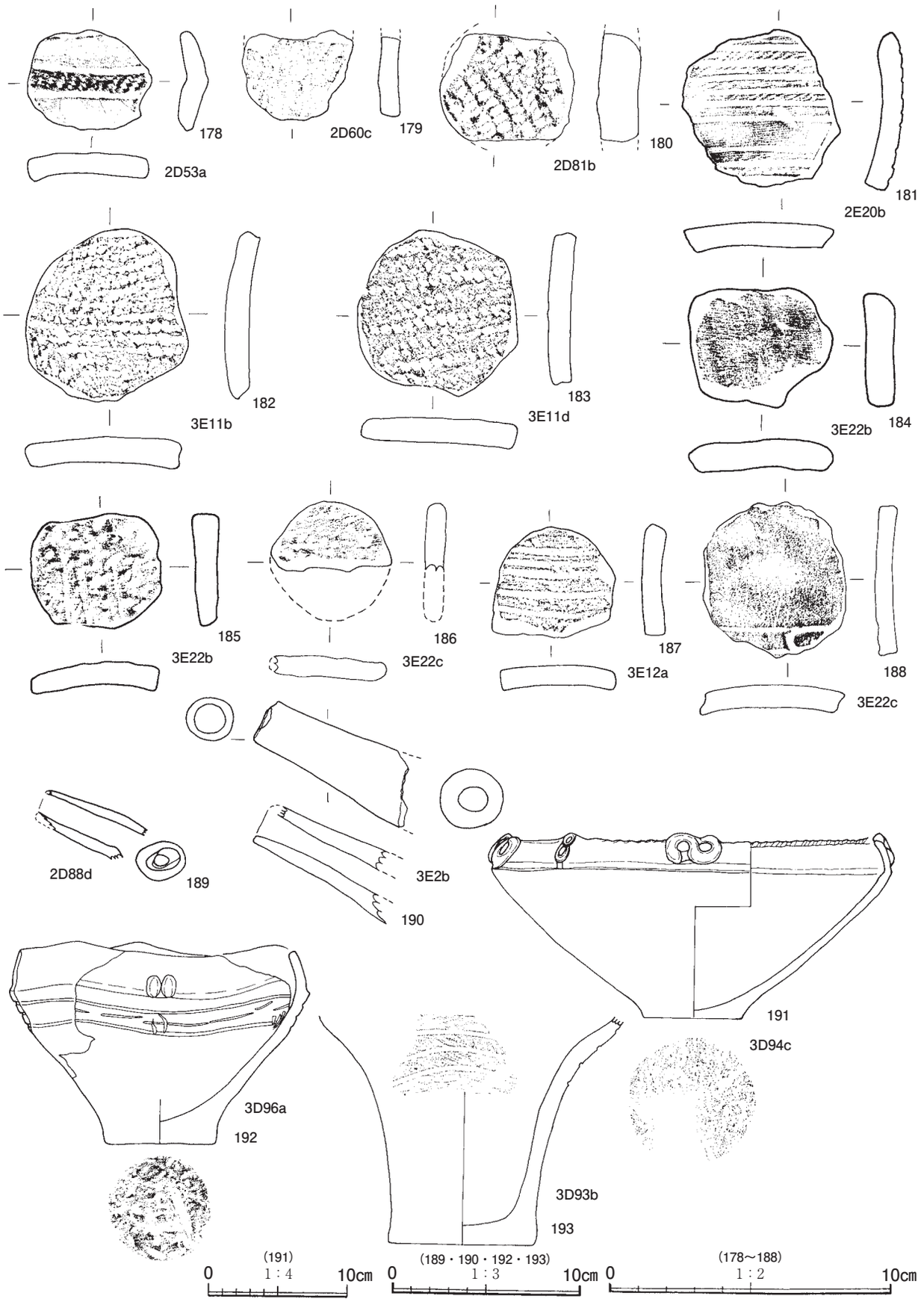
第240図　井戸作南遺跡調査区出土遺物⑤



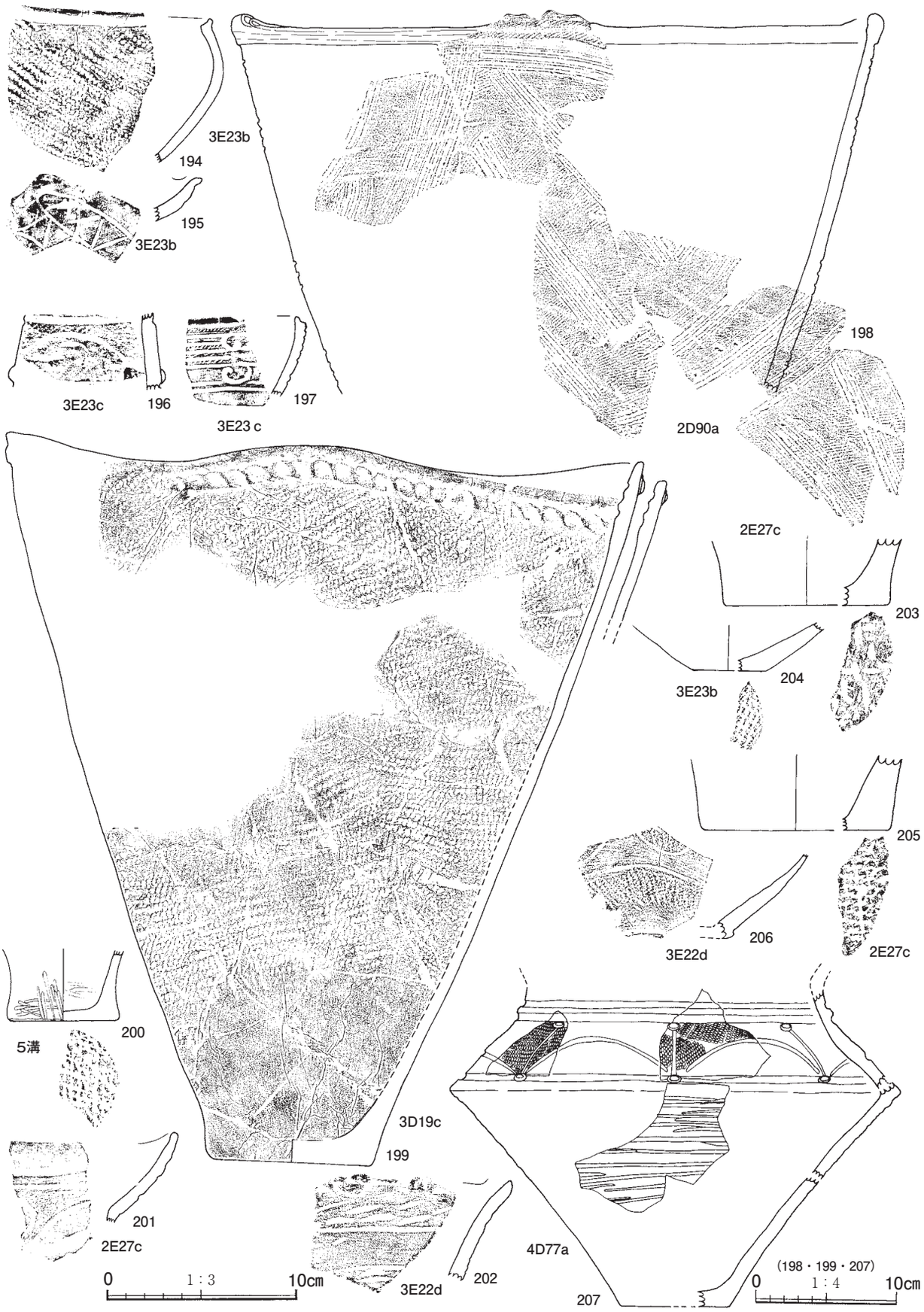
第241図　井戸作南遺跡調査区出土遺物⑥



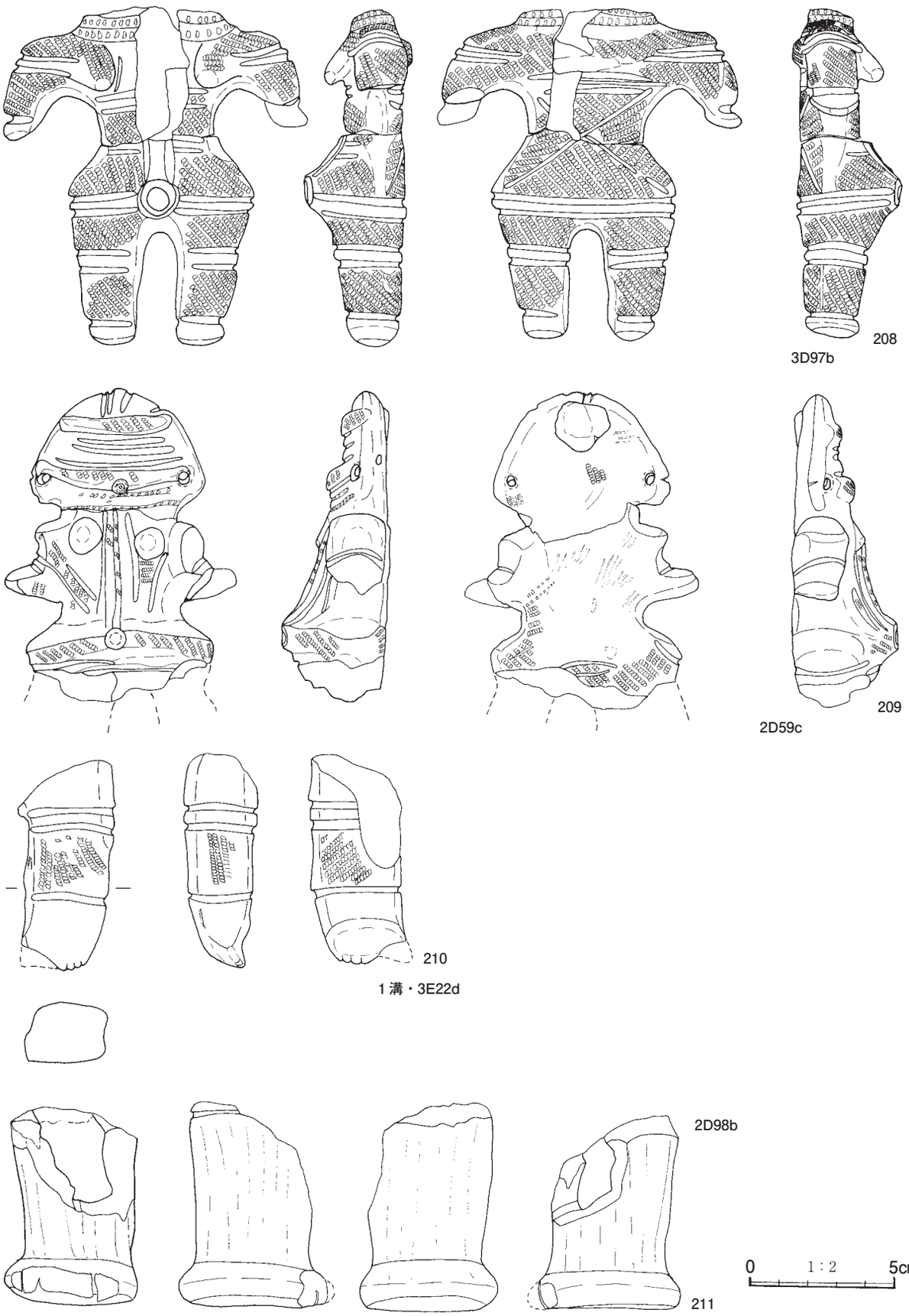
第242図　井戸作南遺跡調査区出土遺物⑦



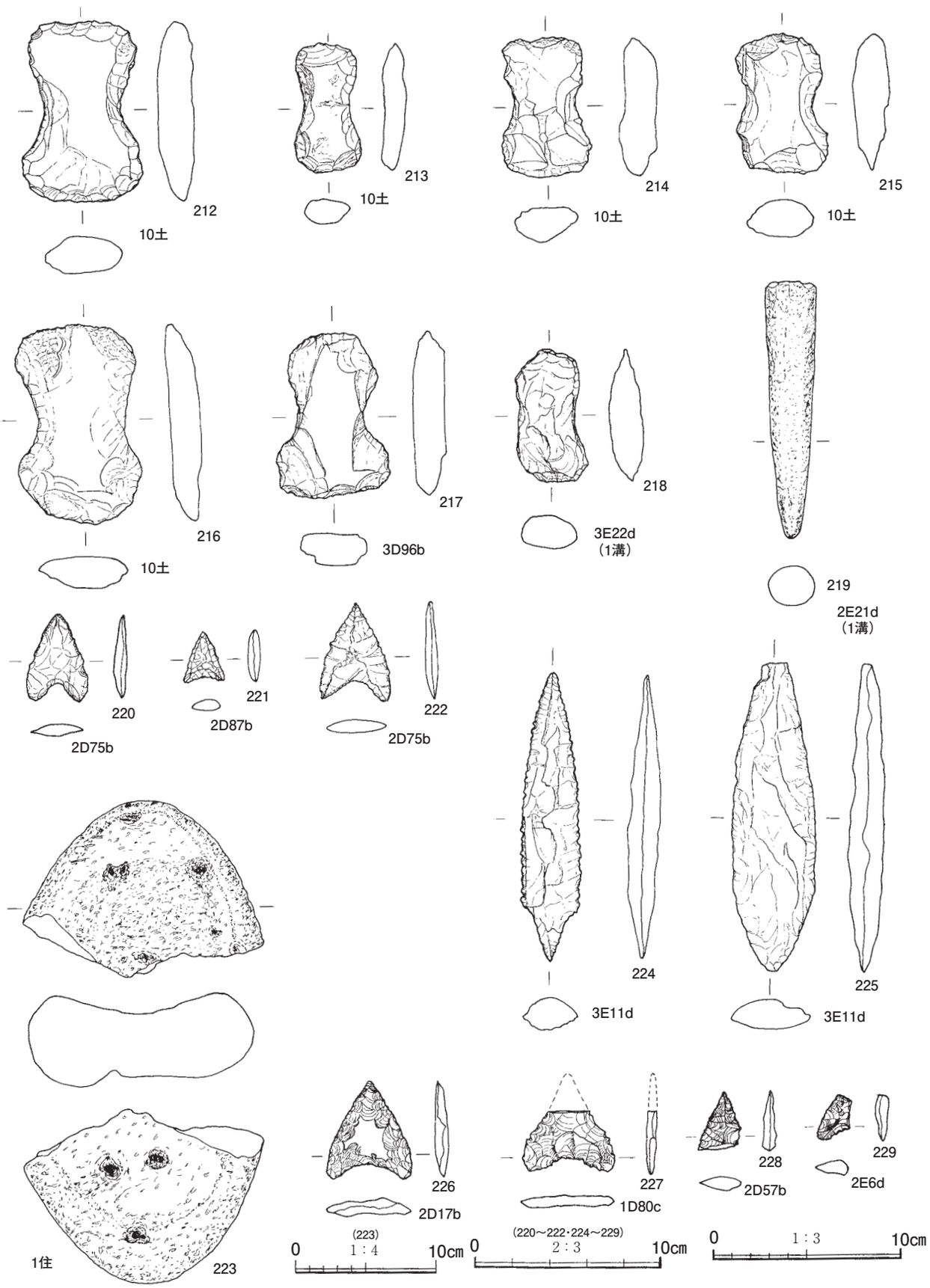
第243図　井戸作南遺跡調査区出土遺物⑧



第244図　井戸作南遺跡調査区出土遺物⑨

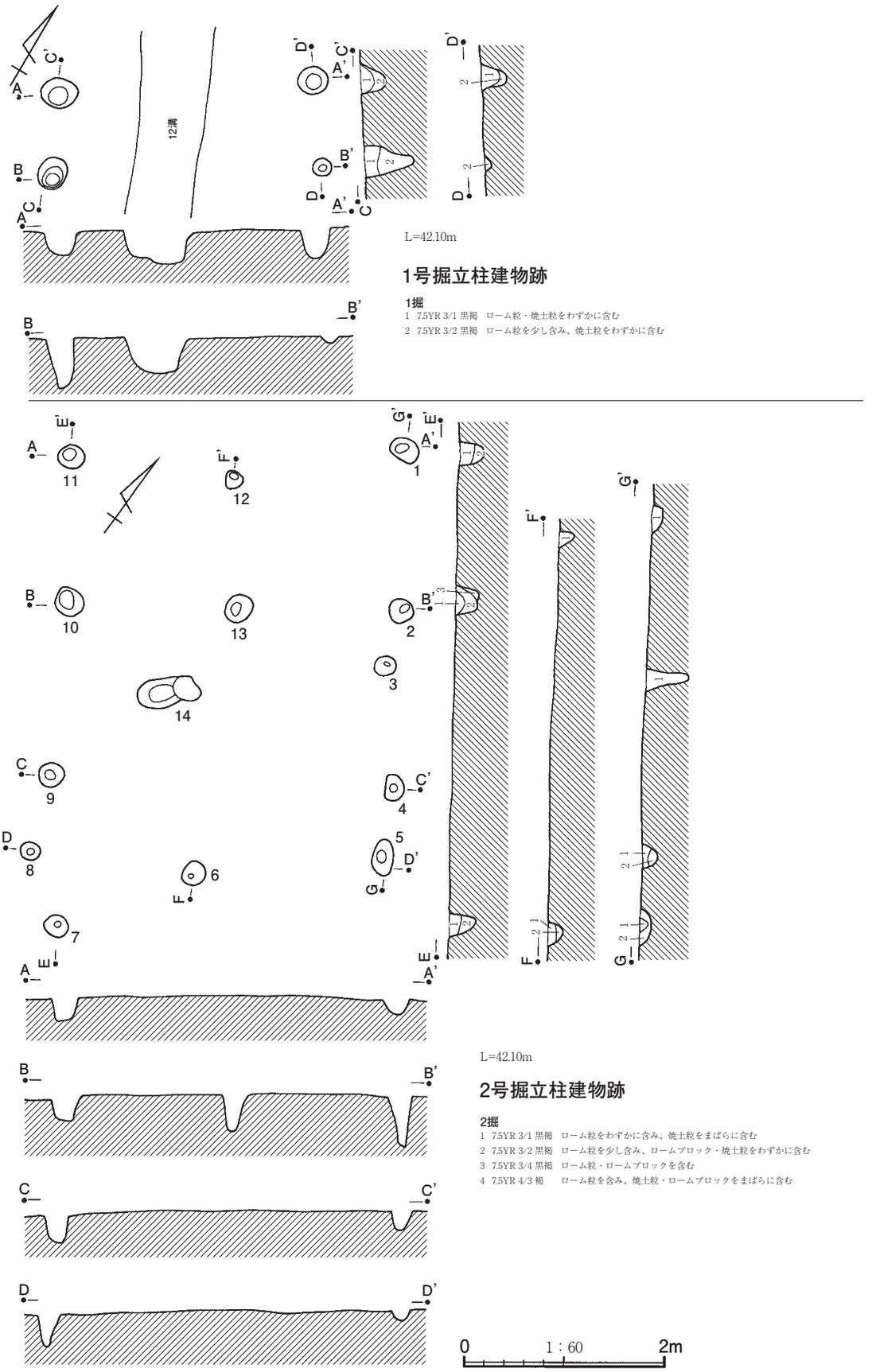


第245図　井戸作南遺跡調査区出土遺物⑩（土偶）



第246図　井戸作南遺跡調査区出土遺物⑪（石器）

6　掘立柱建物跡



第247図　井戸作南遺跡 1 ・ 2 号掘立柱建物跡

第３節　小結

井戸作南遺跡からは、住居跡８軒・陥穴18基・土壙91基・方形周溝状遺構２基・掘立柱建物跡２棟・溝28条・炭窯６基が検出された。

旧石器　２Ｅ19ｄ地区から有舌尖頭器が１点（第246図-224）と２Ｅ11ｃ地区から尖頭器１点（同図-225）が包含層から出土している。

住居跡　縄文時代中期・加曽利ＥⅡ式期の住居跡１軒（７号住居跡）、後期・加曽利Ｂ１式期の住居跡が７軒（２～６・８号住居跡）・加曽利Ｂ３式期の住居跡が１軒（１号住居跡）である。宮内井戸作遺跡の縄文後期集落の最西端に位置する。ここから西側・南側には縄文後期集落は全く展開しない。

古墳時代中期の住居跡（９・10号住居跡）は、調査範囲の南部に位置する。当該期の住居跡は下泉町遺跡群で１軒検出され、宮内井戸作遺跡でも数軒検出されている。９・10号住居跡は、直線距離で約30ｍ程離れており、密集した集落とは言い難い。各住居跡間が均等に30ｍ前後の間隔が存在した場合、北側に集落が広がらないことは調査が実施されているので明白であり、その場合は南側・南西側に展開する可能性が推定される。大草台古墳群検出の１号住居跡とは直線距離で南東方向に約350ｍ、同一台地状の西縁辺部に小規模な古墳時代中期の集落が点在していた可能性を示唆している。

９号住居跡から滑石製の紡錘車（製品と未製品各１点）・円板未製品・勾玉が出土した。これら以外に製作途中または製作関わると見られる遺物は出土していない。

陥穴　遺跡群で最も多い検出数である。床面に柱穴があるもの（６・11・13号陥穴）、底部幅が狭くなるもの（１・４・７・14・16号陥穴）、円形で深さがあるもの（８・12号陥穴）、その他は平面長楕円形で、平面形・深さに大小がある。総じて遺物が少なく時期の比定が難しい。４号陥穴から加曽利Ｂ３式の土器片が伴う。

土壙　本遺跡で検出された土壙からは、上谷津第２遺跡で検出されたような、多量の遺物が出土するものはなく、ほとんど遺物が出土していない。配列にも規則性は見られず、平面形には系統付けしにくい形態のものが多い。80号土壙のように、土壙というよりもあたかも住居跡のような平面形と規模を有するものや94号土壙のように深さがあり、斜傾するといった得意な形態のものもある。この遺跡で検出された土壙は総じてとらえどころの少ない遺構である。

方形周溝状遺構　２基の方形周溝状遺構は９号住居跡に近く、縄文時代の遺構が希薄になった範囲に分布する。１号方形周溝状遺構は、土坑状の凹みが墳丘部にあるが主体部ではない。この土坑からは遺物も何も出ていないので、造営時期が不明である。２基の方形周溝状遺構は、西側の端山越遺跡との間に浸食谷の凹部が介在し、東側にも宮内井戸作遺跡の縄文集落が濃密に分布する浸食谷へと緩傾斜する谷筋との間にある台地の頂上に位置する。これらよりも南東側に台地平坦部が続くが、台地は狭く遺構が広く展開する余地はない。恐らく、小規模な方形周溝状遺構群の一部と推測される。

掘立柱建物跡　３Ｅ４～５地区付近に２棟の掘立柱建物跡が検出された。１号掘立柱建物跡は、柱穴が４穴しか検出できなかったが、実際は２号掘立柱建物跡に近い形状であった可能性が高い。２号掘立柱建物跡は、２間×変則３間で、Ｐ13の屋内柱穴もある。柱穴規模と配列の状況から中世以降の掘立柱建物跡と推定する。

第52表　出土遺物観察表（縄文土器・土製品等）

No.	遺跡名	遺構名	器種 部位	時期 型式	法量（cm・g）					位置層位	残存具合	注記	挿図番号	備考
					口径	器高	底径	最大径	重さ					
1	明神台	1住	深鉢 口縁部	後期 堀之内1式	−	−	−	−	−	覆土中	破片	A1-81	第27図	
2	明神台	1住	深鉢	後期	−	−	−	−	−	覆土中	破片	A1	第27図	
3	明神台	1住	深鉢 口縁部	後期 堀之内1式	−	−	−	−	−	覆土中	破片	A1-69	第27図	
4	明神台	1住	深鉢 口縁部	後期 堀之内1式	−	−	−	−	−	覆土中	破片	A1	第27図	
5	明神台	1住	深鉢 口縁部	後期 堀之内1式	−	−	−	−	−	覆土中	破片	A1	第27図	
6	明神台	1住	深鉢 口縁部	後期 堀之内1式	−	−	−	−	−	覆土中	破片	A1	第27図	
7	明神台	1住	深鉢 口縁部	後期 堀之内1式	−	−	−	−	−	覆土中	破片	A1-63	第27図	
8	明神台	1住	深鉢 胴部	後期 堀之内1式	−	−	−	−	−	覆土中	破片	A1-88	第27図	
1	明神台	2住	深鉢 口縁部	中期末葉 加曽利EⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	破片	A2	第27図	
2	明神台	2住	深鉢 口縁部	中期末葉 加曽利EⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	破片	A2	第27図	
3	明神台	2住	深鉢 口縁部	中期末葉 加曽利EⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	破片	A2-20	第27図	
4	明神台	2住	深鉢 胴部	中期末葉 加曽利EⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	破片	A2	第27図	
5	明神台	2住	深鉢 胴部	中期末葉 加曽利EⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	破片	A2	第27図	
6	明神台	2住	深鉢 底部	中期末葉 加曽利EⅣ式	−	(13.8)	7.2	−	−	覆土中	底部1/2	A2-30	第27図	
1	明神台	3住	深鉢 口縁部	後期 加曽利B式	(38.0)	(41.2)	−	(44.0)	−	カマド	上半3/2 底部欠損	A3-1	第28図	
1	明神台	4住	深鉢 口縁部	中期末葉 加曽利EⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	破片	A4-60	第27図	
2	明神台	4住	深鉢 口縁部	中期末葉 加曽利EⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	破片	A4-88	第27図	
3	明神台	4住	深鉢 口縁部	中期末葉 加曽利EⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	破片	A4	第27図	
4	明神台	4住	深鉢 口縁部	中期末葉 加曽利EⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	破片	A4	第27図	
5	明神台	4住	深鉢 口縁部	中期末葉 加曽利EⅣ式	21.0	(7.6)	−	(25.0)	−	覆土中	破片	A4-107・ 114・147	第27図	
6	明神台	4住	深鉢 胴部	中期末葉 加曽利EⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	破片	A4	第27図	
1	明神台	17土	深鉢	中期 加曽利EⅢ式	−	−	−	−	−	覆土中	破片	C17-2	第31図	
2	明神台	17土	深鉢	中期 加曽利EⅢ式	−	−	−	−	−	覆土中	破片	C17-9	第31図	
1	明神台	20土	深鉢	中期末葉 加曽利EⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	下半1/2	C20-1	第31図	
8	端山越	地区 一括	小型 浅鉢？	後期 加曽利B2式	(12.2)	6.8	5.4	11.3	−	包含層	完形	3C19c-1	第69図	
21	端山越	地区 一括	土偶 胴部	後期 加曽利B式	−	−	−	−	−	包含層	手足 欠損		第69図	
3	大草台	地区 一括	深鉢	後期 曽谷式？	15.0	16.7	(5.4)	−	−	墳丘 盛土	ほぼ完形	2古　丘下	第105図	
17	大草台	地区 一括	浅鉢	後期 安行式	19.0	(8.5)	−	−	−	墳丘 盛土	口縁1/2	4古　3主	第105図	
18	大草台	地区 一括	深鉢	後期 加曽利B式？	17.0	(8.8)	−	−	−	墳丘 盛土	口縁1/2	4古　3主	第105図	
1	上谷津 第1	14住	深鉢 口縁部	中期末葉 加曽利EⅣ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A14-9･29	第114図	
2	上谷津 第1	14住	深鉢 口縁部	中期末葉 加曽利EⅣ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A14-23	第114図	
3	上谷津 第1	14住	深鉢 口縁部	中期末葉 加曽利EⅣ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A14-12･22	第114図	
4	上谷津 第1	14住	深鉢 口縁部	中期末葉 加曽利EⅣ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A4一括	第114図	
5	上谷津 第1	14住	深鉢 口縁部	中期末葉 加曽利EⅣ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A4-1	第114図	
6	上谷津 第1	14住	深鉢 胴部	中期末葉 加曽利EⅣ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A4-27	第114図	梶原類型
7	上谷津 第1	14住	深鉢 底部	中期末葉 加曽利EⅣ式	−	(5.7)	8.0	−	−	床直	底部のみ	A4-24･29	第114図	

No.	遺跡名	遺構名	器種 部位	時期 型式	法量（cm・g）					位置層位	残存具合	注記	挿図番号	備考
					口径	器高	底径	最大径	重さ					
1	上谷津第2	1住	深鉢 口縁部	中期末葉 加曽利ＥⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A1-14	第174図	
2	上谷津第2	1住	深鉢 口縁部	中期末葉 加曽利ＥⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A1-2	第174図	
3	上谷津第2	1住	深鉢 口縁部	中期末葉 加曽利ＥⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A1-13	第174図	
1	上谷津第2	2住	深鉢	早期 条痕文	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A2-1	第174図	
2	上谷津第2	2住	深鉢	早期 撚糸文	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A2一括	第174図	
3	上谷津第2	2住	深鉢	早期 条痕文	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	A2一括	第174図	
4	上谷津第2	2住	深鉢	早期 条痕文	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	A2一括	第174図	
1	上谷津第2	3住	深鉢	前期 黒浜式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A3-50	第174図	
2	上谷津第2	3住	深鉢	前期 黒浜式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A3-85･87	第174図	
3	上谷津第2	3住	深鉢	前期 黒浜式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A3-41	第174図	
4	上谷津第2	3住	深鉢	前期 黒浜式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A3-11･37･115	第174図	
5	上谷津第2	3住	深鉢	早期 撚糸文	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A3-71･72	第174図	
6	上谷津第2	3住	深鉢	前期 黒浜式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A3-22	第174図	
7	上谷津第2	3住	深鉢	前期 黒浜式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A3-102	第174図	
8	上谷津第2	3住	深鉢	前期 黒浜式	(38.0)	(25.0)	−	−	−	床直	口縁1/2	A3-131	第174図	
9	上谷津第2	3住	深鉢	前期 黒浜式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A3-5･66･81･86	第174図	
10	上谷津第2	3住	深鉢	前期 黒浜式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A3-20･28･31	第174図	
11	上谷津第2	3住	深鉢	前期 黒浜式	−	−	7.6	−	−	床直	底部一部	A3-40	第175図	
12	上谷津第2	3住	深鉢	前期 黒浜式	−	−	8.0	−	−	床直	底部一部	A3-58	第175図	
13	上谷津第2	3住	深鉢	前期 黒浜式	−	−	9.0	−	−	床直	底部一部	A3-84･93	第175図	
14	上谷津第2	3住	深鉢	前期 黒浜式	27.4	(18.2)	−	−	−	床直	口縁1/4	A3-131	第175図	
15	上谷津第2	3住	深鉢	前期 黒浜式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A3-100	第175図	
16	上谷津第2	3住	深鉢	前期 黒浜式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A3-49･69	第175図	
17	上谷津第2	3住	土錘 土器片錘	早期？ 撚糸文？	−	−	−	5.4	21.5	床直	完形	A3-77	第175図	
1	上谷津第2	4住	深鉢	早期 撚糸文	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A4一括	第175図	
2	上谷津第2	4住	深鉢	早期 撚糸文	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A4一括	第175図	
1	上谷津第2	6住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A6-149	第175図	
2	上谷津第2	6住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A6-91	第175図	
3	上谷津第2	6住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A6一括	第175図	曽利系？
4	上谷津第2	6住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A6-82	第175図	
5	上谷津第2	6住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A6-20･126･128･134	第175図	加曽利ＥⅣ式系
6	上谷津第2	6住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A6-144	第175図	加曽利ＥⅣ式系粘土巻上痕
7	上谷津第2	6住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	10.0	−	−	床直	底部一部	A6-150	第175図	
8	上谷津第2	6住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	7.0	−	−	覆土中	底部一部	A6-60	第175図	
9	上谷津第2	6住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A6-163	第175図	曽利系？
10	上谷津第2	6住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	8.0	−	−	床直	底部一部	A6-38	第175図	

No.	遺跡名	遺構名	器種 部位	時期 型式	法量（cm・g）					位置層位	残存具合	注記	挿図番号	備考
					口径	器高	底径	最大径	重さ					
11	上谷津第2	6住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	8.6	−	−	床直	底部一部	A6-115	第175図	
12	上谷津第2	6住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	8.0	−	−	覆土中	底部一部	A6一括	第175図	
13	上谷津第2	6住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	(20.7)	−	(30.0)	−	基部	胴部	A6-157	第175図	加曽利ＥⅣ式系
14	上谷津第2	6住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	32.6	40.5	7.0	32.6	−	柄部先端	ほぼ完形	A6-158	第175図	加曽利ＥⅣ式系
15	上谷津第2	6住	壺	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	(12.0)	(5.0)	−	−	床直	口縁欠損	A6-144・146 ・148・149	第176図	
16	上谷津第2	6住	壺	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	(7.0)	−	(10.0)	−	床直	胴部1/3	A6-142・143	第176図	
17	上谷津第2	6住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	20.0	(18.2)	−	−	−	床直	口縁全周	A6-9・69～71・ 122・125・166	第176図	加曽利ＥⅣ式系
1	上谷津第2	7住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A7一括	第176図	加曽利ＥⅣ式系
2	上谷津第2	7住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A7-62	第176図	加曽利ＥⅣ式系
3	上谷津第2	7住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A7-55	第176図	加曽利ＥⅣ式系
4	上谷津第2	7住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A7-33	第176図	
5	上谷津第2	7住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A7-24・46	第176図	加曽利ＥⅣ式系
6	上谷津第2	7住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	床直	胴部一部	A7-18	第176図	加曽利ＥⅣ式系
7	上谷津第2	7住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A7-30・48	第176図	加曽利ＥⅣ式系
8	上谷津第2	7住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	床直	胴部一部	A7-64	第176図	加曽利ＥⅣ式系
9	上谷津第2	7住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A7-43	第176図	加曽利ＥⅣ式系
10	上谷津第2	7住	ミニチュア土器	後期初頭 称名寺Ⅰ式	7.0	5.2	5.4	−	−	床直	完形	A7-9	第176図	加曽利ＥⅣ式系
11	上谷津第2	7住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	21.0	19.5	−	−	−	床直	上半完存	A7-50	第176図	加曽利ＥⅣ式系
12	上谷津第2	7住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	(25.0)	5.0	−	−	埋甕	下半完存	A7一括	第177図	加曽利ＥⅣ式系
13	上谷津第2	7住	蓋	後期初頭 称名寺Ⅰ式	10.3	2.8	−	−	−	床直	ほぼ完形	A7-32	第177図	瓢箪形土器の蓋
14	上谷津第2	7住	壺	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	(19.0)	6.0	15.0	−	床直	口縁欠損	A7-21～23	第177図	瓢箪形土器
15	上谷津第2	7住	石棒		長さ 90.0	最小径 6.0	最大径 12.0	重さ	−	床直	完形	A7一括	第177図	緑泥片岩
1	上谷津第2	8住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	(38.6)	9.6	−	−	埋甕	口縁欠損	A8-42	第178図	
2	上谷津第2	8住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A8一括	第178図	加曽利ＥⅣ式系
3	上谷津第2	8住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A8-25・26	第178図	加曽利ＥⅣ式系
1	上谷津第2	9住	深鉢	中期 加曽利ＥⅡ式	28.4	(18.6)	−	−	−	床直	口縁1/4	A9-1・21・44	第178図	
2	上谷津第2	9住	深鉢	中期 加曽利ＥⅡ式	−	(20.0)	−	−	−	床直	胴部1/3	A9-30	第178図	
3	上谷津第2	9住	深鉢	中期 加曽利ＥⅡ式	37.0	(11.3)	−	−	−	炉	口縁1/3	A9-18・32	第178図	
4	上谷津第2	9住	深鉢	中期 加曽利ＥⅡ式	37.0	(16.6)	−	−	−	炉	口縁1/4	A9-10・23・ 24	第179図	
5	上谷津第2	9住	深鉢	中期 加曽利ＥⅡ式	17.8	24.0	6.6	−	−	炉	ほぼ完形	A9-5	第179図	
6	上谷津第2	9住	深鉢	中期 加曽利ＥⅡ式	26.0	(15.0)	−	−	−	炉	口縁1/3	A9-4・17・19 ・22	第179図	曽利系？
7	上谷津第2	9住	深鉢	中期 加曽利ＥⅡ式	−	(15.0)	−	−	−	炉	胴部3/4	A9-3・12・25 ・26・31	第179図	
8	上谷津第2	9住	深鉢	中期 加曽利ＥⅡ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A9一括	第180図	
9	上谷津第2	9住	深鉢	中期 加曽利ＥⅡ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A9-47	第180図	
10	上谷津第2	9住	深鉢	中期 加曽利ＥⅡ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A9-23	第180図	曽利系？
11	上谷津第2	9住	深鉢	中期 加曽利ＥⅡ式	−	−	−	−	−	床直	口縁一部	A9-45	第180図	

No.	遺跡名	遺構名	器種 部位	時期 型式	法量（cm・g）					位置層位	残存具合	注記	挿図番号	備考
					口径	器高	底径	最大径	重さ					
12	上谷津第2	9住	深鉢	中期 加曽利ＥⅡ式	−	−	−	−	−	炉	口縁一部	A9-30	第180図	曽利系？
13	上谷津第2	9住	深鉢	中期 加曽利ＥⅡ式	25.0	(7.4)	−	−	−	床直	口縁1/4	A9-13・15・16	第180図	
14	上谷津第2	9住	深鉢	中期 加曽利ＥⅡ式	34.0	(11.3)	−	−	−	床直	口縁1/5	A9-14・32・33	第180図	
15	上谷津第2	9住	深鉢	中期 加曽利ＥⅡ式	35.6	(14.0)	−	−	−	床直	口縁1/2	A9-39・40	第180図	
16	上谷津第2	9住	深鉢	中期 加曽利ＥⅡ式	−	8.4	7.0	−	−	床直	底部完存	A9-5・6	第180図	
1	上谷津第2	10住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A10-93・95・97・101・102・109・182・189	第180図	加曽利ＥⅣ式系
2	上谷津第2	10住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A10-7	第180図	加曽利ＥⅣ式系
3	上谷津第2	10住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A10-8	第180図	加曽利ＥⅣ式系
4	上谷津第2	10住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A10-117	第180図	
5	上谷津第2	10住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A10-134	第180図	加曽利ＥⅣ式系
6	上谷津第2	10住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A10-26	第180図	
7	上谷津第2	10住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A10-138	第180図	加曽利ＥⅣ式系
8	上谷津第2	10住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A10-14	第180図	加曽利ＥⅣ式系
9	上谷津第2	10住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A10-31	第180図	加曽利ＥⅣ式系
10	上谷津第2	10住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A10-60	第180図	加曽利ＥⅣ式系
11	上谷津第2	10住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	A10-6・8	第180図	
12	上谷津第2	10住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	30.3	35.3	−	−	−	埋甕	底部欠損	A10-73・74・86・153・155・172・176	第181図	加曽利ＥⅣ式系
1	上谷津第2	11住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	住居内土壙	口縁一部	A11C1-40	第181図	
2	上谷津第2	11住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	住居内土壙	口縁一部	A11C1-14	第181図	
3	上谷津第2	11住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	住居内土壙	口縁一部	A11C1-49	第181図	
4	上谷津第2	11住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	住居内土壙	口縁一部	A11C1-31	第181図	
5	上谷津第2	11住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	住居内土壙	口縁一部	A11C4-2	第181図	
6	上谷津第2	11住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	住居内土壙	口縁一部	A11C1-22	第181図	
7	上谷津第2	11住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	住居内土壙	口縁一部	A11一括	第181図	
8	上谷津第2	11住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A11-19	第181図	
9	上谷津第2	11住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	A11-18	第181図	
10	上谷津第2	11住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	住居内土壙	胴部一部	A11C1-41	第181図	
11	上谷津第2	11住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	住居内土壙	胴部一部	A11C1-73	第181図	
12	上谷津第2	11住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	住居内土壙	胴部一部	A11-37	第181図	
13	上谷津第2	11住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	住居内土壙	胴部一部	A11C1-57	第181図	
14	上谷津第2	11住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	住居内土壙	胴部一部	A11C1-43	第181図	
15	上谷津第2	11住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	15.0	(12.7)	−	−	−	住居内土壙	口縁1/4	A11C1-12	第181図	
16	上谷津第2	11住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	住居内土壙	胴部一部	A11C1-57	第181図	
1	上谷津第2	12住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	A12一括	第181図	
2	上谷津第2	12住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	A12炉13	第181図	
3	上谷津第2	12住	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	(3.6)	6.0	−	−	覆土中	底部のみ	A12炉9	第181図	

第52表　出土遺物観察表（縄文土器・土製品など）

No.	遺跡名	遺構名	器種 部位	時期 型式	法量（cm・g）					位置層位	残存具合	注記	挿図番号	備考
					口径	器高	底径	最大径	重さ					
1	上谷津 第2	9土	深鉢	早期 条痕文	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	C9一括	第188図	
1	上谷津 第2	11土	深鉢	早期 条痕文	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C11一括	第188図	
2	上谷津 第2	11土	深鉢	早期 条痕文	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	C11一括	第188図	
3	上谷津 第2	11土	深鉢	早期 条痕文	−	−	−	−	−	覆土中	口縁1/3	C11一括	第188図	
1	上谷津 第2	12土	深鉢	早期 撚糸文	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	C12一括	第188図	
2	上谷津 第2	12土	深鉢	早期 撚糸文	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C12一括	第188図	
3	上谷津 第2	12土	深鉢	早期 撚糸文	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	C12一括	第188図	
4	上谷津 第2	12土	深鉢	早期 撚糸文	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C12一括	第188図	
1	上谷津 第2	16土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	C16-62	第188図	
2	上谷津 第2	16土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C16-19	第188図	
3	上谷津 第2	16土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	32.0	(25.0)	−	−	−	覆土中	口縁一部	C16-14･15･ 18・C32	第188図	
4	上谷津 第2	16土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C32-22	第188図	
5	上谷津 第2	16土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	C35-5	第188図	
6	上谷津 第2	16土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	34.0	(17.0)	−	−	−	覆土中	口縁1/4	C16一括･ C32）	第188図	
7	上谷津 第2	16土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	C16-38	第188図	
8	上谷津 第2	16土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C16-30・69	第188図	
9	上谷津 第2	16土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	C16-67	第188図	
10	上谷津 第2	16土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C16-10	第188図	
11	上谷津 第2	16土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	C16-18	第188図	
12	上谷津 第2	16土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C16-18･20･ C35	第188図	
13	上谷津 第2	16土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C16-85･C32	第188図	
14	上谷津 第2	16土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	25.0	36.0	6.5	−	−	覆土中	口縁1/3	16一括・ C35一括	第189図	
15	上谷津 第2	16土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C16-50	第189図	
16	上谷津 第2	16土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C16-50	第189図	
17	上谷津 第2	16土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C16-18	第189図	
18	上谷津 第2	16土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C16一括	第189図	
19	上谷津 第2	16土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C16-45･96	第189図	
20	上谷津 第2	16土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	20.5	(17.5)	−	−	−	覆土中	口縁1/3	16一括・ C35一括	第189図	
21	上谷津 第2	16土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C16-18･44･ C32	第189図	
1	上谷津 第2	18土	深鉢	早期 条痕文	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	C18一括	第189図	
1	上谷津 第2	19土	深鉢	早期 撚糸文	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C19一括	第189図	
2	上谷津 第2	19土	深鉢	早期 撚糸文	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C19一括	第189図	
1	上谷津 第2	20土	深鉢	早期 撚糸文	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C20一括	第189図	
2	上谷津 第2	20土	深鉢	早期 撚糸文	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C20一括	第189図	
3	上谷津 第2	20土	深鉢	早期 撚糸文	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C20一括	第189図	
1	上谷津 第2	21土	深鉢	早期 条痕文	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C21一括	第189図	

No.	遺跡名	遺構名	器種 部位	時期 型式	法量（cm・g）					位置層位	残存具合	注記	挿図番号	備考
					口径	器高	底径	最大径	重さ					
2	上谷津第2	21土	深鉢	早期 条痕文	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C21一括	第189図	
1	上谷津第2	22土	深鉢	早期 条痕文	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	C22一括	第189図	
1	上谷津第2	23土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C23一括	第190図	
2	上谷津第2	23土	深鉢	早期 条痕文	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	C23一括	第190図	
3	上谷津第2	23土	深鉢	早期 条痕文	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	C23一括	第190図	
1	上谷津第2	25土	深鉢	早期 条痕文	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C25一括	第190図	
1	上谷津第2	2陥	深鉢	早期 条痕文	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	2陥　一括	第190図	24土
2	上谷津第2	2陥	深鉢	早期 条痕文	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	2陥　一括	第190図	24土
1	上谷津第2	26土	深鉢	中期末葉 加曽利ＥⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C26一括	第190図	
1	上谷津第2	30土	深鉢	早期 条痕文	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C30一括	第190図	
1	上谷津第2	32土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C32一括	第190図	
2	上谷津第2	32土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C32一括	第190図	
1	上谷津第2	33土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C33一括	第190図	
2	上谷津第2	33土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C33-2	第190図	
3	上谷津第2	33土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C33-26	第190図	
4	上谷津第2	33土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C33-48	第190図	
5	上谷津第2	33土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	(14.6)	6.6	−	−	覆土中	口縁一部	C33-4・5・36・49	第190図	
6	上谷津第2	33土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C33-7	第190図	
7	上谷津第2	33土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	(5.4)	(8.0)	−	−	覆土中	口縁一部	C33-52	第190図	
8	上谷津第2	33土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	底部一部	C33-40	第190図	
1	上谷津第2	35土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C35一括	第190図	
2	上谷津第2	35土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C35一括	第190図	
3	上谷津第2	35土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C35一括	第190図	
1	上谷津第2	36土	深鉢	早期 条痕文	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C36一括	第190図	
2	上谷津第2	36土	深鉢	中期末葉 加曽利ＥⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C36一括	第190図	
1	上谷津第2	37土	深鉢	早期 撚糸文	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C37一括	第190図	
1	上谷津第2	40土	深鉢	中期末葉 加曽利ＥⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C40一括	第190図	
1	上谷津第2	41土	深鉢	中期末葉 加曽利ＥⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C41-1	第190図	
1	上谷津第2	45土	深鉢	中期末葉 加曽利ＥⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C45-9	第190図	
1	上谷津第2	47土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C47一括	第190図	
2	上谷津第2	47土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C47一括	第190図	
1	上谷津第2	48土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C48一括	第190図	
2	上谷津第2	48土	深鉢	早期 条痕文	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C48-2	第190図	
1	上谷津第2	49土	深鉢	前期後葉 諸磯ｂ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C49-3・4	第191図	
2	上谷津第2	49土	深鉢	前期後葉 諸磯ｂ式	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	C49一括	第191図	
1	上谷津第2	51土	深鉢	中期末葉 加曽利ＥⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C51一括	第191図	

No.	遺跡名	遺構名	器種 部位	時期 型式	法量（cm・g）					位置層位	残存具合	注記	挿図番号	備考
					口径	器高	底径	最大径	重さ					
1	上谷津第2	56土	深鉢	中期末葉 加曽利ＥⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C56一括	第191図	
2	上谷津第2	56土	深鉢	中期末葉 加曽利ＥⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C56一括	第191図	
1	上谷津第2	58土	深鉢	中期末葉 加曽利ＥⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C58一括	第191図	
1	上谷津第2	59土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C59-22	第191図	
2	上谷津第2	59土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C59-9	第191図	
3	上谷津第2	59土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C59-46	第191図	
4	上谷津第2	59土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C59-25	第191図	
5	上谷津第2	59土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C59-15	第191図	
6	上谷津第2	59土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C59-26	第191図	
7	上谷津第2	59土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C59-105	第191図	
8	上谷津第2	59土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C59-41	第191図	
9	上谷津第2	59土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	C59-75	第191図	
10	上谷津第2	59土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	C59-69	第191図	
11	上谷津第2	59土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	C59-48	第191図	
12	上谷津第2	59土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	C59-106	第191図	
13	上谷津第2	59土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C59一括	第191図	
14	上谷津第2	59土	深鉢	後期初頭 称名寺Ⅰ式	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	C59-64	第191図	
1	上谷津第2	62土	深鉢	中期末葉 加曽利ＥⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	C62-1	第191図	
2	上谷津第2	62土	深鉢	前期後葉 諸磯ｂ式	−	−	−	−	−	覆土中	胴部一部	C62一括	第191図	
1	上谷津第2	63土	深鉢	中期末葉 加曽利ＥⅣ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C62一括	第191図	瓢箪形土器
1	井戸作南	1住	浅鉢	後期中葉 加曽利B3式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A1-23・2区	第216図	
2	井戸作南	1住	浅鉢	後期中葉 加曽利B3式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A1-69	第216図	
3	井戸作南	1住	深鉢	後期中葉 加曽利B3式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A1-30	第216図	
4	井戸作南	1住	深鉢	後期中葉 加曽利B3式	−	(8.5)	8.4	−	−	覆土中	底部	A1-32・33・35・38	第216図	
1	井戸作南	2住	深鉢	後期中葉 加曽利Ｂ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A2-62	第216図	
2	井戸作南	2住	浅鉢	後期中葉 加曽利Ｂ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	2E17d-95	第216図	
3	井戸作南	2住	深鉢	後期中葉 加曽利Ｂ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A2-19・27・47・48	第216図	
4	井戸作南	2住	深鉢	後期中葉 加曽利Ｂ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	2E17d-64	第216図	
5	井戸作南	2住	深鉢	後期中葉 加曽利Ｂ式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	2E17d-102	第216図	
6	井戸作南	2住	深鉢	後期中葉 加曽利Ｂ式	−	(3.0)	10.4	−	−	覆土中	底部	A2-30・67	第216図	
7	井戸作南	2住	深鉢	後期中葉 加曽利Ｂ式	34.0	43.8	9.5	−	−	埋甕？	ほぼ完形	A2-12・21・29・35・39・44・59・60・65	第216図	
1	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-451	第216図	
2	井戸作南	3住	浅鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-226	第216図	
3	井戸作南	3住	浅鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-54	第216図	
4	井戸作南	3住	浅鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A3一括	第216図	
5	井戸作南	3住	浅鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-263	第216図	

No.	遺跡名	遺構名	器種 部位	時期 型式	法量（cm・g）					位置層位	残存具合	注記	挿図番号	備考
					口径	器高	底径	最大径	重さ					
6	井戸作南	3住	浅鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-281	第216図	
7	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-14	第216図	
8	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A3-69	第216図	
9	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-150	第216図	
10	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-306	第216図	
11	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-145	第216図	
12	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-126	第216図	
13	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-384	第216図	
14	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-313	第216図	
15	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-224	第216図	
16	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-202	第216図	
17	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A3-53	第216図	
18	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-206	第216図	
19	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-252	第216図	
20	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-336	第217図	
21	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-439	第217図	
22	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A3-79	第217図	
23	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-82	第217図	
24	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-81	第217図	
25	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-234	第217図	
26	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-332	第217図	
27	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-409	第217図	
28	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-360	第217図	
29	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-292	第217図	
30	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-430	第217図	
31	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-243	第217図	
32	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-188	第217図	
33	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-34	第217図	
34	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A3-50	第217図	
35	井戸作南	3住	浅鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-417	第217図	
36	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-169	第217図	
37	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-221	第217図	
38	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E21c-405	第217図	
39	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B式	−	(0.8)	(8.0)	−	−	覆土中	底部一部	A3-37	第217図	
40	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B式	−	(1.2)	3.8	−	−	覆土中	底部一部	A3-95	第217図	
41	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B式	−	(2.4)	(6.2)	−	−	覆土中	底部一部	3E21c-301	第217図	

No.	遺跡名	遺構名	器種 部位	時期 型式	法量（cm・g）					位置層位	残存具合	注記	挿図番号	備考
					口径	器高	底径	最大径	重さ					
42	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B式	−	(1.4)	(8.8)	−	−	覆土中	底部一部	3E21c-366	第217図	
43	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B式	−	((2.9)	(7.8)	−	−	覆土中	底部一部	A3一括	第217図	
44	井戸作南	3住	深鉢	後期中葉 加曽利B式	−	(1.9)	((9.0)	−	−	覆土中	底部一部	3E21c-278	第217図	
1	井戸作南	4住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	((8.1)	7.8	−	−	覆土中	底部	A4-25	第217図	
2	井戸作南	4住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A4-22	第217図	
1	井戸作南	5住	深鉢	後期中葉 加曽利B式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A5一括	第217図	
2	井戸作南	5住	深鉢	後期中葉 加曽利B式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A5一括	第217図	
1	井戸作南	6住	浅鉢	後期中葉 加曽利B1式	26.0	(7.0)	−	−	−	覆土中	口縁1/4	A6-33	第217図	
2	井戸作南	6住	浅鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A6-58	第217図	
3	井戸作南	6住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A6-14	第217図	
4	井戸作南	6住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A6-27	第217図	
5	井戸作南	6住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A6-11	第217図	
6	井戸作南	6住	土器片錘	後期中葉 加曽利B式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A6-1	第217図	
1	井戸作南	7住	深鉢	中期 加曽利EⅢ式	30.5	(35.5)	−	33.6	−	床直	底部欠損	A7	第218図	
1	井戸作南	8住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	(22.0)	(26.5)	−	−	−	床直	底部欠損	A8-5・7・9・24・162～164・166～174・176	第218図	
2	井戸作南	8住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	20.5	28.5	7.5	−	−	床直	全体1/2	右記	第218図	A8-32・47・48・50・61・63・68・73・79～84・86・87・89・90・120・123・134～136・181・182・186・187・192・194・195・197・199・200・206
3	井戸作南	8住	浅鉢	後期中葉 加曽利B1式	(22.0)	(15.0)	−	(26.2)	−	床直	全体1/4	A8-154・156～161	第218図	
4	井戸作南	8住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	(24.0)	(9.0)	−	(24.8)	−	床直	口縁1/3	A8-91・93	第218図	
5	井戸作南	8住	浅鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A8-17	第218図	
6	井戸作南	8住	浅鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A8-34	第218図	
7	井戸作南	8住	浅鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A8-67	第218図	
8	井戸作南	8住	浅鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A8-59	第218図	
9	井戸作南	8住	浅鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A8-98	第218図	
10	井戸作南	8住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A8-69	第218図	
11	井戸作南	8住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A8-102・155	第218図	
12	井戸作南	8住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A8-204	第218図	
13	井戸作南	8住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E13a-111	第218図	
14	井戸作南	8住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E13a-90	第218図	
15	井戸作南	8住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A8-12	第218図	
16	井戸作南	8住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A8-68	第218図	
17	井戸作南	8住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E13a-77	第218図	
18	井戸作南	8住	深鉢	後期 安行式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A8-35	第218図	
19	井戸作南	8住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	3E13a-110	第217図	
20	井戸作南	8住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A8-66	第217図	
21	井戸作南	8住	深鉢	後期中葉 加曽利B1式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	A8-105	第217図	
1	井戸作南	4陥	深鉢 口縁部	後期 堀之内式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C5-24	第234図	

No.	遺跡名	遺構名	器種 部位	時期 型式	法量（cm・g）					位置層位	残存具合	注記	挿図番号	備考
					口径	器高	底径	最大径	重さ					
2	井戸作南	4陥	深鉢 口縁部	後期中葉 加曽利B式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C5-15･16	第234図	
3	井戸作南	4陥	深鉢 口縁部	後期中葉 加曽利B3式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C5-11･22	第234図	
1	井戸作南	7土	深鉢 口縁部	後期中葉 加曽利B式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C7-2	第234図	
1	井戸作南	9土	深鉢 口縁部	後期中葉 加曽利B式	−	−	−	−	−	覆土中	底部	C9-24	第234図	
2	井戸作南	9土	深鉢 口縁部	後期中葉 加曽利B式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C9-5	第234図	
1	井戸作南	14土	台付浅鉢 脚部	後期中葉 加曽利B式	−	(5.7)	(12.5)	−	−	覆土中	脚部1/4	C14-4	第234図	
1	井戸作南	26土	深鉢 口縁部	後期中葉 加曽利B式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C26-4	第234図	
2	井戸作南	26土	深鉢 口縁部	後期中葉 加曽利B式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C26-10	第234図	
1	井戸作南	38土	深鉢 口縁部	後期中葉 加曽利B式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C38-3	第234図	
1	井戸作南	47土	深鉢 口縁部	後期中葉 加曽利B式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C47-4	第234図	
2	井戸作南	47土	深鉢 口縁部	後期中葉 加曽利B式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C47-5	第234図	
3	井戸作南	47土	深鉢 口縁部	後期中葉 加曽利B式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C47-6	第234図	
1	井戸作南	73土	深鉢 口縁部	後期中葉 加曽利B式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C73-3	第234図	
1	井戸作南	97土	深鉢 口縁部	後期中葉 加曽利B式	−	−	−	−	−	覆土中	口縁一部	C97-2	第234図	
12	井戸作南	地区 一括	台付浅鉢? 脚部	後期中葉 加曽利B式	−	(3.0)	−	−	−	包含層	基部のみ	2D89a-2･5	第236図	
19	井戸作南	地区 一括	台付浅鉢? 脚部	後期中葉 加曽利B式	−	(4.0)	−	−	−	包含層	脚部一部	2D97d-15	第236図	
25	井戸作南	地区 一括	深鉢 上半	後期中葉 加曽利B式	22.5	(16.3)	−	−	−	包含層	上半1/2	2D98a-4	第236図	
27	井戸作南	地区 一括	台付浅鉢? 脚部	後期中葉 加曽利B式	−	(3.0)	−	−	−	包含層	基部のみ	3D93c-24	第236図	
32	井戸作南	地区 一括	深鉢 上半	後期中葉 加曽利B式	22.9	(10.8)	−	−	−	包含層	上半1/4	3D96d-9	第237図	
33	井戸作南	地区 一括	深鉢 上半	後期中葉 加曽利B式	22.5	(6.4)	−	−	−	包含層	上半1/4	3D96b-110･118	第237図	
34	井戸作南	地区 一括	深鉢 上半	後期中葉 加曽利B式	16.9	(16.9)	−	−	−	包含層	上半1/4	3D97c-15･16･43･44･52	第237図	
35	井戸作南	地区 一括	深鉢 上半	後期中葉 加曽利B式	34.8	(13.1)	−	−	−	包含層	上半1/4	3D96d-30･31･33･3D26b-1･66･74	第237図	
36	井戸作南	地区 一括	深鉢 上半	後期中葉 加曽利B3式	21.7	(6.0)	−	−	−	包含層	上半1/4	3D97a-11	第237図	
54	井戸作南	地区 一括	台付浅鉢? 脚部	後期 安行式？	−	(12.7)	10.5	−	−	包含層	脚部1/3	2E7C-1･3･10	第237図	
55	井戸作南	地区 一括	台付浅鉢 脚部	後期中葉 加曽利B2式	−	(5.8)	7.0	−	−	包含層	脚部のみ	2E16d-84	第238図	
59	井戸作南	地区 一括	深鉢 上半	後期中葉 加曽利B式	31.4	(6.6)	−	−	−	包含層	上半1/4	2E17b-84･100	第238図	
61	井戸作南	地区 一括	深鉢 底部	後期中葉 加曽利B1式	−	(4.2)	8.2	−	−	包含層	底部のみ	2E17c-6･17･18･23	第238図	
101	井戸作南	地区 一括	浅鉢 上半	後期中葉 加曽利B式	(25.0)	(5.2)	−	(30.0)	−	包含層	口縁一部	3E22a-66	第239図	
102	井戸作南	地区 一括	浅鉢 上半	後期中葉 加曽利B式	(26.0)	(4.3)	−	(26.4)	−	包含層	口縁一部	3E22a-97･103	第239図	
104	井戸作南	地区 一括	浅鉢 上半	後期中葉 加曽利B式	((12.3)	(3.5)	−	(15.2)	−	包含層	口縁一部	3E22c-50･399	第239図	
110	井戸作南	地区 一括	深鉢 上半	後期中葉 加曽利B式	(15.0)	(5.5)	−	−	−	包含層	上半1/4	3E23a-31	第239図	
113	井戸作南	地区 一括	注口土器 上半	後期中葉 加曽利B式	−	(7.2)	−	(21.0)	−	包含層	胴部一部	2E20a-72･73	第240図	
114	井戸作南	地区 一括	浅鉢 上半	後期中葉 加曽利B式	33.3	(8.8)	−	−	−	包含層	口縁一部	2E17d-107	第240図	
115	井戸作南	地区 一括	深鉢 上半	後期 安行式	(24.0)	(8.0)	−	(25.0)	−	包含層	口縁1/4	3E5a-60	第240図	
116	井戸作南	地区 一括	浅鉢 上半	後期中葉 加曽利B2式	(23.2)	(6.5)	−	−	−	包含層	口縁1/3	3E11b-89	第240図	
117	井戸作南	地区 一括	深鉢 上半	後期 安行式	(29.2)	(10.5)	−	(30.0)	−	包含層	口縁1/3	3E11b-55･134･219･263	第240図	

No.	遺跡名	遺構名	器種 部位	時期 型式	法量（cm・g）					位置層位	残存具合	注記	挿図番号	備考
					口径	器高	底径	最大径	重さ					
118	井戸作南	地区 一括	深鉢 上半	後期 堀之内式	(21.8)	(8.5)	−	−	−	包含層	口縁1/3	3E12a-60・ 3E12d-168	第240図	
119	井戸作南	地区 一括	深鉢 上半	後期中葉 加曽利Ｂ式	(29.0)	(6.8)	−	−	−	包含層	口縁1/3	右記	第240図	3E12d-190・210・315・343・ 367・3E22c-54・186・255
120	井戸作南	地区 一括	浅鉢 上半	後期中葉 加曽利Ｂ式	(28.9)	(6.1)	−	−	−	包含層	口縁1/3	3E12d	第240図	
121	井戸作南	地区 一括	深鉢 上半	後期中葉 加曽利Ｂ式	(28.9)	(6.1)	−	−	−	包含層	口縁1/4	3E12d-210・ 314・315・367	第240図	
122	井戸作南	地区 一括	浅鉢 上半	後期中葉 加曽利Ｂ式	(28.0)	(5.5)	−	−	−	包含層	口縁1/4	3E23a-92・ 94・107・173	第240図	
123	井戸作南	地区 一括	浅鉢 上半	後期中葉 加曽利Ｂ式	(21.0)	(5.6)	−	(22.6)	−	包含層	上半1/3	3E13b・A6	・	
124	井戸作南	地区 一括	浅鉢 上半	後期中葉 加曽利B1式	(18.5)	(7.6)	−	(19.5)	−	包含層	底部欠損	3E22c-40・117 ・268・279・293	第240図	
125	井戸作南	地区 一括	深鉢 上半	後期 堀之内２式	(17.1)	(12.3)	−	−	−	包含層	上半1/2	右記	第240図	3E22c-155・158・507・508・ 3E23b-111・3E22d-12
191	井戸作南	地区 一括	浅鉢	後期中葉 加曽利Ｂ式	26.5	13.3	6.8	29.0	−	包含層	全体2/3	3D94c-14	第243図	
192	井戸作南	地区 一括	浅鉢	後期中葉 加曽利Ｂ式	14.2	10.7	6.0	15.9	−	包含層	全体2/3	3D96a-68・72 ・73・76・77	第243図	
193	井戸作南	地区 一括	深鉢 底部	後期中葉 加曽利Ｂ式	−	(12.0)	7.8	−	−	包含層	底部のみ	3D93b-5	第243図	
196	井戸作南	地区 一括	異形台付？ 脚部？	後期中葉 加曽利Ｂ式	−	(4.0)	−	−	−	包含層	脚部一部	3E23c-73	第244図	
198	井戸作南	地区 一括	深鉢 上半	後期中葉 加曽利Ｂ式	46.0	(26.0)	−	−	−	包含層	上半1/4	2D90a・c-15 ・16・18・20	第244図	
199	井戸作南	地区 一括	深鉢	後期中葉 加曽利Ｂ式	45.4	50.7	11.6	−	−	包含層	全体1/2	3D99c-50	第244図	
207	井戸作南	地区 一括	浅鉢 下半	後期中葉 加曽利Ｂ式	−	(16.8)	5.8	24.0	−	包含層	下半一部	4D79・A10- 38・43・71・72	第244図	
208	井戸作南	地区 一括	土偶	後期中葉 加曽利Ｂ式	−	(11.6)	−	(10.5)	−	包含層	顔　欠損	3D97b-1～3	第245図	
209	井戸作南	地区 一括	土偶	後期中葉 加曽利Ｂ式	−	(10.8)	−	(7.2)	−	包含層	脚　欠損	2D59c-1	基部	
210	井戸作南	地区 一括	土偶	後期中葉 加曽利Ｂ式	−	(7.2)	−	(3.3)	−	包含層	左腕のみ	3E22d-1溝	第245図	
211	井戸作南	地区 一括	土偶	後期中葉 加曽利Ｂ式	−	(7.1)	−	(5.1)	−	包含層	右足のみ	2D98b	第245図	

第53表　出土遺物観察表（須恵器・土師器・土製品・瓦）

No.	遺跡名	遺構名	種類 器種	法量 (cm・g)	手法・形態の特徴	胎土・色調・焼成 などの特徴	位置 層位	残存 具合	注記	挿図 番号	備考
1	端山越	1住	須恵器 杯	口径 12.6 器高 7.0 底径 4.1	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：底部下端は手持ちヘラ削り 底部は回転ヘラ削り	胎土：目立つ混入物なし 色調：地は暗褐色・黒斑で黒褐色 焼成：良好だがやや軟質	床直	口縁一部 底部完存	A1-27	第43図	黒斑がまだら 黒色物付着
2	端山越	1住	須恵器 杯	口径 12.6 器高 6.8 底径 4.4	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：底部下端は回転ヘラ削り 底部は回転ヘラ削り	胎土：目立つ混入物なし 色調：地は暗褐色・小黒斑あり 焼成：良好だがやや軟質	カマド 床直	口縁1/2 底部完存	A1ｶﾏﾄﾞ-56	第43図	土師器？焼成 時黒斑あり
3	端山越	1住	須恵器 甕	口径 21.0 器高 (7.0) 底径 －	最大径 成形・整形：ロクロ 調整（外面）：上半タタキ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗緑灰色・地は暗褐色 焼成：良好	カマド 床直	口縁1/2	A1-1・3・33 ・35・36・38・ 42・ｶﾏﾄﾞ	第43図	
4	端山越	1住	須恵器 甕	口径 (25.5) 器高 23.8 底径 14.5	最大径 成形・整形：ロクロ・輪積み 調整（外面）：胴部上部タタキ・下部ケズリ（横位） 調整（内面）：輪積み痕あり	胎土：目立つ混入物なし 色調：灰褐色 焼成：良好	床直	口縁1/3 底部3/5	A1ｶ～12・30・32 ・48・52・ｶﾏﾄﾞ-50 ・53・55・57・60	第43図	
5	端山越	1住	須恵器 広口壺	口径 22.6 器高 35.5 底径 15.4	最大径 27.8 成形・整形：ロクロ 調整（外面）：胴部上部タタキ・下部ケズリ（横位）	胎土：目立つ混入物なし 色調：灰褐色 焼成：良好	床直	口縁完存 底部2/5	A1-29	第43図	
6	端山越	1住	須恵器 甕？	口径 (24.0) 器高 (19.7) 底径 －	最大径 成形・整形：ロクロ 調整（外面）：胴部上部タタキ・下部ケズリ（横位） 調整（内面）：輪積み痕あり	胎土：目立つ混入物なし 色調：灰褐色 焼成：良好	床直	口縁1/4	A1-28	第43図	
7	端山越	1住	須恵器 甕？	口径 (26.0) 器高 (22.0) 底径 －	最大径 成形・整形：ロクロ 調整（外面）：胴部上部タタキ・下部ケズリ（横位） 調整（内面）：輪積み痕あり	胎土：白色粒含・質感がザラつく 色調：灰褐色 焼成：良好	床直	口縁1/6	A1-28	第43図	黒斑 黒色物付着
1	端山越	3住	須恵器 蓋	口径 15.8 器高 (3.5)	成形・整形：ロクロ・擬宝珠つまみ（欠損）・口縁端部外へつまむ 調整（外面）：回転ヘラ削り(1/3) 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡青灰色 焼成：良好	土坑内	つまみ 欠損	A3-273	第44図	
2	端山越	3住	須恵器 皿	口径 16.8 器高 2.3 底径 7.9	成形・整形：ロクロ・底部は回転ヘラ切り・口縁端部上方につまむ 調整（外面）：底部付近回転ヘラケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：地は暗褐色・小黒斑あり 焼成：良好	床直	ほぼ完形	A3-271	第44図	土師器？焼成 時黒斑あり
3	端山越	3住	須恵器 杯	口径 12.8 器高 4.0 底径 7.5	口底径比 1.70 成形・整形：ロクロ・口縁外頬・底部回転ヘラ切り 調整（外面）：横ナデ・体部下端手持ヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：若干の白色粒 色調：暗緑灰色・地は暗褐色 焼成：良好	床直	ほぼ完形	A3-272	第44図	
4	端山越	3住	須恵器 杯	口径 13.0 器高 5.0 底径 8.5	口底径比 1.53 成形・整形：ロクロ・口縁外頬・底部手持ちヘラ切り 調整（外面）：横ナデ・体部下端・底部手持ヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：地は灰褐色・小黒斑あり 焼成：良好	床直	完形	A3-269	第44図	
5	端山越	3住	須恵器 杯	口径 13.2 器高 4.2 底径 7.7	口底径比 1.71 成形・整形：ロクロ・口縁外頬 調整（外面）：横ナデ・体部下端・底部手持ヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：黒褐色 焼成：良好	床直	完形	A3-268	第44図	くすべ系
6	端山越	3住	須恵器 杯	口径 13.4 器高 4.5 底径 7.0	口底径比 1.91 成形・整形：ロクロ・口縁外頬・口縁端部外反 調整（外面）：横ナデ・体部下端・底部手持ヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：灰褐色 焼成：良好	覆土中	完形	A3-284	第44図	
7	端山越	3住	須恵器 杯	口径 11.6 器高 4.1 底径 6.5	口底径比 1.78 成形・整形：ロクロ・口縁外頬・口縁端部外反 調整（外面）：横ナデ・体部下端・底部手持ヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：灰褐色 焼成：良好	床直	口縁2/3 底部完存	A3-278	第44図	
8	端山越	3住	須恵器 杯	口径 13.8 器高 4.0 底径 9.6	口底径比 1.44 成形・整形：ロクロ・口縁外頬 調整（外面）：横ナデ・体部下端・底部手持ヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：黒褐色 焼成：良好	床直	口縁1/4 底部1/2	A3-251	第44図	くすべ系
9	端山越	3住	須恵器 杯	口径 14.0 器高 4.1 底径 8.0	口底径比 1.75 成形・整形：ロクロ・口縁外頬 調整（外面）：横ナデ・体部下端手持ヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：黒褐色 焼成：良好	床直	口縁1/6	A3-179・ｶﾏﾄﾞ	第44図	くすべ系
10	端山越	3住	須恵器 杯	口径 14.8 器高 5.4 底径 7.2	口底径比 2.06 成形・整形：ロクロ・胴部内湾後に外反気味 調整（外面）：横ナデ・体部下端・底部手持ヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：地は暗褐色・小黒斑あり 焼成：良好	床直	口縁2/3 底部完存	A3-209・ 210・274・ｶﾏﾄﾞ	第44図	土師器？焼成 時黒斑あり
11	端山越	3住	須恵器 杯	口径 12.8 器高 5.0 底径 7.0	口底径比 1.83 成形・整形：ロクロ・口縁外頬・底部が厚い 調整（外面）：横ナデ・底部手持ヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：灰褐色 焼成：良好	床直	口縁2/3 底部完存	A3-279・ 296	第44図	土師器？焼成 時黒斑あり
12	端山越	3住	土師器 杯	口径 11.8 器高 3.9 底径 6.7	口底径比 1.76 成形・整形：ロクロ・口縁外頬・内面に段 調整（外面）：横ナデ・体部下端・底部手持ヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：褐色粒多い・器壁が荒い 色調：暗褐色 焼成：良好・他の須恵器よりも堅い	床直	口縁2/3 底部完存	A3-289	第44図	
13	端山越	3住	須恵器 杯	口径 12.2 器高 4.4 底径 6.6	口底径比 1.85 成形・整形：ロクロ・口縁外頬・外面に段・底部回転ヘラ切り 調整（外面）：横ナデ・体部下端手持ヘラケズリ・底部回転ヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：地は暗褐色・小黒斑あり 焼成：良好	床直	ほぼ完形	A3-270	第44図	土師器？焼成 時黒斑あり
14	端山越	3住	須恵器 杯	口径 12.8 器高 4.5 底径 7.2	口底径比 1.78 成形・整形：ロクロ・口縁外頬・底部回転ヘラ切り 調整（外面）：横ナデ・体部下端手持ヘラケズリ・底部回転ヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰褐色・小黒斑あり・内黒 焼成：良好	床直	ほぼ完形	A3-300・ 301・338・ｶﾏﾄﾞ	第44図	土師器？焼成 時黒斑あり
15	端山越	3住	須恵器 杯	口径 (13.6) 器高 4.2 底径 7.8	口底径比 1.74 成形・整形：ロクロ・口縁外頬 調整（外面）：横ナデ・体部下端・底部手持ヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰褐色・小黒斑あり・内黒 焼成：良好	床直	口縁2/5 底部3/4	A3-282・ 326・ｶﾏﾄﾞ	第44図	土師器？焼成 時黒斑あり
16	端山越	3住	須恵器 杯	口径 12.8 器高 4.3 底径 7.6	口底径比 1.68 成形・整形：ロクロ・口縁外頬・底部回転ヘラ切り 調整（外面）：横ナデ・体部下端手持ヘラケズリ・底部回転ヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰褐色・小黒斑あり・内黒 焼成：良好	床直	口縁3/5 底部3/5	A3-288・ｶﾏﾄﾞ	第44図	土師器？焼成 時黒斑あり
17	端山越	3住	須恵器 杯	口径 (13.4) 器高 3.5 底径 (8.0)	口底径比 1.68 成形・整形：ロクロ・口縁外頬・器壁が薄い 調整（外面）：横ナデ・体部下端・底部手持ヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：黒褐色 焼成：良好	覆土中	口縁2/5 底部1/3	A3-155	第44図	くすべ系
18	端山越	3住	須恵器 杯	口径 (14.0) 器高 4.2 底径 7.6	口底径比 1.84 成形・整形：ロクロ・口縁外頬・底部回転ヘラ切り 調整（外面）：横ナデ・体部下端・底部手持ヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色・内黒 焼成：良好	覆土中	口縁一部 底部完存	A3-154	第44図	
19	端山越	3住	須恵器 杯	口径 (12.8) 器高 4.2 底径 7.6	口底径比 1.68 成形・整形：ロクロ・口縁外頬・底部回転ヘラ切り 調整（外面）：横ナデ・体部下端手持ヘラケズリ・底部回転ヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	ﾛｸﾛﾋﾟｯﾄ 内	口縁1/4 底部完存	A3-285	第44図	
20	端山越	3住	土師器 杯	口径 (13.2) 器高 3.8 底径 7.6	口底径比 1.74 成形・整形：ロクロ・口縁内湾気味・底部糸切 調整（外面）：横ナデ・体部下端・底部手持ヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：褐色 焼成：良好	覆土中	口縁1/10 底部1/4	A3-35・214	第44図	
21	端山越	3住	土師器 鉢？	口径 12.0 器高 12.1 底径 9.0	成形・整形：輪積 調整（外面）：上部縦ケズリ・下部横ケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	口縁3/4 底部完存	A3-289	第44図	
22	端山越	3住	土師器 小型甕？	口径 器高 (13.8) 底径 (7.8)	最大径 (14.1) 頸部径 (12.2) 成形・整形：輪積 調整（外面）：上部縦ケズリ・下部横ケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	口縁1/4	A3-78・263	第44図	
23	端山越	3住	須恵器 甕	口径 23.5 器高 23.7 底径 15.0	最大径 23.6 頸部径 21.4 成形・整形：ロクロ・内面輪積み痕残・３条の横沈線 調整（外面）：上半縦位・横位タタキ(工具長辺約3cm)・下部横ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰褐色 焼成：良好	床直	口縁1/2 底部完存	A3-1・83・84・142・ 241・243・290・315 ・316・336・ﾎﾘﾓﾄ	第44図	
24	端山越	3住	須恵器 甕	口径 23.5 器高 25.4 底径 14.5	最大径 23.1 頸部径 21.3 成形・整形：ロクロ・内面輪積み痕残・２条の横沈線 調整（外面）：上半縦位・横位タタキ(工具長辺約3cm)・下部横ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰褐色 焼成：良好	床直	ほぼ完形	A3-187・ 275～277	第44図	底部「七」線 刻
25	端山越	3住	須恵器 甕	口径 (21.2) 器高 (26.3) 底径 －	最大径 24.0 頸部径 (18.6) 成形・整形：ロクロ・内面輪積み痕残 調整（外面）：上半縦位・横位タタキ(工具長辺約3cm)・下部横ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰褐色 焼成：良好	床直	口縁1/3 胴部2/5	A3-101・ 151・152・ 264・291	第44図	
26	端山越	3住	土師器 甕	口径 － 器高 (21.0) 底径 10.5	最大径 (20.0) 頸部径 － 成形・整形：輪積・底部内反 調整（外面）：縦位ケズリ・下部端横位ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰褐色 焼成：良好	ﾛｸﾛﾋﾟｯﾄ 内	口縁のみ 欠損	A3-C2-350	第45図	
27	端山越	3住	須恵器 広口壺	口径 24.8 器高 36.0 底径 17.0	最大径 30.0 頸部径 12.6 成形・整形：ロクロ・内面輪積み痕残 調整（外面）：上半縦位・横位タタキ(工具長辺約3cm)・下部横ケズリ 調整（内面）：円形当具→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	口縁完存 以下1/2	右記	第45図	A3-141・191・240・287・ 305・309～321・314・329 ・335・340・345・ﾎﾘﾓﾄ
28	端山越	3住	須恵器 甕？	口径 － 器高 (20.0) 底径 (16.0)	最大径 (27.0) 頸部径 － 成形・整形：ロクロ 調整（外面）：上半縦位・斜位タタキ(工具長辺約3cm)・下部横ケズリ 調整（内面）：円形当具→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰褐色 焼成：良好	床直	底部1/5	A3-63・75・ 216	第45図	
29	端山越	3住	須恵器 甕？	口径 － 器高 (18.0) 底径 10.2	最大径 19.8 頸部径 － 成形・整形：ロクロ 調整（外面）：上半縦位・斜位タタキ(工具長辺約3cm)・下部横ケズリ 調整（内面）：円形当具→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰褐色 焼成：良好	床直	底部1/3	A3-322・ 323・349・ｶﾏﾄﾞ	第45図	
30	端山越	3住	須恵器 大甕	口径 34.5 器高 (39.5) 底径 －	最大径 49.0 頸部径 － 成形・整形：ロクロ・内面輪積み痕残 調整（外面）：上半縦位・横位タタキ(工具長辺約5cm)・口縁横ナデ 調整（内面）：円形当具→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰褐色 焼成：良好	床直	上半完存	A3-126・ 257	第45図	
1	端山越	1有	須恵器 蓋	口径 (16.0) 器高 (2.5)	成形・整形：ロクロ・口縁端部は下方へ 調整（外面）：回転ナデ→回転ヘラケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰褐色 焼成：良好	覆土中	口縁1/8	C1	第52図	

No.	遺跡名	遺構名	種類 器種	法量 (cm・g)	手法・形態の特徴	胎土・色調・焼成 などの特徴	位置 層位	残存 具合	注記	挿図 番号	備考
2	端山越	1有	須恵器 大甕	口径 24.0 器高 (10.3) 底径 – 最大径 – 頸部径 –	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：上半縦位・横位タタキ(工具長辺約5cm)・口縁横ナデ 調整（内面）：円形当具（明瞭）→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰褐色 焼成：良好	覆土中	口縁1/2	C1	第52図	
3	端山越	1有	須恵器 長頸壺	口径 (10.4) 器高 (4.8) 底径 – 最大径 – 頸部径 –	成形・整形：ロクロ・口縁端部つまみ上げ・外面端部は垂下気味 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰褐色 焼成：良好	覆土中	口縁1/6	C1	第52図	
1	端山越	1方	土師器 杯	口径 – 器高 (1.5) 底径 (7.0)	成形・整形：ロクロ・底部糸切（無調整） 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：褐色粒多い 色調：茶褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	底部1/2	1方周	第66図	
2	端山越	1方	須恵器 長頸壺？	口径 – 器高 (3.1) 底径 9.6 最大径 – 頸部径 – 高台高 1.2	成形・整形：ロクロ・内部底面に自然釉 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：明青灰色 焼成：良好・堅緻	周溝 覆土中	底部完存 (高台部)	1方周-2	第66図	
3	端山越	1方	須恵器 広口壺	口径 20.2 器高 (7.3) 底径 – 最大径 – 頸部径 –	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：上半縦位・横位タタキ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：黒褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	口縁1/2	1方周	第66図	
4	端山越	1方	瓦 布目平瓦	長さ (11.7) 幅 (18.0) 厚み 2.6	成形・整形：桶巻？ 調整（外面）：端部ナデ・布目未調整 調整（内面）：端部ナデ・布目未調整	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗青灰色 焼成：良好・堅緻	周溝 覆土中	一部	1方周-3・4・5	第66図	
1	端山越	4方	須恵器 鉢	口径 20.4 器高 8.2 底径 10.5	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：横ナデ・体部下端・底部手持ちヘラケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好・堅緻	周溝 覆土中	口縁3/4 底部完存	4方周-1	第66図	
1	端山越	7方	須恵器 短頸壺	口径 (7.4) 器高 (5.0) 底径 – 最大径 (9.2)	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：回転ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：白色粒（石英）目立つ 色調：暗青灰色 焼成：良好・堅緻	周溝 覆土中	口縁1/3	7方周-11	第66図	
2	端山越	7方	須恵器 高盤	口径 – 器高 (5.7) 裾径 – 基部径 (4.8) 杯高 – 脚高 –	成形・整形：ロクロ・透かしは三箇所？ 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：白色粒・雲母含 色調：淡灰褐色 焼成：良好だがやや軟質	周溝 覆土中	基部完存 脚部 1/3	7方周	第66図	新治産？
3	端山越	7方	土師器 鉢？	口径 – 器高 (2.8) 底径 5.4	成形・整形： 調整（外面）：ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：褐色粒多い 色調：茶褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	底部2/3	7方周-1	第66図	
4	端山越	7方	瓦 布目平瓦	長さ (9.4) 幅 (11.4) 厚み 1.6	成形・整形：桶巻？ 調整（外面）：端部ナデ・布目未調整 調整（内面）：端部ナデ・布目未調整	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗青灰色 焼成：良好・堅緻	周溝 覆土中	一部	7方周	第66図	
1	端山越	8方	土師器 小型壺？	口径 (8.2) 器高 (3.2) 底径 –	成形・整形： 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	口縁1/6	8方周	第66図	
1	端山越	9方	土師器 杯	口径 – 器高 (1.2) 底径 (8.0)	成形・整形： 調整（外面）：ナデ・体部下端･底部手持ちヘラケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	底部1/5	9方周-1	第66図	
2	端山越	9方	土師器 杯	口径 – 器高 (1.8) 底径 (7.4)	成形・整形：底部回転ヘラ切り 調整（外面）：ナデ・体部下端･底部手持ちヘラケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	底部1/4	9方周-4	第66図	
3	端山越	9方	土師器 杯	口径 – 器高 (1.5) 底径 (6.0)	成形・整形： 調整（外面）：ナデ・体部下端･底部手持ちヘラケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	底部1/6	9方周-5	第66図	
4	端山越	9方	須恵器 広口壺	口径 23.8 器高 (31.0) 底径 (27.0) 最大径 27.2 頸部径 16.8	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：上半斜位タタキ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	口縁1/6	右記	第66図	9方周-21･25~31･34･36･40~42･48･51･56･58~60･62~65･70
5	端山越	9方	須恵器 甕？	口径 (37.6) 器高 (12.0) 底径 – 最大径 – 頸部径 –	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：上半斜位タタキ→ナデ（丁寧にタタキを消している） 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	口縁1/8	9方周-47･48･67･72	第66図	
6	端山越	9方	須恵器 甑？	口径 – 器高 (12.0) 底径 (27.0) 最大径 – 頸部径 – 孔径 (16.0)	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：ナデ→下端横位ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗黒褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	口縁1/2	9方周-17･43･46	第66図	
7	端山越	9方	瓦 布目丸瓦	長さ (6.2) 幅 (11.2) 厚み 1.2	成形・整形： 調整（外面）：縦ケズリ？ 調整（内面）：端部ナデ・布目未調整	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗青灰色 焼成：良好	周溝 覆土中	一部	9方周-2･3	第66図	
1	端山越	10方	土師器 杯	口径 – 器高 (2.8) 底径 7.0	成形・整形： 調整（外面）：ナデ・下端横位ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：地は暗褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	底部1/2	10方周-29	第67図	
2	端山越	10方	土師器 杯	口径 – 器高 (2.0) 底径 (8.0)	成形・整形： 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：地は暗褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	底部2/5	10方周-66･67	第67図	
3	端山越	10方	須恵器 杯	口径 – 器高 (2.5) 底径 8.0	成形・整形： 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：黒褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	底部1/3	10方周-6	第67図	くすべ系？
4	端山越	10方	須恵器 杯	口径 – 器高 (3.0) 底径 (7.6)	成形・整形： 調整（外面）：ナデ・下端横位ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：黒褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	底部1/4	10方周-8･9	第67図	くすべ系？
5	端山越	10方	須恵器 杯	口径 – 器高 (1.3) 底径 (8.6)	成形・整形： 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	底部3/4	10方周-5･6･95･107	第67図	
6	端山越	10方	須恵器 杯	口径 – 器高 (1.5) 底径 (8.0)	成形・整形： 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	底部1/4	10方周-108	第67図	
7	端山越	10方	土師器 杯	口径 (12.0) 器高 (4.0) 底径 –	成形・整形： 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	口縁1/4	10方周-66	第67図	
8	端山越	10方	須恵器 長頸壺	口径 – 器高 (16.0) 底径 (8.0) 最大径 (15.2) 頸部径 4.0 高台高 0.8	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：ナデ→自然釉 調整（内面）：回転ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡緑灰色・自然釉 焼成：良好・堅緻	周溝 覆土中	頸部2/3 胴部1/2 底部一部	10方周-19･43･48･70~73･77･83	第67図	東海産
9	端山越	10方	須恵器 広口壺？	口径 – 器高 (8.0) 底径 16.0 最大径 – 頸部径 –	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：斜位タタキ・下部横位ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：黒褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	底部1/2	10方周-21･37･85･88･89･98･104	第67図	くすべ系？
10	端山越	10方	須恵器 広口壺	口径 – 器高 (29.0) 底径 – 最大径 (29.0) 頸部径 –	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：上半斜位タタキ→横位凹線８条以上 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：黒褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	胴部1/3	右記	第67図	10方周-15~17･21~25･27･28･30･39･81･92･100･101･110
1	端山越	12方	須恵器 杯	口径 12.7 器高 4.3 底径 8.8 口底径比 1.44	成形・整形：ロクロ・口縁外頬・底部回転ヘラ切り 調整（外面）：横ナデ・体部下端・底部回転ヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：灰褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	口縁1/2 底部完存	12方周-4	第67図	
2	端山越	12方	須恵器 杯	口径 12.5 器高 (4.5) 底径 8.0 口底径比 1.56	成形・整形：ロクロ・口縁外頬・底部回転ヘラ切り 調整（外面）：横ナデ・底部手持ちヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：黒褐色 焼成：良好	主体部 覆土中	完形	12方周-31･32	第67図	くすべ系？ 底部に線刻
3	端山越	12方	土師器 杯	口径 12.2 器高 3.9 底径 8.0 口底径比 1.53	成形・整形：ロクロ・口縁外頬・底部回転ヘラ切り 調整（外面）：横ナデ・体部下端・底部手持ちヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	口縁2/3 底部3/4	12方周	第67図	
4	端山越	12方	須恵器 杯	口径 11.8 器高 3.9 底径 7.8 口底径比 1.51	成形・整形：ロクロ・口縁外頬・底部回転ヘラ切り・器壁薄い 調整（外面）：横ナデ・体部下端・底部手持ちヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：黒褐色 焼成：良好	主体部 覆土中	口縁1/2 底部1/2	12方周-9･13･19･31･32	第67図	くすべ系？
5	端山越	12方	須恵器 杯	口径 (12.2) 器高 4.2 底径 (6.4) 口底径比 1.90	成形・整形：ロクロ・口縁外反気味・底部回転ヘラ切り 調整（外面）：横ナデ・体部下端・底部手持ちヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：黒褐色 焼成：良好	主体部 覆土中	口縁1/4 底部1/3	12方周-29	第67図	くすべ系？
6	端山越	12方	須恵器 長頸壺	口径 (10.8) 器高 (2.0) 底径 – 最大径 – 頸部径 –	成形・整形：ロクロ・口縁端部つまみ上げ・直下平坦面 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰色 焼成：良好・堅緻	周溝 覆土中	口縁1/4	12方周-2	第67図	7と同一個体？　東海産
7	端山越	12方	須恵器 長頸壺	口径 – 器高 (11.2) 底径 (9.0) 最大径 (16.0) 頸部径 –	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：横ナデ・底部回転ヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰色・自然釉 焼成：良好・堅緻	主体部 覆土中	底部1/4	12方周-1･4･26･38･40･45	第67図	6と同一個体？　東海産
8	端山越	12方	須恵器 広口壺	口径 (24.8) 器高 34.0 底径 16.4 最大径 27.5 頸部径 16.6	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：頸部以上横ナデ・胴部上半縦位タタキ・下部横ケズリ 調整（内面）：円形当具→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	口縁2/5 胴部2/3 底部完存	12方周-11	第67図	
9	端山越	12方	須恵器 広口壺	口径 23.2 器高 36.3 底径 16.0 最大径 27.6 頸部径 16.0	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：頸部以上横ナデ・胴部上半縦位タタキ・下部横ケズリ 調整（内面）：円形当具→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡青灰色 焼成：良好	周溝 覆土中	口縁完存 胴部1/2 底部完存	12方周-12	第67図	

No.	遺跡名	遺構名	種類 器種	法量 (cm・g)	手法・形態の特徴	胎土・色調・焼成 などの特徴	位置 層位	残存 具合	注記	挿図 番号	備考
1	端山越	13方	須恵器 杯	口径 12.6 器高 4.1 底径 7.2 口底径比 1.75	成形・整形：ロクロ・口縁外傾・底部回転ヘラ切り 調整（外面）：横ナデ・底部手持ちヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：白色粒含・やや荒い 色調：暗青灰色 焼成：良好	周溝 覆土中	口縁1/2 底部完存	13方周-1	第68図	
2	端山越	13方	須恵器 杯	口径 (12.0) 器高 (4.1) 底径 7.2 口底径比 1.67	成形・整形：ロクロ・口縁外傾・底部回転ヘラ切り 調整（外面）：横ナデ・底部回転ヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	口縁1/3 底部3/4	13方周-12・13	第68図	
3	端山越	13方	須恵器 杯	口径 − 器高 (3.2) 底径 (7.2) 口底径比 −	成形・整形：ロクロ・口縁外傾・底部回転ヘラ切り 調整（外面）：横ナデ・底部未調整 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：地は暗褐色・内黒 焼成：良好	周溝 覆土中	底部2/5	13方周-17	第68図	
4	端山越	13方	須恵器 杯	口径 − 器高 (3.2) 底径 6.8 口底径比 −	成形・整形：ロクロ・口縁外傾・底部回転ヘラ切り 調整（外面）：横ナデ・底部未調整 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：地は暗褐色・内黒 焼成：良好	周溝 覆土中	底部3/4	13方周-11	第68図	
5	端山越	13方	土師器 鉢	口径 (16.6) 器高 9.0 底径 (9.4)	成形・整形：ロクロ・体部外傾・口縁外反気味・底部手持ちヘラ切り 調整（外面）：横ナデ・底部手持ちヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	口縁1/10 底部1/5	13方周-4・7・10	第68図	
1	端山越	14方	土師器 杯	口径 − 器高 (4.0) 底径 7.8	成形・整形：ロクロ・口縁外傾・底部手持ちヘラ切り？ 調整（外面）：横ナデ・底部手持ちヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	底部1/5	14方周	第68図	
2	端山越	14方	須恵器 広口壺？	口径 − 器高 (10.7) 底径 (15.0) 最大径 − 頸部径 −	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：胴部上半縦位タタキ・下部横ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	底部2/6	14方周	第68図	
1	端山越	16方	須恵器 広口壺	口径 24.8 器高 (11.0) 底径 − 最大径 − 頸部径 −	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：頸部以上横ナデ・胴部上半縦位タタキ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	口縁4/6	16方周-4～6・8・10～16・18・19・21・22	第68図	
1	端山越	17方	須恵器 杯	口径 13.5 器高 4.4 底径 8.0 口底径比 1.69	成形・整形：ロクロ・口縁外傾・端部外反気味 調整（外面）：横ナデ・体部下端・底部手持ちヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗青灰色 焼成：良好・堅緻	周溝 覆土中	ほぼ完形	17方周-9	第68図	
2	端山越	17方	土師器 杯	口径 14.6 器高 4.1 底径 6.5	成形・整形：口縁外傾・底部やや丸み帯びる 調整（外面）：ナデ・体部下端・底部手持ちヘラケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	完形	17方周-10	第68図	焼成時黒斑有
3	端山越	17方	須恵器 長頸壺	口径 − 器高 (15.0) 底径 7.8 最大径 (17.0) 頸部径 − 高台高 1.4	成形・整形：ロクロ・高台内面に段 調整（外面）：横ナデ・底部回転ヘラケズリ→高台付けてナデ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰色・自然釉 焼成：良好・堅緻	周溝 覆土中	胴部～底部3/4	17方周-1・4～6	第68図	
4	端山越	17方	土師器 杯	口径 − 器高 (0.8) 底径 (6.0)	成形・整形： 調整（外面）：ナデ・体部下端・底部手持ヘラケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：褐色粒少量含 色調：茶褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	底部1/6	17方周-7	第68図	
1	端山越	20方	須恵器 高盤	口径 (23.6) 器高 12.1 脚径 (15.2) 基部径 6.0 盤高 3.0 脚高 9.1	成形・整形：ロクロ・盤部端つまみ上げ・透かしは三箇所 調整（外面）：横ナデ 調整（内面）：横ナデ	胎土：白色粒含・雲母含む 色調：淡灰褐色 焼成：良好だがやや軟質	周溝 覆土中	盤部2/5 裾部1/4	20方周-5・6	第68図	
2	端山越	20方	須恵器 高盤	口径 (22.0) 器高 (2.7) 脚径 − 基部径 − 盤高 − 脚高 −	成形・整形：ロクロ・盤部端つまみ上げ 調整（外面）：横ナデ 調整（内面）：横ナデ	胎土：白色粒含・雲母含む 色調：淡灰褐色 焼成：良好だがやや軟質	周溝 覆土中	盤部1/4	20方周-2	第68図	
1	端山越	21方	須恵器 高盤	口径 − 器高 (8.5) 脚径 (13.8) 基部径 − 杯高 − 脚高 −	成形・整形：ロクロ・透かしは三箇所？ 調整（外面）：横ナデ 調整（内面）：横ナデ	胎土：白色粒含・雲母含む 色調：淡灰褐色 焼成：良好だがやや軟質	周溝 覆土中	脚部1/8	21方周-1	第68図	
2	端山越	21方	土師器 小型甕	口径 (12.0) 器高 10.5 底径 6.6 最大径 (12.8)	成形・整形： 調整（外面）：上半縦ケズリ・下半斜ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	口縁1/8 底部1/2	21方周-3・7	第68図	
1	端山越	地区 一括	須恵器 長頸壺？	口径 − 器高 (2.4) 底径 (8.2) 最大径 − 頸部径 − 高台高 0.8	成形・整形：ロクロ・高台内面に段 調整（外面）：横ナデ・底部回転ヘラケズリ→高台付けてナデ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰色・自然釉 焼成：良好・堅緻	溝 覆土中	底部1/4	D5・3C2C	第70図	
2	端山越	地区 一括	土師器 高台付杯	口径 − 器高 (1.9) 底径 (6.2) 高台高 0.7	成形・整形：ロクロ・高台接合後に内側に沈線（調整？） 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗明黄褐色・内黒 焼成：良好	包含層	底部1/4	3B36c	第70図	
3	端山越	地区 一括	須恵器 杯	口径 − 器高 (3.0) 底径 7.2	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：ナデ・体部下端手持ちヘラケズリ・底部回転ヘラケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土： 色調：目立つ混入物なし 焼成：良好	包含層	底部完存	4B21b	第70図	
4	端山越	地区 一括	土師器 杯	口径 − 器高 (1.8) 底径 7.2	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：ナデ・体部下端手持ちヘラケズリ・底部回転ヘラケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好	包含層	底部1/2	3B4b	第70図	
5	端山越	地区 一括	須恵器 広口壺	口径 (24.0) 器高 (6.5) 底径 最大径 − 頸部径 −	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：横ナデ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：灰茶褐色 焼成：良好	溝 覆土中	口縁1/10	D5-23	第70図	
6	端山越	地区 一括	須恵器 鉢？	口径 (23.4) 器高 (4.5) 底径 −	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：横ナデ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰褐色 焼成：良好	溝 覆土中	口縁1/10	D6-8	第70図	
7	端山越	地区 一括	須恵器 長頸壺	口径 − 器高 (16.2) 底径 11.0 最大径 (19.8) 頸部径 (9.0)	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：横ナデ・底部回転ヘラケズリ→高台付けてナデ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰色・自然釉 焼成：良好・堅緻	包含層	胴部1/8 底部2/3	4C43c	第70図	
8	端山越	地区 一括	土師器 杯	口径 (14.0) 器高 (3.6) 底径 (9.4)	成形・整形：ロクロ・回転ヘラ切り 調整（外面）：横ナデ・底部回転ヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好	包含層	口縁1/4	3C14c	第70図	
9	端山越	地区 一括	土師器 杯	口径 (13.6) 器高 4.0 底径 (8.0)	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：ナデ・体部下端・底部手持ちヘラケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好	包含層	口縁一部 底部1/6	3C4d	第70図	
10	端山越	地区 一括	土師器 杯	口径 − 器高 (2.5) 底径 (8.0)	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：ナデ・体部下端・底部手持ちヘラケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好	包含層	底部2/5	5B91d	第70図	
11	端山越	地区 一括	石製品 板砕	長さ 63.0 幅 22.0 厚み 1.7 重さ	表に梵字（キリーク）・緑泥片岩		包含層	ほぼ完形	4C55a	第70図	
1	大草台	1住	土師器 杯	口径 14.0 器高 5.2 最大径 14.6	成形・整形：内面に「X」の線刻 調整（外面）：口縁横ナデ・体部横ケズリ 調整（内面）：口縁横ナデ・体部ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい赤褐色・赤彩 焼成：良好	床直	ほぼ完形	A1-57	第80図	
2	大草台	1住	土師器 坩	口径 10.4 器高 11.0 底径 4.2 最大径 10.8 頸部径 6.3	成形・整形：平底 調整（外面）：ミガキに近い丁寧なナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：白色粒微量含 色調：にぶい褐色 焼成：良好	床直	胴部一部欠損	A1-56	第80図	
3	大草台	1住	土師器 坩	口径 − 器高 (5.3) 底径 4.2 最大径 9.2 頸部径 −	成形・整形：輪積み痕・平底気味 調整（外面）：胴部下半横ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：白色粒微量含 色調：にぶい褐色 焼成：良好	床直	底部完存	A1-34	第80図	
4	大草台	1住	土師器 ミニチュア 甕	口径 5.2 器高 4.6 底径 2.0 最大径 4.6 頸部径 4.3	成形・整形：輪積み痕・平底気味 調整（外面）：ナデ（指頭痕圧状） 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	ほぼ完形	A1	第80図	手捏土器？
5	大草台	1住	土師器 小型甕？	口径 − 器高 (2.5) 底径 3.0 最大径 − 頸部径 −	成形・整形： 調整（外面）：ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	底部完存	A1	第80図	
6	大草台	1住	土師器 高杯	口径 20.0 器高 (14.0) 脚径 − 基部径 4.1 杯高 7.4 脚高 −	成形・整形：杯部は鱗状の突起と中空状の脚部・杯部段貼付 調整（外面）：縦ケズリ→ミガキに近い丁寧なナデ 調整（内面）：杯部：ナデ・脚上部：絞り目・脚下部：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい赤褐色 焼成：良好	床直 炉	口縁2/3	A1-28・45・46	第80図	
7	大草台	1住	土師器 高杯	口径 (19.0) 器高 (6.7) 脚径 − 基部径 − 杯高 (7.0) 脚高 −	成形・整形： 調整（外面）：杯上部：ナデ・下部：横位・斜位ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい赤褐色 焼成：良好	床直	杯部1/3	A1-5・8・11	第80図	
8	大草台	1住	土師器 高杯	口径 − 器高 (8.0) 脚径 15.0 基部径 − 杯高 − 脚高 −	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：脚中空部：縦位ケズリ（下→上）・裾部ハケ・端部ナデ 調整（内面）：上部：絞り目・中位：ケズリ・裾部ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	脚部完存	A1-55	第80図	
9	大草台	1住	土師器 高杯	口径 (19.5) 器高 (6.5) 脚径 − 基部径 − 杯高 − 脚高 −	成形・整形： 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい赤褐色・赤彩 焼成：良好	床直	杯部1/3	A1-7	第80図	
10	大草台	1住	土師器 高杯	口径 − 器高 (7.8) 脚径 − 基部径 − 杯高 − 脚高 −	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：縦ケズリ→ミガキに近い丁寧なナデ 調整（内面）：上部：絞り目・中位：ケズリ・裾部ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	脚部2/3	A1-48	第80図	
11	大草台	1住	土師器 高杯	口径 (22.0) 器高 (4.7) 脚径 − 基部径 − 杯高 − 脚高 −	成形・整形： 調整（外面）：上部：横ナデ・下部：斜位ナデ 調整（内面）：上部：横ナデ・下部：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい赤褐色 焼成：良好	床直	杯部1/4	A1-59	第80図	

No.	遺跡名	遺構名	種類 器種	法量 (cm・g)	手法・形態の特徴	胎土・色調・焼成 などの特徴	位置 層位	残存 具合	注記	挿図 番号	備考
12	大草台	1住	土師器 高杯	口径 － 器高 (4.0) 脚径 － 基部径 － 杯高 － 脚高 －	成形・整形：杯部屈曲部に突起 調整（外面）：縦ケズリ（上→下）→赤彩 調整（内面）：横ケズリ→ナデ→赤彩	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい赤褐色・赤彩 焼成：良好	床直	杯部1/4	A1-35	第80図	
13	大草台	1住	土師器 小型甕	口径 10.6 器高 13.7 底径 5.4 最大径 10.2 頸部径 8.6	成形・整形：輪積み痕・口縁外面指頭圧痕 調整（外面）：上部：ナデ・下部：縦ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好・２次被熱	床直 炉	ほぼ完形	A1-25・26・28・29・31・47	第80図	
14	大草台	1住	土師器 甕	口径 (18.6) 器高 (5.2) 底径 － 最大径 － 頸部径 (14.4)	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：口縁上部横ナデ・下部横ケズリ・胴上部縦ケズリ（下→上） 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	床直	口縁1/4	A1-18	第80図	
15	大草台	1住	土師器 甕	口径 － 器高 (12.5) 底径 6.5 最大径 (19.5) 頸部径 －	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	床直	胴部2/3	A1-3	第80図	
16	大草台	1住	土師器 甕	口径 18.5 器高 24.1 底径 8.4 最大径 24.3 頸部径 15.3	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：口縁横ナデ・胴上部斜位ケズリ・中位横ケズリ・下部縦ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	床直	口縁7/8 底部完存	A1-1・10・12	第80図	
17	大草台	1住	土師器 甕	口径 17.0 器高 24.0 底径 8.0 最大径 24.4 頸部径 14.7	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：口縁指頭圧痕→ナデ・口縁下部ケズリ・胴部ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	床直	口縁1/2 胴部1/2 底部完存	A1-2・13～16・20・21・45	第80図	
18	大草台	1住	土師器 甕	口径 14.5 器高 (19.8) 底径 － 最大径 (24.0) 頸部径 12.5	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：口縁ナデ・胴部ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	口縁完存 胴部1/3	A1-39～44・52～54・58	第80図	
19	大草台	1住	石製品 石皿	長さ 14.7 幅 12.0 厚み 4.0 重さ	砂岩の石皿（両面使用）→砥石（一部刃物削痕）		床直	ほぼ完形？	A1-58	第80図	
1	大草台	1古	土師器 杯	口径 (13.6) 器高 (4.8) 底径 －	成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ・体部横位ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	口縁1/2	1古-6～11	第96図	
2	大草台	1古	須恵器 杯	口径 － 器高 (2.2) 底径 8.2	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：横ナデ 調整（内面）：底部回転ヘラケズリ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰白色 焼成：良好・堅緻	周溝 覆土中	底部2/3	1古	第96図	古墳以降の遺物
3	大草台	1古	瓦 布目平瓦	長さ (26.8) 幅 (11.7) 厚み 2.6	成形・整形：桶巻？ 調整（外面）：ナデ→布目圧痕→縁辺部ナデ 調整（内面）：ナデ→布目圧痕→縁辺部ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗青灰色 焼成：良好・堅緻	周溝 覆土中	一部	1古周-2・3	第96図	古墳以降の遺物
1	大草台	2古	土師器 杯	口径 14.5 器高 3.9	成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ→ミガキ・体部ケズリ→ミガキ 調整（内面）：口縁横ナデ→ミガキ・体部ナデ→ミガキ	胎土：目立つ混入物なし 色調：地は淡灰白色・黒褐色 焼成：良好	２主	口縁3/4	2墳２主-1	第96図	
2	大草台	2古	土師器 杯	口径 (16.0) 器高 (2.8) 底径 － 最大径 (17.6)	成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ→ミガキ・体部ケズリ→ミガキ 調整（内面）：口縁横ナデ→ミガキ・体部ナデ→ミガキ	胎土：目立つ混入物なし 色調：地は淡灰白色・黒褐色 焼成：良好	３主	口縁1/10	2古３主北べ	第96図	
3	大草台	2古	土師器 杯	口径 (16.0) 器高 (3.0) 底径 － 最大径 (18.0)	成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ→ミガキ・体部ケズリ 調整（内面）：口縁横ナデ→ミガキ・体部ナデ→ミガキ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好	３主	口縁1/10	2古３主北べ	第96図	
4	大草台	2古	土師器 杯	口径 (14.0) 器高 (2.3) 底径 －	成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ・体部ケズリ 調整（内面）：ミガキ？	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好	墳丘 盛土	口縁1/8	2古丘	第96図	
5	大草台	2古	須恵器 長頸壺？	口径 － 器高 (2.4) 底径 － 最大径 － 基部径 5.0	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡青灰色・自然釉 焼成：良好・堅緻	周溝 覆土中	基部のみ	2古周下層	第96図	古墳以降の遺物
6	大草台	2古	須恵器 広口壺	口径 (24.0) 器高 (21.5) 底径 － 最大径 (29.8)	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：頸部以上横ナデ・胴部上半縦位タタキ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰白色 焼成：良好	周溝 覆土中	口縁1/8 頸部1/4	2古周	第96図	古墳以降の遺物
7	大草台	2古	須恵器 広口壺	口径 － 器高 (27.0) 底径 － 最大径 (29.2)	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：頸部以上横ナデ・胴部上半縦位タタキ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗灰白色 焼成：良好	周溝 覆土中	胴部1/3	2古周クロ	第96図	古墳以降の遺物
8	大草台	2古	須恵器 広口壺	口径 － 器高 (15.2) 底径 16.0 最大径 －	成形・整形：ロクロ 調整（外面）：胴部下半ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗灰白色 焼成：良好	周溝 覆土中	底部1/2	2古周クロ底	第96図	古墳以降の遺物
1	大草台	3古	土師器 杯	口径 (11.8) 器高 3.8	成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ・体部横ケズリ 調整（内面）：口縁横ナデ・体部ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：赤褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	口縁1/8	3周	第97図	
2	大草台	3古	土師器 杯	口径 (13.6) 器高 (3.5)	成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ・体部横ケズリ 調整（内面）：口縁横ナデ・体部ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：赤褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	口縁1/4	3周	第97図	
1	大草台	表採	土師器 高杯	口径 － 器高 (8.7) 脚径 － 基部径 4.0 杯高 － 脚高 －	成形・整形： 調整（外面）：ケズリ→ナデ 調整（内面）：杯部ミガキ（黒色化）・脚部ケズリ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色・口縁内面黒色 焼成：良好	表採	基部のみ	表採	第97図	古墳時代中期
1	大草台	4古	須恵器 杯身	口径 13.0 器高 4.8 底径 5.0 最大径 14.8 口縁高 1.0	成形・整形：ロクロ・底部回転ヘラケズリは1/3程度 調整（外面）：横ナデ・底部のみ回転ヘラケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：青灰白色 焼成：良好・堅緻	周溝 覆土中	完形	4古-1	第97図	TK10
2	大草台	4古	土師器 高杯	口径 (18.0) 器高 (4.2) 脚径 － 基部径 － 杯高 － 脚高 －	成形・整形： 調整（外面）：縦位ハケ→ナデ・下部ケズリ 調整（内面）：横位ハケ→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	口縁1/10	4古	第97図	古墳時代中期
3	大草台	4古	土師器 小型壺	口径 － 器高 (4.0) 底径 － 最大径 － 頸部径 (8.0)	成形・整形： 調整（外面）：頸部以上ナデ・縦位ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	２主	頸部1/4	4古２主	第97図	古墳時代中期
4	大草台	4古	土師器 小型壺	口径 － 器高 (4.0) 底径 － 最大径 － 頸部径 (7.0)	成形・整形： 調整（外面）：頸部以上ケズリ・胴部ケズリ→ナデ 調整（内面）：口縁ケズリ・胴部ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	２主	頸部1/4	4古２主	第97図	古墳時代中期
5	大草台	4古	土師器 高杯	口径 － 器高 (6.0) 脚径 － 基部径 － 杯高 － 脚高 －	成形・整形： 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：横位ケズリ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	脚上半	4古	第97図	古墳時代中期
6	大草台	4古	土師器 高杯	口径 － 器高 (5.8) 脚径 － 基部径 － 杯高 － 脚高 －	成形・整形： 調整（外面）：ケズリ 調整（内面）：上部絞り目・横位ケズリ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	脚上半	4古	第97図	古墳時代中期
7	大草台	4古	土師器 高杯	口径 － 器高 (4.8) 脚径 － 基部径 (4.0) 杯高 － 脚高 －	成形・整形： 調整（外面）：ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	基部のみ	4古	第97図	古墳時代中期
1	大草台	7古	土師器 杯	口径 12.2 器高 3.3	成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ・体部横位ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	口縁2/3	7古周-2(8F97b)	第96図	
2	大草台	7古	土師器 杯	口径 (14.2) 器高 5.4	成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ・体部横位ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗赤褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	口縁1/3	7古周-1(8F97b)	第96図	
3	大草台	7古	土師器 甕	口径 17.0 器高 29.5 底径 8.0 最大径 26.5 頸部径 15.2	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：口縁横ナデ・体部下半ケズリ 調整（内面）：ケズリ→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	周溝 C21	完形	7古-3・5～9・C21-1～3・5～10	第96図	21土遺物と接合
1	大草台	1円	土師器 杯	口径 12.5 器高 5.0	成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ・体部横ケズリ 調整（内面）：口縁横ナデ・体部ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい赤褐色・赤彩 焼成：良好	周溝 覆土中	完形	1円-1(96Ⅱ)	第103図	
2	大草台	1円	土師器 甕	口径 (18.0) 器高 (6.8) 底径 － 最大径 － 頸部径 (16.2)	成形・整形： 調整（外面）：口縁ナデ・胴部ケズリ 調整（内面）：口縁ナデ・胴部ケズリ→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	口縁1/2	1円周-1・4区	第103図	３と同一個体
3	大草台	1円	土師器 甕	口径 － 器高 (9.0) 底径 8.5 最大径 － 頸部径 －	成形・整形： 調整（外面）：胴部下半ケズリ→ナデ・下端横ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：褐色 焼成：良好	周溝 覆土中	底部5/6	1円周-1・4区	第103図	２と同一個体
31	大草台	一括 遺物	土師器 手捏鉢型鉢	口径 10.8 器高 5.0	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：ナデ・底部のみケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	包含層	口縁1/2	7E91a	第106図	古墳時代中期？
1	大草台	11土	常滑焼 大甕	口径 49.3 器高 65.8 底径 19.0 最大径 70.0 頸部径 47.7	成形・整形：肩部に押印 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：小礫含 色調：暗緑灰色？釉 焼成：良好・堅緻	土坑内	胴部一部欠損		第107図	甕棺？
2	大草台	2塚	近世土器 蓋	口径 35.6 器高 7.0 つまみ 4.7	成形・整形：つまみあり 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：褐色 焼成：良好	塚盛土	完形		第107図	骨壺？

No.	遺跡名	遺構名	種類 器種	法量 (cm・g)		手法・形態の特徴	胎土・色調・焼成 などの特徴	位置 層位	残存 具合	注記	挿図 番号	備考
3	大草台	2塚	近世土器 無頸大型壺	口径 31.3 器高 48.3 底径 32.5	最大径 42.8	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：褐色 焼成：良好	塚盛土	完形		第107図	骨壺？
1	上谷津第1	1住	土師器 有段口縁壺	口径 (18.0) 器高 (5.0) 底径	最大径 頸部径	成形・整形：端部を上方へつまみ上げる 調整（外面）：口縁端部横ナデ・上段横ミガキ・下段縦ミガキ 調整（内面）：横ミガキ	胎土：目立つ混入物なし 色調：内外面赤彩・地は灰褐色 焼成：良好	覆土 中位	口縁1/7	A1-1	第136図	
2	上谷津第1	1住	土師器 坩	口径 12.0 器高 7.8 底径 3.8		成形・整形：薄手・頸部内面に接合段 調整（外面）：ミガキに近いナデ 調整（内面）：ミガキに近いナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：内外面赤彩・地は淡暗褐色 焼成：良好	床直	口縁3/5 底部1/1	A1-45・47	第136図	
3	上谷津第1	1住	土師器 高杯？	口径 (11.6) 器高 (5.3) 脚径	基部径 杯高 脚高	成形・整形： 調整（外面）：ミガキに近いナデ・ハケ目わずかに残る 調整（内面）：ミガキに近いナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：地は淡暗褐色 焼成：良好	床直	口縁1/6	A1-4・51・貯・P6	第136図	
4	上谷津第1	1住	土師器 内彎鉢	口径 9.5 器高 5.5 底径 3.0	最大径 10.0	成形・整形：内面端部は有段 調整（外面）：口縁～体部ハケ→ナデ・下部～底部ケズリ 調整（内面）：上部ナデ・下部ミガキ	胎土：目立つ混入物なし 色調：地は淡暗褐色 焼成：良好	床直	ほぼ完形	A1-5	第136図	
5	上谷津第1	1住	土師器 小型壺？	口径 器高 (7.0) 底径 4.0	最大径 頸部径 (13.0)	成形・整形： 調整（外面）：ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：地は淡暗褐色 焼成：良好	床直	胴部1/5 底部完形	A1-32・52	第136図	
6	上谷津第1	1住	土師器 小型甕	口径 12.8 器高 13.5 底径 4.7	最大径 頸部径 14.6	成形・整形： 調整（外面）：口縁～胴部下半:ハケ→ケズリ→ナデ・底部付近ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：地は淡暗褐色・赤彩？ 焼成：良好	床直	口縁一部 欠損	A1-35	第136図	
7	上谷津第1	1住	土師器 小型甕	口径 (6.8) 器高 9.3 底径 3.7	最大径 頸部径 (9.6)	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：口縁～胴部下半:ハケ→ケズリ→ナデ・底部付近ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：白色粒目立つ 色調：地は淡暗茶褐色 焼成：良好（やや硬め）	床直	口縁1/8 底部完形	A1・貯・P6	第136図	
8	上谷津第1	1住	土師器 大型甕？	口径 器高 (21.2) 底径 8.0	最大径 頸部径 (33.0)	成形・整形：輪積み痕・底部木葉痕 調整（外面）：口縁～胴部下半:ハケ→ケズリ→ナデ・底部付近ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：地は淡暗褐色 焼成：良好	覆土 中位	底部完形	A1-27・28・34・42・49・54・貯	第136図	
9	上谷津第1	1住	土師器 甕	口径 器高 (20.5) 底径	最大径 頸部径 (26.0)	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：上部:横ハケ→斜めハケ・下部横ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	覆土 中位	胴部1/2	A1-34・54	第136図	
10	上谷津第1	1住	土師器 甕	口径 器高 (8.5) 底径 7.4	最大径 頸部径 (23.6)	成形・整形： 調整（外面）：ハケ→荒いナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡暗褐色 焼成：良好	床直	底部完存	A1-53	第136図	
11	上谷津第1	1住	土師器 甕	口径 器高 (2.0) 底径 (9.0)	最大径 頸部径	成形・整形：底部に圧痕（網代？）※土師器 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡暗褐色 焼成：良好	床直	底部1/3	A1-29	第136図	
12	上谷津第1	1住	石器 石皿	長さ 20.0 幅 12.2 厚み 7.0	重さ 2,269.0	上下面とも中央は凹面。端部に鉄製品による鋭利な削痕。砥石に転用か？ 上面凹部に赤彩？→赤彩原料を摺った？		床直	完形	A1	第136図	
13	上谷津第1	1住	土製品 土玉	径 2.8 厚み 2.9 孔径	重さ 11.5	成形・整形：手捏・棒に巻き付け丸く捏ねる？ 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	1/2	A1	第136図	
14	上谷津第1	1住	石製品 軽石？	長さ 2.1 が場 厚み 1.1	重さ 3.0	円形の浮石？中央に孔？		床直	1/6	A1	第136図	
1	上谷津第1	2住	土師器 手捏鉢	口径 6.7 器高 4.2 底径 2.0		成形・整形：手捏 調整（外面）：捏ね→ケズリ→ナデ・指頭圧 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	口縁3/4 底部完形	A2-7	第136図	
2	上谷津第1	2住	土製品？ 円板？	径 3.5 厚み 0.5 孔径	重さ 95.0	成形・整形：土器片を円形に再整形 調整（外面）：ハケ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡暗褐色 焼成：良好	覆土中	完形？	A2	第136図	
3	上谷津第1	2住	土製品 花飾り？	径 3.1 厚み 0.8 孔径	重さ	成形・整形：花弁状に成形・中央に孔・裏面は剥離痕（何かの装飾） 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：(剥離痕)	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	完形？	A2-13	第136図	
4	上谷津第1	2住	土製品 土玉	径 2.3 厚み 2.5 孔径	重さ 8.1	成形・整形：手捏・棒に巻き付け丸く捏ねる？ 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	覆土中	2/3	A2	第136図	
5	上谷津第1	2住	土製品 土玉	径 (2.6) 厚み (2.6) 孔径	重さ 8.5	成形・整形：手捏・棒に巻き付け丸く捏ねる？ 調整（外面）：ナデ→一部ハケ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	覆土中	1/2	A2	第136図	
6	上谷津第1	2住	土製品 土玉	径 (2.5) 厚み 2.5 孔径	重さ 7.0	成形・整形：手捏・棒に巻き付け丸く捏ねる？ 調整（外面）：ナデ→一部ハケ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	覆土中	2/5	A2	第136図	
7	上谷津第1	2住	土製品 土玉	径 (2.5) 厚み (2.4) 孔径 4.6	重さ	成形・整形：手捏・棒に巻き付け丸く捏ねる？ 調整（外面）：ナデ→一部ハケ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	覆土中	1/4	A2	第136図	
1	上谷津第1	3住	土師器 小型甕	口径 (9.8) 器高 (7.0) 底径	最大径 頸部径	成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ・頸部～胴部斜めケズリ→ミガキ 調整（内面）：ナデ→ミガキ	胎土：目立つ混入物なし 色調：褐色 焼成：良好	床直	口縁1/4 胴部1/4	A3-19・19・20・27	第137図	
2	上谷津第1	3住	土師器 高杯？	口径 器高 (6.5) 脚径 (13.0)	基部径 杯高 脚高	成形・整形： 調整（外面）：ケズリ→ミガキに近いナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	脚部1/2	A3-35・58・63・93・96・100	第137図	
3	上谷津第1	3住	土師器 甕	口径 (16.8) 器高 (18.0) 底径	最大径 (27.6) 頸部径	成形・整形：内面頸部に輪積み痕 調整（外面）：口縁端部横ナデ・口縁～頸部縦ハケ・胴部横ハケ 調整（内面）：口縁端部横ナデ・それ以下ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡い暗褐色 焼成：良好	床直	口縁1/4 胴部1/4	A3-47・50・53・55・58・60・64・67・68・69・70・72・75	第137図	2次焼成あり
4	上谷津第1	3住	土師器 甕	口径 器高 (21.5) 底径 (7.0)	最大径 (29.0) 頸部径	成形・整形： 調整（外面）：ハケ→緩くナデ・底部ケズリ(ハケ明朗に残る) 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	胴部1/3 底部1/1	A3-43・77	第137図	
5	上谷津第1	3住	土師器 甕	口径 (14.0) 器高 (15.5) 底径	最大径 (22.2) 頸部径	成形・整形： 調整（外面）：口縁端部ハケ→ナデ口縁下部縦ハケ・胴部横ハケ 調整（内面）：ナデ	胎土：少量の白色粒 色調：淡い暗褐色 焼成：良好	床直	口縁1/4 胴部1/4	A3-35・37・40・48・49・52・57・95・109・111～114	第137図	2次焼成あり
6	上谷津第1	3住	土師器 甕	口径 (18.0) 器高 (4.0) 底径	最大径 頸部径	成形・整形： 調整（外面）：口縁端部ハケ→ナデ・胴部ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡い暗褐色 焼成：良好	床直	口縁1/4	A3-27・29・47・102	第137図	
7	上谷津第1	3住	土師器 小型壺	口径 14.8 器高 (16.5) 底径 6.0	最大径 15.8 頸部径	成形・整形：底部に刻み？ 調整（外面）：口縁端部ハケ→ナデ・頸部縦ハケ・胴部上半横ハケ・下部縦ハケ 調整（内面）：ナデ	胎土：少量の白色粒 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	口縁7/8 底部完存	A3-54・62・97・103～105	第137図	
8	上谷津第1	3住	土師器 甕	口径 器高 (3.5) 底径 8.4	最大径 頸部径	成形・整形：底部に木葉痕・底部突出 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：褐色 焼成：良好	床直	底部3/5	A3-93・94・97・100	第137図	
9	上谷津第1	3住	土師器 甕	口径 器高 (1.7) 底径 7.5	最大径 頸部径	成形・整形：底部に木葉痕・底部突出 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：褐色 焼成：良好	床直	底部2/3	A3-1	第137図	
10	上谷津第1	3住	土製品 円板	径 3.2 厚み 0.7 重さ 9.9		成形・整形：土器片を円形に再整形 調整（外面）：ハケ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	覆土中	完形？	A3-44	第137図	
11	上谷津第1	3住	土製品 円板	径 3.9 厚み 0.6 重さ 13.6		成形・整形：土器片を円形に再整形 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	覆土中	完形？	A3区	第137図	
1	上谷津第1	4住	土師器 小型壺	口径 器高 (11.7) 底径 5.0	最大径 16.2 頸部径	成形・整形： 調整（外面）：横ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：褐色・外面赤彩 焼成：良好	床直	口縁欠損	A4-20	第137図	内外面の同位置に黒斑あり
2	上谷津第1	4住	土師器 小型甕？	口径 器高 (6.0) 底径 3.4	最大径 頸部径	成形・整形： 調整（外面）：ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	底部完存	A4-6	第137図	
3	上谷津第1	4住	土師器 甕	口径 16.8 器高 (16.3) 底径	最大径 (22.4) 頸部径	成形・整形：輪積み痕・口縁端部が外傾 調整（外面）：口縁～胴部中位工具による稜線が明瞭なナデ・下部斜ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	覆土 中層	口縁1/2 胴部2/5	A4-23	第137図	
4	上谷津第1	4住	土師器 甕	口径 (16.0) 器高 (15.0) 底径	最大径 (20.0) 頸部径	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：口縁ハケ→ナデ・胴部ハケ 調整（内面）：口縁ハケ・胴部ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	口縁1/4 胴部1/4	A4-13・63	第137図	
5	上谷津第1	4住	土師器 壺	口径 (15.0) 器高 (15.8) 底径	最大径 頸部径	成形・整形：輪積み痕・器壁が厚い 調整（外面）：口唇ハケ→ナデ・口縁下部斜位ハケ・胴部ハケ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	口縁1/10	A4-14・27・18・P8	第137図	

No.	遺跡名	遺構名	種類 器種	法量 （cm・g）		手法・形態の特徴	胎土・色調・焼成 などの特徴	位置 層位	残存 具合	注記	挿図 番号	備考
6	上谷津第1	4住	土師器 甕	口径 器高 (3.5) 底径 5.6	最大径 (16.6) 頚部径	成形・整形： 調整（外面）：ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	底部完存	A4-27･24	第137図	3の底部？
1	上谷津第1	5住	土師器 甕	口径 器高 (2.0) 底径 6.0	最大径 頚部径	成形・整形： 調整（外面）：ハケ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	覆土中	底部2/3	A5	第137図	
1	上谷津第1	6住	土師器 高杯	口径 21.0 器高 (6.0) 裾径	基部径 杯高 脚高	成形・整形： 調整（外面）：横・斜ハケ→赤彩→横ナデ 調整（内面）：横ハケ→赤彩→横ナデ→放射状のミガキ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡い暗褐色･赤彩 焼成：良好	床直	口縁2/3	A6-7･10･ 12	第137図	
2	上谷津第1	6住	土師器 高杯	口径 (13.0) 器高 (4.5) 裾径	基部径 杯高 脚高	成形・整形： 調整（外面）：ナデ･下部ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	口縁1/8	A6-1	第137図	
3	上谷津第1	6住	土師器 高杯	口径 器高 (7.0) 裾径 10.0	基部径 杯高 脚高	成形・整形： 調整（外面）：縦ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好･やや硬め	床直	底部完存	A6-9	第137図	
4	上谷津第1	6住	土師器 小型甕	口径 13.0 器高 12.8 底径 4.8	最大径 13.9 頚部径	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：口縁横ナデ･頸部～胴部斜ハケ→縦ケズリ･下部下からケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡い暗褐色 焼成：良好	床直	完形	A6-3	第137図	
5	上谷津第1	6住	土師器 甕	口径 18.0 器高 19.0 底径 6.0	最大径 21.0 頚部径	成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ･縦ハケ→部分ナデ･下部横ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡い暗褐色 焼成：良好	床直	完形	A6-5	第138図	内面下部に炭化物痕（米?）
6	上谷津第1	6住	土師器 甕	口径 (17.0) 器高 (19.5) 底径	最大径 (23.0) 頚部径	成形・整形：輪積み痕･口縁端部が外傾 調整（外面）：口縁～胴部中位工具による稜線が明瞭なナデ･下部斜ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	口縁1/8	A6-4	第138図	
7	上谷津第1	6住	土師器 甕	口径 器高 (14.5) 底径 6.0	最大径 (27.6) 頚部径	成形・整形： 調整（外面）：胴中位ハケ→ナデ･胴下部縦下からケズリ→ナデ 調整（内面）：胴中位ハケ→ナデ･下部下からケズリ→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡い暗褐色 焼成：良好	床直	底部完存	A6-4･2	第138図	
1	上谷津第1	7住	土師器 器台	口径 器高 (7.5) 裾径 (15.0)	基部径 脚高 孔径	成形・整形：円形透かし3孔 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ハケ→ナデ	胎土：ややザラつく･細かい砂粒含 色調：淡い暗褐色･赤彩 焼成：やや軟質･良好	覆土 中位	脚部1/4	A7-1･2	第138図	
1	上谷津第1	8住	土師器 高杯	口径 14.6 器高 (6.5) 裾径	基部径 杯高 脚高	成形・整形： 調整（外面）：ミガキ 調整（内面）：ミガキ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	覆土中	口縁1/2	A8-7	第138図	
2	上谷津第1	8住	土師器	口径 器高 (2.1) 底径 6.1	最大径 頚部径	成形・整形：底部木葉痕 調整（外面）：ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	覆土中	底部完存	A8-2	第138図	
1	上谷津第1	9住	土師器 甕	口径 器高 (8.0) 底径 7.5	最大径 (23.3)	成形・整形： 調整（外面）：胴部ハケ･一部ナデ･底部ナデ 調整（内面）：ナデ･指頭圧痕	胎土：ややザラつく･細かい砂粒含 色調：暗褐色 焼成：良好	覆土中	底部完存	A9-3･4	第138図	
1	上谷津第1	10住	土師器 坩	口径 (10.2) 器高 4.7 底径		成形・整形：頸部の接合痕明瞭 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：	胎土：目立つ混入物なし 色調：褐色 焼成：良好	床直	口縁1/2	A10-3･貯	第138図	
2	上谷津第1	10住	土師器 器台	口径 器高 5.8 裾径 9.0	基部径 脚高 孔径	成形・整形： 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色･赤彩 焼成：良好	床直	脚部1/5	A10-11	第138図	
3	上谷津第1	10住	土師器 小型壺	口径 11.0 器高 14.0 底径 4.4	最大径 13.2 頚部径	成形・整形： 調整（外面）：ハケ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡い暗褐色 焼成：良好	床直	口縁1/2 胴部1/2 底部完存	A10-33～ 37	第138図	
4	上谷津第1	10住	土師器 小型壺	口径 (10.2) 器高 15.0 底径 4.4	最大径 (12.2) 頚部径	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：口縁～胴部中位ナデ･胴部下部ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡い暗褐色 焼成：良好	床直	口縁一部 胴部以下 完存	A10-16～ 19･39･40･ 42	第138図	
5	上谷津第1	10住	土師器 小型甕	口径 9.2 器高 12.8 底径 4.2	最大径 11.7 頚部径	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：口縁横ナデ･口縁下部～胴部縦ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡い暗褐色 焼成：良好	床直	完形	A10-1	第138図	
6	上谷津第1	10住	土師器 甕→甑	口径 14.0 器高 17.3 底径 5.8	最大径 14.6 頚部径	成形・整形：頸部の接合痕明瞭･穿孔は焼成後 調整（外面）：ケズリ→ナデ･底部ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	口縁3/4 底部完形	A10-2･3･ 38･39	第138図	底部穿孔で甑に再利用
7	上谷津第1	10住	土師器 甕	口径 器高 (14.3) 底径 5.2	最大径 (19.0) 頚部径	成形・整形：底部木葉痕 調整（外面）：胴部縦ハケ･下部ハケ→ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	胴部下半 完存	A10-20～ 26･28･30	第138図	
8	上谷津第1	10住	土師器 ミニチュア 鉢	口径 8.2 器高 4.5 底径 4.0	最大径 8.6	成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ･ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	口縁2/3 底部7/8	A10-40･27 ･貯	第138図	
9	上谷津第1	10住	土師器 ミニチュア 鉢	口径 8.0 器高 (3.5) 底径		成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ･ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	口縁1/2	A10-27	第138図	
10	上谷津第1	10住	土製品 円板	径 3.0 厚み 0.6 重さ		成形・整形：土器片を円形に再整形 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	完形？	A10-貯	第138図	土器片再利用
1	上谷津第1	11住	土師器 坩	口径 13.8 器高 3.0 底径 8.3		成形・整形： 調整（外面）：ケズリ→ミガキに近いナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡い暗褐色 焼成：良好	床直	口縁1/2 底部完存	A11-7･9～ 11･26･28	第138図	
2	上谷津第1	11住	土師器 複合口縁壺	口径 (19.8) 器高 (4.4) 底径	最大径 頚部径	成形・整形：3本一組の棒状浮文 調整（外面）：ナデ→ミガキに近いナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	口縁1/8	A11-貯2	第138図	
3	上谷津第1	11住	土師器 複合口縁壺	口径 (14.0) 器高 (8.5) 底径	最大径 (16.4) 頚部径	成形・整形： 調整（外面）：ナデ→ミガキ 調整（内面）：口縁ミガキ･胴部ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色･外面赤彩 焼成：良好	床直	口縁1/4	A11-20･22	第138図	
4	上谷津第1	11住	土師器 小型壺	口径 10.2 器高 13.5 底径 3.5	最大径 11.5 頚部径	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：口縁横ナデ･胴部ハケ→ミガキ･底部ケズリ 調整（内面）：口縁ハケ→ナデ･胴部ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡い暗褐色 焼成：良好	床直	口縁8/9 胴部3/4 底部1/2	A11-1～4･ 18･26･27･ 31	第139図	
5	上谷津第1	11住	土師器 甕	口径 (20.2) 器高 (16.3) 底径	最大径 (23.0) 頚部径	成形・整形： 調整（外面）：口縁ケズリ→ミガキに近いナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡い暗褐色 焼成：良好	床直	口縁2/5	A11-15～ 17･19	第139図	
6	上谷津第1	11住	土師器 ミニチュア 鉢	口径 (6.0) 器高 (4.0) 底径	最大径 (7.0)	成形・整形： 調整（外面）：ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	覆土 中位	口縁1/4	A11-26	第138図	
7	上谷津第1	11住	土製品 ミニチュア 高杯？	口径 2.3 器高 3.8 裾径 2.1	基部径 0.9 杯高 脚高	成形・整形：脚部に円孔5個 調整（外面）：縦ケズリ･ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	口縁1/2 脚部 2/3	A11-27	第138図	
1	上谷津第1	12住	土師器 皿形鉢	口径 10.7 器高 4.1 底径 丸底		成形・整形：体部から口唇まで内湾気味 調整（外面）：ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡い暗褐色 焼成：良好	床直	ほぼ完形	A12-27	第139図	
2	上谷津第1	12住	土師器 皿形鉢	口径 10.2 器高 3.2 底径 丸底		成形・整形：体部から口唇まで内湾気味 調整（外面）：ケズリ→ナデ 調整（内面）：ハケ→緩くナデ	胎土：砂粒・褐色粒含む 色調：淡い暗褐色 焼成：良好	床直	完形	A12-28	第139図	底部外面は2次比熱により発泡。
3	上谷津第1	12住	土師器 小型甕	口径 8.4 器高 8.8 底径 4.9	最大径 10.0 頚部径 0.0	成形・整形：輪積み痕･口縁内部に段 調整（外面）：口縁ハケ→横ナデ･胴部ハケ→ナデ･底部ナデ 調整（内面）：口縁横ナデ･胴部ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	完形	A12-26	第139図	
4	上谷津第1	12住	土師器 小型甕？	口径 器高 (5.4) 底径 5.0	最大径 (11.6) 頚部径	成形・整形： 調整（外面）：縦ハケ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	底部完存	A12-24	第139図	
5	上谷津第1	12住	土師器 甕	口径 18.8 器高 27.0 底径 6.3	最大径 25.0 頚部径	成形・整形：波状口唇 調整（外面）：口縁~胴部中位ハケ→部分ナデ･ケズリ･胴部下半ハケ→丁寧なナデ 調整（内面）：口縁ハケ→部分ナデ･胴部ナデ→丁寧なナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直 (炉周辺)	口縁･底 部一部 欠損	右記	第139図	A12-9･15･16･18･20･21･26･29･31～35･37･39･40～42･44･45･47･51～71･炉･貯
6	上谷津第1	12住	土師器 壺	口径 (18.4) 器高 (11.7) 底径	最大径 頚部径	成形・整形： 調整（外面）：ハケ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：褐色 焼成：良好	床直 (炉周辺)	頸部2/5 胴部1/3	A12-1～4	第139図	
7	上谷津第1	12住	土製品 勾玉	長さ 3.4 厚み 0.9 重さ		成形・整形：手捏ね 調整（外面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直 (炉周辺)	上部欠	A12-73	第139図	
1	上谷津第1	13住	土師器 大型坩	口径 (14.0) 器高 (6.2) 底径 −	最大径 − 頚部径 −	成形・整形： 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ハケ→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：褐色･赤彩 焼成：良好	覆土中	口縁1/10 頸部1/7	A13	第139図	

No.	遺跡名	遺構名	種類 器種	法量 (cm・g)	手法・形態の特徴	胎土・色調・焼成 などの特徴	位置 層位	残存 具合	注記	挿図 番号	備考
2	上谷津第1	13住	土師器 小型鉢	口径 5.8 器高 3.2 底径 3.7	成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ・胴部ハケ・底部ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	覆土中	底部一部 欠損・底 部完存	A13-2	第139図	
1	上谷津第1	16住	土師器 皿形鉢	口径 11.8 器高 3.6 底径 4.4	成形・整形： 調整（外面）：口縁ハケ→ナデ・胴部ハケ・底部ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：砂粒・褐色粒含 色調：にぶい橙色・赤彩（底部以外） 焼成：良好	床直	完形	A16-1	第139図	
2	上谷津第1	16住	土師器 皿形鉢	口径 11.8 器高 3.8 底径 3.8	成形・整形： 調整（外面）：口縁ハケ→ナデ・胴部ハケ・底部ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：砂粒・褐色粒含 色調：にぶい橙色・赤彩（底部以外） 焼成：良好	床直	口縁2/3 底部完存	A16-8	第139図	ハケ幅1cmに11～12本のハケ目
3	上谷津第1	16住	土師器 皿形鉢	口径 11.6 器高 3.3 底径 4.4	成形・整形： 調整（外面）：口縁ハケ→ナデ・胴部ハケ・底部ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：砂粒・褐色粒含 色調：にぶい橙色・赤彩（底部以外） 焼成：良好	床直	ほぼ完形	A16-6	第139図	ハケ幅1cmに11～12本のハケ目
4	上谷津第1	16住	土師器 皿形鉢	口径 11.6 器高 3.5 底径 3.5	成形・整形： 調整（外面）：口縁ハケ→ナデ・胴部ハケ・底部ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：砂粒・褐色粒含 色調：にぶい橙色・赤彩（底部以外） 焼成：良好	床直	ほぼ完形	A16-3	第139図	
5	上谷津第1	16住	土師器 碗型鉢	口径 13.8 器高 4.9 底径 6.0	成形・整形：輪台 調整（外面）：口縁ハケ→ナデ・胴部ハケ・底部ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：砂粒・褐色粒含 色調：にぶい橙色・赤彩（底部以外） 焼成：良好	床直	完形	A16-17	第139図	
6	上谷津第1	16住	土師器 碗型鉢	口径 12.4 器高 6.0 底径 4.2	成形・整形：底部突出・底面凹み明瞭 調整（外面）：口縁ハケ→ナデ・胴部ハケ・底部指頭圧痕・ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：砂粒・褐色粒含 色調：にぶい橙色・赤彩（口縁・底部以外） 焼成：良好	床直	口縁5/6 底部完存	A16-4	第139図	
7	上谷津第1	16住	土師器 ミニチュア 鉢	口径 6.2 器高 3.2 底径 3.0	成形・整形：輪台 調整（外面）：ハケ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：砂粒・褐色粒含 色調：にぶい橙色・赤彩（内面と口唇） 焼成：良好	床直	完形	A16-11	第139図	
8	上谷津第1	16住	土師器 内湾粗製鉢	口径 7.4 器高 (6.1) 底径 －	最大径 8.5 成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：ナデ（手捏ね状） 調整（内面）：ナデ	胎土：砂粒・褐色粒含 色調：にぶい橙色・赤彩 焼成：良好	床直	ほぼ完形	A16-5	第139図	
9	上谷津第1	16住	土師器 ミニチュア 甕	口径 5.2 器高 6.2 底径 4.2	成形・整形：輪台 調整（外面）：ハケ→ナデ・下部指頭圧痕 調整（内面）：ナデ	胎土：砂粒・褐色粒含 色調：にぶい橙色 焼成：良好	床直	ほぼ完形	A16-12	第139図	
10	上谷津第1	16住	土師器 小型壺	口径 12.0 器高 12.0 底径 5.0	最大径 12.4 頸部径 9.6 成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：口縁ハケ→ナデ・胴部縦ハケ(下→上)・底部ハケ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：砂粒・褐色粒含 色調：にぶい橙色・赤彩 焼成：良好	床直	口縁一部 欠損	A16-7	第139図	
11	上谷津第1	16住	土師器 小型甕	口径 13.6 器高 11.4 底径 3.5	最大径 14.0 頸部径 12.2 成形・整形： 調整（外面）：ケズリ→ナデ・底部ケズリ 調整（内面）：	胎土：砂粒・褐色粒含 色調：にぶい橙色・赤彩 焼成：良好	床直	口縁一部 欠損	A16-6	第139図	土圧で歪み
12	上谷津第1	16住	土師器 碗型鉢	口径 13.0 器高 7.1 底径 3.8	成形・整形： 調整（外面）：ナデ・底部ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：砂粒・褐色粒含 色調：にぶい橙色・赤彩 焼成：良好	床直	口縁一部 欠損	A16-10	第139図	
13	上谷津第1	16住	土師器 装飾器台	口径 17.2 器高 15.0 裾径 15.0	基部径 4.0 脚高 8.5 成形・整形：杯部△透かし３箇所・脚部○透かし３箇所・杯屈曲部突帯 調整（外面）：口唇と脚端横ナデ・杯部～脚部ハケ→ミガキ 調整（内面）：口唇と脚端横ナデ・杯部ハケ→ミガキ・脚ハケ→ミガキ	胎土：砂粒・褐色粒含 色調：にぶい橙色・赤彩 焼成：良好	床直	完形	A16-2	第140図	胎土は在地北陸系
14	上谷津第1	16住	土師器 甕	口径 20.6 器高 27.0 底径 6.8	最大径 27.0 頸部径 18.8 成形・整形：輪積み痕・木葉痕 調整（外面）：口唇部のみ横ナデで残り全面ハケ 調整（内面）：口縁・胴部上半のみハケ・残りナデ	胎土：砂粒・褐色粒含 色調：にぶい橙色 焼成：良好	床直	完形	A16-13	第140図	土圧による歪みで大きく２片に分離
15	上谷津第1	16住	土師器 甕	口径 － 器高 (24.5) 底径 6.4	最大径 26.4 頸部径 19.0 成形・整形：輪積み痕・木葉痕 調整（外面）：ほぼ全面ハケ(口唇部は横ナデ?)・胴部下端ナデ 調整（内面）：口縁のみハケ・残りナデ	胎土：砂粒・褐色粒含 色調：にぶい橙色 焼成：良好	床直	口唇欠損 胴部2/3 底部完存	A16-14	第140図	
16	上谷津第1	16住	土師器 大型甕	口径 － 器高 (22.0) 底径 13.5	最大径 － 頸部径 － 成形・整形： 調整（外面）：ハケ→ミガキ・ナデ・底部ナデ 調整（内面）：ハケ→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい橙色 焼成：良好	床直	胴部下部 ～底部 完存	A16-15	第140図	
1	上谷津第1	17住	土師器 器台	口径 － 器高 (5.8) 裾径 －	基部径 3.1 脚高 － 孔径 1.4 成形・整形：脚部円孔４箇所 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい橙色・外面と器部内面赤彩 焼成：良好	床直	脚部1/3	A17-17	第140図	
2	上谷津第1	17住	土師器 高杯	口径 － 器高 (3.5) 裾径 －	基部径 3.2 脚高 － 成形・整形：脚部円孔３箇所 調整（外面）：縦ミガキ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	床直	基部のみ	A17-18	第140図	
3	上谷津第1	17住	土師器 高杯	口径 (14.8) 器高 (5.0) 裾径 －	基部径 － 杯高 － 脚高 － 成形・整形： 調整（外面）：ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	床直	口縁1/5	A17-23・24	第140図	
4	上谷津第1	17住	土師器 台付甕?	口径 － 器高 (6.7) 底径 －	最大径 13.6 頸部径 － 成形・整形： 調整（外面）：縦ミガキ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色・外面一部赤彩？ 焼成：良好	床直	胴部1/2	A17-8・13・14	第140図	
5	上谷津第1	17住	土師器 高杯	口径 (14.2) 器高 (5.3) 裾径 －	基部径 － 杯高 － 脚高 － 成形・整形： 調整（外面）：縦ミガキ 調整（内面）：縦ミガキ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	床直	口縁1/4	A17-20・38	第140図	
6	上谷津第1	17住	土師器 小型甕	口径 14.8 器高 13.8 底径 5.5	最大径 17.0 頸部径 14.2 成形・整形： 調整（外面）：口縁～胴部ケズリ→ナデ・胴部下半・底部ナデが甘い 調整（内面）：	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい橙色・外面赤彩 焼成：良好	床直	口縁1/6 底部3/4	A17-3～7・9・11・12・14・19・21	第140図	
1	上谷津第1	18住	土師器 複合口縁壺	口径 14.8 器高 (5.0) 底径 －	最大径 － 頸部径 － 成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ・頸部縦ハケ→ナデ・胴部?ナデ 調整（内面）：口縁横ナデ・頸部横ハケ→ナデ	胎土：白色粒含 色調：灰白色 焼成：良好（やや硬い）	層下部	口縁3/4	A18-22・23・39	第140図	
2	上谷津第1	18住	土師器 高杯	口径 (13.2) 器高 (4.8) 裾径 －	基部径 － 杯高 － 脚高 － 成形・整形： 調整（外面）：口唇部横ナデ・縦ミガキ 調整（内面）：縦ミガキ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	層下部	口縁1/3	A18-11～13・38	第140図	
3	上谷津第1	18住	土師器 高杯	口径 (11.0) 器高 (2.8) 裾径 －	基部径 － 杯高 － 脚高 － 成形・整形： 調整（外面）：口唇部横ナデ・縦ミガキ 調整（内面）：縦ミガキ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	層下部	口縁1/4	A18-16・17	第140図	
1	上谷津第1	19住	土師器 器台	口径 7.4 器高 9.4 裾径 10.2	基部径 3.2 脚高 7.2 孔径 0.6 成形・整形：頸部有段・器部外反・脚部「八」字状・脚部円孔３箇所 調整（外面）：器部端横ナデ・以下ケズリ→ミガキ 調整（内面）：器部ハケ→ミガキに近いナデ・脚部ハケ→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡い暗褐色 焼成：良好	床直	口縁一部 欠損	A19-35	第141図	
2	上谷津第1	19住	土師器 器台	口径 － 器高 (2.5) 裾径 －	基部径 － 脚高 － 孔径 － 成形・整形：円孔有 調整（外面）：ミガキ 調整（内面）：ミガキ・ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡い暗褐色 焼成：良好	床直	基部のみ	A19-9	第141図	
3	上谷津第1	19住	土師器 ミニチュア 鉢？	口径 (6.0) 器高 (2.4) 底径 －	成形・整形： 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	覆土中	口縁1/8	A19	第141図	
4	上谷津第1	19住	土師器 坩	口径 － 器高 (4.8) 底径 －	成形・整形： 調整（外面）：ナデ→ミガキ 調整（内面）：ナデ→ミガキ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色・赤彩 焼成：良好	床直	胴部1/4	A19-36	第141図	
5	上谷津第1	19住	土師器 甕	口径 19.4 器高 23.3 底径 6.5	最大径 24.8 頸部径 16.9 成形・整形：木葉痕 調整（外面）：口縁ナデ→下部ハケ目・胴部縦ハケ 調整（内面）：ナデ	胎土：砂粒・褐色粒含 色調：にぶい橙色 焼成：良好	床直	口縁1/4 頸部以下 完存	A19-32	第141図	
6	上谷津第1	19住	土師器 甕	口径 16.0 器高 19.8 底径 7.0	最大径 20.7 頸部径 13.4 成形・整形：木葉痕・口唇部にハケ状工具による連続刻み 調整（外面）：口縁ナデ→下部ハケ目・胴部斜ハケ→下部ナデ 調整（内面）：口縁部ハケ→ナデ・頸部以下ナデ	胎土：砂粒・褐色粒含 色調：にぶい橙色 焼成：良好	床直	ほぼ完形	A19-34	第141図	
7	上谷津第1	19住	土師器 瓶（甕）	口径 17.2 器高 17.5 底径 5.6	最大径 19.2 頸部径 14.7 成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ→縦ハケ・胴部上半斜ハケ・下部横ケズリ 調整（内面）：口縁ナデ→ハケ→ナデ・胴部ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	ほぼ完形	A19-33	第141図	甕底部に焼成後に穿孔
8	上谷津第1	19住	鉄器 鏃鉋	長さ 20.0 幅 1.6 厚み 0.4 重さ	茎部に木質部が広く残存。刃部と頸部の境は厚みがある。		床直	完形	A19-39	第141図	
1	上谷津第1	20住	土師器 甕	口径 － 器高 (1.5) 底径 7.8	最大径 － 頸部径 － 成形・整形：木葉痕 調整（外面）：ハケ→ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	底部1/2	A20-16～18・22	第141図	
2	上谷津第1	20住	土師器 甕	口径 － 器高 (1.5) 底径 6.5	最大径 － 頸部径 － 成形・整形：木葉痕 調整（外面）：ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	底部1/2	A20-48・49	第141図	
3	上谷津第1	20住	土師器 甕	口径 － 器高 (2.0) 底径 6.8	最大径 － 頸部径 － 成形・整形： 調整（外面）：右方向へケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	底部3/5	A20-45	第141図	
4	上谷津第1	20住	土師器 ミニチュア 甕？	口径 － 器高 (1.8) 底径 (2.5)	最大径 － 頸部径 － 成形・整形： 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	覆土中	底部1/3	A20	第141図	

No.	遺跡名	遺構名	種類 器種	法量 (cm・g)	手法・形態の特徴	胎土・色調・焼成 などの特徴	位置 層位	残存 具合	注記	挿図 番号	備考
1	上谷津第1	21住	土師器 碗型鉢	口径 13.0 器高 6.0 底径 2.9	成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ・他ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	床直	口縁3/4 底部完形	A21-64	第141図	
2	上谷津第1	21住	土師器 小型甕	口径 12.0 器高 13.0 底径 6.0 最大径 13.5 頸部径 11.2	成形・整形：頸部接合痕明瞭（輪積み痕？）・輪台 調整（外面）：口縁横ナデ→指頭押圧・胴部ハケ→ナデ・下部横ケズリ 調整（内面）：ナデ・頸部にケズリ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	床直	完形	A21-65	第141図	
3	上谷津第1	21住	土師器 甕	口径 18.5 器高 22.2 底径 6.5 最大径 23.5 頸部径 16.2	成形・整形：口縁横ナデ・胴部上部縦ケズリ・中位横ケズリ・下部ケ 調整（外面）：ズリ 調整（内面）：口縁横ナデ・ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	床直	ほぼ完形	A21-17・18 ・21・22・63	第141図	
4	上谷津第1	21住	土師器 甕	口径 － 器高 (13.0) 底径 6.0 最大径 － 頸部径 －	成形・整形： 調整（外面）：胴部ハケ・底部ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：砂粒・褐色粒含 色調：にぶい褐色 焼成：良好	覆土 下部	底部完存	右記	第141図	A21-6・9・24・28・29・ 32・36～38・40～43・ 45・46・49・50・53
5	上谷津第1	21住	土師器 甕	口径 (14.0) 器高 (9.5) 底径 － 最大径 (19.0) 頸部径 11.8	成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ・胴部ケズリ→ナデ 調整（内面）：口縁横ナデ・胴部ケズリ→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	覆土 下部	口縁1/4	A21-53	第142図	
6	上谷津第1	21住	土師器 複合口縁壺	口径 (15.2) 器高 (5.5) 底径 － 最大径 － 頸部径 (11.3)	成形・整形：折り返し口縁 調整（外面）：口縁ミガキ・頸部縦ミガキ 調整（内面）：口縁ケズリ→ミガキ・胴部ケズリ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	覆土 下部	口縁1/4	A21-1	第142図	
7	上谷津第1	21住	土師器 複合口縁壺	口径 (17.0) 器高 (2.0) 底径 － 最大径 － 頸部径 －	成形・整形：折り返し口縁 調整（外面）：端部ナデ・他ハケ 調整（内面）：ハケ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	覆土 下部	口縁1/5	A21-32	第142図	
8	上谷津第1	21住	土師器 甕	口径 － 器高 (6.8) 底径 7.5 最大径 － 頸部径 －	成形・整形：木葉痕 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	覆土 下部	底部完存	A21-56	第142図	
9	上谷津第1	21住	土師器 甕	口径 － 器高 (1.8) 底径 6.4 最大径 － 頸部径 －	成形・整形： 調整（外面）：ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	覆土 下部	底部2/3	A21-20・23	第141図	
10	上谷津第1	21住	土師器 甕	口径 － 器高 (1.4) 底径 (6.0) 最大径 － 頸部径 －	成形・整形： 調整（外面）：ハケ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	覆土中	底部1/3	A21	第141図	
1	上谷津第1	22住	土師器 器台	口径 8.0 器高 8.3 裾径 15.0 基部径 3.2 脚高 6.5 孔径 0.5	成形・整形：円孔3箇所・基部明瞭な段 調整（外面）：器部と脚部端横ナデ・器部下部～脚部縦ミガキ 調整（内面）：端部横ナデ・他ケズリ→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	床直	器部完存 脚部1/3	A22-3	第142図	
2	上谷津第1	22住	土師器 器台	口径 8.4 器高 7.3 裾径 11.8 基部径 3.0 脚高 5.6 孔径 0.5	成形・整形：円孔3箇所・基部明瞭な段 調整（外面）：器部と脚部端横ナデ・器部下部～脚部縦ミガキ 調整（内面）：端部横ナデ・他ハケ・ケズリ→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色・赤彩 焼成：良好	床直	器部1/4 脚部1/4	A22-1	第142図	
3	上谷津第1	22住	土師器 甕	口径 13.0 器高 (11.5) 底径 － 最大径 14.2 頸部径 11.0	成形・整形： 調整（外面）：口縁ハケ→横ナデ・胴部ハケ→部分ナデ 調整（内面）：口縁横ナデ・胴部ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	底部以外 1/3	A22-12	第142図	
4	上谷津第1	22住	土師器 坩	口径 8.7 器高 5.6 底径 4.5	成形・整形：輪積み痕・外面基部に明瞭な段 調整（外面）：口縁端横ナデ・指頭圧痕・胴部ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	床直	完形	A22-9	第142図	
5	上谷津第1	22住	土師器 坩	口径 8.4 器高 5.5 底径 2.8	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：口縁横ナデ・胴部ケズリ 調整（内面）：口縁横ナデ・ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰褐色 焼成：良好	床直	完形	A22-4・5	第142図	
6	上谷津第1	22住	土師器 内湾鉢	口径 9.6 器高 5.3 底径 3.8 最大径 10.8	成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ・胴部ケズリ→部分?ハケ→部分ケズリ 調整（内面）：口縁横ナデ・胴部ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	床直	2/3	A22-11	第142図	
7	上谷津第1	22住	土師器 ミニチュア 甕	口径 6.8 器高 4.7 底径 2.2 最大径 6.6 頸部径 5.9	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：口縁横ナデ・胴部ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：白色粒含 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	ほぼ完形	A22-2	第142図	
1	上谷津第1	23住	土師器 器台	口径 8.8 器高 6.5 裾径 11.8 基部径 3.3 脚高 4.9 孔径 1.6	成形・整形：円孔3箇所 調整（外面）：器部と脚部端横ナデ・器部下部～脚部縦ミガキ 調整（内面）：端部横ナデ・他ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	覆土 下部	口縁一部 欠損	A23-1・2・ 44	第142図	
2	上谷津第1	23住	土師器 小型高杯	口径 10.2 器高 6.2 裾径 7.4 基部径 2.8 杯高 2.9 脚高 3.3	成形・整形：脚部上部中実 調整（外面）：杯部・脚部縦ミガキ・基部のみハケ残存 調整（内面）：杯部ミガキ・脚部ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡灰褐色 焼成：良好	覆土 下部	口縁1/2 脚部完存	A23-23・35	第142図	杯は皿形・脚部は後期杯脚に似る
3	上谷津第1	23住	土師器 甕	口径 (18.0) 器高 23.0 底径 7.0 最大径 24.3 頸部径 15.5	成形・整形：口唇にハケ状工具による刻み・頸部は緩く外反 調整（外面）：口縁ハケ→ナデ・胴部ハケ→部分ナデ・胴部下端ケズリ 調整（内面）：口縁横ハケ・頸部以下ナデ	胎土：白色粒・砂粒目立つ 色調：淡灰褐色 焼成：良好	床直?	口縁1/3 胴部以下 完存	A23-5・12～15・ 22・25・26・30～32 ・34～36・42・43	第142図	
4	上谷津第1	23住	土師器 甕	口径 (19.0) 器高 (12.8) 底径 － 最大径 (22.4) 頸部径 (16.8)	成形・整形：口唇にハケ状工具による刻み・頸部は屈曲して外反 調整（外面）：口縁ハケ→ナデ・胴部ハケ→部分ナデ 調整（内面）：口縁横ハケ→ナデ・頸部以下ナデ	胎土：白色粒・砂粒目立つ 色調：淡灰褐色 焼成：良好	覆土 下部	口縁2/5	A23-18	第142図	
5	上谷津第1	23住	土師器 甕	口径 (20.0) 器高 (7.8) 底径 － 最大径 (22.6) 頸部径 (18.0)	成形・整形：口唇にハケ状工具による刻み・頸部は緩く外反 調整（外面）：口縁ハケ→ナデ・胴部ハケ→部分ナデ 調整（内面）：口縁横ハケ→ナデ・頸部以下ナデ	胎土：白色粒・砂粒・褐色粒目立つ 色調：淡灰褐色 焼成：良好	覆土 下部	口縁1/3	A23-4・8・9 ・10	第142図	
6	上谷津第1	23住	土師器 甕	口径 － 器高 (6.7) 底径 6.2 最大径 － 頸部径 －	成形・整形： 調整（外面）：胴部ハケ→ナデ・胴部下端ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	覆土 下部	底部2/3	A23-24・37	第142図	
7	上谷津第1	23住	土師器 鉢？	口径 － 器高 (2.0) 底径 3.0 最大径 － 頸部径 －	成形・整形： 調整（外面）：ケズリ→ミガキ・底部ケズリ 調整（内面）：ミガキ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	覆土 下部	底部完存	A23-33	第142図	
1	上谷津第1	24住	土師器 小型甕	口径 13.3 器高 12.3 底径 4.8 最大径 13.7 頸部径 12.3	成形・整形：輪積み痕・外面基部に明瞭な段 調整（外面）：口縁端横ナデ・指頭圧痕・胴部ケズリ 調整（内面）：口縁ナデ・胴部上半ケズリ→ナデ・下部ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	床直	口縁・胴 部一部 欠損	A24-5	第142図	
2	上谷津第1	24住	土師器 内湾鉢	口径 10.0 器高 7.2 底径 3.0 最大径 11.8	成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ・胴部ケズリ→ミガキに近いナデ 調整（内面）：口縁横ナデ・胴部ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	床直	2/3	A24-4	第142図	
1	上谷津第1	34土	須恵器 杯	口径 (13.4) 器高 4.0 底径 (8.0)	成形・整形：ロクロ・底部切り離し不明瞭 調整（外面）：底部手持ちヘラケズリ 調整（内面）：	胎土：目立つ混入物なし 色調：灰褐色 焼成：良好	覆土中	1/4	C34	第146図	
1	上谷津第1	1円	須恵器 短頸壺	口径 (12.6) 器高 19.4 底径 10.8 最大径 21.6 頸部径 12.2	成形・整形：ロクロ成形 調整（外面）：回転ナデ・底部回転ヘラケズリ 調整（内面）：回転ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡青灰褐色 焼成：良好・堅緻	周溝内	口縁1/3 底部3/4	右記	第155図	1円1・1・3・5・8・9・11 ・13～17・22・24・33 ・35～37・40・43・45
2	上谷津第1	1円	須恵器 長頸壺	口径 5.2 器高 (11.8) 底径 － 最大径 11.0 頸部径 3.8	成形・整形：頸部直口 調整（外面）：回転ナデ 調整（内面）：回転ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡青灰褐色 焼成：良好・堅緻	周溝内	口縁完存 胴部3/4	1円周-25～ 29	第155図	
3	上谷津第1	1円	須恵器 杯	口径 － 器高 (1.8) 底径 7.4	成形・整形：ロクロ成形 調整（外面）：回転ナデ・下端横ケズリ・底部手持ちヘラケズリ 調整（内面）：回転ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡青灰褐色 焼成：良好・堅緻	周溝内	底部3/4	1円周-31	第155図	
4	上谷津第1	1円	土師器 杯	口径 (24.0) 器高 (3.7) 底径 (23.0)	成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ→ミガキ・体部ケズリ 調整（内面）：ミガキ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	周溝内	口縁1/4	1円周-30・ 46	第155図	大型鉢？
1	上谷津第1	1方	須恵器 長頸壺	口径 － 器高 (6.3) 底径 － 最大径 － 頸部径 －	成形・整形：ロクロ成形 調整（外面）：回転ナデ 調整（内面）：回転ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡青灰褐色 焼成：良好・堅緻	周溝内	基部のみ	1方周-1	第155図	
2	上谷津第1	1方	須恵器 杯	口径 (13.0) 器高 3.4 底径 (9.0)	成形・整形：ロクロ成形 調整（外面）：回転ナデ 調整（内面）：回転ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡青灰褐色 焼成：良好・堅緻	周溝内	口縁1/6 底部1/6	1方周-1	第155図	
3	上谷津第1	1方	須恵器 長頸壺	口径 (11.0) 器高 22.8 底径 7.8 最大径 16.9 頸部径 5.4	成形・整形：ロクロ成形 調整（外面）：回転ナデ・ 調整（内面）：回転ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡青灰褐色 焼成：良好・堅緻	周溝内	口縁1/8 基部完存 底部1/2	1方周-1	第155図	
1	上谷津第1	7方	須恵器 長頸壺	口径 (7.0) 器高 (9.2) 底径 － 最大径 頸部径	成形・整形：ロクロ成形 調整（外面）：回転ナデ 調整（内面）：回転ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡青灰褐色 焼成：良好・堅緻	周溝内	口縁1/8 基部完存 底部1/2	7方-7～9	第155図	
2	上谷津第1	7方	須恵器 長頸壺	口径 － 器高 (12.6) 底径 9.0 最大径 － 頸部径 －	成形・整形：ロクロ成形 調整（外面）：回転ナデ 調整（内面）：回転ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡青灰褐色 焼成：良好・堅緻	周溝内	胴部1/5 底部完存	7方-10～14	第155図	
1	上谷津第1	8方	須恵器 短頸壺	口径 (14.0) 器高 (13.9) 底径 － 最大径 (21.2) 頸部径 －	成形・整形：ロクロ成形 調整（外面）：回転ナデ 調整（内面）：回転ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：淡青灰褐色 焼成：良好・堅緻	周溝内	口縁1/8 胴部1/4	8方-2	第155図	
2	上谷津第1	8方	鉄器 刀子	長さ (14.2) 幅 1.0 厚み 0.1 重さ	比較的形状をよく残している。		周溝内	刃部先端 欠損	8方	第155図	

No.	遺跡名	遺構名	種類 器種	法量 （cm・g）	手法・形態の特徴	胎土・色調・焼成 などの特徴	位置 層位	残存 具合	注記	挿図 番号	備考
1	上谷津第1	10方	土師器 小型鉢	口径 8.4 器高 6.2 底径 6.0 最大径 9.7	成形・整形： 調整（外面）：不定方向ケズリ 調整（内面）：指・工具によるナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	周溝内	1/2	10方-15・18・20・21	第155図	
2	上谷津第1	10方	土師器 小型鉢	口径 (9.8) 器高 5.8 底径 (6.0)	成形・整形： 調整（外面）：体部ケズリ 調整（内面）：指・工具によるナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	周溝内	1/6	10方-25・29・30・59・60	第155図	
3	上谷津第1	10方	土師器 小型鉢	口径 (10.4) 器高 6.7 底径 (7.0) 最大径 (10.8)	成形・整形： 調整（外面）：ナデ・底部ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	周溝内	口縁1/8 底部1/4	10方-6・24	第155図	
1	上谷津第1	地区 一括 （4方）	土師器 小型壺	口径 (4.0) 器高 9.0 底径 3.0 最大径 (8.2) 頸部径 (4.2)	成形・整形： 調整（外面）：口縁～胴部下部ハケ→ナデ・胴部下部と底部ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	周溝 混入	口縁1/8 底部完存	4方1・2区	第155図	
2	上谷津第1	地区 一括 （4方）	土師器 小型甕	口径 (10.0) 器高 (3.5) 底径 – 最大径 (11.8) 頸部径 (10.0)	成形・整形：頸部明瞭な段 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	周溝 混入	口縁1/8	4方1区	第155図	
3	上谷津第1	地区 一括 （4方）	土師器 小型甕	口径 (12.0) 器高 (4.5) 底径 – 最大径 頸部径 –	成形・整形： 調整（外面）：口縁横ハケ・胴部縦ハケ 調整（内面）：口縁ハケ→ナデ・胴部ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	周溝 混入	口縁1/4	4方1区	第155図	
4	上谷津第1	地区 一括 （4方）	土師器 小型壺	口径 (9.6) 器高 (2.4) 底径 – 最大径 – 頸部径 (6.6)	成形・整形：複合口縁 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ハケ→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	周溝 混入	底部のみ	4方1・2区	第155図	
5	上谷津第1	地区 一括 （4方）	土師器 小型甕	口径 – 器高 (4.2) 底径 4.0 最大径 (10.0) 頸部径 –	成形・整形： 調整（外面）：ケズリ→ナデ・底部ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	周溝 混入	底部2/3	4方1・2区	第155図	
6	上谷津第1	地区 一括 （4方）	土師器 小型甕	口径 – 器高 (5.2) 底径 – 最大径 (8.0) 頸部径 –	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：ハケ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	周溝 混入	頸部1/4	4方1区	第155図	
7	上谷津第1	地区 一括 （4方）	土師器 器台	口径 – 器高 (5.0) 裾径 – 基部径 – 脚高 – 孔径 0.6	成形・整形：円孔3箇所 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ハケ→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	周溝 混入	基部のみ	4方1区	第155図	
1	上谷津第1	地区 一括 （6方）	土師器 坩	口径 10.0 器高 7.0 底径 2.2	成形・整形： 調整（外面）：ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	周溝 混入	ほぼ完形	6方	第155図	
2	上谷津第1	地区 一括 （6方）	土師器 ミニチュア 甕	口径 – 器高 (2.5) 底径 1.8 最大径 3.0 頸部径 –	成形・整形： 調整（外面）：縦ナデ 調整（内面）：ナデ・指頭ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	周溝 混入	口縁欠損	6方	第155図	
1	井戸作南	9住	土師器 高杯	口径 18.5 器高 (6.3) 裾径 – 基部径 3.6 杯高 6.0 脚高 –	成形・整形： 調整（外面）：ナデ→ミガキ（上部横・中位以下斜） 調整（内面）：ナデ→ミガキ（横主体）	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色・赤彩 焼成：良好	床直	口縁3/5	A9-3	第222図	
2	井戸作南	9住	土師器 高杯	口径 (17.4) 器高 (5.3) 裾径 – 基部径 – 杯高 – 脚高 –	成形・整形： 調整（外面）：縦ケズリ(上→下)→ナデ・口縁横ナデ 調整（内面）：横ケズリ→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：赤褐色・赤彩 焼成：良好	床直	口縁1/2	A9-43・53・54・146～148	第222図	
3	井戸作南	9住	土師器 高杯	口径 (16.0) 器高 (6.3) 裾径 – 基部径 – 杯高 – 脚高 –	成形・整形：基部接合部突起 調整（外面）：横ケズリ→ナデ 調整（内面）：横ケズリ→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：黄茶褐色 焼成：良好	床直	口縁2/5	A9-191・193	第222図	
4	井戸作南	9住	土師器 高杯	口径 – 器高 (7.2) 裾径 – 基部径 4.0 杯高 – 脚高 –	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：縦ケズリ 調整（内面）：上部絞り・中位ナデ・下部横ケズリ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好	床直	脚部裾部 欠損	A9-41	第222図	
5	井戸作南	9住	土師器 高杯	口径 – 器高 (3.6) 裾径 – 基部径 – 杯高 – 脚高 –	成形・整形：杯部屈曲に貼り付け 調整（外面）：縦ケズリ→ナデ 調整（内面）：ケズリ→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：赤褐色・赤彩 焼成：良好	床直	杯稜付近 1/4	A9-10・102	第222図	
6	井戸作南	9住	土師器 高杯	口径 – 器高 (5.2) 裾径 – 基部径 3.8 杯高 – 脚高 –	成形・整形： 調整（外面）：縦ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色・内黒？ 焼成：良好	床直	杯稜付近 1/2	A9-40・174	第222図	
7	井戸作南	9住	土師器 小型甕	口径 (8.4) 器高 10.9 底径 4.0 最大径 (11.3) 頸部径 7.8	成形・整形： 調整（外面）：ケズリ→ミガキ・底部ケズリ 調整（内面）：ナデ→部分ミガキ	胎土：目立つ混入物なし 色調：赤褐色 焼成：良好	床直	口縁1/4 胴部1/8 底部完存	A9-119・120・121	第222図	
8	井戸作南	9住	土師器 小型甕	口径 – 器高 (7.5) 底径 4.8 最大径 11.0 頸部径 –	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：横ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色・赤彩 焼成：良好	床直	胴部完存 底部1/4	A9-2	第222図	
1	井戸作南	10住	土師器 高杯	口径 20.6 器高 (14.7) 裾径 – 基部径 4.0 杯高 6.0 脚高 –	成形・整形：杯部ケズリ→ミガキ・脚部ミガキ 調整（外面）：口縁ハケ・杯部ミガキ・脚部上部絞り・中位指頭圧痕・裾横ナデ 調整（内面）：ハケ→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好	床直	口縁9/10 基部完存	A10-39・43・61・62	第222図	
2	井戸作南	10住	土師器 高杯	口径 18.0 器高 (8.1) 裾径 – 基部径 4.5 杯高 – 脚高 –	成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ→ミガキ・杯部ケズリ→ミガキ・一部ハケ 調整（内面）：口縁横ナデ→ミガキ・ケズリ→ミガキ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗茶褐色 焼成：良好	床直	口縁2/3	A10-22・40・42・46・48・49	第222図	
3	井戸作南	10住	土師器 高杯	口径 17.4 器高 (5.4) 裾径 – 基部径 3.9 杯高 5.2 脚高 –	成形・整形： 調整（外面）：ケズリ→ミガキ 調整（内面）：ミガキ	胎土：目立つ混入物なし 色調：明茶褐色 焼成：良好	床直	杯部完存	A10-5	第222図	
4	井戸作南	10住	土師器 高杯	口径 – 器高 (8.3) 裾径 (14.0) 基部径 3.7 杯高 – 脚高 –	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：基部ハケ→ミガキ・脚部ケズリ→ミガキ 調整（内面）：脚部上部絞り・中位指頭圧痕・裾ハケ→ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好	床直	基部完存 脚部1/10	A10-10	第222図	
5	井戸作南	10住	土師器 甕	口径 15.8 器高 21.3 底径 7.0 最大径 22.5 頸部径 14.5	成形・整形： 調整（外面）：口縁横ナデ・胴上部縦ケズリ・中位横ケズリ・下部斜ケズリ 調整（内面）：横ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好	床直	完形	A10-10	第222図	
6	井戸作南	10住	土師器 甕	口径 14.8 器高 (14.3) 底径 – 最大径 19.3 頸部径 12.8	成形・整形： 調整（外面）：口縁縦ケズリ→横ナデ・胴部横ケズリ→ナデ 調整（内面）：口縁ハケ→ナデ・胴部ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：黄茶褐色 焼成：良好	床直	口縁3/4 胴部4/5	A10-73	第222図	
7	井戸作南	10住	土師器 甕	口径 13.5 器高 (6.5) 底径 – 最大径 – 頸部径 11.6	成形・整形： 調整（外面）：口縁ナデ・ケズリ→ナデ 調整（内面）：	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗茶褐色 焼成：良好	床直	口縁完存 肩部2/3	A10-4	第222図	
8	井戸作南	10住	土師器 甕	口径 – 器高 (7.5) 底径 5.4 最大径 – 頸部径 –	成形・整形： 調整（外面）：横ケズリ→ナデ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：黒褐色 焼成：良好	床直	底部完存 胴部1/3	A10-73	第222図	
9	井戸作南	10住	土師器 小型壺	口径 (8.6) 器高 11.4 底径 丸底 最大径 12.0 頸部径 7.2	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：口縁ナデ・頸部ナデ頸部ハケ→ナデ・底部ケズリ 調整（内面）：	胎土：目立つ混入物なし 色調：茶褐色 焼成：良好	床直	口縁1/4 胴部7/8	A10-20・23・25・43・53～56	第222図	
10	井戸作南	10住	土師器 甕	口径 (17.8) 器高 (19.2) 底径 – 最大径 24.2 頸部径 (15.0)	成形・整形： 調整（外面）：上部ケズリ→ナデ中位ケズリ→ミガキ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗褐色 焼成：良好	床直	口縁2/5 胴部1/2	A10-28・29・33・36・40・45・47・69	第222図	
11	井戸作南	10住	土師器 甕	口径 – 器高 (3.7) 底径 6.5 最大径 – 頸部径 –	成形・整形： 調整（外面）：ケズリ→ミガキ 調整（内面）：ケズリ	胎土：目立つ混入物なし 色調：暗茶褐色 焼成：良好	床直	底部完存	A10-19	第222図	
12	井戸作南	10住	土師器 甕	口径 19.4 器高 (26.5) 底径 – 最大径 26.1 頸部径 16.5	成形・整形：輪積み痕 調整（外面）：口縁横ナデ・上部横ケズリ・中下位斜ケズリ 調整（内面）：ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：黄茶褐色 焼成：良好	床直	口縁7/8 胴部2/3	A10-9・12～14・16～18・34・37・50・51	第222図	
1	上谷津第1	確認 調査	土師器 甕	口径 17.1 器高 23.0 底径 6.5 最大径 22.6 頸部径 14.9	成形・整形：やや口縁垂直気味に立ち上がり端部が外反 調整（外面）：口唇ハケ→ナデ・口縁下部縦ハケ・胴部斜ハケ・下部ケズリ 調整（内面）：口縁ハケ→ナデ・頸部以下ナデ	胎土：目立つ混入物なし 色調：にぶい褐色 焼成：良好	床直？	ほぼ完形	11Y17	第10図	12住内

第54表　各遺跡出土の石器・石製品一覧

No.	遺跡名	遺構名 地区	種類	法量（cm・g） 長さ	幅	厚み	重さ	石材	取上No.	挿図番号	備考
34	明神台	4H 14a	石棒	4.5	3.0	1.3	25.4	粘板岩	4H 14a -	第34図	
11	端山越	4C 55a	板碑	61.6	22.2	1.6	－	緑泥片岩	4C 55a	第70図	
12	端山越	4C 34d	打製石斧？	6.4	4.3	1.2	45.8	安山岩	4C 34d - 1	第70図	
13	端山越	3C 15C	磨石	7.8	5.9	4.2	321.7	安山岩	3C 15C - 1	第70図	
14	端山越	3C 30a	凹石	6.7	6.6	4.0	133.9	安山岩	3C 30a - 7	第70図	
15	端山越	3B 58b	石棒？	9.0	3.2	2.5	74.1	粘板岩	3B 58b	第70図	
1	大草台	27土	宝篋印塔相輪部	35.2	9.8	9.6	－	安山岩	C27	第108図	2･3と同一個体
2	大草台	27土	宝篋印塔笠部	26.5	25.8	20.5	－	安山岩	C27	第108図	1･4と同一個体
3	大草台	27土	宝篋印塔塔身部	14.5	14.5	14.5	－	安山岩	5古	第108図	1･2と同一個体
1	大草台	1墓	勾玉	2.3	1.2	0.5		琥珀？	C25 - 1	第101図	
2	大草台	1墓	管玉	2.1	0.7	孔径0.3		緑色凝灰岩	C25 - 5	第101図	
3	大草台	1墓	管玉	2.0	0.7	孔径0.3		緑色凝灰岩	C25 - 3	第101図	
4	大草台	1墓	管玉	1.2	0.3	孔径0.1		緑色凝灰岩	C25 - 6	第101図	
5	大草台	1墓	管玉	1.8	0.6	孔径0.2		緑色凝灰岩	C25 - 2	第101図	
6	大草台	1墓	ガラス玉	0.65	0.6	0.3	孔径0.15	－	C25 - 4	第101図	
49	上谷津第1	9J 55c･d	石鏃	4.0	1.9	0.5		チャート	2溝 - 4	第158図	アメリカ式 2溝覆土中
50	上谷津第1	10J 21C･d	石鏃	2.8	1.5	0.4		チャート	10方 - 1	第158図	
51	上谷津第1	9J 86c	石鏃	1.7	1.4	0.8	1.1	チャート	9J 86c - 3	第158図	
52	上谷津第1		石鏃	3.0	1.9	0.8	1.9	黒曜石	A2 4区	第158図	
53	上谷津第1	10J 71a	石鏃	1.7	1.3	0.3	0.7	黒曜石	10J 71a	第158図	
54	上谷津第1	9J 45d	磨製石斧	5.7	3.5	1.3		蛇紋岩	9J 45d - 3	第158図	
55	上谷津第1	9J 87d	石皿？	11.7	9.4	2.2		安山岩	9J 87c - 1	第158図	
56	上谷津第1	10K 71b	石皿	15.2	11.0	3.9		安山岩	10K 71b - 12	第158図	
114	上谷津第2	11L 11c･d	剥片	3.5	2.9	1.2	9.8	頁岩	A007 - 66	第198図	旧石器 住居跡覆土
115	上谷津第2	11L 11c･d	剥片	3.4	2.9	0.7	5.5	頁岩	A007 - 16	第198図	旧石器 住居跡覆土
116	上谷津第2	11L 11c･d	剥片	3.8	2.5	0.9	7.4	頁岩	A007 - 65	第198図	旧石器 住居跡覆土
117	上谷津第2	10L 68d	剥片	5.2	1.5	1.0	5.9	頁岩	10L 68d - 16	第198図	旧石器 縄文包含層
118	上谷津第2	10L 90d	剥片	5.3	5.4	2.0	54.8	頁岩	10L 90d -	第198図	旧石器 縄文包含層
119	上谷津第2	11L 82a	剥片	3.2	2.2	0.7	4.3	頁岩	11L 82a - 6	第198図	旧石器 縄文包含層
120	上谷津第2	10L 80d	剥片	3.2	2.5	1.0	7.8	頁岩	10L 80d - 22	第198図	旧石器 縄文包含層
121	上谷津第2	10L 68a	尖頭器？	3.1	1.4	0.5	1.7	頁岩	10L 68a - 7	第198図	旧石器 縄文包含層
122	上谷津第2	10L 89b	尖頭器	5.0	1.8	0.8	7.4	凝灰岩？	10L 89b - 110	第198図	
123	上谷津第2	10L 78d	石鏃	4.0	1.8	0.6	2.7	チャート	10L 78d - 52	第198図	
124	上谷津第2	10L 79b	石錐？	3.6	1.1	0.7	2.8	チャート	10L 79b - 12	第198図	
125	上谷津第2	9土	石鏃	2.3	1.1	0.4	1.0	チャート	C9 - 1	第198図	旧石器？
126	上谷津第2	6住	石鏃	2.1	1.5	0.5	1.1	チャート	A006	第198図	
127	上谷津第2	7住	石鏃	2.0	1.9	0.5	2.0	安山岩？	A007 - 37	第198図	
128	上谷津第2	45土	石鏃	1.9	2.0	0.5	1.5	チャート	C45 - 11	第198図	
129	上谷津第2	18土	石鏃	2.7	1.3	0.4	1.3	チャート	C18	第198図	
130	上谷津第2	10L 89b	石鏃	2.5	1.5	0.5	1.7	チャート？	10L 89b - 99	第198図	
131	上谷津第2	10L 90b	石鏃	2.3	1.5	0.5	1.4	チャート	10L 90b - 98	第198図	
132	上谷津第2	10L 99d	石鏃	1.8	1.4	0.4	1.0	チャート？	10L 99d - 33	第198図	
133	上谷津第2	10L 99a	石鏃	1.8	1.6	0.4	0.9	チャート	10L 99a - 186	第198図	
134	上谷津第2	11L 81c	石鏃	1.8	1.5	0.5	1.1	チャート	11L 81c - 44	第199図	
135	上谷津第2	11L 63d	石鏃	1.9	1.5	0.4	1.0	チャート	11L 63d - 9	第199図	
136	上谷津第2	11L 65c	石鏃	2.2	1.5	0.8	2.2	チャート	11L 65c - 11	第199図	
137	上谷津第2	11L 92b	石鏃	2.3	1.6	0.4	1.2	チャート	11L 92b - 33	第199図	
138	上谷津第2	11L 43d	石鏃	2.1	1.7	0.5	1.6	チャート	11L 43d - 15	第199図	
139	上谷津第2	11L 28b	石鏃	2.1	1.6	0.4	1.5	チャート	11L 28b - 9	第199図	
140	上谷津第2	1住	凹石	24.5	14.2	8.2	3006.8	安山岩	A001 - 15	第199図	
141	上谷津第2	6住	凹石	11.0	7.5	2.6	223.0	緑泥片岩	A006 - 153	第199図	
142	上谷津第2	6住	凹石	10.7	6.3	2.6	232.0	緑泥片岩	A006 - 154	第199図	
143	上谷津第2	6住	凹石	7.5	8.5	6.3	474.5	砂岩	A006 - 161	第199図	
144	上谷津第2	6住	磨石	7.9	6.7	2.1	168.2	砂岩	A006 - 140	第199図	
145	上谷津第2	6住	石棒？	18.3	7.2	5.2	821.1	緑泥片岩	A006 - 156	第199図	
146	上谷津第2	6住	磨製石斧	7.6	3.8	1.7	94.5	蛇紋岩？	A006 - 46	第199図	
147	上谷津第2	10L 97b	打製石斧	9.3	6.3	1.7	106.9	安山岩	10L 97b - 13	第199図	
148	上谷津第2	10L 59d	打製石斧	7.2	4.2	1.5	42.8	粘板岩	10L 59d - 18	第199図	
149	上谷津第2	10L 10a	打製石斧	6.1	5.2	1.3	55.2	安山岩	10L 10a - 1	第199図	
150	上谷津第2	11L 22b	打製石斧	5.7	5.1	1.7		安山岩	11L 22b - 55	第199図	
151	上谷津第2	11L 61b	打製石斧	6.5	3.4	1.5	49.4	粘板岩	11L 61b - 17	第199図	
152	上谷津第2	10L 68d	打製石斧	7.7	8.3	2.0	131.7	安山岩	10L 68d - 27	第199図	
153	上谷津第2	11L 54d	石斧？	6.0	4.0	2.0	76.0	砂岩	11L 54d - 4	第200図	
154	上谷津第2	11L 23b	磨製石斧	7.3	5.2	2.4	156.2	蛇紋岩？	11L 23b - 37	第200図	打斧に再利用？
155	上谷津第2	11L 52a	磨製石斧	8.8	6.0	2.6	255.6	安山岩	11L 52a - 12	第200図	
156	上谷津第2	11L 54a	磨石	9.6	6.7	3.3	448.8	安山岩	11L 54a - 6	第200図	
157	上谷津第2	10L 80c	磨石	7.0	8.6	3.8	370.4	安山岩	10L 80c - 124	第200図	
158	上谷津第2	10L 80d	磨石	7.9	7.1	3.0	256.4	安山岩	10L 80d - 58	第200図	
159	上谷津第2	12L 41d	磨石	4.8	6.5	3.1	133.0	安山岩	12L 41d - 2	第200図	
160	上谷津第2	11L 13d	磨石	13.9	8.8	6.5	1162.0	安山岩	11L 13d - 14	第200図	
161	上谷津第2	11L 43c	凹石	9.8	7.0	3.4	345.8	緑泥片岩	11L 43c - 7	第200図	
162	上谷津第2	11L 51b	凹石	10.0	6.5	4.2	357.0	砂岩	11L 51b - 54	第200図	
163	上谷津第2	11L 3d	凹石	13.5	9.6	4.5	819.1	安山岩	11L 3d - 1	第200図	
164	上谷津第2	11L 23b	石皿	14.7	8.8	5.5	982.9	安山岩	11L 23b - 2	第201図	
165	上谷津第2	11L 39d	石皿	11.0	5.0	3.3	2680.0	安山岩	11L 39d 一括	第201図	
166	上谷津第2	10L 98a	軽石	7.3	5.9	2.5	11.9	？	10L 98a - 92	第201図	
167	上谷津第2	10L 89c	軽石	4.8	2.7	2.0	2.4	？	10L 89c - 3	第201図	
168	上谷津第2	10L 89c	軽石	4.9	3.7	3.4	14.6	？	10L 89c - 55	第201図	
169	上谷津第2	3住	軽石	8.7	7.5	6.9	81.4	？	A003 - 15	第201図	
212	井戸作南	10土	打製石斧	9.6	6.4	1.9	150.8	粘板岩	C10 - 1	第246図	
213	井戸作南	10土	打製石斧	6.9	3.6	1.3	41.7	粘板岩	C10 - 2	第246図	
214	井戸作南	10土	打製石斧	7.6	4.7	1.9	84.7	粘板岩	C10 - 3	第246図	
215	井戸作南	10土	打製石斧	7.4	4.9	2.0	86.6	粘板岩	C10 - 4	第246図	
216	井戸作南	10土	打製石斧	10.6	6.7	1.8	163.1	粘板岩	C10 - 5	第246図	
217	井戸作南	3D 96b	打製石斧	8.8	6.0	1.8	110.5	粘板岩	3D 96b - 11	第246図	
218	井戸作南	1溝 3E 23d	打製石斧	7.0	3.8	1.9		緑泥片岩	3E 23d 一括	第246図	
219	井戸作南	1溝 2E 21d	石剣？	13.7	2.1	2.7	110.7	安山岩?	1号溝一括（2E 21d - ）	第246図	
220	井戸作南	2D 75b	石鏃	2.3	1.6	0.4	1.3	チャート	2D 75b - 4	第246図	
221	井戸作南	2E 19d	石鏃	1.4	1.1	0.3	0.4	チャート	2E 19d - 58	第246図	
222	井戸作南	一括	石鏃	2.7	1.4	0.3	1.5	チャート	（遺跡一括）	第246図	
223	井戸作南	1住	石皿	12.7	16.7	6.2	1022.8	安山岩	A001 - 1	第246図	
224	井戸作南	2D 87b	尖頭器	7.6	1.6	0.8	9.0	粘板岩	2D 87b - 19	第246図	
225	井戸作南	2E 11c	尖頭器	8.3	2.3	0.8	16.3	粘板岩	2E 11c - 1	第246図	
1	井戸作南	9住 4D 27a･b	勾玉	3.3	2.1	2.1	7.3	滑石	4D 27a･b - 7	第219図	
2	井戸作南	9住 4D 27a･b	円板（未製品）	2.4	2.5	0.4	4.7	滑石	4D 27a･b - 1	第219図	
3	井戸作南	9住 4D 27a･b	紡錘車	5.9	－	0.8	24.9	滑石	4D 27a･b - 6	第219図	
4	井戸作南	9住 4D 27a･b	紡錘車（未製品）	4.8	－	1.3	49.8	滑石	4D 27a･b - 8	第219図	
5	井戸作南	3D 94a	円板（未製品）	3.6	－	0.6	12.1	滑石	3D 94a - 9	第219図	
6	井戸作南	6住	丸玉	1.1	1.2	0.6	1.3	滑石	A6 - 52	第219図	縄文？

第55表　下泉町遺跡群出土黒耀石計測値一覧

分析番号	遺跡名	調査区	遺構名	種類	時代・時期	型式	産地	法量（cm・g）				注記・取上No.	図版番号	備考
								長軸	短軸	厚み	重さ			
001	明神台遺跡	4H　64c	17土	石鏃	縄文	加EⅡ-Ⅲ	星ケ塔	3.3	2.0	0.3	1.7	C17　12	第31図　17土-3	
002	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　19	未掲載	
003	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.9	A4　20	未掲載	
004	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　21	未掲載	
005	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	1.8	A4　22	未掲載	
006	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1	A4　23	未掲載	
007	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　24	未掲載	
008	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　25	未掲載	
009	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　26	未掲載	
010	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　27	未掲載	
011	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　28	未掲載	
012	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.2	A4　29	未掲載	
013	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　30	未掲載	
014	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.7	A4　31	未掲載	
015	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　32	未掲載	
016	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.6	A4　33	未掲載	
017	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　34	未掲載	
018	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　35	未掲載	
019	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　36	未掲載	
020	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.6	A4　37	未掲載	
021	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　38	未掲載	
022	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　39	未掲載	
023	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	1.3	A4　40	未掲載	
024	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　41	未掲載	
025	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　42	未掲載	
026	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	2.0	A4　43	未掲載	
027	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.3	A4　94	未掲載	
028	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.2	A4　95	未掲載	
029	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.2	A4　96	未掲載	
030	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.4	A4　97	未掲載	
031	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　98	未掲載	
032	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	1.1	A4　99	未掲載	
033	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.2	A4　100	未掲載	
034	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　121	未掲載	
035	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　122	未掲載	
036	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1	A4　123	未掲載	
037	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　124	未掲載	
038	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　125	未掲載	
039	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　126	未掲載	
040	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	2.3	A4　127	未掲載	
041	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　129	未掲載	
042	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　130	未掲載	
043	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　131	未掲載	
044	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　132	未掲載	
045	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　133	未掲載	
046	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　134	未掲載	
047	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	1.8	A4　135	未掲載	
048	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　136	未掲載	
049	明神台遺跡	4H　88a･c	4住	剥片	縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1-	A4　138	未掲載	
050	明神台遺跡	4H　78b			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層　21	未掲載	4住付近
051	明神台遺跡	4H　78b			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.5	Ⅱ層　22	未掲載	4住付近
052	明神台遺跡	4H　78b			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層　23	未掲載	4住付近
053	明神台遺跡	4H　78b			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.3	Ⅱ層　24	未掲載	4住付近
054	明神台遺跡	4H　78b			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.5	Ⅱ層　25	未掲載	4住付近
055	明神台遺跡	4H　78b			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層　26	未掲載	4住付近
056	明神台遺跡	4H　78b			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層　27	未掲載	4住付近
057	明神台遺跡	4H　78b			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層　28	未掲載	4住付近
058	明神台遺跡	4H　78b			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層　29	未掲載	4住付近
059	明神台遺跡	4H　78b			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層　30	未掲載	4住付近
060	明神台遺跡	4H　78b			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1	Ⅱ層　31	未掲載	4住付近
061	明神台遺跡	4H　78b			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	2.2	Ⅱ層　32	未掲載	4住付近
062	明神台遺跡	4H　78b			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層　33	未掲載	4住付近
063	明神台遺跡	4H　78b			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層　36	未掲載	4住付近
064	明神台遺跡	4H　78b			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層　38	未掲載	4住付近
065	明神台遺跡	4H　78b			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層　39	未掲載	4住付近
066	明神台遺跡	4H　78d		剥片	縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層　42	未掲載	4住付近
067	明神台遺跡	4H　78d		剥片	縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	1.7	Ⅱ層　43	未掲載	4住付近
068	明神台遺跡	4H　78d		剥片	縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	1.2	Ⅱ層　44	未掲載	4住付近
069	明神台遺跡	4H　78d		剥片	縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層　45	未掲載	4住付近
070	明神台遺跡	4H　78d		剥片	縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層　46	未掲載	4住付近
071	明神台遺跡	4H　78d		剥片	縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層　47	未掲載	4住付近
072	明神台遺跡	4H　78d		剥片	縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層　48	未掲載	4住付近
073	明神台遺跡	4H　78d		剥片	縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層　49	未掲載	4住付近
074	明神台遺跡	4H　88a			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層　79	未掲載	4住付近
075	明神台遺跡	4H　88a			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層　81	未掲載	4住付近
076	明神台遺跡	4H　88a			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	1.7	Ⅱ層　82	未掲載	4住付近
077	明神台遺跡	4H　88a			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1	Ⅱ層　83	未掲載	4住付近
078	明神台遺跡	4H　88a			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層　84	未掲載	4住付近
079	明神台遺跡	4H　88a			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.3	Ⅱ層　85	未掲載	4住付近
080	明神台遺跡	4H　88a			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層　86	未掲載	4住付近
081	明神台遺跡	4H　88a			縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.5	Ⅱ層　87	未掲載	4住付近
082	明神台遺跡	4H　88a		ﾄﾞﾘﾙ	縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	3.6	1.7	0.5	2.9	一括	第31図　石器1	4住付近
083	明神台遺跡	4H　88b		剥片	縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.5	14	未掲載	4住付近
084	明神台遺跡	4H　88b		剥片	縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	2.6	15	未掲載	4住付近
085	明神台遺跡	4H　88c		剥片	縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	1.5	43	未掲載	4住付近

分析番号	遺跡名	調査区	遺構名	種類	時代・時期	型式	産地	法量（cm・g）				注記・取上No.	図版番号	備考
								長軸	短軸	厚み	重さ			
086	明神台遺跡	4H 88c		剥片	縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層 105	未掲載	4住付近
087	明神台遺跡	4H 88c		剥片	縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層 107	未掲載	4住付近
088	明神台遺跡	4H 88c		剥片	縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層 108	未掲載	4住付近
089	明神台遺跡	4H 88c		剥片	縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	Ⅱ層 109	未掲載	4住付近
090	明神台遺跡	4H 88c		剥片	縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1	Ⅱ層 111	未掲載	4住付近
091	明神台遺跡	4H 88c		剥片	縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	125	未掲載	4住付近
092	明神台遺跡	4H 88c		剥片	縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	0.1-	124	未掲載	4住付近
093	明神台遺跡	4H 88c		剥片	縄文？	（加EⅣ？）	未定	-	-	-	0.1-	123	未掲載	4住付近
094	明神台遺跡	4H 88d		剥片	縄文？	（加EⅣ？）	星ケ塔	-	-	-	3.1	一括	未掲載	4住付近
095	明神台遺跡	4H 98c		剥片	縄文？		星ケ塔	-	-	-	5.0	4	未掲載	26土付近
096	明神台遺跡	5H 73a		石鏃	縄文？		星ケ塔	(1.26)	(1.69)	0.34	0.8	25	第31図 石器2	20土付近
097	端山越遺跡	3B 59d		石匙？	縄文？		星ケ塔	(1.4)	(0.6)	0.35	0.4	Ⅲ層 2	第70図	
098	端山越遺跡	4B 77b					高原山	-	-	-	3.4	31	未掲載	
099	端山越遺跡	4B 77b					星ケ塔	-	-	-	0.3	32	未掲載	
100	端山越遺跡	4B 77b					星ケ塔	-	-	-	0.1	33	未掲載	
101	端山越遺跡	4B 77b					小深沢	-	-	-	1.2	35	未掲載	
102	端山越遺跡	4B 77b					星ケ塔	-	-	-	0.1-	36	未掲載	
103	端山越遺跡	4B 77b					高原山	-	-	-	0.9	38	未掲載	
104-1	端山越遺跡	4C 84d					星ケ塔	-	-	-	7.0	1	未掲載	
104-2	端山越遺跡	4C 84d					星ケ塔	-	-	-	7.0	1	未掲載	
105-1	大草台古墳群	7G 17	1古				高原山	-	-	-	2.3	一括	未掲載	97-B調査区
105-2	大草台古墳群	7G 17	1古					-	-	-	2.3	一括	未掲載	97-B調査区
106	大草台古墳群	8F 14	2古				星ケ塔	-	-	-	5.6	C2周溝	未掲載	96-Ⅱ調査区
107	大草台古墳群	8F 14	2古	石器？			星ケ塔	-	-	-	2.6	周溝	未掲載	96-Ⅱ調査区
108	大草台古墳群	8F 14	2古	石鏃	縄文		星ケ塔	2.89	2.44	0.4	1.7	Ⅲ区	第107図	96-Ⅱ調査区
109	大草台古墳群	8F 7	3古				小深沢	-	-	-	1.5		未掲載	96-Ⅱ調査区
110	大草台古墳群	7F 10	4古	石鏃	縄文		神津島	1.8	1.4	0.3	0.7	一括	第107図	98-B調査区
111	大草台古墳群	7G 16b	Ⅰ地点		旧石器？		高原山	-	-	-	0.1-	Ⅰ 3	未掲載	96-Ⅰ調査区
112	大草台古墳群	7G 16d	Ⅰ地点	石器？	旧石器？		高原山	-	-	-	0.3	Ⅰ Ⅱ層下部 2	未掲載	96-Ⅰ調査区
113	大草台古墳群	7G 16d	Ⅰ地点		旧石器？		高原山	-	-	-	1.5	Ⅰ 5	未掲載	96-Ⅰ調査区
114	大草台古墳群	7G 16d	Ⅰ地点		旧石器？		高原山	-	-	-	0.6	Ⅰ 6	未掲載	96-Ⅰ調査区
115	大草台古墳群	7G 16d	Ⅰ地点		旧石器？		高原山	-	-	-	0.5	Ⅰ 9	未掲載	96-Ⅰ調査区
116	大草台古墳群	7G 28a	Ⅰ地点		旧石器？		高原山	-	-	-	0.3	Ⅰ 1	未掲載	96-Ⅰ調査区
117	大草台古墳群	7G 33c		石鏃	縄文		神津島	2.15	1.9	0.55	1.9	4	第107図	96-Ⅰ調査区
118	上谷津第1遺跡	9J 86	10住		縄文？	（加EⅣ？）	高原山	-	-	-	2.2	A10 2区	未掲載	14住付近
119	上谷津第1遺跡	9J 86	10住	石核	縄文？	（加EⅣ？）	柏峠	-	-	-	15.4	A10 3区	未掲載	14住付近
120	上谷津第1遺跡	9K 47b·d	2住	石鏃	縄文		神津島	3.0	(2.1)	0.5	1.9	A2 4区	第157図	
121	上谷津第1遺跡		5住					-	-	-	3.0	A5 一括	未掲載	
122	上谷津第1遺跡	10j 2a		石鏃			神津島	2.0	1.6	0.25	0.6	一括	第157図	
123	上谷津第1遺跡	10j 6					星ケ塔	-	-	-	3.7	一括	未掲載	
124	上谷津第1遺跡	10j 71a		石鏃			神津島	2.15	(1.45)	0.35	0.7	一括	第157図	
125	上谷津第1遺跡	10j 71a		石鏃			柏峠	1.85	2.0	0.3	1.2	一括	第157図	
126	上谷津第1遺跡	10K 1b		石鏃			神津島	1.95	1.39	0.52	1.0	9	第157図	
127	上谷津第1遺跡	9J 69b		ナイフ	旧石器？		小深沢	2.6	1.6	0.4	1.7	一括	第157図	
128	上谷津第1遺跡	9J 76c		剥片			小深沢	-	-	-	0.6	2	未掲載	
129	上谷津第1遺跡	9J 78b		石核			柏峠	-	-	-	22.7	一括	未掲載	
130	上谷津第1遺跡	9J 79c		ドリル？			星ケ塔	-	-	-	0.6	一括	未掲載	
131	上谷津第1遺跡	9J 80d		ナイフ？	旧石器？		小深沢	3.0	1.57	1.1	4.0	一括	第157図	
132	上谷津第1遺跡	9K 47b		石鏃			神津島	(1.9)	1.76	0.46	1.3	2	第157図	2住付近
133	上谷津第1遺跡	9K 57b		ナイフ？			星ケ塔	-	-	-	12.2	2	未掲載	
134	上谷津第1遺跡	9K 60d		剥片			星ケ塔	-	-	-	0.4	6	未掲載	
135	上谷津第1遺跡			石鏃			星ケ塔	(1.6)	(1.2)	0.35	0.6	一括	第157図	西側精査一括
136-1	上谷津第2遺跡	11L 34	10住		縄文	加EⅣ	神津島	-	-	-	3.2	A10 84	未掲載	
136-2	上谷津第2遺跡	11L 34	10住		縄文	加EⅣ	神津島	-	-	-	3.2	A10 84	未掲載	
137	上谷津第2遺跡	11L 34	10住		縄文	加EⅣ	神津島	-	-	-	0.6	A10 90	未掲載	
138	上谷津第2遺跡	11L 34	10住	石鏃	縄文	加EⅣ	神津島	1.2	1.3	0.4	0.7	A10 105	第202図	
139	上谷津第2遺跡	11L 34	10住		縄文	加EⅣ	小深沢	-	-	-	0.1-	A10 119	未掲載	
140-1	上谷津第2遺跡	11L 34	10住		縄文	加EⅣ	神津島	-	-	-	2.0	A10 124	未掲載	
140-2	上谷津第2遺跡	11L 34	10住		縄文	加EⅣ	神津島	-	-	-	2.0	A10 124	未掲載	
141	上谷津第2遺跡	11L 34	10住		縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.1	A10 185	未掲載	
142	上谷津第2遺跡	11L 34	10住		縄文	加EⅣ	神津島	-	-	-	0.9	A10 193	未掲載	
143-1	上谷津第2遺跡	11L 34	10住		縄文	加EⅣ	神津島	-	-	-	0.8	A10 C5	未掲載	
143-2	上谷津第2遺跡	11L 34	10住		縄文	加EⅣ	星ケ塔	-	-	-	0.8	A10 C5	未掲載	
144	上谷津第2遺跡		2住		縄文・前期	茅山下層	星ケ塔	-	-	-	0.6	A2 一括	未掲載	
145-1	上谷津第2遺跡		37土		縄文・中期？		小深沢	-	-	-	5.9	C37	未掲載	
145-2	上谷津第2遺跡		37土		縄文・中期？		神津島	-	-	-	5.9	C37	未掲載	
145-3	上谷津第2遺跡		37土		縄文・中期？		小深沢	-	-	-	5.9	C37	未掲載	
146	上谷津第2遺跡		51土		縄文	加EⅣ？	星ケ塔	-	-	-	0.6	C51 一括	未掲載	
147	上谷津第2遺跡		59土		縄文	称Ⅰ	小深沢	-	-	-	0.7	C59 21	未掲載	
148	上谷津第2遺跡		59土		縄文	称Ⅰ	神津島	-	-	-	0.4	C59 84	未掲載	
149-1	上谷津第2遺跡		63土		縄文	加EⅣ？	小深沢	-	-	-	2.3	C63 一括	未掲載	
149-2	上谷津第2遺跡		63土		縄文	加EⅣ？	小深沢	-	-	-	2.3	C63 一括	未掲載	
150-1	上谷津第2遺跡		6住		縄文	称Ⅰ	星ケ塔	-	-	-	4.8	A6 一括	未掲載	
150-2	上谷津第2遺跡		6住		縄文	称Ⅰ	神津島	-	-	-	4.8	A6 一括	未掲載	
150-3	上谷津第2遺跡		6住		縄文	称Ⅰ	星ケ塔	-	-	-	4.8	A6 一括	未掲載	
150-4	上谷津第2遺跡		6住		縄文	称Ⅰ	小深沢	-	-	-	4.8	A6 一括	未掲載	
150-5	上谷津第2遺跡		6住		縄文	称Ⅰ	神津島	-	-	-	4.8	A6 一括	未掲載	
151-1	上谷津第2遺跡		6住		縄文	称Ⅰ	神津島	-	-	-	7.9	A6 一括	未掲載	
151-2	上谷津第2遺跡		6住		縄文	称Ⅰ	星ケ塔	-	-	-	7.9	A6 一括	未掲載	
151-3	上谷津第2遺跡		6住		縄文	称Ⅰ	神津島	-	-	-	7.9	A6 一括	未掲載	
152-1	上谷津第2遺跡		7住		縄文	称Ⅰ	星ケ塔	-	-	-	1.7	A7 3区	未掲載	
152-2	上谷津第2遺跡		7住		縄文	称Ⅰ	小深沢	-	-	-	1.7	A7 3区	未掲載	
152-3	上谷津第2遺跡		7住		縄文	称Ⅰ	神津島	-	-	-	1.7	A7 3区	未掲載	
153-1	上谷津第2遺跡		7住		縄文	称Ⅰ	神津島	-	-	-	3.8	A7 1区	未掲載	
153-2	上谷津第2遺跡		7住		縄文	称Ⅰ	小深沢	-	-	-	3.8	A7 1区	未掲載	

分析番号	遺跡名	調査区	遺構名	種類	時代・時期	型式	産地	法量（cm・g）				注記・取上No.	図版番号	備考
								長軸	短軸	厚み	重さ			
153-3	上谷津第２遺跡		７住		縄文	称Ⅰ	小深沢	-	-	-	3.8	A7　１区	未掲載	
153-4	上谷津第２遺跡		７住		縄文	称Ⅰ	神津島	-	-	-	3.8	A7　１区	未掲載	
153-5	上谷津第２遺跡		７住		縄文	称Ⅰ	小深沢	-	-	-	3.8	A7　１区	未掲載	
153-6	上谷津第２遺跡		７住		縄文	称Ⅰ	小深沢	-	-	-	3.8	A7　１区	未掲載	
154	上谷津第２遺跡		７住		縄文	称Ⅰ	小深沢	-	-	-	1.5	A7　炉	未掲載	
155	上谷津第２遺跡		９住		縄文	加EⅡ	小深沢	-	-	-	6.8	A9　39	未掲載	
156	上谷津第２遺跡		10住		縄文	称Ⅰ	神津島	-	-	-	7.4	A10　32	未掲載	
157	上谷津第２遺跡	10L　60a					小深沢	-	-	-	2.6	Ⅲ層　5	未掲載	
158	上谷津第２遺跡	10L　60d		石鏃			神津島	2.8	2.01	0.3	1.6	Ⅱ層　16	第202図	
159	上谷津第２遺跡	10L　70b					神津島	-	-	-	1.4	Ⅱ層　28	未掲載	
160	上谷津第２遺跡	10L　78d		石鏃			神津島	2.35	1.15	0.35	1.0	Ⅲ層　61	第202図	
161	上谷津第２遺跡	10L　79d		石鏃？			神津島	1.5	1.45	0.4	0.8	Ⅲ層　53	第202図	
162	上谷津第２遺跡	10L　80c					高原山	-	-	-	4.6	Ⅲ層　23	未掲載	
163	上谷津第２遺跡	10L　89d		石鏃			神津島	2.2	1.4	0.5	1.1	14	第202図	
164	上谷津第２遺跡	10L　98c		石鏃			神津島	-	-	-	0.7	Ⅱ層　34	第202図	
165	上谷津第２遺跡	10L　99d					神津島	-	-	-	2.5	56	未掲載	
166	上谷津第２遺跡	10L　99d					神津島	-	-	-	0.7	Ⅲ層　80	未掲載	
167-1	上谷津第２遺跡	10M　9c					神津島	-	-	-	2.0	Ⅲ層　127	未掲載	
167-2	上谷津第２遺跡	10M　9c					神津島	-	-	-	2.0	Ⅲ層　127	未掲載	
168	上谷津第２遺跡	10M　10c					神津島	-	-	-	1.3	21	未掲載	
169	上谷津第２遺跡	11K　82c			縄文？	（称Ⅰ？）	小深沢	-	-	-	1.0	Ⅱ層　1	未掲載	12住付近
170	上谷津第２遺跡	11K　92d			縄文？	（称Ⅰ？）	神津島	-	-	-	0.3	Ⅱ層　17	未掲載	11住付近
171-1	上谷津第２遺跡	11L　22a			縄文？	（加EⅡ？）	小深沢	-	-	-	6.0	一括	未掲載	９住付近
171-2	上谷津第２遺跡	11L　22a			縄文？	（加EⅡ？）	小深沢	-	-	-	6.0	一括	未掲載	９住付近
172	上谷津第２遺跡	11L　23b					神津島	-	-	-	1.8	Ⅲ層　21	未掲載	
173	上谷津第２遺跡	11L　23b					小深沢	-	-	-	0.9	Ⅲ層　22	未掲載	
174	上谷津第２遺跡	11L　23b					星ケ塔	-	-	-	1.6	Ⅲ層　35	未掲載	
175	上谷津第２遺跡	11L　23b		石鏃？			小深沢	1.6	1.2	0.6	1.0	Ⅲ層　55	第202図	
176	上谷津第２遺跡	11L　23b					星ケ塔	-	-	-	2.1	Ⅲ層　61	未掲載	
177	上谷津第２遺跡	11L　24b			縄文？	（称Ⅰ？）	神津島	-	-	-	0.1	Ⅱ層　24	未掲載	10住付近
178	上谷津第２遺跡	11L　24b			縄文？	（称Ⅰ？）	小深沢	-	-	-	2.1	Ⅲ層　26	未掲載	10住付近
179	上谷津第２遺跡	11L　24d			縄文？	（称Ⅰ？）	神津島	-	-	-	7.0	Ⅱ層　13	未掲載	10住付近
180	上谷津第２遺跡	11L　24d			縄文？	（称Ⅰ？）	神津島	-	-	-	6.1	Ⅱ層　27	未掲載	10住付近
181	上谷津第２遺跡	11L　25a					神津島	-	-	-	0.5	Ⅲ層　31	未掲載	
182	上谷津第２遺跡	11L　25b			縄文？	（称Ⅰ？）	神津島	-	-	-	16.8	Ⅱ層　1	未掲載	10住付近
183	上谷津第２遺跡	11L　25c					神津島	-	-	-	0.4	Ⅱ層　9	未掲載	
184	上谷津第２遺跡	11L　32c					神津島	-	-	-	0.5	Ⅲ層　11	未掲載	
185	上谷津第２遺跡	11L　32c					神津島	-	-	-	2.0	Ⅲ層　12	未掲載	
186	上谷津第２遺跡	11L　32c					神津島	-	-	-	0.9	Ⅲ層　13	未掲載	
187	上谷津第２遺跡	11L　32c		石鏃			神津島	2.7	(1.8)	0.4	1.4	Ⅲ層　14	第202図	
188	上谷津第２遺跡	11L　33b			縄文？	（称Ⅰ？）	小深沢	-	-	-	0.4	Ⅱ層　4	未掲載	６住付近
189	上谷津第２遺跡	11L　33b			縄文？	（称Ⅰ？）	小深沢	-	-	-	0.01	Ⅲ層　36	未掲載	６住付近
190-1	上谷津第２遺跡	11L　34c			縄文？	（称Ⅰ？）	神津島	-	-	-	4.5	Ⅱ層　5	未掲載	10住付近
190-2	上谷津第２遺跡	11L　34c			縄文？	（称Ⅰ？）	神津島	-	-	-	4.5	Ⅱ層　5	未掲載	10住付近
191	上谷津第２遺跡	11L　34c			縄文？	（称Ⅰ？）	神津島	-	-	-	2.9	Ⅱ層　23	未掲載	10住付近
192	上谷津第２遺跡	11L　35a			縄文？	（称Ⅰ？）	神津島	-	-	-	1.0	Ⅱ層　20	未掲載	10住付近
193	上谷津第２遺跡	11L　35b			縄文？	（称Ⅰ？）	神津島	-	-	-	5.1	Ⅱ層　5	未掲載	47土付近
194	上谷津第２遺跡	11L　42c			縄文？	（称Ⅰ？）	神津島	-	-	-	0.2	Ⅱ層　8	未掲載	６住付近
195	上谷津第２遺跡	11L　42c			縄文？	（称Ⅰ？）	神津島	-	-	-	2.2	Ⅱ層　10	未掲載	６住付近
196	上谷津第２遺跡	11L　43a			縄文？	（称Ⅰ？）	神津島	-	-	-	1.9	Ⅲ層　35	未掲載	６住付近
197	上谷津第２遺跡	11L　43b			縄文・前期？		神津島	-	-	-	0.6	Ⅲ層　66	未掲載	５住付近
198	上谷津第２遺跡	11L　52c					小深沢	-	-	-	0.9	Ⅱ層　20	未掲載	
199	上谷津第２遺跡	11L　54a					神津島	-	-	-	0.6	Ⅱ層　1	未掲載	
200	上谷津第２遺跡	11L　65a		石鏃			小深沢	2.1	1.5	0.5	0.8	Ⅲ層　18	第202図	
201	上谷津第２遺跡	11L　81b		石鏃			神津島	2.6	1.8	0.4	1.2	Ⅲ層　67	第202図	
202	上谷津第２遺跡	11L　82a		石鏃			神津島	1.8	1.4	0.4	0.8	Ⅱ層　4	第202図	
203	上谷津第２遺跡	11L　82d					神津島	-	-	-	0.1	2	未掲載	
204	上谷津第２遺跡	11L　82d					神津島	-	-	-	0.6	4	未掲載	
205	上谷津第２遺跡	11L					柏峠	-	-	-	8.5	一括	未掲載	
206	上谷津第２遺跡	11L		石鏃			星ケ塔	(2.2)	2.2	0.5	1.6	一括	第202図	
207	上谷津第２遺跡	11M　2a		石刃？			神津島	2.5	2.9	0.9	3.7	9	第202図	
208	上谷津第２遺跡	11M　2c					星ケ塔	-	-	-	0.5	33	未掲載	
208	上谷津第２遺跡	11M　2c					星ケ塔	-	-	-	0.5	33	未掲載	
209	井戸作南遺跡	1D　30b					星ケ塔	-	-	-	0.8	Ⅱ層　10	未掲載	
210	井戸作南遺跡	1D　30d					高原山	-	-	-	0.3	Ⅱ層　4	未掲載	
211	井戸作南遺跡	1D　40d					高原山	-	-	-	2.7	Ⅱ層　3	未掲載	
212	井戸作南遺跡	1D　80c		石鏃			星ケ塔	(1.8)	2.5	0.3	1.4	2	第246図	
213	井戸作南遺跡	2D　17b		石鏃			星ケ塔	2.65	2.3	0.4	2.0	Ⅱ層　1	第246図	
214	井戸作南遺跡	2D　57b		石鏃			神津島	(1.2)	(1.2)	0.35	0.4	Ⅱ層　3	第246図	
215	井戸作南遺跡	2D　74a					小深沢	-	-	-	1.9	一括	未掲載	
216	井戸作南遺跡	2D　96b					神津島	-	-	-	3.8	Ⅲ層　17	未掲載	
217	井戸作南遺跡	2E　6d		石鏃			神津島	(1.4)	(0.95)	(0.35)	0.3	Ⅲ層　26	第246図	
218	井戸作南遺跡	3D　97d					高原山	-	-	-	1.0	Ⅱ層下　25	未掲載	

※１　「重さ」の数値の中で、「0.1-」とあるものは、0.1g以下となってしまい、計測できなかったことを示している。

※２　「法量」の数値につく「(　)」は、残存値を示す。また、未掲載資料は重さのみ計量。

※３　「注記・取上No」の頭には、それぞれの遺跡名の略称が記されている。略称は、凡例を参照のこと。

第９章　まとめ

下泉町遺跡群の調査は、ちばリサーチパークの造成事業の対象範囲の内、約44ha（東京ドーム約９個分）に及ぶ広大な面積を調査対象地とし、白池台遺跡・新堤遺跡・明神台遺跡・大草台古墳群・上谷津第１遺跡・上谷津第２遺跡・井戸作南遺跡の８遺跡がその範囲に所在していた。その内、約24haが実際に発掘調査の対象範囲となった。調査対象から除外された範囲は、試掘調査時に遺構・遺物が確認されなかったことから、遺跡として認知されなかったのである。発掘調査が行われる場合、遺跡として把握されている範囲の一部のみが対象地になる場合が多く、遺跡範囲全域を網羅できるような調査はとても稀なケースといえる。広範囲の調査が実施できたことで得ることができた成果は多い。

例えば、上谷津第１遺跡や上谷津第２遺跡では集落全域（住居跡が分布する範囲）を完掘することができた。集落全体を調査できたということは、得られた情報が閉鎖的であるが故に、その集落の個性をほぼ全て網羅できたと考えられるのである。また、井戸作南遺跡の集落は、佐倉市側の宮内井戸作遺跡の縄文時代後期～晩期にかけての大集落の最西端の分布域であることがわかり、大集落の範囲を確定できたという面で意味のある成果である。新堤遺跡は、西御門新堤遺跡の古墳時代前期集落が台地の基部（つまり千葉市側）には展開しないことが把握できた。市域を越えて、展開する遺跡の全体像を把握できることも稀なので、集落が展開しないことがわかるということも意味があるのである。

このような成果が挙げられた反面、大草台古墳群や井戸作南遺跡で検出された古墳時代中期の集落などは、この時代の集落の性格として、大規模化することがない上に住居跡ごとの間隔は密ではないという傾向があり、もう少し調査対象範囲を拡大していた場合、集落の全像が明らかになった可能性があったと考えられる

遺跡群から出土した遺物の総量は、中コンテナ換算で333箱であった。内訳は、復元・拓本・実測・分析用に抽出され、報告書に掲載分が132箱（明神台遺跡２箱・端山越遺跡24箱・大草台古墳群10箱・上谷津第１遺跡35箱・上谷津第２遺跡28箱・井戸作南遺跡22箱・確認調査3.5箱・遺跡群一括土器２箱・一括及び分析用石器9.5箱・箱外の大型石棒１箱）、報告書に掲載しなかった保管分が196箱（明神台遺跡５箱・端山越遺跡12.5箱・大草台古墳群9.5箱・上谷津第１遺跡24.5箱・上谷津第２遺跡73.25箱・井戸作南遺跡68.25箱・確認調査１箱・遺跡群一括及び分析用石器２箱）となった。上谷津第２遺跡が最多で、明神台遺跡が最少である。上谷津第２遺跡が多かったのは、縄文時代の遺構がまとまって検出され、早期撚糸文・条痕文系の包含層出土の遺物が多量だったためである。

下泉町遺跡群は、総面積に比して遺構・遺物の総量は多い方ではなく、調査成果も派手さはなく地味な成果が目立つ。しかし、破壊される遺跡の調査が実施され、整理作業と報告書作成・刊行が可能となったことは、千葉地域の歴史情報の蓄積に大いに寄与できたことになり、大変に意義深いことである。偏に事業者の理解と協力があって可能となる。改めて、感謝する次第である。

第１節　調査成果の総括

遺跡群全体の調査成果は、第２表に総数をまとめ、各章の小結にて遺跡ごとの状況を記しているので本節での数的な総括は行わない。その代わり、各時代・時期ごとに遺跡単位を越えて遺跡群としてその動向を把握するために、まとめ直してみることとした。

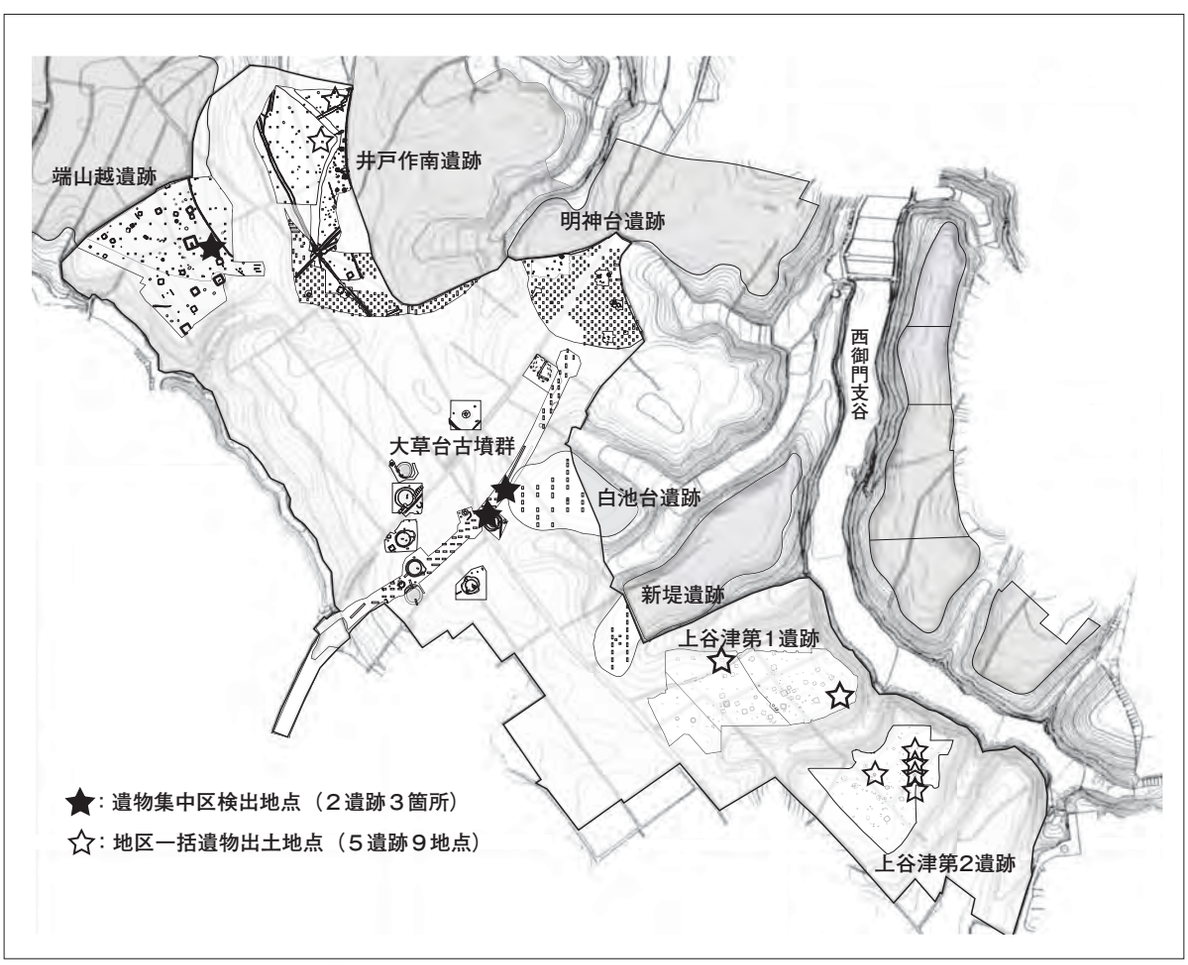
1　旧石器

端山越遺跡の4C42a地区周辺で１箇所、大草台古墳群96-Ⅰ地区で２箇所の旧石器集中箇所が検出された。これらは、ローム層内までの下層確認調査を実施した結果、把握された旧石器ブロックである。上谷津第１遺跡でも調査時に旧石器集中箇所が検出されたが、その内容を精査した結果、出土した石材はほぼ全て極小の円礫ばかりで、石器として認識できないものばかりだったことから集中箇所ではないと判断した。縄文時代以降の包含層や遺構覆土などに旧石器が含まれていたのは、上谷津第１遺跡平成10年度調査の10K62b地区と平成11年度の9J28C地区、上谷津第２遺跡で10L68地区周辺・10L89地区周辺・11L31地区（７号住居跡周辺）・11L80地区周辺・11L82地区周辺の５箇所、井戸作南遺跡平成９年度調査の2E11c地区と2E19d地区と平成10年度調査の2D95地区周辺（細片未図化）である。

結果、石器集中箇所３箇所、石器出土地点９地点でブロックと遺物の出土があったことになる。

全て、遺物量は少なく大規模な石器ブロックには成り得ないようである。佐倉市側の白池台遺跡で検出された小規模な旧石器ブロックと同様に、小規模なキャンプサイトのような遺構と考えられる。

石器の種類は剥片が最も多いが、尖頭器（第75図-2・第76図-9・第246図-225）・有舌尖頭器（第198図-122・第246図-224）・ナイフ形石器（第38図-9・第39図-11・第75図-3・第76図-10・第111図-1・第198図-121）などがある。旧石器として疑念が残るのは第75図-6で、出土層位がローム層内だったので旧石器として取上げられたが、形状的には縄文時代の石鏃としたい遺物である。



第248図　下泉町遺跡群旧石器出土地点位置図

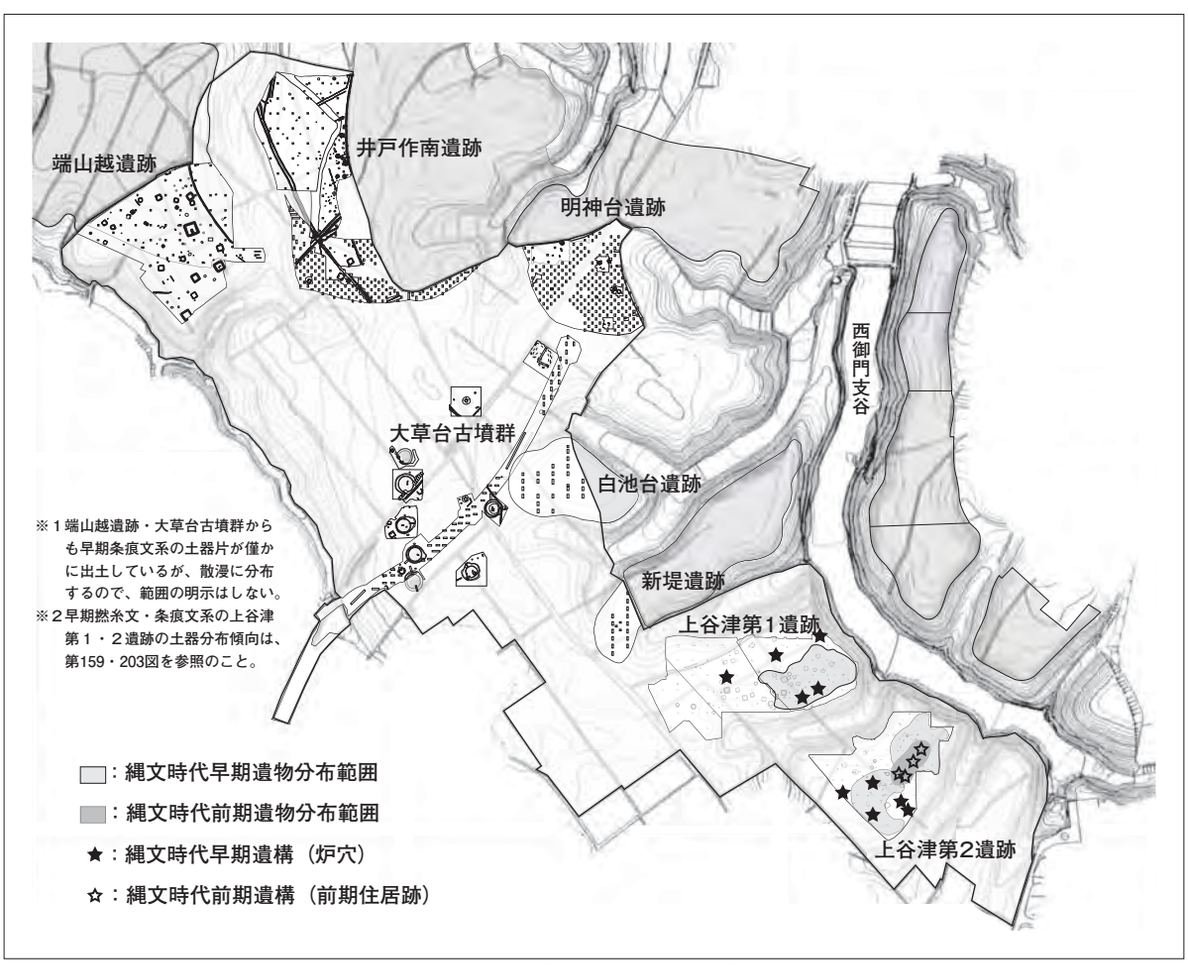
2　縄文時代

縄文時代早期・前期の遺構と遺物

早期の炉穴が検出されたのは、上谷津第１遺跡が平成10年度調査３基・平成11年度調査２基の計５基、上谷津第２遺跡の５基の総計10基である。これらの遺跡からは、早期撚糸文期と条痕文期の包含層が広く検出され、住居跡などの検出例はないが多量の遺物が出土した。撚糸文期は、井草式・夏島式・稲荷台式・大浦山式が上谷津第１遺跡と上谷津第２遺跡で確認され、明神台遺跡でも微量に出土した。条痕文期は、野島式・鵜ヶ島台式・茅山下層式・下吉井式が上谷津第１遺跡・上谷津第２遺跡で確認された。端山越遺跡・明神台遺跡・大草台古墳群でも微量出土した。撚糸文と条痕文の包含層は、西御門明神台遺跡・西御門新堤遺跡・西御門荒生遺跡でも検出されており、西御門支谷の台地縁辺部に多く検出される傾向にある。西御門明神台遺跡でも条痕文期の住居跡が２軒検出されている。また、上谷津第２遺跡では、撚糸文期４基・条痕文期６基の土壙・条痕文期の陥穴１基が検出された。

前期の遺構は、上谷津第２遺跡で黒浜式期の住居跡２軒と前期と思われる住居跡２軒、諸磯b式期の土壙１基が検出された。遺物は、上谷津第２遺跡で黒浜式と諸磯式が少量出土する程度である。前期の住居跡は、西御門明神台遺跡でも１軒検出されている。遺物は、黒浜式・諸磯式・浮島式がある。

以上のように、早・前期の遺構や包含層は西御門支谷に集中しており、台地の南半には展開しないことが明瞭となった。



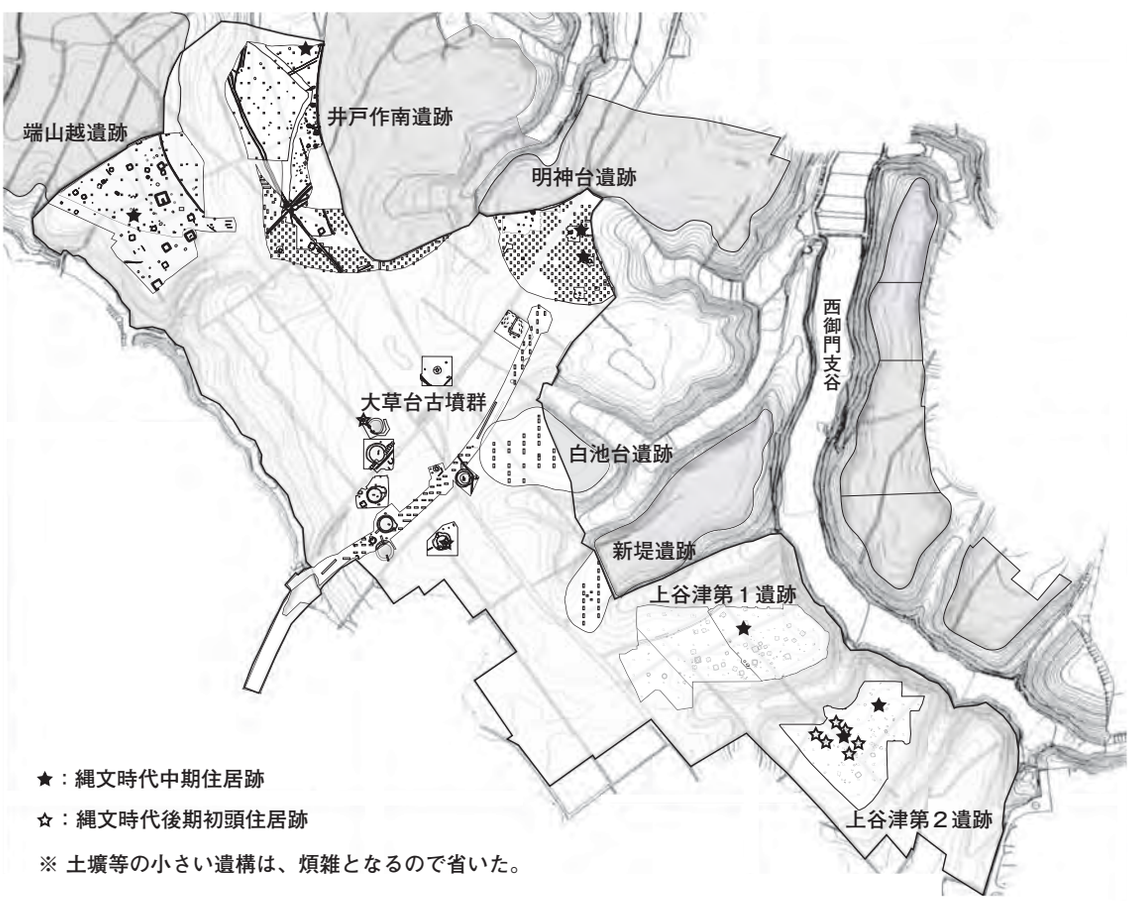
第249図　下泉町遺跡群縄文時代早・前期の遺構・遺物検出地点位置図

縄文時代中期と後期初頭の遺構と遺物

中期の住居跡は、明神台遺跡で加曽利ＥⅣ式期２軒、端山越遺跡で加曽利ＥⅢ式期１軒、上谷津第１遺跡で加曽利ＥⅣ式期１軒、上谷津第２遺跡で加曽利ＥⅡ式期１軒・加曽利ＥⅣ式期１軒・称名寺Ⅰ式期６軒、井戸作南遺跡で加曽利ＥⅢ式期１軒が検出されている。陥穴・土壙は時期が不確定なものが多いが、明神台遺跡で加曽利ＥⅡ式期１基・同ＥⅣ式期１基の土壙、上谷津第２遺跡で加曽利ＥⅣ式期10基・称名寺Ⅰ式期８基、井戸作南遺跡で中期１基の土壙が検出された。

遺物は、井戸作南遺跡の平成11年度調査・2D95・96・2E5～７地区で阿玉台式が濃く分布していた。加曽利ＥⅡ式が上谷津第２遺跡・井戸作南遺跡、加曽利ＥⅢ式が明神台遺跡・上谷津第１遺跡で微量出土した。加曽利ＥⅣ式は明神台遺跡・端山越遺跡・大草台古墳群・上谷津第１遺跡・上谷津第２遺跡・井戸作南遺跡で出土しており、上谷津第２遺跡では集落が検出されたこともあり多量である。その他の遺跡での状況は客体的に出土している。

これらの中で注目すべきは、上谷津第２遺跡で検出された加曽利ＥⅣ式期～称名寺Ⅰ式期にかけての集落跡で、特に柄鏡型住居跡（６号住居跡）と多量の遺物を出土した７号住居跡であろう。当該期の集落は宮内井戸作遺跡で検出されているが、周辺地域でででの検出例は少ない。市内で検出された当該期の柄鏡型住居跡は、愛生遺跡（１～４号住居跡）・すすきやま遺跡・餅ヶ崎遺跡・海老遺跡（36号住居跡）・うならすず遺跡（A023・A034・A062・A078・A080）などで、全て敷石などは検出されな



第250図　下泉町遺跡群縄文時代中・後期前半の遺構・遺物検出地点位置図

い直床である。竪穴の掘削深度は0.2m前後が主体で深いものは少なく、愛生遺跡１号住居跡例のように0.5mの深さを有するのは稀である。今後、柄鏡型住居跡の構造的な側面の検討が課題である。大型石棒が伴出する住居跡は愛生遺跡・うならすず遺跡で検出されているが、上谷津第２遺跡７号住居跡のように完形で出土する例は少ない。

市域で検出された当該期の集落の多くが葭川と都川流域に集中している。調査の地域的な多寡がそのような分布傾向に影響を及ぼしているであろうが、遺跡分布図的にも同様の傾向が伺えることから市域東部で集落が検出された例は稀な例と考えてよい。宮内井戸作遺跡でも、同時期の遺構が調査区に広く散在しているとされ、西御門支谷の狭い範囲に分布する遺跡群として捉えて分析する必要性があろう。

瓢箪型土器（瓢箪型注口土器）について

７号住居跡から出土した、瓢箪型注口土器（第177図-13・14）について触れておく。瓢箪型注口土器は、中部高地を中心に分布していた有孔鍔付土器が祖形と考えられている土器である。縄文時代中期末の加曽利ＥⅣ式頃千葉県を中心とした南関東で有孔鍔付土器に注口部を付け加えられて誕生したようである。また、石棒との共伴が見られる場合が幾例か見られ、本例も同様の状況である。

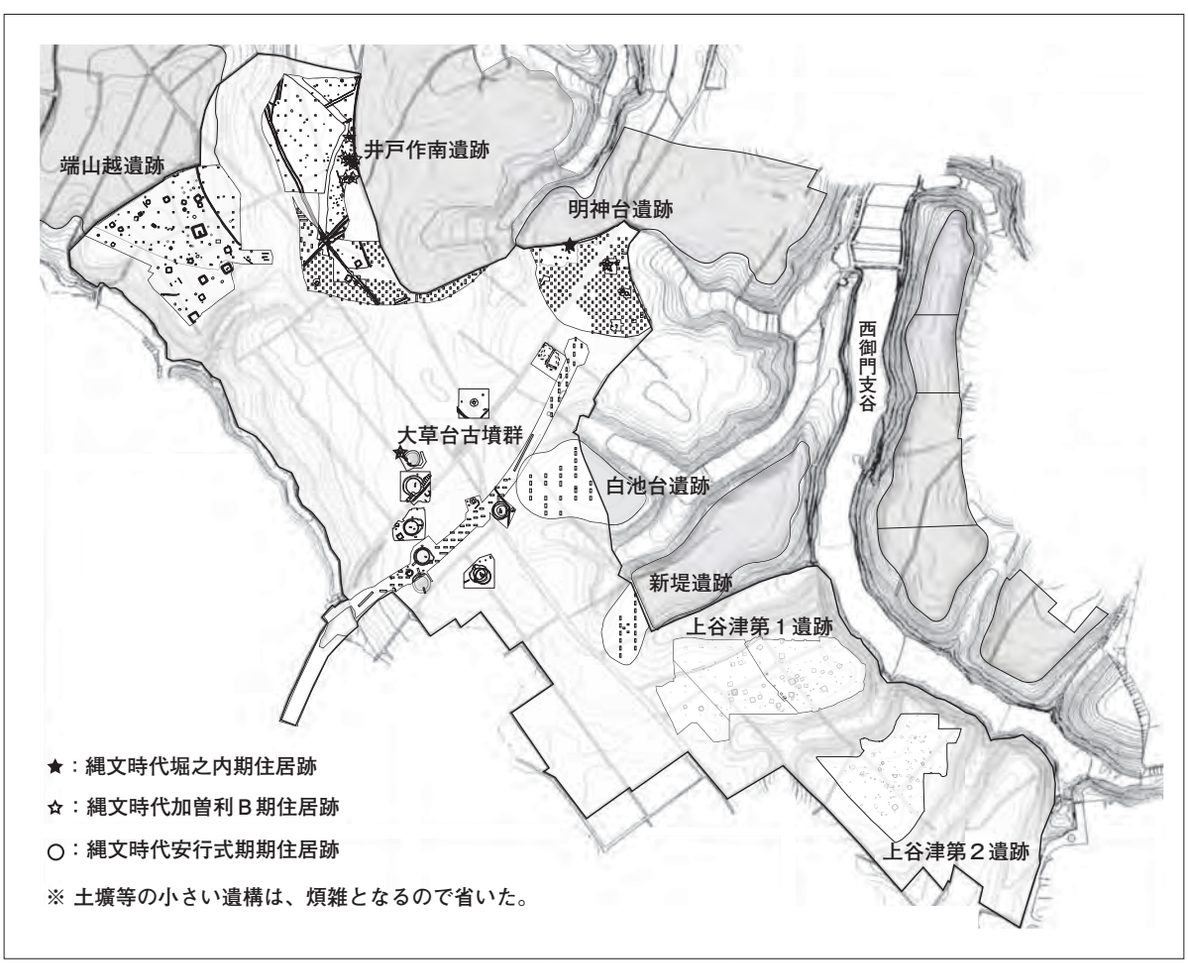
14の瓢箪型注口土器は口縁部が欠損しており、口縁部の溝や孔の部分の形状は全く不明である。よって、口縁部が欠損しているので注口土器なのか単純な瓢箪型土器なのかは判断できない。瓢箪型にしては胴部の括れは緩く、すらっとした感がある。胴部下部に２箇所の把手が上下方向に開口して付けられている。底部は下部に突出し、底面は輪状に凹む。文様は微隆起線文で渦巻状をモチーフとして描かれている。スタイル的にはやや下脹れ的であり、成田市長田雉ヶ原遺跡の100号住居跡出土の瓢箪型注口土器と瓢箪型土器とよく似ている。本遺跡例の欠損した口縁部の形態は、長田雉ヶ原遺跡100号住居跡例に近いのではないかと想像する。この他に、第191図63土-1（８号住居跡東隣）と第194図-4（10L50c区一括土器）の２点が瓢箪型注口土器又は瓢箪型土器と思われる資料である。13の蓋は、14の土器と同様に住居跡の床面の14の土器の近くで出土した。上部の把手の形状や微隆起線文の様相、胎土の状況などから一体の遺物として把握できると考えられる。14の口縁部が欠損した後も蓋として利用していたようで、14の欠損部分の破片が全くなく、折損端部もやや擦れているような様子がうかがえる。

６号住居跡の瓢箪型擬きの土器（第176図-15・16）も注意すべきである。15は、Ｊ字文・沈線区画＋充填縄文といった典型的な称名寺Ⅰ式の文様構成である。16は、沈線区画や充填縄文などはないが、縄文のみを碇状（逆蕨手状？）に施文しており、Ｊ字を連想させる文様である。両方とも口縁部は欠損し、16は底部もない。口縁部がないので注口土器なのか有溝口縁なのか素口縁なのかはわからない。しかし、下脹れのその形状は千葉市周辺域で知られている称名寺Ⅰ式期の遺跡では、見出すことができない器形である。形態的に７号住居跡の14の土器に連なる土器と考えたい。そうなると、瓢箪型注口土器・瓢箪型土器が加曽利ＥⅣ式の典型的な文様である微隆起線文を基調とすることから、形態的な伝統のみ踏襲し、文様構成に典型的な称名寺Ⅰ式の文様を取り入れるという構図が想定される。類例を把握・検討できていないので今後の課題としたい。

縄文時代後期の遺構と遺物（堀之内式期～後期安行式期）

後期の住居跡は、明神台遺跡で堀之内１式期１軒・加曽利B1式期１軒、大草台古墳群で後期（詳細時期不明）１軒・安行２式期１軒、井戸作南遺跡で加曽利B1式期５軒・B3式期１軒、加曽利Ｂ式期１軒（詳細時期不明）が検出されている。陥穴は、井戸作南遺跡で堀之内式期１基・加曽利Ｂ式期１基が検出されている。土壙は、上谷津第１遺跡で後期１基・井戸作南遺跡で堀之内式期７基・加曽利Ｂ式期17基・後期３基が検出されている。

遺物は、明神台遺跡・端山越遺跡・上谷津第１・２遺跡・井戸作南遺跡で堀之内式が出土している。この時期は、遺構数に対応して遺物が適量出土するといった傾向があり、堀之内１式の方がやや多いようである。加曽利Ｂ式は、全ての遺跡から出土している。特に、当該期の大集落である宮内井戸作遺跡の一部の井戸作南遺跡で多量に出土した。型式的に加曽利B1～B3まで普遍的にあり、宮内井戸作遺跡では、集落内で時期によって変遷があることが予察されているが、本遺跡では時期・地区ごとの多寡は掴めきれなかった。井戸作南遺跡で検出された住居跡が、どのようにその変遷に関わってくるのかは、今後の課題である。曽谷式は、大草台古墳群・井戸作南遺跡で微量出土している。後期安行式も全ての遺跡から少量出土しているが、際だった集中域はなく、住居跡を検出した大草台古墳群でも住居跡周辺の地区で少量出土した程度である。粗製土器の方が多いようである。この時期の遺物の大部分が井戸作南遺跡に集約されており、宮内井戸作遺跡の動態に連動しているものと予想される。



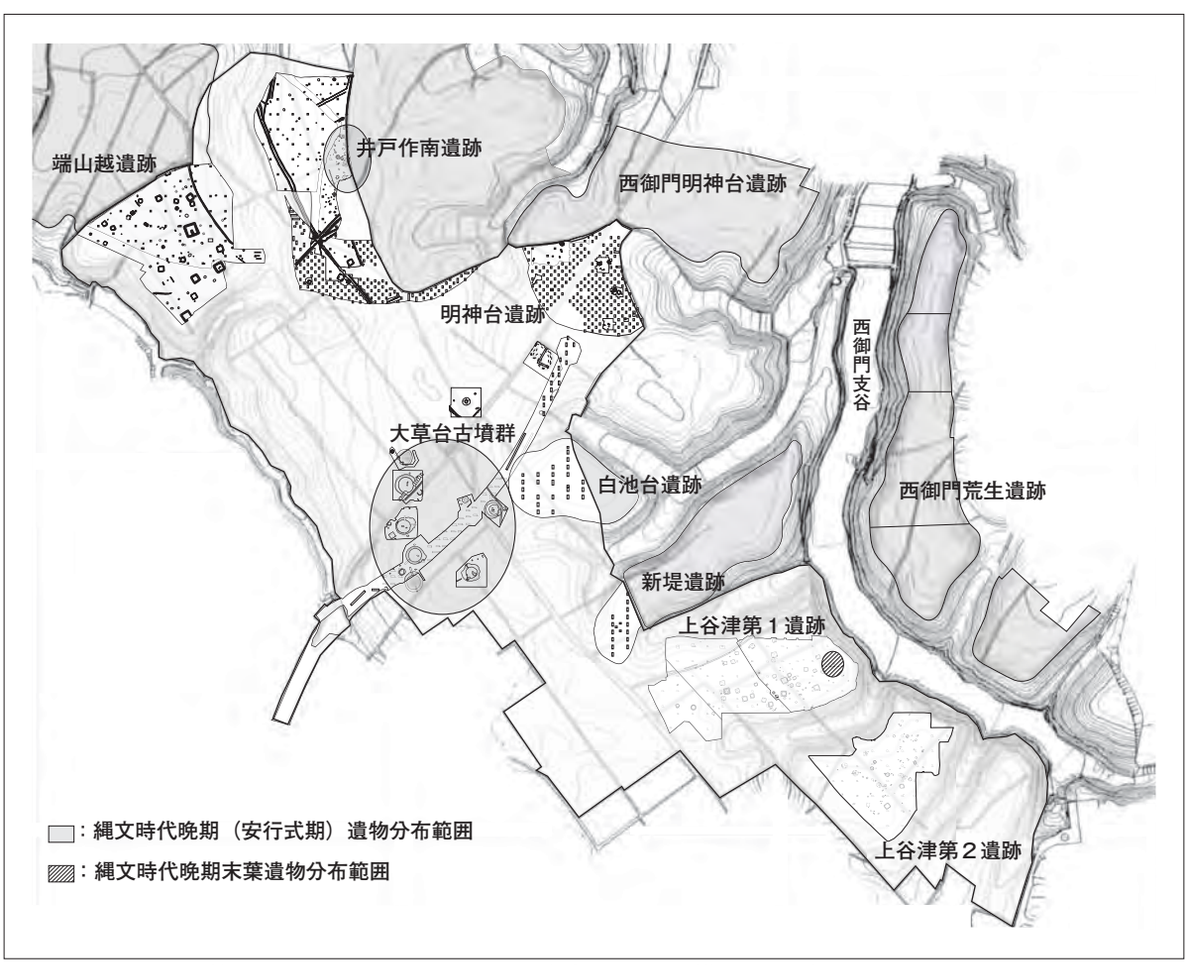
第251図　下泉町遺跡群縄文時代後期後半の遺構・遺物検出地点位置図

縄文時代晩期の遺物

縄文時代晩期の遺構は検出されていない。遺跡群の台地上にあった当該期の遺構はほぼ全て宮内井戸作遺跡に集約されているようである。

遺物は、晩期安行式・前浦式・千網式・荒海式の土器片が微量出土している。大草台古墳群で安行式の粗製土器が微量と前浦式（第105図-29）が１点出土している。大草台古墳群は、古墳部分のみを拡張した調査区が主体であり、面的な調査を行わなかったにもかかわらず、微量とはいえ複数に調査区から同期の遺物が出土している（２古・４古・５古周辺）。このことは、遺構が密集しているわけではないものの包含層が形成されるだけの生活痕跡が周辺に存在していた可能性を示唆している。井戸作南遺跡では、安行3a式は粗製が主体で精製品は少ない。3b式（第236図-28・第237図-38等）・3c式も量的には少ない。3d式（第236図7～9・第238図-57・82・第239図-87等）は量的に少ないものの精製土器が目立つ。前浦式は第239図-105などの細片が極微量含まれていた。出土した遺物総量に比して、晩期の遺物は少なく、宮内井戸作遺跡の晩期集落の外辺を僅かに形成する程度の包含層しか形成していなかったようである。

上谷津第１遺跡の１号住居跡周辺から千網式（細片、未図化）と荒海式の細片（第156図-1～6）が微量出土している。遺構はなかったが、西御門明神台遺跡・西御門荒生遺跡などでも同期の遺物が確認されており、西御門支谷に縄文晩期末葉の小規模な生活域が存在していたことを示唆している。



第252図　下泉町遺跡群縄文時代晩期の遺構・遺物検出地点位置図

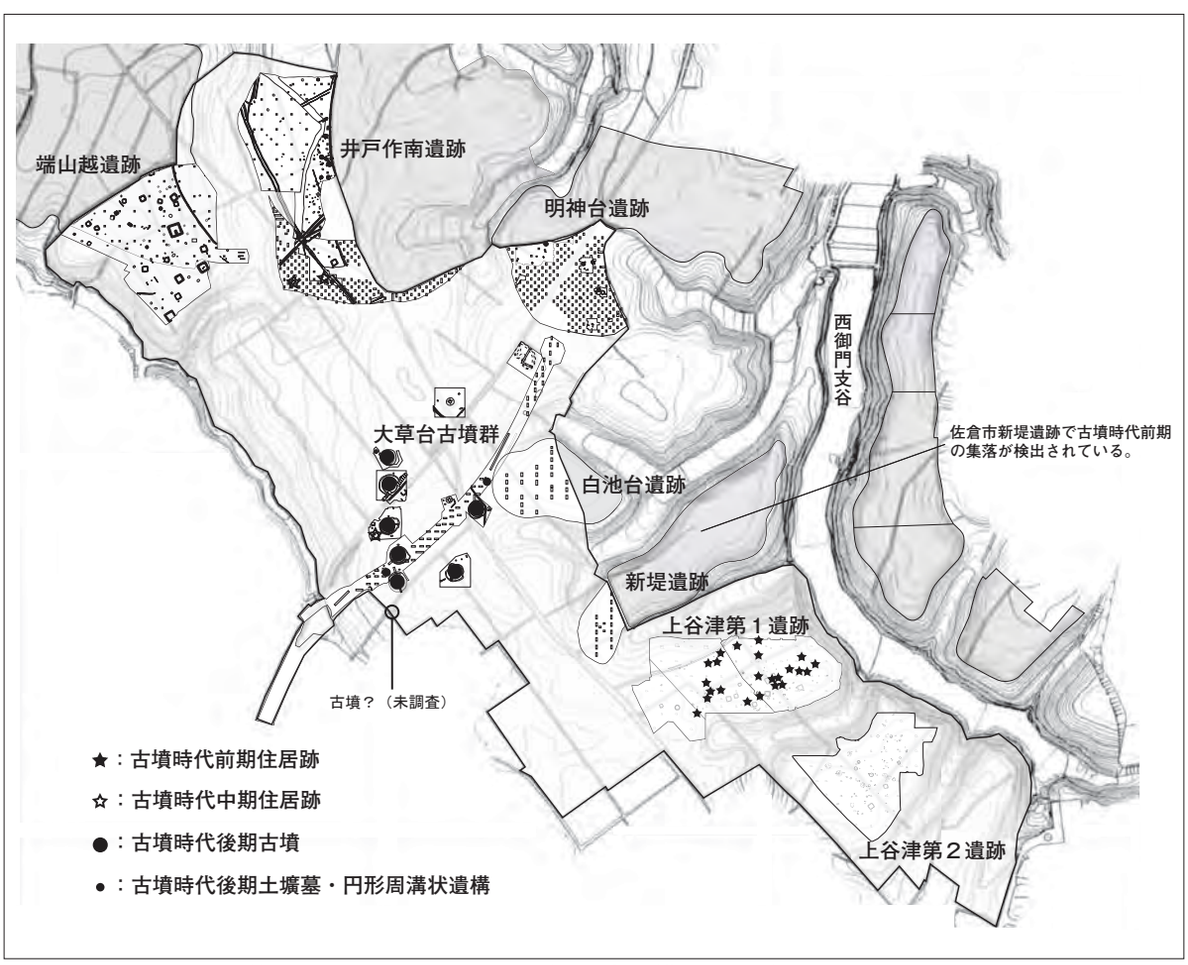
3　古墳時代

遺構は、上谷津第１遺跡の前期集落（住居跡23軒）、大草台古墳群の中期住居跡１軒、井戸作南遺跡の中期住居跡２軒、大草台古墳群の後期の古墳・土壙墓・土壙・円形周溝状遺構が検出された。

上谷津第１遺跡の集落は集落全域を調査しており、谷を挟んだ、西御門新堤遺跡の集落とは一連の集落と考えた方が妥当である。遺物は遺構内で収斂され、包含層は形成されない。この集落・遺物に関しての検討は次節にて行う。

大草台古墳群の中期住居跡は４号古墳の西側（98-B調査区）で検出され、台地の南辺部緩斜面に移行する際辺りに立地している。調査区内で他に同期の遺構が検出されなかったが、単独で存在する場合は稀なので、周辺に他の住居跡が分布していた可能性が考えられる。井戸作南遺跡で検出された２軒の住居跡は、東側の微傾斜地に展開する宮内井戸作遺跡と西側の端山越遺跡との間にある谷との間の狭い台地平坦部に立地し、規模のある集落を形成するには不適切な立地環境を呈している。この２軒から北東に約150m程の小谷津を挟んだ宮内井戸作遺跡内の小規模な台地平坦部にも同時期の住居跡が５軒ほど検出されている。大草台古墳群・井戸作南遺跡・宮内井戸作遺跡の検出状況から、この遺跡群内で形成された中期の集落が小規模で密集しない傾向があることが理解できる。

大草台古墳群の７基の古墳は、６世紀中頃～７世紀前半の造営された古墳群である。墳丘内から主体部が検出されたのは１・２・４・５号古墳で、墳丘外に主体部が検出されたのが２・３・４・７号



第253図　下泉町遺跡群古墳時代遺構・遺物検出地点位置図

古墳である。検出された主体部は全て木棺直葬である。墳丘外から検出された主体部は、４・７号古墳の周溝内で検出されたもの以外は全て独立した土壙墓の状態である。２号古墳の１・３号主体部・３号古墳の１号主体部・４号古墳の５号主体部が墳丘外に存在する主体部であり、これらは周辺にマウンドや周溝はないので主たる古墳に付属する従属的な単独墓と考えられる。１号土壙墓の存在も考慮すると本古墳群では墳丘を持たない墓壙が恒常的に造営されていたと推測される。これらの主体部出土の遺物は少なく、時期的な前後関係を把握できるものは少ないが、衛星状に墳丘外に散在する状況から墳丘外主体部は追葬と考えたい。

主体部から土器が出土したのは、２号古墳の２・３号主体部で、７世紀前半頃に比定できる。主体部出土の遺物として最も多かったのは鉄製品で、１・４号古墳からは直刀や鉄鏃がまとまって出土した。１号古墳の２号主体部出土の鉄鏃は、台形関の腸抉長三角形長頚鏃が主体である。３号主体部は、無頸又は短頸の腸抉長三角形鏃の一群と台形関の腸抉長三角形長頚鏃の一群が別位置で出土している。無頸又は短頸の腸抉長三角形鏃の一群は、直刀の束方向を頭に棺床で出土した。台形関の腸抉長三角形長頚鏃の一群は、墓構内南東部の棺外に頭を東側にして出土した。後者は追葬品と考えるよりも棺内外に意図的に分けて埋置されたと考えられ、この差が何を意味するかは今後の課題である。４号古墳の１号主体部出土の鉄鏃は、鏃身がナデ関で頸部関が台形・斜め・棘状関の長頚鏃と平根の五角形鏃がある。４号墳の棘状関の長頚鏃と五角形鏃は６世紀後半以降に主流となる形である。２号古墳の長頚鏃で台形関のものが主流となるのは６世紀半ば頃とされ、棘状関が全く入らないことから４号古墳よりもやや古い可能性がある。

７号古墳の土師器杯（第96図７古-1）と１号古墳の土師器杯（第96図１古-1）は、形状的に６世紀後半代に比定できようが、調整や口縁端部の整形具合から１号古墳の方がやや先行しているように感じられる。３号古墳の周溝内で出土した土師器杯（第97図３古-1）は、中期からの影響が残る浅碗形の杯で１号古墳例よりも古い可能性がある。また、３号古墳の主体部は陪葬か追葬の主体部（土壙墓？）なので主たる墓壙は更に古いと予想される。時期を類推できる資料がない５・９号古墳は古墳の形状的に後期の円墳であろう。これらのことから、３号→７号→１号古墳の順と２号→４号古墳の順序が考えられ、６世紀半ば以前と考えられる３号古墳が最も古く、鉄鏃の形状的に６世紀半ば頃と考えられる２号古墳が続き、１・４・７号古墳が６世紀後半と推定できる。位置的に１・７号と２～５・９号古墳の２群に系統が分けられる可能性があり、前者は１号→７号古墳、３号→２号→４号→５号（？）→９号古墳（？）の順に築造された可能性を推定できる。７号古墳の主たる主体部が検出されていないので上限がどこまでとなるかは不確定だが、古墳群の造営が南から北へ向かって順に築造されていった傾向が窺える。１・２号塚は中世以降の塚である。並びからすると旧来的には古墳であった可能性も否定はできないが、周溝が未検出で盛土堆積状況は古墳とは考えがたい。

１号土壙墓は、墳丘外に造られた主体部と同様の性格の遺構と考えられるが、周囲に墳丘・古墳周溝の類は検出されていなので、墳丘を伴わない古墳時代後期の墓が存在したと理解できる。しかし、時期を確定できないので、類例との比較検証が必要である。

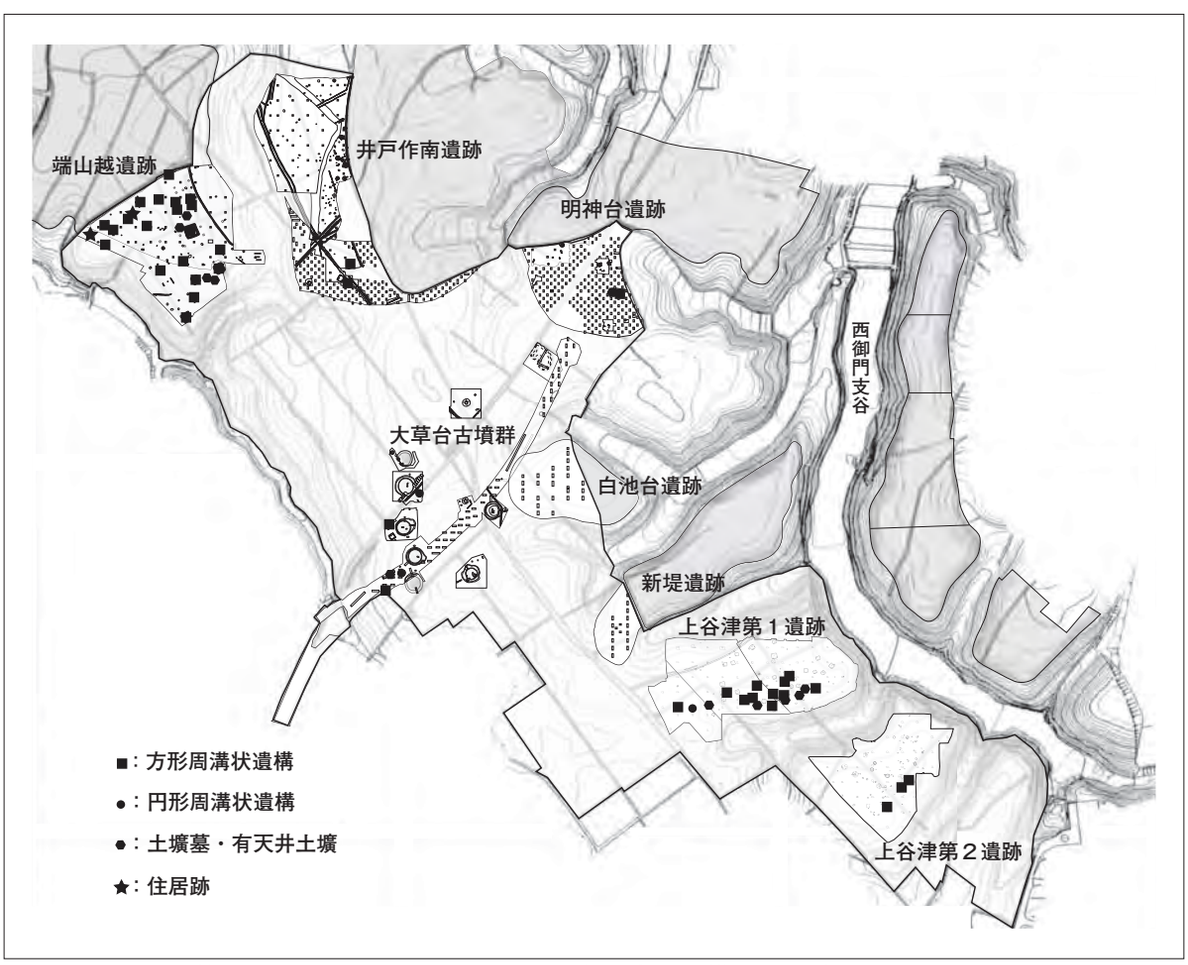
近接する範囲に同時期の集落はないが、内田端山越遺跡で集落は検出されており、内田芋戸遺跡内の古墳群と大草台古墳群が内田端山越遺跡検出の集落の奥津城であった可能性があろう。

4　奈良・平安時代

この時代の遺構は、住居跡と方形・円形周溝状遺構・有天井土壙・土壙墓・土壙が検出された。

住居跡は、端山越遺跡の西端で２軒検出され、その内の３号住居跡からロクロピットと粘土貯留用土坑が屋内から検出された。同様の遺構は内田端山越遺跡でも検出されており、窯跡と共に須恵器生産拠点を構成する一連の遺構群として把握できる。これらの住居跡よりも東側に集落は検出されず、変わって方形周溝状遺構をはじめとする墓域が広く展開する様相を呈する。

方形周溝状遺構は、端山越遺跡（20基）・明神台遺跡（１基）・井戸作南遺跡（２基）・大草台古墳群（２基）・上谷津第１遺跡（11基）・上谷津第２遺跡（３基）で総計39基検出されている。内田端山越遺跡の集落と同一台地上となり、最も密集し規模の大きい群を形成するのが端山越遺跡である。最大規模で類例の少ない横穴系地下室状の主体部を有する12号方形周溝状遺構を中心として、有天井土壙や土壙墓と分布域を同じくして広く展開している。方形周溝状遺構から主体部が検出される例は稀で、周辺では端山越遺跡の２号土壙墓と同様の主体部をもつ西御門明神台遺跡検出例がある。井戸作南遺跡のものは、古墳時代中期の住居跡と同じ立地条件内に小規模な群構成で造営されている。大草台古墳群のものも、小型のものが小規模に散在している。宮内南台遺跡・宮内井戸作遺跡・西御門明神台遺跡・白池台遺跡（佐倉市）・西御門新堤遺跡・上谷津第１遺跡・上谷津第２遺跡・西御門荒生遺跡の西御門支谷側に偏った遺跡でそれぞれ独立した台地上に方形周溝状遺構や土壙墓・土壙などは分布し



第254図　下泉町遺跡群奈良・平安時代の遺構・遺物検出地点位置図

ている。内田端山越遺跡では集落と工房跡が検出されているがこれらの遺跡とは対照的に住居跡が検出されていない。明らかに、居住域と墓域を台地全体で区分している様子が看取できる。全ての方形周溝状遺構を俯瞰してみると、端山越遺跡の群が最大で古墳時代後期の影響を残すような墓壙が検出されたこともあり、墓域としては際だつ存在である。主体部がほとんど検出されず、遺物が少ないという傾向からそれぞれの遺跡ごとに細かな時期比定がしにくいことが難点なのだが、内田端山越遺跡との位置関係や特殊な主体部の存在から内田端山越遺跡から離れるほど方形周溝状遺構群の形成開始時期が新しくなるのではないかと想定している。今後、遺物と遺構分布状況などの側面から検討することが望まれる。

円形周溝状遺構は大草台古墳群と上谷津第１遺跡で検出されており、上谷津第１遺跡の円形周溝状遺構の周溝内からの遺物は、７世紀末から８世紀初頭頃に比定できる。円墳から方形周溝状遺構へと変化する過渡期の墓である可能性がある。

有天井土壙と土壙墓は、方形周溝状遺構群内に散在する場合が多く、古墳に伴う追葬墓と同様の性格を想定できる。方形周溝状遺構本体の主体部が検出される場合が稀なので、その主従の別を判断できる材料に乏しいが、西御門明神台遺跡検出の方形周溝状遺構から土壙墓と同形態の主体部が検出されている例から土壙墓と有天井土壙が有機的に密に関わり合っていることは確かであり、土壙墓と有天井土壙の墓壙底部の直交する溝の形状から土壙墓と有天井土壙が密な関係にあることも想定でき、三者が奈良・平安時代の墓壙の形態であることを推し量ることができる。三者とも、遺物に恵まれないが、９世紀遺構に明確に下がる遺物が出土するケースは稀なので、およそ８世紀代（奈良時代）の墓壙形態と考えられる。方形周溝状遺構・有天井土壙・土壙墓といった奈良・平安時代の墓域が広く展開することは把握できたが、墓の造営主体である集落との検討は全く行えていない。今後、内田端山越遺跡検出の動向とあわせて検討することが望まれる。

大草台古墳群の古墳周溝内から布目瓦や奈良時代の須恵器・土師器が出土している。周辺の当該期の遺構は有天井土壙があるが、本来遺物が少ない遺構であり周辺に他の遺構が存在していたのであろうか。また、古墳造営者の子孫による祭祀行為の痕跡であろうか。

５　中近世

中近世は、土壙・掘立柱建物跡・塚・溝・土坑列・道状遺構・炭窯が検出された。これらの内、土坑・掘立柱建物跡と土坑列の一部は掲載したが、残りの遺構は遺構分布図のみの掲載である。１・２号塚は、盛土の堆積状況が古墳のそれとは全く異なっており、各層が荒い積み上げ状況を呈し、質感は柔らかく均一性が全くない。２号塚盛土内からは、第107図２塚-1・2の土器が埋置されていた。これらの土器は、近世の焙烙の蓋様のものと火消し壺様の土器だが、土壙内に埋置されている構造から墓と考えたいが、葬送儀礼に纏わる遺物や痕跡はないので墓壙とは俄かには判じがたい。類例の検索が必要である。１・２号塚の他に、１・５・９号古墳は中世に塚として再利用されており、１・５号古墳はそれぞれに11号土壙（第107図11土-1の常滑大甕・15世紀代）と15号土壙（第108図石塔類）が墳丘上をから掘り込まれていた。なお、調査時に15号古墳（97-A調査区）とした盛土は、古墳でも塚でもなく形成時期不明（恐らく近現代）のただの盛土でしかなかった。

掘立柱建物跡は、上谷津第２遺跡で１棟、井戸作南遺跡で２棟検出された。古代の掘立柱建物跡に

比べ柱穴が小さく貧弱である。遺物は出土していないので時期の確定はできないが、井戸作南遺跡の１号掘立柱建物跡が中世の12号溝を意識して配置している様子が窺えることから、中世以降の遺構と想定した。

溝は、端山越遺跡で６条、大草台古墳群で11条、上谷津第１遺跡で２条、井戸作南遺跡で26条検出された。端山越遺跡の５号溝・井戸作南遺跡の１～５号溝・大草台古墳群の５・11号溝・上谷津第１遺跡の１・２号溝のように現代の地道に完全に対応するものは、より新しい時期に遺棄された遺構と考えられる。井戸作南遺跡の13号溝は２～５号溝と交わっており、覆土中から中世のカワラケ片や常滑大甕片、銅銭などが微量出土しており、古くとも16世紀には遺構が機能していたこと思われる。また、宮内井戸作遺跡と端山越遺跡の間にある幅約50m前後の狭い台地平坦面中央部を貫いており、大草台古墳群の２号道状遺構と連結し、大草台古墳群５・11号溝に直交する可能性がある。13号溝は、中世以降この台地の平坦部分中央を貫く主要道路であったようである。溝は、総じて幅が３m前後で、深さが深くとも１m前後であり、断面が逆台形上を呈するなど構造的に類似したものが多い。現代の地道とも重なるものも多く、古代以前にさかのぼる可能性は低い。事業範囲内で中世の大掛かりな遺構が検出された例はないが、遺跡群の北東約1.5㎞程の弥富川左岸に根古谷城があり、関係する遺構の可能性もあろう。

大草台古墳群で検出された土坑列は、５号溝・１号道状遺構と平行しており、中世以降の遺構である。５号古墳の断面図にあるように、検出面から約2.5m程の深さの土坑が配列方向に直交するように各土坑の主軸が並ぶ形状をなす。よく似た構造の土坑列は、千葉市内では恵布南遺跡で検出されており、近世の猪落とし用の土坑列ではないかと推測されている。

炭窯は、明神台遺跡（４基）・端山越遺跡（６基）・大草台古墳群（６基）・上谷津第１遺跡（11基）・上谷津第２遺跡（４基）・井戸作南遺跡（６基）で検出された。遺構の配置に規則性は見られず、遺物も廃棄年代に繋がるものは出土していない。平面形状が方形と瓢箪形の複室構造のものとがある。

以上、ここまで遺跡全体を時期ごとの傾向をまとめてみた。上谷津第１遺跡の古墳時代前期の集落や上谷津第２遺跡の縄文時代中期末葉～後期初頭の集落、大草台古墳群などの完全に独立した集落や墓域がある反面、井戸作南遺跡のように主たる集落が別遺跡に含まれていたり、端山越遺跡のように墓域として独立していても母集落との関係が不明といった、単独では一定の成果としてまとまらない遺跡もあり、この報告のみで完結しえない部分も多く残した結果となった。事業範囲内の全ての結果が出揃うった後に、改めて大局的な分析を行う必要があろう。

アメリカ式石鏃　上谷津第１遺跡から１点出土した（第158図-49）。アメリカ式石鏃は、東北地方から北陸地方でしばしば出土する弥生時代の特殊な形態の石鏃である。石鏃の基部は通有の形態と異なり、側面に抉りがある形状が特徴的である。アメリカ先住民が使用していた石鏃に近似していることからこの名がつけられたとされる。千葉市内では初出であり、千葉県内においてもその数は少ない。茂原市宮ノ台遺跡出土例が『房総考古学ライブラリー４弥生時代』で紹介されている。本例は、チャート製で鏃身部の整形具合がとても丁寧で、平面形状的にも通有の石鏃とよく似ている。東北地方・北陸地方で出土する例よりも、鏃身部の状況は房総で出土する縄文時代の石鏃と形状的には近いようである。県内の事例を把握しておらず、詳細な検討は今後の課題である。

第2節　考察

1　上谷津第1遺跡出土の古墳時代前期の遺物について

上谷津第1遺跡では、独立した小台地上から23軒の古墳時代前期の集落が検出された。こららの住居跡は重複関係が無く、出土遺物の型式学的な検討以外に時期的な先後関係を把握する手段がない。

そこで、本項では先学の成果の則り、本遺跡から出土した土器がどの時期に相当するのかを検討する。一応、検証するにあたり以下のような手順と視点で行うことにする。

①出土土器全体を俯瞰し、器種組成・器種ごとに一般的な傾向を踏まえて検討する。

②重複関係がないので、住居跡内からまとまって遺物が出土した場合、その遺物が廃棄された下限時期を端的に示していると考える。よって、床面直上からまとまって出土した一括遺物を相互に比較検討して大局的な流れを把握する。

③その後、住居跡を構造的・現象的な側面から検討し、遺物との整合性を確認した後に集落そのものの動態を検証してみる。

先学の成果は多々あるが、紙幅の関係上、古墳時代前期土器研究などに関わる学史的側面を検証することができなかった。主に参考としたのは以下の論考である。

・上谷津第1遺跡が所在する鹿島川流域が広域的に見た場合印旛沼地域に包含される可能性が高いため、印旛沼周辺の古墳時代前期土器の検討を行った高花宏行氏の論考（高花2001）。

・千葉市域南部を流れる村田川流域で当該期の遺構・遺物が多出した草刈遺跡の土器を編年された加藤修司氏の論考（加藤2001・2004）。これは、上総北部を中心とした地域編年の軸になるものである。

・東京湾東岸地域の弥生時代後期から古墳時代前期の土器を甕の型式変化を基軸に細分化した大村直氏の論考（大村1994）。

・君津郡市文化財センターの研究班による上総南部の君津地域の土器編年の論考（小沢他1996）。

・下総地域全体を俯瞰して、他地域との影響関係から下総地域の地域性を論じられた比田井克仁氏の論考（比田井1995）。

なお、用語・分類手法など多くの点で高花氏の論考を主に参考とさせていただいた。

土器の分類

上谷津第1遺跡で出土した土器を構成する器種には、甕・壺・高杯・器台・小型丸底壺・大型坩・甑・鉢・碗・ミニチュア精製土器・手捏土器がある。

甕　甕は平底だけである。器面調整・口唇部・頸部の特徴で細分でき、大きさに大小がある。

器面調整：ハケ・ナデ・ケズリ・ミガキ　　口唇部：刻み口唇・素口唇

頸部：「(」（緩やかに外反）・「く」（屈曲して外傾・外反）

1・3・4・5・6・8・9・10・11・12・16・19・20・21・22・23・24号住居跡で出土した。これらの中でまとまった資料が出土したのは、3・4・6・11・12・16・19・21・23号住居跡である。

刻み口唇の甕が出土したのは、12・19・23号住居跡である。12住－5は刻みが波状を呈し、口縁部内外と胴部上半に細かなハケ調整が施される。胴部下部はハケ調整後にナデ消している。胴部の形状は最大径がほぼ中位にある球形を成す。頸部は緩く外反する。本遺跡で他に例はない。19住-6はハケ

状工具による押捺刻みである。口縁部内外と胴部最下部まで密にハケ調整を施す。胴部の形状は最大径がほぼ中位にある球形を成す。頸部は屈曲して外傾する。底部に木葉痕があり19住-5の素口縁甕と胎土が同じで在地産でない可能性がある。23号住居跡からは３・４・５の３個体出土した。３のみが全体復元が可能であった。３個体ともハケ状工具による押捺刻みである。23住-3は口縁部内外から胴部下部までハケ調整が施され、胴部下端は横位のケズリが施される。頸部は緩く外反する。胴部の形状は最大径がほぼ中位にある球形を成す。23住-4は口縁部内外面はナデられ、外面の頸部下からハケ調整が施される。頸部は屈曲して外反する。23住-5は４とよく似ているが頸部が緩く外反する点で別個体である。４と５は胎土がとてもよく似ている。

ハケ調整の甕は１・３・４・６・９・10・12・16・19・20・21・22・23号住居跡で出土した。底部際までハケ調整が施されるのは１住-9・３住-4・７・９住-1・16住-14・19住-5・６・21住-4の８個体である。これらの内、頸部が緩く外反するものはなく、屈曲して外傾するのは３住-7（小型）・16住-14・19住-5・６である。胴部下半や底部際がナデ又はケズリ調整を施すものは６住-5・10住-7・12住-5・16住-15・19住-7・21住-1・23住-3の７個体である。これらの内、頸部が緩く外反するのは12住-5と23住-3の刻み口縁のものだけである。口縁端部が外傾するものがある。ハケ調整の３住-3とケズリの後ナデ調整を施す４住-3・６住-6である。小型の甕は１住・３住・６住・10住・12住・17住・21住・22住・24住で出土した。ハケ調整とケズリ・ナデ調整、口縁部が彎曲（内外）・外傾するのと直口するものがある。口縁部形態は多種で、中・大型ものと比べて大きさ以外に明確な基準を見出しにくい。

壺　壺は口縁部の特徴で細分でき、大きさに大小がある。

口縁部：装飾口縁・複合口縁・有段口縁・素口縁

装飾口縁壺は11住-2の破片が一点あるだけである。複合口縁壺は無文のみである（11住-3・19住-7・21住-6）。有段口縁壺はナデ・ミガキ調整の１住-1と頸部ハケ調整の18住・-1がある。素口縁壺は４住-5の口縁部のみである。

口縁部が欠損しているが胴部下半のみが出土するケースがある。１住-8・６住-7・16住-16・21住-8の４例で、上部の破片が皆無なのに底部はほぼ完形で出土している。16号住居跡の一括遺物の中にあって、明らかに構成器種として包含されており、壺としての機能が失われた（場合によっては意図的に）後に大皿のような用途で再利用されたと想定している。

高杯　高杯は杯部と脚部の形態で細分化でき、大小がある。

杯部下部の形態：有稜・無稜　　脚部の形態：直線的・曲線的

高杯は完形品が少ない。杯部のみが６住-1・２・８住-1・17住-3・５・18住-2・３で、脚部のみが６住-317住-2がある。小型高杯の23住-2のみが全体を把握できる資料である。杯部の形態では、８住-1以外は全て無稜である。脚部は６住-3が直線的、17住-2が曲線的に開くものである。

器台　器台はいわゆる「小型精製器台」で、受部と脚部の形態で細分できる。

受部の反り方と端部の形状　　脚部の形態：直線的・曲線的（反るか内彎する）

器台は３住-2・７住-1・10住-2・17住-1・19住-1・2・22住-1・2・23住-1がある。完形は19住-1・22住-1・2・23住-1の４個体のみである。脚部が発達しているのは３住-2と７住-1で脚部のみで、受部よりも脚裾部径が大きくなると思われる。穿孔長が長い（厚い）ものは10住-2・22住-2で、それ以外は薄い。

受部は、全て緩く開く素縁のものばかりである。脚部は裾部径が受部径よりも大きいものばかりで、脚部がやや高いのが19住-1である。

器台でも小型精製器台ではないものがある。杯部に透かしがは入り、杯受部に突起が張り出す形状をなす特殊な形の器台である。その名称は「装飾器台」・「特殊器台」・「有孔高杯」・「結合器台」など様々あるが、一般的に「**北陸系器台**」の通称で知られている器台である。16住-13がそれで、杯口縁部は外反し、三角形の透かしが３箇所穿たれ、受部に張り出し突起がつく。脚部は「ハ」字状に広がり中位に円形の透かしが３箇所穿たれる。器壁は厚く、杯部内外面ともハケ調整を密に施した後に丁寧にナデるがハケの痕跡は明瞭に残る。突起下から脚裾部まではミガキのような丁寧なナデ調整を施す。口縁部のない外面に最終的にハケ目が消される程の横位のミガキを数条めぐらす。脚部内面はハケ調整のままである。同形態の土器は、関東近郊で稀に出土する。千葉県域の資料は栗田則久氏の集成では15遺跡27例があり、これらに含まれていない例も含めても50例を越えない程度しか出土していないようである。千葉市域の例は、うならすず遺跡平成12年度調査の１号住居跡・戸張作遺跡102号住居跡・駒込遺跡９・10号住居跡で出土している。

小型丸底壺　小型丸底壺は丸底と平底がある。胴部と口縁部の形態的な関係から細分できる。

口縁部：外傾・内彎と高さの高低（口縁部の発達具合）　胴部：深浅と扁平・丸みを帯びる

小型丸底坪は１住-2・10住-1・11住-1・19住-4・22住-4・5が出土している。丸底は10住-1・11住-1・19住-4である。平底は１住-2・22住-4・5である。丸底は器壁が薄く、平底は厚い傾向がある。

大型坩　大型坩は球形の胴部（円形・楕円形）と直立した口縁部の通有の小型壷とは異なる壺型土器で、平底のみである。小型の素口縁壺との区別は難しく、完形品はない。小型丸底壺からの系譜を辿ることができそうもないものも含んだ。１住-5・４住-1・10住-3・4・12住-4・12住-6・13住-1・16住-10がある。調整は基本的にナデのみかハケの後に丁寧にナデ消すものが主体で、16住-10のみがハケ調整のままとなっている。

甑　甕の底部に穿孔されたもののみである。甑として意図的に成形されたものはない。10住－６の甕の底部に焼成後に穿孔したもののみである。調整はケズリの後に全面ナデである。

鉢・碗　鉢・碗は明確な区別が難しいが、口径と底径と器高との兼ね合いで細分化できる。

１住-4・３住-1・12住-1・2・16住1～6・12・21住-1・22住-6・24住-2がある。碗と考えたいのが16住-6・12・21住-1で基本的に丁寧なナデ調整を施す。残りは鉢としたいが、12住-1・2と16住-1～4は皿としたくなる形状である。12住のものはケズリ調整で16住のものは外面がハケ調整である。

次に、これらの器種構成が本項末の器種消長関係の表を参考にして編年研究上の一般的な見解とどのように関わるか検討する。古墳時代前期の土器編年において、甕・壺といった主要器種の型式変化と小型精製土器群（器台・高杯等）の消長を基軸とした編年作業は、研究者の内で概ね一致した見解といえる。ここでも、本遺跡出土の甕・壺・器台の状況を取り上げて検討してみたい。

甕の傾向　ここで、甕の型式変化の大まかな特徴を列挙しておく。頸部は「(」（緩い）から「く」字状（屈曲）に変化し、輪積みの多段傾向は古い要素である。口唇部の刻みがあるものから素口縁へ変化する。胴部がやや扁平気味から球形へ、球形から長胴形へ推移する。器面の調整は、ナデからハケ、ハケからケズリ・ナデへと推移する。ハケ調整は横位から縦位、縦位ハケの後にナデといった調整へ

と推移する。次に、このような型式変化に本遺跡出土例を検討してみる。

本遺跡からは台付甕が出土せず、平底（甕A・B・C）のみが出土している。刻み口唇で頸部が緩く外反し胴部がハケ調整のもの（甕C1：12住-5・23住-3・5）。刻み口唇で頸部が屈曲するもの（甕C2：19住-6・23住-4）。素口縁で頸部が屈曲し胴部がハケ調整のもの（甕C3：1住-3・4住-4・6住-5・16住-14・15・19住-5・7・21住-1）。素口縁で頸部が屈曲し、胴部ナデ調整のもの（甕A3：4住-3・6住-6・11住-5・21住-5）があった。古相の様相とされる刻み口唇のナデ甕はなく、Ⅱ期以降の要素である甕Cのハケ甕が最も多い。また、ハケ甕では古相とされる刻み口唇のもの（甕C2）の存在からこの集落の形成開始時期はⅡ期以降と推定できる。台付甕（甕D・E・F・G）は東京湾西岸地域と南武蔵・多摩地域で一般的な特徴とされ、千葉市域・印旛沼周辺域でもしばしば出土する器形だが、本遺跡からは出土していない。また、隣接する同時期の集落である西御門新堤遺跡でも同様のようである。つまり、外来的な影響の薄い下総地域の在地的な集落であったと理解できる。

壺の傾向　壺は装飾を施す壺が古相、複合口縁壺が新相を象徴する。本遺跡から出土した壺は少なく、口縁部が残存しないものが多い。11住-2の口縁部に棒状浮文がつくものは古い要素といえるが破片なので住居跡の下限年代に直結しないかもしれない。それでも遺跡全体で加飾される壺はないので古相の土器片であるとしてよい。しかし、小型丸底壺と複合口縁壺が供伴しており、11住-2の加飾性が乏しいことからこの手の装飾壺が新しい段階まで残存するとも考えられる。その他の壺口縁は、有段口縁壺（1住-1・18住-1）と複合口縁壺（11住-3・21住-6・7）しかなく、有段口縁壺がⅢa期以降、複合口縁壺がⅢb期以降に主体的になるので、これらを含む住居跡がⅢ期以降のものである可能性が高い。

器台の傾向　小型精製器台は受部端の成形（つまみ上げる・外面に稜がある）が明確にされたり、穿孔部厚が厚かったり、X字器台であることが新しい要素といえる。本遺跡では、これらに類する器台が少ない。受部端の成形をするものとX字器台は皆無で、穿孔部厚があるのが10住-2・22住-2である。直線的な脚や受部が脚部よりも発達するといった古相のものもないことから、器台BのⅡ～Ⅲ期に一般的な器台で構成されていると理解できる。

その他の器形の傾向　高杯は、古い要素の有稜で深い杯部の高杯や新しい要素の柱状脚高杯がない。23住-2の小型の無稜高杯は、近隣に同型のものが見出せない。小型丸底壺は、Ⅲ期以降の主な構成要素であり、10住・22住で穿孔部厚が厚い器台、１住で有段口縁壺と供伴していることからこれらの住居跡がⅢ期以降のものであると推定できる。16住-13の北陸系装飾器台だが、比較的古相の様相として認識されているが、供伴する遺物には古相というよりも半ば以降の要素を見出す土器が多い。小型甕の中に技法的な要素として輪台技法を用いる例が若干ある。16住-5・7・21住-2で16住例は北陸系装飾器台と供伴しⅡ～Ⅲ期までの範囲で収まり、21住例も複合口縁壺との関係からⅢ期以内と推定できる。皿状ハケ鉢（16住）は近隣で他に類例がないが、畿内和泉編年の鉢C（布留古段相当）と似る。

これら全ての土器の中で、最も古い様相といえるのは刻み口唇のハケ甕であろう。12・19・23住が該当するが、12住はハケ調整が上半のみで下半をナデ消しており、供伴している皿状鉢の調整がケズリ後ナデ調整で、同形態の鉢が出土した16住例（ハケ調整･状況的にⅢa期以前？）と比較してハケからケズリ・ナデという調整上状の流れからして12住の方が新しいと考えられる。よって、刻み口唇ハケ甕の19・23住例が最も古いと考えたい。

集落の動向

ここまでの傾向を踏まえて、住居跡の分布傾向と住居跡の平面構造・検出段階の状況を加味してグループごとの先後関係を抽出してみる。

グループは第256図のように分布から６つに分けられる。

グループ５が遺物・平面構造などの面で最も特徴がある。最大の特徴は、主柱穴がないことである。23住は土器型式的に最も古い遺構と考えてよい。21住は22住よりもハケ調整土器の割合が高く、小型丸底壺がないことから、22住よりも古相としたい。

グループ５の新旧は23住→21住→22住となる。なお、23住には壁溝がなく21・22住にはあることから、壁溝が無い方が古い要素と考えられる。23住と21住の間には土器型式的には連続しないように感じられる。主柱穴が無い構造という共通性からグループ６の範囲に含まれる20住がその間に入る可能性がある。なお、グループ６の19住と17住に共時性はなく、連続性として考えている。

グループ６は19住が土器型式的に23住とほぼ同時期であり、グループ最初の住居跡である。しかし、19住には壁溝があるので23住よりも新しい可能性がある。19住の主柱穴は深くしっかりしており、17住も同様である。17住と18住の土器は型式的に明確に分けられないが、19住と17住の主柱穴の関係から17住の方が古いと考えたい。24住－２の内彎鉢は同形態の22住-6があり、形態。技法的にほぼ同時期であろう。よって、グループ６の新旧は19住→17住→18住→24住となる。

グループ４は12住が拡張住居跡であり、遺物は全て新住居跡に伴うものである。12新住からは炭化物・焼土が床面から出土しており、廃棄段階に火災（意図的かは不明）で焼失したと考えられる。10住と11住出土土器は型式的に明確に分けられないが11住-3の複合口縁壺と10住-5の小型甕が縦位のミガキを最終調整としていることから近い時期と考える。10住と12新住は焼失家屋で、焼失家屋の方がグループ５の状況から新しい要素と考えられる。なお、11住は壁溝が無く10住にはあり、12住の新旧とも壁溝がある。グループ５の傾向から壁溝なしが古い要素と考えられる。これらのことからグループ４の新旧は12旧住→12新住→10住・11住か12旧住→12新住→11住→10住となる。

グループ１は全て壁溝がないのが共通点である。３住-3と４住-3の甕は、頸部から口縁部の形状に特徴がある。両方とも頸部から上方へ延びた後、輪積みの最終段を極端に外傾させる形状を呈する。３住例はハケ調整で４住例はケズリ・ナデ調整であり調整上の流れから３住が古い要素といえる。３住には坩がなく４住にはある点や土器の器壁が３住の方が薄目で４住の方が総じて厚いことから型式的に３住の方が古いとしてよいであろう。ケズリ・ナデ調整の含有量からして１住も４住に近い時期と考えたい。３住と４住は炭化物と焼土が出土しているが、３住は４住程明確に炭化材が検出されていない。２住は遺物が少ないので時期比定が難しいが、１住と２住から土玉が出土しており、２住は焼失家屋であることから１住→２住の順を想定したい。５住も遺物が少ないが、遺物がないことと主柱穴があることからこの中では最も古いと想定したい。これらのことから５住→３住→４住・１住→２住の順となる。

グループ２は全て壁溝がないのが共通点で、この点はグループ１と同じである。構成軒数も５軒と同じである。６住-6の甕は口縁部形状と全体の調整手法が４住-3の甕とほぼ同じなことからほぼ同時期の所産と考えたい。６住のハケ甕はハケ方向が縦位で部分的にナデ消している。６住-7の大型壺の

底部も内外面共に縦位・斜位のハケ目にミガキ様の丁寧なナデを施す。６住-1の有稜高杯杯部も同様である。この住居跡出土土器は、縦ハケ→ナデ調整という傾向が特徴といえる。６住とグループ１の４住はほぼ併存と考えたいが、６住の主柱穴は深くグループ１の５住と同じであり５住と４住の関係は５住が古いと考えているので６住と４住の間にも若干の直さが存在する可能性も考えられる。しかし、土器型式的に６住と４住の間に明確な差異を見出すのは難しい。７住の器台は、小型精製器台よりも大型の器台である。大きさからは高杯の脚部ともしたいが穿孔部の調整具合は高杯のそれではない。器台で同じような類例があまり知られていないので形状的に類似する高杯の脚部と比較してみると、有稜高杯Ｂの脚部形態に類似する。有稜高杯ＢはⅡ～Ⅲa期に主体的に出土する。８住-1の小型の高杯は有稜のミガキを施す小型高杯Ａである。小型高杯ＡはⅢ期までの間少量であるが継続しており、２の甕底部がケズリ調整でハケ目が確認できないことやミガキ調整なのでやや新しい時期としたい。９住のハケ甕は底部際までハケが施されるのでハケ甕の中では前半に入るように思われる。13住-1は大型坩である。大型坩はⅢ期でも新しい時期に主体となる。 これらのことから６住・７住・９住→８住→13住となろうか。このグループは、時期差があまり顕著ではない。

グループ３は15・16住の２軒のみである。15住は遺物がないので時期比定が難しいが、壁溝があり焼失家屋なので16住よりも新しい住居跡と考えたい。16住は多数のハケ鉢と北陸系装飾器台出土し、他の住居跡と比べ特異な住居跡である。16住-14・15のハケ甕は底部際まで密にハケを施し、頸部が屈曲、器壁がやや厚い傾向のある甕C3である。甕C3はⅢ期以降に主体的な甕であり、器壁の厚みからしてⅡ期以前にはあまりない雰囲気の甕である。北陸系装飾器台は完形の優品だが、ハケ調整後ナデ・ミガキに近い丁寧なナデを施すなど調整上も新相の様相を呈している。16住-10の小型のハケ壺も大型坩の範疇に含められる雰囲気もあり、これらのことからⅢa期でも半ば以降に相当すると考えた。

グループごとの特徴を換言すると、

・グループ５・６は、主柱穴の構造的特徴と壁溝を積極的に住居構造に使用したグループ

・グループ１・２は、壁溝をつくらず、廃棄段階で焼失家屋となるグループ

・グループ４は主柱穴と壁溝の構造をグループ５から継承しつつ廃棄段階で焼失家屋となるグループとなろう。グループ３は際だった特徴がないが、グループ３に準ずるグループと考えられる。

ここまでグループごとの傾向を分析してきた。その分析をもとにグループ間の関係と先後関係を表したのが第56表である。

この表では、右上がりで時期が新しくなりながら住居の構造や現象が推移することが理解できよう。

次に、住居構造的・現象的に幾つかの傾向があることが理解できたので説明しておく。

・主柱穴が無かったり逆に主柱穴が深く立派な住居跡は古相であること。

・炭化物や焼土といった焼失家屋と考えられる住居跡はⅢ期末頃以降の現象であること。

・グループ４と５が併行し、グループ１と２も併行して住居跡が存続する。グループ３と４はその中間的な要素が入り交じる存在であること。これらの構築過程を立地的に置き換えてみると、グループ５・６が台地平坦部のやや奥に位置し、中間期のグループ３・４を経て台地の先端部のグループ１・２へと移動していることがわかる。また、住居跡間に重複関係がないのは、各グループが共時性を保ちつつ短期間に住居を構築し続けた結果であろう。

まとめ

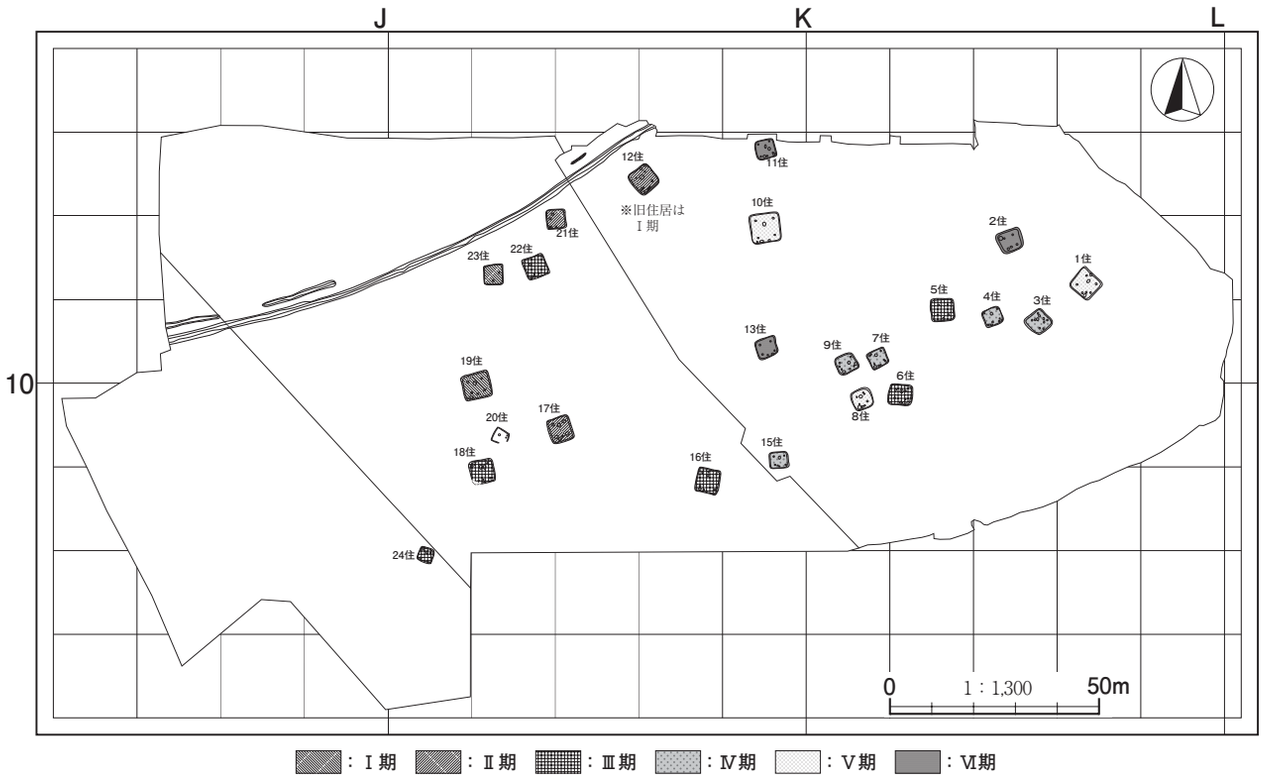
住居跡の構造的・現象的側面から分類したグルーピングと土器型式的な変遷を折衷させた結果、上谷津第１遺跡の集落はおよそ６時期に分けることができ、土器型式的に古墳時代前期前葉後半頃から後葉まで存続した集落であることがわかった。また、住居構造と土器型式の間にある程度の相関関係があることも理解することができた。ただし、その相関関係はあくまで住居跡の構造的・現象的な側面と土器型式をある程度意図的に配した結果でしかなく、集落の変遷過程を理解する上での一応の手助けとはなったが、他遺跡での検証を経ないことにはその有効性は確認できないであろう。他にも土器型式的な時間枠としては無理に細分化しすぎた点、各時期の転機に明確な根拠を見いだせてはいない点、住居構造的・現象的側面と土器型式上の相関関係に不明瞭な点が多々ある点、参考文献で述べられている時期差と確実な整合性がとれていないことなど未検討・未解決の問題点がまだ多い。今後は、第258図にある千葉市域の古墳時代前期遺跡の状況を踏まえ、遺跡相互の対応関係を把握した後に、当該期における住居跡の構造的な共通性や地域的な傾向の分析などを試みてみたい。

主要参考文献
大村　直　1994「戸張一番割遺跡の甕形」『史館25』史館同人
2004「久ヶ原式・山田橋式の構成原理」『史館33』史館同人
小沢　洋他　1996「君津地域における弥生後期～古墳前期土器の土器編年」『研究紀要Ⅶ』財団法人君津郡市文化財センター
加藤修司　2001「土器編年案」『研究紀要21－房総地方における前期古墳の展開』財団法人千葉県文化財センター
2004「草刈遺跡土器編年の検証」『研究紀要４』財団法人印旛郡市文化財センター
高花宏行　2001「印旛地域における古墳時代開始期の土器様相」『研究紀要２』財団法人印旛郡市文化財センター
比田井克仁　1987「南関東の北陸系土器について」『古代83』早稲田大学考古学会
1995「下総地域の主体性」『法政考古学21』法政考古学会
栗田則久　2006「流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書１－流山市野谷宮尻遺跡－」財団法人千葉県教育振興財団
西村　歩他　2006「和泉地域」『古式土師器の年代学』財団法人大阪府文化財センター
利根川章彦　1999「北陸系装飾器台の系譜についての小論」『研究紀要第15号』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

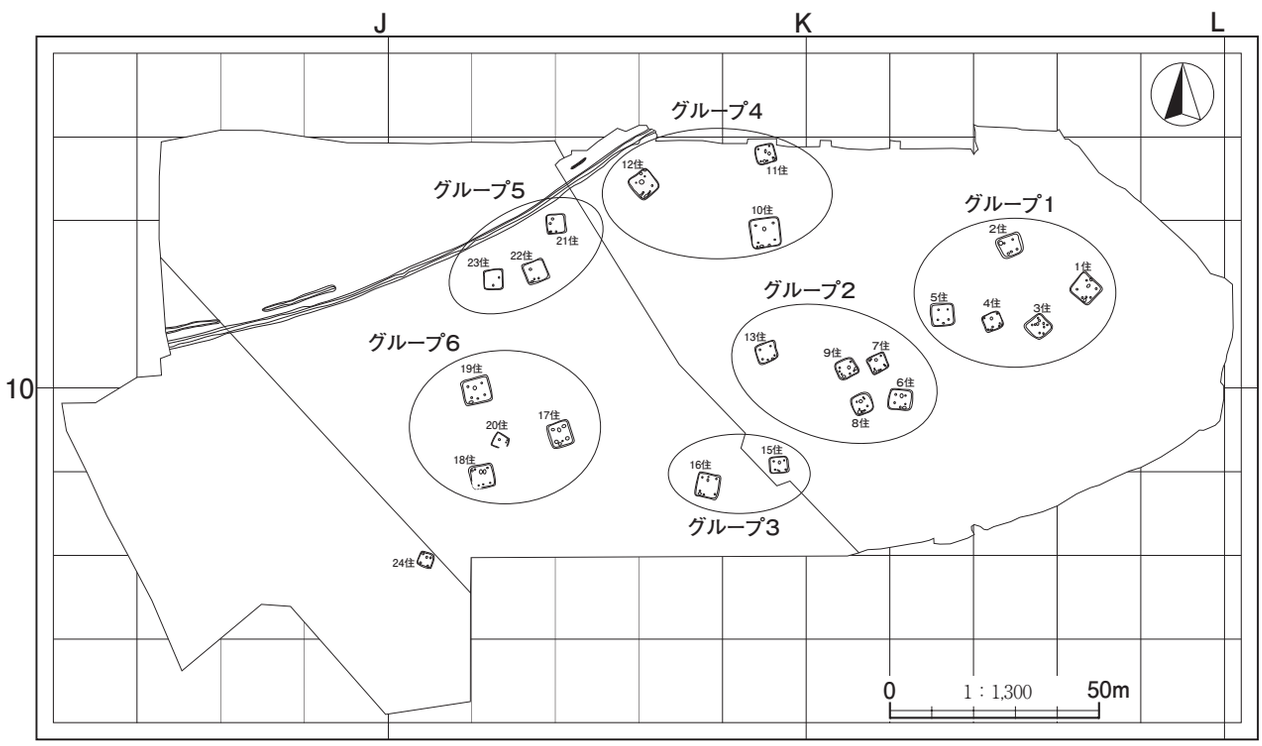
第56表　上谷津第１遺跡検出住居跡の変遷過程対応表

	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	Ⅴ期	Ⅵ期
グループ１			５住（主）	４住（炭）		
				３住（炭）	１住（炭）	２住（炭）
グループ２			６住（主）	７住（炭）	８住	13住
				９住（炭）		
グループ３			16住	15住（溝・炭）		
グループ４		12旧住（主・溝）	12新住（主・溝・炭）		10住（主・溝・炭）	11住（炭）
グループ５	23住（無）	（20住（無））	21住（無・溝）	22住（無・溝・炭）		
グループ６	19住（主・溝）	17住（主・溝）	18住（溝）			
			24住			
印旛沼編年案	Ⅱ期	Ⅲa期			Ⅲb期	

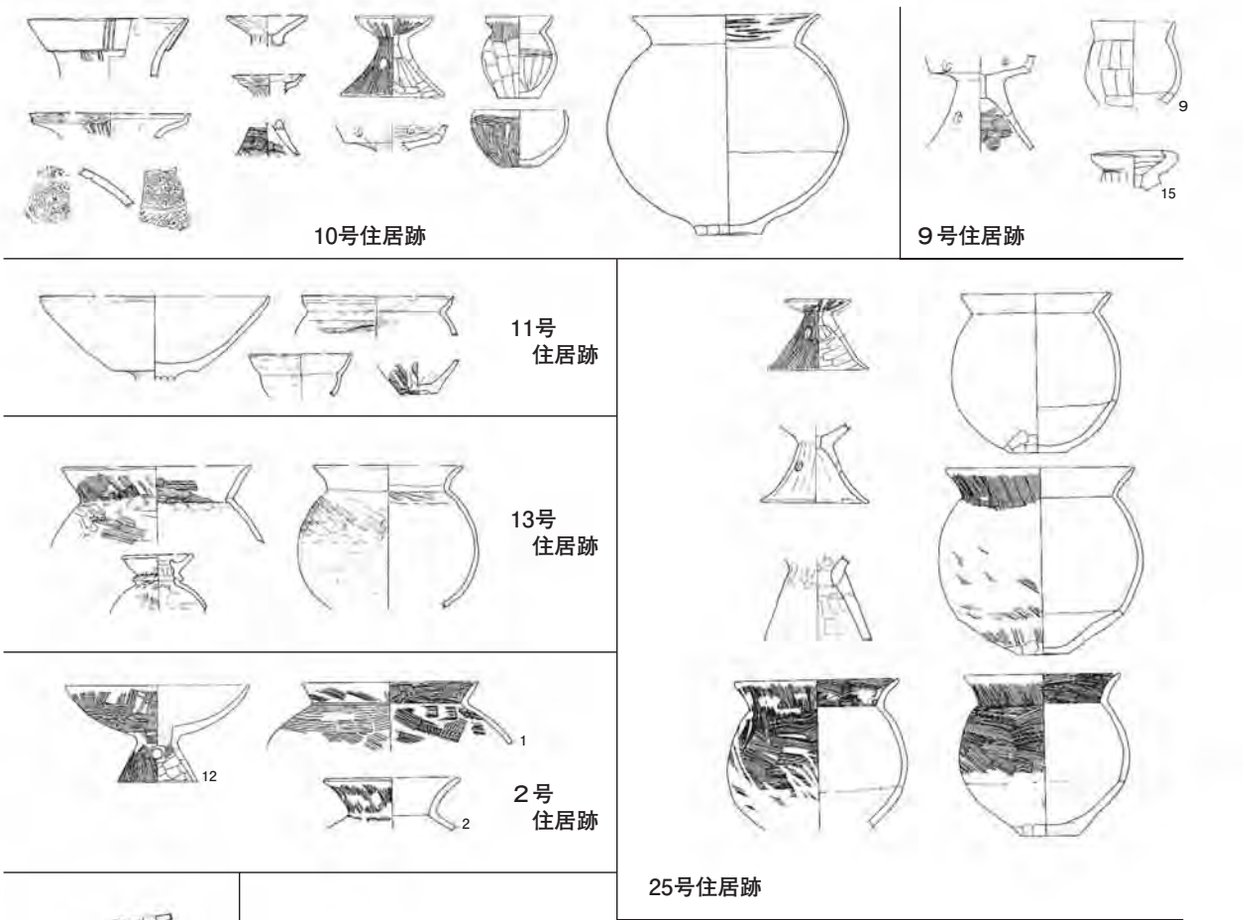
主：主柱穴が深い住居跡（５・６・10・12旧･新・17･19住）　溝：壁溝がある住居跡（10・12旧･新・15・18・21・22住）
炭：炭化物・焼土などの焼失家屋の可能性がある住居跡（２～４・７・９・10～12・15・22住）　無：主柱穴がない住居跡（20～23住）



第255図　古墳時代前期住居跡時期別配置図



第256図　古墳時代前期住居跡グループ別変遷過程関係図

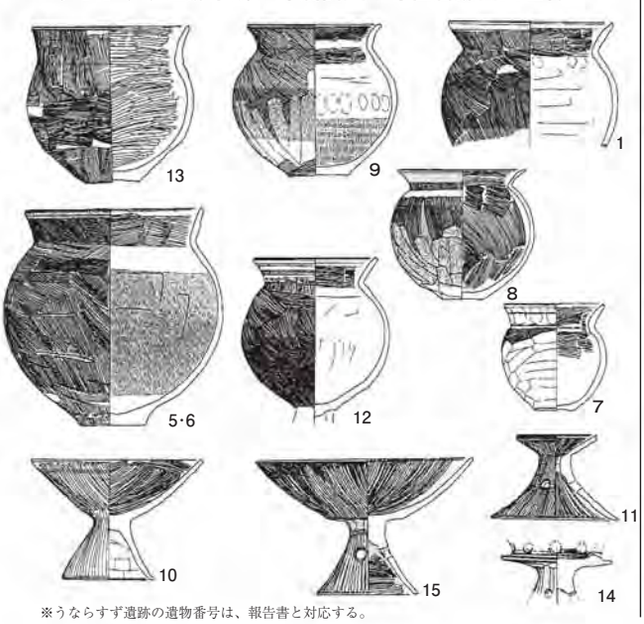


※器台の中に脚部に横方向のハケ調整を施すものが本例と10住である。

※駒形遺跡は昭和57年に発掘調査が実施され、昭和59年に報告書が刊行されている。しかし、出土遺物の一部を掲載しているものの、多くが未公表であった。今回、北陸系装飾器台の集成を行うにあたり、未公表資料の再実測を一部行ったのでここに掲載する。

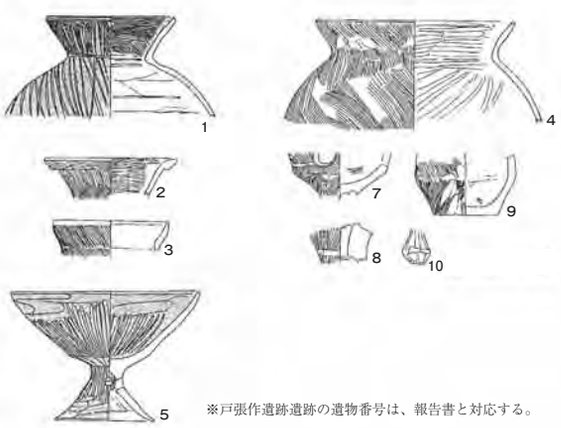
上：駒形遺跡出土遺物

うならすず遺跡平成12年度調査１号住居跡出土遺物



※うならすず遺跡の遺物番号は、報告書と対応する。

戸張作遺跡102号住居跡出土遺物



※戸張作遺跡遺跡の遺物番号は、報告書と対応する。

※スケールは1/8で統一している。

0 10cm

第257図　千葉市域における北陸系装飾器台出土遺跡の供伴資料

器種の消長関係

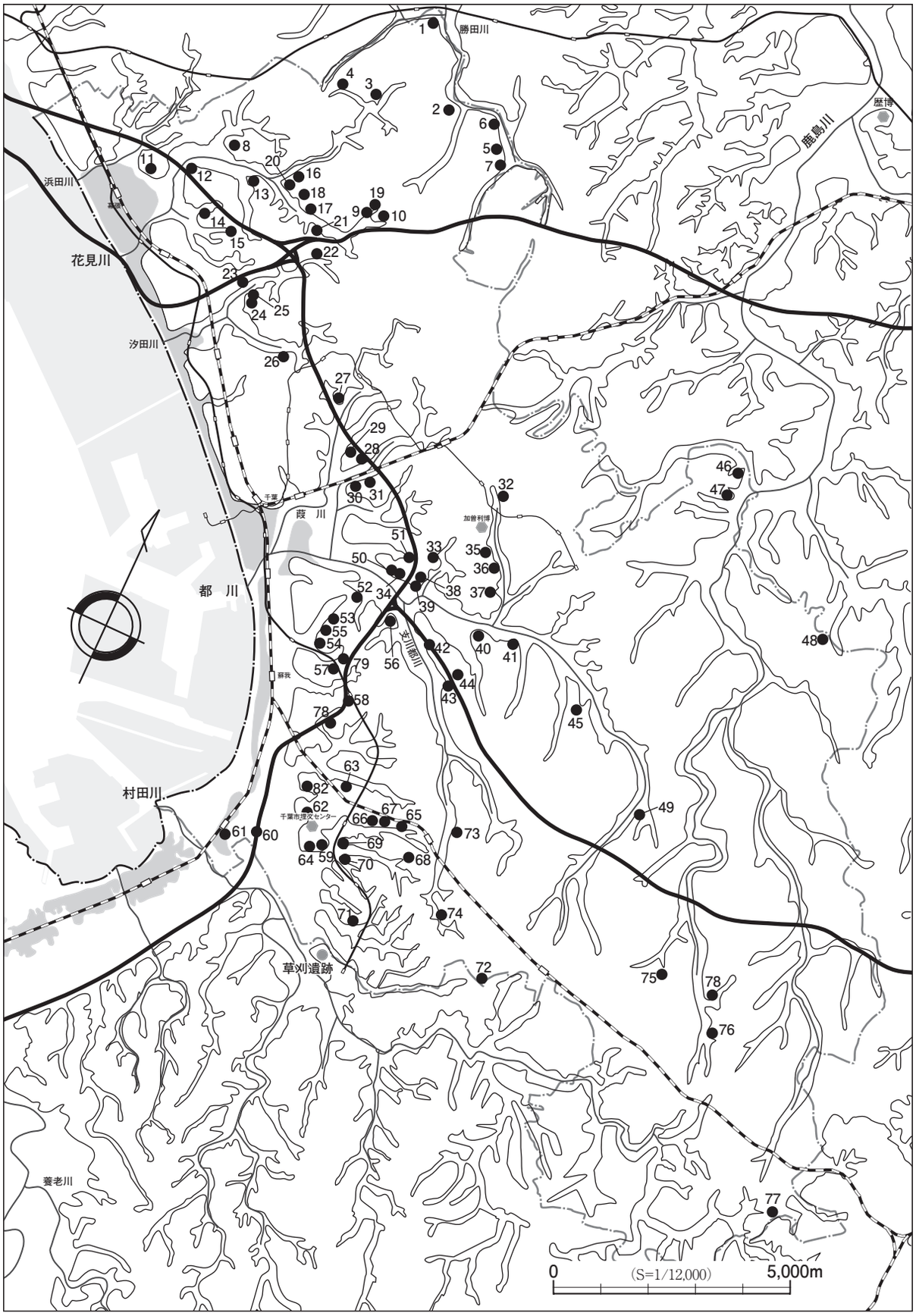
※各期は、印旛沼編年案			Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲa期	Ⅲb期	Ⅳ期	備考
甕A（ナデ）	刻	1	●					緩
		2		●				屈
		3		△	△	△		緩
	素	4						屈
		5						内彎
甕B（ナデ多段）	刻	1						緩
		2	△	△				屈
	素	3	△	△				屈
甕C（ハケ）	刻	1						緩
		2		●				屈
		3	△	△	●	●	●	屈
	素	4						緩
		5						内彎
甕D（ナデ台付）（東京湾西岸系）	刻	1	△					緩
		2						屈
	素	3						屈
甕E（ナデ多段台付）（東京湾西岸系）	刻	1	?	?				緩
		2	?	?				屈
	素	3	?	?				屈
甕F（ハケ台付）（南武蔵・多摩　地域系）	刻	1	●	△				緩
		2		●				屈
	素	3		●	?			屈
		4						緩
甕G（ハケ多段台付）（東京湾西岸系の一時期）	刻	1						緩
		2		△				屈
	素	3		△				屈
甕（ケズリ）						△	△	
甕（球形化）			△	△	○			
甕（長胴化）						△	△	
小型甕	ハケ	1	?	?	?	?	?	
	ナデ	2	?	?	?	?	?	
装飾壺A	S結帯縄	1	●	●				
		2	●	●				
装飾壺B	鋸歯綾銷	1	●	●				
		2	●	●				
装飾壺C	網縄		●	●				
複合口縁壺	無文	1				○	○	
	有段	2				○	○	
有段口縁壺	大型				△			
素口縁壺			△	○	○			

●：主体的に存在　○：確実に存在　△：客体的に存在

※器形の細分案は印旛沼編年案に沿うが、一部改変した部分もある。			Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲa期	Ⅲb期	Ⅳ期	備考
小型壺	複合		△	△	△	△	△	
	素		△	△	△	△	△	
有稜高杯	A	深	○			?		
	B	浅		○	○	△		
無稜高坏			○	○	△	○	○	
	脚部短形化		△	△	△	△	○	
柱状脚高杯	中実						○	
	中空						○	
小型高杯	A	有稜	△	△	△	△		
	B	無稜	○	○	○	△		
器台	A		○					直線的
	B	1		○	○	○		受部直線
		2		○	○	○		受部内湾
	C					○		つまみ上げ・稜
	D						○	X字形
異形器台	（常総系）			○	○	○		炉器台
小型丸底壺		1				○	○	典型
		2				○	○	口縁発達
		3				○	○	直口縁・球胴
		4				○	○	直口縁・扁平胴
		5				○	○	鉢状
大型坩						○	○	
甑		1				○	○	複合口縁
		2				○	○	半球
鉢		1	○	○	○	○		半球
		2	○	○	○	○		Ⅲ
椀		1						半球
		2						Ⅲ
ミニチュア土器	精製							
	粗製							
東海系			△	○	△			
北陸系			△	○	△			
畿内系			△	○	△			
近江系			△	○	△			
常陸系			△	○	△			
東京湾東岸	（大村）		TB2a	TB2b	TE1a	TE1b	TE2	
君津			Ⅴ	Ⅵ	Ⅶa	Ⅶb	Ⅷ	
草刈	（加藤）		Ⅰ（前）	Ⅰ（後）	Ⅱ（前）	Ⅱ（後）	Ⅲ	
南武蔵	（比田井）		Ⅰ古	Ⅰ新	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	
濃尾平野			週間Ⅰ新	週間Ⅱ	週間Ⅲ	週間Ⅲ	松河戸古	
畿内			庄内Ⅰ～Ⅱ	庄内Ⅲ～Ⅳ	布留0～Ⅰ	布留0～Ⅰ	布留Ⅱ～Ⅲ	

他地域との併行関係

下泉	印旛沼編年案（高花）		東京湾東岸地域（大村）		草刈遺跡編年案（加藤）		君津郡市		武蔵地域（比田井）		下総（加藤）				古墳編年	濃尾平野	畿内
	Ⅰ期	・元屋敷系高坏の出現 ・小形器台の出現	TB2a式	・元屋敷系高坏の出現 ・小形器台（非定形）の出現	草刈Ⅰ期前半	・東海西部系等の土器の波及 ・小形品の出現	Ⅴ期	・元屋敷系高坏の波及 ・壺転用器台 ・地域ごとに外来系土器に流入差 ・（一部で小型器台波及）	Ⅰ段階古相	・元屋敷系高坏の出現 ・小形器台の出現	阿玉台北1期				出現期	週間Ⅰ新	庄内Ⅰ～Ⅱ
Ⅰ期	Ⅱ期	・輪積口縁甕の消滅	TB2b式	・定形化した小形器台 ・戸張形甕	草刈Ⅰ期後半	・小形器台の出現 ・元屋敷系高坏の出現 ・有段口縁壺の搬入	Ⅵ期	・北部で輪積口縁甕消滅 ・炉器台出現	Ⅰ段階新相前半	・在地性要素の減少 ・台付甕に単口縁が出現	阿玉台北2期	諏訪原1期				週間Ⅱ	庄内Ⅲ～Ⅳ
						・有段口縁壺（無文）の定着											
Ⅱ	Ⅲa期	・小形坩の出現 ・有段口縁壺の無文化	TE1a式	・小形鉢（小形坩の祖元）の出現	草刈Ⅱ期前半	・小形鉢（小形坩の祖元）の出現 ・多様化した小形器台 ・輪積痕の残存（南部）			Ⅰ段階新相後半			諏訪原2期	公津原1期	戸張作1期			
Ⅲ																	
Ⅳ	Ⅲb期	・元屋敷系高坏の消滅？ ・柱状脚高坏の出現？	TE1b式	・定形化した小形坩の出現 ・甕の斉一化（千葉形五領甕） ・台付甕の残存（下総）	草刈Ⅱ期後半	・定形化した小形坩の出現 ・坏状小形坩の出現	Ⅶa期	・有段（二重）口縁壺出現 ・小型坩の出現 ・小形器台の普遍化 ・ハケメ甕の主体化 ・S字甕の出現	Ⅱ段階	・定形化した小形坩の出現 ・台付甕の消滅（上総）	阿玉台北3期				前期	週間Ⅲ	布留0～Ⅰ
V							Ⅶb期	・小形坩の盛行									
Ⅵ						・元屋敷系高坏の消滅											
	Ⅳ期	・柱状脚高坏の出現 ・元屋敷系高坏の消滅 ・小形器台の消滅	TE2式	・柱状脚高坏の出現 ・元屋敷系高坏の消滅 ・小形器台の消滅	草刈Ⅲ期	・柱状脚高坏の出現 ・小形器台・小形坩の消滅	Ⅷ期	・柱状脚高坏の出現	Ⅲ段階	・柱状脚高坏の出現 ・元屋敷系高坏の消滅 ・小形器台の消滅			公津原2期	戸張作2期	中期	松河戸古	布留Ⅱ～Ⅲ
					和泉式	・甕の長胴化 ・坏の出現 ・韓式系高坏の出現								戸張作		…松河戸	



第258図　千葉市域における古墳時代前期遺跡分布図

第57表　千葉市域の古墳時代前期遺跡一覧

No.	遺跡名	遺跡登録No.	遺構					外来系遺物				遺物のみ	時期					備考
			住居跡	土坑	古墳			東海系			北陸系		～初頭	前半	中頃	後半	終末～	
					前方後円	円墳	方墳	S字甕	有段口縁	甕・壺								
1	高台向遺跡	花見川区　1										○						
2	上台遺跡	花見川区　5										○						
3	宮付遺跡	花見川区　7										○						
4	沢向南遺跡	花見川区　18										○						
5	内野第１遺跡	花見川区　23	311			2	14	○					△	○	○	○	○	報告書刊行済・遺物未掲載
6	内野第２遺跡	花見川区　24										○						
7	こてはし台北遺跡	花見川区　25										○						
8	坊辺田遺跡	花見川区　37										○						
9	子和清水西遺跡	花見川区　51										○						
10	子和清水遺跡	花見川区　52										○						
11	武石遺跡	花見川区　71										○						
12	宮脇遺跡	花見川区　77	3					○	○					△	○			
13	次山遺跡	花見川区　83										○						
14	上鶴牧遺跡	花見川区　93	1														○	
15	箕輪遺跡	花見川区　100	9					○	○	○					○	○		
16	内野山遺跡	花見川区　108										○						
17	米之内遺跡	花見川区　109										○						
18	西妻遺跡	花見川区　110										○						
19	筵辺北遺跡	花見川区　114										○						
20	内野山南遺跡	花見川区　117										○						
21	本郷向遺跡	花見川区　124	4											△	○	○		5住(特異な広口壺？)
22	房地遺跡	稲毛区　16	1				1							○				
23	牛尾桝遺跡	稲毛区　21	25										○	○	○	○	△	
24	東ノ上貝塚	稲毛区　22										○						
25	小仲台Ａ遺跡	稲毛区　23	1														○	
26	狐塚遺跡	稲毛区　39	9										○					報告書未刊行
27	踏形遺跡	稲毛区　72					1	○										
28	石神遺跡	若葉区　22	34					○	○				○	○	○	○	○	
29	戸張作遺跡	若葉区　27	65	3			4	○	○	○	○							
30	南台遺跡	若葉区　51										○						
31	高品城跡	若葉区　57	9					○						○	○	△		
32	木山遺跡	若葉区　110										○						
33	立木南遺跡	若葉区　127	4													△	○	
34	和田前西遺跡	若葉区　134										○						
35	古山遺跡	若葉区　135	12										○			△	○	
36	若郷遺跡	若葉区　137	1														○	
37	永作遺跡	若葉区　140										○						
38	田向南遺跡	若葉区　151	15										○	○	○			
39	和田前遺跡	若葉区　153	○															
40	瀧ノ谷遺跡	若葉区　176										○						
41	太田向阿弥陀遺跡	若葉区　179										○						
42	聖天遺跡	若葉区　180										○						
43	坊屋敷遺跡	若葉区　198	1														△	
44	栄福寺遺跡	若葉区　200										○						
45	うならすず遺跡	若葉区　206	7	1							○		△	○	○			
46	新小橋遺跡	若葉区　271										○						
47	免谷津遺跡	若葉区　274	2							○				○	△			
48	上谷津第１遺跡	若葉区　307	23								○			○	○	○		
49	駒込遺跡	若葉区　460	22					○	○		○			○	○	○		
50	御所ヶ原郭遺跡	中央区　17										○						
51	蛤谷津上遺跡	中央区　18	2												△	○		
52	矢作三山塚遺跡	中央区　21										○						
53	荒久遺跡	中央区　28	○										○					
54	中野台遺跡	中央区　31	37										○	○	○	○	○	
55	地蔵山遺跡	中央区　40	1										○					
56	星久喜遺跡	中央区　45	15	1			2						○	○	○	△		
57	大北遺跡	中央区　54	1										○					
58	大森第１遺跡	中央区　64	2					○								○	○	
59	松原東遺跡	中央区　73										○						
60	古市場（１）遺跡	中央区　108										○						
61	村田服部遺跡	中央区　111										○						
62	大覚寺山古墳	中央区　126			1													後円部電探済（粘土槨？）
63	種ヶ谷津遺跡	中央区　130	1												○	△		
64	東堀遺跡	中央区　133										○						
65	高沢遺跡	緑区　1										○						
66	鎌取場台遺跡	緑区　5	9										○					
67	南二重堀遺跡	緑区　10	27				2						○	○	○			
68	馬ノ口遺跡	緑区　12	12				3						○	○	○			
69	城ノ台遺跡	緑区　14	5												△	○	○	
70	椎名崎遺跡	緑区　18					1							○				
71	富岡古墳群	緑区　33				1	2											
72	大膳野東第２遺跡	緑区　54										○						
73	清水作遺跡	緑区　110	2															
74	白鳥台第１遺跡	緑区　181										○						
75	樹木山遺跡	緑区　209										○						
76	古台遺跡	緑区　241	4													○		
77	辰ヶ台遺跡	緑区　339	1														△	
78	向ェ遺跡	緑区　202	2													○		
79	西花遺跡	中央区　74	1												○			
80	宮崎第１遺跡	中央区　56	4												○	○		
81	城の腰遺跡	若葉区　175	9								○			○	○	△		
82	生実城跡	中央区　123						○				○				△		
			694	5	1	3	30											

附編　千葉市下泉町遺跡群、芳賀輪遺跡、うならすず遺跡出土黒耀石の原産地推定

二宮修治・伊東　聡・佐藤香子・松崎広子・新免歳靖

1. はじめに

本研究は、財団法人千葉市教育振興財団による受託試験研究「千葉市下泉町遺跡群出土石材の産地同定分析」（平成18年度）にもとづく研究報告である。本受託研究の目的は、千葉市内下泉町遺跡群出土黒耀石等の石材の原産地推定を行い、遺物の移動からみる交流状況を復元することにある。ここでは、下泉町遺跡群６遺跡（明神台遺跡、端山越遺跡、大草台古墳群、上谷津第１遺跡、上谷津第２遺跡、井戸作南遺跡）に加え、千葉市内の芳賀輪遺跡、うならすず遺跡から出土した黒耀石についても原産地推定を行い、千葉市内の遺跡より出土した黒耀石の原産地に関する分析データの蓄積を図るものである。

千葉市周辺の黒耀石の原産地としては、高原山（栃木県塩谷郡）、信州地域の星ケ塔（長野県諏訪郡）、小深沢に代表される和田峠周辺（長野県小県郡）、男女倉（長野県小県郡）、麦草峠（長野県南佐久郡）、神津島（東京都神津島村）、箱根・畑宿（神奈川県足柄上郡）、伊豆・柏峠（静岡県四方郡）などが知られており、地域や文化層ごとにその使用頻度が大きく異なることが多くの研究者により報告されている。これまでの、千葉市内遺跡出土黒耀石の原産地推定に関する研究は、縄文時代文化層を中心に青沼道文ら（2001）、建石徹・二宮修治（2005）による報告がある。一方、柴田徹・山本薫（2000）は、関東地方における縄文時代中期の石材の利用に関する研究を市町村単位ごとの黒耀石やチャートの占有率から石材の流通経路を想定しており、縄文時代中期の南関東地域のおける神津島産黒耀石での流通経路を考察している。この研究によれば、二つの経路、一つは神奈川県から東京都に向かう‘西まわり経路’と、もう一つは千葉県域を北上する‘東まわり経路’の二者がある可能性が指摘されている。

本研究では、これらの成果を踏まえて、千葉市内の遺跡より出土した黒耀石についてエネルギー分散型蛍光X線分析装置を用いて、非破壊分析による原産地推定を行った。その結果にもとづき、千葉市下泉町遺跡群、芳賀輪遺跡、うならすず遺跡より出土した黒耀石の原産地について報告する。

2. 分析資料

本研究に供した下泉町遺跡群（千葉市若葉区下泉町）遺跡出土黒耀石資料241点を第１表に、芳賀輪遺跡（千葉市若葉区野呂町・古泉町）出土黒耀石資料47点、うならすず遺跡（千葉市若葉区多田町）出土黒耀石108点、計155点を第２表に示す。ここでは、後述する蛍光Ｘ線分析の結果と推定された原産地も示してある。

3. 遺跡出土黒耀石の原産地推定

３－１　蛍光Ｘ線分析

分析に用いた蛍光Ｘ線分析装置は、セイコー電子工業（現在はエスアイアイナノテクノロジー）製エネルギー分散型蛍光X線分析装置（卓上型エレメントモニター）SEA2001である。分析条件は、以

下の通りである。

分析条件（エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置SEA2001）

Ｘ線管（Rh）　電圧 　　電流	50kV １～63μＡ（デットタイムが15％位になるように調整）
X線照射径	３mmΦ
測定試料室雰囲気	大　気
測定時間	100秒間
蛍光X線測定システム	Si半導体検出器－マルチチャンネル波高分析装置
定量計算	測定成分を100とするファンダメンタル・パラメータ法

測定する黒耀石資料を設置する試料ホルダーの照射穴は10mmΦであり、それ以下の小片資料については、マイラー・フィルム用専用ホルダーを用いた。

測定した元素は、黒耀石の主成分元素である鉄（Fe)、カルシウム（Ca)、カリウム（K）の３元素と、それら主成分元素との関係が深い微量成分元素の組み合わせであるマンガン（Mn)、ストロンチウム（Sr)、ルビジウム（Rb）の３元素、計６元素である。K、Rbはアルカリ金属元素、Ca、Srは、アルカリ土類金属元素とよばれ、特に、長石属鉱物（斜長石、アルカリ長石など）の生成に伴い、それらの挙動が注目される元素群である。とりわけ、マグマ中での結晶分化作用の後期の情報を読み取ることができる。一方、Fe、Mnは第一遷移系列元素に属し、マグマの中では２価として存在し、鉄－マグネシウム（Mg）鉱物（カンラン石、輝石など）中に許容されて取り込まれるために、マグマ中の結晶分化作用の初期の情報を反映しているといわれている。一般に、化学組成の表記は、岩石学の通例に従って酸化物（MnO、Fe_2O_3、SrO、CaO、Rb_2O、K_2O）で表記される。

測定にあたっては、黒耀石資料の水和面や顆粒の部分をできるだけは避け、①普通の大きさの資料では測定ポイントの異なる箇所を選び、②10mm程度の大きさの資料、および、③10mm以下でマイラー･フィルムフォルダーを用いての測定が可能な小片資料（表中では、マイラーとして○印で表記）の場合には表面と裏面とその資料設置位置の移動が可能な限り測定箇所を選定し、３箇所以上の測定を行った。変動の少ない３箇所の測定結果の平均値を分析値とした。

３－２　データ解析

SPSS 13.0J for Windowsを用い、統計解析、多変量解析（主にクラスター分析）による検討を中心に、原産地から採取された黒耀石を遺跡出土黒耀石と同一方法による分析により得られた測定結果との対比により原産地推定を行った。

4. 結果および考察

４－１　遺跡黒耀石資料の蛍光X線分析

蛍光X線分析による下泉町遺跡群６遺跡出土黒耀石資料241点（明神台遺跡96点、端山越遺跡９点、大草台古墳群13点、上谷津第１遺跡17点、上谷津第２遺跡96点、井戸作遺跡10点）の６元素の分析結果を第１表、芳賀輪遺跡出土黒耀石資料47点、うならすず遺跡出土黒耀石資料108点の分析結果を第２

表に示した。6酸化物の存在量比を示す数値は、6酸化物の合計を100とするファンダメンタル･パラメータ法により補正された定量結果である。一般に示される濃度を表す百分率（%）とは異なる性質の数値である。さらに、表中には、前述の分析資料でも述べたように本研究での検討により推定された原産地の最終的結果も併記してある。

4－2　SPSSによる統計解析、多変量解析

本研究に供した遺跡出土黒耀石資料の分類と原産地推定を目的として、6酸化物（MnO、Fe_2O_3、SrO、CaO、Rb_2O、K_2O）を変数とするクラスター分析を下泉町遺跡群（第1表)、芳賀輪遺跡、うならすず遺跡（第2表）出土黒耀石について行った。

クラスター分析は、SPSS 13.0J for Windowsの分類メニュー、階層クラスターサブメニューにより、上記6酸化物の濃度比（6酸化物の総和を100として得られた数値）を変数とし、Z得点で標準化した値に変換し、平方ユークリッド距離を用い、Ward法によりクラスター化する手順で行った。

ここでは、以下に示す千葉市周辺に存在する原産地黒耀石を加えて行ったクラスター分析の結果をデンドログラム（樹形図）として、第1－1～1－5図に示す。

本研究で用いた原産地黒耀石の6元素の酸化物の濃度比（6酸化物の総和を100とする）

		MnO	Fe_2O_3	SrO	CaO	Rb_2O	K_2O
高原山	栃木県塩谷郡	1.3	56.6	0.8	16.5	0.8	24.0
星ケ塔	長野県諏訪郡	3.4	32.1	0.3	9.9	1.1	54.2
小深沢（和田峠）	長野県小県郡	4.2	32.8	0.0	10.2	2.4	50.4
神津島	東京都神津島村	3.3	39.8	0.8	13.6	0.7	42.0
柏　峠	静岡県四方郡	1.1	58.0	0.9	25.0	0.2	15.0

下泉町遺跡群出土黒耀石（第1－1～－3右側中央）では、星ケ塔を含むクラスター（資料番号007～107)、小深沢を含むクラスター（153－5～198)、高原山と柏峠とからなるクラスター（119～093)、神津島を含むクラスター（133～163)、の4群に分類された。

芳賀輪遺跡出土黒耀石（第1－3右側中央～－4左側中央）では、神津島を含むクラスター（322～342)、高原山と柏峠とからなるクラスター（304、320)、小深沢を含むクラスター（335、337)、星ケ塔を含むクラスター（337～315)、の4群に分類された。

うならすず遺跡出土黒耀石（第1－4左側中央～－5左側）では、星ケ塔を含むクラスター（449－1～390－2)、小深沢を含むクラスター（411～374)、神津島を含むクラスター（418～427)、高原山と柏峠とからなるクラスター（432)、の4群に分類された。

下泉町遺跡群、芳賀輪遺跡、うならすず遺跡出土黒耀石のいずれも、星ケ塔、小深沢、神津島を含むクラスターに明確に分類されたが、高原山と柏峠に関しては3ケースとも同一のクラスターを形成しており、この方法では両者の分類には至らなかった。そのため、それぞれのケースで高原山、柏峠と同一のクラスターを形成した22資料についてのみのクラスター分析を行った。ここでは、先の原産地を加えたクラスター分析の結果を樹形図として第1－5図右側に示す。

同一クラスターを形成した22資料は、高原山を含むクラスター（116～432）、柏峠を含むクラスター（119～320）、高原山、柏峠とは別の独立したクラスター（093）の３群に大別された。

これらのクラスター分析の結果から、下泉町遺跡群、芳賀輪遺跡、うならすず遺跡出土黒耀石の原産地として、クラスターに分類され対応した原産地を、それぞれの遺跡出土黒耀石の暫定的原産地とした。なお、高原山、柏峠とは独立したクラスターを形成した資料番号093（明神台遺跡出土）資料は、原産地未定とした。

４－３　原産地推定結果の評価

クラスター分析により分類された原産地について、さらに、SPSSの箱ひげ図、２成分散布図を用いて、推定原産地の評価を行った。

最初に、下泉町遺跡群、芳賀輪遺跡、うならすず遺跡出土黒耀石資料396点について、６種類の酸化物ごとに、箱ひげ図を作製し、各原産地ごとの分散の様子、原産地間の重なりについて検討した。得られた箱ひげ図を第２図に示す。エラーバーから外れた資料に対して資料番号が表記されている。それらの資料を酸化物ごとにまとめると以下のようになる。表中のアンダーラインはエラーバーより小さい濃度比をもつ資料として区別した。また（　）内の135は133との重なりで番号が重なりによるもので第２図に現れていない。

箱ひげ図でエラーバーから外れた黒耀石資料

原産地	高原山	小深沢	神津島	星ケ塔	柏　峠
資料数	15片	41片	102片	231片	6片
MnO		101,198	133,（135）	032,071,313,448	
Fe_2O_3	118,432		135,137,159,203,317	097,104-1,104-2,134,174,369,371	320
SrO	211,432	154	133,203,418	020,134	
CaO	118		135		304
Rb_2O	098	139	135,203,348	071,134,329	
K_2O	432		136-2,137,161,203	315,371,439	320

特に、エラーバーからのズレが著しいものは、神津島に分類されている135と203の２資料であった。両者とも主成分３元素（Fe、Ca、K）の値が大きく異なっているが、いずれも、小片資料でマイラーフィルムを用いての測定を行ったものである。

次に、原産地間の相互識別の検討を目的として、２成分の散布図による考察を行った。その一例として、Fe_2O_3 - K_2O、CaO - K_2O、Fe_2O_3 - Rb_2O、CaO - Rb_2O、K_2O - Rb_2O、SrO - Rb_2Oの場合について第３図に示す。これらの組み合わせから、原産地間の識別分類が可能であることを読み取ることができた。特に、本研究の場合には、SrO - Rb_2O、K_2O - Rb_2O、Fe_2O_3 - Rb_2Oが有効であった。また、神津島と星ケ塔の識別において、微妙に分布が重なる資料が存在しているが、いずれの資料とも元素の組み合わせによりいずれかに帰属されている。

４－４　原産地推定のまとめ

箱ひげ図、２成分散布図による検討により、先に述べたクラスター分析による暫定的原産地推定の結果との整合性が認められ、原産地として判定することとした。原産地ごとに、それぞれ、第３、４表に示す。

以上の結果、下泉町遺跡群、芳賀輪遺跡、うならすず遺跡出土黒耀石資料396点の原産地推定の結果、093（原産地未定）の資料を除く395点は、いずれも、星ケ塔、小深沢（和田峠）、神津島、柏峠、高原山のいずれかと推定された。遺跡と原産地との関係を第５表にまとめて示す（下泉町遺跡群としての原産地ごとの和として総数も示してある）。

遺跡ごとに文化層に違いがあること、また、分析に供した黒耀石の大きさや重量に大きな違いがあることなどから、第５表をもとに、単純に下泉町遺跡群、芳賀輪遺跡、うならすず遺跡の特徴を見出すことには問題があり、詳細な議論は避けるべきであろう。

但し、興味深い結果としては、例えば、下泉町遺跡群の中でも、明神台遺跡と上谷津第２遺跡では、前者が、ほぼ、星ケ塔産黒耀石であるのに対し、後者は、神津島産黒耀石が半数以上占め、信州（星ケ塔と小深沢）産の使用も少なくないなどの顕著な違いが認められている。また、芳賀輪遺跡とうならすず遺跡を比較すると前者が神津島産、後者が星ケ塔産の出土例が多い。

さらに、同地域および周辺地域の遺跡から出土する黒耀石に対する系統的な原産地推定のデータの蓄積が望まれる。

謝辞

本研究の機会を与えていただきました千葉市教育振興財団の皆様に感謝申し上げます。また、多くの教示、ご協力を賜りました千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センター長原亘氏、千葉市教育委員会森本剛氏に深く感謝いたします。

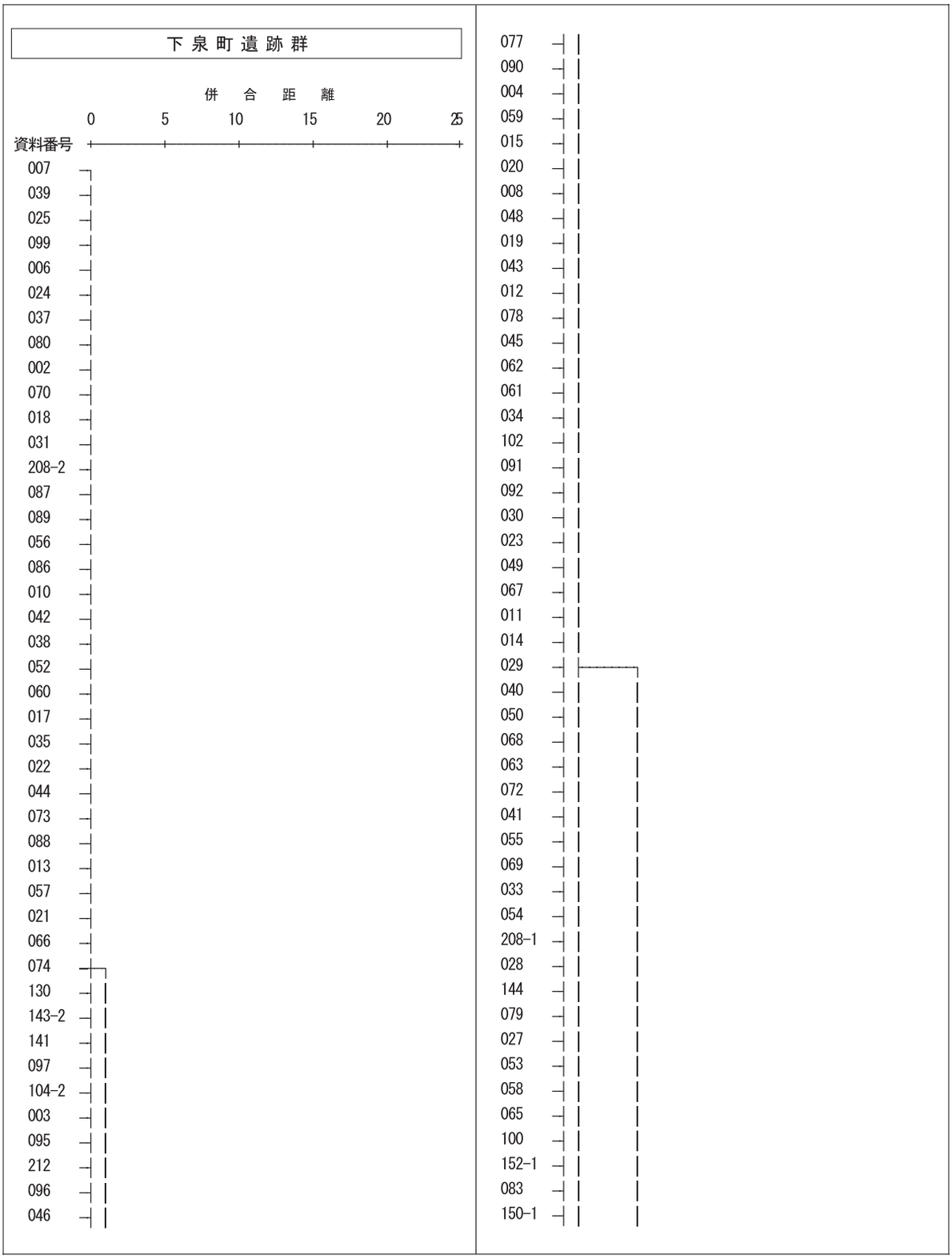
参考文献

青沼道文・建石　徹・古谷　渉・森本　剛（2001）「千葉市縄文時代中期遺跡出土黒耀石の原産地推定」
貝塚博物館紀要　第28号　pp.42～71

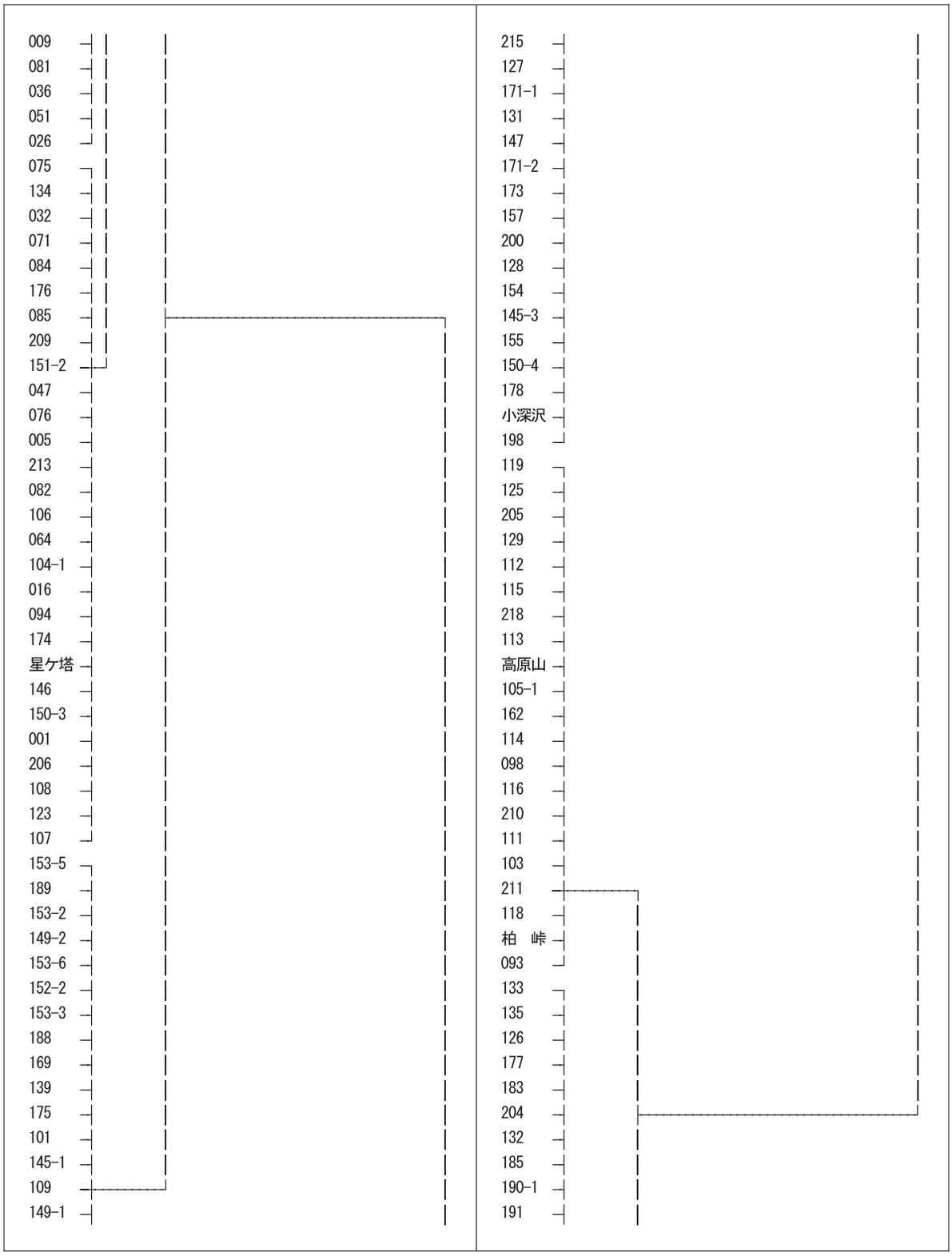
建石　徹・二宮修治（2005）「加曽利北貝塚出土黒耀石の原産地推定」
貝塚博物館紀要　第32号　pp.19～29

柴田　徹・山本　薫（2000）「石鏃に使用された石材の石質組成に関する研究－黒耀石およびチャートの移動方向についての考察－」日本考古学協会第66回総会 研究発表要旨集　日本考古学協会

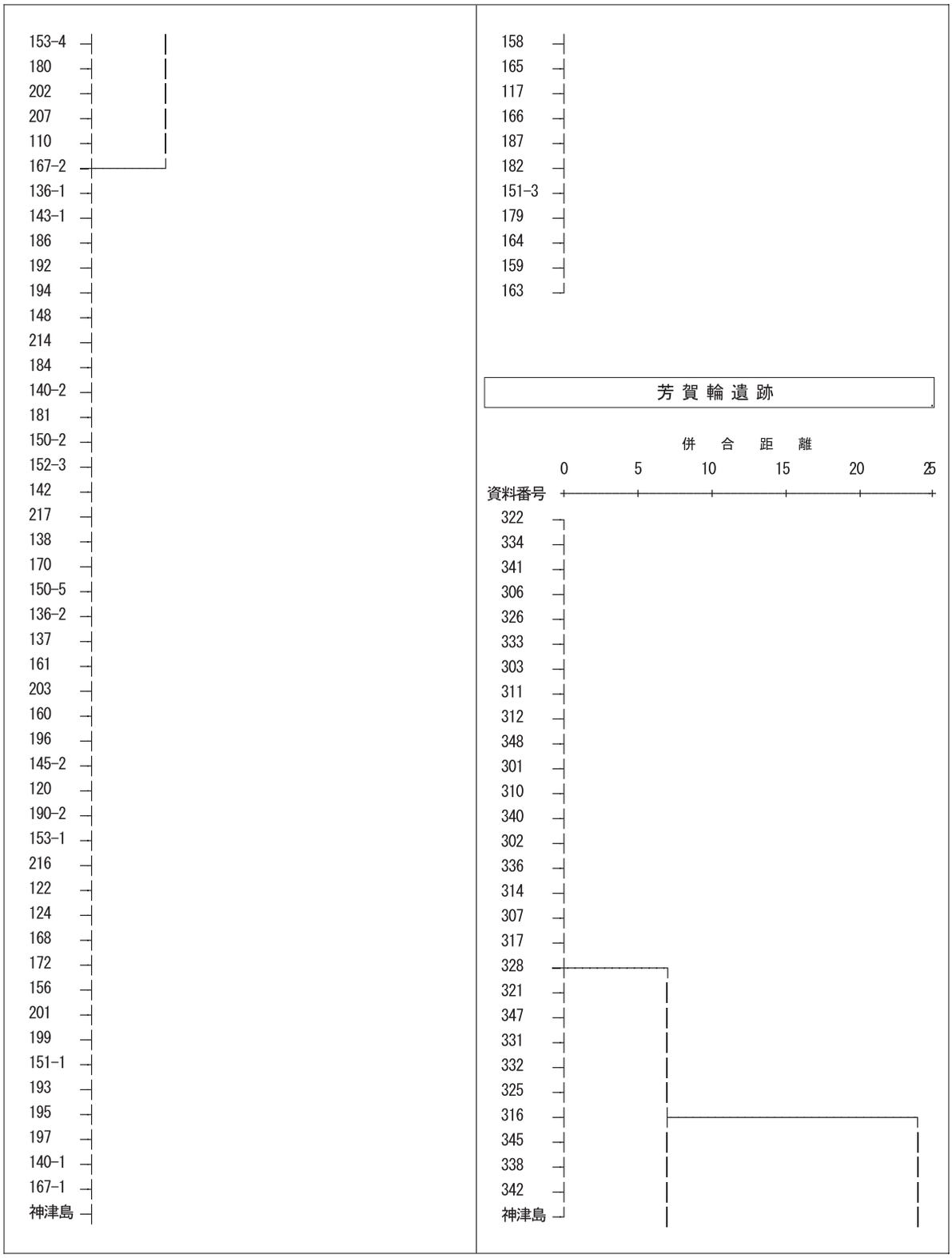
二宮修治・伊東　聡・佐藤香子・松崎広子（東京学芸大学文化財科学研究室）
新免歳靖（総合研究大学院大学）



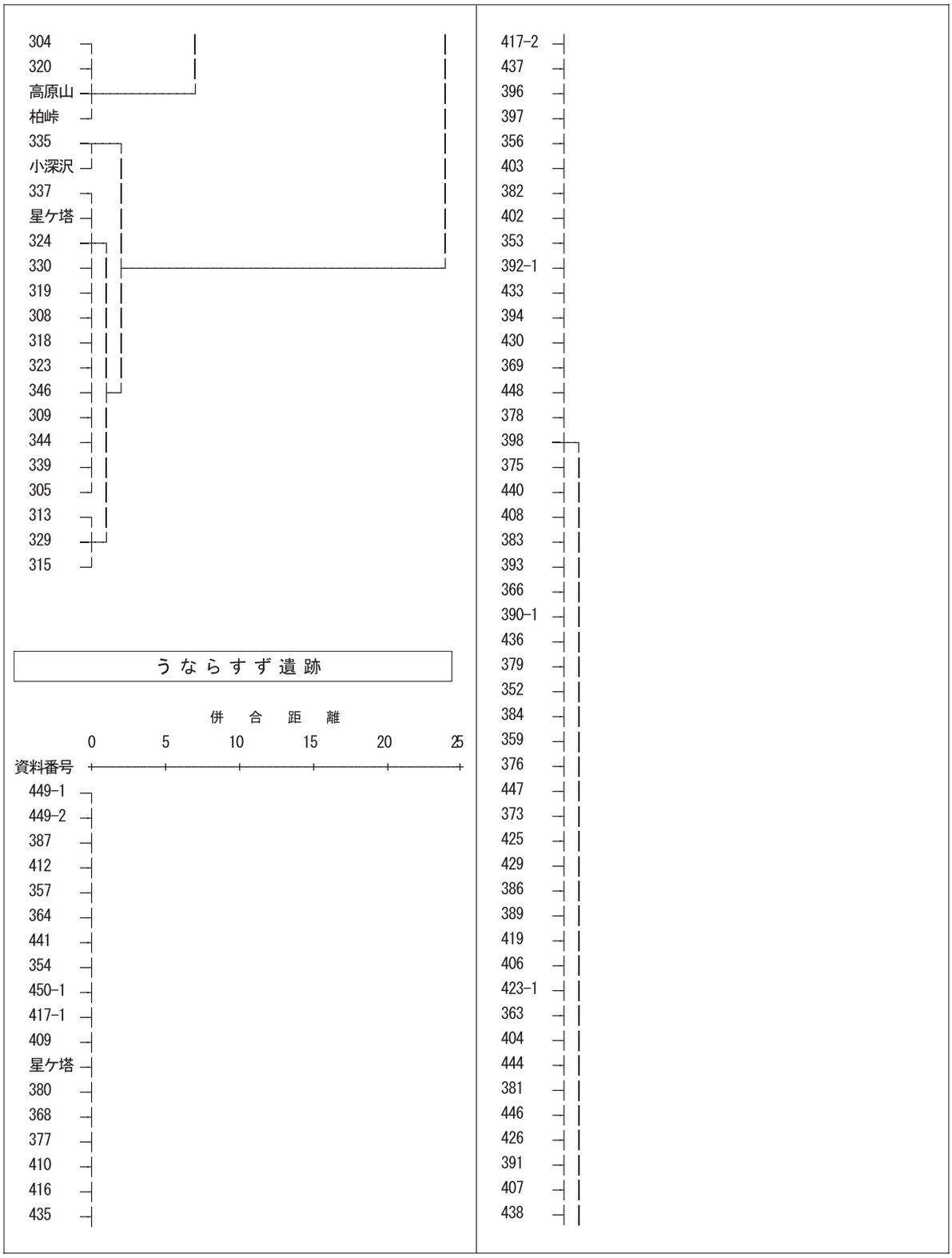
第１－１図　クラスター分析による原産地推定（下泉町遺跡群出土黒耀石）変数：６元素の酸化物



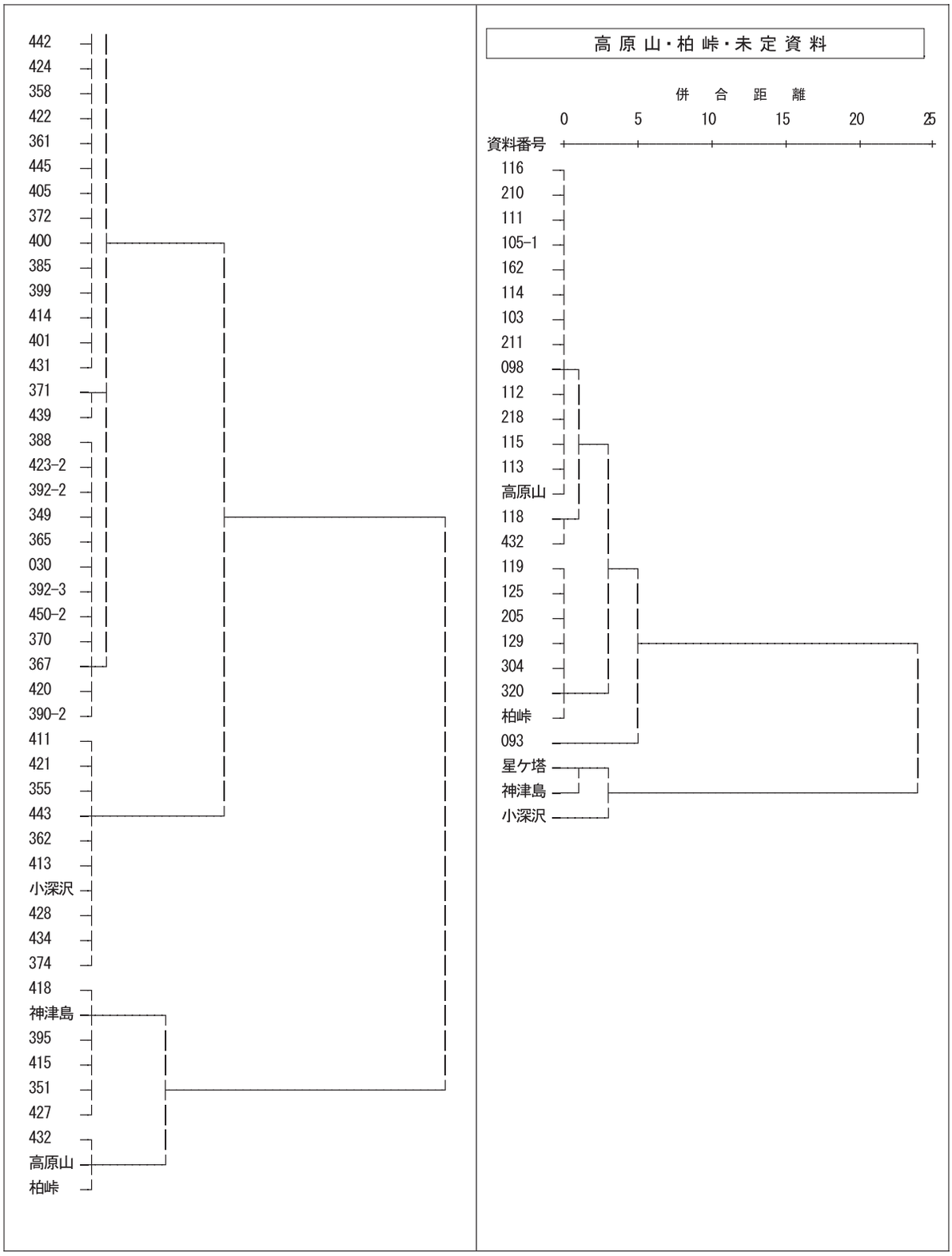
第１－２図　クラスター分析による原産地推定(下泉町遺跡群出土黒耀石 続き)　変数：６元素の酸化物



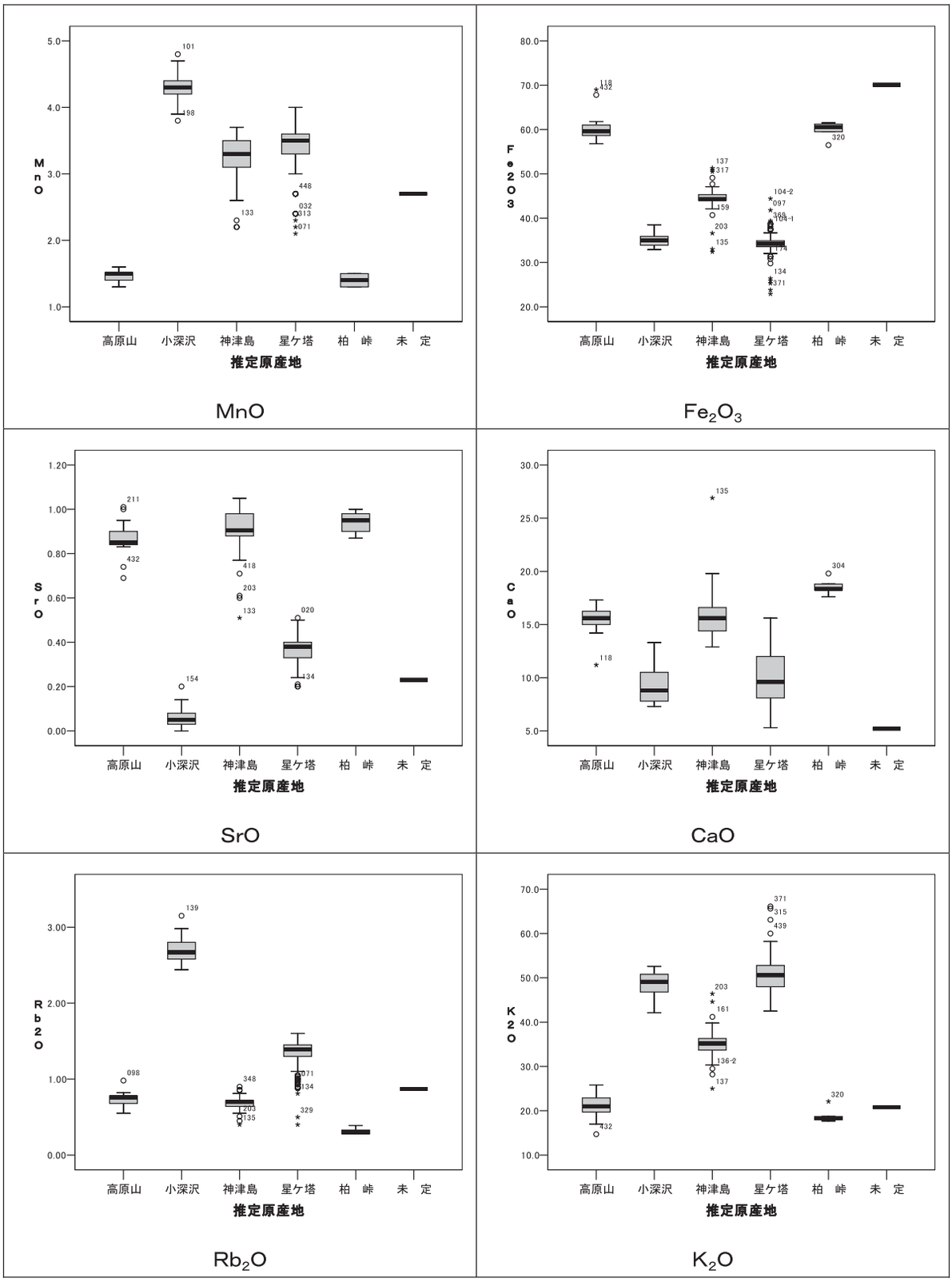
第1－3図 クラスター分析による原産地推定(下泉町遺跡群出土黒耀石 続き,芳賀輪遺跡出土黒耀石) 変数:6元素の酸化物



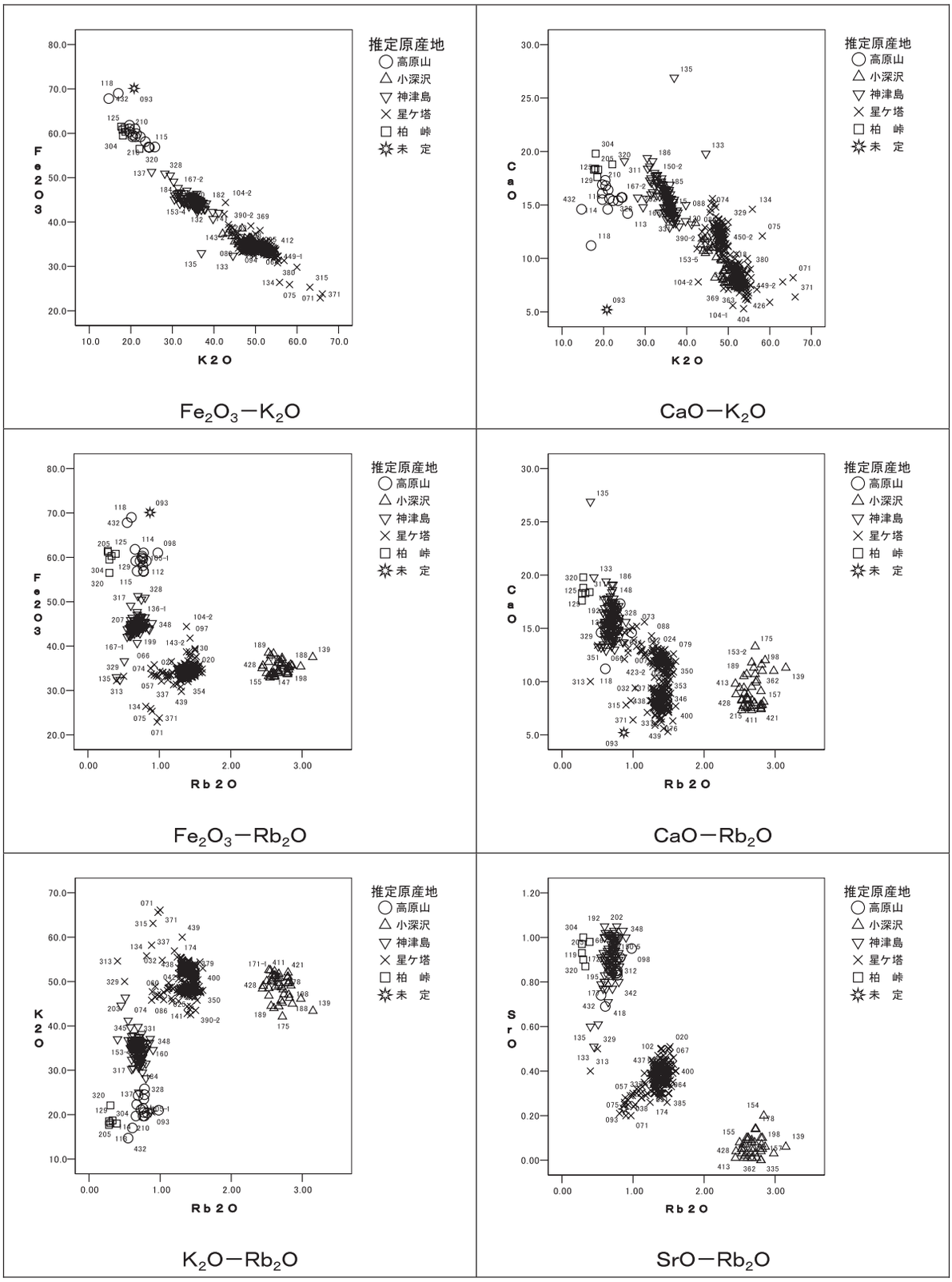
第１－４図 クラスター分析による原産地推定(芳賀輪遺跡出土黒耀石 続き,うならすず遺跡出土黒耀石) 変数:６元素の酸化物



第１－５図 クラスター分析による原産地推定(うならすず遺跡出土黒耀石 続き,高原山･柏峠･未定資料) 変数:６元素の酸化物



第２図　箱ひげ図（SPSS）：下泉町遺跡群・芳賀輪遺跡・うならすず遺跡出土黒耀石



第３図　散布図（SPSS）：下泉町遺跡群・芳賀輪遺跡・うならすず遺跡出土黒耀石

第１表　下泉町遺跡群出土黒曜石の蛍光X線分析結果と推定原産地一覧表

資料№	遺跡名	調査区		遺構名	時代・時期	型式	備考	マイラー	MnO	Fe_2O_3	SrO	CaO	Rb_2O	K_2O	推定原産地
001	明神台遺跡	4H	64c	17土	縄文・中期	加EⅡ-Ⅲ			3.4	34.3	0.36	8.4	1.31	52.1	星ケ塔
002	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.6	32.8	0.41	13.3	1.32	48.6	星ケ塔
003	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.4	34.0	0.41	10.3	1.45	50.4	星ケ塔
004	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.8	34.1	0.45	10.8	1.42	49.4	星ケ塔
005	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ			3.6	34.1	0.41	7.5	1.39	52.9	星ケ塔
006	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.6	34.1	0.32	12.9	1.30	47.7	星ケ塔
007	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.7	33.6	0.36	12.9	1.27	48.2	星ケ塔
008	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.8	33.8	0.42	12.2	1.33	48.5	星ケ塔
009	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.6	35.0	0.33	11.7	1.54	47.8	星ケ塔
010	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.6	33.5	0.30	12.9	1.11	48.5	星ケ塔
011	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.5	37.6	0.48	11.1	1.52	45.8	星ケ塔
012	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	4.0	34.7	0.39	11.9	1.39	47.6	星ケ塔
013	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.5	33.3	0.29	14.8	0.96	47.0	星ケ塔
014	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.4	35.9	0.46	10.9	1.57	47.8	星ケ塔
015	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.7	34.0	0.41	11.3	1.36	49.2	星ケ塔
016	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.1	35.3	0.41	10.7	1.55	48.9	星ケ塔
017	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.7	32.4	0.28	12.8	1.12	49.7	星ケ塔
018	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.7	34.6	0.34	11.7	1.28	48.4	星ケ塔
019	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.8	34.8	0.49	12.8	1.42	46.6	星ケ塔
020	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.6	34.8	0.51	10.2	1.52	49.3	星ケ塔
021	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.5	34.3	0.24	13.9	1.01	47.0	星ケ塔
022	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.8	33.7	0.28	13.6	0.89	47.7	星ケ塔
023	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.6	35.7	0.43	11.0	1.47	47.7	星ケ塔
024	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.6	34.2	0.35	13.1	1.35	47.4	星ケ塔
025	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.7	34.3	0.37	13.1	1.27	47.3	星ケ塔
026	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.2	33.0	0.34	12.5	1.46	49.5	星ケ塔
027	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.4	33.6	0.41	12.4	1.34	48.8	星ケ塔
028	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.6	33.6	0.41	12.3	1.38	48.7	星ケ塔
029	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.4	34.1	0.38	11.4	1.35	49.4	星ケ塔
030	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.5	34.4	0.45	11.8	1.46	48.3	星ケ塔
031	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.7	35.0	0.35	11.8	1.35	47.8	星ケ塔
032	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	2.4	32.1	0.25	9.4	1.03	54.8	星ケ塔
033	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.6	34.0	0.37	12.7	1.35	48.0	星ケ塔
034	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.3	34.9	0.44	11.4	1.28	48.7	星ケ塔
035	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.6	33.5	0.27	12.7	0.93	48.9	星ケ塔
036	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.3	34.7	0.31	12.0	1.37	48.3	星ケ塔
037	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.7	34.4	0.37	12.4	1.32	47.8	星ケ塔
038	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.5	33.1	0.28	13.5	1.12	48.5	星ケ塔
039	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.7	33.8	0.34	13.0	1.29	48.0	星ケ塔
040	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.5	33.7	0.43	11.2	1.35	49.9	星ケ塔
041	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.5	34.7	0.41	12.3	1.40	47.7	星ケ塔
042	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.5	33.4	0.33	13.0	1.13	48.7	星ケ塔
043	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.7	34.2	0.50	12.3	1.39	47.9	星ケ塔
044	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.3	33.4	0.35	15.6	1.16	46.2	星ケ塔
045	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.8	35.0	0.43	11.8	1.53	47.5	星ケ塔
046	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.6	35.7	0.38	10.9	1.49	47.9	星ケ塔
047	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ			3.2	34.7	0.30	7.1	1.42	53.3	星ケ塔
048	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.8	34.7	0.44	12.2	1.38	47.4	星ケ塔
049	明神台遺跡	4H	88a･c	4住	縄文・中期	加EⅣ		○	3.6	35.0	0.45	11.5	1.43	48.0	星ケ塔
050	明神台遺跡	4H	78b		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.6	34.3	0.41	12.0	1.29	48.4	星ケ塔
051	明神台遺跡	4H	78b		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.3	34.8	0.32	11.1	1.41	49.0	星ケ塔
052	明神台遺跡	4H	78b		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.7	33.9	0.32	12.9	1.10	48.0	星ケ塔
053	明神台遺跡	4H	78b		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.4	33.9	0.43	12.0	1.35	48.9	星ケ塔
054	明神台遺跡	4H	78b		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.6	34.2	0.38	12.5	1.43	47.9	星ケ塔
055	明神台遺跡	4H	78b		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.5	34.4	0.40	12.6	1.37	47.6	星ケ塔
056	明神台遺跡	4H	78b		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.6	33.5	0.39	12.5	1.16	48.8	星ケ塔
057	明神台遺跡	4H	78b		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.7	33.2	0.29	15.1	0.99	46.7	星ケ塔
058	明神台遺跡	4H	78b		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.4	34.6	0.43	12.2	1.38	47.9	星ケ塔
059	明神台遺跡	4H	78b		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.7	34.8	0.43	10.8	1.49	48.8	星ケ塔
060	明神台遺跡	4H	78b		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.7	34.0	0.30	13.3	1.05	47.6	星ケ塔
061	明神台遺跡	4H	78b		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.8	34.8	0.35	11.5	1.56	48.0	星ケ塔
062	明神台遺跡	4H	78b		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.7	34.6	0.40	11.5	1.48	48.3	星ケ塔
063	明神台遺跡	4H	78b		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.6	35.2	0.43	12.1	1.35	47.3	星ケ塔
064	明神台遺跡	4H	78b		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.4	33.4	0.34	7.4	1.49	54.0	星ケ塔
065	明神台遺跡	4H	78b		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.5	34.6	0.46	12.8	1.38	47.3	星ケ塔
066	明神台遺跡	4H	78d		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.5	35.8	0.25	13.1	0.93	46.5	星ケ塔
067	明神台遺跡	4H	78d		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.5	35.3	0.45	11.5	1.53	47.6	星ケ塔
068	明神台遺跡	4H	78d		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.6	34.3	0.39	11.7	1.38	48.6	星ケ塔
069	明神台遺跡	4H	78d		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.5	35.4	0.37	12.4	1.38	47.0	星ケ塔
070	明神台遺跡	4H	78d		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.5	33.5	0.39	13.7	1.29	47.7	星ケ塔
071	明神台遺跡	4H	78d		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	2.1	22.9	0.20	8.2	0.97	65.6	星ケ塔
072	明神台遺跡	4H	78d		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.5	34.8	0.39	11.9	1.24	48.1	星ケ塔
073	明神台遺跡	4H	78d		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.4	34.1	0.32	15.2	1.05	45.9	星ケ塔
074	明神台遺跡	4H	88a		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.4	35.0	0.26	14.6	0.88	45.8	星ケ塔
075	明神台遺跡	4H	88a		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	2.7	25.9	0.25	12.1	0.88	58.2	星ケ塔
076	明神台遺跡	4H	88a		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近		3.5	34.5	0.29	6.5	1.38	53.9	星ケ塔
077	明神台遺跡	4H	88a		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.6	36.1	0.38	10.7	1.46	47.8	星ケ塔
078	明神台遺跡	4H	88a		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.9	35.2	0.35	11.7	1.35	47.5	星ケ塔
079	明神台遺跡	4H	88a		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.6	34.3	0.43	12.6	1.57	47.5	星ケ塔
080	明神台遺跡	4H	88a		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.6	34.4	0.38	12.7	1.26	47.6	星ケ塔
081	明神台遺跡	4H	88a		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.5	35.7	0.37	11.3	1.47	47.6	星ケ塔
082	明神台遺跡	4H	88a		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近		3.5	34.4	0.36	7.3	1.33	53.1	星ケ塔
083	明神台遺跡	4H	88b		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近		3.5	35.9	0.35	12.2	1.49	46.5	星ケ塔

資料№	遺跡名	調査区		遺構名	時代・時期	型式	備考	マイラー	MnO	Fe_2O_3	SrO	CaO	Rb_2O	K_2O	推定原産地
084	明神台遺跡	4H	88b		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近		3.7	33.4	0.33	7.8	1.37	53.3	星ケ塔
085	明神台遺跡	4H	88c		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近		3.7	33.9	0.39	8.2	1.45	52.4	星ケ塔
086	明神台遺跡	4H	88c		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.7	36.5	0.34	12.7	1.17	45.6	星ケ塔
087	明神台遺跡	4H	88c		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.6	34.1	0.29	12.4	1.18	48.4	星ケ塔
088	明神台遺跡	4H	88c		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.4	35.1	0.31	14.3	1.26	45.6	星ケ塔
089	明神台遺跡	4H	88c		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.5	34.3	0.30	11.9	1.31	48.6	星ケ塔
090	明神台遺跡	4H	88c		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.7	35.8	0.35	10.8	1.47	47.9	星ケ塔
091	明神台遺跡	4H	88c		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.5	35.3	0.41	11.7	1.43	47.7	星ケ塔
092	明神台遺跡	4H	88c		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	3.5	34.8	0.42	11.7	1.41	48.2	星ケ塔
093	明神台遺跡	4H	88c		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近	○	2.7	70.1	0.23	5.2	0.87	20.8	未　定
094	明神台遺跡	4H	88d		縄文？	（加EⅣ？）	4住付近		3.0	33.6	0.36	10.0	1.45	51.6	星ケ塔
095	明神台遺跡	4H	98c		縄文？		26土付近		3.5	34.0	0.40	9.7	1.48	50.9	星ケ塔
096	明神台遺跡	5H	73a		縄文？		20土付近		3.7	35.1	0.36	8.9	1.53	50.4	星ケ塔
097	端山越遺跡	3B	59d						3.0	41.8	0.34	10.9	1.43	42.5	星ケ塔
098	端山越遺跡	4B	77b						1.5	61.0	0.95	14.6	0.98	21.0	高原山
099	端山越遺跡	4B	77b					○	3.8	34.2	0.37	13.1	1.35	47.2	星ケ塔
100	端山越遺跡	4B	77b					○	3.5	34.2	0.44	12.5	1.33	48.1	星ケ塔
101	端山越遺跡	4B	77b						4.8	33.7	0.05	7.7	2.79	50.9	小深沢
102	端山越遺跡	4B	77b					○	3.3	36.1	0.47	11.3	1.35	47.4	星ケ塔
103	端山越遺跡	4B	77b						1.4	61.0	1.00	16.1	0.78	19.7	高原山
104-1	端山越遺跡	4C	84d						3.4	38.1	0.36	5.6	1.43	51.1	星ケ塔
104-2	端山越遺跡	4C	84d					○	3.3	44.4	0.35	7.8	1.38	42.8	星ケ塔
105-1	大草台古墳群	7G	17	1古	旧石器？		97-B調査区	○	1.4	59.9	0.89	15.6	0.76	21.4	高原山
106	大草台古墳群	8F	14	2古			96-Ⅱ調査区		3.4	33.6	0.38	7.6	1.30	53.7	星ケ塔
107	大草台古墳群	8F	14	2古			96-Ⅱ調査区		3.2	35.8	0.39	7.9	1.50	51.1	星ケ塔
108	大草台古墳群	8F	14	2古			96-Ⅱ調査区		3.3	34.2	0.30	8.1	1.39	52.7	星ケ塔
109	大草台古墳群	8F	7	3古			96-Ⅱ調査区		4.4	33.2	0.05	7.3	2.53	52.6	小深沢
110	大草台古墳群	7F	10	4古			98-B調査区	○	3.2	46.5	0.93	17.1	0.80	31.5	神津島
111	大草台古墳群	7G	16b	Ⅰ地点	旧石器？		96-Ⅰ調査区	○	1.4	59.2	0.91	17.3	0.82	20.4	高原山
112	大草台古墳群	7G	16d	Ⅰ地点	旧石器？		96-Ⅰ調査区		1.4	56.8	0.85	15.7	0.78	24.5	高原山
113	大草台古墳群	7G	16d	Ⅰ地点	旧石器？		96-Ⅰ調査区		1.5	56.9	0.83	14.2	0.78	25.8	高原山
114	大草台古墳群	7G	16d	Ⅰ地点	旧石器？		96-Ⅰ調査区	○	1.4	61.8	0.84	15.5	0.66	19.7	高原山
115	大草台古墳群	7G	16d	Ⅰ地点	旧石器？		96-Ⅰ調査区	○	1.5	56.9	0.85	15.7	0.69	24.3	高原山
116	大草台古墳群	7G	28a	Ⅰ地点	旧石器？		96-Ⅰ調査区	○	1.5	59.6	0.84	16.8	0.77	20.5	高原山
117	大草台古墳群	7G	33c				96-Ⅰ調査区		3.0	44.9	1.02	14.3	0.65	36.2	神津島
118	上谷津第1遺跡	9J	86	10住	縄文？	加EⅣ？	14住付近		1.5	69.0	0.69	11.2	0.61	17.0	高原山
119	上谷津第1遺跡	9J	86	10住	縄文？	加EⅣ？	14住付近		1.3	61.5	0.97	18.3	0.28	17.7	柏　峠
120	上谷津第1遺跡	9K	47b·d	2住					3.4	44.1	0.88	14.8	0.64	36.1	神津島
122	上谷津第1遺跡	10j	2a						3.4	47.1	0.97	14.3	0.69	33.5	神津島
123	上谷津第1遺跡	10j	6						3.2	34.5	0.28	8.8	1.38	51.8	星ケ塔
124	上谷津第1遺跡	10j	71a						3.3	46.1	0.97	13.7	0.72	35.1	神津島
125	上谷津第1遺跡	10j	71a						1.4	61.2	0.93	17.6	0.28	18.5	柏　峠
126	上谷津第1遺跡	10K	1b						3.3	44.1	0.77	16.9	0.71	34.3	神津島
127	上谷津第1遺跡	9J	69b						4.4	33.2	0.10	8.3	2.62	51.3	小深沢
128	上谷津第1遺跡	9J	76c					○	4.0	38.5	0.05	8.2	2.53	46.8	小深沢
129	上谷津第1遺跡	9J	78b						1.5	60.3	0.87	18.3	0.33	18.7	柏　峠
130	上谷津第1遺跡	9J	79c					○	3.4	37.5	0.34	12.9	1.43	44.4	星ケ塔
131	上谷津第1遺跡	9J	80d						4.3	34.0	0.01	8.2	2.68	50.8	小深沢
132	上谷津第1遺跡	9K	47b				2住付近		3.2	43.3	0.95	16.2	0.71	35.7	神津島
133	上谷津第1遺跡	9K	57b						2.3	32.4	0.51	19.8	0.45	44.6	星ケ塔
134	上谷津第1遺跡	9K	60d					○	2.2	26.4	0.21	14.6	0.81	55.8	星ケ塔
135	上谷津第1遺跡						一括	○	2.2	33.0	0.60	26.9	0.40	37.0	星ケ塔
136-1	上谷津第2遺跡	11L	34	10住	縄文・後期	称Ⅰ			3.0	46.5	0.94	15.9	0.75	32.8	神津島
136-2	上谷津第2遺跡	11L	34	10住	縄文・後期	称Ⅰ		○	3.6	50.5	0.88	14.8	0.75	29.5	神津島
137	上谷津第2遺跡	11L	34	10住	縄文・後期	称Ⅰ		○	2.9	51.3	1.01	19.1	0.70	25.0	神津島
138	上谷津第2遺跡	11L	34	10住	縄文・後期	称Ⅰ		○	3.6	44.7	0.94	17.1	0.75	32.9	神津島
139	上谷津第2遺跡	11L	34	10住	縄文・後期	称Ⅰ		○	4.5	37.5	0.06	11.3	3.15	43.4	小深沢
140-1	上谷津第2遺跡	11L	34	10住	縄文・後期	称Ⅰ			3.5	42.9	0.77	14.3	0.62	37.9	神津島
140-2	上谷津第2遺跡	11L	34	10住	縄文・後期	称Ⅰ		○	3.5	46.7	1.00	16.2	0.74	31.8	神津島
141	上谷津第2遺跡	11L	34	10住	縄文・後期	称Ⅰ		○	3.5	38.7	0.40	11.6	1.38	44.4	星ケ塔
142	上谷津第2遺跡	11L	34	10住	縄文・後期	称Ⅰ		○	3.5	45.8	0.89	16.8	0.73	32.3	神津島
143-1	上谷津第2遺跡	11L	34	10住	縄文・後期	称Ⅰ		○	3.5	45.1	0.87	19.4	0.62	30.5	神津島
143-2	上谷津第2遺跡	11L	34	10住	縄文・後期	称Ⅰ		○	3.2	38.7	0.44	12.5	1.42	43.7	星ケ塔
144	上谷津第2遺跡			2住	縄文・前期	茅山下層			3.6	33.7	0.44	12.3	1.43	48.5	星ケ塔
145-1	上谷津第2遺跡			37土	縄文・中期？				4.7	34.3	0.03	7.5	2.66	50.7	小深沢
145-2	上谷津第2遺跡			37土	縄文・中期？				3.4	44.0	0.96	14.6	0.77	36.3	神津島
145-3	上谷津第2遺跡			37土	縄文・中期？				3.9	34.5	0.08	9.5	2.67	49.7	小深沢
146	上谷津第2遺跡			51土	縄文・中期	加EⅣ？			3.4	33.6	0.43	9.3	1.29	51.9	星ケ塔
147	上谷津第2遺跡			59土	縄文・後期	称Ⅰ			4.3	33.8	0.02	8.9	2.57	50.4	小深沢
148	上谷津第2遺跡			59土	縄文・後期	称Ⅰ		○	3.3	44.3	0.98	17.8	0.73	32.9	神津島
149-1	上谷津第2遺跡			63土	縄文・中期	加EⅣ？			4.3	32.9	0.07	7.7	2.55	52.5	小深沢
149-2	上谷津第2遺跡			63土	縄文・中期	加EⅣ？		○	4.5	36.8	0.03	10.7	2.72	45.2	小深沢
150-1	上谷津第2遺跡			6住	縄文・後期	称Ⅰ		○	3.5	35.4	0.34	12.3	1.47	47.0	星ケ塔
150-2	上谷津第2遺跡			6住	縄文・後期	称Ⅰ		○	3.5	44.2	0.92	17.8	0.63	32.9	神津島
150-3	上谷津第2遺跡			6住	縄文・後期	称Ⅰ			3.3	32.6	0.42	9.4	1.29	52.9	星ケ塔
150-4	上谷津第2遺跡			6住	縄文・後期	称Ⅰ			4.0	33.6	0.09	8.4	2.61	51.3	小深沢
150-5	上谷津第2遺跡			6住	縄文・後期	称Ⅰ		○	3.7	44.1	0.92	16.8	0.75	33.8	神津島
151-1	上谷津第2遺跡			6住	縄文・後期	称Ⅰ			3.6	44.3	0.87	13.9	0.68	36.7	神津島
151-2	上谷津第2遺跡			6住	縄文・後期	称Ⅰ			3.6	32.7	0.34	8.2	1.41	53.7	星ケ塔
151-3	上谷津第2遺跡			6住	縄文・後期	称Ⅰ			3.1	44.3	0.87	16.0	0.81	34.9	神津島
152-1	上谷津第2遺跡			7住	縄文・後期	称Ⅰ		○	3.4	35.1	0.44	13.0	1.45	46.6	星ケ塔
152-2	上谷津第2遺跡			7住	縄文・後期	称Ⅰ			4.4	35.5	0.01	10.1	2.74	47.1	小深沢
152-3	上谷津第2遺跡			7住	縄文・後期	称Ⅰ		○	3.5	44.6	0.90	18.0	0.68	32.3	神津島
153-1	上谷津第2遺跡			7住	縄文・後期	称Ⅰ			3.2	44.4	0.83	14.3	0.72	36.5	神津島
153-2	上谷津第2遺跡			7住	縄文・後期	称Ⅰ		○	4.3	36.8	0.09	11.8	2.67	44.4	小深沢

資料№	遺跡名	調査区		遺構名	時代・時期	型式	備考	マイラー	MnO	Fe_2O_3	SrO	CaO	Rb_2O	K_2O	推定原産地
153-3	上谷津第２遺跡			７住	縄文・後期	称Ⅰ		○	4.4	35.3	0.10	11.0	2.82	46.3	小深沢
153-4	上谷津第２遺跡			７住	縄文・後期	称Ⅰ			3.0	44.8	1.01	16.1	0.67	34.4	神津島
153-5	上谷津第２遺跡			７住	縄文・後期	称Ⅰ		○	4.4	38.3	0.03	10.7	2.60	44.0	小深沢
153-6	上谷津第２遺跡			７住	縄文・後期	称Ⅰ		○	4.4	35.9	0.05	11.3	2.70	45.7	小深沢
154	上谷津第２遺跡			７住	縄文・後期	称Ⅰ			3.9	35.8	0.20	8.1	2.84	49.1	小深沢
155	上谷津第２遺跡			９住	縄文・中期	加EⅡ			4.0	33.9	0.08	9.4	2.50	50.1	小深沢
156	上谷津第２遺跡			10住	縄文・後期	称Ⅰ			3.7	45.4	0.97	13.9	0.76	35.3	神津島
157	上谷津第２遺跡	10L	60a						4.2	35.2	0.05	7.8	2.82	50.0	小深沢
158	上谷津第２遺跡	10L	60d						3.1	43.4	1.02	15.6	0.61	36.3	神津島
159	上谷津第２遺跡	10L	70b						2.9	40.7	0.86	15.0	0.69	39.8	神津島
160	上谷津第２遺跡	10L	78d						3.2	44.0	0.91	14.7	0.85	36.2	神津島
161	上谷津第２遺跡	10L	79d						2.2	42.1	0.79	13.2	0.55	41.2	神津島
162	上谷津第２遺跡	10L	80c						1.5	59.2	0.86	15.4	0.67	22.3	高原山
163	上谷津第２遺跡	10L	89d						2.6	43.8	0.91	15.3	0.55	36.8	神津島
164	上谷津第２遺跡	10L	98c						2.9	44.0	0.83	15.0	0.72	36.5	神津島
165	上谷津第２遺跡	10L	99d						3.2	44.4	1.00	14.9	0.69	35.8	神津島
166	上谷津第２遺跡	10L	99d						3.1	45.7	0.95	14.4	0.65	35.2	神津島
167-1	上谷津第２遺跡	10M	9c						3.1	42.3	0.77	13.5	0.58	39.7	神津島
167-2	上谷津第２遺跡	10M	9c						3.3	47.7	0.89	16.0	0.69	31.4	神津島
168	上谷津第２遺跡	10M	10c						3.2	44.4	0.93	13.3	0.70	37.4	神津島
169	上谷津第２遺跡	11K	82c		縄文？	（称Ⅰ？）	12住付近		4.5	35.6	0.06	12.0	2.86	45.0	小深沢
170	上谷津第２遺跡	11K	92d		縄文？	（称Ⅰ？）	11住付近	○	3.6	44.6	0.93	17.4	0.70	32.8	神津島
171-1	上谷津第２遺跡	11L	22a		縄文？	（加EⅡ？）	９住付近		4.5	33.8	0.07	7.5	2.58	51.6	小深沢
171-2	上谷津第２遺跡	11L	22a		縄文？	（加EⅡ？）	９住付近		4.5	35.2	0.10	8.8	2.62	48.8	小深沢
172	上谷津第２遺跡	11L	23b						3.2	46.4	0.91	12.9	0.62	35.9	神津島
173	上谷津第２遺跡	11L	23b						4.5	33.5	0.01	9.4	2.56	50.0	小深沢
174	上谷津第２遺跡	11L	23b						3.5	31.4	0.26	8.2	1.24	55.5	星ケ塔
175	上谷津第２遺跡	11L	23b					○	4.4	37.3	0.14	13.3	2.72	42.1	小深沢
176	上谷津第２遺跡	11L	23b						3.7	34.0	0.37	7.5	1.32	53.1	星ケ塔
177	上谷津第２遺跡	11L	24b		縄文？	（称Ⅰ？）	10住付近	○	3.4	42.3	0.80	16.9	0.60	36.0	神津島
178	上谷津第２遺跡	11L	24b		縄文？	（称Ⅰ？）	10住付近		4.2	34.9	0.14	9.9	2.73	48.2	小深沢
179	上谷津第２遺跡	11L	24d		縄文？	（称Ⅰ？）	10住付近		3.1	44.0	0.84	15.5	0.72	35.8	神津島
180	上谷津第２遺跡	11L	24d		縄文？	（称Ⅰ？）	10住付近		3.0	43.8	1.00	16.0	0.71	35.4	神津島
181	上谷津第２遺跡	11L	25a					○	3.6	45.3	1.00	15.8	0.76	33.5	神津島
182	上谷津第２遺跡	11L	25b		縄文？	（称Ⅰ？）	10住付近		2.8	44.2	0.97	13.0	0.74	38.2	神津島
183	上谷津第２遺跡	11L	25c					○	3.1	44.1	0.94	17.2	0.71	33.9	神津島
184	上谷津第２遺跡	11L	32c					○	3.1	45.5	0.99	18.6	0.71	31.1	神津島
185	上谷津第２遺跡	11L	32c						3.2	44.0	0.92	16.4	0.63	34.8	神津島
186	上谷津第２遺跡	11L	32c					○	3.4	44.1	0.89	19.1	0.72	31.8	神津島
187	上谷津第２遺跡	11L	32c						2.9	44.5	0.94	14.1	0.71	36.8	神津島
188	上谷津第２遺跡	11L	33b		縄文？	（称Ⅰ？）	６住付近	○	4.4	35.4	0.03	11.0	2.98	46.1	小深沢
189	上谷津第２遺跡	11L	33b		縄文？	（称Ⅰ？）	６住付近	○	4.4	37.9	0.05	10.5	2.56	44.5	小深沢
190-1	上谷津第２遺跡	11L	34c		縄文？	（称Ⅰ？）	10住付近		3.4	42.9	0.93	16.0	0.73	36.1	神津島
190-2	上谷津第２遺跡	11L	34c		縄文？	（称Ⅰ？）	10住付近		3.4	44.1	0.85	14.4	0.66	36.6	神津島
191	上谷津第２遺跡	11L	34c		縄文？	（称Ⅰ？）	10住付近		3.3	43.7	0.90	15.6	0.64	35.8	神津島
192	上谷津第２遺跡	11L	35a		縄文？	（称Ⅰ？）	10住付近	○	3.3	44.9	1.05	17.7	0.60	32.4	神津島
193	上谷津第２遺跡	11L	35b		縄文？	（称Ⅰ？）	47土付近		3.7	45.7	0.86	14.3	0.72	34.7	神津島
194	上谷津第２遺跡	11L	42c		縄文？	（称Ⅰ？）	６住付近	○	3.3	45.4	1.01	17.1	0.65	32.6	神津島
195	上谷津第２遺跡	11L	42c		縄文？	（称Ⅰ？）	６住付近		3.6	43.8	0.83	14.9	0.60	36.3	神津島
196	上谷津第２遺跡	11L	43a		縄文？	（称Ⅰ？）	６住付近		3.2	44.1	0.90	14.9	0.69	36.2	神津島
197	上谷津第２遺跡	11L	43b		縄文？	（前期？）	５住付近		3.5	43.2	0.85	15.5	0.68	36.2	神津島
198	上谷津第２遺跡	11L	52c					○	3.8	34.7	0.07	11.6	2.81	47.0	小深沢
199	上谷津第２遺跡	11L	54a						3.6	43.7	1.03	13.7	0.86	37.1	神津島
200	上谷津第２遺跡	11L	65a						4.2	36.2	0.01	7.7	2.67	49.1	小深沢
201	上谷津第２遺跡	11L	81b						3.6	45.3	1.00	14.8	0.78	34.5	神津島
202	上谷津第２遺跡	11L	82a						3.0	44.5	1.05	16.6	0.77	34.1	神津島
203	上谷津第２遺跡	11L	82d					○	2.6	36.6	0.61	13.3	0.51	46.4	神津島
204	上谷津第２遺跡	11L	82d					○	3.3	44.2	0.90	17.0	0.64	33.9	神津島
205	上谷津第２遺跡	11L							1.5	60.8	0.98	18.4	0.39	18.0	柏　峠
206	上谷津第２遺跡	11L							3.5	33.5	0.35	9.0	1.37	52.4	星ケ塔
207	上谷津第２遺跡	11M	2a						2.9	44.1	0.93	16.5	0.58	35.0	神津島
208-1	上谷津第２遺跡	11M	2c					○	3.5	34.0	0.37	12.4	1.47	48.3	星ケ塔
208-2	上谷津第２遺跡	11M	2c					○	3.7	35.5	0.31	12.0	1.32	47.1	星ケ塔
209	井戸作南遺跡	1D	30b						3.8	34.0	0.38	8.0	1.33	52.5	星ケ塔
210	井戸作南遺跡	1D	30d					○	1.5	60.3	0.85	16.9	0.76	19.7	高原山
211	井戸作南遺跡	1D	40d						1.6	59.2	1.01	16.4	0.73	21.1	高原山
212	井戸作南遺跡	1D	80c						3.4	35.6	0.35	9.9	1.49	49.1	星ケ塔
213	井戸作南遺跡	2D	17b						3.6	34.6	0.42	7.2	1.41	52.7	星ケ塔
214	井戸作南遺跡	2D	57b						3.4	45.9	0.96	17.5	0.72	31.4	神津島
215	井戸作南遺跡	2D	74a						4.3	33.1	0.01	7.6	2.61	52.3	小深沢
216	井戸作南遺跡	2D	96b						3.3	45.2	0.87	14.1	0.71	35.8	神津島
217	井戸作南遺跡	2E	6d					○	3.5	46.4	0.91	17.3	0.75	31.1	神津島
218	井戸作南遺跡	3D	97d						1.3	58.1	0.84	15.4	0.77	23.5	高原山

第２表　芳賀輪遺跡，うならすず遺跡出土黒耀石の蛍光X線分析結果と推定原産地一覧表

資料№	遺跡名	調査区・遺構名	種類	時代・時期	型式	注記№		マイラー	MnO	Fe_2O_3	SrO	CaO	Rb_2O	K_2O	合　計
301	芳賀輪遺跡	16号住居	石鏃	縄文	加EⅢor堀１	16住	13		3.2	45.0	0.9	15.0	0.6	35.3	神津島
302	芳賀輪遺跡	16号住居	石鏃	縄文	加EⅢor堀１	16住	1028		3.1	44.0	0.9	16.3	0.7	35.0	神津島
303	芳賀輪遺跡	16号住居	石錐	縄文	加EⅢor堀１	16住	257	○	3.4	43.5	0.9	17.5	0.7	34.0	神津島
304	芳賀輪遺跡	16号住居	石核	縄文	加EⅢor堀１	16住	373		1.3	59.5	1.0	19.8	0.3	18.1	柏　峠
305	芳賀輪遺跡	16号住居	石核	縄文	加EⅢor堀１	16住	ﾌｸﾄﾞ		3.5	34.6	0.5	8.0	1.4	51.9	星ケ塔
306	芳賀輪遺跡	21号住居	石鏃	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	21住	704		3.3	44.3	0.9	15.7	0.7	35.1	神津島
307	芳賀輪遺跡	21号住居	石鏃	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	21住	707	○	3.1	45.3	0.9	17.1	0.7	32.9	神津島
308	芳賀輪遺跡	23号住居	石鏃	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	23住	5180		3.4	36.7	0.4	10.0	1.4	48.1	星ケ塔
309	芳賀輪遺跡	23号住居	石鏃	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	23住	4110		3.3	34.4	0.4	8.7	1.4	51.8	星ケ塔
310	芳賀輪遺跡	23号住居	石鏃	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	23住	4783		3.2	45.3	0.9	14.8	0.7	35.2	神津島
311	芳賀輪遺跡	23号住居	石鏃	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	23住	3443	○	3.3	46.0	1.0	18.4	0.7	30.6	神津島
312	芳賀輪遺跡	23号住居	石錐	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	23住	5027		2.9	44.4	0.9	14.9	0.8	36.0	神津島
313	芳賀輪遺跡	23号住居	石核	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	23住	5315		2.3	32.2	0.4	10.0	0.4	54.6	星ケ塔
314	芳賀輪遺跡	23号住居	石核	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	23住	344		3.2	44.5	0.9	15.6	0.7	35.0	神津島
315	芳賀輪遺跡	23号住居	石核	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	23住	403		2.7	25.3	0.2	7.8	0.9	63.1	星ケ塔
316	芳賀輪遺跡	17号住居	石核	縄文		17住	391		3.3	44.2	0.9	14.7	0.7	36.3	神津島
317	芳賀輪遺跡	23号住居	剥片	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	23住	5132		3.5	49.1	0.9	15.6	0.6	30.3	神津島
318	芳賀輪遺跡	23号住居	剥片	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	23住	5173		3.5	35.2	0.4	9.5	1.5	50.1	星ケ塔
319	芳賀輪遺跡	23号住居	剥片	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	23住	2743		3.9	34.3	0.4	8.5	1.4	51.6	星ケ塔
320	芳賀輪遺跡	23号住居	剥片	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	23住	278		1.4	56.5	0.9	18.8	0.3	22.1	柏　峠
321	芳賀輪遺跡	23号住居	剥片	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	23住	4455		3.5	45.2	1.0	13.7	0.7	35.9	神津島
322	芳賀輪遺跡	23号住居	剥片	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	23住	3681		3.5	43.3	0.9	16.2	0.7	35.4	神津島
323	芳賀輪遺跡	23号住居	剥片	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	23住	4997		3.4	33.9	0.3	8.1	1.4	52.9	星ケ塔
324	芳賀輪遺跡	23号住居	剥片	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	23住	4386		3.7	33.2	0.3	7.7	1.4	53.8	星ケ塔
325	芳賀輪遺跡	23号住居	剥片	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	23住	4307		3.4	45.9	0.9	14.3	0.6	34.8	神津島
326	芳賀輪遺跡	23号住居	剥片	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	23住	5060		3.3	43.9	1.0	15.7	0.7	35.4	神津島
328	芳賀輪遺跡	25号住居	石鏃	縄文・中期	加EⅢ	25住	501	○	3.5	50.9	1.0	15.7	0.8	28.2	神津島
329	芳賀輪遺跡	25号住居	石鏃	縄文・中期	加EⅢ	25住	439	○	2.4	33.2	0.5	13.4	0.5	50.0	星ケ塔
330	芳賀輪遺跡	54号住居	石鏃	縄文		54住	150		3.7	32.1	0.4	8.8	1.3	53.7	星ケ塔
331	芳賀輪遺跡	54号住居	石鏃	縄文		54住	261		3.4	43.7	0.9	13.8	0.7	37.5	神津島
332	芳賀輪遺跡	54号住居	石鏃	縄文		54住	598		3.4	44.1	0.9	13.8	0.7	37.0	神津島
333	芳賀輪遺跡	54号住居	石錐	縄文		54住	1119		3.4	44.8	1.0	16.4	0.7	33.7	神津島
334	芳賀輪遺跡	57号住居	石錐	縄文・後期	堀１	57住	173		3.5	44.1	0.9	15.9	0.7	35.0	神津島
335	芳賀輪遺跡	87号住居	剥片	縄文		87住	499		4.4	34.1	0.0	7.5	2.8	51.1	小深沢
336	芳賀輪遺跡	4遺物集中区	剥片	縄文・中期	中峠	Zb- 1	27		3.2	44.2	0.9	16.3	0.6	34.7	神津島
337	芳賀輪遺跡	10号土壙	剥片	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	10土	10		3.2	31.3	0.3	7.1	1.2	56.9	星ケ塔
338	芳賀輪遺跡	23号土壙	剥片	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	23土	23		3.4	44.1	0.8	15.3	0.7	35.8	神津島
339	芳賀輪遺跡	23号土壙	剥片	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	23土	68		3.4	33.1	0.3	9.0	1.3	52.7	星ケ塔
340	芳賀輪遺跡	34号土壙	石匙	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	34土	57		3.1	45.0	0.9	14.4	0.7	36.0	神津島
341	芳賀輪遺跡	56号土壙	石鏃	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	56土	210		3.5	44.4	0.9	15.4	0.6	35.2	神津島
342	芳賀輪遺跡	ⅢEy-11	石鏃	縄文	加EⅡ～堀１	ⅢEy-11	Ⅲ層		3.5	45.5	0.8	14.8	0.8	34.6	神津島
343	芳賀輪遺跡	Bp-11	石鏃	縄文	加EⅡ～堀１	Bp-11	1		3.4	44.3	1.0	14.0	0.6	36.7	神津島
344	芳賀輪遺跡	ⅢCg	石鏃	縄文	加EⅡ～堀１	ⅢCg	表採		3.4	34.1	0.4	8.8	1.4	52.0	星ケ塔
345	芳賀輪遺跡	Dp-2	剥片	縄文・中期	加EⅡ～Ⅲ	Dp-2	378		3.4	42.9	0.8	14.5	0.6	37.7	神津島
346	芳賀輪遺跡	Zp-8	石鏃	縄文	加EⅡ～堀１	Zp-8	Ⅰ層		3.4	34.6	0.3	8.4	1.5	51.9	星ケ塔
347	芳賀輪遺跡	Aq-9	石鏃	縄文	加EⅡ～堀１	Aq-9	Ⅲ層		3.3	45.2	1.0	14.7	0.7	35.1	神津島
348	芳賀輪遺跡	4遺物集中区	石鏃	縄文・中期	中峠	Zb- 1	21		2.9	45.2	1.0	15.6	0.9	34.6	神津島
349	うならすず遺跡	16号住居	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	A-16	51	○	3.4	33.8	0.4	11.8	1.5	49.1	星ケ塔
350	うならすず遺跡	17号住居	石鏃	縄文・後期	称Ⅰ	A-17		○	3.3	34.8	0.4	11.9	1.6	48.0	星ケ塔
351	うならすず遺跡	31号住居	両極石器	縄文・後期	称Ⅰ	A-31	18		3.5	44.8	1.0	13.3	0.6	36.8	神津島
352	うならすず遺跡	33号住居	石鏃	縄文・後期	称Ⅰ	A-33	一括		3.8	34.4	0.3	9.4	1.4	50.7	星ケ塔
353	うならすず遺跡	35号住居	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	A-35	3		3.2	34.2	0.4	8.7	1.5	52.1	星ケ塔
354	うならすず遺跡	37号住居	石鏃	縄文・中期	加EⅢ	A-37	3区		3.2	32.0	0.3	8.6	1.4	54.6	星ケ塔
355	うならすず遺跡	65号住居	石鏃	縄文・後期	堀1～2	A-65	7		4.5	35.2	0.1	7.8	2.8	49.6	小深沢
356	うならすず遺跡	78号住居	石鏃	縄文	加EⅢ～堀1	A-78	83		3.1	34.0	0.4	8.4	1.4	52.7	星ケ塔
357	うならすず遺跡	28号土壙	剥片	縄文・中期	加EⅣ	C-28	4		3.3	32.9	0.3	8.2	1.3	53.9	星ケ塔
358	うならすず遺跡	35号土壙	剥片	縄文・後期	称Ⅰ	C-35			3.3	35.5	0.4	8.0	1.5	51.3	星ケ塔
359	うならすず遺跡	36号土壙	剥片	縄文・中期	加EⅢ	C-36			3.7	33.0	0.4	8.6	1.4	53.0	星ケ塔
361	うならすず遺跡	43号土壙	石匙	縄文・中期	加EⅣ	C-43			3.4	35.4	0.4	7.2	1.4	52.2	星ケ塔
362	うならすず遺跡	57号土壙	石匙	縄文・中期	加EⅣ	C-57			4.3	34.1	0.0	9.1	2.8	49.6	小深沢
363	うならすず遺跡	57号土壙	剥片	縄文・中期	加EⅣ	C-57			3.8	37.3	0.3	7.1	1.5	50.0	星ケ塔
364	うならすず遺跡	58号土壙	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	C-58	16		3.3	33.0	0.4	8.5	1.4	53.4	星ケ塔
365	うならすず遺跡	58号土壙	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	C-58		○	3.4	34.7	0.4	12.0	1.5	48.1	星ケ塔
366	うならすず遺跡	58号土壙	剥片	縄文・中期	加EⅣ	C-58			3.6	33.8	0.4	8.5	1.4	52.3	星ケ塔
367	うならすず遺跡	79号土壙	石鏃	縄文・中期	加E	C-79	3	○	3.6	35.9	0.4	10.5	1.5	48.2	星ケ塔
368	うならすず遺跡	116号土壙	剥片	縄文		C-116			3.4	34.7	0.4	8.6	1.5	51.4	星ケ塔
369	うならすず遺跡	116号土壙	剥片	縄文		C-116			3.0	39.1	0.4	7.2	1.5	48.9	星ケ塔
370	うならすず遺跡	116号土壙	剥片	縄文		C-116		○	3.5	34.6	0.5	11.3	1.5	48.6	星ケ塔
371	うならすず遺跡	211号土壙	石核	縄文・中期	加EⅣ	C-211	17		2.4	23.8	0.3	6.4	1.0	66.1	星ケ塔
372	うならすず遺跡	214号土壙	剥片	縄文・後期	称Ⅰ	C-214			3.5	33.5	0.4	7.8	1.5	53.2	星ケ塔
373	うならすず遺跡	225号土壙	石核	縄文・後期	称Ⅰ	C-225			3.6	34.3	0.3	8.5	1.4	51.8	星ケ塔
374	うならすず遺跡	266号土壙	石核	縄文・後期	称Ⅰ	C-266	1区		4.1	34.0	0.1	8.4	2.6	50.8	小深沢
375	うならすず遺跡	266号土壙	剥片	縄文・後期	称Ⅰ	C-266			3.6	33.8	0.4	7.8	1.4	53.1	星ケ塔
376	うならすず遺跡	1石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	5E-21ｂ	15		3.7	32.6	0.3	8.6	1.4	53.3	星ケ塔
377	うならすず遺跡	1石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	5E-21ｂ	35		3.5	34.9	0.3	8.9	1.4	50.9	星ケ塔
378	うならすず遺跡	1石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	5E-21d	Ⅲ層		3.6	34.4	0.4	7.1	1.4	53.1	星ケ塔
379	うならすず遺跡	1石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	5E-21d	25		3.5	34.7	0.5	8.0	1.5	51.9	星ケ塔
380	うならすず遺跡	1石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	5E-31a	8		3.3	30.8	0.3	9.0	1.3	55.3	星ケ塔
381	うならすず遺跡	1石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	5E-31a	28		3.5	33.2	0.3	7.2	1.4	54.4	星ケ塔
382	うならすず遺跡	1石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	5E-31b	21		3.3	34.3	0.4	9.0	1.5	51.5	星ケ塔
383	うならすず遺跡	1石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	5E-31b	21		3.5	33.8	0.4	8.5	1.4	52.4	星ケ塔
384	うならすず遺跡	1石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	5E-31c	40		3.7	33.9	0.4	9.3	1.4	51.4	星ケ塔
385	うならすず遺跡	1石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	5E-31c	61		3.4	34.0	0.3	7.4	1.5	53.5	星ケ塔

資料№	遺跡名	調査区・遺構名	種類	時代・時期	型式	注記№		マイラー	MnO	Fe_2O_3	SrO	CaO	Rb_2O	K_2O	合　計
386	うならすず遺跡	1石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	5E-31c	93		3.6	33.7	0.3	7.6	1.3	53.5	星ケ塔
387	うならすず遺跡	1石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	5E-31c	94		3.1	33.4	0.4	7.7	1.3	54.0	星ケ塔
388	うならすず遺跡	1石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	5E-32a	17	○	3.6	34.9	0.4	11.9	1.3	48.0	星ケ塔
389	うならすず遺跡	1石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	5E-32a	20		3.6	35.2	0.4	7.9	1.4	51.6	星ケ塔
390-1	うならすず遺跡	1石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	5E-32a	64		3.7	34.4	0.5	8.0	1.4	52.1	星ケ塔
390-2	うならすず遺跡	1石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	5E-32a	64	○	3.3	39.4	0.4	11.9	1.5	43.5	星ケ塔
391	うならすず遺跡	1石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	5E-32a	68		3.6	34.2	0.4	6.2	1.4	54.2	星ケ塔
392-1	うならすず遺跡	1石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	5E-32a	81		3.3	33.2	0.4	8.9	1.4	52.8	星ケ塔
392-2	うならすず遺跡	1石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	5E-32a	81		3.4	35.2	0.4	13.0	1.4	46.7	星ケ塔
392-3	うならすず遺跡	1石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	5E-32a	81		3.3	35.3	0.4	11.8	1.4	47.9	星ケ塔
393	うならすず遺跡	1石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	5E-32a	83		3.5	34.1	0.4	8.3	1.4	52.2	星ケ塔
394	うならすず遺跡	1石器集中区	剥片	縄文・中期	加EⅣ	5E-31a			3.3	34.1	0.4	9.1	1.3	51.7	星ケ塔
395	うならすず遺跡	1石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅣ	5E-32d			3.3	43.9	1.0	16.3	0.7	34.9	神津島
396	うならすず遺跡	1石器集中区	石匙	縄文・中期	加EⅣ	5E-32d			3.2	35.6	0.3	9.1	1.3	50.4	星ケ塔
397	うならすず遺跡	1石器集中区	石核	縄文・中期	加EⅣ	5E-31a	32		3.0	34.1	0.3	9.5	1.4	51.7	星ケ塔
398	うならすず遺跡	1石器集中区	石核	縄文・中期	加EⅣ	5E-31b	7		3.6	34.2	0.4	7.3	1.4	53.1	星ケ塔
399	うならすず遺跡	1石器集中区	石核	縄文・中期	加EⅣ	5E-31b	13		3.4	33.9	0.3	8.0	1.3	53.0	星ケ塔
400	うならすず遺跡	1石器集中区	石核	縄文・中期	加EⅣ	5E-31c	7		3.5	34.0	0.4	7.7	1.6	53.0	星ケ塔
401	うならすず遺跡	1石器集中区	石核	縄文・中期	加EⅣ	5E-31c	55		3.4	32.8	0.4	7.6	1.3	54.5	星ケ塔
402	うならすず遺跡	1石器集中区	石核	縄文・中期	加EⅣ	5E-31c	84		3.3	34.2	0.4	9.0	1.5	51.7	星ケ塔
403	うならすず遺跡	1石器集中区	石核	縄文・中期	加EⅣ	5E-31c	97		3.1	34.3	0.47	9.2	1.43	51.5	星ケ塔
404	うならすず遺跡	1石器集中区	石核	縄文・中期	加EⅣ	5E-31c	98		3.4	35.7	0.42	5.3	1.49	53.7	星ケ塔
405	うならすず遺跡	1石器集中区	石核	縄文・中期	加EⅣ	5E-32a	5		3.2	35.6	0.30	6.8	1.37	52.7	星ケ塔
406	うならすず遺跡	1石器集中区	石核	縄文・中期	加EⅣ	5E-31d	39		3.8	34.3	0.35	8.1	1.40	52.1	星ケ塔
407	うならすず遺跡	1石器集中区	石核	縄文・中期	加EⅣ	5E-32a	66		3.5	34.0	0.42	6.1	1.31	54.7	星ケ塔
408	うならすず遺跡	1石器集中区	剥片	縄文・中期	加EⅣ	5E-31c	100		3.6	33.2	0.40	7.7	1.45	53.7	星ケ塔
409	うならすず遺跡	1石器集中区	石核	縄文・中期	加EⅣ	5E-32c			3.3	32.7	0.33	10.4	1.30	52.0	星ケ塔
410	うならすず遺跡	1石器集中区	石核	縄文・中期	加EⅣ	5E-32c			3.4	32.6	0.37	9.6	1.38	52.6	星ケ塔
411	うならすず遺跡	1石器集中区	石核	縄文・中期	加EⅣ	5E-32d	18		4.4	33.9	0.05	7.3	2.67	51.7	小深沢
412	うならすず遺跡	1石器集中区	石核	縄文・中期	加EⅣ	5E-32d	46		3.0	33.7	0.34	6.8	1.31	54.9	星ケ塔
413	うならすず遺跡	1石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-42b	2		4.3	35.0	0.01	9.8	2.44	48.4	小深沢
414	うならすず遺跡	2石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-42b	10		3.4	34.3	0.34	7.7	1.31	52.9	星ケ塔
415	うならすず遺跡	2石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-42c	12		3.0	43.1	0.94	16.4	0.64	35.8	神津島
416	うならすず遺跡	2石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-42c	28		3.5	33.1	0.35	9.4	1.44	52.2	星ケ塔
417-1	うならすず遺跡	2石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-42d	15		3.1	33.0	0.35	8.5	1.46	52.9	星ケ塔
417-2	うならすず遺跡	2石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-42d	15	○	3.1	35.9	0.42	10.3	1.37	48.8	星ケ塔
418	うならすず遺跡	2石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-42d	29		3.4	42.8	0.71	15.5	0.65	37.0	神津島
419	うならすず遺跡	2石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-51c	5		3.6	35.2	0.38	8.1	1.45	51.2	星ケ塔
420	うならすず遺跡	2石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-52b	1	○	4.0	33.2	0.35	11.8	1.46	49.3	星ケ塔
421	うならすず遺跡	2石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-52c	16		4.1	33.7	0.04	7.4	2.80	52.0	小深沢
422	うならすず遺跡	2石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-62b	2		3.2	35.0	0.38	7.6	1.51	52.3	星ケ塔
423-1	うならすず遺跡	2石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-62b	9		3.7	34.6	0.34	7.5	1.41	52.5	星ケ塔
423-2	うならすず遺跡	2石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-62b	9	○	3.5	34.9	0.38	11.8	1.25	48.1	星ケ塔
424	うならすず遺跡	2石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-62c	1		3.2	35.7	0.40	8.0	1.36	51.2	星ケ塔
425	うならすず遺跡	2石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-62d	9		3.6	34.2	0.32	8.2	1.36	52.3	星ケ塔
426	うならすず遺跡	2石器集中区	石匙	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-52a	4		3.5	33.5	0.36	6.5	1.40	54.8	星ケ塔
427	うならすず遺跡	2石器集中区	石錐	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-52c	7		3.0	44.9	1.03	13.9	0.73	36.5	神津島
428	うならすず遺跡	2石器集中区	両極石器	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-41c	3		4.1	35.6	0.04	8.8	2.45	49.0	小深沢
429	うならすず遺跡	2石器集中区	石核	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-52c	13		3.5	34.7	0.30	8.4	1.36	51.8	星ケ塔
430	うならすず遺跡	2石器集中区	剥片	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-52c	10		3.2	33.9	0.38	8.8	1.30	52.4	星ケ塔
431	うならすず遺跡	2石器集中区	剥片	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-52c	12		3.4	33.7	0.39	8.2	1.26	53.1	星ケ塔
432	うならすず遺跡	2石器集中区	剥片	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-52d	9		1.6	67.8	0.74	14.6	0.55	14.7	高原山
433	うならすず遺跡	2石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-81a	Ⅲ層		3.3	33.3	0.37	9.0	1.44	52.6	星ケ塔
434	うならすず遺跡	3石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-81a	Ⅲ層		4.3	36.4	0.03	8.3	2.53	48.5	小深沢
435	うならすず遺跡	3石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-82b	2		3.5	33.2	0.41	9.4	1.50	51.9	星ケ塔
436	うならすず遺跡	3石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-82b	Ⅲ層		3.6	34.7	0.44	7.5	1.44	52.4	星ケ塔
437	うならすず遺跡	3石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-82b	Ⅲ層		3.3	35.0	0.45	9.4	1.26	50.6	星ケ塔
438	うならすず遺跡	3石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-82d	1		3.3	35.1	0.38	8.2	1.26	51.8	星ケ塔
439	うならすず遺跡	3石器集中区	石錐	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-82a	31		2.7	29.8	0.32	5.9	1.31	60.0	星ケ塔
440	うならすず遺跡	3石器集中区	石錐	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-82c	Ⅲ層		3.6	33.5	0.39	8.3	1.33	52.8	星ケ塔
441	うならすず遺跡	3石器集中区	石錐	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-92a	Ⅲ層		3.2	33.1	0.35	7.9	1.37	54.1	星ケ塔
442	うならすず遺跡	3石器集中区	石鏃	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-92b	2		3.4	35.1	0.40	8.1	1.31	51.7	星ケ塔
443	うならすず遺跡	3石器集中区	石錐	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-92d	Ⅲ層		4.3	36.2	0.08	8.0	2.71	48.7	小深沢
444	うならすず遺跡	3石器集中区	石錐	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-92d	Ⅲ層		3.4	34.0	0.39	6.3	1.56	54.4	星ケ塔
445	うならすず遺跡	3石器集中区	石錐	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-92d	Ⅲ層		3.3	34.0	0.38	7.6	1.42	53.3	星ケ塔
446	うならすず遺跡	3石器集中区	石匙	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-82c	Ⅲ層		3.5	33.5	0.37	6.9	1.31	54.4	星ケ塔
447	うならすず遺跡	3石器集中区	石匙	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-82c	Ⅲ層		3.6	33.1	0.32	8.8	1.36	52.8	星ケ塔
448	うならすず遺跡	3石器集中区	剥片	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-82c	Ⅲ層		2.7	34.2	0.26	8.4	1.48	52.9	星ケ塔
449-1	うならすず遺跡	3石器集中区	石核	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-91c	1		3.2	32.3	0.35	7.5	1.29	55.4	星ケ塔
449-2	うならすず遺跡	3石器集中区	石核	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-91c	1	○	3.2	32.3	0.35	7.5	1.29	55.4	星ケ塔
450-1	うならすず遺跡	3石器集中区	石核	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-91c	4		3.1	32.6	0.33	8.9	1.33	53.7	星ケ塔
450-2	うならすず遺跡	3石器集中区	石核	縄文・中期	加EⅢ～Ⅳ	5E-91c	4	○	3.4	33.6	0.36	11.1	1.46	50.0	星ケ塔

第3表　下泉町遺跡群黒耀石の推定原産地

星ヶ塔（下泉町遺跡群）

	マイラー	MnO	Fe_2O_3	SrO	CaO	Rb_2O	K_2O	合　計
001		3.4	34.3	0.36	8.4	1.31	52.1	99.9
002	○	3.6	32.8	0.41	13.3	1.32	48.6	100.0
003	○	3.4	34.0	0.41	10.3	1.45	50.4	100.0
004	○	3.8	34.1	0.45	10.8	1.42	49.4	100.0
005		3.6	34.1	0.41	7.5	1.39	52.9	99.9
006	○	3.6	34.1	0.32	12.9	1.30	47.7	100.0
007	○	3.7	33.6	0.36	12.9	1.27	48.2	100.0
008	○	3.8	33.8	0.42	12.2	1.33	48.5	100.1
009	○	3.6	35.0	0.33	11.7	1.54	47.8	100.0
010	○	3.6	33.5	0.30	12.9	1.11	48.5	99.9
011	○	3.5	37.6	0.48	11.1	1.52	45.8	100.0
012	○	4.0	34.7	0.39	11.9	1.39	47.6	100.0
013	○	3.5	33.3	0.29	14.8	0.96	47.0	99.9
014	○	3.4	35.9	0.46	10.9	1.57	47.8	100.0
015	○	3.7	34.0	0.41	11.3	1.36	49.2	100.0
016	○	3.1	35.3	0.41	10.7	1.55	48.9	100.0
017	○	3.7	32.4	0.28	12.8	1.12	49.7	100.0
018	○	3.7	34.6	0.34	11.7	1.28	48.4	100.0
019	○	3.8	34.8	0.49	12.8	1.42	46.6	99.9
020	○	3.6	34.8	0.51	10.2	1.52	49.3	99.9
021	○	3.5	34.3	0.24	13.9	1.01	47.0	100.0
022	○	3.8	33.7	0.28	13.6	0.89	47.7	100.0
023	○	3.6	35.7	0.43	11.0	1.47	47.7	99.9
024	○	3.6	34.2	0.35	13.1	1.35	47.4	100.0
025	○	3.7	34.3	0.37	13.1	1.27	47.3	100.0
026	○	3.2	33.0	0.34	12.5	1.46	49.5	100.0
027	○	3.4	33.6	0.41	12.4	1.34	48.8	100.0
028	○	3.6	33.6	0.41	12.3	1.38	48.7	100.0
029	○	3.4	34.1	0.38	11.4	1.35	49.4	100.0
030	○	3.5	34.4	0.45	11.8	1.46	48.3	99.9
031	○	3.7	35.0	0.35	11.8	1.35	47.8	100.0
032	○	2.4	32.1	0.25	9.4	1.03	54.8	100.0
033	○	3.6	34.0	0.37	12.7	1.35	48.0	100.0
034	○	3.3	34.9	0.44	11.4	1.28	48.7	100.0
035	○	3.6	33.5	0.27	12.7	0.93	48.9	99.9
036	○	3.3	34.7	0.31	12.0	1.37	48.3	100.0
037	○	3.7	34.4	0.37	12.4	1.32	47.8	100.0
038	○	3.5	33.1	0.28	13.5	1.12	48.5	100.0
039	○	3.7	33.8	0.34	13.0	1.29	48.0	100.1
040	○	3.5	33.7	0.43	11.2	1.35	49.9	100.1
041	○	3.5	34.7	0.41	12.3	1.40	47.7	100.0
042	○	3.5	33.4	0.33	13.0	1.13	48.7	100.1
043	○	3.7	34.2	0.50	12.3	1.39	47.9	100.0
044	○	3.3	33.4	0.35	15.6	1.16	46.2	100.0
045	○	3.8	35.0	0.43	11.8	1.53	47.5	100.1
046	○	3.6	35.7	0.38	10.9	1.49	47.9	100.0
047		3.2	34.7	0.30	7.1	1.42	53.3	100.0
048	○	3.8	34.7	0.44	12.2	1.38	47.4	99.9
049	○	3.6	35.0	0.45	11.5	1.43	48.0	100.0
050	○	3.6	34.3	0.41	12.0	1.29	48.4	100.0
051	○	3.3	34.8	0.32	11.1	1.41	49.0	99.9
052	○	3.7	33.9	0.32	12.9	1.10	48.0	99.9
053	○	3.4	33.9	0.43	12.0	1.35	48.9	100.0
054	○	3.6	34.2	0.38	12.5	1.43	47.9	100.0
055	○	3.5	34.4	0.40	12.6	1.37	47.6	99.9
056	○	3.6	33.5	0.39	12.5	1.16	48.8	100.0
057	○	3.7	33.2	0.29	15.1	0.99	46.7	100.0
058	○	3.4	34.6	0.43	12.2	1.38	47.9	99.9
059	○	3.7	34.8	0.43	10.8	1.49	48.8	100.0
060	○	3.7	34.0	0.30	13.3	1.05	47.6	100.0
061	○	3.8	34.8	0.35	11.5	1.56	48.0	100.0
062	○	3.7	34.6	0.40	11.5	1.48	48.3	100.0
063	○	3.6	35.2	0.43	12.1	1.35	47.3	100.0
064	○	3.4	33.4	0.34	7.4	1.49	54.0	100.0
065	○	3.5	34.6	0.46	12.8	1.38	47.3	100.0
066	○	3.5	35.8	0.25	13.1	0.93	46.5	100.1
067	○	3.5	35.3	0.45	11.5	1.53	47.6	99.9
068	○	3.6	34.3	0.39	11.7	1.38	48.6	100.0
069	○	3.5	35.4	0.37	12.4	1.38	47.0	100.1
070	○	3.5	33.5	0.39	13.7	1.29	47.7	100.1
071	○	2.1	22.9	0.20	8.2	0.97	65.6	100.0
072	○	3.5	34.8	0.39	11.9	1.24	48.1	99.9
073	○	3.4	34.1	0.32	15.2	1.05	45.9	100.0
074	○	3.4	35.0	0.26	14.6	0.88	45.8	99.9
075	○	2.7	25.9	0.25	12.1	0.88	58.2	100.0
076		3.5	34.5	0.29	6.5	1.38	53.9	100.1
077	○	3.6	36.1	0.38	10.7	1.46	47.8	100.0
078	○	3.9	35.2	0.35	11.7	1.35	47.5	100.0
079	○	3.6	34.3	0.43	12.6	1.57	47.5	100.0
080	○	3.6	34.4	0.38	12.7	1.26	47.6	99.9
081	○	3.5	35.7	0.37	11.3	1.47	47.6	99.9

星ヶ塔（下泉町遺跡群）続き

	マイラー	MnO	Fe_2O_3	SrO	CaO	Rb_2O	K_2O	合　計
082		3.5	34.4	0.36	7.3	1.33	53.1	100.0
083		3.5	35.9	0.35	12.2	1.49	46.5	99.9
084		3.7	33.4	0.33	7.8	1.37	53.3	99.9
085		3.7	33.9	0.39	8.2	1.45	52.4	100.0
086	○	3.7	36.5	0.34	12.7	1.17	45.6	100.0
087	○	3.6	34.1	0.29	12.4	1.18	48.4	100.0
088	○	3.4	35.1	0.31	14.3	1.26	45.6	100.0
089	○	3.5	34.3	0.30	11.9	1.31	48.6	99.9
090	○	3.7	35.8	0.35	10.8	1.47	47.9	100.0
091	○	3.5	35.3	0.41	11.7	1.43	47.7	100.0
092	○	3.5	34.8	0.42	11.7	1.41	48.2	100.0
094		3.0	33.6	0.36	10.0	1.45	51.6	100.0
095		3.5	34.0	0.40	9.7	1.48	50.9	100.0
096		3.7	35.1	0.36	8.9	1.53	50.4	100.0
097		3.0	41.8	0.34	10.9	1.43	42.5	100.0
099	○	3.8	34.2	0.37	13.1	1.35	47.2	100.0
100	○	3.5	34.2	0.44	12.5	1.33	48.1	100.1
102	○	3.3	36.1	0.47	11.3	1.35	47.4	99.9
104-1		3.4	38.1	0.36	5.6	1.43	51.1	100.0
104-2	○	3.3	44.4	0.35	7.8	1.38	42.8	100.0
106		3.4	33.6	0.38	7.6	1.30	53.7	100.0
107		3.2	35.8	0.39	7.9	1.50	51.1	99.9
108		3.3	34.2	0.30	8.1	1.39	52.7	100.0
123		3.2	34.5	0.28	8.8	1.38	51.8	100.0
130	○	3.4	37.5	0.34	12.9	1.43	44.4	100.0
134	○	2.2	26.4	0.21	14.6	0.81	55.8	100.0
141	○	3.5	38.7	0.40	11.6	1.38	44.4	100.0
143-2	○	3.2	38.7	0.44	12.5	1.42	43.7	100.0
144		3.6	33.7	0.44	12.3	1.43	48.5	100.0
146		3.4	33.6	0.43	9.3	1.29	51.9	99.9
150-1	○	3.5	35.4	0.34	12.3	1.47	47.0	100.0
150-3		3.3	32.6	0.42	9.4	1.29	52.9	99.9
151-2		3.6	32.7	0.34	8.2	1.41	53.7	100.0
152-1	○	3.4	35.1	0.44	13.0	1.45	46.6	100.0
174		3.5	31.4	0.26	8.2	1.24	55.5	100.1
176		3.7	34.0	0.37	7.5	1.32	53.1	100.0
206		3.5	33.5	0.35	9.0	1.37	52.4	100.1
208-1	○	3.5	34.0	0.37	12.4	1.47	48.3	100.0
208-2	○	3.7	35.5	0.31	12.0	1.32	47.1	99.9
209		3.8	34.0	0.38	8.0	1.33	52.5	100.0
212		3.4	35.6	0.35	9.9	1.49	49.1	99.8
213		3.6	34.6	0.42	7.2	1.41	52.7	99.9
平均値		**3.5**	**34.4**	**0.37**	**11.4**	**1.33**	**49.0**	**100.0**
星ケ塔		3.4	32.1	0.3	9.9	1.1	54.2	

小深沢（下泉町遺跡群）

	マイラー	MnO	Fe_2O_3	SrO	CaO	Rb_2O	K_2O	合　計
101		4.8	33.7	0.05	7.7	2.79	50.9	99.9
109		4.4	33.2	0.05	7.3	2.53	52.6	100.1
127		4.4	33.2	0.10	8.3	2.62	51.3	99.9
128	○	4.0	38.5	0.05	8.2	2.53	46.8	100.1
131		4.3	34.0	0.01	8.2	2.68	50.8	100.0
139	○	4.5	37.5	0.06	11.3	3.15	43.4	99.9
145-1		4.7	34.3	0.03	7.5	2.66	50.7	99.9
145-3		3.9	34.5	0.08	9.5	2.67	49.7	100.4
147		4.3	33.8	0.02	8.9	2.57	50.4	100.0
149-1		4.3	32.9	0.07	7.7	2.55	52.5	100.0
149-2	○	4.5	36.8	0.03	10.7	2.72	45.2	100.0
150-4		4.0	33.6	0.09	8.4	2.61	51.3	100.0
152-2		4.4	35.5	0.01	10.1	2.74	47.1	99.9
153-2	○	4.3	36.8	0.09	11.8	2.67	44.4	100.1
153-3	○	4.4	35.3	0.10	11.0	2.82	46.3	99.9
153-5	○	4.4	38.3	0.03	10.7	2.60	44.0	100.0
153-6	○	4.4	35.9	0.05	11.3	2.70	45.7	100.1
154		3.9	35.8	0.20	8.1	2.84	49.1	99.9
155		4.0	33.9	0.08	9.4	2.50	50.1	100.0
157		4.2	35.2	0.05	7.8	2.82	50.0	100.1
169		4.5	35.6	0.06	12.0	2.86	45.0	100.0
171-1		4.5	33.8	0.07	7.5	2.58	51.6	100.1
171-2		4.5	35.2	0.10	8.8	2.62	48.8	100.0
173		4.5	33.5	0.01	9.4	2.56	50.0	100.0
175	○	4.4	37.3	0.14	13.3	2.72	42.1	100.0
178		4.2	34.9	0.14	9.9	2.73	48.2	100.1
188	○	4.4	35.4	0.03	11.0	2.98	46.1	99.9
189	○	4.4	37.9	0.05	10.5	2.56	44.5	99.9
198	○	3.8	34.7	0.07	11.6	2.81	47.0	100.0
200		4.2	36.2	0.01	7.7	2.67	49.1	99.9
215		4.3	33.1	0.01	7.6	2.61	52.3	99.9
平均値		**4.3**	**35.2**	**0.06**	**9.5**	**2.69**	**48.3**	**100.0**
小深沢　和田峠		4.2	32.8	0.0	10.2	2.4	50.4	

神津島（下泉町遺跡群）

	マイラー	MnO	Fe_2O_3	SrO	CaO	Rb_2O	K_2O	合　計
110	○	3.2	46.5	0.93	17.1	0.80	31.5	100.0
117		3.0	44.9	1.02	14.3	0.65	36.2	100.1
120		3.4	44.1	0.88	14.8	0.64	36.1	99.9
122		3.4	47.1	0.97	14.3	0.69	33.5	100.0
124		3.3	46.1	0.97	13.7	0.72	35.1	99.9
126		3.3	44.1	0.77	16.9	0.71	34.3	100.1
132		3.2	43.3	0.95	16.2	0.71	35.7	100.1
133		2.3	32.4	0.51	19.8	0.45	44.6	100.1
135	○	2.2	33.0	0.60	26.9	0.40	37.0	100.1
136-1		3.0	46.5	0.94	15.9	0.75	32.8	99.9
136-2	○	3.6	50.5	0.88	14.8	0.75	29.5	100.0
137	○	2.9	51.3	1.01	19.1	0.70	25.0	100.0
138	○	3.6	44.7	0.94	17.1	0.75	32.9	100.0
140-1		3.5	42.9	0.77	14.3	0.62	37.9	100.0
140-2	○	3.5	46.7	1.00	16.2	0.74	31.8	99.9
142	○	3.5	45.8	0.89	16.8	0.73	32.3	100.0
143-1	○	3.5	45.1	0.87	19.4	0.62	30.5	100.0
145-2		3.4	44.0	0.96	14.6	0.77	36.3	100.0
148	○	3.3	44.3	0.98	17.8	0.73	32.9	100.0
150-2	○	3.5	44.2	0.92	17.8	0.63	32.9	100.0
150-5	○	3.7	44.1	0.92	16.8	0.75	33.8	100.1
151-1		3.6	44.3	0.87	13.9	0.68	36.7	100.1
151-3		3.1	44.3	0.87	16.0	0.81	34.9	100.0
152-3	○	3.5	44.6	0.90	18.0	0.68	32.3	100.0
153-1		3.2	44.4	0.83	14.3	0.72	36.5	100.0
153-4		3.0	44.8	1.01	16.1	0.67	34.4	100.0
156		3.7	45.4	0.97	13.9	0.76	35.3	100.0
158		3.1	43.4	1.02	15.6	0.61	36.3	100.0
159		2.9	40.7	0.86	15.0	0.69	39.8	100.0
160		3.2	44.0	0.91	14.7	0.85	36.2	99.9
161		2.2	42.1	0.79	13.2	0.55	41.2	100.0
163		2.6	43.8	0.91	15.3	0.55	36.8	100.0
164		2.9	44.0	0.83	15.0	0.72	36.5	100.0
165		3.2	44.4	1.00	14.9	0.69	35.8	100.0
166		3.1	45.7	0.95	14.4	0.65	35.2	100.0
167-1		3.1	42.3	0.77	13.5	0.58	39.7	100.0
167-2		3.3	47.7	0.89	16.0	0.69	31.4	100.0
168		3.2	44.4	0.93	13.3	0.70	37.4	99.9
170	○	3.6	44.6	0.93	17.4	0.70	32.8	100.0
172		3.2	46.4	0.91	12.9	0.62	35.9	99.9
177	○	3.4	42.3	0.80	16.9	0.60	36.0	100.0
179		3.1	44.0	0.84	15.5	0.72	35.8	100.0
180		3.0	43.8	1.00	16.0	0.71	35.4	99.9
181	○	3.6	45.3	1.00	15.8	0.76	33.5	100.0
182		2.8	44.2	0.97	13.0	0.74	38.2	99.9
183	○	3.1	44.1	0.94	17.2	0.71	33.9	100.0
184	○	3.1	45.5	0.99	18.6	0.71	31.1	100.0
185		3.2	44.0	0.92	16.4	0.63	34.8	100.0
186	○	3.4	44.1	0.89	19.1	0.72	31.8	100.0
187		2.9	44.5	0.94	14.1	0.71	36.8	100.0
190-1		3.4	42.9	0.93	16.0	0.73	36.1	100.1
190-2		3.4	44.1	0.85	14.4	0.66	36.6	100.0
191		3.3	43.7	0.90	15.6	0.64	35.8	99.9
192	○	3.3	44.9	1.05	17.7	0.60	32.4	100.0
193		3.7	45.7	0.86	14.3	0.72	34.7	100.0
194	○	3.3	45.4	1.01	17.1	0.65	32.6	100.1
195		3.6	43.8	0.83	14.9	0.60	36.3	100.0
196		3.2	44.1	0.90	14.9	0.69	36.2	100.0
197		3.5	43.2	0.85	15.5	0.68	36.2	99.9
199		3.6	43.7	1.03	13.7	0.86	37.1	100.0
201		3.6	45.3	1.00	14.8	0.78	34.5	100.0
202		3.0	44.5	1.05	16.6	0.77	34.1	100.0
203	○	2.6	36.6	0.61	13.3	0.51	46.4	100.0
204	○	3.3	44.2	0.90	17.0	0.64	33.9	99.9
207		2.9	44.1	0.93	16.5	0.58	35.0	100.0
214		3.4	45.9	0.96	17.5	0.72	31.4	99.9
216		3.3	45.2	0.87	14.1	0.71	35.8	100.0
217	○	3.5	46.4	0.91	17.3	0.75	31.1	100.0
平均値		**3.2**	**44.2**	**0.91**	**15.9**	**0.68**	**35.0**	**100.0**
神津島		3.3	39.8	0.8	13.6	0.7	42.0	

高原山（下泉町遺跡群）

	マイラー	MnO	Fe_2O_3	SrO	CaO	Rb_2O	K_2O	合　計
098		1.5	61.0	0.95	14.6	0.98	21.0	100.0
103		1.4	61.0	1.00	16.1	0.78	19.7	100.0
105-1	○	1.4	59.9	0.89	15.6	0.76	21.4	100.0
111	○	1.4	59.2	0.91	17.3	0.82	20.4	100.0
112		1.4	56.8	0.85	15.7	0.78	24.5	100.0
113		1.5	56.9	0.83	14.2	0.78	25.8	100.0
114	○	1.4	61.8	0.84	15.5	0.66	19.7	99.9
115	○	1.5	56.9	0.85	15.7	0.69	24.3	99.9
116	○	1.5	59.6	0.84	16.8	0.77	20.5	100.0
118		1.5	69.0	0.69	11.2	0.61	17.0	100.0
162		1.5	59.2	0.86	15.4	0.67	22.3	99.9
210	○	1.5	60.3	0.85	16.9	0.76	19.7	100.0
211		1.6	59.2	1.01	16.4	0.73	21.1	100.0
218		1.3	58.1	0.84	15.4	0.77	23.5	99.9
平均値		**1.5**	**59.9**	**0.87**	**15.5**	**0.75**	**21.5**	**100.0**
高原山		1.0	56.6	0.8	16.5	0.8	24.0	

柏峠（下泉町遺跡群）

	マイラー	MnO	Fe_2O_3	SrO	CaO	Rb_2O	K_2O	合　計
119		1.3	61.5	0.97	18.3	0.28	17.7	100.1
125		1.4	61.2	0.93	17.6	0.28	18.5	99.9
129		1.5	60.3	0.87	18.3	0.33	18.7	100.0
205		1.5	60.8	0.98	18.4	0.39	18.0	100.1
平均値		**1.4**	**61.0**	**0.94**	**18.2**	**0.32**	**18.2**	**100.0**
柏　峠		1.1	58.0	0.9	25.0	0.2	15.0	

未定（下泉町遺跡群）

	マイラー	MnO	Fe_2O_3	SrO	CaO	Rb_2O	K_2O	合　計
093	○	2.7	70.1	0.23	5.2	0.87	20.8	99.9

第４表　芳賀輪遺跡・うならすず遺跡黒耀石の推定原産地

星ヶ塔（芳賀輪遺跡・うならすず遺跡）

	マイラー	MnO	Fe_2O_3	SrO	CaO	Rb_2O	K_2O	合　計
305		3.5	34.6	0.46	8.0	1.43	51.9	99.9
308		3.4	36.7	0.40	10.0	1.44	48.1	100.0
309		3.3	34.4	0.36	8.7	1.44	51.8	100.0
313		2.3	32.2	0.44	10.0	0.44	54.6	100.0
315		2.7	25.3	0.22	7.8	0.89	63.1	100.0
318		3.5	35.2	0.37	9.5	1.46	50.1	100.1
319		3.9	34.3	0.39	8.5	1.37	51.6	100.1
323		3.4	33.9	0.34	8.1	1.43	52.9	100.1
324		3.7	33.2	0.33	7.7	1.37	53.8	100.1
329	○	2.4	33.2	0.50	13.4	0.49	50.0	100.0
330		3.7	32.1	0.38	8.8	1.33	53.7	100.0
337		3.2	31.3	0.29	7.1	1.20	56.9	100.0
339		3.4	33.1	0.34	9.0	1.32	52.7	99.9
344		3.4	34.1	0.35	8.8	1.38	52.0	100.0
346		3.4	34.6	0.31	8.4	1.45	51.9	100.1
349	○	3.4	33.8	0.41	11.8	1.51	49.1	100.0
350	○	3.3	34.8	0.38	11.9	1.55	48.0	99.9
352		3.8	34.4	0.34	9.4	1.38	50.7	100.0
353		3.2	34.2	0.39	8.7	1.48	52.1	100.1
354		3.2	32.0	0.30	8.6	1.35	54.6	100.1
356		3.1	34.0	0.43	8.4	1.40	52.7	100.0
357		3.3	32.9	0.33	8.2	1.34	53.9	100.0
358		3.3	35.5	0.35	8.0	1.53	51.3	100.0
359		3.7	33.0	0.38	8.6	1.36	53.0	100.0
361		3.4	35.4	0.39	7.2	1.41	52.2	100.0
363		3.8	37.3	0.33	7.1	1.51	50.0	100.0
364		3.3	33.0	0.36	8.5	1.40	53.4	100.0
365	○	3.4	34.7	0.39	12.0	1.46	48.1	100.1
366		3.6	33.8	0.41	8.5	1.41	52.3	100.0
367	○	3.6	35.9	0.35	10.5	1.51	48.2	100.1
368		3.4	34.7	0.38	8.6	1.45	51.4	99.9
369		3.0	39.1	0.38	7.2	1.48	48.9	100.1
370	○	3.5	34.6	0.47	11.3	1.53	48.6	100.0
371		2.4	23.8	0.29	6.4	0.96	66.1	100.0
372		3.5	33.5	0.37	7.8	1.47	53.2	99.8
373		3.6	34.3	0.31	8.5	1.42	51.8	99.9
375		3.6	33.8	0.39	7.8	1.37	53.1	100.1
376		3.7	32.6	0.34	8.6	1.41	53.3	100.0
377		3.5	34.9	0.34	8.9	1.41	50.9	100.0
378		3.6	34.4	0.40	7.1	1.42	53.1	100.0
379		3.5	34.7	0.45	8.0	1.52	51.9	100.1
380		3.3	30.8	0.28	9.0	1.30	55.3	100.0
381		3.5	33.2	0.34	7.2	1.38	54.4	100.0
382		3.3	34.3	0.41	9.0	1.51	51.5	100.0
383		3.5	33.8	0.42	8.5	1.36	52.4	100.0
384		3.7	33.9	0.37	9.3	1.40	51.4	100.1
385		3.4	34.0	0.31	7.4	1.45	53.5	100.1
386		3.6	33.7	0.31	7.6	1.30	53.5	100.0
387		3.1	33.4	0.40	7.7	1.28	54.0	99.9
388	○	3.6	34.9	0.38	11.9	1.28	48.0	100.1
389		3.6	35.2	0.37	7.9	1.37	51.6	100.0
390-1		3.7	34.4	0.46	8.0	1.43	52.1	100.1
390-2	○	3.3	39.4	0.42	11.9	1.49	43.5	100.0
391		3.6	34.2	0.37	6.2	1.42	54.2	100.0
392-1		3.3	33.2	0.35	8.9	1.44	52.8	100.0
392-2		3.4	35.2	0.41	13.0	1.38	46.7	100.1
392-3		3.3	35.3	0.38	11.8	1.39	47.9	100.1
393		3.5	34.1	0.43	8.3	1.38	52.2	99.9
394		3.3	34.1	0.37	9.1	1.33	51.7	99.9
396		3.2	35.6	0.34	9.1	1.34	50.4	100.0
397		3.0	34.1	0.31	9.5	1.40	51.7	100.0
398		3.6	34.2	0.39	7.3	1.42	53.1	100.0
399		3.4	33.9	0.34	8.0	1.31	53.0	100.0
404		3.4	35.7	0.42	5.3	1.49	53.7	100.0
405		3.2	35.6	0.30	6.8	1.37	52.7	100.0
406		3.8	34.3	0.35	8.1	1.40	52.1	100.1
407		3.5	34.0	0.42	6.1	1.31	54.7	100.0
408		3.6	33.2	0.40	7.7	1.45	53.7	100.1
409		3.3	32.7	0.33	10.4	1.30	52.0	100.0
410		3.4	32.6	0.37	9.6	1.38	52.6	100.0
412		3.0	33.7	0.34	6.8	1.31	54.9	100.1
414		3.4	34.3	0.34	7.7	1.31	52.9	100.0
416		3.5	33.1	0.35	9.4	1.44	52.2	100.0
417-1		3.1	33.0	0.35	8.5	1.46	52.9	99.3
417-2	○	3.1	35.9	0.42	10.3	1.37	48.8	99.9
419		3.6	35.2	0.38	8.1	1.45	51.2	99.9
420	○	4.0	33.2	0.35	11.8	1.46	49.3	100.1
422		3.2	35.0	0.38	7.6	1.51	52.3	100.0
423-1		3.7	34.6	0.34	7.5	1.41	52.5	100.1
423-2	○	3.5	34.9	0.38	11.8	1.25	48.1	99.9
424		3.2	35.7	0.40	8.0	1.36	51.2	99.9
425		3.6	34.2	0.32	8.2	1.36	52.3	100.0
426		3.5	33.5	0.36	6.5	1.40	54.8	100.1
429		3.5	34.7	0.30	8.4	1.36	51.8	100.1
430		3.2	33.9	0.38	8.8	1.30	52.4	100.0
431		3.4	33.7	0.39	8.2	1.26	53.1	100.1
433		3.3	33.3	0.37	9.0	1.44	52.6	100.0
435		3.5	33.2	0.41	9.4	1.50	51.9	99.9
436		3.6	34.7	0.44	7.5	1.44	52.4	100.1

星ヶ塔（芳賀輪遺跡・うならすず遺跡）続き

	マイラー	MnO	Fe_2O_3	SrO	CaO	Rb_2O	K_2O	合　計
437		3.3	35.0	0.45	9.4	1.26	50.6	100.0
438		3.3	35.1	0.38	8.2	1.26	51.8	100.0
439		2.7	29.8	0.32	5.9	1.31	60.0	100.0
440		3.6	33.5	0.39	8.3	1.33	52.8	99.9
441		3.2	33.1	0.35	7.9	1.37	54.1	100.0
442		3.4	35.1	0.40	8.1	1.31	51.7	100.0
444		3.4	34.0	0.39	6.3	1.56	54.4	100.1
445		3.3	34.0	0.38	7.6	1.42	53.3	100.0
446		3.5	33.5	0.37	6.9	1.31	54.4	100.0
447		3.6	33.1	0.32	8.8	1.36	52.8	100.0
448		2.7	34.2	0.26	8.4	1.48	52.9	99.9
449-1		3.2	32.3	0.35	7.5	1.29	55.4	100.0
449-2	○	3.2	32.3	0.35	7.5	1.29	55.4	100.0
450-1		3.1	32.6	0.33	8.9	1.33	53.7	100.0
450-2	○	3.4	33.6	0.36	11.1	1.46	50.0	99.9
平均値		**3.4**	**34.0**	**0.37**	**8.7**	**1.37**	**52.2**	**100.0**
星ケ塔		3.4	32.1	0.3	9.9	1.1	54.2	

小深沢（芳賀輪・うならすず遺跡）

	マイラー	MnO	Fe_2O_3	SrO	CaO	Rb_2O	K_2O	合　計
335		4.4	34.1	0.03	7.5	2.84	51.1	100.0
355		4.5	35.2	0.08	7.8	2.77	49.6	100.0
362		4.3	34.1	0.03	9.1	2.82	49.6	100.0
374		4.1	34.0	0.09	8.4	2.59	50.8	100.0
411		4.4	33.9	0.05	7.3	2.67	51.7	100.0
413		4.3	35.0	0.01	9.8	2.44	48.4	100.0
421		4.1	33.7	0.04	7.4	2.80	52.0	100.0
428		4.1	35.6	0.04	8.8	2.45	49.0	100.0
434		4.3	36.4	0.03	8.3	2.53	48.5	100.1
443		4.3	36.2	0.08	8.0	2.71	48.7	100.0
平均値		**4.3**	**34.8**	**0.05**	**8.2**	**2.66**	**49.9**	**100.0**
小深沢　和田峠		4.2	32.8	0.0	10.2	2.4	50.4	

神津島（芳賀輪・うならすず遺跡）

	マイラー	MnO	Fe_2O_3	SrO	CaO	Rb_2O	K_2O	合　計
301		3.2	45.0	0.90	15.0	0.62	35.3	100.0
302		3.1	44.0	0.92	16.3	0.69	35.0	100.0
303	○	3.4	43.5	0.89	17.5	0.73	34.0	100.0
306		3.3	44.3	0.94	15.7	0.74	35.1	100.1
307	○	3.1	45.3	0.89	17.1	0.65	32.9	99.9
310		3.2	45.3	0.86	14.8	0.65	35.2	100.0
311	○	3.3	46.0	0.97	18.4	0.70	30.6	100.0
312		2.9	44.4	0.94	14.9	0.76	36.0	99.9
314		3.2	44.5	0.90	15.6	0.68	35.0	99.9
316		3.3	44.2	0.85	14.7	0.70	36.3	100.1
317		3.5	49.1	0.89	15.6	0.57	30.3	100.0
316		3.3	44.2	0.85	14.7	0.70	36.3	100.1
317		3.5	49.1	0.89	15.6	0.57	30.3	100.0
321		3.5	45.2	0.98	13.7	0.74	35.9	100.0
322		3.5	43.3	0.88	16.2	0.66	35.4	99.9
325		3.4	45.9	0.89	14.3	0.64	34.8	99.9
326		3.3	43.9	0.99	15.7	0.73	35.4	100.0
328	○	3.5	50.9	0.98	15.7	0.84	28.2	100.1
331		3.4	43.7	0.88	13.8	0.67	37.5	100.0
332		3.4	44.1	0.91	13.8	0.73	37.0	99.9
333		3.4	44.8	0.99	16.4	0.74	33.7	100.0
334		3.5	44.1	0.86	15.9	0.66	35.0	100.0
336		3.2	44.2	0.91	16.3	0.60	34.7	99.9
338		3.4	44.1	0.76	15.3	0.68	35.8	100.0
340		3.1	45.0	0.92	14.4	0.66	36.0	100.1
341		3.5	44.4	0.94	15.4	0.64	35.2	100.1
342		3.5	45.5	0.81	14.8	0.80	34.6	100.0
343		3.4	44.3	1.00	14.0	0.64	36.7	100.0
345		3.4	42.9	0.80	14.5	0.61	37.7	99.9
347		3.3	45.2	0.99	14.7	0.70	35.1	100.0
348		2.9	45.2	0.95	15.6	0.88	34.6	100.1
351		3.5	44.8	0.95	13.3	0.61	36.8	100.0
395		3.3	43.9	0.98	16.3	0.65	34.9	100.0
415		3.0	43.1	0.94	16.4	0.64	35.8	99.9
418		3.4	42.8	0.71	15.5	0.65	37.0	100.1
427		3.0	44.9	1.03	13.9	0.73	36.5	100.1
平均値		**3.3**	**44.9**	**0.91**	**15.3**	**0.69**	**34.9**	**100.0**
神津島		3.3	39.8	0.8	13.6	0.7	42.0	

高原山（芳賀輪・うならすず遺跡）

	マイラー	MnO	Fe_2O_3	SrO	CaO	Rb_2O	K_2O	合　計
432		1.6	67.8	0.74	14.6	0.55	14.7	100.0
高原山		1.0	56.6	0.8	16.5	0.8	24.0	

柏峠（芳賀輪・うならすず遺跡）

	マイラー	MnO	Fe_2O_3	SrO	CaO	Rb_2O	K_2O	合　計
304		1.3	59.5	0.96	19.8	0.31	18.1	100.0
320		1.4	56.5	0.86	18.8	0.29	22.1	100.0
平均値		**1.4**	**58.0**	**0.91**	**19.3**	**0.30**	**20.1**	**100.0**
柏　峠		1.1	58.0	0.9	25.0	0.2	15.0	

第５表　下泉町遺跡群・芳賀輪遺跡・うならすず遺跡出土黒耀石の原産地推定の結果

遺跡名	資料番号	文化層	推定原産地（個数）						合計
			星ケ塔	小深沢	神津島	柏峠	高原山	未定	
明神台遺跡	001～096	縄文中期、縄文？	95	0	0	0	0	1	96
端山越遺跡	097～104-2		6	1	0	0	2	0	9
大草台古墳群	105-1～117	旧石器？	3	1	2	0	7	0	13
上谷津第１遺跡	118～135		3	3	7	3	1	0	17
上谷津第２遺跡	136-1～208-2	縄文前期、中期、後期	13	25	56	1	1	0	96
井戸作南遺跡	209～218		3	1	3	0	3	0	10
下泉町遺跡群	001～218		123	31	68	4	14	1	241
芳賀輪遺跡	301～348	縄文中期、後期	15	1	29	2	0	0	47
うならすず遺跡	349～450-2	縄文中期、後期	93	9	5	0	1	0	108
合　　計　（下泉町遺跡群＋芳賀輪遺跡＋うならすず遺跡）			231	41	102	6	15	1	396

写　真　図　版

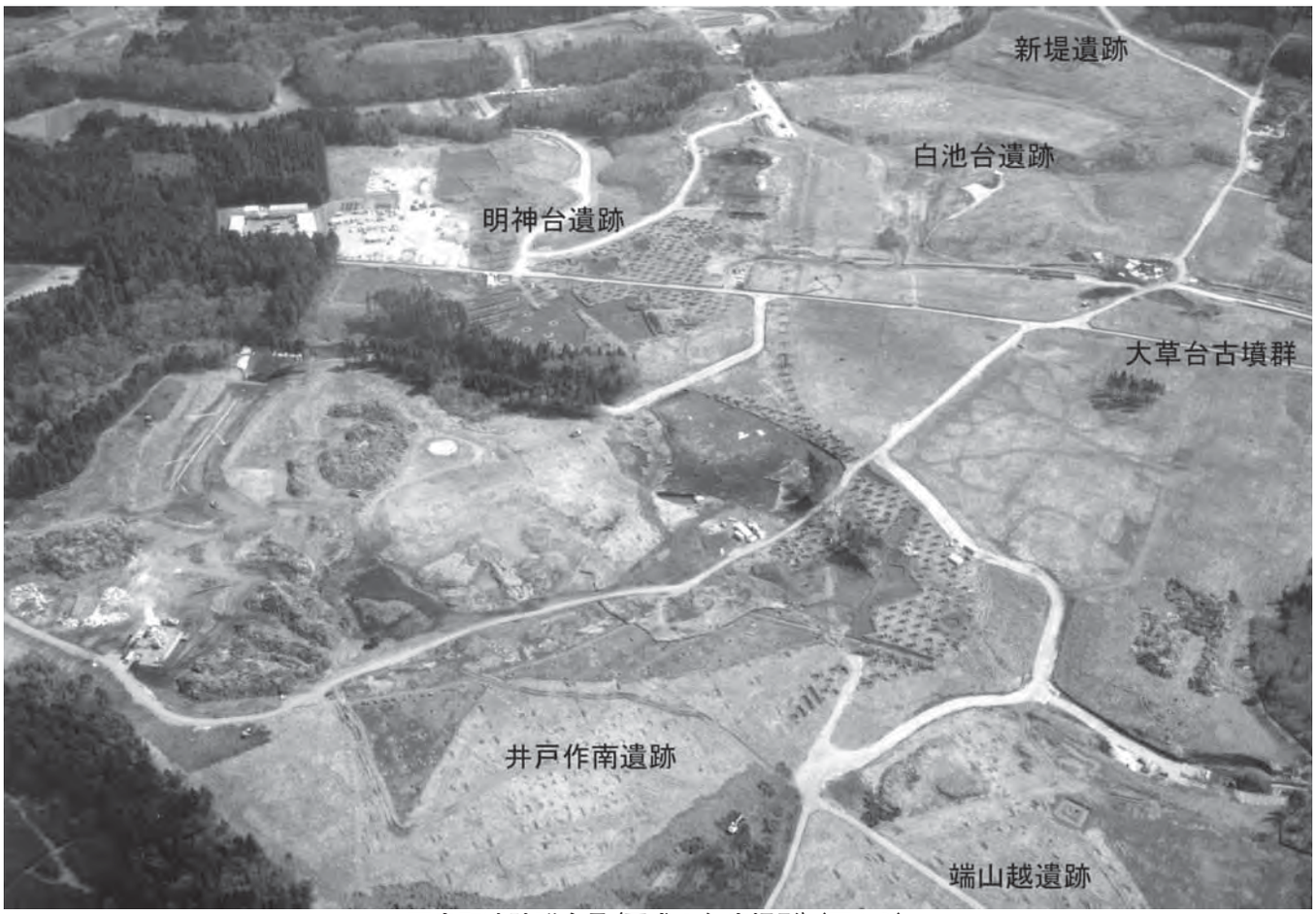
下泉町遺跡群全景〈平成 8 年度撮影〉（東から）

下泉町遺跡群全景〈平成12年度撮影〉（東から）

図版 2

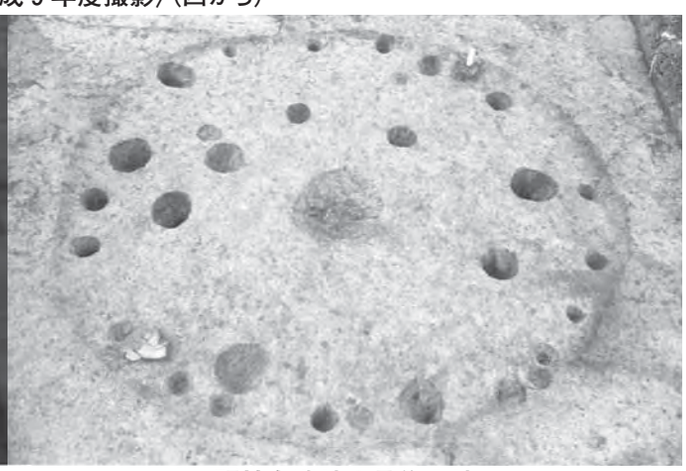
明神台遺跡遠景①（北東から）

明神台遺跡遠景②（東から）

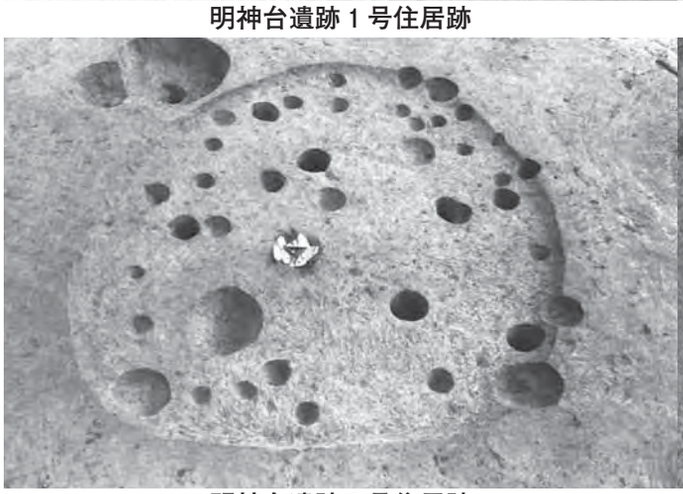


下泉町遺跡群全景〈平成 9 年度撮影〉(西から)

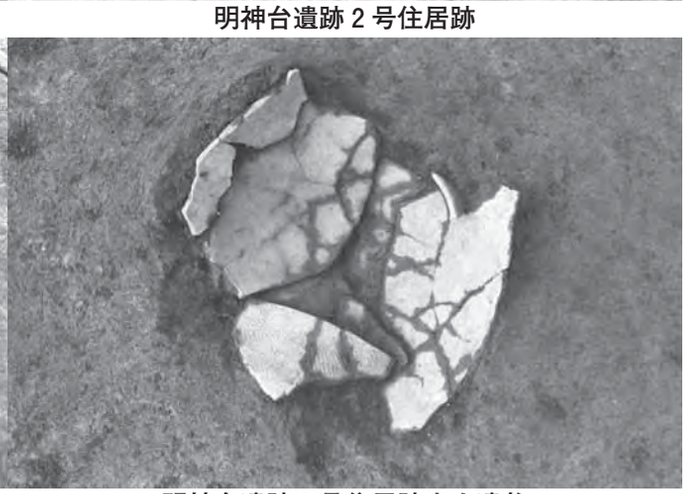
明神台遺跡 1 号住居跡



明神台遺跡 2 号住居跡



明神台遺跡 3 号住居跡

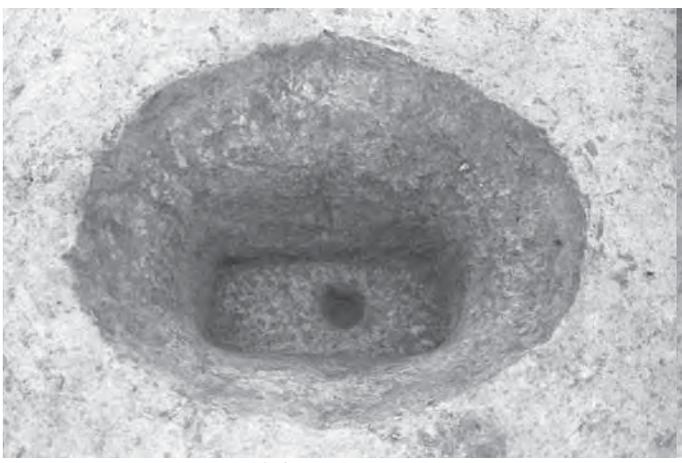


明神台遺跡 3 号住居跡出土遺物

図版 4

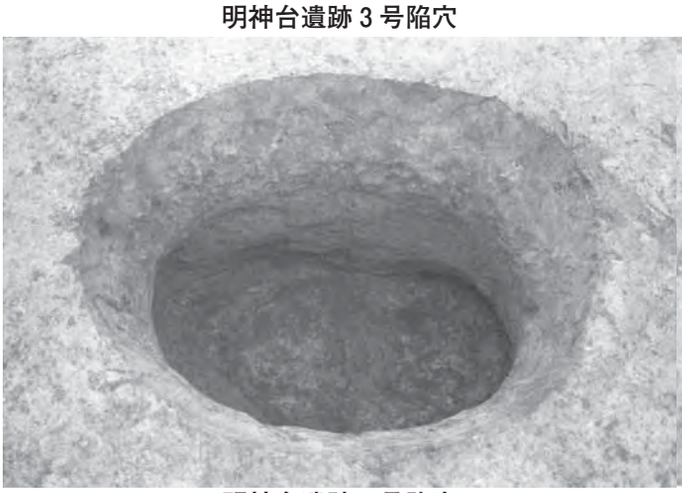
明神台遺跡 1 号陥穴

明神台遺跡 2 号陥穴

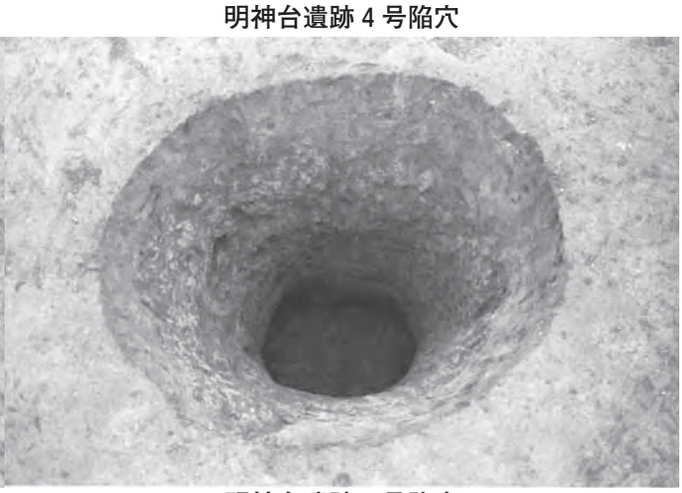


明神台遺跡 3 号陥穴

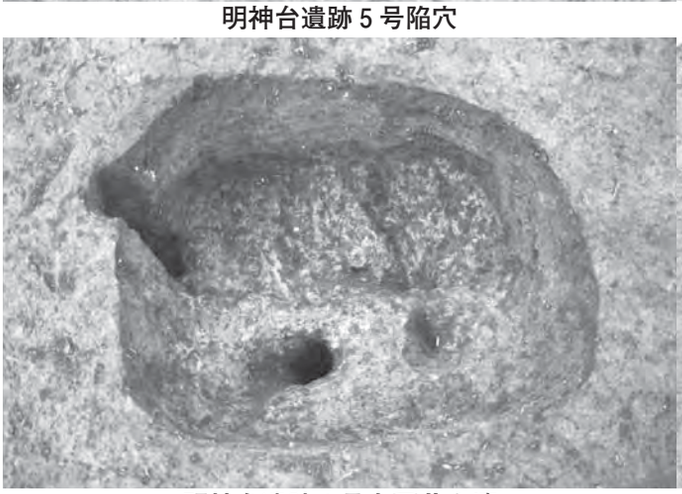
明神台遺跡 4 号陥穴



明神台遺跡 5 号陥穴



明神台遺跡 6 号陥穴



明神台遺跡 1 号有天井土壙

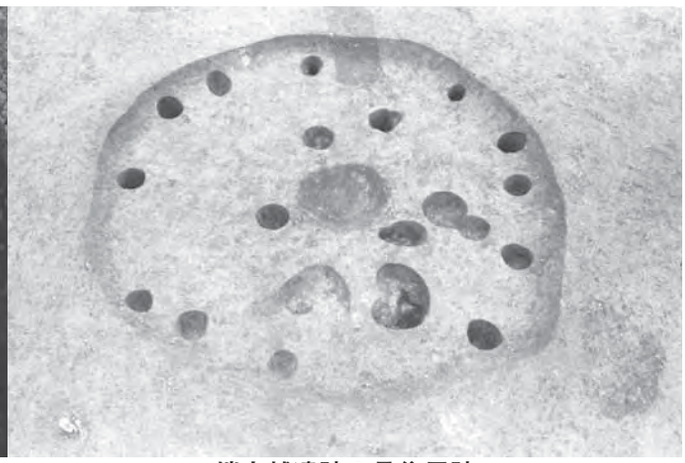
明神台遺跡 1 号方形周溝状遺構

端山越遺跡遠景①（東から）

端山越遺跡遠景②（南東から）

図版 6

端山越遺跡旧石器遺物分布状況



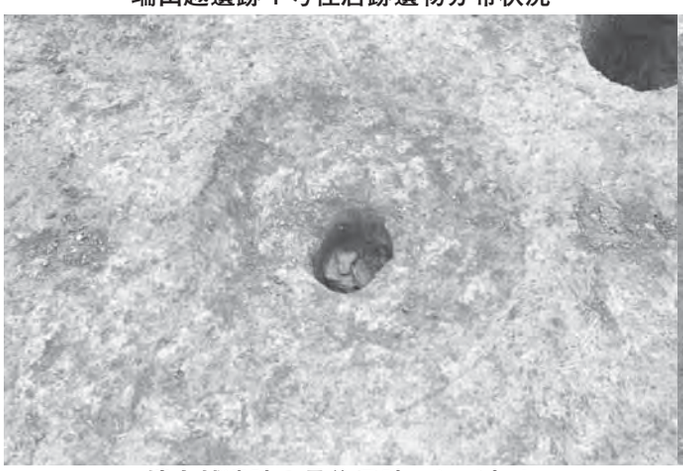
端山越遺跡 2 号住居跡

端山越遺跡 2 号住居跡遺物分布状況

端山越遺跡 1 号住居跡

端山越遺跡 1 号住居跡遺物分布状況

端山越遺跡 3 号住居跡



端山越遺跡 3 号住居跡ロクロピット

端山越遺跡 3 号住居跡遺物分布状況①

端山越遺跡 3 号住居跡遺物分布状況②

端山越遺跡 3 号住居跡遺物分布状況③

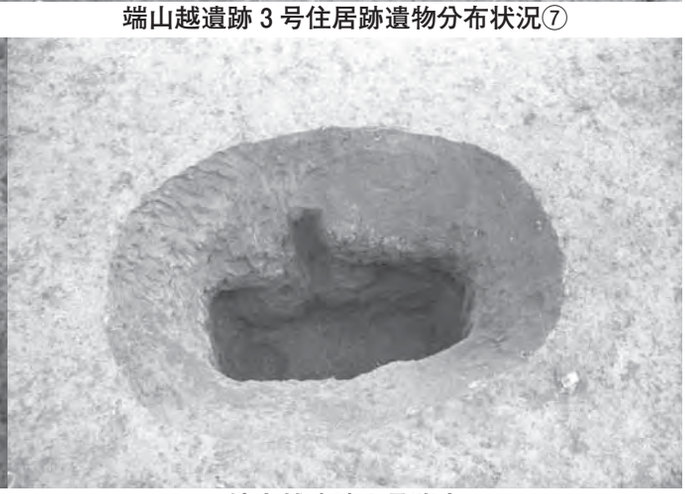
端山越遺跡 3 号住居跡遺物分布状況④

端山越遺跡 3 号住居跡遺物分布状況⑤

端山越遺跡 3 号住居跡遺物分布状況⑥

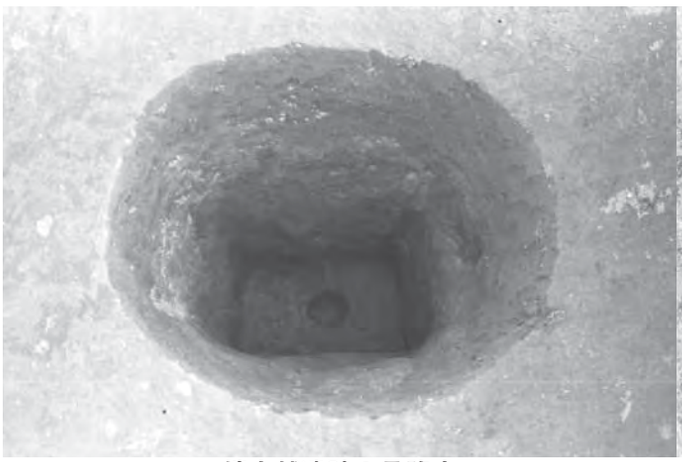
端山越遺跡 3 号住居跡遺物分布状況⑦

端山越遺跡 1 号陥穴



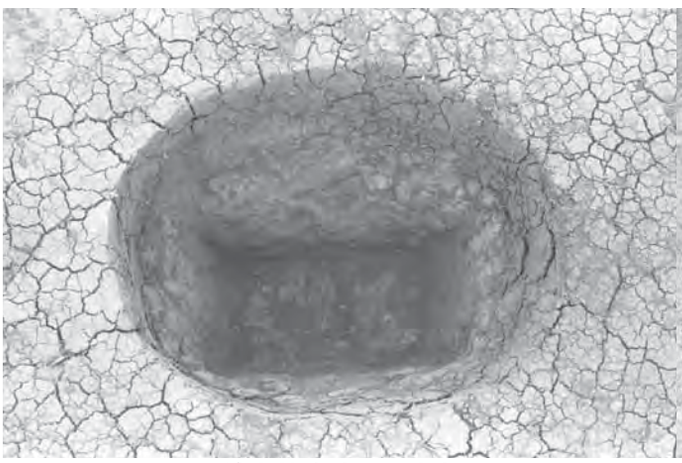
端山越遺跡 2 号陥穴

図版 8



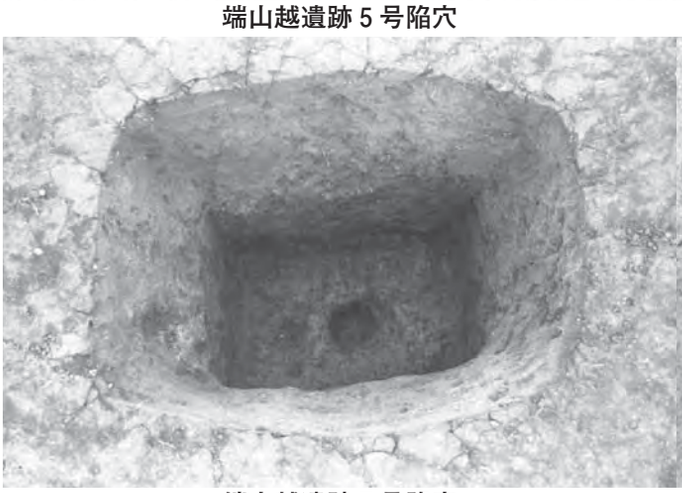
端山越遺跡 3 号陥穴

端山越遺跡 4 号陥穴

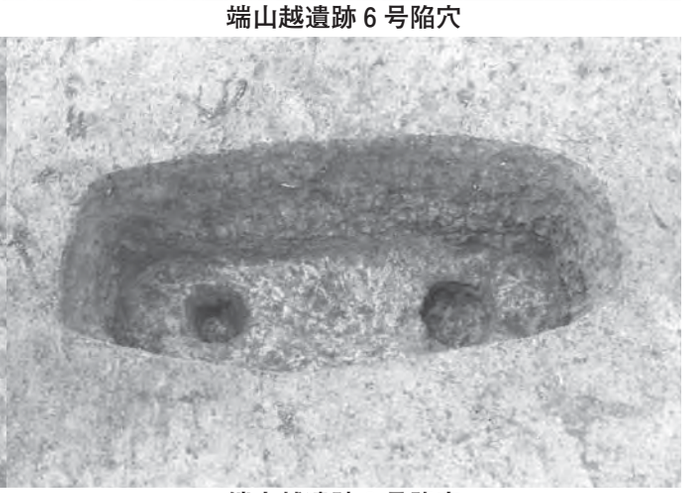


端山越遺跡 5 号陥穴

端山越遺跡 6 号陥穴

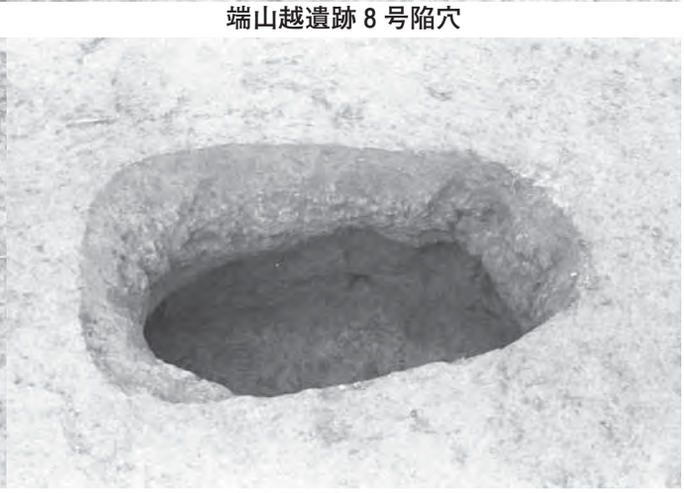


端山越遺跡 7 号陥穴

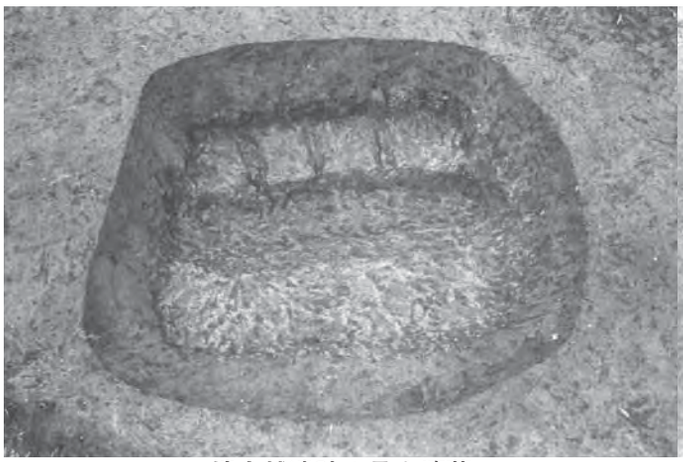


端山越遺跡 8 号陥穴

端山越遺跡 9 号陥穴



端山越遺跡10号陥穴

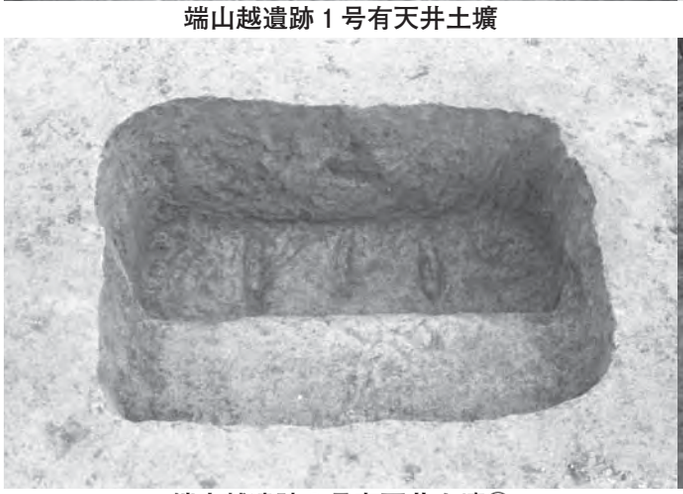


端山越遺跡 1 号土壙墓

端山越遺跡 2 号土壙墓

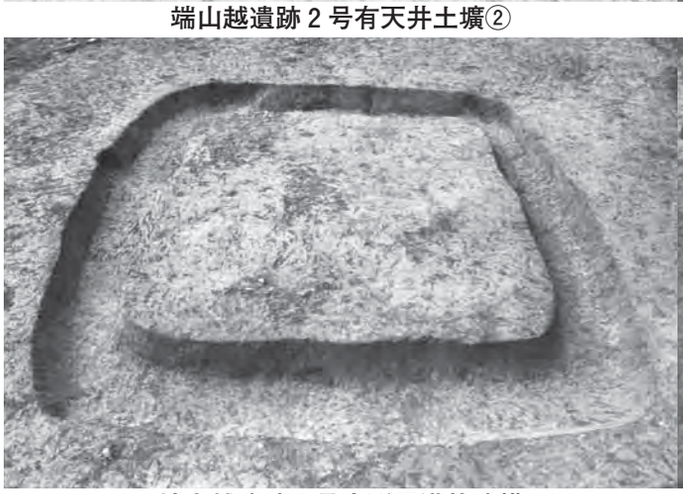
端山越遺跡 1 号有天井土壙

端山越遺跡 2 号有天井土壙①

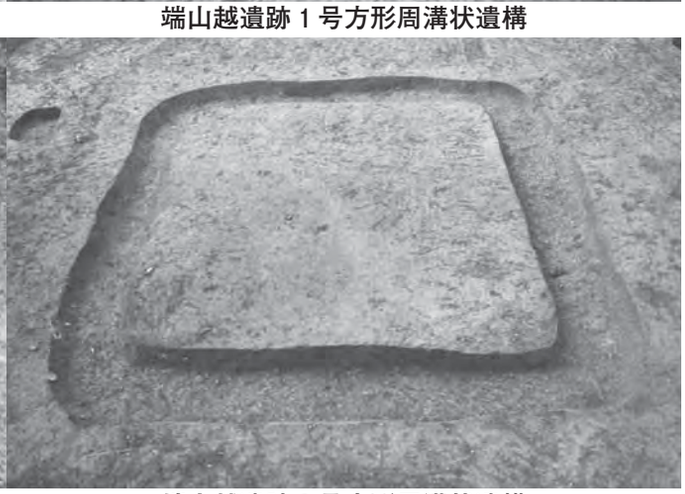


端山越遺跡 2 号有天井土壙②

端山越遺跡 1 号方形周溝状遺構



端山越遺跡 2 号方形周溝状遺構

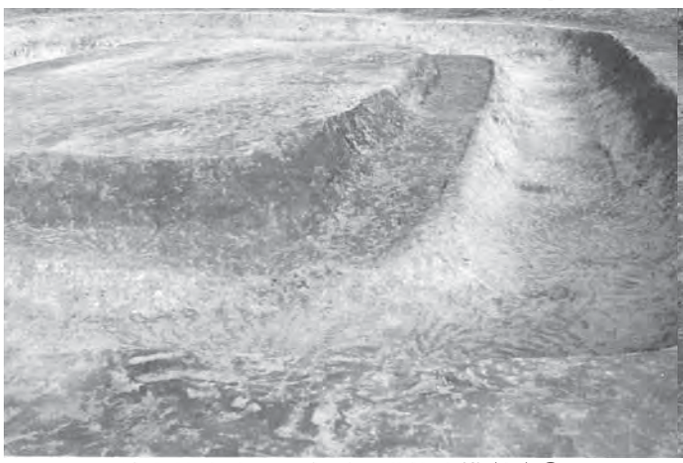


端山越遺跡 3 号方形周溝状遺構

図版10

端山越遺跡 4 号方形周溝状遺構(新)①

端山越遺跡 4 号方形周溝状遺構(新)②



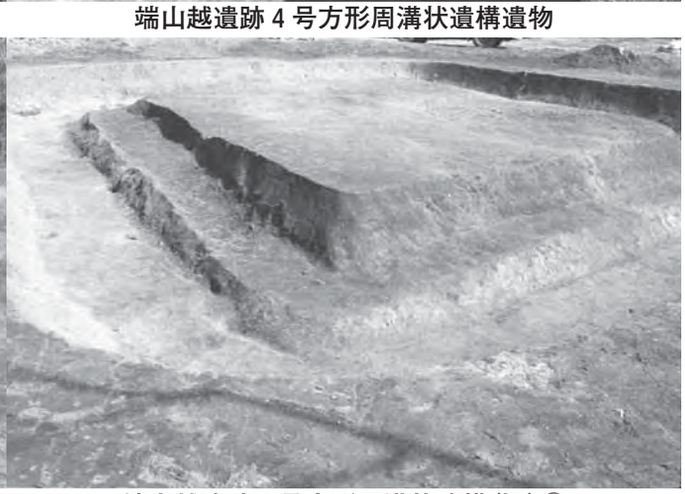
端山越遺跡 4 号方形周溝状遺構(新)③

端山越遺跡 4 号方形周溝状遺構(新)④

端山越遺跡 4 号方形周溝状遺構周辺出土板碑

端山越遺跡 4 号方形周溝状遺構遺物

端山越遺跡 4 号方形周溝状遺構(旧)①



端山越遺跡 4 号方形周溝状遺構(旧)②

端山越遺跡 4 号方形周溝状遺構(旧)③

端山越遺跡 5 号方形周溝状遺構①

端山越遺跡 5 号方形周溝状遺構②

端山越遺跡 5 号方形周溝状遺構③

端山越遺跡 6 号方形周溝状遺構

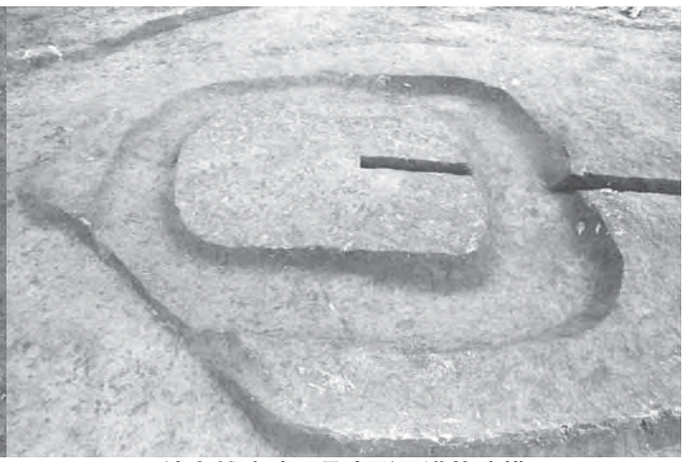
端山越遺跡 7 号方形周溝状遺構

端山越遺跡 8 号方形周溝状遺構

端山越遺跡 9 号方形周溝状遺構①

図版12

端山越遺跡 9 号方形周溝状遺構②



端山越遺跡10号方形周溝状遺構

端山越遺跡11号方形周溝状遺構

端山越遺跡13号方形周溝状遺構①

端山越遺跡13号方形周溝状遺構②

端山越遺跡14号方形周溝状遺構

端山越遺跡15号方形周溝状遺構

端山越遺跡16号方形周溝状遺構

端山越遺跡17号方形周溝状遺構

端山越遺跡18号方形周溝状遺構

端山越遺跡20号方形周溝状遺構

端山越遺跡21号方形周溝状遺構

端山越遺跡12号方形周溝状遺構

図版14

端山越遺跡12号方形周溝状遺構主体部①

端山越遺跡12号方形周溝状遺構主体部②

端山越遺跡12号方形周溝状遺構主体部③

端山越遺跡12号方形周溝状遺構主体部④

端山越遺跡12号方形周溝状遺構主体部粘土分布状況

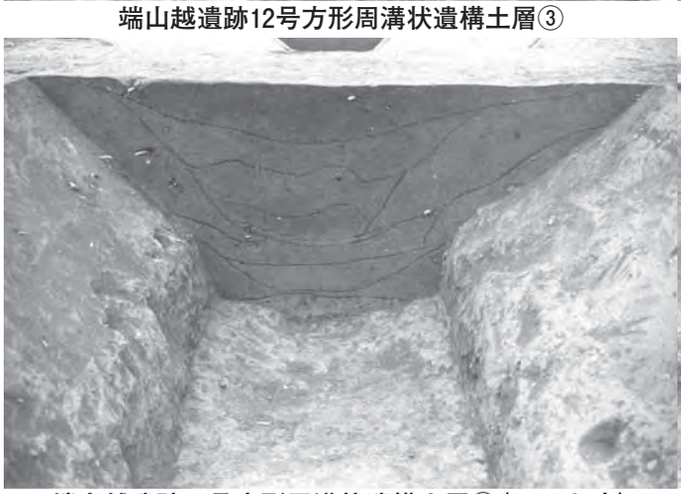
端山越遺跡12号方形周溝状遺構主体部床面

端山越遺跡12号方形周溝状遺構土層①(d－d')

端山越遺跡12号方形周溝状遺構土層②

端山越遺跡12号方形周溝状遺構土層③

端山越遺跡12号方形周溝状遺構土層④(A－A'・西)



端山越遺跡12号方形周溝状遺構土層⑤(A－A'・東)

端山越遺跡12号方形周溝状遺構土層⑥

端山越遺跡12号方形周溝状遺構土層⑦(e－e'・上半)

端山越遺跡12号方形周溝状遺構土層⑧(f－f'・上半)

図版16

大草台古墳群 1 号古墳全景（西から）

大草台古墳群 2 号古墳全景（東から）

大草台古墳群 4 号古墳全景（北から）

大草台古墳群 5 号古墳全景（南から）

図版18

大草台古墳群 7 号古墳全景（北から）

大草台古墳群99-A調査区（ 9 号古墳）全景（東から）

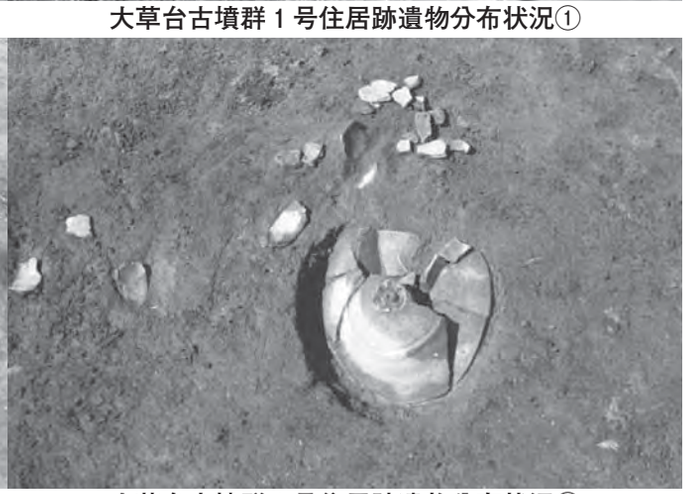
大草台古墳群 2 号住居跡

大草台古墳群 3 号住居跡

大草台古墳群 1 号住居跡

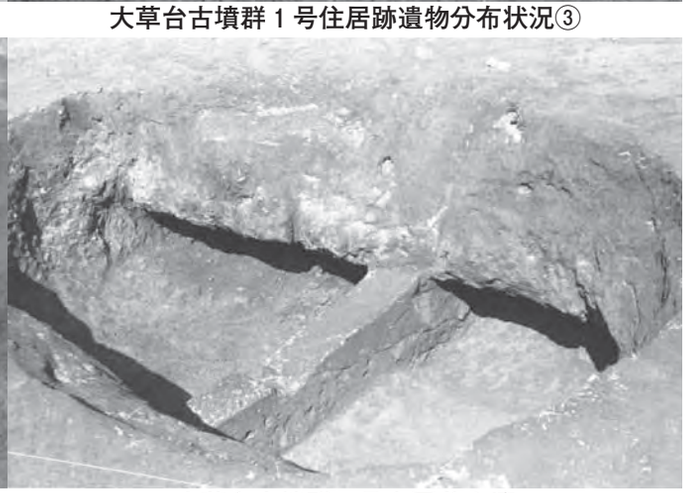
大草台古墳群 1 号住居跡遺物分布状況①

大草台古墳群 1 号住居跡遺物分布状況②



大草台古墳群 1 号住居跡遺物分布状況③

大草台古墳群 1 号住居跡遺物分布状況④



大草台古墳群 1 号有天井土壙

図版20

大草台古墳群 1 号陥穴

大草台古墳群 2 号陥穴

大草台古墳群 1 号土壙墓

大草台古墳群 3 号塚出土土器(近世)

大草台古墳群 1 号古墳内11号土壙

大草台古墳群11号土壙出土常滑甕

大草台古墳群17･27号土壙

大草台古墳群15号土壙

大草台古墳群 1 号古墳調査前①

大草台古墳群 1 号古墳調査前②

大草台古墳群 1 号古墳（平成 8 年度）

大草台古墳群 1 号古墳主体部（1 ～ 3 号）

大草台古墳群 1 号古墳（周溝内東ブリッジ）

大草台古墳群 1 号古墳（周溝内西ブリッジ）

大草台古墳群 2 号古墳調査前

大草台古墳群 2 号古墳①

図版22

大草台古墳群 2 号古墳②

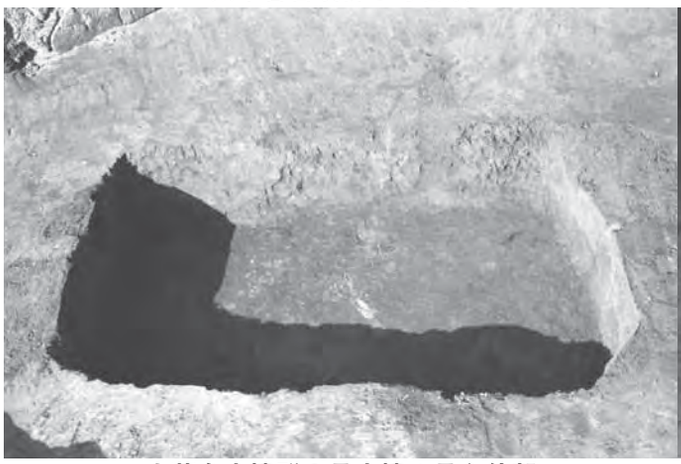
大草台古墳群 2 号古墳③

大草台古墳群 3 号古墳

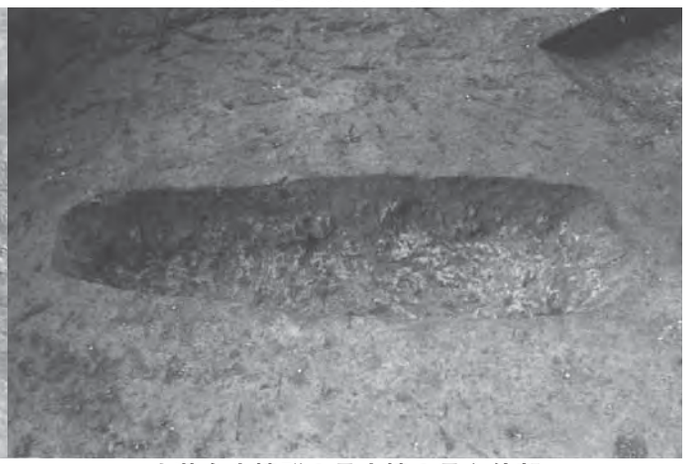
大草台古墳群 4 号古墳

大草台古墳群 5 号古墳

大草台古墳群 7 号古墳



大草台古墳群 2 号古墳 1 号主体部



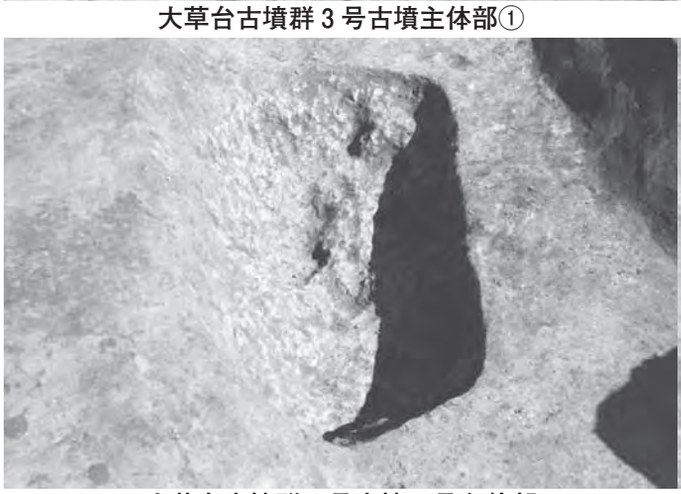
大草台古墳群 2 号古墳 2 号主体部

大草台古墳群 2 号古墳 3 号主体部①

大草台古墳群 2 号古墳 3 号主体部②

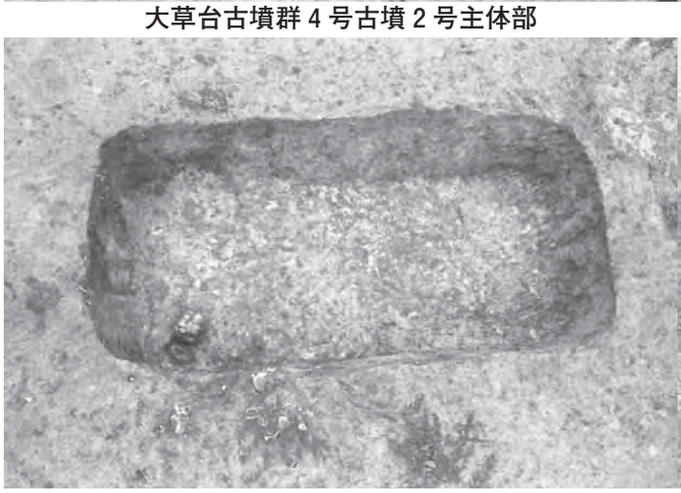
大草台古墳群 3 号古墳主体部①

大草台古墳群 3 号古墳主体部②

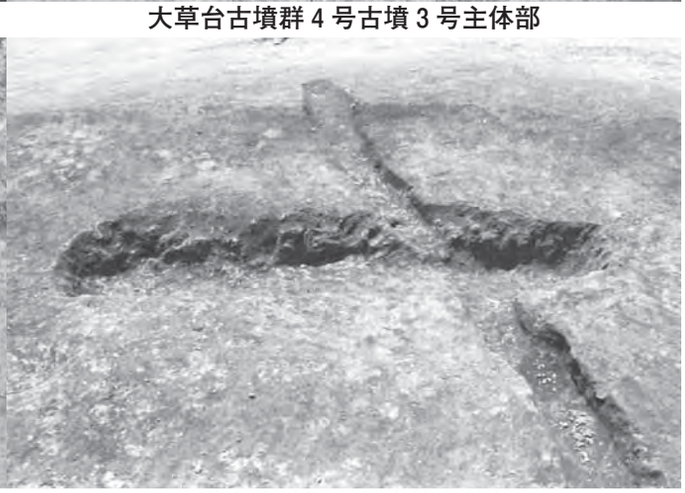


大草台古墳群 4 号古墳 2 号主体部

大草台古墳群 4 号古墳 3 号主体部



大草台古墳群 4 号古墳 5 号主体部



大草台古墳群 7 号古墳主体部

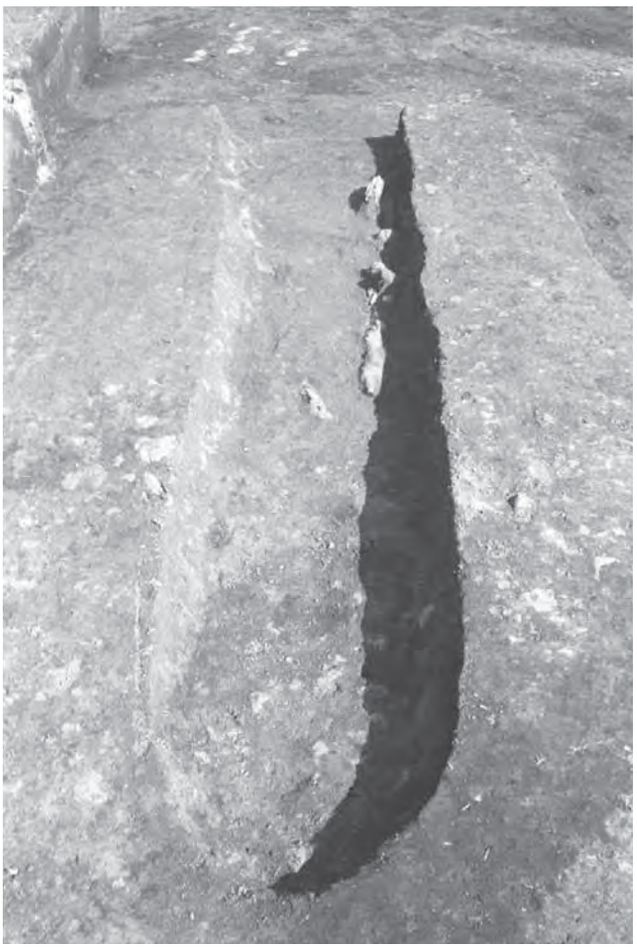
図版24

大草台古墳群 1 号古墳 1 号主体部①

大草台古墳群 1 号古墳 1 号主体部②

大草台古墳群 1 号古墳 1 号主体部③

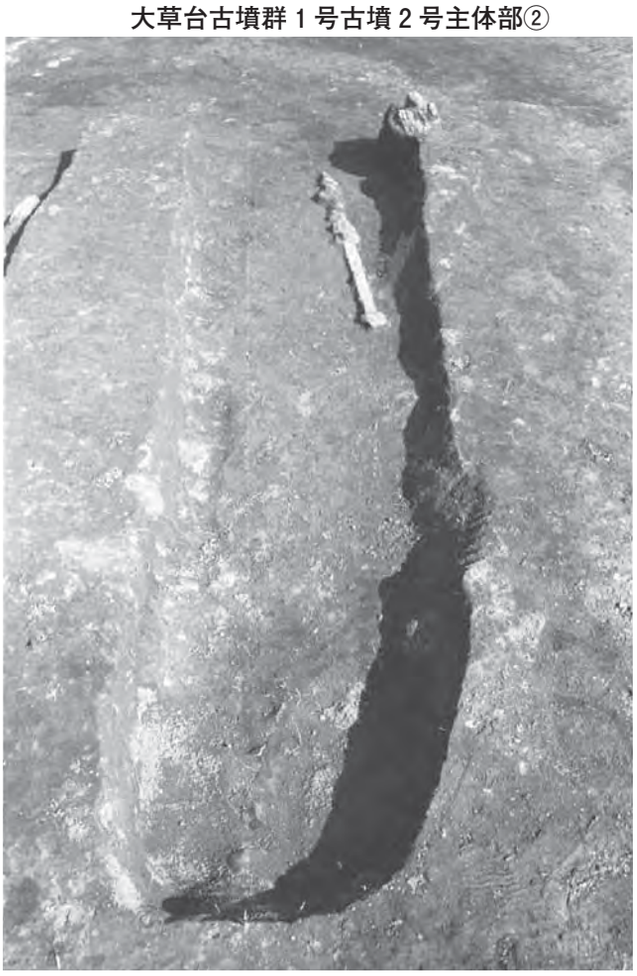
大草台古墳群 1 号古墳 2 号主体部①



大草台古墳群 1 号古墳 2 号主体部②

大草台古墳群 1 号古墳 2 号主体部③

大草台古墳群 1 号古墳 2 号主体部④



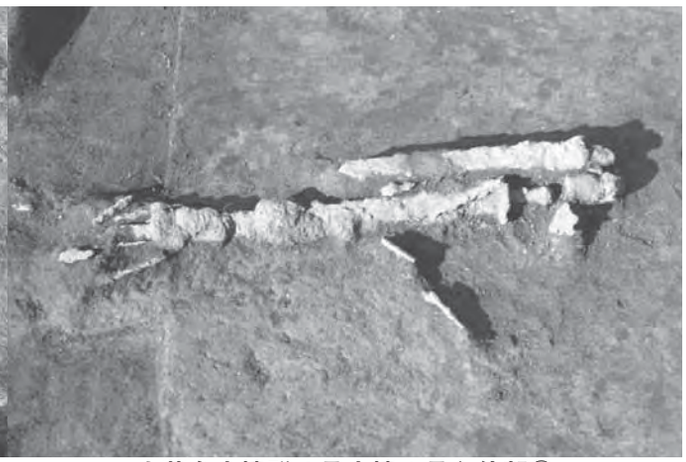
大草台古墳群 1 号古墳 3 号主体部①

大草台古墳群 1 号古墳 3 号主体部②

大草台古墳群 1 号古墳 3 号主体部③

図版26

大草台古墳群 4 号古墳 1 号主体部①



大草台古墳群 4 号古墳 1 号主体部②

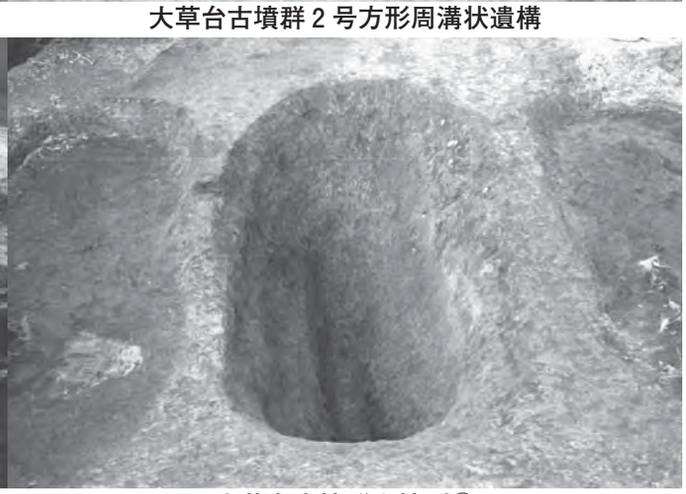
大草台古墳群 1 号円形周溝状遺構

大草台古墳群 2 号円形周溝状遺構

大草台古墳群 1 号方形周溝状遺構

大草台古墳群 2 号方形周溝状遺構

大草台古墳群土坑列①

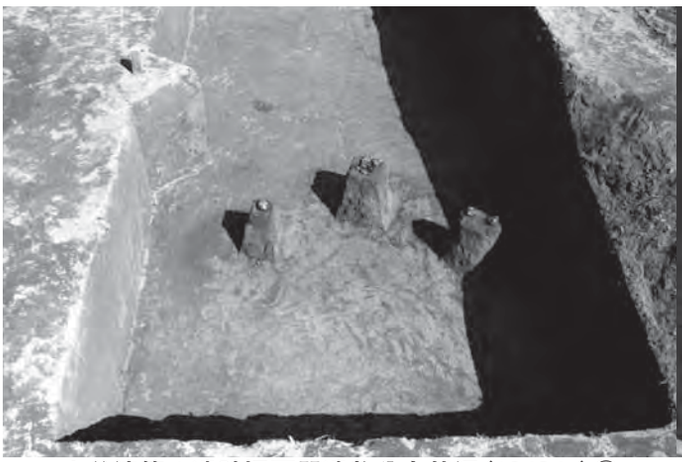


大草台古墳群土坑列②

上谷津第１遺跡遠景①〈平成10年度撮影〉　（南から）

上谷津第１遺跡遠景②〈平成12年度撮影〉　（南東から）

図版28



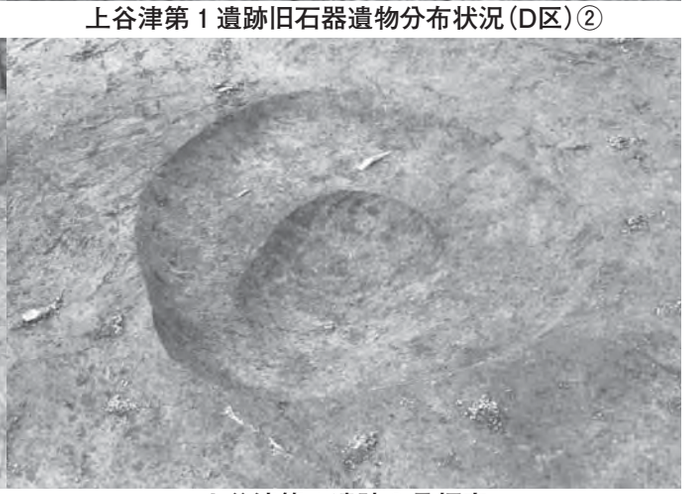
上谷津第 1 遺跡旧石器遺物分布状況（10J84a）①

上谷津第 1 遺跡旧石器遺物分布状況（10J84a）②

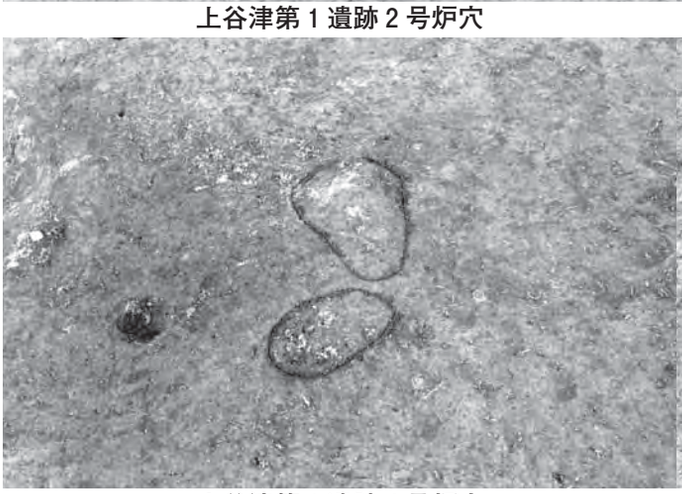
上谷津第 1 遺跡旧石器遺物分布状況（D区）①

上谷津第 1 遺跡旧石器遺物分布状況（D区）②

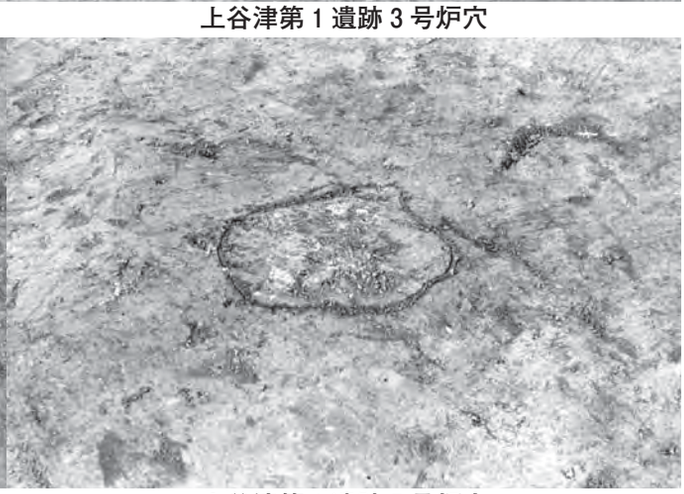
上谷津第 1 遺跡 2 号炉穴



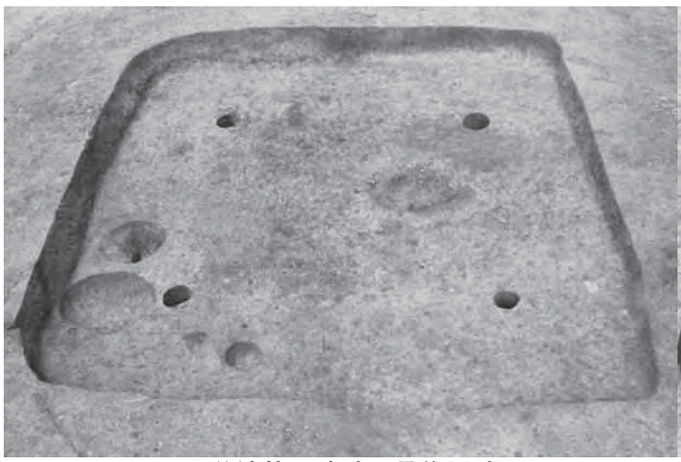
上谷津第 1 遺跡 3 号炉穴



上谷津第 1 遺跡 4 号炉穴



上谷津第 1 遺跡 5 号炉穴



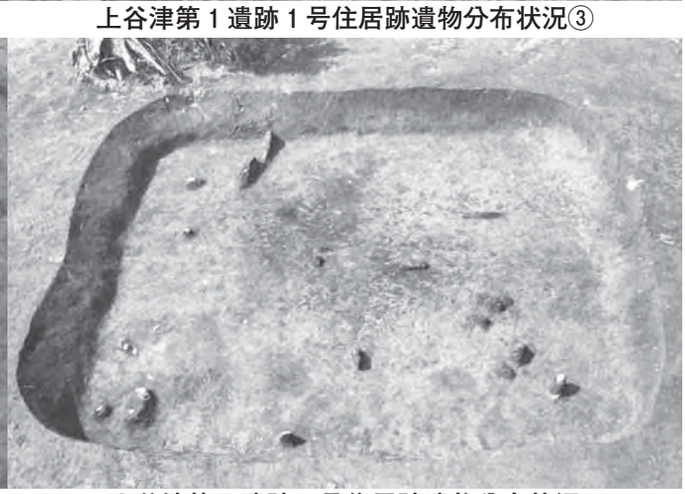
上谷津第 1 遺跡 1 号住居跡

上谷津第 1 遺跡 1 号住居跡遺物分布状況①

上谷津第 1 遺跡 1 号住居跡遺物分布状況②

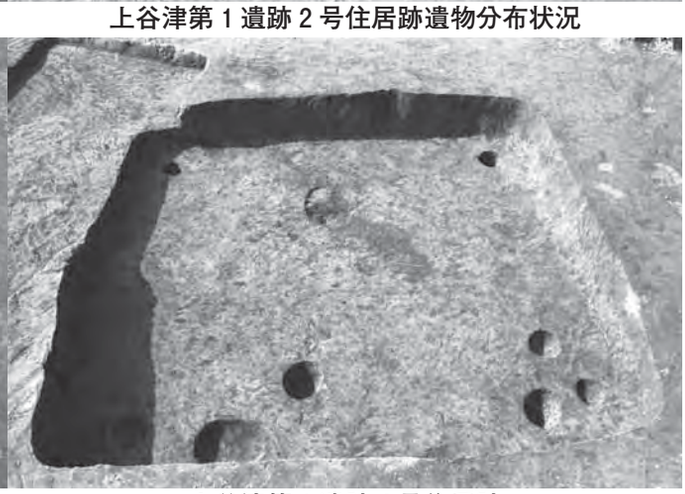
上谷津第 1 遺跡 1 号住居跡遺物分布状況③

上谷津第 1 遺跡 2 号住居跡



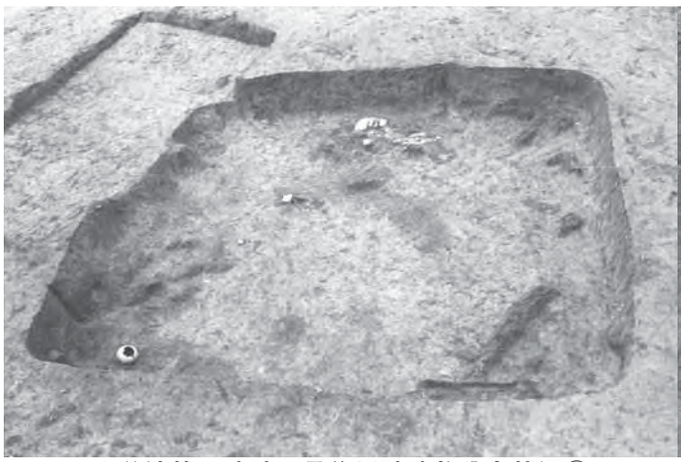
上谷津第 1 遺跡 2 号住居跡遺物分布状況

上谷津第 1 遺跡 3 号住居跡



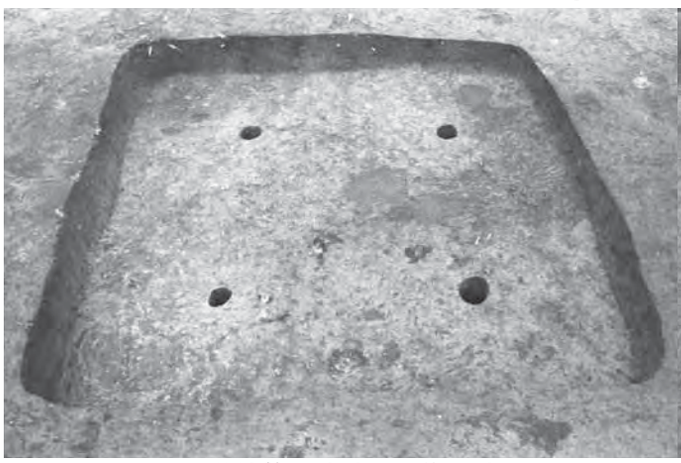
上谷津第 1 遺跡 4 号住居跡

図版30

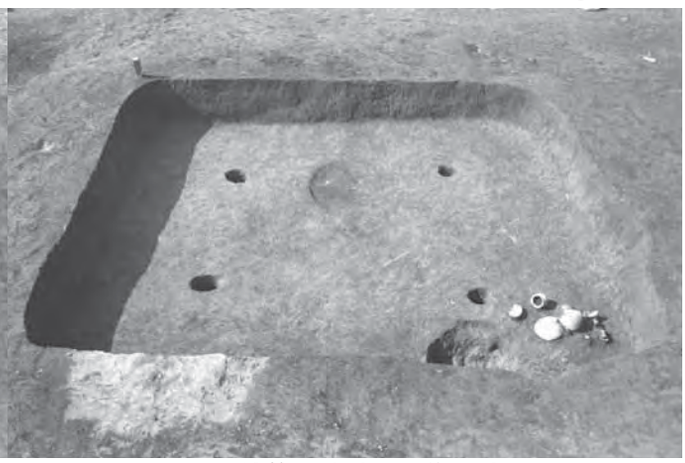


上谷津第 1 遺跡 4 号住居跡遺物分布状況①

上谷津第 1 遺跡 4 号住居跡遺物分布状況②



上谷津第 1 遺跡 5 号住居跡



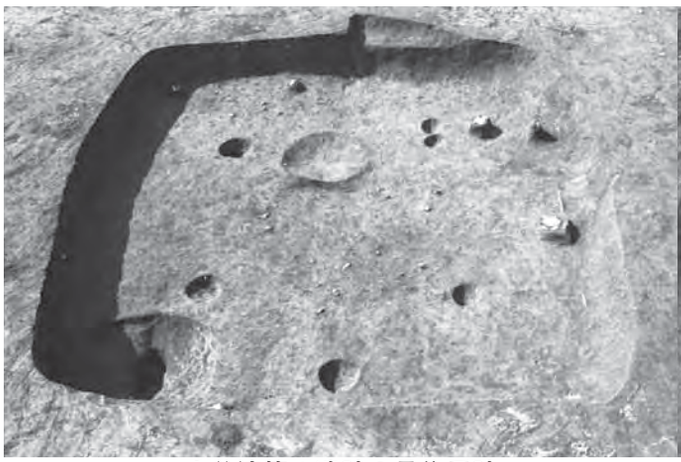
上谷津第 1 遺跡 6 号住居跡

上谷津第 1 遺跡 6 号住居跡遺物分布状況①

上谷津第 1 遺跡 6 号住居跡遺物分布状況②

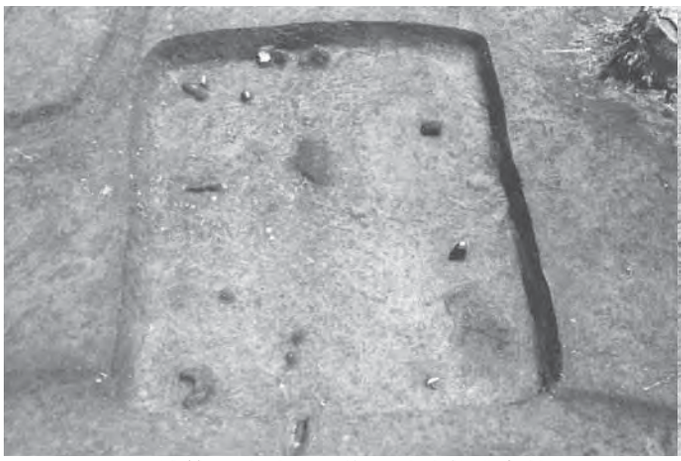
上谷津第 1 遺跡 7 号住居跡

上谷津第 1 遺跡 7 号住居跡遺物分布状況

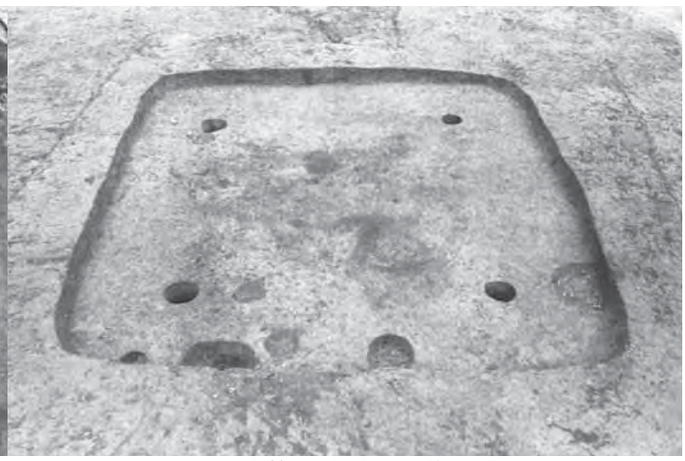


上谷津第 1 遺跡 8 号住居跡

上谷津第 1 遺跡 9 号住居跡

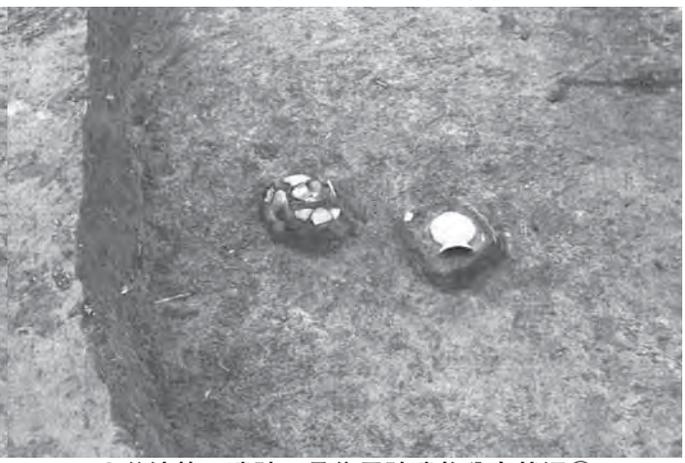


上谷津第 1 遺跡 9 号住居跡遺物分布状況

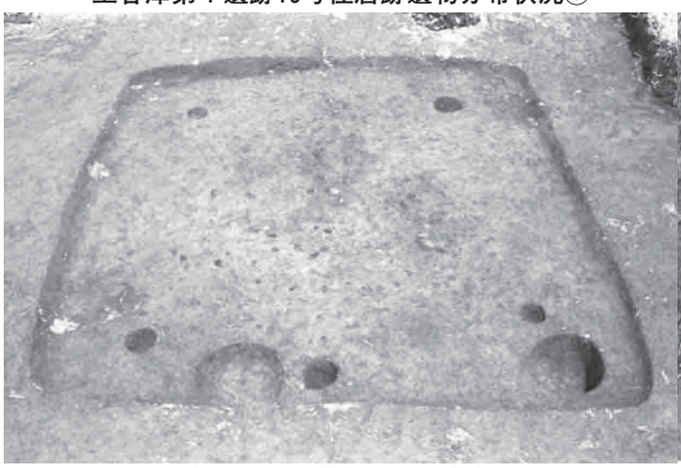


上谷津第 1 遺跡10号住居跡

上谷津第 1 遺跡10号住居跡遺物分布状況①



上谷津第 1 遺跡10号住居跡遺物分布状況②

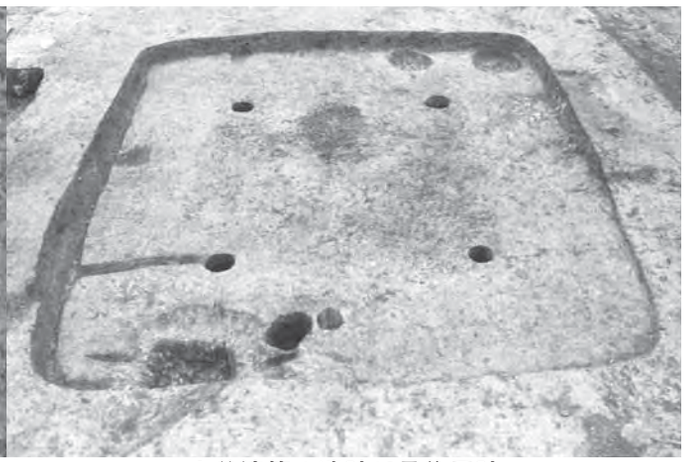


上谷津第 1 遺跡11号住居跡

上谷津第 1 遺跡11号住居跡遺物分布状況①

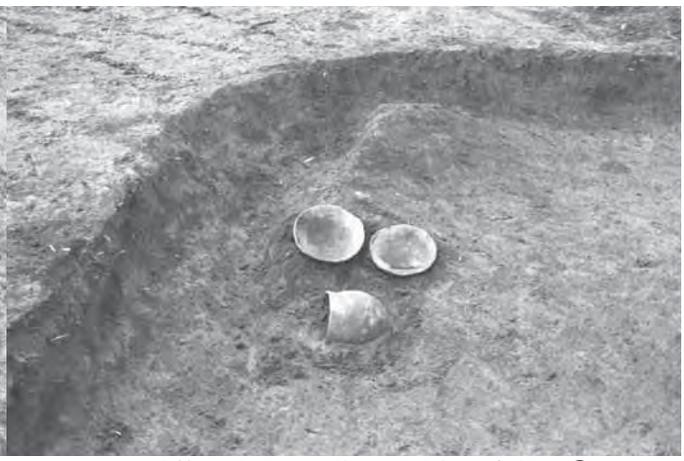
図版32

上谷津第１遺跡11号住居跡遺物分布状況②



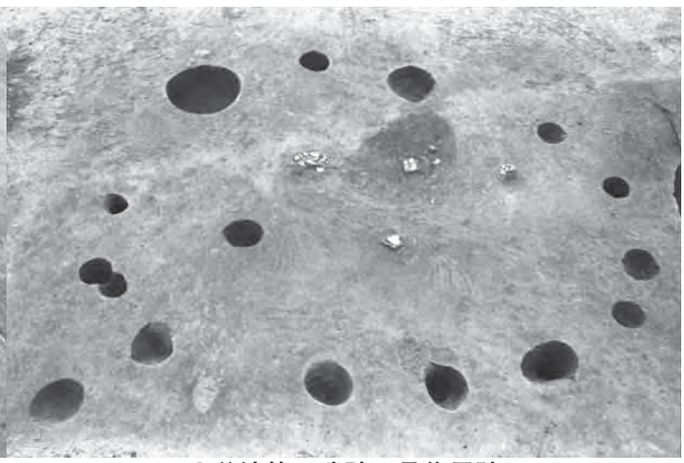
上谷津第１遺跡12号住居跡

上谷津第１遺跡12号住居跡遺物分布状況①



上谷津第１遺跡12号住居跡遺物分布状況②

上谷津第１遺跡13号住居跡

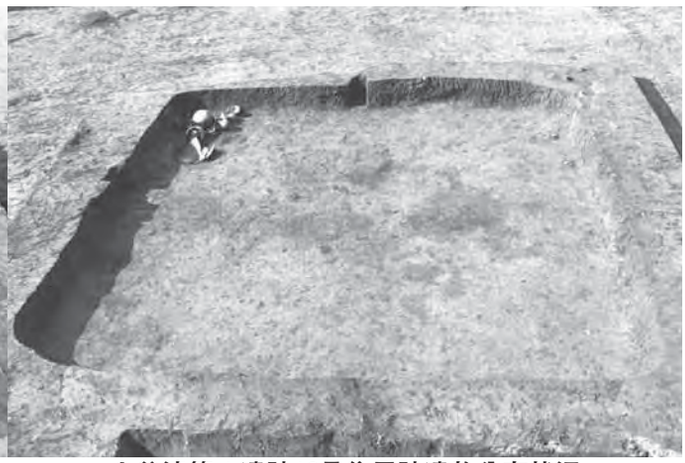


上谷津第１遺跡14号住居跡

上谷津第１遺跡15号住居跡

上谷津第１遺跡15号住居跡遺物分布状況

上谷津第 1 遺跡16号住居跡



上谷津第 1 遺跡16号住居跡遺物分布状況

上谷津第 1 遺跡16号住居跡遺物出土状況①

上谷津第 1 遺跡16号住居跡遺物出土状況②

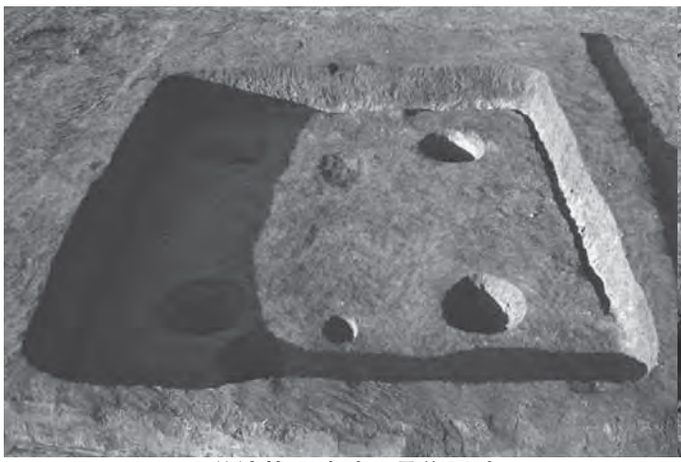
上谷津第 1 遺跡16号住居跡遺物出土状況③

上谷津第 1 遺跡16号住居跡遺物出土状況④

上谷津第 1 遺跡16号住居跡遺物出土状況⑤

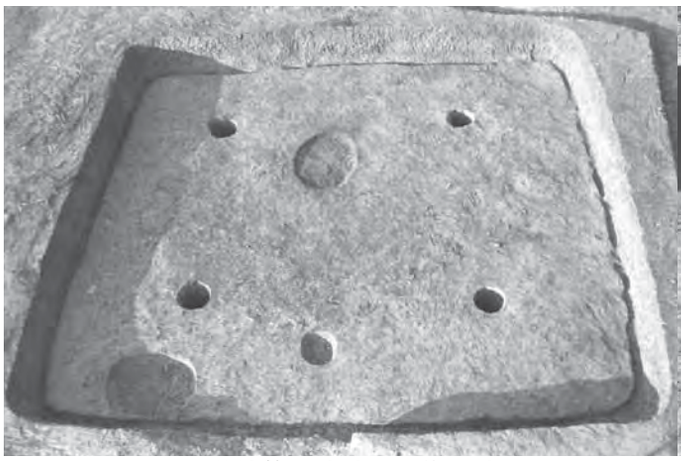
上谷津第 1 遺跡16号住居跡遺物出土状況⑥

図版34



上谷津第１遺跡17号住居跡

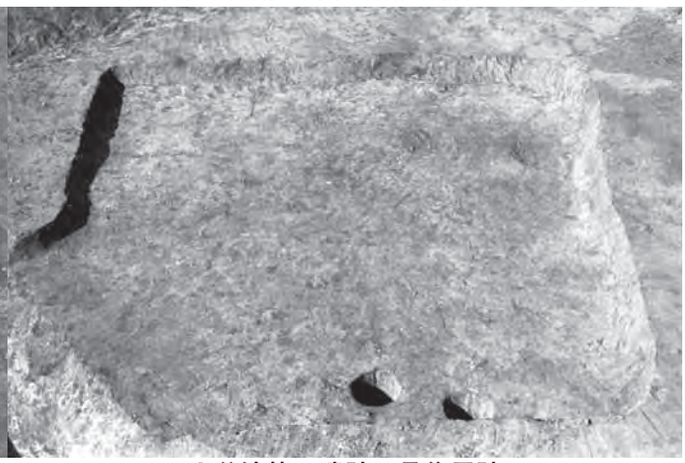
上谷津第１遺跡18号住居跡



上谷津第１遺跡19号住居跡

上谷津第１遺跡19号住居跡遺物出土状況①

上谷津第１遺跡19号住居跡遺物出土状況②

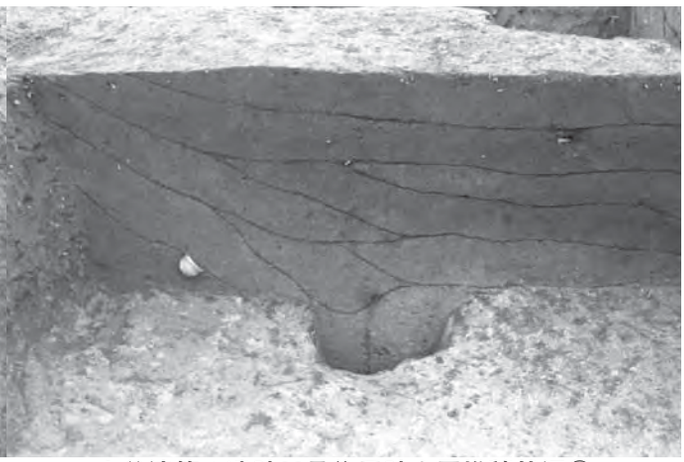


上谷津第１遺跡20号住居跡

上谷津第１遺跡21号住居跡

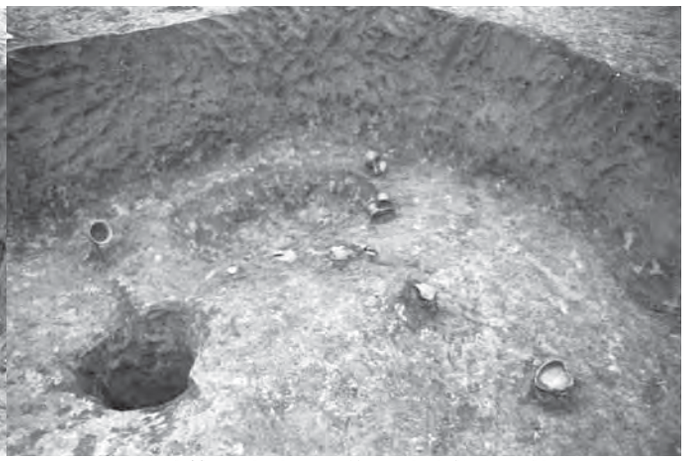
上谷津第１遺跡21号住居跡遺物出土状況

上谷津第 1 遺跡22号住居跡

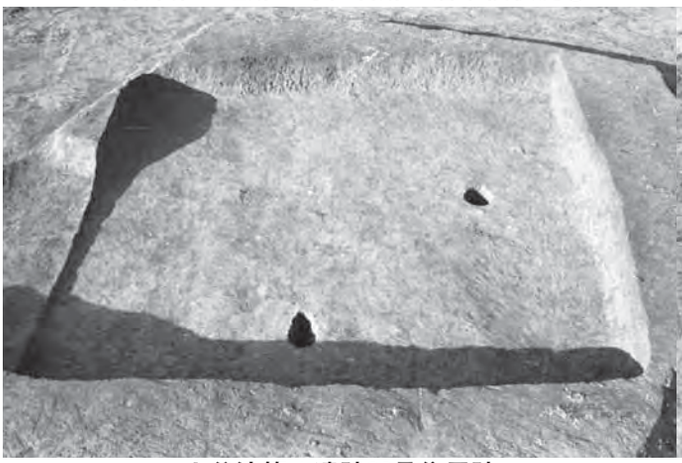


上谷津第 1 遺跡22号住居跡土層堆積状況①

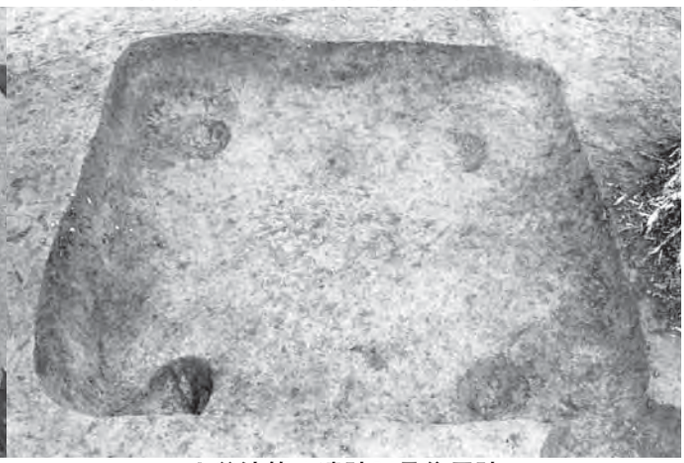
上谷津第 1 遺跡22号住居跡土層堆積状況②



上谷津第 1 遺跡22号住居跡遺物出土状況



上谷津第 1 遺跡23号住居跡



上谷津第 1 遺跡24号住居跡

上谷津第 1 遺跡24号住居跡遺物分布状況

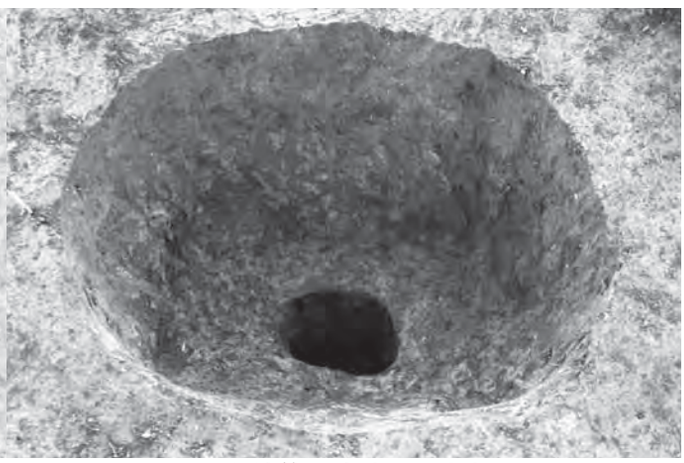
上谷津第 1 遺跡24号住居跡土層堆積状況

図版36

上谷津第 1 遺跡 1 号陥穴

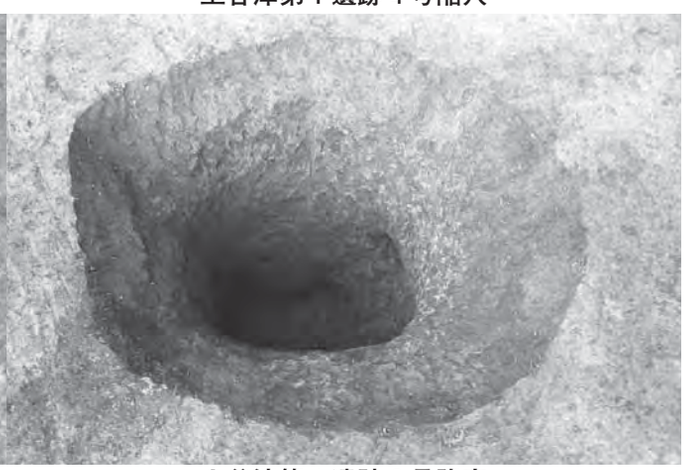
上谷津第 1 遺跡 2 号陥穴

上谷津第 1 遺跡 3 号陥穴

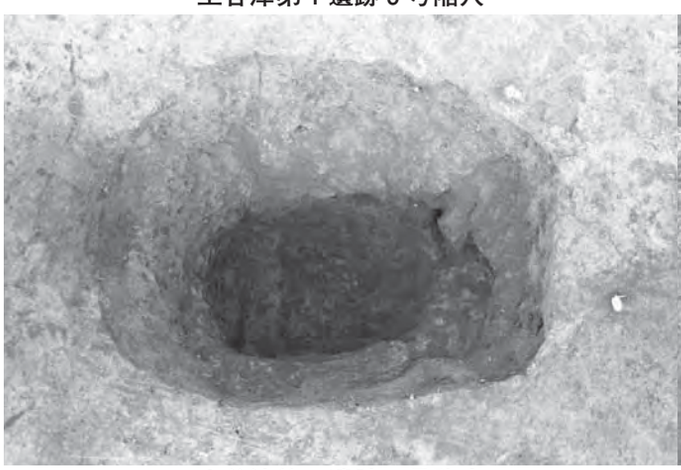


上谷津第 1 遺跡 4 号陥穴

上谷津第 1 遺跡 5 号陥穴

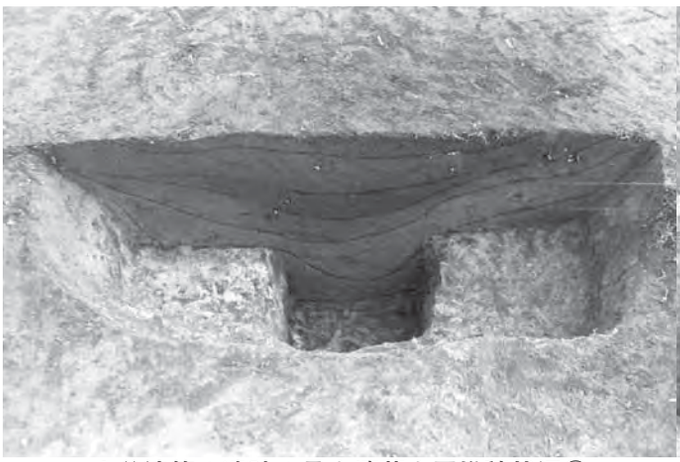


上谷津第 1 遺跡 6 号陥穴



上谷津第 1 遺跡 7 号陥穴

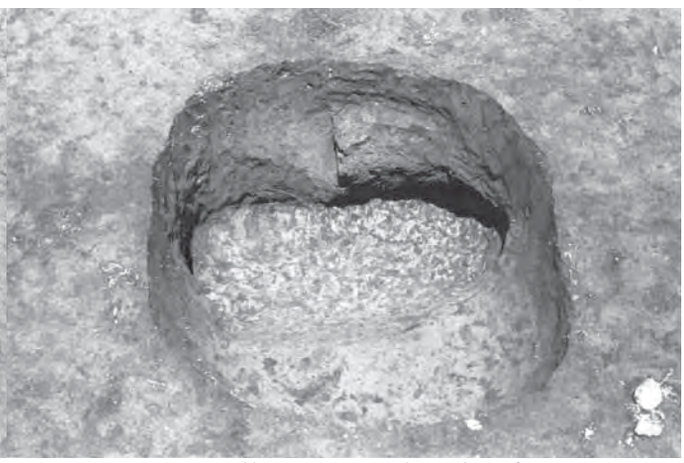
上谷津第 1 遺跡 1 号土壙墓



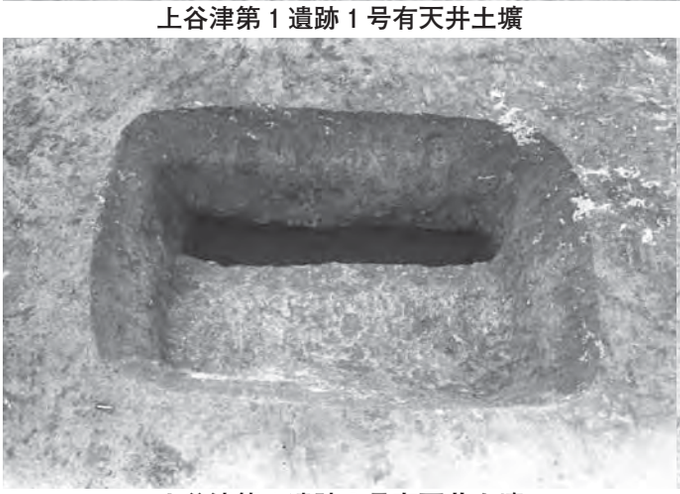
上谷津第 1 遺跡 1 号土壙墓土層堆積状況①

上谷津第 1 遺跡 1 号土壙墓土層堆積状況②

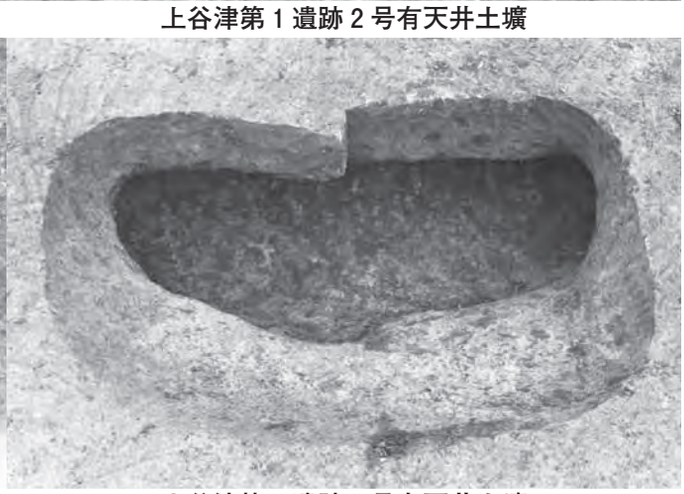
上谷津第 1 遺跡 1 号有天井土壙



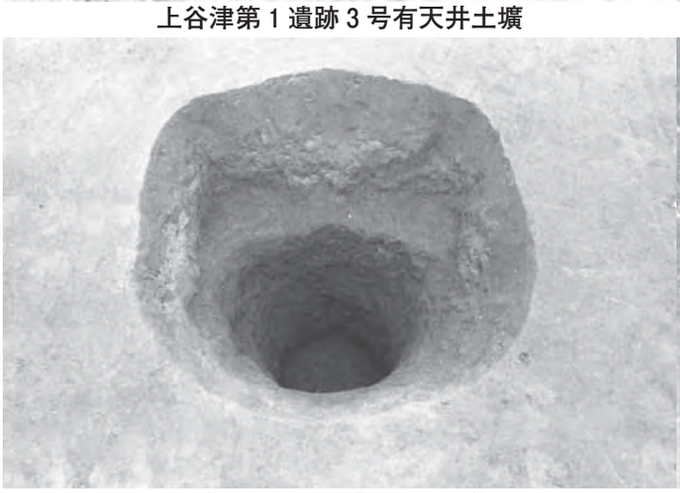
上谷津第 1 遺跡 2 号有天井土壙



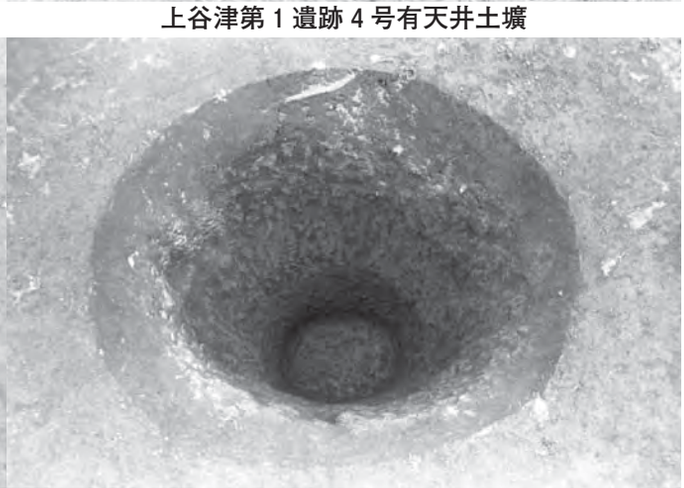
上谷津第 1 遺跡 3 号有天井土壙



上谷津第 1 遺跡 4 号有天井土壙



上谷津第 1 遺跡21号土壙



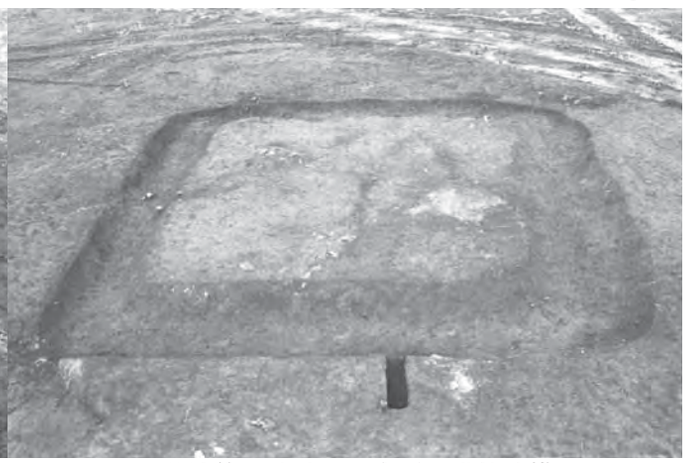
上谷津第 1 遺跡39号土壙

図版38

上谷津第 1 遺跡 1 号円形周溝状遺構

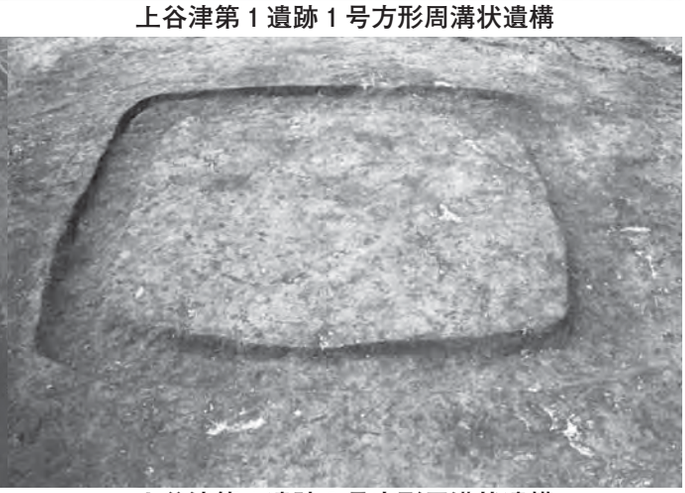
上谷津第 1 遺跡 1 号円形周溝状遺構遺物出土状況①

上谷津第 1 遺跡 1 号円形周溝状遺構遺物出土状況②



上谷津第 1 遺跡 1 号方形周溝状遺構

上谷津第 1 遺跡 1 号方形周溝状遺構遺物出土状況



上谷津第 1 遺跡 2 号方形周溝状遺構

上谷津第 1 遺跡 3 号方形周溝状遺構

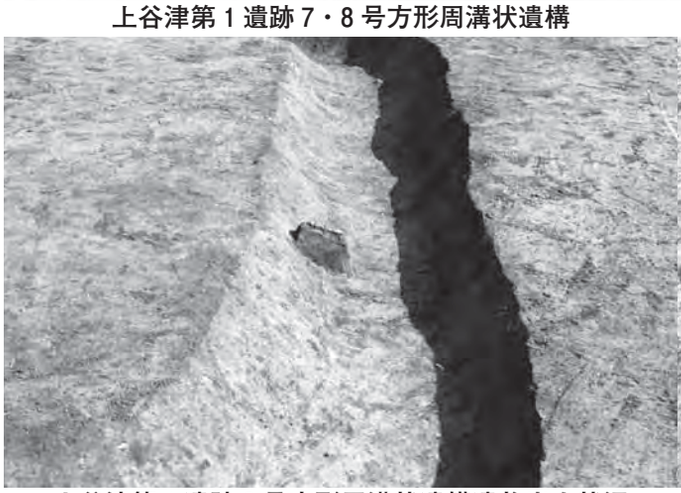
上谷津第 1 遺跡 4 号方形周溝状遺構

上谷津第 1 遺跡 5 号方形周溝状遺構

上谷津第 1 遺跡 6 号方形周溝状遺構

上谷津第 1 遺跡 7・8 号方形周溝状遺構

上谷津第 1 遺跡 7 号方形周溝状遺構



上谷津第 1 遺跡 8 号方形周溝状遺構遺物出土状況

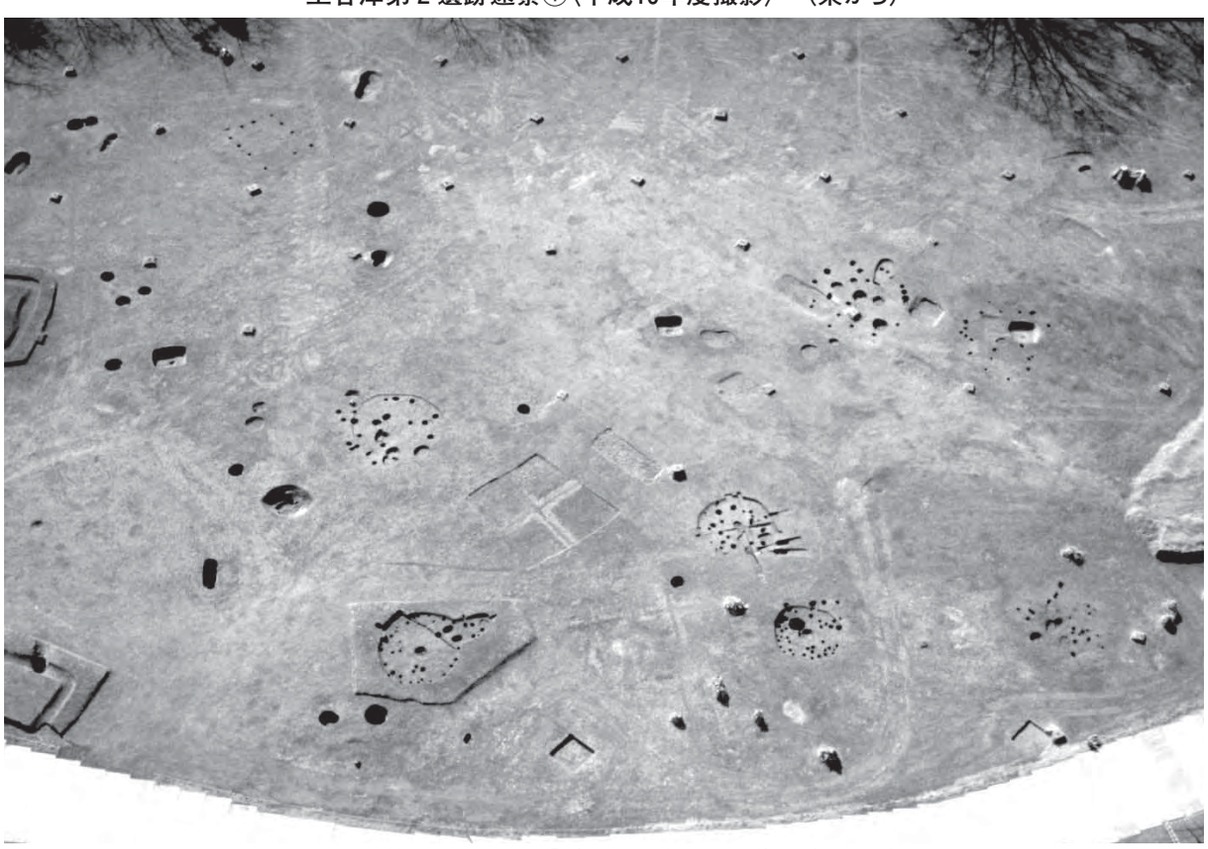
上谷津第 1 遺跡 9 号方形周溝状遺構

上谷津第 1 遺跡10号方形周溝状遺構

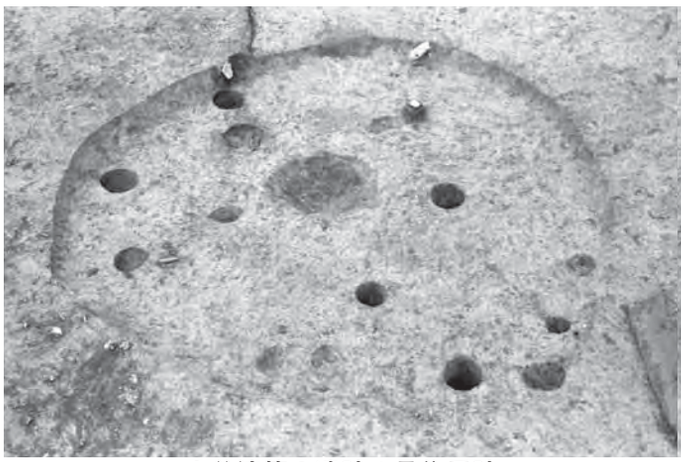
上谷津第 1 遺跡11号方形周溝状遺構

図版40

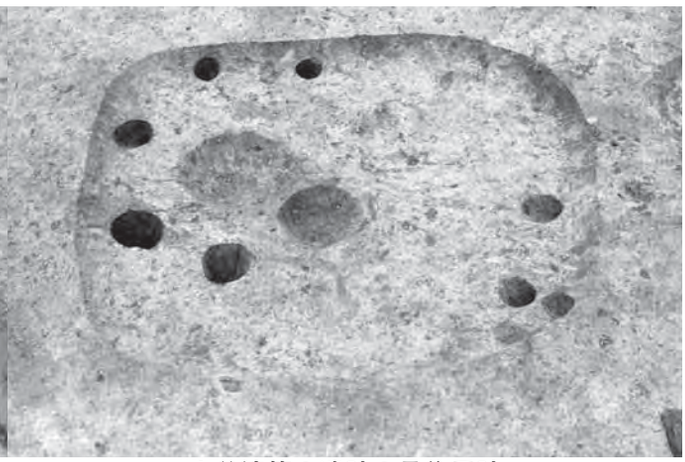
上谷津第２遺跡遠景①〈平成10年度撮影〉　（東から）



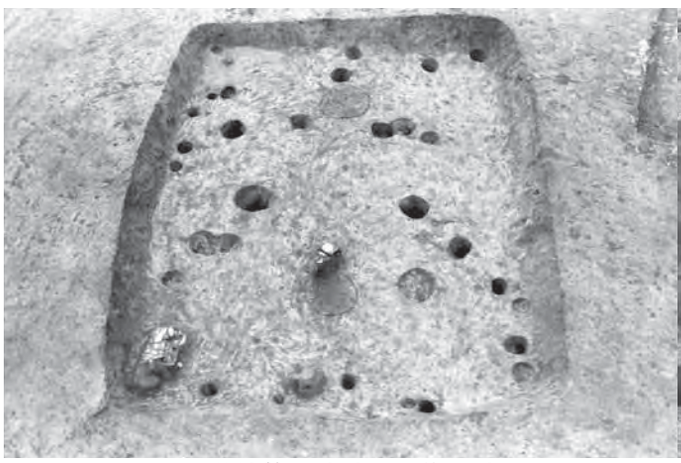
上谷津第２遺跡遠景②〈平成10年度撮影〉　（北から）



上谷津第 2 遺跡 1 号住居跡

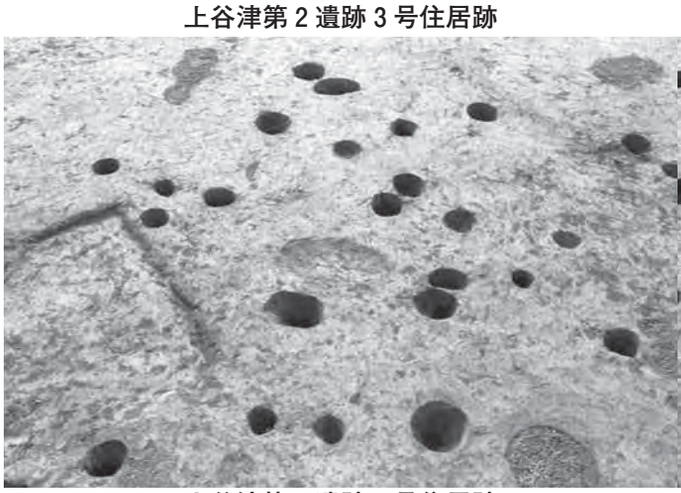


上谷津第 2 遺跡 2 号住居跡

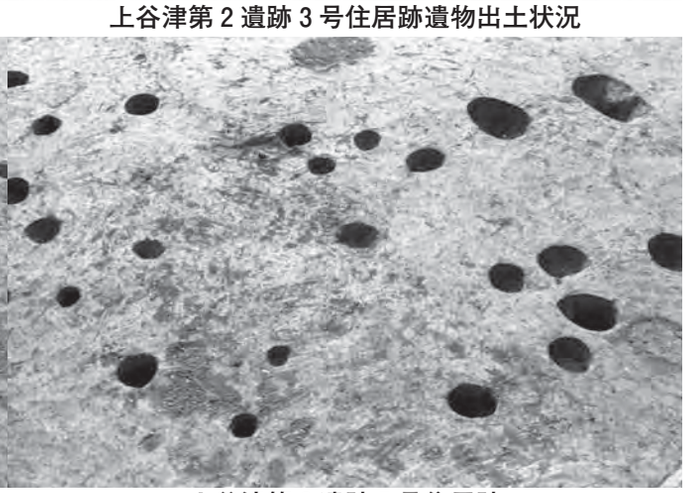


上谷津第 2 遺跡 3 号住居跡

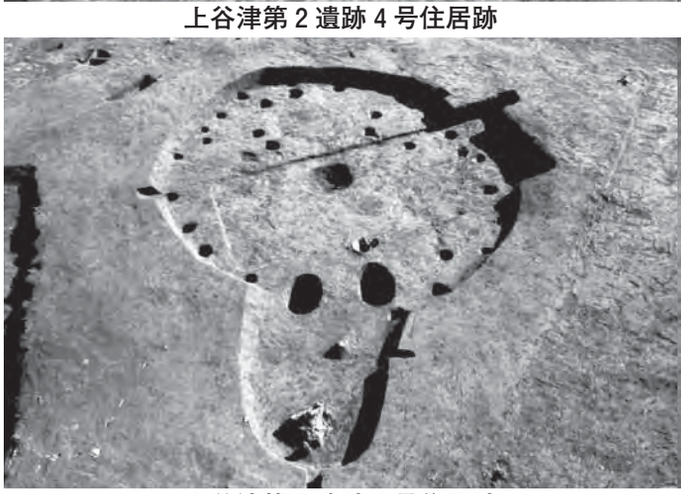
上谷津第 2 遺跡 3 号住居跡遺物出土状況



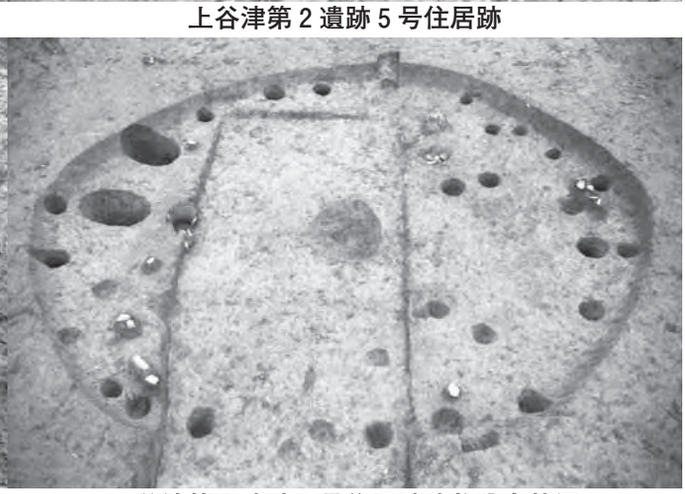
上谷津第 2 遺跡 4 号住居跡



上谷津第 2 遺跡 5 号住居跡

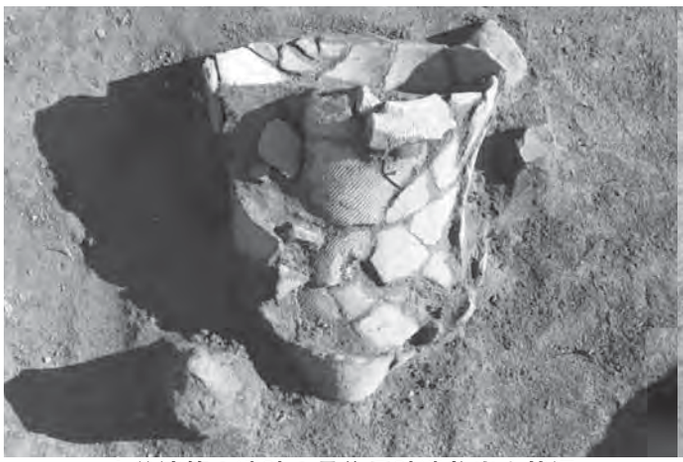


上谷津第 2 遺跡 6 号住居跡

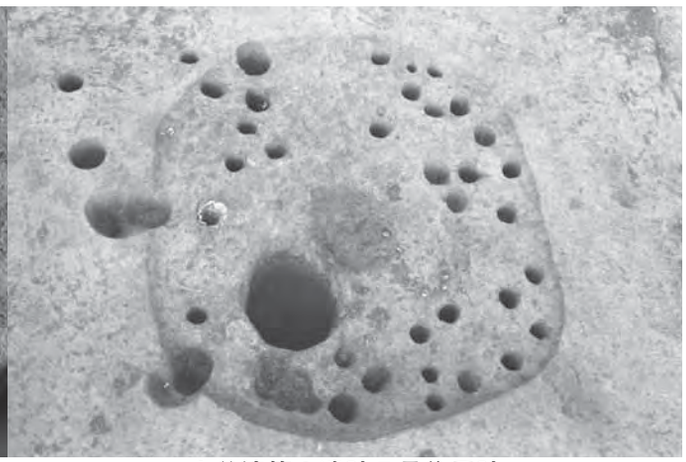


上谷津第 2 遺跡 6 号住居跡遺物分布状況

図版42



上谷津第 2 遺跡 6 号住居跡遺物出土状況

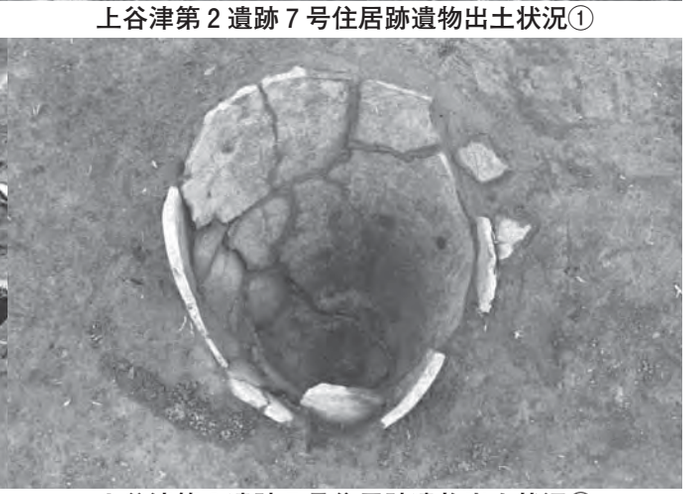


上谷津第 2 遺跡 7 号住居跡

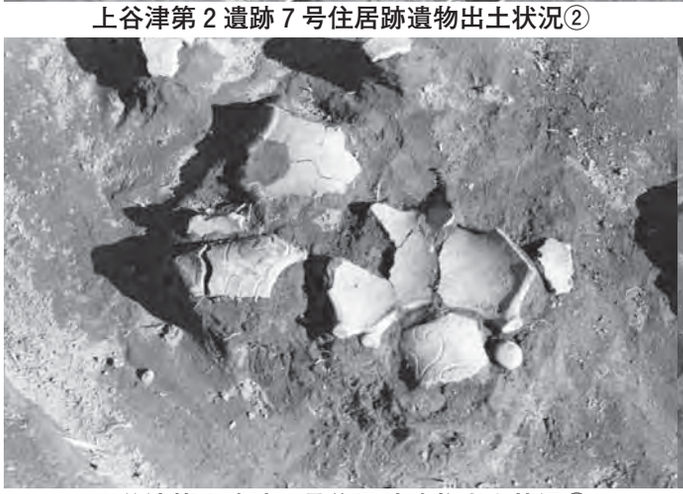
上谷津第 2 遺跡 7 号住居跡遺物分布状況

上谷津第 2 遺跡 7 号住居跡遺物出土状況①

上谷津第 2 遺跡 7 号住居跡遺物出土状況②

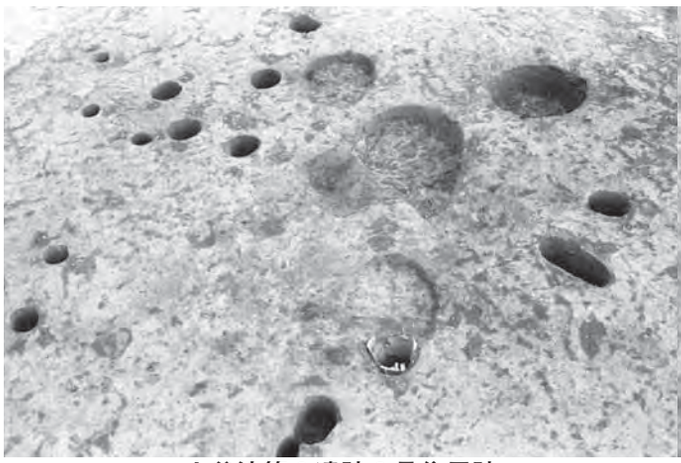


上谷津第 2 遺跡 7 号住居跡遺物出土状況③



上谷津第 2 遺跡 7 号住居跡遺物出土状況④

上谷津第 2 遺跡 7 号住居跡遺物出土状況⑤



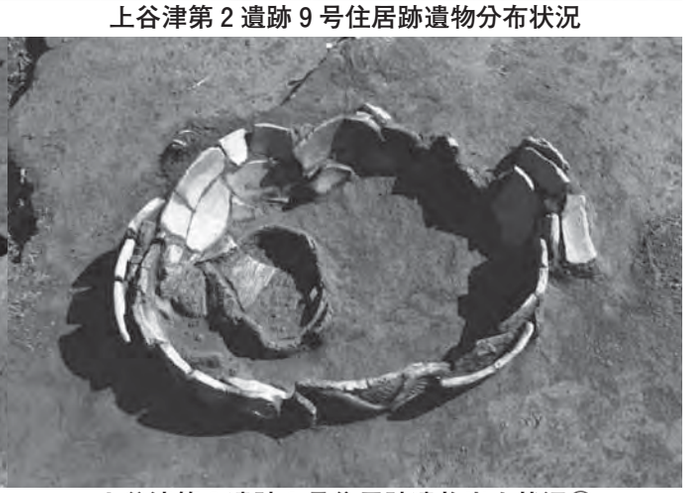
上谷津第 2 遺跡 8 号住居跡

上谷津第 2 遺跡 8 号住居跡遺物出土状況

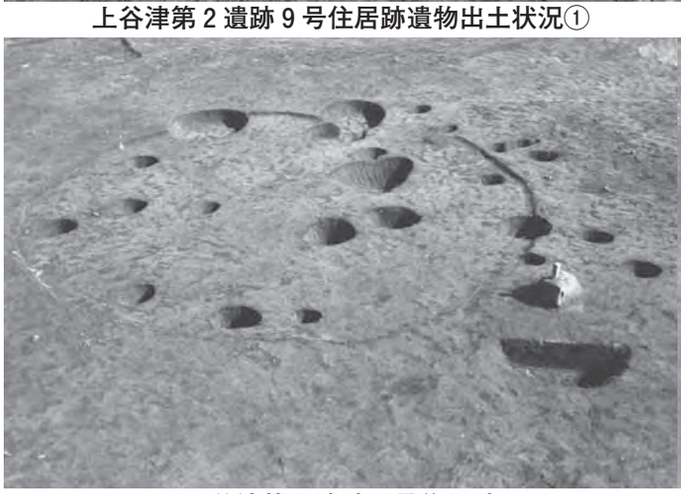
上谷津第 2 遺跡 9 号住居跡

上谷津第 2 遺跡 9 号住居跡遺物分布状況

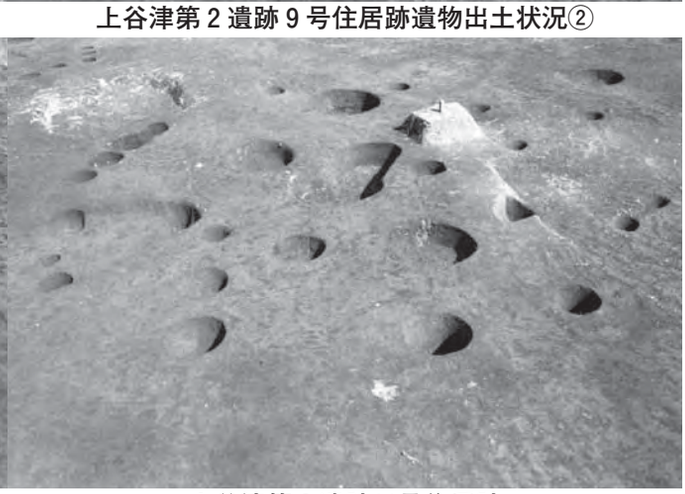
上谷津第 2 遺跡 9 号住居跡遺物出土状況①



上谷津第 2 遺跡 9 号住居跡遺物出土状況②

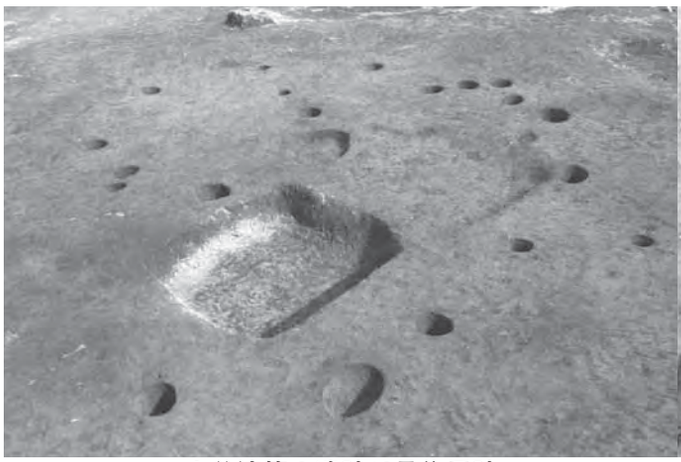


上谷津第 2 遺跡10号住居跡



上谷津第 2 遺跡11号住居跡

図版44

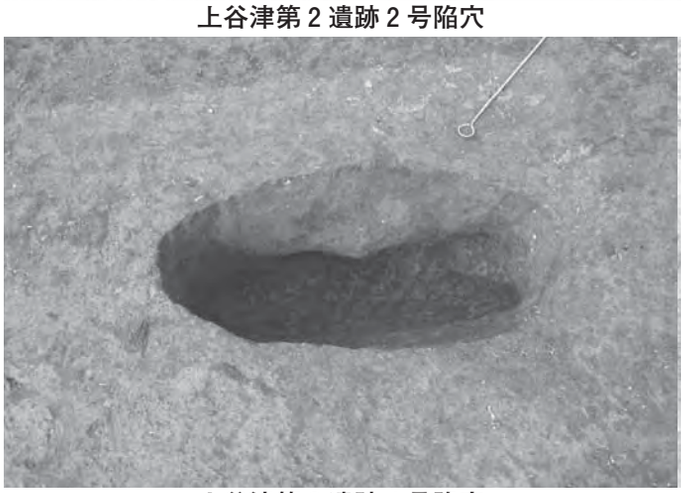


上谷津第 2 遺跡12号住居跡

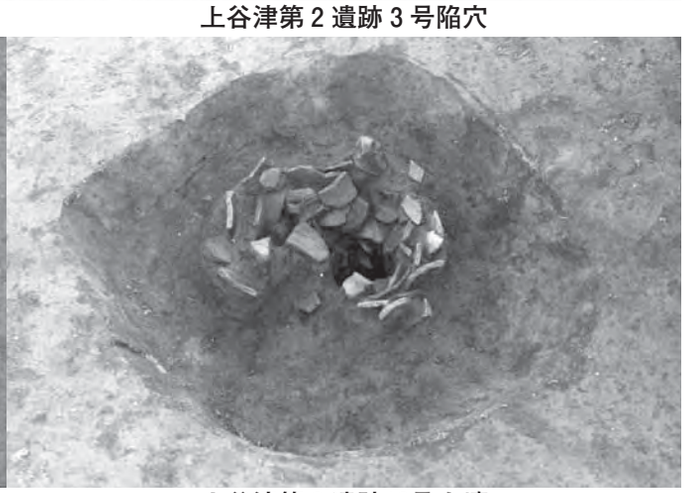
上谷津第 2 遺跡 1 号陥穴

上谷津第 2 遺跡 2 号陥穴

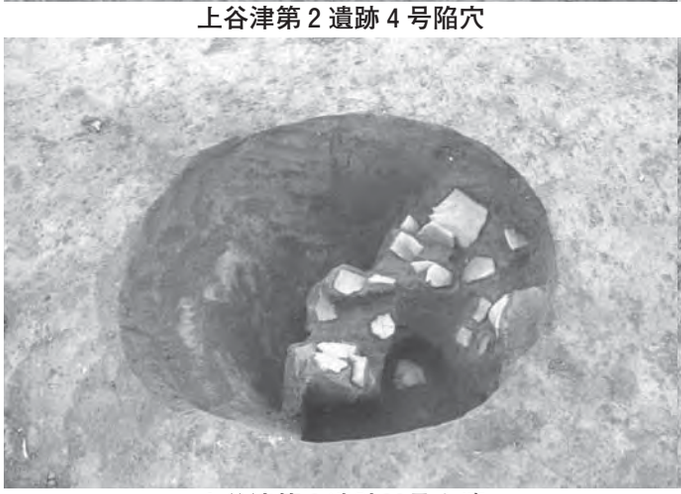
上谷津第 2 遺跡 3 号陥穴



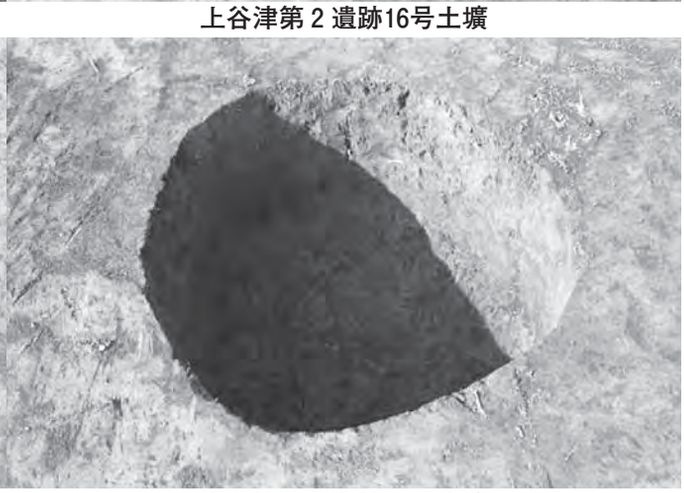
上谷津第 2 遺跡 4 号陥穴



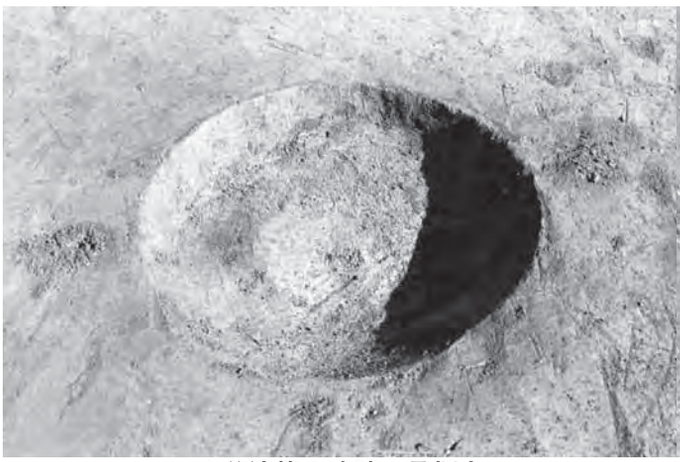
上谷津第 2 遺跡16号土壙



上谷津第 2 遺跡32号土壙

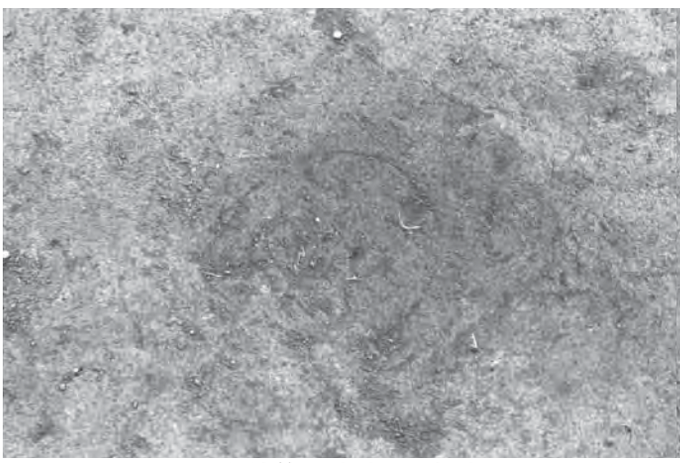


上谷津第 2 遺跡35号土壙

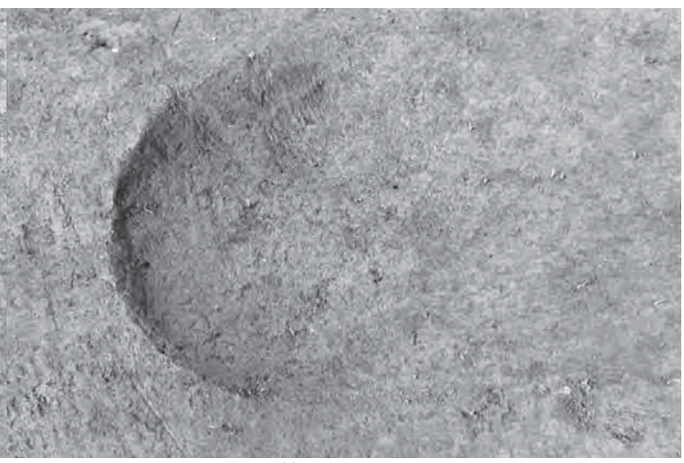


上谷津第 2 遺跡 1 号炉穴

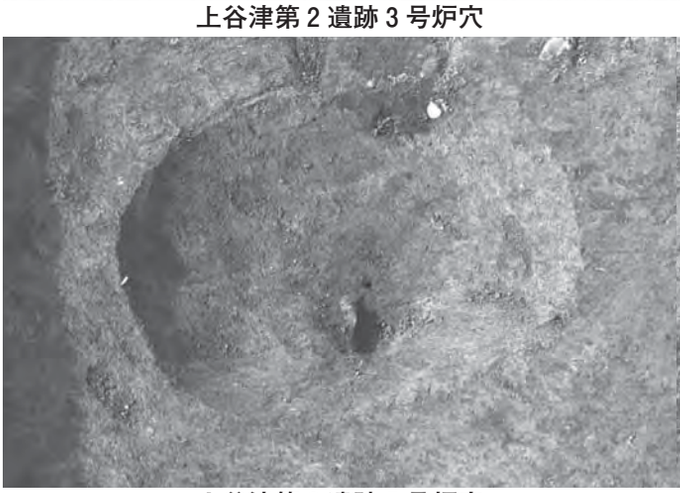
上谷津第 2 遺跡 2 号炉穴



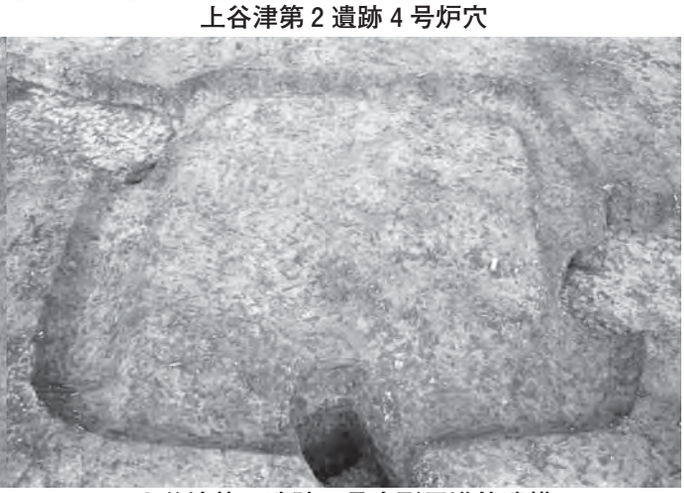
上谷津第 2 遺跡 3 号炉穴



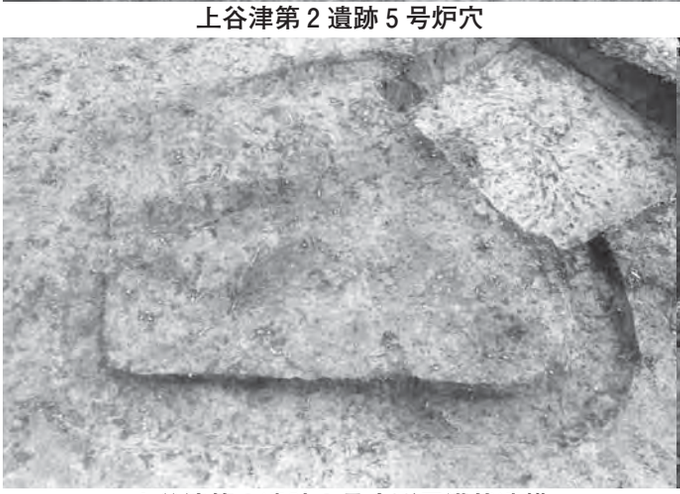
上谷津第 2 遺跡 4 号炉穴



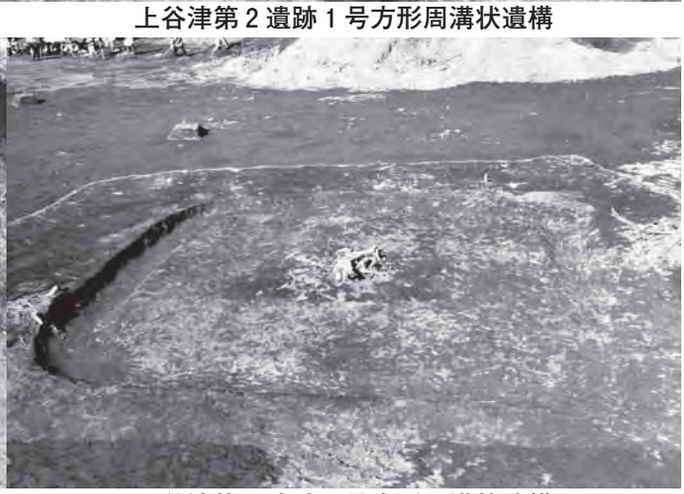
上谷津第 2 遺跡 5 号炉穴



上谷津第 2 遺跡 1 号方形周溝状遺構



上谷津第 2 遺跡 2 号方形周溝状遺構

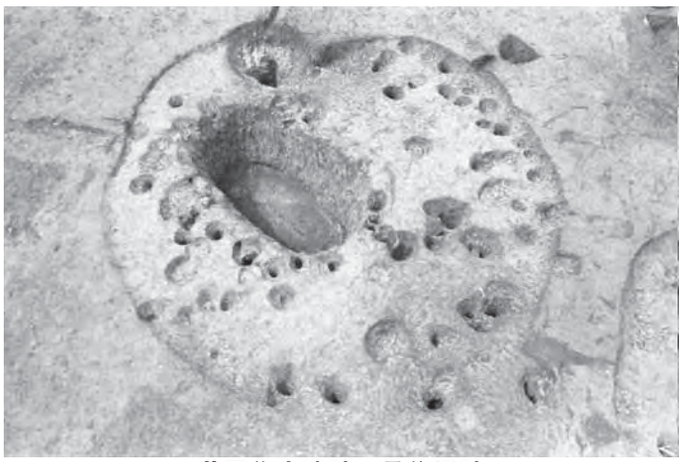


上谷津第 2 遺跡 3 号方形周溝状遺構

図版46

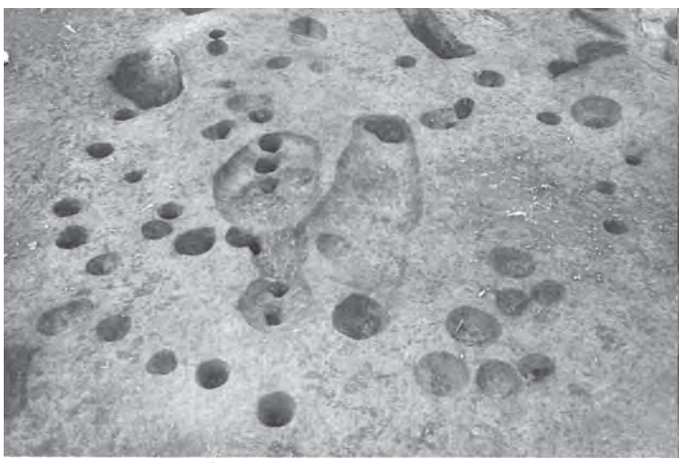
井戸作南遺跡遠景①〈平成 9 年度撮影〉　(南西から)

井戸作南遺跡遠景②〈平成11年度撮影〉　(北西から)

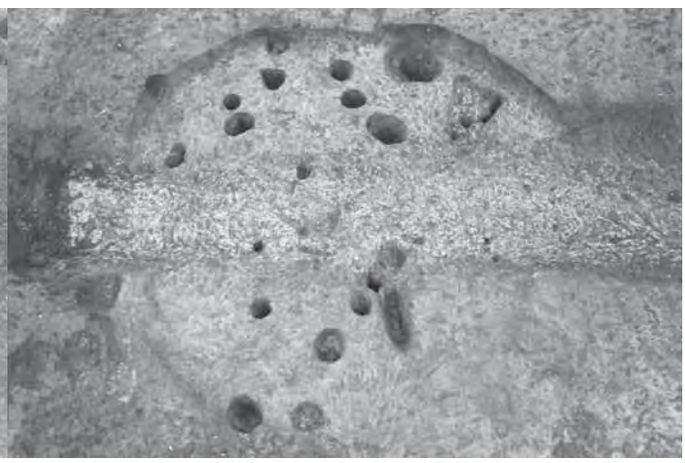


井戸作南遺跡 1 号住居跡

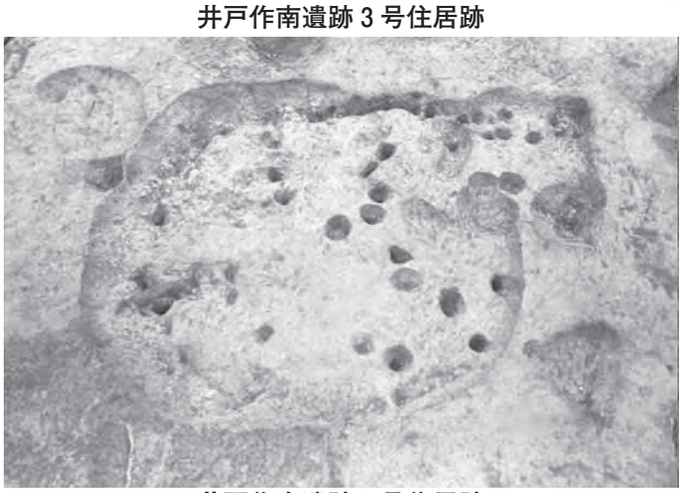
井戸作南遺跡 2 号住居跡



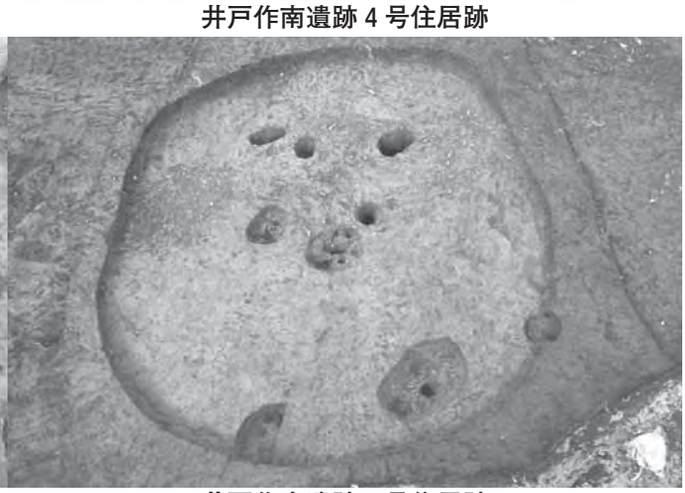
井戸作南遺跡 3 号住居跡



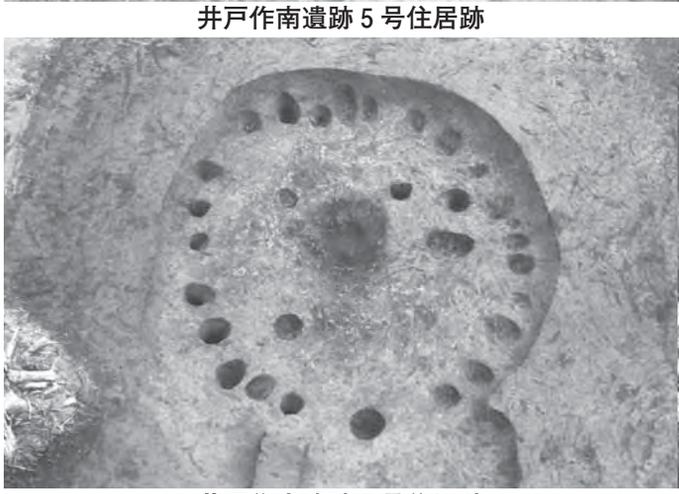
井戸作南遺跡 4 号住居跡



井戸作南遺跡 5 号住居跡



井戸作南遺跡 6 号住居跡



井戸作南遺跡 7 号住居跡

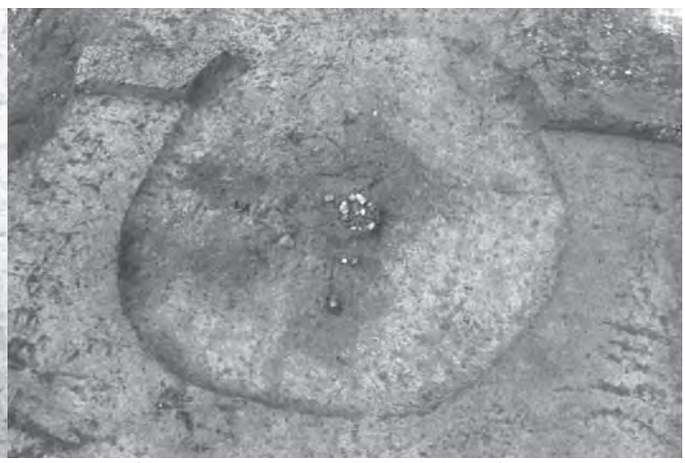
井戸作南遺跡 7 号住居跡遺物分布状況①

図版48

井戸作南遺跡 7 号住居跡遺物出土状況②

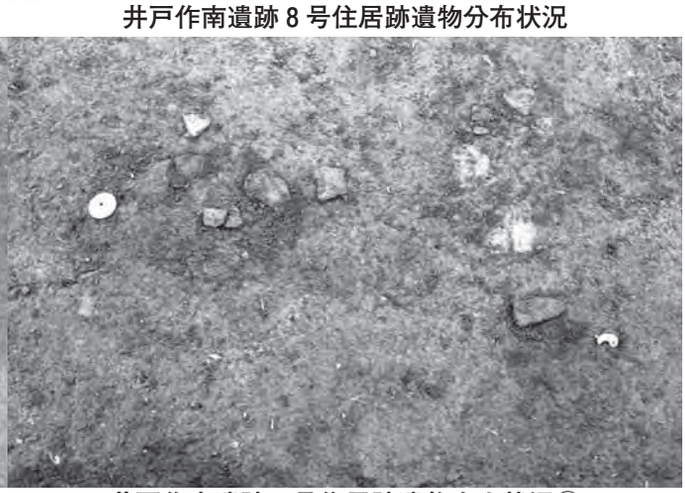
井戸作南遺跡 7 号住居跡遺物出土状況③

井戸作南遺跡 8 号住居跡



井戸作南遺跡 8 号住居跡遺物分布状況

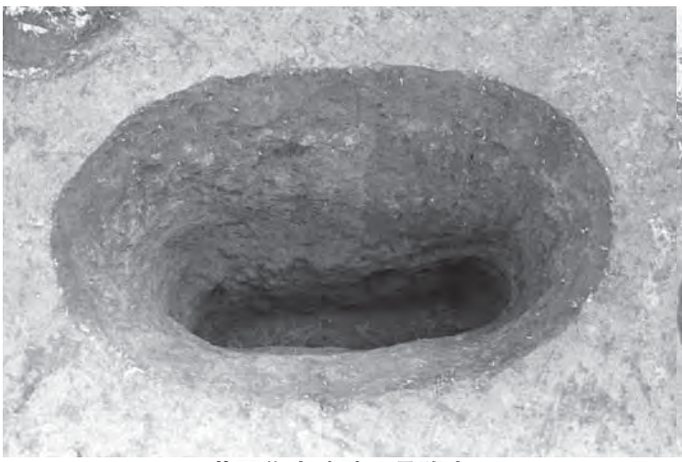
井戸作南遺跡 9 号住居跡



井戸作南遺跡 9 号住居跡遺物出土状況①

井戸作南遺跡 9 号住居跡遺物出土状況②

井戸作南遺跡10号住居跡

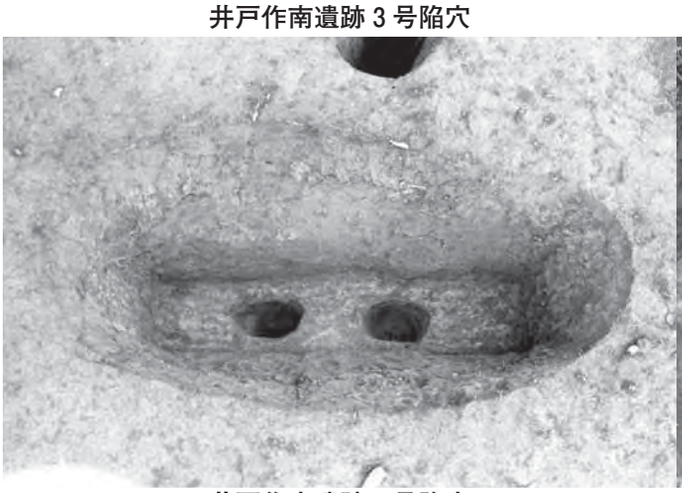


井戸作南遺跡 1 号陥穴

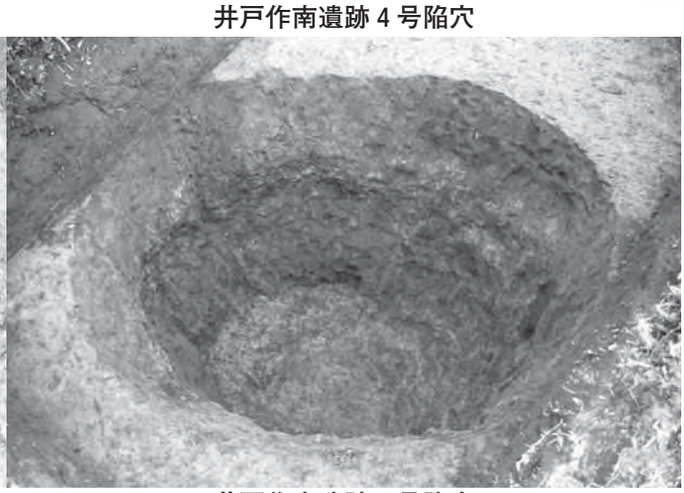
井戸作南遺跡 2 号陥穴

井戸作南遺跡 3 号陥穴

井戸作南遺跡 4 号陥穴

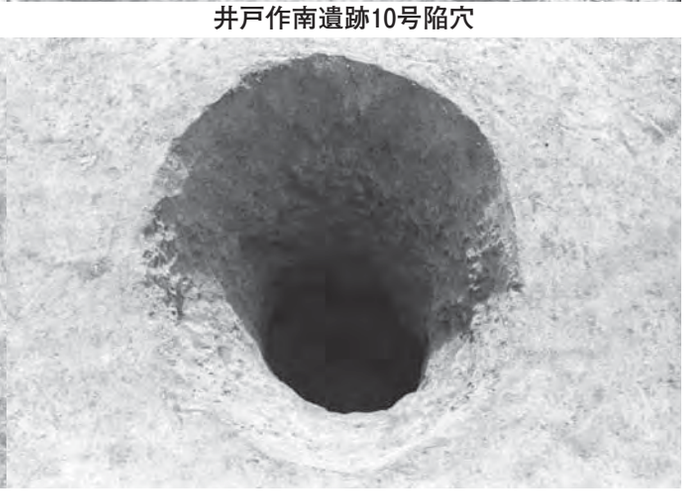


井戸作南遺跡 6 号陥穴



井戸作南遺跡10号陥穴

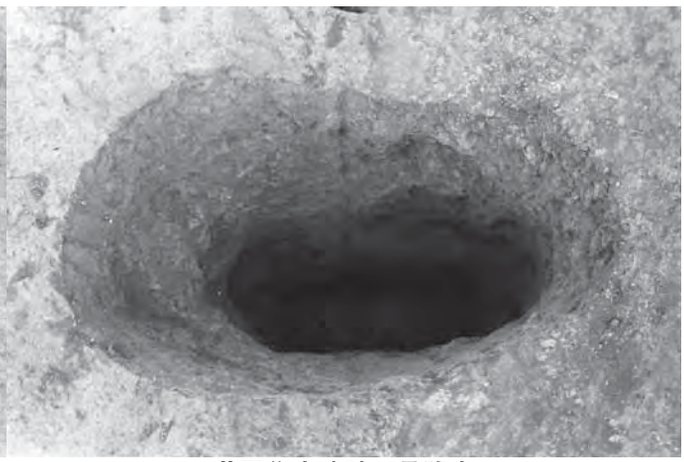
井戸作南遺跡11号陥穴



井戸作南遺跡12号陥穴

図版50

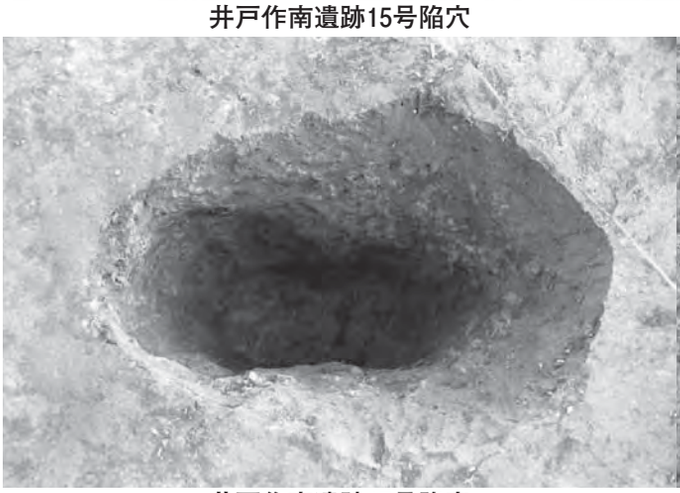
井戸作南遺跡13号陥穴



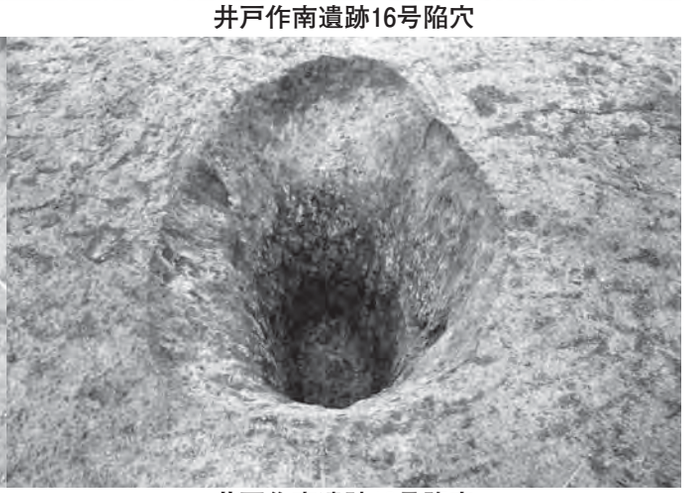
井戸作南遺跡14号陥穴

井戸作南遺跡15号陥穴

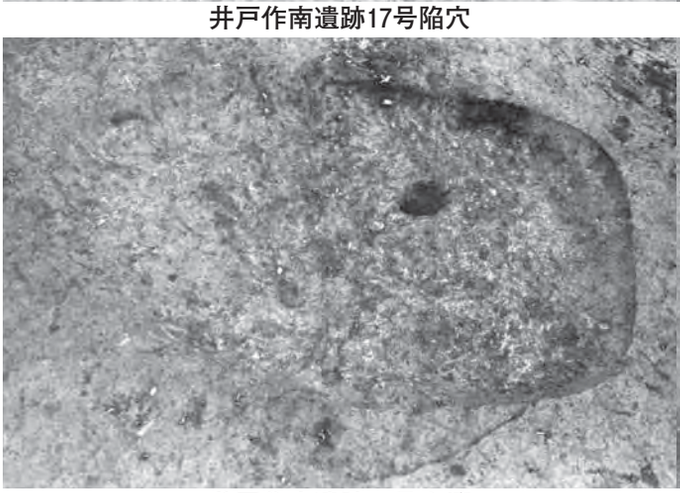
井戸作南遺跡16号陥穴



井戸作南遺跡17号陥穴



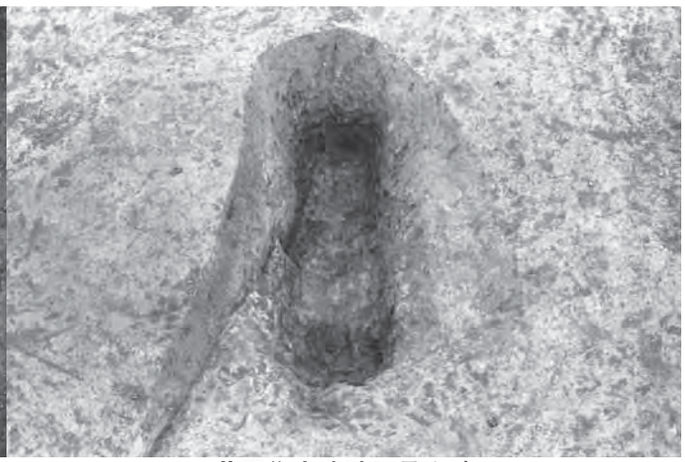
井戸作南遺跡18号陥穴



井戸作南遺跡10号土壙

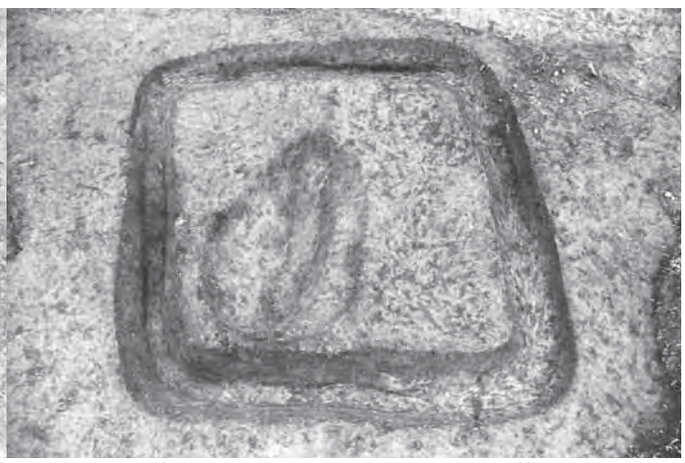
井戸作南遺跡10号土壙遺物出土状況

井戸作南遺跡80号土壙

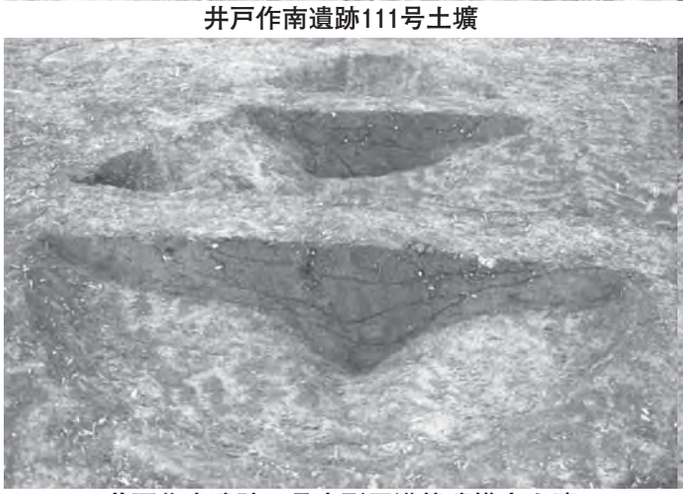


井戸作南遺跡95号土壙

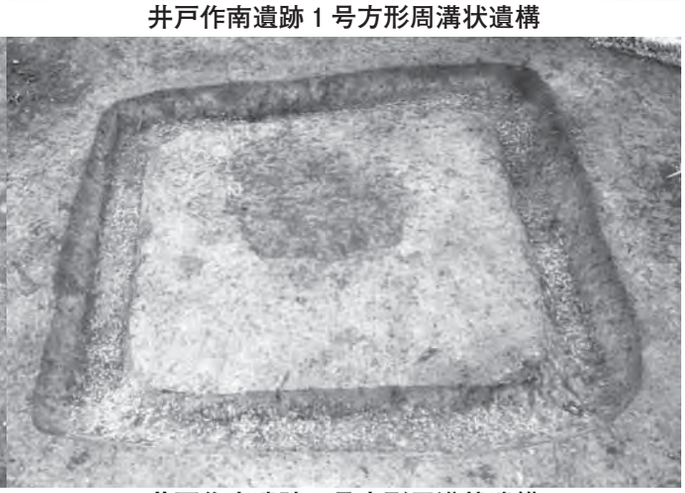
井戸作南遺跡111号土壙



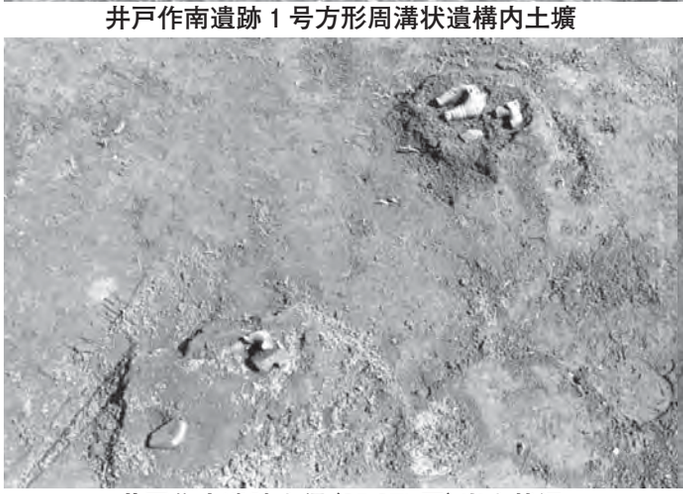
井戸作南遺跡 1 号方形周溝状遺構



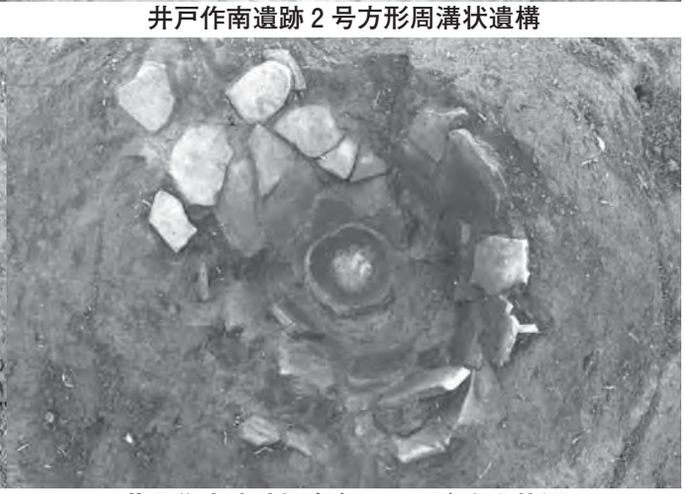
井戸作南遺跡 1 号方形周溝状遺構内土壙



井戸作南遺跡 2 号方形周溝状遺構

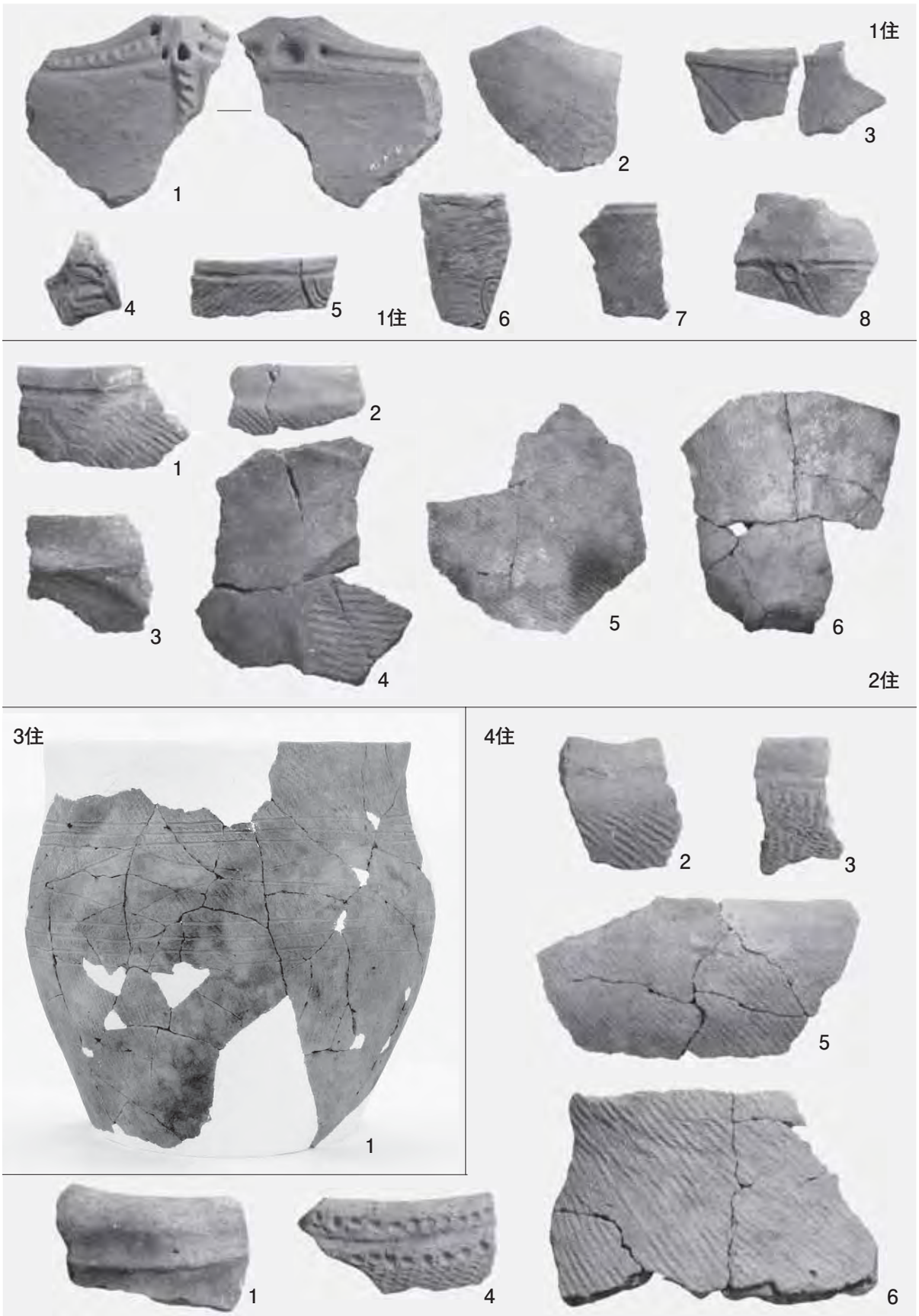


井戸作南遺跡土偶（3D97b区）出土状況

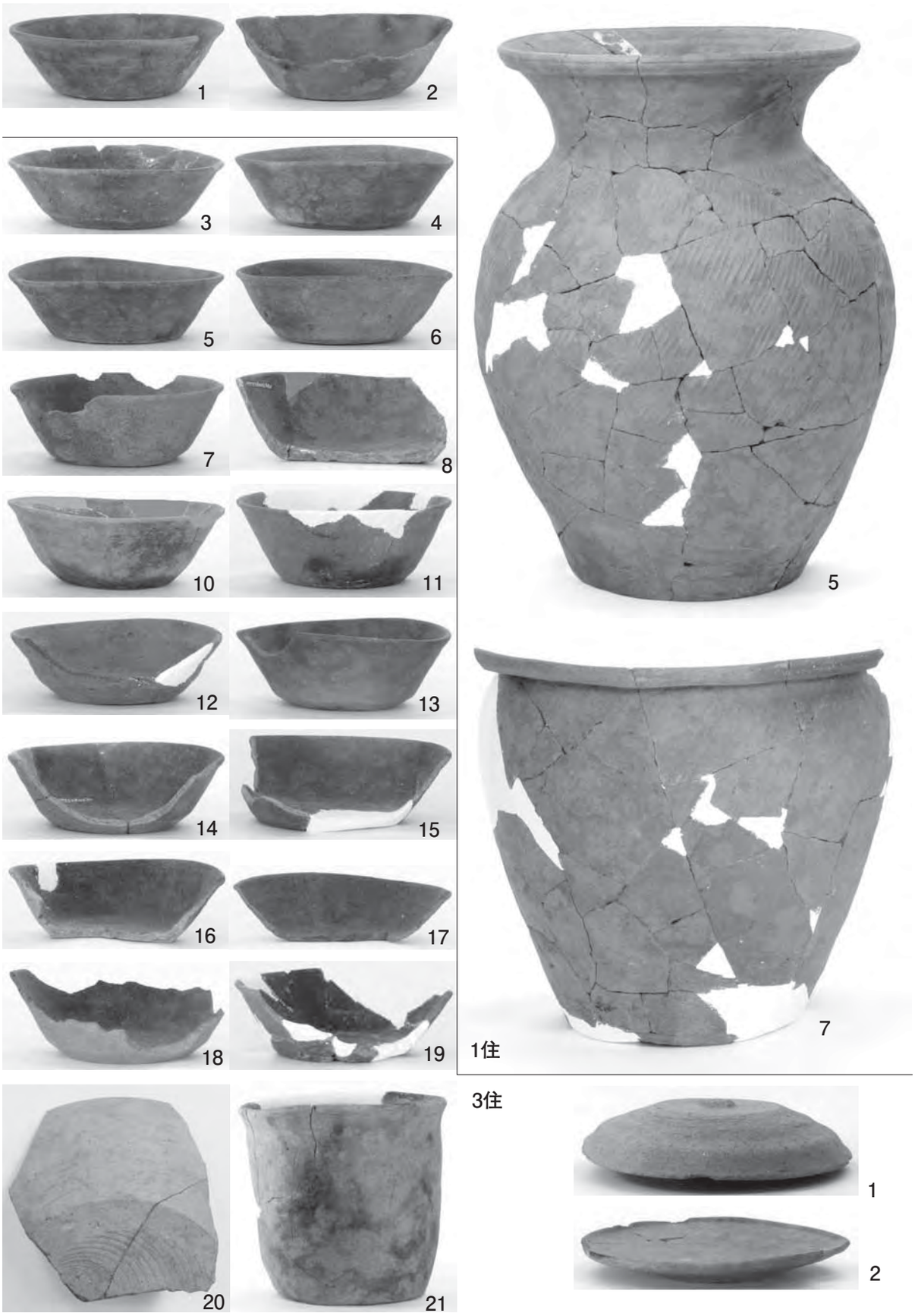


井戸作南遺跡埋甕（3D99c区）出土状況

図版52



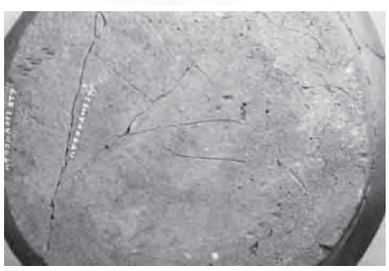
明神台遺跡 1・2・3 号住居跡出土遺物



端山越遺跡 1・3 号住居跡出土遺物

図版54

24



24（底部）

25

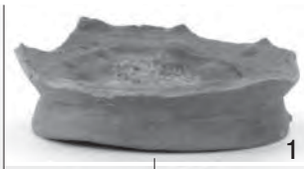
27

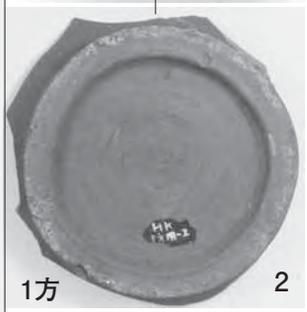
23

3住　22

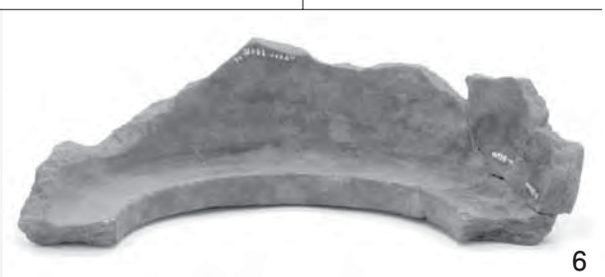
端山越遺跡 3 号住居跡出土遺物

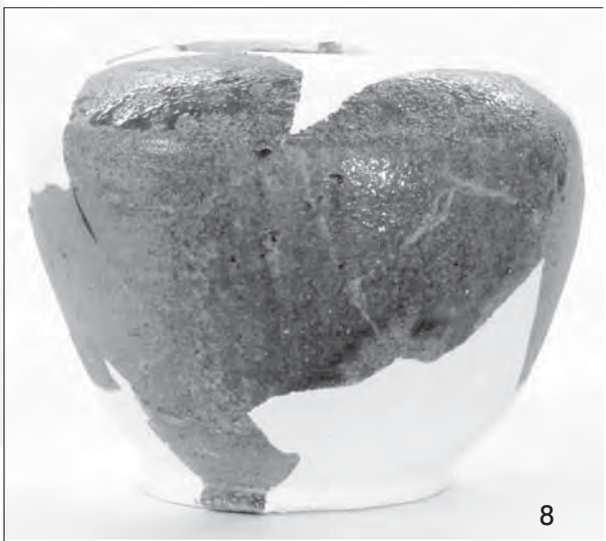
3住





9方

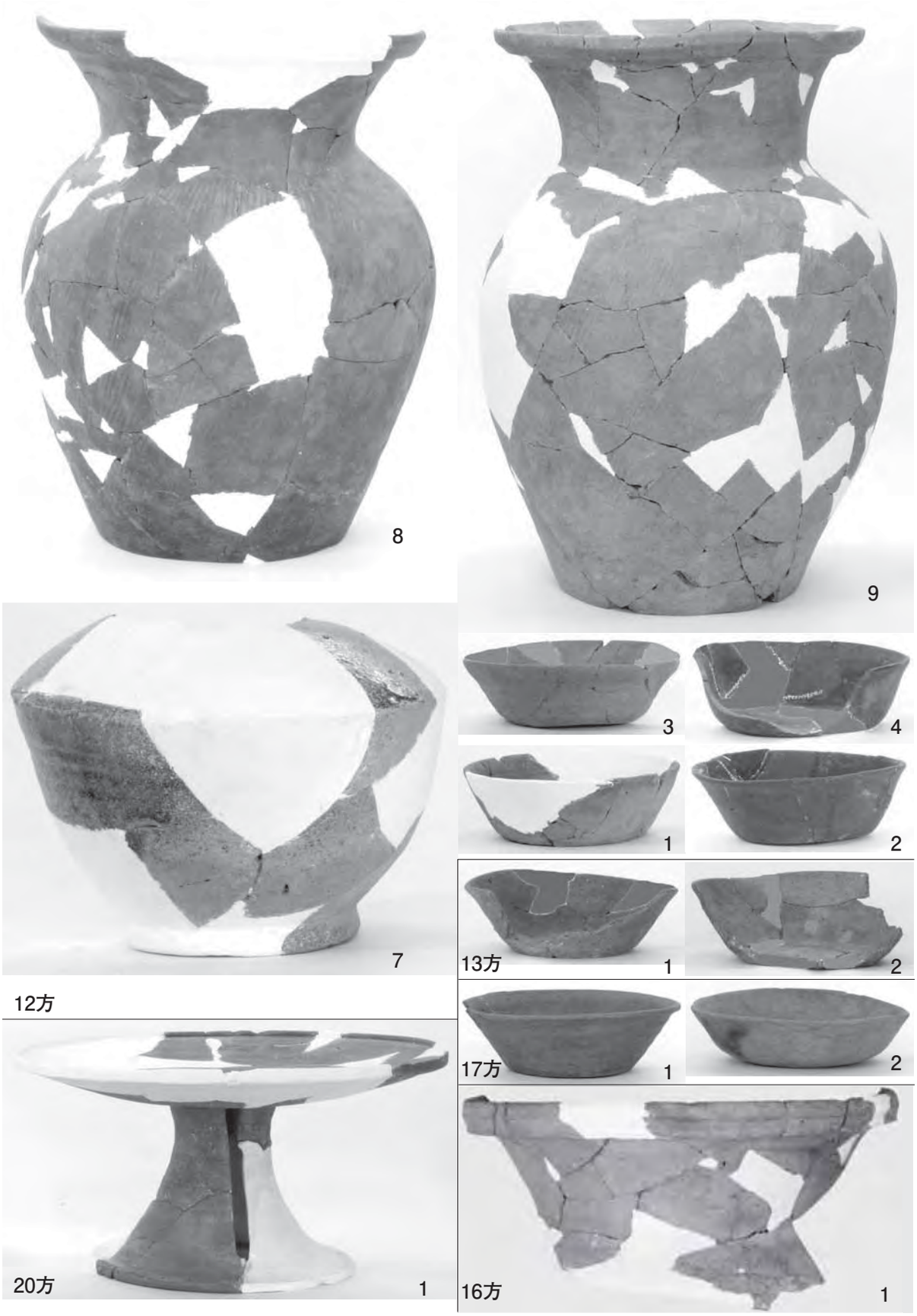




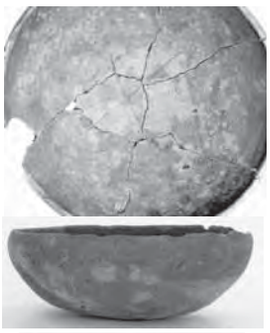
10方

端山越遺跡 3 号住居跡 1・4・7・9・10号方形周溝状遺構出土遺物

図版56



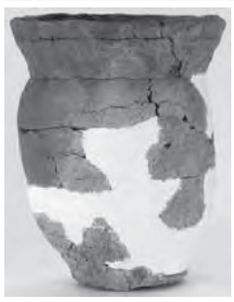
端山越遺跡12・13・16・17・20号方形周溝状遺構出土遺物


1

6

8

2


13

12

4

3

16

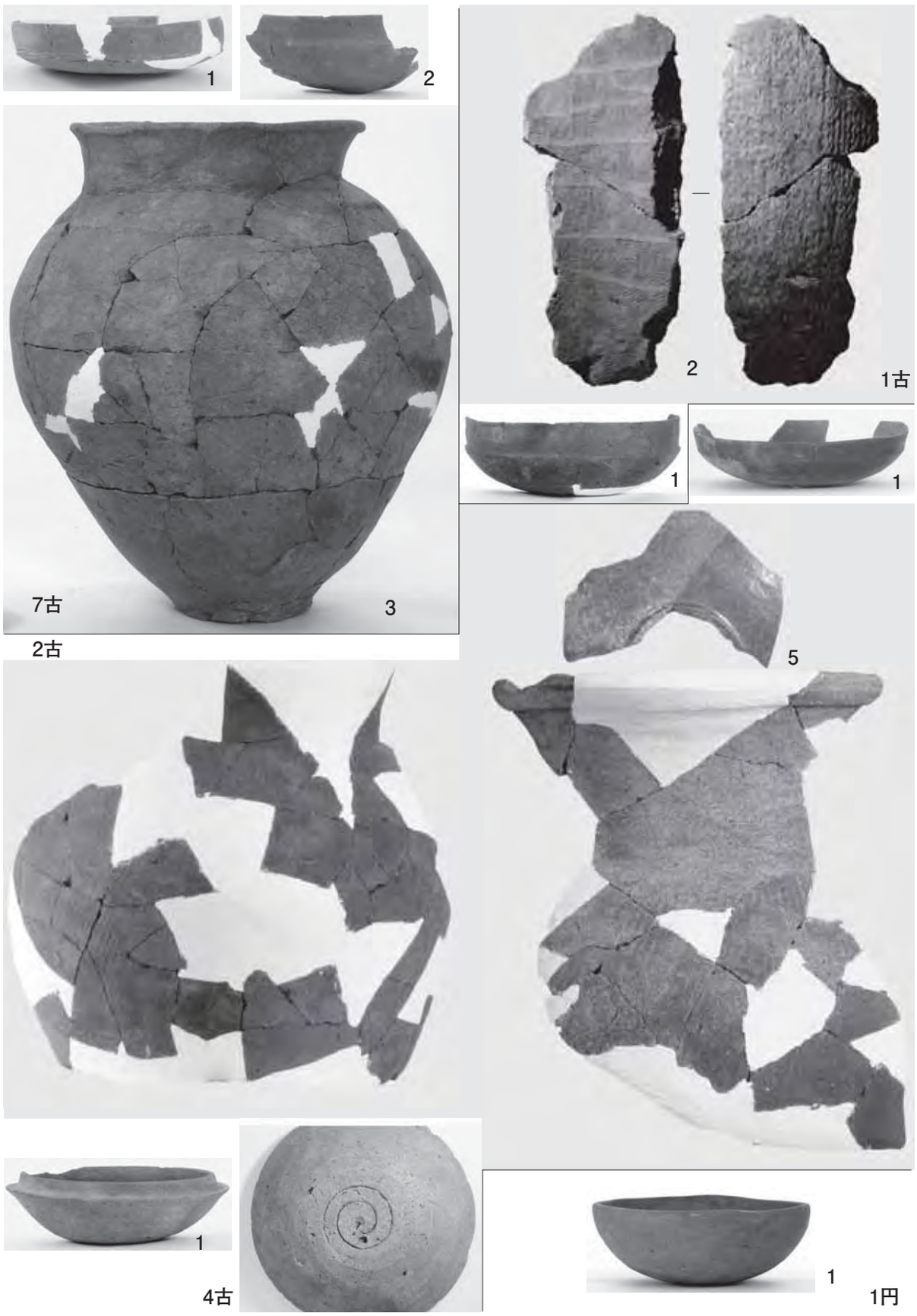
15

18

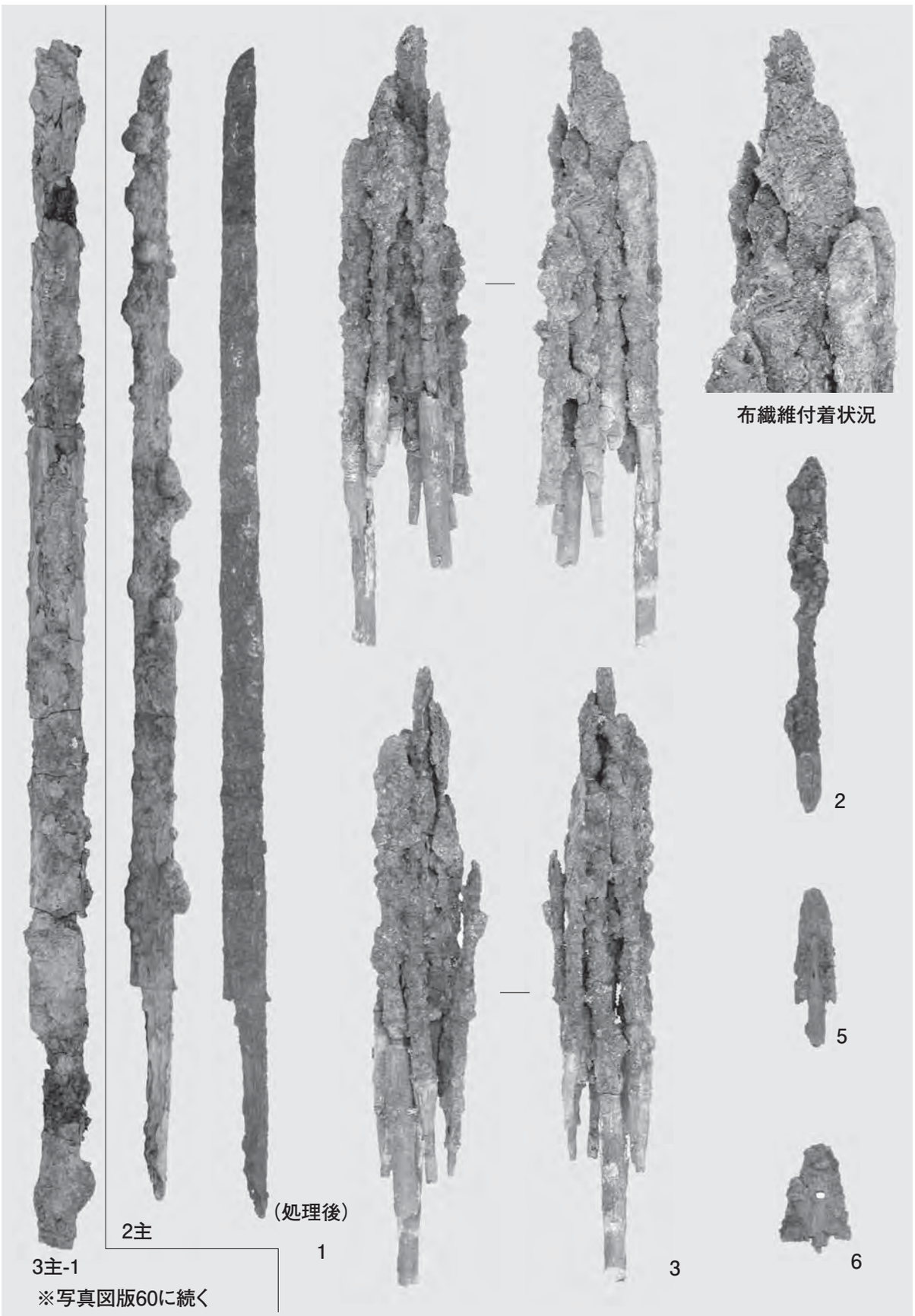
17

大草台古墳群 1 号住居跡出土遺物

図版58

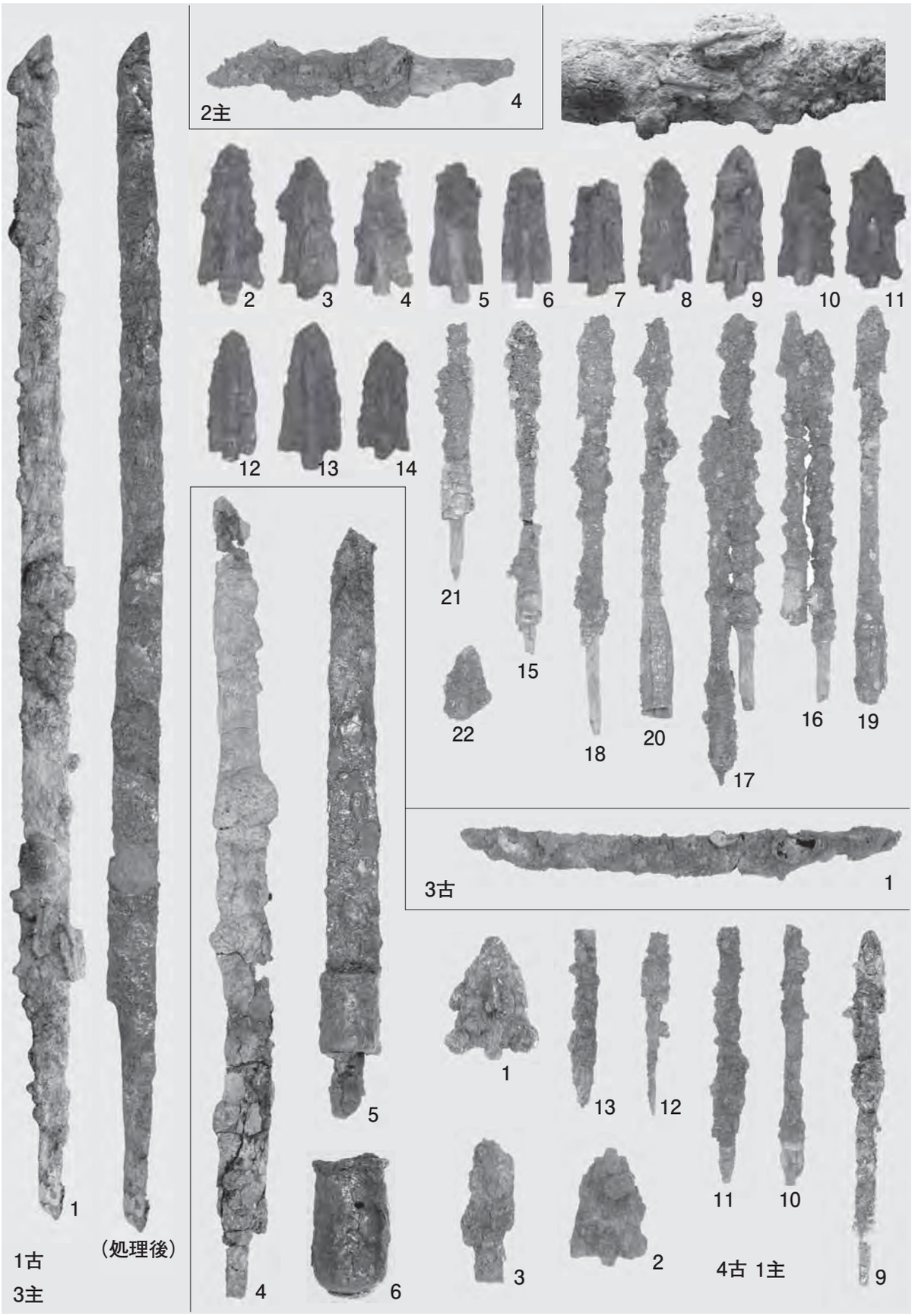


大草台古墳群 1・2・4・7 号古墳・1 号円形周溝状遺構出土遺物



大草台古墳群古墳出土鉄器①

図版60

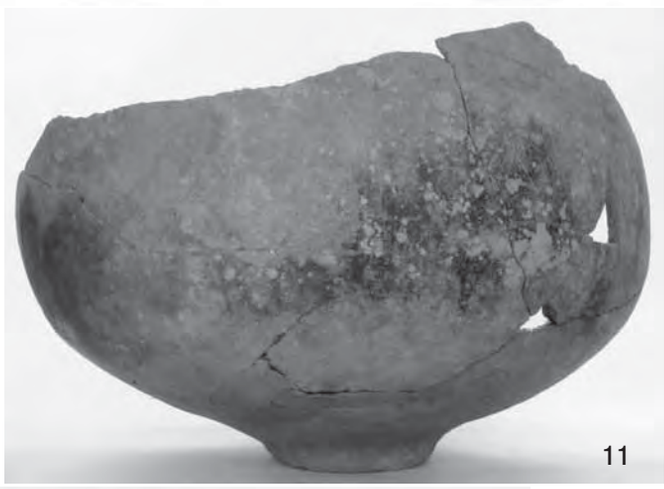


大草台古墳群古墳出土鉄器②

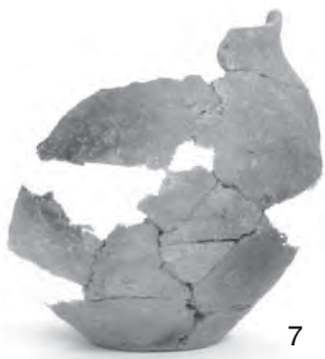
2

4

6


11

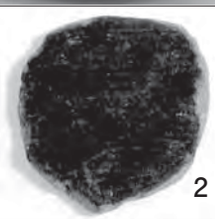
※図版84に接写有


7

12

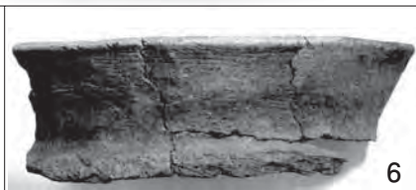
1住 10

1

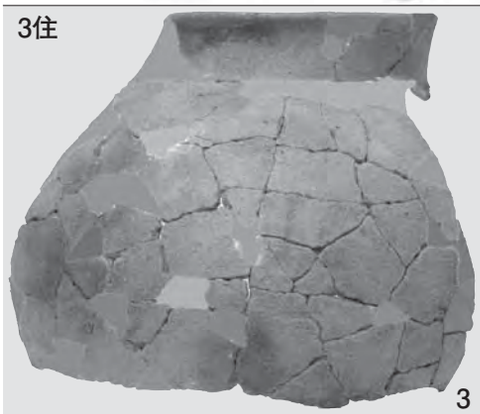

2

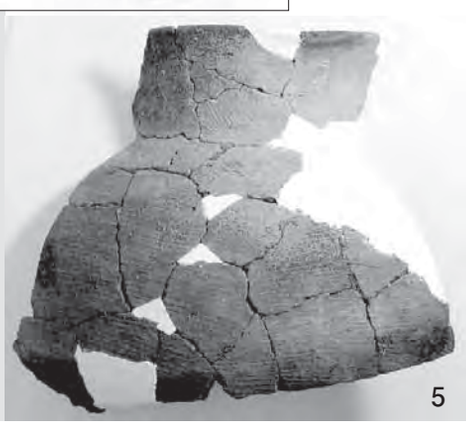
3

2住


6

3住


3


5

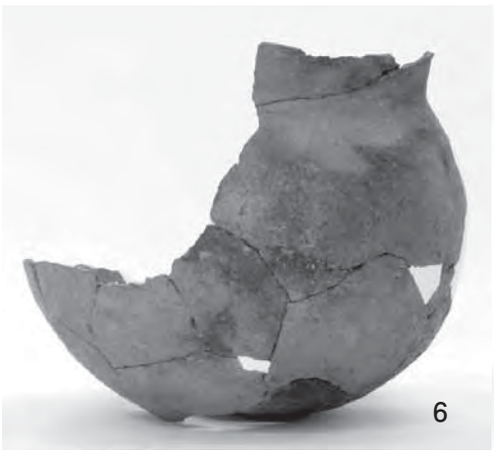
11

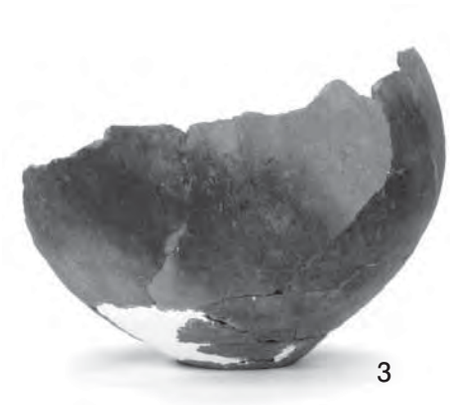
12

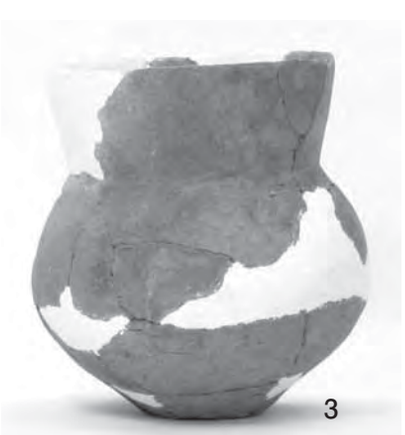
上谷津第 1 遺跡 1・2・3 号住居跡出土遺物

図版62

上谷津第 1 遺跡 3・4・6 号住居跡出土遺物

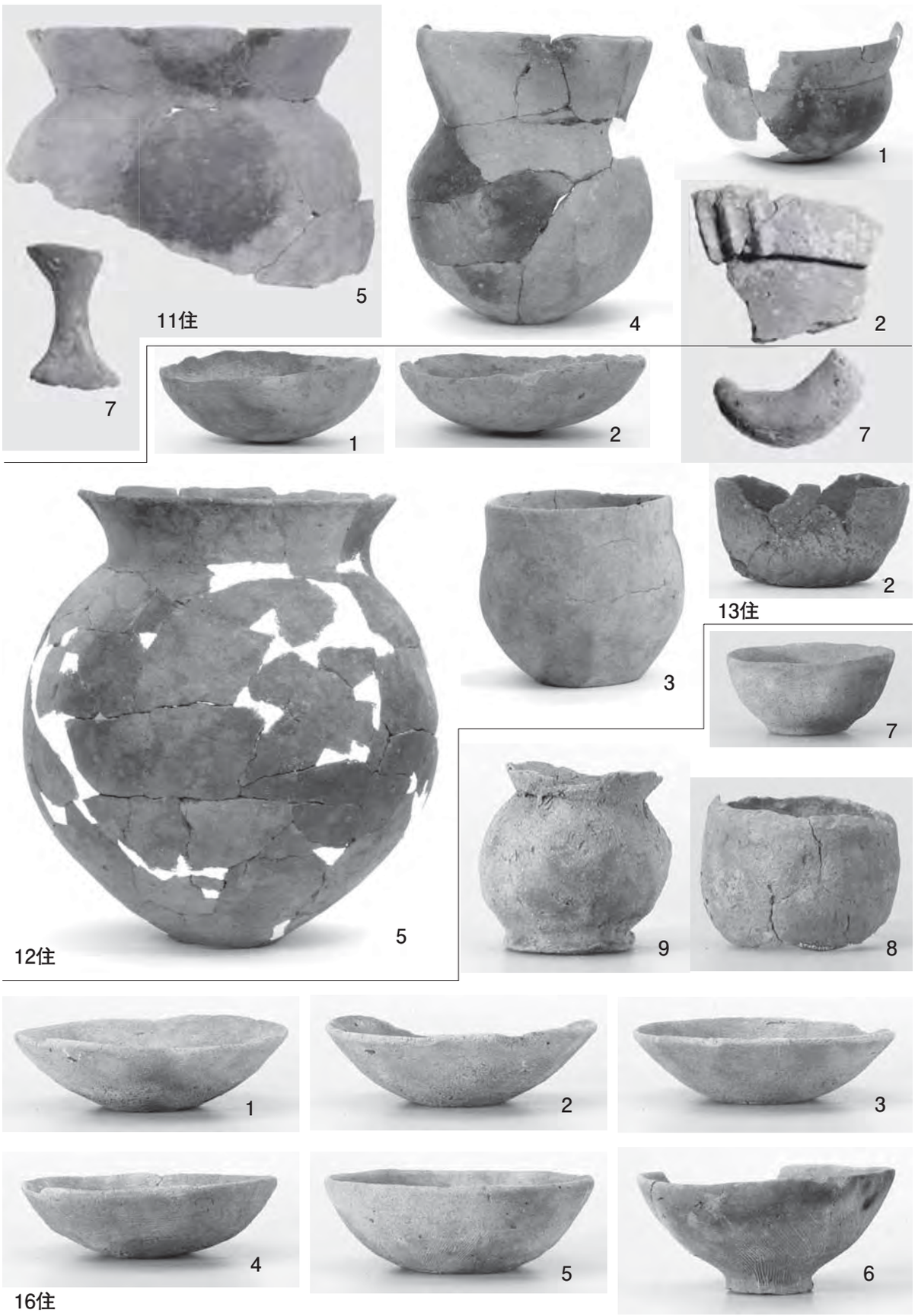






上谷津第 1 遺跡 6・7・8・10号住居跡出土遺物

図版64



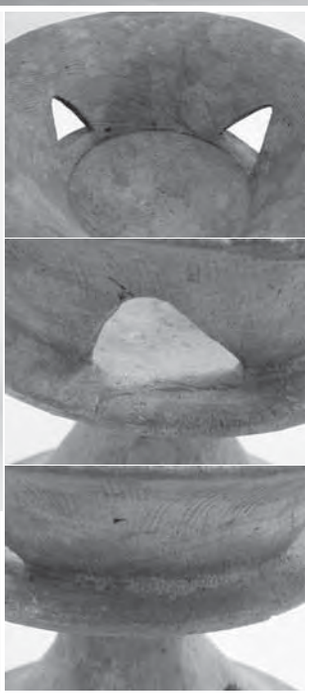
上谷津第１遺跡11・12・13・16号住居跡出土遺物

12

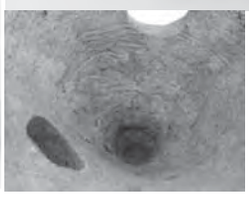
16

11

13


13

10



14

15
16住

上谷津第 1 遺跡16号住居跡出土遺物

図版66

6

17住

1

18住

5

6

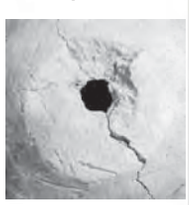
7

19住

1

5

6


7

8

上谷津第 1 遺跡17・18・19号住居跡出土遺物

3

1

6

8

21住

5

1

2

7

3

6

4

22住

5

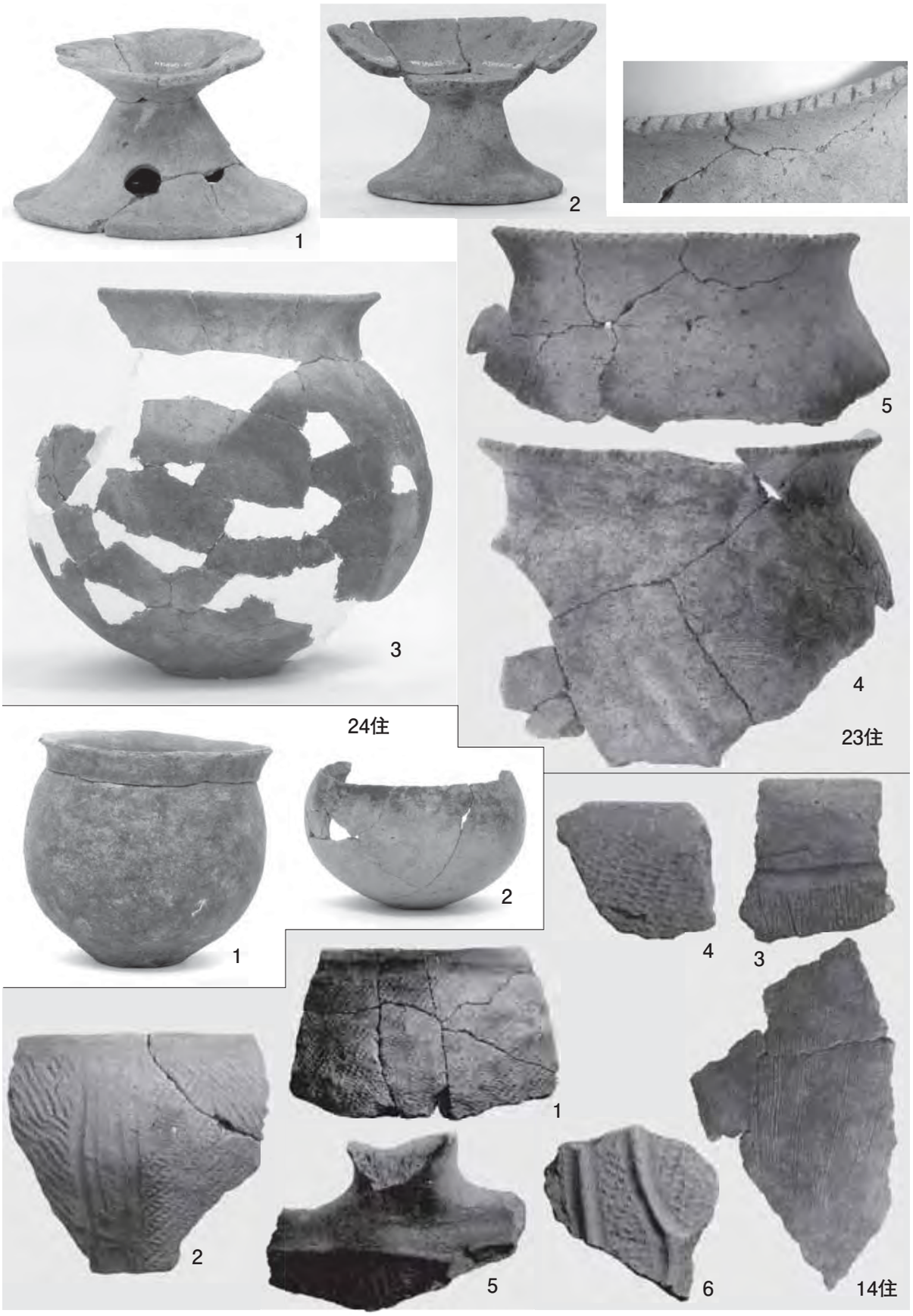
1

2

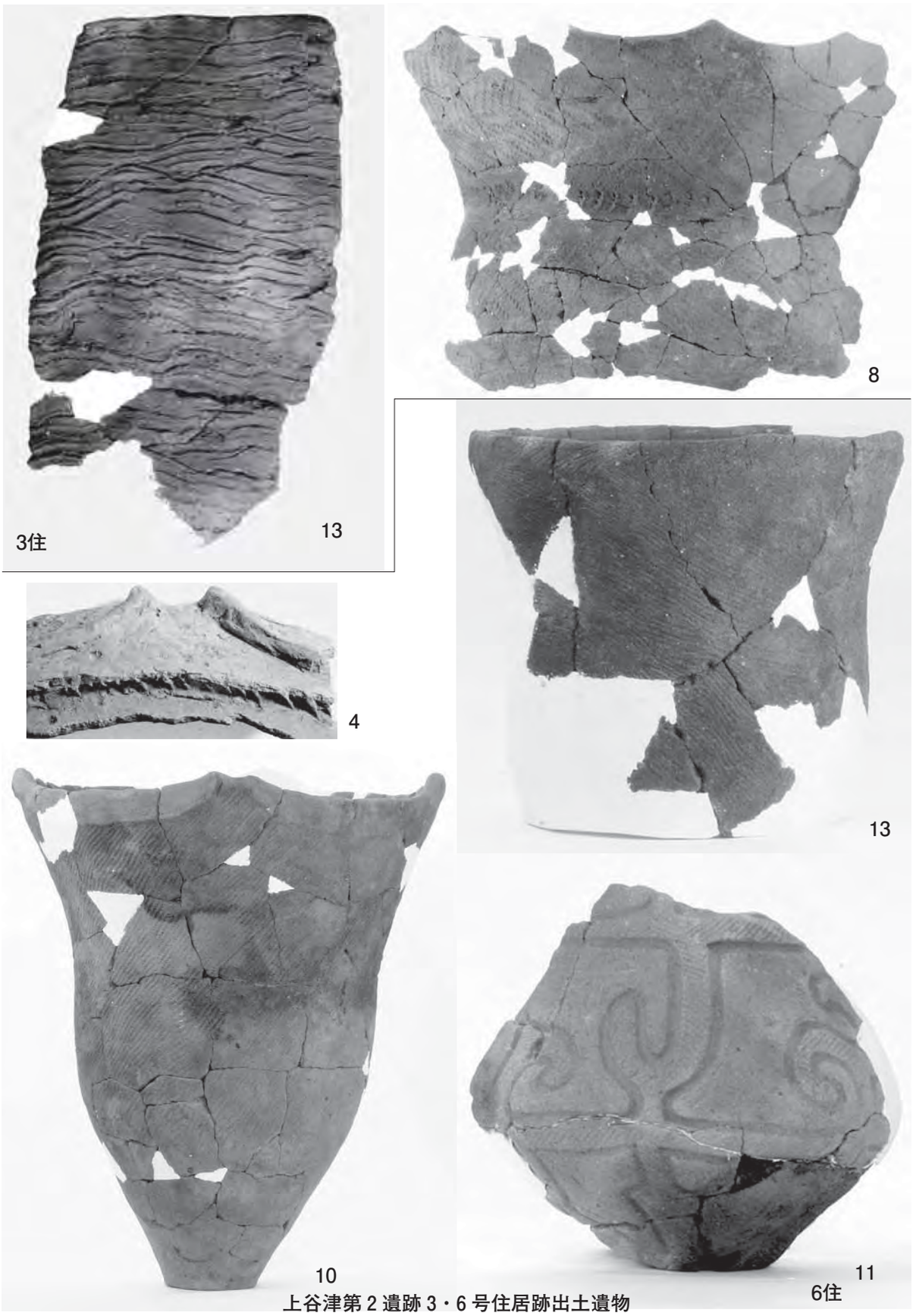
7

上谷津第１遺跡21･22号住居跡出土遺物

図版68

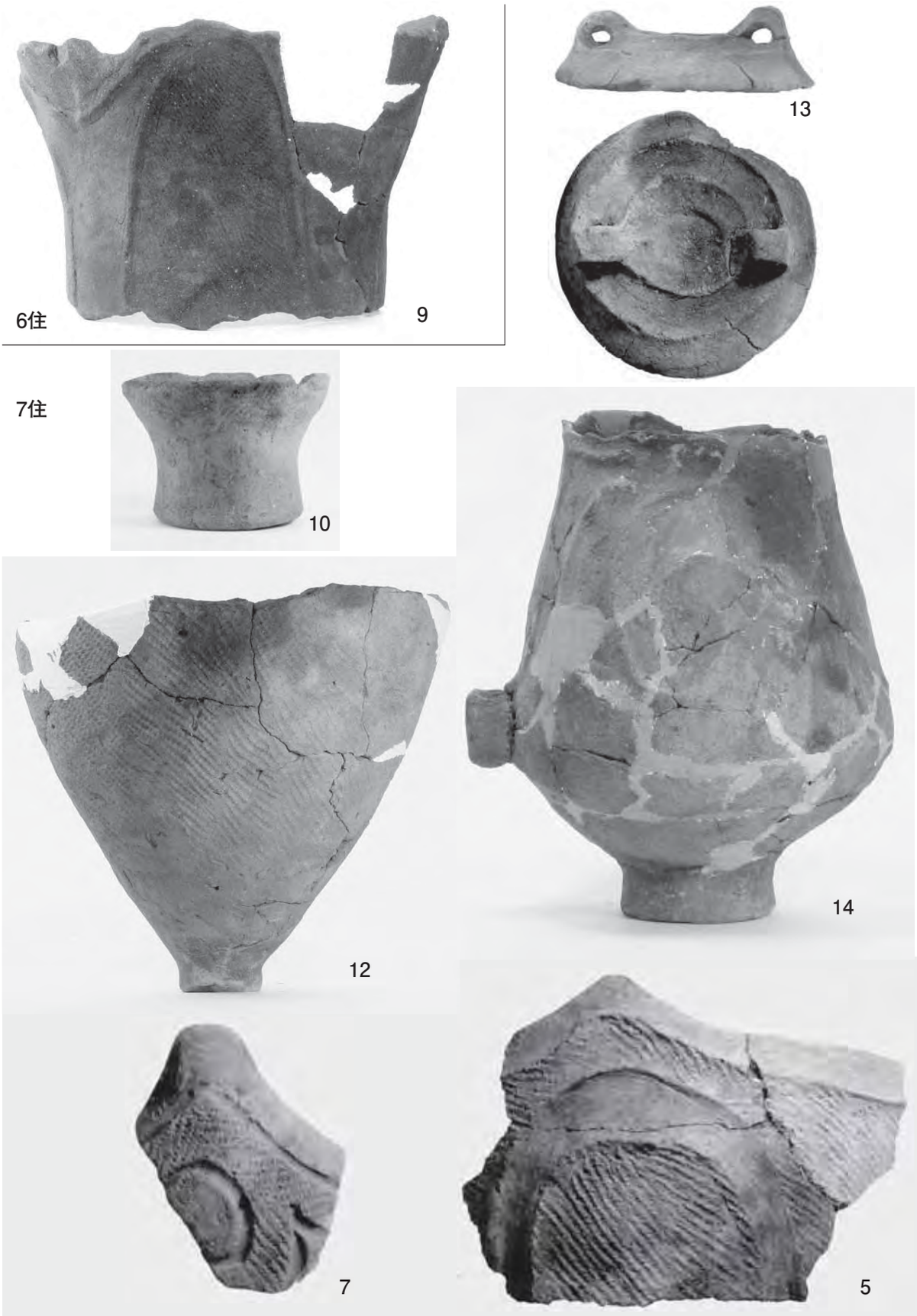


上谷津第 1 遺跡23・24号住居跡・14号住居跡（縄文）出土遺物

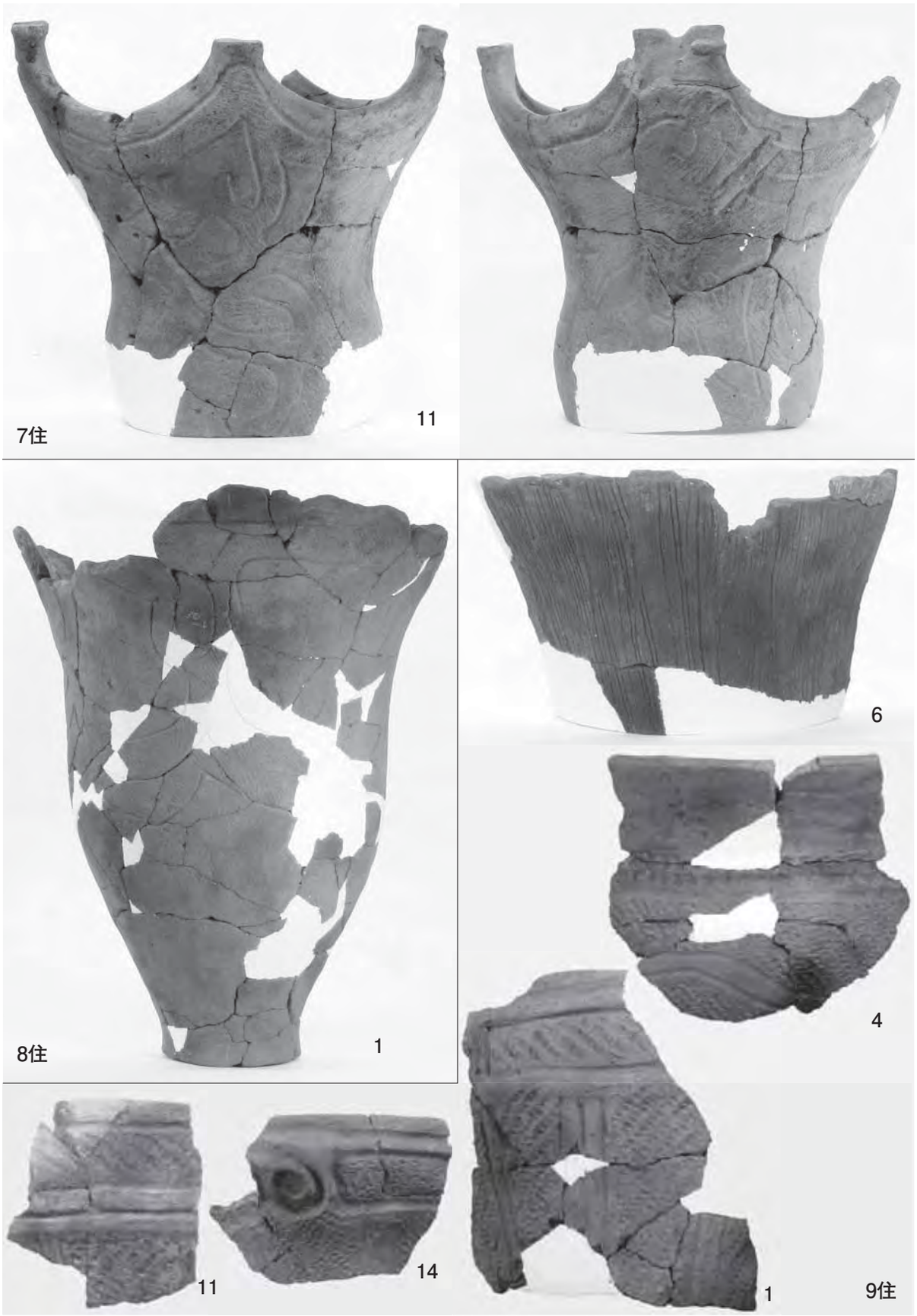


上谷津第 2 遺跡 3・6 号住居跡出土遺物

図版70

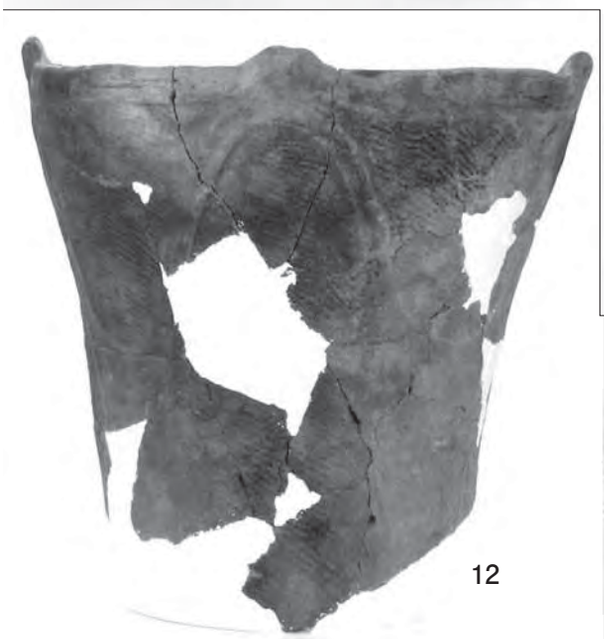


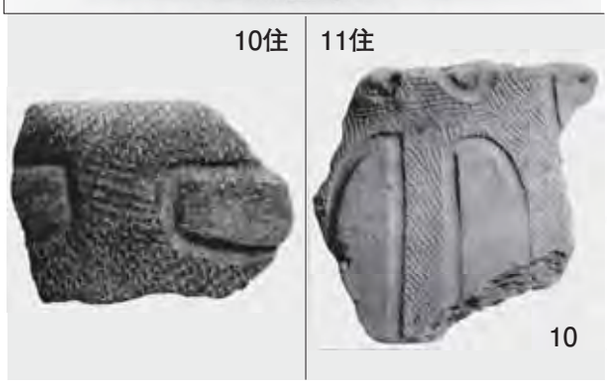
上谷津第 2 遺跡 6・7 号住居跡出土遺物



上谷津第 2 遺跡 7・8・9 号住居跡出土遺物

図版72





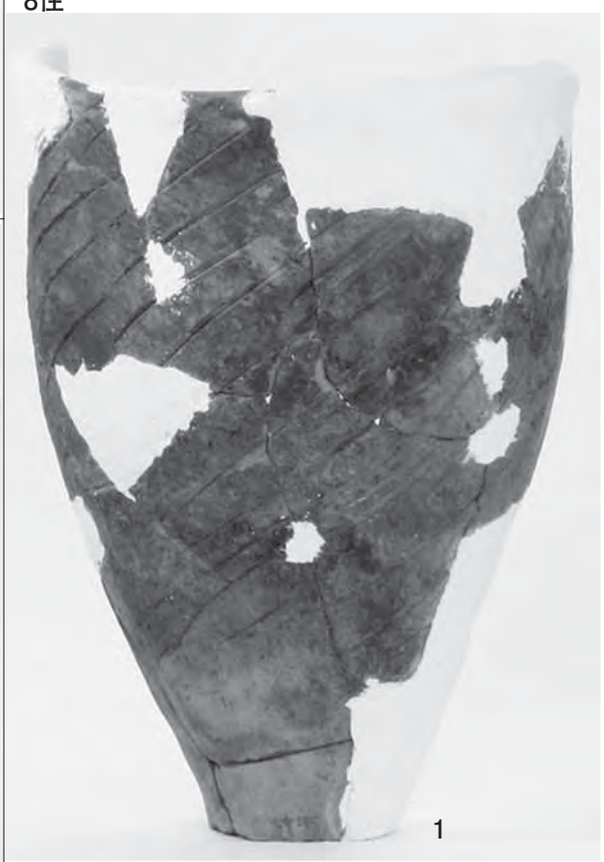
上谷津第 2 遺跡 9・10・11号住居跡出土遺物

1住

7住

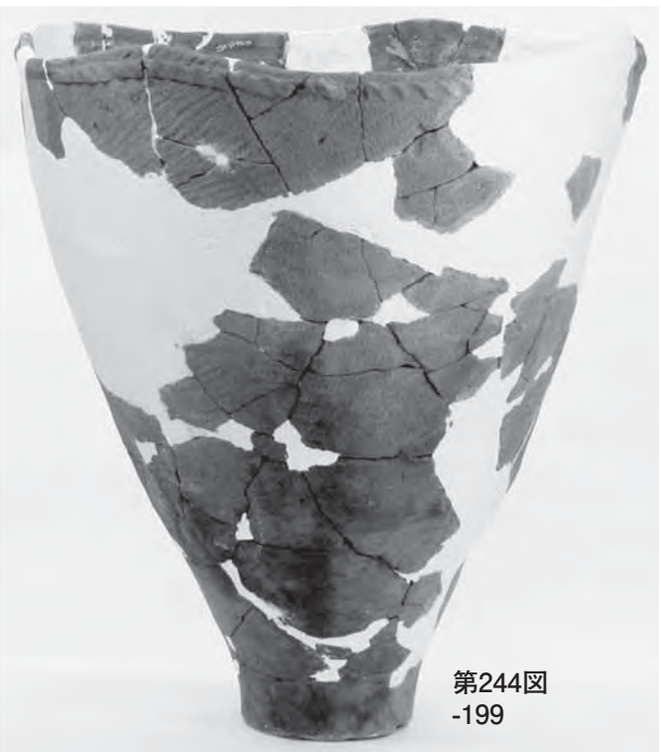
2住

8住



井戸作南遺跡 1・2・7・8 号住居跡出土遺物

図版74



調査区出土

井戸作南遺跡 8 号住居跡・調査区出土遺物

8

1

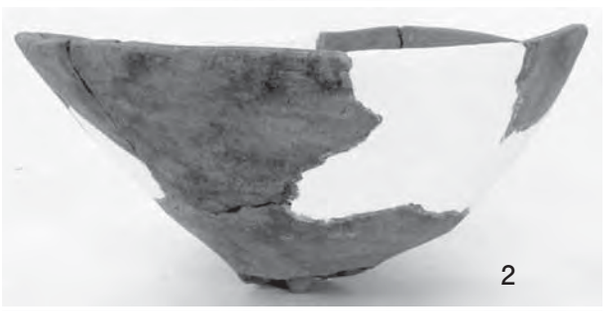
9住

1

3

4

10住


2

6

12

井戸作南遺跡 9・10号住居跡出土遺物

図版76

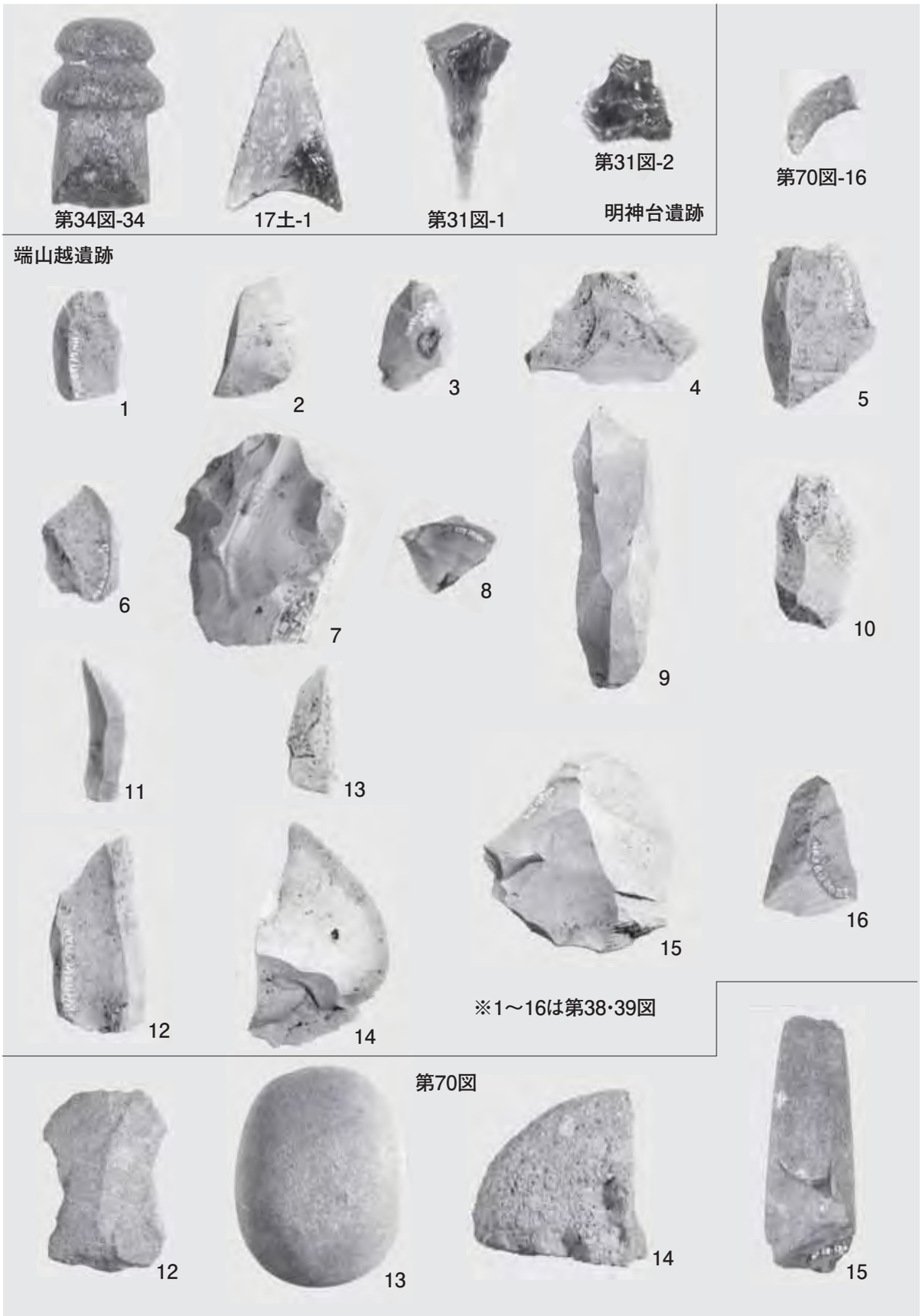
第245図-208

第245図-209

第245図
-210

第245図-211

井戸作南遺跡10号住居跡出土遺物・調査区出土土偶



明神台遺跡出土石器･端山越遺跡出土石器①

図版78

第70図　11　端山越遺跡

大草台古墳群

1

2

3

※1～7は第75図
※8～10は第76図

4

5

6

7

8

9

10

第107図

19

第80図

3

5

4

1

6

4

5

2

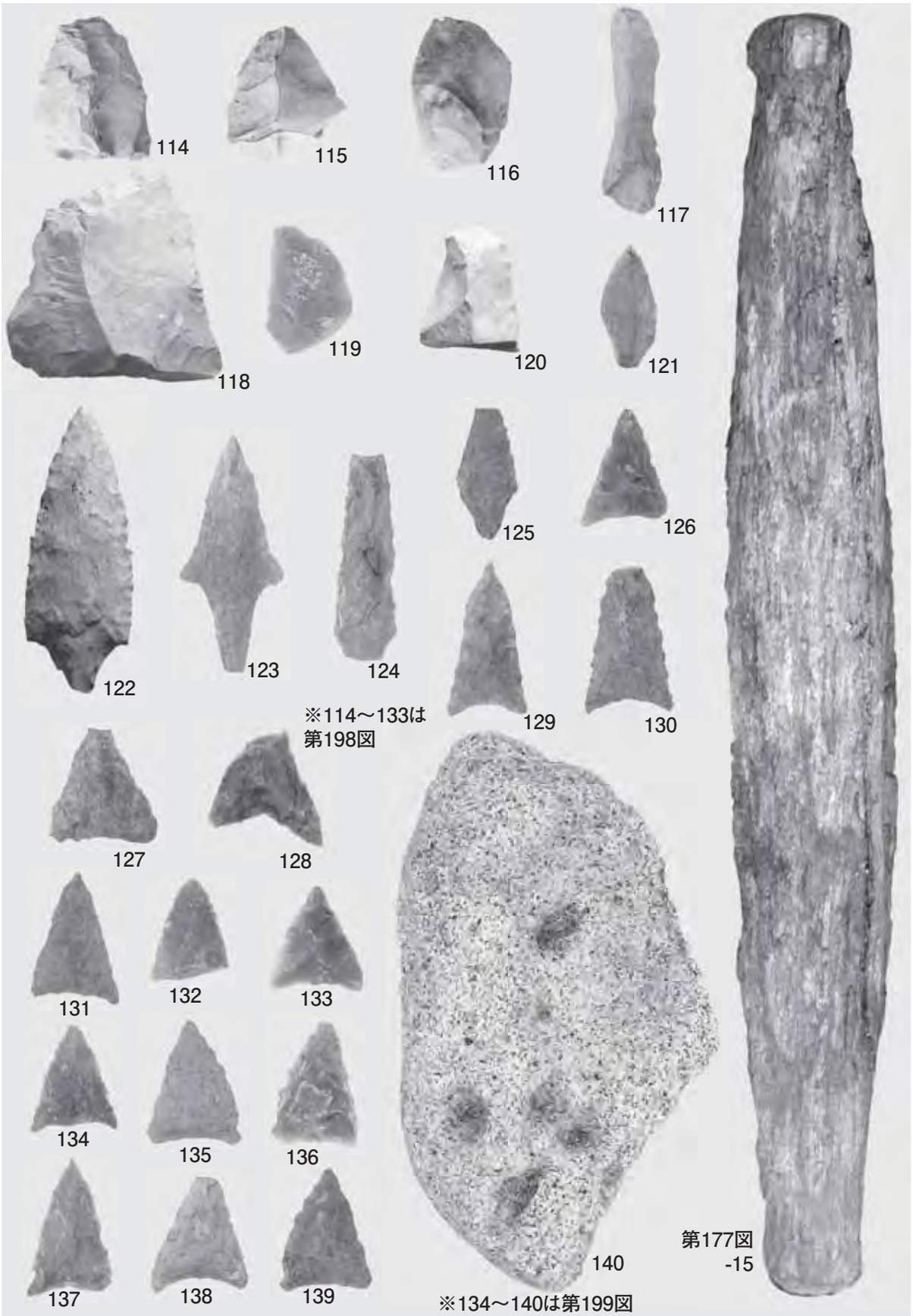
3

第101図

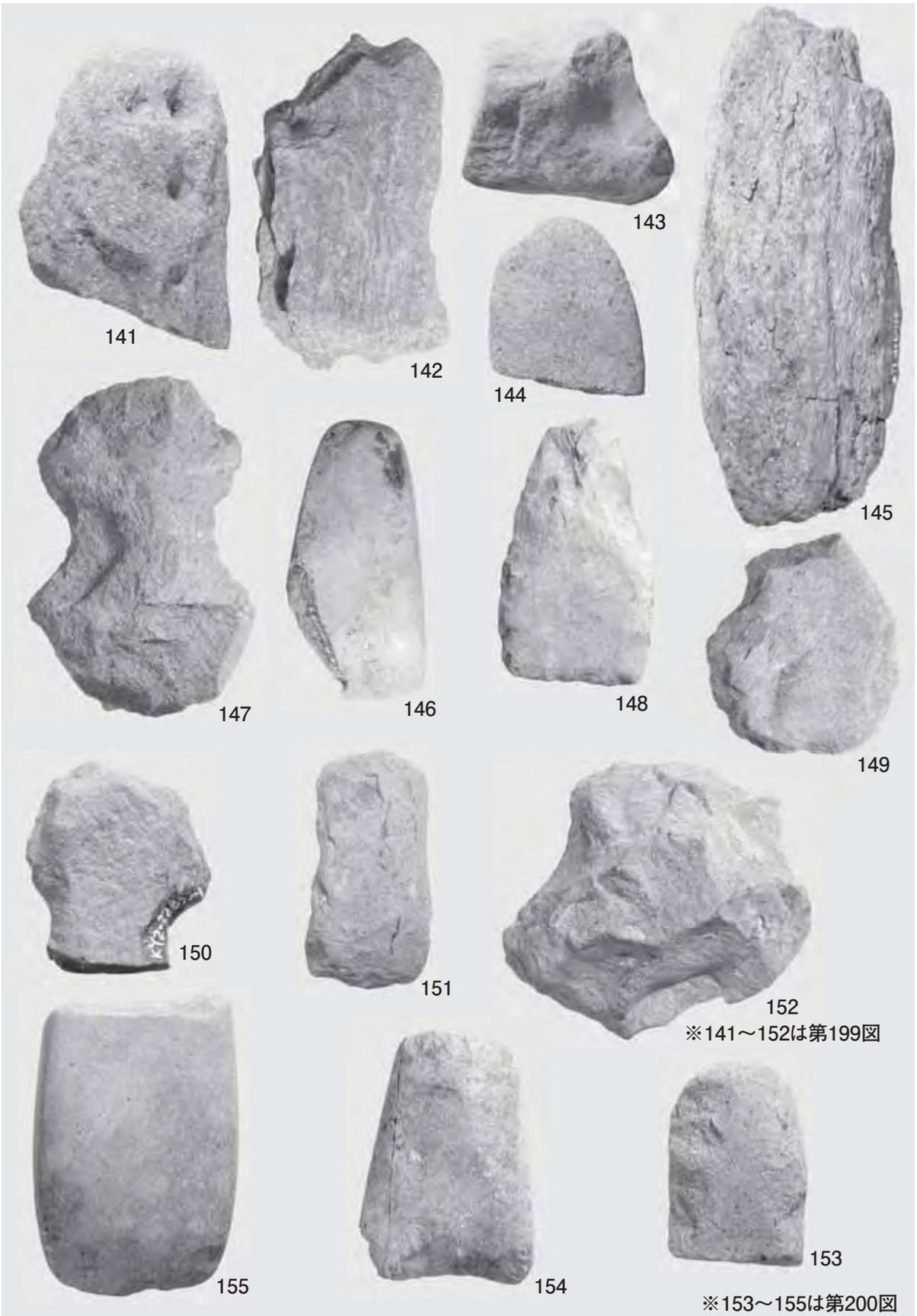
端山越遺跡出土石器②・大草台古墳群出土石器

大草台古墳群出土石塔類・上谷津第１遺跡出土石器

図版80

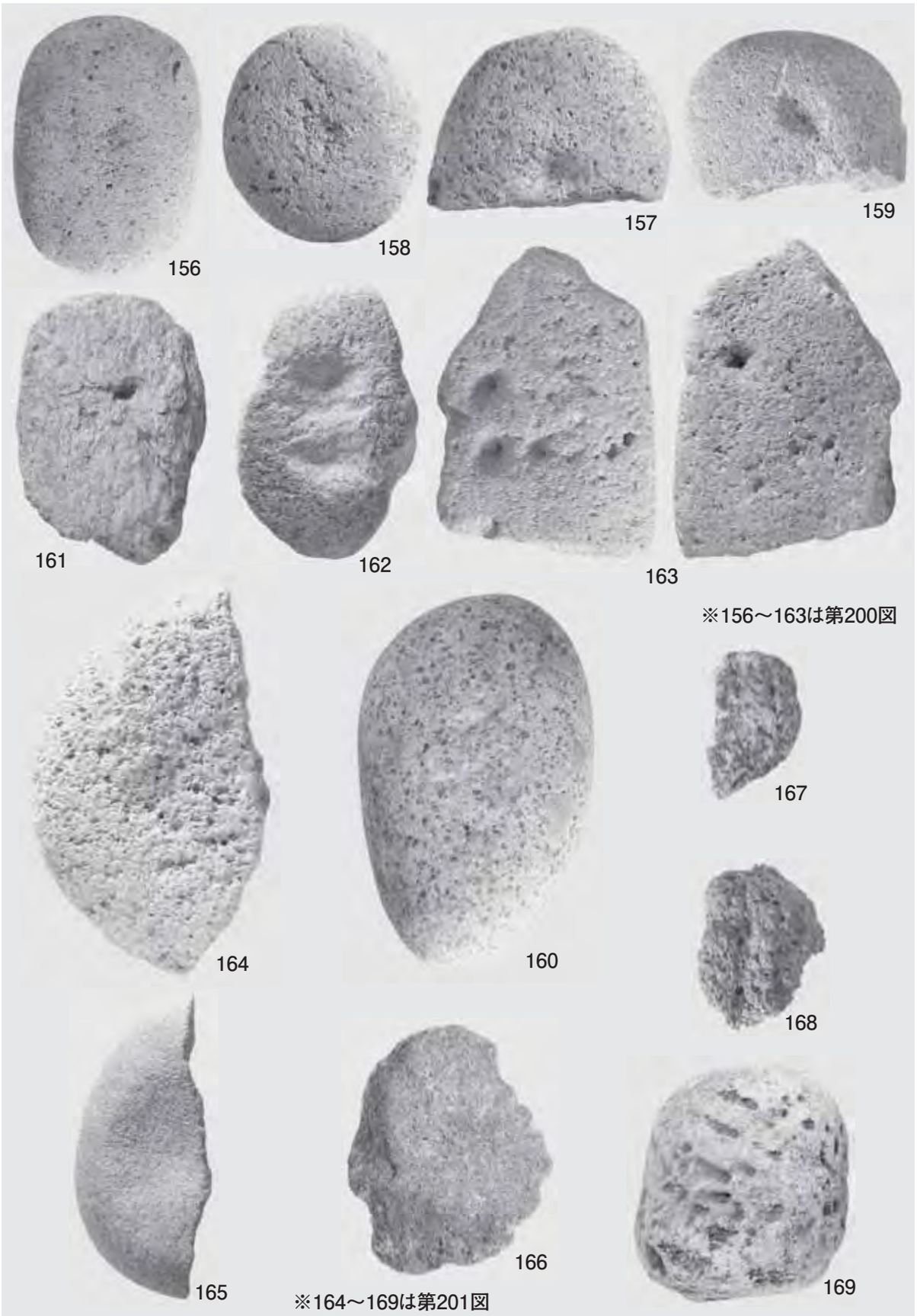


上谷津第 2 遺跡出土石器①

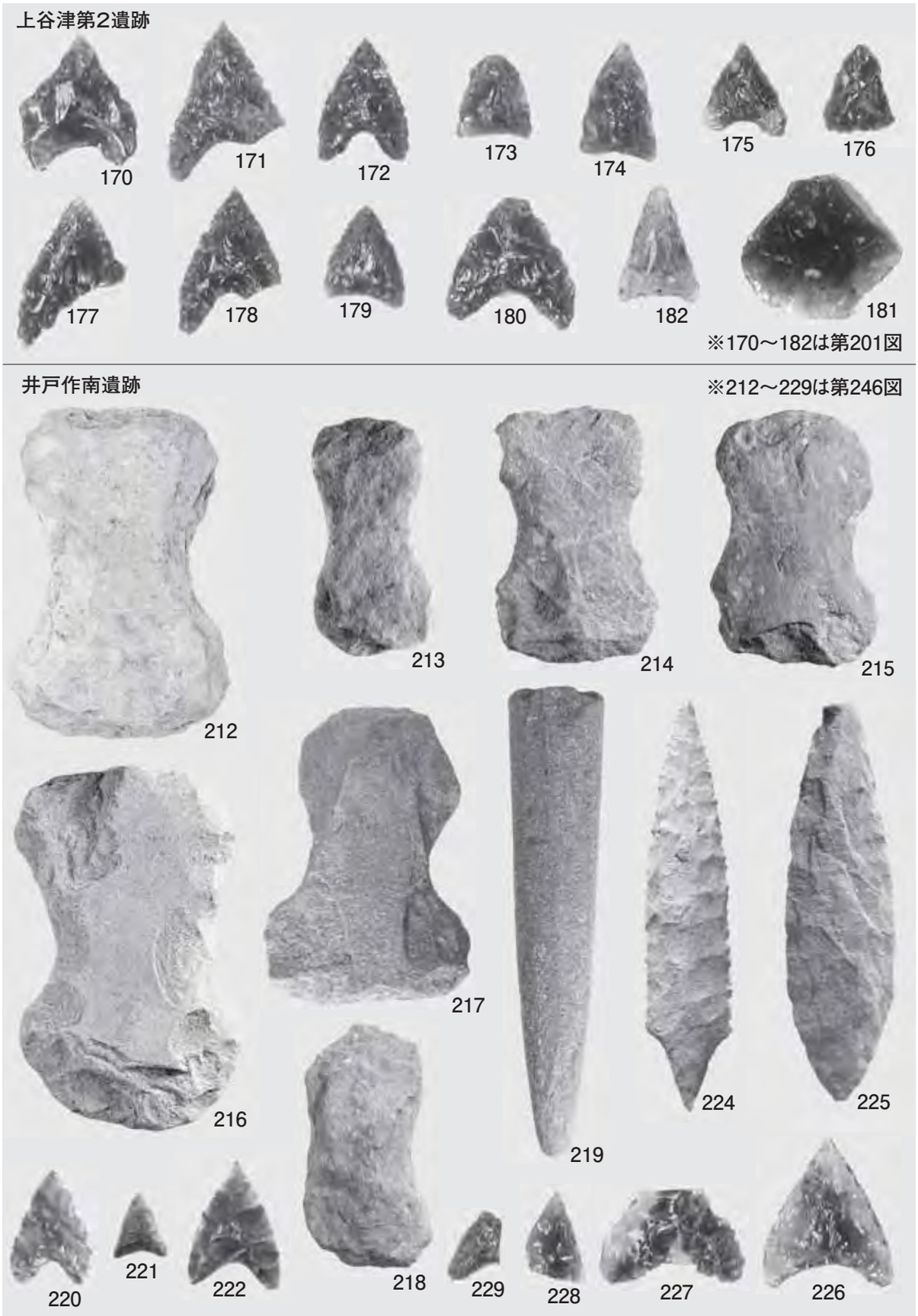


上谷津第 2 遺跡出土石器②

図版82

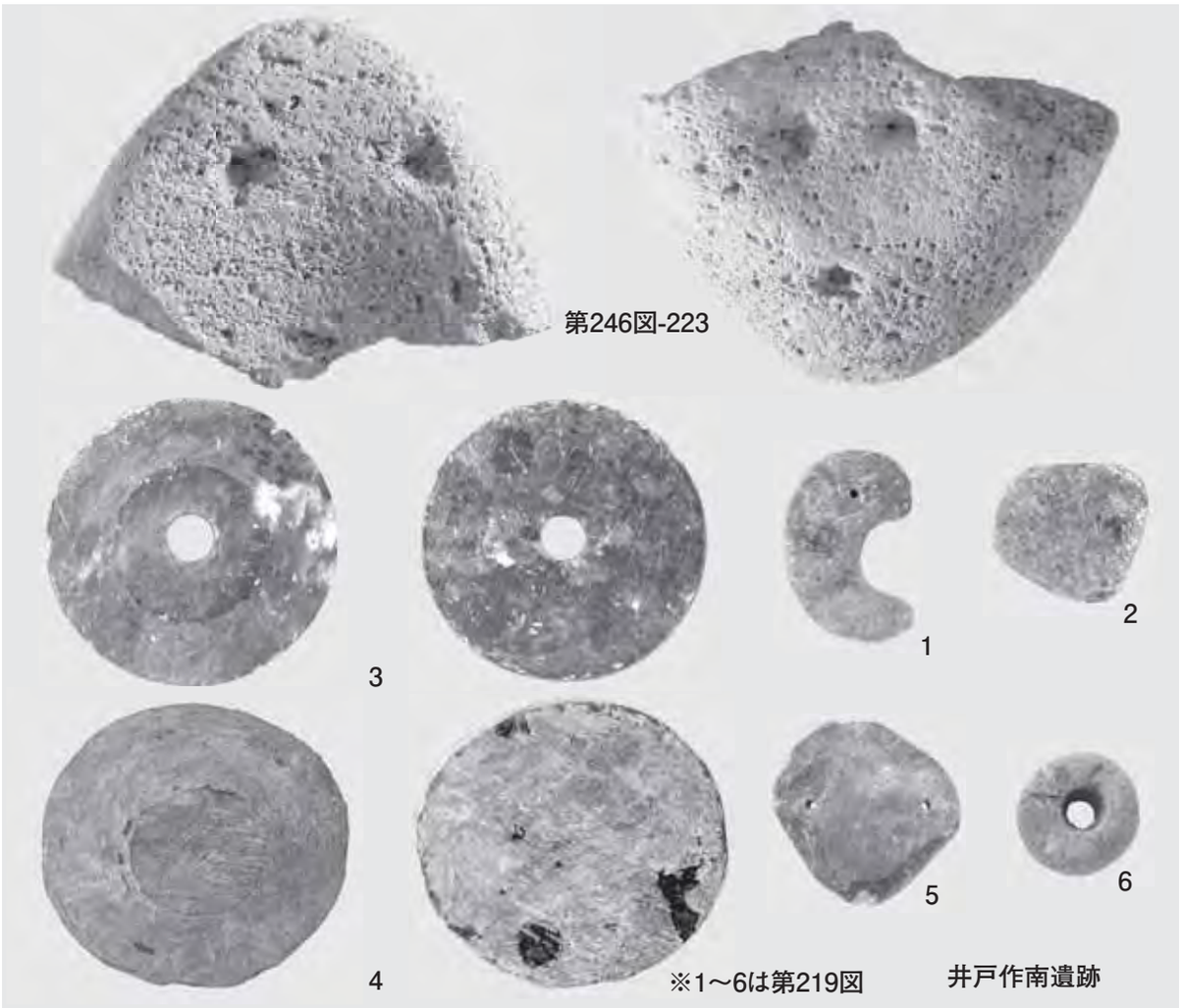


上谷津第 2 遺跡出土石器③

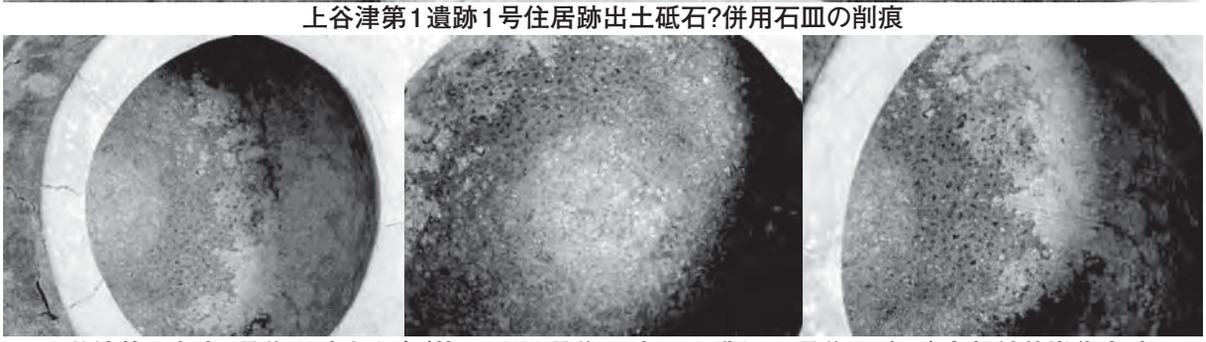


上谷津第 2 遺跡出土石器④・井戸作南遺跡出土石器①

図版84



上谷津第1遺跡1号住居跡出土砥石?併用石皿の削痕



上谷津第1遺跡6号住居跡出土甕（第138図6号住居跡-5・図版636号住居跡-5）内部付着炭化米跡?

井戸作南遺跡出土石器②・石製品・上谷津第 1 遺跡（部分接写補足分）

報告書抄録

ふりがな	ちばししもいずみちょういせきぐん
書名	千葉市下泉町遺跡群
副書名	白池台遺跡　新堤遺跡　明神台遺跡　端山越遺跡　大草台古墳群　上谷津第１遺跡　上谷津第２遺跡　井戸作南遺跡
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	長原　亘
編集機関	財団法人千葉市教育振興財団 埋蔵文化財調査センター
所在地	〒260-0814　千葉市中央区南生実町１２１０　TEL：０４３-２６６-５４３３ メールアドレス：chiba-maibun@vega.ocn.ne.jp　URL：http://www17.ocn.ne.jp/~maibun/
発行年月日	西暦２００７年３月３１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	経緯度 北緯	経緯度 東経	調査機期間	調査面積	調査原因
白池台遺跡	千葉市若葉区下泉町1,231他	12104	若葉区　303	35° 37′ 30″	140° 14′ 57″	19890717 ～ 19890925	（確認調査） 240 ／ 5,600 ㎡	
新堤遺跡	千葉市若葉区上泉町947-5他	12104	若葉区　309	35° 37′ 25″	140° 15′ 60″	19890710 ～ 19890908	（確認調査） 150 ／ 3,000 ㎡	
明神台遺跡	千葉市若葉区下泉町1,209他	12104	若葉区　304	35° 37′ 39″	140° 15′ 0″	19971013 ～ 19971224	（確認調査・上層） 1,500 ／ 14,962 ㎡ （確認調査・下層） 152 ／ 14,962 ㎡ （本調査） 2,150 ㎡	
端山越遺跡	千葉市若葉区下泉町1,147他	12104	若葉区　305	35° 37′ 38″	140° 14′ 40″	19890807 ～ 19891030 19961216 ～ 19970314 19990401 ～ 19990831	（確認調査） 1,650 ／ 28,600 ㎡ （本調査） 7,479 ㎡ （本調査） 17,524 ㎡	
大草台古墳群	千葉市若葉区上泉町951-1他	12104	若葉区　306	35° 37′ 30″	140° 14′ 52″	19970108 ～ 19970131 19970201 ～ 19970328 19980108 ～ 19980327 19980901 ～ 19981224 19990401 ～ 19990630	（確認調査） 842 ／ 8,423 ㎡ （本調査） 3,000㎡ （下層確認） 100 ／ 3,000 ㎡ （本調査） 2,430㎡ （本調査） 3,200㎡ （本調査） 3,540㎡	
上谷津第１遺跡	千葉市若葉区上泉町941-5他	12104	若葉区　307	35° 37′ 21″	140° 15′ 8″	19890626 ～ 19890808 19980318 ～ 19980331 19980401 ～ 19981224 19991116 ～ 20000330	（本調査） 1,400 ／ 27,900 ㎡ （本調査） 9,370㎡ （本調査） 9,370㎡ （下層確認） 88 ／ 9,370 ㎡ （本調査） 10,500㎡	宅地・ゴルフ場等の総合開発事業
上谷津第２遺跡	千葉市若葉区上泉町936他	12104	若葉区　308	35° 37′ 17″	140° 15′ 16″	19890612 ～ 19890808 19980701 ～ 19990331	（確認調査） 1,510 ／ 23,500 ㎡ （本調査） 17,000㎡ （下層確認） 172 ／ 17,000 ㎡	
井戸作南遺跡	千葉市若葉区上泉町958-29他	12104	若葉区　310	35° 37′ 38″	140° 14′ 47″	19890724 ～ 19891017 19970317 ～ 19970331 19970401 ～ 19980317 19980501 ～ 19980630 19990701 ～ 19991130	（確認調査） 1,160 ／ 20,300 ㎡ （本調査） 5,556 ㎡ （確認調査・上層） 980 ／ 9,737 ㎡ （確認調査・下層） 176 ／ 17,618 ㎡ （本調査） 9,001 ㎡ （本調査） 1,600 ㎡ （本調査） 10,400 ㎡	

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
白池台遺跡	散布地	縄文時代 中近世	土壙　8　基 溝　1　条	縄文土器	
新堤遺跡	散布地	縄文時代	土壙　3　基	縄文土器	
明神台遺跡	集落跡	縄文時代　中期 後期 奈良・平安時代 中近世	住居跡　2　軒 住居跡　2　軒 陥穴　4　基 土壙　21　基 方形周溝状遺構　1　基 有天井土壙　1　基 炭窯　4　基	縄文土器（中・後期）・石器 土師器・須恵器	
端山越遺跡	集落跡	旧石器時代 縄文時代　中期 奈良・平安時代 中近世（時期不明含） 	石器集中地点　1　箇所 住居跡　1　軒 陥穴　10　基 土壙　15　基 住居跡　2　軒 方形周溝状遺構　20　基 土壙　5　基 土壙　25　基 溝　6　条 道状遺構　2　条 炭窯　6　基	旧石器 縄文土器（早・中・後期）石器 土師器・須恵器・鉄製品 板碑	
大草台古墳群	集落跡 古墳群	旧石器時代 縄文時代　後期 古墳時代　中期 後期 奈良・平安時代 中世 中近世 近世	石器集中地点　2　箇所 住居跡　2　軒 陥穴　2　基 土壙　14　基 住居跡　1　軒 土壙　1　基 古墳　7　基 円形周溝状遺構　1　基 土壙墓　1　基 土壙　1　基 方形周溝状遺構　2　基 円形周溝状遺構　1　基 有天井土壙　1　基 塚　6　基 土壙　8　基 溝状遺構　11　条 道状遺構　2　条 炭窯　6　基 土壙列　1　列	旧石器 縄文土器・石器 土師器 土師器 土師器・須恵器 土師器・須恵器 石製品（勾玉・管玉・ガラス玉） 土師器 土師器・須恵器 陶器（常滑焼） 	そのうち4基は古墳再利用
上谷津第1遺跡	集落跡	縄文時代　早期 中期 古墳時代　前期 奈良・平安時代 中近世 	炉穴　5　基 住居跡　1　軒 土壙　26　基 住居跡　23　軒 方形周溝状遺構　11　基 円形周溝状遺構　1　基 土壙墓　1　基 有天井土壙　4　基 土壙　1　基 土壙　4　基 溝　2　条 炭窯　11　基	縄文土器 縄文土器・石器 縄文土器（早･前･中･後期）石器 土師器・石器 土師器・須恵器	
上谷津第2遺跡	集落跡	縄文時代　早期 前期 中期 後期 奈良・平安時代 中世 中近世	炉穴　5　基 住居跡　4　軒 住居跡　2　軒 住居跡　6　軒 陥穴　2　基 土壙　61　基 方形周溝状遺構　3　基 有天井土壙　2　基 掘立柱建物跡　1　棟 炭窯　4　基	縄文土器 縄文土器・石器 縄文土器・石器 縄文土器・石器 縄文土器 縄文土器（中・後期） 土師器・須恵器	
井戸作南遺跡	集落跡	縄文時代　中期 後期 古墳時代　中期 奈良・平安時代 中近世 	住居跡　1　軒 住居跡　7　軒 土壙　91　基 住居跡　2　基 方形周溝状遺構　2　基 掘立柱建物跡　2　棟 溝　28　条 炭窯　28　基	縄文土器・石器 縄文土器・石器 縄文土器 土師器 土師器・須恵器	

千葉市
下泉町遺跡群

平成18年３月31日　発行

編集・発行　三菱地所株式会社
東京都千代田区大手町1－6－1

財団法人千葉市教育振興財団
埋蔵文化財調査センター
千葉市中央区南生実町1210
TEL 043-266-5433

印　　刷　株式会社太陽堂印刷所
千葉市中央区末広1-4-27
TEL 043-222-1122